講義概要

シラバス　-SYLLABUS-

2020年度

講義概要　シラバス　SYLLABUS

森ノ宮医療大学

森ノ宮医療大学　大学院

2020年度

想いのすべてを、医療の力に。

森ノ宮医療大学

保健医療学部

鍼灸学科
理学療法学科
看護学科
臨床検査学科
作業療法学科
臨床工学科
診療放射線学科

大学院

保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）
保健医療学研究科 看護学専攻（修士課程）
保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）

専攻科

助産学専攻科

目次
-CONTENTS-

五十音検索

33 **看護学科** (2017 年度以降入学生カリキュラム)

133 **看護学科　教職課程**(2017 年度以降入学生カリキュラム)

145 **看護学科** (2020 年度以降入学生カリキュラム)

187 **看護学科　教職課程**(2019 年度以降入学生カリキュラム)

193 **理学療法学科** (2016 年度以降入学生カリキュラム)

217 **理学療法学科** (2018 年度以降入学生カリキュラム)

291 **理学療法学科** (2020 年度入学生カリキュラム)

329 **作業療法学科** (2016 年度以降入学生カリキュラム)

405 **作業療法学科** (2020 年度入学生カリキュラム)

443 **臨床検査学科** (2016 年度以降入学生カリキュラム)

519 **臨床検査学科** (2020 年度入学生カリキュラム)

557 **臨床工学科** (2018 年度以降入学生カリキュラム)

655 **臨床工学科** (2020 年度入学生カリキュラム)

693 **診療放射線学科** (2020 年度入学生カリキュラム)

741　鍼灸学科 鍼灸コース・スポーツ特修コース

（2014 年度以降入学生カリキュラム))

769　鍼灸学科　鍼灸コース・スポーツ特修コース

（2018 年度以降入学生カリキュラム）

877　鍼灸学科　鍼灸コース・スポーツ特修コース

（2020 年度入学生カリキュラム）

921　鍼灸学科　教職課程(2012 年度以降入学生カリキュラム）

933　鍼灸学科　教職課程(2019 年度以降入学生カリキュラム）

947　保健医療学専攻(修士課程)（2018 年度以降入学生カリキュラム）

963　保健医療学専攻(修士課程)（2020 年度入学生カリキュラム）

1001　看護学専攻(修士課程)（2020 年度入学生カリキュラム）

1043　医療科学専攻(博士課程)（2018 年度以降入学生カリキュラム）

1117　助産学専攻科（2019 年度以降入学生カリキュラム）

五十音検索

看護学科

あ

IPW 論……46

い

医学英語……38
医療概論……177

え

英会話……37
英語Ⅰ(初級)(A クラス)……159
(B クラス)……160
英語Ⅱ(中級)(A クラス)……161
(B クラス)……162
栄養学……167
疫学……57
MBS(Morinomiya Basic Seminar)……163

お

応用英語演習……40

か

外来看護論……88
化学……150
家族看護学……91
学校保健……185
看護学概論……179
看護過程演習……59
看護関係法規……55
看護管理論……92
看護研究……114
看護理論……180

き

基礎英語演習……39
基礎看護学実習Ⅰ……185
基礎看護学実習Ⅱ……60
基礎ゼミナール……147
基礎体育……165

け

形態機能学Ⅰ……168
形態機能学Ⅱ……169
形態機能学Ⅲ……170
形態機能学Ⅳ……171
健康科学(スポーツ社会学を含む)……166
健康管理学Ⅰ……41
健康管理学Ⅱ……42
健康教育論……90
健康相談活動論……95

こ

公衆衛生学……178
公衆衛生看護活動論Ⅰ……98
公衆衛生看護活動論Ⅱ……99
公衆衛生看護活動論Ⅲ……100
公衆衛生看護活動論Ⅳ……101
公衆衛生看護学演習……97
公衆衛生看護学概論……96
公衆衛生看護学実習……104
公衆衛生看護管理論……102
公衆衛生看護セミナー……131

さ

災害・国際看護論……93
在宅看護援助論Ⅰ……86
在宅看護援助論Ⅱ……87
在宅看護概論……85
在宅看護論実習……89

し

社会福祉学……157

主題実習Ⅰ(基礎看護)……105
主題実習Ⅰ(公衆衛生看護)……113
主題実習Ⅰ(在宅看護)……112
主題実習Ⅰ(小児看護)……110
主題実習Ⅰ(精神看護)……111
主題実習Ⅰ(成人看護・急性期)……106
主題実習Ⅰ(成人看護・慢性期)……107
主題実習Ⅰ(母性看護)……109
主題実習Ⅰ(老年看護)……108
主題実習Ⅱ……114
小児看護援助論Ⅰ……78
小児看護援助論Ⅱ……80
小児看護学概論……77
小児看護学実習……81
情報処理(A クラス)……151
(B クラス)……152
身体運動科学……43
心理学……154
診療援助論Ⅰ……184
診療援助論Ⅱ……58

せ

生化学……172
生活援助論Ⅰ……181
生活援助論Ⅱ……182
精神看護援助論Ⅰ……83
精神看護援助論Ⅱ……84
精神看護学概論……82
精神看護学実習……85
成人看護援助論Ⅰ……62
成人看護援助論Ⅱ……63
成人看護援助論Ⅲ……65
成人看護援助論Ⅳ……66
成人看護学概論……61
成人看護学実習Ⅰ(急性)……67
成人看護学実習Ⅱ(慢性)……68
生物学……149
生命倫理学……155
西洋史概説……36

そ

卒業研究:安部……124
卒業研究:基礎……115
卒業研究:急性……116
卒業研究:公衆衛生……123
卒業研究:在宅……126
卒業研究:小児……121
卒業研究:精神……122
卒業研究:福島……127
卒業研究:母性……120
卒業研究:慢性……117
卒業研究:森……128
卒業研究:老年……119

ち

チーム医療見学実習……164

て

哲学……156

と

統計学……153
統合医療概論……45
東洋医療概論……44
東洋史概説……35

に

日本国憲法……158

は

発達心理学……173

ひ

微生物学……174

病理学.....175
ふ
フィジカルアセスメント.....47
物理学.....148
ほ
保健医療福祉行政論.....103
保健統計学.....56
母性看護援助論Ⅰ.....74
母性看護援助論Ⅱ.....75
母性看護学概論.....73
母性看護学実習.....76
よ
養護概説.....94
り
臨床看護学セミナーⅠ.....129
臨床看護学セミナーⅡ.....130
臨床看護技術セミナー.....132
臨床心理学.....176
臨床病態学Ⅰ.....50
臨床病態学Ⅱ.....51
臨床病態学Ⅲ.....52
臨床病態学Ⅳ.....53
臨床病態学Ⅴ.....54
臨床薬理学.....49
ろ
老年看護援助論Ⅰ.....70
老年看護援助論Ⅱ.....71
老年看護学概論.....69
老年看護学実習Ⅰ.....72
老年看護学実習Ⅱ.....73

看護学科(教職課程)

き
教育課程論.....135
教育行政学.....192
教育原理.....190
教育心理学.....191
教育実践演習.....144
教育相談の基礎と方法.....141
教育方法論.....139
教職論.....189
せ
生徒指導論.....140
そ
総合的な学習の時間の指導法.....137
と
道徳教育論.....136
特別活動論.....138
特別支援教育概論.....135
よ
養護実習(事前事後指導含む).....143

理学療法学科

あ

IPW 論 232

い

医学英語 222
医療関係法規論 323

う

運動学実習 319
運動器系理学療法学Ⅰ 257
運動器系理学療法学Ⅱ 258
運動器系理学療法学Ⅲ 259

え

英会話 221
英語Ⅰ(初級)(A クラス) 303
(B クラス) 304
英語Ⅱ(中級)(A クラス) 305
(B クラス) 306
栄養学 228
MBS(Morinomiya Basic Seminar) 307

お

応用英語演習 224

か

介護学概論・ボランティア活動論 244
化学 296

き

基礎運動学 318
基礎運動療法学各論 256
基礎運動療法学総論 255
基礎英語演習 223
基礎ゼミナール 293
基礎体育 309
基礎日常生活活動学 325
基礎理学療法学Ⅰ 249
基礎理学療法学Ⅱ 250
基礎理学療法学演習 251
義肢装具学 268

け

健康科学(スポーツ社会学を含む) 311
健康管理学Ⅰ 225
健康管理学Ⅱ 226
言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学 243
検査測定実習 289

こ

公衆衛生学 322

さ

作業療法・芸術療法論 242

し

社会福祉学 301
小児科学(人間発達学) 241
情報処理 297
神経系理学療法学Ⅰ 260
神経系理学療法学Ⅱ 262
神経系理学療法学Ⅲ 263
身体運動科学 229
人体の機能Ⅰ(動物性機能) 316
人体の機能Ⅱ(植物性機能) 317
人体の構造Ⅰ(神経系) 314
人体の構造Ⅱ(循環・内臓) 315
人体の構造演習Ⅰ(運動器) 312
人体の構造演習Ⅱ(運動器) 313
人体の構造実習 233
心理学 298

す

スポーツ医学 245

せ

生化学 235

生活環境論 270
整形外科学 240
精神医学 242
生物学 295
生命倫理学 299
西洋史概説 220
そ
卒業研究Ⅰ:角田 283
卒業研究Ⅰ:河村 275
卒業研究Ⅰ:木内 284
卒業研究Ⅰ:工藤 285
卒業研究Ⅰ:澤田 279
卒業研究Ⅰ:杉本 286
卒業研究Ⅰ:三木屋 274
卒業研究Ⅰ:中根 280
卒業研究Ⅰ:仲本 276
卒業研究Ⅰ:林 288
卒業研究Ⅰ:堀 277
卒業研究Ⅰ:前田 281
卒業研究Ⅰ:松尾 287
卒業研究Ⅰ:森谷 278
卒業研究Ⅱ:角田 208
卒業研究Ⅱ:金尾 212
卒業研究Ⅱ:河村 200
卒業研究Ⅱ:木内 209
卒業研究Ⅱ:工藤 210
卒業研究Ⅱ:澤田 204
卒業研究Ⅱ:杉本 211
卒業研究Ⅱ:中根 205
卒業研究Ⅱ:仲本 201
卒業研究Ⅱ:堀 202
卒業研究Ⅱ:前田 206
卒業研究Ⅱ:松尾 213
卒業研究Ⅱ:三木屋 199
卒業研究Ⅱ:森谷 203
ち
地域理学療法学 269
チーム医療見学実習 308
チーム医療とコミュニケーション 227
て
テーピング技術論 247
哲学 300
と
統合医療概論 231
東洋医療概論 230
東洋史概説 219
な
内部障害系理学療法学Ⅰ 264
内部障害系理学療法学Ⅱ 265
内部障害系理学療法学Ⅲ 266
に
日本国憲法 302
は
発達障害理学療法学 267
ひ
病理学 236
ふ
物理学 294
物理療法学 326
り
理学療法触診法 248
理学療法セミナーⅠ 195
理学療法セミナーⅡ 196
理学療法セミナーⅢ 197
理学療法特論Ⅰ 272
理学療法特論Ⅱ 198

理学療法評価学各論.....252
理学療法評価学総論.....324
リハビリテーション概論.....321
臨床運動学.....234
臨床見学実習.....327
臨床心理学.....320
臨床総合実習Ⅰ.....214
臨床総合実習Ⅱ.....215
臨床評価実習.....290
臨床病態学Ⅰ.....237
臨床病態学Ⅱ.....238
臨床病態学Ⅲ.....239
臨床理学療法評価学演習.....254
臨床理学療法評価学(動作分析).....253

ろ

老年期理学療法学.....271

作業療法学科

あ

IPW 論……363

い

医学英語Ⅰ……333
医学英語Ⅱ……334
医療関係法規論……355

え

英会話Ⅰ……331
英会話Ⅱ……332
英語Ⅰ（初級）（A クラス）……417
（B クラス）……418
英語Ⅱ（中級）（A クラス）……419
（B クラス）……420
栄養学……338
MBS(Morinomiya Basic Seminar)……421

か

介護学概論・ボランティア活動論……359
化学……410
漢方医学概論……340
漢方医学各論……361

き

義肢装具学……376
基礎運動学……432
基礎作業学……435
基礎ゼミナール……407
基礎体育……423
救急処置法……347

け

芸術療法論……357
健康科学（スポーツ社会学を含む）……425
健康管理学Ⅰ……336
健康管理学Ⅱ……337
言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学……358

こ

高次脳機能障害作業療法評価学……367
公衆衛生学……434

さ

作業科学入門……437
作業療法概論……438
作業療法特論Ⅰ……377
作業療法特論Ⅱ……378
作業療法評価学総論……439

し

社会福祉学……415
障害者地域生活支援論……384
小児科学（人間発達学）……350
情報処理……411
身体障害作業療法治療学演習……378
身体障害作業療法治療学各論……372
身体障害作業療法治療学総論……368
身体障害作業療法評価学……364
人体の機能Ⅰ（動物性機能）……430
人体の機能Ⅱ（植物性機能）……431
身体運動科学……339
人体の構造Ⅰ（神経系）……428
人体の構造Ⅱ（循環・内臓）……429
人体の構造演習Ⅰ（運動器）……426
人体の構造演習Ⅱ（運動器）……427
人体の構造実習……342
心理学……412

す

スポーツ医学……360

せ

生化学……336
生活環境論……383
整形外科学……349
精神医学……351
精神医学各論……352
精神障害作業療法治療学演習……379
精神障害作業療法治療学各論……373
精神障害作業療法治療学総論……369
精神障害作業療法評価学……365
生物学……409

生命倫理学 413

そ

卒業研究Ⅰ(伊藤) 387
卒業研究Ⅰ(小川) 393
卒業研究Ⅰ(金森) 392
卒業研究Ⅰ(小林) 385
卒業研究Ⅰ(中西) 391
卒業研究Ⅰ(中村) 390
卒業研究Ⅰ(橋本) 389
卒業研究Ⅰ(東) 394
卒業研究Ⅰ(松下) 388
卒業研究Ⅰ(横井) 386
卒業研究Ⅱ(身体障害) 395
卒業研究Ⅱ(精神障害) 397
卒業研究Ⅱ(発達障害) 399
卒業研究Ⅱ(老年期障害・地域) 398

ち

チーム医療見学実習 422
チーム医療とコミュニケーション 335
地域作業療法学 382

て

哲学 414

と

統合医療概論 341
東洋医学概論Ⅰ 362
東洋医学概論Ⅱ 363

な

内科学Ⅰ 345
内科学Ⅱ 346

に

日常生活活動学 440
日本国憲法 416

の

脳神経外科学 348

は

発達障害作業療法治療学演習 381
発達障害作業療法治療学各論 375
発達障害作業療法治療学総論 371
発達障害作業療法評価学 366

ひ

病理学 344

ふ

物理学 408

り

理学療法概論 356
リハビリテーション医学 355
リハビリテーション概論 433
臨床運動学 343
臨床心理学 353
臨地見学実習 441
臨床検査実習 400
臨床総合実習 402
臨床評価実習 401

ろ

老年医学 354
老年期障害作業療法治療学演習 380
老年期障害作業療法治療学各論 374
老年期障害作業療法治療学総論 370

臨床検査学科

あ

IPW 論……462

い

医学英語Ⅰ……447
医学英語Ⅱ……448
医学概論……552
一般検査学……472
遺伝子検査学……476
遺伝子検査学実習……477
医用工学概論……463
医用工学実習……464
医療安全管理学……495
医療情報科学……494

え

英会話Ⅰ……445
英会話Ⅱ……446
英語Ⅰ(初級)(A クラス)……533
(B クラス)……534
英語Ⅱ(中級)(A クラス)……535
(B クラス)……536
栄養学……451
MBS(Morinomiya Basic Seminar)……537

か

化学……524
画像検査学……490
関係法規……495
漢方医学概論……453

き

寄生虫検査学……481
基礎ゼミナール……521
基礎体育……539
救急災害医学……458

け

血液検査学Ⅰ……467
血液検査学Ⅱ……468
血液検査学実習……469
健康科学(スポーツ社会学を含む)……541
健康管理学Ⅰ……449
健康管理学Ⅱ……450
検査技術科学序論……551
検査総合管理学……493

こ

公衆衛生学……553

し

身体運動科学……452
人体の機能Ⅰ……545
人体の機能Ⅱ……546
人体の構造Ⅰ……542
人体の構造Ⅱ……543
人体の構造実習……544
社会福祉学……531
情報処理(A クラス)……525
(B クラス)……526
小児医学……456
食品衛生学……497
食品関係法規……497
心理学……528

せ

生化学……547
生化学特論……548
生化学実習……455
生命倫理学……529
生物学……523
生理機能検査学Ⅰ……555
生理機能検査学Ⅱ……487
生理機能検査学Ⅲ……488

生理機能検査学実習 489

そ

総合演習Ⅰ 498
総合演習Ⅱ 499
総合演習Ⅲ 501
卒業研究Ⅰ(上田・小林(彩)) 502
卒業研究Ⅰ(川畑) 507
卒業研究Ⅰ(小林(吉)・竹岡) 505
卒業研究Ⅰ(小宮山・藤原) 504
卒業研究Ⅰ(佐伯) 507
卒業研究Ⅰ(関根) 509
卒業研究Ⅰ(森) 503
卒業研究Ⅰ(脇・前川) 506
卒業研究Ⅱ(上田・小林(彩)) 511
卒業研究Ⅱ(小林(吉)・竹岡) 514
卒業研究Ⅱ(小宮山・藤原) 513
卒業研究Ⅱ(佐伯) 516
卒業研究Ⅱ(森) 512
卒業研究Ⅱ(脇・前川) 515

ち

チーム医療見学実習 538
チーム医療とコミュニケーション 449
超音波検査学Ⅰ 491
超音波検査学Ⅱ 492

て

哲学 530

と

統計学 527
統合医療概論 454

に

日本国憲法 532

は

バイオテクノロジー演習 478

ひ

微生物検査学Ⅰ 554
微生物検査学Ⅱ 479
微生物検査学実習 480
病理学 461
病理検査学 470
病理検査学実習 471

ふ

物理学 522
分析化学 549

ほ

放射性同位元素検査学 475

め

免疫検査学Ⅰ 482
免疫検査学Ⅱ 483
免疫検査学実習 484

や

薬理学 459

ゆ

輸血・移植検査学 485
輸血・移植検査学実習 486

り

リハビリテーション概論 460
臨床化学検査学Ⅰ 473
臨床化学検査学Ⅱ 474
臨床化学検査学実習 475
臨床検査学総論 550
臨床病態学Ⅰ 465
臨床病態学Ⅱ 466
臨床薬理学 496
臨地実習 517

ろ

老年医学 457

臨床工学科

あ

IPW 論……570

い

医学英語……561
医学概論……680
遺伝子検査学……638
医用工学……687
医用監視システム装置学……606
医用機器安全管理学……623
医用機器安全管理学実習……624
医用機器学概論……599
医用治療機器学……602
医用治療機器学実習……603
医用ロボット工学……637
医療情報システム学……635
医療情報システム学演習……636
医療統計学……589

え

英会話……560
英語Ⅰ(初級)(A クラス)……670
(B クラス)……671
英語Ⅱ(中級)(A クラス)……672
(B クラス)……673
栄養学……679
MBS(Morinomiya Basic Seminar)……674

お

応用英語演習……563
応用化学……579
応用数学……577
応用物理学……578

か

関係法規……626
化学……660
画像診断装置学……605
看護学概論……574

き

基礎医学実習(A クラス)……575
(B クラス)……576
基礎英語演習……562
基礎ゼミナール……657
基礎体育……676
機能評価学演習……634
機能評価分析学……633

け

計測工学……597
外科学各論(循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・
集中治療学)……629
血液浄化実習……613
血液浄化装置学……611
血液浄化療法学……612
健康科学(スポーツ社会学を含む)……678
健康管理学Ⅰ……564
健康管理学Ⅱ……565

こ

公衆衛生学……681

し

システム制御工学……590
社会福祉学……666
情報処理(A クラス)……661
(B クラス)……662
情報処理工学……588
情報処理・システム制御工学実習
(A クラス)……592
(B クラス)……593

人工呼吸実習 617
人工呼吸装置学 615
人工呼吸療法学 616
身体運動科学 567
人体機能補助実習 622
人体機能補助装置学 619
人体機能補助療法学 621
人体の機能Ⅰ 684
人体の機能Ⅱ 685
人体の構造Ⅰ 682
人体の構造Ⅱ 683
心理学 664

す

数学演習 688

せ

生化学 686
生体計測装置学 600
生体計測装置学実習 601
生体材料工学 595
生体情報処理工学 598
生体物性工学 594
生物学 659
生命倫理学 665
西洋史概説 669
先進科学技術演習 638
先進科学技術論 631
先進計測技術学 632
先進治療技術学 633

そ

卒業研究Ⅰ(五十嵐) 641
卒業研究Ⅰ(稲田) 642
卒業研究Ⅰ(片山) 639
卒業研究Ⅰ(加納) 645
卒業研究Ⅰ(辻) 647
卒業研究Ⅰ(中沢) 644
卒業研究Ⅰ(西垣) 648
卒業研究Ⅰ(原) 650
卒業研究Ⅰ(布江田) 651
卒業研究Ⅰ(藤江) 653

た

体外循環装置学 607
体外循環実習 609
体外循環療法学 608

ち

チーム医療見学実習 675
チーム医療とコミュニケーション 566

て

哲学 559
電気工学Ⅰ 689
電気工学Ⅱ 691
電気工学実習(A クラス) 580
(B クラス) 581
電子工学Ⅰ 583
電子工学Ⅱ 584
電子工学実習(A クラス) 586
(B クラス) 587

と

統計学 663
統合医療概論 569
東洋医療概論 568
東洋史概説 668

な

内科学各論(循環器・呼吸器・腎・感染症) 628

に

日本国憲法 667

は

バイオメカニクス.....596

バイオレオロジー.....597

ひ

病理学.....571

ふ

物理学.....658

ほ

放射線工学概論.....588

め

免疫学.....572

や

薬理学.....573

り

臨床医学演習.....630

臨床医学総論(内科学・外科学).....627

診療放射線学科

い

医学概論……720
医用工学……727
医療統計学……730

え

英語Ⅰ(初級)(Aクラス)……706
(Bクラス)……707
英語Ⅱ(中級)(Aクラス)……708
(Bクラス)……709
MBS(Morinomiya Basic Seminar)……710

か

化学……698
化学演習……719

き

基礎ゼミナール……695
基礎体育……712

け

健康科学(スポーツ社会学を含む)……714

こ

工学演習……728
公衆衛生学……721

し

社会福祉学……704
情報処理(Aクラス)……699
(Bクラス)……700
情報処理工学……729
人体の機能Ⅰ……724
人体の機能Ⅱ……725
人体の構造Ⅰ……722
人体の構造Ⅱ……723
心理学……702

す

数学……715
数学演習……716

せ

生物学……697
生物学演習……718
生命倫理学……703

ち

チーム医療見学実習……711

て

電気・電子工学……726

と

統計学……701

に

日本国憲法……705

ふ

物理学……696
物理学演習……717

ほ

放射化学……731
放射線医学概論……738
放射線科学……738
放射線化学・生物学演習……733
放射線計測学……736
放射線生物学……732
放射線物理学……734
放射線物理学・計測学演習……737

鍼灸学科
(鍼灸コース、スポーツ特修コース)

あ

IPW 論 785

い

医学英語 778

う

運動学 790
運動機能検査法(A クラス) 816
運動機能検査法(B クラス) 817
運動生理学 867
運動生理機能学演習 868

え

英会話 777
英語 I (初級) (A クラス) 885
(B クラス) 886
英語 II (中級) (A クラス) 887
(B クラス) 888
衛生学公衆衛生学 801
栄養学 782
MBS(Morinomiya Basic Seminar) 889

お

応用英語演習 789
応用鍼灸実技 I (A クラス) 827
(B クラス) 828
応用鍼灸実技 II (A クラス) 829
(B クラス) 830
応用鍼灸治療学III (小児・婦人科) 751
応用鍼灸治療学IV (外科・麻酔科・
泌尿器科・耳鼻科・眼科) 752
応用鍼灸治療学VI (リハビリ・老年) 753
応用鍼灸治療学VII (物理療法) 754

か

介護学概論 859
解剖学 I (骨・筋) 894
解剖学 II (神経) 896
解剖学III (内臓・脈管) 897
化学 882
学外見学実習 I 853
学外見学実習 II 750
画像診断学 800
学校保健(学校安全・救急処置) 872
学校保健(小児保健・精神保健) 871
関係法規・経営論 748

き

基礎英語演習 788
基礎灸実技 I (A クラス) 911
(B クラス) 912
基礎灸実技 II (A クラス) 913
(B クラス) 914
基礎ゼミナール 879
基礎体育 891
基礎鍼実技 I (A クラス) 907
(B クラス) 908
基礎鍼実技 II (A クラス) 909
(B クラス) 910
キャリアデザイン 915

け

経穴局所解剖演習 I (A クラス) 802
(B クラス) 803
経穴局所解剖演習 II (A クラス) 804
(B クラス) 805
経絡経穴学 I (A クラス) 901
(B クラス) 902

経絡経穴学Ⅱ(A クラス)....903
(B クラス)....904
健康科学(スポーツ社会学を含む)....893
健康管理学Ⅰ....779
健康管理学Ⅱ....780
現代医学系鍼灸応用実習....835
現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)
(A クラス)....818
(B クラス)....819
現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)
(A クラス)....821
(B クラス)....808
現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)
(A クラス)....822
(B クラス)....823
現代医学系鍼灸学実習Ⅰ(A クラス)....831
(B クラス)....832
現代医学系鍼灸学実習Ⅱ(A クラス)....833
(B クラス)....834

こ

コンディショニング技術論....856

し

社会福祉学....776
情報処理(A クラス)....771
(B クラス)....772
鍼灸安全学....811
鍼灸科学概論Ⅰ....806
鍼灸科学概論Ⅱ....807
鍼灸総合演習Ⅰ....743
鍼灸総合演習Ⅱ....744
鍼灸総合演習Ⅲ....745
身体運動科学....783
心理学....774

す

スポーツ医学....798
スポーツ実習Ⅰ体つくり運動....916
スポーツ実習Ⅱサッカー....869
スポーツ実習Ⅲ陸上競技....917
スポーツ実習Ⅳ柔道....870
スポーツ実習Ⅴダンス....918
スポーツ実習Ⅵ器械運動....863
スポーツ実習Ⅶ水泳....864
スポーツ実習Ⅷ生涯スポーツ....865
スポーツ障害学・栄養学....765
スポーツ鍼灸学各論....858
スポーツ鍼灸学総論....857
スポーツ心理学....875
スポーツバイオメカニクス....866

せ

生化学....791
整形外科学....794
生体観察....814
生物学....881
生命倫理学....775
西洋史概説....786
生理学Ⅰ(動物生理学)....898
生理学Ⅱ(植物生理学)....899
生理学Ⅲ(応用生理学)....900

そ

卒業研究:鍼灸現代系(髙﨑)....762
卒業研究:鍼灸現代系(髙橋)....764
卒業研究:鍼灸現代系(辻丸)....760
卒業研究:鍼灸現代系(鍋田)....761
卒業研究:鍼灸現代系(松熊)....757
卒業研究:鍼灸情報系(山下)....758
卒業研究:鍼灸東洋系(松熊)....755

卒業研究：スポーツ特修系(中原)……759
卒業研究Ⅰ：基礎鍼灸（尾﨑)……849
卒業研究Ⅰ：鍼灸現代系（鍋田)……850
卒業研究Ⅰ：鍼灸情報系（山下)……848
卒業研究Ⅰ：鍼灸東洋系（仲西)……851
卒業研究Ⅰ：スポーツ特修系(中原)……852

た

体育原理……874
体力トレーニング論(旧カリ)……766
体力トレーニング論(新カリ)……920

ち

チーム医療見学実習……890
チーム医療とコミュニケーション……781

て

哲学……883
テーピング技術論……855

と

統計学……773
統合医療概論……784
東洋医学概論Ⅰ……905
東洋医学概論Ⅱ……906
東洋医学概論Ⅲ……810
東洋医学各論Ⅰ……826
東洋医学系検査法（A クラス）……824
（B クラス）……825
東洋医学系鍼灸応用実習……841
東洋医学系鍼灸実習Ⅰ（A クラス）……837
（B クラス）……838
東洋医学系鍼灸実習Ⅱ（A クラス）……839
（B クラス）……840
東洋医療概論……894
東洋史概説……777
トレーニング科学演習Ⅰ
（レジスタンスエクササイズ 1）……919
トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・
ウォーキング・ジョギング）……919
トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンス
エクササイズ 2・水中運動）……866
トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）……873

な

内科学……795

に

日本国憲法……884

ひ

美容鍼灸学各論Ⅰ……861
美容鍼灸学各論Ⅱ……862
美容鍼灸学総論……854
病理学……792

ふ

附属施術所応用実習（A クラス）……747
（B クラス）……746
（スポ特クラス）……767
附属施術所基礎実習（A クラス）……845
（B クラス）……846
物理学……880

ま

マーケティング入門……749

り

リハビリテーション医学……800
臨床医学各論Ⅰ……796
臨床医学各論Ⅱ……796
臨床医学各論Ⅲ……797
臨床医学総論……793
臨床灸実習（A クラス）……843
（B クラス）……844

臨床生理学.....812
臨床鍼灸学.....813
ろ
老年ケア演習.....860

鍼灸学科(教職課程)

き
教育課程論.....939
教育行政学.....937
教育原理.....936
教育実習Ⅰ.....929
教育実習Ⅱ.....930
教育実習事前事後指導.....928
教育心理学.....938
教育相談の基礎と方法.....942
教育方法論.....927
教職実践演習(中・高).....931
教職論.....935
せ
生徒指導・進路指導論.....944
そ
総合的な学習の時間の指導法.....943
と
道徳教育論.....940
特別活動論.....941
特別支援教育概論.....943
ほ
保健体育科教育法Ⅰ.....923
保健体育科教育法Ⅱ.....924
保健体育科教育法Ⅲ.....925
保健体育科教育法Ⅳ.....926

保健医療学専攻

い

医療安全学特論 977
医療画像解析学特論 985

う

運動器系理学療法学特論 980
運動生理学特論 951

え

英語文献講読 973
栄養・代謝生化学特論 975

か

介護福祉学特論 960
看護技術特論 954

き

QOL 評価法特論 969

け

血液学特論 978
血管病理病態学特論 956
現代臨床鍼灸学特論 983

し

シミュレーション医工学特論 984
柔道整復学特論 982
鍼灸健康科学特論 953
神経系理学療法学特論 959
心身健康科学特論 961
人体構造学特論 974

せ

生体防御系臨床鍼灸学特論 955
生物統計学特論 971
専門演習(青木) 993
専門演習(伊津美) 990
専門演習(伊藤) 992
専門演習(工藤) 989
専門演習(仲西) 991
専門演習(堀) 988
専門演習(森) 994
専門演習(山下) 987

た

代替・統合医療特論 965

と

東洋医学史特論 966
特別研究(青木) 995
特別研究(工藤) 999
特別研究(堀) 998
特別研究(村上) 996
特別研究(森) 997

な

内科系理学療法学特論 962
難病リハビリテーション特論 981

は

バイオメカニクス健康科学特論 952
発達健康支援看護学特論 949
発達支援看護開発特論 950
発達支援リハビリテーション特論 976

ふ

プログラム言語特論 970
分子イメージング解析学特論 986

ほ

保健医療教育特論 968
保健医療研究方法論 967

り

リハビリテーション学特論 979
療養支援看護学特論 957
療養支援看護開発特論 958
臨床検査画像診断学特論 978

看護学専攻

い

育成看護学特論 1022

え

英語文献講読 1009

か

家族看護学特論 1023

看護管理特論 1016

看護技術特論 1017

看護教育学特論 1012

看護ケア特論 1021

看護研究特論 1011

看護理論特論 1013

看護倫理特論 1003

き

QOL 評価法特論 1007

こ

公衆衛生看護学特論 1024

せ

成人看護支援特論 1018

専門演習(伊津美) 1028

専門演習(住田) 1031

専門演習(中西) 1028

専門演習(蓮池) 1030

専門演習(前川) 1029

専門演習(村上) 1025

専門演習(森) 1027

専門演習(吉村) 1026

た

代替・統合医療特論 1008

ち

チーム医療特論 1004

と

東洋医学史特論 1010

特別研究Ⅰ(伊津美) 1036

特別研究Ⅰ(久木元) 1035

特別研究Ⅰ(住田) 1041

特別研究Ⅰ(外村) 1042

特別研究Ⅰ(中西) 1037

特別研究Ⅰ(橋本) 1039

特別研究Ⅰ(蓮池) 1040

特別研究Ⅰ(前川) 1038

特別研究Ⅰ(村上) 1032

特別研究Ⅰ(森) 1034

特別研究Ⅰ(吉村) 1033

ひ

ヒューマンケア理論特論 1014

ふ

フィジカルアセスメント 1015

ほ

保健医療教育特論 1006

保健医療研究方法論 1005

り

療養支援看護学特論Ⅰ(在宅・老年) 1019

療養支援看護学特論Ⅱ(精神) 1020

医療科学専攻

い

医史学・医療社会学概論 1048
医療科学概論 1045
医療科学研究方法論 1046

か

介護予防技術開発特論 1052
看護技術開発特論 1054

け

研究倫理特論 1047

こ

後期専門演習(青木) 1056
後期専門演習(五十嵐) 1055
後期専門演習(上田) 1061
後期専門演習(荻原) 1070
後期専門演習(川畑) 1062
後期専門演習(澤田) 1065
後期専門演習(中原) 1059
後期専門演習(仲西) 1067
後期専門演習(前川) 1058
後期専門演習(前田) 1064
後期専門演習(村上) 1068
後期専門演習(森) 1057
後期専門演習(森谷) 1060
後期専門演習(吉岡) 1066
後期専門演習(吉村) 1069
後期特別研究Ⅰ(青木) 1073
後期特別研究Ⅰ(五十嵐) 1075
後期特別研究Ⅰ(上田) 1079
後期特別研究Ⅰ(荻原) 1085
後期特別研究Ⅰ(川畑) 1080
後期特別研究Ⅰ(仲西) 1083
後期特別研究Ⅰ(中原) 1077
後期特別研究Ⅰ(前川) 1074
後期特別研究Ⅰ(村上) 1072
後期特別研究Ⅰ(森) 1076
後期特別研究Ⅰ(森谷) 1078
後期特別研究Ⅰ(山下) 1071
後期特別研究Ⅰ(吉岡) 1082
後期特別研究Ⅰ(吉村) 1084
後期特別研究Ⅱ(青木) 1086
後期特別研究Ⅱ(五十嵐) 1090
後期特別研究Ⅱ(上田) 1093
後期特別研究Ⅱ(荻原) 1100
後期特別研究Ⅱ(川畑) 1094
後期特別研究Ⅱ(仲西) 1098
後期特別研究Ⅱ(中原) 1091
後期特別研究Ⅱ(前川) 1089
後期特別研究Ⅱ(村上) 1087
後期特別研究Ⅱ(森) 1091
後期特別研究Ⅱ(森谷) 1092
後期特別研究Ⅱ(山下) 1088
後期特別研究Ⅱ(吉岡) 1096
後期特別研究Ⅱ(吉村) 1099
後期特別研究Ⅲ(青木) 1101
後期特別研究Ⅲ(五十嵐) 1102
後期特別研究Ⅲ(上田) 1109
後期特別研究Ⅲ(荻原) 1115
後期特別研究Ⅲ(川畑) 1110
後期特別研究Ⅲ(仲西) 1113
後期特別研究Ⅲ(中原) 1107
後期特別研究Ⅲ(前川) 1103
後期特別研究Ⅲ(村上) 1104
後期特別研究Ⅲ(森) 1105
後期特別研究Ⅲ(森谷) 1108

後期特別研究Ⅲ(山下)..... 1106
後期特別研究Ⅲ(吉岡)..... 1112
後期特別研究Ⅲ(吉村)..... 1114

し

システム生理学特論 1048
鍼灸医療技術開発特論..... 1053

ふ

分子治療学特論..... 1050
分子病態検査学特論..... 1051

り

臨床神経解剖学特論..... 1049

助産学専攻科

う

ウイメンズヘルスとリプロダクティブケア……1122

し

周産期医学論……1120
助産管理学……1130
助産学課題研究……1135
助産学実習Ⅰ……1131
助産学実習Ⅱ……1132
助産学総論……1119
助産診断・技術学Ⅰ……1124
助産診断・技術学Ⅱ……1126
助産診断・技術学Ⅲ……1127
助産診断・技術学Ⅳ……1129
女性健康学総論……1120
新生児診断・発達論……1121

ち

地域母子保健学……1130
地域母子保健実習……1133

は

ハイリスク母子支援論……1122
ハイリスク母子実習……1133

ふ

分娩介助技術学演習……1123

ほ

補完代替医療とアロマセラピー……1134

看護学科
(2017 年度以降入学生対象)

授業科目名	東洋史概説(看護)				
主担当教員	重信　あゆみ		担当教員	重信　あゆみ	
科目ナンバリング	LA020	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

古代より人類は多くの活動を連携して行ってきた。その積み重ねが歴史である。そして、現在の医療には、チーム力が必須であり、そのためにはどのようにチームに貢献していくのかを各人が考えていく必要がある。人間活動の痕跡である歴史は、人間関係の構築を知る格好の材料である。歴史を俯瞰的にみることにより、チームに貢献するための人間力を向上させる。

到達目標

中国文化の基盤となっている歴史、思想を理解する。中国の思想には「いかに生き抜くか」が根底にある。その中で、諸子百家と呼ばれる人々は多くの思想を生み出し、広めてきた。思想やその背景となる歴史を人間関係の構築という観点からみることにより、チームに貢献するための「行動」について考える力を養う。<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 配付された資料には必ず目を通すこと。
2. 出席は重視する。
3. 疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

マイケル・ピュエット／クリスティーン・グロス＝ロー著　熊谷淳子訳
『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』早川書房　2016年

研究室／オフィスアワー

授業後、非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科科目のガイダンス	＜予習・復習 各２時間＞ 半期でする時代の流れを復習すること	
2	死生観のあらわれ	＜予習・復習 各２時間＞ 中国の墓の壁画を通じて、死生観を学ぶ	
3	孔子の理想とした西周	＜予習・復習 各２時間＞ 西周の遺物を中心に文化・歴史を学ぶ	
4	黄泉の国　「中国と日本の比較」	＜予習・復習 各２時間＞ 中国と日本の死後の世界を図像を通して比較する	
5	孫子の兵法	＜予習・復習 各２時間＞ 孫子の兵法が三国時代や現在にまで影響を及ぼしていることを学ぶ	
6	古代中国における病気の退散方法	＜予習・復習 各２時間＞ 古代中国の人々は病気の原因を何に求めたのか、そして、それを退散させるには、どのように考えていたのかを考える。	
7	道教の神「西王母」	＜予習・復習 各２時間＞ 不老長寿の神である西王母について学ぶ。西王母は古来より現在に至るまで信仰されている神である。なぜ、ひとびとは、不老長寿を追いかけるのか。西王母の変遷を通じて考える。	
8	張目吐舌	＜予習・復習 各２時間＞ ひとびとは生き抜くためにあらゆる手段を講じた。そのなかでも悪霊から自身を守るために魔除けをつくる。その共通点が「張目吐舌」である。東西交渉を通じて伝えられた「「張目吐舌」について考える。	
9	「精」「気」「神」	＜予習・復習 各２時間＞ 「精」「気」という人にとって基本となる思想について触れる。ほんとうの元気とは何かについて考える。	
10	老子　「道」	＜予習・復習 各２時間＞ 「柔は剛より強い」、この思想を通して、どのように実践されてきたのか、現在にどのように実践していくのかを考える。	
11	科挙制度を学ぶ	＜予習・復習 各２時間＞ 科挙制度を通じて、古代中国における人材確保の仕方を学ぶ。また、教育についても触れる。	
12	日本の中の中国①	＜予習・復習 各２時間＞ 日本における中国の影響を学ぶ。	
13	日本の中の中国②	＜予習・復習 各２時間＞ 前講義につづき、日本の中の中国の影響、そして、変容を学ぶ。	
14	「癒し」	＜予習・復習 各２時間＞ ストレス社会である現在、さまざまな「癒し」がある。各自の癒しについて考えてもらい、なぜ癒されるのかを科学的に検証していく。	
15	思想と東洋医学	＜予習・復習 各２時間＞ 半期のまとめを行う。ひとはなぜ「不老長寿」を追い求めてきたのかをまとめを行いながら考えていく。	

成績評価方法と基準	割合
①授業ごとの感想文<DP③> ②レポート課題<DP③> ③定期試験<DP③>	①10% ②20% ③70%

授業科目名	西洋史概説(看護)				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング	LA009	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

現代の日本社会においては、意識するしないに関わらず、様々な分野で西洋社会（ヨーロッパ諸国・北アメリカ）の影響を受けている。とりわけ江戸時代が終わり明治時代になって以降、政治・経済システムや文化といった側面で、日本は多くのものを西洋社会から受け入れ、伝統的な日本社会に溶け込ませようとしてきた（それがうまくいった例もあれば、失敗に終わった例もあろう）。　本講義では、そのような点で重要なものである西洋社会の特色について、西洋の歴史を古代から現代まで概観していくことで、理解を深めていくことを目指したい。

西洋の歴史もかなり古く、数多くの重大な出来事が起こっているが、本講義ではそれらを網羅的に事細かく解説することは避け、いくつかのトピックに絞って西洋文化・社会の特徴を把握することを試みる。例えば古代ギリシャ・ローマ文明、中世のキリスト教社会の成立、近代の様々な革命的な出来事（科学革命・産業革命・政治革命）などである。

また本講義では西洋における自然科学史、特に医療にかかわる歴史についても適時紹介し解説していきたい。現代の医療もまた様々な面で西洋文化の影響下にあり、西洋において「医」の考え方がどのように変遷していったのかを理解することは、現代の医療を学ぶ上でも重要な視点を与えてくれるだろう。

到達目標

１．現在の西洋社会の出発点ともいえる古代ギリシャ・ローマ文明の内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
２．現代の西洋社会においても重要な一部を成しているキリスト教が西洋中世においてどのように社会に浸透していったのかを理解することができる。〈DP③〉
３．ルネサンス期から近世にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には宗教改革や、17 世紀の科学革命、18 世紀の啓蒙思想などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
４．近代から現代にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には産業革命やフランス革命、アメリカの独立戦争や第一次・第二次世界大戦、東西冷戦などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
５．西洋の歴史において、医療についての考え方や医療技術がどのような変遷を経てきたのかを理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代の日本社会・文化においては、西洋社会・文化に由来するものが数多くあり、常識となっているものもあろう（逆に違和感があり馴染めないというものもあろう）。本講義では、そういったもののルーツとなるものを、西洋の歴史をたどって概観していくことで理解を深めてもらい、またそういったものについていろいろと考えを巡らせてみるきっかけとしてもらいたい。

西洋史におけるさまざまなトピックを充分に学修するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。

他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明（ガイダンス）。また講義の導入として古代ギリシャの文化・社会について①。	（予習）西洋社会・文化について自分がどういうイメージを抱いているのかを考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	古代ギリシャの文化・社会について②。およびヒポクラテスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
3	古代ローマの文化・社会について。およびガレノスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
4	中世キリスト教社会の成立について①。およびアヴィケンナの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
5	中世キリスト教社会の成立について②。および「ペスト（黒死病）」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
6	ルネサンス、ルターの宗教改革、三十年戦争について。および「解剖学」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
7	１７世紀の西洋社会・文化について（近代的な国家の形成過程や科学革命など）。およびハーヴィの「血液循環論」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
8	１８世紀の啓蒙思想について（モンテスキュー、ルソー、アダム・スミスなどの思想）。およびレーウェンフックの「顕微鏡」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
9	産業革命とフランス革命について。およびパストゥールの「フラスコ」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
10	ウィーン体制と国民国家の形成過程、帝国主義について。および「X 線装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
11	アメリカ独立戦争とアメリカ合衆国の成立について。および「天然痘」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
12	第一次世界大戦前後の西洋社会・文化について（ロシア革命やヴェルサイユ体制など）。および「人工心肺装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
13	第二次世界大戦前後の西洋社会・文化について（世界大恐慌やファシズムの台頭など）。およびクリックとワトソンの「二重らせん」につい	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何	

	て。	度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
14	第二次世界大戦後の西洋社会・文化について（冷戦とポスト冷戦など）。および「MRI スキャナー」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。〈DP③〉 小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることができるかどうかを評価する。 期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。	①期末試験 50% ②小テスト 50%

授業科目名	英会話Ⅰ(看護)（English Conversation Ⅰ）				
主担当教員	Julian Houseman		担当教員	Julian Houseman	
科目ナンバリング	LA021	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

英会話Ⅰでは、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話力を身につける。

到達目標

・自己紹介ができる。
・最低限の日常会話ができる。
・自分の考えを最低限伝えることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

書名／Title ： CHALLENGER BOOK α 1
著者名／Authors ： ECC 総合教育研究所
出版社・出版年／ ECC

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

E 棟１階非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Course introduction, Classroom English	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
2	Introduction yourself Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
3	Greetings friends Casual Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
4	What’s your sister’s name? Talk about people	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
5	Free time Talk about activities	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
6	Exercise Talk about exercise	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
7	What kind of bike do you have? Closed questions and follow-up questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
8	Food you like Open questions and closed questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
9	Clothes Talk about shopping	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
10	Is it expensive? Adjectives and recommendations	授業の復習並びに会話確認テスト準備	

11	Visiting someone Talking someone	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
12	Saying people Offering something	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
13	What’s this wooden thing? Talk about objects	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
14	Describing people Wh～questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
15	講義全体のまとめ	授業の復習並びに総括小テスト準備	
成績評価方法と基準			割合
①授業参加度 ②小テスト ③確認テスト			①20% ②60% ③20%

授業科目名	医学英語(看護)（English for Medicine）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング	LA022	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜５限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。
将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。

到達目標

最低限患者とコミュニケーションがとれる。〈DP②〉
最低限の医学用語が理解できる。〈DP②〉
医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。
携帯電話の使用、私語は慎むこと。

教科書

実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Introduction / Medical terminology / Getting to know the patients 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Getting to know the patients 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Getting to know the patients 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Getting to know the patients 4	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Examination 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	Examination 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

7	Instructing medication	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Treating the patients 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Treating the patients 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Treating the patients 3	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Operation / Pubmed について、論文の構成について	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Pregnancy / Articles on Nursing 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	In the hospital / Articles on Nursing 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Emergencies / Articles on Nursing 3	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Living a healthy life / Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
小テスト<DP②> プレゼンテーションおよびその他課題<DP②> 授業参加態度<DP②> 2/3 回以上の出席が必要。	30% 40% 30%

授業科目名	基礎英語演習(看護)				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング	LA023	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。<DP②>
TOEIC500 点相当の英語力を身に着ける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	品詞①：名詞（可算名詞・不可算名詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 2 Dining Out	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	品詞②：形容詞（名詞修飾、補語）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 3 Media	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	品詞③：副詞（動詞・形容詞修飾）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 4 Entertainment	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	時制（現在・過去・未来・現在進行形）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Unit 5 Purchasing	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	3単現の s（修飾語句を伴う主語）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 6 Clients	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	能動態・受動態（感情を表す表現）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 7 Recruiting	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	動詞の後ろの動名詞・不定詞（前置詞の後ろの動名詞、定型表現）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト<DP②> ②その他課題・授業態度・参加<DP②> 2/3以上の出席が必要。			①40% ②60%

授業科目名	応用英語演習(看護)				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング	LA024	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜５限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

文法、語彙、表現を徹底的に習得する。<DP②>
TOEIC550点相当程度の英語力を身に着ける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)
（前期に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E棟4階研究室14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Introduction / Unit 8 Personnel	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	代名詞（主格・所有格・目的格・所有代名詞）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 9 Advertising	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	比較（比較級、最上級、as ... as）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 10 Meetings	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	前置詞（理由・譲歩・時、定型表現）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 11 Finance	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	接続詞（理由・譲歩・時）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Unit 12 Offices	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	前置詞・接続詞対比	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 13 Daily Life	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	関係代名詞（主格・所有格・目的格）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①（名詞・形容詞）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Unit 15 Events 語彙②（動詞・副詞）	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト<DP②> ②その他課題・授業態度・参加<DP②> ③Review Test<DP②> 2/3以上の出席が必要。			①40% ②20% ③40%

授業科目名	健康管理学Ⅰ（看護）（Healthcare Management Ⅰ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜3限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病の危険因子が明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方の条件（強度・時間・頻度）に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウオーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。

到達目標

1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。<DP③>
2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。<DP③>
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。<DP③>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません。

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村慎一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について　1	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について　2	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動　1	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動　2	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動　3	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて　1	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて　2	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

10	パワートレーニングについて	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点 1 ウォームアップとウォームダウン 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点 2 ウォームアップとウォームダウン 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点 3 オーバーエクササイズによる身体的の問題	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	トレーニングでの注意点 4 障害を予防するためのアイシング	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験<DP③> ②授業ごとの小テスト・課題提出<DP③> ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要			①70% ②30%

授業科目名	健康管理学Ⅱ(看護)（Healthcare Management Ⅱ）				
主担当教員	伊黒 浩二		担当教員	伊黒 浩二	
科目ナンバリング	CS023	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきている。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモーティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。

到達目標

1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

①寝ない ②喋らない ③内職しない ④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村愼一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ 健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康管理について 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動 1 メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動 2 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動 3 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動 4 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動 5 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 授業の 2/3 回以上の出席が必要			①70% ②30%

授業科目名	身体運動科学(看護)（Science of Human Body Movement）				
主担当教員	外林　大輔		担当教員	外林　大輔	
科目ナンバリング	CS025	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて学び、身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニングや栄養との関連性について学ぶ。

到達目標

運動がもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の重要さを理解し、資格取得後の現場に活かせる知識と考え方を身に付ける。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

最新のデータや知見を踏まえて講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらいので、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などありましたら、遠慮なくお寄せください。

教科書

授業時に配布するプリント

参考書

改訂版 運動生理学の基礎と発展（春日規克著・フリースペース）
運動生理学のニューエビデンス（宮村実晴著・真興交易医書出版）

研究室／オフィスアワー

大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。
sotobayashi@morinomiya.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	身体運動科学の概要	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動と筋・骨格①	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	運動と筋・骨格②	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	ストレングス＆コンディショニング	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	柔軟性の科学①	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	柔軟性の科学②	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動と循環①	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動と循環②	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	運動と呼吸	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	運動と免疫	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	運動と栄養	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

12	運動と食生活	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	フィジカルチェック	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	脳振盪	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ・試験対策	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
1.授業の 3 分の 2 以上の出席が必要です。 2.期末テスト 60 点以上で単位認定とします。〈DP③〉			100%

授業科目名	東洋医療概論(看護)				
主担当教員	横山 浩之		担当教員	横山 浩之	
科目ナンバリング	CS028	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。

到達目標

下記の内容の概要を理解する。
１．東洋医学の分野を理解する。〈DP②③〉
２．東洋医学の基本的思考法を理解する。〈DP②③〉
３．東洋医学が身近なものであることを認識する。〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．東洋医学の用語に慣れること。
２．全ての授業に出席すること。
３．できれば、自分のノートをつくること。

教科書

なし

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス、東洋医学とは この講義を学習することの意味を説明できる	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：東洋医学について調べておく 復習：授業の振返り	
2	東洋医学の分野	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
3	陰陽・五行	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
4	臓腑経絡(1)	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
5	臓腑経絡(2)	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
6	診察	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
7	鍼灸治療	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
8	漢方治療	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
9	手技療法	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	

10	中医学	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
11	東洋医学の歴史	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
12	東洋医学の特徴	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
13	家庭における東洋医学	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
14	東洋医学と民間療法	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
15	東洋医学の将来と課題	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
成績評価方法と基準			割合
【評価の配点】 1．出席・授業態度〈DP②③〉 2．レポート提出〈DP②③〉 ＊詳細は授業内で告知する			1.40% 2.60%

授業科目名	統合医療概論(看護)（Introduction to Integrative Medicine）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、増山 祥子、森 美侑紀	
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 1 限 木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素である EBM と補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。

到達目標

1．統合医療の概念と現状について理解する。
2．EBM の概念と手法について理解する。
3．補完代替医療の種類と概要について説明できる。
4．各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。

教科書

資料を配布する。

参考書

各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM	EBM について調べる	山下
3	EBM シミュレーション	自分の専門領域のエビデンスについて調べる	増山
4	EBM と診療ガイドライン	自分の専門領域または興味のある疾患の診療ガイドラインを調べる	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	利益相反状態と利益相反行為の違いについて調べる	山下
6	補完代替医療概論	代替医療と補完医療の違いについて調べる	山下
7	代表的な補完代替療法	自分が興味のある補完代替療法についてネットや図書館で調べる	山下
8	鍼灸と経穴	鍼灸に関する書籍や雑誌を図書館で調べる	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
11	ヨガ・マインドフルネス	ヨガ・マインドフルネスに関するネット動画を見る	増山
12	サプリメント	興味のあるサプリメントを幾つか選んでその広告の内容に関する疑問点を調べる	山下
13	統合医療とスピリチュアルと NBM	スピリチュアルという概念について調べる	山下
14	緩和ケア・難病ケアと統合医療	末期がんまたは難病の患者の実情について調べる	増山

15	総括：統合医療は何を統合するのか	14 回までに習った内容を整理する	山下
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②課題提出物			①70% ②30%

授業科目名	IPW 論(看護)（Inter-Professional Work）				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、山下 仁、増山 祥子、大川 祐世、角田 晃啓、蓮池 光人、関根 将、藤江 建朗、小林 貴代	
科目ナンバリング	CS029	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 3 限 水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

各学科において、他学科の連携や知識・技術に触れることを目的に看護学・鍼灸学・作業療法学、臨床検査学および理学療法学を学び、IPW（Interprofessional Work = 専門職連携）を 5 学科協働で演習形式にて実践する。
　各分野の特徴やチーム内での役割とその専門性を学び、その上で看護、鍼灸、作業療法、臨床検査、理学療法の各分野で共通する疾患や障害を基に、IPW の実際について、討議・経験・学修する。(オムニバス形式／全 15 回)

到達目標

各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理観を養う。<DP①②③④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1) 授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。
2) 疑問点を大切にして常に自己で調べて解決するように行動すること。
3) グループワークに積極的に参加し活発なカンファレンスを行う。
4)出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。

教科書

資料を配布あり

参考書

適宜提示する

研究室／オフィスアワー

升田研究室 433

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス 医療系職種の理解①（臨床検査学）	臨床検査士について事前学修しておく 1 時間	関根　将
2	医療系職種の理解②（臨床工学）	臨床検査技師について事前学修しておく 1 時間	藤江　建朗
3	医療系職種の理解③（鍼灸学）	鍼灸師について事前学修しておく 1 時間	山下・増山・大川
4	医療系職種の理解④(理学療法学)	理学療法士について事前学修しておく 1 時間	角田　晃啓
5	医療系職種の理解⑤（作業療法学）	作業療法士について事前学修しておく 1 時間	小林　貴代
6	チーム医療の実際 （各学科教員による Case Conference）	チーム医療や多職種連携について調べる 1 時間	全学科教員
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①	課題として出された症例について、各自、看護問題、計画を立案してくる 1 時間	看護学科教員
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察②	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する 1 時間	看護学科教員
9	症例提示におけるアプローチ立案とその考察③	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する 1 時間	看護学科教員
10	症例提示におけるアプローチ立案とその考察④	看護学科のグループワークで出てきた疑問点を修正する 1 時間	看護学科教員
11	IPW①（11 回～14 回は 4 コマ連続）	看護学科のグループワークで話し合った問題点と計画をまとめ、他学科に発表できるように準備を行う。 予習グループワークに備え資料準備、問題・目標の整理 4 時間(11~14 回)	全学科教員

12	IPW②（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	多職種とのグループワークで出てきた疑問点を修正する	全学科教員
13	IPW③（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	多職種とのグループワークで出てきた疑問点を修正する	全学科教員
14	IPW④（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	多職種とのグループワークで出てきた疑問点を修正する	全学科教員
15	IPW⑤（プレゼンテーションと振り返り）	多職種とのグループワークで話し合った問題点と計画をまとめ、発表できるように準備を行う。 予習発表準備 1 時間	全学科教員
成績評価方法と基準			割合
①レポート ＜DP①②③④＞ ②【IPW】プレゼンテーション（提示するルーブリックに基づき表価する）＜DP①②③④＞ 出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う			①40% ②60%

授業科目名	フィジカルアセスメント(看護)（Physical Assessment）				
主担当教員	住田 陽子		担当教員	住田 陽子、外村 昌子、安井 渚、澤田 悦子、宮本 佳子、樋口 優子、小林 妙子	
科目ナンバリング	SB105	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

フィジカルアセスメントとは、対象者の日常生活行動を支える身体の構造と機能の査定である。対象は、健康・不健康にかかわらずすべての人間である。人間の身体の構造と機能を、一般状態・生命徴候・生命の維持や、見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す、食べる・排泄する、身体を動かすといった日常生活行動の観点から理解し、観察方法の修得、ならびに結果のアセスメントにつなげていく。演習においては、フィジカルアセスメントの基本技術である問診・視診・触診・打診・聴診について、それぞれの意義、選択をふまえた上で実践し、基本原則の理解につなげる。また、身体の諸機能について正確に観察・記録し、的確にアセスメントすることをめざす。

到達目標

1. 看護におけるフィジカルアセスメントの必要性を述べることができる。〈DP①②〉
2. 人間の日常生活行動をささえる身体の構造と機能を理解し、フィジカルアセスメントに活かすことができる。〈DP①〉
3. 問診・視診・触診・打診・聴診の基本原則について、実践を通して述べることができる。〈DP①〉
4. 全身状態の観察、生命維持機能（体温の恒常性・呼吸・循環）、感覚機能、消化機能、運動機能の観察を正確に行うことができる。〈DP①〉
5. 身体の各機能の観察結果から、人間の日常生活行動についてアセスメントすることができる。〈DP①②〉
6. リンパ系、泌尿器系、肝・胆・膵、生殖器の観察とアセスメントについて理解できる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 心身をよく使い、主体的に授業に参画すること。
2. 授業前後は課題を出す。こなすだけで終わらず、つながりを持って理解すること。
3. 形態機能学の復習をしておくこと。

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅰ［基礎看護学②］基礎看護技術Ⅰ，医学書院

参考書

大久保暢子（編）：日常生活行動からみるヘルスアセスメント，日本看護協会出版会，2016
坂井建雄，岡田隆夫：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学，医学書院

研究室／オフィスアワー

住田研究室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	教科ガイダンス フィジカルアセスメントの概念	予習：シラバスの確認。聴診器を持参する。 復習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章 ヘルスアセスメント」の「ヘルスアセスメントとは」を熟読する。(1 時間)	住田 陽子
2	フィジカルアセスメントの基本技術	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章 ヘルスアセスメント」の「健康歴とセルフケア能力のアセスメント」と「全体の外観：フィジカルアセスメントに必要な技術」の項を熟読する。(1 時間) 復習：授業内容の整理。	住田 陽子
3	全身状態・全体印象の把握・健康歴聴取	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章 ヘルスアセスメント」の「健康歴とセルフケア能力のアセスメント」と「全体の外観：全身状態・全体印象の把握」の項を熟読する。(1 時間) 復習：授業内容の整理。	住田 陽子
4	皮膚・髪・爪の観察とアセスメント	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章 ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。(1 時間)	安井 渚

		復習：授業内容の整理。	
5	【演習】問診（面接）の技術／皮膚・髪・爪の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
6	【演習】問診（面接）の技術／皮膚・髪・爪の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
7	生命維持機能の観察とアセスメント（体温の恒常性）	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「全体の外観：バイタルサインの観察とアセスメント」の項を熟読する。（1 時間） 復習：授業内容の整理。	住田 陽子
8	生命維持機能の観察とアセスメント（呼吸）	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：呼吸器系のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（1 時間） 復習：授業内容の整理。	住田 陽子
9	生命維持機能の観察とアセスメント（循環）	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：循環器系のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（1 時間） 復習：授業内容の整理。	住田 陽子
10	【演習（講義室にて）】血圧測定・脈拍測定	予習：血圧測定（触診法・聴診法）と脈拍測定の手順の確認 復習：血圧測定と脈拍測定が正確にできるまで練習する。（2 時間）	全員
11	【演習】バイタルサイン測定・呼吸音の聴診	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
12	【演習】バイタルサイン測定・呼吸音の聴診	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
13	感覚機能の観察とアセスメント	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：神経系のフィジカルアセスメント、頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（30 分） 復習：授業内容の整理。	安井 渚
14	感覚機能の観察とアセスメント	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：神経系のフィジカルアセスメント、頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（30 分） 復習：授業内容の整理。	安井 渚
15	【演習】感覚機能の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
16	【演習】感覚機能の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
17	消化機能の観察とアセスメント	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：腹部のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（30 分） 復習：授業内容の整理。	澤田 悦子 宮本 佳子
18	消化機能の観察とアセスメント	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：腹部のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（30 分） 復習：授業内容の整理。	澤田 悦子 宮本 佳子
19	【演習】消化機能の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
20	【演習】消化機能の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
21	運動機能の観察とアセスメント	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：筋・骨格系のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（30 分） 復習：授業内容の整理。	外村 昌子 樋口 優子
22	運動機能の観察とアセスメント	予習：テキスト「基礎看護技術Ⅰ」の「第 2 章ヘルスアセスメント」の「系統別フィジカルアセスメント：筋・骨格系のフィジカルアセスメント」の項を熟読する。（30 分） 復習：授業内容の整理。	外村 昌子 樋口 優子
23	【演習】運動機能の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
24	【演習】運動機能の観察とアセスメント	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
25	【技術チェック】血圧測定	予習：血圧測定の自己練習（2 時間） 復習：血圧測定チェックの自己評価	全員
26	【技術チェック】血圧測定	予習：血圧測定の自己練習（2 時間） 復習：血圧測定チェックの自己評価	全員
27	リンパ系の観察とアセスメント	予習：リンパ系の解剖整理を復習しておく。（1 時間） 復習：授業内容の整理。	外村 昌子
28	泌尿器系の観察とアセスメント	予習：泌尿器系の解剖整理を復習しておく。（1 時間） 復習：授業内容の整理。	澤田 悦子
29	肝・胆・膵の観察とアセスメント	予習：肝臓・胆嚢・膵臓の解剖整理を復習しておく。（1 時間） 復習：授業内容の整理。	宮本 佳子
30	生殖器の観察とアセスメント	予習：生殖器の解剖整理を復習しておく。（1 時間） 復習：授業内容の整理。	樋口 優子

成績評価方法と基準	割合
1. 定期試験（筆記試験のみ）：6 割以上。〈DP①②〉 2. 技術チェック。〈DP①〉 3. レポートの内容、提出状況。〈DP①〉 上記の 1～3 を合計する。 上記の成績評価は、授業時数の 4/5 以上の出席を対象とする。	1. 50% 2. 20% 3. 30%

授業科目名	臨床薬理学(看護)（Clinical Pharmacology）				
主担当教員	木田　岩男		担当教員	木田　岩男	
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

疾病の治療や予防に用いられる薬物に関しての基本的な知識を修得することで、薬物を用いた医療行為の円滑な実践と、薬物による医療事故の防止を実践できるようにする。

到達目標

1．主要な薬物の作用機序を理解する。〈DP①②〉
2．主要な薬物の主な作用と重篤な副作用についての知識を得る。〈DP①②〉
3．薬物の適正な使い方を、事例を通して理解する。〈DP①②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布資料は教科書の補足資料として学修の参考にする。
2．講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。
3．講義中に指示するので、教科書の重要箇所にアンダーラインを引き、そこは必ず復習する。
4．疑問点があれば何でも質問し、解決してから次に進むようにする。
5．出席は重視する。

教科書

大鹿英世／吉岡充弘／井関健著＜系統看護学講座専門基礎分野＞［疾病のなりたちと回復の促進 3］薬理学　医学書院

参考書

1．日本臨床薬理学会編集「臨床薬理学」医学書院

研究室／オフィスアワー

研究室：西棟 233 研究室
オフィスアワー：月曜 5 限・水曜 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床薬理学の概要	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：教科書の該当箇所を一読する。 復習：身近にある薬の添付文書を調べる。	
2	抗感染症薬	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：微生物学の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。 復習：抗菌薬と抗ウイルス薬についてまとめる。	
3	抗がん薬	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：癌について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習：代表的な抗癌薬の副作用についてまとめる。	
4	免疫治療薬	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：免疫系の復習をする。教科書の該当箇所を一読する。 復習：免疫抑制薬の副作用についてまとめる。	
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：炎症の機序について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習：ステロイド製剤の副作用についてまとめる。	
6	末梢での神経活動に作用する薬物	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：自律神経について復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習：自律神経作動薬についてまとめる。	
7	中枢神経系に作用する薬物	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：中枢神経系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習：向精神薬の副作用についてまとめる。	
8	心臓・血管系に作用する薬物	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：循環器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習：心臓と血管に作用する薬についてまとめる。	
9	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：呼吸器系と消化器系の機能を復習する。教科書の該当箇所を 一読する。 復習：呼吸器系と消化器系疾患に用いる薬をまとめる。	
10	物質代謝に作用する薬物	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：糖代謝と脂質代謝について復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習：糖尿病治療薬と高脂血症治療薬についてまとめる。	
11	皮膚に使用する薬物	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：皮膚の構造と機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習：皮膚疾患に用いる薬をまとめる。	
12	眼科外用薬	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：眼の構造と機能を復習する。教科書の該当箇所を一読する。 復習：眼疾患に用いる薬をまとめる。	
13	救急の際に使用される薬物	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：ショックの種類について調べる。教科書の該当箇所を一読する。 復習：アドレナリン、ノルアドレナリン、ドパミンの違いについてまとめる。	
14	漢方薬	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：教科書の該当箇所を一読する。 復習：漢方薬の副作用について調べる。	
15	消毒薬	＜予習・復習（1 時間）＞ 予習：教科書の該当箇所を一読する。 復習：消毒薬の特徴についてまとめる。	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験として筆記試験を行う。〈DP①②〉 期末試験（６０点以上で単位認定）	①100%

授業科目名	臨床病態学Ⅰ(看護)(Clinical Pathology Ⅰ)				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SB110	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。

到達目標

DP①②に対応し、チーム医療実践で必要な専門的知識を獲得するための授業科目です。
１．各種臓器の働きを理解し説明できる。DP①②に対応
２．各種疾病の本質・病態を論理的に理解し説明できる。DP①②に対応
３．各種疾病の臨床症状・治療法・ケアを合理的に説明できる。　DP①②に対応

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．内科学（疾病の理解）は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

浅野嘉延・吉山直樹編　看護のための臨床病態学　南山堂

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

月曜午後・水曜日・金曜日午後（ただし会議等でいないこともあります）
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心臓の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習１時間＞ 心臓の解剖・生理機能について、予習復習を行うこと。	
2	心臓の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習１時間＞ 心臓の解剖・生理機能について、予習復習を行うこと。	
3	循環器疾患の病態・治療の理解 3	＜予習・復習１時間＞ 循環器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
4	循環器疾患の病態・治療の理解 4	＜予習・復習１時間＞ 循環器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
5	肺の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習１時間＞ 肺の解剖・生理機能について、予習復習を行うこと。	
6	肺の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習１時間＞ 呼吸器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
7	呼吸器疾患の病態・治療の理解 3	＜予習・復習１時間＞ 呼吸器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
8	呼吸器疾患の病態・治療の理解 4	＜予習・復習１時間＞ 呼吸器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
9	消化管の基本的な働きと消化器疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習１時間＞ 消化管の解剖・生理機能について、予習復習を行うこと。	
10	消化器疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習１時間＞ 消化器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
11	消化器疾患の病態・治療の理解 3	＜予習・復習１時間＞ 消化器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
12	肝臓・膵臓・胆嚢の基本的な働きと肝胆膵疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習１時間＞ 肝臓・膵臓・胆嚢の解剖・生理機能について、予習復習を行うこと。	
13	肝胆膵疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習１時間＞ 肝胆膵疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
14	血液疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習１時間＞ 血液疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
15	血液疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習１時間＞ 血液疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験（DP①②）	100%

授業科目名	臨床病態学Ⅱ(看護)（Clinical Pathology Ⅱ）				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SB111	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。

到達目標

DP①②に対応し、チーム医療実践で必要な専門的知識を獲得するための授業科目です。
１．各種臓器の働きを理解し説明できる。DP①②に対応
２．各種疾病の本質・病態を論理的に理解し説明できる。DP①②に対応
３．各種疾病の臨床症状・治療法・ケアを合理的に説明できる。　DP①②に対応

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．内科学（疾病の理解）は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

浅野嘉延・吉山直樹編　看護のための臨床病態学　南山堂

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

月曜午後・水曜日・金曜日午後（ただし会議等でいないこともあります）
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	代謝性疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 代謝性疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
2	代謝性疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 代謝性疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
3	内分泌疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 内分泌疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
4	内分泌疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 内分泌疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
5	内分泌疾患の病態・治療の理解 3	＜予習・復習 1 時間＞ 内分泌疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
6	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ アレルギーの病態について予習復習を各行うこと。	
7	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ アレルギー疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
8	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解 3	＜予習・復習 1 時間＞ 膠原病の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
9	腎臓の基本的な働き	＜予習・復習 1 時間＞ 腎臓の解剖・生理機能について、予習復習を行うこと。	
10	腎臓疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 消化器疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
11	腎臓疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 腎臓疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
12	腎臓疾患の病態・治療の理解 3	＜予習・復習 1 時間＞ 腎臓疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
13	神経・筋疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 神経・筋疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
14	神経・筋疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 神経・筋疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
15	総まとめ	＜予習・復習 1 時間＞ 神経・筋疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験（DP①②）	100%

授業科目名	臨床病態学Ⅲ(看護)（Clinical Pathology Ⅲ）				
主担当教員	三木　宏文		担当教員	三木　宏文	
科目ナンバリング	SB112	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本講義では外科的アプローチを主体とする各種疾患の理解を深める。周術期管理を中心とした外科学総論を基本とし、心・大血管を対象とする循環器の外科、肺疾患を主な対象とする呼吸器外科、消化器疾患・内分泌疾患を中心とする一般外科領域を中心に、運動器系を中心とする整形外科領域、腎・泌尿器系、女性生殖器系疾患を対象とする泌尿器科、婦人科領域、頭蓋内疾患を中心とする脳神経外科領域にも一部触れたい。主要疾患についてそれぞれの概要、病態生理、症状、診断、治療、予後等について主に外科的側面から修学することを目標とする。

到達目標

１）解剖学、生理学、臨床病態学Ⅰ、Ⅱを基本とするので、その復習をすること。DP①②
２）各領域の疾患に対する病態とそこから考えられる外科的治療・術式の身体に及ぼす影響・周術期患者へのアセスメントを理解する。DP①②
３）外科的治療後の周術期管理の特質を理解し、ケア・援助へのつながりに役立てる。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床病態学Ⅲは、麻酔管理・外科系疾患の病態把握・周術期看護の土台であり、援助論の根拠となるものである。外科的治療の基本は局所解剖学をマスターすることであり、さらに、病態・術前術後管理が、看護援助にどのようにつながっているかに留意しながら講義に臨んでほしい。当該授業の解剖と診断、全身管理は解剖学、生理学に加え、臨床病態学Ⅰ、Ⅱでカバーされているので、授業中の質問は座席表にしたがってこれらを確認することから始める。

注意事項
１．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
２．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
３．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
４．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる。最低限の礼儀を辨えること。
６．学生証を忘れて、カードリーダーを通せなかった場合は、当日申し出ること。後日の「この日は出席していました」は一切認めない。
７．座席表のとおり、着席すること。

教科書

新体系看護学全書別巻１「臨床外科看護学Ⅰ」
新体系看護学全書別巻２「臨床外科看護学Ⅱ」
メヂカルフレンド社

参考書

必要時、随時提示

研究室／オフィスアワー

研究室 13：在室時いつでも、もしくはメール問い合わせ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	外科総論１	インフォームドコンセント、外科看護の特徴、外科看護技術総論について学習し、知識を確実にしておく	
2	外科総論２	各種麻酔薬・手法についての知識・適応を整理すること。	
3	循環器系疾患の外科的治療と周術期管理１	循環器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておく。	
4	循環器系疾患の外科的治療と周術期管理２	心疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
5	呼吸器系疾患の外科的治療と周術期管理	呼吸器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
6	消化器系疾患の外科的治療と周術期管理１	消化器の解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておく	
7	消化器系疾患の外科的治療と周術期管理２	消化器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
8	消化器系疾患の外科治療と周術期管理３	消化器外科疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
9	整形外科疾患の外科的治療と周術期管理	整形外科疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
10	内分泌・代謝系疾患の外科的治療と周術期管理１	内分泌臓器系疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
11	内分泌・代謝系疾患の外科的治療と周術期管理２	内分泌臓器系疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
12	腎・泌尿器系疾患および女性生殖器系疾患の外科的治療と周術期管理	腎・泌尿器系臓器疾患および女性生殖器系臓器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
13	脳神経系疾患の外科的治療と周術期管理１	脳神経系臓器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
14	脳神経系疾患の外科的治療と周術期管理２	小児の脳外科疾患（二分脊椎、先天性水頭症、狭頭症）に対する理解・周術期看護を整理すること。	
15	高齢者および新生児疾患の外科的治療と周術期管理	先天性疾患に対する理解と新生児の特性を理解した周術期看護を整理すること。高齢者の特性を理解した周術期管理を整理すること。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験の点数にて判定する。DP①②	100%

授業科目名	臨床病態学Ⅳ(看護)（Clinical Pathology Ⅳ）				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬、太尾 恵理	
科目ナンバリング	SB113	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

精神科、産科・婦人科、小児科領域における主要疾患・病態及び治療について講義する。

到達目標

１）各種疾患・病態を理解し、論理的に説明できる。<DP①②>
２）病態から治療が合理的に説明できる。<DP①②>
３）病態・治療の理解を援助論に応用できる。<DP①②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床病態学は、看護学（精神看護学、母性看護学、小児看護学）の土台であり、援助論の根拠となるものである。学生は、病態・治療が、看護援助にどのようにつながっているかに留意しながら講義に臨んでほしい。
注意事項
１．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
２．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
３．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
４．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
５．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
６．学生証を忘れて、カードリーダーを通せなかった場合は、出席の確固たる証拠の提示がなければ欠席です。また、後日の「この日は出席していました」は一切認めない。
７．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

系統看護学講座　精神看護学[1]　医学書院
系統看護学講座　精神看護学[2]　医学書院
系統看護学講座　母性看護学[1]　医学書院
病気がみえる　vol.10　産科　メディックメディア
新体系看護学全書　小児看護学２　健康障害をもつ小児の看護　メヂカルフレンド社

参考書

必要時、提示する

研究室／オフィスアワー

前川（C 棟研究室 8）／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神科 1. 精神科疾患の診断と分類、精神症状論と状態像	＜予習・復習 1 時間＞ 精神科疾患の診断と分類、精神症状論と状態像を理解する（精神看護学[1]第 2 章、4 章）	太尾
2	精神科 2. 統合失調症の病態・治療	＜予習・復習 1 時間＞ 統合失調症の病態・治療を理解する（精神看護学[1]第 4 章、5 章）	太尾
3	精神科 3. 気分（感情）障害の病態・治療	＜予習・復習 1 時間＞ 気分（感情）障害の病態・治療を理解する（精神看護学[1]第 4 章、5 章）	太尾
4	精神科 4. 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害の病態・治療 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害の病態・治療	＜予習・復習 1 時間＞ 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害の病態・治療の理解を深める（精神看護学[1]第 4 章、5 章） 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害の病態・治療の理解を深める（精神看護学[1]第 4 章、5 章）	太尾
5	精神科 5. 知的障害、心理的発達の障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害、心身症の病態・治療 器質性精神障害、てんかんの病態と治療	＜予習・復習 1 時間＞ 知的障害、心理的発達の障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害、心身症の病態・治療の理解を深める（精神看護学[1]第 4 章、5 章）	太尾
		器質性精神障害、てんかんの病態と治療理解を深める（精神看護学[1]第 4 章、5 章）	
6	産科・婦人科 1. 性と生殖に関する身近な疾患①	＜予習・復習 1 時間＞ 性感染症と予防、母子感染（HIV 含む）の病態・治療の理解を深める。	前川
7	産科・婦人科 2. 性と生殖に関する身近な疾患②	＜予習・復習 1 時間＞ 出生前診断、不妊症の病態・治療の理解を深める。	前川
8	産科・婦人科 3. 妊娠に伴う循環器系・内分泌系疾患の病態・治療①	＜予習・復習 1 時間＞ 糖代謝異常、妊娠高血圧症候群・HELLP 症候群の病態・治療の理解を深める。	前川
9	産科・婦人科 4. 妊娠に伴う循環器系・内分泌系疾患の病態・治療②	＜予習・復習 1 時間＞ 糖代謝異常、妊娠高血圧症候群・HELLP 症候群の病態・治療の理解を深める。	前川
10	産科・婦人科 5.　染色体異常,新生児疾患	＜予習・復習 1 時間＞ 分娩障害、染色体異常による疾患（21 トリソミー、18 トリソミー等）の理解を深める。	前川
11	小児科 1. 小児期感染症	＜予習・復習 1 時間＞ 小児期感染症（麻疹、風疹など）の病態・治療の理解を深める。	前川
12	小児科 2.腎・泌尿器疾患、川崎病、二分脊椎、先天性心疾患	＜予習・復習 1 時間＞ 腎・泌尿器疾患、川崎病、二分脊椎、先天性心疾患の病態・治療の理解を深める。	前川
13	小児科 3. 血液、造血器、悪性新生物	＜予習・復習 1 時間＞ 造血器腫瘍、脳腫瘍、神経芽腫の病態・治療の理解を深める。	前川
14	小児科 4. 消化器疾患①	＜予習・復習 1 時間＞ 幽門狭窄、イレウス、ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖、鎖肛、直腸肛門奇形の病態・治療の理解を深める。	前川
15	小児科 5. 消化器疾患②	＜予習・復習 1 時間＞ 幽門狭窄、イレウス、ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖、鎖肛、直腸肛門奇形の病態・治療の理解を深める。	前川

成績評価方法と基準	割合
配点割合は、精神科領域が 50%、産科・婦人科・小児科領域が 50%とする。 精神科領域：筆記テストで評価する。<DP①②> 産科・婦人科・小児科領域：筆記テストで評価する。<DP①②>	精神科領域：筆記テスト 50 点、産科・婦人科・小児科領域：筆記テスト 50 点

授業科目名	臨床病態学Ⅴ(看護)（Clinical Pathology　Ⅴ）				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SB114	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学・感覚器学・老年医学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。

到達目標

DP①②に対応し、チーム医療実践で必要な専門的知識を獲得するための授業科目です。
１．各種臓器の働きを理解し説明できる。DP①②に対応
２．各種疾病の本質・病態を論理的に理解し説明できる。DP①②に対応
３．各種疾病の臨床症状・治療法・ケアを合理的に説明できる。　DP①②に対応

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．内科学（疾病の理解）は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

浅野嘉延・吉山直樹編 看護のための臨床病態学　南山堂

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

月曜午後・水曜日・金曜日午後（ただし会議等でいないこともあります）
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	脳血管障害の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 脳血管疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
2	脳血管障害の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 脳血管疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
3	認知症	＜予習・復習 1 時間＞ 認知症について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
4	各種感染症の原因・症状・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 病原微生物の特性について予習復習を行うこと。	
5	各種感染症の原因・症状・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 感染症の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
6	各種感染症の原因・症状・治療の理解 3	＜予習・復習 1 時間＞ 感染症の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
7	眼科疾患の病態と治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 眼の解剖・生理機能について予習復習を行うこと。	
8	眼科疾患の病態と治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 眼科疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
9	耳鼻科疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 耳・鼻・咽頭の解剖・生理機能について予習復習を行うこと。	
10	耳鼻科疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 耳鼻科疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
11	皮膚科疾患の病態・治療の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 皮膚科疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
12	皮膚科疾患の病態・治療の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 皮膚科疾患の病態について予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように復習しておくこと。	
13	老年症候群の理解 1	＜予習・復習 1 時間＞ 加齢に伴う生理機能の変化について予習復習を行うこと。	
14	老年症候群の理解 2	＜予習・復習 1 時間＞ 高齢者に特有の症候と老年医療のアプローチについて予習し、病態・ケアを合理的に説明できるように復習しておくこと。	
15	総復習	授業での総復習を確認しつつ、総合的な復習を 1 時間自宅で行うこと。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験（DP①②）	100%

授業科目名	看護関係法規(看護)（Nursing Related Laws and Regulations）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰、藤本　陽子、蓮池　光人、南部　登志江、齋藤　雅子	
科目ナンバリング	SB119	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人のライフサイクルには、疾病、負傷、障がい、失業、災害など様々な危機が存在するが、人々が健康に過ごすためには、保健・医療・福祉とともに社会制度や仕組みを理解することが必要である。
この授業では、法的根拠に基づいた個人の権利を保障するため、看護職として必要な健康支援と社会保障制度について学修し、対象者の立場に立った看護サービスの提供ができることを目的とする。
また、、看護活動の質を高め、対象者のＱＯＬの向上に寄与することができることを理解し、母性看護、成人看護、老年看護、精神看護、公衆衛生看護の各領域から学修する構成とする。

到達目標

１．社会人として基本となる法的、倫理的問題の考え方を理解する。DP①
２．看護職として必要な社会保障制度について理解する。DP①
３．看護活動を展開する上で、各領域との関係性、連携について理解する。DP①

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．看護職として活動するために必要な保健・医療・福祉・社会制度の基礎的知識であることを認識する。
２．指示された課題については，主体的に自分で書籍や研究文献でしっかり調べること。
３．提出期限については厳守すること。

教科書

公衆衛生がみえる:医療情報科学研究所：メディックメディア
母性看護学概論、小児看護学概論、成人看護学概論、精神看護の基礎、精神看護の展開、老年看護学概論（購入済み）

参考書

国民衛生の動向　2018/2019

研究室／オフィスアワー

授業時に案内

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	保健統計	予習/事前課題：現在の日本における人口統計、疾病、傷病状態などの情報収集し教科書を確認すること。(1.5 時間) 復習：本日の範囲（1.5 時間）	関口　敏彰
2	社会保障と地域保健	予習・事前課題：ライフサイクルからみた社会保障について確認しておくこと（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	関口　敏彰
3	関係法規（医療法、保健師助産師看護師法等）	予習・課題：医療法、保健師助産師看護師法、看護師等人材確保法律について（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	関口　敏彰
4	保健と福祉－感染症対策－	予習：主要感染症の動向,感染症法、検疫法、食品保健、食中毒について確認しておくこと（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	関口　敏彰
5	学校保健、産業保健、環境保健	予習：学校保健安全法、労働基準法、労働安全衛生法、職業性疾病、環境基本法職業性疾患、環境基本法について確認しておくこと（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	関口　敏彰
6	医療と社会 ・終末期医療と死の概念、医療の質と安全の確保 医療法と医療体制	予習：特定ｉ健康診査・特定保健指導（1.5 時間） 復習：授業内容を深める（1.5 時間）	藤本陽子
7	成人保健と健康増進 ・健康増進法、健康日本 21、生活習慣病対策、特定健診・特定保健指導、がん対策、難病対策	予習：健康増進に関する施策・生活習慣病の発症予防・重症化予防について（1.5 時間） 復習：品術の学習内容を深める（1.5 時間）	藤本陽子
8	女性、子・母・父、仕事と育児に関する法律 ①母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法	予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを読む。(1.5 時間) 復習：本日の授業内容、配布資料（1.5 時間）	齋藤　雅子
9	女性、子・母・父、子育てに関する法律 ②戸籍法、母体保護法、DV 防止法、児童虐待防止法	予習：教科書と母性看護学概論の該当ページを読む。(1.5 時間) 復習：本日の授業内容、配布資料（1.5 時間）	齋藤　雅子
10	女性、子・母・父、子育てに関する法律 ③予防接種法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法	予習：教科書と母性看護学概論・小児看護学概論の該当ページを読む。(1.5 時間) 復習：本日の授業内容、配布資料（1.5 時間）	齋藤　雅子
11	高齢者保健に関する法律 ①老人福祉法　②高齢者医療確保法　③介護保険法	予習：老年看護学概論 P40～48（1.5 時間） 復習：授業内容及び配布資料（1.5 時間）	南部　登志江
12	高齢者保健に関する法律 ①高齢者虐待防止法②成年後見制度など	予習：老年看護学概論 P49～55（1.5 時間） 復習：授業内容及び配布資料（1.5 時間）	南部　登志江
13	精神保健に関する法律 ①障害者基本法・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者自立支援法・障害者総合支援法） ②障害者差別解消法	予習：該当する他領域における既存の学習資料や教科書の該当ページを参照し、本法律の基本理念ならびに概要について学習しておくこと（1.5 時間） 復習：授業内容及び配布資（1.5 時間）	蓮池　光人
14	精神保健に関する法律 ①精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ②心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察法） ③犯罪被害者基本法	予習：精神看護学および精神看護援助論Ⅰにおける既存の学習内容と本教科書の該当ページを学習しておくこと（1.5 時間） 復習：授業内容及び配布資料（1.5 時間）	蓮池　光人
15	精神保健に関する法律 ①自殺対策基本法 ②アルコール健康障害対策基本法	予習：本教科書の該当ページ自己学習しておくこと。また、厚生労働省におけるアルコール対策・自殺対策法について調べ学習をしておくことを奨励する。(1.5 時間) 復習：授業内容及び配布資料（1.5 時間） ＜試験に向け 15 時間の学習をすること＞	蓮池　光人

成績評価方法と基準	割合
筆記試験（DP①）　＜試験に向け 15 時間の学習をすること＞ ＊2/3 以上の出席が出席が必要である。	100%

授業科目名	保健統計学(看護)（Health Statistics）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

保健統計学は、主に健康に関連する数量的比較を基礎として、多くの事実を統計的に観察し、処理する方法を研究する学問である。本講義では統計的方法について必要なデータの収集・分析方法のうち、多変量解析（回帰分析、および因子分析）について学習し、それらが地域における保健活動や健康管理にどのように応用されているかについて理解する。

到達目標

１．データの収集・分析及び統計的解析について理解し，適切に活用することができる〈DP①　〉
２．日常的な保健活動において，統計学の知識やスキルを適切に活用することができる〈DP①　〉
３．統計学的な知識・スキルについて，正しく説明することができる〈DP①　〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．毎回の授業のつながりが非常に重要です．欠席のないように留意すること
２．授業の中で課題を課しますので，もれなく提出すること
３．毎回、自分の手を動かして多くの計算作業をして貰うことになります

教科書

向後千春・冨永敦子，ファーストブック 統計学がわかる―回帰分析・因子分析編―，技術評論社
適宜，資料を配付する．

参考書

福富和夫・橋本修二，改訂５版 保健統計・疫学，南山堂
中村好一，医療系のための やさしい統計学入門，診断と治療社
小島寛之，完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して，１年次に学習した統計学の内容を復習し，記述統計（母集団，標本，代表値，散布度，相関），および推測統計（カイ二乗検定，ｔ検定，分散分析）について，説明できるようにしておく．【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	散布図と相関	テキスト第１章を読む【4】	
3	相関係数	テキスト第２章を読む【4】	
4	相関の検定	テキスト第３章を読む【4】	
5	回帰分析１：回帰とはなにか？	テキスト第４章を読む【4】	
6	回帰分析２：回帰直線を求める	テキスト第４章を読む【4】	
7	偏相関１：偏相関とはなにか？	テキスト第５章を読む【4】	
8	偏相関２：偏相関係数を求める	テキスト第５章を読む【4】	
9	重回帰分析１：偏回帰係数と標準回帰係数	テキスト第６章を読む【4】	
10	重回帰分析２：重回帰モデルと重相関係数	テキスト第６章を読む【4】	
11	因子分析１：相関行列を求める	テキスト第７章を読む【4】	
12	因子分析２：共通因子，固有値	テキスト第８章を読む【4】	
13	因子分析３：因子負荷量，共通性	テキスト第７章を読む【4】	
14	因子分析４：単純構造，因子得点	テキスト第７章を読む【4】	
15	保健統計データへの応用	保健・看護に関連するデータがどのように多変量解析に適応されるかを調べる【4】	

成績評価方法と基準	割合
1．データ分析レポート〈DP①〉 2．平常点（小テスト，授業内課題等）〈DP①〉	1．80% 2．20%

授業科目名	疫学(看護)（Epidemiology）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

看護・保健分野で直面する健康問題は，疾病-病理の関係のみでは解決できない。個人・環境要因を広く捉える疫学は，今後も健康問題の解決に貢献する学問であろう。本講義では，現場の疑問を解決する疫学的手法について，観察的手法から実験的手法までを学ぶ。

到達目標

１．疫学について正しく定義し，説明することができる〈DP①〉
２．疫学的な専門用語を説明することができる〈DP①〉
３．健康問題に関するデータを分析し，解釈することができる〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

座学による講義形式で授業を進めますが、疫学の性質上，簡単な計算の演習を行なうことがあります。自分の手を動かして計算してみることは非常に大切なので、欠席することなく参加してください。

教科書

中村好一，基礎から学ぶ楽しい疫学 第３版，医学書院

参考書

KENNETH J. ROTHMAN 著，矢野栄二・橋本英樹・大脇和浩監訳，ロスマンの疫学 - 科学的思考への誘い，篠原出版新社

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション - 疫学とは	テキスト第１章を読む （単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	疾病頻度の測定-1-曝露と疾病	テキスト第２章，１節，２節を読む【4】	
3	疾病頻度の測定-２-疫学指標	テキスト第２章，２節，３節を読む【4】	
4	既存のデータ-調査統計と業務統計-	テキスト第３章を読む【4】	
5	疫学研究方法-１-記述疫学	テキスト第４章，１節を読む【4】	
6	疫学研究方法-２-コホート研究・症例対照研究	テキスト第４章，２節，３節を読む【4】	
7	疫学研究方法-３-介入研究	テキスト第４章，４節，５節を読む【4】	
8	偏りと交絡-１-バイアスとその制御	テキスト第５章，１節，２節を読む【4】	
9	偏りと交絡-２-交絡因子とその制御	テキスト第５章，３節，４節を読む【4】	
10	因果関係-原因と結果の究明	テキスト第６章を読む【4】	
11	スクリーニング-効果的な二次予防のために	テキスト第７章を読む【4】	
12	サーベイランスと疾病登録	テキスト８章を読む【4】	
13	臨床疫学-疫学の応用	テキスト第９章を読む【4】	
14	疫学と倫理	テキスト第11章を読む【4】	
15	疫学の社会への応用	テキスト第12章を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
1.　定期試験〈DP①〉	1．80%
2.　平常点（小テスト，レポート等）〈DP①〉	2．20%

授業科目名	診療援助論Ⅱ(看護)(Basic Nursing Skills (Medical Care)Ⅱ)				
主担当教員	伊津美 孝子		担当教員	伊津美 孝子、村上 生美、住田 陽子、越智 奈穂美、野田部 恵	
科目ナンバリング	FN206	科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 3 限 金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

健康に障害をきたした人に対する診療および治療を受ける際に必要な侵襲性の高い看護技術を学修することをねらいする。
健康に障害をきたした対象（家族を含む）が、診療および治療を受ける際に、必要な看護者としての基本的な援助技術を学修する。また、人間の基本的欲求を自分で充足することが困難な状態において、治療・看護を通して、生命の維持および欲求の充足につながる援助技術を学修する。
各種の検査や薬物療法など、医療でおこなわれている治療に対する理解と、治療を受ける際に必要な基本的な援助技術および看護の役割について学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 診療及び治療を受ける際に必要な侵襲性の高い看護技術の原理・原則とその EBN が理解できる。(DP①)
2. 対象者の疾病からの回復を助けるために、必要な診療援助について看護の視点から考えることができる。(DP①)
3. 対象者の個別性、ニーズ、状況をふまえた看護援助を考えることができる。(DP①④)
4. 薬物療法における看護師の役割と責任を理解し、安全な援助方法について考えることができる。(DP①④)
5. 安全、安楽、倫理的配慮をふまえた確実な診療援助技術を修得できる。(DP①④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席が前提である。
2. 演習時は身だしなみを整える（演習は原則ユニフォームとする。
3. 演習は常に緊張感を持ち、言葉づかいを含め、医療人を目指す者としてふさわしい態度で臨む。
4. 提出物の期限は厳守する。
5. 演習物品などの準備、後片付け、基礎看護学実習室の整備は学生が自立して行う。
6. 原則、途中退席は認めない。ただし、やむを得ない場合はこの限りではない。

教科書

1. 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院
2. 任和子・秋山智弥編集　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院

参考書

1. ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術　メディカ出版
2. 竹尾恵子監修　看護技術プラクティス　学研
3. 深井喜代子監修　ケア技術のエビデンス　へるす出版
4. 深井喜代子編集　ケア技術のエビデンスⅡ　へるす出版

研究室／オフィスアワー

随時対応

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス 【講義】 診療における苦痛の緩和・安楽確保の援助技術	予習：シラバス確認 診療における苦痛の緩和・安楽確保の援助技術 テキスト P142～148 熟読(1 時間)	伊津美孝子
2	【講義】診療における苦痛の緩和・安楽の援助技術	復習： 講義内容について(1 時間)	伊津美孝子
3	【演習】罨法	予習：演習前課題(1 時間)	全員
4	【演習】罨法	復習：演習の振り返り、課題(1 時間)	全員
5	【講義】消化、吸収、排泄を整える援助技術 浣腸、摘便、ストーマケア	予習：消化、吸収、排泄を整える援助技術 浣腸、摘便、ストーマケア テキスト P80～91 熟読しておく(1 時間)	伊津美孝子
6	【講義】消化、吸収、排泄を整える援助技術 浣腸、摘便、ストーマケア	復習：講義内容について(1 時間)	伊津美孝子
7	【講義】排泄援助技術	予習：排泄援助技術 テキスト p69~77 熟読しておく (1 時間)	伊津美孝子
8	【講義】排泄援助技術	復習：講義内容について(1 時間)	伊津美孝子
9	【演習】浣腸	予習：演習前課題(1 時間)	全員
10	【演習】浣腸	復習：演習の振り返り、課題(1 時間)	全員
11	【演習】一時的導尿	(予習) 教科書熟読	全員
12	【演習】一時的導尿	(復習)講義内容の振り返り	全員
13	【講義】治療援助技術 与薬(基礎知識、看護師の役割)	予習：治療援助技術 与薬(基礎知識、看護師の役割) テキスト p286～289 熟読しておく(1 時間)	小西由紀子
14	【講義】治療援助技術 与薬(基礎知識、看護師の役割)	復習：講義内容について(1 時間)	小西由紀子
15	【講義】治療援助技術 与薬(経口与薬、口腔内与薬)	予習：治療援助技術 与薬(経口与薬、口腔内与薬) テキスト p290~292 熟読しておくこと 経口与薬に関する研究論文 1 編熟読(1 時間)	小西由紀子
16	【講義】治療援助技術 与薬(経口与薬、口腔内与薬)	復習： 講義内容について(1 時間)	小西由紀子
17	【講義】治療援助技術 与薬(吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬)	予習：治療援助技術 与薬(吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬) テキスト p290～299 熟読して おく(1 時間)	小西由紀子
18	【講義】治療援助技術 与薬(吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬)	復習：講義内容について(1 時間)	小西由紀子
19	【講義】治療援助技術 注射(注射の基礎知識)	予習：治療援助技術 注射(注射の基礎知識) テキスト p301～310 熟読しておく(1 時間)	伊津美孝子
20	【講義】治療援助技術 注射(注射の基礎知識)	復習：講義内容について(1 時間)	伊津美孝子
21	【講義】治療援助技術 注射の実施法、輸血管理	予習： 治療援助技術 注射の実施法、輸血管理 テキストp310～339 熟読しておくこと(1 時間)	伊津美孝子
22	【講義】治療援助技術 注射の実施法、輸血管理	(復習)演習の振り返り、演習後課題レポート	伊津美孝子
23	【演習】 経口的与薬	予習：演習前課題(1 時間)	全員
24	【演習】 経口的与薬	復習：演習の振り返り、課題(1 時間)	全員
25	【演習】 ワンショット	予習：演習前課題(1 時間)	全員
26	【演習】 ワンショット	復習：演習の振り返り、課題(1 時間)	全員
27	【演習】 筋肉内注射(中殿筋、三角筋)	予習：演習前課題(1 時間)	全員
28	【演習】 筋肉内注射(中殿筋、三角筋)	復習：演習の振り返り、課題 (1 時間)	全員
29	【講義】救命救急処置基礎技術	予習:救命救急処置基礎技術 テキストp346～370 熟読しておく(1 時間)	野田部恵
30	【講義】救命救急処置基礎技術	復習：講義内容について(1 時間)	野田部恵

成績評価方法と基準	割合
1．筆記試験 60 点以上 2. 実技試験 60 点以上 (1.2)どちらか一方が 60 点未満の場合は単位認定できない。 3. 定期試験受験のためには 4/5 以上の出席が必要である。	1.50% 2.50%

授業科目名	看護過程演習(看護)（Nursing Process Seminar）				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子、村上　生美、住田　陽子、越智　奈穂美、野田部　恵、小西　由起子	
科目ナンバリング	FN207	科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

ここでは看護実践を支える看護過程の展開について、V.Henderson のモデルを用いて Paper　Patient の看護計画を立案、実施、評価する。患者の看護計画を立案することは、医療現場において遭遇しやすい状況(事例)について、専門的知識に基づき、アセスメント(情報収集を行い、患者の健康障害に関連する要因を看護的視点で分析する)、看護診断、計画の立案、実施、評価を事例で展開することを指す。この演習によって、看護学実習時に必要な学修手法を身につけることができる。

到達目標

看護過程の理論を理解したうえで以下のプロセスを修得することができる。(DP①④)
①看護過程とは何かについて理解できる。(DP①)
②paper　Patient　3 事例(脳梗塞、肺炎、大腿骨頸部骨折）の患者のアセスメント（情報を収集、解釈、分析)、関連図を通し
　その患者の全体像を描くことができる。。(DP①④)
③患者の情報をアセスメントすることにより看護診断することができる。。(DP①)
④看護診断に対して長期目標と短期目標を設定することができる。。(DP①)
⑤目標に基づき看護計画を立てることができる。。(DP①)
⑥立案した看護計画を実施し適切かどうか評価できる。。(DP①④)
⑧プレゼンテーションを通して、学びを共有し、理解を深めことができる。。(DP①④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

すでに履修した「看護学概論」「看護理論」の復習は必須である。事例に関する臨床病態学の予習も必須である。
自ら調べ、考えるなど能動的な学修への取り組み姿勢を養うため、事前課題(予習)、事後課題(復習や課題)は必ず行う。
グループワーク、個人ワークを中心に学修を進めていく。

教科書

系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学③　医学書院

参考書

1．秋葉公子，江崎フサ子，玉木ミヨ子，村中陽子共著：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践第４版，
　NOUVELLE　HIROKAWA
2. 岩井郁子他共訳：看護過程ーナーシング・プロセス・アセスメント・計画立案・実施・評価
3. T. ヘザー・ハードマン編集：「NANDA-I　看護診断　定義と分類」日本看護診断学会監訳
4. 渡辺トシ子：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント」NOUVELLE　HIROKAWA
5. 黒田裕子編集：「事例展開でわかる　看護診断をアセスメント」　医歯薬出版
6. 任　和子著　看護過程展開ガイド　照林社

研究室／オフィスアワー

随時対応

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス 【講義】看護過程展開の技術 看護過程とは、人間にとっての基本的欲求	事前課題 ・ヴァージニア・ヘンダーソン著湯槇ます・児玉香津子訳：看護の基本となるもの(Basic　principles　of　nursing care)を熟読し、基本的看護の構成要素 14 項目を自分の言葉で整理し提出する。 ・看護過程とは何かについて調べてくる。。(4 時間)	伊津美孝子
2	【講義】看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的判断、リフレクション	予習：看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的判断、リフレクション について　テキストを熟読(2 時間)	伊津美孝子
3	【講義】看護過程の各段階 アセスメント、看護診断、問題の明確化、計画立案、実施、評価	予習　：看護過程の各段階(アセスメント、看護診断、問題の明確化、計画立案、実施、評価)についてテキストを熟読してくること。(1 時間) 復習：講義内容について(1 時間)	伊津美孝子
4	【講義】看護記録、学習支援 Paper Patient　①　脳梗塞患者事例 紹介 データベース	予習　：看護記録、学習支援についてテキストを　熟読しておくこと。 脳梗塞の病態について調べてくる(1 時間) 復習　：データベースを完成させる(1 時間)	伊津美孝子
5	【演習】Paper　Patient①アセスメント、関連図、全体像	予習：アセスメント、関連図、全体像までを書いてくる。(1 時間) 復習：アセスメントを完成させる(1 時間)	伊津美孝子
6	【演習】Paper　Patient①アセスメント、関連図、全体像、　看護診断、看護計画	予習：　関連図、を完成させる(1 時間) 復習：全体像を完成させる(1 時間)	伊津美孝子
7	【演習】Paper Patient①看護診断、看護計画、実施、評価	復習：看護診断、看護計画を完成させる (1 時間)	全員
8	【演習】Paper Patient①　完成　まとめ Paper Patient 事例②③ 紹介	復習：Paper Patient①すべて完成させて提出 (2 時間)	全員
9	【演習】paper　Patient②肺炎③大腿骨頸部骨折　データベース、アセスメント、関連図	予習：データベースまで完成させてくる(1 時間) 復習:アセスメント、関連図　作成する(2 時間)	全員
10	演習】paper Patient②肺炎、③大腿骨頸部骨折紹介、　アセスメント、関連図、全体像	予習：アセスメントを完成させる(1 時間) 復習：関連図、全体像を完成させる(1 時間)	全員
11	【演習】paper Patient ②肺炎 ③大腿骨頸部骨折　看護診断、看護計画	予習:看護診断とその根拠まで完成させる(1 時間) 復習：看護計画を立案する(1 時間)	全員
12	【演習】paper　Patient②肺炎　③大腿骨頸部骨折 看護計画、実施、評価	予習：看護計画を完成させる(2 時間)	全員
13	発表	復習：事例を完成(1 時間)	全員
14	発表	復習：事例を完成(1 時間)	全員
15	Paper Patient ①②③まとめ	復習：事例を完成させ提出(2 時間)	全員

成績評価方法と基準	割合
1.　演習に関する個人ワーク、グループワークの取り組み姿勢、レポート提出、内容(アセスメント、看護診断、目標、問題点や看護計画（解決策）の妥当性や整理の仕方など評価(ルーブリック)を行う(60 点)。 2. 筆記試験 60 点とする。(1.2 の両方がそれぞれ 60 点以上で単位認定可とする) 3.4/5 以上の出席をもって筆記試験の受験資格とする。	1.50% 2 50%

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ(看護)（Fundamental Nursing Practicum Ⅱ）				
主担当教員	伊津美 孝子		担当教員	伊津美 孝子、村上 生美、住田 陽子、越智 奈穂美、野田部 恵、小西 由起子	
科目ナンバリング	FN209	科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1 年後期に代表的な看護理論やそれを適用するための「看護過程」について学修してきた。基礎看護学実習Ⅱでは、時事刻々と変化している臨床現場において、これまでに学修した看護理論と看護過程を駆使してケアの成立過程やその意義を実際の活動を通して学修する。ケアの成立過程は、アセスメント・看護診断・計画・ケアの実践・評価というプロセスを経る。この実習は、実際に入院中の受け持ち患者を通して学修する。

到達目標

1. 患者や家族とのかかわりの中で、援助的な人間関係形成のために意図的にアプローチができる DP①②③
2. 看護の概念モデル(V. Ｈｅｎｄｅｒｓｏｎ)を適用し患者の情報を意図的に収集できる DP①
3. 情報を解釈・分析して看護の守備範囲の問題(看護診断)と発生要因をアセスメントできる DP①②③
4. 看護診断の解決に向けて目標設定と対策を計画できる DP①③④
5. 立案した計画に沿ってケアができる DP①②③④
6. ケアの結果を通して目標の達成度を評価できる DP①④
7. 実践した看護の全体を説明できる DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

補修実習はできないので、体調を整えて全出席すること。
実習前の全体オリエンテーションおよび施設・グループオリエンテーションには必ず出席すること。
学修の場が医療施設であることをよくわきまえておくこと。
●先修条件（基礎看護学実習Ⅱは以下の科目を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない）
基礎看護学実習Ⅰ
看護理論
生活援助論Ⅰ・Ⅱ
診療援助論Ⅰ・Ⅱ
看護過程演習

教科書

ガイダンスで指示する

参考書

ガイダンスで指示する。

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1. 実習期間 前半: 2021 年 2 月 8 日(月)～2 月 19 日(金) 後半: 2021 年 2 月 22 日(火)～3 月 5 日(金) 2. 実習場所 前半: 大阪鉄道病院 関西メディカル病院 後半: 住友病院 大阪国際がんセンター 大阪府立急性期・総合医療センター 3. 実習方法 病院実習	事前:学習ノートを作成し、実習病院について、実習病棟の特徴的な疾患、病態生理、看護についてまとめる。DP①②③④ 実習レポート作成、自己学習 30 時間 各担当教員の指示に従う	基礎group全員
	前半: 2021 年 2 月 8 日(月)～2 月 19 日(金)7 日間 後半: 2021 年 2 月 22 日(火)～3 月 5 日(金) 7 日間 学内実習 前半: 2 月 12 日(金)、2 月 19 日(金) 後半: 2 月 26 日(金)、3 月 5 日(金)		

成績評価方法と基準	割合
① 日々の行動、カンファレンスの参加状況、実習レポート、看護師からの情報などを総合して 60 点以上を単位認定する DP①②③④ ②原則全出席とする	①100%

授業科目名	成人看護学概論(看護)（Introduction to Adult Nursing）				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、藤本　陽子	
科目ナンバリング	AN301	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

ライフサイクルの中で、特に成人期における看護の特徴を、発達、行動、社会、健康の側面から総合的に学修する。成人看護学の対象となる成人各期の発達段階の特徴や生活習慣に関連する健康問題、疾病罹患などを現在の社会背景をふまえて理解する。そのうえで成人期の患者の看護ケアに必要な理論や看護のアプローチ方法について学修する。
吉村　弥須子／8回
藤本　陽子／7回

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.ライフサイクルにおける成人各期の特徴について説明できる。〈DP①〉
2.成人期における健康問題と疾病罹患について説明できる。〈DP①〉
3.成人期にある対象の看護に必要な理論について説明できる。〈DP①〉
4.成人期にある対象の健康問題に対する看護のアプローチ方法が説明できる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.理論は予習をして授業に臨む。
2.事前に課題レポートを提出する。課題レポートを活用して授業を行う。
3.グループワークやロールプレイには積極的に参加する。

教科書

大西和子他編：成人看護学　成人看護学概論第２版　ヌーヴェルヒロカワ

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

334研究室（吉村　弥須子）／月曜日16:30～18:00実習で不在の場合があるので随時相談可。
332研究室（藤本　陽子）／水曜日14時～18時予約。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	成人看護学の概要 到達目標 ①成人看護学の概要について説明できる。 ②成人看護学の対象となる人を理解する必要性が説明できる。	予習：シラバス・教科書の確認 復習：配布資料・教科書の確認 1時間	吉村　弥須子
2	成人各期の特徴①　青年期 到達目標 ①青年期の身体的、心理・社会的特徴が説明できる。 ②青年期の健康問題が説明できる。	青年期の発達課題について学習し、自分自身の体験と照らし合わせて考える。 1時間	吉村　弥須子
3	成人各期の特徴②　壮年期・向老期 到達目標 ①壮年期・向老期の身体的、心理・社会的特徴が説明できる。 ②壮年期・向老期の健康問題が説明できる。	第2回配布資料を読んでくる。自分の身近な壮年期・向老期の人の体験について話を聞き、壮年期・向老期の発達課題について考える。 1時間	吉村　弥須子
4	成人期の疾病罹患①　がん 到達目標 ①わが国のがんとがん患者の特徴、がん医療が説明できる。	配布資料の復習、わが国のがんの動向について学習してくる 1時間	吉村　弥須子
5	成人期の疾病罹患②　生活習慣病 到達目標 ①生活習慣病と生活習慣病患者の特徴が説明できる。	配布資料の復習、生活習慣病について学習してくる 1時間	吉村　弥須子
6	成人期の看護に活用する理論①　ストレス理論・ストレスコーピング理論 到達目標	予習：教科書の確認、事前にレポートを提出する 2時間 復習：配布資料・教科書の確認　1時間	吉村　弥須子
	①ストレス理論、ストレスコーピング理論について説明できる。		
7	急性期の看護と活用する理論　危機理論 到達目標 ①急性期の患者の特徴と看護が説明できる。 ②危機理論と危機理論の活用方法が説明できる。	予習：教科書の確認、危機理論について学習してくる。 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて1時間	吉村　弥須子
8	回復期の看護と活用する理論　自己効力理論 到達目標 ①回復期の患者の特徴と看護が説明できる。 ②自己効力理論と自己効力理論の活用方法が説明できる。	予習：教科書の確認、事前にレポートを提出する 2時間 復習：配布資料・教科書の確認　1時間	吉村　弥須子
9	慢性期の看護と活用する理論　エンパワーメント 到達目標 慢性期にある患者の教育によく使用されるのはなぜか説明できる。 ②エンパワーメント理論について説明できる。	予習：教科書の確認、エンパワーメン理論の概要について学習しておく　1時間。 復習：配布資料の不足部分について深めていく 1時	藤本　陽子
10	終末期の看護と活用する理論　死の受容過程 到達目標 ①死の受容過程を習得し、終末期にある患者の全人的苦痛の説明できる。 ②死の文化について説明できる	予習：教科書の確認、ターミナル期の援助を必要としている対象について学習しておく 地域の死に関する習慣や文化について周りの人に聞く　1時間 復習：配布資料の内容について教科書で確認する　1時間	藤本　陽子
11	がん患者の看護　治療と看護・緩和ケア 到達目標 ①緩和ケア医療の変遷を通して、家族支援や緩和ケア病棟の説明ができる。	予習：ターミナル期にある患者の心理を理解するために教科書の確認と手記等を読んでおく 教科書（代替・相補療法）の確認	藤本　陽子
12	成人期の看護に活用する理論②　病みの軌跡 到達目標 ①慢性期患者の自己管理の難しさを説明できる。 ②慢性期患者の再入院を病みの軌跡を使い説明できる。。	予習：教科書の確認、病みの軌跡について学習しておく。 復習：配布資料・教科書の確認 自分自身の体験をもとに理論を使い課題としてレポート作成。	藤本　陽子
13	成人期の看護に活用する理論③　変容ステージモデル 到達目標 ①変化ステージモデルを使い、各期におけるアプローチ方法が説明できる。	予習：参考書を活用し変化理論について調べておく。 復習：配布資料・教科書の確認	藤本　陽子
14	リハビリテーション看護 到達目標 ①急性期から回復期、社会復帰に至るまでの過程を学修し、さらに退院支援を含んだ援助の必要性が説明できる。 ②リハビリテーションを必要としている疾患や看護の方法等の説明ができる。	予習：リハビリテーションを必要とする対象の理解について教科書の確認　1時間 復習：資料を基に不足する内容につき学習を深めておく　1時間	藤本　陽子
15	継続看護と社会資源の活用 到達目標 ①なぜ継続看護が必要とされるか説明ができる。 ②患者や家族が退院に不安を持つか説明ができ、その看護を説明ができる。	予習：チーム医療について学んでおく。在宅ケアを充実させる社会資源について学んでおく。 教科書の確認 1時間 復習：配布資料の確認　1時間	藤本　陽子

成績評価方法と基準	割合
①課題レポート〈DP①〉 ②筆記試験〈DP①〉	①20% ②80%

授業科目名	成人看護援助論Ⅰ(看護)（Adult Nursing Ⅰ）				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、藤本　陽子、 久木元　由紀子、澤田　悦子、 宮本　佳子、高木　みどり、小林　妙子	
科目ナンバリング	AN302	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

周手術期から回復期にある患者およびその家族の看護について学修する。手術を受ける患者の特徴と麻酔・手術侵襲によって生じる生体反応や術後合併症を理解し、手術前から手術後の合併症予防、苦痛の緩和、ADL 拡大、機能回復、退院後の社会復帰を視野に入れた看護について学修する。周手術期ならびに急性期を経過し、回復過程にある成人期の患者がスムーズに社会復帰できるような看護支援について理解し、回復期の患者および家族に必要な看護を学修する。

到達目標

1. 周手術期から回復期にある患者およびその家族の特徴が説明できる。〈DP①〉
2. 麻酔・手術侵襲によって生じる生体反応が説明できる。〈DP①〉
3. 術後合併症予防のための看護が説明できる。〈DP①④〉
4. 疾患の病態生理と手術の特徴をふまえた手術前～手術後の看護が説明できる。〈DP①④〉
5. 術後回復過程にある患者および家族が望む社会復帰に必要な看護が説明できる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 形態機能学、臨床病態学、成人看護学概論の復習をして授業に臨む。
2. 事前課題を行って授業に臨む。

教科書

・経過別成人看護学②　周術期看護　メヂカルフレンド社
・鎌倉やよい他：周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院
・中西純子他編：成人看護学 リハビリテーション看護論 ヌーヴェルヒロカワ

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

334 研究室（吉村）／月曜日 16:00～18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。
332 研究室（藤本）／
239 研究室（久木元）／実習で不在の場合があるので随時相談可。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	周手術期看護の概要、手術前の看護 到達目標 ①周手術期にある患者の特徴と周手術期看護が説明できる。 ②術前看護の目的と術前看護が説明できる。	予習：シラバス・教科書の確認 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	吉村　弥須子
2	手術中の看護 手術看護認定看護師 到達目標 ①手術室看護師の役割と手術中の看護が説明できる。	予習：教科書の確認 課題：学んだことをレポートにまとめて提出する 課題 2 時間	吉村　弥須子 ゲストスピーカー
3	手術侵襲と術後合併症、手術後の看護 1 到達目標： ①手術侵襲・全身麻酔に伴う生体反応と回復過程、発生しやすい合併症についてアセスメントでき、合併症を防ぎ回復を促す看護について説明できる。	予習：教科書の確認、第 1・2 回の配布資料の確認、臨床病態学Ⅲの外科総論（主に麻酔）についての学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	久木元由紀子
4	消化器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①消化器疾患患者の術後合併症と予防のための看護が説明できる。 ②胃がん患者の術前・術後の看護が説明できる。	予習：教科書の確認、消化器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、胃がんの病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	吉村　弥須子
	③胃切除術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。		
5	ストーマ造設患者の周手術期の看護 到達目標 ①大腸がん患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②ストーマ造設術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③ストーマ造設術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。	予習：大腸の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、大腸がんの病態について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	吉村　弥須子
6	ストーマケアとその管理方法 皮膚・排泄ケア認定看護師 到達目標 ①ストーマ造設患者の心理を理解するとともにストーマケアの説明ができる。 ②ストーマの管理とトラブルが生じた場合の対処方法を説明できる。	予習：第 5 回授業の復習 復習：配布資料の確認 課題：学んだことをレポートにまとめて提出する 課題 2 時間	藤本　陽子 ゲストスピーカー
7	手術侵襲と術後合併症、手術後の看護 2 到達目標： ①手術侵襲・全身麻酔に伴う生体反応と回復過程、発生しやすい合併症についてアセスメントでき、合併症を防ぎ回復を促す看護について説明できる。	予習：第３回授業の復習、術後合併症について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	久木元　由紀子
8	腹腔鏡下手術の看護 到達目標 ①腹腔鏡下手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ②腹腔鏡下術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。	予習：腹腔鏡下手術に起こりやすい合併症について学習 復習：配布資料の確認 予習・復習合わせて 1 時間	高木みどり
9	運動器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①運動器疾患患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②運動器疾患手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③運動器疾患術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。	予習：教科書の確認、骨格筋の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、変形性股関節症の病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	宮本　佳子
10	内分泌疾患患者の周手術期の看護 ①内分泌疾患患者の特徴を説明できる。	予習：内分泌疾患の病態について復習する 復習：配布資料の確認 予習・復習合わせて 1 時間	澤田　悦子
11	リンパマッサージ（リンパ浮腫と看護） 緩和ケア認定看護 到達目標 ①リンパ浮腫の起こる疾患と解剖生理が説明できる。 ②リンパ浮腫のある患者の心理を理解し説明できる。	予習：教科書の確認、臨床病態学Ⅲ、乳がんの病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認	藤本　陽子 ゲストスピーカー
12	呼吸器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①肺切除術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ②胸腔ドレーンの管理が説明できる。	予習：教科書の確認、呼吸器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、肺がんの病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	高木みどり
13	周手術期の看護とチーム医療 周術期リハビリテーション ①周手術期におけるチーム医療の内容について説明できる。	予習：今までの授業の復習、教科書の該当する部分を読んでおく。 課題：配布資料の確認	金尾　顕郎
14	性・生殖器疾患患者の周手術期の看護 到達目標 ①性・生殖器疾患患者の周手術期の看護に必要な知識が説明できる。 ②性・生殖器疾患手術を受ける患者の術前・術後の看護が説明できる。 ③性・生殖器疾患術後の術後合併症と予防のための看護が説明できる。	予習：教科書の確認、性・生殖器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、前立腺疾患の病態生理について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習合わせて 1 時間	久木元　由紀子
15	排尿障害のある患者の看護（排尿機能障害と看護） 到達目標 ①排泄のメカニズムを理解できる	予習：教科書の確認、排泄の機能的解剖を学習 復習：配布資料の確認 予習・復習合わせて 1 時間	

	②排泄機能障害のアセスメントの視点を理解できる ③排泄機能障害に対する看護援助を理解できる		
成績評価方法と基準			割合
①課題レポート〈DP①②〉 ②筆記試験〈DP①〉 ・4/5 回以上の出席が必要			①20% ②80%

授業科目名	成人看護援助論Ⅱ(看護)(Adult Nursing Ⅱ)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、藤本　陽子、 久木元　由紀子、澤田　悦子、 宮本　佳子、髙木　みどり、小林　妙子	
科目ナンバリング	AN303	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

成人期の患者の看護実践に必要な看護過程の展開を、ゴードンの機能的健康パターンに基づき学修する。周手術期および回復期にある患者の事例を用いて、看護に必要な基礎的知識と成人期の特徴をふまえた科学的根拠に基づくアセスメントの仕方について学ぶ。アセスメントから看護診断を導き関連図を作成する。看護実践につなげるための看護計画を立案する。
吉村　弥須子／8 回
藤本　陽子／7 回

到達目標

1. 周手術期から回復期にある事例患者の看護過程の展開が実践できる。〈DP①④〉
2. 周手術期から回復期にある患者に必要なアセスメント析・統合）の視点が説明できる。〈DP①④〉
3. 事例患者の情報を整理し、アセスメント（分析・統合）し、関連図を描きながら、看護診断(看護上の問題)を見出すことができる。〈DP①④〉
4. 事例患者の問題解決に向けた実現可能な目標を設定し、看護計画を立案することができる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 看護過程の展開は、個人ワークとグループワークを実施する。
2. 個人ワークを提出しなければグループワークには参加できない。
3. グループワークには積極的に参加する。
4. 事例では、胃がんの病態生理と胃全摘出術を事前に学習し、授業に臨む。

教科書

・経過別成人看護学②　周術期看護　メヂカルフレンド社
・鎌倉やよい他：周術期の臨床判断を磨く手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院
・大西和子他編：成人看護学 成人看護学概論版 ヌーヴェルヒロカワ

参考書

・渡邊トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント 第3 版 ヌーヴェルヒロカワ

研究室／オフィスアワー

334 研究室（吉村）／月曜日 16:00～18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。
332 研究室（藤本）／水曜日 15：00～18：00 随時相談伽。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程とは 到達目標 ①ゴードンの機能的健康パターンが説明できる。 ②ゴードンの機能的健康パターンにおける看護過程のアセスメントの仕方が説明できる。 ③周手術期患者のアセスメントの視点が説明できる。	看護過程の展開について復習してくる 胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する 1 時間	吉村　弥須子
2	ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程とは 到達目標 ①ゴードンの機能的健康パターンが説明できる。 ②ゴードンの機能的健康パターンにおける看護過程のアセスメントの仕方が説明できる。 ③周手術期患者のアセスメントの視点が説明できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 事前に資料を準備し持参する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、髙木みどり、宮本佳子
3	看護過程の展開 個人ワーク（1） 情報の整理・解釈・統合（アセスメント）	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する	吉村　弥須子、久木元

	到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合（アセスメント）が実践できる。	資料を持参する 情報の整理・アセスメントを行う 1 時間	由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
4	看護過程の展開 個人ワーク（2） 情報の整理・解釈・統合（アセスメント） 到達目標 ①事例患者の情報の整理と解釈・統合（アセスメント）が実践できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 資料を持参する 情報の整理・アセスメントを行う 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
5	看護過程の展開 個人ワーク（3） アセスメント・関連図提出 到達目標 ①事例患者のアセスメントと関連図作成が実践できる。	資料を持参する アセスメントと関連図を仕上げて指定期日までに提出する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
6	看護過程の展開 振り返り 到達目標 ①個人ワークを振り返り、事例患者のアセスメントの視点と関連図の描き方が説明できる。 ②個人ワークを振り返り、自身のアセスメントと関連図の課題が説明できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 個人ワークを持参する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
7	看護過程の展開 振り返り 到達目標 ①個人ワークを振り返り、事例患者のアセスメントの視点と関連図の描き方が説明できる。 ②個人ワークを振り返り、自身のアセスメントと関連図の課題が説明できる。	胃がんのため胃全摘術を受ける患者の周手術期の看護について復習する 個人ワークを持参する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
8	看護過程の展開個人ワーク（1） アセスメント・関連図の修正 到達目標 ①提出した個人ワークを振り返り、アセスメントの修正ができる。 ②提出した関連図を振り返り、関連図の修正ができる。	個人ワークを振り返りアセスメントを修正する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
9	看護過程の展開個人ワーク（2） アセスメント・関連図の修正 到達目標 ①提出した個人ワークを振り返り、アセスメントの修正ができる。 ②提出した関連図を振り返り、関連図の修正ができる。	個人ワークを振り返りアセスメントと関連図を修正する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
10	看護過程の展開グループワーク（1） 関連図・看護計画立案 到達目標 ①事例患者の看護診断（看護上の問題）の優先順位が決定できる。 ②優先順位の最も高い看護診断の看護計画が立案できる。	グループ毎に関連図と看護計画を作成する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
11	看護過程の展開グループワーク（2） 関連図・看護計画立案提出 到達目標 ①事例患者の看護診断（看護上の問題）の優先順位が決定できる。 ②優先順位の最も高い看護診断の看護計画が立案できる。	関連図と看護計画を仕上げて指定期日までに提出する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
12	看護過程の展開 発表会・振り返り 到達目標 ①グループワークで作成した関連図と看護計画について根拠をふまえた発表ができる。 ②発表内容についてグループディスカッションを行い、質問や意見を述べることができる。	グループワークで作成した関連図と看護計画を発表する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
13	看護過程の展開 発表会・振り返り 到達目標 ①グループワークで作成した関連図と看護計画について根拠をふまえた発表ができる。 ②発表内容についてグループディスカッションを行い、質問や意見を述べることができる。	グループワークで作成した関連図と看護計画を発表する 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
14	看護過程の展開 振り返り・看護計画の修正・提出 到達目標 ①グループワークで作成した看護計画について修正ができる。 ②グループディスカッションを行い、意見を述べることができる。	関連図と看護計画を修正して指定期日までに提出する 1 時間	藤本　陽子、澤田　悦子
15	看護過程の展開 全体のまとめ	全体のまとめで自身の意見を述べる。 1 時間	吉村　弥須子、久木元由紀子、藤本陽子、澤田悦子、高木みどり、宮本佳子
成績評価方法と基準			割合
・個人ワークおよびグループワーク課題 100% ・4/5 回以上の出席が必要			100%

授業科目名	成人看護援助論Ⅲ(看護)（Adult Nursing Ⅲ）				
主担当教員	久木元　由紀子		担当教員	久木元　由紀子、藤本　陽子、吉村　弥須子、澤田　悦子、宮本　佳子、髙木　みどり、小林　妙子	
科目ナンバリング	AN304	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

急性期にある対象は突然の発症、健康状態の急激な変化、手術、事故等によって生命の危機的状況にあり、看護においては対象を的確に把握しアセスメントするための基礎的知識、アセスメントに基づく計画的な実践が求められる。本科目ではこのような急性期にある対象およびその家族に必要な看護について学修する。

到達目標

1.急性期にある対象および家族の特性について説明できる。DP①
2.急性期にある対象および家族に必要な看護について説明できる。DP①
3.急性期にある対象に必要な看護技術についてロールプレイ・モデルを活用し実施できる。DP①④
4.心肺蘇生法についてモデルを活用し実施できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.形態機能学、臨床病態学、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱを復習し、授業に臨む。
2.看護技術の演習の前には必ず事前学習を行い演習に臨む。
3.演習には積極的に参加する。
4.心肺蘇生法は必ず習得する。

教科書

・明石恵子他編：経過別成人看護学２　急性期看護：クリティカルケア　メヂカルフレンド社

参考書

・鎌倉やよい他：周術期の臨床判断を磨く　手術侵襲と生体反応から導く看護　医学書院
・野崎真奈美他編：成人看護学　成人看護技術　改訂第２版　南江堂
・明石恵子他編：経過別成人看護学２　周手術期看護　メヂカルフレンド社

研究室／オフィスアワー

久木元：研究室西棟 239、授業の無い時は随時質問・相談可。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	急性期の看護１ 到達目標： ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。	予習：教科書の第１章を読んでおく(1時間)。	久木元
2	急性循環機能障害と看護 到達目標： ①急性循環機能障害のある対象および家族の特性、看護について説明できる。	予習：教科書の確認、臨床病態学Ⅲ、心臓の解剖生理、心筋梗塞の病態生理、心電図、モニタリングに用いるME機器について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習１時間	吉村
3	急性呼吸機能障害と看護 到達目標： ①急性呼吸機能障害のある対象および家族への看護について説明できる。	予習：教科書の確認、呼吸器の解剖生理、臨床病態学Ⅲ、酸素吸入、人工呼吸器・気管内吸引について学習 復習：配布資料・教科書の確認 予習・復習１時間	宮本
4	急性期にある患者の看護を事例を通して考える 到達目標： ①急性期にある対象および家族の特性・看護について説明できる。	予習：配布された事例について事前準備をする（1時間）。	久木元
5	脳血管障害患者の看護 到達目標： ①脳血管障害のある対象および家族の特性・看護について説明できる。	予習：脳血管疾患の病態生理について復習 課題：学んだことをレポートにまとめて提出する (予習・課題　1時間)	摂取・嚥下障害看護認定看護師
6	心肺停止患者の看護　心肺蘇生法 到達目標：	予習：教科書の p219～229 を読んでおく(1時間)。	澤田
	①心肺停止状態にある対象の特性・一次救命処置・二次救命処置について説明できる。		
7	急性期の患者に必要な看護技術 到達目標： ①急性期にある対象の身体的状態が説明でき，フィジカルアセスメントが実施できる（ペーパーペイシェント・モデルの活用による）。 ②急性期の例として、周手術期にある対象への看護実践について説明できる。 ③BLS(Basic Life Support)アルゴリズムに基づく心肺蘇生法（AEDの活用を含む）について説明できる。	予習：演習項目に関する資料の収集・学習 課題：配布資料をもとに資料の収集、第６回授業の復習(予習・課題　1時間)	全員
8	急性期の患者に必要な看護技術　演習（1） 到達目標： ①術前アセスメントに基づく術後合併症予防対策として術前呼吸訓練・DVT予防が実施できる（ペーパーペイシェントロールプレイによる）。	予習：演習項目に関する資料の収集・事前学習 課題：実施した技術についてレポート・事前学習を修正し提出する(1時間)	全員
9	急性期の患者に必要な看護技術　演習（2） 到達目標： ①術後１日目にある対象の身体的状態が説明できる（ペーパーペイシェント・モデルの活用による）。	予習：演習項目に関する資料の収集・事前学習 課題：実施した技術についてレポート・事前学習を修正し提出する(1時間)	全員
10	急性期の患者に必要な看護技術　演習（3） 到達目標： ①術後１日目にある対象の早期離床を目指す援助が実施できる（ペーパーペイシェント・モデルの活用による）。	予習：演習項目に関する資料の収集・事前学習 課題：実施した技術についてレポート・事前学習を修正し提出する(1時間)	全員
11	急性期の患者に必要な看護技術　演習（4） 到達目標： ①急性期にある対象のフィジカルアセスメントが実施できる（モデルの活用による）。	予習：演習項目に関する資料の収集・事前学習 課題：実施した技術についてレポート・事前学習を修正し提出する(1時間)	全員
12	急性期の患者に必要な看護技術　演習（5） 到達目標： ①BLS(Basic Life Support)アルゴリズムに基づく心肺蘇生法（AEDの活用を含む）が実施できる（モデルの活用による）。	予習：演習項目に関する資料の収集・事前学習 課題：実施した技術についてレポート・事前学習を修正し提出する(1時間)	全員
13	集中治療を受ける患者の看護 到達目標： ①集中治療の受ける対象および家族の特性・看護について説明できる。	予習：教科書の第３章を読んでおく 課題：学んだことをレポートにまとめて提出する (予習・課題　1時間)	急性・重症患者看護専門看護師
14	急性期の患者に必要な看護技術 到達目標： ①急性期にある対象へ行った看護実践の結果の記述・評価の必要性について説明できる（演習全体のフィードバック・グループワークによる）。	予習：第1～13回授業の復習(1時間)	全員
15	救急医療を受ける患者の看護 到達目標： ①救急医療を受ける対象および家族の特性・看護について説明できる。	課題：学んだことをレポートにまとめて提出する (課題　1時間)	救急看護認定看護師

成績評価方法と基準	割合
1. 演習課題・レポート：ルーブリック評価を用います。評価方法は授業中に説明します。〈DP①④〉 2. 定期試験（筆記試験）による評価〈DP①④〉 3. 4/5回以上の出席が必要です。	1. 40% 2. 60%

授業科目名	成人看護援助論Ⅳ(看護)（Adult Nursing Ⅳ）				
主担当教員	藤本　陽子		担当教員	藤本　陽子、吉村　弥須子、久木元　由紀子、澤田　悦子、宮本　佳子、高木　みどり、小林　妙子	
科目ナンバリング	AN305	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

慢性期、終末期にある患者及びその家族の看護について学修する。慢性的な経過をたどる状態にある対象の身体的、精神的、社会的側面において家族を含めた特徴を理解し、対象を取り巻く社会環境や家族看護の視点を含め QOL を向上できるような看護について学修する。また、看護過程を通し生活習慣病や慢性疾患の予防、健康回復への関わりとしての教育的支援について学修し、成人期慢性疾患患者の特性を多面的に理解する。

到達目標

1．慢性期にある人の心理や社会的特徴を知り、病気を持ちながら生活する人の困難さを説明できる。〈DP①④〉
2．慢性期にある患者の看護援助を理論を通して説明できる。〈DP①④〉
3．特徴的な慢性期疾患の事例（ペーパーペイシェント）を通し看護援助の指導案が作成できる。〈DP①④〉
4．がん性疼痛の対処方法を習得し、患者の全人的苦痛について説明できる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．形態機能学、臨床病態学、成人看護学概論の復習をして授業に臨む。
2．病気とともに楽しく生きる方法についてセルフケアの方法を学ぶ。
3．グループワークに積極的に参加する。
4．事前課題や事後課題にレポート提出を予定する。レポート提出にはその都度授業の中で連絡する。

教科書

編集　黒江ゆり子　慢性期看護　メジカルフレンド社
編集　田村恵子　　終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア　メジカルフレンド社

参考書

編集　宮脇郁子　　旗持智恵子　成人看護技術　慢性看護
編集　栗生田友子　石川ふみよ　成人看護技術　リハビリテーション看護
編集　神田清子　　蓋渡玉江　　成人看護技術　がん・ターミナル

研究室／オフィスアワー

西棟　研究室　３３２　藤本陽子　　水曜日午後　予約をすること
西棟　研究室　１３２　澤田悦子　　水曜日　４限、５限　予約をすること
西棟　研究室　６３４　高木みどり　　水曜日　４限、５限　予約をすること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス　慢性期看護の概要 到達目標 ①慢性期看護の考え方や、慢性期にある人の特徴について説明できる。 ②慢性期疾患患者や家族に健康行動理論を応用できる。	予習：成人看護学概論の理論を調べておく：1 時間 復習：慢性期の患者の特徴について学習する：1 時間	藤本陽子
2	慢性期循環機能障害と看護 到達目標：慢性心不全患者の看護を説明できる	予習：事前課題の学習をする 復習：本日の学習を振り返る 予習復習 2 時間以上	澤田　悦子
3	慢性の造血機能障害と看護 到達目標：悪性リンパ腫、白血病患者看護を説明できる。 クリンルームやがん化学療法等を受ける患者の感染管理を説明できる。	予習：事前課題を学習をする：1 時間 復習：本日の学習を振り返る：1 時間	澤田悦子
4	疼痛緩和 到達目標 ①がん性疼痛の痛みの起こる原因や痛みの特徴を説明できる。 ②がん性疼痛における薬物療法とオピオイドの副作用が説明できる。	予習：トータルペインについて学習する：1 時間 事後課題：レポート提出 本日の資料と文献を読みレポート作成　：要する時間	藤本陽子 ゲストスピーカー
5	神経機能障害と看護 到達目標：ALS 患者の看護につて説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：　本日の学習を深める:1 時間	高木　みどり
6	慢性腎機能障害と看護 到達目標：腎不全患者の看護が説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：本日の学習を深める：1 時間	澤田悦子
7	慢性代謝機能障害と看護・チーム医療 到達目標：糖尿病患者におけるチーム医療と看護の役割を説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：本日の資料と文献をもとにレポート作成れほーと作成に要する時間	藤本陽子 ゲストスピーカー
8	●インスリン注射　SMBG　　演習① 到達目標：インスリン製剤の薬理作用、インスリン自己注射、自己血糖測定について理解する。また患者の精神的苦痛について説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：本日の学習を振り返る：1 時間	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり 吉村弥須子 久木元由紀子 宮本佳子
9	糖尿病患者の事例を用いる グループワーク演習② 到達目標：血糖パターンマネジメントの必要性を理解できる	予習・復習 事前課題の学習とグループワークの準備に要する時間	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
10	高次脳機能障害の看護 津辰目標：高次脳機能障害看護について説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：高次脳機能障害について理解を深める：1 時間	高木みどり
11	高次脳機能障害患者のリハビリ 到達目標：高次脳機能障害患者に必要なリハビリが説明ができる	予習:事前課題の学習をする：1 時間 復習：本日の学習を振り返る：1 時間	藤本陽子
12	慢性栄養消化器機能障害と看護 到達目標：肝硬変、肝がん患者の看護が説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：本日の学習を振りかえる：1 時間	高木みどり
13	慢性運動機能障害と看護 到達目標：脊髄損傷患者の看護が説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：本日の学習を振り返る：1 時間	高木みどり
14	内分泌代謝障害をもつ患者の看護 到達目標：甲状腺機能亢進症・甲状腺ガン患者の看護が説明できる	予習：事前課題の学習をする：1 時間 復習：本日のの学習を振り返る：1 時間	高木みどり
15	フィードバック	予習：14 回の学習内容を振り返る：2 時間 復習：本日の学習を振り返る：1 時間	藤本　陽子

成績評価方法と基準	割合
①レポート　　20%〈DP①④〉 ②筆記試験　80%〈DP①④〉 ・4/5 回以上の出席が必要	①20% ②80%

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ(急性)(看護)(Adult Nursing Practicum Ⅰ 【Acute】)				
主担当教員	久木元 由紀子		担当教員	久木元 由紀子、吉村 弥須子、 宮本 佳子、小林 妙子	
科目ナンバリング	AN306	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	3	必修・選択	必修

授業概要

周手術期にある患者およびその家族の手術前・手術中・手術後の看護を実践する。手術を受ける患者の特徴を発達段階、病態生理をふまえてとらえ、病態生理的、状況的、治療的関連因子から予測される問題をアセスメントし、必要な看護を見出す。麻酔・手術侵襲によって生じる生体反応や心理的反応を理解し、手術前から手術後の合併症予防、回復促進、退院後の QOL も視野に入れた看護を実践する。

到達目標

1.手術を受ける患者の特徴を発達段階、病態生理をふまえて理解することができる。DP①④
2.手術を受ける患者および家族の術前の看護を実施することができる。DP①②③
3.手術中の看護を理解することができる。DP①
4.麻酔・手術侵襲に伴って生じる生体反応を理解することができる。DP①
5.術後の合併症予防、苦痛の緩和、ADL 拡大の看護を実施することができる。DP①②③④
6.患者および家族の心理状態に応じた看護を実施することができる。DP①②③④
7.患者および家族の社会的役割・機能に基づく退院支援について考えることができる。DP①③
8.周手術期にある患者の看護過程の展開を実施することができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.3 年次前期までの履修科目の復習をして実習に臨む。
2.受持ち患者の発達段階、疾患に関する解剖生理学、病態生理学、治療、術式、術後合併症、看護など十分に学習する。
3.看護技術の復習、練習を行って実習に臨む。

教科書

・成人看護学概論、成人看護援助論、臨床病態学の授業で使用したテキスト、講義資料
・鎌倉やよい他：周手術期の臨床判断を磨く　手術侵襲と生体反応から導く看護　医学書院

参考書

・渡邊トシ子編集「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第 3 版」ヌーヴェルヒロカワ

研究室／オフィスアワー

久木元　239 研究室：実習で不在の場合があるので随時相談可。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1.実習期間 3 週間 2.実習場所 大阪急性期・総合医療センター、大手前病院、大阪鉄道病院、日本生命病院 3.実習方法 1) 病棟実習：手術を受ける患者を 1 名受持ち、看護過程を展開する。 2) 見学実習：病院実習初日に、手術室、ICU 見学実習を行う。受け持ち患者が手術を受ける際、患者とともに手術室に入室し、手術および手術看護の実際を見学する。 3) 学内実習：受け持ち患者の看護過程に関する学習、看護技術練習、実習記録、実習の振り返り、カンファレンスなどを行う。 4) カンファレンス：実習中に適宜カンファレンスを実施する。 5) 詳細は成人看護学実習Ⅰ要項を参照。	1.事前学習課題 実習開始までに下記の課題を行いファイルにまとめる。 1) 発達段階：成人期・老年期の特徴 2) 周手術期看護：術前、術中、術後の看護、術後合併症とその予防 3) 疾患と看護：実習に行く病棟の代表的な疾患に関する解剖、生理、病態、疫学、症状、診断（検査）、治療、看護 4) 看護技術：術前訓練、酸素吸入療法、深部静脈血栓症予防、フィジカルアセスメント、ドレーン管理、術後患者の全身清拭・寝衣交換など 2.「成人看護学実習Ⅰの抱負」を実習初日に提出する。 3.実習記録 1) 行動計画表を毎日記載し、担当看護師に発表する。 2) 行動計画表に基づき実施したことを、実施した看護とその結果に記載する。 3) カンファレンスまでに、情報の整理とアセスメント、関連図、看護計画立案を行う。 4) 看護計画に基づき実施したことを、実施・評価に記載する。 5) 見学実習記録を記載する。	
		6) 実習記録は、実習最終日の 16:00 までに提出する。 4.中間合同カンファレンス 1) 関連図と看護計画を提示し説明する。 2) カンファレンスの司会・進行、時間調整、場所の確認は学生が行い、主体的に取り組む。 5.日々の予習復習 1) 事前学習の復習 2) 日々の看護に必要な学習 3) 臨地実習指導者や教員から指導や助言のあった学習 6.「成人看護学実習Ⅰの学び」を実習最終日の 16:00 までに提出する。	

成績評価方法と基準	割合
実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。DP①②③④	100%

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ(慢性)(看護)(Adult Nursing Practicum Ⅱ【Chronic】)				
主担当教員	藤本　陽子		担当教員	藤本　陽子、澤田　悦子、高木　みどり	
科目ナンバリング	AN307	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	3	必修・選択	必修

授業概要

慢性期にある対象者がその人らしく生活ができるように、支援するための必要な基礎的な知識・技術・態度を習得する。また、対象者の家族の心理的・社会的な問題を理解し、家族への支援方法やサポートシステムについて学ぶ。

到達目標

① 慢性期にある対象者の身体的・精神的・社会的問題を理解することができる。DP①②③④
② 慢性期にある対象者が日常生活を送るうえでの問題点を明らかにすることができる。DP①②③④
③ 慢性期にある対象者に対して、健康レベルに応じた看護計画を立案し、実施できる。DP①②③④
④ 慢性期にある対象者と家族を支える多職種の役割を理解し、責任ある行動ができる。DP①②③④
⑤ 看護実践を通して自己洞察を深めることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.3 年次前期までの履修科目の復習をして実習に臨む。
2.受持ち患者の発達段階、疾患に関する解剖生理学、病態生理学、治療、検査、看護など十分に学習する。
3.看護技術の復習、練習を行って実習に臨む。

教科書

成人看護学、臨床病態学の授業で使用したテキスト、講義資料

参考書

・渡邊トシ子編集「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第 3 版」ヌーヴェルヒロカワ
松本千明著「健康行動理論の基礎」生活習慣病を中心に　　医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

W棟　研究室　135　澤田悦子　　実習期間中の帰校日
W棟　研究室　３３２　藤本陽子　　実習期間中の帰校日
w棟　研究室　６３６　高木みどり　実習期間中の帰校日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1.実習期間 3 週間 2.実習場所 大阪急性期・総合医療センター、鉄道病院 3.実習方法 1) 病棟実習：慢性疾患の患者を 1 名受持ち、看護過程を展開する。 2) 見学実習：受け持ち患者と家族に対して指導案を作成し指導を実施する。実習期間に検査、処置等がある場合、その介助や看護の実際を見学する。 3) 学内実習：受け持ち患者の看護過程に関する学習、看護技術練習、実習記録、実習の振り返り、カンファレンスなどを行う。 4) カンファレンス：実習中に適宜カンファレンスを実施する。中間合同カンファレンスには資料を作成する。 5) 詳細は成人看護学実習Ⅱ要項を参照	1.事前学習課題 実習開始までに下記の課題を行いファイルにまとめる。 1) 慢性期患者の特徴と健康行動理論について 2) 疾患と看護：実習に行く病棟の代表的な疾患に関する解剖、生理、病態、疫学、症状、診断（検査）、治療、看護 3) 看護技術：フィジカルアセスメント、日常生活が自立できていない患者の全身清拭・寝衣交換など 2.患者教育：糖尿病、腎疾患、呼吸器疾患、循環疾患等に対して、自己管理能力を高める援助。家族支援や家族指導。 3.「成人看護学実習Ⅰの抱負」を実習初日に提出する。 4.実習記録 1) 行動計画表を毎日記載し、担当看護師に発表する。 2) 中間カンファレンスまでに、情報の整理とアセスメント、関連図、看護計画立案を行う。 3) 看護計画に基づき実施したことを、実施・評価に記載する。 4) 見学実習記録を記載する。 5) 実習記録は、実習最終日の 16:00 までに提出する。	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
		5.中間カンファレンス 1) 関連図と看護計画を資料として作成する。 2) カンファレンスの司会・進行、時間調整、場所の確認は学生が行い、主体的に取り組む。 6.日々の予習復習 1) 事前学習の復習 2) 日々の看護に必要な学習 3) 臨地実習指導者や教員から指導や助言のあった学習 7.「成人看護学実習Ⅱの学び」を実習最終日の 16:00 までに提出する。	

成績評価方法と基準	割合
実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。DP①②③④	100%

授業科目名	老年看護学概論(看護)（Introduction to Gerontological Nursing）				
主担当教員	南部　登志江		担当教員	南部　登志江、外村　昌子	
科目ナンバリング	GN308	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

老年期を生きる人々を多角的にとらえ、発達課題について学ぶ。老年期の特徴や加齢に伴う心身の諸機能の変化と生活への影響を理解し、高齢者ケアにおける看護の役割とその活動を概観する。特に高齢者の健康障害や生活の質を尊重した看護、ライフスタイルを考慮した生活支援、高齢者の QOL や権利擁護などのケアの基本的な視点や考え方を学修する。また、高齢社会における保健医療福祉サービスの現状や家族支援等を学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 老年期を生きるとは何かについて説明できる。DP①
2. 高齢者の心身の変化とその生活に与える影響について理解できる。DP①
3. 老年期を生きる高齢者の発達課題と成熟について理解できる。DP①
4. 高齢者や家族のニーズと保健医療福祉サービスの現状と課題について説明できる。DP①
5. 高齢者の権利擁護と倫理的課題について理解することができる。DP①
6. 老年看護に活用できる理論について理解できる。DP①
7. 老年看護のあり方とその役割について説明できる。DP①

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 配布された講義資料は必ず目を通しておくこと。
2. 出席および授業中の態度は重視する。
3. 身近な高齢者の生活や、高齢者に関する新聞・テレビ等の情報を通して看護を考えてみること。

教科書

北川公子他　「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」　第９版　医学書院
奥野茂代他著　老年看護学［第６版］-概論と看護実践-　ヌーベルヒロカワ

参考書

高齢者の健康と障害　堀内ふき他　メディカ出版
厚生の指標　臨時増刊「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

研究室／オフィスアワー

南部登志江　west port3 階 338 研究室／前期(水曜４限)
外村昌子　　west port4 階 433 研究室／前期(水曜５限)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科のガイダンス 老いるということ、老いを生きるということ	予習：シラバスと老年看護学のテキスト「第１章」を読んでくる 復習：配布資料を確認する 自己学修 2 時間	南部 外村
2	老年期を生きる人々の理解　老年期の発達課題と活用する理論	予習：発達理論、ストレングス、ニード論などの確認 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
3	老性変化に伴う身体的変化の特徴	予習：身体的・生理的側面を読んでくる 復習：配付資料を確認する 自己学修 2 時間	南部 外村
4	老性変化に伴う心理的変化の特徴	予習：加齢に伴う心理的変化についてテキストを読んでおく 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
5	老性変化に伴う社会的変化の特徴	予習：社会的変化についてテキストを読んでおく 復習：配付資料で確認する	南部 外村
6	高齢者の理解　老年期を生きる人へのインタビュー	予習：ライフストーリーを聴く姿勢について事前学習をする 　ライフストーリーを聴く 復習：ライフストーリーによる課題レポートをまとめる 自己学修 2 時間	南部 外村
7	高齢者疑似体験	予習：テキストから事前課題をまとめておく 復習：演習からの学びや課題をまとめる 自己学修 3 時間	南部 外村
8	高齢者疑似体験・まとめ	予習：ライフストーリーインｔビューおよびテキストを再度確認する 復習：グループワークや発表内容から理解を共有し確認する 自己学修 2 時間	南部 外村
9	超高齢社会と社会保障　統計的輪郭	予習：高齢社会の統計的傾向についてテキストを読んでおく 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
10	超高齢社会と社会保障　高齢社会における保健医療福祉の動向	予習：保健医療福祉に関する制度・法律についてテキストを読んでおく 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
11	超高齢社会と社会保障 統計的推移と課題	予習：介護保険についてテキストを読んでおく 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
12	超高齢社会と社会保障　高齢者の権利擁護	予習：高齢者虐待・成年後見制度などの法律についてテキストを読んでおく 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
13	老年看護の成り立ち　老年看護の役割	予習：高齢者の QOL と老年看護についてテキストを読んでおく 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
14	生活・療養の場における看護 保健医療福祉施設における看護	予習：高齢者ケア施設と看護の役割について課題をまとめる 復習：配布資料を復習する 自己学修 2 時間	南部 外村
15	疾患を持つ高齢者への看護 がん患者会の会員の体験談を聴講する	予習：病を持ちながら生活するがん患者の援助について課題をまとめる 復習：体験談を聴き、学びおよび感想のレポートを書く 自己学修 2 時間	南部 外村

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験 ②レポート ③課題提出 上記の平均点の結果、60 点以上で単位認定する。DP①	①60% ②20% ③20%

授業科目名	老年看護援助論Ⅰ(看護)（Gerontological Nursing Ⅰ）				
主担当教員	南部　登志江		担当教員	南部　登志江、外村　昌子、 川添　英利子	
科目ナンバリング	GN309	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

老年期における健康障害の成り立ちと日常生活機能のアセスメントの視点について学ぶ。
高齢者やその家族とのコミュニケーションおよび関係の成立について理解し、あらゆる健康レベルに応じた看護の在り方を学ぶ。
認知症高齢者、終末期にある高齢者に対する看護について学ぶ。

到達目標

1．老年期特有の健康障害や生活機能障害のアセスメントの視点を理解できる①④
2．健康障害や生活機能障害をもつ高齢者の健康レベルに応じた看護について理解できる①④
3．高齢者やその家族とのコミュニケーションおよび関係の成立について理解できる①④
4. 認知症をもつ高齢者の理解と看護の方法について理解できる①④
5．終末期における高齢者とその家族の援助について理解できる①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

予め履修が望ましい教科目
老年看護学概論
1．　配布資料は必ず熟読する
2．　出席および授業中の態度は重視する
3．　身近な高齢者の生活を通して看護を考えてみること

教科書

北川公子他 著　「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学」第 9 版　医学書院
奥野茂代・大西和子　他　「老年看護学 ［第 6 版］　―概論と看護の実践―」ヌーベルヒロカワ

参考書

1.太田喜久子編集「老年看護学ー高齢者の健康生活を支える看護」医歯薬出版
2.日本老年医学会編集「老年医学系統講義テキスト」西村書店
3.鳥羽研二他著　「系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論」　第 5 版　医学書院

研究室／オフィスアワー

南部登志江　west port3 階 338 研究室／　前期水曜 17 時～18 時
外村昌子　west port4 階 433 研究室／　前期水曜 17 時～18 時
津崎勝代　west port1 階 132 研究室／　前期水曜 17 時～18 時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス 高齢者理解	予習：シラバス、テキストの高齢者看護の特徴を確認する 復習：授業をもとにシラバス、教科書、資料の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
2	高齢者の生活機能を整える看護（基本動作・排泄・清潔）	予習：テキストの基本動作、排せつ、清潔を読んでおく 復習：講義内容を確認する （自己学習 2 時間）	南部 外村 川添
3	高齢者の生活を整える看護（食事）	予習：テキストの食事を読んでおく。摂食嚥下の 5 段階モデルの確認をする 復習：講義内容を確認する （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
4	高齢者の生活機能を整える看護　（コミュニケーション治療を受ける高齢者の看護）	予習：コミュニケーション障害の特徴とかかわり、検査・治療についてテキストを読んでおく 復習：配付資料を確認する （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
5	高齢者によくみられる身体症状とアセスメント①	予習：テキストや参考文献から症候を読み、事前課題をまとめる 復習：グループワークの内容に追加を行いまとめる （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
6	高齢者によく見られる身体症状とアセスメント②	予習：グループでまとめた内容について修正、追加しておく 復習：講義内容の資料について再度追加しておく （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
7	身体疾患のある高齢者の看護（歯科疾患の理解）	予習：食事、清潔、口腔ケアについてテキストや参考資料を読んでおく 復習：講義内容について学びをレポートにまとめる （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
8	身体疾患のある高齢者の看護（脳血管疾患・脳神経疾患）	予習：テキストの脳血管疾患、脳神経疾患ついて読んでおく 復習：講義内容の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
9	身体疾患のある高齢者の看護（運動器疾患）	予習：テキストの運動器疾患、フレイル、ロコモシンドロームについて読んでおく 復習：配付資料の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
10	身体疾患のある高齢者の看護（運動器疾患）	予習：テキストの骨折、関節リウマチ疾患について読んでおく 復習：講義内容の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
11	身体疾患のある高齢者の看護（呼吸器系疾患）	予習：テキストの呼吸器疾患、感染症について読んでおく 復習：講義内容の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
12	身体疾患のある高齢者の看護(循環器疾患）	予習：テキストの循環器疾患について読んでおく 復習：講義内容の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
13	認知症を持つ高齢者の理解①	予習：テキストのせん妄、うつ、認知症を読んでおく 事前課題をまとめる 復習：講義内容の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
14	認知症を持つ高齢者の理解②	予習：前回の講義資料、テキストの認知症について読んでおく 復習：講義内容の確認 （自己学修 2 時間）	南部 外村 川添
15	高齢者の終末期ケア	予習：事前課題をまとめる。テキストの高齢者の終末期ケアについて読んでおく 復習：講義内容の確認 （自己学修 2 時間９	南部 外村 川添

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験 ②課題 ③小テスト 4/5 回以上の出席が必要	①60% ②20% ③20%

授業科目名	老年看護援助論Ⅱ(看護)（Gerontological Nursing Ⅱ）				
主担当教員	外村　昌子		担当教員	外村　昌子、南部　登志江、 川添　英利子	
科目ナンバリング	GN310	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

老年期における健康障害のある対象者の特徴を理解し、基礎的な看護技術を理解する。QOL を維持する看護支援方法と対象者やその家族に対する指導方法、老年期患者の看護過程の展開について学ぶ。授業は講義とシミュレーション形式で行い、老年看護に必要な看護援助を体験し技術を習得する。

到達目標

1. 老年者のリスクマネジメントについて理解できる。 ①
2. 老年期患者および生活機能障害がある老年者の生活援助技術が理解できる。①
3. 老年期患者の診療の補助技術が理解できる。①
4. 老年期患者の事例展開を通して看護過程が理解できる。①④
5. 認知症高齢者と家族の援助について理解できる。①④
6. 老年者のアクテイビテイケアについて理解できる。①

履修上の注意(学生へのメッセージ)

予め履修が望ましい教科目:老年看護概論，老年看護援助論Ⅰ
授業の進め方：1. 講義は教科書を中心にして、参考書やプリント、視覚教材としてパワーポイントを用いて行う。
2. 演習は実習室で行う。
・技術演習時はナース服を着用する。事前にアナウンスがあるので確認すること
・事前課題が未提出の場合は技術演習に出席できない。
3. 出席と授業中の態度などは成績評価に加味する。

教科書

北川公子他著　系統看護学講座「老年看護学」　第９版　医学書院
奥野茂代他著　老年看護学［第６版］-概論と看護実践-　ヌーベルヒロカワ

参考書

1. Majory Gordon 著　「ゴードン博士のよくわかる機能的健康パターン」　照林社
2. Juall Carpenito－Moyet 著　新藤幸恵監訳「看護診断ハンドブック　第 11 版」　医学書院
3. 大塚真理子他著　「高齢者の看護技術」医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

外村昌子　west port2 階 234 研究室／　前期水曜 17 時～18 時
南部登志江 west port3 階 338 研究室／　前期水曜 17 時～18 時
津崎勝代　west port1 階 132 研究室／　前期水曜 17 時～18 時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス　老年期の援助技術・リスクマネジメント	予習:シラバス、教科書の確認 老年期の援助技術について教科書などで予習 復習:講義資料の確認、レポート 自修時間１時間	南部 外村 川添
2	看護過程の概要	予習：看護過程の概要について予習しておく 復誉：講義資料の確認 自修時間１時間	南部 外村 川添
3	事例展開（ペーパーシュミレーション）	予習：講義資料を基に事例を用い展開する 復習：自身の看護過程の展開を振り返る 自修時間１時間	南部 外村 川添
4	看護過程の展開	予習：講義資料を基に事例を用い展開する 復習：自身の看護過程の展開を振り返る 自修時間１時間	南部 外村 川添
5	看護過程の展開	予習：講義資料を基に事例を用い展開する 復習：自身の看護過程の展開を振り返る 自修時間１時間	南部 外村 川添
6	看護過程の展開	予習：講義資料を基に事例を用い展開する 復習：自身の看護過程の展開を振り返る 自修時間１時間	南部 外村 川添
7	看護過程の展開	予習：講義資料を基に事例を用い展開する 復習：自身の看護過程の展開を振り返る 自修時間１時間	南部 外村 川添
8	生活援助技術（1)体位変換、ポジショニング	予習：老年者の姿勢と体位変換、ポジショニングについて教科書などで予習、事前課題を作成する。 復習：講義資料の確認とレポート作成 自修時間１時間	南部 外村 川添
9	生活援助技術　　(2)　老年者への清潔援助	予習:清潔・衣などへの援助について教科書などで予習,事前課題を作成する。 復習:講義・演習内容を確認し、レポート作成 自修時間１時間	南部 外村 川添
10	生活援助技術　　(3)　障害のある老年者の移乗・移動援助	予習：移乗・移動援助について教科書などで予習, 事前課題を作成する。 復習:講義資料の確認 自修時間１時間	南部 外村 川添
11	生活援助技術　(4)障害のある老年者の排泄援助	予習：排泄障害について教科書などで予習事前課題を作成する。, 復習:講義・演習内容を確認し、レポート作成 自修時間１時間	南部 外村 川添
12	アクテイビテイケアについて	高齢者へのアクテイビテイケアの意義を学ぶ。 グループワーク発表の準備を行う 自修時間１時間	南部 外村 川添
13	アクテイビテイケアの準備	予習：グループワーク発表の準備をする 復習:グループワーク発表時の自分の役割を確認する 自修時間１時間	南部 外村 川添
14	アクテイビテイケアの発表	予習：グループワークの発表を実施する 復誉：グループワークの学びを記述し提出 自修時間１時間	南部 外村 川添
15	認知症の理解と看護、家族への援助	予習:教科書における認知症の概要を読んでおく 復習:講義内容の確認とレポート提出 自修時間１時間	南部 外村 川添

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験 DP①④ ②演習レポート　DP①④ ③課題提出　　DP①④ 4/5 回以上の出席が必要	①60% ②30% ③10%

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ(看護) (Gerontological Nursing Practicum Ⅰ)				
主担当教員	南部　登志江		担当教員	南部　登志江、外村　昌子、 川添　英利子	
科目ナンバリング	GN311	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	3	必修・選択	必修

授業概要

健康障害や生活機能障害を持つ老年患者の看護過程を展開できる基礎的能力を養う。また、老年患者および家族の意思決定、生活の質を尊重した看護や継続看護の必要性、社会生活への適応や社会資源の活用方法について理解し、医療チームにおける多職種連携について学ぶ。

到達目標

1. 老年期の特徴をふまえて、老年患者の多様性やその人らしさを理解できる。①
2. 健康障害や生活機能障害を持つ老年患者を受け持ち、看護過程が展開できる。①③④
3. 老年患者のもてる力を活かし、社会生活への適応や自立を促す援助について学ぶことができる。①④
4. 老年患者の自尊心、意思決定、生活の質を尊重した看護を理解できる。①③
5. 老年患者のライフスタイルを考慮した継続看護、社会資源の活用方法が理解できる。①③
6. 医療チームにおける多職種連携の必要性が理解できる。②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

追実習や再実習は、病院の受け入れ状況により非常に困難であるので、健康管理に留意して欠席しないこと。
予め履修が望ましい教科目
老年看護学概論　老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ

教科書

老年看護学概論ならびに老年看護援助論で用いたテキスト
その他、実習中に適宜紹介する。

参考書

北川公子他著　系統看護学講座「老年看護学」　第９版　医学書院
鳥羽研二他著　系統看護学講座「老年看護・病態・疾患論」第５版　医学書院

研究室／オフィスアワー

南部登志江　west port3 階 338 研究室／後期木曜 17 時～18 時
外村昌子　west port4 階 433 研究室／　後期木曜 17 時～18 時
津崎勝代　west port1 階 132 研究室／　後期木曜 17 時～18 時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1.実習期間 3週間 2.実習場所 阪和第二泉北病院 藤井会リハビリテーション病院 日本生命病院 大阪鉄道病院 大手前病院 3.実習方法 1）病棟実習：健康障害を持つ患者を 1 名受持ち、看護過程を展開する。 2)学内実習:受け持ち患者の看護過程に関する学習、実習記録、実習の振り返りなどを行う。 3)カンファレンスを実習中に実施する。カンファレンスには資料を作成する。 4）詳細は老年看護学実習Ⅰ要項を参照。	1.事前学習 1）老年期に特徴的な疾患とその看護 老年期における心身の特徴 2）バイタルサイン測定・日常生活援助などの 基礎看護技術 3）受け持ち患者に関する疾患とその看護 2.「老年看護学実習Ⅰの抱負」を実習初日に提出する。 3.実習記録 1)行動計画表を毎日記載し、担当指導者に発表する。 2)行動計画表に基づき実施内容を評価・感想を記載する。 3)看護過程の展開として、情報の整理とアセスメント、全体図、看護計画立案、評価を行う。 4）看護計画に基づき経過記録を記載する。 5）カンファレンスの記録を記載する。 カンファレンス 1）資料を作成する。 2）会の運営、時間調整、場所の確認は学生が行い、主体的に取り組む。 5.日々の予習復習 受け持ち患者の看護などに必要な学習 6.　実習日誌を実習最終日の 16:00 までに提出する。	

成績評価方法と基準	割合
実習内容・態度および実習記録を総合して評価する。①②③④ 原則として全出席が評価の対象。	実習内容・態度 60％実習記録 40%

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ(看護)（Gerontological Nursing Practicum Ⅱ）				
主担当教員	南部　登志江		担当教員	南部　登志江、外村　昌子、 川添　英利子	
科目ナンバリング	GN312	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

超高齢社会における高齢者ケア施設の概要、様々な施設で生活する老年期の人々の健康問題や生活過程、施設サービスにおける看護職の役割について学ぶ。

到達目標

1.　高齢者ケア施設の特徴と機能および役割が理解できる。①②
2.　老年者の時代背景や生活史から価値観に及ぼす影響をコミュニケーションを通して理解できる。②③
3.　高齢者ケア施設における看護職の役割が理解できる。①②
4.　多職種と連携した援助の在り方を学ぶことができる。②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

追実習や再実習は、病院の受け入れ状況により非常に困難であるので、健康管理に留意して欠席しないこと。
予め履修が望ましい教科目：老年看護学概論、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ

教科書

老年看護学概論や援助論で用いたすべてのテキスト
その他、実習中に適宜紹介する。

参考書

北川公子他著　系統看護学講座「老年看護学」　第９版　医学書院
鳥羽研二他著　系統看護学講座「老年看護・病態・疾患論」第５版　医学書院

研究室／オフィスアワー

南部登志江　west port3 階 338 研究室／後期木曜 17 時～18 時
外村昌子　wesr port4 階 433 研究室／　後期木曜 17 時～18 時
津崎勝代　west port1 階 134 研究室／　後期木曜 17 時～18 時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1.実習期間 1週間 2.実習場所 特別養護老人ホーム 浜木綿苑 特別養護老人ホーム 阪和苑 特別養護老人ホーム 玲風苑 介護老人保健施設　雅秀苑 介護老人保健施設　聖和苑 3.実習方法 1）入所者の生活援助を見学、経験する。 2）通所者のデイケア、またはデイサービスを見学、経験する。 4.詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照。	1.事前学習 1）老年期に特徴的な疾患とその看護 老年期における心身の特徴 2）介護保険法と高齢者施設の概要について 2.「老年看護学実習Ⅱの抱負」を実習初日に提出 する。 3.実習記録 1）行動計画表を毎日記載する。 2）行動計画表に基づき体験、見学、学びについて記録する。 3）カンファレンス記録を記載する。 4. カンファレンス・振り返り会 会の運営、時間調整、場所の確認は学生が行い、主体的に取り組む。 5.実習日誌、「老年看護学実習Ⅱの学び」を実習終了後、指定日時に提出する。	

成績評価方法と基準	割合
実習内容・態度および実習記録を総合して評価する。①②③ 原則として全出席が評価の対象。④	実習内容・態度 60% 実習記録 40%

授業科目名	母性看護学概論(看護)（Introduction to Maternal Nursing）				
主担当教員	齋藤　雅子		担当教員	齋藤　雅子、家曽　美里	
科目ナンバリング	MN313	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生命の起源である発生・受精・分化から、生命誕生の仕組みを知り、生きることの尊さ、 体と性の働きを理解した「性別」や「性差」をもつ個そして humansexuality について学修する。
性と生殖に関する健康と権利「リプロダクティブヘルス・ライツ」の視点から、女性の各ライフステージにおける生涯を通じた健康課題ならびに健康支援について学修する。
健康な女性の性周期に伴う内分泌、身体、心理的変化と影響を理解し、周産期における身体的・心理社会的変化と適応について学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.セクシャリティの意味、いのちの意味、自己の尊厳について理解し、自らの言葉で説明できる。(DP1,3)
2.女性におこりやすい性と生殖に関する現状を理解し、その課題や問題に気づき考察できる。(DP1)
3.周産期における女性と家族を支援するための基礎的知識を理解できる。(DP1)
4.妊娠期・分娩期の正常な身体的・心理的・社会的変化とその適応を理解できる。(DP1)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・全ての人は性と生殖に関する健康を享受する権利を持っています。
・人の生と性、生殖、次世代を育む家族について理解するための母性看護学の基礎的科目になります。
・いのちへの尊厳、豊かな看護観が醸成されることを期待します。
・日々の絶え間ない努力が対人援助職を作ります。出席して主体的に講義を聞きましょう。
・資料を渡すので、復習しながらファイリングしましょう。

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［１］　母性看護学概論　医学書院
母性看護学〈2〉マタニティサイクル―母と子そして家族へのよりよい看護実践（看護学テキストNiCE）　南江堂

参考書

母性看護学〈Ⅰ〉概論・ライフサイクル（看護学テキストNiCE）　南江堂
ウィメンズナーシング ウィメンズヘルスナーシング概論　ヌーヴェルヒロカワ
母性看護学概論　医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

事前約束後に可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	性周期におけるホルモン動態と発生	・予習：生物、保健体育で既習した受精から着床、女性の性周期とホルモンの学習（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	
2	母性看護学における理論と概念	・予習：性と生殖に関する課題やトピックスについて関連記事を読む（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	
3	セクュシャリティ（ジェンダー含む） 性に関する健康教育（家族計画含む）	・「性周期におけるホルモン動態」小テスト ・予習：性別や性、日常生活におけるジェンダーなど、社会のトピックスや関連記事を読む。(1.5H) ・復習：本日授業（1.5H）	
4	思春期と更年期の健康課題	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	助産学専攻科教員
5	関連する保健統計と制度・施策	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	
6	医師からみた母性と家族機能	・予習：生活に根ざした産科臨床と現代の産科医療の目標と展望を考える機会としたいので、産科に関わるニュースや書籍などを読んでお	ゲスト

		く。(1.5H) ・復習：本日授業（1.5H）	
7	日本社会における女性の健康問題	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	橋本
8	母性看護と倫理的課題	・予習：不妊治療、出生前診断、人工妊娠中絶など自ら心に残る気になる記事や書籍を読む（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	橋本
9	妊娠期の定義、妊娠の成立、妊娠の正常経過	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・「保健統計と法規」に関する小テストをする ・復習：本日授業（1.5H）	橋本
10	妊娠に伴う身体・心理・社会的変化	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	橋本
11	妊娠期の看護	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	橋本
12	分娩の定義と正常経過	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・「妊娠期」の小テストをする ・復習：本日授業（1.5H）	家曽
13	分娩経過と観察	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	家曽
14	分娩期の看護	・予習：該当する教科書範囲（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H）	家曽
15	総復習、援助論Ⅰに向けて 定期試験について	・予習：疑問点、自己学習で理解できない点について質問できるように準備してくる（1.5H） ・復習：本日授業（1.5H） ・定期試験のための学習時間（15 時間）	橋本
成績評価方法と基準			割合
1.　定期試験（DP1）　＊試験学習（15H） 2.　小テスト(3 回)（DP1） 3.　課題や授業に対する取り組み姿勢・態度（DP1,3） 評価には、2/3 以上の出席が必要である。			1.70% 2.20% 3.10%

授業科目名	母性看護援助論Ⅰ(看護)（Maternal Nursing Ⅰ）				
主担当教員	齋藤　雅子		担当教員	齋藤　雅子、家曽　美里	
科目ナンバリング	MN314	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

周産期における妊産褥婦および新生児の基礎的知識を修得し、母子と家族の支援について学修する。

到達目標

1.妊娠・分娩・産褥期の正常な身体的・心理的・社会的変化とその適応を理解する。(DP1,4)
2.妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児の健康を向上するための看護の必要性を理解する。(DP1,4)
3.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における正常からの逸脱を予防し、より良い経過を促進するための看護を理解する。(DP1,4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義でなく演習授業であることを自覚し、主体的に努力すること。
授業内容を聞かずに教科書を読むだけでは理解できないので、出席して授業を聞くこと。
授業中の私語やメール等には厳しく対処する。

教科書

1.母性看護学〈2〉マタニティサイクル―母と子そして家族へのよりよい看護実践（看護学テキストNiCE）　南江堂（2 年前期購入済）
2.系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［１］　母性看護学概論　医学書院　(2 年前期購入済)
3. 病気がみえる　vol.10　産科　メディックメディア

参考書

1. 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［２］　母性看護学各論　（医学書院）
2.新体系　看護学全書　母性看護学②　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護　メディカルフレンド社
3.母性看護学　１妊娠・分娩　第２版　医歯薬出版
4.母性看護学　２産褥・新生児　第２版　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

事前の日時調整・約束後に可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	全体ガイダンス （概論授業内容の復習）	予習：前期に既習した概論を復習しておく（0.5H） 復習：本日の授業内容（0.5H）	
2	妊娠期　正常からの逸脱と看護	復習：本日の授業内容（1H）	
3	妊娠期　正常からの逸脱と看護	復習：本日の授業内容（1H）	
4	産褥期の定義と正常経過 産褥期のアセスメントと看護	復習：本日の授業内容（1H）	
5	産褥期のアセスメントと看護	復習：本日の授業内容（1H）	
6	産褥期　正常からの逸脱と看護	・産褥期の小テスト ・復習：本日の授業内容（1H）	
7	新生児とは	復習：本日の授業内容（1H）	家曽
8	新生児のアセスメントと看護 出生直後	復習：本日の授業内容（1H）	家曽
9	新生児のアセスメントと看護 子宮外生活適応、発達状況	復習：本日の授業内容（1H）	家曽
10	ペリネイタルロス	復習：本日の授業内容（1H）	ゲスト
11	新生児期　正常からの逸脱と看護	・新生児期の小テスト ・復習：本日の授業内容（1H）	家曽
12	分娩期　正常からの逸脱と看護 胎児心拍数陣痛図（CTG）	・予習：概論で既習した分娩期を確実に学習しておく（0.5H） ・本日の復習（1H）	家曽

13	母乳育児支援	・予習：既習した進行性変化を確実に学習しておく（0.5H） ・本日の復習（0.5H）	
14	帝王切開術の看護	復習：本日の授業内容 （1H）	
15	総復習、援助論Ⅱに向けて 定期試験について	課題：質問を考え、試験学習計画を立てる（1H）	
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験（DP1,4） 2.小テスト2回（DP1,4） 3.授業に対する姿勢・意欲・態度（提出物含む）（DP1,4） ＊4/5以上の出席を必要とする。			1.70% 2.20% 3.10%

授業科目名	母性看護援助論Ⅱ(看護)（Maternal Nursing Ⅱ）				
主担当教員	家曽 美里		担当教員	家曽 美里、樋口 優子、齋藤 雅子	
科目ナンバリング	MN315	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	木曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

人間のライフサイクルにおける性と生殖について基礎的知識を修得し、産み育てる女性の健康支援について学修する。

到達目標

1. ウェルネスの看護過程に基づき、看護を展開できる。(DP1, 4)
2. 事例を通してフィジカルアセスメントを行い、健康レベルを評価できる。(DP1, 4)
3. 妊娠・分娩・産褥期における女性と新生児の健康を向上するための看護を理解できる。(DP1, 4)
4. 妊娠・分娩・産褥期における女性と新生児の正常からの逸脱を予防し、より良い経過を促進するための看護を理解できる。(DP1, 4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 演習は、口頭試問で基礎的知識を確認しながら実施するため、事前学習しましょう。
2. 演習の準備から実施、片付けまでの役割を主体的に担いましょう。
3. 適切な身だしなみで、積極的に学びましょう。
4. 演習室には、指定された物品以外の持ち込みを禁止します。
5. 提出物は期限厳守です。
6. 提出物の作成時、仲間と写しあうことはやめましょう。
7. 授業内容は母性看護学実習、国家試験対策で使用するため、ノートを作成しましょう。

教科書

1. 大平光子ら. 母性看護学〈2〉マタニティサイクル：母と子そして家族へのよりよい看護実践（看護学テキストNiCE）. ?南江堂. 4524255354
2. 森恵美（編）. 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学[1] 母性看護学概論. 医学書院. 4260013653
3. 医療情報科学研究所. 病気がみえる vol.10：産科. メディックメディア. 4896324633
4. 荒木奈緒（編）. 母性看護技術（ナーシンググラフィカ 母性看護学(3)）. メディカ出版. 4840465193
(1～3:購入済)

参考書

1. 平沢美恵子ら. 写真でわかる母性看護技術 - 褥婦・新生児の観察とケア、母乳育児を理解しよう！. インターメディカ. 4899961871
2. 佐世正勝ら. 母性看護過程＋病態関連図. 医学書院. 4260028383

研究室／オフィスアワー

家曽：W棟235研究室、橋本：237研究室、樋口：234研究室／
アポイントをとって来てくれると助かります。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス、胎児心拍モニタリング	予習：(0.25H) シラバスを読む 復習：(0.25H) 授業内容	家曽
2	ウェルネス看護過程1:ウェルネス看護過程	予習：(0.25H) 問題、リスクのない人の看護課題を考えてくる 復習：(0.25H) 授業内容	家曽
3	演習 妊婦健診における各手技	予習：(1.5H) 演習プリント課題 復習：(0.5H) 演習プリント提出	全員
4	演習 新生児のフィジカルアセスメント	予習：(1.5H) 演習プリント課題 復習：(0.5H) 演習プリント提出	全員
5	ウェルネス看護過程2:退行性変化	予習：(2.5H) 事例の関連図（退行性変化） 復習:(2.0H) アセスメントシートを作成し提出	家曽
6	ウェルネス看護過程3:進行性変化	予習：(1.5H) 事例の関連図（進行性変化） 復習：(1.0H) 各自アセスメントシートを作成	家曽
7	ウェルネス看護過程3:心理・社会	予習：(1.5H) 事例の関連図（心理・社会面） 復習：(1.0H) 各自アセスメントシートを作成	家曽
8	演習 新生児の沐浴	予習：(1.5H) 演習プリント課題 復習：(0.5H) 演習プリント提出	全員
9	演習 産褥の観察	予習：(1.5H) 演習プリント課題 復習：(0.5H) 演習プリント提出	全員
10	ウェルネス看護過程5:新生児期	予習：(1.5H) 事例の関連図（新生児） 復習：(1.0H) 各自アセスメントシートを作成	家曽

11	ウェルネス看護過程6:帝王切開	予習：(2.5H) 事例の関連図（帝王切開） 復習：(1.0H) 各自アセスメントシートを作成	家曽
12	地域母子支援：地域における子育て	予習：(0.5H) 授業中に提示する 復習：(0.5H) 授業内容	
13	地域母子支援実習	復習：(1.0H) 計画書を作成する（個人ワーク）	全員
14	地域母子支援実習：実践までの準備	復習：(3.0H) 実施できるよう準備（グループワーク）	全員
15	総復習 定期試験について	予習：(0.5H) 既習内容を見直し、質問の準備	家曽
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験（DP1） 2. 課題、演習、グループワークでの評価（DP1, 4） ※4/5以上の出席を必要とする。			1. 60% 2. 40%

授業科目名	母性看護学実習(看護)（Maternal Nursing Practicum）				
主担当教員	齋藤 雅子		担当教員	齋藤 雅子、家曽 美里、樋口 優子	
科目ナンバリング	MN316	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

リプロダクティブヘルスの視点で生み育てる女性の健康支援における基礎的能力を養うとともに、看護実践を通して周産期における母性看護の特性と役割を学ぶ。

到達目標

1. 対象を通して、産褥・新生児期のフィジカルアセスメントを行い、健康状態を評価する。(DP1,2,3,4)
2. 妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と新生児の健康を向上するための考察と看護の必要性が理解できる。(DP1,2,3,4)
3. 対象を通して、Wellnessの視点でアセスメントを行い、看護実践ができる。(DP1,2,3,4)
4. 対象を通して家族関係の再構築と愛着形成について理解する。(DP1,2,3,4)
5. 母子と家族とエンパワーメントするための支援を理解し実践できる。(DP1,2,3,4)
6. 母子を支える社会資源の活用と看護の役割を理解する。(DP1,2)
7. 母子保健システムに関する各職種の役割について理解する。(DP1,2)
8. 母性看護学実習を通して、自身のセクシュアリティについて内省する。(DP4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 原則として記録の提出がない場合は、看護実践に関わることができない。
2. 母子の観察および看護実践については、必ず実習指導者、病棟スタッフ、担当教員の指導のもとで実践する。
3. 原則として男子学生は女子学生とペアになり病院実習を行う。許可が得られた場合には、男子学生1名が1組の母子を受け持つこともある。
4. 産み育てる女性と家族を尊重した姿勢で学修する。

教科書

購入した既習教科書全て

参考書

母性看護学援助論Ⅰ、Ⅱで配布した資料
事前課題
その他各自が必要とするもの

研究室／オフィスアワー

担当教員に事前連絡をして訪ねること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	産科病棟において周産期の母子を受け持ち、ウェルネスの看護の視点に基づきアセスメントし、必要な看護を実践し評価する。	1.受け持ち開始時より母子のフィジカルアセスメントができるように事前学習を深めておくこと。 ２．分娩期の実習は、ケアの実践ができるように、必要な看護計画を事前に準備しておくこと。	母性看護学教員
	地域の”つどいの広場”で、子育てする母子とその家族に対してエンパワーメントの視点で関わり、対象理解を深める。また健康教育を実践・評価する。	1. .現代社会における子育てに関する問題について調べておくこと 2. 母子を支えるための社会資源とその役割について調べておくこと 3. 健康教育の指導計画書案作成、媒体準備、実施練習を事前にしておくこと	母性看護学教員

成績評価方法と基準	割合
1.母性看護学実習要項評価基準に基づき採点する。(DP1,2,3,4) ＊4/5以上の出席が必要である。	1.母性看護学実習評価表に基づく。100%

授業科目名	小児看護学概論(看護)（Introduction to Pediatric Nursing）				
主担当教員	大熊　淳子		担当教員	大熊　淳子	
科目ナンバリング	PN317	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

少子高齢化の現代、小児期の子どもとその家族に心身の健康上の問題が山積している。小児期の発達理論や発達課題、発達評価などの基礎的知識を学び、さらに社会における子どもに関する法律や制度と子どもの権利を理解する。小児看護の目標と看護の役割を理解するとともに、子どもの成長・発達の過程を身体的、精神的、社会的側面から理解する。さらに健康問題や障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.小児看護の目的・役割について説明することができる。＜DP①＞
2.子どもの成長・発達と発達課題を説明することができる。＜ＤＰ①＞
3.小児看護における代表的な発達理論の概要を説明することができる。＜ＤＰ①＞
4.子どもの各期の特徴を総合的に説明することができる。＜ＤＰ①＞
5.子どもと家族を取り巻く社会と特徴的な問題について説明することができる。＜ＤＰ①＞
6.子どもの権利や倫理について考えを述べることができる。＜ＤＰ①＞
7.健康障害や健康問題、入院が小児と家族に与える影響を説明することができる。＜ＤＰ①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.自分の子ども時代の記憶を振り返り、身の回りの子どもの姿や行為、行動を観察する。
2.メディアで扱われる子どもに関する報道に関心をもち、背景や意味を考える。

教科書

松尾宣武・濱中喜代編　新体系看護学全書　小児看護学①小児看護学概論　小児保健　メヂカルフレンド社　第６版
松尾宣武・濱中喜代編　新体系看護学全書　小児看護学②健康障害をもつ小児の看護　メヂカルフレンド社　第６版

参考書

武藤隆・岡本祐子・大坪治彦編「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房
小野寺敦子「手にとるように発達心理学がわかる本」かんき出版
子安増生・二宮克美編「キーワードコレクション発達心理学」新曜社
矢野喜夫・落合正行「発達心理学への招待」サイエンス社

研究室／オフィスアワー

大熊：〇〇〇研究室/〇曜日 00：00～00：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 小児看護学とは ①小児看護の対象と目的・役割が説明できる ②小児看護の場と特徴が説明できる	予習：シラバス・教科書の確認（ｐ1-14） 自分の子ども時代の記憶を振り返る 復習：講義の内容、資料の確認、子どもはどのような存在なのか、小児看護の目標及び役割についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
2	小児看護における概念と理論① 到達目標 ①小児に関する概念と理論が説明できる ②統計データをもとに小児看護の変遷を理解する ③小児看護の国際的動向について理解できる ④小児看護・医療の課題と展望が理解できる	予習：教科書の確認（ｐ16-38） 復習：講義の内容、資料の確認.少子高齢化社会における問題とは何か、小児看護・医療の課題と展望についてまとめる 予習・復習課題を２時間行う	
3	小児看護・医療のほうと倫理 ①小児看護・医療の法律について理解できる ②小児看護・医療における子どもの有する権利を理解する ③小児看護・医療において看護師に求められる倫理的配慮を理解する	予習：教科書の確認（ｐ57-80） 復習：講義内容、資料の確認、各法律の対象と内容、権利条約と子どもの意思決定、看護師に求められる倫理的配慮、ＥＢＮについてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
4	小児保健 ①母子保健と子育て支援について理解する	予習：教科書の確認（ｐ57-80） 復習：講義内容、資料の確認、乳幼児健康診査、	
	②学校保健の施策について理解する ③予防接種の意義と対象疾患が説明できる ④難病や障害を持つ小児への保健・福祉について説明できる	学校保健、予防接種、難病・障害児保健福祉についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
5	小児の特徴と成長・発達 ①成長・発達・発育の概念と定義を理解する ②成長・発達の区分・原則を理解する ③小児の発達について原始反射及び姿勢反射の側面から理解する ④小児の発達について運動発達の側面かｔら理解する	予習：教科書の確認（ｐ81-116） 復習：講義内容、資料の確認、成長・発達の原則、原始反射、粗大運動、微細運動についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
6	小児の特徴と成長・発達 ⑤心理・社会的な成長・発達の過程を理解する ⑥小児の成長・発達について評価できる	予習：教科書の確認（ｐ81-116） 復習：講義内容、資料の確認、言語発達、各期の発達の特徴、評価方法についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
7	小児看護における概念と理論 ①自我・認知の思考発達に関する概念と理論を理解する ②母子関係に関する概念と理論を理解する	予習：教科書の確認（ｐ118-131）、既習の心理学の復習 復習：講義内容、資料の確認、エリクソン・ピアジェ・ボウルビィ・マーラーの理論についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
8	小児看護における概念と理論 ③発達と学習に関する概念と理論を理解する ②家族についてアセスメントと実践に役立つ概念と理論を理解する	予習：教科書の確認（ｐ131-145） 復習：講義の内容、資料の確認、学習理論、親子関係論、家族理論についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
9	小児各期の成長・発達に応じた看護 （胎児期～乳児期） ①胎児期～乳児期の区分および特性について理解する ②胎児期～乳児期の成長・発達について理解する ③胎児期～乳児期の看護について理解する	予習：教科書の確認（ｐ148-174） 復習：講義の内容、資料の確認、胎児期・新生児期・乳児期のそれぞれの特徴についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
10	小児各期の成長・発達に応じた看護 （幼児期） ①幼児期の区分及び特性について理解する ②幼児期の成長・発達について理解する ③幼児期の看護について理解する	予習：教科書の確認（ｐ176-192） 復習：講義の内容、資料の確認、幼児期の特徴についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
11	小児各期の成長・発達に応じた看護 （学童期） ①学童期の区分及び特性について理解する ②学童期の成長・発達について理解する ③学童期の看護について理解する	予習：教科書の確認（ｐ194-213） 復習：講義の内容、資料の確認、学童期の特徴についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
12	小児各期の成長・発達に応じた看護 （思春期・青年期） ①思春期・青年期の成長・発達の原理原則について理解する ②思春期・青年期の形態的特徴について理解する ③思春期・青年期の身体生理的特徴について理解する ④思春期・青年期の機能的特徴について理解する ⑤思春期・青年期の看護について理解する	予習：教科書の確認（ｐ216-234） 復習：講義の内容、資料の確認、思春期・青年期の特徴についてまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
13	健康問題・障害が小児と家族に与える影響と看護 ①小児の病気の理解の特徴が説明できる ②発達に応じた病気の説明が理解できる ③インフォームドアセントが説明できる ④健康問題・障害が小児に与える影響が説明できる ⑤小児の健康問題や障害が家族に与える影響と必要な支援が説明できる	予習：教科書の確認（健康障害をもつ小児の看護ｐ8-13）、小児の認知機能の発達について確認する 復習：講義の内容、資料の確認、健康問題・障害が小児と家族に与える影響をまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
14	特別な状況・その他起こりやすい・直面しやすい状況と看護 ①心の問題を抱えている小児と家族への看護が説明できる ②虐待を受けている小児と家族への看護が説明できる	予習：教科書の確認（健康障害をもつ小児の看護ｐ248-261）、小児看護の対象やその特徴、最近の虐待に関連した報道について調べる 復習：講義の内容、資料の確認、小児の虐待の特徴と支援の方法をまとめる 予習、復習課題を２時間行う	

15	特別な状況・その他起こりやすい・直面しやすい状況と看護 ③災害を受けた小児と家族への看護が説明できる	予習：教科書の確認（健康障害をもつ小児の看護ｐ261-267)、日本で発生した災害について調べる 復習：講義の内容、資料の確認、急性ストレス障害と外傷後ストレス障害の違いをまとめる、災害における心のケアの本質、発達に合わせた必要な支援をまとめる 予習、復習課題を２時間行う	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験（ＤＰ①） 出題範囲：授業で扱った範囲			①100%

授業科目名	小児看護援助論Ⅰ(看護)（Pediatric Nursing Ⅰ）				
主担当教員	安井　渚		担当教員	安井　渚、徳島　佐由美、大熊　淳子	
科目ナンバリング	PN318	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

小児看護学概論、臨床病態学Ⅲ・Ⅳ（小児疾病論）で学んだ内容を基礎に、健康障害や入院が子どもの成長発達、あるいは、家族に及ぼす影響を学び、子どもと家族への看護について学ぶ。また、さまざまな健康障害や健康レベル、状況にある子どもと家族の特徴、および、アセスメントの視点について学ぶ。
安井　渚/　8回　徳島佐由美/　5回

到達目標

1. 健康障害や入院が、子どもの成長発達と家族に及ぼす影響が理解できる＜DP①④＞
2. 急性期から慢性期、終末期の各期と在宅療養における子どもと家族の看護が理解できる＜DP①④＞
3. 小児期の主な症状や疾患、その看護について理解できる＜DP①④＞
4. さまざまな発達段階にある健康障害をもつ子どもと家族に対するアセスメント能力が養える＜DP①④＞
5. 小児 BLS の習得を目指すことができる＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・予め履修が望ましい教科目
　フィジカルアセスメント・医療概論・発達心理学（選択）・臨床病態学Ⅰ～Ⅴ
・14 回目で行う救急蘇生では、上下ジャージ・ナースシューズを着用すること。
「演習室入室時の身だしなみ」に準ずること。

教科書

松尾宣武，濱中喜代（2016）健康障害をもつ小児の看護．　メジカルフレンド社.第 5 版

参考書

・子どもの病気の地図帳　鴨下重彦他　講談社
・疾患別小児看護 - 基礎知識・関連図と実践事例 -　桑野タイ子他　中央法規
・図解よくわかる発達障害の子どもたち　榊原洋一　ナツメ社

研究室／オフィスアワー

安井　渚 234 研究室/水曜日 16：20～18：00
徳島佐由美 331 研究室/水曜日 16：20～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス 子どもの発達段階に応じた看護（乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期） 到達目標 ①乳児期から青年期の各期の特徴から必要な看護が説明できる ②成人期への移行過程を生きる小児と家族に必要な看護が説明できる	予習：シラバス・教科書の確認（ｐ51-81、p594-602） 復習：講義の内容、資料の確認 小児看護学概論の復習と、上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井渚
2	各期（急性期・周手術期）にある子どもと家族の看護 到達目標 ①小児の急性期、周手術期の特徴と必要な看護が説明できる ②活動制限を要する小児と家族に必要な看護が説明できる	予習：教科書の確認(p440-444、p519-536、p486-493) 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井渚
3	慢性期・在宅療養、障害のある子どもと家族の看護 到達目標 ①　　慢性的な経過を辿る健康問題・障害のある子どもと家族に共通する問題を２つ説明できる ②　　小児の在宅医療の特徴と療育生活することの意義が説明できる	予習：教科書の確認（ p537-543、p556-573） 復習：講義資料、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	徳島佐由美
4	終末期にある子どもと家族の看護 到達目標 ①　　終末期にある子どもの看護について	予習：教科書の確認(p446-456、p456-465、p502-509) 復習：講義内容、資料の確認	徳島佐由美

	話し合い説明できる	上記内容について予習復習を1時間行うこと	
5	小児にみられる主な症状と看護 到達目標 小児にみられる症状と看護が説明できる	予習：教科書の確認（p156-190） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
6	「看護過程」をベースにした看護① （呼吸器・アレルギー疾患） 到達目標 RV、肺炎、アトピー性皮膚炎の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（ｐ277-287、393-408） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
7	「看護過程」をベースにした看護② （循環器系） 到達目標 ファロー四徴症、川崎病の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（ｐ287-306） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
8	「看護過程」をベースにした看護③ （消化器系疾患、腎・泌尿器系疾患） 到達目標 ①小児期に多い腎疾患であるネフローゼ症候群の病期に応じた看護介入が説明できる ②口蓋裂の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（ｐ307-323、p324-340） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	徳島佐由美
9	「看護過程」をベースにした看護④ （小児がん・骨髄移植） 到達目標 ①小児白血病の必要な治療と看護介入が説明できる ②骨髄移植を受ける子どもと家族の看護　介入が説明できる	予習：教科書の確認（p364-375） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	徳島佐由美
10	「看護過程」をベースにした看護⑤ （内分泌・代謝系疾患） 到達目標 ①糖尿病（1型・2型）の病態を理解した上で1型糖尿病患者の看護介入の重要な項目が説明できる ②成長ホルモン分泌不全性低身長症の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（p197-203、ｐ386-392、p409-415） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
11	小児看護の専門性 到達目標 ①小児救急看護認定看護師の役割が説明できる ②小児の救急蘇生における必要な看護が説明できる（BLS,ALS）	予習：認定看護師に関する図書 教科書の確認（p474-484） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
12	治療処置、検査を受ける子どもと家族の看護（プレパレーション） 到達目標 ①チャイルドライフスペシャリストの役割が説明できる ②小児にとっての治療処置、検査の意味、置かれている状況が説明できる ③プレパレーションの必要性が説明できる	予習：教科書の確認（p90-97、ｐ468-473） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
13	ハイリスク新生児の看護 到達目標 ①新生児期の成長・発達に及ぼす影響について説明できる ②ハイリスク新生児の看護について説明できる	予習：新生児期の特徴、教科書の確認（ｐ35-51） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
14	（演習）子どもの救急蘇生 到達目標 ①気道閉塞の応急処置の習得を目指すことができる ②子どもの救急蘇生の手順と根拠が理解できる ③乳児の心肺蘇生の習得を目指すことができる	予習：教科書の確認（p474-484） 救急蘇生の資料確認 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	全員
15	発達障害のある子どもと家族の看護 到達目標 ①発達障害の3つのタイプについて理解できる	予習：子どもの発達障害関連の図書等 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井渚
	②発達障害をもつ子どもと家族の必要な看護が説明できる		

成績評価方法と基準	割合
①定期試験＜DP①④＞ 出題範囲：授業内で扱った範囲 ②ミニレポート＜DP①④＞ 救急蘇生、ハイリスク新生児の看護、プレパレーション、小児看護の専門性（計4回） ③4/5 回以上の出席が必要です。	①80% ②20%

授業科目名	小児看護援助論Ⅱ(看護)（Pediatric Nursing Ⅱ）				
主担当教員	安井　渚		担当教員	安井　渚、徳島　佐由美、大熊　淳子	
科目ナンバリング	PN319	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰおよび臨床病態学Ⅲ・Ⅳ（小児疾病論）で学んだ内容を基礎に、健康障害や入院が子どもの成長発達、あるいは、家族に及ぼす影響を学び、子どもと家族への看護について学ぶ。また、さまざまな健康障害や健康レベル、状況にある子どもと家族の特徴、および、アセスメントの視点について学ぶ。
安井　渚/　8 回　徳島佐由美/　5 回

到達目標

1. 健康障害や入院が、子どもの成長発達と家族に及ぼす影響が理解できる。＜DP①④＞
2. 急性期から慢性期、終末期の各期と在宅療養における子どもと家族への看護が理解できる。＜DP①④＞
3. 小児期の主な症状や疾患、その看護について理解できる。＜DP①④＞
4. さまざまな発達段階にある健康障害をもつ子どもと家族に対するアセスメントの視点が理解できる。＜DP①④＞
5. 小児 BLS の習得を目指すことができる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・予め履修が望ましい教科目
　フィジカルアセスメント・医療概論・発達心理学（選択）・臨床病態学Ⅰ～Ⅴ
・14 回目で行う救急蘇生では、上下ジャージ・ナースシューズを着用すること。
「演習室入室時の身だしなみ」に準ずること。

教科書

松尾宣武，濱中喜代　「健康障害をもつ小児の看護」メジカルフレンド社

参考書

・子どもの病気の地図帳　鴨下重彦他　講談社
・疾患別小児看護 - 基礎知識・関連図と実践事例 -　桑野タイ子他　中央法規
・図解よくわかる発達障害の子どもたち　榊原洋一　ナツメ社

研究室／オフィスアワー

234 研究室（徳島佐由美）/水曜日 16：20～18：00
331 研究室（安井　渚）/水曜日 16:20～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 子どもの発達段階に応じた看護（乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期） 到達目標 ①乳児期から青年期の各期の特徴から必要な看護が説明できる ②成人期への移行過程を生きる小児と家族に必要な看護が説明できる	予習：シラバス・教科書の確認（ｐ51-81、p594-602） 復習：講義の内容、教科書の確認 小児看護学概論の復習と、上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井　渚
2	各期（急性期・周手術期）にある子どもと家族の看護 到達目標 ①小児の急性期、周手術期の特徴と必要な看護が説明できる ②活動制限を要する小児と家族に必要な看護が説明できる	予習：教科書の確認（p440-444、p519-536、p486-493） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井渚
3	慢性期・在宅療養、障害のある子どもと家族の看護 到達目標 ①慢性的な経過を辿る健康問題・障害のある子どもと家族に共通する問題を 2 つ説明できる ②小児の在宅医療の特徴と療育生活することの意義が説明できる	予習：教科書の確認（ p537-543、p556-573） 復習：講義資料、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	徳島佐由美
4	終末期にある子どもと家族の看護 到達目標 終末期にある子どもの看護について話し合い説明できる	予習：教科書の確認（p446-456、p456-465、p502-509） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	徳島佐由美
5	小児にみられる主な症状と看護 到達目標 小児にみられる症状と看護が説明できる	予習：教科書の確認（p156-190） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井　渚
6	「看護過程」をベースにした看護① （呼吸器・アレルギー疾患） 到達目標 RV、肺炎、アトピー性皮膚炎の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（ｐ277-287、393-408） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井渚
7	「看護過程」をベースにした看護② （循環器系） 到達目標 ファロー四徴症、川崎病の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（ｐ287-306） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井渚
8	「看護過程」をベースにした看護③ （消化器系疾患、腎・泌尿器系疾患） 到達目標 ①小児期に多い腎疾患であるネフローゼ症候群の病期に応じた看護介入が説明できる ②口蓋裂の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（ｐ307-323、p324-340） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	徳島佐由美
9	「看護過程」をベースにした看護④ （小児がん・骨髄移植） 到達目標 ①小児白血病の必要な治療と看護介入が説明できる ②骨髄移植を受ける子どもと家族の看護　介入が説明できる	予習：教科書の確認（p364-375） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	徳島佐由美
10	「看護過程」をベースにした看護⑤ （内分泌・代謝系疾患） 到達目標 ①糖尿病（1 型・2 型）の病態を理解した上で 1 型糖尿病患者の看護介入の重要な項目が説明できる ②成長ホルモン分泌不全性低身長症の病態理解、必要な治療と看護が説明できる	予習：教科書の確認（p197-203、ｐ386-392、p409-415） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	安井　渚
11	小児看護の専門性 到達目標 ①小児救急看護認定看護師の役割が説明できる ②小児の救急蘇生における必要な看護が説明できる（BLS,ALS）	予習：認定看護師に関する図書 教科書の確認（p474-484） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	外部講師
12	治療処置、検査を受ける子どもと家族の看護（プレパレーション） 到達目標 ①チャイルドライフスペシャリストの役割が説明できる ②小児にとっての治療処置、検査の意味、置かれている状況が説明できる ③プレパレーションの必要性が説明できる	予習：教科書の確認（p90-97、ｐ468-473） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	外部講師
13	ハイリスク新生児の看護 到達目標 ①新生児期の成長・発達に及ぼす影響について説明できる ②ハイリスク新生児の看護について説明できる	予習：新生児期の特徴、教科書の確認（ｐ35-51） 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を 1 時間行うこと	外部講師

14	（演習）子どもの救急蘇生 到達目標 ①気道閉塞の応急処置の習得を目指すことができる ②子どもの救急蘇生の手順と根拠が理解できる ③乳児の心肺蘇生の習得を目指すことができる	予習：教科書の確認（p474-484） 救急蘇生の資料確認 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	全員
15	発達障害のある子どもと家族の看護 到達目標 ①発達障害の3つのタイプについて理解できる ②発達障害をもつ子どもと家族の必要な看護が説明できる	予習：子どもの発達障害関連の図書等 復習：講義内容、資料の確認 上記内容について予習復習を1時間行うこと	安井　渚
成績評価方法と基準			割合
①定期試験＜DP①④＞ 出題範囲：授業内で扱った範囲 ②ミニレポート＜DP①④＞ 救急蘇生、ハイリスク新生児の看護、プレパレーション、小児看護の専門性（計4回） ③4/5 回以上の出席が必要です。			①80% ②20%

授業科目名	小児看護学実習(看護)（Pediatric Nursing Practicum）				
主担当教員	大熊　淳子		担当教員	大熊　淳子、徳島　佐由美、安井　渚	
科目ナンバリング	PN320	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

健康な子どもとの関わりをとおして、乳幼児期の成長発達の特徴を学ぶとともに、健康障害をもつ小児各期（乳幼児期・学童期・思春期）の子どもと家族を把握し、看護の必要性を考える。そのために保育所実習1週間、病棟実習1週間で構成し、健康な子どもの成長発達を理解したうえで健康障害のある子どもを対象に看護を実践する。

到達目標

1. 子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達を総合的に理解する。＜ＤＰ①②③④＞
2. 子どもの生活環境と生活リズムを理解する。＜ＤＰ①③④＞
3. 子どもとのかかわりをとおして、発達に応じたコミュニケーションを理解する。＜ＤＰ①②③④＞
4. 健康障害をもつ子どもの身体的・精神的・社会的要因を総合的に理解する。＜ＤＰ①③④＞
5. 健康障害をもつ子どもと家族の問題について多角的に理解する。＜ＤＰ①②③④＞
6. 健康障害をもつ子どもと家族に対する看護の実際を理解する。＜ＤＰ①②③④＞
7. 基本的な小児の看護実践ができる＜DP①②③④＞
8. 実習全体を通して、自己の小児看護観を述べることができる。＜ＤＰ①③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

※「看護学臨地実習要綱」と「小児看護学実習要項」は必携。
実習事前課題を提示する。
原則として欠席は認められないので、常に自己の健康管理に十分配慮すること。
保育所実習については、検便の実施（すべて陰性であること）が要件である。

教科書

小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト、配布資料等

参考書

鈴木康之他監修、「写真でわかる重症心身障碍児（者）のケア」インターメデイカ、2015年
東京都、「訪問看護師のための重症心身障害児在宅療養支援マニュアル」、平成23年
NancieR.Finnie編著梶浦一郎、鈴木恒彦「脳性まひ児の家庭療育」原著第3版、医歯薬出版、2003年
「（総特集）重症心身障害児の看護」、小児看護、Vol.34、No.5、へるす出版、2011年
石黒彩子、浅野みどり編「発達段階からみた小児看護過程」医学書院
鴨下重彦監修「子どもの病気の地図帳」講談社
山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術」インターメディカ

研究室／オフィスアワー

研究室（　　）水曜日16：20～18：00
331研究室（徳島佐由美）/水曜日16：20～18：00
234研究室（安井渚）/水曜日16：20～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	保育所実習では、配置された園、クラスにおいて園児と関わり、子どもの成長発達を理解するとともに保育士の園児への関わりから発達段階に応じた保育の実際を学ぶ。 病棟実習（病院あるいは、障害児施設）では、患児を受け持ち、看護過程（アセスメント-看護計画立案-実施-評価）を展開する。 病棟実習は、保育園実習での乳幼児期における健康な子どもの発達の理解に基づいて展開される。	予習：アセスメントおよび計画立案-実施-評価等、日々の記録を記載するためには、看護過程を十分に理解していなければならない。また、子どもの各発達段階の成長発達、基本的な解剖生理、小児疾患とその病態生理、治療、検査に関わる知識は必須である。事前課題に取り組むとともに担当患児に必要な知識について学習しておく 復習：以降は担当教員からの指示による	

成績評価方法と基準	割合
①ルーブリックによる評価＜ＤＰ①②③④＞ ルーブリックは事前に提示する 原則として全出席が評価の対象となる	①100%

授業科目名	精神看護学概論(看護)（Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing）				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人	
科目ナンバリング	OMN321	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

精神看護学概論では、精神看護実践の対象となる人間について「認識論」「発達理論」を学び理解を深める。さらに、精神看護の対象となる人々を理解し、ケアするための概略として、基礎知識となる理論・モデルにふれる。また、当事者の視点を多く取り入れ、多面的な理解をめざす。さらには、精神保健としての予防・啓発を踏まえたメンタルヘルスとその対策にふれる。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

・精神保健の定義と動向を理解する　＜DP①＞
・精神看護実践の対象となる人々を理解しケアするための理論･モデルを理解する　＜DP①＞
・ライフサイクル・生活の場におけるメンタルヘルスに関心を寄せ、深く考える　＜DP①＞
・人間のこころのあり方について理解する　＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本科目は精神看護学科目の基盤であることに加え、精神看護学実習の先修条件科目であることを自覚したうえで主体的に学んでいただきたい。

教科書

系統看護学講座　精神看護学[1]
系統看護学講座　精神看護学[2]

参考書

・系統看護学講座　精神保健福祉
・国民衛生の動向
・薄井坦子　科学的看護論

研究室／オフィスアワー

331 研究室　月曜日～木曜日 10:40～12:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	精神の健康とは 到達目標 ①精神看護学について理解を深める ②精神の健康・不健康について理解する	教科書[1]はしがき、第１章、第２章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
2	人間としての内界の発達 到達目標 ①人間の内界について考える	配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
3	人間としての外界の関係 到達目標 ①人間の外界と人間の関係について考える ②相手に寄り添うことについて考える	配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
4	現代社会における精神保健の動向 ①精神障害と治療の歴史を知る ②精神看護における法律・制度に関する動向について理解する	教科書[1]第１章、第２章、第７章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
5	精神の病・障がいと生きにくさ ①精神疾患患者の病的体験の苦痛を理解する ②精神疾患患者の「生きにくさ」について理解する	教科書[1]第１章、第２章、第５章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
6	精神看護における諸理論・モデル ①精神看護学で活用されている看護理論について理解する ②精神看護に用いるモデルの概要とその背景を理解する	教科書[1]第１章、第２章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
7	ストレスと健康の危機 ①ストレスと健康の危機について理解する ②心的外傷が精神の健康に及ぼす影響について理解する ③ストレスを乗り越える力を理解する	教科書[1]第２章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
8	人間の心の諸活動 ①人間の心について考えを深めることができる ②意識と認知機能について理解する ③感情について理解する	教科書[1]第３章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
9	心のしくみと人格の発達（自我と防衛機制） ①自我同一性について考えることができる ②フロイトの自我の機能について理解する ③防衛機制について理解する	教科書[1]第３章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
10	心のしくみと人格の発達（発達理論） ①発達理論について理解する ②エリクソンの漸成的発達理論について理解する ③発達段階ごとのメンタルヘルスの問題について考える	教科書[1]第３章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
11	認識論と発達理論 ①人間の認識について理解する ②人間の認識と発達の関係について理解する	教科書[1]第４章、[2]第８章、第12 章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
12	対人援助職の感情を使いこなす能力 ①看護師における感情労働とメンタルヘルスについて考える ②感情のコントロールについて考える ③感情のセルフケアについて考える	教科書[1]第３章、[2]第８章、終章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
13	パーソナリティとキャラクター ①パーソナリティとキャラクターについて理解する ②パーソナリティの障害について理解する	教科書[1]第４章、[2]第８章、第112 章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
14	リエゾン精神看護・一般科における精神看護 ①リエゾン精神看護について理解する ②看護師の精神的健康への支援について考える	教科書[2]第13 章、第14 章、配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池
15	精神看護学概論の振り返りとまとめ ①精神看護学について理解を深める ②精神看護について自分なりの考えをもつ	配布資料 予習復習　各２時間行うこと	蓮池

成績評価方法と基準	割合
①定期試験(筆記)　＜DP①＞ 60 点以上を単位認定とする ・2/3 以上の出席基準が定期試験受験資格となるが、先修条件科目であることから、原則として欠席は認めない	①100%

授業科目名	精神看護援助論Ⅰ(看護) (Psychiatric and Mental Health Nursing Ⅰ)				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人、矢野　秀蔵、矢野　貴恵	
科目ナンバリング	OMN322	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

精神看護援助論Ⅰでは、精神看護実践の対象となる人々を理解しケアするための、看護理論を用いて、精神の疾患ごとの看護方法の、対象論、目的論、方法論について考えていく。また、地域における精神看護上の問題にも焦点をあてて、精神看護援助についての理解を深める。

到達目標

・精神看護実践の対象となる人々への精神看護援助の、対象論、目的論、方法論について理解を深める＜DP①④＞
・精神看護実践の対象となる人々を取り巻く倫理的問題に関心を寄せ、看護を学ぶ者としての態度を養う＜DP①④＞
・地域における精神看護上の問題について考え、援助方法を理解する＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本科目は精神看護学概論・臨床病態学Ⅲ（精神）・精神看護援助論Ⅱと関連し、精神看護学実習の先修条件科目であること、および、精神科以外での看護実践にも関係することを自覚のうえ、主体的に学ぶ姿勢を求める

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学[1][2]　医学書院

参考書

・系統看護学講座　精神保健福祉　医学書院
・国民衛生の動向
・薄井担子　科学的看護論　日本看護協会出版会

研究室／オフィスアワー

蓮池研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業科目のガイダンス、精神看護の実際 ①精神看護援助論Ⅰの構成について理解する ②精神看護の実践について知る	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
2	統合失調症の看護 ①統合失調症の患者像について理解を深める ②統合失調症の看護の視点、方法を理解する	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
3	感情障害の看護 ①感情障害の患者像について理解を深める ②感情障害の看護の視点、方法を理解する	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
4	発達障害、不安障害、強迫性障害の看護 ①発達障害、不安障害、強迫性障害の患者像について理解を深める ②発達障害、不安障害、強迫性障害の看護の視点、方法を理解する	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
5	PTSD、パーソナリティ障害の看護 ①PTSD、パーソナリティ障害の患者像について理解を深める ②PTSD、パーソナリティ障害の看護の視点、方法を理解する	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	ゲスト
6	睡眠障害、摂食障害の看護 ①睡眠障害、摂食障害の患者像について理解を深める ②睡眠障害、摂食障害の看護の視点、方法を理解する	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
7	精神科の検査と薬物療法 ①精神科で用いられる検査について理解を深める ②精神科における薬物療法の意味と効果について知る	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
8	地域における精神保健 ①地域における精神に関する問題と予防を理解できる ②地域で生活する精神を病む対象者の生活を考える	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
9	地域における精神看護 ①地域における精神看護について理解できる ②地域で生活する精神疾患患者を支えるための社会資源を知る	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
10	精神科治療と看護①個人療法 ①個人療法の種類、内容について知る ②個人療法の意味と効果について考える	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
11	精神科治療と看護②集団療法 ①集団療法の種類、内容について知る ②集団療法の意味と効果について考える	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
12	精神科治療と看護③代替療法 ①代替療法の種類、内容について知る ②代替療法の意味と効果について考える	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
13	精神看護学領域で用いる看護理論 ①三重の関心について知る ②生物体の必要条件と生活体の反応について	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
14	プロセスレコード① 1. プロセスレコードの意味と考え方を理解できる 2. プロセスレコードを実際に作成することができる	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池
15	プロセスレコード② 1. プロセスレコードを用いて、過程を振り返り考察できる	別途提示する 予習復習各１時間以上行うこと	蓮池

成績評価方法と基準	割合
①定期試験（筆記）＜DP①④＞ ②講義・演習への参加状況(提出物含）＜DP①④＞ 上記①②で総合的に評価し、60 点以上を単位認定とする ・4/5 以上の出席基準を必要とする ・出席の代理行為は双方共に欠席扱いとする	①70% ②30%

授業科目名	精神看護援助論Ⅱ(看護) (Psychiatric and Mental Health Nursing Ⅱ)				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人、矢野　秀蔵、矢野　貴恵	
科目ナンバリング	OMN323	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

精神看護学概論および精神看護援助論Ⅰで学習した知識を生かし、精神を病む人々に対して必要な看護を展開するためのより実践的な知識・技術を学ぶ。すなわち、精神を病む人々への安全・安楽に配慮した援助の在り方、および患者－看護師の治療的関係を基盤とした対人プロセスを通した生活援助の具体的な方法と技術などについて学びを深める。

到達目標

・自分自身が治療的道具となるために自己理解、他者理解をする事との意味が理解できる。①
・看護者・自由や権利を制限せざるをえない状況がある精神科治療において、精神障害や精神疾患を抱えた人への尊厳を意識した看護援助の在り方について理解を深める。①④
・統合失調症の青年期・成人期における患者の事例を用い、看護理論に基づく看護過程の展開について理解することができる。①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・本科目は、精神看護学実習の先修条件科目であること、精神科看護実践だけでなく全ての看護実践にも関係することを自覚した上で主体的に学ぶ姿勢を求める。
・教科書は常に持参し、講義にあたり配布する資料とあわせて学習に臨むこと。
・課題提出の期限を守ること。

教科書

系統看護学講座　精神看護学[1][2]　医学書院

参考書

適宜紹介する

研究室／オフィスアワー

授業初回に案内する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ケアの前提：自己理解・他者理解 到達目標 ①自分と相手を理解することが人間関係の前提であることを理解する。 ②自己の感情や言動を客観的に振り返り、自己の傾向に気づくことができる。	予習：教科書〔1〕第３章人間のこころの働きとパーソナリティについて確認すること。(1.5時間) 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
2	ケアの原則 到達目標 ①人としての尊厳を尊重した看護者の関りについて理解を深める。	予習：教科書[2]第８章　ケアの原則について確認しておくこと。(1.5 時間) 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
3	精神科面接の技法 到達目標 ①患者への接近の仕方や、言語を介した患者とのかかわり、看護師自身の感情や考え方の扱い方など、精神疾患をかかえた人へケアの特徴的な方法を理解する。 ②6 つの態度と 10 の技法を意識したコミュニケーションを行うことができる。	予習：教科書[2]第８章　ケアの原則について確認しておくこと。(1.5 時間) 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
4	精神看護における援助的・治療的関係の展開：患者の回復を助ける 到達目標 ①精神障害をもつ人々の回復を支える様々な治療的アプローチを理解する。	予習：教科書[2]第９章　回復の意味について確認しておくこと。(1.5 時間) 復習：本日の範囲（1.5 時間）	蓮池
5	全体像モデルについて 到達目標 ①全体像モデルの意味が理解できる。 ②事例にもとづいた全体像モデルが記載できる。	予習：配布資料・別途指示 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
6	精神科入院環境とリスクマネジメント 到達目標 ①精神科医療における安全の基本的な考え方を知り、患者の安全を守る為のリスクマネジメントについて理解する。	予習：教科書[2]第 10 章、安全を守るところを確認しておくこと。(1.5 時間) 復習：本日の範囲（1.5 時間）	蓮池
7	演習：行動制限（身体拘束） 到達目標 ①法律と人権について考え、看護師としての拘束時ケアについて理解できる。	予習:前時の講義資料および教科書[2]第10章を再度、確認しておくこと。(1.5時間) 復習：本日の範囲（1.5 時間）	蓮池
8	講義・演習：暴力（CVPPP） 到達目標 ①人権と治療・安全とのバランスを知り暴力の事態に対する看護者の適切な対応について学ぶ。	予習：外部講師による配布資料 事前課題 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
9	精神科における看護過程と精神看護学実習の実際 到達目標 ①精神の疾患をもった成人期の患者の事例を用い、理論枠組みに基づく看護過程について理解できる。	予習：配布資料（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
10	精神科における看護過程（情報の整理） 到達目標 ①精神の疾患をもった患者の基本情報および身体面・精神面・社会面に関する情報の整理を行うことができる。	予習：配布資料（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
11	心理的・身体的・社会的アセスメント１ 到達目標 ①患者の情報からアセスメントを深め患者の問題点を捉えることができる。	予習：配布資料（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	蓮池
12	心理的・身体的・社会的アセスメント２ 到達目標 ①アセスメントを深め患者の問題点を捉えることができる。	予習：配布資料（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
13	看護上の問題と目標、計画立案 到達目標 ①看護上の問題点を統合し・優先度の確認・目標設定・計画立案ができる。	予習：配布資料（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
14	実施、評価 到達目標 ①実施、評価の書き方が理解できる。 ②事例をとおして自己の看護実践についてイメージできる。	予習：配布資料（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間）	
15	看護過程の展開全体を通して 到達目標 ①自身の看護過程について評価することで、自己の援助のあり方についてリフレクションする事の意味を理解できる。 ②場面の状況と動機に基づいたプロセスレコードが記載でき、自己洞察を深めることができる。	予習：配布資料（1.5 時間） 復習：本日の範囲（1.5 時間） ＊試験にむけて 15 時間の学習をすること。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験（筆記）　70%　＊試験にむけて 15 時間の学習をすること。　DP① ②講義、演習　課題への参加状況（提出物含）　30%　DP①④ ③2／3 以上の出席が必要である。	①70% ②30%

授業科目名	精神看護学実習(看護)（Psychiatric and Mental Health Nursing Practicum）				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人、矢野　秀蔵、矢野　貴恵	
科目ナンバリング	OMN324	科目区分	専門分野Ⅱ	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

精神看護学実習では、精神看護実践の対象者についての理解を深め、対象者の強みと可能性を活かした個別的な援助ができる能力を養う。

到達目標

1. 対象者に関心を注ぎながら、ケアにおける対人関係が形成・展開できる DP①②③④
2. 精神的健康問題が及ぼす影響について、セルフケア看護アプローチを用いて理解し、
   看護師としての必要な援助計画が具体的に立案できる DP①②③④
3. 援助計画の一部を実践しながら、対象者のよりよい状態に向けた看護援助が発展できる DP①②③④
4. プロセスレコードを用いて対象者への働きかけを振り返り、自己理解や相互理解の展開に活かすことができる DP①②③④
5. 対象者に関する倫理的な事柄に関心を寄せ、看護を学ぶものとして行動できる DP①②③④

＊具体的到達目標は、「看護学臨地実習要項」「精神看護学実習要項」に記す

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・本科目は、「精神看護学概論」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」を履修し、単位を修得しておかなければ履修できない(先修条件)
・臨地実習における具体的な注意事項は、「看護学臨地実習要項」「精神看護学実習要項」に記す

教科書

系統看護学講座　精神看護学[1][2]　医学書院

参考書

精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学Ⅲ（精神）、家族看護学（精神）、関係法規（精神）の講義資料および各科目で提示した参考図書・文献など

研究室／オフィスアワー

精神看護学教員随時対応

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	精神看護学実習要項　参照	精神看護学実習要項 参照	

成績評価方法と基準	割合
・実習態度および達成度を総合的に評価し、60点以上を単位認定とする ・原則として全出席が評価の対象となる ＊詳細は、「看護学臨地実習要項」「精神看護学実習要項」に記す	100%

授業科目名	在宅看護概論(看護)（Introduction to Home Care Nursing）				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、森本 喜代美 岩佐 由美	
科目ナンバリング	HHN401	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

わが国は世界一の高齢先進国となり、とりわけ後期高齢者の増加が著しい。また生活状況の変化と医療の進歩により、疾病や障害を持ちながら生活する人々が増加している。これらの理由から、ますます在宅ケアのニーズが増大してきている。これらの需要に応えるために、在宅ケア充実にむけての対策が急務となっている。在宅看護概論では、わが国の在宅ケアの現状と将来像を視野におき、在宅看護の概要と特性について理解し、在宅ケアにおける看護の役割について学修する。また今後の在宅分野における看護のあり方について学修する。

到達目標

1　在宅看護の必要性と社会歴史的背景を理解する。〈DP①〉
2　在宅看護の特徴について述べることが出来る。〈DP①〉
3　在宅看護の対象となる本人と家族の理解とアセスメントの視点を理解する。〈DP①〉
4　在宅看護を支える法制度について理解できる。〈DP①〉
5　在宅におけるリスクマネジメントについて理解できる。〈DP①〉
6　人生の最終段階における在宅看護について理解できる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

他領域の学修との関連を理解し、講義の予習復習を確実にし、授業に望む。

教科書

「在宅看護論」　石垣和子、上野まり/南江堂

参考書

国民衛生の動向　その他授業で適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

清水：西棟 336 号室　（事前に連絡をとり日程調整をすること）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	在宅看護の概念 1 歴史的変遷と社会的背景	予習：シラバス・教科書の確認、今日の医療の現状について考察し講義に望む。 復習：教科書・配布資料の確認 自習時間 1 時間	
2	在宅看護の概念 2 在宅看護の特徴	予習：在宅看護の現状資料のデータ読み取りをする 在宅看護と病院看護の違いについて考えてくる 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	
3	在宅看護の法的基盤と在宅ケアシステム ―介護保険制度―	予習：教科書の確認　健康保険制度・介護保険制度について学習 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	升田
4	在宅看護の法的基盤と在宅ケアシステム ―その他の制度―	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	升田
5	訪問看護制度 ―在宅ケアマネジメントと訪問看護―	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	升田
6	在宅看護における連携	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	升田
7	在宅看護における姿勢と考え方 （倫理的課題を含む）	予習：看護における倫理的問題について既習内容を復習して講義に臨む	

		復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	
8	在宅看護の対象特徴 －対象としての本人と家族―	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	
9	在宅看護における家族支援のあり方 ―介護問題を中心に―	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	
10	在宅看護過程の展開 1 －ヘルスアセスメント－	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 2 時間	
11	在宅看護過程の展開 2 ―環境のアセスメント―	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 2 時間	
12	在宅看護過程の展開 3 －家族アセスメント・生活の理解－	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 2 時間	
13	在宅看護におけるリスクマネジメント －感染・事故・災害の対応策－	予習：教科書の確認 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	升田
14	人生の最終段階における在宅看護 1	予習：t 提示資料について熟読し感想を書いてくる 復習：教科書・配布資料の確認 自修時間 1 時間	
15	人生の最終段階における在宅看護 2	予習：教科書の確認 復習：前 15 回の学修した内容の総復習をする 自修時間 43 時間	
成績評価方法と基準			割合
1.　筆記試験<DP①> 2.　小テスト（その日・前回の講義内容について、事前課題内容についての簡単な振り返り程度） 　　レポート（提出期限厳守）<DP①>			1:90% 2:10%

授業科目名	在宅看護援助論Ⅰ（看護）（Home Care Nursing Ⅰ）				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、森本 喜代美、 岩佐 由美	
科目ナンバリング	HHN402	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

在宅看護援助論Ⅰでは、在宅看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。療養者・家族の生活全体を把握し、療養者本人の安全・安楽・自立、家族介護者の介護の軽減を図ることができる看護技術や本人・家族への指導、在宅での工夫を学修する。また、在宅ケアに関わる他職種との連携や医療処置等の指導方法についても学修する。

到達目標

1　療養者・家族への日常生活上の支援の必要性と方法が理解できる。DP1
2　療養者への日常生活上援助の具体的方法が実施できる。DP124
3　在宅での医療処置の具体的な方法が実施できる。DP12
4　他職種との連携内容や医療処置の指導内容方法が理解できる。DP24

履修上の注意（学生へのメッセージ）

1　必ず基礎看護学で学修した解剖生理・看護技術の復習を行い講義・演習に臨む。
2　演習時は、半袖白ポロシャツ、大学指定上下ジャージ、白靴下、ナースシューズ、名札を着用し、身だしなみを整え積極的な姿勢で行う。
3　演習の準備・後片付けを行い、物品は丁寧に扱う。
4　演習前後のレポート提出は時間厳守すること。

教科書

「在宅看護論」　石垣和子・上野まり/南江堂

参考書

授業で適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

升田：西棟 634 研究室 適宜アポイントをとること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	在宅のおける移動の支援 1	予習：シラバス・教科書の確認、在宅看護概論の内容を復習し、既習の移動・移乗、援助方法について学習 復習：教科書・配布資料の確認復習時間 1 時間	
2	在宅における移動の支援 2（演習） ・体位交換 ・車椅子移乗 ・床からの立ち上がり	予習：事前課題、第 1 回の復習、麻痺のある療養者の体位交換、移乗、床からの立ち上がりについて学習 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	全員
3	在宅における食の支援 1	予習：事前課題、既習の食事・栄養・嚥下、それらの援助方法について学習。 復習：事後課題。教科書・配布資料の確認復習時間 1 時間	升田
4	在宅における食の支援 2	予習：教科書の確認、第 3 回の復習、経管栄養法、PEG、在宅中心静脈栄養法について学習 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	升田
5	在宅における食の支援 3（演習） ・在宅経管栄養法、胃ろう栄養法 ・在宅中心静脈栄養法	予習：事前課題、教科書の確認、第 3.4 回の復習、HEN,PEG,HPN について学習 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	全員
6	在宅における排泄の支援 1	予習：教科書の確認、既習の消化管・泌尿器の解剖生理、排泄、援助方法について学習。 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	升田
7	在宅における排泄の支援 2	予習：教科書の確認、第 6 回の復習、既習の導尿、ストーマ、おむつの援助方法等について学	升田

		習 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	
8	在宅における排泄の支援 3	予習：既習の腎不全、血液透析、CAPD について学習 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	
9	在宅のおける清潔の支援 1	予習：教科書の確認、既習の清潔、援助方法について学習 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	
10	在宅における清潔の支援 2（演習） ・入浴・シャワー浴、洗髪	予習：事前課題、第 9 回の復習、入浴・シャワー浴・洗髪等について学習 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	全員
11	在宅における服薬の支援	予習：教科書の確認、既習の薬理作用、与薬方法について学習。 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	升田
12	在宅における呼吸の支援 1	予習：教科書の確認、既習の呼吸の解剖生理、呼吸不全について学習。 復習：教科書・配布資料の確認復習時間 1 時間	
13	在宅における呼吸の支援 2	予習：教科書の確認、第 12 回の復習 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	
14	在宅における呼吸の支援 3 ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸器管理指導	予習：教科書の確認,第 12・13 回の復習、HOT,人工呼吸器管理、吸引について学習 復習：教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	
15	在宅訪問、コミュニケーション方法（演習）	予習：事前課題、教科書の確認、訪問時のマナーについて考察し演習に望む。 復習：事後課題、教科書・配布資料の確認 復習時間 1 時間	升田
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験 DP124　70% 2.演習前後レポート課題（3 回）（移乗・清潔・栄養）10 点×3 回＝30 点 授業時間数の 4／5 回以上の出席を必要とする。			1. 70% 2. 30%

授業科目名	在宅看護援助論Ⅱ(看護)（Home Care Nursing Ⅱ）				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、森本 喜代美、 岩佐 由美	
科目ナンバリング	HHN403	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

在宅看護援助論Ⅱでは、ペーパー事例を用いた在宅における看護過程の展開をし、立案した看護計画に基づいた看護技術の演習を行う。これにより、居宅で生活する人の健康障害やそれに伴う生活障害を持つ人とその家族の看護の展開方法を修得する。

到達目標

1．　在宅で療養する人とその家族の健康状態と健康障害が生活に及ぼす影響を理解できる。(DP①)
2．　在宅看護の特徴を踏まえた療養者と家族の個別性を配慮した看護計画の立案ができる。(DP①②④)
3．　立案した計画に基づく具体的援助方法を考え実演することができる。(DP①②④)
4．　立案した看護計画の評価方法を理解できる。(DP①②④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．　与えられた課題を期限内に自主的に行う。
2．　在宅看護概論・在宅看護援助論Ⅰを復習して臨むこと。
3．　既習の疾患の看護、看護過程を復習して臨むこと。

教科書

在宅看護論　編集　石垣和子、上野まり　南江堂（2 年次使用テキスト）

参考書

必要に応じて紹介する

研究室／オフィスアワー

升田：西棟 634 号室　（事前に連絡をとり日程調整すること）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	訪問看護過程の特徴 1	予習：看護過程及び在宅看護のアセスメント視点について復習して授業に参加する 自修時間　30 分	
2	訪問看護過程の特徴 2	予習：前回提示の課題作成 復習：配布資料を基に講義内容の復習 自修時間 30 分	
3	在宅療養者とその家族の事例 1 ー情報分析ー	予習：前回提示の課題作成 復習：配布資料を基に講義内容の復習 自修時間 2 時間	
4	在宅療養者とその家族の事例 1 ー情報分析ー	予習：前回提示の課題作成 復習：配布資料を基に講義内容の復習 自修時間 1 時間	
5	在宅療養者とその家族の事例 1 ー看護問題抽出ー	予習：前回提示の課題作成 復習：配布資料を基に講義内容の復習 自修時間 1 時間	
6	在宅療養者とその家族の事例 1 ー看護計画立案ー	予習：前回提示の課題作成 復習：配布資料を基に講義内容の復習 自修時間 1 時間 30 分	
7	在宅療養者とその家族の事例 1 ー看護計画発表ー	予習：提示課題を完成させ、疑問点を明らかにする 自修時間 30 分	全員
8	在宅療養者と家族の事例 2 ー情報分析ー	予習：分析・問題の抽出に必要な知識の確認、自己 課題の作成 復習：事後課題、配布資料の確認 自修時間 1 時間	
9	療養者と家族事例 2 ー情報分析ー	予習：分析・問題の抽出に必要な知識の確認、自己課題の作成 復習：事後課題、配布資料の確認 自修時間 1 時間	

10	在宅療養者とその家族事例２ ー情報分析ー	予習：前回課題の作成 復習：残された自身の疑問点を明確にし、自己の学習不足に点を学習する 自修時間１時間	
11	在宅療養者とその家族事例２ ー看護問題抽出ー	予習：自己課題の作成 復習：関連図の作成 自修時間１時間	
12	在宅療養者とその家族 ー看護計画立案ー	予習：計画の立案に必要な知識の確認、自己課題の作成 復習：事後課題、配布資料の確認 自修時間１時間半	
13	在宅療養者とその家族事例２ ー看護計画発表ー	予習：発表の準備、在宅療養の維持に必要な支援について確認 復習：事後課題、配布資料の確認 自修時間 30 分	全員
14	在宅療養者とその家族事例２ ー看護計画の発表ー	予習：発表の準備、在宅療養の維持に必要な支援について確認 復習：自身の疑問点、学習不足に点の整理 自修時間１時間	全員
15	看護過程の評価・全体のまとめ	今回学習した看護過程と病院での看護過程の展開の相違点について学生自身が考えてくる。 自修時間１時間	

成績評価方法と基準	割合
1.定期試験(DP①②) 2.レポート課題（DP①②④） 4/5 回以上の出席を必要とする。	1.60% 2.40%

授業科目名	外来看護論(看護)（Nursing on Outpatient Clinic）				
主担当教員	住田 陽子		担当教員	住田 陽子	
科目ナンバリング	HHN404	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

日本看護協会業務委員会において、外来看護は「疾病を持ちながら地域で療養・社会生活を営む患者やその家族等に対し、安全で・安心・信頼される診療が行われるように、また、生活が円滑に送れるように調整を図りながら看護職が診療の補助や療養上の世話を提供することをいう。」と定義されている。医療施設における在院日数の短縮化が進み、医療は施設完結型から地域完結型へ移行してきている中で、外来看護においては、対象者やその家族に対し、治療を継続しながらその人らしい社会生活を送るための質の高い支援が求められている。また、看護へのニーズに応えるためには他職種との連携も必須である。
　本科目では、今日の医療の動向や現状を理解し、外来看護の役割、課題について学修する。

到達目標

1. 外来看護の歴史について学修できる。〈DP①〉
2. 外来看護における患者・家族の様々なニーズについて考えることができる。〈DP①〉
3. 医療政策に伴う医療情勢や社会情勢に関心を持ち、医療に関する国民のニーズについて考えることができる。〈DP①〉
4. 外来における他職種連携について学修できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席が前提である。
2. 講義中の途中退席は認めない。ただし、やむをえない事情が発生した場合は、この限りではない。
3. 講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は禁止する。

教科書

なし

参考書

授業の中で紹介する

研究室／オフィスアワー

住田研究室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	教科目ガイダンス 外来看護の歴史	予習：外来看護のイメージについて整理しておく。(1 時間) 復習：授業内容の振り返り（1 時間）	住田陽子
2	診療報酬と外来看護	予習：診療報酬について調べておく。(1 時間) 復習：授業内容の振り返り（1 時間）	住田陽子
3	地域包括ケアシステムと外来看護	予習：地域包括ケアシステムについて調べておく。(1 時間) 復習：授業内容の振り返り（1 時間）	住田陽子
4	【ディスカッション】受療行動調査の分析	予習：受療行動調査結果の分析を所定の用紙に記述する。(2 時間) 復習：ディスカッションの内容を整理する。(1 時間)	住田陽子
5	【ディスカッション】受療行動調査の分析	予習：前週のディスカッションをふまえて、不明な点、着目したことについて調べてくる。(2 時間) 復習：ディスカッションの内容を整理する。(1 時間)	住田陽子
6	【ディスカッション】外来における他職種連携と看護の役割	予習：外来における他職種連携に関する原著論文を検索・クリティークし、自身の意見を含め A4 用紙 1 枚にまとめる。(2 時間) 復習：ディスカッションの内容を整理する。(1 時間)	住田陽子
7	【ディスカッション】外来における他職種連携と看護の役割	予習：前週のディスカッションをふまえて、不明な点、着目したことについて調べてくる。(2 時間) 復習：ディスカッションの内容を整理する。(1	住田陽子

		時間）	
8	外来看護の現状と課題（大阪国際がんセンター外来部門看護師長）	予習：大阪国際がんセンターについてホームページで調べ、質問事項を整理しておく。(1 時間) 復習：授業内容の振り返り（1 時間） ※最終提出レポート作成（10 時間）	大阪国際がんセンター外来部門看護師長
成績評価方法と基準			割合
1. テーマ「外来看護論を通して学んだこと」についてレポートを作成、提出されたものに対しルーブリック評価を行う。。〈DP①②〉 　レポートの体裁は、A4 版 1 枚、40 字×40 行、フォント：10.5pt、余白：上下左右 20㎜ とし、テーマ、学籍番号、学生名を明記する。 　最終講義日の 1 週間後、住田研究室に提出する。 2. ディスカッションの準備状況〈DP①②〉			1：60% 2：40%

授業科目名	在宅看護論実習(看護)（Home Health Nursing Practicum）				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、森本 喜代美 岩佐 由美	
科目ナンバリング	HHN405	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

在宅看護の実践において大きな社会的役割を担っている訪問看護に同行することで、在宅療養をしている人及びその家族の健康状態と生活状況を統合的に把握、理解し、訪問看護の基礎的な展開方法を養う。また、在宅システムの中で、看護が果たしている役割を学ぶ。

到達目標

1．疾病や障害を持ちながら訪問看護を利用している人とその家族の生活状況が理解できる。(①②③)
2．訪問看護師の活動を通して、利用者とその家族に応じた看護について考えることができる。(①②③)
3．在宅療養を支える在宅システムについて理解できる。(②)
4．訪問看護に必要な態度が実践できる。(①②③④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

今までの在宅看護論講義・演習内容および、他領域の講義、実習を復習し統合させて実習に臨む。特に、制度については、よく復習をしておく。事前課題を行うと共に、日常生活援助技術の修得も各自行い実習に臨む。
利用者宅を訪問する意味をよく考え、指示された訪問時の身だしなみを守り、訪問マナー等実習での言動に注意を払う。
また、実習中担当教員と適宜連絡を取り、相談・報告を怠らないように注意する。
　実習に先立ち、事前に実習に最低限必要な技術演習を実施するので、必ず参加すること。

教科書

ナーシング・グラフィカ　在宅看護論　地域療養を支えるケア

参考書

角田直枝著：実践できる在宅看護技術ガイド　学研メディカル秀潤社

研究室／オフィスアワー

実習期間中に担当教員に確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	訪問看護ステーションの管轄範囲の地域の特徴、利用者の状況等を事前学習や管理者からのオリエンテーション内容から理解を深める。また、ステーションの概要について理解する。 訪問看護師との同行訪問により、在宅で療養する人やその家族の生活状況、看護の実際について学修し、在宅での看護の個別性について理解を深める。 また、地域での多職種、他機関との連携の場を体験し、その必要性と具体的な方法について学ぶ。 　教員巡回時及び学内実習時に教員にアドバイスを自主的に求め、実習記録を充実させることで、在宅看護の理解を深める。 また、日々の学生同士（指導者を交えて）のカンファレンスで、実習での疑問や課題を明らかにし、学びを深める。 　学内での全体カンファレンスにおいて、各ステーションの地域差や各ステーションの特徴を理解し、これからの在宅領域における看護師の役割について考える。	予習（事前学習）課題を行ったうえで実習に臨む 1　実習ステーションの地区の状況 2　対象者の特徴 3　介護保険制度 4　訪問看護制度 5　介護保険と医療保険での訪問看護の利用の違い 6　在宅ケアのための社会資源 7　在宅看護の対象者に多い疾患 8　在宅で行われる医療処置 9　日常生活援助（在宅での工夫点・留意点） 10　在宅対象者のアセスメントに必要な情報等 11 その他（授業内容） 　実習中、指定された実習記録用紙に記録をする 　実習中に指導者から与えられた課題、在宅看護を理解するために必要な学習を積極的に行う。 （自己学習で解決できない、疑問は適宜、指導者・教員に質問し、解決すること。） 　実習中間・終了後、提示した課題に沿って、実習のまとめを発表及び記録物を提出する。	
成績評価方法と基準			割合
出席（全出席が評価の前提となる）、実習態度、実習記録、カンファレンスの参加状況、指導者の評価等を総合的に勘案し、教員が評価を行う。ルーブリック評価表に基づき評価する。(①②③④) 60 点以上を単位認定する。			評価表 100%

授業科目名	健康教育論(看護)（Health Education）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰	
科目ナンバリング	IpI406	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

看護の場面で行われる健康教育について、健康教育を実施する目的を明確にし計画、実施、評価方法について学ぶ。また、集団としての対象や方法等の特徴を理解し、効果的な健康教育に不可欠な理論や教育内容に含める科学的根拠に基づく情報の収集についても学ぶ。

到達目標

1.看護の場面で行う健康教育の目的とその方法、意義について理解できる。<DP1>
2.集団支援の対象者や方法等について理解できる。<DP1,2>
3.健康教育に活用可能な理論について理解できる。<DP1>
4.根拠に基づく健康教育の内容を考案し実施、評価できる。<DP1>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

健康教育は看護職として対象者の方に健康に対する意識を高める大切なツールの一つです。知識を伝えるだけでなく、どのようにすれば行動変容に結び付けることができるかを考えながら、授業に望んでください。

教科書

荒賀直子、後閑容子編集　「公衆衛生看護学」　インターメディカル

参考書

松本　千明　著「健康行動理論の基礎」医歯薬出版株式会社
松本　千明　著「健康行動理論　実践編」医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

大巻悦子　西棟 236　随時
関口敏彰　西棟 234　随時
冨田久子　西棟 634　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康教育の意義・目的を理解する。	地域診断・PDCA サイクルについて学習しておく。 【復習で４時間】	
2	健康教育を通した集団の対象理解①（支援対象）	ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて復習しておくこと。地域における各種のグループ（集団や組織）について調べておくこと。 【予習・復習で４時間】	
3	健康教育を通した集団の対象理解②（集団の特性を理解したアプローチ方法）	セルフヘルプグループについて復習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	
4	健康教育の歴史の移り変わり①(KAP モデル～ヘルスビリーフモデル）	教科書を読み理論について予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	
5	健康教育の歴史の移り変わり②(ヘルスビリーフモデル～プリシードフレームワーク）	教科書を読み理論について予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	
6	健康教育の歴史の移り変わり③(プリシードフレームワーク～プリシードプロシード）	教科書を読み理論について予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	
7	社会学習理論と自己効力感	教科書を読み理論について予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	
8	行動変容モデルと実際	理論について復習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	
9	健康教育の実際	事前に配布する資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
10	科学的根拠にもとづく健康教育内容と情報収集	基礎ゼミナールで学んだ情報検索について復習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
11	健康教育の企画①（計画書作成）	健康教育で活用する情報を検索し、取り寄せておくこと。 【文献検索で４時間】	
12	健康教育の企画②（媒体の検討）	健康教育の資料づくりを進めておくこと。 【健康教育の準備で４時間】	関口敏彰
13	健康教育の企画③（シナリオの検討）	健康教育の資料づくりを進めておくこと。 【健康教育の準備で４時間】	関口敏彰
14	健康教育の実施と評価①	健康教育の資料づくりを進めておくこと。 【健康教育の準備で４時間】	関口敏彰
15	健康教育の実施と評価②	自分が実施した健康教育について自己評価しておくこと。 【健康教育の自己評価で４時間】	関口敏彰

成績評価方法と基準	割合
1. テスト<DP1> 2. 課題（レポート）<DP1,2> 3. 健康教育の内容・発表<DP2>	1. 60% 2. 20% 3. 20%

授業科目名	家族看護学(看護)（Family Health Care Nursing）				
主担当教員	白井　文恵		担当教員	白井　文恵、蓮池　光人、大熊　淳子	
科目ナンバリング	IpI407	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 5 限 木曜 1 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

現代社会における個人と家族を取り巻く社会は多様性を極めているが、家族は看護職が看護の対象とする社会の最小単位である。家族看護論では、「家族」について学び、ライフサイクルにおける健康問題と家族との関係性、家族に対するアセスメントと介入に必要な理論と方法について学修し、家族看護の役割を理解する。

到達目標

1. 家族の概念、形態、機能について理解することができる。DP①②
2. 家族が、家族の一員の健康問題から受けている影響から、家族へのアセスメント・介入の方法について理解することができる。DP①②
3. 家族のセルフケア機能を高める家族看護の役割について理解することができる。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

家族看護はあらゆる領域に共通した家族援助である。家族のセルフケア機能を高める援助とは何かを意識して履修すること。

教科書

系統看護学講座　別巻　家族看護学　　第 1 版第 2 刷　　筆者代表：上別府圭子　医学書院

参考書

家族看護学　改訂第 2 版　－19 の臨床場面と 8 つの実践例から考えるー　　編集：山崎あけみ/原礼子
南江堂

研究室／オフィスアワー

白井：236 研究室　　蓮池：331 研究室　　大熊：　〇〇〇研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	家族看護とは何か。看護職と家族の関係。	予習:シラバスの確認､家族看護学　第 1 章(1.5 時間) 復習：本日の授業内容を教科書で確認（1.5 時間）	白井　文恵
2	家族看護の対象理解	予習：家族看護学　第 2 章(1.5 時間) 復習：本日の授業内容を教科書で確認予習(1.5 時間)	関口　敏彰
3	家族看護を支える理論と介入法	予習：家族看護学　第 3 章（1.5 時間) 復習:本日の授業内容を教科書で確認予習（1.5 時間）	関口　敏彰
4	家族看護展開の方法	予習：家族看護学　第 4 章（1.5 時間) 復習:本日の授業内容を教科書で確認予習（1.5 時間）	関口　敏彰
5	慢性期の小児患者の家族看護 到達目標 ①慢性疾患をもつ子どもと家族の特徴が説明できる ②慢性疾患をもつ子どもと家族への援助が説明できる	予習：家族看護学　第 5 章－B を確認する。既習の小児慢性疾患、慢性期の看護について講義資料、内容を確認する。 復習：講義内容を振り返り,慢性疾患の子どもと家族の特徴、必要な援助をまとめる。 予習、復習を各 1.5 時間行う	大熊　淳子
6	先天奇形をもつ児の家族看護 到達目標 ①先天奇形をもつ児の家族の特徴が説明できる ②先天奇形をもつ子どもと家族への援助が説明できる	予習：家族看護学　第 5 章－D　を確認する。既習の先天奇形の疾患、必要な看護について講義資料、内容を確認する。 復習：講義内容を振り返り、先天奇形をもつ児の家族の特徴、必要な援助をまとめる。 予習、復習を各 1.5 時間行う	大熊　淳子
7	精神障害者を持つ家族に対する理解 ①精神障害者を持つ家族の認識を理解する	予習：家族看護学　第 5 章－E 復習：本日の授業内容を教科書で確認予習	蓮池光人
	②精神障害者を持つ家族への影響を理解する	予習復習各 1.5 時間行うこと	
8	精神領域における家族援助と援助の実際 ①精神障害者を持つ家族への援助について理解する	予習：家族看護学　第 5 章－E 復習：本日の授業内容を教科書で確認予習 予習復習各 1.5 時間行うこと	蓮池光人

成績評価方法と基準	割合
①課題レポート(DP①②) 各講師よりそれぞれテーマ、提出期限を提示する。　　各テーマ 100 点満点で評価し、「3 テーマの合計÷3」　とする。 2/3 以上の出席が必要。	100%

授業科目名	看護管理論(看護)（Nursing Management）				
主担当教員	藤本　陽子		担当教員	藤本　陽子	
科目ナンバリング	IpI408	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 2 限 金曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

施設内の看護部門を効果的に運営していくための基礎的知識を学修し、看護管理に関する必要な知識を習得する。看護管理とは、患者に安全で安楽なケアを提供することであり、看護職者による仕事の過程であることを学修し、専門職者として成長できるような労働環境を形成する過程である。この過程は、目標を達成する一連の行為または運用であり、特にデーター収集、計画、指導及び統制について、講義やディスカッションを通し学修する。また、一般の看護職者として知識や技術を応用し現代社会に必要とされるリーダーシップ能力を修得する。さらに組織には運営目標があり、部門の目標、病棟等の目標、そして個人の目標があり全てのスタッフが管理者であることを学修する。

到達目標

1．管理の概略、マネジメントプロセスとマネジメントサイクルの概要等について説明できる。
2．看護職が責任を持って、対象者の抱える問題を明らかにし、ケア提供する必要性を説明できる。
3．管理者の責任と個人の責任を理解し、看護サービスのマネジメントについて説明できる。
4．看護とは何か、看護職とは何かを理解し、看護を取り巻く諸制度に関する知識について説明できる。
5．組織における原理原則や組織と個人の原理原則を理解するために、マネジメントに必要な知識と技術について説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．看護とは何か、そして対象は誰かを考える。
2．看護部門を効果的に運営するしくみと、個人の責任とは。
3．看護管理とは何か、患者が安全で安楽な看護実践とは、働くもの　の健康管理とは。
4．グループ討議には積極的に参加する。

教科書

上泉和子他著<系統看護学講座　統合分野>〔看護管理　看護の統合と実践１〕医学書院

参考書

久保真人他:よくわかる看護組織論　ミネルヴァ書房

研究室／オフィスアワー

藤本陽子　西棟 332 研究室　午後　それ以外にはアポイントを取り質問に応じる

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	看護管理とは 組織風土と組織文化　臨床現場で日常起こる事例を通して看護管理を考える 到達目標 ①管理とはについて自分の周囲のことで説明できる	予習：現在自分の周りで管理しているもの管理方法を整理しておく　1 時間 復習：自分で管理している内容を振り返り、さらに充実できる方法を検討する　1 時間	藤本陽子
2	ケアのマネジメント：患者の権利の尊重、安全管理 到達目標 ①患者の権利を尊重した態度について語ることができる。 ②患者の安全を確保するための看護ケアが説明できる。	予習：主題実習での学びの振り返り。安全で安楽に患者を看護するためにどのような組織にするか考えておく　1 時間 復習:資料を基に教科書 P16～73 を振り返る　1 時間	
3	ケアのマネジメント：チーム医療、看護業務の実践 到達目標 ①多職種と協働することに意味を理解する。 ②看護師の役割が説明できる。	予習：主題実習での学びの振り返り。安全で安楽に患者を看護するためにどのような組織にするか考えておく　1 時間 復習：資料を基に教科書 P16～73 を復習しておく 1 時間	
4	看護管理の実際 到達目標：実際の看護管理者の管理方法がわかる	予習・復習	ゲストスピーカー
		本日の学習を振り返る：2 時間以上	
5	看護サービスのマネジメント 到達目標：①組織目的のためのマネジメントを説明できる ②看護サービスの提供と仕組を説明できる。 ・看護の単位について ・看護体制について	予習・復習：2 時間以上	
6	看護サービスのマネジメント 到達目標：人材のマネジメントについて説明できる。 ・新人教育・研修の必要性が語れる。 ・労働環境について	予習・復習 教科書の確認と当日の学習内容の振り返り：2 時間以上	
7	マネジメントに必要な知識と技術 津辰目標：組織構造と組織原則について説明できる。	予習・復習：教科書の必要な項目の確認と当日学習スタ内容を振り返る：2 時間	
8	マネジメントに必要な知識と技術と振り返り 到達目標：事例を用いてマネジメントする。問題点・解決方法の実際を説明できる	予習・復習：マネジメントとは似ついて再度振り返ることができるように学習する：2 時間	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験：100%	100%

授業科目名	災害・国際看護論(看護)（Disasters and International Nursing）				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、家曽 美里	
科目ナンバリング	IpI409	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 1 限 火曜 2 限 木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

災害看護では、災害発生に備えた心構えと看護の方法を学び、平常時から地域全体で備えるとともに、被災時に被災地域や被災者の看護に必要な知識を学ぶ。また、災害時の安全なケア環境の提供について理解する。国際看護では、グローバルヘルスの現状と課題を理解すると共に、異文化などの多様性を尊重する看護を学ぶことで、国際的な視野を養う。

到達目標

・災害の種類や災害サイクルについて理解できる。DP1
・災害時の医療救護活動のフェーズ（超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、静穏期）と各期の看護について理解できる。DP1
・災害看護活動の場における食事、排泄、睡眠、清潔、環境といった生活への援助、身体的・精神的健康管理について理解できる。DP1 3 4
・災害時の医療チームと看護の役割を理解する。DP2 4
・グローバルヘルスの現状と対策を理解することができる。DP1 4
・異文化や多様性を尊重する看護を理解することができる。DP1 3
・国際協力活動における看護の役割を理解することができる。DP1 2

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本科目は、看護の統合科目である。自己の意見を持ちディスカッションに参加するなど、主体的に学ぶ姿勢を求める。

教科書

なし（資料配布）

参考書

酒井明子・菊池志津子編:災害看護,改訂第 3 版,南江堂,2018.
南裕子・山本あい子：災害看護学習テキスト実践編,日本看護協会出版会,2007.
浦田喜久子、小原真理子編:災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践（３）医学書院, 2016
他、授業で提示する

研究室／オフィスアワー

433 研究室　升田　随時
235 研究室　家曽　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業ガイダンス 災害看護 1　災害の特徴、法制度、支援体制	予習:近年発生した災害について 予習時間 2 時間 復習：授業内容　復習時間 2 時間	升田
2	災害看護 2　災害サイクルにおける看護師の役割　急性期　トリアージ	予習:災害サイクル、トリアージについて 予習時間 2 時間 復習：授業内容　復習時間 2 時間	升田
3	災害看護 3　災害サイクルにおける看護師の役割　亜急性期から静穏期	予習：避難所、仮設住宅で起こる健康問題について 予習時間 2 時間 復習：授業内容　復習時間 2 時間	升田
4	災害看護 4　災害時の救急応急処置演習 1	4 回目と 5 回目は時間を続けて演習を行う。 予習：一次救命処置、創処置、包帯・三角巾法について　予習時間 3 時間 復習：授業内容	升田
5	災害看護 5　災害時の救急応急処置演習 2	4 回目と 5 回目は時間を続けて演習を行う。 予習：一次救命処置、創処置、包帯・三角巾法について 復習：授業内容　復習時間 3 時間	升田
6	国際看護 1　国際看護とは	予習：世界の保健医療の問題について　予習時間 2 時間 復習：授業内容　復習時間 2 時間	家曽
7	国際看護 2　世界の健康問題と取り組み	予習：授業で提示する 予習時間 2 時間 復習：授業内容　復習時間 2 時間	家曽
8	国際看護 3　文化を考慮した看護	予習：授業で提示する 予習時間 2 時間 復習：授業内容　復習時間 2 時間	家曽

成績評価方法と基準	割合
1.　災害看護　　授業中に行う筆記試験 30 点　DP1~4　レポート「看護師として災害に備えること」30 点　DP1~4 2.　国際看護　　授業中の行う筆記試験 40 点　DP1~4	1.　レポート課題 30%　筆記試験 30% 2.　筆記試験 40%

授業科目名	養護概説(看護)（Introduction to Nursing Teachers）				
主担当教員	宮永　啓子		担当教員	宮永　啓子	
科目ナンバリング	lpI419	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

養護教諭の実践を貫く「養護」について体系的に学ぶ。養護教諭の歴史的変遷を理解し、養護教諭の職務の特性と専門性を活かし、「養護教諭が実践する養護（活動）とは何か」を、明らかにし、創造的な養護教諭の実践能力を体系的に学修する。さらに、養護教諭に必要な教育者としての資質・能力を培い、子どもの健やかな発達に必要な養護を教育として実践する能力を身につける。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
①　養護教諭の歴史的変遷を理解し、学校教育に果たす養護教諭の専門性と役割について、説明することができる。〈DP①〉
②　養護の概念を体系的に学修すると共に、養護教諭独自の養護（教育と看護）活動の展開について、具体的に考えることができる。〈DP①〉
③　学校教育を基本として、効果的な保健教育活動のあり方について説明することができる。〈DP①〉
④　保健室の機能と養護教諭の活動過程を理解し、養護教諭に求められる資質能力を身につける。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

養護教諭の専門的役割は、看護学・教育学等で学んだ知識と技術を基に教育者としての活動を実践することである。看護学の学修内容を教育に応用できる能力を養う様にしてください。

教科書

「養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した　養護学概論」東山書房　岡田加奈子他
一年次の教科書「学校保健実務必携」「学校保健概論」「養護教諭のための学校保健」

参考書

「養護教諭の活動の実際」第３版（静岡県養護教諭研究会　編）
「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」文部科学省

研究室／オフィスアワー

教職支援センター

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション（講義概要の解説） 養護の本質と概念、養護教諭の専門性	予習：小中高校から養護教諭の役割を考える。(2H) 復習：「養護」と「教育」の関係を理解。(2H)	
2	養護教諭と学校保健活動 学校保健計画	予習：「学校保健」を復習。 (2H) 復習：養護教諭の役割を理解。(2H)	
3	養護教諭と保健室、保健室経営	予習：「学校保健」を復習。(2H) 復習：保健室経営計画ができる。(2H)	
4	養護活動の過程 学校における協働・連携並びに組織活動	予習：学校保健・看護過程を復習。(2H) 復習：学校組織及び協働・連携を確認。(2H)	
5	養護教諭が行う研究 養護教諭の倫理	予習：看護の職業倫理を復習。(2H) 復習：現場の実践を研究に生かす力と教職員の倫理を理解。(2H)	
6	学校の特性に応じた養護活動 特別支援教育と養護教諭	予習：学校の特性をテキストで予習。(2H) 復習：特性に応じた養護活動を理解。特別支援教育における養護教諭の役割を理解。(2H)	
7	養護教諭と学校安全・危機管理	予習：テキストで予習。(2H) 復習：健康観察の実践を理解できる。(2H)	
8	養護活動論：①健康観察	予習：テキストで予習。(2H) 復習：健康観察の実践を理解できる。(2H)	
9	養護活動論：②健康診断	予習：「学校保健」で・健康診断を復習。(2H) 復習：健康診断の企画・実施・事後措置を理解する。(2H)	
10	養護活動論：③健康相談・保健指導	予習：健康相談・保健指導を考える。(2H) 複習：健康相談・保健指導の実践を身につける。(2H)	
11	養護活動論：④健康教育（保健教育）	予習：「学校保健」で復習。(2H) 複習：健康教育へ導く過程、健康教育の実践を身につける。(2H)	
12	課題別養護活動：①学校救急看護、内科・ケガ等外科の救急対応、学校事故における救急対応と養護教諭の役割	予習：看護（アセスメント・看護過程）で学修したことを養護活動に活かす対応について考えておく。(2H) 復習：救急処置において、養護教諭としてあるべき姿をまとめる。(2H)	
13	課題別養護活動：②慢性疾患 ③心の問題 ④対人関係 ⑤生活上課題 ⑥不登校・保健室登校への対応	予習：看護で学修したことを養護活動に活かす対応について考えておく。(2H) 復習：健康課題に関する養護教諭の役割を理解し、実践を身につける。(2H)	
14	課題別養護活動：⑦児童虐待の早期発見と対応、⑧アレルギー・アナフィラキシーへの対応	予習：児童虐待の情報をまとめておく。(2H) 復習： 児童虐待・アレルギー等への対応を理解し、実践力を身につける。(2H)	
15	学校環境衛生活動と養護教諭 学校感染症予防　　まとめ	予習：環境管理・感染症予防を「学校保健」「看護学」等で復習しておく。(2H) 復習：学校感染症対策、学校環境衛生基準と養護教諭の役割を理解する。養護教諭の専門性の理解と振り返り。(2H)	

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験〈DP①〉 ②課題レポート〈DP①〉 ③授業での発表〈DP①〉	①50% ②30% ③20%

授業科目名	健康相談活動論(看護)（Health Counseling Activities）				
主担当教員	宮永　啓子		担当教員	宮永　啓子	
科目ナンバリング	lpl421	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年の児童生徒の健康問題の多様化は、児童生徒のみならず、保護者・担任からの含め養護教諭の健康相談が重要視されている。養護教諭の職務の特質は、児童生徒の心身の健康問題と日々関わっている。養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談の基礎・基本及び健康相談の実践力と力量を身につける。

到達目標

１．養護教諭の職務の特性と保健室の機能を生かした健康相談を習得する。
２．保健室来室場面で心身に問題を持つ児童生徒のヘルスニーズを理解するためのアセスメント・支援能力を習得する。
３．健康相談遂行に必要な専門的知識と技術を身につけ応用・実践できる能力を習得する。
４．保護者・担任等、教職員が協働して支援し、校外の関係機関との連携ができるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

養護教諭は、児童生徒の悩みの相談や身体的症状の裏にある心の問題に気を配りながら職務を遂行している。児童生徒の訴えや心の叫びに耳を傾け、ニーズを見極め、判断し対応できる専門的力量を身につけてください。

教科書

・『新版養護教諭の行う健康相談』、大谷尚子・森田光子 他　（東山書房）
・『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き』　（文部科学省）

参考書

参考書・参考資料等
「学校保健実務必携」（第一法規）
「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」　（文部科学省）

研究室／オフィスアワー

教職支援センター

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	養護教諭の行う健康相談（養護教諭の役割と活動）の基本的理解	予習：学校保健等で学んだ養護教諭に必要な健康相談の専門性について復習しておく。(1H) 復習：養護活動としての健康相談を理解する。(1H)	
2	健康相談と保健室	予習：保健室の特質と健康相談をすすめるための保健室の環境をまとめる。(1H) 復習：保健室における健康相談の特質についてまとめる。(1H)	
3	健康相談の諸理論	予習：テキストで予習。(1H) 復習：養護教諭が行う健康相談の歴史と意義を理解する。(1H)	
4	健康相談の過程（1.事例から見る健康相談の過程　22.象理解と見立て）	予習：テキストで予習。(1H) 復習：授業の復習。(1H)	
5	健康相談の諸問題（1.精神保健の観点を理解、2.身体的問題、非社会的問題、生活上の問題等）	予習：養護概説・精神保健・精神看護学等関連分野を復習して授業に臨む。(1H) 復習：精神保健と健康相談における養護教諭の専門性について復習。(1H)	
6	保健室を想定した健康相談、ロールプレイング1、記録の仕方	予習：これまで学んだことをロールプレイングに生かせるよう復習しておく。(1H) 復習：記録の仕方を確認、ロールプレイングのまとめ。(1H)	
7	保健室を想定した健康相談、ロールプレイング2	予習：記録の仕方を確認。(1H) 復習：記録を確認し、ロールプレイングを振り返る。(1H)	
8	保健室を想定した健康相談、ロールプレイング3	予習：今までの復習。(1H) 復習：ロールプレイング評価・まとめ（レポート）。(1H)	
9	ロールプレイングの評価、他者評価	予習：今までの復習。(1H) 復習：各班の発表のまとめ。(1H)	
10	保健室登校の捉え方と対応	予習：今までの養護教諭関連科目を復習。(1H) 復習：本日の授業を復習。(1H)	
11	健康相談に必要な力量と学びの方法（健康相談をすすめていくための力量と学びの方法）	予習：テキストで予習。(1H) 復習：必要な力量を身につける。(1H)	
12	健康相談における連携と養護教諭の専門性	予習：養護概説・その他関連科目の復習。(1H) 復習：　校内のチーム支援と医療との連携を理解する。(1H)	
13	保健室を想定した事例検討の資料作成	予習：　今までの復習。(1H) 復習：養護教諭の専門性が発揮できる事例検討資料を作成できる。(1H)	
14	保健室を想定した事例検討の評価	予習：事例検討の評価をつけてみる。(1H) 復習：事例検討の評価を見直す。(1H)	
15	まとめ（養護教諭の専門性を発揮した健康相談の在り方、保健室の機能を活かした健康相談とは何かを考える。）	予習：今までの学修を振り返り養護教諭の行う健康相談についてまとめる。(1H) 復習：全復習。(1H)	

成績評価方法と基準	割合
①授業・演習時の参加・活動状況 ②課題・レポート ③定期試験	①30% ②20% ③50%

授業科目名	公衆衛生看護学概論(看護)（Introduction to Public Health Nursing）				
主担当教員	白井　文恵		担当教員	白井　文恵	
科目ナンバリング	PHN411	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

公衆衛生看護の歴史的変遷を踏まえ、地域に生活する人々の暮らしと健康を守る意味について学ぶ。公衆衛生看護の対象は、地域で暮らす人々（個人、家族、集団）であり、疾病予防と健康増進に関する学問である。ヘルスプロモーションの理念を理解し、公衆衛生看護活動の展開における理論や方法論を理解するための基本的な原則を学ぶ。さらに、公衆衛生看護の視点から社会環境の変化と健康課題について考え学びを深める。

到達目標

1. 公衆衛生看護の定義と目的を理解する。<DP①>
2. ヘルスプロモーションの理念とキーワードを理解し、活動の基本を理解する。<DP①>
3. 公衆衛生看護における歴史的変遷と社会環境の変化を理解する。<DP①>
4. 公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法を理解する。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

公衆衛生看護の対象は、乳幼児から高齢者まで、健常者から病気療養の人まで様々であり、個人（患者）だけでなく家族・集団・地域全体に及ぶ視野を広く持つことが重要である。看護が対象とする人々は、「地域で生活する人々である」という視点が必要である。現代社会は地域・医療・福祉を考えていくことが不可欠である。看護師は患者の入院から退院を見据えた視点が必要であり、また在宅で療養している患者にとって医療機関との連携は欠かすことはできない。看護を学ぶ者としてこれらの姿勢と視点を認識し、深く学ぶ姿勢をもつこと。
＊保健師課程を選択する学生は、公衆衛生看護学の基本であることを認識すること。

教科書

荒賀直子、後閑容子編集「公衆衛生看護学」インターメディカル

参考書

厚生統計協会編　「国民衛生の動向」厚生統計協会
宮崎美砂子、北山美津子、春山早苗、田村須賀子編集　「公衆衛生看護学　第２版　総論・各論１・２　」　日本看護協会出版会

研究室／オフィスアワー

WEST 236 研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	公衆衛生看護学の概念 1 ―予防と公衆衛生看護	予習　シラバスの確認。　教科書 P3～11 の確認（1.5 時間） 復習　授業をもとにシラバス・教科書の確認（1.5 時間）	
2	公衆衛生看護学の概念 2―健康とは何か ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ	予習　教科書の確認 P218-219　具体事例を調べる（1.5 時間） 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを説明できること(1.5 時間)	
3	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	予習　教科書の確認 P13-16　プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの歴史を調べる。(1.5 時間) 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認（1.5 時間）	
4	地域づくりのためのヘルスプロモーションとキーワード	予習　教科書の確認、ヘルスプロモーションの概念図の意味を考える。(1.5 時間) 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 ヘルスプロモーションの概念を説明できること（1.5 時間）	
5	地域づくりのためのヘルスプロモーションの実際	予習　教科書の確認、配布された資料を確認（1.5 時間） 復習　視聴した DVD からヘルスプロモーションの実際を理解する。次週にレポート提出(1.5 時間)	
6	公衆衛生看護の歴史　①	予習　教科書 P21-27 の確認。　駐在保健婦の歴史を調べる。(1.5 時間) 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認（1.5 時間）	
7	公衆衛生看護の歴史　②	予習　視聴する「孤島の太陽」について当時の地域特性について調べる。(1.5 時間) 復習　視聴した DVD から、駐在保健師活動についてレポートを作成し次週提出する。(1.5 時間)	
8	公衆衛生看護活動対象の特性（個人・家族・集団・地域・組織）①	予習　教科書 P58-68 の確認（1.5 時間） 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認（1.5 時間）	
9	公衆衛生看護活動対象の特性（個人・家族・集団・地域・組織）②	予習　教科書 P58-82 の確認（1.5 時間） 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 地域で行う一次予防・二次予防・三次予防を理解する。(1.5 時間)	
10	保健師と公衆衛生看護活動の展開①	予習　教科書 P97-117 の確認 地域における地域診断とは何かを調べる。（1.5 時間） 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認し、グループワークに向けて提示された地域の統計など情報収集する（1.5 時間）	
11	保健師と公衆衛生看護活動の展開②	予習　地域の情報をもとにコミュニティ・アズ・パートナーモデルを活用して考える。(1.5 時間) 復習　グループワークの学びを深めシートを完成させ次週に提出する。(1.5 時間)	
12	地域におけるグループ支援・組織化	予習　教科書 P149-171 の確認。セルフ・ルプ・グループについて調べる。(1.5 時間) 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 地域におけるグループ支援の特徴を理解する（1.5 時間）	
13	公衆衛生看護と産業保健（看護）	予習　教科書 P447-469 の確認。産業保健に従事する感触の役割をしらべる。(1.5 時間) 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 産業保健における保健師・看護師の役割を理解すること（1.5 時間）	ゲストスピーカー
14	公衆衛生看護と学校保健	予習　教科書 P433-446 の確認　学校保健における健康課題と養護教諭の役割を調べる。(1.5 時間) 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認。学校保健における健康課題と地域との連携を考える。(1.5 時間)	
15	社会環境の変化と健康課題	予習　教科書 P69-82 の確認　教科書の図・グラフについて調べる。(1.5 時間) 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認。現代社における健康課題をまとめる。(1.5 時間) 定期試験に向け 15 時間の学習をすること。	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験（DP①）と課題レポート　　試験に向け 15 時間の学習をすること。 ＊2/3 以上の出席が必要	定期試験 80％、課題 20%

授業科目名	公衆衛生看護学演習(看護) (Public Health Nursing (Seminar))				
主担当教員	白井 文恵		担当教員	白井 文恵、関口 敏彰	
科目ナンバリング	PHN412	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 4 限 金曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

母子保健、成人保健、高齢者保健、結核等感染症対策、難病対策、家庭訪問、健康教育、地域組織活動など個人、家族、集団、組織への保健師活動を展開する上で必要な知識や考え方を学修する。

到達目標

1. 事例を通じて、個人、家族、集団、組織への展開を考えることができる。〈DP①④〉
2. 保健師活動の基本を学び、対象に応じた技術支援方法を自ら考え導き出すことができる。〈DP①④〉
3. 母子保健と高齢者保健分野での健康教育を実践することができる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 保健師活動の基本を理解するために、課題や演習には積極的に取り組むこと。
2. 健康教育は「もりもりひろば」および「介護予防教室」で行うので、対象者の把握に努めること。
3. 新聞・ﾃﾚﾋﾞ・書籍等常に関心を持って情報収集することを心がけること。

教科書

公衆衛生看護活動論　技術演習　第２版　　編集；岩本里織他　出版；クオリティケア

参考書

公衆衛生看護学に関する教科書
公衆衛生がみえる

研究室／オフィスアワー

大巻悦子　西棟 236　随時
関口敏彰　西棟 234　随時
冨田久子　西棟 235　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康教育（母子保健及び高齢者保健）　①健康課題に即したテーマを決定し情報収取する。	地域連携推進事業の「もりもりひろば」「介護予防教室」に参加し、対象者を把握しておくこと。健康課題を考えること。予習・復習それぞれ２時間	関口敏彰
2	決定したテーマについて情報収取する。	健康教育論での学びを発展させること。予習・復習それぞれ２時間	関口敏彰
3	健康教育　②実施計画書作成	健康教育論の学びを発展させること。予習・復習それぞれ２時間	関口敏彰
4	健康教育　③シナリオ作成	グループダイナミクスを発揮すること 予習・復習それぞれ２時間	関口敏彰
5	健康教育　④シナリオを実践してみる	健康教育論の学びを発展させること。 予習・復習それぞれ２時間	関口敏彰
6	健康教育　⑥媒体づくり	健康教育論の学びを発展させること。 予習・復習それぞれ２時間	関口敏彰
7	健康教育　⑦デモストレーションと評価	健康教育の実施に向けて練習した成果を発揮すること。 予習・復習それぞれ２時間	関口敏彰
8	健康教育　⑧健康教育の実践と評価	健康教育実施後の評価と課題検討 （予習復習それぞれ２時間）	関口敏彰
9	母子保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
10	母子保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
11	母子保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
12	母子保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
13	成人保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
14	成人保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
15	成人保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
16	成人保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
17	高齢者保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
18	高齢者保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
19	高齢者保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。	
20	高齢者保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
21	感染症保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
22	感染症保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
23	感染症保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
24	感染症保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	関口敏彰
25	障害者（難病、精神含む）保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 ICFについて復習しておくこと。 （予習・復習それぞれ２時間）	
26	障害者（難病、精神含む）保健活動に関する事例検討	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
27	障害者（難病、精神含む）保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
28	障害者（難病、精神含む）保健活動に関する事例検討と演習	配布資料を確認し、課題を検討すること。 （予習・復習それぞれ２時間）	
29	自分の周りの公衆衛生看護活動を考える	居住地の公衆衛生看護活動を調べ具体的にまとめてくること。(予習・復習それぞれ２時間)	
30	自分の周りの公衆衛生看護活動を考える	居住地の公衆衛生看護活動を調べ具体的にまとめてくること。(予習・復習それぞれ２時間)	

成績評価方法と基準	割合
1.健康教育内容・発表の評価〈DP①④〉 2.レポートおよび各保健領域におけるグループワーク評価〈DP①④〉 4/5 以上の出席が必要	1.50% 2.50%

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ(看護)(Public Health Nursing Activities Ⅰ)				
主担当教員	白井　文恵		担当教員	白井　文恵	
科目ナンバリング	PHN413	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

公衆衛生看護活動の展開過程を通して、地域で生活する人々（個人・家族・集団）への健康問題や生活支援についての具体的な方法を学ぶ。行政機関（都道府県・市町村）における地域看護活動の基本的な考え方と保健師の活動の実際を理解する。地域看護活動論Ⅰでは、主として母子保健、高齢者保健、感染症保健について学修する。

到達目標

人々が自らの健康問題を解決するための支援方法について、対象別の「保健指導」を理解し、保健師に求められる基本的な知識と技術を習得することにより、地区活動の基本と展開方法について理解する。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

公衆衛生看護学概論を基礎に保健師に必要な具体的な活動を学ぶ科目です。また、公衆衛生看護の視点は看護師においても重要です。保健師課程の希望者以外の学生も履修してください（公衆衛生看護活動論Ⅱも必ず履修すること）。

教科書

荒賀直子、後閑容子編集「公衆衛生看護学」インターメディカル（＊１年次使用）
尾形英雄監修「沖田くんのタイムスリップ　」財団法人結核予防会
プリント教材を配布

参考書

大阪公衆衛生協会編　「地域保健ノート」
厚生統計協会編　「国民衛生の動向」「国民福祉の動向」厚生統計協会
内閣府編　「高齢社会白書」佐伯印刷
内閣府「少子化社会白書」佐伯印刷
公衆衛生がみえる　：医療情報科学研究所編集；メディックメディア発行

研究室／オフィスアワー

研究室　（事前に連絡のこと）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	公衆衛生看護活動論の概要	予習　シラバス、教科書 P252～271、292～312、363～394 を確認（2 時間） 復習　授業をもとにシラバス・教科書の確認 １回目から１５回目を通じ、新聞等を常に確認し、情報を収集すること。（2 時間）	
2	母子保健の動向	予習　教科書の確認復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
3	母子保健施策と保健師活動	予習　教科書の確認復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
4	母性各期の健康課題と保健指導	予習　教科書の確認復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
5	乳幼児期の成長発達と保健指導	予習　教科書の確認復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
6	健康上のリスクを持つ母子への保健指導	予習　教科書の確認復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
7	高齢者保健の動向	予習　教科書の確認・高齢者に関する報道記事等の情報収集する。 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習 2 時間	
8	高齢者の保健福祉施策と保健師活動 介護保険制度	予習　教科書の確認、介護保険制度の改正について調べる. 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認	
		予習復習各 2 時間	
9	高齢者の生活と保健指導 （高齢者の虐待）	予習　教科書の確認、虐待の報告書（厚労省）を調べる。 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
10	在宅要援護高齢者と保健指導 （認知症高齢者への取り組み）	予習　教科書の確認、成年後見制度について調べる。 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
11	在宅要援護高齢者と保健指導 （地域包括支援センターと介護予防等）	予習　教科書の確認、地域ケアシステムについて調べる。 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
12	感染症保健活動の動向ー感染症保健概論	予習　教科書の確認、配布資料（HIV)の確認。 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認。 予習復習各 2 時間	
13	感染症予防施策保健師活動　①ーおもな感染症と保健師活動	予習　教科書の確認 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
14	感染症予防施策保健師活動　②ー結核に対する保健指導	予習　教科書(沖田君のタイムスリップ）を熟読すること 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	
15	感染症予防施策保健師活動　③ー結核に対する保健指導	予習　教科書・配布資料の確認 復習　授業をもとに配布資料・教科書の確認 予習復習各 2 時間	

成績評価方法と基準	割合
1.筆記試験　　(DP①④) 2.レポート　生活習慣の行動変容に関するレポート。視聴覚教材に関する考察。(DP①④) 2/3 以上の出席が必要	1.　80% 2.　20%

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ(看護) (Public Health Nursing Activities Ⅱ)				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰	
科目ナンバリング	PHN414	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

対象別に、公衆衛生看護活動の目的と計画と展開方法について講義を行う。公衆衛生看護活動の根拠となる法律や施策、社会情勢、死亡率や罹患率などの統計的指標、身体やこころのメカニズム、生活と環境など、対象者を取り巻く種々の要因について述べる。そして対象者、その家族、集団の健康の保持増進と生活支援をする保健師活動について具体例を用いて講義する。公衆衛生看護活動論Ⅱで取り上げる分野は、成人保健、歯科保健、精神保健、障害者(児)保健、難病保健の各分野である。

到達目標

1.対象別の公衆衛生看護活動の考え方と活動方法が理解できる。＜DP1,4＞
2.対象別の公衆衛生看護活動を展開するうえで必要な情報について把握し読み取ることが出来る。＜DP1,4＞
3.活動の根拠となる法律や制度について理解できる。＜DP1＞
4.予防活動の対象となる疾患のメカニズムについて理解する。＜DP1,4＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

公衆衛生看護の視点は看護師においても重要です。保健師課程の希望者以外の学生も履修して結構です。公衆衛生看護活動論Ⅰも必ず履修すること。

教科書

荒賀直子ら「公衆衛生看護学」インターメディカル

参考書

厚生の指標　増刊　国民衛生の動向　厚生労働統計協会
厚生の指標　増刊　国民の福祉と介護の動向　　厚生労働統計協会

研究室／オフィスアワー

関口敏彰　西棟 634　随時
冨田久子　西棟 235　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康寿命と健康格差	公衆衛生看護学概論の内容を復習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
2	メタボリックシンドローム対策としての特定健康診査・特定保健指導	特定健康診査と特定保健指導の実施方法を各自居住する自治体について調べておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
3	特定保健指導における保健師活動の実際	特定健康診査と特定保健指導について復習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
4	がん対策における保健師活動の実際	がん検診の実施体制や受診勧奨の内容を各自居住する自治体について調べておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
5	禁煙対策における保健師活動の実際	事前に配布する禁煙に関するプリントを用いて予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
6	飲酒と栄養対策における保健師活動の実際	事前に配布する飲酒対策と栄養摂取に関するプリントを読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
7	歯科保健の事業と支援	市町村の歯科保健事業として何が行われているか、各自居住する自治体について調べておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
8	国際保健医療福祉行政の現状と協力体制	WHO や JICA などの国際保健の実施機関、二国間協力や多国間協力などの仕組みに関する資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
9	難病患者の生活の現状と社会保障制度	難病保健活動とはどのような活動であるかを教科書等をよく読みまとめておくこと。 【予習・復習で４時間】	
10	難病患者への社会支援と保健師活動（１)【成人難病患者への支援】	「公衆衛生看護活動論　技術演習第２版」の難病保健活動の事例を読み、具体的な活動を学んでおく。 【予習・復習で４時間】	
11	病患者への社会支援と保健師活動（２)【小児難病患者への支援】	「公衆衛生看護活動論　技術演習第２版」の難病保健活動の事例を読み、具体的な活動を学んでおく。 【予習・復習で４時間】	
12	精神・障害者（児）保健の動向	精神障害者に対する法律や制度の歴史を学んでおく。また三障害及び発達障害の特性等違いを確認しておくこと。 【予習・復習で４時間】	
13	精神・障害者(児)の生活特性と保健師活動（１）【身体障害】	身体障害者手帳の内訳を予習し、その特性を学んでおくこと。 【予習・復習で４時間】	
14	精神・障害者(児)の生活特性と保健師活動（２）【知的障害】	知的障害者手帳の種別や内容について予習し、その特性を学んでおくこと。 【予習・復習で４時間】	
15	精神・障害者(児)の生活特性と保健師活動（３）【精神障害】	精神障害者保健福祉手帳について予習し、利用できる社会保障制度を学んでおくこと。 【予習・復習で４時間】	

成績評価方法と基準	割合
1.筆記試験＜DP①④＞ 2.レポート・提出物・授業への意欲的参加度＜DP①④＞	1.70% 2.30%

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅲ(看護)（Public Health Nursing Activities Ⅲ）				
主担当教員	辻　立世		担当教員	辻　立世、西内　恭子	
科目ナンバリング	PHN415	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限 水曜 4 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

（辻　立世）
学校保健の意義と目的及び学校における保健教育と保健管理について学修する。学校保健推進の中心的役割を果たす養護教諭の職務の特質や保健室の機能を理解する。学校保健活動の根拠となる学校保健安全法並びに教育関連法規について理解する。また、いじめ、児童虐待、不登校、心の問題等の現代的健康課題への対応を学修する。保健師が学校保健活動を理解し、学校保健と地域保健の連携について考察できるよう学修する。

（西内　恭子）
産業保健では、その目指すものを認識するとともに職場環境と労働者との相互作用により生ずる健康問題を理解して、働く人々が安全で快適な労働生活を送ることができ、企業の活性化にも繋がるよう支援する産業保健活動の基礎的な知識を学修する。また、社会・経済状況の変化に影響される労働者の健康課題やその対策についてクリティカルに考え、さらに産業看護職の役割と職務について考察できるように学修する。

到達目標

＜学校保健＞
1.　学校保健の意義と目的及び学校における保健教育と保健管理を理解する。〈DP①〉
2.　学校保健活動の推進に必要な学校保健安全法及び関連法規を理解し、教育者としての養護教諭の職務の特質・保健室の機能を理解する。〈DP①〉
3.　発達段階に応じた児童生徒の健康の実態や現代的健康課題への対応の仕方を理解する。〈DP①〉
4.　「チームとしての学校のあり方」を理解し、学校保健と地域保健の連携ができる能力を習得する。〈DP①〉

＜産業保健＞
1.産業保健の目指すものを理解し、その重要性を認識する。〈DP①〉
2.産業保健の動向と現状を理解し、健康課題を認識する。〈DP①〉
3.産業保健の推進体制と推進活動に係わる基礎知識を習得する。〈DP①〉
4.産業保健における看護職の役割と職務を理解する。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

＜学校保健＞
1.　講義・グループ演習は積極的に参加する。
2.　学校保健活動は、教育として推進していることを理解し、学校保健と地域保健との連携のあり方を考える。
＜産業保健＞
1.　レポート課題は期日までに提出する。
2.　講義には積極的に参加する。

教科書

＜学校保健＞
①学校保健概論　光生館　渡辺正樹編著
②国民衛生の動向

＜産業保健＞
なし

参考書

＜学校保健＞
新養護概説　少年写真新聞社　采女智津江　現代的健康課題マニュアル　文部科学省
教職員のための健康相談および保健指導の手引き　文部科学省

＜産業保健＞
国民衛生の動向
公衆衛生看護学　中央法規出版

研究室／オフィスアワー

〇講義日、非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学校保健の目的、養護の本質と概念、養護教諭制度の変遷	予習：テキストで予習（2 時間） 復習：学校保健歴史・養護教諭精度の変遷を確認（2 時間）	辻
2	学校保健の領域、保健管理・保健指導と養護教諭の専門的役割	予習：テキストで予習（2 時間） 復習:学校教育における学校保健活動を確認（2 時間）	辻
3	子どもの健康の実態と現代的健康課題と養護教諭の役割（養護実践）に向けた取り組み 学校における健康観察・健康相談等	予習：新聞等で最近の子どもの健康問題を理解し講義に臨む（2 時間） 復習：子どもの健康の実態と養護教諭の役割を理解（2 時間）	辻
4	現代的健康課題への対応（続）保健指導（健康教育）と養護教諭の専門的役割 児童虐待の早期発見と対応、学校・地域関係機関との連携	予習：新聞等で最近の子どもの健康問題を理解し講義に臨む（2 時間） 復習：現代的健康課題への対応児童虐待防止のための学校地域の連携の仕方を習得する。保健指導案作成（レポート課題）（2 時間）	辻
5	保健管理（健康診断と事後措置）、健康診断と学校保健安全法について 現代的健康課題・保健指導（演習）	予習：テキストで健康診断について予習 現代的健康課題保健指導案（2 時間） 復習：就学時の健康診断と保健師の役割を理解（2 時間）	辻
6	保健管理（安全管理・危機管理）・学校救急看護 現代的健康課題・健康教育（演習）	予習：テキストで学校安全・危機管理・学校事故への対応等について予習（2 時間） 復習：安全管理・危機管理と学校救急看護を理解（2 時間）	辻
7	保健管理（学校感染症対策・学校環境衛生） 学校給食と食育について・食物アレルギーへの対応	予習：看護学で学習した関連分野を復習して講義に臨む（2 時間） 復習：学校保健安全法及び文部科学省の基準を理解する（2 時間）	辻
8	障がい児のための教育（特別支援教育）、特別支援教育における医療的ケアと看護・地域との連携	予習:看護学で学習した障がい者への対応(2 時間） 復習：障がいを持つ子どもの理解と地域保健との連携を確認（2 時間）	辻
9	オリエンテーション、 地域保健における産業保健の位置づけ	予習：産業保健について調べる（2 時間） 復習：キーワードの確認（2 時間）	西内
10	産業保健の目標	予習：産業保健の目標について情報収集し講義に臨む（2 時間） 復習：キーワードの確認（2 時間）	西内
11	産業保健の歴史	予習：産業保健の歴史について情報収集し講義に臨む（2 時間） 復習：キーワードの確認（2 時間）	西内
12	労働者の健康問題の動向と現状 中間レポートの課題を提示する	予習：前回の授業から労働者の健康課題について過去と現代との違いを考えてくる（2 時間） 復習：キーワードの確認（2 時間）	西内
13	中間レポートの発表、 企業と健康	予習：中間レポートの作成（2 時間） 復習：キーワードの確認（2 時間）	西内
14	産業保健活動の課題と展望	予習：過労死と過労自殺について情報収集し講義に臨む（2 時間） 復習：キーワードの確認（2 時間）	西内
15	労働衛生の基礎知識、 労働衛生行政と管理業務 最終レポートの課題提示	予習：労働衛生管理業務について情報収集し講義に臨む（2 時間） 復習：最終レポートの作成（2 時間）	西内

成績評価方法と基準	割合
＜学校保健＞ ①レポート及びテストで評価する。(50 点満点)〈DP①〉 ＜産業保健＞ ②中間レポート〈DP①〉 ③最終レポート〈DP①〉	①50% ②20% ③30%

授業科目名	公衆衛生看護活動論Ⅳ(看護)（Public Health Nursing Activities Ⅳ）				
主担当教員	白井　文恵		担当教員	白井　文恵、菊川　縫子	
科目ナンバリング	PHN416	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

地球環境の変化（地球の温暖化・オゾン層の破壊・砂漠化・酸性雨・森林の減少・生物種の減少）が健康へ及ぼす影響を学び、健康に悪影響がみられない環境の基準を把握し、環境の評価を学ぶとともに、近年「地球の温暖化」が原因ではないかと思われる、巨大台風・山火事・洪水被害などについても考えてみる。物理的要因としては、気温（高温・低温）・湿度・気流・輻射熱の温熱の４要因の他、気圧（高気圧・低気圧）、騒音、振動、放射線を理解する。そして、わが国の過去の公害事件を学び、現状の大気汚染、水質汚濁、土壌汚染と比較評価し、その意義を理解する。また、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会（＝循環型社会）つくろうとする３Ｒ（Reduce,Reuce,Recycle）を学び理解する。その上で、環境保健を学ぶ必要性を理解した上で、保健師活動として疾病予防対策や、健康保持増進を考える。また、災害看護の定義・目的を理解し、災害予防対策期や災害応急対策、災害復旧・復興対策期における保健師の機能や、国際的な広がりを持つ健康課題に対処するために各国の協力のもとに行われる国際保健医療活動の意義と必要性について理解する。さらには、国民の生命と健康を守る歴史を拓く保健師活動について理解を深める。

到達目標

１．地球環境の変化が健康に及ぼす影響を理解する。(DP①)
２．気温・気圧・騒音の健康影響を理解する。(DP①)
３．過去の公害の健康影響を学び、今後の疾病予防対策に役立てる。(DP①)
４．放射線の基礎知識および必要性、放射線が健康に及ぼす影響について理解する。(DP①)
５．３Ｒ（Reduce･･･廃棄物の発生抑制,Reuce･･･再使用,Recycle･･･再資源化）について理解する。(DP①)
６．　災害対応策として予防期、発生時期、復旧・復興期それぞれの保健師活動について理解する。(DP①)
７．国際看護活動の意義と必要性について理解する。(DP①)
８．国民の生命と健康を守ることとは何かを理解する。(DP①)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．日頃から新聞・TV・ラジオなどの報道に興味を持って見たり聞いたりする。
２．自然界の変動に興味を持つ（気温、大気、水温など）こと。

教科書

随時プリントを配布する

参考書

書籍名：シンプル衛生公衆衛生学 2018
著者　：鈴木庄亮、久道　茂、小山　洋、辻　一郎
出版社：南江堂
国民衛生の動向 2019/2020　　厚生労働統計協会
復刻版「14 年目の訪問」森永ひ素ミルク中毒追跡調査の記録・・・コピーして配布
その他不足があれば随時配布する。

研究室／オフィスアワー

大巻悦子　　西棟 236　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	地球環境の変化が健康へ及ぼす影響について	予習：教科書の確認（2 時間） 復習：健康被害の現状と課題を考える（2 時間）	菊川
2	環境の把握と評価について気温・気圧について	予習：教科書の確認（2 時間） 復習：授業をもとに教科書確認（2 時間）	菊川
3	騒音・振動について	予習：教科書の確認（2 時間） 復習：授業をもとに教科書確認（2 時間）	菊川
4	放射線の健康影響について	予習：教科書および報道を読み聴く（2 時間） 復習：授業をもとに正しい知識下で、その重要性とリスク度を考える（2 時間）	菊川
5	大気汚染について	予習：教科書の確認（2 時間） 復習：授業をもとに地球規模で現状と課題について考える（2 時間）	菊川
6	水質汚濁及び上水道・下水道について	予習：教科書の確認（2 時間） 復習：授業をもとに現状と課題について考える（2 時間）	菊川
7	土壌汚染について ３Ｒについて	予習：教科書の確認（2 時間） 復習：授業をもとに現状と課題について考える（2 時間）	菊川
8	子どもの虐待ー児童虐待予防を踏まえた母子保健活動	予習：教科書の確認,公衆衛生看護活動論Ⅰの確認 復習：授業をもとにプリントと教科書確認 予習復習各 2 時間	
9	子どもの虐待ーリスクを持つ母子への支援	予習：事前に入手可能な情報収集をしておくこと。 配布資料およびマスコミなどで取り上げられた事件を調べる。 復習：授業をもとにプリント確認 予習復習各 2 時間	
10	リスクを持つ母子への支援ー社会的支援を必要とする生徒へのアプローチ	予習：事前に配布資料の確認と疑問点（格差社会）を考える。 復習：授業をもとにプリント確認 予習復習各 2 時間	
11	国際保健の現状と課題	予習:JICA の活動と授業でとりあげる開発途上国について調べる。 復習・課題：国際保健活動の場と対象を明確にし、現状と課題を考えまとめる。次週に提出。 予習復習各 2 時間	ゲストスピーカー
12	公衆衛生看護活動論総括①	予習：「14 年目の訪問」森永ヒ素ミルク中毒事件を調べる 復習：授業をもとに歴史的背景を考える 予習復習各 2 時間	
13	公衆衛生看護活動論総括②	予習：「14 年目の訪問」を読み込む。 復習：授業をとおして問題の重要性を考える。 予習復習各 2 時間	
14	公衆衛生看護活動論総括 ③	予習：公害救済のモデル「恒久救済」を読み解く。 復習・課題：「１４年目の訪問」を分析し課題を抽出する。次週に提出 予習復習各 2 時間	
15	公衆衛生看護活動論総括 ④	予習：13,14 回目の講義を通して、保健師活動（公衆衛生看護）の原点を考える。 復習：グループワークの結果を受け、保健師活動（公衆衛生看護）の原点を考察しまとめる。 予習復習各 2 時間間）	

成績評価方法と基準	割合
（菊川） １．レポート（DP①） ２．定期試験（DP①） （大巻） １、筆記試験（DP①） ２、レポート等提出物（DP①） 2/3 以上の出席が必要。　点数は（菊川＋大巻）÷2 で計算	菊川 試験 80% レポート 20% 大巻 試験 70% レポート等 30%

授業科目名	公衆衛生看護管理論(看護)（Management of Public Health Nursing）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰	
科目ナンバリング	PHN417	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

地域で公衆衛生看護活動を展開するうえで必要な知識、技能について学修する授業である。地域で生活する個人、家族、地域の特性を把握、アセスメントし、地域の健康問題や健康課題を抽出する地域診断の概念と方法論、自治体における公衆衛生看護活動の計画立案、実施、評価、改善の一連の流れ、公衆衛生看護活動を展開するうえで必要な管理（マネジメント）、平常時、災害時を含めた健康危機管理、地域ケアシステム等事例をまじえて講義する。

到達目標

1.　地域で生活する個人、家族、地域の特性をアセスメントするための地域診断について理解することができる。〈DP①〉
2.　地域の健康課題、健康問題について考えることができる。〈DP①〉
3.　公衆衛生看護活動の計画立案、実施、評価、改善について理解する。〈DP①〉
4.　公衆衛生看護活動を展開する上で必要な組織管理、事業・業務管理、人材育成、人事管理、社会資源管理、事例管理、情報管理、予算管理、リスクマネジメント、健康危機管理について理解する。〈DP①〉
5.　公衆衛生看護活動をより有効に展開させるための地域ケアシステムについて理解する。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

保健師課程専攻学生対象の講義である

教科書

荒賀直子ら　公衆衛生看護学　インターメディカル
　平野かよ子　保健学講座　公衆衛生看護管理論　メヂカルフレンド
　必要時、プリント教材を配布する

参考書

厚生の指標　増刊　国民衛生の動向
「標準保健師講座 1　公衆衛生看護概論」　医学書院　執筆：標美奈子他
「標準保健師講座 2　公衆衛生看護技術」　医学書院　執筆：中村裕美子他
「標準保健師講座 3　対象別公衆衛生看護活動」　医学書院　執筆：中谷芳美他

研究室／オフィスアワー

冨田久子　西棟 235　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	公衆衛生看護活動の目的と公衆衛生看護管理の目的	公衆衛生看護活動の目的や理念について予習しておくこと。 プリシード・プロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて復習しておくこと。 （予習・復習 3 時間）	
2	地域診断の過程を学ぶ	地域診断の必要性やどのような情報が必要かを予習しておく。（予習・復習 3 時間）	
3	地域診断のための情報収集とアセスメント、分析について実際を知る	情報を収集し、分析する方法について予習しておくこと。（予習・復習 3 時間）	
4	地域診断から健康課題を導く	健康課題に対する対策を考えてくること。（予習・復習 3 時間）	
5	地域の情報のアセスメントに基づく健康課題	授業内に終わらなかった課題に取り組んでおくこと。（予習・復習 3 時間）	
6	公衆衛生看護活動の計画立案（健康課題から必要な事業を考え計画する）	居住地の市町村の事業計画について事前に調べておくこと。（予習・復習 3 時間）	
7	公衆衛生看護活動の計画立案とその後の実施・評価(PDCA サイクルの活用)	抽出された健康課題に対し、公衆衛生看護活動の計画を考えておくこと。（予習・復習 3 時間）	
8	保健福祉計画の策定における保健師の役割（パブリックコメントの活用）	教科書の内容を予習しておくこと。(予習・復習 3 時間）	
9	保健福祉計画の策定と予算（実際の保健事業の予算を考える）	教科書の内容を予習しておくこと。(予習・復習 3 時間）	
10	公衆衛生看護管理(1)【運営・人事管理】	教科書の内容について予習しておくこと。（予習・復習 3 時間）	
11	公衆衛生看護管理(2)【情報・ケアの質管理】	教科書の内容について予習しておくこと。（予習・復習 3 時間）	
12	健康危機管理(1)【感染症】	授業内資料について予習しておくこと。(予習・復習 3 時間）	
13	健康危機管理(2)【食中毒】	授業内資料について予習しておくこと。　（予習・復習 3 時間）	
14	健康危機管理(3)【災害】	授業内資料について予習しておくこと。　（予習・復習 3 時間）	
15	地域ケアシステムづくり	授業内資料について予習しておくこと。　（予習・復習 3 時間） 定期試験に向けて 15 時間の学習	

成績評価方法と基準	割合
1、筆記試験(テスト勉強 15 時間)〈DP①〉 2、課題等提出物・授業への意欲的参加度〈DP①〉	1　80% 2　20%

授業科目名	保健医療福祉行政論(看護)（Health Care and Welfare Administration）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰	
科目ナンバリング	PHN417	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

保健医療福祉行政は、地域に暮らす人々が健康で安心して暮らせるための「地域づくり」であり、それを推進する仕組みである。保健師の活動は、この保健医療福祉行政を具体化する実践である。保健医療福祉行政と保健師活動を連動して理解することを目的とする。

到達目標

1. 保健医療福祉行政の全体像を把握することができる。〈DP1〉
2. 保健医療福祉行政の法的基盤とその目標が理解できる。〈DP1〉
3. 保健医療福祉行政と公衆衛生の専門職としての保健師の役割を理解できる。〈DP1〉
4. 保健医療福祉の地域づくりを推進する行政のしくみと機能を理解できる。〈DP1〉
5. 行政における政策化のプロセスと方法論を学修する。〈DP1〉
6. 保健医療福祉の地域づくりを推進する保健師活動を学修する。〈DP1〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

保健師活動の対象は全ての世代にわたっており、全ての法律の基盤は日本国憲法である。保健医療福祉行政の全体像を把握し、法や制度の位置づけを理解することが必要。
地域での主な法的基盤を復習するとともに、現代社会における課題を考えるため情報を収集すること。

教科書

これからの保健医療福祉行政論　第２版　：星旦二・麻原きよみ・編集；日本看護協会出版会
公衆衛生がみえる：医療情報科学研究所編集；メディックメディア
随時必要な資料を配布する

参考書

公衆衛生看護学（2 年次概論時に購入済）

研究室／オフィスアワー

大巻悦子　西棟 236　随時
関口敏彰　西棟 234　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	保健医療福祉行政の基本	公衆衛生看護学概論で学修したヘルスプロモーション、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱで学修した法律について復習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
2	保健医療福祉行政を推進する行政の仕組みと機能	事前に指定する教科書の範囲を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
3	行政における保健師の役割	事前に渡す「保健師活動指針 活用ガイド」の指定する範囲を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
4	保健師の活動とその変遷	事前に渡す資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
5	健康問題に対する保健師活動	事前に渡す資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
6	行政における保健師活動の特徴	事前に指定する教科書の範囲を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
7	保健医療福祉行政における計画	事前に指定する計画の概要版を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
8	保健医療福祉行政の計画の実際	事前に指定する計画（範囲も事前に指定）を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
9	保健医療福祉財政における財政の理念と仕組み	事前に指定する教科書の範囲を予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
10	保健医療福祉の政策決定への住民参加	事前に配布する資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
11	保健師活動における「地域づくり」	事前に配布する資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
12	保健師活動とソーシャル・キャピタル	事前に配布する資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
13	保健師活動における地域組織の育成	事前に配布する資料を読んで予習しておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰
14	地域ケアシステムの実際	地域の保健・医療・福祉・介護の主なサービスについて復習しておくこと。 【復習で４時間】	関口敏彰
15	地域ケアシステムの実際__共有とまとめ	地域ケアシステムの現状を調べてまとめておくこと。 【予習・復習で４時間】	関口敏彰

成績評価方法と基準	割合
1. 定期テスト〈DP1〉	1. 80%
2. レポート等の提出物、授業への意欲的参加度〈DP1〉	2. 20%

授業科目名	公衆衛生看護学実習(看護)（Public Health Nursing Practice）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰	
科目ナンバリング	PHN418	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	4	必修・選択	選択

授業概要

地域で生活する個人、家族、集団を対象とした疾病予防と健康増進に関する公衆衛生看護活動の理解を深め、保健師の機能である実態把握、計画策定・評価、相談・支援、教育・普及啓発、実際の調整・ネットワーク機能などを実践的に学ぶ。また公衆衛生看護活動を展開していくうえで必要なシステムや施策について考える力を養う。

到達目標

１）地域の健康課題を明らかにし、解決・改善する方向性を見出すことができる。DP①②③④
２）健康課題を解決、改善し健康増進能力を高める活動の展開について理解し、その一部を実施することができる。DP①②③④
３）地域の人々や関係機関との協働および社会資源の活用について理解できる。DP①②③④
４）地域の健康危機管理について理解できる。DP①②③④
５）公衆衛生看護活動について他者に伝えることができる。DP①②③④
６）実習を通して健康課題の対応策を考え地域看護計画を立案し、ＨＩＡを用いて健康影響評価を行い、計画の根拠について明文化することができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１、３年次までの各領域に関する復習を行い、地域看護学領域に関しては、概論から活動論、保健福祉行政論を十分に学習して臨むこと。
２、主題実習Ⅰで行った地域診断を本実習で確認・検討を重ねる。
３、訪問・面接技術の復習・練習をしておくこと。
４、実習中に行う健康教育の準備工程を十分に持ち臨むこと。

教科書

公衆衛生看護学　：インターメディカル(1 年次購入）
国民衛生の動向（2 年次購入）
これからの保健医療福祉行政論（3 年次購入）

参考書

福岡地区小児科医会　乳幼児保健委員会編集　乳幼児健診マニュアル：医学書院
平岩幹男著　乳幼児健診ハンドブック：診断と治療社
津下一代著　相手の心に届く保健指導のコツ：東京法規出版
宮崎美砂子、北山美津子、春山早苗、田村須賀子編集　「公衆衛生看護学　第 2 版　総論・各論 1・2　」　日本看護協会出版会
公衆衛生がみえる：医療情報科学研究所編集；メディックメディア発行（3 年次購入）
地域保健ノート　：大阪公衆衛生協会

研究室／オフィスアワー

担当教員に確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	実習期間　　4 年次前期	1. 実習施設で行われる事業について事前に学習する。 2. 主題実習Ⅰで行った地域診断について、不足している情報を収集し、完成させる。 3. HIA を活用し地域診断から明らかになった健康課題について、事業計画を立案し、評価について考える。	関口敏彰
	実習場所　　大阪府内保健所および市町村保健センター	学修目標に従い、実習要項を確認すること。実習施設で行う実習内容について情報収集すること。健康教育の実施については、実習前から計画的に行い、実習施設指導者と連携をはかりつつ、十分に練習を重ねること。	関口敏彰
	実習方法　実習施設の事業予定に従い、担当保健師の指導の下に行う。詳細は公衆衛生看護活動論実習要項を参照	グループカンファレンスを十分に行い、情報を共有すること。	関口敏彰

成績評価方法と基準	割合
（DP①②③④） 実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する 実習は全日出席が前提である	100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):基礎看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美、伊津美　孝子、住田　陽子、越智　奈穂美、野田部　恵、小西　由起子	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。DP①②③④
2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。DP①②③④
3. 主題（テーマ）の意義を説明することができる。DP①②③④
4. 主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。DP①②③④
5. 主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。DP①②③④
6. 実現可能な実習計画を立案することができる。DP①②③④
7. 計画のもとに主体的に実践することができる。DP①②③④
8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照）。
2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3. 領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4. 公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）チーム医療 2）患者の夜間のニーズ 3）外来看護	担当教員の指示を受ける	基礎グループ教員全員
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2）手術室の看護	担当教員の指示を受ける	
	上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む		
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期から在宅までの多職種連携 2）看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ，ＯＴ，ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2） 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。DP①②③④	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):【急性】成人看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、久木元　由紀子 宮本　佳子、小林　妙子	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1. これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。。〈DP①③④〉
2. 各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。〈DP①③④〉
3. 主題（テーマ）の意義を説明することができる。〈DP①②③④〉
4. 主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。〈DP①〉
5. 主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。〈DP①②③④〉
6. 実現可能な実習計画を立案することができる。〈DP①③④〉
7. 計画とのもに主体的に実践することができる。〈DP①②③④〉
8. 一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。〈DP①②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照)。
2. 実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3. 領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4. 公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5. 各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6. 各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）看護管理 2）チーム医療 3）患者の夜間のニーズ 4）外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期から在宅までの多職種連携 2）看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ，ＯＴ，ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2）療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。 〈DP①②③④〉	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):【慢性】成人看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	藤本 陽子		担当教員	藤本 陽子、澤田 悦子、高木 みどり	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1.これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。DP①②③④
2.各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。DP①②③④
3.主題（テーマ）の意義を説明することができる。DP①②③④
4.主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。DP①②③④
5.主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。DP①②③④
6.実現可能な実習計画を立案することができる。DP①②③④
7.計画のもとに主体的に実践することができる。DP①②③④
8.一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照）。
2.実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3.領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4.公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5.各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6.各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1)慢性期の看護（病棟から在宅までの多職種連携による地域医療連携・退院支援等） 2 ）看護マネジメント（緩和ケア・感染管理認定看護師や病棟看護師のシャドウ） 3）チーム医療（緩和ケア・感染対策・糖尿病透析予防外来・ケースカンファレンス） 4）看護専門外来（糖尿病看護・緩和ケア・ストーマ）の看護 上記に、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU)	担当教員の指示を受ける	
	・急性期病棟(術後急性期の看護） 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む		
3	成人看護学　慢性期 1)慢性期の看護（病棟から在宅までの多職種連携による地域医療連携・退院支援等） 2 ）看護マネジメント（緩和ケア・感染管理認定看護師や病棟看護師のシャドウ） 3）チーム医療（緩和ケア・感染対策・糖尿病透析予防外来・ケースカンファレンス） 4）看護専門外来（糖尿病看護・緩和ケア・ストーマ）の看護 上記に、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ，ＯＴ，ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携（チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2） 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。DP①②③④	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):老年看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	南部 登志江		担当教員	南部 登志江、外村 昌子、 川添 英利子	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1.これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。DP①②③④
2.各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。DP①②③④
3.主題（テーマ）の意義を説明することができる。DP①②③④
4.主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。DP①②③④
5.主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。DP①②③④
6.実現可能な実習計画を立案することができる。DP①②③④
7.計画のもとに主体的に実践することができる。DP①②③④
8.一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照)。
2.実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3.領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4.公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5.各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6.各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）看護管理 2）チーム医療 3）患者の夜間のニーズ 4）外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期から在宅までの多職種連携 2）看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ．ＯＴ．ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2） 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。DP①②③④	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):母性看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	齋藤 雅子		担当教員	齋藤 雅子、家曽 美里、樋口 優子	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1.これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。(DP1,2,3,4)
2.各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。(DP1,3,4)
3.主題（テーマ）の意義を説明することができる。(DP1,4)
4.主題（テーマ）に関する知識や先行研究を検索することができる。(DP1,4)
5.主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。(DP1,2,3,4)
6.実現可能な実習計画を立案することができる。(DP1,3,4)
7.計画のもとに主体的に実践することができる。(DP1,2,3,4)
8.一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。(DP1,2)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位を修得しておかなければ履修できない（学生便覧、看護学臨地実習要項参照)。
2.実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3.領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4.公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5.各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6.各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）看護管理 2）チーム医療 3）患者の夜間のニーズ 4）外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・集中治療室(ICU) 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管　理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期の看護 2）回復期の看護	担当教員の指示を受ける	
	大阪府急性期・総合医療センター12 階東西病棟を中心に実習 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害訓練参加などを含む		
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護を病棟で実施する。 2）看護マネジメント・看護管理を体験する。 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（多職種連携)、認知症対応グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）受け持ち実習 妊産褥婦と新生児への看護の統合 ハイリスクの妊産褥婦と新生児への看護 2）次世代育成実習 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護を含む。	担当教員の指示を受ける	母性看護学教員
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもと家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響。 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施。	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2）療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する 3）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
1.担当教員が評価票に基づき、実習態度・実習内容・実習記録など総合的に評価する。(DP1,2,3,4,) ＊4/5 以上の出席が必要である。	1.母性看護学/主題実習評価表に基づく。 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):小児看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	大熊 淳子		担当教員	大熊 淳子、徳島 佐由美、安井 渚	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1.これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。DP①②③④
2.各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。DP①②③④
3.主題（テーマ）の意義を説明することができる。DP①②③④
4.主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。DP①②③④
5.主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。DP①②③④
6.実現可能な実習計画を立案することができる。DP①②③④
7.計画のもとに主体的に実践することができる。DP①②③④
8.一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照）。
2.実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3.領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4.公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5.各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6.各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）看護管理 2）チーム医療 3）患者の夜間のニーズ 4）外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期から在宅までの多職種連携 2）看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ，ＯＴ，ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 小児と家族の発達段階に応じた看護	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携（チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2） 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。DP①②③④	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):精神看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人、矢野　秀蔵	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1.これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。DP①②③④
2.各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。DP①②③④
3.主題（テーマ）の意義を説明することができる。DP①②③④
4.主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。DP①②③④
5.主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。DP①②③④
6.実現可能な実習計画を立案することができる。DP①②③④
7.計画のもとに主体的に実践することができる。DP①②③④
8.一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照）。
2.実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3.領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4.公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5.各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6.各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）看護管理 2）チーム医療 3）患者の夜間のニーズ 4）外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期から在宅までの多職種連携 2）看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ，ＯＴ，ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携（チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2） 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。 原則として全出席が評価の対象。DP①②③④	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):在宅看護領域 (Theme-oriented Practicum Ⅰ)				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、森本 喜代美、 岩佐 由美	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1.これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。①
2.各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。①
3.主題（テーマ）の意義を説明することができる。①
4.主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。①
5.主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。①②④
6.実現可能な実習計画を立案することができる。①②③④
7.計画のもとに主体的に実践することができる。①②③④
8.一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照）。
2.実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3.領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4.公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5.各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6.各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）看護管理 2）チーム医療 3）患者の夜間のニーズ 4）外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期から在宅までの多職種連携 2）看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ．ＯＴ．ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携(チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2） 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価票に基づき評価する。DP1~4 原則として全出席が評価の対象。	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅰ(看護):公衆衛生看護領域（Theme-oriented Practicum Ⅰ）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰、白井　文恵	
科目ナンバリング	TOP501	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本実習は、3 年次までに修得した知識や技術あるいは臨地実習における学修を統合し、各自が掲げた主題（テーマ）を主体的に追究・実践することにより、看護実践能力育成に繋がることを目指したものである。

学生は、過去の学修を振り返り、各領域（基礎・成人急性・成人慢性・老年・母性・小児・精神・在宅・公衆衛生）が定めた多様なサブカテゴリーを基に主題（テーマ）の焦点を絞り、実習希望領域を選択する。主題（テーマ）はこれまでの実習における制限や限界をこえて視野を拡大したもの、経験を活かしてさらに専門性を深めるもの、今後の看護実践能力に繋がるようなものについて焦点を絞る。これは卒業研究と連携することが可能である。
学生は、確定した領域の指導のもと、各自の主題（テーマ）に応じた実習計画を立案し、実践する。さらには、一連の過程をまとめ、プレゼンテーションする。
詳細は別途、全体オリエンテーションおよび各領域オリエンテーションで説明する。

到達目標

1.これまでの学修経験を統合して課題を認識することができる。DP①②③④
2.各自が選択した領域のサブカテゴリーを基に主題（テーマ）を絞ることができる。DP①②③④
3.主題（テーマ）の意義を説明することができる。DP①②③④
4.主題（テーマ）に関する知識や先行研究を活用することができる。DP①②③④
5.主題（テーマ）に関する実践現場の現実を認識することができる。DP①②③④
6.実現可能な実習計画を立案することができる。DP①②③④
7.計画のもとに主体的に実践することができる。DP①②③④
8.一連の過程をまとめ、プレゼンテーションすることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.主題実習Ⅰは、専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位を修得しておかなければ履修できない。なお、履修しても実習で不可となった領域は選択できない。また、在宅看護論実習が当該年度において履修できない学生は、在宅領域での選択は出来ない。
（学生便覧、看護学臨地実習要項参照）。
2.実習領域については、事前に希望調査を行う。学生は希望の 3 領域を選択し、希望調査票に記載し提出する。ただし各領域の担当学生人数を超える場合は、希望の領域で実習できないことがある。
3.領域によって、在宅看護論実習と重なっている時期がある。在宅看護論実習の時期を確認し、領域の選択をする。
4.公衆衛生看護学領域での実習は、保健師課程学生のみが対象となる。
5.各領域、実習内容が異なるため、実習に関する詳細は担当教員の指示に従う。
6.各領域のサブカテゴリーは、下記の「学修内容」参照。

教科書

担当教員の指示を受ける

参考書

担当教員の指示を受ける

研究室／オフィスアワー

担当教員の指示を受ける

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基礎看護学 1）看護管理 2）チーム医療 3）患者の夜間のニーズ 4）外来看護	担当教員の指示を受ける	
2	成人看護学（急性期） 1）急性期の看護 ・高度救命救急センター(TCU) ・急性期病棟(術後急性期の看護) 2）手術室の看護 上記に、チーム医療、継続看護、看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
3	成人看護学（慢性期） 1）慢性期から在宅までの多職種連携 2）看護専門外来と認定・専門看護師の役割 上記に、チーム医療、地域医療連携室、専門外来、看護マネジメント、看護管理、災害看護などを含む	担当教員の指示を受ける	
4	老年看護学 1）老年看護学における継続看護(施設や在宅に向けた多職種連携) 2）看護マネジメント・看護管理 ・一般病棟.回復期リハビリテーション病棟（ＰＴ，ＯＴ，ＳＴとの協働)、認知症対応型グループホーム	担当教員の指示を受ける	
5	母性看護学 1）周産期における 妊産褥婦・新生児看護の統合 ２）周産期におけるハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 3）次世代育成支援（地域母子支援） 地域における母子や家族への支援 ＊上記に看護マネジメント・看護管理、災害看護などを含む。	担当教員の指示を受ける	
6	小児看護学 1）健康障害のある子どもとその家族への援助のあり方および、入院生活が子どもと家族に与える影響 2）多職種連携による重症心身障害児への援助のあり方および、対象者の反応(ニーズ)を読み取り一部援助を実施	担当教員の指示を受ける	
7	精神看護学 1）治療の場（病院）を中心とした支援 2）生活の場（地域）を中心とした支援 ・看護、多職種連携（チームアプローチ)、専門性、継続性、アウトリーチ、家族支援、リカバリー、ストレングス等を視点に展開する。	担当教員の指示を受ける	
8	在宅看護論 1）在宅での看護展開を行う 2） 療養者を取り巻く在宅支援の社会資源について学修する ３）精神疾患をもつ在宅療養者の看護について学修する	担当教員の指示を受ける	
9	公衆衛生看護学 1）学校保健 2）産業保健 3）行政保健(地域診断・地域包括支援センター)	担当教員の指示を受ける	大巻悦子 関口敏彰 富田久子

成績評価方法と基準	割合
担当教員が実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する。DP①②③④ 原則として全出席が評価の対象。	評価表 100%

授業科目名	主題実習Ⅱ(看護)（Theme-oriented Practicum Ⅱ）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰、白井　文恵	
科目ナンバリング	TOP502	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

地域で障がいを抱えながら生活する人々や家族の生活や健康課題、地域で生活している障がい者の支援体制、障がい者がその人らしく生きることのできる地域社会づくりについて理解を深め、保健師としての必要な能力を養う。

到達目標

1.地域で生活している障がい者の生活や健康課題について理解する。DP①②③④
2.障がい者を支える家族の生活や健康課題について理解する。DP①②③④
3.地域の障がい者支援体制について理解する。DP①②③④
4.障がい者支援にかかわる専門職とその役割について理解する。DP①②③④
5.障がい者に焦点を当てたヘルスプロモーションについて理解する。DP①②③④
6.障がい者がその人らしく生きることのできる地域社会づくりや支援体制について考えることができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１、地域看護活動論実習の集大成と考え取り組むこと。

教科書

今までに使用した教科書、資料とする。

参考書

公衆衛生がみえる：医療情報科学研究所編集；メディックメディア発行

研究室／オフィスアワー

担当教員に確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	障がいのある方を対象とした、就労継続支援事業所、生活介護事業所、障害福祉サービス事業所、障害者支援施設、地域生活支援センターでの実習を行う。	各施設の特徴や対象者について事前学習を行う。 関係法規や社会資源について確認する。 グループメンバー間での情報の共有をし、学びを深めること	関口敏彰

成績評価方法と基準	割合
（DP①②③④） 実習態度、実習内容、実習記録等を総合的に評価する 原則として全出席をもって評価の対象とする	100%

授業科目名	看護研究(看護)（Nursing Research and Practice）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美、外村　昌子、関口　敏彰 久木元　由紀子、蓮池　光人 徳島　佐由美、家曽　美里	
科目ナンバリング	GR503	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

看護学が発展するためには、新たな知識を獲得し拡大していく必要がある。また今日では専門職に EBN と EBM に基づく実践が強く求められている。これは看護実践者が、専門職として看護における未解決な課題に取り組み、実践に新たな知見を活用することが重要であることを意味している。本科目では、看護研究に対する基礎知識（テーマ決定から結論を得るまでの基礎的な研究プロセスや研究デザイン等）を理解し、4 年次の卒業研究に活用できることを目指す。また本科目は将来、看護職として活動する場合、しばしば必要となる内容であり、看護実践に研究から得られた知見を活用する方略も含んでいる。

到達目標

１．研究倫理について理解することができる。〈DP①③〉
２．看護研究の目的と意義を述べることができる。〈DP①〉
３．看護研究における基本的人権と倫理上の原則を述べることができる。〈DP①③〉
４．自己の「こだわり・疑問点」に関する先行研究を検索し、内容をまとめることができる。〈DP①④〉
５．学術論文をクリティークすることができる。〈DP①④〉
６．主な研究デザイン（質的あるいは量的研究）の概要を説明することができる。〈DP①④〉
７．研究計画書を作成することができる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

これまで学修してきた知識や技術あるいは臨地実習の経験をフィードバックし、身近な体験からの「おや？」を大切にし、興味・関心・疑問を想起しておくこと。このことは研究へ着手する際に重要なことです。
また「統計学」は復習しておくこと。
もし「研究」に対する苦手意識があるようだったらやわらげておくこと。

教科書

坂下玲子　宮芝智子　小野博史著　系統看護学講座別巻「看護研究」医学書院

参考書

石井京子・多尾清子著「ナースのための質問紙調査とデータ分析」医学書院

研究室／オフィスアワー

（久木元 W 棟 239 随時）（村上/W 棟 335 随時）（南部/W 棟 338 随時）（外村 Wt 棟 433/17 時～18 時）関口/W 棟 634）（蓮池 W 棟 331/随時）（徳島 W 棟 331 研究室/水曜日　16：20～17：50）（家曽　W 棟 235/適時アポイントを取ってくれると助かります）（高木 W 棟 634 随時）（安井 W 棟 234 随時）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科目ガイダンス 看護研究の目的と意義 研究材料の発見と研究計画立案のプロセス 研究と基本的人権・倫理上の原則	予習：テキストの「序章」を読み、看護研究の必要性を、同様に第 4 章「研究における倫理的配慮」を読み、倫理の必要性を考えておくこと。 復習：講義内容についてテキストで確認すること。 1 時間。	村上
2	研究論文とは	事前に配布する質的記述研究の論文を読んでおく（1 時間）。	関口
3	看護研究における文献検索 到達目標 ①医学中央雑誌 web 版を用いた国内文献検索の方法を説明できる ②看護研究に適した文献検索の方法を説明できる	予習：教科書 p 46-64 の確認をする。 復習：医学中央雑誌 web 版を用いて関心のあるキーワードで検索を行う 以上の内容で文献検索にういて予習復習を合計 1 時間行うこと	徳島
4	リサーチクエッションについて（GW）	教科書の第 2 章を読んでおく。 自分の「こだわり」「関心事」等に関する複数のキーワードを準備しておく（1 時間）。	全員
5	文献検索を行う（GW）	文献検索の講義を復習しておく。 リサーチクエッションを設定し、文献検討を行うために、キーワード等考えておく（1 時間）。	全員

6	文献検討	予習: 事前に配布した論文を読んでおく（1 時間）。	久木元
7	①質的研究について理解を深める ②質的研究の方法について理解を深める	復習：質的研究の各研究方法を整理し、質的研究の分析方法についてまとめる 復習を 1 時間以上行うこと。	蓮池
8	量的研究	予習：日頃からアンケートを興味深く見ておく。 事前に配布する量的記述研究の論文を読んでおく（1 時間）。	家曽
9	実験研究	予習：事前に配布する実験研究デザインの論文を読んでおく。 復習：授業内容を復習する 自修時間：1 時間	外村
10	研究計画書 研究計画書について、以下の内容を学修する。この回では次週からのグループワークに関するオリエンテーションを兼ねる。 1. 研究計画書とその機能 2. 研究計画書の構成（書式） 3. 研究計画書の書き方 4. 倫理申請について	予習：テキスト第 8 章「研究計画書の作成」をよく読み、計画書の必要性を考えておくこと。 復習:講義内容をテキストで確認すること。1 時間。	村上
11	GW　研究計画書の作成① ※研究計画書作成は、原則として個人ワークとするが、指導教員を決めるので、必要に応じてグループワークも行う。 初回にオリエンテーションをし、最終段階でまとめ・総括を行う。	「研究計画書作成」の講義、グループワークオリエンテーションにしたがい、目的を見失わないように主体的に取り組む。 「研究計画書作成」の講義の復習を行う（1 時間）。	全教員
12	GW　研究計画書の作成②	各自作成を進めている研究計画書について次のステップの準備と、担当教員のフィードバックやアドバイスを修正する(1 時間)。	全教員
13	GW　研究計画書の作成③	同上	全教員
14	GW　研究計画書の作成④	同上	全教員
15	GW　研究計画書の作成⑤	各自、各グループで全資料をもちより自己評価しておく。	全教員
成績評価方法と基準			割合
提出された「研究計画書」　を中心に、ルーブリックを用いて評価する。<DP①③④> 4/5 以上の出席が必要			研究計画書 100%評価

授業科目名	卒業研究(看護):基礎看護領域（Graduation Research）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美、伊津美　孝子、住田　陽子、越智　奈穂美、小西　由起子	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは以下の①～④ から選択する
①看護技術(清拭，足浴，手浴，洗髪，罨法，手指巧緻性等)の実験的検討
②外来で看護を受ける患者や家族のニーズについて（小児・精神・母性を除く外来看護）
③チーム医療の現状や多職種とのかかわりについて
④夜間の患者のニーズや病床環境（音，室温等)について

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。(DP①)
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。(DP④)
3. 先行研究について文献検索し、研究疑問を明確にし、テーマに取り組む意味を理解することができる。(DP④)
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。(DP④)
5. 計画に沿って研究を実行することができる。(DP④)
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。(DP①④)
7. 結果を分析し、考察することができる。(DP①④)
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。(DP④)
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。(DP④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。
(1)教養科目群の必修科目 10 単位（14 単位中）
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」16 単位のうち 10 単位
尚、卒業研究のテーマに関連する分野の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第 1 回：予習：3 年次に履修した看護研究について復習しておくこと。 復習：ゼミで話し合った内容と課題を整理しておくこと。2 時間。	基礎看護学教員
2	第 3 回～4 回：研究疑問や関心のある現象の明確化①②	2 回以降は担当教員の指示に従う。予習や復習にかける時間は「卒業研究」の特殊性にかんがみて主体性を重視する。	同上
3	第 5 回～6 回：研究テーマの検討と絞込み①②	同上。	同上
4	第 7 回～8 回：研究テーマに関連した文献検討①②	同上。	同上
5	第 9 回～10 回:研究テーマに関連した文献検討③④	同上。	同上

6	第 11 回～12 回：研究テーマに関連した文献検討⑤⑥	同上。	同上
7	第 13 回～14 回：研究テーマに関連した文献検討⑦⑧	同上。	同上
8	第 15 回～16 回：文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②	同上。	同上
9	第 17 回～18 回：文献検討のまとめ・研究の方向性の検討③④	同上。	同上
10	第 19 回～20 回：研究方法の検討：デザインの選択①②	同上。	同上
11	第 21 回～22 回：研究方法の検討：データ収集・分析方法①②	同上。	同上
12	第 23 回～24 回：研究方法の検討：倫理的配慮①②	同上。	同上
13	第 25 回～26 回：研究計画書の作成①②	同上。	同上
14	第 27 回～28 回：研究計画書の作成③④	同上。	同上
15	第 29 回～30 回：研究フィールド・参加者の募集①②	同上。	同上
16	第 31 回～32 回：データ収集：実験法・観察法・面接法・質問紙等の検討①②	同上。	同上
17	第 33 回～34 回：データ収集／実施①②	同上。	同上
18	第 35 回～36 回：データ収集／実施③④	同上。	同上
19	第 37 回～38 回：データ収集／実施⑤⑥	同上。	同上
20	第 39 回～40 回：データの整理①②	同上。	同上
21	第 41 回～42 回：データ分析：実施①②	同上。	同上
22	第 43 回～44 回：データ分析：実施③④	同上。	同上
23	第 45 回～46 回：研究結果の考察①②	同上。	同上
24	第 47 回：研究結果の考察③ 第 48 回：研究結果の考察④および結論	同上。	同上
25	第 49 回～50 回：研究論文の作成①②	同上。	同上
26	第 51 回～52 回：研究論文の作成③④	同上。	同上
27	第 53 回～54 回：研究論文の作成：抄録の作成①②	同上。	同上
28	第 55 回～56 回：研究論文の作成：発表の準備①②	同上。	同上
29	第 57 回～58 回：研究発表①②	同上。	同上
30	第 59 回～第 60 回：研究発表③④	同上。	同上

成績評価方法と基準	割合
1.卒業論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。(DP①④) 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	卒業論文 100%

授業科目名	卒業研究(看護):【急性】成人看護領域（Graduation Research）				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、久木元　由紀子、 宮本　佳子、小林　妙子	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（月曜 2 限）、 後期（月曜 2 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは以下の①～④ から選択する 。研究方法は事例研究または文献研究とする。
①周手術期にある患者および家族への看護
②手術を受けるがん患者の看護
③救命救急、集中治療室、手術室における看護実践
④主題実習Ⅰに関連したテーマあるいは、成人看護学実習Ⅰで受け持った事例を振り返りケーススタディを行う

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。〈DP①〉
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。〈DP①〉
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。〈DP①〉
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。〈DP④〉
5. 計画に沿って研究を実行することができる。〈DP④〉
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。〈DP④〉
7. 結果を分析し、考察することができる。〈DP④〉
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。〈DP④〉
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。〈DP④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	卒業研究に関する全体ガイダンス	研究テーマに関する文献検索を行う。 1 時間	全教員
2	研究疑問や関心のある現象の明確化	研究テーマに関する文献検索を行う。 1 時間	全教員
3	研究テーマの検討と絞込み	研究テーマに関する文献検索を行い、研究テーマを絞り込む。 1 時間	全教員
4	研究テーマに関連した文献検討	研究テーマに関する論文をクリティークする。 1 時間	全教員
5	研究テーマに関連した文献検討	研究テーマに関する論文をクリティークする。 1 時間	全教員
6	研究テーマに関連した文献検討	研究テーマに関する論文をクリティークする。 1 時間	全教員
7	文献検討のまとめ・研究の方向性の検討	研究テーマに関する論文のレビューと研究方法について発表する。 1 時間	全教員

8	研究方法の検討：デザインの選択	研究方法について発表する。 1 時間	全教員
9	研究方法の検討：データ収集・分析方法	研究方法について発表する。 1 時間	全教員
10	研究方法の検討：倫理的配慮	事例研究の場合の倫理的配慮について発表する。 1 時間	全教員
11	研究計画書の作成	研究計画書を作成し随時発表する。 1 時間	担当教員
12	研究計画書の作成	研究計画書を作成し随時発表する。 1 時間	担当教員
13	研究計画書の作成	研究計画書を作成し随時発表する。 1 時間	担当教員
14	研究計画書の作成	研究計画書を作成し随時発表する。 1 時間	担当教員
15	研究計画書の発表	研究計画書を作成し随時発表する。事例研究の場合、研究倫理委員会に申請書を提出する。 1 時間	全教員
16	データ収集／実施	データ収集を行い、必要時図表としてまとめる。 1 時間	担当教員
17	データ収集／実施	データ収集を行い、必要時図表としてまとめる。 1 時間	担当教員
18	データ収集／実施	データ収集を行い、必要時図表としてまとめる。 1 時間	担当教員
19	データ分析：実施	データ分析を行い、必要時図表としてまとめる。 1 時間	担当教員
20	データ分析：実施	データ分析を行い、必要時図表としてまとめる。 1 時間	担当教員
21	研究論文の作成：結果の記述	分析した結果を文章化して結果としてまとめる。 1 時間	担当教員
22	研究論文の作成：結果の記述	分析した結果を文章化して結果としてまとめる。 1 時間	担当教員
23	研究結果の考察	結果をもとに考察する。 1 時間	担当教員
24	研究結果の考察	結果をもとに考察する。 1 時間	担当教員
25	研究論文の作成：考察	考察を文章化する。 1 時間	担当教員
26	研究論文の作成：考察	考察を文章化する。 1 時間	担当教員
27	研究論文の作成：考察・結論	考察から結論を文章化する。 1 時間	担当教員
28	研究論文の抄録の作成	所定の書式に基づき抄録を作成する。 1 時間	担当教員
29	研究論文の発表の準備	パワーポイントなどを作成し発表準備を行う。 1 時間	担当教員
30	研究論文の発表	論文の発表を行う。 1 時間	全教員

成績評価方法と基準	割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準（ルーブリックを活用する） 〈DP①〉〈DP④〉 ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究(看護):【慢性】成人看護領域 （Graduation Research）				
主担当教員	藤本 陽子		担当教員	藤本 陽子、澤田 悦子、髙木 みどり	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（月曜 2 限）、 後期（月曜 2 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは以下の①～④ から選択する 。研究方法は事例研究または文献研究とする。
①慢性期・回復期・終末期にある患者および家族への看護
②多職種連携・地域連携における看護実践
③看護マネジメントにおける看護実践
④主題実習Ⅰに関連したテーマあるいは、成人看護学実習Ⅱで受け持った事例を振り返りケーススタディを行う

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。DP①④
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。DP①④
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。DP①④
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。DP①④
5. 計画に沿って研究を実行することができる。DP①④
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。DP①④
7. 結果を分析し、考察することができる。DP①④
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。DP①④
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	看護研究に関する資料を持参する	藤本陽子 澤田悦子 髙木みどり
2	第 3 回～4 回：研究疑問や関心のある現象の明確化①②	臨地実習や授業の中で感じたことについて考えておく 研究疑問や関心のある現象の明確化	藤本陽子 澤田悦子 髙木みどり
3	第 5 回～6 回：研究テーマの検討と絞込み①②	研究疑問や関心のある現象を明確にし、研究テーマの検討と絞込みをしておく	藤本陽子 澤田悦子 髙木みどり
4	第 7 回～8 回：研究テーマに関連した文献検討①②	自分のテーマに沿って文献が検索できる 文献をグループでクリティークする 30 文献を読み解く	藤本陽子 澤田悦子 髙木みどり
5	第 9 回～10 回:研究テーマに関連した文献検討③④	自分のテーマに沿って文献が検索できる 文献をグループでクリティークする 30 文献を読み解く。	藤本陽子 澤田悦子 髙木みどり

6	第 11 回～12 回：研究テーマに関連した文献検討⑤⑥	自分のテーマに沿って文献が検索できる 文献をグループでクリティークする 30 文献を読み解く	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
7	第 13 回～14 回：文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②	計画した内容をもとに、研究の方向性を具体的に考える 倫理に関する資料を作成する	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
8	第 15 回～16 回：研究方法の検討：デザインの選択①②	倫理的配慮、研究に関する説明書、同意書を作成し次回に提出する	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
9	第 17 回～18 回：研究方法の検討：データ収集・分析方法①②	データ収集・分析方法	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
10	第 19 回～20 回：研究方法の検討：倫理的配慮①②	倫理的配慮、研究に関する説明書、同意書を完成し次回に提出する 臨地で研究をする学生は倫理審査の準備を完成させ提出できる準備が必要	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
11	第 21 回～22 回：研究計画書の作成①②	研究計画書の作成ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
12	第 23 回～24 回：研究計画書の作成③④	研究計画書の作成ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
13	第 25 回～26 回：研究計画書の作成⑤⑥	研究計画書の作成ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
14	第 27 回～28 回：研究計画書の作成⑦⑧	研究計画書の作成ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
15	第 29 回～30 回：研究計画書の発表①②	完成した研究計画書をグループ内で発表ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
16	第 31 回～32 回：データ収集／実施①②	個別指導 データ収集が実施できる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
17	第 33 回～34 回：データ収集／実施③④	個別指導 データ収集が実施できる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
18	第 35 回～36 回：データ収集／実施⑤⑥	個別指導 データ収集が実施できる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
19	第 37 回～38 回：データ分析：実施①②	個別指導 データ分析：実施できる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
20	第 39 回～40 回：データ分析：実施③④	個別指導 データ分析：実施できる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
21	第 41 回～42 回：研究論文の作成：結果の記述①②	個別指導 研究論文の作成：結果の記述ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
22	第 43 回～44 回：研究論文の作成：結果の記述③④	個別指導 研究論文の作成：結果の記述ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
23	第 45 回～46 回：研究結果の考察①②	個別指導 研究結果の考察ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
24	第 47 回～48 回：研究結果の考察③④	個別指導 データ分析：考察ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
25	第 49 回～50 回：研究論文の作成：考察①②	個別指導 研究論文の作成：考察ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
26	第 51 回～52 回：研究論文の作成：考察③④	個別指導 研究論文の作成：考察ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
27	第 53 回～54 回：研究論文の作成：考察・結論⑤⑥	個別指導 研究結果の考察、結論が記述できる	藤本陽子 澤田悦子

			高木みどり
28	第 55 回～56 回：研究論文の抄録の作成①②	抄録が作成出来る	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
29	第 57 回～58 回：研究論文の発表の準備①②	研究論文の準備ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
30	第 59 回～60 回：研究論文の発表①②	研究論文の発表ができる	藤本陽子 澤田悦子 高木みどり
成績評価方法と基準			割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。DP①④ 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要			100%

授業科目名	卒業研究(看護):老年看護領域（Graduation Research）				
主担当教員	南部　登志江		担当教員	南部　登志江、外村　昌子、 川添　英利子	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、 後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは以下の①～⑤ から選択する

①　高齢患者を通して、病院や施設・在宅への継続看護、多職種連携のあり方、主題実習Ⅰに関連したテーマなど
②　認知症高齢者に関する看護（非薬物療法・介護負担など）、障害のある高齢者の移乗援助
③　老年看護学実習Ⅰで受け持った事例
④　老年看護学全般に関連したテーマ

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。DP①④
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。DP①④
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。DP①④
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。DP①④
5. 計画に沿って研究を実行することができる。DP①④
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。DP①④
7. 結果を分析し、考察することができる。DP①④
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。DP①④
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第 1 回：シラバスを読んでくる 第 2 回：課題：学生各自で先行研究論文を検索してノートに記載し提出する （各回に自修時間 1 時間を要する）	南部 外村
2	第 3 回～4 回：研究疑問や関心のある現象の明確化①②	研究疑問や関心のある現象について記載し持参する	
3	第 5 回～6 回：研究テーマの検討と絞込み①②	第 5 回～6 回：各自で研究テーマを記載して検討する	
4	第 7 回～8 回：研究テーマに関連した文献検討①②	第 7 回～8 回：各自で先行研究の論文を持参して検討する	
5	第 9 回～10 回：文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②	先行研究の論文を持参して検討する	
6	第 11 回～12 回：研究方法の検討：デザインの選択①②	第 11 回：研究方法を検討する	
7	第 13 回～14 回：研究方法の検討：研究場所・参加者・参加者の募り方①②	研究方法を検討する	
8	第 15 回：研究方法の検討：データ収集・分析方法 第 16 回：研究方法の検討：倫理的配慮	第 15 回：データ収集・分析方法を記載して検討する 第 16 回：倫理的配慮を記載して検討する	
9	第 17 回～18 回：説明書・同意書・依頼文作成①②	第 17 回：説明書・同意書・依頼文を作成して検討する	
10	第 19 回～20 回：研究計画書の作成	指導された部分を修正し、授業に出席する。	
11	第 21 回～22 回：研究計画書の作成	指導された部分を修正し、授業に出席する。	
12	第 23 回～24 回：研究計画書の作成	指導された部分を修正し、授業に出席する。	
13	第 25 回～26 回：研究計画書の作成	指導された部分を修正し、授業に出席する。	
14	第 27 回～28 回：研究計画書の作成	指導された部分を修正し、授業に出席する。	
15	第 29 回～30 回：研究計画書の発表	指導された部分を修正し、授業に出席する。	
16	第 31 回～32 回：データ収集	指導教員の指導の下で進めていく	
17	第 33 回～34 回：データ収集	指導教員の指導の下で進めていく	
18	第 35 回～36 回：データ収集／実施①②	指導教員の指導の下で進めていく	
19	第 37 回～38 回：データ収集／実施③④	指導教員の指導の下で進めていく	
20	第 39 回～40 回：データ収集／実施⑤⑥	指導教員の指導の下で進めていく	
21	第 41 回～42 回：データ分析：データの整理・分析方法の検討①②	指導教員の指導の下で進めていく	
22	第 43 回～44 回：データ分析：実施①②	指導教員の指導の下で進めていく	
23	第 45 回～46 回：データ分析：実施③④	指導教員の指導の下で進めていく	
24	第 47 回～48 回：データ分析：実施⑤⑥	指導教員の指導の下で進めていく	
25	第 49 回～50 回：研究結果の考察①②	指導教員の指導の下で進めていく	
26	第 51 回～52 回：研究論文の作成：結果の記述①②	指導教員の指導の下で進めていく	
27	第 53 回～54 回：研究論文の作成：考察①②	指導教員の指導の下で進めていく	
28	第 55 回：研究論文の作成：結論 第 56 回：研究論文の作成：抄録の作成①	指導教員の指導の下で進めていく	
29	第 57 回：研究論文の作成：抄録の作成② 第 58 回：研究論文の作成：発表の準備①	指導教員の指導の下で進めていく	
30	第 59 回～60 回：研究論文の作成：発表の準備②③	指導教員の指導の下で進めていく	

成績評価方法と基準	割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。DP①④ 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究(看護):母性看護領域（Graduation Research）				
主担当教員	齋藤　雅子		担当教員	齋藤　雅子、家曽　美里、樋口　優子	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは以下の①～⑤ から選択する。
①ハイリスク女性の妊娠、出産、育児に関するテーマ
②地域連携や他職種連携、および次世代育成支援に関するテーマ
③セクシャリティやジェンダーに関するテーマ
④主題実習Ⅰの看護実践に関するテーマ
⑤主題実習Ⅰや母性看護学実習で受け持った事例を振り返るケーススタディ

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。(DP1, 4)
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。(DP1,4)
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。(DP1,4)
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。(DP1,4)
5. 計画に沿って研究を実行することができる。(DP1,4)
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。(DP1,4)
7. 結果を分析し、考察することができる。(DP1,4)
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。(DP1,4)
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。(DP1,4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	既習の看護研究（復習 0.5H） 次回準備（課題 0.5H）	以下、母性看護学教員で担当する
2	第 3 回～4 回：研究の必要性、臨床疑問と研究疑問についての講義①②	第 3 回：臨床疑問と研究疑問、研究の意義を次回までにレポートにして提出する(課題 0.5H)。 第 4 回：研究開始から卒業論文提出までの研究スケジュールと予算案を立てる。(課題 0.5H)	
3	第 5 回～6 回：文献検索①②	第 5 回：再度、文献を検索し、研究テーマに即した関連文献を次回に持参して、内容を教員へ伝え、指導をうける。(課題 0.5H) 第 6 回：再度、文献を検索し、研究テーマに即した関連文献を次回に持参して、内容を教員へ伝え、指導をうける。研究の背景（案）を作成。（課題 0.5H）	
4	第 7 回：文献検索③ 第 8 回：研究疑問と研究テーマの決定①	第 7 回：再度、文献を検索し、研究テーマに即した関連文献を次回に持参して、内容を教員へ伝え、指導をうける。研究の背景（案）を作成。（課題 0.5H） 第 8 回：研究テーマに合わせた研究方法を、先行研究の内容を整理して決める。(課題 0.5H)	
5	第 9 回：研究疑問と研究テーマの決定② 第 10 回：計画した研究方法の理解①	第 9 回：研究テーマに合わせた研究方法を、先行研究の内容を整理して決める。(課題 0.5H) 第 10 回：研究方法についての書籍を調べ読み、教員に質問し、研究方法の妥当性を吟味する。（課題 0.5H）	
6	第 11 回～12 回：計画した研究方法の理解②③	第 11 回～12 回：研究方法についての書籍を調べ読み、教員に質問し、研究方法の妥当性を吟味する。(課題 1H)	
7	第 13 回～14 回：計画した研究方法の決定①②	第 13 回～14 回：実現可能性も含め、研究方法を教員と相談をして決める。(課題 1H)	
8	第 15 回～16 回：研究計画書の作成①②	第 15 回：事前に記述すべき項目を教員に確認し、研究計画書を作成する。(課題 0.5H) 第 16 回：作成した研究計画書内容を教員から指導をうけ、修正する。(課題 0.5H)	
9	第 17 回：研究倫理審査の申請 第 18 回：研究の発表準備とスライド作成についての講義①	第 17 回：研究倫理に即した内容であるかを再確認し、修正し、申請手続きを行う。(課題 0.5H) 第 18 回：自らの研究結果を予測し、発表内容を構想する。(課題 0.5H)	
10	第 19 回：研究の発表準備とスライド作成についての講義② 第 20 回：研究実施の準備①	第 19 回：自らの研究結果を予測し、発表内容を構想する。(課題 0.5H) 第 20 回：研究実施にむけた準備を教員の指導をうけながら行う。研究スケジュールを修正する。(課題 0.5H)	
11	第 21 回：研究実施の準備② 第 22 回：調査の実施①	第 21 回：研究実施にむけた準備を教員の指導をうけながら行う。研究スケジュールを修正する。(課題 0.5H) 第 22 回：教員に相談し、調査の準備・実施を行う。(課題 0.5H)	
12	第 23 回～24 回：調査の実施②③	第 23 回～24 回：教員に相談し、調査の準備・実施を行う。(課題 1H)	
13	第 25 回～26 回：調査の実施④⑤	第 25 回～26 回：教員に相談し、調査の準備・実施を行う。(課題 1H)	
14	第 27 回～28 回：調査の実施⑥⑦	第 27 回～28 回：教員に相談し、調査の準備・実施を行う。(課題 1H)	
15	第 29 回～30 回：調査の実施⑧⑨	第 29 回～30 回：教員に相談し、調査の準備・実施を行う。(課題 1H)	
16	第 31 回～32 回：調査の実施⑩⑪	第 31 回～32 回：教員に相談し、調査の準備・実施を行う。(課題 1H)	
17	第 33 回～34 回：調査の実施⑫⑬	第 33 回～34 回：教員に相談し、調査の準備・実施を行う。(課題 1H)	
18	第 35 回～36 回：データの整理①②	第 35 回～36 回：データを整理し、教員に指導を仰ぐ。(課題 1H)	
19	第 37 回～38 回：分析・解析①②	第 37 回～38 回：データを整理し、教員に指導を仰ぐ。(課題 1H)	
20	第 39 回～40 回：分析・解析③④	第 39 回～40 回：データを整理し、教員に指導を仰ぐ。(課題 1H)	
21	第 41 回～42 回：卒業研究論文の作成　研究方法①②	第 41 回～42 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
22	第 43 回～44 回：卒業研究論文の作成　研究方法③④	第 43 回～44 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
23	第 45 回～46 回：卒業研究論文の作成　結果①②	第 45 回～46 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
24	第 47 回～48 回：卒業研究論文の作成　結果③④	第 47 回～48 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
25	第 49 回～50 回：卒業研究論文の作成　考察・結論①②	第 49 回～50 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
26	第 51 回～52 回：卒業研究論文の作成　考察・結論③④	第 51 回～52 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
27	第 53 回～54 回：卒業研究論文の作成　背景①②	第 53 回～54 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
28	第 55 回～56 回：卒業研究論文の作成　背景③④	第 55 回～56 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	

29	第 57 回～58 回：卒業研究論文の作成　抄録①②	第 57 回～58 回：教員の指導をうけ修正し、論文を作成する。(課題 1H)	
30	第 59 回：研究論文の作成：発表の準備① 第 60 回：研究論文の作成：発表	第 59 回：発表媒体を作成し、質疑・応答に答える準備をする。(課題 0.5H) 第 60 回：発表準備を行い、研究成果を公表し、評価を受ける。(課題 0.5H)	

成績評価方法と基準	割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。(DP1,4) 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	1.卒業研究の評価表に基づく。 100%

授業科目名	卒業研究(看護):小児看護領域 （Graduation Research）				
主担当教員	大熊　淳子		担当教員	大熊　淳子、徳島　佐由美、安井　渚	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは小児看護学全般からテーマを設定する。

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。DP①④
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。DP①④
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。DP①④
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。DP①④
5. 計画に沿って研究を実行することができる。DP①④
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。DP①④
7. 結果を分析し、考察することができる。DP①④
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。DP①④
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	第 1 回～2 回：3 年次に履修した「看護研究」の復習	
2	第 3 回～4 回：研究疑問や関心のある現象の明確化①②	以降は担当教員からの指示による	
3	第 5 回～6 回：研究テーマの検討と絞込み①②		
4	第 7 回～8 回：研究テーマに関連した文献検討①②		
5	第 9 回～第 10 回：研究テーマに関連した文献検討③④		
6	第 11 回～12 回：研究テーマに関連した文献検討⑤⑥		
7	第 13 回～14 回：研究テーマに関連した文献検討⑦⑧		
8	第 15 回～16 回：研究方法の検討：デザインの選択①②		
9	第 17 回～18 回：研究方法の検討：研究場所・参加者・参加者の募り方①②		

10	第 19 回～20 回：研究方法の検討：データ収集・分析方法①②		
11	第 21 回～22 回：研究方法の検討：倫理的配慮①②		
12	第 23 回～24 回：研究計画書の作成①②		
13	第 25 回～26 回：研究計画書の作成③④		
14	第 27 回～28 回：研究デザインに応じた研究の実践①②		
15	第 29 回～30 回：研究デザインに応じた研究の実践③④		
16	第 31 回～32 回：研究デザインに応じた研究の実践⑤⑥		
17	第 33 回～34 回：研究デザインに応じた研究の実践⑦⑧		
18	第 35 回～36 回：データ整理・分析①②		
19	第 37 回～38 回：データ整理・分析③④		
20	第 39 回～40 回：データ整理・分析⑤⑥		
21	第 41 回～42 回：結果の考察①②		
22	第 43 回～44 回：結果の考察③④		
23	第 45 回～46 回：研究論文の作成①②		
24	第 47 回～48 回：研究論文の作成③④		
25	第 49 回～50 回：研究論文の作成⑤⑥		
26	第 51 回～52 回：研究論文の作成⑦⑧		
27	第 53 回～54 回：研究論文の作成：抄録の作成①②		
28	第 55 回～56 回：発表準備①②		
29	第 57 回～58 回：研究発表①②		
30	第 59 回～60 回：研究発表③④		

成績評価方法と基準	割合
① 論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。＜ＤＰ①④＞ 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 4/5 以上の出席が必要	①100%

授業科目名	卒業研究(看護):精神看護領域（Graduation Research）				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人、矢野　秀蔵	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（月曜 2 限）、後期（月曜 2 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
主な研究テーマは以下の①～⑤を基本とし、①～③の場合、主題実習Ⅰ（精神）を選択していることが望ましい。
①精神科病棟での看護実践にかかわる内容
②地域精神保健医療福祉にかかわる内容
③精神保健医療福祉領域の専門性、多職種連携にかかわる内容
④当事者・家族の体験にかかわる内容
⑤メンタルヘルスにかかわる内容

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。＜DP①＞
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。＜DP①④＞
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。＜DP①④＞
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。＜DP①④＞
5. 計画に沿って研究を実行することができる。＜DP①④＞
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。＜DP①④＞
7. 結果を分析し、考察することができる。＜DP①④＞
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。＜DP①④＞
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。＜DP①④＞

履修上の注意（学生へのメッセージ）

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
2	第 3 回～4 回：研究疑問や関心のある現象の明確化①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
3	第 5 回～6 回：研究テーマの検討と絞込み①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
4	第 7 回～8 回：研究テーマに関連した文献検討①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
5	第 9 回～10 回：研究テーマに関連した文献検討③④	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
6	第 11 回～12 回：研究テーマに関連した文献検討⑤⑥	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
7	第 13 回～14 回：文献検討のまとめ・研究の方向性の検討①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	

8	第 15 回～16 回：研究方法の検討：デザインの選択①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
9	第 17 回～18 回：研究方法の検討：研究場所・参加者・参加者の募り方①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
10	第 19 回～20 回：研究方法の検討：データ収集・分析方法①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
11	第 21 回～22 回：研究方法の検討：倫理的配慮①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
12	第 23 回～24 回：研究計画書の作成①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
13	第 25 回～26 回：研究計画書の作成③④	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
14	第 27 回～28 回：研究計画書の作成⑤⑥	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
15	第 29 回～30 回：研究計画書の作成⑦⑧	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
16	第 31 回～32 回：研究フィールド・参加者の募集①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
17	第 33 回～34 回：データ収集：観察法・面接法・質問紙等の検討①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
18	第 35 回～36 回：データ収集／実施①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
19	第 37 回～38 回：データ収集／実施③④	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
20	第 39 回～40 回：データ収集／実施⑤⑥	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
21	第 41 回～42 回：データ分析：データの整理・分析方法の検討①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
22	第 43 回～44 回：データ分析：実施①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
23	第 45 回～46 回：データ分析：実施③④	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
24	第 47 回～48 回：データ分析：実施⑤⑥	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
25	第 49 回～50 回：研究結果の考察①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
26	第 51 回～52 回：研究結果の考察③④	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
27	第 53 回～54 回：研究論文の作成：結果の記述①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
28	第 55 回～56 回：研究論文の作成：考察①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
29	第 57 回～58 回：研究論文の作成：抄録の作成①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	
30	第 59 回～60 回：研究論文の作成：発表の準備①②	都度指示する 予習復習 1 時間以上は行うこと	

成績評価方法と基準	割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準（ルーブリックを活用する）＜DP①④＞ ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究(看護):公衆衛生看護領域（Graduation Research）				
主担当教員	白井　文恵		担当教員	白井　文恵、関口　敏彰	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（月曜 2 限）、 後期（月曜 2 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは以下の①～⑤から選択する
①地域で生活する人が抱える健康課題
②予防に視点をおいた支援のあり方（対象別保健活動）
③健康教育に関わる内容
④公開された保健データを用いた分析
⑤その他

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。①④
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。①④
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。①④
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。①④
5. 計画に沿って研究を実行することができる。①④
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。①④
7. 結果を分析し、考察することができる。①④
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。①④
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べる。(1 時間)	関口敏彰
2	第 3 回～4 回：自身の興味と関心の明確化①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。(1 時間)	関口敏彰
3	第 5 回～6 回：自身の興味・関心に関する情報収集①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。(1 時間)	関口敏彰
4	第 7 回～8 回：自身の興味・関心に関する情報共有①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。(1 時間)	関口敏彰
5	第 9 回～10 回：自身の興味・関心からの研究テーマの検討①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。(1 時間)	関口敏彰
6	第 11 回～12 回：興味ある研究テーマに関する文献検索①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。また、他者との意見交換を行う。(1 時間)	関口敏彰

7	第 13 回～14 回：興味ある研究論文の批判的検討①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。また、他者との意見交換を行う（1 時間）	関口敏彰
8	第 15 回～16 回：興味ある研究テーマに関する背景の整理①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べた結果に基づきテーマを明確にする。(1 時間)	関口敏彰
9	第 17 回～18 回：研究テーマと目的の具体化の検討①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べた結果に基づきテーマを明確にする。(1 時間)	関口敏彰
10	第 19 回～20 回：研究デザインの選択①②	研究テーマについて，研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。(1 時間)	関口敏彰
11	第 21 回～22 回：研究対象の明確化①②	研究テーマについて，研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。　(1 時間)	関口敏彰
12	第 23 回～24 回：研究調査・分析手法の選択①②	研究テーマについて，研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。　(1 時間)	関口敏彰
13	第 25 回～26 回：倫理的配慮の検討①②	研究テーマについて，研究デザイン、対象者、分析の方法、倫理的配慮等を検討する。　(1 時間)	関口敏彰
14	第 27 回～28 回：研究計画書の作成①②	研究計画書の作成。　(1 時間)	関口敏彰
15	第 29 回～30 回：研究計画書の作成③④	研究計画書の作成。(1 時間)	関口敏彰
16	第 31 回～32 回：研究協力者への依頼①②	研究計画書に基づき必要な作業（インタビュー・調査・文献など情報収集）を行う。(1 時間)	関口敏彰
17	第 33 回～34 回：研究データの収集書式（質問紙・情報整理表等）の作成①②	研究計画書に基づき必要な作業（インタビュー・調査・文献など情報収集）を行う。(1 時間)	関口敏彰
18	第 35 回～36 回：研究データの収集書式（質問紙・情報整理表等）の作成③④	研究計画書に基づき必要な作業（インタビュー・調査・文献など情報収集）を行う。　(1 時間)	関口敏彰
19	第 37 回～38 回：研究データの収集①②	研究計画書に基づき必要な作業（インタビュー・調査・文献など情報収集）を行う。　(1 時間)	関口敏彰
20	第 39 回～40 回：研究データの収集③④	研究計画書に基づき必要な作業（インタビュー・調査・文献など情報収集）を行う。(1 時間)	関口敏彰
21	第 41 回～42 回：収集したデータの整理①②	研究計画書に基づき必要な作業（インタビュー・調査・文献など情報収集）を行う。(1 時間)	関口敏彰
22	第 43 回～44 回：研究データの分析①②	研究データの分析（1 時間）	関口敏彰
23	第 45 回～46 回：研究データの分析③④	研究データの分析（1 時間）	関口敏彰
24	第 47 回～48 回：分析結果の整理①②	研究データの分析・整理（1 時間）	関口敏彰
25	第 49 回～50 回：研究論文（結果）の作成①②	論文作成（1 時間）	関口敏彰
26	第 51 回～52 回：研究論文（考察）の作成①②	論文作成　（1 時間）	関口敏彰
27	第 53 回～54 回：研究論文（考察）の作成③④	論文作成　（1 時間）	関口敏彰
28	第 55 回～56 回：研究論文の見直しと修正①②	論文の見直しと修正（1 時間）	関口敏彰
29	第 57 回～58 回：研究抄録の作成①②	研究抄録の作成，本文の完成（1 時間）	関口敏彰
30	第 59 回：研究発表の準備 第 60 回：研究発表の実施	研究発表の準備と実施（1 時間）	関口敏彰
成績評価方法と基準			割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。(DP①④) 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要			100%

授業科目名	卒業研究(看護):安部（Graduation Research）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	前期(月曜 2 限)、後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

看護に関わる疾患について病理学の視点により解析していく。各自のテーマに沿った文献研究とそれらより生じた新たな問題点や疑問点を解明するべく行う実験・観察などにより論考をまとめる。

到達目標

学究姿勢や研究倫理について理解することができる。＜DP①＞　研究テーマに取り組むことで疾患に対するより深い認識が得られ、そこから進展する看護へのさらなる展開・応用といった方策を探ることができる。＜DP④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

各自の研究テーマにより後に決定する

参考書

各自の研究テーマにより後に決定する

研究室／オフィスアワー

火曜日から金曜日　東棟　研究室 1

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
2	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
3	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
4	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
5	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
6	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	

	析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。		
7	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
8	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
9	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
10	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
11	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
12	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
13	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
14	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
15	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
16	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
17	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
18	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
19	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
20	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	

	系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。		
21	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
22	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
23	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
24	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
25	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
26	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
27	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
28	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
29	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	
30	卒業研究のテーマを決め、テーマに沿った論文、書籍、公文書の検索、それらの検討、実験系の計画立案、予備実験・本実験、データの解析、論文執筆、プレゼンテーション、討論などを行う。	卒論のテーマに沿って各自が自発的に展開してゆく。	

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席を必要とする 1　論文提出　<DP①・④> 2　プレゼンテーション　<DP④> 3　研究態度と出席　<DP①・④> 以上を総合的に判断し評価する。	 1　80% 2　10% 3　10%

授業科目名	卒業研究(看護):在宅看護領域（Graduation Research）				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子、森本 喜代美、岩佐 由美	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既修得知識や演習、臨地実習等の経験を想起し、3 年前期に学修した「看護研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。なお、本科目は「主題実習Ⅰ」と関連させて取り組むことができる。
研究テーマは下記の①～⑤から選択する
①主題実習Ⅰに関連したテーマ、あるいは事例検討
②訪問看護・訪問看護師に関連したテーマ
③在宅療養支援のあり方に関連したテーマ
④介護問題・介護用品の開発と工夫に関連したテーマ

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。DP1
2. 既修得知識や臨地実習経験の中から興味を持ったことについてテーマを絞ることができる。DP12
3. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。DP123
4. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。DP12
5. 計画に沿って研究を実行することができる。DP4
6. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。DP4
7. 結果を分析し、考察することができる。DP4
8. 一連の過程を論文としてまとめる（プレゼンテーションを含む）ことができる。DP4
9. ゼミ活動において主体的に参加し、コミュニケーションをとることができる。DP34

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

適宜提示する

参考書

ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　看護研究

研究室／オフィスアワー

適宜必要時にアポイントを取ること。
清水研究室/　336 研究室
升田研究室/　433 研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1，2 回　卒業研究に関する全体ガイダンス①②	看護研究講義内容を想起できるように復習しておく。仮テーマを決め予め文献検索をしておく。予習時間 1 時間	
2	第 3，4 回　研究疑問や関心のある現象の明確化①② 研究テーマ案発表	仮テーマを決め予め文献検索をしておく。 看護研究講義内容を想起できるように復習しておく。仮テーマ選定の自修時間 2 時間	
3	第 5 回　クリティーク(文献検討）について	文献 5 編以上収集読み込む。文献リスト作成をしておく。 文献検索、クリティークを行う自修時間 3 時間	
4	第 6~8 回　クリティーク（文献検討）の実際①②③	文献検討内容をＡ４にまとめる 文献を読むクリティークする自修時間 3 時間	
	クリティーク発表		
5	第 9，10 回　研究テーマの絞り込み	文献 10 編以上読み込む 再度文献検索、文献を読む自修時間 3 時間	
6	第 11，12 回　研究計画書の書き方①②	看護研究講義内容を想起し研究計画書を作成する。研究計画書を作成する自修時間 3 時間	
7	第 13，14 回　研究テーマの再検討と絞り込み①②	研究計画書をゼミメンバーで共有する。 研究計画書の作成、修正をする自修時間 3 時間	
8	第 15~17 回　研究テーマに関連したクリティーク①②③	研究計画書を修正する。 文献検討、計画書の修正する自修時間 3 時間	
9	第 18~20 回　研究計画書作成	研究計画書を仕上げる。 自修時間 3 時間	
10	第 21，22 回　研究計画書発表	研究計画書を作成し発表を行う。ゼミ生で積極的に意見交換を行う。 意見交換を踏まえて修正を行う自修時間 3 時間	
11	第 23,24 回　論文本文の「はじめに」「研究方法」の作成	卒業論文のテーマに沿った社会背景や法整備、人口動態等のデータを収集する。　自修時間 3 時間	
12	第 25~29 回　データ収集	研究対象となるデータを収集分析を行う。 自修時間 3 時間	
13	第 30~34 回　データ集計分析	質的又は量的データを収集し分析を行う。 データ収集と分析の自修時間 3 時間	
14	第 35，36 回　中間発表会	中間発表に備えて準備の自修時間 3 時間 発表媒体を作成し、この時点での研究の過程を簡潔に発表する。教員、ゼミ生からのアドバイスを踏まえ研究を進める。 発表後の意見を踏まえ修正する自修時間 3 時間	
15	第 37~40 回　結果分析し考察する	卒業論文の結果の作成 自修時間 5 時間	
16	第 41~53 回　論文作成	卒業論文の結果、まとめの作成 自修時間 5 時間	
17	第 54，55 回　抄録作成	論文を完成させ抄録をまとめる 自修時間 3 時間	
18	第 56，57 回　論文発表準備	卒業論文発表会の資料（パワーポイント・配布資料）の作成 自修時間 2 時間	
19	第 58~60 回　論文発表会	論文発表会の資料準備の自修時間 3 時間 パワーポイント等の媒体を作成し、研究をまとめプレゼンテーションを行う。ゼミ生は評価の視点に従い、活発な意見交換を行う。	

成績評価方法と基準	割合
1.論文とプレゼンテーション、活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。 評価基準（ルーブリックを活用する） DP1 ~ 4 ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥プレゼンテーション ⑦ゼミへの主体的参加 ⑧主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	1　100%

授業科目名	卒業研究(看護):福島（Graduation Research）				
主担当教員	福島 信也		担当教員	福島 信也	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

指導教員の下で研究テーマ（教育現場に関する)を決め、先行研究レビュー、研究計画の作成を行う。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を行った上で卒業論文としてまとめる。

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。①④
2. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。①④
3. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。①④
4. 計画に沿って研究を実行することができる。①④
5. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。①④
6. 結果を分析し、考察することができる。①④
7. 一連の過程を論文としてまとめる。①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く） を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」(急性・慢性・老年・母性・小児・精神) 16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べる。(1 時間)	福島 信也
2	第 3 回～4 回：研究テーマの協議	自分が取り組みたい研究テーマについて文献や論文を調べ深める。(1 時間)	福島 信也
3	第 5 回～6 回：文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う。(1 時間)	福島 信也
4	第 7 回～8 回：文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う。(1 時間)	福島 信也
5	第 9 回～10 回：文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う。(1 時間)	福島 信也
6	第 11 回～12 回：研究計画書の作成	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する。(1 時間)	福島 信也
7	第 13 回～14 回：研究計画書の作成	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する。(1 時間)	福島 信也
8	第 15 回～16 回：研究計画書の発表・修正	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する。(1 時間)	福島 信也
9	第 17 回～18 回：倫理委員会提出書類の作成	指導教員の指示に従い、倫理委員会提出書類を作成する。(1 時間)	福島 信也
10	第 19 回～20 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
11	第 21 回～22 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
12	第 23 回～24 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
13	第 25 回～26 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
14	第 27 回～28 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
15	第 29 回～30 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
16	第 31 回～32 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
17	第 33 回～34 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
18	第 35 回～36 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
19	第 37 回～38 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
20	第 39 回～40 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。(1 時間)	福島 信也
21	第 41 回～42 回：データ整理	収集したデータを整理する。(1 時間)	福島 信也
22	第 43 回～44 回：データ整理	収集したデータを整理する。(1 時間)	福島 信也
23	第 45 回～46 回：データ分析	収集したデータを統計等を用いて解析する。(1 時間)	福島 信也
24	第 47 回～48 回：データ分析	収集したデータを統計等を用いて解析する。(1 時間)	福島 信也
25	第 49 回～50 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成す(1 時間) る。	福島 信也
26	第 51 回～52 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。(1 時間)	福島 信也
27	第 53 回～54 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する(1 時間) 。	福島 信也
28	第 55 回～56 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。(1 時間)	福島 信也
29	第 57 回～58 回：卒業論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。(1 時間)	福島 信也
30	第 59 回～60 回：卒業論文報告書提出	指導教員の指示に従い、卒業論文の見直しと修正する。(1 時間)	福島 信也

成績評価方法と基準	割合
1.論文と活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。(DP①④) 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥ゼミへの主体的参加 ⑦主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究(看護):森 (Graduation Research)				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング	GR504	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、後期(月曜 2 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画の作成を行う。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を行った上で卒業論文としてまとめる。
当卒業研究では、統合医療におけるアロマセラピーの役割に関する基礎的研究を行う。主として植物精油（アロマセラピー）が生体に及ぼす影響について、実験動物をもちいて組織学的・分子生物学的な研究を行うものとする。

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。(DP①)
2. 先行研究について文献検索し、そのテーマに取り組む意味を理解することができる。(DP①)
3. テーマに対する実現可能な研究計画を立案することができる。(DP①④)
4. 計画に沿って研究を実行することができる。(DP①④)
5. 研究のデータを集計、解析し結果を出すことができる。(DP①④)
6. 結果を分析し、考察することができる。(DP①④)
7. 一連の過程を論文としてまとめる。(DP①④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

≪先修条件≫
卒業研究は次の要件を充足しなければ履修できない。なお、卒業研究のテーマに関連する領域の必修科目（在宅看護論実習を除く）を修得しておくこと。
(1)教養科目群の必修科目 14 単位のうち 10 単位
(2)専門基礎分野のうち、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」の中の必修科目 14 単位
(3)専門分野Ⅱ「臨地実習」（急性・慢性・老年・母性・小児・精神）16 単位のうち 10 単位
※論文集と抄録集を作成し大学で保管する。

教科書

担当教員より指示する。

参考書

担当教員より指示する。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 回～2 回：卒業研究に関する全体ガイダンス①②	予習：希望する研究テーマについて考えておくこと 復習：指示に従い、具体的なテーマをまとめること	
2	第 3 回～4 回：研究テーマの協議	予習：希望する研究テーマについて考えておくこと 復習：指導教員の指示に従い、具体的なテーマをまとめること	
3	第 5 回～6 回：文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う	
4	第 7 回～8 回：文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う	
5	第 9 回～10 回：文献検索	テーマに応じた学術論文の検索・収集を行う	
6	第 11 回～12 回：研究計画書の作成	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する	
7	第 13 回～14 回：研究計画書の作成	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する	
8	第 15 回～16 回：研究計画書の発表・修正	指導教員の指示に従い、研究計画書を作成する	
9	第 17 回～18 回：倫理委員会提出書類の作成	指導教員の指示に従い、倫理委員会提出書類を作成する	
10	第 19 回～20 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
11	第 21 回～22 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
12	第 23 回～24 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
13	第 25 回～26 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
14	第 27 回～28 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
15	第 29 回～30 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
16	第 31 回～32 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
17	第 33 回～34 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
18	第 35 回～36 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
19	第 37 回～38 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
20	第 39 回～40 回：データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して研究データの収集を行う。	
21	第 41 回～42 回：データ整理	収集したデータを整理する。	
22	第 43 回～44 回：データ整理	収集したデータを整理する。	
23	第 45 回～46 回：データ分析	収集したデータを統計等を用いて解析する。	
24	第 47 回～48 回：データ分析	収集したデータを統計等を用いて解析する。	
25	第 49 回～50 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。	
26	第 51 回～52 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。	
27	第 53 回～54 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。	
28	第 55 回～56 回：研究論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。	
29	第 57 回～58 回：卒業論文作成	指導教員の指示に従い、卒業論文を作成する。	
30	第 59 回～60 回：卒業論文報告書提出	指導教員の指示に従い、卒業論文報告書を作成し提出する。	

成績評価方法と基準	割合
1.論文と活動のプロセス全体を総合して次の視点で評価する。(DP①④) 評価基準（ルーブリックを活用する） ①テーマの有用性 ②方法の妥当性 ③解析の確実性 ④考察の客観性 ⑤論旨の一貫性 ⑥ゼミへの主体的参加 ⑦主張、今後の発展性 2.4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	臨床看護学セミナーⅠ(看護)(Clinical Nursing Seminar Ⅰ)				
主担当教員	木田　岩男		担当教員	木田　岩男、澤田　悦子、宮本　佳子、 高木　みどり、南部　登志江	
科目ナンバリング	IPII505	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	集中講義
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

形態機能学（解剖生理学）・生化学・微生物学・臨床薬理学・病理学・臨床病態学・看護学で学んだ知識を統合することで、看護の実践に役立てる事が出来る方法論の獲得を目標とする。具体的には、呼吸器系・循環器系・消化器系・腎泌尿器系・内分泌代謝系の各系統別に、それぞれ代表的な疾患を取り上げ、その病理病態、治療、看護についてそれぞれの関連性を明らかにし、エビデンスに基づいた看護が出来る能力を修得する。各テーマの説明に先立って、学生に治療や看護の根拠を考えることを通じて、看護の実践における考える力を養う。

到達目標

臨床において必要な基礎知識と看護の実践における考える力を習得する。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布資料は教科書の補足資料として学習の参考にする。
2．講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。
3．講義中に指示するので、教科書の重要箇所にアンダーラインを引き、そこは必ず復習する。
4．ノートを必ずとる。
5．出席は重視する。

教科書

レビューブック 2019
出版社：株式会社メディックメディア

参考書

クエスチョン・バンク看護師国家試験問題解説２０１９ 第19版　メディックメディア

研究室／オフィスアワー

研究室：西棟233研究室
オフィスアワー：月曜5限・水曜5限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	主な呼吸器疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
2	肺の悪性腫瘍	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
3	呼吸障害	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
4	呼吸不全と呼吸管理	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
5	呼吸器系のリハビリテーション	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
6	主な循環器疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
7	ショックとその対応	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
8	循環障害とその管理	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
9	心不全の治療と看護	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
10	循環器系のリハビリテーション	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
11	主な消化器疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
12	消化器系の悪性腫瘍	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
13	主な消化器症状とそのケア	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
14	便秘・イレウスとそのケア	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
15	肝障害	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
16	疾患別栄養管理	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
17	経管栄養法	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
18	主な腎・泌尿器疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
19	腎不全	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
20	排尿障害	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
21	排尿管理	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
22	透析	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
23	輸液管理	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
24	主な内分泌疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
25	内分泌疾患の治療	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
26	糖尿病と血糖コントロール	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
27	高脂血症・高尿酸血症の治療	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
28	生殖器系の疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
29	周産期疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
30	老化と老年症候群	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	

成績評価方法と基準	割合
①学力評価試験<DP①> ②平常点（授業態度・授業への参加姿勢）で評価する。<DP①> 4/5以上の出席を必要とする	①70% ②30%

授業科目名	臨床看護学セミナーⅡ(看護)(Clinical Nursing Seminar Ⅱ)				
主担当教員	木田　岩男		担当教員	木田　岩男	
科目ナンバリング	IPII506	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

形態機能学（解剖生理学）・生化学・微生物学・臨床薬理学・病理学・臨床病態学・看護学で学んだ知識を統合することで、看護の実践に役立てる事が出来る方法論の獲得を目標とする。具体的には、脳神経系・感覚器系・運動器系・造血器系・生体防御系の各系統別に、それぞれ代表的な疾患を取り上げ、その病理病態、治療、看護についてそれぞれの関連性を考え、エビデンスに基づいた看護が出来る能力を修得する。各テーマの説明に先立って、学生に治療や看護の根拠を考えることを通じて、看護の実践における考える力を養う。

到達目標

臨床において必要な基礎知識と看護の実践における考える力を習得する。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布資料は教科書の補足資料として学習の参考にする。
2．講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。
3．講義中に指示するので、教科書の重要箇所にアンダーラインを引き、そこは必ず復習する。
4．ノートを必ずとる。
5．出席は重視する。

教科書

レビューブック 2019
出版社：株式会社メディックメディア

参考書

クエスチョン・バンク看護師国家試験問題解説２０１９ 第19版　メディックメディア

研究室／オフィスアワー

研究室：西棟233研究室
オフィスアワー：月曜5限・水曜5限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	主な脳・神経疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
2	脳循環障害	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
3	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
4	脳外科手術・放射線療法時のケア	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
5	脳・神経疾患の薬物療法	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
6	麻痺とそのケア	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
7	高次脳機能障害	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
8	脳変性疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
9	認知症とそのケア	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
10	脳卒中患者のリハビリテーション	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
11	末梢神経障害	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
12	視機能の異常	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
13	聴覚機能の異常	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
14	嗅覚・味覚異常	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
15	主な骨疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
16	骨折の治療と合併症予防	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
17	主な筋疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
18	筋障害	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
19	運動器系疾患のリハビリテーション	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
20	皮膚・体温調節の仕組みとその異常	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
21	主な血液・造血器疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
22	貧血	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
23	白血病とリンパ腫	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
24	免疫異常	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
25	自己免疫疾患	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
26	易感染状態	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
27	感染症の種類	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
28	感染症の治療	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
29	院内感染対策	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
30	講義全体のまとめと振り返り	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	

成績評価方法と基準	割合
①学力評価試験<DP①> ②平常点（授業態度・授業への参加姿勢）で評価する。<DP①> 4/5以上の出席を必要とする	①70% ②30%

授業科目名	公衆衛生看護セミナー(看護)（Public Health Nursing Seminar）				
主担当教員	関口　敏彰		担当教員	関口　敏彰	
科目ナンバリング	IPII507	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本授業では前期の公衆衛生看護学関係実習を経て、さらに地域連携に主眼を置き、地域ケアシステムの構築に関する課題を抽出し、事業化・施策化の実践能力を養う。課題は高齢者保健、母子保健、障害者保健等とし、地域における実践事例やフィールドワークの学びから公衆衛生看護の活動方法と特性を明確にし、卒業後の公衆衛生看護実践能力の向上を目指す。

到達目標

1. 地域ケアシステムの事業化・施策化の意義を明確にすることができる。DP①
2. 効果的・効率的なケアの提供を立案し、ケアの公平性と継続性の保証について考えを述べることができる。DP①
3. 地域社会の流動化に伴う社会格差・健康格差についての洞察力を養う。 DP①

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 事前学習に際して、文献等資料を把握すること。
2. グループワーク、発表での積極的な参加

教科書

これまでに使用した教科書、参考書、配布資料とし、不足は適宜配布する。

参考書

白波瀬達也著『貧困と地域―あいりん地区から見る高齢化と孤立化―』：中公新書

研究室／オフィスアワー

大巻：236 研究室　関口：631 研究室　冨田：634 研究室　　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	地域ケアシステムに関する検討（公衆衛生看護学実習を踏まえて）	予習：実践事例を抽出する（1.5 時間） 復習:抽出された課題について情報収集(1.5 時間）	関口
2	地域ケアシステムに関する事例検討(1)	予習: 配布された事例の課題を考える。(1.5 時間） 復習：抽出された課題についてまとめ（1.5 時間）	関口
3	地域ケアシステムに関する事例検討(2)	予習：事例のまとめを行う。(1.5 時間） 復習:抽出された課題について情報収集　(1.5 時間）	関口
4	公衆衛生看護学実習における健康教育の評価	予習：実習メンバーでの課題を検討しておく。（1.5 時間） 復習：抽出された課題について情報収集。(1.5 時間）	関口
5	健康影響予測評価（Health Impact Assessment ; HIA）の実践(1)	予習：公衆衛生看護学実習で抽出された地域の課題を確認する。(1.5 時間） 復習：抽出された課題についてまとめ。(1.5 時間）	関口
6	健康影響予測評価（Health Impact Assessment ; HIA）の実践(2)	予習：公衆衛生看護学実習で抽出された地域の課題を HIA で確認する。(1.5 時間） 復習：HIA の実践について　(1.5 時間）	関口
7	フィールドワークの地域について知る	予習:フィールドワークの地域に関する文献を読む。(1.5 時間）	関口
		復習：文献整理を行う。(1.5 時間）	
8	フィールドワークの地域について知る	予習：フィールドワークを行う地域の情報収集のため資料や文献を調べる。(1.5 時間） 復習：フィールドワークからの情報を整理する。(1.5 時間）	関口
9	フィールドワークの地域について知る	予習：フィールドワークを行う地域の情報収集を整理する。(1.5 時間） 復習：フィールドワークの準備を行う。(1.5 時間）	関口
10	フィールドワーク	予習：フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。(1.5 時間） 復習：フィールドワークからの情報を整理する（1.5 時間）	関口
11	フィールドワーク	予習：フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。(1.5 時間） 復習：フィールドワークからの情報を整理する（1.5 時間）	関口
12	フィールドワーク	予習：フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。(1.5 時間） 復習：フィールドワークからの情報を整理する。(1.5 時間	関口
13	フィールドワーク	予習：フィールドワークを行う地域の資料や文献を確認する。(1.5 時間） 復習：フィールドワークからの情報を整理する。(1.5 時間）	関口
14	フィールドワークのまとめ(振り返り)	予習：フィールドワークからの疑問について情報収集。(1.5 時間） 復習：疑問から課題を考えまとめ、次回提出。（1.5 時間	関口
15	公衆衛生看護の活動方法と特性の発表	予習：発表の資料の検討（1.5 時間） 復習：レポート作成（1.5 時間）	関口

成績評価方法と基準	割合
1. 事例検討・HIA での取り組み(DP1) 2. フィールドワークにおける取り組み（事前を含む）(DP1) 3. 自己の課題に関するレポート(DP1) 4. 1～3 については、ルーブリックの評価表を活用する(DP1) 4/5 以上の出席が必要	ルーブリック評価表に基づく（100%）

授業科目名	臨床看護技術セミナー(看護)（Clinical Nursing Art Seminar）				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、村上　生美、藤本　陽子、伊津美　孝子、住田　陽子、外村　昌子、関口　敏彰、久木元　由紀子、蓮池　光人、升田　寿賀子、徳島　佐由美、越智　奈穂美、安井　渚、澤田　悦子、宮本　佳子、髙木　みどり、矢野　秀蔵、樋口　優子、南部　登志江、小西　由起子、大熊　淳子、川添　英利子、齋藤　雅子、白井　文恵、小林　妙子、森本　喜代美、岩佐　由美	
科目ナンバリング	IPII508	科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

医療現場や地域社会において必要とされる看護ケアを認識し、対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。これまでに学修した専門的知識と技術、臨地実習での体験を統合し、根拠や倫理観に基づく看護ケアを立案し実践する。事例患者の看護過程と看護技術の演習を通して、自己の看護実践における課題を明確にし、課題解決につなげる方略を学修する。

到達目標

1. 事例患者のアセスメントが実施できる。DP①②③④
2. 事例患者に必要な看護計画が立案できる。DP①②③④
3. 看護計画に基づき看護技術を実施し評価できる。DP①②③④
4. 自己の看護実践における課題を見出し、課題解決に向けた演習が実施できる。DP①②③④
5. 自己の課題を実践し評価できる。　DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 事例患者の看護に必要な事前学習を行い、個人ワークを行う。
2. 個人ワークができていなければグループワークに参加できない。
3. グループワークには積極的に参加する。
4. 看護技術演習の際は、臨地実習に準じた身だしなみに整える。

教科書

1. これまでの授業や実習などで使用した教科書、参考書
2. 授業資料

参考書

必要時配布する。

研究室／オフィスアワー

升田研究室 433 研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度の確認 事例の説明	事例患者の看護過程に必要な学習を行い資料を持参する。 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度を確認し、自己の看護実践における課題を見出す。 自己学修 1 時間→課題レポート①提出。	全教員
2	事例の内容学修 個人ワーク①	事例患者の看護過程に必要な学習を行い資料を持参する。 患者の状態をアセスメントする。 事例患者 2 事例の自己学修　時間 1 時間→自己学習内容の提出	全教員
3	看護過程　アセスメント 個人ワーク②	事例患者の看護過程に必要な学習を行い資料を持参する。 患者の状態をアセスメントする。	全教員
		事例患者のアセスメント自己学修 2 時間→アセスメント提出	
4	看護過程　関連図作成・看護計画立案 グループワーク①　　＊個人ワーク持参	予習：提出したアセスメントの修正を行う。自修 1 時間 個人ワークをもとに、グループワークで患者の状態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立案する。	全教員
5	看護過程　関連図作成・看護計画立案 グループワーク②	予習：提出したアセスメントの修正を行う。自修 1 時間 個人ワークをもとに、グループワークで患者の状態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立案する。	全教員
6	看護過程　関連図作成・看護計画立案 グループワーク③	予習：グループで作成したアセスメントから看護系飼うを立案する自修時間 1 時間 個人ワークをもとに、グループワークで患者の状態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立案する。	全教員
7	看護過程　関連図作成・看護計画立案 グループワーク④	予習：グループで作成したアセスメントから看護系飼うを立案する自修時間 1 時間 個人ワークをもとに、グループワークで患者の状態をアセスメントし、関連図を描き、看護計画を立案する。	全教員
8	看護技術演習①　実践・評価	予習：演習に必要な看護技術を学修する自修時間 1 時間 看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践の評価を行う。	全教員
9	看護技術演習②　実践・評価	予習：演習に必要な看護技術を学修する自修時間 1 時間 看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践の評価を行う。	全教員
10	看護技術演習③　実践・評価	予習：演習で行った看護技術・看護計画を振り返り修正を行う自修時間 1 時間 看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践の評価を行う。	全教員
11	看護技術演習④　実践・評価	予習：演習で行った看護技術・看護計画を振り返り修正を行う自修時間 1 時間 看護計画に基づき看護技術を実施し、看護実践の評価を行う。	全教員
12	看護過程、看護技術演習のまとめ 発表準備	予習：演習内容を振り返り、修正を行う自修時間 1 時間 看護過程、看護技術演習の一連のプロセスを評価しまとめる。発表の準備を行う。	全教員
13	発表会、振り返り①	予習：発表会の準備自修時間 1 時間 看護過程、看護技術演習の一連のプロセスを評価し発表する。 質疑応答、教員からの講評など	全教員
14	発表会、振り返り②	予習：発表会の準備自修時間 1 時間 看護過程、看護技術演習の一連のプロセスを評価し発表する。 質疑応答、教員からの講評など	全教員
15	看護師教育の技術項目と卒業時の到達度の確認自己の看護実践の評価、レポート作成、提出	自己の看護実践における課題の達成状況を評価し、レポートにまとめる。自修時間 1 時間→課題レポート②提出	全教員

成績評価方法と基準	割合
ルーブリック評価表に基づき評価する。評価項目は以下のとおり。DP1234 ・ 2 事例の内容自己学習 ・レポート　　課題①：「自己の看護実践における課題と課題への取り組み」 課題②：「自己の看護実践における課題の達成状況と評価」 ページ設定：余白　上下左右 25㎜　40 字×30 行 ・看護過程　アセスメント　個人ワーク ・看護過程　関連図作成・看護計画　グループワーク ・看護技術演習 ・発表・授業への取り組み ・4/5 回以上の出席が必要。カードリーダーにて出席管理を行う。	100%

看護学科　教職課程

（2017 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	特別支援教育概論(教職課程:看護)				
主担当教員	加藤　美朗		担当教員	加藤　美朗	
科目ナンバリング	SE627	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

到達目標

「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解」
（1）インクルーシブ教育の理念を含む特別支援教育に関する制度や仕組みを理解している。
（2）発達障害等の特別の支援を必要とする児童生徒等の発達や心理的特性を理解している。
（3）障害のある幼児、児童生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的知識を身に付けている。
「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援方法の理解と習得」
（1）特別の支援を必要とする児童生徒等に対する支援の方法について例示することができる。
（2）「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。
（3）個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
（4）校内で及び関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
「障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援についての理解」
（1）母国語や貧困の問題等を抱える児童生徒等の困難や対応の必要性を理解している。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

障害児者の教育や福祉に関する施策の動向やニュースなどに日々留意し、情報収集に努めるとともに問題意識を高めてください。

教科書

なし

参考書

授業中に適宜資料を配布する。

研究室／オフィスアワー

授業中に示す。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	特別支援教育の理念及び枠組みについて	授業内容の復習（2 時間）	
2	障害のある児童生徒の抱える困難について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
3	発達障害のある児童生徒の特性について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
4	発達障害のある児童生徒への配慮について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
5	自立活動を軸とした指導について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
6	実態把握と教育的支援・指導計画について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
7	校内外の体制及び連携のあり方について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
8	特別な教育的ニーズに関するまとめ	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験 ②毎回の授業で課す小レポート	①80% ②20%

授業科目名	教育課程論(教職課程:看護)（Curriculum Studies）				
主担当教員	安藤 福光		担当教員	安藤 福光	
科目ナンバリング	SE612	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

変化の著しい現代社会では、教育課程に求められる内容もまた著しい変化を余儀なくされている。本講義においては、先の変化に対応した教育課程編成を実行できるようにするため、教育課程に関する基本的な知識、これまでの学習指導要領の変遷を扱いながら、教育課程の現代的な課題について、受講生の理解を深めることを目的とする。あわせてそれを実際の編成に生かすための考え方、方法について受講生と検討する。

到達目標

・教育課程の基本的な知識について、理解することができる
・学習指導要領の変遷を理解することができる
・教育課程の現代的な課題を理解し、実践に生かすことができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・自身の学校教育経験を振り返りながら受講すること。
・周囲の迷惑になる私語等は厳禁とする。

教科書

根津朋実・樋口直宏編著（2019）『教育内容・方法［改訂版］』培風館

参考書

・森山賢一編著（2013）『教育課程編成論』学文社
・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領』
・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領』
・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領』

研究室／オフィスアワー

授業中に指示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育課程とカリキュラム：それぞれの概念の整理	講義資料にもとづき復習をすること。	
2	教育課程と学習指導要領：学習指導要領について	講義資料にもとづき復習をすること。	
3	教育課程行政：文部科学省と教育委員会の役割	講義資料にもとづき復習をすること。	
4	アメリカのカリキュラム改革：アメリカのカリキュラム改革の歴史	講義資料にもとづき復習をすること。	
5	戦前の教育課程の歴史：明治期から終戦直後まで	講義資料にもとづき復習をすること。	
6	学習指導要領の歴史的展開（1）：昭和 22 年版（試案、社会科、家庭科、自由研究）、昭和 26 年版（試案、%）学習指導要領	講義資料にもとづき復習をすること。	
7	学習指導要領の歴史的展開（2）：昭和 33 年版（法的拘束力、道徳）、昭和 43 年版（教育内容の現代化）、昭和 52 年版学習指導要領（教育内容の精選）	講義資料にもとづき復習をすること。	
8	学習指導要領の歴史的展開(3)：平成元年版（生活科、地理歴史科・公民科）、平成 10 年版（平成 15 年一部改正含む）（ゆとり、生きる力、教育内容の厳選、総合的な学習の時間）学習指導要領	講義資料にもとづき復習をすること。	
9	21 世紀の学習指導要領：平成 20 年版学習指導要領（習得・活用・探究、外国語活動、言語活動）、平成 29 年版学習指導要領（社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント）	講義資料にもとづき復習をすること。	
10	教育課程の編成と評価：教育課程の編成と評価の方法、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価	講義資料にもとづき復習をすること。	

11	教科と教科外の教育課程：教科と教科外活動の教育課程の内容	講義資料にもとづき復習をすること。	
12	各校種の教育課程：小学校、中学校、高等学校の教育課程の構成	講義資料にもとづき復習をすること。	
13	学習指導要領と教科書：教科書の定義、教科書検定と教科書採択制度	講義資料にもとづき復習をすること。	
14	総合的な学習の時間：創設の趣旨、教科・領域横断学習の意義と必要性（カリキュラム・マネジメントおよびカリキュラム評価の観点の必要性）、特色ある取り組み	講義資料にもとづき復習をすること。	
15	教育課程の現代的な課題：一貫教育の教育課程、学力と教育課程、地域とともにある学校の教育課程（社会に開かれた教育課程）、カリキュラム評価、教科・領域・学年を越境する学習活動（カリキュラム・マネジメント）など	講義資料にもとづき復習をすること。	
成績評価方法と基準			割合
到達目標に関する期末試験で判定する。			100%

授業科目名	道徳教育論(教職課程:看護)（Moral Education）				
主担当教員	福島　信也		担当教員	福島　信也	
科目ナンバリング	SE617	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本授業では、『特別の教科・道徳』の授業（小学校４５分、中学校５０分）の作り方を実践的に学びます。
2018 年度から小学校、2019 年度から中学校で特別の教科「道徳科」になり、教科書が配布されています。教育実習でも「道徳科」を担当させている学校が増えています。
また、新高等学校学習指導要領(2019.4/1～2022.3/31 移行期間.2022 年 4/1 より施行)の主な改善事項の一つに、「道徳教育の充実」が挙げられ、全ての教師が協力して道徳教育を展開することを規定(総則)しています。
児童・生徒たちが興味をもって深い学びを得られる授業をどうしたらできるでしょうか。
学校現場の様子(出前授業等の録画視聴もあります)も説明しながら、受講者同士の話し合い（グループ活動)、教材や授業方法の検討、学習指導案作成、プチ模擬授業などを通して、これらの問題を考えていきます。

到達目標

※学校における道徳教育の位置づけやねらい、内容について理解する
●『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（平成２９年７月)』 の重要事項について、答えることができる。
●「道徳とは何か」、「なぜ必要なのか」など、説明することができる。

※道徳授業の実践に資する知識や技能を身につける
●児童・生徒たちの道徳性の発達や興味・関心、社会的要請などを踏まえ、道徳科の指導案を作成する。（全員必修）
●作成した学習指導案をもとに、プチ模擬授業をする。(全員必修)
●道徳授業に興味・関心をもち、道徳授業(生命尊重など)を教育実習においてできるようにする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

●授業で配布したプリントは、必ずファイル（綴じ込んで保存） すること。
●プリントを適宜読み返し、授業で学んだことを復習すること。
●授業で配布した課題プリントは、必ず提出すること。
●教材をじっくり読み込んで(何回も)、学習指導案を作成をすること。

教科書

使用しない。プリントを配布します。

参考書

●文部科学省「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」平成２９年７月

●授業は配布するプリントに基づいて行います。
学校現場で役立つ内容が含んでいるプリントを用意します。
プリントは実践に活かすことができるので、ファイル（綴じ込んでで保存）すること。
その他、参考となる文献などは授業中に適宜紹介していきます。

研究室／オフィスアワー

イーストポート４階　研究室２０
水曜日 10：00～14：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	道徳科の素晴らしさ ～ 道徳授業について、オリエンテーション ～	プリント復習(1 時間)	福島信也
2	「特別の教科　道徳」 改訂のポイント(その１) 【中学校学習指導要領解説 道徳編】　配布	プリント復習(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む（1 時間）	福島信也
3	「特別の教科　道徳」 改訂のポイント(その２) 【道徳教材冊子】　配布 課題プリント配布	プリント復習(1 時間) 課題プリント(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む（1 時間）	福島信也
4	福島先生のプチ模擬授業 ～ 小・中・高校でも利用できる教材を使って ～	プリント復習(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む（1 時間） 「道徳教材冊子」読む（1 時間）	福島信也
5	「特別の教科　道徳」 改訂のポイント(その３)	プリント復習(1 時間) 「道徳教材冊子」」を読む（1 時間）	福島信也

6	道徳授業の指導法（１） 「授業の形態・指導過程」などについて 研究授業の録画視聴(一部)	プリント復習(1 時間) 「道徳教材冊子」」を読み、教材分析（1 時間）	福島信也
7	道徳授業の指導法（２） ～「評価」について､「中心発問」について ～ 【課題プリント】　配布	プリント復習(1 時間) 課題プリント(1 時間) 「道徳教材冊子」」を読み、教材分析（1 時間）	福島信也
8	道徳授業の指導法（３） 授業案作成のポイント 指導案下書き用 配布	プリント復習(1 時間) 課題プリント(1 時間) 「道徳教材冊子」」を読み、教材分析（1 時間）	福島信也
9	道徳授業の指導法（４） 授業(導入)について ～ 指導案の内容を工夫する ～ 出前授業の録画視聴(一部)	プリント復習(1 時間) 指導案作成(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む（1 時間）	福島信也
10	道徳授業の指導法（５） 授業(展開)について 指導案のラフスケッチ 研究授業の録画視聴(一部)	プリント復習､「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む　(1 時間) 指導案作成(1 時間)	福島信也
11	指導案検討 全体の流れ 出前授業の録画視聴(一部) 「道徳だより(通信)」について 指導案提出用 配布	プリント復習､「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む　(1 時間) 指導案作成(1 時間)	福島信也
12	指導案検討会 ～指導案をグループで高め合おう＆プチ模擬授業を成功させよう～ 授業のトラブル＆ピンチ について プチ模擬授業の工夫・準備、指導案提出	プリント復習、模擬授業の準備（1 時間） 指導案作成(1 時間)	福島信也
13	プチ模擬授業（１）	プリント復習、模擬授業準備(1 時間) 「道徳教材冊子」」を読む（1 時間） 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
14	プチ模擬授業（２）	プリント復習、模擬授業準備(1 時間) 「道徳教材冊子」」を読む（1 時間） 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
15	プチ模擬授業（３） まとめ(理想の道徳授業像について　など)	プリント復習、模擬授業準備(1 時間) 「道徳教材冊子」」を読む（1 時間） 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
成績評価方法と基準			割合
●プチ模擬授業は全員が行います。 ●学習指導案は全員が提出します。 ●授業では、課題(プリント・コメントシート等）を提出します。			・プチ模擬授業：30% ・道徳指導案：　35% ・授業内課題　：35%

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法(教職課程:看護)				
主担当教員	福島　信也		担当教員	福島　信也	
科目ナンバリング	SE628	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

「総合的な学習の時間」について、創設された背景やその後の経過を知り、その理念や意義について理解する。
また､「総合的な学習の時間」の目標や内容を理解するとともに、下記の項目について理解を深める。
○新学習指導要領における「総合的な学習の時間」で育てようとする資質や能力について理解する
○横断的・総合的な学習や探究的な学習について理解する
○指導計画の作成について理解する

「総合的な学習の時間」は、授業内容や方法は各学校の指導にゆだねられているので、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する必要がある。中学校の具体的な実践事例などを通して､「総合的な学習の時間」を構想できる基礎的・基本的な知識・技能を身につけることを主眼としている。

到達目標

「総合的な学習の時間」の意義と教育課程において果たす役割について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性について理解する。

※「総合的な学習の時間」の創設の背景と「総合的な学習の時間」のねらい及び育成することを目指す資質・能力を理解する

※「総合的な学習の時間」の横断的・総合的な学習や探究的な学習を構想できる

※「総合的な学習の時間」の指導計画の作成及び学習指導の基本的な考え方について理解する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)」などは、講義の中で適宜取り上げていきますが、全てを網羅することはできません。授業後は必ずプリントを読み返し、理解を深めてください。

※授業で配布したプリントは、必ずファイル(綴じ込んで保存)すること

※プリントを適宜読み返し、授業で学んだことを復習すること

※授業で配布した課題プリントは、必ず提出すること

教科書

使用しない。
プリントを配布します。

参考書

○文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」
○ぎょうせい 「平成 29 年改正 中学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間」
その他、参考になる文献などは授業中に適宜紹介していきます。

研究室／オフィスアワー

イーストポート 4 階 研究室２０
水曜日 10：00～14：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	総合的な学習の時間」の導入について ～ オリエンテーション・導入された背景などについて ～	予習：「教育方法」の意味について調べておく。（2 時間） プリント復習(2 時間)	福島信也
2	育成する資質・能力の意義について ～ 意義・学力の関係など ～	プリント復習(2 時間) 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間)	福島信也
3	教育課程と校内体制　その 1 ～ 教育課程における位置づけ ～	プリント復習(2 時間) 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間)	福島信也
4	教育課程と校内体制　その 2 ～「総合的な学習の時間」の学習内容 ～	プリント復習(2 時間) 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間)	福島信也

5	全体計画・年間計画・単元計画 ～ 指導計画の基本的な考え方 ～	プリント復習(2 時間) 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間)	福島信也
6	「総合的な学習の時間」の評価 ～ 評価のポイント・評価方法 ～	プリント復習(2 時間) 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間)	福島信也
7	総合的な学習の時間」の学習指導 ① ～ 『思考ツール』の活用 その１ ～	プリント復習(2 時間) 課題プリント(2 時間)	福島信也
8	「総合的な学習の時間」の学習指導 ② ～ 『思考ツール』の活用 その２ ～	プリント復習(2 時間) 課題プリント(2 時間)	福島信也
9	「総合的な学習の時間」の学習指導 ③ ～ 情報の収集について ～	プリント復習(2 時間) 事例集を読む(2 時間)	福島信也
10	「総合的な学習の時間」の学習指導 ④ ～ まとめ・表現について ～	「プリント復習(2 時間) 事例集を読む(2 時間)	福島信也
11	授業をつくり出そう ～「保健体育」&「総合的な学習の時間」を組み合わせて ～	プリント復習(2 時間) 課題プリント（2 時間）	福島信也
12	単元計画の作成 ① ～ 事例を選び、単元計画を作成しよう ～	プリント復習及び「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間) 単元計画作成(2 時間)	福島信也
13	単元計画の作成 ② ～ 単元計画をさらに工夫しよう ～	プリント復習及び「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間) 単元計画作成(2 時間)	福島信也
14	グループ検討会 ～ 学んだことをみんなで活かそう ～	プリント復習及び「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む(2 時間) 単元計画作成(2 時間)	福島信也
15	これからの「総合的な学習の時間」の授業づくり ～ （仮想）森ノ宮中学校の総合学習を考えよう ～	プリント復習(2 時間) 課題プリント(2 時間)	福島信也
成績評価方法と基準			割合
●単元計画は全員が提出します ●授業では、課題（プリント・コメントシート等）を提出します			●「単元計画」関係の課題：40% ●授業内課題：60%

授業科目名	特別活動論(教職課程:看護)（Special Activities）				
主担当教員	松田 智子		担当教員	松田 智子	
科目ナンバリング	SE618	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修
授業概要					
特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ					
到達目標					
・学校教育における特別活動やその中の各活動で育てたい資質・能力を理解する ・学級活動（ホームルーム）・生徒会活動・学校行事の具体的な指導方法を理解する ・特別活動のカリキュラム・マネジメントの具体やその評価について理解する ・特別活動と家庭・地域住民との関係を理解する					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
学習指導要領の解説、特別活動編を熟読すること（育てたい資質・能力に着目すること）					
教科書					
中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説（平成 29 年 6 月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 特別活動編編（平成 29 年 6 月 文部科学省） 特別活動の指導法ー各教科、道徳、総合的な学習の時間の連携を通してー(ERP 出版 松田智子、新川靖、林真太郎)					
参考書					
授業中に適宜資料を配付する					
研究室／オフィスアワー					
担当教員に確認する					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	イントロダクション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標	予習：自己の中学校・高等学校の特別活動を思い出してレポートする（2 時間） 復習：本時の振り返りとまとめ（2 時間）	
2	学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力	予習：学習指導要領の特別活動の解説編の目標と育てたい資質・能力を読む（2 時間） 復習：本時の振り返りとまとめ（2 時間）	
3	学級活動（１）学級活動の目的と内容	予習:自己の学級活動のテーマを書き出す(2 時間) 復習：本時の振り返りとまとめ（2 時間）	
4	学級活動（２）事例研究を考える （合意形成と意思決定の指導の方法）	予習：自己の経験の合意形成や意思決定を思い出して書く（2 時間） 復習：本時の振り返りとまとめ（2 時間）	
5	生徒会活動（１）生徒会活動の目標と内容	予習：自己の生徒会の活動を書く（2 時間） 復習：本時の振り返りとまとめ（2 時間）	
6	生徒会活動（２）事例研究から考える （生徒会組織のありかたと指導の方法）	予習：自らの生徒会の経験を提起する（2 時間） 復習：自治的、自発的な社会活動の方法を考える（2 時間）	
7	学校行事（１）学校行事の目的と内容 (学校行事の種類とそれぞれの目的)	予習：自己の学校行事と目的を書く（2 時間） 復習：本時の振り返りとまとめ（2 時間）	
8	学校行事（２）事例研究から考える （学校行事の指導計画作成と指導の留意点）	予習：自らの学校行事の経験を提起する（2 時間） 復習：学習で印象に残った学校行事の在り方を考えレポートする（2 時間）	
9	特別活動が果たす教育的意義	予習：自らの特別活動の経験を提起する（2 時間） 復習：特別活動の教育的意義をまとめる（2 時間）	

10	総合的は学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例	予習：自らの総合的な学習の時間を提起する（2時間） 復習：具体的なテーマを選択しまとめる（2時間）	
11	教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例	予習：自らの教科学習で印象に残った学習活動を提起する（2時間） 復習：具体的な教科を選択しまとめる（2時間）	
12	特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例	予習：自らが印象に残っている道徳授業を提起する（2時間） 復習：具体的な価値を選択しまとめる（2時間）	
13	特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例	予習：自らの地域活動経験を提起する（2時間） 復習：具体的な事例を選択しまとめる（2時間）	
14	特別活動の評価の評価と改善の方法	予習：自己はどのように評価されていたか思い出して書く（2時間） 復習：本時の振り返りとまとめ（2時間）	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：振り返りを書く（2時間） 復習：本時の振り返りとまとめ（2時間）	
成績評価方法と基準			割合
①毎回の授業で提出する授業後のレポート ②授業への参加態度と貢献度			①70% ②30%

授業科目名	教育方法論(教職課程:看護)（Studies of Teaching Methods）				
主担当教員	阿部　秀高		担当教員	阿部　秀高	
科目ナンバリング	SE619	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

国内外の教育方法についての諸理論や実践記録等の検討を通して，これからの時代に求められる学力等を育成する方法について学ぶとともに，実際の学校における，教育課程編成の理論と方法，指導と評価の計画の作成等について考える。授業は，ペアやグループなどによる活動を重視する。

到達目標

学校における教育課程を編成，展開する教育方法についての基礎的基本的な内容を学び，教育方法の技術の基礎を身に付けることを目標とする。あわせて，学生自身が受けてきた授業を相対化することによって，教育方法を柔軟に捉え直すことを目指す。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回の課題に対して自分の学びをレポートすることによって、教育方法や技術に対する理解を深め、日常生活において活用してもらいたい。

教科書

人間教育を実践する教師への道－インクルーシブ教育方法論－ 阿部秀高著　（株）ERP

参考書

授業中必要に応じて提示します。

研究室／オフィスアワー

東棟 20 研究室／在室時随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	教育内容と教育方法 生徒に何を（教育内容）どのように（教育方法）教えるのかをその一連の過程における原理と方法を学ぶための導入を行う。	予習：「教育方法」の意味について調べておく。（2時間） 復習：学んだ教育の原理・方法を簡潔にまとめる。(2時間)	
2	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための教育方法 学力の重要な要素の一つである基礎的・基本的な知識及び技能を育成する教育方法について学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り(2時間) 復習：授業、課外活動などに必要な基礎的・基本的知識技能について学んだことをまとめる。（2時間）	
3	思考力・判断力・表現力等を育むための教育方法 学力の重要な要素の一つである思考力・判断力・表現力等を育成する教育方法について学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り(2時間) 復習：学習指導要領の３本柱の中心である思考力・判断力・判断力の内実、関係をまとめる。（2時間）	
4	主体的に学習に取り組む態度を養うための教育方法 学力の要素の一つである主体的に学習に取り組む態度，学習意欲を高める教育方法について学ぶ。	学習意欲の喚起、主体的な学びができた場面を想起しておく。 今回のポイントを 800 字程度でレポートする。（課題） 予習:前時の履歴シートをもとに振り返り(2時間) 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2時間）	
5	個性を生かす教育の充実を図るための教育方法 個に応じた指導の充実など，現在求められている指導の工夫改善等について幅広く考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り(2時間) 復習：求められている指導の工夫改善について簡潔にまとめる。(2時間)	
6	生徒理解の方法と実践 生徒理解の重要性と教育相談のあり方、人間関係の構築の方法などについて学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り(2時間) 復習：生徒指導や相談について経験を想起しておく。生徒理解の重要性について自分の考えをまとめる。(2時間)	

7	これからの時代に求められる能力と教育方法 　学習指導要領の理念である生きる力や，21 世紀に求められるスキル等を育成する教育の実践について考える。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：「生きる力」とは？について考えをまとめておく。これから求められる教育実践の方向性についてまとめる。（2 時間）	
8	教育課程編成の理論と方法 学習指導要領に基づいた，各学校における教育課程編成の実際について学ぶ。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：教育課程の編成について学んだことをまとめる。（2 時間）	
9	年間の指導と評価の計画の作成方法 　各学校の教育課程に基づく具体的な年間の指導と評価の計画の作成について考える。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：年間指導計画作成の重要性についてまとめる。（2 時間）	
10	学習指導案の作成方法 　各学校の年間の指導と評価の計画に基づく具体的な学習指導案の作成について考える。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：学習指導案の試案について自分の考えをまとめる。（2 時間）	
11	授業づくりと教材研究の方法 　学習指導要領の趣旨の実現に向けた各教科等の授業づくりと教材研究の在り方を考える。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：教材研究の方法について学んだことをまとめる。（2 時間）	
12	メディアと教育方法 　学習指導におけるＩＣＴ等の活用について学び、授業に活用する方法について考える。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：これからの ICT 活用方法についてまとめる。（2 時間）	
13	学習評価の意義と方法 　指導と評価の一体化の重要性を学びその具体的な展開について考える。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：指導と評価の一体化の重要性についてまとめる。（2 時間）	
14	タイムリーな課題 　各回で取り上げることが出来なかった話題で，タイムリーなものや現代教育の課題について学ぶ。	予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：興味を持った教育時事について考えをまとめる。（2 時間）	
15	これまでの学びの総括と課題レポート 　これまでの学びの履歴を振り返り、課題レポートに取り組む。	予習：これまで書いた各回の履歴シートをもとに自分の問題意識をレポートする準備をしておく。（4 時間）	
成績評価方法と基準			割合
①毎回の授業にて書くレポート ②課題 ③論述試験としての最終レポート ④授業中の発言・プレゼン			①30% ②30% ③30% ④10%

授業科目名	生徒指導論（養護教諭）（教職課程：看護）（Student Guidance）				
主担当教員	杉山　雅		担当教員	杉山　雅	
科目ナンバリング	SE620	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

現代社会を生きる子ども達の心身の健全な発達について、ＨＲ指導や個別指導を中心に生徒指導の観点から考察します。生徒指導の基本原理を学び、厳罰主義をのりこえ、生徒の自主性を伸ばす指導法を身につけることができます。又、教育現場での具体的な指導事例を取り上げ、生徒指導の実践的な指導力を身につけることができるようになります。

到達目標

・思春期を生きる子どもたちの発達の課題を理解し、自立への過程を考察します。
・体罰や不適切な指導をのり越え、生徒の心に響くしなやかな指導の在り方を学ぶ。
・生徒への個別接近の教育実践例に学び、生徒の内面を丁寧に理解し、生徒指導におけるケアの理論を学ぶ。
・問題行動への取り組み方と専門機関との連携の仕方を学ぶ。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

復習に力を入れてください。受講後、授業で配布された資料を読みなおし、授業のテーマと関連のある参考書の部分に目を通し、理解を深めてください。
生徒指導に養護教諭の専門的領域を活用できる能力を養ってください。

教科書

毎回、授業テーマに基づいたレジュメ・資料を配布.

参考書

「生徒指導提要」文部科学省　2010 年　教育図書
「教師の仕事を考える」杉山雅　2012 年　学文社

その他、必要な資料は適宜配付します。

研究室／オフィスアワー

○講義日の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生徒指導とは何か。その基本的な指導法を学ぶ。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	杉山
2	体罰とは何か。その定義を学び、体罰を克服する指導の在り方を身につける。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	杉山
3	部活動と体罰を考える―近代スポーツの成立とは何か？―	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：課題ミニレポート『体罰について』	杉山
4	日々の生徒指導の技を学び、遅刻や清掃指導の個別接近の方法を学ぶ。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	杉山
5	行事の指導について、学校事故の観点からも考察し、事故を防ぐ力を高める。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	杉山
6	不登校・登校拒否の概念とその変遷について理解できる力をつける。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	杉山
7	不登校・登校拒否の生徒への対応や専門機関との連携の仕方について学ぶ。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：課題ミニレポート『不登校について』	杉山
8	「いじめについて考える」―いじめの定義とその発生のメカニズムを考察する。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	杉山
9	「いじめについて考える」（その２）―いじめを克服する筋道を展望する。	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：課題ミニレポート『いじめについて』	杉山
10	「児童虐待について考える」―児童虐待とは何か―	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	辻
11	「児童虐待について考える」（その２）―児童虐待と取り組む―	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	辻
12	広義の虐待と DV について考える―マルトリートメントとは？	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	辻
13	夜回り先生に学ぶ―タバコ・薬物・リストカットへの対処法	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：講義の復習	辻

14	教育相談について考える－カウンセリングマインドとは何か。	＜予習・復習各2時間＞ 予習：講義の復習	辻
15	子どもの貧困問題を考える－子どもを支えるケアの論理を学ぶ。	＜予習・復習各2時間＞ 予習：講義の復習	辻
成績評価方法と基準			割合
①定期試験（筆記） 70% ②ミニレポート 30%			①70% ②30%

授業科目名	教育相談の基礎と方法(教職課程:看護)（Basics and Methods for Educational Counselling）				
主担当教員	吉田 卓司		担当教員	吉田 卓司	
科目ナンバリング	SE621	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本講義では、教育相談に関する基礎理論と具体的な対応策を講学する。取り上げる課題は、個別ケースの対処法から、学校、地域社会等のレベルの制度論・政策論まで、多元的である。本講義では、そのような内容理解と今日の子どもたちのおかれている状況を前提として、ロールプレイなどのアクティブラーニングを取り入れて、教育相談の模擬実践を行い、児童生徒の発達状況や環境等を的確にアセスメントする能力と教育相談の対応力を養成する。

到達目標

本講義の目的は、教員として、教育相談に必要な知識、技能などの修得である。単なる知識やスキルの理解にとどまらず、可能な限りアクティブな学修手法を用いながら、教育相談（カウンセリング）における実践的な教育力を育成することを目標とする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教職免許取得を目的とする科目であることから、アクティブ・ラーニングや予習・復習に対する主体的な学習態度と品位ある言動を学修のすべての段階において求める。

教科書

文部科学省『生徒指導提要』教育図書
吉田卓司『教育実践基礎論』三学出版
兵庫民主教育研究所『子ども虐待と向き合う』三学出版

参考書

吉田卓司『生徒指導法の実践研究』三学出版
スクールソーシャルワーク評価支援研究所編『すべての子どもたちを包括する支援システム』せせらぎ出版
その他、講義時に適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

講義時間の前後に質問などを受ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	教育相談とは何か－教育相談の意義	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
2	教育相談（カウンセリング）の基礎理論	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
3	教育相談の方法原理	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
4	教育相談の具体的方法 1－個別・集団面接等の手法	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
5	教育相談の具体的方法 2－課題のある児童生徒の理解とソーシャルワーク	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記して	吉田卓司

		おくこと。	
6	教育相談の具体的方法 3ーカウンセリングマインドと多角的・総合的支援	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
7	教育相談の進め方 1-受容・共感の姿勢・共感的理解と姿勢	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
8	教育相談の進め方 2-カウンセラー・ソーシャルワーカー等との協働	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
9	教育相談計画と学校組織ーチーム学校と保護者対応	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
10	個別課題に向き合う教育相談の展開 1-いじめ	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
11	個別課題に向き合う教育相談の展開 2-不登校	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
12	個別課題に向き合う教育相談の展開 3-虐待	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
13	個別課題に向き合う教育相談の展開 4-自殺防止	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
14	教育相談とチーム学校ー地域・関係機関(医療・福祉・心理等)との連携	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
15	講義の振り返りと総括	＜予習・復習 各2時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
成績評価方法と基準			割合
定期試験、講義時に作成するレポート、予習・復習課題に関する評価は、「教職免許取得者として必要な知識の理解と学修内容に関して自ら考え、主体的に学びとったことを表現できているか」を評価基準とする。また、講義時のアクティブラーニングについては、上記に加えて、参加態度の主体性と積極性を評価の基準とする。			定期試験(50%). 講義レポート(20%). アクティブラーニング(15%). 予習・復習課題(15%).

授業科目名	養護実習（事前事後指導含む）（教職課程：看護）（Practice for Nursing Teachers (Before-and-after Guidance)）				
主担当教員	阿部　秀高		担当教員	阿部　秀高、老田　準司、福島　信也、松田　智子、宮永　啓子	
科目ナンバリング	SE626	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	5	必修・選択	必修

授業概要

養護実習事前指導としては、これまで身につけてきた教職科目、養護専門科目における学びを活用し、学校現場において実践するために確認すること、また、養護実習事後指導としては、養護実習の報告を通して、養護教諭や児童生徒との関わりによって得た学びについて確認、自覚を促す。

到達目標

事前指導目標：養護実習に臨むための準備、心構えができる。
養護実習目標：実習校において、養護教諭の仕事を理解し、最後まで粘り強く実習をやり遂げる。
事後指導目標：養護実習全体を振り返り、成果と課題を明らかにし、養護教諭に必要な資質/能力を理解する。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

養護実習を通して、自らの養護教諭に懸ける思いを寄り確かなものにしてください。

教科書

改定「養護実習ハンドブック」東山書房　大谷尚子他編著

参考書

必要に応じて提示する。

研究室／オフィスアワー

教職支援センター　毎週水・木　９：００～１８：００

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	・授業計画について ・養護実習の目標・内容 ・実習日誌の書き方	予習：養護実習要綱を読んでおく（１時間） 復習：本時で学んだことをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
2	・養護実習の評価について ・保健室来室者への対応について	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
3	・保健室で行う外科的・内科的救急処置について	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
4	・保健室で行う健康相談について	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
5	・健康診断の知識・技術 ・身体計測・視力検査・視力検査などについて ・健康診断表の記録について	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
6	・保健教育の目的と意義	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
7	・指導案の構成と書き方について ・模擬授業の教材選定、教材研究	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
8	・模擬授業の指導案作成、授業資料、教材の作成	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
9	・養護教諭の専門性を活かした保健授業（小学校）	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
10	・養護教諭の専門性を活かした保健授業（中学校）	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・
			阿部
11	・養護教諭の専門性を活かした保健授業（高等学校）	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
12	・養護実習体験談から学ぶ	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
13	・災害共済給付制度について	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
14	・実習報告会①（小学校・中学校）	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
15	・実習報告会②（高等学校）	予習：前時の学びを振り返る（１時間） 復習：本時の学びをまとめる（１時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部

成績評価方法と基準	割合
①課題の提出・内容 ②指導案の提出・内容 ③各回の振り返りシートの内容	①50% ②30% ③20%

授業科目名	教職実践演習(養護教諭)(教職課程:看護)(Practical Training of Teaching (Nursing Teachers))				
主担当教員	阿部　秀高		担当教員	阿部　秀高、老田　準司、福島　信也、松田　智子、宮永　啓子	
科目ナンバリング		科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

看護学科で身につけた専門性をもとに、養護実践力のある養護教育の育成を目指す。履修カルテの作成によって、これまで身につけた知見の修得について確認し、養護教諭としての自らの資質・能力をさらに向上するための講義・演習を行う。

到達目標

看護学及び教職科目の履修及び養護実習により修得した専門的な知識・技能をもとに、養護教諭としての必須な資質や能力・技能の修得を目指す。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本授業を通して養護教諭となるために必要な資質・能力に関して振り返り、自らに身についているかの確認を行ってください。

教科書

授業中に必要に応じて提示する

参考書

授業中、必要に応じて提示する

研究室／オフィスアワー

教職支援センター　毎週水・木（９：００～１７：００）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教職実践演習の意義・目的・内容の理解	予習：シラバスを読み、演習の目的を理解する（2 時間）復習：学んだことを記録をまとめ、データ化する。(2 時間)	宮永・老田・福島・松田・阿部
2	履修カルテに基づいて自らの教育実践力の評価を行う。	予習：これまで書いてきた履修カルテを読んでおく（2 時間） 復習：本時での学びを振り返り、データ化する（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
3	履修カルテの自己評価によって自らの教育課題を認識する。	予習：履修カルテを読み返す（2 時間） 復習：本時の学びを振り返り、データ化する（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
4	学校教育目標と学校保健目標と養護教諭の役割について	予習：養護実習要綱、記録を読み返す（2 時間） 復習：本時の学びを振り返り、データ化する（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
5	保健室経営計画・学校保健計画・学校安全計画についてグループ討議を行う。	予習：養護実習要綱、記録を読み返す（2 時間） 復習：本時の学びを振り返り、データ化する（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
6	子どもの心身の発達に応じた課題の理解と指導の実際	予習：養護実習で体験した養護教諭の仕事を洗い出しておく（2 時間） 復習：本時の学びを振り返り、データ化する（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
7	保健室来室者への対応・救急処置　ロールプレイ	予習：養護実習記録で児童生徒への関わりを振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
8	保健室来室者への対応・健康相談活動　ロールプレイ	予習：養護実習記録で児童生徒への関わりを振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
9	養護活動の実際（小学校・中学校）	予習：養護実習記録で児童生徒への関わりを振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
10	養護活動の実際（高等学校・特別支援学校）	予習：養護実習記録で児童生徒への関わりを振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
11	保健指導・保健学習の模擬授業計画	予習：養護実習記録で指導案、授業記録を振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
12	保健指導・保健学習の模擬授業発表	予習：養護実習記録で指導案、授業記録を振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
13	学級担任の役割や実務、他の教職員との協力について　グループ討議	予習：養護実習記録で観察した養護教師の仕事を振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
14	養護教諭の科目と養護教諭の職務の関連について	予習：養護実習記録で観察した養護教師の仕事を振り返る（2 時間） 復習：本時の学びの振り返りとデータ化（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部
15	履修カルテに基づく養護実践力の総括	予習：履修カルテの確認（2 時間） 復習：履修カルテの校正と完成（2 時間）	宮永・老田・福島・松田・阿部

成績評価方法と基準	割合
①履修カルテの提出・記入内容 ②模擬授業の指導案並びに発表 ③各時間に出す課題並びに振り返りシートの提出と内容	①50% ②30% ③20%

看護学科

(2020 年度入学生カリキュラム)

授業科目名	基礎ゼミナール(看護)（Basic Seminar）				
主担当教員	藤本　陽子		担当教員	藤本　陽子、伊津美　孝子、住田　陽子、外村　昌子、関口　敏彰、久木元　由紀子、蓮池　光人、升田　寿賀子、福島　信也、徳島　佐由美、阿部　秀高、越智　奈穂美、安井　渚、澤田　悦子、宮本　佳子、髙木　みどり、矢野　秀蔵、樋口　優子、南部　登志江、小西　由起子、大熊　淳子、川添　英利子、齋藤　雅子、白井　文恵、小林　妙子、岩佐　由美、矢野　貴恵、安部　辰夫、森　美侑紀		
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

【看護学科教員】
本演習は、新入生が大学生としての生活にできるだけ早く適応するよう、学生を支援することを目的としている。
具体的には、学生を少人数のグループに分け、担当教員に配属し、以下の内容を学修しながら大学生に求められる一般常識や態度を涵養する。なお原則として、本演習の担当教員がチューターとなる。
(1) 大学での学修の特徴
(2) 情報の収集や文献の検索の方法
(3) 論文の読み方、レポート作成
(4)プレゼンテーション
【阿部秀高】
森ノ宮医療大学生として必要な学園、大学への理解を深め、これから本学での学びの意欲を高めるために、大学における学び方の基礎となる社会人基礎力の向上を図る。そのために必要となる学びの技能を基礎から学び習得していくことを目指す。

到達目標

【看護学科教員】
1．大学生として主体的に活動することができる。(DP④)
2．これまでの高等学校と違い、大学における学修の特徴を述べることができる。(DP④)
3．他者の話を聞く、他者の話を理解する、自分の意見を述べる、といった基本的なコミュニケーション力を表現できる。(DP②③)
4．学修した知識や技術を活用して、レポートを書くことができる。(DP④)
5．基礎的な論文や雑誌・報告書等を読んでまとめることができる。(DP④)
6．文献等を検索し、取り寄せることができる。(DP④)
7．プレゼンテーションができる(DP④)
【阿部秀高】
森ノ宮医療大学生としての意識を持ち、大学生として求められる資質・能力の基礎力向上を目指す。自分の考えを論理的に表現し、他者と協働する力を伸ばす。具体的には、
①学修方法としての傾聴・記録に関するトレーニング(DP②③④)
②資料活用、大学図書館の利用方法（文献検索）(DP②③④)
③論理的文章表現について（大学のレポートにふさわしい用語・符号の使い方や構成など文章表現）
を学んでいく。(DP②③④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

【看護学科教員】
ひとりひとりが積極的に参加すること。グループとしてのまとまりも期待する。
普段から、学生自身のみならず、身近な、あるいは国内外で生起している事柄に関心を寄せる習慣をつけること。
学生は、担当教員と綿密に連絡を取りながら進めること。
【阿部秀高】
森ノ宮医療大学の学生としてのアイデンティティーを持ち、大学生としての基礎的な資質・能力の向上させるために、次の３点の意識を高めてください。
1．森ノ宮医療大学生として自覚と誇りを持ち、将来への見通しを持つ。
2．大学生として自分自身を振り返り、マナーや礼節を重んじる。
3．大学生としての学びの姿勢を身につけ、目標を持って学ぶ。

教科書

【看護学科教員】
使用しない。

【阿部秀高】
特に指定はしない。授業時にプリントを配布するので、各自紛失しないようにファイリングし毎回持参すること。

参考書

【看護学科教員】
担当教員が必要に応じて紹介する。
【阿部秀高】
講義内で適宜指示する

研究室／オフィスアワー

ゼミナールの初回に担当教員のオフィスアワーを確認すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	【看護学科教員】8 回～15 回 初回は全体講義（ガイダンス）→集合場所は掲示板で指示する。 ゼミナールの方法は各グループで話し合った方法で行う。 発表も原則として、グループ内で行う。	各グループで主体的に決めた内容を順守する。（16 時間の課題学習をする）	藤本陽子
	【阿部秀高】 ①　オリエンテーション（講義への取り組み方・大学生としての自分を見つめる） ②　理事長に学ぶ（学園・大学・学生への思い） ③　学長・学科長に学ぶ（医療人・看護師を目指すものに対する思い） ④　コミュニケーションスキル・学修スキル向上 ⑤　論理的文章の書き方・資料活用の方法 ⑥　プレゼンテーション・スキル ⑦　本授業における学びのまとめ・振り返り	【阿部秀高】 ①予習：シラバスの確認。（２時間） 復習：学びの履歴シートによる大学生として必要な資質/能力についてのまとめ（２時間） ②予習:学園の３つポリシーや設立理念の確認。（２時間）復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間） ③予習：看護師の仕事の概要を調べておく。（２時間）復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間） ④予習：レポートの書き方について高校までに学んだことを想起しておく（２時間）復習：学んだレポートの書き方について記録をもとにまとめる。（２時間） ⑤予習：言語技術について、高校までに学んだことを想起しておく（２時間）復習：学んだ言語技術について記録をもとにまとめる。（２時間） ⑥予習：プレゼンテーションについて高校までに学んだことを想起しておく。（２時間）復習：プレゼンテーションの作り方、発表の仕方についてまとめる。（２時間） ⑦予習：自分の作成したプレゼンテーションの練習）（２時間）復習：７回の講義で学んだ社会人基礎力に関してまとめておく。（２時間）	阿部秀高

成績評価方法と基準	割合
1.2/3　以上の出席が必要である。 2.【看護学科教員】 レポートで評価（ ルーブリック評価）する。(DP②③④) テーマ「基礎ゼミナールの成果」 A4 １枚 フォント：10.5　マージン：上下：20㎜　左：20㎜　右：10㎜ 提出日は後日連絡するので期限を厳守すること。 評価基準は以下のとおりである。 ①根拠のある主張をしている。 ②論旨が通っている。 ③よく考え、調べ、練られている。 ④文章をよく推敲し、誤字や脱字がない。 ⑤時間が厳守されている。 ※レポートの他、参加状況を参考にする。 【阿部秀高】 平常点評価（授業毎回の振り返りなど）６０%、講義最終回に作成した課題レポート４０%。	【看護】50% 【阿部秀高】 50%

授業科目名	物理学(看護)（Physics）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学修し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。

到達目標

水の比熱と日本の気候との関係について
てこの原理の人体中での応用
注射針の先端が皮膚に及ぼす圧力について
血圧とは
電磁気の基本知識
　上記の内容を学修していく。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。
２．配布された資料を使用し、講義を行う。
３．出席は重視する。
４．身近な自然現象を物理学の観点で考察する。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動する。

教科書

プリント使用

参考書

ベッドサイドを科学する　平田雅子　著　Gakken

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	熱力学　比熱	＜予習・復習 各２時間＞ 水の比熱が大きいことで人間は体温を一定に保つことができる。 授業用プリントを読み直し、疑問点があれば質問して下さい。	
2	熱力学　潜熱、代謝量	＜予習・復習 各２時間＞ 水分が蒸発する際、必要となる熱量について 代謝量と年齢・性別との関係について 確認して下さい。	
3	力の合成と分解、力のつりあい、作用・反作用の法則	＜予習・復習 各２時間＞ 力の分解の作図方法を覚えると、授業プリントが理解しやすくなります。	
4	力学　重心、力のモーメント	＜予習・復習 各２時間＞ 筋肉は私たちが思っている以上の力を発揮していることが少なくありません。力のモーメントの分野を読み直し、どれくらいの力が働いているか、確認してみましょう。	
5	力学　腰にかかる負担	＜予習・復習 各２時間＞ 腰を曲げたり、重いものを持つと、腰にかなりの負担を強いることになります。具体的な数値を知ることで、日常生活から気をつけるようにしましょう。	
6	力学　滑りにくい床	＜予習・復習 各２時間＞ 雪道の歩き方を確認しましょう。理解が難しい場合は、力の分解のプリントを見直して下さい。	
7	力学　圧力、気圧	＜予習・復習 各２時間＞ 潜水病について確認しておきましょう。１０ｍ潜ると１気圧の力を受けます。	
8	力学　アルキメデスの原理	＜予習・復習 各２時間＞ 以前、献血の際に利用されていた血液比重について、復習しておきましょう。	
9	力学　ベルヌーイの定理	＜予習・復習 各２時間＞ 血圧測定について学習するとき登場する、動圧と静圧。ベルヌーイの定理に記載されています。	
10	力学　入浴効果	＜予習・復習 各２時間＞ 和式風呂と洋式風呂の、人体への影響について復習しておきましょう。	
11	電気　オームの法則	＜予習・復習 各２時間＞ 冬になると静電気という見えない敵に悩まされますが、静電気がたまるとは、どういうことなのでしょうか。	
12	電気　感電ショック、アース	＜予習・復習 各２時間＞ 電流値と人体への影響についての表を一読しておいて下さい。	
13	単位　ヘマトクリット値	＜予習・復習 各２時間＞ 多くの単位が登場しましたが、わからないものがあれば、今回整理しておきましょう。	
14	磁気　磁界、電磁誘導	＜予習・復習 各２時間＞ IH 調理器、リニアモーターカーなど電磁誘導について復習しておきましょう。	
15	電磁波　紫外線	＜予習・復習 各２時間＞ 紫外線による人体への影響について確認しておきましょう。	

成績評価方法と基準	割合
毎回レポートを提出してもらう。 ①定期試験５５点〈DP③〉 ②レポート４５点〈DP③〉 合計１００点のうち、６０点以上で単位認定する。	①55% ②45%

授業科目名	生物学(看護)（Biology）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

専門科目の理解を深めるための基礎的な生物学を学修する。
具体的には、下記単元を中心に、ヒトのからだについて理解を深める。
【細胞の構造】細胞小器官の種類とその働き
【代謝】代謝・消化・吸収
【個体の恒常性と調節】恒常性の維持・ホルモン
【刺激の受容と反応】刺激・受容・神経系

到達目標

ヒトの生命の仕組みについて、その基本的事項を習得することを目的とする。〈DP③〉
好気呼吸の過程を理解する。〈DP③〉
恒常性について理解を深める。〈DP③〉
体液性免疫と細胞性免疫の違いを説明できる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

この講座を通して基礎用語を確認することが出来ます。高校で生物を学習していない学生にも解りやすく講義を進めていきます。

教科書

書籍名：視覚でとらえる生物図録
著者名：鈴木孝仁　監修
出版社名：数研出版

参考書

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第１巻 細胞生物学

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜と、水曜の午前中

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞の構造とその働き	＜予習・復習 各２時間＞ 細胞の種類はたくさんありますが、細胞の大きさや構造はどう違っているのでしょうか？	
2	細胞の構造とその働き 細胞を構成する物質（炭水化物と脂肪）	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちの体にはたくさんの細胞がありますが、その基本構造はすべて同じです。細胞の構造について確認しておきましょう。	
3	細胞を構成する物質（タンパク質） 浸透性	＜予習・復習 各２時間＞ ヒトの細胞がどんな物質でできているか確認してみましょう。	
4	選択透過性、動物の組織	＜予習・復習 各２時間＞ 能動輸送にはＡＴＰが必要ですが、その理由を考えてみてください。	
5	細胞内での代謝 酵素の性質	＜予習・復習 各２時間＞ 日常生活でいう「代謝」と生物学で扱う「代謝」は少し異なります。その違いも含めて確認しておきましょう。	
6	酵素の性質	＜予習・復習 各２時間＞ 酵素の性質はたくさんありますが、一つ一つ確認してください。	
7	外呼吸と内呼吸	＜予習・復習 各２時間＞ 生物学でいう「呼吸」とは内呼吸のことです。	
8	好気呼吸の過程	＜予習・復習 各２時間＞ 「クエン酸回路」について簡単に説明します。復習したうえで他の教材も読んでみてください。	
9	消化・吸収、恒常性	＜予習・復習 各２時間＞ 食べ物を食べると栄養になりますね。その仕組みについて調べてみましょう。	
10	血液の組成、血液の凝固 血管系	＜予習・復習 各２時間＞ 血液は体重の何分の一を占めていたでしょうか？	
11	心臓と肝臓	＜予習・復習 各２時間＞ 肝臓はお酒を分解するのはもちろん、他にもたくさんの仕事を担っています。	
12	腎臓の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちは毎日何回もおしっこをします。おしっこの役割は何なのでしょうか？	
13	免疫系	＜予習・復習 各２時間＞ 病気から守ってくれる白血球の仕事について確認しましょう。	
14	細胞性免疫、アレルギー	＜予習・復習 各２時間＞ 免疫反応が生体に不利に働くアレルギー。最近は、アレルギーに悩まされる人が増えてきていますが、その基本について学修しましょう。	
15	神経系、脳の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 脳は不思議な存在です。少し覗いてみましょう。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験１００点のうち６０点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	化学(看護)（Chemistry）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。
到達目標
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解することができる。それらが生理機能に密接に連関することを認識できる。＜DP③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
たとえすでに化学を履修していようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学びなおす必要があると捉えておいて欲しい。
教科書
「ライフサイエンスのための化学」　化学同人
参考書
「理工系の基礎化学」　化学同人
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭化水素化合物１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	炭化水素化合物２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	化学のまとめ	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　＜DP③＞	1　100%

授業科目名	情報処理(看護 A)（Information Processing）				
主担当教員	平山　裕子		担当教員	平山　裕子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word, Excel, PowerPoint 等を使用する。

到達目標

1．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる<DP③>
2．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる<DP③>
3．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる<DP③>
4．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．PC を使った演習を行なうので、出席をすること
2．作業内容（作成したファイル等）を保存するための USB メモリを用意すること
3．PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

中村健壽監修，森由紀著，医療従事者のための情報リテラシー，日経 BP 社

参考書

佐藤憲一他，Windows 7によるコ・メディカルのための情報リテラシー，共立出版，2013
金谷孝之・服部建大，基礎から学ぶ医療情報，共立出版，2014

研究室／オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス Lesson1【コンピュータ概論】	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson1【コンピュータ概論】を読む USB を用意する ※課題については、毎回の授業内で指示します。以下同様	
2	Lesson15【情報セキュリティと情報モラル】 Word① Lesson2【文字入力とファイル管理】 文字入力確認、及び応用 ファイル管理、USB の扱い方等	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson15-2【情報モラルと情報モラル】及び Lesson2【文字入力とファイル管理】を読む	
3	Word② Lesson3【基本的な文書作成】 WORD の基本的な書式設定を習得 Lesson4【ビジネス文書の作成】 ビジネス文書の作成	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson3【基本的な文書の作成】及び Lesson4【ビジネス文書の作成】を読む	
4	Word③ Lesson5【表の作成】 表の挿入、表内セルの書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson5【表の作成】を読む	
5	Word④ Lesson6【図形とイラストの挿入】 図形の活用方法及びイラストの挿入操作	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson6【図形とイラストの挿入】を読む	
6	WORD まとめ 長文レポート等でのヘッダー・フッター機能活用	＜予習・復習 各 2 時間＞ 別途配布する資料を読む	
7	WORD 復習テスト 授業内で WORD 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Word に関する操作・機能を確認	
		復習テストに備えておくこと	
8	Excel① Lesson7【集計表の作成】 基本操作（四則計算）の操作 基本的な書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ テキスト Lesson7【集計表の作成】を読む	
9	Excel② Lesson8【関数を使った表作成 1】 SUM, AVERAGE, MAX, MIN Lesson9【関数を使った表作成 2】 COUNT, COUNTA, RANK, IF	＜予習・復習 各 2 時間＞ EXCEL② Lesson8【関数を使った表計算 1】及び Lesson9【関数を使った表計算 2】を読む	
10	Excel③ Lesson10【統計処理】 ROUND, MEDIAN, MODE 関数のネスト	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
11	Lesson11【データとグラフ】 Excel④ 縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
12	Lesson12【データの活用】 Excel⑤ 関数応用 today, datedif, vlookup,	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson12【データの活用】を読む	
13	EXCEL 復習テスト 授業内で EXCEL 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Excel に関する操作・機能を確認する 復習テストに備えておくこと	
14	PowerPoint 基礎	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson13【プレゼンテーションの作成】を読む	
15	Lesson14 PowerPoint 応用	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson14【プレゼンテーションファイル作成】を読む	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②課題の提出状況及び完成度、授業態度含む<DP③> ③小テスト（授業内で実施）WORD 及び EXCEL<DP③> 5 分の 4 以上の出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	情報処理(看護Ｂ)（Information Processing）				
主担当教員	平山　裕子		担当教員	平山　裕子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)はWindows を、ソフトウェアはマイクロソフトのWord, Excel, PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる<DP③>
２．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる<DP③>
３．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる<DP③>
４．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PC を使った演習を行なうので、出席をすること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するためのUSB メモリを用意すること
３．PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

中村健壽監修，森由紀著，医療従事者のための情報リテラシー，日経 BP 社

参考書

佐藤憲一他，Windows 7によるコ・メディカルのための情報リテラシー，共立出版，2013
金谷孝之・服部建大，基礎から学ぶ医療情報，共立出版，2014

研究室／オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス Lesson1【コンピュータ概論】	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson1【コンピュータ概論】を読む USB を用意する ※課題については、毎回の授業内で指示します。以下同様	
2	Lesson15【情報セキュリティと情報モラル】 Word① Lesson2【文字入力とファイル管理】 文字入力確認、及び応用 ファイル管理、USB の扱い方等	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson15-2【情報モラルと情報モラル】及び Lesson2【文字入力とファイル管理】を読む	
3	Word② Lesson3【基本的な文書作成】 WORD の基本的な書式設定を習得 Lesson4【ビジネス文書の作成】 ビジネス文書の作成	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson3【基本的な文書の作成】及び Lesson4【ビジネス文書の作成】を読む	
4	Word③ Lesson5【表の作成】 表の挿入、表内セルの書式設定	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson5【表の作成】を読む	
5	Word④ Lesson6【図形とイラストの挿入】 図形の活用方法及びイラストの挿入操作	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson6【図形とイラストの挿入】を読む	
6	WORD まとめ 長文レポート等でのヘッダー・フッター機能活用	＜予習・復習 各２時間＞ 別途配布する資料を読む	
7	WORD 復習テスト 授業内で WORD 復習テストを実施	＜予習・復習 各２時間＞ Word に関する操作・機能を確認 復習テストに備えておくこと	
8	Excel① Lesson7【集計表の作成】 基本操作（四則計算）の操作 基本的な書式設定	＜予習・復習 各２時間＞ テキスト Lesson7【集計表の作成】を読む	
9	Excel② Lesson8【関数を使った表作成 1】 SUM,AVERAGE,MAX,MIN Lesson9【関数を使った表作成 2】 COUNT,COUNTA,RANK,IF	＜予習・復習 各２時間＞ EXCEL② Lesson8【関数を使った表計算 1】及び Lesson9【関数を使った表計算 2】を読む	
10	Excel③ Lesson10【統計処理】 ROUND,MEDIAN,MODE 関数のネスト	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
11	Lesson11【データとグラフ】 Excel④ 縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
12	Lesson12【データの活用】 Excel⑤ 関数応用 today,datedif,vlookup,	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson12【データの活用】を読む	
13	EXCEL 復習テスト 授業内で EXCEL 復習テストを実施	＜予習・復習 各２時間＞ Excel に関する操作・機能を確認する 復習テストに備えておくこと	
14	PowerPoint 基礎	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson13【プレゼンテーションの作成】を読む	
15	Lesson14 PowerPoint 応用	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson14【プレゼンテーションファイル作成】を読む	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②課題の提出状況及び完成度、授業態度含む<DP③> ③小テスト（授業内で実施）WORD 及び EXCEL<DP③> 5 分の 4 以上の出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	統計学(看護)（Statistics）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。

到達目標

１．統計学の基礎を理解する〈DP③〉
２．推定と検定の考え方を理解し，説明することができる〈DP③〉
３．量的データに対して適切な分析方法を選択することができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回の授業のつながりが非常に重要です．また，毎回小テストを実施しますので，欠席のないように留意すること

教科書

向後千春・冨永敦子，ファーストブック 統計学がわかる，技術評論社

参考書

市原清志 著，「バイオサイエンスの統計学 -正しく活用するための実践理論-」，南江堂

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して，テキスト「はじめに」を読む（単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様），【4 時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	測定値の性質（尺度水準）	「尺度水準」とは何か調べる．【4】	
3	平均と度数分布・分散と標準偏	テキスト１章を読む【4】	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト２章を読む【4】	
5	相関係数：２変数間の関係	ピアソンの積率相関係数，スピアマンの順位相関係数，ケンドールの順位相関係数について調べる【4】	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト 3-1 を読む【4】	
7	観測度数と期待度数	テキスト 3-2，3-3 を読む【4】	
8	カイ２乗検定	テキスト 3-4 を読む【4】	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト 4-1，4-2 を読む【4】	
10	対応がないデータによるｔ検定（ウェルチの方法）	テキスト 4-3 を読む【4】	
11	対応があるデータによるｔ検定	テキスト５章を読む【4】	
12	１要因の分散分析-1-	テキスト 6-1，6-2 を読む【4】	
13	１要因の分散分析-2-	テキスト 6-3 を読む【4】	
14	２要因の分散分析-1-	テキスト 7-1，7-2 を読む【4】	
15	２要因の分散分析-2-	テキスト 7-3 を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
① 定期試験〈DP③〉 ② 平常点（小テスト，授業内課題等）〈DP③〉	① 80% ② 20%

授業科目名	心理学(看護)（Introduction to Psychology）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

心理学が扱う問題・領域は多岐にわたっているが，それらに共通しているのは，「こころ」を理解しようとしていることである．しかしながら，一見すると，一体どこに「こころ」があるのか疑問になるような問題を扱っていることも多い．
　本講義では，心理学が現在の「こころの科学」としての心理学の形をとるようになった過程の全般的な流れについて概説した後に，領域ごとに解説を展開する．
　医療の現場では，様々な状況に置かれた人々と関わりを持つ機会が非常に多い．心理学を学び，「こころ」に関する知識を修得することが，医療人としての皆さんに，直接的に，また，間接的に役立つことを期待している．

到達目標

１．「こころの科学」としての心理学の成り立ちについて説明できる〈DP③〉
２．「こころ」の発露である行動の基本様式について説明できる〈DP③〉
３．心理学が扱う問題・領域を概観して「こころ」を捉えることができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編，「心理学［第５版］」，東京大学出版会

参考書

大竹文雄・平井啓 編著，「医療現場の行動経済学―すれ違う医者と患者―」，東洋経済新報社
その他、適宜指示する。

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	こころを捉える：こころとはなにか？	テキスト第１章を読む （単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	こころを捉える：行動の基本様式	テキスト第２章を読む【4】	
3	こころを捉える：遺伝と環境	テキスト第３章を読む【4】	
4	学習：条件付け	テキスト第４章１節を読む【4】	
5	学習：技能学習と社会学習	テキスト第４章２節、３節を読む【4】	
6	記憶：短期記憶と長期記憶	テキスト第４章４節を読む【4】	
7	学習・記憶の神経学的基礎	テキスト第４章５節を読む【4】	
8	感覚：感覚様相と閾	テキスト第５章１節を読む【4】	
9	知覚：視覚系の生理学	テキスト第５章２節,１項，２項を読む【4】	
10	知覚：視知覚の特性	テキスト第５章２節、3，4，5，6，７項を読む【4】	
11	思考・言語：問題解決と認知発達	テキスト第６章１節，２節，３節，４節を読む【4】	
12	思考・言語：言語・非言語コミュニケーション	テキスト第６章５節，６節を読む【4】	
13	動機づけ：達成動機づけ	テキスト第７章４節を読む【4】	
14	社会行動：社会的認知	テキスト第９章１節，２節を読む【4】	
15	社会行動：態度と説得・社会的影響	テキスト９章３節，４節を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP③〉 ②平常点（小テスト・レポート等）〈DP③〉	①80% ②20%

授業科目名	生命倫理学(看護)（Bioethics）				
主担当教員	神田　靖士		担当教員	神田　靖士	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

生命をめぐる倫理（道徳・規範）的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日的かつ具体的問題に対処できる思考能力を養います。生命科学・医学研究の発展は目覚しく、その成果をもとにした先端医療技術はわれわれに希望をもたらすとともに多くの新たな問題を提起しています。本講義では、生命倫理の誕生と展開を概説し、続いてどのように日本に受容されたのかを論じます。特に人権尊重を視野に入れ、最近の生命倫理学上の事例をとり入れつつ論じます。授業は、講義を中心として、ＶＴＲ，質疑、グループ討論を交えて行います。

到達目標

生命倫理学の歴史的背景と法律並びに国際比較することにより現在の問題点について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。特に最近の医療領域（出生前診断と妊娠中絶、脳死と臓器移植、終末期医療、再生医療、遺伝情報の取り扱い）において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ、討論を行いながら個々の倫理観を構築することを到達目標とします。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．生命倫理は医療関係を志す者として根底にある倫理的な考え方を学習する科目であるので、自ら疑問及び興味を持ち積極的に講義に臨むことを強く希望します。
２．グループ討論には積極的に参加すること。
３．出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
４．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

特に指定なし。講義資料を適宜配布します。

参考書

伏木信次、樫　則章、霜田　求　『生命倫理と医療倫理』　金芳堂
小林亜津子　『看護のための生命倫理』　ナカニシヤ出版
グレゴリー・ペンス　『医療倫理Ⅰ・Ⅱ』　みすず書房

研究室／オフィスアワー

在室時は訪問可。
質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。
メールアドレス：kandas@hirakata.kmu.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命倫理概論（生命倫理とはどのような学問か）	※隔週でグループ討論を行うので、前の週に行った授業内容に関して復習をし、分からない箇所の理解を深めた上でグループ討論に臨むこと。 本時についての予習・復習に各２時間	
2	尊厳死と安楽死	本時についての予習・復習に各２時間	
3	尊厳死と安楽死について討論及び発表	本時についての予習・復習に各２時間 レポート（２時間）	
4	着床前診断と出生前診断	本時についての予習・復習に各２時間	
5	着床前診断と出生前診断について討論及び発表	本時についての予習・復習に各２時間 レポート（２時間）	
6	臓器移植と脳死	本時についての予習・復習に各２時間	
7	臓器移植と脳死について討論及び発表	本時についての予習・復習に各２時間 レポート（２時間）	
8	再生医療とクローン技術	本時についての予習・復習に各２時間	
9	再生医療とクローン技術について討論及び発表	本時についての予習・復習に各２時間 レポート（２時間）	
10	インフォームド・コンセント（十分な説明と同意・告知）	本時についての予習・復習に各２時間	
11	インフォームド・コンセント（十分な説明と同意、告知）における倫理観について討論及び発表	本時についての予習・復習に各２時間 レポート（２時間）	
12	代理出産における倫理観	本時についての予習・復習に各２時間	
13	代理出産における倫理観について討論及び発表	本時についての予習・復習に各２時間 レポート（２時間）	
14	動物を対象とした研究における倫理観	本時についての予習・復習に各２時間	
15	動物を対象とした研究における倫理観について討論及び発表	本時についての予習・復習に各２時間 レポート（２時間）	

成績評価方法と基準	割合
・定期試験は行わず、平常評価（出席、レポート等）で総合評価する。 ①グループ討論への参加状況（出欠を含む）〈DP③〉 ②討論後の発表〈DP③〉 ③課題レポート〈DP③〉	①20% ②20% ③60%

授業科目名	哲学(看護)（Philosophy）				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような仕方で正しく認識できるのか・知ることができるのかについて学んでいく。

「哲学」のもともとの意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方でそれらをわれわれは手に入れることができるのか、は哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上でこの問題は避けて通れないものである。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。

この授業ではこの認識論・知識論という問題について、「懐疑論」というものを手掛かりに考察を深めていきたい。物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものであろう。哲学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行ってみたらどうなるか、が中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえた上で、自然科学的な知識はどのような仕方で正当化されるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な源流である 17 世紀の自然科学について論じる。

到達目標

１．ヘレニズム時代の古代懐疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを充分に理解することができる。〈DP③〉
２．近代において復活した古代懐疑主義が近代においてどのように受容され、改変されていったのかを充分に理解することができる。具体的にはモンテーニュの信仰主義、デカルトの方法的懐疑を充分に理解することができる。〈DP③〉
３．極端な懐疑の論理構造がいかなるものであるのかを、ウィトゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に充分に理解することができる。〈DP③〉
４．近代の自然科学的知識がどのように成立していったのかを、17 世紀に活躍したデカルトやニュートンの思想を参照することを通じて、充分に理解することができる。〈DP③〉
５．近代以降の自然科学が発展するにあたって、その方法論がどのようなものであったのかを充分に理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代では何の疑いもなく受け容れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきている。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。

「哲学」および「懐疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。

他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	（予習）「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	ソクラテスの哲学:「哲学」とはどういう営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
3	ヘレニズム時代の思想①：懐疑論とはそもそも何か？　およびストア主義の思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
4	ヘレニズム時代の思想②：古代懐疑主義の思想。ピュロン、アルケシラオス、アイネシデモス、アグリッパなど。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
5	近代の懐疑主義的思想①：モンテーニュにおけるピュロン主義、およびデカルト思想の全体像。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
6	近代の懐疑主義的思想②：デカルトの方法的懐疑その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
7	近代の懐疑主義的思想③：デカルトの方法的懐疑その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
8	懐疑論に抗して：ウィトゲンシュタインの思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
9	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その①：デカルトの自然学その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
10	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その②：デカルトの自然学その 2、およびデカルトにおける心身問題その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
11	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その③：デカルトにおける心身問題その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
12	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その④：デカルトの自然学とニュートン物理学、および近代における自然科学と形而上学との関係。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
13	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑤：近代における自然科学の方法論（帰納法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
14	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑥：近代における自然科学の方法論（仮説演繹法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何	

		度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。〈DP③〉 小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることができるかどうかを評価する。 期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。			①期末試験 50% ②小テスト 50%

授業科目名	社会福祉学(看護)（Social Welfare）				
主担当教員	掛川　直之		担当教員	掛川　直之	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

〈貧困〉という問題をつうじて、社会福祉の基礎を学ぶ。社会福祉にかんする考え方、制度、課題等について、時事的な問題や映像素材などをとおして具体的に学んでいく。一方通行にならないように、受講生の意見を聴いたり、グループワークをとりいれるなど、できるだけ退屈にならないような参加型の講義を心がける。

到達目標

日本社会に生起するさまざまな生活問題とその背景について、社会福祉の観点から理解することで、その解決に向けて自分の考えを自分のことばで説明できるようになることを目標とする。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義の進め方や成績評価の方法等の詳細については、初回の授業において説明する。なお、講義毎に、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。ここで出された質問等については、次回の講義の冒頭で解説をくわえる。

教科書

毎回の講義においてレジュメを配布する。

参考書

金子充『入門 貧困論：ささえあう／たすけあう社会をつくるために』（明石書店、2017 年）
岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門〔改訂版〕:「福祉の世界」への招待』（有斐閣、2013 年）
掛川直之編著『不安解消！出所者支援：わたしたちにできること』（旬報社、2018 年）

研究室／オフィスアワー

講義の前後、あるいはメール等にて質問等を受け付ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	〔オリエンテーション〕社会福祉の学び方：医療と福祉はつながっている	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	〔社会福祉の基本①〕社会福祉の考え方：人間はひとりでは生きられない	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	〔社会福祉の基本②〕貧困問題から社会福祉を考える：あなたはどんな「溜め」をもっている？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	〔社会福祉の基本③〕社会保障のしくみ：国や自治体の役割を考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	〔社会福祉の基本④〕ドラマ『サイレント・プア』から考えるソーシャルワーク：ソーシャルワーカーのしごと	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	〔社会福祉の分野①〕拡大する高齢者の貧困：老後は年金だけで生活できる？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	〔社会福祉の分野②〕病気や障がいをもつ人と貧困：適切な医療を受けるために	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	〔社会福祉の分野③〕女性やマイノリティは貧困に陥りやすい？：ジェンダーについて考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	

9	〔社会福祉の分野④〕子どもの貧困も自己責任？：成長発達の権利	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	〔社会福祉の分野⑤〕漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える生活保護制度：生きるための最後の砦	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	〔社会福祉の分野⑥〕映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』から考える生活保護受給とバッシング：差別と偏見の背後にある誤解	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
12	〔地域と社会福祉〕釜ヶ崎とホームレス問題：医療・保健・福祉の機能が集約された逃れのまち	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	〔犯罪と社会福祉〕どうして〈犯罪者〉に福祉が必要なの？：貧困・社会的排除のスパイラル	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	〔生活と社会福祉〕社会の〈障害〉をみつける：社会を変えることはできるのか？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	〔社会福祉の応用〕私たちにできること：第 1 回～第 14 回のまとめ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 本講義全体を見直す	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP③> ②コミュニケーションペーパー<DP③>			①70% ②30%

授業科目名	日本国憲法(看護)（Constitution of Japan）				
主担当教員	植田　重幸		担当教員	植田　重幸	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コ・メディカルをもとに、診療の補助の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規（保健衛生関連法規）の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。

到達目標

1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。<DP③>
2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。<DP③>
3. 医療と人権に関する大切さを理解する。<DP③>
4. 看護学科における『保健師・助産師・看護師法』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。<DP③>
5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。<DP③>
6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。
2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。
3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。
4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。

教科書

指定しない。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特色 基本理念及び基本原理	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権（人格権と幸福追求権）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	

8	基本的人権規定④ 　尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在的解釈を確認する	
9	関係法規① 　コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する	
10	関係法規② 　日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 　医療過誤の実態と権利侵害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 　医療過誤における法的責任	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 　国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 　裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	

成績評価方法と基準	割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(看護 A)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	長尾　晋宏		担当教員	長尾　晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 3 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。〈DP②〉
基本的な文法、語彙、表現を身につける。〈DP②〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(看護Ｂ)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	竹内 恵子		担当教員	竹内 恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
１．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
２．医学用語の基礎知識を学ぶ。
３．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。<DP②>
基本的な文法、語彙、表現を身につける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟１階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(看護 A)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 3 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan ／ Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(看護Ｂ)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	竹内 恵子		担当教員	竹内 恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan ／ Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 1 階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	MBS(Morinomiya Basic Seminar)(看護) (Morinomiya Basic Seminar)				
主担当教員	蓮池 光人		担当教員	蓮池 光人	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本授業は、大学生としての学習や生活をスムーズにスタートさせるために、大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を身につけること、学園の歴史や建学の精神の意味やディプロマポリシーを理解することで、本学への帰属意識を確立させることを目的とする。
また、履修に関することや教育課程（カリキュラム）、学生生活に関するルール等を理解することで、大学で学ぶために必要な能力を身につけることを目的とする。
医療の歴史及び医療の現在と未来を知ることで、医療全体への興味をより深めることを目的とする。

到達目標

・本学の建学の精神及びディプロマポリシーを理解している。<DP②③>
・大学で学ぶために必要な能力を身につけている。<DP②③>
・生徒から学生へ移行する（主体的・能動的な学習スタイルを身につける）<DP②③>
・医療人を目指す学生であることに対しての自覚を強く持つ。<DP②③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理想の大学生活とは？想像している内容と異なる話を聞くこともあるでしょうが、4 年間を有意義に過ごせるようこれからの生活を考えるきっかけとなることを願います。

教科書

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

蓮池研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【本学の歩みと未来／生徒から学生へ】 ・理事長による「本学の起源や今後の展望」、 ・学長による「医療・医学を学ぶ上での心構え」についての講義。 ・在校生から新入生に向けて大学生活の過ごし方や講義の受け方についてのプレゼンテーション。	予習：本学の Web サイトで「建学の精神」「森ノ宮医療学学園の歴史」「本学の特徴」について調べる．(1 時間) 復習：大学生としての心得を考え，まとめる．(1 時間)	蓮池
2	【看護学科のカリキュラムについて】 ・カリキュラムについて ・カリキュラムポリシーについて ・ディプロマポリシーについて	予習：学生手帳の「看護学科 授業科目・単位数」と「本学学士過程における三つのポリシー」「看護学科における三つのポリシー」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分にとって今後の大学生活で必要なことを考える．(2 時間)	蓮池
3	【情報化社会における情報リテラシーと情報モラルについて】 ・情報リテラシーと情報モラル（SNS の取り扱い） ・医療情報の取り扱いについて ・その他社会問題等	予習：「情報リテラシー」「情報モラル」について調べ，自分の考えをまとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，多くの情報から適切に情報を得る方法を考える．(2 時間)	蓮池
4	【看護師のキャリアについて】 ・自身のキャリアについて ・履修モデルの解説と自身のキャリア形成プランの検討 ・看護師に必要な学びと研究	予習：自分自身，将来どのような「大人」になりたいか，また，目標とする「看護師像」を考え，まとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分の将来像を明確にする．(2 時間)	蓮池
5	地域医療について 住之江区長による「住之江区の医療・福祉の現状」についての講話	予習：本学が位置する「住之江区」の Web サイト「広報誌 さざんか」にて，住之江区における「福祉・健康」の施策について調べる（2 時間）	蓮池

		復習：授業をまとめ，今の自分でも参加できることを（ボランティア等）を探す．(2 時間)	
6	西洋医学とは 医師による西洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：西洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：西洋医学の中での看護の重要性を調べ，まとめる．(2 時間)	蓮池
7	東洋医学とは 鍼灸師による東洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：東洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，西洋医学との違いを理解し，東洋医学の重要性をまとめる．(2 時間)	蓮池
8	チーム医療とは ・チーム医療について知る	予習：本学の Web サイトで「チーム医療」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，チーム医療の重要性を理解する．(2 時間)	蓮池
成績評価方法と基準			割合
レポート試験：「自己のキャリア構築のために今後の大学生活で何をすべきか」を 1600 字程度で述べる。〈DP②③〉 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	チーム医療見学実習(看護)				
主担当教員	升田 寿賀子		担当教員	升田 寿賀子	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

１．医療の実践の場である病院等の施設で医療従事者の 1 日を体験することにより、医療職への理解を深める。
２．保健医療施設における自己の目指す専門職の役割や機能を知ると共にチーム医療を構成する
様々な専門職の役割・機能について知識を深める。
３．チーム医療の実際を知り、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性を知る。

＜施設見学の実施概要＞
開講時期：9 月下旬
実習施設：大阪急性期・総合医療センター(日程調整中)、大阪国際がんセンター(9 月 28・29・30 日または
9 月 23・24・25 日)、日本生命病院(9 月 23・25・28 日)、関西メディカル病院(9 月 25・28・29 日)

＜実施方法＞
１．本見学実習は大学内で実施する事前授業（4 コマ）と施設見学（4 コマ）とする。
２．1 班 8 名程度の学科混成グループを作り、各グループ上記施設の中から 1 施設を見学する。
３．1 班ごとに 1 名の本学教員が引率し、基本的には引率教員の指示のもと決められたスケジュール通りに
施設内を見学する

到達目標

１．実習を通じて医療施設の全体的な業務や役割について知ることができる。DP2
２．実習を通じてチーム医療の構成を知り、目指す専門職の役割および責任を自覚することができる。DP2
３．実習を通じて医療に取り組む姿勢を養い、専門科目の学習への意欲向上のきっかけとし、今後、
専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。DP23

履修上の注意(学生へのメッセージ)

見学時は、担当者のみならず院内の全ての方(就業者や患者さん等)に迷惑がかからない行動を取るとともに、発言にも最大限配慮すること。
見学当日はバスで送迎を行います。集合場所や時間を等は引率教員の指示に従うこと。

教科書

とくになし

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

升田研究室 433

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
	事前授業①（授業の目的や概要について）	【事前授業１】（授業の目的や概要について） 予習：本学に設置されている学科の仕事内容を調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、チーム医療についての考えをまとめる。(3 時間)	升田
	事前授業②（授業の目的や概要について）	【事前授業２】（施設見学における注意事項について） 予習：大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて実践できるようにする （3 時間）	升田
	事前授業③（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる	升田

		（3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	
	事前授業④（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	升田
	【学修内容：⑤～⑧】 「施設見学」 ＜見学スケジュール例＞ ①リハビリテーション室の見学 →それぞれの職種間でのコミュニケーションを学ぶ ②ICU・CCU →医師や看護師の連携について学ぶ。最新機器等の設備について知識を深める ③各種検査室の見学 →検査技師と医師や看護師など他の職種との連携について学ぶ ④透析室 →透析の機器等について知識を深める ⑤手術室 →手術室とはどのような環境の部屋なのか、実際の設備や雰囲気を知る	復習：見学実習での学びをレポートにまとめる。自修時間 6 時間→課題提出	升田
成績評価方法と基準			割合
レポート課題<DP②③> 「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			1.10%

授業科目名	基礎体育(看護)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加、濱口　幹太、 山口　晏奈	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ・・トレーニング種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンス、レジスタンス運動など多種多様なスポーツ・トレーニング種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲーム等を自主的に運営する能力を養う。また、スポーツ・トレーニングの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ・トレーニングを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項

（１）集合場所
　日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所やバス運行時刻等が変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。

（２）各運動施設までの移動手段について
　本学では、１回生全員を対象に、本学体育館や近隣の代替運動施設を利用して、スポーツ・健康科学演習を行います。近隣（バスで約 10～20 分）の運動施設までの移動には、大学前から現地まで貸し切りバスをチャーターし、以下のタイムスケジュールにしたがって、みなさんを送迎します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション　クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。	
2	オリエンテーション　クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	予習・復習 1 時間	
3	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	予習・復習 1 時間	
4	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把	予習・復習 1 時間	

	握		
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	予習・復習１時間	
6	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	予習・復習１時間	
7	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	予習・復習１時間	
8	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	予習・復習１時間	
9	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	予習・復習１時間	
10	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	予習・復習１時間	
11	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	予習・復習１時間	
12	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	予習・復習１時間	
13	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	予習・復習１時間	
14	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	予習・復習１時間	
15	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	予習・復習１時間	
16	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	予習・復習１時間	
17	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	予習・復習１時間	
18	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	予習・復習１時間	
19	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	予習・復習１時間	
20	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	予習・復習１時間	
21	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	予習・復習１時間	
22	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	予習・復習１時間	
23	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	予習・復習１時間	
24	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	予習・復習１時間	
25	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	予習・復習１時間	
26	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	予習・復習１時間	
27	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	予習・復習１時間	
28	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	予習・復習１時間	
29	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤	予習・復習１時間	
30	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤	予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(20 コマ)以上出席すること（本授業科目においては１日で２コマ分の授業となっているので 10 日以上出席が必要です)。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			100%

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(看護)（Health Science【Including Sports Sociology】）				
主担当教員	濱口　幹太		担当教員	濱口　幹太	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。

到達目標

・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。〈DP③〉
・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・大学生として節度ある態度で授業に臨むこと

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005 年
田中喜代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006 年

研究室／オフィスアワー

非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：シラバスの確認（2 時間） 復習：内容の確認（2 時間）	
2	健康・体力の概念	予習：健康に関する記事をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
3	アルコールの影響とは	予習：身体に及ぼす影響をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
4	喫煙について	予習：身体に及ぼす影響をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
5	高脂血症・動脈硬化症	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
6	高血圧・脳卒中・心臓病	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
7	糖尿病・メタボリックシンドローム	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
8	前半まとめ	予習：今まで内容の確認（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
9	身体活動の必要性	予習：運動習慣のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
10	肥満について	予習：体型をチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
11	薬物乱用について	予習：薬物の影響のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
12	救急法	予習：心肺蘇生法のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
13	スポーツトレーニング	予習：スポーツの種目のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
14	健康に関する VTR	予習：健康に関する記事をチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
15	後半まとめ	予習：今までの内容の確認（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
定期試験で評価する。〈DP③〉 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	100%

授業科目名	栄養学(看護)（Nutriology）				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

栄養素の種類や働きを学び、消化吸収と代謝経路およびその調節系を理解する。

到達目標

1）三大栄養素（糖・脂質・タンパク質）の消化吸収・代謝の基礎を説明できる。〈DP③〉
2）食事摂取基準および身体活動に応じた消費エネルギー算出の理論を説明できる。〈DP③〉
3）ビタミンの作用と欠乏症について説明できる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書を中心に講義を行いますが、板書内容や配布資料も参考にして理解を深めてください。

教科書

イラスト基礎栄養学〈第 2 版〉大口健司　他著　東京教学社

参考書

系統看護学講座　栄養学　人体の構造と機能 ③

研究室／オフィスアワー

西棟 239 研究室/火曜日・水曜日以外の 17:00～19:00
その他、質問等あればいつでもお越しください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	栄養の概念	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
2	食物の摂取	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
4	消化・吸収と栄養素の体内動態②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
5	タンパク質の栄養	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
6	炭水化物の栄養①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
7	炭水化物の栄養②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
8	脂質の栄養	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
9	ビタミンの栄養①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
10	ビタミンの栄養②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
11	ミネラル（無機質）の栄養	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	

12	水・電解質の栄養的意義	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
13	エネルギー代謝①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
14	エネルギー代謝②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。	
15	全体のまとめと振り返り	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各 1 時間行うこと。また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験<DP③>			①100%

授業科目名	形態機能学Ⅰ(看護)（Morphofunctional Studies Ⅰ）				
主担当教員	北村　清一郎		担当教員	北村　清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

形態機能学Ⅰでは、人体の概要、細胞と組織、人体を構成する内臓系と循環器系の構造を学習する。内臓系については消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の構造を、細胞・組織のレベルから理解し、同時並行的に学習する機能（形態機能学Ⅱ）と関連させつつ習得する。人体の概要や細胞・組織では、内臓系を学ぶに必要な基礎的概念を把握する。循環器系は、とくに消化器系や呼吸器系、泌尿器系と密接に関連しており、これらのつながりを把握することも重要である。これらの学習を通して、生命維持のための仕組みを理解する。

到達目標

（１）細胞の構造、組織の概要、細胞・組織・器官の層序性を説明できる（DP②③）
（２）各内臓系を構成する臓器の位置と形態が分かるとともに、各臓器の構造を機能との関わりから説明できる（DP②③）
（３）循環器系の構成と体内での分布、消化器系、呼吸器系、泌尿器系との関わりが説明できる（DP②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。

教科書

「解剖生理学　人体の構造と機能①」　坂井　建雄、岡田　隆夫　（医学書院）

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

E 棟４階研究室５／毎週月曜日・火曜日・木曜日の昼休み

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	人体とはどのようなものか	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
2	細胞の構造	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
3	上皮組織、筋組織	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
4	結合組織と神経組織	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
5	口・咽頭・食道の構造	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
6	腹部消化管の構造	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村

7	膵臓・肝臓・胆嚢の構造、腹膜	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
8	鼻腔と喉頭	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
9	気管、気管支、肺、胸膜	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
10	循環器系の構成、心臓の構造	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
11	血管の構造、肺循環、体循環の動脈	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
12	体循環の静脈、リンパとリンパ管、脾臓	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
13	腎臓と排尿路	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
14	男性生殖器系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
15	女性生殖器系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
成績評価方法と基準			割合
学期末に筆記試験を行う（DP②③）。筆記試験は100点満点とし、60%以上の得点でもって合格とする。 合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。			筆記試験 100%

授業科目名	形態機能学Ⅱ(看護)（Morphofunctional StudiesⅡ）				
主担当教員	木田　岩男		担当教員	木田　岩男	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜2限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

形態機能学Ⅱでは、消化器系、呼吸器系、血液・造血器系、循環器系といった、人体の器官系それぞれの正常な機能（生理機能）について学習する。また、これら器官系の連携による生体の恒常性維持機構についても理解する。　さらに、人体の形態（解剖）的な特徴と機能との関係を十分に考察することで、疾病を理解する為に必要な知識を身につける。

到達目標

1．各器官系統別に、人体の正常な機能を、その形態（構造）と関連付けて理解する。〈DP②③〉
2．各器官系統別に、人体の各機能の調節機構について理解する。〈DP②③〉
3．各器官系の連携とホメオスタシスについて理解する。　〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布資料は教科書の補足資料として学修の参考にする。
2．講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。
3．講義中に指示するので、教科書の重要箇所にアンダーラインを引き、そこは必ず復習する。
4．疑問点があれば何でも質問し、解決してから次に進むようにする。
5．出席は重視する。

教科書

坂井　建雄、岡田　隆夫　解剖生理学「人体の構造と機能①」　（医学書院）

参考書

江連　和久、村田　栄子　看護学生のための解剖生理学　（メヂカルフレンド社）

研究室／オフィスアワー

研究室：西棟233研究室
オフィスアワー：月曜5限・水曜5限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	機能からみた人体とホメオスタシス	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
2	栄養の消化と吸収（口腔・食道・胃）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
3	栄養の消化と吸収（小腸・大腸）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
4	栄養の消化と吸収（膵臓・肝臓・胆嚢）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
5	呼吸の機能（呼吸運動）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
6	呼吸の機能（呼吸気量）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
7	呼吸の機能（ガス交換とガスの運搬）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
8	呼吸の機能（呼吸運動の調節）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
9	血液の機能（赤血球・白血球・血小板）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
10	血液の機能（血漿蛋白・血液凝固）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
11	血液の機能（血液型）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
12	循環器の機能（心臓の興奮と心電図）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
13	循環器の機能（心臓の収縮）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
14	循環器の機能（微小循環と浮腫）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
15	各器官系の連携	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験として筆記試験を行う。〈DP②③〉 期末試験（６０点以上で単位認定）	①100%

授業科目名	形態機能学Ⅲ(看護)（Morphofunctional StudiesⅢ）				
主担当教員	北村　清一郎		担当教員	北村　清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

形態機能学Ⅲでは、受精と胎児の発生、内分泌系、神経系、感覚器系、運動器系の構造を学習する。すなわち、これらの系に属する解剖構造を、細胞・組織のレベルから理解し、同時並行的に学習する機能（形態機能学Ⅳ）と関連させつつ習得する。内分泌系、神経系、感覚器系では、人体内外での情報の受容、伝達、処理、統合、出力の仕組み、さらには体内環境を一定に保つ調節の仕組みを理解する。骨と筋から構成される運動器系では、体の動く仕組みを理解する。

到達目標

（１）受精と胎児の発生の概要を説明できる（DP②③）
（２）内分泌系器官の構造を機能面から説明できる（DP②③）
（３）中枢神経系の形態と、各部の役割を説明できる（DP②③）
（４）末梢神経系の構成と分布、主要神経の役割を説明できる（DP②③）
（５）感覚器の構造を機能面から説明できる（DP②③）
（６）人体を構成する骨の名称と部位を述べることができる（DP②③）
（７）人体を構成する筋の名称と部位、役割を述べることができる（DP②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。

教科書

「解剖生理学　人体の構造と機能①（第９版）」　坂井　建雄、岡田　隆夫　（医学書院）

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

E 棟４階研究室５／毎週月曜日・水曜日・木曜日の昼休み

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	受精と胎児の発生、胎児循環	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
2	全身の内分泌腺と内分泌細胞	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
3	神経系の構造、脊髄の構造と機能	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
4	脳の構造と機能	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
5	脳の構造、脊髄神経の構造と機能	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
6	脳神経の構造と機能、自律神経の構造	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間）	北村

		復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	
7	眼の構造と視覚	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
8	耳の構造、味覚と嗅覚	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
9	皮膚の構造と機能	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
10	骨格の概要と骨の連結	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
11	体幹の骨格、上肢の骨格	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
12	下肢の骨格、頭蓋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
13	骨格筋の構造、体幹の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
14	上肢の筋、下肢の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
15	下肢の筋、頭頸部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
成績評価方法と基準			割合
学期末に筆記試験を行う（DP②③）。筆記試験は100点満点で60%以上の得点でもって合格とする。 合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。			筆記試験 100%

授業科目名	形態機能学Ⅳ(看護)（Morphofunctional StudiesⅣ）				
主担当教員	木田　岩男		担当教員	木田　岩男	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

形態機能学Ⅳでは、腎・泌尿器系、自律神経・内分泌系、運動器系、脳・神経系、感覚器系、免疫系、生殖器系といった、人体の器官系それぞれの正常な機能（生理機能）について学習する。また、これら器官系の連携による生体の恒常性維持機構についても理解する。　さらに、人体の形態（解剖）的な特徴と機能との関係を十分に考察することで、疾病を理解する為に必要な知識を身につける。

到達目標

1．各器官系統別に、人体の正常な機能を、その形態（構造）と関連付けて理解する。〈DP②③〉
2．各器官系統別に、人体の各機能の調節機構について理解する。〈DP②③〉
3．各器官系の連携とホメオスタシスについて理解する。〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布資料は教科書の補足資料として学修の参考にする。
2．講義前には予習として教科書の該当箇所を一読しておく。
3．講義中に指示するので、教科書の重要箇所にアンダーラインを引き、そこは必ず復習する。
4．疑問点があれば何でも質問し、解決してから次に進むようにする。
5．出席は重視する。

教科書

坂井　建雄、岡田　隆夫　解剖生理学「人体の構造と機能①」　（医学書院）

参考書

江連　和久、村田　栄子　看護学生のための解剖生理学　（メヂカルフレンド社）

研究室／オフィスアワー

研究室：西棟 233 研究室
オフィスアワー：月曜 5 限・水曜 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	体液の調節と尿の生成（腎臓）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
2	体液の調節と尿の生成（クリアランス）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
3	体液の調節と尿の生成（排尿）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
4	体液の調節と尿の生成（体液の調節）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
5	内臓機能の調節（自律神経）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
6	内臓機能の調節（内分泌総論）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
7	内臓機能の調節（内分泌各論）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
8	身体の支持と運動（筋の収縮）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
9	情報の受容と処理（神経系の基礎）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
10	情報の受容と処理（中枢神経系）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
11	情報の受容と処理（脳の高次機能）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
12	情報の受容と処理（末梢神経系）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
13	情報の受容と処理（感覚器）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
14	生体防御機構（免疫系）	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	
15	生殖機能・老化	予習：教科書の該当箇所を一読する。(1時間)	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験として筆記試験を行う。〈DP②③〉 期末試験（６０点以上で単位認定）	①100%

授業科目名	生化学(看護)（Biochemistry）				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生体の恒常性維持に必要な基本物質の構造と機能、それらの代謝に関する知識を学ぶ。

到達目標

1) 細胞の基本構造と細胞内小器官の役割について説明できる。〈DP②〉
2) 三大栄養素（タンパク質・糖質・脂質）の構造と機能、代謝の概略について説明できる。〈DP②〉
3) 酵素の反応機構ならびに調節機構の概略を説明できる。〈DP②〉
4) 核酸の構造と機能、遺伝情報からのタンパク質合成について説明できる。〈DP②〉
5) 無機質やホルモンの作用について説明できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書を中心に講義を行いますが、配布資料も参考にして理解を深めてください。

教科書

イラスト　生化学入門　相原英孝　他著　東京教学社

参考書

医学書院　生化学　人体の構造と機能②

研究室／オフィスアワー

西棟 239 研究室/火曜日・水曜日以外の 17:00～19:00
その他、質問等あればいつでもお越しください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	人体の仕組み	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
2	タンパク質の構造と働き①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。　予習復習を各１時間行うこと。	
3	タンパク質の構造と働き②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
4	糖質の構造と働き①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
5	糖質の構造と働き②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
6	脂質の構造と働き①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
7	脂質の構造と働き②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
8	核酸の構造と働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
9	酵素の性質と働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	
10	ビタミンの種類と働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各１時間行うこと。	

11	水・無機質の働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各1時間行うこと。	
12	栄養素の消化と吸収	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。　予習復習を各1時間行うこと。	
13	生体の恒常性を保つシステム	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各1時間行うこと。	
14	エネルギーの消費と供給	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各1時間行うこと。	
15	生体の防御システム（免疫）	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと。予習復習を各1時間行うこと。また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験<DP②>			①100%

授業科目名	発達心理学(看護)（Developmental Psychology）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男、岩崎　久志	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 4 限 金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、人間の発達を生涯的展望からとらえ、人間が誕生し、成長発達、成熟、やがて死に至るといったライフサイクルにおける精神の発達過程を学修する。ここでは、各発達段階（新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・壮年期・熟年期・前期高齢期・後期高齢期）の精神発達の特徴と人間関係の諸相について、いくつかの発達理論をもとに学修する。

到達目標

1. 人間のライフサイクルの全体像を理解する。〈DP②③〉
2. ライフサイクルの各段階の特徴を理解する。〈DP②③〉
3. 新生児期から後期高齢期までの各過程の発達課題とその要因について理解する。〈DP②③〉
4. ライフサイクルと健康との関連を理解する。〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 「心理学」、および、「看護学」各領域の概論の講義と関連づけて考えること。

教科書

特に指定しない

参考書

・看護のための人間発達学−第 4 版−, 舟島なおみ, 2011
・生涯人間発達論, 服部祥子, 医学書院, 2010
・看護・チーム支援に活かすカウンセリング, 岩崎久志, 晃洋書房, 2014
・その他、授業の中で適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

井手口：　Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、生涯発達とは	シラバスの確認（2 時間．以下，文末の括弧内の数は，予習復習の時間を示す）	井手口
2	発達理論−その 1−（エリクソン）	第 1 回配布資料の復習(4)	井手口
3	発達理論−その 2−（ピアジェ）	第 2 回配布資料の復習(4)	井手口
4	新生児期の発達的特徴	第 3 回配布資料の復習(4)	井手口
5	乳児期の発達の特徴	第 4 回配布資料の復習(4)	井手口
6	幼児前期の発達の特徴	第 5 回配布資料の復習(4)	井手口
7	幼児後期の発達の特徴	第 6 回配布資料の復習(4)	井手口
8	児童期の発達の特徴	第 7 回配布資料の復習，および，全体の振り返り(6)	井手口
9	青年期の心理①	予習：自身が看護師を志望するきっかけとなったことについて、振り返っておく。(2) 復習：講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。(2)	岩崎
10	青年期の心理②	予習：青年期の発達課題について、エリクソンのアイデンティティ概念について調べる。(2) 復習：講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。(2)	岩崎
11	青年期の心理③	予習：自らのアイデンティティとそれに基づく今後の人生設計について考えておく。(2) 復習：講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。(2)	岩崎

12	中年期の心理①(壮年期)	予習:中年期の発達課題について調べておく。(2) 復習:講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。(2)	岩崎
13	中年期の心理②(熟年期)	予習:自身の家族や身近な中年期にある人物を観察し、気づいたことを整理しておく。(2) 復習:講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。(2)	岩崎
14	老年期の心理①(前期高齢期)	予習:老年期の発達課題について調べておく。(2) 復習:講義やグループ討議を踏まえて考察を追記し、次回提出する。(2)	岩崎
15	老年期の心理②(後期高齢期)	予習:老年期に特徴的な疾病や障害を抽出し、支援の立場から高齢者のニーズを調べる。(2) 復習:講義全般の内容を整理し、レポート課題に取り組む準備を行う。(2)	岩崎
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験　(井手口範男)〈DP②③〉 2. レポート試験　(岩崎久志)〈DP②③〉			1. 50% 2. 50%

授業科目名	微生物学(看護)（Microbiology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修
授業概要					
臨床の現場では感染についての知識は必須である。また一方で、近年新たな感染が世間の耳目を集める事例も多くなってきている。よって、医療従事者はますます感染、ひいては微生物に対する知識や理解が求められている。そこで馴染みのある微生物から新興感染症を引き起こす微生物までを網羅的に講義していく。					
到達目標					
各種微生物について、その分類と感染経路、感染の機序とその症状、予防や治療などが理解できる。さらに生体防御のシステム、特に免疫系の働きについても併せて講義するので、生体がどのように微生物と戦っているのかについても理解を深めることができる。　＜DP①・②＞					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
情報量が多くなるため、必ず予習と復習をしておいて欲しい。					
教科書					
系統看護学講座　微生物学　　医学書院					
参考書					
標準微生物学　　医学書院					
研究室／オフィスアワー					
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室２０					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習･復習･課題等			担当
1	微生物学について	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
2	細菌の性質と分類	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
3	真菌の性質と分類	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
4	原虫の特徴	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
5	ウイルスの性質と分類	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
6	感染経路と発症 1	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
7	感染経路と発症 2	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
8	感染症の治療と対策	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
9	グラム陽性菌について 1	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
10	グラム陽性菌について 2	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
11	グラム陰性菌について 1	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
12	グラム陰性菌について 2	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
13	ＤＮＡウイルスについて	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
14	ＲＮＡウイルスについて	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
15	真菌、原虫について	テキストやノートなどで予習や復習を行うこと。(1 時間)			
成績評価方法と基準					割合
1　期末試験　＜DP①・②＞					1 100%

授業科目名	病理学(看護)（Pathology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるよう、さまざまな疾患についての詳細な説明と演習を行う。

到達目標

学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患について、その病因や成り立ち、病態を理解することができる。　＜DP①・②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならない。そのためにはそれらを確実に理解し、記憶に留めておかなければならない。

教科書

疾病のなりたちと回復の促進１　病理学　　医学書院

参考書

「新病理学（Ｑシリーズ）」　日本医事新報社

研究室／オフィスアワー

火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室２０

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学の概要	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	病因論	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	先天異常	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	遺伝子異常	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	代謝障害１	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	代謝障害２	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	循環障害	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	炎症	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	アレルギー	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	感染症	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	腫瘍１	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	腫瘍２	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	老化	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	総論のまとめ１	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	総論のまとめ２	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
１　期末試験　＜DP①・②＞	１ 100%

授業科目名	臨床心理学(看護)（Clinical Psychology）				
主担当教員	海蔵寺　陽子		担当教員	海蔵寺　陽子	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

臨床心理学は、人間の不適応行動の研究や治療を目的とする心理学です。授業では、人の心の構造のほか、具体的な心理検査や心理療法について学習します。

到達目標

１．心の病気とその症状を理解する〈DP②③〉
２．各種の心理検査について理解し、その特徴を説明できる〈DP②③〉
３．各種の心理療法について理解し、その特徴を説明できる〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義形式を中心に授業を進める。適宜、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。

教科書

臨床心理学序説　　高橋雅春・高橋依子　著　　ナカニシヤ出版

参考書

はじめての臨床心理学　　森谷寛之・竹松志乃　編著　　北樹出版

研究室／オフィスアワー

なし

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床心理学とは	予習：教科書第１章を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
2	心理療法とは	予習：心理療法について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
3	精神力動的心理療法１	予習：無意識について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
4	精神力動的心理療法２	予習：精神分析について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
5	精神力動的心理療法３	予習：分析心理学について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
6	行動療法１	予習：行動療法について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
7	行動療法２	予習：学習理論について教科書を読む 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
8	クライエント中心療法	予習：傾聴技法について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
9	その他の心理療法	予習：森田療法、家族療法について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
10	心理テストとは	予習：心理テストについて教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
11	性格テスト１	予習：客観テストについて教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
12	性格テスト２	予習：投影テストについて教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
13	知能テスト１	予習：知能テストについて教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
14	知能テスト２	予習：特殊能力のテストについて教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
15			

成績評価方法と基準	割合
①期末試験〈DP②③〉 ②平常点（レポート、小テストなど）〈DP②③〉	①80% ②20%

授業科目名	医療概論(看護)（Introduction to Medicine）				
主担当教員	三木　宏文		担当教員	三木　宏文、村上　生美	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 5 限 金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本教科目では，これから看護学の各教科を学ぶに先立って，現代医療の全体像を把握する．今日，少子高齢化が進展し，医療施設においては IT 化，入院期間の短縮化，疾病に対する高度な治療技術が進んでいる．
ここでは，現代医療をめぐる社会環境の動向を把握し，患者やクライエント（あるいは一般市民）を中心とした医療が成果をあげるために，まずは今日の進展する医療の実態を把握するとともに専門職のチームワークが重要であることを広い視点から学修する．
医療の本質，現代医療の課題，EBN（Evidence Based Nursing）と EBM（Evidence Based Medicine），医療の対象としての個人や集団，インフォームドコンセント，脳死，臓器移植，医療経済，専門職の役割等について学修する．

到達目標

1．社会環境や疾病構造の変化を理解する.DP①
2．患者をはじめとしたクライエントに提供されている医療の実態を把握し，現状を理解する.DP①
3．医療の対象としての人間（個人・家族・集団，生と死）について理解する.DP③
4．医療の成果を挙げるための仕組みやチーム医療について理解する.DP②
5．チーム医療における各専門職の役割について理解する.DP②
6．脳死判定や臓器移植とコーディネイターの役割について理解する.DP①
7．入院期間の短縮化と連携医療の必要性について理解する.DP①
8．患者の権利宣言や医療倫理に関する事項を理解する.DP③
9．日本看護協会看護倫理を理解する.DP③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．医療者の考えと患者の医療に対する考えのずれを認識する.
2．上手な受診と医療者のモラルを考える.
3．「医療概論」は医療する側の原点であることを認識する.
4．グループ討議には積極的に参加する.
5．日々の生活の中から現代医療に関する情報を収集し考える習慣をつける.

教科書

小泉俊三，平尾智広，有吉浩美：総合医療論　健康支援と社会保障制度①　医学書院

参考書

1．厚生の指標　増刊　国民衛生の動向　2019/2020　厚生労働統計協会.
2．日本看護協会編　看護に活かす基準・指針・ガイドライン集 2018　日本看護協会出版会.
その他，講義時に紹介する.

研究室／オフィスアワー

各教員から講義時に紹介する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療の対象としての人間（個人・家族・集団）の理解	予習：人間とは？　家族とは？　地域社会とは？　よく考えまとめる。 復習：ディスカッションや講義内容を振り返りノートを整理する。1時間。	村上
2	人間のライフサイクルと生と死の理解。	予習：人間の一生について考え、特徴をまとめる。 復習：ディスカッション内容や講義内容を教科書や参考書で確認する。1時間。	村上
3	医療の対象としての患者の理解。	予習：患者とは？このテーマについて考えまとめる。 復習：ディスカッション内容や講義内容についてテキストや参考書で確認し、ノートを整理する。1時間。	村上
4	患者の心理（当事者からの講義：膠原病友の会関西ブロック）	予習：家族や友人から病気（入院）体験を聞き、重要なポイントをまとめておく。 復習：講義内容をレポートにする。1時間。	村上
5	医療コミュニケーション	教科書 P2～9 を読み、配布資料のディスカッションをまとめておくこと（1時間）	三木
6	インフォームドコンセントと医療情報の開示・共有	教科書 P132～139 を読み、さらにインターネットで、コマタイトルを Key Word に検索しておくこと（1時間）	三木
7	わが国の医療の仕組み（１）	第３章（P56～95）を読んでおくこと：外来、入院治療から退院まで、医療機関の種類や検査・治療内容の概要を理解する（1時間）	三木
8	わが国の医療の仕組み（２）	.第３章（P56～95）を読んでおくこと：わが国の医療保険の種類と保健・福祉行政を理解する（1時間）	三木
9	医療の最前線とあらたな課題	第４章(P98～109)、第５章（P112～122）を読んでおくこと（1時間）	三木
10	チーム医療	チーム医療とは何か？各自調べておく(1時間)	三木
11	臓器移植と脳死判定	脳死判定の実際と、わが国の移植医療の実態を把握する（1時間）	三木
12	医療安全（１）	教科書の医療安全に関連するところを読んでおく。大規模病院の医療安全対策を通じて、医療安全推進のための組織と業務や、医療事故発生時の手順等を学ぶ（1時間）	三木
13	医療安全（２）	代表的な事故防止マニュアルを学び、医療界の特徴を把握する（1時間）	三木
14	プライマリケアとさまざまな看護専門職	第７章(P168～192）を読んでおくこと（1時間）	三木
15	在宅医療	在宅医療におけるコメディカルの役割を考える（1時間）	三木

成績評価方法と基準	割合
①三木：レポート　70 点<DP①②> ②村上：レポート 30 点<DP①②>	①70% ②30%

授業科目名	公衆衛生学(看護)（Public Health）				
主担当教員	神田　靖士		担当教員	神田　靖士	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

公衆衛生学は、ひとびとの健康維持、増進を実践する方法や技術を学ぶ専門科です。すなわち、何が健康を邪魔しているのか、何をすれば健康が守れるのか、どのような仕組みを作れば健康の維持、増進にプラスになるのかなどを科学的に解析し、それらを実践する学問です。
　本講義では、衛生･公衆衛生学の総論、衛生行政、予防医学、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。

到達目標

国民の基本的人権としての健康を保障するための科学、技術、倫理を医学の観点から学ぶ学問である。国民の健康を守るべき看護学生として、国民の健康状態と保健、衛生、福祉の体制を正しく理解し、国民の健康を守るための保健医療サービスと公衆衛生事業のしくみと方法について学習し、会得することが目標である。<DP①②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．講義を積極的に受講すれば行政のしくみや法におよび統計を理解できるようにしています。
２．講義内容の他に社会の福祉・保健・統計については新聞に記載されることがあり、日頃から注意してみることで学ぶことができます。新聞を読んでください。
３．出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
４．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考書

国民衛生の動向（厚生統計協会）

研究室／オフィスアワー

在室時は訪問可。
質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。
メールアドレス：kandas@hirakata.kmu.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	公衆衛生学概論と歴史	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：授業を基に配布資料確認（2 時間）	
2	人口統計と保健統計	予習：人口の諸問題を考える（2 時間） 復習:授業を基に配布資料・教科書の確認（2 時間）	
3	保健統計　出生と死亡	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。（2 時間）	
4	疾病統計	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配布資料・教科書の確認（2 時間）	
5	感染症とその予防	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：授業を基に微生物・予防接種法など確認（2 時間）	
6	食品保健と公衆衛生栄養	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配布資料・教科書の確認（2 時間）	
7	生活環境保全	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配布資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
8	医療の制度（医療保険、公費負担制度）	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
9	地域保健活動	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配布資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
10	母子保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認。(2 時間）	
11	学校保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
12	生活習慣病対策	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：疾病の種類、リスクと予防の確認（2 時間）	
13	高齢者対策（後期高齢者医療、介護保険制度）	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:高齢者医療の仕組みと介護制度を学ぶ（2 時間）	
14	精神保健福祉	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：精神保健福祉法、インフォームドコンセントを確認。（2 時間）	
15	産業保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配付資料・教科書の確認（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP①②> ②平常評価（出席状況）<DP①②> 上記①②で総合評価します。	①80% ②20%

授業科目名	看護学概論(看護)（Introduction to Nursing）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング		科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

看護とは？　この講義は、この問いに答えるものである。この場合の看護は、専門職としての看護を指す。したがって本講義では、実践の学問としての看護学の全体像を述べる。すなわち、看護は誰に対して、何を目指し、どこで、どのようなことを、なぜするのか、こういった問いへの解答である。看護は発展しているので、これまでにどのような歴史的過程を経てきているかも話題にする。ここでは今日の看護学を形作っている基盤となる知識を、人間、環境、健康、看護のまとめ方で述べる。

到達目標

１．看護の変遷と定義を述べることができる。DP①
２．看護は人間をどのように観るか述べることができる。DP①
３．人間と環境とのかかわりについて述べることができる。DP①
４．健康とは何か、生活と健康との関連を述べることができる。DP①
５．看護における倫理の重要性について、基本となるキーワードを説明することができる。DP③
６．看護の展開について、援助的関係形成について述べることができる。DP②
７．看護実践の特性について述べることができる。DP③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

予習・復習・課題は一定の時間をかけて果たしておくこと。
配布された資料はよく読み、整理しておくこと。
身近な経験を通して看護を考えること。
疑問点は大切にし、解決のためによく調べたり質問すること。
クラスメートとよく話し、よく聞き、コミュニケーション力を高めること。
前期に開講される「医療概論」と関連させて理解すること。

教科書

藤崎郁他著
＜系統看護学講座　専門分野１＞[基礎看護学１]　看護学概論　　医学書院

参考書

１．厚生の指標　増刊　　国民衛生の動向　2019/2020　厚生労働統計協会
２．フランク・ゴーグル著　小口忠彦訳「マズローの心理学」産能大学出版部
３．エリクソン,E.H.,著　村瀬孝雄他訳「ライフサイクル，その完結」みすず書房
４．日本看護協会編「看護に活かす基準・指針・ガイドライン集 2018」日本看護協会出版会
５．世界保健機関　「 ICF 国際生活機能分類ー国際障害分類決定版」中央法規
６．川嶋みどり「看護の力」岩波新書

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科目ガイダンス 現代における看護活動	予習：看護職（保健師・助産師・看護師）の活動内容について調べまとめる。 復習:学修した内容をテキストで確認する。3 時間。	村上
2	人間と環境①	予習:「環境」とは何か？個人にとって環境は何を指すか？考えをまとめる。 復習：学修したことをテキスト（基礎看護技術Ⅱ）の該当箇所で確認する。4 時間。	村上
3	人間と環境②	予習：人間の内部環境について調べてくる。 復習：看護と環境について、環境の構成要素と意味をまとめる。3 時間。	村上
4	人間と健康①	予習：あなたや家族は健康ですか？その根拠は？まとめる。 復習：健康の概念について学修したことをテキストで確認する。3 時間。	村上
5	人間と健康② （障がい・ヘルスプロモーション・健康概念の	予習：健康からの逸脱や障がいについて考えをまとめる。	村上
	変遷）	復習:学修した内容をテキストで確認する。4 時間。	
6	看護の本質①	予習：テキスト P.2～27 を読み重要点をまとめる。 復習：自己の現時点での「看護観」を記述しておく。 4 時間。	村上
7	看護の本質②	予習：テキスト P.27～48 を読み重要点をまとめる。 復習：学修内容をテキストで確認する。4 時間。	村上
8	看護における倫理	予習：テキストの「倫理」を読み、重要性を考える。 復習：学修内容をテキストで確認する。4 時間。	村上

成績評価方法と基準	割合
１．定期試験＜DP①②③＞ ※出題範囲：授業で扱った内容	100%

授業科目名	看護理論(看護)（Nursing Theory）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美、伊津美　孝子	
科目ナンバリング		科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

看護理論は、看護の本質を筋道立てて、体系的に説明する知識の組み合わせである。看護理論はF.Nightingale に端を発し、その後アメリカで創生、普及しており、数多くのものが紹介されている。この授業では、看護専門職にとって認知度が高いだけでなく、広く活用されている F.Nightingale と V.Henderson等 を取り上げる。F.Nightingale やV.Henderson 等の理論の根底にある考え方(哲学)、それぞれの理論はどのような内容で構成されているのか、F.Nightingale やV.Henderson の生涯（活動）や時代背景を知ることによって深く理解する。F.Nightingale とV.Henderson は全体講義とするが、他の理論はグループワークで討議・まとめ、発表の形式をとる。

到達目標

１．F.Nightingale は看護をどのようにとらえているか、説明することができる。DP①
２．V.Henderson は看護をどのようにとらえているか、説明することができる。DP①
３．次の各看護理論の特徴を述べることができる。DP①
　・ヒルデガードE.ペプロウ
　・ドロセアE.オレム
　・フェイG.アブデラ
　・シスター・カリスタ・ロイ
　・ジーン・ワトソン
　・パトリシア・ベナー
４．看護における理論の発達や必要性について考えることができる。DP④
５．グループワークの経験から他者の発言を聞く、理解する能力、自己の考えを伝える能力を養うことができる。DP④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

F.Nightingale と V.Henderson の著作をよく読む。
「理論」とは何か？　敬遠しないでよく考える。
看護学あるいは看護実践と理論の関係を機会あるごとに考える。
GWにおいては教科書だけでなく、その理論家の著作等の情報を収集して意見交換をする。

教科書

１．F.Nightingale　湯槇ます他訳「看護覚え書」現代社
２．V.Henderson　湯槇ます他訳「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会
３．薄井坦子著「生きているとは　看護の本質とこれからの看護」森ノ宮医療学園出版部
４．筒井真優美編「看護理論」南江堂

参考書

１．アン・マリナー・トメイ他　都留伸子監訳「看護理論家とその業績」医学書院
２．V.Henderson 湯槇ます・小玉香津子訳「看護論」日本看護協会出版会
３．コニー・M・デニス著　小野寺杜紀監訳「オレム看護論入門」医学書院
４．松木光子編集「ロイ看護モデルを使った看護の実践」NOUVELLE HIROKAWA
５．ジーン　ワトソン著　稲岡文昭　稲岡光子訳「ワトソン看護論」医学書院

研究室／オフィスアワー

科目ガイダンス時に知らせる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科目ガイダンス Introduction 「理論」とは	予習：「理論」について、いくつかの辞書を調べ、まとめる。 復習：学生の発表、質疑応答、講義から学んだことをまとめる。2 時間	村上
2	F.Nightingale 看護論①	予習：「看護覚え書」P.1～20 を読み、大切な点をノートにまとめる。 復習：講義内容で話題になった時代背景をフィードバックしておく。2 時間。	村上
3	F.Nightingale 看護論②	予習：テキスト「看護理論」P.19～29 を読み各自のやり方でまとめる。 復習：学修内容をテキストで確認する。2 時間。	村上
4	F.Nightingale 看護論③	予習：F.Nightingale の生きた時代について考えてくる。 復習：講義内容をテキストで確認する。2 時間。	村上
5	F.Nightingale　看護論④	予習：「看護覚え書」P.227～250 を読んでおく。 復習：講義内容をテキストで確認する。2 時間。	村上
6	V.Henderson 看護論①	予習：テキスト「看護理論」P.30～39 を読んでおく。 復習：学修内容を「看護の基本となるもの」で確認する。2 時間。	村上
7	V.Henderson の看護論②	予習：V.Henderson が生きた時代のアメリカについて考えておく。 復習：学修内容を教科書等で確認する。2 時間。	村上
8	Henderson 看護論③	予習：テキスト「看護の基本となるもの」P.5～29 から重要点をまとめておく。 復習:講義内容をテキストで確認しておく。2 時間。	村上
9	Henderson　看護論④	予習：テキスト「看護の基本となるもの」P.33 以降を可能な範囲で読んでおく。 復習：学修内容をテキストで確認する。2 時間。	村上
10	各理論に関するグループワーク①	予習：テキストの該当箇所を読み込む。 復習：GW における次回の課題を確認し探索する。 6 時間。	村上・伊津美
11	グループワーク②	予習と復習:GW に向けて当該理論家の内容や業績について書籍や文献を当たり共有する。5 時間。	村上・伊津美
12	グループワーク③	同上。5 時間。	村上・伊津美
13	グループワーク④	同上。6 時間。	村上・伊津美
14	グループワーク⑤	資料作成、発表準備。10 時間。	村上・伊津美
15	発表と総括	発表会は学生が運営する。発表に際しては後に活用できる資料（A4,1 枚）を作成する。 発表会後か各自のレポート作成。10 時間。	村上・伊津美

成績評価方法と基準	割合
１．定期試験＜DP①＞ ※出題範囲：授業で扱った内容 ２．レポート「GW で扱った看護理論家の理論の内容と、GW をとおして学んだこと」＜DP④＞ ※評価基準：ルーブリック提示 ３．グループワーク ※評価基準：ルーブリック提示	1.60% 2.20% 3.20%

授業科目名	生活援助論Ⅰ(看護)（Basic Nursing Skills Ⅰ）				
主担当教員	住田 陽子		担当教員	住田 陽子、村上 生美、伊津美 孝子、越智 奈穂美、野田部 恵、小西 由起子	
科目ナンバリング		科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 1 限 火曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人間の基本的欲求を看護の視点で捉え、それに基づいた生活行動を整える看護活動を「看護技術」という側面から理解し、修得する。看護技術とは何か、その問いに対し、理論と身近な生活体験をすり合わせるプロセスを通して本質を理解する。
本科目では、人間の生活基盤であるコミュニケーション・環境、人間の基本的欲求である食事・排泄について日常生活上での意味を考え、健康が障害された場合の患者のニーズを理解し、援助するための技術を学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 生活体験を言語化し、その意味を考察できる。〈DP④〉
2. 健康が障害された場合の患者のニーズを理解できる。〈DP①〉
3. コミュニケーションの本質を理解し、方法を理解できる。〈DP①〉
4. 環境調整技術の意義を理解し、方法を修得できる。〈DP①④〉
5. 活動・休息援助技術の意義を理解し、方法を修得できる。〈DP①④〉
6. 食事援助技術の意義と根拠を理解し、方法を考察できる。〈DP①④〉
7. 排泄援助技術の意義と根拠を理解し、方法を考察できる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席が前提である（特に演習）。
2. 演習時は臨地実習と同様にユニフォームを着用し、身だしなみを整える。
3. 提出物の提出期限は厳守する。事前学習課題未提出者は、演習への参加を認めない。
4. 演習物品等の準備、後片付け、基礎看護学実習室の美化は、学生が自律して行う。
5 . 講義・演習前後の自学自習を必修とする。

教科書

1.〈系統看護学講座 専門分野Ⅰ〉[基礎看護学②] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院
2.〈系統看護学講座 専門分野Ⅰ〉[基礎看護学③] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院
3. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

参考書

1. ヴァージニア・ヘンダーソン（著），湯槙ます，小玉香津子（訳）：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会
2. フロレンス・ナイチンゲール（著），湯槙ます，薄井坦子，小玉香津子他（訳）：看護覚え書，現代社
3. 深井喜代子（監修）：ケア技術のエビデンス，へるす出版

研究室／オフィスアワー

住田研究室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科目ガイダンス	予習：シラバスの確認 復習：授業の日時と内容を確認・整理しておく。	住田陽子
2	生活とは	予習：自身の生活体験を想起しておく 復習：授業内容を自身の生活に重ね合わせて確認しておく。	住田陽子
3	看護技術とは	予習：教科書「基礎看護技術Ⅰ」にて「序章 看護技術を学ぶにあたって」を熟読しておく。 復習：看護技術とは何か、について、自身の意見をまとめておく。	住田陽子
4	コミュニケーション	予習：教科書「基礎看護技術Ⅰ」の「第１章 コミュニケーション」を熟読しておく。 復習：自身のコミュニケーションの傾向について明らかにしておく。	住田陽子
5	環境調整技術：人間にとっての環境とは	予習：「人間にとっての環境とは何か」について、自身の意見をまとめておく。	住田陽子
		復習：予習段階での意見について、添削・追加をしておく。	
6	環境調整技術：療養生活の環境	予習：教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第１章 環境調整技術」を熟読しておく。 復習：人的環境として、看護師としての自分はどうありたいか、意見をまとめておく。	住田陽子
7	【演習】実習室オリエンテーション	予習：演習での身だしなみを確認し、整えておく。 復習：実習室オリエンテーションの内容について整理しておく。	全員
8	【演習】環境測定	予習：演習前レポート（1時間） 復習：演習後レポート（1時間）	全員
9	活動・休息援助技術：人間の生活における活動・睡眠・休息とは	予習： 1)「人間にとっての活動・休息とは何か」について、自身の意見をまとめておく。 2) 教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第 4 章 活動・休息援助技術」の「睡眠・休息の援助」の項を熟読しておく。 復習：予習段階での意見について、添削・追加をしておく。	野田部恵
10	活動・休息援助技術：ボディメカニクスと体位保持	予習：教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第４章 活動・休息援助技術」の「基本的活動の援助」の項を熟読しておく。 復習：日常生活動作の中でボディメカニクスを意識する。	野田部恵
11	ベッドメーキング	予習：教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第１章 環境調整技術」の「援助の実際」の項を熟読しておく。 復習：予習と授業で理解が困難な内容について、実習室で実践して確認する。	住田陽子
12	【演習】リネンの取り扱い	予習：リネンの特徴をふまえ、扱う上での留意点について調べておく。 復習：リネン類のたたみ方を修得できるよう、練習しておく。(1時間)	全員
13	【演習】ベッドメーキング	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
14	【演習】ベッドメーキング	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
15	体位変換、リネン交換	予習：教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第１章 環境調整技術」の「リネン交換」の項、「第４章 活動・休息援助技術」の「体位変換」の項を熟読しておく。 復習：予習と授業で理解が困難な内容について、実習室で実践して確認する。	住田陽子
16	移乗・移送	予習：教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第４章 活動・休息援助技術」の「移乗・移送」の項を熟読しておく。 復習：予習と授業で理解が困難な内容について、実習室で実践して確認する。	野田部恵
17	【演習】臥床患者のシーツ交換	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
18	【演習】臥床患者のシーツ交換	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
19	【演習】体位変換・体位保持／移乗・移送	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
20	【演習】体位変換・体位保持／移乗・移送	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
21	食事援助技術：人間にとっての食事とは	予習：「人間にとっての食事とは何か」について、自身の意見をまとめておく。 復習：予習段階での意見について、添削・追加をしておく。	越智奈穂美
22	食事援助技術：食事援助の基礎知識、食事介助、非経口的栄養摂取の援助	教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第２章 食事援助技術」を熟読しておく。 復習：日常生活動作の中で自身に適切な食形態、栄養バランス、摂取カロリーを意識する。	越智奈穂美
23	【演習】食事援助技術	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
24	【演習】食事援助技術	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員

25	食事援助技術：食事・栄養摂取の援助に必要なアセスメント	予習：演習を振り返り、食事・栄養摂取に必要なアセスメント項目について整理しておく。 復習：アセスメントに必要な知識について整理しておく。	越智奈穂美
26	排泄援助技術：人間にとっての排泄とは	予習：「人間にとっての排泄とは何か」について、自身の意見をまとめておく。 復習：予習段階での意見について、添削・追加をしておく。	小西由起子
27	排泄援助技術：自然排尿および自然排便の基礎知識	予習：教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第３章　排泄援助技術」の「自然排尿および自然排便の基礎知識」の項を熟読しておく。 復習：授業で学修した内容をふまえ、自身の排泄行動について考察する。	小西由起子
28	排泄援助技術：自然排尿および自然排便の介助	予習：教科書「基礎看護技術Ⅱ」の「第３章　排泄援助技術」の「自然排尿および自然排便の介助の実際」の項を熟読しておく。 復習：予習と授業で理解が困難な内容について、実習室で実践して確認する。	小西由起子
29	【演習】排泄援助技術	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
30	【演習】排泄援助技術	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分） ※定期試験対策として、本科目全体の内容と技術チェック課題について18時間学修する。	全員
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験：6割以上〈DP①④〉 2. 技術チェック〈DP①〉 3. 演習前後のレポートの提出状況、取り組み内容〈DP④〉 定期試験を受験するには、4/5以上の出席が必要である。			①50% ②30% ③20%

授業科目名	生活援助論Ⅱ(看護)（Basic Nursing Skills　Ⅱ）				
主担当教員	住田　陽子		担当教員	住田　陽子、村上　生美、伊津美　孝子、越智　奈穂美、野田部　恵、小西　由起子	
科目ナンバリング		科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

日常生活援助技術の原則とその根拠の理解を基盤とする。また基礎看護学実習Ⅰの学びを活用し、殊に健康に障害を持つ人々に対する日常生活援助技術を探求・修得することをねらいとする。各種清潔の維持のための看護ケアを中心に学習する。その演習においては、事前学習を基本とし、学生自身が創意工夫を重ねながら看護技術を実施する。また看護者として看護技術の一連のプロセスを体験し、ケアを受ける患者の体験を通し、また第三者として行なわれたケアを観察・評価し、看護者・患者・観察者の３つの視点からの気づきを考察し記録を行なうことで学習を深める。看護技術のあり方についてはテキストのみにとらわれない方法論について、その根拠を明確にし、様々な看護場面に応じた援助技術のレディネスを養う。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 日常生活援助技術の原則とその根拠を理解することができる。〈DP①〉
2. 学内演習を通して、患者、看護者、観察者の視点から援助技術の実施方法を探求できる。〈DP①④〉
3. 援助技術についてクリティカルな視点で実践、考察ができる。〈DP①〉
4. 生活の主軸となる人間の活動を通して、清潔、衣生活に関する概念を看護の視点から理解し、アセスメントに基づきそれらの基　本的援助を実施することができる。〈DP④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席が前提である（特に演習）。
2. 演習時は臨地実習と同様にユニフォームを着用し、身だしなみを整える。
3. 提出物の提出期限は厳守する。
4. 演習物品等の準備、後片付け、基礎看護学実習室の美化は、学生が自律して行う。
5. 看護技術の習得には事前事後の自己練習を必須とする。

教科書

1.（系統看護学講座　専門分野Ⅰ）[基礎看護学③] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院
2. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

参考書

1. 深井喜代子（監修）：ケア技術のエビデンス，へるす出版

研究室／オフィスアワー

住田研究室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科目ガイダンス 衣生活援助技術	予習：テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第６章　清潔・衣生活援助技術」の「病床での衣生活の援助」の項を熟読する。 復習：本科目の授業スケジュールを確認・整理する。	住田陽子
2	衣生活援助技術	予習：テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第６章　清潔・衣生活援助技術」の「病床での衣生活の援助」の項を熟読する。 復習：授業内容を振り返り、自身の衣生活の意義や衣服の選択について考察する。	住田陽子
3	【演習】寝衣交換／被服気候・寝床気候	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
4	【演習】寝衣交換／被服気候・寝床気候	予習：演習前レポート（30分） 復習：演習後レポート（30分）	全員
5	清潔援助技術：人間にとっての清潔とは	予習：「人間にとっての清潔とは何か」について、自身の意見をまとめておく。 復習：予習段階での意見について、添削・追加	住田陽子

		をしておく。	
6	清潔援助技術：清潔の援助の基礎知識	予習：皮膚の構造と機能について調べておく。 復習：テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章　清潔援助技術」の「清潔の援助の基礎知識」の項を熟読する。	住田陽子
7	清潔援助技術：入浴・シャワー浴	予習： 1）テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章 清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　入浴・シャワー浴」の項を熟読する。 2）入浴、あるいはシャワー浴に関する原著論文を読み、自身の意見をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、自身の入浴・シャワー浴の意義や効果について考察する。	住田陽子
8	清潔援助技術：整容	予習：テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章　清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　整容」の項を熟読する。 復習：授業内容を振り返り、自身の整容の意義や効果について考察する。	野田部恵
9	清潔援助技術：口腔ケア	予習： 1）テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章 清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　口腔ケア」の項を熟読する。 2）口腔ケアに関する原著論文を読み、自身の意見をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、自身の口腔ケアの意義や効果について考察する。	野田部恵
10	清潔援助技術：手浴	予習：テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章　清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　手浴」の項を熟読する。 復習：授業内容を振り返り、自身の手浴の意義や効果について考察する。	野田部恵
11	清潔援助技術：足浴	予習：テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章　清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　足浴」の項を熟読する。 復習：授業内容を振り返り、自身の足浴の意義や効果について考察する。	住田陽子
12	清潔援助技術：陰部洗浄	予習： 1）テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章 清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　陰部洗浄」の項を熟読する。 2）陰部洗浄に関する原著論文を読み、自身の意見をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、自身の陰部洗浄の意義や効果について考察する。	住田陽子
13	【演習】洗面・口腔ケア／手浴・爪切り	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
14	【演習】洗面・口腔ケア／手浴・爪切り	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
15	【演習】足浴	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
16	【演習】足浴	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
17	【演習】陰部洗浄	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
18	【演習】陰部洗浄	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
19	清潔援助技術：全身清拭	予習： 1）テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章 清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　全身清拭」の項を熟読する。 2）清拭に関する原著論文を読み、自身の意見をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、自身の清拭の意義や効果について考察する。	小西由起子
20	清潔援助技術：全身清拭	予習： 1）テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章 清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　全身清拭」の項を熟読する。	小西由起子

		2）清拭に関する原著論文を読み、自身の意見をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、自身の清拭の意義や効果について考察する。	
21	【演習】全身清拭	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
22	【演習】全身清拭	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
23	【演習】全身清拭	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
24	【演習】全身清拭	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
25	清潔援助技術：洗髪	予習： 1）テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章 清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　洗髪」の項を熟読する。 2）洗髪に関する原著論文を読み、自身の意見をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、自身の洗髪の意義や効果について考察する。	野田部恵
26	清潔援助技術：洗髪	予習： 1）テキスト「基礎看護学実習Ⅱ」の「第 6 章 清潔援助技術」の「清潔の援助の実際　洗髪」の項を熟読する。 2）洗髪に関する原著論文を読み、自身の意見をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、自身の洗髪の意義や効果について考察する。	野田部恵
27	【演習】洗髪	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
28	【演習】洗髪	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
29	【演習】洗髪	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分）	全員
30	【演習】洗髪	予習：演習前レポート（30 分） 復習：演習後レポート（30 分） ※定期試験対策として、本科目全体の内容と実技試験課題について 14 時間学修する。	全員
成績評価方法と基準			割合
1. 筆記試験：6 割以上〈DP①〉 2. 実技試験：6 割以上〈DP①④〉 3. レポート提出状況・取り組み内容〈DP①④〉 定期試験を受験するには、4/5 以上の出席が必要である。			1. 40% 2. 40% 3. 20%

授業科目名	診療援助論Ⅰ(看護)(Basic Nursing Skills (Medical Care)Ⅰ)				
主担当教員	伊津美 孝子		担当教員	伊津美 孝子、村上 生美、住田 陽子、越智 奈穂美、野田部 恵、小西 由起子	
科目ナンバリング		科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 3 限 水曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

健康に障害をきたした人に対する診療を行う際の看護の視点に立った基本的な支援技術を理解し修得することをねらいとする。
診療の基本的な技術とその EBN(evidence based nursing)さらに安全確保・感染防止策について学修する。また、患者が生活者であるという視座から診療を受ける患者(家族を含む)のニーズを理解し、診療を受けることで生じる身体的・精神的変化から、対象(家族を含む)に対する必要な看護の役割を学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.「診療援助とは何か」について対象者および看護者の立場から考えることができる。(DP①④)
2. 基本的な看護技術の原理原則とその EBN が理解できる。(DP①④)
3. 看護援助における症状・生体機能管理技術について理解できる。(DP①④)
4. 看護援助における安全確保、感染防止の技術について理解できる。(DP①④)
5. 看護援助において、常に対象者の個別性、ニーズ、状況を考えた看護援助を考えることができる。(DP①④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席が前提である。
2. 演習時は身だしなみを整える(演習は原則ユニフォームとする)。
3. 演習は常に緊張感を持ち、言葉づかいを含め、医療人を目指す者としてふさわしい態度で臨む。
4. 提出物の期限は厳守する。
5. 演習物品などの準備、後片付け、基礎看護学実習室の整備は学生が自立して行う。
6. 原則、途中退席は認めない。ただし、やむを得ない場合はこの限りではない。

教科書

1. 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③、医学書院
2. 任和子・秋山智弥編集　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院

参考書

1. ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術　メディカ出版
2. 竹尾恵子監修　看護技術プラクティス　学研
3. 深井喜代子監修　ケア技術のエビデンス　へるす出版
4. 深井喜代子編集　ケア技術のエビデンスⅡ　へるす出版

研究室／オフィスアワー

随時対応

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス 【講義】診療援助技術とは(診断、治療、生活)	予習：シラバスを確認しておく、診療とは何かについて調べておく(1時間)	伊津美孝子
2	【講義】診療援助技術とは(診断、治療、生活)	復習：診療援助とは何かについて復習(1時間)	伊津美孝子
3	【講義】診療と倫理、法律について	予習：看護師の倫理綱領を熟読しておく(1時間)	伊津美孝子
4	【講義】診療と倫理、法律について	復習：診療と倫理、法律について講義内容をもとに復習しておく(1時間)	伊津美孝子
5	【講義】外来における診療援助技術	予習：外来看護に関する研究文献を1編熟読しておく(1時間)	伊津美孝子
6	【講義】外来における診療援助技術	復習：(課題)外来看護に関する講義から外来看護における課題について考察する(1時間)	伊津美孝子
7	【講義】診察・検査・処置の介助技術	予習：診察・検査・処置の介助技術 テキストp404～419まで熟読しておく(1時間)	伊津美孝子
8	【講義】診察・検査・処置の介助技術	復習：講義内容について(1時間)	伊津美孝子
9	【講義】 症状・生体機能管理技術 検体検査(血液・尿・便、喀痰)	予習：症状・生体機能管理技術について テキスト p374～387 まで熟読する(1時間)	小西由起子
10	【講義】 症状・生体機能管理技術 検体検査(血液・尿・便、喀痰)	復習：講義内容について(1時間)	小西由起子
11	【講義】 症状・生体機能管理技術 生体情報モニタリング	予習：症状・生体機能管理技術 生体情報モニタリング テキスト p387~401 熟読する(1時間)	小西由起子
12	【講義】 症状・生体機能管理技術 生体情報モニタリング	復習：講義内容について(1時間)	小西由起子
13	【講義】 感染防止技術 標準予防策、感染経路別予防策	予習：感染防止技術 標準予防策、感染経路別予防策 テキスト p423～439 熟読する(1時間)	野田部恵
14	【講義】感染防止技術 標準予防策、感染経路別予防策	復習：講義内容について(1時間)	野田部恵
15	【講義】感染防止技術 洗浄、消毒、感染性廃棄物の取り扱い	予習：感染防止技術 洗浄、消毒、感染性廃棄物の取り扱い テキスト p439～444 まで熟読する(1時間)	野田部恵
16	【講義】感染防止技術 洗浄、消毒、感染性廃棄物の取り扱い	復習：講義内容についての復習	野田部恵
17	【講義】感染防止技術 無菌操作	予習：感染防止技術　無菌操作について テキスト P444～446 まで熟読する(1時間)	野田部恵
18	【講義】感染防止技術 無菌操作	復習：講義内容について(1時間)	野田部恵
19	【講義】創傷管理技術 創傷管理の基礎知識、創傷処置、褥瘡	予習 ：創傷管理技術　創傷管理の基礎知識、創傷 処置、褥瘡(1時間)	伊津美孝子
20	【講義】創傷管理技術 創傷管理の基礎知識、創傷処置、褥瘡	復習：講義内容について(1時間)	伊津美孝子
21	【演習】標準予防策・滅菌手袋　着脱	予習：演習前課題(1時間)	全員
22	【演習】創傷管理、包帯法	復習：演習の振り返り、課題 (1時間)	全員
23	【技術確認】　標準予防策・滅菌手袋　着脱	予習：技術の自己練習(1時間)	全員
24	【技術確認】　標準予防策・滅菌手袋　着脱	復習 ： 技術練習(1時間)	全員
25	【講義】安全確保の技術	予習：安全確保の技術 テキスト P462～477 まで熟読する(1時間)	小西由起子
26	【講義】安全確保の技術	復習：講義内容の復習(1時間)	小西由起子
27	【講義】呼吸循環を整える技術	復習：講義内容について(1時間)	伊津美孝子
28	【講義】呼吸循環を整える技術	復習：講義内容について(1時間)	伊津美孝子
29	【演習】酸素吸入、吸引	予習：演習前課題(1時間)	全員
30	【演習】　酸素吸入、吸引	復習：演習の振り返り・課題(1時間)	全員

成績評価方法と基準	割合
1. 筆記試験 60 点以上で単位認定とする。DP①④	1.80%
2. 技術確認 DP①④	2.10%
3. 課題への取り組み、提出状況 DP④	3.10%
4. 4/5 以上の出席が必要	

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ(看護)（Fundamental Nursing Practicum Ⅰ）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美、伊津美　孝子、住田　陽子、越智　奈穂美、野田部　恵、小西　由起子	
科目ナンバリング		科目区分	専門分野Ⅰ	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

基礎看護学実習Ⅰでは、看護の対象となる全ての人の生活を知るために、地域で生活される方やそれを支える活動や現状を知る。また健康であれば通常、意識し難い人間の日常生活に対する援助が看護の基本であることを理解する。健康に障害を来した場合、日常生活の様々な側面に影響を及ぼすことを看護師と患者との直接的かかわりを通して具体的に知る。本実習は、教室の学修とは違い、人々の生活の場である地域、また看護が実践されている現場での学修を主とする。したがって、看護職が患者の健康問題に対してどのような側面から援助する専門家であるか、援助はどのような性質を持つのかをよく観る、聴く、あるいは積極的に五感と身体を使ってよく活動して考えを深め、今後の学修の動機づけにする。また、健康な方をはじめ、療養中の対象者とのコミュニケーションを通して看護におけるコミュニケーションの意義について考察する機会とする。

到達目標

1. 人間の生活についてその特徴を理解する。
2. 実習施設の場の構造や機能について理解する。
3. 対象者の生活や社会的役割などを通して人（全体像）を理解する。
4. 人間の基本的欲求に基づく日常生活行動について理解する。
5. 健康障害による基本的欲求の変化と生活への影響を理解する。
6. 患者の自立できない日常生活行動に対する援助の意味を理解する。
7. 対象者との関わりを通し、看護におけるコミュニケーションを理解する。
8. 専門家としての看護師の活動を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 補習実習はできないので、体調を整えて全出席すること。
2. 全体あるいはグループごとのオリエンテーションには必ず出席すること。
3. 学修の場が地域の施設や医療施設であることをよくわきまえ、看護学生としての自覚と責任、緊張感を持って臨むこと。

教科書

ガイダンスで指示する。

参考書

ガイダンスで指示する。

研究室／オフィスアワー

住田研究室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1. 実習期間 2020 年 8 月 24 日～8 月 28 日 2. 実習場所 住友病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンター 3. 実習方法 8 月 24 日～26 日　病院実習 8 月 27 日　地域での見学や活動 8 月 28 日　学内で実習のまとめと全体カンファレンス	実習での疑問・不明点を自主的に調べる	

成績評価方法と基準	割合
日々の行動、カンファレンスの参加状況、実習レポート、看護師からの情報等を総合して 60 点以上を単位認定する。 詳細は別途配布する、基礎看護学実習要項による。	100%

授業科目名	学校保健(看護)（Disasters and International Nursing）				
主担当教員	宮永　啓子		担当教員	宮永　啓子	
科目ナンバリング		科目区分	統合分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

学校保健の意義・目的、学校保健安全法及び学校教育関連法規、学校における保健管理と保健指導の基礎的かつ重要な事項について学修する。それぞれの領域での取り組みについては、養護教諭を目指す立場から、主体的に考えて積極的な参加、学生相互の研鑽により実践能力を育成し学修する。

到達目標

①学校保健の意義と目的、領域構造と内容を理解し、学校保健担当者の役割を説明できる。
②学校保健推進に必要な学校保健安全法をはじめ関連法規を理解する。
③保健教育（保健学習と保健指導）について、その位置づけや実践について理解し、 説明できるようになる。
④学校における疾病の予防と管理（子どもの健康課題、感染症の予防、アレルギー対応等）に関して、看護学で学修したことを実践できるようになる。
⑤保健管理（学校環境衛生管理、学校安全・危機管理等）について理解し、実践力を身につける。
⑥学校保健の今日的課題を理解し、その対応に取り組む実践力を身につける。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

養護教諭の養護は、教育と看護学が基礎にあります。看護学を学ぶ中で、養護教諭に必要な知識・技術に関連する分野は意識をして学びを深め・学校保健活動が円滑に推進できる応用能力を身につける様に心がけてください。

教科書

『学校保健概論』、渡邊正樹、光生館
『新訂版 学校保健実務必携 第 4 次改訂版』、学校保健・安全実務研究会、第一法規

参考書

適宜授業時にプリントを配布する。

研究室／オフィスアワー

教職支援センター

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、「学校保健」とは 学校保健の意義と目的、構造について	予習： 自身の小中高等学校を振り返り、学校保健に関する行事や出来事をまとめる。(1H) 復習：授業の復習(1H)	
2	子どもの発育発達 健康診断	予習：テキストで予習（２．３章）(1H) 復習：授業の復習(1H)	
3	子どもの健康課題と病気	予習：子どもに多いアレルギー疾患を調べる。(1H) 復習：授業の復習(1H)	
4	感染症とその予防	予習：学校で予防すべき感染症について調べる。(1H) 復習：授業の復習(1H)	
5	児童生徒の生活実態と現代的健康課題への対応（保健指導）	予習：児童生徒の生活の実態を模索する。(1H) 復習：授業の復習(1H)	
6	心の健康問題とその対応 性教育（性の健康に関する現代的課題）	予習：テキストで予習（７．８章）(1H) 復習：授業の復習(1H)	
7	保健室の機能と役割 養護教諭の役割と歴史的変遷	予習：テキストで予習（９章）(1H) 復習：授業の復習(1H)	
8	保健室と養護教諭の具体的事例を学ぶ （救急処置や保健室登校等）	予習：小中高校における保健室を思い出し、養護教諭の役割を考えてくる。(1H) 復習：授業の復習(1H)	
9	学校安全（学校事故の予防） 危機管理、スポーツ振興センターについて	予習：テキストで予習（１０章）(1H) 復習：授業の復習(1H)	
10	学校環境衛生管理（含む：学校給食衛生管理） 学校環境衛生基準、環境衛生検査	予習：テキストで予習（１１章）(1H) 復習：授業の復習(1H)	
11	保健教育（保健学習・保健指導） Ⅰ 指導案の作成	予習：テキストで予習（１２章）し、どのような保健教育を行いたいか考えてくる。(1H) 復習：授業の復習(1H)	

12	保健教育（保健学習・保健指導）Ⅱ 指導案の発表	予習：保健学習・保健指導案の作成(1H) 復習：授業の復習(1H)	
13	食育と学校給食 食物アレルギーの子どもへの対応	予習：過去のニュースや記事等から、学校給食と食物アレルギーの問題について調べる。(1H) 復習：授業の復習(1H)	
14	特別支援教育と学校保健活動	予習：特別支援教育の現状を調べ、心理学等で学んだ発達障害について復習しておく。(1H) 復習：授業の復習(1H)	
15	学校保健・安全計画と学校保健組織活動 まとめ	予習：テキストで予習（１３章）し、学校保健計画の立案の仕方を考える。(1H) 復習：授業の復習　まとめ　(1H)	
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②講義中の発表・発言等 ③筆記試験			①20% ②20% ③60%

看護学科　教職課程

（2019 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	教職論(教職課程:看護)（Studies of Teacher Training）				
主担当教員	阿部　秀高		担当教員	阿部　秀高	
科目ナンバリング	SE608	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

現代における教職とはどのような職業なのかを考えていくことを講義の中心とします。
教職に関する資格・職務・制度についての基礎知識について理解を深め、教職に対しての心構えについて形成する。

到達目標

教職に関する基礎的な知識を的確に答えることができる。また、現代の日本に求められる教師像を、自ら探求し、論述することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教職志望者であるという強い目的意識をもって受講して欲しい。さもないと、途中で断念することになるであろう。講義形式で授業を進めるが、グループワークを取り入れる予定であり、受講生にも発言を求める。
なお、受講生の数、興味・関心に応じて、講義計画を変更することもある。

教科書

人間教育を実践する教師への道ー教師の仕事と教育行政ー　阿部秀高著　（株）ERP

参考書

授業の際に必要に応じて紹介します。

研究室／オフィスアワー

研究室 20 または教職支援センター／在室時随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　教師をめざす	・教職課程の概要を確認する ・教員のイメージを話し合ってみよう。 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（２時間）	
2	教職とは何か	・教職の意義について確認する。 ・教職の意義について話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
3	教師観の変遷と理想の教師像	・教師観の変遷について、時代と教師の役割から考察する。 ・理想の教師像を話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
4	学校とは１　成立の歴史と機能	・学校の歴史とその機能について確認する。 ・理想の学校を話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
5	学校とは 2　自身の学校（高等学校を中心に）	・出身校（高等学校）の学校案内・HP より学校の概要を確認する。 ・それぞれの学校についての相違点から、学校とはどのようなものか話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
6	教師の仕事１　小学校・中学校・高等学校教員	・教師の一日のスケジュール ・各校種の教員の仕事を確認する。	
7	教師の仕事 2　養護教諭の仕事	・一日のスケジュールと年間のスケジュール ・養護教諭の仕事を確認する。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
8	学校と教師１　教科指導・校務分掌	・授業づくりと評価について確認する。 ・校務分掌について、特に保健に関する分掌について確認する。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
9	学校と教師 2　学級経営・課外活動	・学級経営、課外活動について確認する。 予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
10	学校教育をめぐる現状と教師	・9 回までの学びから学校教育をめぐる現状と教師の役割について話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
11	国内の教育政策の動向１　学力・役割	・文部科学省 HP より、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる学力と教師の役割について話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
12	国内の教育政策の動向 2　資質・能力の向上	・文部科学省 HP より、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる教員の資質・能力について考え、話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
13	諸外国の教師と学校	・外国の学校と教師について確認する。 ・日本との違いについて話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
14	教職への進路選択と教員採用試験	・教員採用試験の情報を調べてみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：最終課題レポートに向けこれまでの履歴シートをまとめる（4 時間）	
15	教職論の振り返り　課題レポート	・教職論の学習を振り返り、整理しよう。 ・自分の理想の学校・教師像をまとめてみよう。 予習：最終課題に向けて学びの履歴シートデータの整理を行う。（２時間） 復習：採用試験受験を目指して、本講義で学んだことを履歴シートデータをもとに教員に求められる資質・能力や仕事内容の項目別に整理するレポートを作成しておく。（４時間）	

成績評価方法と基準	割合
①最終回における課題レポート ②授業におけるグループワーク活動への参加・課題への取り組み・学びの履歴シートの出来映え、提出状況などを総合して評価する。　グループワークを取り入れる予定。	①30% ②70%

授業科目名	教育原理(教職課程:看護)（Principle of Education）				
主担当教員	松田　智子		担当教員	松田　智子	
科目ナンバリング	SE609	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜４限 集中講義
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

①教育の基礎・基本的な原理を学ぶために教育の歴史や思想などの視点から各時代において教育や学校がどのように位置づけられてきたかを考察する。
②諸外国の教育について学び、現在の日本の教育がどのような思想的・歴史的背景を有しているのかを理解することで、学校教育や社会教育の在り方について見識を深める。
③現代における教育の課題や教育改革等の動きにも理解を深め、現代に求められる教師として必要な資質能力の習得を目指す。

到達目標

①教育の基本的な概念や方法を踏まえた上での教育の意義・目的・理念を理解する。
②日本及び諸外国の教育に関する歴史や思想、及び学校の営みについての知識を身につける。
③現代の学校教育について理解を深め、教員として必要な資質能力を身につける。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業中の私語にはかなり厳しく対応します。

教科書

「小学校学習指導要領」（平成２９年告示）及び「中学校学習指導要領」（平成２９年告示）を、必ず購入して授業に持参してください。
他、授業中に配布するレジュメをテキストとします。

参考書

授業中に適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業に関して何か質問等ありましたら、メールで、大学名・氏名を明記した上で送信してください（携帯メール不可）。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育学と教育の成り立ち	予習:「教育とは何か」について考えをまとめる（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
2	教育する意味と目的①：日本国憲法を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
3	教育する意味と目的②：教育基本法の第１章を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
4	教育する意味と目的③：教育基本法の第２章以降を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
5	教育の理念及び目的についてのまとめと到達度評価	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
6	初等教育のねらいと内容①：小学校学習指導要領の第１章・第２章を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
7	初等教育のねらいと内容②：小学校学習指導要領の第３章以降を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間）	
		復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
8	前期中等教育のねらいと内容①：中学校学習指導要領の第１章・第２章を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
9	前期中等教育のねらいと内容②：中学校学習指導要領の第３章以降を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
10	学習指導についてのまとめと到達度評価	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
11	西洋教育思想史①：エラスムス・ルター・コメニウス・ロック	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
12	西洋教育思想史②：ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
13	新教育の思想家と大正自由教育	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
14	戦後日本の教育史	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
15	教育の思想と歴史についてのまとめと到達度評価	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①中間試験 ②定期試験	①30% ②70%

授業科目名	教育心理学(教職課程:看護)（Educational Pcychology）				
主担当教員	北口　勝也		担当教員	北口　勝也	
科目ナンバリング	SE611	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

教育心理学は心理学で得られた知見を教育現場に応用する科学である。学校教育を考える上で、教育心理学に関するさまざまな知識や技術を習得し、それらを利用しながら教育に関わる現象を分析的に捉えることは重要である。また、近年、「不登校」「いじめ」「学級崩壊」「学習障害」といった学校をめぐる出来事が社会問題化してきている。この授業では、教育心理学の基本的知識を正確に理解し、実際の教育現場をイメージしながら考える基礎を養うことを主な目的としている。

到達目標

(1) 乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している。
(2) 主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している
(3) 教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業前に配布する資料を熟読して授業に備えること。授業後には講義内容を復習し、次回授業冒頭の小テストに備えること。小テストは自己採点して、答えられなかった部分については、前回資料をよく復習して、知識を確実なものにしておくこと。

教科書

なし

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	発達と教育①　－乳幼児期～幼児期－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
2	発達と教育②　－学童期～思春期－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
3	発達と教育③　－青年期－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
4	記憶のしくみを知る　－認知心理学－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
5	記憶に残る教授法を考える　－認知心理学－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
6	学習のしくみを知る　－学習心理学－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
7	行動のしくみを知る　－応用行動分析－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
8	「やる気」の心理学　－動機づけ心理学－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること。	
9	授業に必要な心理学的知識に関するまとめ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習としてまとめテストに備えること、復習としてまとめテストの誤答を見直して知識を確認すること	
10	評価の心理的影響を知る	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
11	性格の把握と学べる集団作りを知る　－性格心理学・社会心理学―	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
12	発達障害への対応を知る　－臨床心理学	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
13	児童生徒に見られる心の問題　－臨床心理学－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
14	教師の専門性とカウンセリングマインド　－臨床心理学－	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
15	個別指導に必要な心理学的知識に関するまとめ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習としてまとめテストに備えること、復習としてまとめテストの誤答を見直して知識を確認すること	

成績評価方法と基準	割合
①講義中に行われる２回のまとめテスト ②小テストと復習課題 の成績により評価する。	①75% ②25%

授業科目名	教育行政学(教職課程:看護)（Educational Administration）				
主担当教員	松田　智子		担当教員	松田　智子	
科目ナンバリング	SE610	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

教育行政とは、「国や地方公共団体の自治体が、教育政策を実現するため、教育法規を基礎に教育制度を運営し、教育条件の整備と教育活動の規制・助成を行うこと」である。本講義では、教育行政学に関して、受講者がこれまでの学校教育の中で経験した教育行政の一端を振り返るとともに、教育行政施策に関するマスコミ報道等を手掛かりとしながら、日本の教育行政の現状と今後の課題について学修する。

到達目標

１．教育行政の理念、組織、仕組みに関する基礎知識を持つことができる。
２．教育行政と学校・教員との関係を理解することができる。
３．教育行政を巡る今日的な課題について理解することができる。
４．教育行政について考究するために必要な情報の取得方法を知り、活用することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーナーになること。
２．限られた時間内で一定程度の文章を書く習慣を身に付けること。
３．問題意識を持って受講すること。
４．授業中の携帯電話等の使用はしないこと。

教科書

「人間教育を実践する教師への道―教師の仕事と教育行政―」　阿部秀高著　　株式会社 ERP

参考書

『教育法規エッセンス』元兼正浩／花書院　　その他、必要に応じて紹介する。

研究室／オフィスアワー

東棟４階２０研究室／在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 「教育行政学」の学びのアウトラインを知る	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業をもとに今後の学修を確認する(2 時間)	
2	公教育の原理と思想 公教育の概念や公教育の原理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：三原則の具体例を調べる（2 時間）	
3	学校体系 外国の単線型・複線型学校体系及び日本の学校体系について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：日本の学校体系について調べる(2 時間)	
4	教育の法体系① 教育法規の体系及び学校教育法制の整備について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:学修内容を４００字程度でまとめる(2 時間)	
5	教育の法体系② 教育基本法の改正と教育行政の責任の明確化について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：今後の課題を調べる（2 時間）	
6	中央教育行政 教育改革における教育行政の役割や文部科学省の組織について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：文部科学省の主要施策を調べる（2 時間）	
7	地方教育行政 地方教育行政の役割と教育委員会の制度について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:出身地の教育振興基本計画を調べる(2 時間)	
8	教育課程行政 教育課程に関する法制度及び学習指導要領の変遷と教科書採択等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：出身校の教科書を調べる（2 時間）	
9	教育財政と学校財務 教育費の基本原理や教職員にかかる経費について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:学修内容を４００字程度でまとめる(2 時間)	
10	学校経営改革 学校経営改革の内容を知るとともに地域と共につくる学校について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：子どもの今について調べる（2 時間）	
11	学校評価 学校評価の制度及び学校評価システムの展開について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：出身校の学校評価を調べる（2 時間）	
12	教員評価 教員評価の制度及び教員評価の実施方法等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:学修内容を４００字程度でまとめる(2 時間)	
13	学校安全① いじめ問題への対応及び学校における衛生・健康管理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：いじめ防止対策基本方針を調べる（2 時間）	
14	学校安全② 防犯・安全対策及び学校事故への安全対策と災害に対する備えについて学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：学校事故のニュースを調べる（2 時間）	
15	課題レポート 講義全体を振り返り、学修状況を確認する。	予習：講義内容の振り返りをしておく（2 時間） 復習:学修内容を８００字程度でまとめる(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
１．授業中記録した学びの履歴シート【５０%】 ２．最終回の課題レポート【３０%】 ３．授業での発言、主体的な学びの姿勢、及び出席【２０%】	１．５０% ２．３０% ３．２０%

理学療法学科

（2016 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	理学療法セミナーⅠ(理学)（Physical Therapy Seminar Ⅰ）				
主担当教員	木内　隆裕		担当教員	木内　隆裕、澤田　優子、仲本　正美、杉本　圭、松尾　浩希	
科目ナンバリング	SS201	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 3 限 月曜 4 限 水曜 3 限 金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

理学療法士として臨床で働くために必要な基礎知識及び専門知識を、特に主要な箇所に焦点を当てて体系的かつ網羅的に学習する。

到達目標

下記 1）～ 3）について、本学で設定している難易度の問題を解答できること。
1)　主な運動器疾患・神経系疾患・内科系疾患の理学療法評価
2)　主な運動器疾患・神経系疾患・内科系疾患の基礎医学的知識
3)　主な運動器疾患・神経系疾患・内科系疾患に対する基礎理学療法

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)　下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。
2)　教科書以外の問題集に取り組むことは推奨しない。
3)　授業進行において、項目毎の予習・復習が必須となるため、怠らないように注意すること。

教科書

1)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 基礎医学 2020，医歯薬出版．
2)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 臨床医学 2020，医歯薬出版．
3)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　基礎 PT 学 2020，医歯薬出版．
4)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　障害別 PT 治療学 2020，医歯薬出版．

参考書

1）リハドリル．アイペック社．
その他、各自で標準的かつ最小限の書籍をみつけること。

研究室／オフィスアワー

各教員とも随時対応する。ただし、事前に予約すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	評価と運動療法の基礎 1	ROM テスト，MMT など（2 時間）	仲本
2	評価と運動療法の基礎 2	ROM 運動，筋力強化運動など（2 時間）	仲本
3	評価と運動療法の基礎 3	運動処方，運動分析など（2 時間）	仲本
4	神経疾患と理学療法 1	脳卒中など（2 時間）	木内
5	神経疾患と理学療法 2	脳卒中など（2 時間）	木内
6	神経疾患と理学療法 3	神経変性疾患、神経筋疾患など（2 時間）	木内
7	神経疾患と理学療法 4	脊髄損傷など（2 時間）	木内
8	運動器疾患と理学療法 1	正常歩行の運動学・運動力学など（2 時間）	杉本
9	運動器疾患と理学療法 2	関節リウマチ，変形性関節症など（2 時間）	松尾
10	運動器疾患と理学療法 3	骨折，整形外科テストなど（2 時間）	松尾
11	小児疾患と理学療法 1	人間発達学など（2 時間）	澤田
12	小児疾患と理学療法 2	小児疾患と理学療法（2 時間）	澤田
13	呼吸器疾患と理学療法	慢性閉塞性肺疾患など（2 時間）	杉本
14	循環器疾患と理学療法	虚血性心疾患など（2 時間）	杉本
15	代謝疾患と理学療法	糖尿病など（2 時間）	松尾

成績評価方法と基準	割合
1)　マークシート形式の中間試験（配分 30%）及び期末試験（配分 70%）を実施する。 2)　総合成績で 60%以上（小数切り捨て）の得点を取得した場合に単位を認定する。 2/3 以上の出席を必要とする。	中間 30% 期末 70%

授業科目名	理学療法セミナーⅡ(理学)（Physical Therapy Seminar Ⅱ）				
主担当教員	木内　隆裕		担当教員	木内　隆裕、三木屋　良輔、堀　竜次、河村　廣幸、角田　晃啓、澤田　優子、仲本　正美、工藤　慎太郎、杉本　圭、松尾　浩希、海蔵寺　陽子	
科目ナンバリング	SS202	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 1 限 水曜 1 限 水曜 3 限 木曜 1 限 木曜 3 限 金曜 3 限 金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

解剖学や生理学などの基礎分野から理学療法学の評価（特に関節可動域検査や徒手筋力検査などの基礎評価）及び治療までを網羅し、障害を有する患者に対する経験的あるいは標準的理学療法の知識体系を理解することを目的とする。対象は小児から高齢者までを含み、神経難病や精神疾患などもこの科目の範疇とする。

到達目標

下記 1）～ 3）について、本学で設定している難易度の問題を解答できること。
1)　解剖学、生理学、運動学、病理学などの基礎分野
2)　障害を有する患者に対する理学療法評価
3)　障害を有する患者に対する経験的あるいは標準的な理学療法

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)　下記授業計画は時系列でなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。
2)　各授業範囲に該当する教科書を必ず持参すること。
3)　各授業範囲に該当する書籍のうち、問題集以外に自己学習でよく参照している書籍 1 冊を持参すること。
4)　授業時間外に課されている課題を適宜実施し、指定された日時に提出すること。

教科書

1)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 基礎医学 2020，医歯薬出版．
2)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 臨床医学 2020，医歯薬出版．
3)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　基礎 PT 学 2020，医歯薬出版．
4)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　障害別 PT 治療学 2020，医歯薬出版．

参考書

1）リハドリル．アイペック社．
その他、各自で標準的かつ最小限の書籍をみつけること。

研究室／オフィスアワー

各担当教員の他科目のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	神経系の解剖・生理学と臨床 A	・画像検査，神経伝導検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	木内
2	内臓の解剖・生理学と臨床 A	・画像検査，心電図を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	三木屋
3	骨関節の解剖・生理学と臨床 A	・画像検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	工藤
4	基礎評価学	・ROM テストや MMT などを含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	木内
5	呼吸障害 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	堀
6	循環障害 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	三木屋
7	代謝障害 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	角田
8	運動器障害 A	予習：X 線画像・ＭＲＩ画像など、医療画像について予習しておく（1 時間）。 復習：基本的な運動器疾患の理学療法について復習する（1 時間）。	河村
9	精神医学・臨床心理学 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	海蔵寺
10	精神医学・臨床心理学 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	海蔵寺
11	義肢・装具 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	仲本
12	神経変性疾患，神経筋疾患	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	木内
13	脳卒中 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	杉本
14	脊髄損傷 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	松尾
15	小児 A	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	澤田

成績評価方法と基準	割合
1）マークシート形式の試験を複数回行い、総合成績の得点率が 60%以上であった者に単位を認定する。 2/3 以上の出席を必要とする。	試験 100%

授業科目名	理学療法セミナーⅢ(理学)（Physical Therapy Seminar Ⅲ）				
主担当教員	三木屋　良輔		担当教員	三木屋　良輔、河村　廣幸、仲本　正美、工藤　慎太郎、杉本　圭、木内　隆裕、角田　晃啓、澤田　優子、堀　竜次、松尾　浩希、安部　辰夫、海蔵寺　陽子	
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 3 限 火曜 2 限 水曜 2 限 水曜 3 限 水曜 4 限 木曜 2 限 木曜 4 限 金曜 3 限 金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

理学療法学における評価及び治療を基礎から体系的に整理しながら、その基盤となる基礎医学の知識との繋がりを理解すること、並びに、疾患及び障害に関する具体的な臨床医学の知識との繋がりを理解することを目的とする。基礎医学として病理学や感染症学も含み、対象は小児から高齢者までを含む。

到達目標

下記 1）～ 3）について、本学で設定している難易度の問題を解答できること。
1)　理学療法学における評価及び治療に関する知識
2)　理学療法評価、及び運動療法の基盤となる基礎医学の知識
3)　疾患及び障害に関する具体的な臨床医学の知識

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)　下記授業計画は時系列でなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。
2)　各授業範囲に該当する教科書を必ず持参すること。
3)　各授業範囲に該当する書籍のうち、問題集以外に自己学習でよく参照している書籍 1 冊を持参すること。
4)　授業時間外に課されている課題を適宜実施し、指定された日時に提出すること。

教科書

1)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 基礎医学 2020，医歯薬出版．
2)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　専門基礎分野 臨床医学 2020，医歯薬出版．
3)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　基礎 PT 学 2020，医歯薬出版．
4)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント　障害別 PT 治療学 2020，医歯薬出版．

参考書

1）リハドリル．アイペック社．
その他、各自で標準的かつ最小限の書籍をみつけること。

研究室／オフィスアワー

各担当教員の他科目のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	神経系の解剖・生理学と臨床 B	・画像検査，神経伝導検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	木内
2	内臓の解剖・生理学と臨床 B	・画像検査，心電図検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	三木屋
3	骨関節の解剖・生理学と臨床 B	・画像導検査を含む。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	工藤
4	運動学・運動療法	・歩行を主に取り扱う。 ・少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	三木屋
5	病理学・感染症	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	安部
6	呼吸障害 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	堀
7	循環障害 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	三木屋
8	代謝障害 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	角田
9	運動器障害 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	河村
10	運動器障害 C	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	河村
11	精神医学・臨床心理学 C	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	海蔵寺
12	義肢・装具 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	仲本
13	脳卒中 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	杉本
14	脊髄損傷 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	松尾
15	小児 B	少なくとも、教科書の中で左記範囲に該当する範囲を横断的に予習・復習しておくこと（2 時間）。	澤田

成績評価方法と基準	割合
1）マークシート形式の試験を複数回行い、総合成績の得点率が 60%以上であった者に単位を認定する。 2/3 以上の出席を必要とする。	試験 100%

授業科目名	理学療法特論Ⅱ(理学)（Advanced Physical Therapy Ⅱ）				
主担当教員	杉本　圭		担当教員	杉本　圭、澤田　優子、松尾　浩希、仲本　正美	
科目ナンバリング	SS313	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 3 限 月曜 4 限 水曜 3 限 水曜 4 限 木曜 3 限 木曜 4 限 木曜 5 限 金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

理学療法士として臨床で働くために必要な基礎知識及び専門知識を、体系的かつ網羅的に学習する。

到達目標

理学療法特論Ⅱでは、理学療法特論Ⅰで学んだ内容を基に、各領域における理学療法学及びそれに必要な学習を行っていく。その手法においては、学生を主体としたアクティブラーニングを中心とした取組みを実践していき、自ら学ぶ姿勢と適切な学習方法を習得することを目標とする。【DP①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回与えられるテーマについて予習と復習を欠かさないこと。

教科書

なし

参考書

1)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2020，医歯薬出版．
2)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 2020，医歯薬出版．
3)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎 PT 学 2020，医歯薬出版．
4)　医歯薬出版編．理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 PT 治療学 2020，医歯薬出版．
5)　リハドリル．アイペック社．

研究室／オフィスアワー

各教員とも随時対応する。ただし、事前に予約すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	概要説明 基礎医学①	・基礎医学（解剖学・運動学・生理学）の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
2	基礎医学②	・基礎医学（解剖学・運動学・生理学）の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
3	基礎医学③	・基礎医学（解剖学・運動学・生理学）の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	松尾
4	基礎医学④	・基礎医学（解剖学・運動学・生理学）の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	松尾
5	運動器系理学療法学①	・運動器系理学療法学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
6	運動器系理学療法学②	・運動器系理学療法学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
7	理学療法評価学①	・理学療法評価学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
8	理学療法評価学②	・理学療法評価学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
9	内科学①	・内科学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
10	内科学②	・内科学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
11	理学療法治療学①	・理学療法治療学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	仲本
12	理学療法治療学②	・理学療法治療学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	仲本
13	中枢神経障害学①	・中枢神経障害学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	木内
14	中枢神経障害学②	・中枢神経障害学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	木内
15	精神医学・臨床心理学	・精神医学・臨床心理学の理解に必要な知識を予習する。 ・教科書を中心に復習する。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	澤田

成績評価方法と基準	割合
1)　成績評価については、定期試験(マークシート形式)に 70%、各回で実施される小テストに 30%を配分し、総合成績の得点率で 60%以上を取得すれば単位を認定する。【DP①】	定期テスト 70% 小テスト 30%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):三木屋 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	三木屋 良輔		担当教員	三木屋 良輔	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
本ゼミのメインテーマは、骨格筋増強、運動耐容能向上である。具体的には高齢者に見られる筋減少症（サルコペニア）を改善するための科学的基礎データの蓄積を目指す。また地域高齢者の介護予防について、高齢者の行動変容を生み出すシステム作りも目指す。よって本ゼミでは、骨格筋増強のメカニズムを中心とした学習を中心に展開する。

到達目標

１．研究倫理について理解することができる。
２．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
３．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
４．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。　DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

無し

参考書

市橋則明　著：運動療法学．文光堂
鈴木隆雄　監修：完全版介護予防マニュアル．法研

研究室／オフィスアワー

火曜日午後(地域高齢者予防体操実施予定日)、金曜日（三木屋不在）以外の時間に予めアポイントを取ってください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ゼミオリエンテーション１	年間行動予定の確認（１時間）	
2	研究概論１	研究課題を考えておく（１時間）	
3	体操実技演習	予防体操を予習する（１時間）	
4	地域介護予防活動１	予防体操を実演する（１時間）	
5	筋力測定実技演習１	MMT を指導できるように予習しておく（１時間）	
6	可動域測定実技演習２	ROM-T を指導できるように予習しておく（１時間）	
7	文献抄読会１	課題文献を予習しておく（１時間）	
8	文献抄読会２	課題文献を予習しておく（１時間）	
9	文献抄読会３	課題文献を予習しておく（１時間）	
10	地域介護予防活動２	予防体操を実演する（１時間）	
11	機器使用実習１	関節トルクについて予習しておく（１時間）	
12	機器使用実習２	肺機能について予習しておく（１時間）	
13	文献抄読４	課題文献を予習しておく（１時間）	
14	文献抄読５	課題文献を予習しておく（１時間）	
15	地域介護予防活動３	予防体操を実演する（１時間）	
16	文献抄読６	課題文献を予習しておく（１時間）	
17	症例検討会	経験した症例のレジュメを作成する（１時間）	
18	文献抄読７	課題文献を予習しておく（１時間）	
19	文献抄読８	課題文献を予習しておく（１時間）	
20	地域介護予防活動４	予防体操を実演する（１時間）	
21	文献抄読９	課題文献を予習しておく（１時間）	
22	文献抄読10	課題文献を予習しておく（１時間）	
23	文献抄読11	課題文献を予習しておく（１時間）	
24	文献抄読12	課題文献を予習しておく（１時間）	
25	地域介護予防活動５	予防体操を実演する（１時間）	
26	研究論文作成１	研究論文の構成を立てる。（１時間）	
27	研究論文作成２	研究論文のデータを処理する（１時間）	
28	研究論文作成３	研究論文を作成する（１時間）	
29	研究論文作成４	研究論文を校正する（１時間）	
30	研究論文提出	研究論文を提出する（１時間）	

成績評価方法と基準	割合
１、最終報告会と２、抄録提出を評価対象とする<DP①④> 4/5 以上の出席が必要	１、最終報告会２０％ ２、抄録提出８０％とする

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):河村 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	河村 廣幸		担当教員	河村 廣幸	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。
実験研究を通して、文献検索・標本抽出・予備実験・本実験・データ処理・論文作成の家庭を経験する。実験研究を通して、文献検索・標本抽出・予備実験・本実験・データ処理・論文作成の家庭を経験する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

特になし

参考書

はじめての研究法：神陵文庫

研究室／オフィスアワー

要相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学生は、学修目標が達成できるよう、ゼミ担当教員と密に連絡をとり、学修計画を立てる。	計画を立て、実施しする。	
2	研究計画の修正	中間発表会での意見をまとめ、修正案を作成しておく	
3	パイロットスタディ①	予備実験のための準備をしておく	
4	パイロットスタディ②	パイロットスタディ①からの修正点をまとめる	
5	本実験データ収集①	実験データをまとめるデータベースを作成しておく	
6	本実験データ収集②	本実験①のデータをまとめておく	
7	本実験データ収集③	本実験②のデータをまとめておく	
8	本実験データ収集④	本実験③のデータをまとめておく	
9	データ分析①	本実験データを処理しやすいように PC データとしてまとめておく	
10	データ分析②	データ分析①からデータの特徴を掴む	
11	データ分析③	データ分析②からデータの特徴を掴む	
12	データ分析④	データ分析③からデータの特徴を掴む	
13	論文作成①	論文のアウトラインを作成しておく	
14	論文作成②	論文執筆	
15	論文作成③	論文執筆	
16	論文作成④	論文執筆	
17	論文作成⑤	論文執筆	
18	論文作成⑥	論文執筆	
19	論文作成⑦	論文執筆	
20	論文作成⑧	論文執筆	
21	論文作成⑨	論文執筆	
22	論文作成⑩	論文執筆	
23	抄録作成①	卒業論文をまとめ、要約しておく	
24	抄録作成②	抄録の修正部分を修正しておく	
25	スライド・発表原稿作成①	スライドおよび発表原稿の素案を作成しておく	
26	スライド・発表原稿作成②	原稿修正	
27	スライド・発表原稿作成③	原稿修正	
28	スライド・発表原稿作成④	原稿修正	
29	卒業論文発表会①	スライド修正と発表原稿を作成しておく	
30	卒業論文発表会②	スライド修正と発表原稿を作成しておく	

成績評価方法と基準	割合
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする＜DP１・４＞ 4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):仲本 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	仲本 正美		担当教員	仲本 正美	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。
研究テーマは若年健常者の足底感覚の特性の解明などとする。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。　DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

配布資料、文献など

参考書

随時紹介する

研究室／オフィスアワー

月曜日 1 時限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実験①	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
2	実験②	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
3	実験③	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
4	実験④	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
5	実験⑤	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
6	実験⑥	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
7	実験⑦	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
8	実験⑧	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
9	実験⑨	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
10	実験⑩	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
11	分析①	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
12	分析②	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
13	分析③	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
14	分析④	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
15	分析⑤	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
16	分析⑥	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
17	分析⑦	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
18	分析⑧	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
19	分析⑨	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
20	分析⑩	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
21	文献検討①	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
22	文献検討②	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
23	文献検討③	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
24	文献検討④	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
25	最終報告会準備①	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
26	最終報告会準備②	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
27	最終報告会準備③	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
28	論文執筆①	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
29	論文執筆②	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
30	論文執筆③	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	

成績評価方法と基準	割合
1．最終報告会での発表および討議内容を評価対象とする 2．卒業論文抄録の内容を評価対象とする 3．単位認定のための必要出席回数は、4/5 以上とする　DP①④	1．50% 2．50%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):堀 (Graduation Research II)				
主担当教員	堀　竜次		担当教員	堀　竜次	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜１限)、後期(月曜１限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。
内科系理学療法トピックスを知るため、学会等へ参加する。
研究成果のあったものは、学会発表にエントリーする。.

到達目標

１．研究倫理について理解することができる。〈DP①〉
２．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。〈DP①④〉
３．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。〈DP①④〉
４．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員と話し合って研究活動を進めるが、学生自身が主体的に取り込むこと。

教科書

教科書は使用しない
資料は随時配布する

参考書

フリー統計ソフトEZR(EasyR)で誰でも簡単統計解析，２０１５、南江堂、神田善信著

研究室／オフィスアワー

金曜日３・４限（研究室)、それ以外は個別に相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
2	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
3	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
4	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
5	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
6	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
7	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
8	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
9	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
10	研究計画に基づきデータ測定	予習：データ測定の準備をする 復習：測定したデータ管理を行う	堀
11	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
12	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
13	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
14	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
15	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
16	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
17	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
18	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
19	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
20	データの解析および統計	予習：教科書等を利用して事前にデータ解析を行う 復習：データ解析結果をまとめる	堀
21	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
22	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
23	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
24	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
25	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
26	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
27	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
28	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
29	論文作成および研究発表準備	予習：論文・プレゼンテーション資料を事前に準備しておく 復習：論文・プレゼンテーション資料を修正する	堀
30	最終研究発表会	予習：論文を最終修正し完成させておく	堀

成績評価方法と基準	割合
１．提出された卒業論文抄録の内容を評価対象とする〈DP①④〉 ２．最終報告会での発表および討議内容を評価対象とする〈DP①④〉 ３．単位認定のための必要出席回数は、4/5以上とする	1.50% 2.50%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):森谷 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	森谷 正之		担当教員	森谷 正之	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。
動物実験により口腔顔面領域の感覚情報伝達、運動制御に関わる神経機構の解明を目指す。動物実験の実施に関わる倫理規程等を習得すると共に、基本的な実験手技、データの記録と取りまとめ、実験結果の整理について学ぶ。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる（DP①④）。
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる（DP①④）。
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる（DP①④）。
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる（DP①④）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。
動物実験に関わる教育訓練を受講すること。

教科書

教科書として指定する書物はないが、必要に応じて資料等を配布する。

参考書

必要に応じて資料等を配布する。

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階（研究室 11）
月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学生は、学修目標が達成できるよう、ゼミ担当教員と密に連絡をとり、学修計画を立てる。卒業研究Ⅰの中間報告会での成果発表内容を検証し、必要に応じて研究計画の修正を行う。	計画を立て、実施に向けての検討をして下さい（2 時間）。	森谷
2	動物実験①（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
3	動物実験②（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
4	動物実験③（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
5	動物実験④（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
6	動物実験⑤（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
7	動物実験⑥（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
8	動物実験⑦（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
9	動物実験⑧（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
10	動物実験⑨（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
11	動物実験⑩（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
12	動物実験⑪（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
13	動物実験⑫（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
14	これまでのデータ整理	これまでの収集データを取りまとめて、研究指導者と内容を検証できるように整理しておいて下さい（2 時間）。	森谷
15	動物実験⑬（データ収集）	前回のデータの取りまとめで明らかとなった問題点を修正する。適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
16	動物実験⑭（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
17	動物実験⑮（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
18	動物実験⑯（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
19	動物実験⑰（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
20	動物実験⑱（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
21	動物実験⑲（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
22	動物実験⑳（データ収集）	適正な実験の実施と正確な記録を取れるように準備して下さい（2 時間）。	森谷
23	動物実験の経過と結果の整理	研究指導者の指導の下、経過と結果の整理ができるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
24	動物実験結果の整理（統計処理）	研究指導者の指導の下、実験結果の整理（統計処理）ができるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
25	動物実験結果の整理（図表の作成）	研究指導者の指導の下、実験結果の整理（図表の作成）ができるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
26	卒業論文の作成（緒言、材料と方法）	研究指導者の指導の下、「緒言」と「材料と方法」を記述することができるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
27	卒業論文の作成（結果、図表）	研究指導者の指導の下、「結果」と説明用の図表を記載できるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
28	卒業論文の作成（考察、図表）	研究指導者の指導の下、「考察」と説明用の図表を記載できるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
29	卒業論文の作成（引用文献、要約）	研究指導者の指導の下、「引用文献」と「要約」を記述することができるように準備しておいて下さい（2 時間）。	森谷
30	卒業論文の作成（最終）と報告会の準備	卒業論文の内容を確認すると共に、発表会の準備をしておいて下さい（2 時間）。	森谷

成績評価方法と基準	割合
最終報告会での発表、卒業論文（抄録を含む）を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要 動物実験に関わる教育訓練を受講すること ①最終報告会での発表（DP①④） ②卒業論文（抄録を含む）（DP①④）	①50% ②50%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):澤田 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	澤田 優子		担当教員	澤田 優子	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。
研究テーマは、小児の理学療法および地域で実施する健康増進などとする。
研究手法として、調査研究を実施する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

配布資料、文献など

参考書

随時紹介する

研究室／オフィスアワー

月曜日 1 時限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集（１）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
2	データ収集（２）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
3	データ収集（３）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
4	データ収集（４）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
5	データ収集（５）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
6	データ解析（１）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
7	データ解析（２）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
8	データ解析（３）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
9	データ解析（４）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
10	データ解析（５）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
11	最終報告会準備（１）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
12	最終報告会準備（２）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
13	最終報告会準備（３）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
14	最終報告会準備（４）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
15	最終報告会準備（５）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
16	文献検討（１）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
17	文献検討（２）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
18	文献検討（３）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
19	文献検討（４）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
20	文献検討（５）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
21	論文執筆（１）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
22	論文執筆（２）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
23	論文執筆（３）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
24	論文執筆（４）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
25	論文執筆（５）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
26	論文執筆（６）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
27	論文執筆（７）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
28	論文執筆（８）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
29	論文執筆（９）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	
30	論文執筆（１０）	事前準備、事後の整理を行い、計画を立てて研究を進める	

成績評価方法と基準	割合
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要 DP①④	課題への取り組み姿勢 50% 最終報告会での発表、卒業論文抄録 50%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):中根（Graduation Research Ⅱ）				
主担当教員	中根 征也		担当教員	中根 征也	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。

理学療法の分野の中でも特に、「神経発達症児（発達障がい児）への運動療法」「生態心理学的概念に基づいた運動療法」「患者の知覚・認知領域の追求」「患者教育」について運動療法の必要性や効果について研究を行ないます。具体的には、関連分野の基本文献ならびに各自（各グループ）の研究テーマに即した論文を輪読し、各自またはグループ単位で卒業研究に向けた予備的研究を実施する。卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱを通じた最終的な成果物として、各自（各グループ）の研究テーマについての卒業論文と発表を行なってもらう。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。【D①④】
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。【D①④】
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。【D①④】
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。【D①④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

原則的にゼミを週 1 回のペースで行なっている。定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み、何事もしっかり楽しんでください。
学生主体のゼミではあるが、各学生の状況に合わせながら、担当教員と報告・連絡・相談をしっかり行ないながら進めて行く。

教科書

特に定めない。

参考書

小笠原喜康：新版 大学生のためのレポート・論文術，講談社現代新書，2009
戸田山和久：論文教室 レポートから卒論まで，NHK ブックス，2010
山田実 編：PT・OT のための臨床研究はじめの一歩，羊土社，2016

研究室／オフィスアワー

4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション／卒業研究Ⅱについて詳細を説明する。	予習：卒業研究Ⅰの進捗状況を確認する。(30 分) 復習：授業で述べた「卒業研究Ⅱについて」をまとめる。(30 分)	
2	研究構想の紹介①／2-3 名ずつ、各自の研究計画を発表する。	予習：研究計画書を確認し，発表の準備を行う。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
3	研究構想の紹介②／2-3 名ずつ、各自の研究計画を発表する。	予習：研究計画書を確認し，発表の準備を行う。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
4	研究構想の紹介③／2-3 名ずつ、各自の研究計画を発表する。	予習：研究計画書を確認し，発表の準備を行う。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
5	研究計画の確認①／担当教員と研究計画について最終確認を行なう。	予習：実験に向けて，具体的な方法論を立案する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
6	研究計画の確認②／担当教員と研究計画について最終確認を行なう。	予習：実験に向けて，具体的な方法論を立案する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
7	卒業研究の実験①	＊これ以降は、これまで以上に担当教員との話し合いの機会を多く設けること。 予習：実験準備（30 分） 復習：実験データをまとめる。(30 分)	
8	卒業研究の実験②	予習：実験準備（30 分） 復習：実験データをまとめる。(30 分)	
9	卒業研究の実験③	予習：実験準備（30 分） 復習：実験データをまとめる。(30 分)	
10	卒業研究の実験④	予習：実験準備（30 分） 復習：実験データをまとめる。(30 分)	
11	卒業研究の実験データの確認①	予習：得られた実験データをまとめる。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
12	卒業研究の実験データの確認②	予習：得られた実験データをまとめる。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
13	卒業研究の実験データの分析方針の確認①	予習：得られた実験データをまとめる。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
14	卒業研究の実験データの分析方針の確認②	予習：得られた実験データをまとめる。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
15	発表会／進捗状況の発表を行なう。	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
16	オリエンテーション／論文執筆方法について再度、説明する。	予習：「論文の書き方」について復習する。(30 分) 復習：「論文の書き方」についてまとめる。(30 分)	
17	卒業研究の実験データの分析①	予習：得られた実験データをまとめる。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
18	卒業研究の実験データの分析②	予習：得られた実験データをまとめる。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
19	卒業論文の構想の検討①／2-3 名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
20	業論文の構想の検討②／2-3 名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
21	業論文の構想の検討③／2-3 名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
22	卒業論文執筆①／担当教員と相談をしながら執筆する。	予習：論文の執筆（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
23	卒業論文執筆②／担当教員と相談をしながら執筆する。	予習：論文の執筆（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
24	卒業論文執筆③／担当教員と相談をしながら執筆する。	予習：論文の執筆（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
25	卒業論文執筆④／担当教員と相談をしながら執筆する。	予習：論文の執筆（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
26	発表会／進捗状況の発表を行なう。	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
27	卒業論文執筆⑤／担当教員と相談をしながら執筆する。	予習：論文の執筆（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
28	卒業論文のまとめと最終報告会の準備①	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
29	最終報告会の準備②	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる。(30 分)	
30	最終報告会	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまと	

		める。(30 分)	
成績評価方法と基準			割合
①最終報告会での発表【D①④】 ②卒業論文抄録【D①④】 ③4/5 以上の出席が必要			①最終報告：30% ②論文抄録：70%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):前田 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	前田 薫		担当教員	前田 薫	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。
当卒業研究では、立位姿勢制御機構の神経生理学的検討を大テーマとする研究を行う。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

文献、資料、記事等を随時配布する。

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

金曜日とするが、事前に予約をすること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実験の準備と実施①	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
2	実験の準備と実施②	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
3	実験の準備と実施③	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
4	実験の準備と実施④	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
5	実験の準備と実施⑤	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
6	実験の準備と実施⑥	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
7	実験の準備と実施⑦	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
8	実験の準備と実施⑧	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに	

		記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
9	実験の準備と実施⑨	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録し、次回の実験で修正できるよう準備する。	
10	実験の準備と実施⑩	予習：計画にもとづいた実験の準備を行い手順を確認しておく。 復習：実験の実施全般にわたる問題点を研究ノートに記録する。	
11	データ分析①	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
12	データ分析②	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
13	データ分析③	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
14	データ分析④	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
15	データ分析⑤	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
16	データ分析⑥	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
17	データ分析⑦	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
18	データ分析⑧	予習：データの分析手順を確認してくる。 復習：授業において担当教員から得たアドバイスをもとに、分析手順を見直し、それにもとづいたデータ分析を行う。	
19	データの解釈と論文作成①	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
20	データの解釈と論文作成②	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
21	データの解釈と論文作成③	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
22	データの解釈と論文作成④	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
23	データの解釈と論文作成⑤	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
24	データの解釈と論文作成⑥	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
25	データの解釈と論文作成⑦	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
26	データの解釈と論文作成⑧	予習：データの分析結果の解釈を考え、研究ノートに記載してくる。 復習:授業における討論にもとづいて論文を作成する。	
27	研究プレゼンテーションの準備①	予習：研究全般にわたるプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて、スライドを修正する。	
28	研究プレゼンテーションの準備②	予習：研究全般にわたるプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて、スライドを修正する。	
29	研究プレゼンテーションの準備③	予習：研究全般にわたるプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて、スライドを修正する。	
30	研究プレゼンテーションの実施	予習：プレゼンテーションの練習 復習：質疑応答の内容にもとづいて論文に必要な修正を行う。	
成績評価方法と基準			割合
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要 DP①④			100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):角田 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	角田 晃啓		担当教員	角田 晃啓	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。<DP①>
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。<DP①④>
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。<DP①④>
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。<DP④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

特に無し

参考書

適宜必要な文献を探すこと

研究室／オフィスアワー

在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	本実験①	計画を立て、実施する。	
2	本実験②	計画を立て、実施する。	
3	本実験③	計画を立て、実施する。	
4	本実験④	計画を立て、実施する。	
5	本実験⑤	計画を立て、実施する。	
6	データの見直し①	必要に応じて計画を修正する	
7	データの見直し②	計画を立て、実施する。	
8	本実験⑥	計画を立て、実施する。	
9	本実験⑦	計画を立て、実施する。	
10	本実験⑧	計画を立て、実施する。	
11	本実験⑨	計画を立て、実施する。	
12	本実験⑩	計画を立て、実施する。	
13	統計解析①	自身の研究に必要な統計手法を選択する	
14	統計解析②	自身の研究に必要な統計手法を理解し、解析を行う	
15	統計解析③	自身の研究に必要な統計解析を実行し、結果の解釈を行う	
16	論文作成①	適宜関連領域の研究を review する	
17	論文作成②	適宜関連領域の研究を review する	
18	論文作成③	適宜関連領域の研究を review する	
19	論文作成④	適宜関連領域の研究を review する	
20	論文作成⑤	適宜関連領域の研究を review する	
21	論文作成⑥	適宜関連領域の研究を review する	
22	論文作成⑦	適宜関連領域の研究を review する	
23	論文作成⑧	適宜関連領域の研究を review する	
24	論文作成⑨	適宜関連領域の研究を review する	
25	論文作成⑩	適宜関連領域の研究を review する	
26	研究発表①	プレゼンテーションの準備を行う	
27	研究発表②	プレゼンテーションの準備を行う	
28	研究発表③	プレゼンテーションの準備を行う	
29	研究報告会①	プレゼンテーションの準備を行う	
30	研究報告会②	プレゼンテーションの準備を行う	

成績評価方法と基準	割合
1．卒業論文抄録<DP①> 2．最終報告会での発表<DP①④> 3．ゼミ内でのディスカッション<DP④> 4/5 以上の出席が必要	1．40% 2．40% 3．20%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):木内 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	木内 隆裕		担当教員	木内 隆裕	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。ヒトを対象とした実験研究（主に神経生理学研究、あるいは心理生理学研究）で得られたデータを統計学的に解析し、その結果を丁寧に洞察しながら論文にまとめることを目標とする。その目標達成のため、各自の進捗状況に合わせて、ラボのメンバーでデータ検討を重ねる（プレゼンテーションを含む）。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・指導教員への報告・連絡・相談を怠らないこと。
・実験補助には積極的に参加し、互いに助け合うこと。
・プレゼンテーションを行う場合は、自分で事前に資料を準備すること。
・実験機器は丁寧かつ慎重に扱うこと。

教科書

1) 市橋則明(編)． 運動療法学．障害別アプローチの理論と実際．第 2 版，文光堂，2014.

参考書

1) 水野昇，野村嶬，三谷章(監訳)． 臨床神経科学とリハビリテーション．西村書店，2020.
2) 木塚朝博，木竜徹，増田正，他（著）． 表面筋電図．第 1 版，東京電機大学出版局，2006.
3) 神田善伸(著)．フリー統計ソフト EZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析．第 1 版，南江堂，2014.
4) 対馬栄輝，木村雅彦(編)． リハビリテーション統計学．第 1 版，中山書店，2015.（15 レクチャーシリーズ）.

研究室／オフィスアワー

随時（ただし、授業及び会議の時間以外）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
2	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
3	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
4	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
5	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
6	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
7	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
8	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
9	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
10	研究計画に基づく実験データの取得	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
11	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
12	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
13	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
14	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
15	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
16	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
17	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
18	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
19	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
20	研究計画に基づく実験データの解析	・解析にはマイ PC かラボ PC を用いる。 ・必ず解析記録をつける。	
21	卒業論文及び抄録の作成 （場合によっては、実験データの再解析）	積極的に添削を受けに来る。	
22	卒業論文及び抄録の作成 （場合によっては、実験データの再解析）	積極的に添削を受けに来る。	
23	卒業論文及び抄録の作成 （場合によっては、実験データの再解析）	積極的に添削を受けに来る。	
24	卒業論文及び抄録の作成 （場合によっては、実験データの再解析）	積極的に添削を受けに来る。	
25	卒業論文及び抄録の作成 （場合によっては、実験データの再解析）	積極的に添削を受けに来る。	
26	卒業論文及び抄録の作成	細部まで目を通しながら丁寧に修正を行う。	
27	卒業論文及び抄録の作成	細部まで目を通しながら丁寧に修正を行う。	
28	卒業論文及び抄録の作成	細部まで目を通しながら丁寧に修正を行う。	
29	卒業論文及び抄録の作成	細部まで目を通しながら丁寧に修正を行う。	
30	卒業論文及び抄録の作成	細部まで目を通しながら丁寧に修正を行う。	

成績評価方法と基準	割合
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする。 4/5 以上の出席を必要とする。	研究計画書 中間報告会

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):工藤（Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	工藤　慎太郎		担当教員	工藤　慎太郎	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜１限)、後期(月曜１限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。

運動器系理学療法・スポーツ理学療法の臨床研究，基礎研究を行います．三次元動作解析，超音波エコーを用いた運動解析を行います．運動器理学療法やスポーツ理学療法に興味のある学生が履修することを望みます．

到達目標

１．研究倫理について理解することができる。
２．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。
３．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。
４．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

研究成果の外部への公開（学会発表）を積極的に進めましょう．

教科書

特になし．必要資料は指導教員から適宜配布します．

参考書

特になし．必要なものは適宜，指導教員から配布します．

研究室／オフィスアワー

個別にアポイントメントを取って応じます．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	追加実験	計画を立て、実施する。	
2	追加実験		
3	追加実験		
4	追加実験		
5	追加実験		
6	追加実験		
7	追加実験まとめ		
8	追加実験まとめ		
9	卒業論文作成		
10	卒業論文作成		
11	卒業論文作成		
12	プレゼンテーション資料作成		
13	プレゼンテーション資料作成		
14	プレゼンテーション資料作成		
15	プレゼンテーション資料作成		
16	プレゼンテーション資料作成		
17	プレゼンテーション練習		
18	プレゼンテーション練習		
19	プレゼンテーション練習		
20	プレゼンテーション練習		
21	卒業研究発表予演		
22	追加データ分析		
23	追加データ分析		
24	追加データ分析		
25	追加データ分析		
26	卒業研究発表予演		
27	卒業研究発表会		
28	卒業論文修正		
29	卒業論文修正		
30	卒業論文完成		

成績評価方法と基準	割合
最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 4/5 以上の出席を必要とする。DP①④	卒業論文１００％

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):杉本 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	杉本 圭		担当教員	杉本 圭	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め，先行研究レビュー，研究計画作成を行う．
学習成果として，研究計画を中間発表会で報告する．
理学療法の分野の中でも特に，「神経発達症児への運動介入の効果に関する研究」「身体活動時にヒトがどこを視ているのかに関する研究」「生態心理学概念に基づいた運動療法に関する研究」「患者の知覚・認知領域に関する研究」について，理学療法士の評価技術や運動療法の必要性や効果について研究を行う．具体的には，関連分野の基本文献ならびに各自（各グループ）の研究テーマに即した論文を輪読し，各自またはグループ単位で卒業研究に向けた予備的研究を実施する．卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱを通じた最終的な成果物として，各自（各グループ）の研究テーマについての卒業論文と発表を行ってもらう．

到達目標

１．研究倫理について理解することができる．【DP①④】
２．研究計画に基づき，研究をすすめることができる．【DP①④】
３．収集したデータを解析，解釈し，論理的解釈にもとづき論文執筆ができる．【DP①④】
４．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる．【DP①④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

原則的に週１回のペースでゼミを行う．また中根ゼミ，松尾ゼミと合同でゼミや勉強会を行うことがある．定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み，何事も楽しむこと．
学生主体のゼミではあるが，各学生の状況に合わせながら，担当教員と報告・連絡・相談をしっかり行いながら進めて行く．

教科書

特に定めない．

参考書

小笠原喜康：新版 大学生のためのレポート・論文術，講談社現代新書，2009
戸田山和久：論文の教室 レポートから卒論まで，NHK ブックス，2010

研究室／オフィスアワー

木曜日：4・5 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/卒業研究Ⅱについて詳細を説明する．	事前学習として，授業において紹介する書籍や資料の事前読了，先行研究の調査と要約を求める場合がある．(1 時間) 事後学習として，計画書の作成，データの取りまとめ，プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある．(1 時間)	
2	研究構想の紹介①/2-3 名ずつ，各自の研究計画を発表する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
3	研究構想の紹介②/2-3 名ずつ，各自の研究計画を発表する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
4	研究構想の紹介③/2-3 名ずつ，各自の研究計画を発表する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
5	研究計画の確認①/担当教員と研究計画について最終確認を行う．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
6	研究計画の確認②/担当教員と研究計画について最終確認を行う．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
7	卒業研究の実験①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
8	卒業研究の実験②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
9	卒業研究の実験③	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
10	卒業研究の実験④	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
11	卒業研究の実験データの確認①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
12	卒業研究の実験データの確認②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
13	卒業研究の実験データの分析方針の確認①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
14	卒業研究の実験データの分析方法の確認②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
15	発表会/進捗状況の発表を行う．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
16	オリエンテーション/論文執筆方法について再度，説明する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
17	卒業研究の実験データの分析①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
18	卒業研究の実験データの分析②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
19	卒業論文の構想の検討①/2-3 名ずつ，各自の卒業論文の構想について発表を行う．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
20	卒業論文の構想の検討②/2-3 名ずつ，各自の卒業論文の構想について発表を行う．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
21	卒業論文の構想の検討③/2-3 名ずつ，各自の卒業論文の構想について発表を行う．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
22	卒業論部執筆①/担当教員と相談をしながら執筆する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
23	卒業論部執筆②/担当教員と相談をしながら執筆する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
24	卒業論部執筆③/担当教員と相談をしながら執筆する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
25	卒業論部執筆④/担当教員と相談をしながら執筆する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
26	発表会/進捗状況の発表を行う．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
27	卒業論部執筆⑤/担当教員と相談をしながら執筆する．	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
28	卒業論文のまとめと最終報告会の準備①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
29	最終報告会の準備②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	
30	最終報告会	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う．(事前 1 時間，事後 1 時間)	

成績評価方法と基準	割合
①最終報告会での発表，卒業論文抄録を評価対象とする．【DP①④】 4/5 以上の出席が必要	①100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):金尾 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	金尾 顕郎		担当教員	金尾 顕郎	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。<DP①④>
2．研究計画に基づき、研究をすすめることができる。<DP①④>
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。<DP①④>
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。
計画的に進めること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

研究室／オフィスアワー

水曜日の午前
研究室に在室時
事前の連絡が必要

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義① オリエンテーション	計画を立て、研究を進める準備と整理	
2	講義②	計画を立て、研究を進める準備と整理	
3	本実験①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
4	本実験②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
5	本実験③	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
6	本実験④	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
7	本実験⑤	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
8	本実験⑥	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
9	本実験⑦	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
10	本実験⑧	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
11	本実験⑨	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
12	本実験⑩	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
13	本実験⑪	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
14	本実験⑫	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
15	実験結果の報告	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
16	実験の見直し①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
17	実験の見直し②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
18	論文の作成①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
19	論文の作成②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
20	論文の作成③	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
21	論文の作成④	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
22	論文の作成⑤	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
23	論文の作成⑥	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
24	論文の作成⑦	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
25	論文の作成⑧	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
26	論文の作成⑩	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
27	論文の報告会	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
28	論文の修正①	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
29	論文の修正②	事前準備と事後の整理を行い、計画的に進める	
30	論文最終報告	最終報告会の準備とまとめを行う	

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席が必要 最終報告会での発表、卒業論文抄録を評価対象とする 1．課題への取り組み姿勢<DP①④> 2．最終報告会での発表と卒業論文抄録<DP①④>	1. 50% 2. 50%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(理学):松尾 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	松尾 浩希		担当教員	松尾 浩希	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究を進め、学習成果として、卒業論文を作成する。

主な研究テーマとして、「傷害予防教育」「生態心理学的概念に基づいた運動療法」「視覚と姿勢制御」などについて研究を行う。
研究テーマに関連した分野の文献抄読や卒業研究に向けた予備的研究を各自（各グループ）で実施していく。卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱを通じた最終的な成果物として、各自（各グループ）の研究テーマについての卒業論文作成と発表を行う。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。【D①④】
2．研究計画に基づき、研究を進めることができる。【D①④】
3．収集したデータを解析、解釈し、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。【D①④】
4．研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。【D①④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

原則的にゼミを週 1 回のペースで行う。また、中根先生、杉本先生のゼミと合同ゼミ・勉強会を行うことがあります。
卒業研究の作成に向けて自分のやるべきことに真摯に取り組むこと。
学生が主体となり、積極的に担当教員や学生同士で議論しながら卒業研究を進めてください。

教科書

特に定めない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

石黒圭：この 1 冊できちんと書ける！論文・レポートの基本，日本実業出版社，2012

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション／卒業研究Ⅱについて説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約を求める場合がある。 事後学習として、計画書の作成、データの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。	
2	研究構想の紹介①／2-3 名ずつ、各自の研究計画を発表する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
3	研究構想の紹介②／2-3 名ずつ、各自の研究計画を発表する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
4	研究構想の紹介③／2-3 名ずつ、各自の研究計画を発表する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
5	研究計画の確認①／担当教員と研究計画について最終確認を行なう。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
6	研究計画の確認②／担当教員と研究計画について最終確認を行なう。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
7	卒業研究の実験①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
8	卒業研究の実験②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
9	卒業研究の実験③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
10	卒業研究の実験④	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
11	卒業研究の実験データの確認①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
12	卒業研究の実験データの確認②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
13	卒業研究の実験データの分析方針の確認①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
14	卒業研究の実験データの分析方針の確認②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
15	発表会／進捗状況の発表を行なう。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
16	オリエンテーション／論文執筆方法について再度、説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
17	卒業研究の実験データの分析①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
18	卒業研究の実験データの分析②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
19	卒業論文の構想の検討①／2-3 名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
20	卒業論文の構想の検討②／2-3 名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
21	卒業論文の構想の検討③／2-3 名ずつ、各自の卒業論文の構想について発表を行なう。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
22	卒業論文執筆①／担当教員と相談をしながら執筆する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
23	卒業論文執筆②／担当教員と相談をしながら執筆する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
24	卒業論文執筆③／担当教員と相談をしながら執筆する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
25	卒業論文執筆④／担当教員と相談をしながら執筆する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
26	発表会／進捗状況の発表を行なう。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
27	卒業論文執筆⑤／担当教員と相談をしながら執筆する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
28	卒業論文のまとめと最終報告会の準備①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
29	最終報告会の準備②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
30	最終報告会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	

成績評価方法と基準	割合
1. 最終報告会での発表【D①④】 2. 卒業論文抄録の提出【D①④】 4/5 以上の出席が必要	1. 50% 2. 50%

授業科目名	臨床総合実習Ⅰ(理学)（Comprehensive Clinical Training Ⅰ)				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、河村　廣幸、金尾　顕郎、三木屋　良輔、前田　薫、角田　晃啓、澤田　優子、仲本　正美、工藤　慎太郎、杉本　圭、松尾　浩希、林　真太郎、木内　隆裕	
科目ナンバリング	SS505	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	8	必修・選択	必修

授業概要

3 年次までに履修した理学療法全般にわたる知識と技術、評価実習で習得した理学療法評価の実践能力をもとに、臨床実習指導者の指導のもと、自己で計画した理学療法プログラムの実践を経験するための 8 週間の実習である。
4 年次を通じて 16 週間行う。

到達目標

対象者の生活機能の理解を通じて、理学療法プログラムを立案し、これを実施することを目標とする。これを実現するための行動目標を以下のとおりとする。
①理学療法評価の経験を通じて、対象者の生活機能を想起できる。【DP①③④】
②対象者の生活機能をふまえた理学療法プログラムを想起できる。【DP①③④】
③実習指導者の指導の下、安全に配慮した理学療法介入を経験する。【DP①③④】
④理学療法介入を通じて、対象者が日々変化していることを認識する。【DP①③④】
⑤対象者の変化を通じて、理学療法評価の内容を再度検証する。【DP①③④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．医療人であるという自覚をもって実習態度には十分に注意する。
2．履修要件として、臨床理学療法評価学Ⅲ、臨床評価実習、学科専門科目群・専門科目・理学療法治療学に該当する科目のうち、理学療法特論Ⅰ、理学療法特論Ⅱを除く単位を取得しておくこと。
3．臨床実習のため，原則欠席は認めない。
4．「学外実習の手引き」を熟読し、理解しておくこと。
5．実習前後にオリエンテーションやホームルームを行うが、単位取得にはそのオリエンテーションやホームルームに出席することが必要である。

教科書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

参考書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

研究室／オフィスアワー

各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
2	患者・患児と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
3	患者情報の収集	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
4	患者の接遇の実際	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
5	検査・測定・評価	検査・測定の記録を簡潔に評価レポートにまとめる。 可能であればレジュメを作成し、口頭報告できることが望ましい。	
6	問題点の抽出と訓練プログラムの立案	検査・測定の記録を簡潔に評価レポートにまとめる。 可能であればレジュメを作成し、口頭報告できることが望ましい。	
7	訓練プログラムの実施	訓練プログラムを実施する。実施においてはこれまでの学習内容を復習し、最大限の注意を払うこと。	
8	再評価・考察	実施した訓練プログラムの効果について検証する。 できる限り客観的に他者に対して説明しうる内容であることが望ましい。	

成績評価方法と基準	割合
1．実習評価【DP①③④】 2．実習記録と終了後の報告会【DP①③④】 の総合評価にて 60 点以上の評価に値する内容で単位認定する。	1．70% 2．30%

授業科目名	臨床総合実習Ⅱ(理学)（Comprehensive Clinical Training Ⅱ）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、河村　廣幸、金尾　顕郎、三木屋　良輔、前田　薫、角田　晃啓、澤田　優子、仲本　正美、工藤　慎太郎、杉本　圭、松尾　浩希、林　真太郎、木内　隆裕	
科目ナンバリング	SS506	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（実習）、後期（実習）
授業形態	実習	単位数	8	必修・選択	必修

授業概要

3 年次までに履修した理学療法全般にわたる知識と技術、評価実習で習得した理学療法評価の実践能力をもとに、臨床実習指導者の指導のもと、自己で計画した理学療法プログラムの実践を経験するための 8 週間の実習である。
4 年次を通じて 16 週間行う。

到達目標

対象者の生活機能の理解を通じて、理学療法プログラムを立案し、これを実施することを目標とする。これを実現するための行動目標を以下のとおりとする。
①理学療法評価の経験を通じて、対象者の生活機能を想起できる。【DP①③④】
②対象者の生活機能をふまえた理学療法プログラムを想起できる。【DP①③④】
③実習指導者の指導の下、安全に配慮した理学療法介入を経験する。【DP①③④】
④理学療法介入を通じて、対象者が日々変化していることを認識する。【DP①③④】
⑤対象者の変化を通じて、理学療法評価の内容を再度検証する。【DP①③④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．医療人であるという自覚をもって実習態度には十分に注意する。
2．履修要件として、臨床理学療法評価学Ⅲ、臨床評価実習、学科専門科目群・専門科目・理学療法治療学に該当する科目のうち、理学療法特論Ⅰ、理学療法特論Ⅱを除く単位を取得しておくこと。
3．臨床実習のため、原則欠席は認めない。
4．「学外実習の手引き」を熟読し、理解しておくこと。
5．実習前後にオリエンテーションやホームルームを行うが、単位取得にはそのオリエンテーションやホームルームに出席することが必要である。

教科書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

参考書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

研究室／オフィスアワー

各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
2	患者・患児と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
3	患者情報の収集	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
4	患者の接遇の実際	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
5	検査・測定・評価	検査・測定の記録を簡潔に評価レポートにまとめる。 可能であればレジュメを作成し、口頭報告できることが望ましい。	
6	問題点の抽出と訓練プログラムの立案	検査・測定の記録を簡潔に評価レポートにまとめる。	
7	訓練プログラムの実施	訓練プログラムを実施する。実施においてはこれまでの学習内容を復習し、最大限の注意を払うこと。	
8	再評価・考察	実施した訓練プログラムの効果について検証する。 できる限り客観的に他者に対して説明しうる内容であることが望ましい。	

成績評価方法と基準	割合
1．実習評価【DP①③④】 2．実習記録と終了後の報告会【DP①③④】 の総合評価にて 60 点以上の評価に値する内容で単位認定する。	1．70% 2．30%

理学療法学科

（2018 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	東洋史概説(理学)				
主担当教員	重信　あゆみ		担当教員	重信　あゆみ	
科目ナンバリング	LA019	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

古代より人類は多くの活動を連携して行ってきた。その積み重ねが歴史である。そして、現在の医療には、チーム力が必須であり、そのためにはどのようにチームに貢献していくのかを各人が考えていく必要がある。人間活動の痕跡である歴史は、人間関係の構築を知る格好の材料である。歴史を俯瞰的にみることにより、チームに貢献するための人間力を向上させる。

到達目標

中国文化の基盤となっている歴史、思想を理解する。中国の思想には「いかに生き抜くか」が根底にある。その中で、諸子百家と呼ばれる人々は多くの思想を生み出し、広めてきた。思想やその背景となる歴史を人間関係の構築という観点からみることにより、チームに貢献するための「行動」について考える力を養う。<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 配付された資料には必ず目を通すこと。
2. 出席は重視する。
3. 疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

マイケル・ピュエット／クリスティーン・グロス＝ロー著　熊谷淳子訳
『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』早川書房　2016年

研究室／オフィスアワー

授業後、非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科科目のガイダンス	＜予習・復習 各2時間＞ 半期でする時代の流れを復習すること	
2	死生観のあらわれ	＜予習・復習 各2時間＞ 中国の墓の壁画を通じて、死生観を学ぶ	
3	孔子の理想とした西周	＜予習・復習 各2時間＞ 西周の遺物を中心に文化・歴史を学ぶ	
4	黄泉の国　「中国と日本の比較」	＜予習・復習 各2時間＞ 中国と日本の死後の世界を図像を通して比較する	
5	孫子の兵法	＜予習・復習 各2時間＞ 孫子の兵法が三国時代や現在にまで影響を及ぼしていることを学ぶ	
6	古代中国における病気の退散方法	＜予習・復習 各2時間＞ 古代中国の人々は病気の原因を何に求めたのか、そして、それを退散させるには、どのように考えていたのかを考える。	
7	道教の神「西王母」	＜予習・復習 各2時間＞ 不老長寿の神である西王母について学ぶ。西王母は古来より現在に至るまで信仰されている神である。なぜ、ひとびとは、不老長寿を追いかけるのか。西王母の変遷を通じて考える。	
8	張目吐舌	＜予習・復習 各2時間＞ ひとびとは生き抜くためにあらゆる手段を講じた。そのなかでも悪霊から自身を守るために魔除けをつくる。その共通点が「張目吐舌」である。東西交渉を通じて伝えられた「「張目吐舌」について考える。	
9	「精」「気」「神」	＜予習・復習 各2時間＞ 「精」「気」という人にとって基本となる思想について触れる。ほんとうの元気とは何かについて考える。	
10	老子　「道」	＜予習・復習 各2時間＞ 「柔は剛より強い」、この思想を通して、どのように実践されてきたのか、現在にどのように実践していくのかを考える。	
11	科挙制度を学ぶ	＜予習・復習 各2時間＞ 科挙制度を通じて、古代中国における人材確保の仕方を学ぶ。また、教育についても触れる。	
12	日本の中の中国①	＜予習・復習 各2時間＞ 日本における中国の影響を学ぶ。	
13	日本の中の中国②	＜予習・復習 各2時間＞ 前講義につづき、日本の中の中国の影響、そして、変容を学ぶ。	
14	「癒し」	＜予習・復習 各2時間＞ ストレス社会である現在、さまざまな「癒し」がある。各自の癒しついて考えてもらい、なぜ癒されるのかを科学的に検証していく。	
15	思想と東洋医学	＜予習・復習 各2時間＞ 半期のまとめを行う。ひとはなぜ「不老長寿」を追い求めてきたのかをまとめを行いながら考えていく。	

成績評価方法と基準	割合
①授業ごとの感想文<DP③> ②レポート課題<DP③> ③定期試験<DP③>	①10% ②20% ③70%

授業科目名	西洋史概説(理学)				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング	LA020	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

現代の日本社会においては、意識するしないに関わらず、様々な分野で西洋社会（ヨーロッパ諸国・北アメリカ）の影響を受けている。とりわけ江戸時代が終わり明治時代になって以降、政治・経済システムや文化といった側面で、日本は多くのものを西洋社会から受け入れ、伝統的な日本社会に溶け込ませようとしてきた（それがうまくいった例もあれば、失敗に終わった例もあろう）。　本講義では、そのような点で重要なものである西洋社会の特色について、西洋の歴史を古代から現代まで概観していくことで、理解を深めていくことを目指したい。
　西洋の歴史もかなり古く、数多くの重大な出来事が起こっているが、本講義ではそれらを網羅的に事細かく解説することは避け、いくつかのトピックに絞って西洋文化・社会の特徴を把握することを試みる。例えば古代ギリシャ・ローマ文明、中世のキリスト教社会の成立、近代の様々な革命的な出来事（科学革命・産業革命・政治革命）などである。
　また本講義では西洋における自然科学史、特に医療にかかわる歴史についても適時紹介し解説していきたい。現代の医療もまた様々な面で西洋文化の影響下にあり、西洋において「医」の考え方がどのように変遷していったのかを理解することは、現代の医療を学ぶ上でも重要な視点を与えてくれるだろう。

到達目標

１．現在の西洋社会の出発点ともいえる古代ギリシャ・ローマ文明の内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
２．現代の西洋社会においても重要な一部を成しているキリスト教が西洋中世においてどのように社会に浸透していったのかを理解することができる。〈DP③〉
３．ルネサンス期から近世にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には宗教改革や、17世紀の科学革命、18世紀の啓蒙思想などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
４．近代から現代にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には産業革命やフランス革命、アメリカの独立戦争や第一次・第二次世界大戦、東西冷戦などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
５．西洋の歴史において、医療についての考え方や医療技術がどのような変遷を経てきたのかを理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代の日本社会・文化においては、西洋社会・文化に由来するものが数多くあり、常識となっているものもあろう（逆に違和感があり馴染めないというものもあろう）。本講義では、そういったもののルーツとなるものを、西洋の歴史をたどって概観していくことで理解を深めてもらい、またそういったものについていろいろと考えを巡らせてみるきっかけとしてもらいたい。
　西洋史におけるさまざまなトピックを充分に学修するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。
　他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明(ガイダンス)。また講義の導入として古代ギリシャの文化・社会について①。	（予習）西洋社会・文化について自分がどういうイメージを抱いているのかを考えておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2時間)	
2	古代ギリシャの文化・社会について②。およびヒポクラテスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
3	古代ローマの文化・社会について。およびガレノスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
4	中世キリスト教社会の成立について①。およびアヴィケンナの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
5	中世キリスト教社会の成立について②。および「ペスト（黒死病）」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
6	ルネサンス、ルターの宗教改革、三十年戦争について。および「解剖学」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
7	１７世紀の西洋社会・文化について（近代的な国家の形成過程や科学革命など）。およびハーヴィの「血液循環論」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
8	１８世紀の啓蒙思想について（モンテスキュー、ルソー、アダム・スミスなどの思想）。およびレーウェンフックの「顕微鏡」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
9	産業革命とフランス革命について。およびパストゥールの「フラスコ」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
10	ウィーン体制と国民国家の形成過程、帝国主義について。および「X線装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
11	アメリカ独立戦争とアメリカ合衆国の成立について。および「天然痘」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
12	第一次世界大戦前後の西洋社会・文化について（ロシア革命やヴェルサイユ体制など）。および「人工心肺装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
13	第二次世界大戦前後の西洋社会・文化について（世界大恐慌やファシズムの台頭など）。およびクリックとワトソンの「二重らせん」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
14	第二次世界大戦後の西洋社会・文化について（冷戦とポスト冷戦など）。および「MRIスキャナー」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2時間) （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2時間)	
成績評価方法と基準			割合

①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。<DP③> 小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることができるかどうかを評価する。 期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。	①期末試験 50% ②小テスト 50%

授業科目名	英会話(理学)（English Conversation）				
主担当教員	Julian Houseman		担当教員	Julian Houseman	
科目ナンバリング	LA021	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

英会話Ⅰでは、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話力を身につける。

到達目標

・自己紹介ができる。
・最低限の日常会話ができる。
・自分の考えを最低限伝えることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

書名／Title　：　CHALLENGER BOOK α　1
著者名／Authors　：　ECC 総合教育研究所
出版社・出版年／　ECC

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

E 棟１階非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Course introduction, Classroom English	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
2	Introduction yourself Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
3	Greetings friends Casual Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
4	What’ s your sister’ s name? Talk about people	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
5	Free time Talk about activities	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
6	Exercise Talk about exercise	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
7	What kind of bike do you have? Closed questions and follow-up questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
8	Food you like Open questions and closed questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
9	Clothes Talk about shopping	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
10	Is it expensive? Adjectives and recommendations	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
11	Visiting someone Talking someone	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
12	Saying people Offering something	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
13	What’ s this wooden thing? Talk about objects	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
14	Describing people Wh～questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
15	講義全体のまとめ	授業の復習並びに総括小テスト準備	

成績評価方法と基準	割合
①授業参加度 ②小テスト ③確認テスト	①20% ②60% ③20%

授業科目名	医学英語(理学)（English for Medicine）				
主担当教員	長尾　晋宏		担当教員	長尾　晋宏	
科目ナンバリング	LA022	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。
将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。

到達目標

最低限患者とコミュニケーションがとれる。
最低限の医学用語が理解できる。
医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。
携帯電話の使用、私語は慎むこと。

教科書

実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Introduction / Medical terminology / Getting to know the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Getting to know the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Getting to know the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Getting to know the patients 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Examination 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	Examination 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
7	Instructing medication	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Treating the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Treating the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Treating the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Operation / Pubmedについて、論文の構成について	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Pregnancy / Articles on PT 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	In the hospital / Articles on PT 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Emergencies / Articles on PT 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Living a healthy life / Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
小テスト プレゼンテーションおよびその他課題 授業参加態度 2/3 回以上の出席が必要。	30% 40% 30%

授業科目名	基礎英語演習(理学)				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング	LA023	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。〈DP②〉
TOEIC500 点相当の英語力を身に着ける。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	品詞①：名詞（可算名詞・不可算名詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 2 Dining Out	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	品詞②：形容詞（名詞修飾、補語）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 3 Media	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	品詞③：副詞（動詞・形容詞修飾）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 4 Entertainment	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	時制（現在・過去・未来・現在進行形）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Unit 5 Purchasing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	3 単現の s（修飾語句を伴う主語）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 6 Clients	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	能動態・受動態（感情を表す表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 7 Recruiting	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	動詞の後ろの動名詞・不定詞（前置詞の後ろの動名詞、定型表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①小テスト<DP②> ②その他課題・授業態度・参加<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②60%

授業科目名	応用英語演習(理学)				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング	LA024	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

文法、語彙、表現を徹底的に習得する。
TOEIC550 点相当程度の英語力を身に着ける。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)
（前期に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Introduction / Unit 8 Personnel	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	代名詞（主格・所有格・目的格・所有代名詞）	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 9 Advertising	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	比較（比較級、最上級、as ... as）	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 10 Meetings	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	前置詞（理由・譲歩・時、定型表現）	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 11 Finance	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	接続詞（理由・譲歩・時）	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

9	Unit 12 Offices	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	前置詞・接続詞対比	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 13 Daily Life	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	関係代名詞（主格・所有格・目的格）	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①（名詞・形容詞）	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Unit 15 Events 語彙②（動詞・副詞）	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト ②その他課題・授業態度・参加 ③Review Test 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②20% ③40%

授業科目名	健康管理学Ⅰ(理学)（Healthcare Management Ⅰ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病の危険因子が明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方の条件（強度・時間・頻度）に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウオーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。

到達目標

1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。DP③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません。

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村愼一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康管理について　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動　3	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点　1 ウォームアップとウォームダウン　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点　2 ウォームアップとウォームダウン　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点　3 オーバーエクササイズによる身体的の問題	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	トレーニングでの注意点　4 障害を予防するためのアイシング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要　DP③④			①70% ②30%

授業科目名	健康管理学Ⅱ(理学)（Healthcare Management Ⅱ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS023	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきている。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモーティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。

到達目標

1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村慎一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康管理について　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動　1 メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動　2 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動　3 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動　4 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動　5 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 授業の 2/3 回以上の出席が必要			①70% ②30%

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(理学)（Team Medical Care and Communication）				
主担当教員	三木屋　良輔		担当教員	三木屋　良輔	
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

コミュニケーションについては、人を援助する専門家に要求される基本的姿勢と、患者とのコミュニケーションを行っていく上で必要となる理論と実際について学んでいく。
チーム医療については、患者中心の医療を実現していくために欠かすことができない他職種への理解と連携の在り方ついて学んでいく。また実際に医療や福祉の現場で活躍する他職種の方に来て頂き、リハビリテーションとの関わりについて講義して頂くことも予定している。

到達目標

1. 理学療法士として患者・家族と関わる上で求められる姿勢や態度を身に着ける。
2. チーム医療で求められる他職種への理解や関わり方について理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 講義の中で学ぶ内容は日々の生活の中でも応用できる理論ばかりですので、知識だけでなく、実践を通じて身に着けていくことに重点を置いてください。
2. 講義の中で考えたこと、感じたことを可能な限り言語化するよう心掛けて下さい。
3. 学修内容は必要に応じて変更することがあります。

教科書

三宅わか子・他編：理学療法コミュニケーション論. 医歯薬出版

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

授業時間、水曜日、金曜日以外で空いている時間。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	なぜコミュニケーションを学ぶのか	臨床マインドにおけるコミュニケーションツールについて理解する（1時間）	三木屋 良輔
2	社会で働くために必要な力とは?	社会人力について理解する（1時間）	三木屋 良輔
3	伝える・伝わるコミュニケーションとは?	聴く技術について理解する（1時間）	三木屋 良輔
4	相手の気持ちに立って話をする力について	断り方について理解する（1時間）	三木屋 良輔
5	コミュニケーションのタイプについて	自分の性格を知る（1時間）	三木屋 良輔
6	コミュニケーションにおける解決と解消について	PREP 法、リフレーミングについて理解する（1時間）	三木屋 良輔
7	妥協点を見つけるために受容的に聴く実践	共感的理解力について理解する（1時間）	三木屋 良輔
8	自分の情報を整理する力について	イメージマッピング法について理解する（1時間）	三木屋 良輔
9	プレゼンテーションの論理的な筋書きを作る力	強制連結法について実施できる（1時間）	三木屋 良輔
10	感情のコントロールについて	怒りのメカニズムについて理解する（1時間）	三木屋 良輔
11	臨床実習で求められるコミュニケーション	臨床現場でのコミュニケーションについて理解する（1時間）	三木屋 良輔
12	リハビリテーション職種として理学療法士の役割とチーム医療の実際	理学療法士の仕事について理解する（1時間）	三木屋 良輔
13	リハビリテーション職種として作業療法士の役割とチーム医療の実際	予習：作業療法士の専門性について理解するために、雑誌「作業療法」から興味のある 10 タイトルを選び、要旨を読んでおく（2 時間）。 復習：作業療法士の専門性について理解するために、雑誌「作業療法」の実践報告を読む（2 時間）。	

14	各職種の役割とチーム医療の実際	チーム医療職種の特徴について理解する（１時間）	三木屋 良輔
15	特別なチームについて	NST、緩和ケアチームについて理解する（１時間）	三木屋 良輔
成績評価方法と基準			割合
・単位認定には、2／3 以上の出席を必要とします。複数回のレポー課題の成績６割以上で単位認定します。 レポートの詳細についてはルーブリックを講義の中で説明します<DP②③>			１、レポート １００％

授業科目名	栄養学(理学)（Nutriology）				
主担当教員	南方 克之		担当教員	南方 克之	
科目ナンバリング	CS024	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

国民総医療費は 38 兆 5850 億円に達し、その医療費の 55.6%は 65 歳以上の高齢者が占めているとのことである。2013 年度の高齢者数は 3190 万人（全人口の 25.1%）であるが、2030 年度には 3685 万人（31.6%）に達すると予測されている。総医療費の半分以上を占める高齢者が、15 年後には 3 人に 1 人の割合になることを考えると、いかにして高齢者の健康寿命を長くするかがとても重要になる。1 人でも多くの高齢者が健康で過ごせるように医療従事者が食事指導できることが大切と考え、健康の保持増進に欠くことのできない「栄養」に関する正しい知識を学修する。

到達目標

１．栄養素の種類と働きについて理解し、食生活と疾病の関係性について説明できる。
２．消化と吸収およびエネルギー代謝について説明できる。
３．ライフサイクルと栄養摂取について理解し、栄養アセスメントについて説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１.「栄養学」に興味を持って授業に臨んでください。
２．初回授業で実施の詳細を説明します。

教科書

『イラスト基礎栄養学第 2 版』大口健司・小野廣紀・田村明／東京教学社

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

森ノ宮医療大学：西棟４F434 研究室（火曜日 11：00～18：00）
森ノ宮医療学園専門学校： 2F 職員事務室／授業外対応可能（木曜日以外）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	栄養の概念	予習：教科書（P.1～12）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
2	食物の摂取	予習：教科書（P.13～19）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態①	予習：教科書（P.21～38）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
4	消化・吸収と栄養素の体内動態②	予習：教科書（P.21～38）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
5	たんぱく質の栄養①	予習：教科書（P.39～52）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
6	たんぱく質の栄養②	予習：教科書（P.39～52）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
7	炭水化物の栄養①	予習：教科書（P.53～63）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
8	炭水化物の栄養②	予習：教科書（P.53～63）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
9	脂質の栄養①	予習：教科書（P.67～77）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
10	脂質の栄養②	予習：教科書（P.67～77）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
11	ビタミンの栄養①	予習：教科書（P.79～97）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
12	ビタミンの栄養②	予習：教科書（P.79～97）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
13	ミネラル（無機質）の栄養	予習：教科書（P.99～112）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
14	水・電解質の栄養的意義	予習：教科書（P.113～121）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
15	エネルギー代謝	予習：教科書（P.123～136）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験　出題範囲：授業内で扱った範囲	100%

授業科目名	身体運動科学(理学)（Science of Human Body Movement）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、中原　英博、松尾　浩希、木内　隆裕	
科目ナンバリング	CS025	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

運動・身体活動が身体にもたらす生理学的な反応やメカニズム、適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に実施する方法および運動療法の実施について学修する。

到達目標

１．運動が身体にもたらす生理学的な反応やメカニズムについて理解し、具体的に述べることができる。
２．適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に実施する方法について理解し、具体的に述べることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．シラバスに明記されている予習復習を必ず行うこと。
２．授業が実技形式の場合には、ジャージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。

教科書

資料を配布する

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

中原英博：水曜日３．４時限
木内隆裕：E 棟 4 階 研究室 7／火曜日 5 限以降
松尾浩希：E 棟 4 階 共同研究室／金曜日 5 時限目以降（時間は事前に相談してください）
中根征也：E 棟 4 階 研究室 19／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談してください）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	なぜ，運動が必要か？	予習：1 年次に学修した「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」について復習しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，運動中に生じる身体の機能と変化に理解する．(2 時間)	中根
2	骨格筋の役割と運動時の活動	予習：1 年次に学修した「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」について復習しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，運動が骨格筋に及ぼす影響について理解する．(2 時間)	中根
3	骨格筋の成長と加齢の変化とトレーニング効果	予習：1 年次に学修した「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」について復習しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，発育・発達過程に伴うトレーニング効果を理解する．(2 時間)	中根
4	柔軟性の科学	予習：ストレッチングの種類，生理学について確認しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，ストレッチングが運動に及ぼす影響について理解する (2 時間)	松尾
5	神経系の役割と運動制御	予習：「基礎運動学. 第 6 版補訂」pp. 117-154 を読む。(2 時間) 復習：「基礎運動学. 第 6 版補訂」pp. 117-154 を読む。(2 時間)	木内
6	運動中の神経活動	予習：「基礎運動学. 第 6 版補訂」pp. 117-154 を読む。(2 時間) 復習：「基礎運動学. 第 6 版補訂」pp. 117-154 を読む。(2 時間)	木内
7	運動と循環 １	運動時の呼吸器系の応答について理解する	中原
8	運動と循環 ２	運動時の循環器系の応答について理解する	中原

9	運動と呼吸	運動によって引き起こされる身体の適応を理解する	中原
10	運動と体温	予習：身体における熱産生・熱放散について確認しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，運動時における体温調節反応，脱水，水分補給について理解する．(2 時間)	松尾
11	運動と栄養・食生活	予習：栄養素の役割および食事バランスガイドを確認しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，日常の食事と運動の関係について理解する．(2 時間)	中根
12	フィジカルチェック	予習：理学療法で実施する評価について確認しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，評価結果と効果的な運動療法の実践について理解する．(2 時間)	松尾
13	運動と傷害	予習：運動時に発生する外傷と障害の原因について確認しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，運動時に発生する外傷と障害の違いを理解する．(2 時間)	松尾
14	運動と理学療法	予習：運動が身体に及ぼす影響について確認しておく．(2 時間) 復習：授業内容をまとめ，理学療法における効果的な運動療法の実践を理解する．(2 時間)	中根
15	講義全体のまとめ	予習復習：これまでの内容を各自にて確認し，説明できるようにする．(4 時間)	中根
成績評価方法と基準			割合
1．筆記試験〈DP③〉 2．レポート課題			80% 20%

授業科目名	東洋医療概論(理学)				
主担当教員	横山　浩之		担当教員	横山　浩之	
科目ナンバリング	CS028	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。

到達目標

下記の内容の概要を理解する。
1．東洋医学の分野を理解する。
2．東洋医学の基本的思考法を理解する。
3．東洋医学が身近なものであることを認識する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．東洋医学の用語に慣れること。
2．全ての授業に出席すること。
3．できれば、自分のノートをつくること。

教科書

なし

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス、東洋医学とは この講義を学習することの意味を説明できる	復習：授業の振返り	
2	東洋医学の分野	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
3	陰陽・五行	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
4	臓腑経絡(1)	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
5	臓腑経絡(2)	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
6	診察	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
7	鍼灸治療	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
8	漢方治療	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
9	手技療法	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
10	中医学	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
11	東洋医学の歴史	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
12	東洋医学の特徴	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
13	家庭における東洋医学	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	

14	東洋医学と民間療法	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
15	東洋医学の将来と課題	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
成績評価方法と基準			割合
【評価の配点】 1．出席・授業態度 2．レポート提出 ＊詳細は授業内で告知する DP②③			1.40% 2.60%

授業科目名	統合医療概論(理学)（Introduction to Integrative Medicine）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、森 美侑紀、増山 祥子	
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 3 限 木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素である EBM と補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。

到達目標

1．統合医療の概念と現状について理解する。
2．EBM の概念と手法について理解する。
3．補完代替医療の種類と概要について説明できる。
4．各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。

教科書

資料を配布する。

参考書

各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM①	EBM について調べる	山下
3	EBM②	理学療法学領域の EBM について調べる	増山
4	EBM と診療ガイドライン	理学療法学関連の診療ガイドラインを読む	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	健康関連商品の広告を見て問題点を抽出する	山下
6	補完代替医療概論	補完代替医療と統合医療の違いを調べる	山下
7	代表的な補完代替療法	自分や家族がよく使う補完代替療法の有効性と安全性についてネットや書籍で調べる	山下
8	鍼灸と経穴	附属図書館にある鍼灸関連の書籍や雑誌を見る	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルについて調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルについて調べる	森
11	ヨガ・マインドフルネス	ヨガ・マインドフルネスについてネット動画を見る	増山
12	サプリメント	最近よく売れている補完代替医療系の商品やサービスをネットで調べ、批判的に考察する	山下
13	緩和ケア・難病ケアと統合医療	緩和ケアについて書籍及びネットで調べる	増山
14	スピリチュアル・ケアと NBM	スピリチュアルの概念について調べる	山下
15	総括・統合医療は何を統合するのか	14 回までに習った内容を整理する	山下

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験 ②課題提出物	①70% ②30%

授業科目名	IPW 論(理学)（Inter-Professional Work）				
主担当教員	中根 征也		担当教員	中根 征也、山下 仁、増山 祥子、 大川 祐世、角田 晃啓、村上 生美、 吉村 弥須子、関根 将、藤江 建朗、 小林 貴代	
科目ナンバリング	CS029	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 3 限 水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

各学科において、他学科の連携や知識・技術に触れることを目的に看護学・鍼灸学・作業療法学、臨床検査学および理学療法学を学び、IPW（Interprofessional Work = 専門職連携）を 5 学科協働で演習形式にて実践する。
　各分野の特徴やチーム内での役割とその専門性を学び、その上で看護、鍼灸、作業療法、臨床検査、理学療法の各分野で共通する疾患や障害を基に、IPW の実際について、討議・経験・学修する。（オムニバス形式／全 15 回）

到達目標

各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理
観を養う。＜DP②③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。
2）疑問点を大切にして常に自己で調べて解決するように行動すること。
3）出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。

教科書

資料を配布あり

参考書

各自準備すること

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医療系職種の理解①（看護学） 到達目標 　看護の定義、看護の対象（個人・家族・集団）を共通 理解し、チーム医療における看護の役割について説 明できる。	予習：本学看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：看護の専門性を理解し、理学療法との接点を理 解しておく。	
2	医療系職種の理解②（臨床検査学）	予習：本学臨床検査学科のカリキュラムに目を通して おく。 復習：臨床検査の専門性を理解し、理学療法との接 点を理解しておく。	
3	医療系職種の理解③（作業療法学）	予習：本学作業療法学科のカリキュラムに目を通して おく。 復習：作業療法の専門性を理解し、理学療法との接 点を理解しておく。	
4	医療系職種の理解④（臨床工学）	予習：本学臨床工学科のカリキュラムに目を通して おく。 復習：臨床工学の専門性を理解し、理学療法との接	

		点を理解しておく。	
5	医療系職種の理解④（鍼灸学）	予習：本学鍼灸学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：鍼灸の専門性を理解し、理学療法との接点を理 解しておく。	
6	チーム医療の実際 （各学科教員による Case Conference）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：デモンストレーションを通じ、各分野と理学療法 の役割を理解する。	
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①	予習：理学療法士の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察②	予習：理学療法士の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	
9	提示症例におけるアプローチ立案とその考察③	予習：理学療法士の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	
10	提示症例におけるアプローチ立案とその考察④	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
11	IPW①（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
12	IPW②（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
13	IPW③（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
14	IPW④（11 回〜14 回は 4 コマ連続） プレゼンテーション	予習：IPW で討議したことをまとめる。 復習：プレゼンテーションの準備。	
15	IPW⑤プレゼンテーションと振り返り	予習：プレゼンテーションの準備。 復習：IPW や発表で得たことをまとめておく。	
成績評価方法と基準			割合
①レポート＜DP②③④＞ ②【IPW】プレゼンテーション（提示するルーブリックに基づき表価する）＜DP②③④＞ 出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う			①40% ②60%

授業科目名	人体の構造実習(理学)（Human Anatomy Training）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久	
科目ナンバリング	SB104	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

人体の構造的、機能的最小単位である細胞には様々な形態を有しているものがあり、器官・臓器はそれらが一定の秩序に従って構成されている。本実習ではヒトの身体から頂いた組織標本の顕微鏡観察を通じて、これまで学習した「人体の構造」と「人体の機能」について、ミクロからマクロまで関連づけながら理解を深めるとともに、生命の尊厳についても学習する。

到達目標

生物の最小単位である細胞がいかなる「形態」を有し、どのような「機能」を発揮しうるのかについて「観察」を通じて理解を深めることで、各器官・臓器の機能についてもより深く理解し、さらに疾病における形態変化がどのような機能障害を生じるかについても考察できるようにする。〈DP②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 組織学の理解を深めることは、解剖学や生理学のみならず病理学や病態学の理解を深めることにつながることから、積極的に学習すること。
2. 顕微鏡観察においては観察力を身につける努力をすること。
3. 毎回テーマが異なるため極力欠席をしないようにすること。
4. 実習で扱う顕微鏡やプレパラートは精密機器かつ貴重な資料であることから、丁寧に取り扱うこと。
5. 実習室は精密機器を扱うことから飲食を禁止する。
6. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。また私語などは授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる場合がある。

教科書

1. 適宜プリントを配布する

参考書

1. 牛木辰男　著. 入門組織学 改訂第 2 版. 南江堂. 2016 年.
2. 伊藤隆、阿部和厚　著. 組織学　第 19 版.　南山堂. 2005 年.
3. 野上晴雄　著. 新組織学 (Q シリーズ) 改訂第 6 版. 日本医事新報社. 2016 年.

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00〜18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	実習の進め方、組織学の歴史、組織学総論（4 大組織）についての解説、顕微鏡の使用方法	予習：人体の構造、機能で学んだ組織・細胞の確認（解剖学 p11-18） 復習： 4 大組織について復習すること（解剖学 p11-18、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
2	上皮組織 1：上皮組織（皮膚組織）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p11-12, 327-330）の確認 復習：観察した上皮組織および皮膚組織の構造について復習すること（解剖学 p11-12, 327-330、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
3	消化器系 1：消化管（食道、胃）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p374-376）の確認 復習：観察した食道、胃の構造について復習すること（解剖学 p374-376、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
4	消化器系 2：消化管（小腸、大腸）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p376-379）の確認 復習：観察した小腸、大腸の構造について復習すること（解剖学 p376-379、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
5	消化器系 3：肝臓、胆嚢についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p379-381）の確認 復習：観察した肝臓、胆嚢の構造について復習すること（解剖学 p379-381、配布資料）	川畑

		なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	
6	消化器系 4：膵臓、唾液腺についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p373-374, 381-382）の確認 復習：観察した唾液腺、膵臓の構造について復習すること（解剖学 p373-374, 381-382、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
7	呼吸器系：気管、肺についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p384-391）の確認 復習：観察した気管、肺の構造について復習すること（解剖学 p384-391、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
8	循環器系：心・血管（動静脈）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p339-345）の確認 復習：観察した心・血管（動静脈）の構造について復習すること（解剖学 p339-345、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
9	泌尿器系：腎（糸球体および尿細管）についての観察および解説	予習：シラバス・教科書（解剖学 p392-395）の確認 復習：観察した腎、膀胱の構造について復習すること（解剖学 p392-395、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
10	内分泌系：内分泌腺（甲状腺・膵・副腎）についての観察および解説	予習：シラバス・教科書（解剖学 p406-410）の確認 復習：観察した内分泌腺（甲状腺・膵・副腎）の構造について復習すること（解剖学 p406-410、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
11	筋組織：横紋筋、平滑筋、心筋についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p163-167）の確認 復習：観察した筋組織の構造について復習すること（解剖学 p163-167、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
12	骨格系：骨・軟骨組織（気管軟骨・骨端軟骨）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p15-16, 31-35）の確認 復習：観察した骨・軟骨組織の構造について復習すること（解剖学 p15-16, 31-35、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
13	神経組織：神経組織（脊髄、大脳、小脳）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p250-254, 260-262, 266-271）の確認 復習：観察した神経組織の構造について復習すること（解剖学 p250-254, 260-262, 266-271、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
14	生殖器系：生殖腺（精巣、前立腺、卵巣、子宮についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p399-404）の確認 復習：観察した精巣、卵巣、子宮の構造について復習すること（解剖学 p399-404、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
15	組織学のまとめ：これまで観察してきた正常組織像の総復習	予習：これまでの講義を振り返る（教科書、配布資料） 復習：教科書、配布資料などの振り返りを行うこと。なお予習・復習を各 1 時間行うこと。また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	川畑
成績評価方法と基準			割合
1. 実習ノートの提出〈DP②～④〉 （※実習ノートは授業終了後必ず提出すること。評価基準は授業開始時に提示する。なおノートの未提出は欠席とみなす場合もある。） 2. 4/5 以上の出席が必要			1. 100%

授業科目名	臨床運動学(理学)（Clinical Kinesiology）				
主担当教員	工藤 慎太郎		担当教員	工藤 慎太郎	
科目ナンバリング	SB108	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

身体の運動を解剖学的・生体力学的側面から学び，種々の疾患において生じる症候を運動学的に理解し，理学療法アプローチを考察できるようになるための基盤を形成する．

到達目標

1．四肢体幹の正常な関節運動の軌跡を説明できる．
2．四肢体幹の運動機能障害を運動学的に説明できる．DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．1年次に行った解剖学・運動学を復習して臨むこと
2．理学療法の基盤をなす重要な科目です．十分な予習と復習をして下さい．
3．分からない時は挙手にて質問して下さい．

教科書

工藤慎太郎編：運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学；医学書院

参考書

坂井建男：プロメテウス人体解剖学；医学書院
中村隆一編：基礎運動学；医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

東棟４F17 研究室/月曜１限または時間が空いているときに対応します（要予約）．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	解剖学・運動学の復習(1h)	
2	肩関節	肩関節の静的安定化機構について(1h)	
3	肩関節	肩関節動的安定化機構について(1h)	
4	肩甲胸郭関節	肩甲胸郭関節の筋について(1h)	
5	股関節	股関節の安定化機構について(1h)	
6	膝関節	Screw home movement について(1h)	
7	膝関節靭帯	膝関節静的安定化機構について(1h)	
8	半月板	半月板機能について(1h)	
9	足関節	足関節の Normal tracking movement について(1h)	
10	足関節の靭帯	足関節の安定化機構について(1h)	
11	足部	足部アーチの構造について(1h)	
12	体幹	脊柱の安定化機構について(1h)	
13	肩関節機能障害の運動学的考察	肩関節の運動学について(1h)	
14	膝関節機能障害の運動学的考察	膝関節の運動学について(1h)	
15	まとめ	まとめ(1h)	
成績評価方法と基準			割合
講義中に課す小テストと定期試験で総合的に判定し，６０点以上で単位認定とする．			講義中に課す小テスト（10%） 定期試験（90%）

授業科目名	生化学(理学)（Biochemistry）				
主担当教員	南方　克之		担当教員	南方　克之	
科目ナンバリング	SB131	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

ヒトが生きていくためにはまずエネルギーが必要である。このエネルギーを生み出す仕組みはどうなっているのか。また体内の恒常性を維持する仕組みはどうなっているのか、生体防御の仕組みはどうなっているのか。これらの仕組みの必要性をまずは大きな枠で捉え、その細部のシステムについて、我々の体の中で起こっている様々な化学反応について学修する。

到達目標

１．人体の仕組みについて理解し、説明できる。
２．栄養素の種類とその構造・はたらきについて理解し、説明できる。
３．生体の恒常性を保つシステムと防御するシステムについて理解し、説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１.「人体の仕組み」について興味を持って授業に臨んでください。
２．初回授業で実施の詳細を説明します。

教科書

『イラスト生化学入門第３版』相原英孝・大森正英・尾庭きよ子・竹中晃子・田村明・長村洋一・野澤義則／東京数学社

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

森ノ宮医療大学：西棟 4F434 研究室（木曜日 11：00～20：00）
森ノ宮医療学園専門学校：2F 教員事務室／授業外対応可能（木曜日以外）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人体の仕組み①	[予習]教科書（P2～12）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
2	たんぱく質の構造とはたらき①	[予習]教科書（P14～32）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
3	たんぱく質の構造とはたらき②	[予習]教科書（P14～32）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
4	糖質の構造とはたらき①	[予習]教科書（P34～50）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
5	糖質の構造とはたらき②	[予習]教科書（P34～50）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
6	脂質の構造とはたらき①	[予習]教科書（P52～62）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
7	脂質の構造とはたらき②	[予習]教科書（P52～62）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
8	核酸の構造とはたらき	[予習]教科書（P64～76）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
9	酵素の性質とはたらき	[予習]教科書（P78～88）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
10	ビタミンの種類とはたらき	[予習]教科書（P90～100）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
11	水・無機質のはたらき	[予習]教科書（P102～114）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
12	栄養素の消化・吸収	[予習]教科書（P116～126）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
13	生体の恒常性を保つシステム	[予習]教科書（P128～136）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
14	エネルギーの消費と供給	[予習]教科書（P138～150）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	
15	生体の防御システム～免疫～	[予習]教科書（P152～158）の確認 [復習]授業をもとに授業内容の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験　出題範囲：授業内で扱った範囲 DP①②③	100%

授業科目名	病理学(理学)（Pathology）				
主担当教員	木田　岩男		担当教員	木田　岩男	
科目ナンバリング	SB1032	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるよう、さまざまな疾患についての詳細な解説を行う。
到達目標
病気の成り立ちを十分に理解し、その知識を将来臨床の場で生かせるようにする。（DP①）
履修上の注意(学生へのメッセージ)
病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならない。そのためにはそれらを確実に理解し、記憶に留めておかなければならない。
教科書
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学　監修：梶原博毅　編集：横井豊治、村雲芳樹　ISBN978-4-260-02872-4 医学書院
参考書
シンプル病理学　南江堂
研究室／オフィスアワー
研究室在室時　月曜日～木曜日 17:00～18:00
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学とは 退行性病変と進行性病変①	・教科書 5～6 ページ、15～23 ページ　の退行性病変（壊死、アポトーシス、変性、萎縮）につて理解でき、退行性病変を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
2	退行性病変と進行性病変②	・教科書 15～23 ページの進行片病変（肥大、過形成、化生）について理解でき進行性病変を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
3	炎症①	・教科書 61～72 ページの炎症について理解でき急性炎症、慢性炎症につて説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
4	炎症② 再生と創傷治癒	・教科書 61～72 ページの炎症について理解でき炎症の種類につて説明できる。教科書 23～25 ページの再生と創傷治癒について理解し説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
5	循環傷害①	・教科書 37～48 ページの循環霜害（浮腫、充血とうっ血、出血）について理解でき浮腫、充血とうっ血、出血を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
6	循環傷害②	・教科書 37～45 ページの循環霜害（血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、高血圧、側副循環）について理解でき血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、高血圧、側副循環を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
7	免疫と感染症①	・教科書 50～59 ページの免疫（自然免疫と獲得免疫）につて理解でき自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる細胞、抗体について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
8	免疫と感染症②	・教科書 50～59 ページの免疫について理解できアレルギー、免疫不全について理解できる。教科書 65～72 ページの感染症について理解でき説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
9	腫瘍①	・教科症 73～92 ページの腫瘍（腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類）について理解でき腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
10	腫瘍②	・教科症 73～92 ページの腫瘍（腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因）について理解でき腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
11	先天異常と奇形①	・教科症 101～112 ページの先天異常について理解でき単一遺伝子疾患、メンデルの法則に従わない遺伝性疾患について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
12	先天異常と奇形②	・教科症 101～112 ページの先天異常について理解でき染色体異常症について説明できる。 奇形について理解でき発生原因、種類について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
13	代謝異常①	・教科書 27～35 ページの代謝傷害（アミノ酸代謝障害、核酸代謝障害、脂質代謝傷害）について理解でき説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
14	代謝異常② 老化	・教科書 27～35 ページの代謝傷害（糖質代謝障害、色素代謝傷害）について理解でき説明できる。 教科書 93～100 ページの老化について理解でき説明で見る。 ・予習・復習に 4 時間	
15	重点項目の復習	・病理総論の重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験（DP①）	①100%

授業科目名	臨床病態学Ⅰ(理学)（Clinical Pathology Ⅰ）				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SB1033	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。

到達目標

DP①②に対応し、チーム医療実践で必要な専門的知識を獲得するための授業科目です。
１．各種臓器の働きを理解し説明できる。DP①②に対応
２．各種疾病の本質・病態を論理的に理解し説明できる。DP①②に対応
３．各種疾病の臨床症状・治療法・ケアを合理的に説明できる。　DP①②に対応

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．内科学（疾病の理解）は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

浅野嘉延・吉山直樹編　看護のための臨床病態学　南山堂

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

月曜午後・水曜日・金曜日午後（ただし会議等でいないこともあります）
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心臓の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 1	心臓の解剖・生理機能について、予習復習を各 1 時間行うこと。	
2	心臓の基本的な働きと循環器疾患の病態・治療の理解 2	心臓の解剖・生理機能について、予習復習を各 1 時間行うこと。	
3	循環器疾患の病態・治療の理解 3	循環器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
4	循環器疾患の病態・治療の理解 4	循環器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
5	肺の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 1	肺の解剖・生理機能について、予習復習を各 1 時間行うこと。	
6	肺の基本的な働きと呼吸器疾患の病態・治療の理解 2	呼吸器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
7	呼吸器疾患の病態・治療の理解 3	呼吸器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
8	呼吸器疾患の病態・治療の理解 4	呼吸器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
9	消化管の基本的な働きと消化器疾患の病態・治療の理解 1	消化管の解剖・生理機能について、予習復習を各 1 時間行うこと。	
10	消化器疾患の病態・治療の理解 2	消化器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
11	消化器疾患の病態・治療の理解 3	消化器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
12	肝臓・膵臓・胆嚢の基本的な働きと肝胆膵疾患の病態・治療の理解 1	肝臓・膵臓・胆嚢の解剖・生理機能について、予習復習を各 1 時間行うこと。	
13	肝胆膵疾患の病態・治療の理解 2	肝胆膵疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
14	血液疾患の病態・治療の理解 1	血液疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
15	血液疾患の病態・治療の理解 2	血液疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。 また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験（DP①②）	100%

授業科目名	臨床病態学Ⅱ(理学)（Clinical Pathology Ⅱ）				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SB1034	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。

到達目標

DP①②に対応し、チーム医療実践で必要な専門的知識を獲得するための授業科目です。
１．各種臓器の働きを理解し説明できる。DP①②に対応
２．各種疾病の本質・病態を論理的に理解し説明できる。DP①②に対応
３．各種疾病の臨床症状・治療法・ケアを合理的に説明できる。　DP①②に対応

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．内科学（疾病の理解）は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

浅野嘉延・吉山直樹編　看護のための臨床病態学　南山堂

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

月曜午後・水曜日・金曜日午後（ただし会議等でいないこともあります）
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	代謝性疾患の病態・治療の理解 1	代謝性疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
2	代謝性疾患の病態・治療の理解 2	代謝性疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
3	内分泌疾患の病態・治療の理解 1	内分泌疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
4	内分泌疾患の病態・治療の理解 2	内分泌疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
5	内分泌疾患の病態・治療の理解 3	内分泌疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
6	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解 1	アレルギーの病態について予習復習を各 1 時間行うこと。	
7	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解 2	アレルギー疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
8	膠原病・アレルギー疾患の病態・治療の理解 3	膠原病の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
9	腎臓の基本的な働き	腎臓の解剖・生理機能について、予習復習を各 1 時間行うこと。	
10	腎臓疾患の病態・治療の理解 1	消化器疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
11	腎臓疾患の病態・治療の理解 2	腎臓疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
12	腎臓疾患の病態・治療の理解 3	腎臓疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
13	神経・筋疾患の病態・治療の理解 1	神経・筋疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
14	神経・筋疾患の病態・治療の理解 2	神経・筋疾患の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。	
15	感染症の病態・治療の理解	感染症の病態について 1 時間予習し、学んだ疾患の病態・所見・治療を合理的に説明できるように 1 時間復習しておくこと。 また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験（DP①②）	100%

授業科目名	臨床病態学Ⅲ(理学)（Clinical Pathology Ⅲ）				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬、吉岡　敏治、三木 宏文	
科目ナンバリング	SB1035	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限 金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な病態学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、患者の訴え・状態から検査・治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。リハビリテーションの実施中やスポーツ中に起こる不慮の心肺停止を想定し、それに対応できる知識と処置の実際を学ぶ。心肺蘇生法は、医療従事者として確実に身につけることが必要である。

到達目標

1．各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。
2．各種疾病の臨床症状・治療法・ケアが合理的に説明できる。
3．わが国における救急医療システムを理解し、心肺蘇生法の基本を学ぶ。
4．心呼吸停止、心肺蘇生について理論的なイメージを構築する努力をすること。
5．中枢神経系の解剖生理を通じ、脳神経系共通の病態生理の理解を進める。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．疾病の理解は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
2．講義を聞かずに資料だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
3．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
4．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
5．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
6．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
7．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

救急医学は配布資料で十分理解できるように資料を整えているので、テキストは不要である。
老年医学は資料を配布します。
脳神経領域は資料を配布します。

参考書

救急蘇生法の指針２０１５（医療従事者用、改訂第５版）　へるす出版
標準理学療法学・作業療法学　老年学　（著者：大内尉義　　医学書院）

研究室／オフィスアワー

前川：C 棟研究室８／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。
吉岡：C 棟研究室４／原則月曜日　2・3 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です.

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	救急医療の特徴、救急医療体制と搬送システム 死の判定と心肺停止の基準	予習：不要 復習：救急医療の方程式、ABCDE アプローチを理解する。一次・二次・三次救急医療施設とヘリ搬送を含む救急患者の搬送状況を把握する。死と心肺停止の基準を説明できること。	吉岡敏治
2	循環の 3 要素とショックの分類、ショック時の体液・循環動態と輸液療法の基本	予習：不要 復習：ショックの病態を理解するための法則と、ショック時の体液・循環動態を説明できること。	吉岡敏治
3	老化のメカニズムと独立した概念としての老年病医学の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	前川
4	加齢に伴う生理機能・運動機能・精神心理面の変化	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	前川
5	高齢者の機能評価	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	前川
6	老年症候群における代表的な症候の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	前川
7	高齢者における主な疾患（１）	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	前川
8	高齢者における主な疾患（２）	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	前川
9	中枢神経系の解剖、生理１	中枢神経系の解剖、生理を理解する	三木
10	中枢神経系の解剖、生理２	解剖生理の理解をもとに病態生理を理解する	三木
11	主要神経症状と病態	解剖生理の理解のもとに病態生理を理解する	三木
12	脳血管障害１	脳血管障害の病態生理の理解。脳梗塞を中心に。	三木
13	脳血管障害２	脳血管障害の病態理解、くも膜下出血、脳内出血を中心に。	三木
14	脳腫瘍、頭部外傷、感染性疾患等	脳腫瘍、外傷、感染性疾患の病態理解。	三木
15	基底核編成疾患、その他の変性疾患	パーキンソン病を中心とした変性疾患の病態理解	三木

成績評価方法と基準	割合
吉岡：心肺蘇生、ショック等に関連する救急救命士国家試験から 10 題を出題する。 前川：筆記試験 三木：筆記試験	吉岡：20% 前川：40% 三木：40%

授業科目名	整形外科学(理学)（Orthopedics）				
主担当教員	宮田　重樹		担当教員	宮田　重樹	
科目ナンバリング	SB116	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 4 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

整形外科疾患は、理学療法士が治療する中心の一つである。
四肢・体幹疾患の理学療法を行う上で知っておくべき整形外科学を学ぶ。
実習に際して必要な知識、国家試験に際して必要な知識、理学療法士として仕事するうえで必要な知識を学ぶ。
教科書、スライドを中心に進め、知識を深める。

到達目標

1. 整形外科疾患をどのように診断するのか学ぶ。
2. 整形外科疾患をどのように治療するのか学ぶ。
3. 整形外科疾患の保存療法と手術療法を学ぶ。
4. 整形外科疾患に対する治療をすすめる上で必要な整形外科学基礎知識を学ぶ。
5. 整形外科疾患が原因の身体障害者に対する基本的動作能力の回復を図るには、何が必要か学ぶ。
6. 運動器の問題を見つける目を育てる。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

私語ｅｔｃ授業の妨げとなる生徒は退場してもらう。

教科書

TEXT 整形外科　南山堂

参考書

整形外科疾患の理学療法　金原出版
運動機能障害症候群のマネジメント　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

講義日の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	整形外科とは、運動器の働き、姿勢、歩容	授業に使うスライドのプリント	
2	整形外科的診断法、整形外科的治療法	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
3	脊椎・脊髄（頸椎・腰椎）疾患	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
4	脊椎疾患のリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
5	上肢疾患（肩、肘、手）とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
6	下肢疾患（股、膝、足）とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
7	スポーツ障害とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
8	骨代謝疾患、骨関節感染症	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
9	関節症、骨端症、関節リウマチ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
10	骨軟部腫瘍、骨関節系統疾患	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
11	外傷 1	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
12	外傷 2	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
13	脊椎・脊髄損傷とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
14	末梢神経障害	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
15	ロコモ、フレイル、介護予防、介護保険	授業に使うスライドのプリント　小テスト	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験 ②小テスト DP①②	①84% ②16%

授業科目名	小児科学(人間発達学)(理学) (Pediatrics【Human Development Studies】)				
主担当教員	澤田 優子		担当教員	澤田 優子	
科目ナンバリング	SB117	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

小児の正常発達および疾患・治療について講義する。小児の特性について、運動機能面、認知機能面、言語機能面などの多側面から解説する。また、小児疾患に関わる多職種の役割についても解説する。講義中には症例検討やグループワークを実施し、治療の実際を理解することを目標とする。

到達目標

１．人間発達について理解する。
２．小児の疾患・障害を理解する。
３．小児疾患の治療を理解する。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義前、講義後に教科書を読んでおくこと。
随時確認テストを実施します。

教科書

冨田豊 編　標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学 医学書院

参考書

１．イラストでわかる人間発達学　上杉 雅之（監修） 医歯薬出版株式会社
２．イラストでわかる小児理学療法　上杉 雅之（監修） 医歯薬出版株式会社
３．リハビリテーションのための発達科学入門　浅野大喜（著）出版社: 協同医書出版社
その他、講義中に紹介する

研究室／オフィスアワー

月曜日 3 時限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人間発達 1	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
2	人間発達 2	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
3	人間発達 3	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
4	人間発達 4	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
5	人間発達まとめ、確認テスト（１）	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
6	先天異常	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
7	新生児疾患，呼吸器疾患，循環器疾患 1	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
8	新生児疾患，呼吸器疾患，循環器疾患 2	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
9	神経･筋疾患 1	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
10	神経･筋疾患 2	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
11	神経･筋疾患 3	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
12	運動器疾患	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
13	全体のまとめ、確認テスト（２）	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
14	その他の小児疾患 1	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
15	その他の小児疾患 2	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	

成績評価方法と基準	割合
成績評価＜DP①＞ 1.課題（毎授業で実施します。計 15 回） 2.確認テスト（１） 3.確認テスト（２） 2/3 の出席が必要	・成績評価 1.30% 2.30% 3.40%

授業科目名	精神医学(理学)（Psychiatric Medicine）				
主担当教員	石井　淳一		担当教員	石井　淳一、太尾　恵理	
科目ナンバリング	SB118	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

精神疾患の発症頻度は高く、一部の疾患では近年有病率の高まりが指摘されている。実際、総合病院を受診する患者のうち、２割は何らかの精神疾患を合併するとも言われており、精神医学の知識は、全ての領域の医療職にとって必須である。ここでは、精神疾患一般に関する基本的な知識と対応について学ぶ。

到達目標

精神医学の対象となる疾病概念、診断法、治療法について、理解できる。
精神疾患患者に対する対応方法について理解できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

精神障害者に出会わない医療職は存在しない。精神疾患の治療に直接携わることはなくとも、臨床における素養として必要不可欠であることを認識する。

教科書

メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ　精神医学　（飯高哲也編著　理工図書）

参考書

標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学
（監修：奈良　勲/鎌倉　矩子　編集：上野　武治　医学書院）

研究室／オフィスアワー

講義の前後の時間、非常勤講師控室にて質問や相談を受ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス及び精神症状の診かた	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
2	精神科の診断と検査	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
3	統合失調症	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
4	うつ病、双極性障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
5	不安症、強迫症、PTSD	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
6	摂食障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
7	物質使用障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
8	パーソナリティ障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
9	睡眠、覚醒障害	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
10	認知症	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
11	神経発達症	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
12	身体症状症と総合病院精神医学	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
13	てんかん	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
14	精神科薬物療法	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾
15	精神科リハビリテーションと精神医療関連法規	予習は不要。講義内容を復習すること。	石井/太尾

成績評価方法と基準	割合
1.レポート（テーマ及び提出期限、作成方法等の詳細は授業内で説明する） 2.筆記試験（定期試験） 上記をそれぞれ評価した上で合計 60 点以上を単位認定とする。DP①②③	1.50% 2.50%

授業科目名	作業療法・芸術療法論(理学)（Occupational Therapy / Art Therapy）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、橋本　弘子	
科目ナンバリング	SB122	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

理学療法と同じくリハビリテーション医療の一分野を担う作業療法、芸術療法について教授する。作業療法に関しては作業療法と作業療法士の定義、概念、作業療法の手段、役割と専門性、リハビリテーションチームの他の関連分野との連携等について学習する。芸術療法に関しては、主な芸術療法（ダンスセラピー、アートセラピーなど）の体験を通じて自身や他者に表れた身体的・精神的効果を実感し、その効果がなぜ表れるのかを脳機能からも理解を深める。また芸術療法がどのようにリハビリテーションに生かされるのかについて理解を深める。

到達目標

理学療法士として作業療法を理解し、リハビリテーションチームにおける協業と連携の重要性を考える事が出来る。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書・参考書・視聴覚教材・配布資料など全ての内容に目を通すこと
＜授業の進め方＞
1 作業療法総論・各論は視聴覚教材を導入した一斉講義を行う
2 作業療法の実際では演習・グループ討議・発表を行う
3 福祉用具・排泄用具・自助具・コミュニケーション支援機器などの体験を行う

芸術療法論においては、体験することで自身に起こった変化を鋭敏に察知して、それらが身体や精神、認知に与える影響などを考える機会としてほしい。そのため実技や講義において真摯な態度で受講してください。
1.芸術療法の概念を学んだ後、体験を通し理解を深める
2.体験を通して身体とこころのあり方を学ぶ

教科書

特に定めない
配布プリントにて対応する

参考書

1. 作業療法ゴールドマスター・テキスト　身体障害作業療法学　長崎重信　MEDICAL　VIEW
2. 標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法　他全 12 巻
3. 人と集団・場―人の集まりと場を利用する―　第２版　鎌倉矩子編　三輪書店
4. レクリエーション　社会参加を促す治療的レクリエーション　寺山久美子監修　三輪書店
5. 脳卒中者の集団リハビリテーション　大田仁史　三輪書店
6. 表現アートセラピー入門　小野京子　誠信書房

研究室／オフィスアワー

木曜日（10：40～12：10）
研究室 C 棟 7 階 19 号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	（小林・小川）作業療法概論 オリエンテーション 作業療法総論 1 歴史・定義・概念	作業療法の歴史、定義、概念など作業療法士協会ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ等の配布物の内容を復習する.ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝﾁｰﾑの協業を知り、専門職種の特性と役割を理解する.視聴覚教材にて理解を深める（予習・復習含めて 4 時間）	小林・小川
2	（小川）作業療法各論 1 精神科医療の歴史と現状	神経筋難病を中心としたコミュニケーション支援機器を体験し,非言語的・ローテクノロジー・ハイテクノロジーに渡るコミュニケーションの支援の在り方について学ぶ（予習・復習含めて 4 時間）	小林・小川
3	（小川）作業療法各論 2 精神科リハビリテーションのリカバリー概念について	日常生活活動の中でも、最も関わる頻度が高く、重要である排泄ケアについて、評価に基ずく福祉用具の適応などを学ぶ。(予習・復習含めて 4 時間）	小林・小川
4	（小川）作業療法各論 3 精神障がい者の社会参加（スポーツ）	中枢神経系障害である高次脳機能障がいにおける作業療法の実際を学ぶ（予習・復習含めて	小林・小川

		4 時間）	
5	（小川）作業療法各論 4 精神科作業療法の評価と治療	各種福祉用具機器を介しての動作分析を行い、機器の介助技術について知る。また機器や住宅などの環境についても検討を加える。(予習・復習含めて 4 時間）	小林小川
6	（小林）作業療法の実際 重症心身障がい児・者における福祉機器と生活環境 （ADL・APDL（IADL)・QOL　生活環境と作業療法学）	各種福祉用具機器を介しての動作分析を行い、機器の介助技術について知る。また機器や住宅などの環境についても検討を加える。(予習・復習含めて 4 時間）	小林
7	（小林）作業療法の実際 高次脳機能評価と作業療法	各種福祉用具機器を介しての動作分析を行い、機器の介助技術について知る。また機器や住宅などの環境についても検討を加える。(予習・復習含めて 4 時間）	中西
8	（小林）作業療法の実際 脳科学と作業科学	作業療法学における核をなす作業科学を学ぶ （予習・復習含めて 4 時間）	横井
9	（小林）作業療法の実際 高齢期における認知症と作業療法	高齢期における作業療法の軸をなす認知症について学ぶ（予習・復習含めて 4 時間）	松下
10	（小林）作業療法の実際 小児領域における作業療法	小児・発達領域における作業療法について学ぶ （予習・復習含めて 4 時間）	伊藤
11	芸術療法とはなにか オリエンテーション 芸術療法の歴史 芸術療法の表現様式と適応	予習：芸術療法の歴史や様々な様式について知るために書籍やインターネットなどで知識を得ておく 復習：芸術療法がどのような疾患に適応するのかを学ぶ。また、作業療法、理学療法との接点を考える。配布資料を理解する （予習・復習含めて 4 時間）	小林・橋本・小川
12	ニューロダンス	予習：リハビリテーションにおけるダンスの在り方について調べておく。 復習：ダンスを体験し、身体的および精神的変化を体験する。体験した事について認知機能面からレポートにまとめ提出する。 （予習・復習含めて 4 時間）	小林・橋本・小川
13	ボディワーク	予習：ボディイメージについて調べておく 復習：身体を動かすことで変化する精神面について体験し、その理論についても学び理解する （予習・復習含めて 4 時間）	小林・橋本・小川
14	アートセラピー	予習：フィンガーペイントについて予習を行う 復習：経験したことで自身の行動や精神面がどのように変化したかを考察しまとめる （予習・復習含めて 4 時間）	小林・橋本・小川
15	マインドフルネスの体験と 理学療法と芸術療法の接点について考える	今まで配布した資料、内容について復習を行っておく。理学療法と芸術療法の接点についてレポートを提出する。(予習・復習含めて 4 時間）	小林・橋本・小川
成績評価方法と基準			割合
1.期末試験<DP②> 2.提出物・レポート・出席状況（2/3） これらを総合的に評価する			1.50% 2.50%

授業科目名	言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学(理学）（Speech-language-hearing Therapy / Dysphagia）				
主担当教員	堀　竜次		担当教員	堀　竜次、金尾　顕郎、渋谷　静英、戸名　久美子	
科目ナンバリング	SB123b	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 4 限 月曜 5 限 火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

（概要）オムニバス方式にて理学療法士・作業療法士が知っておくべき言語・高次脳機能障害および摂食・嚥下障害について学習する。
【言語聴覚療法 渋谷静英 4 回・戸名久美子 4 回】
コミュニケーション障害の内容と評価・訓練方法について学習する
【嚥下障害学 渋谷静英 2 回】嚥下障害の評価と摂食嚥下療法について学習する。
【嚥下障害学 堀　竜次 4 回】嚥下に関わる解剖学と生理学および誤嚥性肺炎予防のアプローチについて学習する。
【嚥下障害学 金尾顕郎 1 回】嚥下機能と姿勢調整について学習する。

到達目標

1. 言語・高次脳機能障害について理解し、意思伝達時の留意点・工夫などを体得する。<DP②>
2. 嚥下障害について理解し、理学療法士・作業療法士がどのように介入できるかを考えられるようになる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 講義内容は、理学療法・作業療法を進めるにあたり必要な内容であることを認識すること。
2. 演習やグループワークには積極的に参加し、疑問点について、必ず解決の行動をとること。

教科書

「絵でわかる言語障害」毛束真知子　学研
「脳からわかる摂食・嚥下障害」馬場元毅、鎌倉やよい　学研

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

堀：金曜日の３・４限目（研究室）
金尾：水曜日の１限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。
渋谷、戸名：講義日の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	言葉とは？	予習：教科書の第Ⅰ章を予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習する（120 分）	戸名
2	聴覚障害	予習：教科書の 12～23 ページを予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習する（120 分）	戸名
3	構音障害	予習：教科書の 24～49 ページを予習しておく（120 分） 復習：発声・発語の仕組みについて復習する（120 分）	渋谷
4	音声障害	予習：教科書の 50～53 ページを予習しておく（120 分） 復習：音声障害の症状について復習する（120 分）	渋谷
5	失語症　1	予習：教科書の 58～99 ページを予習しておく（120 分） 復習：失語症の概念と症状について復習する（120 分）	渋谷
6	失語症　2　・高次脳機能障害　1	予習：教科書の 58～99 ページを予習しておく 120 分） 復習：失語症の評価と対応について復習する（120 分）	渋谷

7	高次脳機能障害 2 ・　認知症	予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習をする（120 分）	戸名
8	吃、小児の言語障害、AAC	予習：第 1 回目講義で配布する「吃、小児の言語障害、AAC」のプリントを予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習する（120 分）	戸名
9	嚥下のメカニズム	予習：嚥下の５期モデルについて予習しておく（120 分） 復習：嚥下に関わる解剖学と生理学を復習する（120 分）	堀
10	摂食嚥下にかかわる神経機構	予習：教科書の 25～55 ページを予習しておく（120 分） 復習：摂食嚥下にかかわる神経機構を復習する（120 分）	堀
11	嚥下障害の評価	予習：教科書の 77～89 ページを予習しておく（120 分） 復習：嚥下障害の評価を復習する（120 分）	渋谷
12	摂食嚥下療法	予習：教科書の 92～104 ページを予習しておく（120 分） 復習：直接嚥下訓練、間接嚥下訓練について復習する（120 分）	渋谷
13	誤嚥性肺炎の予防	予習：誤嚥性肺炎について予習しておく（120 分） 復習：誤嚥性肺炎予防の概念について復習する（120 分）	堀
14	咀嚼嚥下機能と理学療法（実技を中心に）	予習：咀嚼嚥下機能について予習しておく（120 分） 復習：咀嚼嚥下機能について復習する（120 分）	堀
15	嚥下機能と姿勢調整	予習：嚥下の運動メカニズムについて予習しておく（120 分） 復習：嚥下と姿勢の関係について復習する（120 分）	金尾
成績評価方法と基準			割合
1.学期末の筆記試験により評価する（言語聴覚療法：60%、嚥下障害学：40%）<DP②> 2.授業中に実施される課題レポート・小テストを評価の対象とする。<DP②>			1.　70% 2.　30%

授業科目名	介護学概論・ボランティア活動論(理学)（Introduction to Nursing Care / Volunteer Activities Studies）				
主担当教員	前田　薫		担当教員	前田　薫	
科目ナンバリング	SB125	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

【介護学概論】地域包括ケアおよび介護保険の仕組みについて学び、将来その関係者と協業する時に必要な基礎を形成する。また、患者および利用者の身体アセスメントおよび介助ついての基礎技術を身につけるために、実技練習を行う。
【ボランティア活動論】自発性に裏付けされた主体的な活動であるボランティアについて理解を深め、医療人としての前に障害のある方や高齢者の方を思える人間形成としてボランティアについて学ぶ。また NPO/NGO 法人について学び、理学療法士として将来活躍できるフィールドの拡がりについてイメージを形成する。

到達目標

1.ケア（介護）について説明できる（DP②）
2.日本の社会保障制度について説明できる（DP②）
3.高齢者や障害のある人の支援の方法について説明できる（DP②）
4.将来ボランティアとして活躍できるフィールドについて説明できる（DP②）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・配布資料を事前に読むこと。
・自発性を発揮してボランティアを体験することを勧める。

教科書

教科書の指定はなし。
資料を配布する。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

前田：月曜 2 限、火曜、第 3 木曜 3 限以外で予約をとり、来室してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	日本における介護の現状と問題点を考える ・被介護者の視点から	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
2	日本における介護の現状と問題点を考える② ・介護者の視点から	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
3	日本における介護の現状と問題点を考える③ ・サービス提供者の視点から	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
4	介護現場における身体アセスメント① ・情報と機器が少ない状況でどのようにして安全なケアを実施するのか。	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
5	介護現場における身体アセスメント② ・情報と機器が少ない状況で安全なケアを実施するための身体アセスメント練習	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
6	介助技術① ・ベッド上ポジショニング ・ベッド上での肢位の変換 ・起き上がり介助	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
7	介助技術② ・立ち上がり介助 ・トランスファー介助 ・車いす駆動の介助	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
8	介助技術③ ・更衣介助 ・排泄介助（下着等の上げ下ろし） ・入浴介助 ・食事介助	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
9	本来の「ボランティア」とは何か？ ・現在のボランティアのイメージ	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田

	・ボランティア活動の変遷		
10	NGO/NPO について知る	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
11	ボランティアの現場における理学療法士の役割	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
12	ボランティアと世界の課題	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
13	ボランティアの事例検討① 「環境問題」	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
14	ボランティアの事例検討② 「発展途上国支援」	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
15	ボランティアの事例検討③ 「被災地（者）支援」	予習：事前配布資料を読んでおく 復習：授業メモと配布資料を確認	前田
成績評価方法と基準			割合
・レポート課題（DP②） ・筆記試験（DP②）			レポート課題 40% 筆記試験 60% ＊合計 60 点以上で単位を認定する。

授業科目名	スポーツ医学(理学)（Sports Medicine）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久、吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SB126b	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 3 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

2 年次の整形外科学で学んだ運動器の解剖とスポーツ傷害について、メディカルチェックや症状、対処法などについてより理解を深め、またスポーツ外傷における救急処置の重要性についても学ぶ。あわせてスポーツ現場で遭遇しやすい内科疾患についてもメディカルチェックや症状について学ぶ。

到達目標

1. 重症度と緊急度を理解し、スポーツ現場で発生する最も重篤な心肺停止に対応できるようになること、また、発生頻度の高い脳震盪と頭部外傷、熱中症の病態を理解し、発生現場における予防や救急処置法を習得する。〈DP①②③〉
2. さらにスポーツ現場で遭遇する運動器の外傷や障害、内科疾患についてのメディカルチェックや対処法についても習得する。〈DP①②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

スポーツ医学は、運動器の解剖学、生理学を土台にするもので、他の講義で学んだ局所解剖や運動機能の評価方法、理学所見の取り方等を質問することから始める。ほとんどの授業内容は、資料として配付するスライドを中心に進めるので、講義に出席せず、資料だけを見ても理解困難である。心停止や頭部外傷、熱中症等の傷害発生の理論的なイメージを獲得する努力をすることが重要である。

教科書

配布プリント（適宜配布いたします。）

参考書

1. 臨床医学各論（第 2 版）医歯薬出版 179 頁～185 頁、288 頁～301 頁
2. 救急蘇生法の指針 2015（医療従事者用、改訂第 5 版）へるす出版
3. 標準整形外科学 第 12 版. 中村利孝/松野丈夫 監修. 医学書院. 2014.
4. 新版 スポーツ整形外科マニュアル. 福林徹 監修. 中外医学社. 2013.
5. スポーツ整形外科学. 中嶋寛之 編集. 南江堂. 1998 年.

研究室／オフィスアワー

吉岡敏治（C 棟研究室４）／原則月曜日２・３時間目ですが、その他、部屋にいれば、いつでも訪問可です。
川畑浩久（C 棟研究室 707）／木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	スポーツ外傷の救急処置： 重症度と緊急度、心肺蘇生について	予習：整形外科学の外傷部分（整形外科学（教科書）の当該箇所） 復習：配布プリントならびに整形外科学（教科書）の当該箇所を参照 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	吉岡
2	スポーツ外傷の救急処置： 脳震盪と頭部外傷、脊髄損傷、熱中症について	予習：スポーツにより発生する重篤な外傷として、頭部外傷や脊髄損傷、熱中症の講義が他の講座で行われていれば、その部分をみなおしておくこと（内科学、臨床病態学資料の当該箇所参照） 復習：配布プリントならびに内科学、臨床病態学資料の当該箇所を参照 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	吉岡
3	スポーツ障害の総論： 1）運動器疾患に対する健診およびメディカルチェック 2）運動器外傷に対する応急処置 3）内科的疾患に対する健診およびメディカルチェック	予習：スポーツにより発生する主な運動器疾患ならびに内科的疾患について予習しておくこと（整形外科学・内科学（教科書）の該当箇所） 復習：これまで学んだ運動器疾患ならびに内科的疾患の検査法、治療法などについて復習すること（配布資料ならびに整形外科学・内科学（教科書）の該当箇所） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
4	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肩関節の外傷について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照）	川畑

		なお予習、復習を各１時間行うこと。	
5	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肩関節の障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
6	肘関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：肘関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肘関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
7	手関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：手関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ手関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
8	指関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：指関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ指関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
9	股関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：股関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ股関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
10	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：膝関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
11	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：膝関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ膝関節の障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
12	下腿部・足関節・足部のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：下腿、足関節、足部の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ下腿、足関節、足部の外傷について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
13	下腿部・足関節・足部のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：下腿、足関節、足部の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ下腿、足関節、足部の障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
14	体幹（頚部、胸部、腰部）のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：頚部、胸部、腰部の解剖学、運動学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ頚部、胸部、腰部の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
15	スポーツによる内科的疾患： 1）循環器・呼吸器疾患における慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：スポーツにより発生する主な循環器、呼吸器、消化器、泌尿器などの疾患の症状などについて予習しておくこと（内科学（教科書）の当該箇所）	川畑
	2）消化器・泌尿器疾患における慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	復習：これまで学んだ循環器、呼吸器、消化器、泌尿器疾患について復習すること（配布プリントならびに内科学（教科書）の当該箇所） なお予習、復習を各１時間行うこと。また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	

成績評価方法と基準	割合
1. 定期試験〈DP①②③〉	100%

授業科目名	テーピング技術論(理学)（Taping Skills）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	SB127	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

リハビリテーション分野の臨床技術として利用価値が高い外傷の応急処置に必要な包帯法、副子固定法および骨折や軟部組織損傷に対する鑑別法を教授する。また、スポーツ中に起こり得る外傷及び障害について学び、それら処置の必要性を理解するとともに処置法を習得する。さらにテーピングの技術に必要な基礎知識および関節の固定と運動の制限、組織の圧迫等に用いられるテーピング法、応急処置や再発防止も含めた外傷の予防、運動の矯正に加えテーピング前の診断、材料・用具の使用法、テーピング後の確認、巻き替えや除去を学び、上・下肢の運動器傷害のテーピング法・応急処置法についても学習する。

到達目標

１．基本包帯法について理解し実践できる。
２．骨折、脱臼の応急処置を理解し実践できる。
３．軟部組織損傷の応急処置について理解し実践できる。
４．テーピングの基本的知識を習得し説明できる。
５．各部のテーピング法について理解し実践できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．受講に関して材料費として 8,000 円が必要である。
２．実習室を使用する際には白衣もしくはスポーツウエアの着用を義務付ける。

教科書

授業時に配付する資料

参考書

特にありません

研究室／オフィスアワー

授業の前後は非常勤講師控え室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	運動器の外傷について　１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動器の外傷について　２	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	外傷の応急処置　１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
4	外傷の応急処置　２	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
5	テーピングの基礎的知識と技術	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
6	足関節のテーピング１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
7	足関節のテーピング２	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
8	足関節のテーピング３	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
9	足関節の応急処置テーピング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
10	足底・足趾のテーピング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
11	膝関節のテーピング１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
12	膝関節のテーピング２	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
13	膝関節の応急処置テーピング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
14	筋のテーピング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	
15	手指のテーピング、総合練習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認、 実施した実技について練習	

成績評価方法と基準	割合
１．出席は 2/3 以上を必要とし、基準を満たした者について試験を実施する。 ２．期末試験は課題提出（100%）で評価する。 ３．60 点以上で単位認定する。	2．10 割

授業科目名	理学療法触診法(理学)（Palpation Method of Physical Therapy）				
主担当教員	工藤　慎太郎		担当教員	工藤　慎太郎、前田　薫	
科目ナンバリング	SS205a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 4 限 水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

理学療法士は手で対象者の症状を診て，治療します．その基本となる技術を習得する科目です．具体的には骨部位の正確な触診，筋の正確な触診を通じて，触診と徒手療法の技術を学びます．しっかりと練習することで，解剖学的な情報に基づく評価・徒手療法が可能になります．

到達目標

１．関節が正確に触診できる．
２．筋が正確に触診できる．
３．狙った筋を選択的に収縮させられる．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・触診部位を露出できる格好を準備して下さい．（男性；スパッツ，女性；スパッツ＆キャミソール）
・水性のサインペン（黒・青・赤・緑）を用意して下さい．（蛍光ペンは不可）
・ジャージを用意して下さい．

教科書

機能解剖と触診

参考書

運動療法の「なぜ？」がわかる超音波解剖学(医学書院)
運動療法のための機能解剖学的触診技術（メジカルビュー社）

研究室／オフィスアワー

東棟４Ｆ１７研究室　月曜日１限／時間が空いているときは対応します（要予約）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	股関節の触診１	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
2	股関節の触診２	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
3	股関節の触診３	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
4	股関節の触診４	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
5	膝関節の触診１	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
6	膝関節の触診２	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
7	膝関節の触診３	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
8	下腿の触診１	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
9	足関節の触診１	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
10	足関節の触診２	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
11	肩の触診	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
12	肩甲骨の触診	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
13	肘の触診	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
14	課題発表	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	
15	課題発表	該当部位の教科書を読み、解剖学的構造（起始・停止・神経支配・作用等）を覚えてくること(1h)	

成績評価方法と基準	割合
各講義での小テスト点数と課題発表により判定します。小テストで 7 割に満たない場合は、定期試験により６０点以上で合格とする． 4/5 以上の出席を必要とする。	筆記試験 80%、課題発表 20%

授業科目名	基礎理学療法学Ⅰ(理学)				
主担当教員	角田　晃啓		担当教員	角田　晃啓、澤田　優子、工藤　慎太郎	
科目ナンバリング	SS211	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本講義では理学療法の実践における思考過程を解剖学・生理学・運動学の知識に基づいて教授する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

種々の疾患や病態を、解剖学・生理学・運動学の観点から理解することができる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

到達目標の達成には１年次に学習した解剖学・生理学・運動学の内容に基づいて思考していくプロセスが必要です。
これについての学習が不足していた場合、目標達成は困難になるので自己学習に努めて下さい。

教科書

なし。適宜資料を配布する。

参考書

適宜資料を配布する。

研究室／オフィスアワー

在室時は適宜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	・オリエンテーション ・基礎知識の確認	１年次に学習した解剖学・生理学・運動学の知識について復習してから望むこと	角田 工藤 澤田
2	リハビリをする前に（１） ・グループワーク	本テーマを通じて以下のキーワードを理解する。 【意識障害、血圧の異常、脈拍の異常、呼吸の異常、経皮的酸素飽和度の異常、感染対策、リスク管理 etc】	澤田
3	リハビリをする前に（２） ・実技演習	同上	澤田 角田 工藤
4	リハビリをする前に（３） ・グループ発表	同上	澤田 角田 工藤
5	リハビリをする前に（４） ・実技演習	同上	澤田 角田 工藤
6	体の硬さを科学する（１） ・グループワーク	本テーマを通じて以下のキーワードを理解する。 【筋組織、結合組織、筋緊張、神経線維、組織損傷、発痛物質、関節構成体、受動的トルク etc】	工藤
7	体の硬さを科学する（２） ・グループワーク	同上	工藤 角田 澤田
8	体の硬さを科学する（３） ・実技演習	同上	工藤 角田 澤田
9	体の硬さを科学する（４） ・グループ発表	同上	工藤 角田 澤田
10	息切れを科学する（１） ・グループワーク	本テーマを通じて以下のキーワードを理解する。	角田
		【大循環・小循環、内呼吸・外呼吸、ヘモグロビン、換気、感覚、静水圧、静脈還 etc】	
11	息切れを科学する（２） ・実技演習	同上	角田 工藤 澤田
12	息切れを科学する（３） ・グループ発表	同上	角田 工藤 澤田
13	息切れを科学する（４） ・実技演習	同上	角田 工藤 澤田
14	総合演習	１年次に学習した解剖学・生理学・運動学の知識について復習してから望むこと	角田 工藤 澤田
15	講義全体のまとめおよび確認テスト	１年次に学習した解剖学・生理学・運動学の知識について復習してから望むこと	角田 工藤 澤田

成績評価方法と基準	割合
・成績評価　期末試験＜DP①＞ ・基準：4/5 以上の出席を必要とする。	100%

授業科目名	基礎理学療法学Ⅱ(理学)				
主担当教員	角田　晃啓		担当教員	角田　晃啓、澤田　優子、工藤　慎太郎	
科目ナンバリング	SS212a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本講義では理学療法の実践における思考過程を評価学ならびにその基礎となる解剖学・生理学・運動学の知識に基づいて教授する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

種々の疾患や病態を、解剖学・生理学・運動学の観点から理解することができる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

到達目標の達成には２年次に学習した各種疾患についての知識とその評価プロセス実践のトレーニングが必要です。
これについての学習が不足していた場合、目標達成は困難になるので自己学習に努めて下さい。

教科書

なし。適宜資料を配布する。

参考書

適宜資料を配布する。

研究室／オフィスアワー

在室時は適宜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	老年症候群（１） ・症例提示 ・グループワーク	本テーマの習熟に必要な、以下のキーワードについて予習・復習を行う 【フレイル、サルコペニア、廃用、バランス、筋萎縮 など】	角田
2	老年症候群（２） ・実技演習	同上	角田 工藤 澤田
3	老年症候群（３） ・グループワーク	同上	角田 工藤 澤田
4	老年症候群（４） ・実技演習 ・グループ発表	同上	角田 工藤 澤田
5	講義全体のまとめおよび確認テスト（１）	２年次までに学修した各種疾患の評価、ならびにその基礎となる解剖学・生理学・運動学についての知識の復習を行うこと	角田 工藤 澤田
6	拘縮肩（１） ・症例提示 ・グループワーク	本テーマの習熟に必要な、以下のキーワードについて予習・復習を行う 【肩関節の解剖学・運動学、関節可動域、関節構成体、運動療法、関節拘縮の病態 など】	工藤
7	拘縮肩（２） ・実技演習	同上	工藤 角田 澤田
8	拘縮肩（３） ・グループワーク	同上	工藤 角田 澤田
9	拘縮肩（４） ・実技演習 ・グループ発表	同上	工藤 角田 澤田
10	講義全体のまとめおよび確認テスト（２）	２年次までに学修した各種疾患の評価、ならびにその基礎となる解剖学・生理学・運動学についての知識の復習を行うこと	角田 工藤 澤田
11	パーキンソン病（１） ・症例提示 ・グループワーク	本テーマの習熟に必要な、以下のキーワードについて予習・復習を行う 【パーキンソン病、大脳基底核、黒質、筋緊張、固縮、バランス、姿勢反射 など】	澤田
12	パーキンソン病（２） ・実技演習	同上	澤田 角田 工藤
13	パーキンソン病（３） ・グループワーク	同上	澤田 角田 工藤
14	パーキンソン病（４） ・実技演習 ・グループ発表	同上	澤田 角田 工藤
15	講義全体のまとめおよび確認テスト（３）	２年次までに学修した各種疾患の評価、ならびにその基礎となる解剖学・生理学・運動学についての知識の復習を行うこと	角田 工藤 澤田

成績評価方法と基準	割合
・成績評価＜DP①＞ 確認試験（１） 確認試験（２） 確認試験（３） ・基準：4/5 以上の出席を必要とする。	・成績評価 （１）20% （２）40% （３）40%

授業科目名	基礎理学療法学演習(理学)				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、三木屋　良輔、堀　竜次、杉本　圭、松尾　浩希、林　真太郎	
科目ナンバリング	SS213	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 3 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

学生同士の小グループ（模擬患者役、理学療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記載された項目を通じて、臨床上必要な知識・技術・態度について学習・修得し、各自に対して試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

①臨床上必要な最低限の知識・技術・態度について理解し、修得する。【D①】
②理解し、取得した知識・技術・態度を臨床で活用することができる。【D①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）必要出席回数は、授業回数の 4/5 以上とし、その基準を満たした者について OSCE を実施する。
2）授業が実技形式の場合には、ジャージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。
3）授業期間中や試験前に実技練習を行うが、単位取得にはその練習会に出席することが必要である。
4）必要に応じて、適宜「補講」を開催する。

教科書

才藤栄一　監修：PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 版，金原出版株式会社，2019

参考書

才藤栄一　監修：PT・OT のための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編，金原出版株式会社，2017

研究室／オフィスアワー

中根　征也：4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
三木屋良輔：4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
堀　竜次：4 階研究室／金曜日の 3・4 限目（時間は事前に相談することが望ましい）
杉本　圭：4 階研究室／木曜日 4・5 時限目（時間は事前に相談することが望ましい）
松尾　浩希：4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
林　真太郎：4 階研究室／ 金曜日 5 時限目（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	標準予防策	予習復習：「PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」（以下、テキストとする）の pp.16-20 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	松尾
2	リスク管理	予習復習：テキストの pp.21-34 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	松尾
3	コミュニケーション技法	予習復習：テキストの pp.35-43 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	中根
4	ホットパック実施の補助	予習復習：テキストの pp.44-54 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	中根
5	これまでの授業のまとめ 1	予習：「標準予防策」「リスク管理」「コミュニケーション技法」「ホットパック実施の補助」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。（30 分）	中根
6	車椅子の駆動介助	予習復習：テキストの pp.79-92 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	林
7	面接技法	予習復習：テキストの pp.120-127 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	杉本
8	これまでの授業のまとめ 2	予習：「車椅子の駆動補助」「面接技法」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。（30 分）	中根
9	脈拍と血圧の測定	予習復習：テキストの pp.140-156 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	堀
10	形態測定	予習復習：テキストの pp.227-241 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	三木屋
11	関節可動域測定 1【股関節屈曲】	予習復習：テキストの pp.172-176、pp.187-193 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	中根
12	関節可動域測定 2【肩関節外転】	予習復習：テキストの pp.172-176、pp.177-181 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	中根
13	徒手筋力測定	予習復習：テキストの pp.194-201、pp.216-220 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	中根
14	これまでの授業のまとめ 3	予習：「脈拍と血圧の測定」「形態測定」「関節可動域測定 1・2」「徒手筋力測定」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。（30 分）	中根
15	授業全体のまとめと確認テスト	予習：これまでの内容の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。（30 分）	中根

成績評価方法と基準	割合
実技試験【D①】 学修したすべての項目から出題する。 その実技試験において、すべての項目で 60%以上の得点の者に単位を与える。	100%

授業科目名	理学療法評価学各論(理学)（Detailed Physical Therapy Evaluation）				
主担当教員	木内　隆裕		担当教員	木内　隆裕、仲本　正美、杉本　圭、松尾　浩希	
科目ナンバリング	SS207	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 3 限 火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

理学療法評価は対象者の生活機能を分析する方法の一つであり、リハビリテーション計画の立案やその効果判定等を目的として実施されるものである。本科目では 1 年次「理学療法評価学総論」から継続して基本的評価手技を修得する。具体的には、筋力、感覚、疼痛、反射の評価手技を背景知識と結びつけながら学習し、さらにはトップダウン型の定性的評価手技である姿勢・動作観察（分析）の基本を学習する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1)　徒手筋力検査に必要な解剖学・生理学・運動学の知識を述べることができる。
2)　徒手筋力検査を適切な方法で実施することができる。
3)　感覚検査・反射検査に必要な解剖学・生理学の知識を述べることができる。
4)　感覚検査・反射検査を適切な方法で実施することができる。
5)　立位・立ち上がり動作の観察（分析）に必要な解剖学・生理学・運動学の知識を述べることができる。
6)　立位・立ち上がり動作の観察（分析）を行い、記述できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)　本科目は演習科目であり、必要出席回数は 「授業回数の 5 分の 4 以上」 を採用する。
2)　指定された教科書を毎回の授業に持参すること。
3)　実技形式の場合には、ジャージー上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。また、ジャージーの内側には肘や膝を露出できるシャツなどを着用すること。
4)　髪が長い場合は実技に支障の無いようにくくること。
5)　飲食は禁止とする。

教科書

1)　潮見泰藏，下田信明(編)．　リハビリテーション基礎評価学．第 1 版，羊土社，2014．(PT・OT ビジュアルテキスト)．
2)　Hislop, HJ., Montgomery, J. 新・徒手筋力検査法．原著第 9 版，津山直一，中村耕三訳，共同医書出版社，2014.
3)　林典雄，運動療法のための機能解剖学的触診技術．上肢．改訂第 2 版，メジカルビュー社，2011.
4)　林典雄，運動療法のための機能解剖学的触診技術．下肢・体幹．改訂第 2 版，メジカルビュー社，2012.
5)　中村隆一，齋藤宏，長崎浩．基礎運動学．第 6 版補訂，医歯薬出版，2012.
6)　鈴木則宏(編)．　神経診察クローズアップ．正しい病巣診断のコツ．　改訂第 2 版，メジカルビュー社，2015.

参考書

1)　野村嶬(編)．　解剖学．第 4 版，医学書院，2015．(標準 PT・OT シリーズ)．
2)　河上敬介，磯貝香．　骨格筋の形と触察法．　改訂第 2 版，大峰閣社，2013.
3)　田崎義昭，斎藤佳雄，坂井文彦．　ベッドサイドの神経の診かた．第 18 版，南山堂，2016.
4)　黒川幸雄，小林量作，佐藤成登志，大西秀明(編)．　6 ステップ式臨床動作分析マニュアル．第 2 版，文光堂，2010.
5)　中山恭秀(編)．　3 日間で行う理学療法臨床評価プランニング．南江堂，2013.

研究室／オフィスアワー

木内隆裕：　E 棟 4 階研究室／火・金 4 限以降
仲本正美：　E 棟 4 階研究室／火曜日 1-2 限目（時間は事前に相談することが望ましい）
杉本　圭：　E 棟 4 階研究室／水曜日 3-5 限目（時間は事前に相談することが望ましい）
松尾浩希：　E 棟 4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	徒手筋力検査 1： 原理・原則・注意点 股関節①（伸展）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
2	徒手筋力検査 2： 股関節②（屈曲 a、屈曲 b、外転 a、外転 b）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
3	徒手筋力検査 3： 股関節③（内転、外旋、内旋）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神	木内、仲本、杉本、松尾
	膝関節（屈曲、伸展）	経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	
4	徒手筋力検査 4： 足関節①（底屈、背屈） Hand-held dynamometer を用いた筋力測定実習	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
5	徒手筋力検査 5： 足関節②（外返し、内返し） 体幹①（伸展、屈曲、回旋）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
6	徒手筋力検査 6： 体幹②（骨盤挙上） 頭頸部①（頭部伸展、頸部伸展、複合伸展）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
7	徒手筋力検査 7： 頭頸部②（頭部屈曲、頸部屈曲、複合屈曲 a、複合屈曲 b、頸部回旋）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
8	徒手筋力検査 8： Hand-held dynamometer を用いた筋力測定実習、 その他	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
9	徒手筋力検査 9： 肩関節①（屈曲、伸展、外転、水平内転）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
10	徒手筋力検査 10： 肩関節②（水平外転、外旋、内旋） 肩甲骨①（外転+上方回旋）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
11	実技試験 セクション 1	下肢、体幹、頭頸部の MMT （事前練習 8 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
12	実技試験 セクション 1	下肢、体幹、頭頸部の MMT （事前練習 8 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
13	徒手筋力検査 11： 肩甲骨②（挙上、内転、下制+内転、内転+下方回旋）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
14	徒手筋力検査 12： 肩甲骨③（下制） 肘関節（屈曲、伸展） 前腕（回外、回内）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
15	徒手筋力検査 13： 手関節（掌屈、背屈）	・力のモーメント ・左記の運動に関わる筋の起始、停止、支配神経 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
16	感覚検査 1： 概論、触圧覚	・触圧覚の伝導路、デルマトーム （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
17	感覚検査 2： 触圧覚、温痛覚、疼痛	・温痛覚の伝導路、デルマトーム ・疼痛の評価票 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
18	感覚検査 3： 関節覚、振動覚	・関節覚の伝導路 ・振動覚の伝導路 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
19	実技試験 セクション 2	上肢・肩甲帯の MMT （事前練習 8 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
20	実技試験 セクション 2	上肢・肩甲帯の MMT （事前練習 8 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
21	感覚検査 3： 振動覚、複合感覚	・複合感覚の伝導路 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
22	感覚検査 4： 複合感覚	・複合感覚の伝導路 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
23	反射検査 1： 概論 腱反射①（上腕二頭筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋）	・反射弓 ・錐体路、錐体外路 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾
24	反射検査 2： 腱反射②（膝蓋腱、アキレス腱）、 皮膚反射、病的反射	・反射弓 ・錐体路、錐体外路 （予習 1 時間、復習 1 時間）	木内、仲本、杉本、松尾

25	姿勢・動作観察 1： 概論、立位	レポート課題：立位観察の記述 （2 時間以上）	木内、仲本、 杉本、松尾
26	姿勢・動作観察 2： 立位	レポート課題：立位観察の記述 （2 時間以上）	木内、仲本、 杉本、松尾
27	実技試験 セクション 3	感覚検査、反射検査 （事前練習 8 時間）	木内、仲本、 杉本、松尾
28	実技試験 セクション 3	感覚検査、反射検査 （事前練習 8 時間）	木内、仲本、 杉本、松尾
29	姿勢・動作観察 3： 立ち上がり動作	レポート課題：立ち上がりの記述 （2 時間以上）	木内、仲本、 杉本、松尾
30	姿勢・動作観察 4： 立ち上がり動作	レポート課題：立ち上がりの記述 （2 時間以上）	木内、仲本、 杉本、松尾
成績評価方法と基準			割合
1） 単位認定のための必要出席回数は 「総授業回数の 5 分の 4 以上」 とする。 2） 実技テスト（配分 50%）、筆記テスト（配分 30%）、レポート（配分 20%）で評価する。ただし、再試験については、実技テストと筆記テスト（各々配分 50%）で評価する。 3） 実技テストの評価には事前に配付するルーブリックを使用する。 4） 総合成績の得点率 60%以上（小数切捨て）を単位認定基準とする。ただし、実技テストの平均得点率が 60%未満（小数切捨て）の場合は、筆記試験の結果によらず不可とする。			実技 50% 試験 30% レポート 20%

授業科目名	臨床理学療法評価学(動作分析)(理学)（Clinical Physical Therapy Evaluation）				
主担当教員	三木屋 良輔		担当教員	三木屋 良輔、中根 征也	
科目ナンバリング	SS214a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

臨床理学療法評価学では、人の各正常動作のメカニズムを理解し、実演を交えながら学修する。正常を理解することで異常動作のメカニズムを理解し、観察から評価項目を上げつつ、推論力を高める。

到達目標

１、人の姿勢について理解できる
２、人の寝返り動作について理解、実演できる
３、人の起き上がり動作について理解、実演できる
４、人の起立・着座動作について理解、実演できる
５、人の歩行動作について理解、実演できる
６、異常動作について理解、実演できる DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．基礎日常生活活動学、臨床運動学、基礎運動療法総論、各論を復習しておいてください。
２．教科書を読みこまないと理解できないので、十分教科書を活用してください。
３．実技を交えるので動きやすい服装で臨んでください。

教科書

石井慎一郎著：動作分析臨床活用講座．メジカルビュー

参考書

畠中泰彦編：姿勢・動作・歩行分析．羊土社
K.G. Neumann 『観察による歩行分析』 医学書院

研究室／オフィスアワー

平日夕方に対応。事前にアポイントとってください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	姿勢観察	正常姿勢について学修する（１時間）	
2	寝返り動作①	寝返りについて学修する（１時間）	
3	寝返り動作②	寝返り動作を実演できる（１時間）	
4	起き上がり動作①	起き上がり動作を学修する（１時間）	
5	起き上がり動作②	起き上がり動作を実演できる（１時間）	
6	起立・着座動作①	起立・着座動作について学修する（１時間）	
7	起立・着座動作②	起立・着座動作を実演できる（１時間）	
8	歩行動作①	歩行動作（立脚期）について学修する（１時間）	
9	歩行動作②	歩行動作（遊脚期）について学修する（１時間）	
10	歩行動作③	歩行動作を観察し、関節角度を読みとる（１時間）	
11	歩行動作④	歩行動作における異常を評価する（１時間）	
12	歩行動作⑤	歩行動作の異常を評価し、原因を探求する（１時間）	
13	異常動作①	変形性関節症の歩行を理解し評価項目を想起できる（１時間）	
14	異常動作②	高齢者の歩行を理解し評価項目を想起できる（１時間）	
15	異常動作③	脳卒中者の歩行を理解し評価項目を想起できる（１時間）	

成績評価方法と基準	割合
①各演習課題の提出と②筆記試験の結果により評価する。＜DP①②＞ 4/5 以上の出席を必要とする。	①２０％ ②８０％

授業科目名	臨床理学療法評価学演習(理学)				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、三木屋　良輔、堀　竜次、 杉本　圭、松尾　浩希、林　真太郎	
科目ナンバリング	SS215a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(月曜 1 限)、 後期(月曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

学生同士の小グループ（模擬患者役、理学療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記載された項目を通じて、臨床上必要な知識・技術・態度について学習・修得し、各自に対して試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

①臨床上必要な最低限の知識・技術・態度について理解し、修得する。【D①】
②理解し、取得した知識・技術・態度を臨床で活用することができる。【D①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）必要出席回数は、授業回数の 4/5 以上とし、その基準を満たした者について OSCE を実施する。
2）授業が実技形式の場合には、ジャージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。
3）授業期間中や試験前に実技練習を行うが、単位取得にはその練習会に出席することが必要である。
4）必要に応じて、適宜「補講」を開催する。

教科書

才藤栄一 監修：PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第 2 版，金原出版株式会社，2019

参考書

才藤栄一 監修：PT・OT のための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編，金原出版株式会社，2017

研究室／オフィスアワー

中根　征也：4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
三木屋良輔：4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
堀　竜次：4 階研究室／金曜日の 3・4 限目（時間は事前に相談することが望ましい）
杉本　圭：4 階研究室／木曜日 4・5 時限目（時間は事前に相談することが望ましい）
松尾　浩希：4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
林　真太郎：4 階研究室／ 金曜日 5 時限目（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	感覚検査	予習復習：「PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」（以下、テキストとする）の pp.275-290 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	杉本
2	反射検査	予習復習：テキストの pp.291-301 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	松尾
3	脳神経検査	予習復習：テキストの pp.302-311 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	杉本
4	整形外科的テスト	予習復習：テキストの pp.242-263 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	松尾
5	運動失調検査	予習復習：テキストの pp.356-369 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	三木屋
6	バランス評価	予習復習：テキストの pp.370-381 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	中根
7	脳卒中の麻痺側機能評価	予習復習：テキストの pp.312-330 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1 時間)	中根

8	呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価	予習復習：テキストの pp. 157-171 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1時間)	堀
9	下肢装具装着介助	予習復習：テキストの pp. 65-80 を読み、授業後、各自にて練習をし、技術向上に努める。(1時間)	中根
10	これまでの授業のまとめ 1【感覚・反射】	予習：「感覚検査」「反射検査」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。(30 分)	中根
11	これまでの授業のまとめ 2【脳神経・整外】	予習：「脳神経検査」「整形外科的テスト」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。(30 分)	中根
12	これまでの授業のまとめ 3【失調・バランス】	予習：「運動失調検査」「バランス評価」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。(30 分)	中根
13	これまでの授業のまとめ 4【麻痺・装具】	予習：「脳卒中の麻痺側機能評価」「下肢装具装着介助」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。(30 分)	中根
14	これまでの授業のまとめ 5【呼吸】	予習：「呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価」の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。(30 分)	中根
15	授業全体のまとめと確認テスト	予習：これまでの内容の手順を確認しておくこと。(30 分) 復習：各自にて練習をし、技術向上に努める。(30 分)	中根

成績評価方法と基準	割合
実技試験【D①】 学修したすべての項目から出題する。 その実技試験において、すべての項目で 60%以上の得点の者に単位を与える。	100%

授業科目名	基礎運動療法学総論(理学)（Basic Kinesitherapy）				
主担当教員	前田 薫		担当教員	前田 薫、三木屋 良輔	
科目ナンバリング	SS302	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

ヒトの動作を構成する要素として“柔らかさ”，“力強さ”，“巧みさ”が重要になる．理学療法において多く用いられる運動療法では，それらを“関節可動域運動”，“筋力強化トレーニング”，“運動学習”として組み込んでいる．本科目では，学生自身にそれぞれの理論を用いた運動療法を実施し，その科学的評価により理論の検証を行い，発表してもらう．この経験を通じて，運動療法の理論を理解し，実際に健常者に対してそれぞれの運動療法を処方する上での注意点が説明できるようになる．

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．筋力トレーニングの理論を理解し，健常者に対してトレーニングを処方できる（DP①）．
２．関節可動域制限の病理とストレッチの理論を理解し，健常者に対してストレッチを処方できる（DP①）．
３．運動学習理論を理解し，健常者の運動学習を進めるトレーニングを処方できる（DP①）．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．１年次に行った解剖学・運動学を復習して臨むこと
２．自分たちで十分な量の文献的調査が必要です．分からないことは積極的に担当教員と密に連携をとって進めて下さい．
３．発表の時や討論の時は積極的に参加し，否定的な発言をしないようにして下さい．

教科書

1.　市橋則明編．運動療法学．障害別アプローチの理論と実際．第 2 版，文光堂，2014

参考書

石井直方．究極の筋力トレーニング　最新スポーツ生理学と効率的体づくり
沖田実．関節可動域制限―病態の理解と治療の考え方
リチャード･A･シュミット．運動学習とパフォーマンス

研究室／オフィスアワー

各担当教員に個別にアポイントメントを取ってください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション 講義（筋力トレーニング①）	教科書の該当部分を読む（１時間）	前田 三木屋
2	講義（筋力トレーニング②）	教科書の該当部分を読む（１時間）	三木屋
3	講義（ストレッチ）	教科書の該当部分を読む（１時間）	前田
4	講義（運動学習①）	教科書の該当部分を読む（１時間）	前田
5	講義（運動学習②）	教科書の該当部分を読む（１時間）	前田
6	グループワーク グループの決定 文献研究および測定計画の立案①	実験の計画（１時間）	前田 三木屋
7	グループワーク 文献研究および測定計画の立案②	実験の計画（１時間）	前田 三木屋
8	グループワーク 文献研究および測定計画の立案③	実験の計画（１時間）	前田 三木屋
9	グループワーク 初回測定 トレーニングの実施①	実験の計画の内容確認（１時間）	前田 三木屋
10	グループワーク トレーニングの実施②	実験の計画の内容確認（１時間）	前田 三木屋
11	グループワーク トレーニングの実施③	実験の計画の内容確認（１時間）	前田 三木屋
12	グループワーク トレーニング後の測定	実験の計画の内容確認（１時間）	前田 三木屋
13	レポートのプレゼンテーション①	基礎知識の復習（１時間）	前田

			三木屋
14	レポートのプレゼンテーション②	基礎知識の復習（１時間）	前田 三木屋
15	全体のまとめ	基礎知識の復習（１時間）	前田 三木屋
成績評価方法と基準			割合
発表（DP①），文献要旨レポート（DP①），筆記試験（DP①）			発表(30%)，文献要旨レポート(10%)，筆記試験(60%) ＊合計 60 点以上で単位を認定する。

授業科目名	基礎運動療法学各論(理学)（Basic Kinesitherapy）				
主担当教員	工藤　慎太郎		担当教員	工藤　慎太郎、三木屋　良輔	
科目ナンバリング	SS303	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

運動学，臨床運動学，基礎運動療法総論の内容を，実際の運動療法を実施する過程を経験しながら，組み合わせる．とくにヒトの動作を観察し，問題点を推測し，評価を行い，必要な運動療法プログラムを実施するという過程の中で，運動療法のプログラムの実施を行う．これにより、３年次に行う評価実習および疾患別理学療法での思考過程の基盤を形成する．

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．健常者の歩行を観察・分析し，問題点を推測できる．
２．問題点に対する検査測定結果から適切な運動療法を処方できる．
３．運動療法の効果を生体力学的に分析することが出来る．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．臨床運動学・基礎運動療法総論の内容を復習して下さい．
２．エクセルによるデータ処理が必要になります．不慣れなヒトは早い段階で教員に確認して下さい．
３．自分たちで十分な量の文献的調査が必要です．分からないことは積極的に担当教員と密に連携をとって進めて下さい．
４．発表の時や討論の時は積極的に参加し，否定的な発言をしないようにして下さい．

教科書

畠中泰彦編：これならできる！姿勢・動作・歩行分析

参考書

観察による歩行分析．医学書院
臨床歩行分析研究会．臨床歩行計測入門．医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

月曜日１限：
その他授業時間外、放課後空いている時間に随時対応しますが
予約するようにしてください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション	歩行周期・観察による歩行分析について（１時間）	
2	歩行動作観察	歩行Kinematics 提出（１時間）	
3	歩行計測実習・運動機能評価実習	歩行Kinematics 提出（１時間）	
4	歩行計測実習・運動機能評価実習	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
5	歩行計測実習・運動機能評価実習	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
6	歩行時のKinematics & Kinetics	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
7	運動療法プログラムの立案	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
8	運動療法プログラムの立案	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
9	運動療法プログラムの立案	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
10	運動療法プログラム発表	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
11	運動療法プログラム発表	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
12	運動療法プログラム発表	歩行中の下肢関節モーメントについて（１時間）	
13	歩行計測実習・運動機能評価実習		

14	発表		
15	発表		
成績評価方法と基準			割合
発表内容，試験で総合的に判定し，６０点以上で単位認定とする． 4/5 以上の出席を必要とする。			発表内容(70%)，試験(30%)，

授業科目名	運動器系理学療法学Ⅰ(理学)（Physical Therapy for Motor System Ⅰ）				
主担当教員	工藤 慎太郎		担当教員	工藤 慎太郎	
科目ナンバリング	SS314	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

運動器に対する理学療法評価の臨床的思考過程を経験し，各種運動器疾患に対する理学療法評価を健常者に対して実施できるようにする．

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．臨床的思考過程を説明できる．
２．運動器疾患に対する理学療法評価を健常者に対して実施できる．
３．学習した内容をグループ討論の中で、披露することができる．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．自分たちで十分な量の文献的調査が必要です．分からないことは積極的に担当教員と密に連携をとって進めて下さい．
２．発表の時や討論の時は積極的に参加し，否定的な発言をしないようにして下さい．

教科書

工藤慎太郎．運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略

参考書

工藤慎太郎　運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学

研究室／オフィスアワー

東棟 4F17 研究室/月曜 1 限または時間が空いているときに対応します（要予約）．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
2	股関節の運動学的評価［実習］	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
3	股関節の運動学的評価［実習］	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
4	股関節の運動学的評価［実習］	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
5	膝関節の運動学的評価［実習］	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
6	膝関節の運動学的評価［実習］	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
7	足関節の運動学的評価［実習］	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
8	足関節の運動学的評価［実習］	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
9	変形性股関節症に対する問診	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
10	変形性股関節性に対する解剖学的評価	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
11	変形性股関節症に対する運動学的評価の解釈	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
12	膝蓋骨骨折に対する問診と解剖学的評価	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
13	膝蓋骨骨折に対する解剖学的評価と解釈	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤
14	スポーツ障害に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理(1h)	工藤

15	スポーツ障害に対する理学療法評価の思考過程	必要な実技の練習と疾患に対する知識の整理 (1h)	工藤
成績評価方法と基準			割合
定期試験により単位認定を行う. 4/5 以上の出席を必要とする。			100%:試験

授業科目名	運動器系理学療法学Ⅱ(理学) (Physical Therapy for Motor System Ⅱ)				
主担当教員	前田 薫		担当教員	前田 薫、工藤 慎太郎、河村 廣幸	
科目ナンバリング	SS315a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

整形外科疾患の知識を踏まえて、評価、治療計画、日常生活指導について解説する。

到達目標

1．運動器疾患に対する理学療法の基礎理論とその背景が理解できる (DP①)
2．運動学と運動器疾患の病態を結びつけての治療の進め方を理解する (DP①)
3．運動器疾患の治療技術を知る (DP①)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．臨床で最も多く遭遇し、評価・治療できなくてはならない領域であることを理解する。
2．解剖学、運動学、評価学、物理療法学、基礎運動療法および整形外科学の知識がこの講義を受けるベースとして必要である。したがって、予習が大切である。
3．配布資料と教科書は相互に補完する関係にある。
4．講義の都度、理解が確実であるかを判断し、不十分な点については速やかに担当教員に質問すること。

教科書

河村廣幸・他：ここがポイント整形外科疾患の理学療法. 金原出版.
工藤慎太郎・他：運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学. 医学書院.

参考書

松野丈夫・中村利孝 (総編集)：標準整形外科学. 医学書院.
石川朗 (総編集)：15 レクチャーシリーズ運動器障害理学療法学ⅠおよびⅡ. 中山出版.
河村廣幸 (編)：リハビリに直結する！運動器画像の見かた. 羊土社.

研究室／オフィスアワー

各担当教員ともに、実習施設訪問などで不在のことがあるため、必ず予約を入れること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	運動器疾患の治療の流れ	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	河村
2	運動器画像の見かた	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	河村
3	腰痛、椎体圧迫骨折	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田
4	大腿骨頚部骨折	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田
5	橈骨遠位端骨折	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田
6	上腕骨近位端骨折	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田
7	腱板損傷	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	工藤
8	アキレス腱断裂	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	工藤
9	膝靭帯損傷	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	工藤

10	足部靭帯損傷	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	工藤
11	末梢神経損傷（胸郭出口症候群を含む）	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田
12	変形性関節症（半月板損傷を含む）	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田
13	TKA	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	河村
14	THA	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	河村
15	その他の整形外科的疾患	予習：教科書の該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	河村
成績評価方法と基準			割合
筆記試験（DP①）			筆記試験 100%

授業科目名	運動器系理学療法学Ⅲ(理学)（Physical Therapy for Motor SystemⅢ）				
主担当教員	前田 薫		担当教員	前田 薫、河村 廣幸、三木屋 良輔、工藤 慎太郎	
科目ナンバリング	SS316a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

運動器系理学療法学Ⅱで学習した内容を踏まえ、運動器疾患に対する評価・治療手技について、実技を主体に学習する。学生は８～９名のグループを作り、各班が担当する紙面患者に対する評価・治療を考え、プレゼンテーションを作成する。このプレゼンテーションを作成するための材料を提供するのが、毎回の授業である。よって、学生は常に実技の内容が班の担当患者にどう生かすことができるかを考えながら授業に臨まなくてはならない。このプレゼンテーションのほかに、期末には臨床場面を想定した形式での実技試験を行う。主体的・積極的な受講が期待される。

到達目標

１．運動器系理学療法の評価・治療技術を理解する（DP①）
２．治療技術の理論を説明できる（DP①）
３．評価・治療技術を実施できる（DP①）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．運動器系理学療法学Ⅱで配布された資料を再学習する。
２．実技練習にはリスクを伴うので、緊張感を持ち、細心の注意を払って臨むこと。
３．授業の復習過程を重視する。反復学習が必要である。

教科書

河村廣幸・他：ここがポイント整形外科疾患の理学療法．金原出版．
工藤慎太郎・他：運動器疾患の「なぜ？」がわかる評価戦略．医学書院

参考書

松野丈夫、中村利孝（監修）：標準整形外科学．医学書院．
石川朗（総編集）：15 レクチャーシリーズ運動器系理学療法学ⅠおよびⅡ．中山出版．

研究室／オフィスアワー

実習訪問などで不在のことがあるため、その都度、予約をとること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	腰痛、椎体圧迫骨折	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
2	大腿骨頚部骨折	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
3	橈骨遠位端骨折	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
4	上腕骨近位端骨折	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
5	腱板損傷（肩関節周囲炎含む）	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
6	アキレス腱断裂	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
7	膝靭帯損傷	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学	前田、河村、三木屋、工藤

		習する。	
8	足部靭帯損傷	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
9	末梢神経損傷（胸郭出口症候群を含む）	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
10	変形性関節症（半月板損傷を含む）	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
11	下肢の人工関節	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
12	実技総合練習およびプレゼンテーションの作成	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
13	プレゼンテーションの作成と実技練習	予習：運動器系理学療法学Ⅱでの該当範囲を読む。復習：ノートや講義資料を見直して理解ができていないところをピックアップし、自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
14	プレゼンテーション①	プレゼンテーション資料を作成し、発表練習をする。復習：教員や学生からのコメントや質問項目について対応が不十分と感じる点について自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
15	プレゼンテーション②	プレゼンテーション資料を作成し、発表練習をする。復習：教員や学生からのコメントや質問項目について対応が不十分と感じる点について自己学習する。	前田、河村、三木屋、工藤
成績評価方法と基準			割合
１）班別の担当紙面患者の評価・治療プレゼンテーション（DP①） ２）実技試験（DP①）			１）30% ２）70%

授業科目名	神経系理学療法学Ⅰ(理学)（Nervous System Physical Therapy Ⅰ）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、金尾　顕郎、杉本　圭、 松尾　浩希、木内　隆裕	
科目ナンバリング	SS317	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

脳卒中を中心とした中枢神経疾患・変性疾患の疾患の特徴やメカニズム、その疾患や病態に応じた理学療法評価及び理学療法の意義や実際について学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です。

到達目標

１．中枢神経系の構造と機能を理解し、図示や説明ができる。【DP①】
２．中枢神経疾患、変性疾患の発生メカニズムや病態の特徴、理学療法について理解し、具体的に述べることができる。【DP①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．指定された教科書を毎回の授業に持参すること。
２．１回の講義内容が多いので、シラバスに明記されている予習復習を必ず行うこと。
３．必要出席回数は、授業回数の 4/5 以上とする。
４．授業が実技形式の場合には、ジャージ上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。

教科書

１．吉尾雅春 編：標準理学療法学 神経理学療法学 第２版、医学書院、2018
２．川平和美 編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第５版、医学書院、2019
３．鈴木則宏 編：神経診断クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第２版、メジカルビュー社、2015
４．武田功 編：PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 第３版、医歯薬出版株式会社、2017

参考書

１．河村廣幸 編：ここがポイント!脳卒中の理学療法，金原出版，2018
２．田崎義昭 他：ベッドサイドの神経の診かた 改訂第 18 版，南山堂，2016
３．潮見泰藏 編：PT・OT ビジュアルテキスト 神経障害理学療法学，羊土社，2018
４．マーガレット・シェンクマン 他：カラー版 臨床神経科学とリハビリテーション，西村書店，2020

研究室／オフィスアワー

中根征也：４階研究室／木曜日 ４時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
木内隆裕：４階研究室／火曜日・金曜日 ４時限目以降
杉本　圭：４階研究室／木曜日４・５時限目（時間は事前に相談することが望ましい）
松尾浩希：４階研究室／金曜日 ４時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	脳卒中理学療法の概要 中枢神経系の構造と機能	予習：「標準理学療法学 神経理学療法学」（以下、テキストとする）の pp. 4-15 を読んでおくこと。 復習：中枢神経の主要伝導路と脳脊髄の機能が説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	杉本
2	脳卒中の病態と回復メカニズム 脳画像と各種経路の把握	予習：テキストの pp. 30-43、pp. 46-64、pp. 67-73 を読んでおくこと。 復習： ①脳卒中の発生メカニズムについて説明できる。 ②脳画像から損傷部位を説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	木内
3	脳卒中理学療法の評価と障害構造 脳卒中の障害と急性期理学療法① （意識障害）	予習：テキストの pp. 76-88，pp. 94-101 を読んでおくこと。 復習： ①脳卒中後の障害と ICF との関連を説明でき、代表的な評価を説明できる。 ②意識障害の評価・リスク管理について説明で	松尾

		きる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	
4	脳卒中の障害と急性期理学療法② （運動麻痺・感覚障害）	予習：テキストの pp.102-127 を読んでおくこと。 復習： ①運動麻痺の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ②感覚障害の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	杉本
5	脳卒中の障害と回復期理学療法① （筋緊張異常・痛み）	予習：テキストの pp.131-139、pp.203-214 を読んでおくこと。 復習： ①異常筋緊張の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ②痛みの発生のメカニズムと理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	杉本
6	脳卒中の障害と回復期理学療法② （姿勢バランス障害・姿勢定位障害）	予習：テキストの pp.229-252 を読んでおくこと。 復習：姿勢定位障害・姿勢バランス障害の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	松尾
7	脳卒中の障害と回復期理学療法③ （高次脳機能障害）	予習：テキストの pp.16-29、pp.154-202 を読んでおくこと。 復習：種々の高次脳機能障害の発生のメカニズムと理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	木内
8	脳卒中の障害と回復期理学療法④ （運動失調・精神障害）	予習：テキストの pp.140-153、pp.194-202 を読んでおくこと。 復習： ①運動失調の発生メカニズムと理学療法について説明できる。 ②脳卒中後の精神障害のメカニズムと理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	杉本
9	脳卒中の障害と生活期理学療法 （上肢機能障害・二次的機能障害）	予習：テキストの pp.288-304、pp.217-226 を読んでおくこと。 復習： ①脳卒中片麻痺の上肢機能障害の特徴を理解し、その評価・理学療法の目的と実際を説明できる。 ②二次的機能障害の発生のメカニズムと理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	木内
10	Parkinson 病の理学療法	予習：テキストの pp.307-320 を読んでおくこと。 復習：Parkinson 病の病態と治療方針を理解し、理学療法の目的と実際を説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根
11	脊髄小脳変性症の理学療法 多発性硬化症の理学療法	予習：テキストの pp.323-334、pp.352-364 を読んでおくこと。 復習： ①脊髄小脳変性症の病態と治療方針を理解し、理学療法の目的と実際を説明できる。 ②多発性硬化症の病態と治療方針を理解し、理学療法の目的と実際を説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根
12	筋萎縮性側索硬化症の理学療法 Guillain-Barre 症候群	予習：テキストの pp.335-351、pp.368-376 を読んでおくこと。	中根

		復習： ①筋萎縮性側索硬化症の病態と治療方針を理解し、理学療法の目的と実際を説明できる。 ②Guillain-Barre の病態と治療方針を理解し、理学療法の目的と実際を説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	
13	脊髄損傷とは？	予習：脊髄の解剖・生理について予習する。 復習：脊髄の解剖・生理から脊髄損傷の障害が予測できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	松尾
14	脊髄損傷の理学療法	予習：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第 5 版」の pp.238-252 を読んでおくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する理学療法の流れを理解できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根
15	講義全体のまとめ	予習：脳卒中、神経筋疾患、脊髄損傷について復習しておくこと。 復習：講義全体を復習しておくこと。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根 金尾
成績評価方法と基準			割合
１．筆記試験【DP①】 ２．小テスト【DP①】 ※第 2 講～第 15 講の授業内で前回の授業内容に関する小テスト実施する。 ３．単位認定のための必要出席時間数は「授業時数の 4/5 以上」とする。			１．70% ２．30%

授業科目名	神経系理学療法学Ⅱ(理学)（Nervous System Physical TherapyⅡ）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、金尾　顕郎、杉本　圭、松尾　浩希、木内　隆裕	
科目ナンバリング	SS318a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

中枢神経系疾患にみられる障害に対して、障害像や重症度・進行度を把握する評価について学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です。

到達目標

中枢神経系疾患にみられる障害に対する検査・測定を講義と実技を通して理解し、実践できるようになる。【DP①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．中枢神経系疾患の障害に対する評価の基盤となる学問であり、解剖学・生理学・運動学の復習が必要である。
2．暗記レベルの知識だけではなく、理解する学習を意識して取り組むこと。
3．演習科目であるため、必要出席時間数は「授業時数の 3 分の 2 以上」を採用する。
4．指定された教科書を毎回の授業に持参すること。
5．実技を行う授業形式の場合には、ジャージ上下、および本学指定の上履きを着用して受講すること。また、ジャージの内側には
　肘や膝を露出できるシャツを着用すること。

教科書

1．鈴木則宏 編：神経診断クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第 2 版、メジカルビュー社、2015
2．潮見泰蔵 編：PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2014
3．川平和美 編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第 5 版、医学書院、2019
4．武田功 編：PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 第 3 版、医歯薬出版株式会社、2017
5．吉尾雅春 編：標準理学療法学 神経理学療法学 第 2 版、医学書院、2018

参考書

1．河村廣幸 編：ここがポイント!脳卒中の理学療法、金原出版社、2018
2．田崎義昭 他：ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版、南山堂、2016
3．潮見泰蔵 編：PT・OT ビジュアルテキスト 神経障害理学療法学、羊土社、2018
4．マーガレット・シェンクマン 他：カラー版 臨床神経科学とリハビリテーション，西村書店，2020

研究室／オフィスアワー

中根征也：4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
木内隆裕：4 階研究室／火曜日・金曜日 4 時限目以降
杉本　圭：4 階研究室／木曜日 4・5 時限目（時間は事前に相談することが望ましい）
松尾浩希：4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	意識障害の評価	予習：「神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 改訂第 2 版」(以下、テキストとする) の pp.210-222 を読んでおくこと。 復習：意識障害に対する検査測定を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	松尾
2	上位運動ニューロン障害・痛みの評価 （筋緊張，随意運動・痛みの評価）	予習：テキストの pp.62-73 を読んでおくこと。「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」の pp.155-162 を読んでおくこと。 復習： ①筋緊張の検査測定を実施できる。 ②随意運動のメカニズムについて説明でき、検査測定を実施できる。 ③痛み検査測定を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
3	脳神経障害の評価	予習：テキストの pp.8-61 を読んでおくこと。 復習：脳神経障害に対する検査測定を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	木内
4	反射・感覚の評価	予習：テキストの pp.126-173 を読んでおくこと。 復習：反射、感覚に対する検査測定を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	木内
5	平衡機能・バランスの評価	予習：「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」の pp.227-250 を読んでおくこと。 復習：平衡機能検査・バランス検査を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	中根
6	運動失調の評価	予習：テキストの pp.174-189 を読んでおくこと。 復習：運動失調に対する検査測定を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
7	高次脳機能障害の評価	予習：テキストの pp.196-208 を読んでおくこと。 復習：高次脳機能障害に対する検査測定を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	木内
8	脳血管障害の総合評価	予習：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第 5 版」の pp.173-203 を読んでおくこと。 復習：脳血管障害患者に対する評価の流れを理解できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	松尾
9	脳卒中の動作障害評価① （起居動作）	予習：「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」の PP313-323 を読んでおくこと。 復習：脳卒中片麻痺の起居動作障害の特徴について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	杉本
10	脳卒中の動作障害評価② （歩行）	予習：「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」の PP313-323 を読んでおくこと。 復習：脳卒中患者の歩行障害の特徴について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	中根
11	脊髄損傷の理学療法評価 （ASIA 分類、Zancolli の分類、Frankel 分類，SCIM）	予習：「PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 第 3 版」の pp7-49 を読んでおくこと。 復習：脊髄損傷の評価について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	木内
12	脊髄損傷の急性期理学療法 （全身状態管理）	予習：「PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 第 3 版」の pp36-46 を読んでおくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する急性期の理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	松尾
13	脊髄損傷の回復期理学療法 （寝返り・起き上がり、push up）	予習：「PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 第 3 版」の pp85-106 を読んでおくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する回復期理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	中根

14	脊髄損傷の生活期理学療法 （座位バランス、移乗）	予習：「PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 第3版」の pp36-46 を読んでおくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する生活期の理学療法について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	中根
15	講義全体のまとめ	予習：中枢神経疾患（特に脳卒中、脊髄損傷）の理学療法評価について復習しておくこと。 復習：講義全体を復習しておくこと。 ※予習・復習はそれぞれ 120 分間以上を目安に行うこと。	中根 金尾
成績評価方法と基準			割合
１．筆記試験【DP①】 ２．レポート【DP①】 ※第 9 講及び第 10 講の後に授業に関するレポート課題を課す。 ※提出期限・作成方法等は授業内で説明する。 ※評価基準：ルーブリックを提示する。 ３．単位認定のための必要出席時間数は「授業時数の 2/3 以上」とする。			１．70% ２．30%

授業科目名	神経系理学療法学Ⅲ(理学)（Nervous System Physical Therapy Ⅲ）				
主担当教員	中根 征也		担当教員	中根 征也、金尾 顕郎、杉本 圭、 松尾 浩希、木内 隆裕	
科目ナンバリング	SS319a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

神経系理学療法学Ⅰや神経系理学療法学Ⅱで学修した中枢神経障害対する評価、理学療法の知識を実践できるようにする。主に、脳血管障害および脊髄障害について、実技や患者モデル（paper-patient）を用いて、障害を把握するための手法やプログラムを自ら立案し、実践する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です。

到達目標

中枢神経を解剖学・生理学的に理解を深め、それらの疾患の障害構造を理解し、理学療法のより実践的な知識と技術を身につける。【DP①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．演習科目であるため、必要出席時間数は「授業時数の 5 分の 4 以上」を採用する。
２．実技を行う授業形式の場合には、ジャージ上下、および本学指定の上履きを着用して受講すること。
３．未知の障害に対してどれだけ根拠のある可能性を引き出すことができるかが課題であり、限りないバリエーションを持つ障害者
　　の方に対応できるように柔軟な思考としっかりとした基礎知識をもって講義に臨むこと。

教科書

１．吉尾雅春 編：標準理学療法学 神経理学療法学 第 2 版、医学書院、2018
２．川平和美 編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第 5 版、医学書院、2019
３．武田功 編：PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法 第 3 版、医歯薬出版株式会社、2017

参考書

１．河村廣幸 編：ここがポイント!脳卒中の理学療法、金原出版社、2018
２．潮見泰蔵 編：PT・OT ビジュアルテキスト 神経障害理学療法学、羊土社、2018
３．岩崎洋 編：脊髄損傷マニュアル 第 2 版、文光堂、2014
４．マーガレット・シェンクマン 他：カラー版臨床神経科学とリハビリテーション，西村書店，2020

研究室／オフィスアワー

中根征也：4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
木内隆裕：4 階研究室／火曜日・金曜日 4 時限目以降
杉本　圭：4 階研究室／木曜日 4・5 時限目（時間は事前に相談することが望ましい）
松尾浩希：4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	脳卒中の理学療法① （ポジショニング）	予習：ポジショニングについて予習しておくこと。 復習：脳卒中患者に対するポジショニングについて説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	松尾
2	脳卒中の理学療法② （関節可動域運動）	予習：関節可動域運動について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者に対する関節可動域運動について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	杉本
3	脳卒中の理学療法③ （起居動作）	予習：起居動作の動作分析について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者の起居動作障害について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	杉本
4	脳卒中の理学療法④ （起立・着座）	予習：起立・着座動作の動作分析について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者の起立・着座障害について説	杉本

		明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	
5	脳卒中の理学療法⑤ （移乗）	予習：移乗動作の動作分析について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者の移乗動作障害について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	杉本
6	脳卒中の理学療法⑥ （歩行）	予習：歩行動作の動作分析について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者の歩行動作障害について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根
7	脳卒中の理学療法⑦ （高次脳機能障害）	予習：高次脳機能障害について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者の高次脳機能障害について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	木内
8	脳卒中の理学療法⑧ （補装具）	予習：装具について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者の装具を用いた介入について説明できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根
9	脳卒中の生活期理学療法	予習：二次的機能障害について予習しておくこと。 復習：脳卒中患者の二次的機能障害について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	松尾
10	脳卒中の理学療法について	予習：脳卒中患者の理学療法について復習しておくこと。 復習：これまでの講義を復習しておくこと。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根 金尾
11	脊髄損傷の理学療法評価 （ASIA 分類、Zancolli の分類、Frankel 分類, SCIM）	予習：脊髄損傷の評価について予習しておくこと。 復習：脊髄損傷の評価を実施できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	木内
12	脊髄損傷の急性期理学療法 （ポジショニング、ギャッジアップ、関節可動域運動）	予習：運動療法の基本的概念を予習しおくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する急性期理学療法について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	木内
13	脊髄損傷の回復期理学療法 （寝返り・起き上がり、push up）	予習：運動療法の基本的概念を予習しておくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する回復期理学療法について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	松尾
14	脊髄損傷の生活期理学療法 （座位バランス、移乗）	予習：運動療法の基本的概念を予習しておくこと。 復習：脊髄損傷患者に対する生活期理学療法について説明・介入できる。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根
15	脊髄損傷の理学療法について	予習：脊髄損傷の理学療法について復習しておくこと。 復習：講義全体を復習しておくこと。 ※予習・復習はそれぞれ 30 分間以上を目安に行うこと。	中根
成績評価方法と基準			割合
1．筆記試験【DP①】 2．単位認定のための必要出席時間数は「授業時数の 4/5 以上」とする。			100%

授業科目名	内部障害系理学療法学Ⅰ(理学)				
主担当教員	金尾 顕郎		担当教員	金尾 顕郎、角田 晃啓、堀 竜次	
科目ナンバリング	SS320	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

(概要)オムニバス方式にて内部障害に起因する運動機能・生活機能の低下について、理学療法評価を中心に教授する。
【内部障害の基礎　全３回】呼吸・循環・代謝を担う諸器官の解剖学的・生理学的知識から、内部障害の基礎知識までを教授する。
【呼吸器疾患 金尾顕郎 全４回】呼吸器疾患の病理学的特性やそれに起因する運動機能・生活機能障害を理解し、これに対する理学療法評価に必要な基礎知識とその実践について教授する。
【循環器疾患 堀　竜次 全４回】循環器疾患の病理学的特性やそれに起因する運動機能・生活機能障害を理解し、これに対する理学療法評価に必要な基礎知識とその実践について教授する。
【代謝性疾患 角田晃啓 全４回】糖尿病などの代謝性疾患に起因する運動機能・生活機能障害を理解し、これに対する理学療法評価に必要な基礎知識とその実践について教授する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．内部障害の病理学的特性やそれに起因する運動・生活機能の低下を理解できる。＜DP①＞
２．内部障害患者の抱える問題点について理解し、それに対する理学療法評価を実践できる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．循環器疾患については、小テストを行いますので教科書の出題範囲を必ず予習すること。事前に講義資料を配布するので必ず予習をすること
２．疑問点について、必ず解決の行動をとること

教科書

松尾善美 編．PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学．羊土社　ISBN：978-4-7581-0217-9
医療情報科学研究所 編．病気が見える vol.2 循環器．MEDIC MEDIA　ISBN：978-4-89632-643-7

参考書

医療情報科学研究所 編．病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌．MEDIC MEDIA
医療情報科学研究所 編．病気が見える vol.4 呼吸器．MEDIC MEDIA
谷本興一　心肺運動負荷テストと運動療法　南江堂

研究室／オフィスアワー

金尾：水曜日の１限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。
堀　：金曜日の３・４限
角田：木曜５限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【内部障害の基礎 全３回】 １．疾病構造	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと（60 分）	金尾、堀、角田
2	【内部障害の基礎 全３回】 ２．内臓諸器官の構造と機能	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと（60 分）	金尾、堀、角田
3	【内部障害の基礎 全３回】 ３．運動生理	学習内容について、教科書で確認し、予習をしてから望むこと（60 分）	金尾、堀、角田
4	【呼吸器疾患 全４回】 １．呼吸器疾患の成り立ちと呼吸生理	呼吸器について、必要項目を教科書で確認し、予習をしてから望むこと（60 分）	金尾
5	【呼吸器疾患 全４回】 ２．血液検査と肺機能検査	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと（60 分）	金尾
6	【呼吸器疾患 全４回】 ３．呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント（講義）	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと（60 分）	金尾
7	【呼吸器疾患 全４回】 ４．呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント（演習）	呼吸器について、必要項目を教科書および事前配布資料を確認し、予習をしてから望むこと（60 分）	金尾
8	【循環器疾患 全４回】 1．循環器疾患のフィジカルアセスメント（講義）	教科書「病気がみえる・循環器」の該当箇所を予習・復習すること（60 分）	堀
9	【循環器疾患 全４回】 ２．循環器疾患のフィジカルアセスメント（演	教科書「病気がみえる・循環器」の該当箇所および前回講義資料をもとに予習・復習すること	堀

	習）	（60 分）	
10	【循環器疾患 全 4 回】 3．心電図の基礎(講義)	教科書「病気がみえる・循環器」の該当箇所をもとに予習・復習すること（60 分）	堀
11	【循環器疾患 全 4 回】 4．心電図の基礎(演習)	教科書「病気がみえる・循環器」の該当箇所および前回講義資料をもとに予習・復習すること（60 分）	堀
12	【代謝性疾患 全 4 回】 1．血糖の調節機構	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習をしてから望むこと。(60 分)	角田
13	【代謝性疾患 全 4 回】 2．糖尿病の病型と基準	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習をしてから望むこと。(60 分)	角田
14	【代謝性疾患 全 4 回】 3．運動負荷と血糖値（演習）	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習をしてから望むこと。(60 分)	角田
15	【代謝性疾患 全 4 回】 4．糖尿病合併症	該当箇所について教科書・配布資料を確認し、予習をしてから望むこと。(60 分)	角田
成績評価方法と基準			割合
1．学期末の筆記試験により評価する（概論：10%、呼吸器系：30%、循環器系：30%、代謝系：30%）＜DP①＞ 2．呼吸循環器系に関しては別途、授業中に実施される課題レポート・小テストを評価の対象とする＜DP①＞ 2/3 以上の出席が必要			1.80% 2.20%

授業科目名	内部障害系理学療法学Ⅱ(理学)				
主担当教員	金尾 顕郎		担当教員	金尾 顕郎、角田 晃啓、堀 竜次	
科目ナンバリング	SS321a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

(概要)オムニバス方式にて内部障害に起因する運動機能・生活機能の低下について、その理学療法プロセス、日常生活動作指導の基礎知識を教授する。
【呼吸器疾患 金尾顕郎】呼吸器疾患の病理学的特性やそれに起因する運動機能・生活機能障害を理解し、その理学療法プロセス、日常生活動作指導の基礎知識を教授する。
【循環器疾患 堀　竜次】循環器疾患の病理学的特性やそれに起因する運動機能・生活機能障害を理解し、その理学療法プロセス、日常生活動作指導の基礎知識を教授する。
【代謝性疾患 角田晃啓】糖尿病などの代謝性疾患に起因する運動機能・生活機能障害を理解し、その理学療法プロセス、日常生活動作指導の基礎知識を教授する。

到達目標

内科系障害の成り立ちや評価方法を理解し、運動療法の組み立てが理解できる。＜DP①＞
リスク管理が理解できる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 内部障害理学療法は理学療法を進めるにあたり必要な科目であることを認識すること
2. 循環器疾患については、小テストを行いますので教科書の出題範囲を必ず予習すること。事前に講義資料を配布するので必ず予習をすること
3. 疑問点について、必ず解決の行動をとること

教科書

松尾善美 編. PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学. 羊土社　ISBN：978-4-7581-0217-9
医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.2 循環器. MEDIC MEDIA　ISBN：978-4-89632-643-7

参考書

医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌. MEDIC MEDIA
医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.4 呼吸器. MEDIC MEDIA
谷本興一　心肺運動負荷テストと運動療法　南江堂

研究室／オフィスアワー

金尾：水曜日の 1 限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。
角田：在室時は随時（研究室）
堀：金曜日の 3・4 限目（研究室）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【呼吸器疾患　全 4 回】 1．COPD	予習：教科書（内部障害理学療法学：P184-200）を確認する（120 分） 復習：講義資料を基に気 COPD について整理して理解する（120 分）	金尾
2	【呼吸器疾患　全 4 回】 2．間質性肺炎	予習：事前配布資料にて間質性肺炎を確認する（120 分） 復習：講義資料を基に間質性肺炎について整理して理解する（120 分）	金尾
3	【呼吸器疾患　全 4 回】 3．その他の呼吸器疾患	予習：教科書（内部障害理学療法学：P200-224）を確認する（120 分） 復習：講義資料を基に呼吸器疾患全般を整理して理解する（120 分）	金尾
4	【呼吸器疾患　全 4 回】 4．ADL 指導	予習：事前配布資料にて ADL 指導を確認する（120 分） 復習：授業内容を基に ADL 指導について整理して理解する（120 分）	金尾
5	【呼吸・循環器疾患】 1．気道クリアランス	予習：教科書（内部障害理学療法学：P243-257）を確認する（120 分） 復習：講義資料を基に気道クリアランス法について整理して理解する（120 分）	堀 金尾
6	【呼吸・循環器疾患】 2．胸部画像のみかた	予習：事前に渡す資料に目を通しておく（120 分） 復習：講義資料を基に胸部画像のみかたについて整理して理解する（120 分）	堀 金尾

7	【循環器疾患】 1．リスク管理（不整脈、血圧異常）	予習：教科書（病気がみえる循環器：P36-37,P112-123,P132-135）を確認する（120分） 復習：講義資料を基にショックと不整脈について整理して理解する（120分）	堀
8	【循環器疾患】 2．虚血性心疾患	予習：教科書（内部障害理学療法学：P123-147,病気が見える循環器：P82-89）を確認する（120分） 復習：講義資料を基に虚血性心疾患の理学療法について整理して理解する（120分）	堀
9	【循環器疾患】 3．慢性心不全	予習：教科書（内部障害理学療法学：P148-165,病気が見える循環器：P38-55）を確認する（120分） 復習：講義資料を基に慢性心不全の理学療法について整理して理解する（120分）	堀
10	【循環器疾患】 4．末梢動脈疾患	予習：教科書（内部障害理学療法学：P175-183,病気が見える循環器：P286-296）を確認する（120分） 復習：講義資料を基に末梢動脈疾患の理学療法について整理して理解する（120分）	堀
11	【呼吸・循環器・代謝性疾患】 1．運動処方	予習：教科書（内部障害理学療法学：P66-79）を確認すること（120分） 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること（120分）	角田 金尾 堀
12	【代謝性疾患】 1．糖尿病	予習：教科書（内部障害理学療法学：P263-280）を確認すること（120分） 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること（120分）	角田
13	【代謝性疾患】 2．糖尿病②	予習：教科書（内部障害理学療法学：P263-280）を確認すること（120分） 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること（120分）	角田
14	【代謝性疾患】 3．患者教育	予習：教科書（内部障害理学療法学：P314-326）を確認すること（120分） 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること（120分）	角田
15	【呼吸・循環器・代謝性疾患】 2．行動変容アプローチ	予習：教科書（内部障害理学療法学：P314-326）を確認すること（120分） 復習：授業は連続性をもって進むので当日の配布資料を復習し、各回で消化してすすめること（120分）	角田 金尾 堀
成績評価方法と基準			割合
1．学期末の筆記試験により評価する（呼吸器系：35%、循環器系：35%、代謝系：30%）＜DP①＞ 2．呼吸循環器系に関しては別途、授業中に実施される課題レポート・小テストを評価の対象とする　＜DP①＞			1．80% 2．20%

授業科目名	内部障害系理学療法学Ⅲ(理学)				
主担当教員	金尾　顕郎		担当教員	金尾　顕郎、角田　晃啓、堀　竜次	
科目ナンバリング	SS322a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

(概要)オムニバス方式にて呼吸循環器疾患および生活習慣病等の理学療法プロセス、日常生活動作指導について、理学療法の実際、リスク管理、再評価などの技術を学習する。
【呼吸器疾患 金尾顕郎/堀　竜次】主に呼吸器系障害の理学療法技術について学習する。
【循環器疾患 堀　竜次】主に循環器系障害の理学療法技術について学習する。
【代謝性疾患 角田晃啓】主に代謝系障害の理学療法技術について学習する。
【症例検討 金尾顕郎/堀竜次/角田晃啓】内部障害事例から評価・プログラムの立案について学習する。

到達目標

1．内部障害患者に対する運動処方の理解と理学療法プログラムの立案ができる＜DP①＞
2．理学療法プログラムを実施し、再評価ができる＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．講義内容は特殊なものではなく、多くの障害に対して理学療法を進める上で必要だと認識すること。
2．疑問点について、必ず解決の行動をとること。
3．下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも各教員ごとに展開されるので注意すること。
　また、一部の実技内容について、グループ毎に実施日を分けることがあるので、担当教員の指示に従うこと。

教科書

松尾善美 編．PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学．羊土社　ISBN：978-4-7581-0217-9
堀　竜次.呼吸コンディショニングテクニック.メディカ出版　ISBN：978-4-8404-5363-9

参考書

医療情報科学研究所 編．病気が見える vol.2 循環器．MEDIC MEDIA
医療情報科学研究所 編．病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌．MEDIC MEDIA
医療情報科学研究所 編．病気が見える vol.4 呼吸器．MEDIC MEDIA
谷本興一．心肺運動負荷テストと運動療法．南江堂

研究室／オフィスアワー

金尾：水曜日の１限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。
角田：在室時は随時（研究室）
堀：金曜日の３・４限目（研究室）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【呼吸器・循環器疾患】 1．呼吸介助とコンディショニング（講義）	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P2-6,P72-105）に目を通しておく（30分） 復習：講義資料を基に呼吸介助、コンディショニングの意義について整理して理解する（30分）	金尾 堀
2	【呼吸器・循環器疾患】 2．呼吸介助①（実技）	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P72-105）および事前資料を確認すること（30分） 復習：実技を反復して練習すること（30分）	金尾 堀 角田
3	【呼吸器・循環器疾患】 3．呼吸介助②（実技）	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P72-105）および事前資料を確認すること（30分） 復習：実技を反復して練習すること（30分）	金尾 堀 角田
4	【呼吸器・循環器疾患】 4．呼吸介助③（実技）	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P72-105）および事前資料を確認すること（30分） 復習：実技を反復して練習すること（30分）	金尾 堀 角田
5	【循環器・呼吸器疾患】 5．コンディショニング①（実技）	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P10-33）に目を通しておくこと（30分） 復習：実技を反復して練習すること（30分）	堀 金尾 角田
6	【循環器・呼吸器疾患】 6．コンディショニング②（実技）	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P10-33）に目を通しておくこと（30分） 復習：実技を反復して練習すること（30分）	堀 金尾 角田

7	【循環器・呼吸器疾患】 1．吸引のための基礎知識（講義）	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P110-125）に目を通しておくこと（30 分） 復習：講義資料を基に吸引に必要な知識について整理し理解すること（30 分）	堀
8	【循環器・呼吸器疾患】 2．吸引実技	予習：教科書（呼吸コンディショニングテクニック：P110-125）に目を通しておくこと（30 分） 復習：吸引の実際について注意するポイントについて整理し理解すること（30 分）	堀 金尾 角田
9	【循環器・呼吸器疾患】 3．酸素療法・人工呼吸療法（講義）	予習：事前資料に目を通しておくこと（30 分） 復習：講義資料を基に酸素療法・人工呼吸療法の基礎知識について整理し理解すること（30 分）	堀
10	【代謝性疾患】 1．血糖測定演習（実技）	予習：血糖変動について学習する（30 分） 復習：実習内容をレポートにまとめる（30 分）	角田
11	【呼吸器・循環器・代謝性疾患】 2．運動負荷試験①歩行（実技）	予習：教科書および事前資料を確認すること（30 分） 復習:測定値から運動処方を考えること(30 分)	金尾 堀 角田
12	【呼吸器・循環器・代謝性疾患】 3．運動負荷試験②自転車（実技）	予習：教科書および事前資料を確認すること（30 分） 復習:測定値から運動処方を考えること(30 分)	角田 金尾 堀
13	【呼吸器・循環器・代謝性疾患】 4．症例検討（呼吸器）	講義内容をグループワークの中で積極的に討論する。 討議内容を整理復習しておく(60 分)	金尾
14	【呼吸器・循環器・代謝性疾患】 5．症例検討（循環器）	講義内容をグループワークの中で積極的に討論する。 討議内容を整理復習しておく(60 分)	堀
15	【呼吸器・循環器・代謝性疾患】 6．症例検討（代謝）	講義内容をグループワークの中で積極的に討論する。 討議内容を整理復習しておく(60 分)	角田
成績評価方法と基準			割合
【成績評価】 1．学期末の筆記試験により評価する（呼吸器系：40%、循環器系：35%、代謝系：25%）＜DP①＞ 2．授業で行う症例の発表および討議内容を評価の対象とする＜DP①＞ 単位認定のための必要出席回数は「授業時間の 5 分の 4 以上」とする			1．80% 2．20%

授業科目名	発達障害理学療法学(理学)（Physical Therapy for Developmental Disability）				
主担当教員	澤田 優子		担当教員	澤田 優子	
科目ナンバリング	SS323a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

小児の理学療法は、疾患や障害の特性のみならず、発達について知る必要がある。また、小児の発達を支える環境調整についても学び、その中で理学療法士の役割について考えることが重要である。
本講義では小児理学療法を実施するための発達・疾患・障害および環境調整について理解することを目的とする。

到達目標

1．小児の発達を理解する。
2．小児の疾患・障害を理解する。
3．小児の理学療法の評価、治療を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義前、講義後に教科書を読んでおくこと。
随時確認テストを実施します。

教科書

小児理学療法学テキスト（改訂第 3 版） 細田多穂監修 南江堂

参考書

1. GMFM 粗大運動能力尺度―脳性麻痺児のための評価的尺度
ダイアン・ラッセル(著), 近藤 和泉, 福田 道隆, 青山 香(翻訳)
出版社: 医学書院
2. PEDI―リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法
里宇 明元, 問川 博之, 近藤 和泉 (翻訳) 出版社: 医歯薬出版
3. 新生児・小児の発達障害診断マニュアル
村上 氏廣、村地 俊二(編) 出版社: 医歯薬出版
4. リハビリテーションのための発達科学入門
浅野大喜（著）出版社: 協同医書出版社
5.99 の Web 動画付 イラストでわかる小児理学療法学演習
上杉 雅之 (監修) 出版社: 医歯薬出版
6.小児科学 第 5 版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)
奈良 勲（著）出版社：医学書院

研究室／オフィスアワー

月曜日 3 時限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	正常発達 1	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
2	正常発達 2	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
3	正常発達 3	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
4	正常発達 4	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
5	正常発達 5	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
6	正常発達のまとめ, 確認テスト（1）	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
7	脳性麻痺 1	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	

8	脳性麻痺２	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
9	小児整形疾患	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
10	知的障害	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
11	遺伝性疾患	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
12	重症心身障害児１	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
13	重症心身障害児２	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
14	子どもの呼吸障害	予習：教科書の講義該当箇所を読んでおく 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	
15	全体のまとめ，確認テスト（２）	予習：これまでの講義内容を復習し、疑問点を整理しておく 復習：教科書を熟読し、理解を深める	
成績評価方法と基準			割合
成績評価＜DP①＞ 1．課題（各講義） 2．確認試験(1) 3．確認試験(2) 2/3 以上の出席が必要			成績評価 1．30% 2．30% 3．40%

授業科目名	義肢装具学(理学)（Prosthetics）				
主担当教員	河村　廣幸		担当教員	河村　廣幸、仲本　正美	
科目ナンバリング	SS311	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

装具は、理学療法においてもっともよく遭遇する補助機器です。その構造と理論、種類と適応について理解し、臨床に繋げられるよう学習します。
義肢は、下肢切断に対する義足を中心に切断術後の断端ケア・理学療法から義肢を使用しての日常生活動作獲得までの流れと、義肢自体の理解を目指します。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．義肢・装具の分類と名称・構造・アライメントを説明できる。
２．義足歩行・装具歩行の運動機構について説明できる。
３．義肢装具の適応を説明できる。
４．義肢装具にかかわる理学療法が説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

義肢装具は馴染みのないものかと思います。一つ一つの名称など授業ごとに確実に記憶していかないと学習が追いつかなくなります。暗記しなくてはいけないことも多いかと思いますが、頑張ってください。

教科書

義肢装具学テキスト(改訂第３版)（シンプル理学療法学シリーズ）南江堂;細田　多穂（監修）

参考書

日本整形外科学会・日本リハビリテーション学会　監修：「義肢装具のチェックポイント」　医学書院

研究室／オフィスアワー

河村：月・金曜日 13～18 時　ただし、実習訪問など不在の時もあるので予約が望ましい。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	装具総論・装具のための運動学	予習：装具の定義、種類について予習しておく（0.5 時間） 復習：装具の構造や名称を確実に記憶する。（0.5 時間）	仲本　正美
2	短下肢装具	予習:短下肢装具について予習しておく(0.5 時間） 復習：短下肢装具の各部名称と運動学的効果について復習する（0.5 時間）	仲本　正美
3	長下肢装具	予習:長下肢装具について予習しておく(0.5 時間） 復習：長下肢装具の各部名称と運動学的効果について復習する（0.5 時間）	仲本　正美
4	下肢装具チェックアウト	予習：靴型装具について予習しておく（0.5 時間） 復習：靴型装具の各部名称と運動学的効果について復習する・下肢装具のチェックアウトについて復習する（0.5 時間）	仲本　正美
5	頸部体幹装具	予習：整形外科の脊柱疾患について復習しておく･頸部体幹装具について予習しておく(0.5 時間） 復習：頸部体幹装具の各部名称と運動学的効果について復習する（0.5 時間）	仲本　正美
6	義肢総論	予習：義足と下肢の切断について予習しておく（0.5 時間） 復習：義肢および切断の基礎についてまとめる（0.5 時間）	河村　廣幸
7	切断原因と治療	予習：切断原因、特に末梢循環障害について予習しておく（0.5 時間）	河村　廣幸

		復習：各疾患の理解を深めるよう、基礎医学の教科書をまとめる（0.5 時間）	
8	切断部位と切断術	予習：切断手術について、整形外科学の教科書を読んでおく（0.5 時間） 復習：切断法の特徴を復習する（0.5 時間）	河村　廣幸
9	切断者の評価・断端管理法	予習：一般的な理学療法評価について復習しておく（0.5 時間） 復習：切断者の評価と断端管理法について整理する（0.5 時間）	河村　廣幸
10	足継手・下腿義足ソケット・股義足	予習：足継手・下腿義足ソケット・股義足について予習しておく（0.5 時間） 復習：足継手の役割、下腿義足ソケットの特徴・股義足についてまとめる（0.5 時間）	河村　廣幸
11	膝継手・大腿義足ソケット	予習：膝継手・大腿義足ソケットについて予習しておく（0.5 時間） 復習：膝継手の役割、大腿義足ソケットの特徴についてまとめる（0.5 時間）	河村　廣幸
12	義足歩行の特徴・歩行練習	予習：運動学の歩行・異常歩行について復習しておく（0.5 時間） 復習：義足歩行の動作観察についてまとめる（0.5 時間）	河村　廣幸
13	下腿義足の異常歩行	予習：下腿義足のアライメントと一般的な異常歩行について復習しておく 復習：下腿切断患者・アライメントの変化による異常歩行をまとめる	河村　廣幸
14	大腿義足の異常歩行	予習：大腿義足のアライメントと一般的な異常歩行について復習しておく（0.5 時間） 復習：大腿切断患者・アライメントの変化による異常歩行をまとめる（0.5 時間）	河村　廣幸
15	応用動作練習	予習：下肢切断を想定し、床上動作・立ち上がり・階段・スロープでの活動を行っておく（0.5 時間） 復習：下肢切断者の応用動作がまねできるよう身体を動かし復習する（0.5 時間）	河村　廣幸
成績評価方法と基準			割合
筆記試験にて 60 点以上で単位認定とする＜DP１・２＞			記述試験 100%

授業科目名	地域理学療法学(理学)（Community Physical Therapy）				
主担当教員	澤田　優子		担当教員	澤田　優子	
科目ナンバリング	SS401	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

地域理学療法は疾患特性を踏まえたうえで、地域でどのような生活をしていくかを考えていくことが重要である。
本講義では、地域理学療法の概念および介護保険制度などの関連制度について解説する。
また、症例検討やグループワークを積極的に実施し、地域理学療法の実際を理解できることを目標とする。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．地域理学療法の概念を理解する
２．地域理学療法に関する制度を理解する
３．地域理学療法の実際を理解する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義前、講義後に教科書および配布資料を読んでおくこと
随時確認テストを実施する

教科書

ビジュアルレクチャー　地域理学療法学　第 3 版　浅川育代　編著　医歯薬出版株式会社

参考書

地域リハビリテーション学テキスト（改訂第 3 版）　備酒伸彦　南江堂
地域リハビリテーション原論 大田 仁史　（著）　医歯薬出版株式会社
地域理学療法学　重森健太(著)　羊土社

研究室／オフィスアワー

月曜日 3 時限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	地域リハビリテーション総論 1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
2	地域リハビリテーション総論 2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
3	地域理学療法の対象及び関連制度 1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
4	地域理学療法の対象および関連制度 2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
5	介護保険制度下での地域理学療法 1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
6	介護保険制度下での地域理学療法 2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
7	介護保険制度下での地域理学療法 3	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田

8	在宅理学療法 1	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
9	在宅理学療法 2	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
10	在宅理学療法 3	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
11	在宅理学療法 4	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
12	在宅理学療法 5	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
13	在宅理学療法 6	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
14	まとめ、確認テスト	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田
15	症例検討	予習：教科書または配布資料の当該箇所を読んでおく 復習：教科書または配布資料の当該箇所を読み、講義内容をまとめる。これまでの講義内容を復習しておく。	澤田
成績評価方法と基準			割合
成績評価＜DP①＞ 1.課題(各回) 2.確認テスト 2/3 の出席が必要			1.30% 2.70%

授業科目名	生活環境論(理学)（Living Environment）				
主担当教員	三木屋　良輔		担当教員	三木屋　良輔、林　真太郎	
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

この授業では、障がいのある人や高齢者が、日常生活をする上で、個人の障がいの因子だけでなく、周りの環境と相互に影響を及ぼすことを述べるとともに、国際生活分類(ICF)に基づき、現状の障がいが地域ケアにおいてどのような影響を及ぼしているのか、それを解消するためにどのようなことが理学療法士に求めれているのかをを理解する。
具体的には、高齢者の日常生活や心身機能について述べるとともに、福祉のまちづくり、住宅改修、その他の福祉用具（起居関連用具・移乗関連用具・入浴関連用具・自助具関連・排泄関連）について述べる。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.生活環境論の目的を理解することができる。
2.国際生活機能分類（ICF）について理解することができる。
3.福祉用具や住宅について理解することができる。
4.高齢者の心身機能や日常生活を理解できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.教科書や配布された講義資料は、事前に読んでおくこと。
2.出席と態度は重視する。携帯は授業中に触らないこと。
3.わからない箇所があれば、必ず質問すること。
4.講義中のメモをとること、試験に出題有り。

教科書

1)細田多穂、生活環境テキスト、南江堂、2016

参考書

奈良勲：日常生活活動・生活環境学第 4 版、医学書院、2012

研究室／オフィスアワー

授業時間、金曜日以外の空き時間

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	生活環境とは	復習:授業を元に教科書･配布資料を見直す（1時間）	
2	障害構造分類について	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
3	高齢者の身体特性・ADL について	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
4	ノーマライゼーションとバリアフリー概念	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
5	環境体験の実施	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
6	生活環境整備に関する法的制度について	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
7	介護保険制度について	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
8	住宅改修について	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	

9	浴室改修について	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
10	環境整備グループワーク①	予習：教科書を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
11	環境整備グループワーク②	予習：教科書を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
12	環境整備グループワーク発表	予習：前回の授業を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
13	起居・移乗・移動関連用具1（実技）	予習：前回の授業を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
14	起居・移乗・移動関連用具2（実技）	予習：前回の授業を読んでおく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
15	起居・移乗・移動関連用具3（実技）	予習：これまでの授業を確認しておく 復習：授業を元に教科書・配布資料の確認（1時間）	
成績評価方法と基準			割合
1、図面課題と、2、定期試験の結果、60 点以上で単位を認定する。なお、レポートについては授業の中で説明する〈DP①〉			1、２０％ 2、８０％

授業科目名	老年期理学療法学(理学)（Geriatric Physical Therapy）				
主担当教員	澤田 優子		担当教員	澤田 優子、林 真太郎	
科目ナンバリング	SS404a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 3 限 金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

老年期の理学療法においては、老年期の特性を正しく認識し、総合的に機能を把握することが必要である。
本講義では、老年期の特性について、運動機能面、認知機能面など、多側面から解説する。また、症例検討やグループワークを実施し、理学療法の実際を理解することを目標とする。

到達目標

１．老年期の特徴を理解する
２．老年期の理学療法の実際を理解する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義前、講義後に配布資料を読んでおくこと。
随時確認テストを実施する。
グループワークに積極的に参加すること。

教科書

１．健康長寿診療ハンドブック 実地医家のための老年医学のエッセンス：日本老年医学会（編集）メジカルビュー社
２．リハビリテーション基礎評価学：潮見泰藏（編集）羊土社
３．日常生活活動学・生活環境学：奈良勲（監修）鶴見隆正／隆島研吾（編集）医学書院
※２、３は他学年講義で既に使用した版を持参

参考書

高齢者理学療法学テキスト 細田多穂（監修）南江堂
高齢者の理学療法　森本 榮（編集）　三輪書店
高齢者の機能障害に対する運動療法　運動療法学各論 市橋 則明（編集）　文光堂
高齢者理学療法学 島田裕之（総編集）　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

月曜日３時限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	老年期の理学療法評価 1	予習：老年学についてのこれまでの知識を整理しておく。講義該当箇所を読んでおく。 復習：教科書の講義該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
2	老年期の理学療法評価 2	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
3	老年期の理学療法評価 3	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
4	老年期の理学療法評価 4	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
5	老年期の特徴と理学療法 1	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
6	老年期の特徴と理学療法 2	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣

7	老年期の疾患特性別理学療法 1	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
8	老年期の疾患特性別理学療法 2	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
9	老年期の疾患特性別理学療法 3	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
10	老年期の疾患特性別理学療法 4	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
11	老年期の疾患特性別理学療法 5、確認テスト	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
12	老年期の疾患特性別理学療法 6	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
13	老年期の疾患特性別理学療法 7	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
14	老年期の疾患特性別理学療法 8	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる	澤田 林 檜垣
15	高齢社会の課題と展望、講義のまとめ	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：教科書・配布資料の該当箇所を読み、講義内容をまとめる。これまでの講義内容を復習しておく。	澤田 林 檜垣
成績評価方法と基準			割合
成績評価＜DP①＞ 1．課題（毎授業で実施します。計 15 回） 2．確認テスト 2/3 以上の出席が必要			1. 50% 2. 50%

授業科目名	理学療法特論Ⅰ(理学)（Advanced Physical Therapy Ⅰ)				
主担当教員	木内 隆裕		担当教員	木内 隆裕、澤田 優子、仲本 正美、杉本 圭、松尾 浩希	
科目ナンバリング	SS507a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 2 限 水曜 3 限 木曜 2 限 木曜 3 限 木曜 4 限 金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

これまでに学んだ種々の領域の(a)代表的な疾患の病態、(b)それらに対する理学療法（評価及び治療）について説明し、(c)それらを理解するために必要な解剖学・生理学・病理学・運動学の知識との関係を学修する。これにより、疾患の病態理解や、理学療法プログラム立案のための思考を促進する。

到達目標

1) 代表的疾患の病態と、その理解の基盤となる解剖学・生理学・病理学の知識を関係づけることができる。
2) 代表的疾患に対する典型的な理学療法（評価及び治療）と、その理解の基盤となる解剖学・生理学・運動学の知識を関係づけることができる。
3) 代表的疾患の病態と、それらに対する典型的な理学療法（評価及び治療）の知識を関係づけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1) 授業進行において、項目毎の予習・復習が必須となるため、怠らないように注意すること。
2) 下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも教員ごとに展開されるので注意すること。

教科書

1) 各授業の予習・復習欄に記載した書籍（他の授業で教科書指定された書籍）

参考書

1) 医歯薬出版編. 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2020, 医歯薬出版.
2) 医歯薬出版編. 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 2020, 医歯薬出版.
3) 医歯薬出版編. 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎 PT 学 2020, 医歯薬出版.
4) 医歯薬出版編. 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 PT 治療学 2020, 医歯薬出版.
5) リハドリル. アイペック社.

研究室／オフィスアワー

在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	呼吸器疾患と理学療法	1) 松尾善美編. 内部障害理学療法学. 第 1 版. 羊土社. 2016. (PT・OT ビジュアルテキスト). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	杉本
2	循環器疾患と理学療法	1) 松尾善美編. 内部障害理学療法学. 第 1 版. 羊土社. 2016. (PT・OT ビジュアルテキスト). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	杉本
3	糖尿病と理学療法	1) 松尾善美編. 内部障害理学療法学. 第 1 版. 羊土社. 2016. (PT・OT ビジュアルテキスト). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	松尾
4	骨折と基礎評価①	1) 潮見泰蔵, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第 1 版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2) 富士武史, 河村広幸, 小柳磨毅. 整形外科疾患の理学療法-ここがポイント!. 第 2 版, 金原出版, 2006. 3) Kirsten Gotz-Neumann(原著). 月城慶一ら	杉本

		(訳). 観察による歩行分析. 第1版, 医学書院, 2005. を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	
5	骨折と基礎評価②	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2) 富士武史, 河村広幸, 小柳磨毅. 整形外科疾患の理学療法-ここがポイント!. 第2版, 金原出版, 2006. 3) Kirsten Gotz-Neumann(原著). 月城慶一ら(訳). 観察による歩行分析. 第1版, 医学書院, 2005. を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	松尾
6	骨折と基礎評価③	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2) 富士武史, 河村広幸, 小柳磨毅. 整形外科疾患の理学療法-ここがポイント!. 第2版, 金原出版, 2006. 3) Kirsten Gotz-Neumann(原著). 月城慶一ら(訳). 観察による歩行分析. 第1版, 医学書院, 2005. を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	松尾
7	高齢疾患と ADL①	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2)奈良 勲, 日常生活活動学・生活環境学(標準理学療法学). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	澤田
8	高齢疾患と ADL②	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2)奈良 勲, 日常生活活動学・生活環境学(標準理学療法学). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	澤田
9	脳卒中と理学療法①	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2) 川平和美編. 神経内科学. 第5版, 医学書院, 2019, (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	木内
10	脳卒中と理学療法②	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2) 川平和美編. 神経内科学. 第5版, 医学書院, 2019, (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	木内
11	脊髄損傷と理学療法①	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2) 川平和美編. 神経内科学. 第5版, 医学書院, 2019, (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野).	木内

		を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	
12	脊髄損傷と理学療法②	1) 潮見泰藏, 下田信明編. リハビリテーション基礎評価学. 第1版, 羊土社, 2014, (PT・OT ビジュアルテキスト). 2) 川平和美編. 神経内科学. 第5版, 医学書院, 2019, (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	木内
13	補装具と理学療法①	1) 細田多穂(監修), 義肢装具学テキスト. 改訂第3版, 南江堂, 2017. (シンプル理学療法学シリーズ). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	仲本
14	補装具と理学療法②	1) 細田多穂(監修), 義肢装具学テキスト. 改訂第3版, 南江堂, 2017. (シンプル理学療法学シリーズ). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	仲本
15	補装具と理学療法③	1) 細田多穂(監修), 義肢装具学テキスト. 改訂第3版, 南江堂, 2017. (シンプル理学療法学シリーズ). を確認する。 ※予習・復習はそれぞれ 60 分間以上を目安に行うこと。	仲本
成績評価方法と基準			割合
1) 授業ごとに提示される課題（配分 30%）ならびに定期試験（配分 70%）で評価する。 2) 総合成績で 60%以上（小数切り捨て）の得点を取得した場合に単位を認定する。 2/3 以上の出席を必要とする。			課題 30% 試験 70%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):三木屋 (Graduation Research I)				
主担当教員	三木屋 良輔		担当教員	三木屋 良輔	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
本ゼミのメインテーマは、骨格筋増強、運動耐容能向上である。具体的には高齢者に見られる筋減少症（サルコペニア）を改善するための科学的基礎データの蓄積を目指す。また地域高齢者の介護予防について、高齢者の行動変容を生み出すシステム作りも目指す。よって本ゼミでは、骨格筋増強のメカニズムを中心とした学習を中心に展開する。

到達目標

１．研究倫理について理解することができる。
２．専門領域における資料および文献収集ができる
３．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
４．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

無し

参考書

市橋則明　著：運動療法学．文光堂
鈴木隆雄　監修：完全版介護予防マニュアル．法研

研究室／オフィスアワー

火曜日午後、金曜日以外の時間に予めアポイントを取ってください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ゼミオリエンテーション１	年間行動予定の確認（１時間）	
2	研究概論１	研究課題を考えておく（１時間）	
3	体操実技演習	予防体操を予習する（１時間）	
4	地域介護予防活動１	予防体操を実演する（１時間）	
5	筋力測定実技演習１	MMT を予習しておく（１時間）	
6	可動域測定実技演習２	ROM-T を予習しておく（１時間）	
7	文献抄読会１	課題文献を予習しておく（１時間）	
8	文献抄読会２	課題文献を予習しておく（１時間）	
9	文献抄読会３	課題文献を予習しておく（１時間）	
10	地域介護予防活動２	予防体操を実演する　（１時間）	
11	機器使用実習１	関節トルクについて予習しておく（１時間）	
12	機器使用実習２	肺機能について予習しておく（１時間）	
13	文献抄読４	課題文献を予習しておく（１時間）	
14	文献抄読５	課題文献を予習しておく（１時間）	
15	地域介護予防活動３	予防体操を実演する（１時間）	
16	文献抄読６	課題文献を予習しておく（１時間）	
17	症例検討会	経験した症例のレジュメを作成する（１時間）	
18	文献抄読７	課題文献を予習しておく（１時間）	
19	文献抄読８	課題文献を予習しておく（１時間）	
20	地域介護予防活動４	予防体操を実演する（１時間）	
21	文献抄読９	課題文献を予習しておく（１時間）	
22	文献抄読10	課題文献を予習しておく（１時間）	
23	文献抄読11	課題文献を予習しておく（１時間）	
24	文献抄読12	課題文献を予習しておく（１時間）	
25	地域介護予防活動５	予防体操を実演する（１時間）	
26	研究計画作成１	実施予定の研究計画を立てる。（１時間）	
27	研究計画作成２	研究の予備実験を実施する（１時間）	
28	研究計画作成３	研究の目的を決める（１時間）	
29	研究計画作成４	研究計画を完成する（１時間）	
30	研究計画作成５	倫理委員会申請書類を作成する（１時間）	

成績評価方法と基準	割合
１、研究計画、２、中間報告会を評価対象とする<DP①④>　4/5 以上の出席が必要	１、研究計画２０%、２、中間報告会８０%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):河村 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	河村 廣幸		担当教員	河村 廣幸	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
基本的な研究方法やごく基本的な統計学など、スムーズな研究進行のための基礎知識を得ると共に、パイロットスタディが考えられるようにする。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．専門領域における資料および文献収集ができる。
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

随時資料は提供する

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

相談の上、決定する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	本卒業研究の概要説明	卒業研究を開始するにあたり、疑問や構想などをまとめておく。	
2	医学研究のあり方	医学研究とは何か、ネット上でよいので詳しく調べておく	
3	理学療法研究について①	理学療法士の行っている研究について、学会抄録から概要を検索しておく	
4	理学療法研究について②	理学療法研究について、学会抄録から研究方法を学習しておく	
5	理学療法研究について③	研究活動における被験者の権利について学習しておく	
6	情報処理と研究法①	１年時に学習した情報処理について再学習しておく	
7	情報処理と研究法②	自身の PC についての辞書登録について調べておく	
8	情報処理と研究法③	自身の PC 上で、IME・ワープロ・表計算ソフトの基本的な使い方を予習しておく	
9	情報処理と研究法④	データベースの概念について調べておく	
10	情報処理と研究法⑤	データベースにしたい情報について収集しておく	
11	卒業研究例の掲示① 他校の事例から	ネット上でよいので、分野を問わず、大学の卒業研究論文について、少なくとも５つ以上は読んでおくこと。	
12	卒業研究例の掲示② 本校の事例から	図書館に有る当校の卒業研究を一読しておく	
13	卒業研究例の掲示③ 本校の事例から	図書館に有る当校の卒業研究を一読しておく	
14	基礎統計学①	平均・標準偏差・T 検定など基本統計用語について調べておく	
15	基礎統計学②	データの種類と尺度について調べておく	
16	基礎統計学③	研究デザインと母集団・標本など、サンプルの取り出し方など調べておく	
17	基礎統計学④	仮説検定・相関分析・要因分析・回帰分析・主成分分析などについて調べておく。	
18	自身が行いたい研究の検討会１	研究動機、対象と方法、予想される結果についてまとめて、書類として先に提出する。	
19	自身が行いたい研究の検討会２	発表の準備をしておく	
20	自身が行いたい研究の検討会３	発表の準備をしておく	
21	文献収集と抄読会１	発表会での指摘を元に、文献や資料の収集、まとめを行う。	
22	文献収集と抄読会２	必用な文献の収集とまとめをしておく	
23	文献収集と抄読会３	必用な文献の収集とまとめをしておく	
24	文献収集と抄読会４	必用な文献の収集とまとめをしておく	
25	パイロットスタディ１	予備実験の準備をしておく（要相談）。	
26	パイロットスタディ２	データ収集準備・機材および人材を準備しておく	
27	パイロットスタディ３	データ収集準備・機材および人材を準備しておく	
28	パイロットスタディ４	データ収集準備・機材および人材を準備しておく	
29	中間発表会１	発表会の準備、プレゼンソフトにて発表資料を作成しておく。	
30	中間発表会２	発表会の準備、プレゼンソフトにて発表資料を作成しておく。	

成績評価方法と基準	割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする＜DP１・４＞ 4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):仲本 (Graduation Research I)				
主担当教員	仲本 正美		担当教員	仲本 正美	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。 学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。 研究テーマは若年健常者の足底感覚の特性の解明などとする。
到達目標
1．研究倫理について理解することができる。 2．専門領域における資料および文献収集ができる。 3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。 4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。DP①④
履修上の注意(学生へのメッセージ)
指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。
教科書
配布資料、文献など
参考書
随時紹介する
研究室／オフィスアワー
月曜日 1 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
2	オリエンテーション②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
3	研究手法①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
4	研究手法②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
5	研究手法③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
6	研究手法④	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
7	研究手法⑤	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
8	研究手法⑥	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
9	研究計画作成①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
10	研究計画作成②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
11	研究計画作成③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
12	研究計画作成④	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
13	研究計画作成⑤	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
14	研究計画作成⑥	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
15	倫理審査申請書作成①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
16	倫理審査申請書作成②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
17	倫理審査申請書作成③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
18	倫理審査申請書作成④	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
19	予備的実験①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
20	予備的実験②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
21	予備的実験③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
22	予備的実験③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
23	予備的実験④	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
24	分析計画作成①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
25	分析計画作成②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
26	中間報告会準備①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
27	中間報告会準備②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
28	中間報告会準備③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
29	中間報告会準備④	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
30	中間報告会準備⑤	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	

成績評価方法と基準	割合
1．提出された研究計画および分析計画の内容を評価対象とする 2．中間報告会での発表および討議内容を評価対象とする 3．単位認定のための必要出席回数は、4/5 以上とする　DP①④	1．50% 2．50%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):堀 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	堀　竜次		担当教員	堀　竜次	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
呼吸理学療法トピックスを知るため、呼吸理学療法講習会等へ参加する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。〈DP①〉
2．専門領域における資料および文献収集ができる。〈DP①④〉
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。〈DP①④〉
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員と話し合って研究活動を進めるが、学生自身が主体的に取り込むこと。

教科書

教科書を使用しない
資料は随時配布する

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

金曜日３・４限（研究室)、それ以外は個別に相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
2	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
3	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
4	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
5	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
6	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
7	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
8	研究課題の決定と情報収集	文献を検索、整理しておく	堀
9	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
10	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
11	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
12	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
13	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
14	研究計画およびスケジュール立案	配布資料を読んでおく	堀
15	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
16	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
17	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
18	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
19	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
20	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
21	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
22	パイロット・スタディの実施	測定機器等の準備を行う	堀
23	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
24	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
25	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
26	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
27	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
28	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
29	研究計画書作成とプレゼンテーション	プレゼンテーション事前準備を行う	堀
30	中間報告会発表	発表後、意見をもとに計画書を修正する	堀

成績評価方法と基準	割合
1．提出された研究計画書の内容を評価対象とする 2．中間報告会での発表および討議内容を評価対象とする 3．単位認定のための必要出席回数は、4/5 以上とする DP①④	1.50% 2.50%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):森谷 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	森谷 正之		担当教員	森谷 正之	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
動物実験により口腔顔面領域の感覚情報伝達、運動制御に関わる神経機構の解明を目指す。動物実験の実施に関わる倫理規程等を習得すると共に、基本的な実験手技、データの記録と取りまとめ、実験結果の整理について学ぶ。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる（DP①④）。
2．専門領域における資料および文献収集ができる（DP①④）。
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する（DP①④）。
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる（DP①④）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。
動物実験に関わる教育訓練を受講すること。

教科書

教科書として指定する書物はないが、必要に応じて資料等を配布する。

参考書

必要に応じて資料等を配布する。

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階（研究室 11）
月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：予め準備しておいた資料等を読んで下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
2	専門領域における資料および文献収集（神経解剖学の基礎）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
3	専門領域における資料および文献収集（口腔顔面領域の解剖学）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
4	専門領域における資料および文献収集（咀嚼運動の基礎知識）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
5	専門領域における資料および文献収集（嚥下の基礎知識）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
6	動物実験に関わる研究倫理と実験動物の特性についての学習（関連法規の基礎知識）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
7	動物実験に関わる研究倫理と実験動物の特性についての学習（研究倫理の基礎知識）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
8	動物実験に関わる研究倫理と実験動物の特性についての学習（実験動物の種類と特性）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
9	実験動物の取り扱い（飼養方法の概要）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
10	実験動物の取り扱い（麻酔方法の種類と特徴）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
11	実験動物の取り扱い（人畜共通感染症と対策）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
12	研究テーマと方法の検討（文献検索によるこれまでの研究成果の蓄積）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
13	研究テーマと方法の検討（未知の事象の整理）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
14	研究テーマと方法の検討（研究計画書の作成）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
15	動物実験①（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
16	動物実験②（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
17	動物実験③（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
18	動物実験④（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
19	動物実験⑤（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
20	動物実験⑥（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
21	動物実験⑦（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
22	動物実験⑧（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
23	動物実験⑨（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	
24	動物実験⑩（データ収集）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1 時間）。	

25	動物実験データの取りまとめ（結果の整理）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1時間）。	
26	動物実験データの取りまとめ（結果の統計処理）	予習：前回の講義内容を再確認し、必要な資料収集をして下さい（1時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1時間）。	
27	中間報告会の準備（得られた結果の検証）	予習：中間報告会に向けて、データ検証と資料収集をして下さい（1時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1時間）。	
28	中間報告会の準備（データ整理）	予習：中間報告会に向けて、データ検証と資料収集をして下さい（1時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1時間）。	
29	中間報告会の準備（結果の考察）	予習：中間報告会に向けて、データ検証と資料収集をして下さい（1時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験計画ついて考察して下さい（1時間）。	
30	中間報告会の準備（プレゼンテーションの準備）	予習：中間報告会に向けて、プレゼンテーションの準備をして下さい（2時間）。	
成績評価方法と基準			割合
研究計画書の提出、中間報告会等での発表を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要 動物実験に関わる教育訓練を受講すること ①研究計画書の内容（DP①④） ②中間報告会等での発表（DP①④）			①50% ②50%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):澤田（Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	澤田 優子		担当教員	澤田 優子	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 5 限）、後期（月曜 1 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
研究テーマは、小児の理学療法および地域で実施する健康増進などとする。
研究手法として、調査研究を実施する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．専門領域における資料および文献収集ができる。
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

配布資料、文献など

参考書

随時紹介する

研究室／オフィスアワー

月曜日１限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの決定（１）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
2	研究テーマの決定（２）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
3	研究テーマの決定（３）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
4	研究テーマの決定（４）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
5	研究テーマの決定（５）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
6	関心領域の文献検討（１）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
7	関心領域の文献検討（２）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
8	関心領域の文献検討（３）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
9	関心領域の文献検討（４）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
10	関心領域の文献検討（５）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
11	研究計画作成（１）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
12	研究計画作成（２）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
13	研究計画作成（３）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
14	研究計画作成（４）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
15	研究計画作成（５）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	

16	倫理審査申請（１）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
17	倫理審査申請（２）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
18	倫理審査申請（３）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
19	倫理審査申請（４）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
20	倫理審査申請（５）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
21	予備調査（１）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
22	予備調査（２）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
23	予備調査（３）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
24	予備調査（４）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
25	予備調査（５）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
26	中間報告会準備（１）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
27	中間報告会準備（２）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
28	中間報告会準備（３）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
29	中間報告会準備（４）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
30	中間報告会準備（５）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	
成績評価方法と基準			割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要			課題への取り組み姿勢 50%研究計画書の提出、中間報告会での発表 50%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):中根 （Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	中根 征也		担当教員	中根 征也	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 5 限）、後期（月曜 1 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。

理学療法の分野の中でも特に、「神経発達症児（発達障害児）への運動療法」「生態心理学的概念に基づいた運動療法」「患者の知覚・認知領域の追求」「患者教育」について運動療法の必要性や効果について研究を行なう。具体的には、関連分野の基本文献ならびに各自（各グループ）の研究テーマに即した論文を輪読し、各自またはグループ単位で卒業研究に向けた予備的研究を実施する。なお、前述した領域以外でも学生の提案で教員が指導可能と判断した研究でも積極的に受け入れる。

到達目標

１．研究倫理について理解することができる。【D①④】
２．専門領域における資料および文献収集ができる。【D①④】
３．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。【D①④】
４．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。【D①④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

原則的にゼミを週 1 回のペースで行なっている。定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み、何事もしっかり楽しむこと。
学生主体のゼミではあるが、各学生の状況に合わせながら、担当教員と報告・連絡・相談をしっかり行ないながら進めて行く。

教科書

特に定めない。

参考書

松本茂 他：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法，玉川大学出版部，2014
佐藤望 編：アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第 2 版，慶応義塾大学出版会，2012
山田実 編：PT・OT のための臨床研究はじめの一歩，羊土社，2016

研究室／オフィスアワー

4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション／卒業研究について説明する。	予習：卒業研究への期待と不安を自分なりにまとめる。(30 分) 復習：授業で述べた「卒業研究について」をまとめる。(30 分)	
2	卒業論文テーマの見つけ方／テーマの見つけ方について説明する。	予習：取り組みたい「研究テーマ」を考える。(30 分) 復習：研究テーマを幾つか抽出する。(30 分)	
3	卒業論文執筆について／論文執筆方法について説明する。	予習：レポートや論文の書き方について調べる。(30 分) 復習：論文の書き方についてまとめる。(30 分)	
4	文献読解と要約の方法／テキストや文献、論文の読解と要約方法を説明する。	予習：興味のある「文献」を入手する。(30 分) 復習：入手した「文献」を要約する。(30 分)	
5	文献抄読①	予習：提示された論文を読み，「要約」する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
6	文献抄読②	予習：提示された論文を読み，「要約」する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
7	文献抄読③	予習：提示された論文を読み，「要約」する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
8	文献抄読④	予習：提示された論文を読み，「要約」する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまと	

		める．(30 分)	
9	文献抄読⑤	予習：提示された論文を読み，「要約」する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
10	文献抄読⑥	予習：提示された論文を読み，「要約」する。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
11	研究テーマの検討①／2-3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。	予習：研究テーマについての発表準備。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
12	研究テーマの検討②／2-3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。	予習：研究テーマについての発表準備。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
13	研究テーマの検討③／2-3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。	予習：研究テーマについての発表準備。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
14	研究テーマの決定①／各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。	予習：研究テーマについての発表準備。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
15	研究テーマの決定②／各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。	予習：研究テーマについての発表準備。(30 分) 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
16	オリエンテーション／後期の取り組みを説明する。	予習：これまでの授業内容をまとめる。(30 分) 復習：これからの研究活動計画をたてる。(30 分)	
17	研究テーマ発表①／2-3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	予習：発表準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
18	研究テーマ発表②／2-3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	予習：発表準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
19	研究テーマ発表③／2-3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	予習：発表準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
20	研究計画の仮立案①／教員と話し合いをしながら、研究計画の仮立案を行う。	予習：研究計画書について調べる。(30 分) 復習：授業内容をまとめる。(30 分)	
21	研究計画の仮立案②／教員と話し合いをしながら、研究計画の仮立案を行う。	予習：研究計画書について調べる。(30 分) 復習：授業内容をまとめる。(30 分)	
22	プレ卒業研究の検討①／準備①	予習：プレ実験の準備（30 分） 復習：授業内容をまとめる。(30 分)	
23	プレ卒業研究の検討②／準備②	予習：プレ実験の準備（30 分） 復習：授業内容をまとめる。(30 分)	
24	プレ卒業研究の実験①	予習：プレ実験の準備（30 分） 復習：実験結果をまとめる。(30 分)	
25	プレ卒業研究の実験②	予習：プレ実験の準備（30 分） 復習：実験結果をまとめる。(30 分)	
26	研究計画書の作成①／担当教員と話し合いをしながら作成する。	予習：研究計画書の作成（30 分） 復習：授業内容をまとめ，研究計画書を修正する。（30 分）	
27	研究計画書の作成②／担当教員と話し合いをしながら作成する。	予習：研究計画書の作成（30 分） 復習：授業内容をまとめ，研究計画書を修正する。（30 分）	
28	研究計画書の作成③／担当教員と話し合いをしながら詳細計画を作成する。	予習：研究計画書の作成（30 分） 復習：授業内容をまとめ，研究計画書を修正する。（30 分）	
29	研究計画書の作成④／担当教員と話し合いをしながら詳細計画を作成する。	予習：研究計画書の作成（30 分） 復習：授業内容をまとめ，研究計画書を修正する。（30 分）	
30	発表会	予習：発表資料の準備（30 分） 復習：授業内でディスカッションした内容をまとめる．(30 分)	
成績評価方法と基準			割合
①研究計画書の提出【D①④】 ②中間報告会での発表【D①④】 ③4/5 以上の出席が必要【D①④】			①計画書：50% ②報告会：50%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):前田 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	前田 薫		担当教員	前田 薫	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
当卒業研究では、立位姿勢制御機構の神経生理学的検討を大テーマとする研究を行う。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．専門領域における資料および文献収集ができる。
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

文献、資料、記事等を随時配布する。

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

金曜日とするが、事前に予約をすること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	先行研究レビュー①	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
2	先行研究レビュー②	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
3	先行研究レビュー③	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
4	先行研究レビュー④	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
5	先行研究レビュー⑤	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
6	先行研究レビュー⑥	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
7	先行研究レビュー⑦	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
8	先行研究レビュー⑧	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。	

		復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
9	先行研究レビュー⑨	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
10	先行研究レビュー⑨	予習：事前に配布する文献を読み要約を作成する。 復習：文献の内容について授業で討論したことを研究ノートに記録する。	
11	研究計画書の作成①	予習：研究計画書をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。	
12	研究計画書の作成②	予習：研究計画書をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。	
13	研究計画書の作成③	予習：研究計画書をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。	
14	研究計画書の作成④	予習：研究計画書をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。	
15	研究計画書の作成⑤	予習：研究計画書をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。	
16	研究計画書の作成⑥	予習：研究計画書をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論にもとづいて研究計画書を修正する。	
17	倫理申請書の作成①	予習：研究倫理についての配布資料を読み、それにもとづいて倫理申請書類をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論内容にもとづいて申請書を修正する。	
18	倫理申請書の作成②	予習：研究倫理についての配布資料を読み、それにもとづいて倫理申請書類をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論内容にもとづいて申請書を修正する。	
19	倫理申請書の作成③	予習：研究倫理についての配布資料を読み、それにもとづいて倫理申請書類をあらかじめ作成してくる。 復習：授業での討論内容にもとづいて申請書を修正する。	
20	予備的実験①	予習：予備的実験の手順を確認しておく 復習：予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。	
21	予備的実験②	予習：予備的実験の手順を確認しておく 復習：予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。	
22	予備的実験③	予習：予備的実験の手順を確認しておく 復習：予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。	
23	予備的実験④	予習：予備的実験の手順を確認しておく 復習：予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。	
24	予備的実験⑤	予習：予備的実験の手順を確認しておく 復習：予備的実験の実施結果から生じた問題点を研究ノートに記録する。	
25	研究計画の修正①	予習：予備的実験の結果にもとづき、研究計画の修正案をつくる。 復習：授業での討論にもとづき、研究計画を修正する。	
26	研究計画の修正②	予習：予備的実験の結果にもとづき、研究計画の修正案をつくる。 復習：授業での討論にもとづき、研究計画を修正する。	
27	研究計画のプレゼンテーションの準備①	予習：研究計画のプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論にとづいて、スライドの修正を行う。	
28	研究計画のプレゼンテーションの準備②	予習：研究計画のプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論にとづいて、スライドの修正を行う。	
29	研究計画のプレゼンテーションの準備③	予習：研究計画のプレゼンテーションのスライドを作成してくる。 復習：授業での討論にとづいて、スライドの修正を行う。	
30	研究計画のプレゼンテーション	予習：プレゼンテーションの練習 復習：質疑応答の内容をもとに研究計画の修正が必要であればそれを行う。	

成績評価方法と基準	割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):角田 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	角田 晃啓		担当教員	角田 晃啓	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。<DP①>
2．専門領域における資料および文献収集ができる。<DP①④>
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。<DP①④>
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。<DP④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

なし

参考書

各自必要な図書を探すこと

研究室／オフィスアワー

在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの決定①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
2	研究テーマの決定②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
3	文献抄読①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
4	文献抄読②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
5	研究倫理①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
6	研究倫理②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
7	文献抄読③	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
8	文献抄読④	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
9	研究テーマの構造化①	PECO について学習し、自身のテーマを構造化する	
10	研究テーマの構造化②	PECO について学習し、自身のテーマを構造化する	
11	研究テーマの構造化③	PECO について学習し、自身のテーマを構造化する	
12	文献抄読⑤	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
13	文献抄読⑥	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
14	研究テーマ発表会①	プレゼンテーションの準備を行う	
15	研究テーマ発表会②	プレゼンテーションの準備を行う	
16	文献抄読⑦	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
17	文献抄読⑧	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
18	文献抄読⑨	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
19	研究計画発表会①	プレゼンテーションの準備を行う	
20	研究計画発表会②	プレゼンテーションの準備を行う	
21	研究倫理③	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
22	研究倫理④	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
23	研究倫理⑤	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
24	予備実験①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
25	予備実験②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
26	予備実験③	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
27	研究計画の修正①	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
28	研究計画の修正②	課題の遂行に必要な知識の充足につとめること。	
29	研究報告会①	プレゼンテーションの準備を行う	
30	研究報告会②	プレゼンテーションの準備を行う	

成績評価方法と基準	割合
1．研究計画書の提出<DP①> 2．中間報告会での発表<DP①④> 3．ゼミ内でのディスカッション<DP④> 4/5 以上の出席が必要	1．40% 2．40% 3．20%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):木内 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	木内 隆裕		担当教員	木内 隆裕	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。ヒトを対象とした実験研究（主に神経生理学研究、あるいは心理生理学研究）の初歩について学び、シンプルな実験を計画することを目標とする。その目標達成のため、各自の進捗状況に合わせて適宜、課題を課す（英語論文の部分抄読を含む）。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．専門領域における資料および文献収集ができる。
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・指導教員への報告・連絡・相談を怠らないこと。
・実験補助には積極的に参加し、互いに助け合うこと。
・プレゼンテーションを行う場合は、自分で事前に資料を準備すること。
・実験機器は丁寧かつ慎重に扱うこと。

教科書

1) 市橋則明(編)． 運動療法学．障害別アプローチの理論と実際．第 2 版，文光堂，2014.

参考書

1) 水野昇，野村嶬，三谷章(監訳)． 臨床神経科学とリハビリテーション．西村書店，2020.
2) 木塚朝博，木竜徹，増田正，他（著）． 表面筋電図．第 1 版，東京電機大学出版局，2006.
3) 神田善伸(著)．フリー統計ソフト EZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析．第 1 版，南江堂，2014.
4) 対馬栄輝，木村雅彦(編)． リハビリテーション統計学．第 1 版，中山書店，2015.（15 レクチャーシリーズ）.

研究室／オフィスアワー

随時（ただし、授業及び会議の時間以外）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	卒業研究入門	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
2	卒業研究入門	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
3	卒業研究入門	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
4	卒業研究入門	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
5	卒業研究入門	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
6	論文検索及び抄読	"医学中央雑誌"、"Medical Online"、"J-stage"、"医書.jp"による文献検索を独習する。	
7	論文検索及び抄読	"医学中央雑誌"、"Medical Online"、"J-stage"、"医書.jp"による文献検索を独習する。	
8	論文検索及び抄読	"医学中央雑誌"、"Medical Online"、"J-stage"、"医書.jp"による文献検索を独習する。。	
9	論文検索及び抄読	"医学中央雑誌"、"Medical Online"、"J-stage"、"医書.jp"による文献検索を独習する。	
10	論文検索及び抄読	"医学中央雑誌"、"Medical Online"、"J-stage"、"医書.jp"による文献検索を独習する。	
11	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
12	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
13	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
14	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
15	実験の体験、及び、具体的研究内容の考案	限られた範囲内でどのような研究ができるかを考える。	
16	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
17	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
18	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
19	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
20	予備実験の実施	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
21	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
22	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
23	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
24	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
25	予備実験の実施、及び、研究計画の立案	・実験準備は自発的に行う。 ・必ず実験記録をつける。	
26	研究計画の説明用スライド作成	積極的に添削を受けに来る。	
27	研究計画の説明用スライド作成	積極的に添削を受けに来る。	
28	研究計画の説明用スライド作成	積極的に添削を受けに来る。	
29	研究計画の説明用スライド作成	積極的に添削を受けに来る。	
30	研究計画の説明用スライド作成	積極的に添削を受けに来る。	

成績評価方法と基準	割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする。 4/5 以上の出席を必要とする。DP①④	研究計画書 中間報告会

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):工藤（Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	工藤　慎太郎		担当教員	工藤　慎太郎	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。

運動器系理学療法・スポーツ理学療法の臨床研究，基礎研究を行います．三次元動作解析，超音波エコーを用いた運動解析を行います．運動器理学療法やスポーツ理学療法に興味のある学生が履修することを望みます．

到達目標

１．研究倫理について理解することができる。
２．専門領域における資料および文献収集ができる。
３．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
４．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。
特に運動器・スポーツ理学療法に関わるテーマの臨床研究・基礎研究に関わります．

教科書

特に指定はありません．ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な資料は指導教員から提示します．

参考書

特に指定はありません．ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な資料は指導教員から提示します．

研究室／オフィスアワー

木曜日 4－5 限　東棟 4F17 研究室（要事前アポイントメント）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマ決定のための文献抄読と講義	研究テーマに関する文献検索	
2	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
3	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
4	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
5	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
6	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
7	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
8	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
9	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
10	研究テーマ決定のための文献抄読と講義		
11	実験仮説と方法の立案		
12	実験仮説と方法の立案		
13	実験仮説と方法の立案		
14	プレ実験		
15	プレ実験		
16	実験計画書作成		
17	実験計画書作成		
18	実験計画書作成		
19	実験計画書作成		
20	実験開始		
21	実験開始		
22	実験開始		
23	実験開始		
24	実験開始		
25	実験開始		
26	実験開始		
27	実験開始		
28	実験開始		
29	実験開始		
30	実験結果のまとめ		

成績評価方法と基準	割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5 以上の出席を必要とする。DP①④	中間報告会 １００％

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):杉本 (Graduation Research I)				
主担当教員	杉本 圭		担当教員	杉本 圭	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め，先行研究レビュー，研究計画作成を行う。
学習成果として，研究計画を中間発表会で報告する。
理学療法の分野の中でも特に，「神経発達症児への運動介入の効果に関する研究」「身体活動時にヒトがどこを視ているのかに関する研究」「生態心理学概念に基づいた運動療法に関する研究」「患者の知覚・認知領域に関する研究」について，理学療法士の評価技術や運動療法の必要性や効果について研究を行う。具体的には，関連分野の基本文献ならびに各自（各グループ）の研究テーマに即した論文を輪読し，各自またはグループ単位で卒業研究に向けた予備的研究を実施する。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。【DP①④】
2．専門領域における資料および文献収集ができる。【DP①④】
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。【DP①④】
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。【DP①④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

原則的に週 1 回のペースでゼミを行う。また中根ゼミ，松尾ゼミと合同でゼミや勉強会を行うことがある。定められたゼミ時間以外でも事前事後学習に積極的に取り組み，何事も楽しむこと。
学生主体のゼミではあるが，各学生の状況に合わせながら，担当教員と報告・連絡・相談をしっかり行いながら進めて行く。

教科書

特に定めない。

参考書

松本茂 他：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法，玉川大学出版部，2014
佐藤望 編：アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門 第 2 版，慶應義塾大学出版会，2012

研究室／オフィスアワー

木曜日：4・5 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/卒業研究について説明する。	事前学習として，授業において紹介する書籍や資料の事前読了，先行研究の調査と要約を求める場合がある。(1 時間) 事後学習として，計画書の作成，データの取りまとめ，プレゼンテーション資料の作成を求める場合がある。(1 時間)	
2	卒業論文テーマの見つけ方/テーマの見つけ方について説明する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
3	卒業論文執筆について/論文執筆方法について説明する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
4	文献読解と要約の方法/テキストや文献，論文の読解と要約方法を説明する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
5	文献抄読①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
6	文献抄読②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
7	文献抄読③	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
8	文献抄読④	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
9	文献抄読⑤	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
10	文献抄読⑥	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
11	研究テーマの検討①/2-3 名ずつ，各自の研究テーマについて発表を行う。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
12	研究テーマの検討②/2-3 名ずつ，各自の研究テーマについて発表を行う。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
13	研究テーマの検討③/2-3 名ずつ，各自の研究テーマについて発表を行う。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
14	研究テーマの決定①/各自，研究テーマについて担当教員と話し合い，決定する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
15	研究テーマの決定②/各自，研究テーマについて担当教員と話し合い，決定する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
16	オリエンテーション/後期の取り組みを説明する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
17	研究テーマ①/2-3 名ずつ，前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
18	研究テーマ②/2-3 名ずつ，前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
19	研究テーマ③/2-3 名ずつ，前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
20	研究計画の仮立案①/教員と話し合いながら，研究計画の仮立案を行う。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
21	研究計画の仮立案②/教員と話し合いながら，研究計画の仮立案を行う。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
22	プレ卒業研究の検討①/準備①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
23	プレ卒業研究の検討②/準備②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
24	プレ卒業研究の実験①	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
25	プレ卒業研究の実験②	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
26	研究計画書の作成①/担当教員と話し合いをしながら作成する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
27	研究計画書の作成②/担当教員と話し合いをしながら作成する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
28	研究計画書の作成③/担当教員と話し合いをしながら作成する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
29	研究計画書の作成④/担当教員と話し合いをしながら作成する。	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	
30	中間報告会	実施テーマに関する事前，事後の自己学習を行う。(事前 1 時間，事後 1 時間)	

成績評価方法と基準	割合
①研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする【DP①④】 4/5 以上の出席が必要	①100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):松尾 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	松尾 浩希		担当教員	松尾 浩希	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。

主な研究テーマとして、「傷害予防教育」「生態心理学的概念に基づいた運動療法」「視覚と姿勢制御」などについて研究を行う。
研究テーマに関連した分野の文献抄読や卒業研究に向けた予備的研究を各自（各グループ）で実施していく。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。【DP①④】
2．専門領域における資料および文献収集ができる。【DP①④】
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。【DP①④】
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。【DP①④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

原則的にゼミを週 1 回のペースで行う。また、中根先生、杉本先生のゼミと合同ゼミ・勉強会を行うことがあります。
卒業研究の作成に向けて自分のやるべきことに真摯に取り組むこと。
学生が主体となり、積極的に担当教員や学生同士で議論しながら卒業研究を進めてください。

教科書

特に定めない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

石黒圭：この 1 冊できちんと書ける！論文・レポートの基本，日本実業出版社，2012

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション／卒業研究Ⅰについて説明する。	事前学習として、授業において紹介する書籍や資料の事前読了、先行研究の調査と要約などを行う。(1 時間) 事後学習として、計画書の作成、データの取りまとめ、プレゼンテーション資料の作成などを行う。(1 時間)	
2	卒業論文のテーマの見つけ方／テーマの見つけ方について説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
3	卒業論文執筆について／論文執筆方法について説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
4	文献読解と要約の方法／テキストや文献、論文の読解と要約方法を説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
5	文献抄読①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
6	文献抄読②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
7	文献抄読③	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
8	文献抄読④	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
9	文献抄読⑤	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
10	文献抄読⑥	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
11	研究テーマの検討①／2−3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
12	研究テーマの検討②／2−3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
13	研究テーマの検討③／2−3 名ずつ、各自の研究テーマについて発表を行う。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
14	研究テーマの決定①／各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
15	研究テーマの決定②／各自、研究テーマについて担当教員と話し合い、決定する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
16	オリエンテーション／後期の取り組みを説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
17	研究テーマ発表①／2−3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
18	研究テーマ発表②／2−3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
19	研究テーマ発表③／2−3 名ずつ、前期で決定した研究テーマのあらましを発表する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
20	研究計画の仮立案①／担当教員と話し合いながら、研究計画の仮立案を行う。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
21	研究計画の仮立案②／担当教員と話し合いながら、研究計画の仮立案を行う。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
22	プレ卒業研究の検討①／準備①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
23	プレ卒業研究の検討②／準備②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
24	プレ卒業研究の実験①	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
25	プレ卒業研究の実験②	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
26	研究計画書の作成①／担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
27	研究計画書の作成②／担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
28	研究計画書の作成③／担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
29	研究計画書の作成④／担当教員と話し合いながら詳細計画を作成する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	
30	中間報告会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う。(事前 1 時間、事後 1 時間)	

成績評価方法と基準	割合
1．研究計画書の提出【DP①④】 2．中間報告会での発表【DP①④】 4/5 以上の出席を必要とする	1．50% 2．50%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(理学):林 (Graduation Research I)				
主担当教員	林　真太郎		担当教員	林　真太郎	
科目ナンバリング	SS501a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
学習成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
主な研究テーマとして、高齢者の理学療法、介護予防について、特に自己の環境への適応や認知・コミュニケーションの課題に関する研究を行う。

到達目標

1．研究倫理について理解することができる。
2．専門領域における資料および文献収集ができる。
3．専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
4．研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。　DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

担当教員としっかり連絡や相談を行いながら研究活動を進めていくため、学生自身が主体となり積極的に取り組むこと。

教科書

特に定めない。

参考書

島田裕之　総編集：高齢者理学療法学，医歯薬出版，2017.

研究室／オフィスアワー

4階研究室／　金曜日 5 時限目 (その他の時間も含め、事前に相談することが望ましい)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの決定と情報収集	卒業研究を開始するにあたり、自身が考える疑問や構想、課題などをまとめておく	
2	研究テーマの決定と情報収集	関心領域の文献や書籍を検索・収集し、整理しておく	
3	研究テーマの決定と情報収集	関心領域の文献や書籍を検索・収集し、整理しておく	
4	研究テーマの決定と情報収集	関心領域の文献や書籍を検索・収集し、整理しておく	
5	研究テーマの決定と情報収集	関心領域の文献や書籍を検索・収集し、整理しておく	
6	文献抄読	課題文献を事前に予習し、研究計画につなげられるよう事後はまとめておく	
7	文献抄読	課題文献を事前に予習し、研究計画につなげられるよう事後はまとめておく	
8	文献抄読	課題文献を事前に予習し、研究計画につなげられるよう事後はまとめておく	
9	文献抄読	課題文献を事前に予習し、研究計画につなげられるよう事後はまとめておく	
10	文献抄読	課題文献を事前に予習し、研究計画につなげられるよう事後はまとめておく	
11	文献抄読	課題文献を事前に予習し、研究計画につなげられるよう事後はまとめておく	
12	研究倫理	研究活動における倫理上の問題について事前・事後の自己学習を行う	
13	研究倫理	研究活動における倫理上の問題について事前・事後の自己学習を行う	
14	研究計画およびスケジュール立案	実施可能な具体的計画の立案に向け、事前・事後に関連文献や資料を読んでおく	
15	研究計画およびスケジュール立案	実施可能な具体的計画の立案に向け、事前・事後に関連文献や資料を読んでおく	
16	研究計画およびスケジュール立案	実施可能な具体的計画の立案に向け、事前・事後に関連文献や資料を読んでおく	
17	研究計画およびスケジュール立案	実施可能な具体的計画の立案に向け、事前・事後に関連文献や資料を読んでおく	
18	研究計画およびスケジュール立案	実施可能な具体的計画の立案に向け、事前・事後に関連文献や資料を読んでおく	
19	予備調査・実験	予備調査・実験の検討および実践にあたり、必要なものの準備をしておく	
20	予備調査・実験	予備調査・実験の検討および実践にあたり、必要なものの準備をしておく	
21	予備調査・実験	予備調査・実験の検討および実践にあたり、必要なものの準備をしておく	
22	予備調査・実験	予備調査・実験の検討および実践にあたり、必要なものの準備をしておく	
23	予備調査・実験	予備調査・実験の検討および実践にあたり、必要なものの準備をしておく	
24	研究計画書作成と中間報告会準備	計画書の作成とともに、プレゼンテーションの事前準備を行っていく	
25	研究計画書作成と中間報告会準備	計画書の作成とともに、プレゼンテーションの事前準備を行っていく	
26	研究計画書作成と中間報告会準備	計画書の作成とともに、プレゼンテーションの事前準備を行っていく	
27	研究計画書作成と中間報告会準備	計画書の作成とともに、プレゼンテーションの事前準備を行っていく	
28	研究計画書作成と中間報告会準備	計画書の作成とともに、プレゼンテーションの事前準備を行っていく	
29	研究計画書作成と中間報告会準備	計画書の作成とともに、プレゼンテーションの事前準備を行っていく	
30	中間報告会発表	発表後、意見をもとに必要に応じて計画書を修正する	

成績評価方法と基準	割合
1．研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要　DP①④	100%

授業科目名	検査測定実習(理学)				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、河村　廣幸、金尾　顕郎、三木屋　良輔、前田　薫、角田　晃啓、澤田　優子、仲本　正美、工藤　慎太郎、杉本　圭、松尾　浩希、林　真太郎、木内　隆裕	
科目ナンバリング	SS514	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(実習)、後期(実習)
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

これまでに履修した教養科目群・学部共通科目群および学科専門基礎科目で修得した内容をもとに、対象者への検査・測定を経験し、臨床評価実習へむけた技術を向上させることを目的に行われる１週間の実習である。
また、専門職、社会人としてのマナーやルールに基づいて行動し、リハビリテーションチームの構成について学び、理学療法士の役割を把握することも目的とする。

到達目標

2年次に行う検査測定実習では「理学療法士の臨床業務の概要を把握し、対象者への検査・測定の技術を向上させる」ことを目標とする。
①実習施設におけるリハビリテーションチームの構成および理学療法部門の位置づけを把握できる。【DP①③④】
②実習指導者が対象者に対して実践した理学療法内容を認識できる。【DP①③④】
③問診・医療面接をもとに、必要な検査・測定を想起できる。【DP①③④】
④実習指導者の指導のもと、安全に配慮した検査・測定を経験する。【DP①③④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．医療人であるという自覚をもって実習態度には十分に注意する。
２．臨床実習のため，原則欠席は認めない。
３．「学外実習の手引き」を熟読し、理解しておくこと。
４．実習前後にオリエンテーションやホームルームを行うが、単位取得にはそのオリエンテーションやホームルームに出席することが必要である。

教科書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

参考書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

研究室／オフィスアワー

各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
2	患者・患児と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
3	患者情報の収集。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
4	問診・医療面接の経験。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
5	検査・測定項目の想起。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
6	検査・測定の経験。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
7	実習開始時と現在までの変化を自覚し、弱点の克服に努める。	前日までの学習内容をまとめ、デイリーノートに記載する。 実習後レポートを提出する。	

成績評価方法と基準	割合
1．実習評価【DP①③④】 2．実習記録と終了後のグループワーク・プレゼンテーション【DP①③④】 の総合評価にて 60 点以上の評価に値する内容で単位認定する。	1．70% 2．30%

授業科目名	臨床評価実習(理学)（Clinical Evaluation Training）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、河村　廣幸、金尾　顕郎、三木屋　良輔、前田　薫、角田　晃啓、澤田　優子、仲本　正美、工藤　慎太郎、堀　竜次、杉本　圭、松尾　浩希、林　真太郎、木内　隆裕	
科目ナンバリング	SS504a	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(実習)、後期(実習)
授業形態	実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

2年次までに学修した知識と技術をもとに、対象者への検査・測定の実施を通じて、理学療法評価の実践能力を向上させることを目的に行われる3週間の実習である。

到達目標

問診と検査・測定の実戦を通じて、対象者の生活機能を理解することを目標とする。これを実現するための行動目標を以下のとおりとする。
①対象者への問診を通じて、対象者の主訴やHopeを理解できる。【DP①③④】
②疾病の症候学を理解し、必要な検査・測定項目を想起できる。【DP①③④】
③実習指導者の指導のもと、安全に配慮した検査・測定を経験する。【DP①③④】
④問診内容ならびに、検査・測定結果について考察する。【DP①③④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．医療人であるという自覚をもって実習態度には十分に注意する。
2．履修要件として、臨床見学実習、検査測定実習、基礎理学療法学Ⅰ、基礎理学療法学演習の単位を取得しておくこと。
3．臨床実習のため、原則欠席は認めない。
4．「学外実習の手引き」を熟読し、理解しておくこと。
5．実習前後にオリエンテーションやホームルームを行うが、単位取得にはそのオリエンテーションやホームルームに出席することが必要である。

教科書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

参考書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

研究室／オフィスアワー

各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
2	患者・患児と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
3	患者情報の収集の経験。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
4	患者の接遇の実際を経験。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
5	検査・測定・理学療法評価の経験。	検査・測定の記録を簡潔に評価レポートにまとめる。 可能であればレジュメを作成し、口頭報告できることが望ましい。	

成績評価方法と基準	割合
1．実習評価【DP①③④】 2．実習記録と終了後の報告会【DP①③④】 の総合評価にて60点以上の評価に値する内容で単位認定する。	1．70% 2．30%

理学療法学科

（2020 年度入学生カリキュラム）

授業科目名	基礎ゼミナール(理学)（Basic Seminar）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、角田　晃啓、松尾　浩希、阿部　秀高	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

第 1～3 回（角田担当分）
あらゆる学問において基礎知識（または基礎力）は欠かせないものである。理学療法学では一定の科学的（生物・物理・化学）、数学的知識が必須となる。この講義の第 1～3 回は、以下のことを目的として行われる。
・自己（学生）の基本的な科学、数学的知識の現状を正しくとらえる。
・上述の知識がなぜ大切なのかを知る。
・上述の知識を正しく円滑に用いられるよう練習する。

第 4 回～15 回（阿部、中根担当分）
本演習では，本学の沿革と教育理念の理解，主体的学習態度の育成、アカデミックスキルズの習得を目標とする。
また、幅広く明確な職業観を養うために必要な社会人基礎力を理解することも目標とし、さらには、自分や他者と向き合い、刺激しあい、思考を深め、創造するというコミュニケーションの本質を理解する。

到達目標

第 1～3 回（角田担当分）
1）学生が自己の基礎学力を正しくとらえる。【D②③】
2）学生が基礎学力と理学療法学の関係を述べることができる。【D②③】
3）学生が基礎学力の不足分を自主的に補うために行動できるようになる。【D②③④】

第 4 回～15 回（阿部、中根担当分）
1）自大学理解（森ノ宮医療大学の教育理念が理解できる。）【D③】
2）大学におけるアカデミックスキルズを身につけることができる。【D④】
3）コミュニケーションスキルが構築できる。【D②】
4）基礎的なポートフォリオ作成能力を身につける。【D④】
5）幅広く明確な職業観を身につける。【D②③】
6）社会人基礎力について理解できる。【D②③④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業中は、積極的に質問や発言を行い、担当教員と十分なコミュニケーションを図ること。

教科書

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

第 1～3 回：指定しない。
第 4 回～15 回：佐藤望編：アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門第 2 版，慶応義塾大学出版会，2012
松本 茂他：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法第 2 版，玉川大学出版部，2017

研究室／オフィスアワー

阿部秀高：4 階研究室／在室時は随時
中根征也：4 階研究室／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）
角田晃啓：4 階研究室／在室時は随時
松尾浩希：4 階研究室／金曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、基礎学力チェック（1）	予習：当科目のシラバスならびに学生手帳、特に履修案内の内容を確認する（2 時間）。 復習：基礎学力チェックにて自身の学力が不足していると感じた課題を復習する（2 時間）。	角田
2	化学・生物と理学療法学の関係 化学・生物の基礎知識が理学療法にどうかかわるのか	予習：事前配布資料をよく読み、内容を確認する（2 時間）。その内容に基づいた小テストが授業の冒頭で実施される。 復習：講義内容を振り返り、表題についての理解を深める（2 時間）。	角田
3	数学・物理と理学療法の関係	予習：事前配布資料をよく読み、内容を確認する（2 時間）。その内容に基づいた小テストが授業の冒頭で実施される。 復習：講義内容を振り返り、表題についての理解を深める（2 時間）。	角田
4	理事長講和	予習：学生手帳に記されている「建学の精神」「シンボルマーク」「三つのポリシー」を読み、入学後に必要であろうことを自分なりに考えておく。(2 時間) 復習：授業を振り返り、今後の学生生活で必要になるであろうことをまとめておく。(2 時間)	中根
5	アカデミックスキルズ① 大学生としての学びの姿勢 授業における記録の取り方・扱い方	予習：事前に配布する資料を読んでおくこと。（2 時間） 復習：学びの履歴シートをもとに講義を振り返りまとめる。(2 時間)	阿部
6	アカデミックスキルズ② 資料・文献の活用法 意見の述べ方・交流の仕方 討論の作法	予習：事前に配布する資料を読んでおくこと。（2 時間） 復習：学びの履歴シートをもとに講義を振り返りまとめる。(2 時間)	阿部
7	アカデミックスキルズ③ 論理的な文章（レポート）の書き方 場に応じた適切な表現方法	予習：事前に配布する資料を読んでおくこと。（2 時間） 復習：これまで 3 回の学びの履歴シートをまとめる。(2 時間)	阿部
8	ポートフォリオ作成① 社会人とは？ 医療福祉関係者、理学療法士の職業理解	予習：社会人、医療福祉関係者、理学療法士に必要な要素を自分なりに考えておく。(2 時間) 復習：社会人、医療福祉関係者、理学療法士に必要な要素について自分の考えをまとめる。(2 時間)	中根
9	ポートフォリオ作成② 自分について	予習：過去の体験、今の自分、未来の自分を考えておく。(2 時間) 復習：授業を振り返り、「自分について」の考えをまとめる。(2 時間)	中根
10	社会人基礎力① 「考え抜く力」について	予習：社会人基礎力について調べる。(2 時間) 復習：授業を振り返り、自分の社会人基礎力をまとめる。(2 時間)	中根
11	社会人基礎力② 「前に踏み出す力」について	予習：社会人基礎力について調べる。(2 時間) 復習：授業を振り返り、自分の社会人基礎力をまとめる。(2 時間)	中根
12	社会人基礎力③ 「チームで働く力」について	予習：社会人基礎力について調べる。(2 時間) 復習：授業を振り返り、自分の社会人基礎力をまとめる。(2 時間)	中根
13	社会人基礎力④ 社会人基礎力テスト 社会人基礎力を基に自分を振り返る	予習：社会人基礎力について調べる。(2 時間) 復習：社会人基礎力テストの結果を基に自分の社会人基礎力をまとめる。(2 時間)	中根
14	医療倫理	予習：医療倫理について調べておく。(2 時間) 復習：授業を振り返り、自分なりの「医療倫理」をまとめる。(2 時間)	中根
15	感染予防対策 手洗い マスク装着 ガウン装着	予習：事前に配布する資料を読んでおくこと。（2 時間） 復習：授業を振り返り、「感染予防対策」を実践できるよう練習すること。(2 時間)	松尾

成績評価方法と基準	割合
第 1～3 回（角田担当分） ①第 1～3 回の小テストの結果【D②③】 第 6 回～14 回（阿部、中根担当分） ②レポート課題【D②③④】 ③毎回のコメントシート【D②④】 ①②③を右記の割合で計算し、60%以上の者を合格とする。	①20% ②60% ③20%

授業科目名	物理学(理学)（Physics）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
さまざまな自然現象もよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかります。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっています。本講義は力学、熱力学に絞り、理学療法士として最低限必要な物理学の教養を身につけることができるようにしてあります。
到達目標
物理量・単位 力のつりあい 力のモーメント てこの原理の人体中での応用 血圧とは 　上記の内容を学習していきます。〈DP③〉
履修上の注意(学生へのメッセージ)
１．自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識して下さい。 ２．配布された資料を使用し、講義を行います。
教科書
プリントを使用します。
参考書
ベッドサイドを科学する　平田雅子　著　Gakken
研究室／オフィスアワー
非常勤控室　月曜
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	水の体積と温度の関係、スカラーとベクトル	＜予習・復習 各２時間＞ ベクトルという数学で扱う内容が書かれていますが、力を作図するとき必要になりますので、わからなくなったら教科書を読みなおしてください。	
2	比熱、力の合成	＜予習・復習 各２時間＞ 力の合成は、平行四辺形を作る、ということだけ覚えましょう。	
3	代謝量、力の分解	＜予習・復習 各２時間＞ 力の分解は、力の合成の逆というだけですが、内容が難しいので、教科書や小テストを何回も読みなおしましょう。	
4	小テスト①とその解説、ニュートンの運動の法則	＜予習・復習 各２時間＞ 自転車や車の運転を考えると、加速度は力に比例、質量に反比例することがわかります。	
5	作用・反作用の法則、力のモーメント	＜予習・復習 各２時間＞ シーソーの話しは簡単ですが、次回以降につながりますので、しっかり復習しましょう。	
6	摩擦力、第１種のてこ	＜予習・復習 各２時間＞ 重い頭を支えているのは誰でしょう？	
7	心臓マッサージ、第２種のてこ	＜予習・復習 各２時間＞ 第２種のてこは、人体にはあまりないのです。	
8	質量と重さの違い、第３種のてこ	＜予習・復習 各２時間＞ 第３種のてこの利点をおさえましょう。	
9	力と圧力の違い、腰にかかる力	＜予習・復習 各２時間＞ 腰への負担を減らすにはどうすべきだったでしょうか？	
10	小テスト②とその解説	＜予習・復習 各２時間＞ 第１種～第３種のてこについて復習しておきましょう。	
11	気圧とは	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちには１気圧の力が働いていますが、それを認識すると、いろいろなことが見えてきます。	
12	入浴の圧力効果	＜予習・復習 各２時間＞ 和式風呂と洋式風呂による、人体への影響について確認しましょう。	
13	酸素ボンベ、仕事	＜予習・復習 各２時間＞ 酸素ボンベに残る酸素の量の求め方について	
14	浮力	＜予習・復習 各２時間＞ 以前、献血のときに使われていた血液比重。その仕組みについて確認しましょう。	
15	血圧、運動量	＜予習・復習 各２時間＞ 体への衝撃は何によるのでしょうか？	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト（計２回）〈DP③〉 ②確認テスト〈DP③〉 ③定期試験〈DP③〉 小テスト（計２回）と定期試験は必ず受験して下さい。	①30% ②30% ③40%

授業科目名	生物学(理学)（Biology）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

専門科目の理解を深めるための基礎的な生物学を学習する。
具体的には、下記単元を中心に、ヒトのからだについて理解を深める。
【細胞の構造】細胞小器官の種類とその働き
【代謝】代謝・消化・吸収
【個体の恒常性と調節】恒常性の維持・ホルモン
【刺激の受容と反応】刺激・受容・神経系

到達目標

ヒトの生命の仕組みについて、その基本的事項を習得することを目的とする。〈DP③〉
好気呼吸の過程を理解する。〈DP③〉
恒常性について理解を深める。〈DP③〉
体液性免疫と細胞性免疫の違いを説明できる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

この講座を通して基礎用語を確認することが出来ます。高校で生物を学習していない、または不得意科目であった学生はぜひ受講して下さい。

教科書

書籍名：視覚でとらえる生物図録
著者名：鈴木孝仁　監修
出版社名：数研出版

参考書

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第１巻 細胞生物学

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜と、水曜の午前中

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞の構造とその働き	＜予習・復習 各２時間＞ 細胞の種類はたくさんありますが、細胞の大きさや構造はどう違っているのでしょうか?	
2	細胞の構造とその働き 細胞を構成する物質（炭水化物と脂肪）	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちの体にはたくさんの細胞がありますが、細胞の基本構造は同じです。その構造について確認しておきましょう。	
3	細胞を構成する物質（タンパク質） 浸透性	＜予習・復習 各２時間＞ ヒトの細胞がどんな物質からできているか確認してみましょう。	
4	選択透過性、動物の組織	＜予習・復習 各２時間＞ 能動輸送にはＡＴＰが必要ですが、その理由を考えてみてください。	
5	細胞内での代謝、酵素の性質	＜予習・復習 各２時間＞ 日常生活でいう「代謝」と生物学で扱う「代謝」は少し異なります。その違いも含めて確認しておきましょう。	
6	酵素の性質	＜予習・復習 各２時間＞ 酵素の性質はたくさんありますが、一つ一つ確認してください。	
7	外呼吸と内呼吸	＜予習・復習 各２時間＞ 生物学でいう「呼吸」は内呼吸のことです。	
8	好気呼吸の過程	＜予習・復習 各２時間＞ 「クエン酸回路」について簡単に説明します。復習した上で他の教材も読んでみてください。	
9	消化・吸収、恒常性	＜予習・復習 各２時間＞ 食べ物を食べると栄養になりますね。その仕組	
		みについて調べてみましょう。	
10	血液の組成、血液の凝固 血管系	＜予習・復習 各２時間＞ 血液は体重の何分の一をしめていたでしょうか？	
11	心臓と肝臓	＜予習・復習 各２時間＞ 肝臓はお酒を分解するのはもちろん、他にもたくさんの仕事を担っています。	
12	腎臓の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちは毎日何回もおしっこをします。おしっこの役割は何なのでしょうか？	
13	免疫系	＜予習・復習 各２時間＞ 病気から守ってくれる白血球の仕事について確認しましょう。	
14	細胞性免疫、アレルギー	＜予習・復習 各２時間＞ 免疫反応が生体に不利に働くアレルギー。最近はアレルギーに悩まされる人が増えてきていますが、その基本について学習しましょう。	
15	神経系、脳の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 脳は不思議な存在です。少し覗いてみましょう。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験１００点のうち６０点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	化学(理学)（Chemistry）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。
到達目標
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解することができる。それらが生理機能に密接に連関することを認識できる。＜DP③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
たとえすでに化学を履修していようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学びなおす必要があると捉えておいて欲しい。
教科書
「ライフサイエンスのための化学」　化学同人
参考書
「理工系の基礎化学」　化学同人
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭化水素化合物１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	炭化水素化合物２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	化学全体のまとめと振り返り	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　＜DP③＞	1　100%

授業科目名	情報処理(理学)（Information Processing）				
主担当教員	河村　廣幸		担当教員	河村　廣幸、角田　晃啓	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医学教育においては膨大な情報が存在する。その情報を効率良く収集・整理・分析・発表するために必要な能力を育成する。そのために、コンピュータやタブレット・スマートフォン・デジタルカメラなどを利用する上で必要な基礎知識、レポート作成等に役立つ情報処理技術の習得を目標とする。また、これらデジタル機器の利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護ついても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム（OS）はWindowsあるいはmacOSを、ソフトウェアは主としてマイクロソフトのWord・Excel・PowerPointを使用する。

到達目標

コンピュータやデジタルカメラなどディジタル機器の基礎知識と基本操作を習得する。
コンピュータやインターネット利用における情報倫理と情報保護を理解する。
医療情報の記録・整理の基本を習得する。
ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を習得し、資料を作成できる。DP③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

USBメモリを必ず持参すること（授業中に作成したファイルを保管する為）。
PC演習室での飲食は厳禁とする（机の上に置くのも禁止）。
できるだけ、自身が所有するノートパソコン（Windowあるいは Mac）を持参し、修得できるようにする。
重要事項は各自がノートに記載すること。
下記授業計画は予定であり、学生の修得状況により前後することがあるので留意すること。

教科書

ICT活用で学ぶ アカデミック・スキル（大学生に求められる論理力）　：梧桐書院：富山大学 情報処理部会 情報処理テキストワーキンググループ（著）：ISBN-10: 434053031X

参考書

特になし（適宜、授業資料を配布）

研究室／オフィスアワー

河村：在室時は随時
角田：在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	コンピュータの基礎知識(用語・Windows / Mac) パソコンの選び方 gmailアカウントを作ろう	予習：教科書 第２章および第３章 3.1 を確認する（0.5時間） 復習：授業内容と教科書 第２章および第３章 3.1 を照らし合わせる（0.5時間）	河村・角田
2	ドライブ・フォルダ・ファイルを理解する ネットからの情報収集の基本 タッチタイピングの基本	予習：教科書の第４章および第６章を確認する（0.5時間） 課題：タッチタイピングの基本技能を身に付ける（0.5時間）	角田・河村
3	ワープロソフトの使い方①	予習：教科書 第３章 3.2 と 3.3 および第８章を確認する（0.5時間） 課題：授業にて作成した word ファイルを提出する（0.5時間）	角田・河村
4	ワープロソフトの使い方②	予習：教科書 第８章を復習する（0.5時間） 課題：授業にて作成した word ファイルを提出する（0.5時間）	角田・河村
5	表計算ソフトの使い方①	予習：教科書第７章を確認する（0.5時間） 復習：授業内容と教科書第７章を照らし合わせる（0.5時間）	角田・河村
6	表計算ソフトの使い方②	予習：教科書第７章を復習する（0.5時間） 復習：授業にて作成した Excel ファイルを提出する（0.5時間）	角田・河村
7	プレゼンテーションソフトの使い方①	予習：教科書の第９章を確認する（0.5時間） 復習：授業内容と教科書第９章を照らし合わせる（0.5時間）	角田・河村
8	プレゼンテーションソフトの使い方② PowerPointでの自己紹介	予習：教科書第９章を復習する（0.5時間） 課題：プレゼン資料を作成・提出する（0.5時間）	角田・河村
9	画像作成ソフトの使い方①	予習：ネットでビットマップとドローについて調べる（0.5時間） 復習：作画機能を利用し、自由に作画できるようにする　（0.1時間） 課題：授業にて作成したbmpファイルを提出する（0.4時間）	河村・角田
10	画像作成ソフトの使い方②	予習：PowerPointの作画機能（第９章 9.2.2）を確認しておく（0.5時間） 課題：指定ドロー画像の作成・提出（0.5時間）	河村・角田
11	デジタルカメラの使い方	予習：家にあるデジカメ（スマホカメラでも可）の説明書を読む（0.5時間） 課題：デジカメで動作記録する・指定画像の提出（0.5時間）	河村・角田
12	デジタルビデオの使い方	予習：家にあるビデオカメラあるいはスマホのビデオ機能の仕様について調べる（0.5時間） 復習：患者記録のための撮影方法についてまとめる 課題：起立動作の記録提出（0.5時間）	河村・角田
13	スマホ・タブレットの使い方	予習：自分の所有しているスマホ・タブレットの説明書を読んでおく（0.5時間） 復習：歩行動作の記録提出（0.5時間）	河村・角田
14	個人情報保護・情報リテラシー	予習：教科書第11章を確認する（0.5時間） 復習：自分が使用しているスマホや PC の対策が十分か確認する（0.5時間）	河村・角田
15	総括と振り返り	予習：これまでの授業内容を総括し、情報社会におけるリテラシーを身に付ける　（0.5時間） 復習:教科書の全過程を再チェックする(0.5時間）	河村・角田

成績評価方法と基準	割合
１．定期試験＜DP３・４＞ ２．課題＜DP４＞	１．70% ２．30%

授業科目名	心理学(理学)（Introduction to Psychology）				
主担当教員	海蔵寺　陽子		担当教員	海蔵寺　陽子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

心理学は、人の心の仕組みや働きがどのようになっているかを研究する学問です。授業では人の性格、知覚や感情のほか、人の成長過程や人間関係の心理などについても学習します。

到達目標

１．人間の一般的心理、基本的心理、行動を理解することができる〈DP③〉
２．身近な経験について心理学的に説明することができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．身近な経験を心理学的に考えてみること
２．疑問点を大切にし、解決に向けて行動すること

教科書

イラストレート心理学入門　　齋藤勇　著　　誠信書房

参考書

心理学の基礎　　今田寛・宮田洋・賀集寛　共編　　培風館

研究室／オフィスアワー

なし

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心理学とは	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　教科書の確認 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
2	知覚と認知１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　認知機能について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
3	知覚と認知２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　ヒトの情報処理システムについて教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
4	感情と情動	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　情動表出について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
5	欲求と動機づけ１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　生理的欲求、心理的欲求について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
6	欲求と動機付け２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　達成動機について新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
7	学習１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　条件反射について新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
8	学習２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　学習理論について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
9	記憶	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　記憶について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
10	性格と気質	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　性格とは何か考える 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
11	臨床心理	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　心の健康について新聞・テレビ・メディア記事などを一つ調べる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
12	無意識と深層心理１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　無意識について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
13	無意識と深層心理２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　自我防衛機制について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
14	発達心理	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　発達段階とその特徴について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
15	社会心理１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　自己評価について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP③〉 ②平常点（レポート、授業態度など）〈DP③〉	①80% ②20%

授業科目名	生命倫理学(理学)（Bioethics）				
主担当教員	神田　靖士		担当教員	神田　靖士	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

生命をめぐる倫理（道徳・規範）的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日的かつ具体的問題に対処できる思考能力を養います。生命科学・医学研究の発展は目覚しく、その成果をもとにした先端医療技術はわれわれに希望をもたらすとともに多くの新たな問題を提起しています。本講義では、生命倫理の誕生と展開を概説し、続いてどのように日本に受容されたのかを論じます。特に人権尊重を視野に入れ、最近の生命倫理学上の事例をとり入れつつ論じます。授業は、講義を中心として、ＶＴＲ，質疑、グループ討論を交えて行います。

到達目標

生命倫理学の歴史的背景と法律並びに国際比較することにより現在の問題点について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。特に最近の医療領域（出生前診断と妊娠中絶、脳死と臓器移植、終末期医療、再生医療、遺伝情報の取り扱い）において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ、討論を行いながら個々の倫理観を構築することを到達目標とします。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．生命倫理は医療関係を志す者として根底にある倫理的な考え方を学習する科目であるので、自ら疑問及び興味を持ち積極的に講義に臨むことを強く希望します。
２．グループ討論には積極的に参加すること。
３．出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
４．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

特に指定なし。講義資料を適宜配布します。

参考書

伏木信次、樫　則章、霜田　求　『生命倫理と医療倫理』　金芳堂
小林亜津子　『看護のための生命倫理』　ナカニシヤ出版
グレゴリー・ペンス　『医療倫理Ⅰ・Ⅱ』　みすず書房

研究室／オフィスアワー

在室時は訪問可。
質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。
メールアドレス：kandas@hirakata.kmu.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命倫理概論（生命倫理とはどのような学問か）	※隔週でグループ討論を行うので、前の週に行った授業内容に関して復習をし、分からない箇所の理解を深めた上でグループ討論に臨むこと。 本時についての予習・復習に各２時間	
2	尊厳死と安楽死	本時についての予習・復習に各２時間	
3	尊厳死と安楽死について討論及び発表	本時についての予習２時間 レポート（２時間）	
4	着床前診断と出生前診断	本時についての予習・復習に各２時間	
5	着床前診断と出生前診断について討論及び発表	本時についての予習２時間 レポート（２時間）	
6	臓器移植と脳死	本時についての予習・復習に各２時間	
7	臓器移植と脳死について討論及び発表	本時についての予習２時間 レポート（２時間）	
8	再生医療とクローン技術	本時についての予習・復習に各２時間	
9	再生医療とクローン技術について討論及び発表	本時についての予習２時間 レポート（２時間）	
10	インフォームド・コンセント（十分な説明と同意・告知）	本時についての予習・復習に各２時間	
11	インフォームド・コンセント（十分な説明と同意、告知）における倫理観について討論及び発表	本時についての予習２時間 レポート（２時間）	
12	代理出産における倫理観	本時についての予習・復習に各２時間	
13	代理出産における倫理観について討論及び発表	本時についての予習２時間 レポート（２時間）	
14	動物を対象とした研究における倫理観	本時についての予習・復習に各２時間	
15	動物を対象とした研究における倫理観について討論及び発表	本時についての予習２時間 レポート（２時間）	

成績評価方法と基準	割合
・定期試験は行わず、平常評価（出席、レポート等）で総合評価する。 ①グループ討論への参加状況（出欠を含む）〈DP③〉 ②討論後の発表〈DP③〉 ③課題レポート〈DP③〉	①20% ②20% ③60%

授業科目名	哲学(理学)（Philosophy）				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような仕方で正しく認識できるのか・知ることができるのかについて学んでいく。
　「哲学」のもともとの意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方でそれらをわれわれは手に入れることができるのか、は哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上でこの問題は避けて通れないものである。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。
　この授業ではこの認識論・知識論という問題について、「懐疑論」というものを手掛かりに考察を深めていきたい。物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものであろう。哲学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行ってみたらどうなるか、が中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえた上で、自然科学的な知識はどのような仕方で正当化されるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な源流である 17 世紀の自然科学について論じる。

到達目標

１．ヘレニズム時代の古代懐疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを充分に理解することができる。〈DP③〉
２．近代において復活した古代懐疑主義が近代においてどのように受容され、改変されていったのかを充分に理解することができる。具体的にはモンテーニュの信仰主義、デカルトの方法的懐疑を充分に理解することができる。〈DP③〉
３．極端な懐疑の論理構造がいかなるものであるのかを、ウィトゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に充分に理解することができる。〈DP③〉
４．近代の自然科学的知識がどのように成立していったのかを、17 世紀に活躍したデカルトやニュートンの思想を参照することを通じて、充分に理解することができる。〈DP③〉
５．近代以降の自然科学が発展するにあたって、その方法論がどのようなものであったのかを充分に理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代では何の疑いもなく受け容れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきている。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。
　「哲学」および「懐疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。
　他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	（予習）「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	ソクラテスの哲学：「哲学」とはどういう営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
3	ヘレニズム時代の思想①：懐疑論とはそもそも何か？　およびストア主義の思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間)	
		（復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
4	ヘレニズム時代の思想②：古代懐疑主義の思想。ピュロン、アルケシラオス、アイネシデモス、アグリッパなど。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
5	近代の懐疑主義的思想①：モンテーニュにおけるピュロン主義、およびデカルト思想の全体像。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
6	近代の懐疑主義的思想②：デカルトの方法的懐疑その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
7	近代の懐疑主義的思想③：デカルトの方法的懐疑その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
8	懐疑論に抗して：ウィトゲンシュタインの思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
9	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その①：デカルトの自然学その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
10	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その②：デカルトの自然学その 2、およびデカルトにおける心身問題その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
11	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その③：デカルトにおける心身問題その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
12	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その④：デカルトの自然学とニュートン物理学、および近代における自然科学と形而上学との関係。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
13	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑤：近代における自然科学の方法論（帰納法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
14	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑥：近代における自然科学の方法論（仮説演繹法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。〈DP③〉 　小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数	①期末試験 50% ②小テスト 50%

で述べることができるかどうかを評価する。 　期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。	

授業科目名	社会福祉学(理学)（Social Welfare）				
主担当教員	中村　亮太		担当教員	中村　亮太	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

現代の社会問題や障害のある人の地域での生活について知ることを通して、社会福祉の基礎について学ぶ。社会福祉に関する考え方、制度、支援などについて、時事問題や映像資料も踏まえながら具体的に学んでいく。適宜、受講者の意見を聞きながら、授業を進めていく。

到達目標

様々な社会問題について、社会福祉の視点から考察し、理解できるようになることを目標とする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業では、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。そこで提出されたものについては、次回の授業で解説やコメントを行なう。

教科書

毎回の授業においてレジュメを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業の前後、あるいはメール等にて質問などを受け付ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション――社会福祉とは何か	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	社会福祉の歴史について	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	障害の社会モデルについて①	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	障害の社会モデルについて②	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	社会福祉とマスメディア	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	社会福祉における自立の考え方	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	社会福祉と自立生活運動	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	社会福祉と優生思想	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	障害のある人の地域生活について①	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	障害のある人の地域生活について②	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	生活保護制度について①	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
12	生活保護制度について②	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	ベーシックインカムについて	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	社会福祉と財源	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	講義全体のまとめと振り返り	本講義全体を見直す	
成績評価方法と基準			割合

レポート試験 ※試験内容・提出期限等は授業内にて説明する	100%

授業科目名	日本国憲法(理学)（Constitution of Japan）				
主担当教員	植田　重幸		担当教員	植田　重幸	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コ・メディカルをもとに、診療の補助の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規（保健衛生関連法規）の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。

到達目標

1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。〈DP③〉
2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。〈DP③〉
3. 医療と人権に関する大切さを理解する。〈DP③〉
4. 理学療法学科における『理学療法士及び作業療法士法』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。〈DP③〉
5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。〈DP③〉
6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。
2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。
3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。
4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。

教科書

指定しない。

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特色 基本理念及び基本原理	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権（人格権と幸福追求権）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	

8	基本的人権規定④ 　尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在的解釈を確認する	
9	関係法規① 　コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する	
10	関係法規② 　日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 　医療過誤の実態と権利侵害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 　医療過誤における法的責任	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 　国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 　裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	

成績評価方法と基準	割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(理学 A)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	藤重　仁子		担当教員	藤重　仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 3 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。〈DP②〉
基本的な文法、語彙、表現を身につける。〈DP②〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟 1 階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(理学Ｂ）（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	火曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
１．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
２．医学用語の基礎知識を学ぶ。
３．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。<DP②>
基本的な文法、語彙、表現を身につける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(理学 A)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 1 階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(理学Ｂ)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan ／ Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	MBS(Morinomiya Basic Seminar)(理学)（Morinomiya Basic Seminar）				
主担当教員	中根 征也		担当教員	中根 征也	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

本授業は、大学生としての学習や生活をスムーズにスタートさせるために、大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を身につけること、学園の歴史や建学の精神の意味やディプロマポリシーを理解することで、本学への帰属意識を確立させることを目的とする。
また、履修に関することや教育課程（カリキュラム）、学生生活に関するルール等を理解することで、大学で学ぶために必要な能力を身につけることを目的とする。
医療の歴史及び医療の現在と未来を知ることで、医療全体への興味をより深めることを目的とする。

到達目標

・本学の建学の精神及びディプロマポリシーを理解している。<DP②③>
・大学で学ぶために必要な能力を身につけている。<DP②③>
・生徒から学生へ移行する（主体的・能動的な学習スタイルを身につける）<DP②③>
・医療人を目指す学生であることに対しての自覚を強く持つ。<DP②③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理想の大学生活とは？想像している内容と異なる話を聞くこともあるでしょうが、4 年間を有意義に過ごせるようこれからの生活を考えるきっかけとなることを願います。

教科書

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

別途連絡する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【本学の歩みと未来／生徒から学生へ】 ・理事長による「本学の起源や今後の展望」、 ・学長による「医療・医学を学ぶ上での心構え」についての講義。 ・在校生から新入生に向けて大学生活の過ごし方や講義の受け方についてのプレゼンテーション。	予習：本学の Web サイトで「建学の精神」「森ノ宮医療学学園の歴史」「本学の特徴」について調べる．（1 時間） 復習：大学生としての心得を考え，まとめる．（1 時間）	中根
2	【理学療法学科のカリキュラムについて】 ・カリキュラムについて ・カリキュラムポリシーについて ・ディプロマポリシーについて	予習：学生手帳の「理学療法学科 授業科目・単位数」と「本学学士過程における三つのポリシー」「理学療法学科における三つのポリシー」について調べる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，自分にとって今後の大学生活で必要なことを考える．（2 時間）	中根
3	【情報化社会における情報リテラシーと情報モラルについて】 ・情報リテラシーと情報モラル（SNS の取り扱い） ・医療情報の取り扱いについて ・その他社会問題等	予習：「情報リテラシー」「情報モラル」について調べ，自分の考えをまとめる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，多くの情報から適切に情報を得る方法を考える．（2 時間）	中根
4	【理学療法士のキャリアについて】 ・自身のキャリアについて ・履修モデルの解説と自身のキャリア形成プランの検討 ・理学療法士に必要な学びと研究	予習：自分自身，将来どのような「大人」になりたいか，また，目標とする「理学療法士像」を考え，まとめる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，自分の将来像を明確にする．（2 時間）	中根
5	地域医療について 住之江区長による「住之江区の医療・福祉の現状」についての講話	予習：本学が位置する「住之江区」の Web サイト「広報誌 さざんか」にて，住之江区における「福祉・健康」の施策について調べる（2 時間）	中根

		復習：授業をまとめ，今の自分でも参加できることを（ボランティア等）を探す．(2 時間)	
6	西洋医学とは 医師による西洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：西洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：西洋医学の中での理学療法の重要性を調べ，まとめる．(2 時間)	中根
7	東洋医学とは 鍼灸師による東洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：東洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，西洋医学との違いを理解し，東洋医学の重要性をまとめる．(2 時間)	中根
8	チーム医療とは ・チーム医療について知る	予習：本学の Web サイトで「チーム医療」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，チーム医療の重要性を理解する．(2 時間)	中根
成績評価方法と基準			割合
レポート試験：「自己のキャリア構築のために今後の大学生活で何をすべきか」を 1600 字程度で述べる。〈DP②③〉 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	チーム医療見学実習(理学)				
主担当教員	中根 征也		担当教員	中根 征也	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

１．医療の実践の場である病院等の施設で医療従事者の 1 日を体験することにより、医療職への理解を深める。
２．保健医療施設における自己の目指す専門職の役割や機能を知ると共にチーム医療を構成する
様々な専門職の役割・機能について知識を深める。
３．チーム医療の実際を知り、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性を知る。

＜施設見学の実施概要＞
開講時期：9 月下旬
実習施設：大阪急性期・総合医療センター(日程調整中)、大阪国際がんセンター(9 月 28・29・30 日または
9 月 23・24・25 日)、日本生命病院(9 月 23・25・28 日)、関西メディカル病院(9 月 25・28・29 日)

＜実施方法＞
１．本見学実習は大学内で実施する事前授業（4 コマ）と施設見学（4 コマ）とする。
２．1 班 8 名程度の学科混成グループを作り、各グループ上記施設の中から 1 施設を見学する。
３．1 班ごとに 1 名の本学教員が引率し、基本的には引率教員の指示のもと決められたスケジュール通りに
施設内を見学する

到達目標

１．実習を通じて医療施設の全体的な業務や役割について知ることができる。DP2
２．実習を通じてチーム医療の構成を知り、目指す専門職の役割および責任を自覚することができる。DP2
３．実習を通じて医療に取り組む姿勢を養い、専門科目の学習への意欲向上のきっかけとし、今後、
専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。DP23

履修上の注意(学生へのメッセージ)

見学時は、担当者のみならず院内の全ての方(就業者や患者さん等)に迷惑がかからない行動を取るとともに、発言にも最大限配慮すること。
見学当日はバスで送迎を行います。集合場所や時間を等は引率教員の指示に従うこと。

教科書

とくになし

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

別途連絡します

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	事前授業①（授業の目的や概要について）	【事前授業１】（授業の目的や概要について） 予習：本学に設置されている学科の仕事内容を調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、チーム医療についての考えをまとめる。(3 時間)	中根
2	事前授業②（授業の目的や概要について）	【事前授業２】（施設見学における注意事項について） 予習：大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて実践できるようにする （3 時間）	中根
3	事前授業③（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる	中根

		（3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	
4	事前授業④（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	中根
5	【学修内容：⑤～⑧】 「施設見学」 ＜見学スケジュール例＞ ①リハビリテーション室の見学 →それぞれの職種間でのコミュニケーションを学ぶ ②ICU・CCU →医師や看護師の連携について学ぶ。最新機器等の設備について知識を深める ③各種検査室の見学 →検査技師と医師や看護師など他の職種との連携について学ぶ ④透析室 →透析の機器等について知識を深める ⑤手術室 →手術室とはどのような環境の部屋なのか、実際の設備や雰囲気を知る	復習：見学実習での学びをレポートにまとめる。自修時間 6 時間→課題提出	中根
成績評価方法と基準			割合
レポート課題<DP②③> 「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	基礎体育(理学 A)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
　日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
　学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習 1 時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	基礎体育(理学 B)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習 1 時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 　その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(理学) (Health Science【Including Sports Sociology】)				
主担当教員	濱口　幹太		担当教員	濱口　幹太	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。

到達目標

・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。〈DP③④〉
・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する。〈DP③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・大学生として節度ある態度で授業に臨むこと

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005 年
田中喜代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006 年

研究室／オフィスアワー

非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：シラバスの確認（2 時間） 復習：内容の確認（2 時間）	
2	健康・体力の概念	予習：健康に関する記事をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
3	アルコールの影響とは	予習：身体に及ぼす影響をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
4	喫煙について	予習：身体に及ぼす影響をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
5	高脂血症・動脈硬化症	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
6	高血圧・脳卒中・心臓病	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
7	糖尿病・メタボリックシンドローム	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
8	前半まとめ	予習：今まで内容の確認（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
9	身体活動の必要性	予習：運動習慣のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
10	肥満について	予習：体型をチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
11	薬物乱用について	予習：薬物の影響のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
12	救急法	予習：心肺蘇生法のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
13	スポーツトレーニング	予習：スポーツの種目のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
14	健康に関する VTR	予習：健康に関する記事をチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
15	後半まとめ	予習：今までの内容の確認（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
成績評価方法と基準			割合

定期試験で評価する。〈DP③④〉 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	100

授業科目名	人体の構造演習Ⅰ(運動器)(理学)（Human Anatomy Seminar Ⅰ 【Motor System】）				
主担当教員	北村 清一郎		担当教員	北村 清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造演習(運動器)（理学）のⅠとⅡでは、人体の基礎を構成し、運動器の中心的な役割を担う骨格系と筋肉系を学習する。骨格系については、骨の分類・構造などの総論と、個々の骨の解剖構造や形態的特徴、ならびに隣接骨間の連結などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。筋肉系については、筋肉（筋）の分類・構造などの総論に加えて、個々の筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。これらの学習を通じて、骨と筋が運動器として機能するときにどのような連携しているか考えるとともに、運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深める。 前期に実施する「人体の構造演習Ⅰ(運動器)(理学)」では、骨格系・骨の連結・筋肉系の総論、ならびに上肢の骨格系と筋肉系を学習する。

到達目標

（１）骨の構造と連結の概要、ならびに全身の骨格系の概要が説明できる（DP①②③）
（２）筋肉の構造とはたらきの概要、ならびに筋肉系を支える構造の概略が説明できる（DP①②③）
（３）上肢の各骨の主要構造や主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる（DP①②③）
（４）上肢の各筋の存在部位とはたらき、ならびに他筋との位置関係が説明できる（DP①②③）
（５）上肢の主要関節の構造とそれに係わる筋の作用が説明できる（DP①②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめに配布するので、これを元に予習ノートを作成する。実習は講義室とは別の部屋で行われる。実習ではスケッチの提出が求められるので、A4の無地ノート（線が引かれていない）を準備する。

教科書

「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 解剖学(第４版）」　編集　野村　嶬　（医学書院）

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

E棟４階研究室５／毎週月曜日・火曜日・木曜日の昼休み。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	骨格系総論	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
2	ともかく骨を見てみよう(実習) 1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
3	靭帯学総論	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
4	ともかく骨を見てみよう(実習)2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
5	筋学総論	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
6	ともかく骨を見てみよう(実習)3	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
7	上肢の骨と関節 1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
8	上肢の骨の観察(実習)1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
9	上肢の骨と関節 2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
10	上肢の骨の観察(実習)2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
11	上肢の骨の観察(実習)3	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
12	浅背筋と浅胸筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村

13	上肢帯の筋・上腕の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
14	前腕の筋・手の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
15	上肢の筋の解剖 DVD 鑑賞	予習：講義プリントに沿って上肢筋を復習しておく（1 時間） 復習：DVD の内容を元にを元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
成績評価方法と基準			割合
学期末に筆記試験を行う（DP①②③）。筆記試験は 100 点満点、これに 15 点満点の実習スケッチ点を合わせて合計 115 点満点とし、その 60%以上の得点でもって合格とする。 合格点に達しない場合には筆記試験の再試験を 1 回のみ行い、やはりスケッチ点を合わせた 60%以上の得点でもって合格とする。			筆記試験 87% スケッチ 13%

授業科目名	人体の構造演習Ⅱ(運動器)(理学)（Human Anatomy SeminarⅡ 【Motor System】）				
主担当教員	北村 清一郎		担当教員	北村 清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

人体の構造演習(運動器)（理学）のⅠとⅡでは、人体の基礎を構成し、運動器の中心的な役割を担う骨格系と筋肉系を学習する。骨格系については、骨の分類・構造などの総論と、個々の骨の解剖構造や形態的特徴、ならびに隣接骨間の連結などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。筋肉系については、筋肉（筋）の分類・構造などの総論に加えて、個々の筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。これらの学習を通じて、骨と筋が運動器として機能するときにどのような連携しているか考えるとともに、運動時に重要な役割を果たしている関節や靱帯の形態と機能についても理解を深める。 後期に実施する「人体の構造演習Ⅱ(運動器)(理学)」では、下肢と体幹（頭蓋・脊柱・胸郭）の骨格系と筋肉系を学習する。

到達目標

（１）下肢と体幹の各骨の主要解剖構造や主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる（DP①②③）
（２）下肢と体幹の各筋の存在部位とはたらき、ならびに他筋との位置関係が説明できる（DP①②③）
（３）下肢と体幹の主要関節の構造とそれに係わる筋の作用が説明できる（DP①②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめに配布するので、これを元に予習ノートを作成する。実習は講義室とは別の部屋で行われる。実習ではスケッチの提出が求められるので、A4 の無地ノート（線が引かれていない）を準備する。

教科書

「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 解剖学(第４版）」　編集　野村　嶬　（医学書院）

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

E 棟４階研究室５／毎週月曜日・水曜日・木曜日の昼休み。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	下肢の骨と関節 1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正(1 時間)	北村
2	下肢の骨の観察(実習)1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正(1 時間)	北村
3	下肢の骨と関節 2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正(1 時間)	北村
4	下肢の骨の観察(実習)2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正(1 時間)	北村
5	下肢の骨の観察(実習)3	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正(1 時間)	北村
6	下肢帯の筋・大腿の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正(1 時間)	北村
7	下腿の筋・足の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1 時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正(1 時	北村

		間）	
8	頭蓋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
9	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察（実習）1	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
10	脊柱と胸郭	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
11	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察（実習）2	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
12	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察（実習）3	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
13	頭部の筋・頸部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
14	深胸部の筋・腹部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
15	深背部の筋・下肢の筋の解剖 DVD の鑑賞	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（1時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（1時間）	北村
成績評価方法と基準			割合
学期末に筆記試験を行う（DP①②③）　。筆記試験は 100 点満点、これに 15 点満点の実習スケッチ点を合わせて合計 115 点満点とし、その 60%以上の得点でもって合格とする。 　合格点に達しない場合には筆記試験の再試験を 1 回のみ行い、やはりスケッチ点を合わせた 60%以上の得点でもって合格とする。			筆記試験 87% スケッチ 13%

授業科目名	人体の構造Ⅰ(神経系)(理学)（Human Anatomy Ⅰ【Nervous System】）				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之、吉田　篤	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 1 限 土曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造Ⅰ（神経系）では、系統解剖学の立場から、末梢神経系、中枢神経系、感覚器について学習する。末梢神経系では、感覚器により得られた外界の情報を中枢神経に送り、中枢神経系からの出力情報を末梢効果器に伝えるシステムについて学修する。 さらに運動神経系、感覚神経系、自律神経系の機能と形態との関連性について学修する。中枢神経系では、外界からの様々な情報 を処理・統合して行動、情動、思考、記憶など高度な機能を営むシステムについて学修する。感覚器では、外界の情報を受容する組織・器官の構造と機能について学修する。これらの学修を通じて、生体が外界からの情報処理と統合を行うシステムの形態学的構成・特徴について理解を深める。

到達目標

（１）感覚器の種類と基本的構造を説明できる（DP①②③）
（２）末梢神経系の基本的構成を説明できる（DP①②③）
（３）中枢神経系の基本的構成を説明できる（DP①②③）
（４）感覚器、末梢神経系、中枢神経系による情報処理の仕組みの概要を説明できる。（DP①②③）

履修上の注意（学生へのメッセージ）

講義は教科書を中心に進めます。自発的な予習と復習を心掛けて下さい。適宜資料を配付するので、復習時に活用して理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書

野村嶸　編集　『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（第４版）』　医学書院

参考書

藤田恒太郎『人体解剖学　改訂第 42 版』（南江堂）
クロスマン、ニアリー（水野、野村　訳）『神経解剖カラーテキスト　第２版』（医学書院）

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 11）
月曜日午後５時～午後７時、各日昼休みの時間帯（金曜日を除く）は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要、感覚器（外皮、視覚器）	事前に教科書の目次や「序章」などを参考に、学習内容を概観して下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
2	感覚器（平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
3	神経系総論	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
4	末梢神経系（脳神経①　第Ⅰ～Ⅵ脳神経）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	吉田
5	末梢神経系（脳神経②　第Ⅶ～第 XII 脳神経）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
6	末梢神経系（脊髄神経①　頸神経　胸神経）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
7	末梢神経系（脊髄神経②　腰神経　仙骨神経、自律神経系）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
8	感覚器と末梢神経系の形態に関するまとめと確認テスト	感覚器と末梢神経系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間）。	森谷
9	中枢神経系（脊髄）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に	森谷

		復習して下さい（2 時間）。	
10	中枢神経系（脳幹）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
11	中枢神経系（小脳）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
12	中枢神経系（間脳、終脳①　大脳皮質）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
13	中枢神経系（終脳②　辺縁系　大脳基底核）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
14	中枢神経系（神経路）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
15	中枢神経系の形態に関するまとめと確認テスト	中枢神経系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などで十分に復習して下さい（4 時間）。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験（90%）（DP①②③） ②課題等の提出（10%）（DP①②③） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			①90% ②10%

授業科目名	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）（理学）（Human Anatomy Ⅱ【Splanchnic Circulation】）				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造Ⅱ（循環・内臓）では、循環系と内臓系とを中心に人体の正常構造について系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学修する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

①循環系（心臓血管系、リンパ系など）の基本的構成を説明できる。（DP①②③）
②内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器など）の基本的構成を説明できる。（DP①②③）

履修上の注意（学生へのメッセージ）

講義は教科書を中心に進めます。自発的な予習と復習を心掛けて下さい。適宜資料を配付するので、復習時に活用して理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書

野村嶬　編集　『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（第 4 版）』　医学書院

参考書

藤田恒太郎『人体解剖学　改訂第 42 版』（南江堂）

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階（研究室 11）
月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要 血液とリンパ 脈管系（循環器系）総論	事前に教科書の目次などを参考に、学習内容を概観して下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
2	心臓	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
3	小循環（肺循環）と大循環（体循環） 動脈系①（総頚動脈、鎖骨下動脈、胸大動脈）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
4	動脈系②（腹大動脈、総腸骨動脈）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
5	静脈系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
6	胎生期の循環系 リンパ系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
7	脈管系の形態に関するまとめと確認テスト	脈管系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間）。	森谷
8	内臓学総論 消化器系①（口腔、咽頭、食道）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
9	消化器系②（胃、小腸、大腸）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
10	消化器系③（肝臓、膵臓） 呼吸器系①（外鼻、鼻腔）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
11	呼吸器系②（気管、気管支、肺）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に	森谷

		復習して下さい（2 時間）。	
12	泌尿器系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
13	生殖器系①（男性生殖器）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
14	生殖器系②（女性生殖器） 内分泌系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
15	内臓系の形態に関するまとめと確認テスト	内臓系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間）。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験（90%）（DP①②③） ②課題等の提出（10%）（DP①②③） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			①90% ②10%

授業科目名	人体の機能Ⅰ(動物性機能)(理学)（Human Physiology Ⅰ【Animal Function】）				
主担当教員	今村　行雄		担当教員	今村　行雄	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能Ⅰでは、神経系と血液を中心に取り扱う。

到達目標

細胞の構造と機能のあらましを述べることができる。
神経細胞とシナプスについて概説することができる。
中枢神経の主要部位の構造とその主な機能を述べることができる。
感覚の受容について述べることができる。
筋肉の収縮・弛緩について述べることができる。
血液の組成と、それぞれの成分の役割を説明できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

参考書として推薦していますが、生理学第 5 版（医学書院）はわかりやすくとてもいい教科書なのでできるだけ購入してください。講義はこの生理学の教科書（参考書として推薦）に基づいて作成した資料を使ってすすめていきます。生理学は皆さんにとってとても重要な科目の一つです。しかし、その内容は非常に多く、初学者が陥りやすい悩みとしては、すべてを網羅して隅から隅まで頭に留めておくのは難しく、どこに力点をおいたらいいか知りたいということだと思います。本講義では皆さんができるだけ迷わないようにするため、配慮した資料を作成しています。また、最後に一回の試験での評価は皆さんも逆に大変だと思います。そこで、毎回講義の終わりに知識の確認のための練習問題をやっていただき、真ん中あたり（第 8 回）および最後（15 回）にまとめと小テストを行います。すなわち、小テスト 2 回＋最後の期末 1 回で評価します。

教科書

使用しない。生理学第 5 版に基づき作成した資料で講義を進めます。

参考書

生理学 第 5 版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）　医学書院

研究室／オフィスアワー

質問などありましたら、講義終了後、教室もしくは非常勤講師控室で受け付けます

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	序説，生命現象と人体	生理学とはどのような学問なのか，人体の諸臓器・体液の働き・ホメオスタシスについて述べられるようにする。	
2	ニューロンとシナプス	細胞膜の働きと生体膜電位について述べられるようにする。	
3	神経の興奮伝導と末梢神経（その１）	神経細胞の構造と末梢神経の種類について述べられるようにする。	
4	神経の興奮伝導と末梢神経（その２）	シナプスによる興奮伝達の仕組みについて述べられるようにする。	
5	中枢神経系（その１）	中枢神経系について概説できるようになるとともに、脊髄から間脳に至る部位の機能について述べられるようにする。	
6	中枢神経系（その２）	小脳、大脳各部位の機能について述べられるようにする。	
7	中枢神経系（その３）	脳の高次機能についてその測定方法や脳の保護機能について述べられるようにする。	
8	前半のまとめ及び小テスト		
9	筋と骨（その１）	骨格筋の機能について述べられるようにする。	
10	筋と骨（その２）	心筋・平滑筋と骨の機能について述べられるようにする。	
11	感覚（その１）	感覚の受容の仕組みについて概説できるようになるとともに、体性感覚・内臓感覚について説明できるようにする。	

12	感覚（その２）	特殊感覚（視覚・聴覚・味覚・嗅覚）の受容の仕組みについて説明できるようにする。	
13	血液（その１）	血液の成分について概説できるようになるとともに、赤血球の働きについて説明できるようにする。	
14	血液（その２）	白血球・血小板の働きと血液型の仕組みについて説明できるようにする。	
15	後半のまとめ及び小テスト		
成績評価方法と基準			割合
1.小テスト 2.期末テスト 3.授業態度 で評価する。DP①②③			1.20% 2.70% 3.10%

授業科目名	人体の機能Ⅱ(植物性機能)(理学)（Human Physiology Ⅱ【Vegitative Function】）				
主担当教員	今村　行雄		担当教員	今村　行雄	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能 II では、循環器・消化器をはじめとした内臓を中心に取り扱う。

到達目標

心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。
呼吸力学とガスの運搬を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。
腎臓の働きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。
消化と吸収の仕組みを概説できる。
さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。
代謝と体温の調節について概説できる。
生殖と発生のあらましを説明できる。
成長と老化、さらに運動に伴う人体の機能変化について説明できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

参考書として推薦していますが、生理学第５版（医学書院）はわかりやすくとてもいい教科書なのでできるだけ購入してください。講義はこの生理学の教科書（参考書として推薦）に基づいて作成した資料を使ってすすめていきます。生理学は皆さんにとってとても重要な科目の一つです。しかし、その内容は非常に多く、初学者が陥りやすい悩みとしては、すべてを網羅して隅から隅まで頭に留めておくのは難しく、どこに力点をおいたらいいか知りたいということだと思います。本講義では皆さんができるだけ迷わないようにするため、配慮した資料を作成しています。また、最後に一回の試験での評価は皆さんも逆に大変だと思います。そこで、毎回講義の終わりに知識の確認のための練習問題をやっていただき、真ん中あたり（第８回）および最後（第 15 回）にまとめと小テストを行います。すなわち、小テスト２回＋最後の期末１回で評価します。

教科書

使用しない。生理学第５版に基づき作成した資料で講義を進めます。

参考書

生理学 第５版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）　医学書院

研究室／オフィスアワー

質問などありましたら、講義終了後、教室もしくは非常勤講師控室で受け付けます

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	心臓と循環（その１）	心臓の興奮収縮連関・心臓電気生理・心電図について述べられるようにする。	
2	心臓と循環（その２）	血管の働きと血圧の成り立ちについて述べられるようにする。	
3	心臓と循環（その３）	微小循環と諸臓器における循環調節の特徴について述べられるようにする。	
4	呼吸とガスの運搬（その１）	呼吸器の働きと換気力学について述べられるようにする。	
5	呼吸とガスの運搬（その２）	ガス交換と呼吸調節の仕組みについて述べられるようにする。	
6	尿の生成と排泄（その１）	尿生成の仕組みについて述べられるようにする。	
7	尿の生成と排泄（その２）と酸塩基平衡	尿生成の調節の仕組みと、酸塩基平衡の異常を含む体液成分変化への身体の対応について述べられるようにする。	
8	前半のまとめ及び小テスト		
9	消化と吸収	栄養素の消化と吸収の仕組みについて述べられるようにする。	
10	内分泌（その１）	生理活性物質の分類とホルモンの作用の仕組みについて概説できるようにする。	
11	内分泌（その２）	いろいろなホルモンの分泌と作用の仕組みについて述べられるようにする。	

12	代謝と体温	栄養素の代謝と体温の調節の仕組みについて述べられるようにする。	
13	生殖と発生	生殖と発生の仕組みについて述べられるようにする。	
14	成長と老化、運動生理	成長と老化、および運動に伴う人体の機能変化について説明できるようにする。	
15	後半のまとめ及び小テスト		
成績評価方法と基準			割合
1.小テスト 2.期末テスト 3.授業態度 で評価する。DP①②③			1.20% 2.70% 3.10%

授業科目名	基礎運動学(理学)（Basic Kinesiology）				
主担当教員	角田 晃啓		担当教員	角田 晃啓	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

基礎運動学では、人体の構造と機能（骨、筋、神経）をふまえ、人体が空間のなかでどのように動くかを学習する。
特に重力の影響を受けた状態での運動について理解することを目的とする。

到達目標

空間の中での身体の運動を理解できる。＜DP①②③＞
身体の運動に関与している骨、関節、靭帯、筋について説明できる。＜DP①②③＞
また、各関節固有の運動について用語を理解・記憶し、他者に対して説明できる。＜DP①②③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

解剖学・生理学の知識が必要となるため必ず復習すること。

教科書

中村隆一 『基礎運動学』 医歯薬出版

参考書

Donald A. Neumann 『筋骨格系のキネシオロジー』 医歯薬出版
A.I.Kapandji 『カパンジー 関節の生理学』 医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

角田：在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	力学の基礎	教科書･配布資料を読み、基本姿勢、運動の方向(面と軸)、テコについて理解する。	
2	運動器の基礎	教科書・配布資料を読み、骨・神経・筋の概要について理解する。	
3	肘関節・前腕の運動	教科書・配布資料を読み、肘関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
4	肩関節の運動（１）	教科書・配布資料を読み、肩関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
5	肩関節の運動（２）	教科書・配布資料を読み、肩関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
6	手関節・手の運動（１）	教科書・配布資料を読み、手関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
7	手関節・手の運動（２）	教科書・配布資料を読み、手関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
8	上肢の運動学	到達目標：上肢の運動にまつわる用語を理解、記憶し、他者に対して説明できる。	
9	股関節の運動（１）	教科書・配布資料を読み、股関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。特に肩関節との類似点・相違点について理解する。	
10	股関節の運動（２）	教科書・配布資料を読み、股関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
11	膝関節・下腿の運動	教科書・配布資料を読み、膝関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。特に、肘関節・前腕との類似点・相違点について理解する。	
12	足関節の運動（１）	教科書・配布資料を読み、足関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。特に手関節・手との類似点・相違点について理解する。	
13	足関節の運動（２）	教科書・配布資料を読み、足関節の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
14	脊柱・体幹の運動（１）	教科書・配布資料を読み、脊柱・体幹の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	
15	脊柱・体幹の運動（２）	教科書・配布資料を読み、脊柱・体幹の骨・関節構造・靭帯、筋、運動について理解する。	

成績評価方法と基準	割合
確認テスト＜DP①＞	20%
中間試験＜DP①②③＞	40%
期末試験＜DP①②③＞	40%

授業科目名	運動学実習(理学)				
主担当教員	前田　薫		担当教員	前田　薫、角田　晃啓、仲本　正美、工藤　慎太郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 1 限 火曜 1 限 火曜 2 限 水曜 1 限 水曜 4 限 水曜 5 限 水曜 6 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

本授業において、学生は、運動学の知識を測定・解析に用いる方法の概略と論理的思考の基礎を習得することを目指し、１）立位バランス、２）筋活動、３）立ち上がり動作の解析、４）呼気ガス分析を実施する。専門的な機器の操作は難解なため、教員の指示にしたがって実施する。そして、一連の実験課程をレポートにまとめる。結果の予想、実験、レポートの作成の課程で、学生は論理的思考と順序立った報告書の作成を経験し、その概要を習得する。

到達目標

・運動学の知識を測定・解析に用いる方法の概略と論理的思考の課程を説明できる（DP①②）
・論理的なレポートを書くことができる（DP①②）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・学生を班に別けて、班によって授業実施日時を変えて実施します。
・すべて【別途配布する授業進行表（前期中に配布）】にしたがって行動してください。
・グループワークが中心です。

教科書

１）青木隆明（監修），運動療法のための機能解剖学的触診技術・上肢，メジカルビュー社
２）青木隆明（監修），運動療法のための機能解剖学的触診技術・下肢，メジカルビュー社
３）中村隆一 『基礎運動学』 医歯薬出版

参考書

【呼気ガス実習】谷口興一・伊東春樹，心肺運動負荷テストと運動療法，南江堂

研究室／オフィスアワー

各教員に事前にアポイントメントを取ってください。具体的には各担当教員から指示があります。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【オリエンテーション】 ・実習の班分け ・実習の進め方の説明 ・レポートの書き方の説明 ・実験演習①	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田
2	【オリエンテーション②】 ・前回のフィードバック ・実験演習②	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容を各自練習しておく。	前田
3	【床反力実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	仲本
4	【床反力実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	仲本
5	【筋電図実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	前田

6	【筋電図実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	前田
7	【筋電図実習③】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	前田
8	【筋電図実習④】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	前田
9	【呼気ガス実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	角田
10	【呼気ガス実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	角田
11	【呼気ガス実習③】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	角田
12	【立ち上がり動作の解析実習①】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	工藤
13	【立ち上がり動作の解析実習②】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	工藤
14	【立ち上がり動作の解析実習③】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	工藤
15	【立ち上がり動作の解析実習④】 ・測定する項目について仮説を立てる ・仮説を検証する方法を立案する ・測定を実施する ・データを解析する	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：実技内容をレポートにまとめる。	工藤
成績評価方法と基準			割合
レポート（DP①②）			レポート100%＊4課題分のレポートの合計が60点以上で単位認定する。

授業科目名	臨床心理学(理学)（Clinical Psychology）				
主担当教員	海蔵寺　陽子		担当教員	海蔵寺　陽子	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

臨床心理学は、人間の不適応行動の研究や治療を目的とする心理学です。授業では、人の心の構造のほか、具体的な心理検査や心理療法について学習します。

到達目標

１．心の病気とその症状を理解する〈DP①②〉
２．各種の心理検査について理解し、その特徴を説明できる〈DP①②〉
３．各種の心理療法について理解し、その特徴を説明できる〈DP①②〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１．身近な経験を臨床心理学的に考えてみること
２．疑問を大切にし、解決に向けて行動すること

教科書

臨床心理学序説　　高橋雅春・高橋依子　著　　ナカニシヤ出版

参考書

はじめての臨床心理学　　森谷寛之・竹松志乃　編著　　北樹出版

研究室／オフィスアワー

なし

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	臨床心理学とは	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　教科書の確認 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
2	心理療法とは	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　心の健康について考えてみる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
3	精神力動的心理療法１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　心の働きについて新聞・テレビ・メディア記事などをひとつ調べる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
4	精神力動的心理療法２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　精神分析について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
5	精神力動的心理療法３	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　自分の見た夢を記録してみる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
6	行動療法１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　行動療法について教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
7	行動療法２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　学習理論について調べておく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
8	クライエント中心療法	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　傾聴について調べておく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
9	その他の心理療法	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　心理療法に関する新聞・テレビ・メディア記事などをひとつ調べておく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
10	心理テストとは	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　心理テストを実施する際、注意すべきことは何か考えてみる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	

11	性格テスト１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　性格テストについて教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
12	性格テスト２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　性格テストに関する新聞・テレビ・メディア記事などをひとつ調べておく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
13	知能テスト１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　知能について考える 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
14	知能テスト２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　知能テストについて教科書を読んでおく 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
15	講義全体のまとめと振り返り	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：　心理療法、心理テストを実施するときの注意点について考えてみる 復習：　授業をもとにノート、教科書の確認	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験<DP①②> ②平常点（レポート、授業態度など）<DP①②>			①80% ②20%

授業科目名	リハビリテーション概論(理学)（Introduction to Rehabilitation）				
主担当教員	角田　晃啓		担当教員	角田　晃啓、金尾　顕郎、中根　征也	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修
授業概要					
リハビリテーションについて、理学療法を中心にその概要を教授する。					
到達目標					
１．リハビリテーションをとりまく一般的な知識が理解できる。＜DP①＞ ２．リハビリテーションにおける理学療法の職域、位置づけが理解できる。＜DP①＞					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必要に応じてフィールドワークを行うことがあるので必ず参加すること。					
教科書					
椿原彰夫　PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論　診断と治療社					
参考書					
特になし（適宜、授業資料を配布）					
研究室／オフィスアワー					
角田：在室時は随時 金尾：水曜日の１限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	リハビリテーションの概要	到達目標：リハビリテーションの歴史、概要について理解する。	
2	疾病と障害、ICIDH と ICF	到達目標：疾患と障害の違いについて理解し、これを説明できる。	
3	リハビリテーション関連職種	到達目標：リハビリテーション関連職種の職域の違いについて説明できる。	
4	日常生活活動の概念と評価①	到達目標：ADL の構成要素を知る。	
5	日常生活活動の概念と評価②	到達目標：ADL の構成要素を知り、これを評価できる。	
6	リハビリテーションの手段と方法①	到達目標:リハビリテーションの対象となる機能障害、特に関節可動域制限について理解し、それを測定するための手段を想起できる。	
7	リハビリテーションの手段・方法②	到達目標:リハビリテーションの対象となる機能障害、特に筋力低下について理解し、それを測定するための手段を想起できる。	
8	疾患別リハビリテーション	到達目標：疾患に応じたリハビリテーションの特色について理解する。	
9	病期別リハビリテーション：急性期①	到達目標：病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。	
10	病期別リハビリテーション：急性期②	到達目標：病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。	
11	病期別リハビリテーション：回復期①	到達目標：病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。	
12	病期別リハビリテーション：回復期②	到達目標：病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。	
13	病期別リハビリテーション：維持期①	到達目標：病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。	
14	病期別リハビリテーション：維持期②	到達目標：病期ごとのリハビリテーションの特性を知り、理解を深めること。	
15	リハビリテーションの実際	到達目標：15 回の授業の総括としてリハビリテーションについて自分なりの見識をもつ。	
成績評価方法と基準			割合
レポート提出ならびに適宜行われる授業内容の確認によって評価する。＜DP①＞			100%

授業科目名	公衆衛生学(理学)（Public Health）				
主担当教員	今村　行雄		担当教員	今村　行雄	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、衛生・公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、衛生・公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。さらに、世界における日本の現状および動向について理解し、日本における公衆衛生のあり方について考える。

到達目標

私たちの生活や健康は、社会の制度に支えられている。公衆衛生学は、健康を支える制度そのものである。公衆衛生の歴史や体制、内容を知り、自らの生活や健康を守り、向上を図るための知識を習得する。
１．公衆衛生学とは何かを知る。
２．疫学について知り、曝露について理解する。
３．健康を害する因子を探り、予防とは何かを理解する。
４．健康維持のための施策について理解する。
５．日本の医療状況を理解し、世界各国の状況と比較できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．公衆衛生学は、進歩する医療技術や研究成果だけでなく、国の情勢や法律、予算などにも左右され、変化していくものである。講義で習ったことは現時点での事実であることを認識し、講義終了後には統計データなどは最新のものを各自、調べて知識をアップデートする必要がある（特に国家試験前）ことに留意する。
２．新聞やニュースなどを通じて、社会情勢に目を向けること。
３．常に疑問を持ち、調べ、客観的に評価し、自分の知識を深めること。

教科書

なし。（参考書１に基づいて作成した配布資料を使って講義を進めます）

参考書

1.学生のための現代公衆衛生（南山堂）
2.公衆衛生が見える（メディックメディア）

研究室／オフィスアワー

非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康の科学としての公衆衛生学	課題：公衆衛生とは何か、WHO, 疫学研究	
2	人口の動向	授業の復習 課題：人口の増減が社会生活にどう影響するか	
3	新生児・乳幼児期の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題：胎児、乳幼児期の保健を理解する	
4	青少年の保健	授業の復習 課題：学校保健について理解する	
5	成人期の保健	授業の復習と次回講義の予習 課題：生活習慣病について理解する	
6	老年期の保健と死の問題１	授業の復習および次回の講義の予習 課題：高齢者福祉について理解する	
7	老年期の保健と死の問題２	予習：シラバス・資料確認 課題：高齢者の健康についての諸問題について理解し、死や臓器移植について考察する	
8	心の健康と心身障害	予習：シラバス・資料確認 課題：精神保健について理解する	
9	環境の衛生	予習：シラバス・資料の確認 課題：環境とは何か、理解する	
10	環境汚染と公害	予習：シラバス・資料の確認 課題：公害問題について理解する	
11	感染症：微生物による病気	予習：シラバス・資料を確認 課題：感染症について理解	
12	食物と健康１	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒について理解	
13	食物と健康２	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒菌などの理解を深める	
14	職業生活と健康	予習：シラバス・資料の確認 課題：職業病について理解する	
15	保健・医療の行政	予習：資料の確認 課題：衛生行政の種類について理解する	

成績評価方法と基準	割合
試験（90%）+授業態度（10%）で評価します。試験で評価し、単位認定とする。 単位認定基準及び試験受験資格は、大学の規定に従う。	試験 90% 受講態度 10%

授業科目名	医療関係法規論(理学)（Medicine Related Laws and Regulations）				
主担当教員	李　庸吉		担当教員	李　庸吉	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

ここで勉強することになる分野は「医事法」と称される領域になるが、それは憲法をはじめ民法、刑法、行政法等、複数の法の複合領域ともいえる。そこで、まず医事法全体を概観しながら法の基本的な概念を身につけていき、次いで理学療法士にとって関連の深い諸法について学び、裁判例などにも触れてみたい。

到達目標

１．理学療法士に関連を有する法律並びに行政について理解させる。
２．基本的な法概念と法感覚を身につけた上、理学療法士及び作業療法士法を理解させる。
３．医師法はじめとする医療関係者法並びに医療法の概要、さらに理学療法士の法的な位置づけについての知識を習得させる。
４．また責任法という観点から、法を学ぶことが医療者の行動指針につながることも理解させる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

他の教科もそうでしょうが、法学も一夜漬けでどうこうできるものではありません。欠席が多いと訳が分からなくなるのは必至でしょうから、毎回の出席と復習が何より大事だと思います。

教科書

手嶋豊『医事法入門［第５版］』（有斐閣アルマ）

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	イントロダクション、医療者が法を学ぶ意義	配布資料を基に復習することが望ましいと思います。まずは用語に慣れることも念頭においておくとよいでしょう。	
2	法とは何か、法の種類と体系	同上また、最初は予習より復習の方に主眼をおくことでよいと思います。	
3	医療と人権（総説）	同上個別具体的な事項については講義の中で適宜お伝えします。	
4	各論：自己決定権、プライバシー権等	同上ゆとりのある方は、上にあげている参考書等を用いて予習をすることができれば、さらに理解が立体的になってよいと思います。	
5	医療における刑法上の問題（総説）	同上	
6	各論：生命：身体に関する罪を中心に	同上	
7	医療における民法上の問題（総説）	同上	
8	各論：医療契約、不法行為	同上	
9	理学療法士及び作業療法士法①（総則、免許、欠格事由）	同上	
10	理学療法士及び作業療法士法②（業務、守秘義務、罰則）	同上	
11	医療関係者法（医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法等）	同上	
12	医療法（医療提供の理念、医療提供施設及びその管理等）	同上	
13	医療安全（医療の質、リスクマネジメント等）	同上加えて参考資料等を適宜紹介するようにします。	
14	判例学習	同上	
15	講義全体のまとめと振り返り	試験に向けて総復習となるでしょうが、とにかく反復すること、考えることがしっかりした理解にも結びつきます。 法学は決して暗記オンリーの科目ではないことに留意する必要があるでしょう。	

成績評価方法と基準	割合
①レポート（ミニレポート）課題 ②定期試験	①30% ②70%

授業科目名	理学療法評価学総論(理学)（General Physical Therapy Evaluation）				
主担当教員	木内　隆裕		担当教員	木内　隆裕、仲本　正美、杉本　圭、松尾　浩希	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

理学療法評価は対象者の生活機能を分析する方法の一つであり、リハビリテーション計画の立案やその効果判定等を目的として実施されるものである。本科目では、理学療法評価から治療計画までのプロセスを学修する。また、情報収集、医療面接、基本的評価手技の一部（触診、形態測定、関節可動域測定）を修得する。これらの評価項目について意義・目的を理解し、その内容を対象者に説明して測定できることを目標とする

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1)　理学療法評価の意義、目的、およびプロセスについて概説できる。
2)　生活機能・障害の分類（ICD、ICIDH、ICF）について概説できる。
3)　形態測定、関節可動域測定、バイタルサイン測定の意義や目的について説明できる。
4)　上記の基本的評価手技を、筋骨格系の解剖学の知識と結びつけて説明できる。
5)　上記の基本的評価手技を実施することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)　本科目は演習科目に該当し、必要出席回数は 「授業回数の５分の４以上」 を採用する。
2)　指定された教科書を毎回の授業に持参すること。
3)　実技形式の場合には、ジャージ一上下、および本学指定の上履きを着用して参加すること。また、インナーには、すぐに肘、膝、足部を露出できるものを着用すること。
4)　髪が長い場合は実技に支障の無いようにくくること。
5)　飲食は禁止とする。

教科書

1)　潮見泰藏，下田信明(編)．　リハビリテーション基礎評価学．第２版，羊土社，2019．(PT・OT ビジュアルテキスト)．
2)　中村隆一，齋藤宏，長崎浩．基礎運動学．第６版補訂，医歯薬出版，2012．
3)　林典雄，運動療法のための機能解剖学的触診技術．上肢．改訂第２版，メジカルビュー社，2011．
4)　林典雄，運動療法のための機能解剖学的触診技術．下肢・体幹．改訂第２版，メジカルビュー社，2012．

参考書

1)　野村嶬(編)．　解剖学．第４版，医学書院，2015．(標準 PT・OT シリーズ)．
2)　Neumann DA(原著)．Andrew PD，有馬慶美・日髙正巳(監訳)．　筋骨格系のキネシオロジー，原著第３版，医歯薬出版，2018．
3)　河上敬介，磯貝香．　骨格筋の形と触察法．改訂第２版，大峰閣社，2013．

研究室／オフィスアワー

木内隆裕：　E 棟４階研究室／火・金４限以降
仲本正美：　E 棟４階研究室／火曜日 1-2 限目（時間は事前に相談することが望ましい）
杉本　圭：　E 棟４階研究室／水曜日 3-5 限目（時間は事前に相談することが望ましい）
松尾浩希：　E 棟４階研究室／金曜日３時限目以降（時間は事前に相談することが望ましい）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【実技室】 評価の概念、医療面接の基礎 触診と形態測定①：概論、四肢長（下肢）	予習：測定に使うランドマークの確認（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	木内
2	【実技室】 触診と形態測定②：四肢長（下肢・上肢）	予習：測定に使うランドマークの確認（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	仲本
3	【実技室】 触診と形態測定③：四肢長（上肢）	予習：測定に使うランドマークの確認（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	仲本
4	【実技室】 触診と形態測定④：四肢長（体幹）、周径	予習：測定に使うランドマークの確認（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	仲本
5	【実技室】 触診と形態測定⑤：周径、その他	予習：測定に使うランドマークの確認（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	仲本
6	【実技室】 関節可動域測定①：概論、肘関節	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	木内
7	【実技室】 関節可動域測定②：前腕、手関節	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	木内
8	【実技室】 関節可動域測定③：肩甲上腕関節、肩甲帯	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	木内
9	【実技室】 関節可動域測定④：肩甲上腕関節、肩甲帯	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	木内
10	【実技室】 関節可動域測定⑤：脊柱（頸部、胸腰部）	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	杉本
11	【実技室】 関節可動域測定⑥：脊柱（胸腰部）、股関節	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	杉本、松尾
12	【実技室】 関節可動域測定⑦：股関節、膝関節	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	松尾
13	【実技室】 関節可動域測定⑧：足関節、その他	予習：基本軸・移動軸・参考可動域、二関節筋（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	松尾
14	【実技室】 バイタルサイン測定	予習：循環器の生理学（1 時間） 復習：学習範囲の実技（1 時間）	杉本
15	【講義室】 評価の概念・過程 生活機能・障害の分類（ICD、ICIDH、ICF）	予習：ICD、ICIDH、ICF（1 時間） 復習：ICF で自分を分析する（1 時間）	木内

成績評価方法と基準	割合
1)　単位認定のための必要出席回数は「総授業回数の５分の４以上」とする。 2)　実技テスト（配分 60%）と筆記テスト（配分 40%）で評価し、総合成績の得点率 60%以上（小数切捨て）を単位認定基準とする。ただし、実技テストの平均得点率が 60%未満（小数切捨て）の場合は、筆記試験の結果によらず不可とする。 3)　実技テストの評価には事前に配付するルーブリックを使用する。	実技 60% 試験 40%

授業科目名	基礎日常生活活動学(理学)（Basic Daily Activities）				
主担当教員	仲本　正美		担当教員	仲本　正美、林　真太郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

基礎日常生活活動学では、人間の日常生活の基本として遂行される食事、排泄、整容、更衣、移動などの代表的な動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、日常生活活動の概念、位置づけを教授する。Barthel index、FIMなどの日常生活活動の代表的な評価スケールと動作の実用性、自立尺度について教授する。また演習では、移動補助具（杖、車椅子）や自助具の使用方法や、基本動作の運動学的分析や症例別の指導方法について教授する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．基礎日常生活活動（ADL）の概念を理解し動作の自立度・実用性が想起できる。
２．日常生活活動の評価スケールを適切に使用できる。
３．基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行、移乗）を理解できる。
４．移動補助具（杖、車椅子）や自助具の使用方法について理解でき、適切に使用できる。
５．症例毎のリスク管理と動作指導が理解できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．演習を通して理解した後、必ず復習し、知識を整理すること。
２．授業内容の予習復習では、自分で調べる学習を意識すること。
３．解剖学・生理学・運動学の知識と統合させるように復習すること。

教科書

細田多穂．シンプル理学療法学シリーズ．日常生活活動学テキスト．南江堂
潮見泰藏．下田信明．PT・OT ビジュアルテキスト．リハビリテーション基礎評価学．羊土社

参考書

奈良勲他著：標準理学療法学　日常生活活動・生活環境学．医学書院
キルステンゲッツ・ノイマン著：観察による歩行分析．医学書院
畠中泰彦編：これならできる！姿勢・動作・歩行分析．羊土社

研究室／オフィスアワー

9:00-16:00　授業時間以外

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ADL の総論	教科書の「１総論」を予習しておく 授業において理解度を確認する小テストを実施する	
2	ADL 評価１：概要	教科書の「２ADL 評価とその実際①ADL 評価の概要と評価法」を予習しておく 授業において理解度を確認する小テストを実施する	
3	ADL の評価２：基本動作の概要	教科書の「３ADL 評価とその実際②動作分析の視点」と「７～10 基本動作」を予習しておく 授業において理解度を確認する小テストを実施する	
4	移動補助具：杖	教科書の「６補装具」を予習しておく 授業において理解度を確認する小テストを実施する	
5	移動補助具：車椅子	教科書の「６補装具」を予習しておく 授業において理解度を確認する小テストを実施する	
6	演習１－①	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
7	演習１－②	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
8	演習１－③	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
9	演習１－④	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
10	演習２－①	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
11	演習２－②	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
12	演習２－③	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
13	演習２－④	予習として課題の調べ学習をしておくこと。 演習後に調べ学習の不足箇所を埋めること。	
14	ADL の評価３：Barthel Index	南江堂の教科書「４ADL 評価とその実際③バーセルインデックス（BI）」と、羊土社の教科書「20 日常生活活動評価」を予習しておく	
15	ADL の評価：FIM	南江堂の教科書の「５ADL 評価とその実際④機能的自立度評価法（FIM）」と、羊土社の教科書「20 日常生活活動評価」を予習しておく	

成績評価方法と基準	割合
①授業内の小テスト ②レポート課題 ①+②の成績が 60%以上（小数点切捨て）の場合に単位を認定する。 授業時数の 2/3 以上の出席が必要です。	①40% ②60%

授業科目名	物理療法学(理学)（Physiatrics）				
主担当教員	仲本　正美		担当教員	仲本　正美、林　真太郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

医学的リハビリテーションにおける物理療法の位置付け、目的を理解する。物理療法で用いられる手段が人体に作用する機序を種類別に理解し、それに関連付けてそれぞれの適応と禁忌を想起できるようにする。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

物理療法の位置付け、目的が理解できる。
種類別に作用機序・適応・禁忌が想起できる。
物理療法の機器を操作することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

機器の操作を体験することがあるが、安全のために必ず教員の指示に従うこと。

教科書

物理療法学：松澤正・江口勝彦，金原出版株式会社

参考書

EBM 物理療法：Michelle H. Cameron 編著，医歯薬出版株式会社
エビデンスから身につける物理療法：庄本康治，羊土社

研究室／オフィスアワー

9:00-16:00　授業時間以外

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	物理療法学の総論・リスク管理	教科書１章、２章を読んできてください。	仲本・林
2	温熱療法・寒冷療法（１）	教科書第３章、第４章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本・林
3	温熱療法・寒冷療法（２）	教科書第３章、第４章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
4	水治療法・牽引療法・マッサージ（１）	教科書第９章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
5	水治療法・牽引療法・マッサージ（２）	教科書第 10 章、第 11 章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
6	光線療法：赤外線・紫外線・レーザー	教科書第５、６章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
7	復習および機器操作の体験①	第 1～6 講の授業プリントを持ってきてください。 ジャージに着替えてきてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本・林
8	中間試験	第 1～7 講の内容について試験をします。	仲本
9	高周波療法：極超短波・超短波	教科書第５章を読んできてください。	仲本
10	超音波療法（１）：特徴と作用	教科書第７章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
11	超音波療法（２）：操作方法	教科書第７章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
12	電気療法（１）：特徴と作用	教科書第８章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
13	電気療法（２）：刺激設定	教科書第８章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
14	電気療法（３）：操作方法	教科書第８章を読んできてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本
15	復習および機器操作の体験②	第 9～14 講の授業プリントを持ってきてください。 ジャージに着替えてきてください。 前回の内容の小テストをします。	仲本・林

成績評価方法と基準	割合
①第 2～7 講の小テスト：授業開始時に実施 ②中間試験（第 1～7 講の内容） ③第 10～15 講の小テスト：授業開始時に実施 ④定期試験（第 9～15 講の内容） 得点率 60%以上（小数点切捨て）の場合に単位を認定する。 2/3 以上の出席が必要。	①10% ②40% ③10% ④40%

授業科目名	臨床見学実習(理学)（Clinical Observation Training）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、河村　廣幸、金尾　顕郎、三木屋　良輔、前田　薫、角田　晃啓、澤田　優子、仲本　正美、工藤　慎太郎、堀　竜次、杉本　圭、松尾　浩希、林　真太郎、木内　隆裕	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

これまでに履修した教養科目群・学部共通科目群および学科専門基礎科目で修得した内容をもとに、対象者との接触を通じて、社会人，医療人としての対応力を経験することを目的する。また、学内での履修内容だけでなく社会的マナーや TPO に応じたコミュニケーションを経験し、その能力の向上を目的とする。

到達目標

1年次に行う臨床見学実習では「対象者や職員とコミュニケーションを図り、社会における理学療法士の役割を認識する」ことを目標とします。これを実現するための行動目標を以下の通りとする。
①実習施設の全体的な業務と機能を知る。【DP①③④】
②理学療法士の臨床業務の概要を知る。 【DP①③④】
③リハビリテーションチームの構成を知り、その一員として理学療法士の役割責任及び協調性を自覚する。【DP①③④】
④問診・医療面接を経験する。【DP①③④】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．医療人であるという自覚をもって実習態度には十分に注意する。
２．臨床実習のため，原則欠席は認めない。
３．「学外実習の手引き」を熟読し、理解しておくこと。
４．実習前後にオリエンテーションやホームルームを行うが、単位取得にはそのオリエンテーションやホームルームに出席することが必要である。

教科書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

参考書

適宜、実習に必要なことを各自で調べること。

研究室／オフィスアワー

各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
2	患者・患児と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを身につける。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
3	医学的兆候を知る為の血圧測定や脈拍の計測などのバイタルチェックや問診などの実技も経験する。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
4	今まで履修した分野の知識を臨床の場で確認する。	日々の学習内容をデイリーノートに整理する。	
5	実習開始時と現在までの変化を自覚し、弱点の克服に努める。	前日までの学習内容をまとめデイリーノートに記載する。 実習後レポートを提出する。	

成績評価方法と基準	割合
1．実習評価【DP①③④】 2．実習記録と終了後のグループワーク・プレゼンテーション【DP①③④】 の総合評価にて 60 点以上の評価に値する内容で単位認定する。	1．70% 2．30%

作業療法学科

（2016 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	英会話Ⅰ(作業)（English Conversation Ⅰ）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA013	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

英会話Ⅰでは、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話力を身につける。

到達目標

・自己紹介ができる。〈DP②〉
・最低限の日常会話ができる。〈DP②〉
・自分の考えを最低限伝えることができる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Common Verb-based Phrases: 基本動詞を用いた実用英語表現 (Yoshinori Tomoshige, Mark Taylor 著、南雲堂, 2017)、Expressions for Everyday Actions: 日常動作を表す英語表現 (Hidehiko Konaka 著、南雲堂, 2019)

参考書

英和・和英辞典

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 22 / 木曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Getting to know each other	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Introducing yourself	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about interests	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Greeting someone	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about family	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Asking and talking about family and relatives	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about people	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Describing what people look like	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about work	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Telling time	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about past experiences	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about vacations	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about sports	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about physical condition	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①口頭試問〈DP②〉 ②授業参加態度〈DP②〉 ③その他プレゼンテーションや課題など〈DP②〉 ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	英会話Ⅱ(作業)（English Conversation Ⅱ）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA014	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

英会話Ⅰに引き続き、英会話Ⅱでは英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で他人と関わる際に必要となる英会話力を身につける。さらに、自分の伝えたいことを的確に表現できる英語力の習得を目指す。

到達目標

・日常生活に困らない程度の会話ができる。〈DP②〉
・自分の考えを的確に伝えることができる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Common Verb-based Phrases: 基本動詞を用いた実用英語表現 (Yoshinori Tomoshige, Mark Taylor 著、南雲堂, 2017)、Expressions for Everyday Actions: 日常動作を表す英語表現 (Hidehiko Konaka 著、南雲堂, 2019)
ただし、英会話Ⅰの履修者は購入する必要なし。英会話Ⅱからの履修者のみ、購入すること。

参考書

英和・和英辞典

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22 木曜日 3 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Talking about other countries	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Nationalities, languages and ethnic foods	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about experiences	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Asking about experiences	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about places	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Talking about Past Experiences	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about sports	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Talking about other countries	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about places	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Describing locations and asking directions	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about Japnese things	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about future events	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about school	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about Health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①口頭試問〈DP②〉 ②授業参加態度〈DP②〉 ③その他プレゼンテーションや課題など〈DP②〉 ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	医学英語Ⅰ(作業) (English for Medicine Ⅰ)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA015	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。
将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。

到達目標

最低限患者とコミュニケーションがとれる。<DP②>
最低限の医学用語が理解できる。<DP②>
医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。
携帯電話の使用、私語は慎むこと。

教科書

実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 22 / 木曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Medical terminology	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Getting to know the patients 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Getting to know the patients 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Getting to know the patients 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	Getting to know the patients 4	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
7	Examination 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Examination 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Instruction medication	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Treating the patients	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Pubmedについて、論文の構成について	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Aritic1es on Occupational Therapy 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	Articles on Occupational Therapy 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Articles on Occupational Therapy 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Review	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト<DP②> ②プレゼンテーションおよびその他課題<DP②> ③授業参加<DP②> ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	医学英語Ⅱ(作業)（English for Medicine Ⅱ）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA016	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

医学英語Ⅰに引き続き、医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力の向上を目指し,臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法を学び、実際に自分で興味のあるテーマの論文を検索・収集する。そして、それらの論文から正確に情報を読み取るためのリーディングのスキルを習得する。
なお、医学英語Ⅰを履修していない者の受講も歓迎する。

到達目標

患者とコミュニケーションがとれる。<DP②>
基本的な医学用語が理解できる。<DP②>
医学分野の英語の論文から正確な情報を読み取ることができる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。
携帯電話の使用、私語は慎むこと。

教科書

実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）
（医学英語Ⅰを履修した者は、再度購入する必要はない。）

参考書

英和辞典

研究室／オフィスアワー

E棟4階研究室14 木曜日3限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Treating the Patients 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Treating the Patients 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Treating the Patients 3	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Operation	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Pregnancy	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	In the Hospital	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
7	Emergencies	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Living a Healthy Life	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Review 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Articles on OT 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Articles on OT 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Articles on OT 3	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	Articles on OT 4	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Articles on OT 5	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Review 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト<DP②> ②プレゼンテーションおよびその他課題<DP②> ③授業参加態度<DP②> ・全授業のうち2/3以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(作業)（Team Medical Care and Communication）				
主担当教員	由利　禄巳		担当教員	由利　禄巳	
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

保健・医療・福祉の専門職が各々の役割を認識し，目標および問題点を共有することの重要性を認識し，互いに連携し協働することによって，質の高い医療が提供できる知識とスキルを学ぶ．また，チーム医療実践のためのチーム・専門職のあり方を，実践例を通して解説する．
チーム医療の構成員として作業療法の専門性を活かし，積極的に医療に参画できるようになるために，医療の流れ，チーム構成員の職能，医療倫理を始めとするチーム医療の基礎知識を習得する．さらに，作業療法介入で用いるクライエント中心のトップダウンアプローチをチームに紹介する．

到達目標

1．チーム医療の必要性や意義を理解し，説明できる．＜DP②＞
2．作業療法を多職種（他学科の学生）に説明できる．＜DP②③＞
3．作業（occupation）の視点からその人を捉え，多職種（他学科の学生）に伝える事ができる．＜DP②③＞
4．チーム医療を実践するメディカルスタッフ各々の役割を認識できる．＜DP②③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．チームワークが医療の質向上，安全性，クライエントの QOL 向上に不可欠であることを認識してください．
2．新聞やニュースなどで、保健・医療・福祉関連の話題に関心を寄せ，チームという視点で読み解いてください．
3．図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の多職種連携やチームをキーワードとした症例報告を積極的に読んでください．

教科書

論文，記事，関連資料を適宜配布する．教科書の指定はない．

参考書

1）福原麻希：チーム医療を成功させる 10 か条ー現場に学ぶチームメンバーの心得．中山書店．
2）細田満和子：「チーム医療」とは何かー医療ケアに生かす社会学からのアプローチ．日本看護協会出版会．

研究室／オフィスアワー

木曜日 2 限　(10：40-12：10)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	IPW とは チームでコンセンサスを得る利点	予習:コンセンサスとは何かを調べる(2 時間)． 復習：コンセンサスを得るために必要な要素を考える（2 時間）．	
2	チーム医療の必要性，意義 個人と集団の違い	予習・復習：チームとは何か，リーダーシップとは何かをまとめる（4 時間）．	金森
3	伝える，伝わる	予習・復習：相手に伝える，伝わるために必要な条件をまとめる（4 時間）．	金森
4	①ディベートとは ②ディベートのデモンストレーション	予習・復習：テーマに対するメリットとデメリットを考える．リンクマップを作成する（4 時間）．	
5	ディベート準備	予習・復習：テーマに対するメリットとデメリットを考える．リンクマップを作成する（4 時間）．	金森
6	ディベート発表 1	予習・復習：ディベート発表の準備（4 時間）．	金森
7	ディベート発表 2	予習・復習：ディベート発表の準備（4 時間）．	金森
8	チームにおけるコミュニケーションスキル 1	予習:自己のコミュニケーションを振り返る(1 時間)． 復習:アサーションについてまとめる(3 時間)．	金森
9	チームにおけるコミュニケーションスキル 2	予習・復習：支援者と患者との関係性を文献から読み解く（4 時間）．	金森
10	疾患と医療チーム（身体・老年期障害領域） クリニカルパス	予習：雑誌「作業療法」の身体障害領域と老年期障害領域の実践報告を購読する（2 時間）． 復習：提示された模擬患者の情報を収集する．発表の準備をする．クリニカルパスについて調べる（2 時間）．	
11	疾患と医療チーム（精神・発達障害領域） クリニカルパス	予習：雑誌「作業療法」の発達障害領域と精神障害領域の実践報告を購読する（2 時間）． 復習：提示された模擬患者の情報を収集する．発表の準備をする．クリニカルパスについて調べる（2 時間）．	金森
12	模擬症例発表準備 1	予習・復習：提示された模擬患者の情報を収集する．発表の準備をする（4 時間）．	金森
13	模擬症例発表準備 2	予習・復習：提示された模擬患者の情報を収集する．発表の準備をする（4 時間）．	金森
14	模擬症例発表 1	予習：発表の準備（3 時間） 復習：他者の発表を聞き，作業療法介入の視点をまとめる（1 時間）．	金森・金尾
15	模擬症例発表 2	予習：発表の準備（3 時間）． 復習：他者の発表を聞き，作業療法介入の視点をまとめる（1 時間）．	金森・金尾

成績評価方法と基準	割合
①身体障害・老年期障害の症例レポート＜DP②＞ ②精神障害の症例レポート＜DP②＞ ③発達障害の症例レポート＜DP②＞ ④ディベート＜DP②③＞	①30% ②30% ③30% ④10%

授業科目名	生化学(作業)（Biochemistry）				
主担当教員	南方　克之		担当教員	南方　克之	
科目ナンバリング	CS021	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

「身体を作って、維持し、動かす」と言う事をするために栄養素が身体の中をどのように流れていくか（代謝）を理解する事を目的とする。

到達目標

代謝を理解して、その代謝の流れを日常生活（現代社会と環境）の中で健康を柱とした生き方を医療人として考えることができるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

プリントを渡しますので、復習をしてください。

教科書

イラスト生化学入門　相原秀孝　東京教学者

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控え室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人体の仕組み	人体の構造と機能	
2	蛋白質の構造と働き①	蛋白質とアミノ酸の関係を理解する	
3	蛋白質の構造と働き②	蛋白質の性質と蛋白質から何ができているか	
4	糖質の構造と働き①	糖質の構造と性質	
5	糖質の構造と働き②	糖質からどのようにしてエネルギーができるか	
6	脂質の構造と働き①	さまざまな脂質について	
7	脂質の構造と働き②	体内での脂質の運搬	
8	核酸の構造と働き	どのようにして同じ核酸を作り出すか どのようにして核酸から蛋白質をつくりだすか	
9	酵素の性質と働き	酵素の働き方	
10	ビタミンの種類と働き	脂溶性ビタミン・水溶性ビタミンの働き	
11	水・無機質の働き	水の重要さ さまざまな無機質の働き	
12	栄養素の消化と吸収	三大栄養素の消化と吸収	
13	生体の恒常性を保つシステム	ホルモンの働き	
14	エネルギーの消費と供給	生体のエネルギー	
15	免疫	生体防御のシステム	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験	100%

授業科目名	健康管理学Ⅰ(作業)（Healthcare Management Ⅰ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病の危険因子が明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方の条件（強度・時間・頻度）に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウオーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。

到達目標

1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません。

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村慎一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動　3	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点　1 ウォームアップとウォームダウン　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点　2 ウォームアップとウォームダウン　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点　3 オーバーエクササイズによる身体的の問題	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

14	トレーニングでの注意点　4 障害を予防するためのアイシング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要			①70% ②30%

授業科目名	健康管理学Ⅱ(作業)（Healthcare Management Ⅱ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS023	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきている。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモ―ティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。

到達目標

1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村愼一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康管理について　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動　1 メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動　2 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動　3 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動　4 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動　5 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 授業の 2/3 回以上の出席が必要			①70% ②30%

授業科目名	栄養学(作業)（Nutriology）				
主担当教員	西崎　大祐		担当教員	西崎　大祐	
科目ナンバリング	CS024	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

身体を維持・運営することについて、食べ物はもちろん時代・社会環境をも含めた中での健康というものを考えることができる知識を身につけさせる。基本、教科書を使用。プリントで復習。

到達目標

生きるという事から考えると、食べることは重要だが、このことだけでは健康は手に入らない。栄養はもちろんのことだが、時代・社会・環境問題も含めた中での健康を考えられる知識を見につける。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

プリントを渡しますので、復習をすること。

教科書

イラスト基礎栄養学（大口健司他著）東京教学社

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控え室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	栄養の概念	1．栄養の定義 2．栄養と健康・疾患 3．遺伝形質と栄養の相互作用	
2	食物の摂取	1．空腹感と食欲 2．食事のリズムとタイミング	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態	1．消化器系の構造と機能 2．食物の消化・吸収・排泄の流れ 3．管腔内消化の調節 4．膜消化・吸収 5．栄養素別の消化・吸収 6．栄養素の体内動態 7．生物学的利用度	
4	たんぱく質の栄養①	1．たんぱく質代謝の特徴 2．食後のたんぱく質代謝 3．食間期のたんぱく質代謝 4．たんぱく質代謝回転の調節機構	
5	たんぱく質の栄養②	5．たんぱく質の栄養管理 6．アミノ酸代謝の臓器差 7．たんぱく質の栄養価 8．たんぱく質の栄養価判定 9．アミノ酸の捕捉効果	
6	炭水化物の栄養①	1．食後の糖質代謝 2．食間期の糖質代謝 3．血糖の調節機構	
7	炭水化物の栄養②	4．エネルギー源としての糖質の特性 5．他の栄養素との関連 6．食物繊維・難消化性オリゴ糖の利用	
8	脂質の栄養①	1．脂質の体内代謝 2．コレステロール代謝とその調節	
9	脂質の栄養②	3．摂取する脂質の量と質 4．他の栄養素との関係	
10	ビタミンの栄養①	1．ビタミンの種類と構造 2．ビタミンの生理機能 3．ビタミンの栄養学的機能	

11	ビタミンの栄養②	４．ビタミンの生物学的利用度 ５．他の栄養素との関係	
12	ミネラル（無機質）の栄養①	１．ミネラルの分類と栄養学的機能 ２．硬組織とミネラル ３．生体機能の調節作用	
13	ミネラル（無機質）の栄養②	４．酵素反応の賦活作用 ５．鉄代謝と栄養 ６．ミネラルの生物学的利用度 ７．他の栄養素との関係	
14	水・電解質の栄養的意義	１．体内での水の働き ２．水の出納 ３．水分のバランス ４．水・電解質の代謝	
15	エネルギー代謝	１．エネルギー代謝の概念 ２．エネルギー消費量 ３．臓器別エネルギー代謝 ４．エネルギー代謝量の測定法	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験			100%

授業科目名	身体運動科学(作業)（Science of Human Body Movement）				
主担当教員	教員未確定		担当教員	教員未確定	
科目ナンバリング	CS025	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて学び、身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニングや栄養との関連性について学ぶ。

到達目標

運動がもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の重要さを理解し、資格取得後の現場に活かせる知識と考え方を身に付ける。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

最新のデータや知見を踏まえて講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらいので、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などありましたら、遠慮なくお寄せください。

教科書

授業時に配布するプリント

参考書

改訂版 運動生理学の基礎と発展（春日規克著・フリースペース）
運動生理学のニューエビデンス（宮村実晴著・真興交易医書出版）

研究室／オフィスアワー

大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。
sotobayashi@morinomiya.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	身体運動科学の概要	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動と筋・骨格①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	運動と筋・骨格②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	ストレングス＆コンディショニング	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	柔軟性の科学①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	柔軟性の科学②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動と循環①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動と循環②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	運動と呼吸	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	運動と免疫	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	運動と栄養	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

12	運動と食生活	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	フィジカルチェック	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	脳振盪	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ・試験対策	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
1.授業の 3 分の 2 以上の出席が必要です。 2.期末テスト 60 点以上で単位認定とします。<DP③>			①100%

授業科目名	漢方医学概論(作業)（Introduction to Kampo Medicine）				
主担当教員	生島 忍		担当教員	生島 忍	
科目ナンバリング	CS026	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

現在の私たちの日常生活では、東洋医学ないし漢方医学に関する知識が、相対的に必要となっている。本講義では、学生諸氏が標準的で正しい知識を得られるよう、意図しています。しかし、鍼灸を専攻しない学生のための選択科目なので、詳細には立ち入らず、東洋医学に興味がもてるよう、また東洋医学の具体的な内容については、世界標準である「中医学（=中国伝統医学）」にもとづいて、講義をします。

到達目標

中国伝統医学の萌芽、形成と成立、内容、理論などを理解する。
中国伝統医学は、2000 年ほど昔に成立したいくつかの経典を基本に、徐々に内容が追加されて現在に至ったものです。内容は自然科学ではなく、むしろ人文科学に近いものといえます。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義では、全 15 回で教科書の前半のみ、第 3 章まで（p. 126 まで）を学習したい。以降の部分は各自が自己の興味に応じて学習されるとよい。教科書はカラーでイラストが多く一見やさしそうだが、大部分の学生諸君にとっては、たぶん生まれて初めて目にする内容にて、暗記が必要となるので、心して取り組んでください。

教科書

「オールカラー版・基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書」ナツメ社、2014 年初版。¥1.500+税。
必要に応じて適宜、参考資料を配布する。

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

授業の前後に兼任講師控室にいます

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	第 1 章　東洋医学的なカラダを理解しよう、臓腑論、東洋医学的人体論、人体関連図。肝、心。（p. 7～15）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
2	脾、肺、腎；胃、小腸・大腸・膀胱。（p. 16～23）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
3	胆、三焦、脳、胞宮、骨・脈・髄、五官、その他。（p. 24～32）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
4	第 2 章　東洋医学基礎講座、東洋医学概論①―東洋医学の成立と発展、東洋医学概論②―現代医学と東洋医学の違い。基本理論①―陰陽論。（p. 33～39）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
5	基本理論②―五行論、基本理論③―五行色体表、基本理論④―整体観念。（p. 40～45）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
6	気血津液概論①―気・血・津液、気血津液概論②―気の概念、気血津液概論③―気の不調、気血津液概論④―血の概念、気血津液概論⑤―血の不調。（p. 46～55）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
7	気血津液概論⑥―津液の概念、気血津液概論⑦―津液の不調、気血津液概論⑧―精の概念、気血津液概論⑨―精の不調。（p. 56～63）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
8	蔵象学説①―蔵象学説の基礎理論、蔵象学説②―肝の不調、蔵象学説③―心の不調、蔵象学説④―脾の不調。（p. 64～71）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
9	蔵象学説⑤肺の不調、蔵象学説⑥―腎の不調、蔵象学説⑦―六腑の不調、蔵象学説⑧―奇恒の腑の不調。（p. 72～80）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
10	第 3 章　東洋医学の診察から治療まで　概論 西洋医学と東洋医学の治療観点、 病因①―病気の原因を知る、病因②―内因、病因③―外因。（p. 81～89）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	

11	病因④—不内外因、病機—病気の進行、診察法①—四診による診察、診察法②—望診—全身・局部。(p. 90～97)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
12	診察法③—望診—舌、診察法④—聞診、診察法⑤—問診—寒熱・汗、診察法⑥—問診—痛み。(p. 98～105)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
13	診察法⑦—切診—脈診、診察法⑧—切診—腹診、弁証論治①—弁証する（診断する）、弁証論治②—八綱弁証とは？ (p. 106～113)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
14	弁証論治③—八綱弁証—表裏・寒熱、弁証論治④—八綱弁証—虚実・陰陽、弁証論治⑤—その他の弁証。(p. 114～121)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
15	治則①—治病求本・扶正?邪など、治則②—治法を決める。(p. 122～126)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験 ②レポート課題　DP②③			①80% ②20%

授業科目名	統合医療概論(作業)（Introduction to Integrative Medicine）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、増山 祥子、森 美侑紀	
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 3 限 木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素であるEBMと補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。

到達目標

１．統合医療の概念と現状について理解する。
２．EBMの概念と手法について理解する。
３．補完代替医療の種類と概要について説明できる。
４．各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。DP②③

履修上の注意（学生へのメッセージ）

医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。

教科書

資料を配布する。

参考書

各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟24研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM	EBMについて調べる	山下
3	EBMシミュレーション	自分の専門領域のエビデンスについて調べる	増山
4	EBMと診療ガイドライン	自分の専門領域または興味のある疾患の診療ガイドラインを調べる	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	利益相反状態と利益相反行為の違いについて調べる	山下
6	補完代替医療概論	代替医療と補完医療の違いについて調べる	山下
7	代表的な補完代替療法	自分の興味のある補完代替療法について調べる	山下
8	鍼灸と経穴	本学図書館にある鍼灸の書籍と雑誌を見る	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
11	ヨガ・マインドフルネス	ヨガ・マインドフルネスについてネット動画を見る	増山
12	サプリメント	興味のあるサプリメントを幾つか選んでその広告の内容に関する疑問点を調べる	山下
13	統合医療とスピリチュアルとNBM	スピリチュアルという概念について調べる	山下
14	緩和ケア・難病ケアと統合医療	末期がんまたは難病の患者の実情について調べる	増山

15	総括：統合医療は何を統合するのか	14 回までに習った内容を整理する	山下
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②課題提出物 DP②③			①70% ②30%

授業科目名	人体の構造実習(作業)（Human Anatomy Training）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久	
科目ナンバリング	SB104	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

人体の構造的、機能的最小単位である細胞には様々な形態を有しているものがあり、器官・臓器はそれらが一定の秩序に従って構成されている。本実習ではヒトの身体から頂いた組織標本の顕微鏡観察を通じて、これまで学習した「人体の構造」と「人体の機能」について、ミクロからマクロまで関連づけながら理解を深めるとともに、生命の尊厳についても学習する。

到達目標

生物の最小単位である細胞がいかなる「形態」を有し、どのような「機能」を発揮しうるのかについて「観察」を通じて理解を深めることで、各器官・臓器の機能についてもより深く理解し、さらに疾病における形態変化がどのような機能障害を生じるかについても考察できるようにする。〈DP②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 組織学の理解を深めることは、解剖学や生理学のみならず病理学や病態学の理解を深めることにつながることから、積極的に学習すること。
2. 顕微鏡観察においては観察力を身につける努力をすること。
3. 毎回テーマが異なるため極力欠席をしないようにすること。
4. 実習で扱う顕微鏡やプレパラートは精密機器かつ貴重な資料であることから、丁寧に取り扱うこと。
5. 実習室は精密機器を扱うことから飲食を禁止する。
6. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。また私語などは授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる場合がある。

教科書

1. 適宜プリントを配布する

参考書

1. 牛木辰男　著. 入門組織学 改訂第 2 版. 南江堂. 2016 年.
2. 伊藤隆、阿部和厚　著. 組織学　第 19 版. 南山堂. 2005 年.
3. 野上晴雄　著. 新組織学（Q シリーズ）改訂第 6 版. 日本医事新報社. 2016 年.

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	実習の進め方、組織学の歴史、組織学総論（4 大組織）についての解説、顕微鏡の使用方法	予習：人体の構造、機能で学んだ組織・細胞の確認（解剖学 p11-18） 復習： 4 大組織について復習すること（解剖学 p11-18、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
2	上皮組織 1：上皮組織（皮膚組織）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p11-12, 327-330）の確認 復習：観察した上皮組織および皮膚組織の構造について復習すること（解剖学 p11-12, 327-330、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
3	消化器系 1：消化管（食道、胃）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p374-376）の確認 復習：観察した食道、胃の構造について復習すること（解剖学 p374-376、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
4	消化器系 2：消化管（小腸、大腸）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p376-379）の確認 復習：観察した小腸、大腸の構造について復習すること（解剖学 p376-379、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
5	消化器系 3：肝臓、胆嚢についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p379-381）の確認 復習：観察した肝臓、胆嚢の構造について復習すること（解剖学 p379-381、配布資料）	川畑

		なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	
6	消化器系 4：膵臓、唾液腺についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p373-374, 381-382）の確認 復習：観察した唾液腺、膵臓の構造について復習すること（解剖学 p373-374, 381-382、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
7	呼吸器系：気管、肺についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p384-391）の確認 復習：観察した気管、肺の構造について復習すること（解剖学 p384-391、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
8	循環器系：心・血管（動静脈）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p339-345）の確認 復習：観察した心・血管（動静脈）の構造について復習すること（解剖学 p339-345、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
9	泌尿器系：腎（糸球体および尿細管）についての観察および解説	予習：シラバス・教科書（解剖学 p392-395）の確認 復習：観察した腎、膀胱の構造について復習すること（解剖学 p392-395、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
10	内分泌系：内分泌腺（甲状腺・膵・副腎）についての観察および解説	予習：シラバス・教科書（解剖学 p406-410）の確認 復習：観察した内分泌腺（甲状腺・膵・副腎）の構造について復習すること（解剖学 p406-410、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
11	筋組織：横紋筋、平滑筋、心筋についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p163-167）の確認 復習：観察した筋組織の構造について復習すること（解剖学 p163-167、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
12	骨格系：骨・軟骨組織（気管軟骨・骨端軟骨）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p15-16, 31-35）の確認 復習：観察した骨・軟骨組織の構造について復習すること（解剖学 p15-16, 31-35、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
13	神経組織：神経組織（脊髄、大脳、小脳）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p250-254, 260-262, 266-271）の確認 復習：観察した神経組織の構造について復習すること（解剖学 p250-254, 260-262, 266-271、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
14	生殖器系：生殖腺（精巣、前立腺、卵巣、子宮についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（解剖学 p399-404）の確認 復習：観察した精巣、卵巣、子宮の構造について復習すること（解剖学 p399-404、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
15	組織学のまとめ：これまで観察してきた正常組織像の総復習	予習：これまでの講義を振り返る（教科書、配布資料） 復習：教科書、配布資料などの振り返りを行うこと。なお予習・復習を各 1 時間行うこと。また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	川畑
成績評価方法と基準			割合
1. 実習ノートの提出〈DP②～④〉 （※実習ノートは授業終了後必ず提出すること。評価基準は授業開始時に提示する。なおノートの未提出は欠席とみなす場合もある。） 2. 4/5 以上の出席が必要			1. 100%

授業科目名	臨床運動学(作業)（Clinical Kinesiology）				
主担当教員	中西 一		担当教員	中西 一、東 泰弘	
科目ナンバリング	SB108	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

1 年次の基礎運動学をもとに、基本的動作の運動学的理解を深め、臨床における動作分析の基礎技術を習得する

到達目標

1．身体活動を運動学的に記述できる＜DP③④＞
　①正確に専門用語が使える
2．身体活動を運動学的に分析できる＜DP③④＞
　①相分類ができる
　②各関節運動を記載できる
　③各部位の運動の主動筋を言える
　④ランドマークや筋・腱が触知できる
　④運動様式の違いを言える
　⑤基底面と姿勢の安定性、力学的および運動軌跡の観点から運動を分析できる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①授業計画を常に確認し、教科書の該当単元を予習する
②グループでの実習が多くなるので、全員が協力し、積極的に参加する
③時間内に課題が終了できるよう、速やかに行動する
④動きやすい服装(原則ジャージの上下)で授業に臨む

教科書

PT・OT のための運動学テキスト　小柳・西村・山下・大西編　金原出版株式会社

参考書

『基礎運動学』中村・斎藤・長崎著　医歯薬出版
『図解　四肢と脊椎の診かた』野島元雄監訳　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階共同研究室/月曜、火曜の 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	運動分析とは	予習：教科書 85～97 復習：終了範囲の教科書・プリント ワークシートの完成 予習復習時間は 60 分	中西・東
2	姿勢	予習：教科書 307～315　341～364 復習：同上 予習復習時間は 60 分	中西・東
3	姿勢	予習：教科書 307～315　341～364 復習：ワークシート完成 予習復習時間は 60 分	中西・東
4	歩行	予習：教科書 365～409 復習：同上 予習復習時間は 60 分	中西・東
5	歩行 階段昇降	予習：教科書 496～514 復習：ワークシート完成 予習復習時間は 60 分	中西・東
6	階段昇降	予習：教科書 496～514 復習：ワークシート完成 予習復習時間は 60 分	中西・東
7	車いす移動	予習：教科書 427～443 復習：同上 予習復習時間は 60 分	中西・東
8	車いす移動 把握	予習：教科書 159～162 復習：ワークシート完成 予習復習時間は 60 分	中西・東

9	ねがえり	予習：教科書 460～474 復習：ワークシート完成 予習復習時間は 60 分	中西・東
10	起き上がり	予習：教科書 460～474 復習：ワークシート完成 予習復習時間は 60 分	中西・東
11	立ち座り	予習：教科書 475～495 復習：ワークシート完成 予習復習時間は 60 分	中西・東
12	運動分析（自由課題）	予習：授業中に提示 復習：授業中に提示 予習復習時間は 60 分	中西・東
13	運動分析（自由課題）	予習：授業中に提示 復習：授業中に提示 予習復習時間は 60 分	中西・東
14	運動分析（自由課題）　発表	予習：発表用レジュメ提出と発表の準備 予習復習時間は 60 分	中西・東
15	まとめ・質問	予習：教科書 85～97　　疑問点のまとめ 予習復習時間は 60 分	中西・東
成績評価方法と基準			割合
平常点 30%（提出物・小テスト）、定期試験 70% 2/3 以上の出席が必要			平常点 30% 定期試験 70%

授業科目名	病理学(作業)（Pathology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるよう、さまざまな疾患についての詳細な解説を行う。

到達目標

病気の成り立ちを十分に理解し、その知識を将来臨床の場で生かせるようにする。（DP②③）

履修上の注意（学生へのメッセージ）

病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならない。そのためにはそれらを確実に理解し、記憶に留めておかなければならない。

教科書

標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学　　監修：梶原博毅　編集：横井豊治、村雲芳樹　ISBN978-4-260-02871-4 医学書院

参考書

シンプル病理学　南江堂

研究室／オフィスアワー

研究室在室時　月曜日～木曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学とは 退行性病変と進行性病変①	・教科書 5～6 ページ、15～23 ページ　の退行性病変（壊死、アポトーシス、変性、萎縮）につて理解でき、退行性病変を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
2	退行性病変と進行性病変②	・教科書 15～23 ページの進行片病変（肥大、過形成、化生）について理解でき進行性病変を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
3	炎症①	・教科書 61～72 ページの炎症について理解でき急性炎症、慢性炎症につて説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
4	炎症② 再生と創傷治癒	・教科書 61～72 ページの炎症について理解でき炎症の種類につて説明できる。教科書 23～25 ページの再生と創傷治癒について理解し説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
5	循環傷害①	・教科書 37～48 ページの循環霜害（浮腫、充血とうっ血、出血）について理解でき浮腫、充血とうっ血、出血を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
6	循環傷害②	・教科書 37～45 ページの循環霜害（血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、高血圧、側副循環）について理解でき血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、高血圧、側副循環を説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
7	免疫と感染症①	・教科書 50～59 ページの免疫（自然免疫と獲得免疫）につて理解でき自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる細胞、抗体について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
8	免疫と感染症②	・教科書 50～59 ページの免疫について理解できアレルギー、免疫不全について理解できる。教科書 65～72 ページの感染症について理解で	

		き説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
9	腫瘍①	・教科症 73～92 ページの腫瘍（腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類）について理解でき腫瘍の定義、腫瘍の命名と分類について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
10	腫瘍②	・教科症 73～92 ページの腫瘍（腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因）について理解でき腫瘍の形態、転移、腫瘍の発生病理と原因について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
11	先天異常と奇形①	・教科症 101～112 ページの先天異常について理解でき単一遺伝子疾患、メンデルの法則に従わない遺伝性疾患について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
12	先天異常と奇形②	・教科症 101～112 ページの先天異常について理解でき染色体異常症について説明できる。 奇形について理解でき発生原因、種類について説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
13	代謝異常①	・教科書 27～35 ページの代謝傷害（アミノ酸代謝障害、核酸代謝障害、脂質代謝傷害）について理解でき説明できる。 ・予習・復習に 4 時間	
14	代謝異常② 老化	・教科書 27～35 ページの代謝傷害（糖質代謝障害、色素代謝傷害）について理解でき説明できる。 教科書 93～100 ページの老化について理解でき説明で見る。 ・予習・復習に 4 時間	
15	重点項目の復習	・病理総論の重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験（DP②③）			①100%

授業科目名	内科学Ⅰ（作業）（Internal Medicine Ⅰ）				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SB112	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。

到達目標

１．循環・呼吸・腎尿路・消化・肝胆膵の各種臓器の働きを理解する。
２．症状・症候の病的意義が説明できる。
３．各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。　DP②③

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１．内科学（疾病の理解）は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。
９．１４回目の講義の際に練習問題を配付するので、活用すること。

教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野
内科学（第 3 版）
ISBN978-4-260-01707-7（医学書院）

参考書

指定しない。ただし、講義では指定教科書以外からも多数の図を引用する。出典は可能な限り示す。希望者にはさらに高度な文献を与えるので、申し出よ。

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	循環器疾患（１）：動脈硬化総論・血圧の異常	予習：循環器の構成と血圧の調節について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
2	循環器疾患（２）：虚血性心疾患・心不全	予習：冠循環・循環器系のストレス応答機構等について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
3	循環器疾患（３）：心臓弁膜症・不整脈	予習：循環調節機構・心臓刺激伝導系・心電図等について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
4	循環器疾患（４）：先天性心疾患・血管の疾患	予習：循環器について胎児循環・局所血管調節機構等を含めて、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
5	呼吸器疾患（１）：呼吸器感染症	予習：呼吸器と生体防御について、解剖生理学を復習せよ。	

		復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
6	呼吸器疾患（２）：換気障害を伴う呼吸器疾患	予習：呼吸器について、呼吸機能の評価法を中心に解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
7	呼吸器疾患（３）：その他の呼吸器疾患	予習：呼吸器全般について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
8	腎尿路疾患（１）：腎不全・糸球体疾患	予習：腎臓について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
9	腎尿路疾患（２）：全身性疾患に伴う腎障害・下部尿路疾患	予習：尿路系全般について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
10	腎尿路疾患（３）：電解質異常・酸塩基平衡の異常	予習：電解質代謝と酸塩基平衡調節について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
11	上部消化管疾患	予習：上部消化管について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
12	下部消化管疾患	予習：下部消化管について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
13	肝疾患	予習：肝臓について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
14	胆道疾患・膵疾患	予習：胆道系と膵臓について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
15	総復習	予習：配布された練習問題を自力で解いておくこと。 復習：教員による解説も参照しつつ復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間（別途、定期試験準備を行う必要がある）	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験（DP②③）			100%

授業科目名	内科学Ⅱ(作業)（Internal Medicine Ⅱ）				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SB113	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態を論理的に理解・説明できるようにする。

到達目標

１．症状・症候の病的意義が説明できる。
2．各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。　DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．内科学（疾病の理解）は現代医療の基礎知識であることを認識して取り組むこと。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。
９．１４回目の講義の際に練習問題を配付するので、活用すること。

教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野
内科学(第３版)
ISBN978-4-260-01707-7（医学書院）

参考書

指定しない。ただし、講義では指定教科書以外からも多数の図を引用する。出典は可能な限り示す。希望者にはさらに高度な文献を与えるので、申し出よ。

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	血液疾患（１）	予習：血液について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
2	血液疾患（２）	予習：血液について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
3	内分泌疾患（１）	予習：内分泌系とホルモンの臓器作用について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
4	内分泌疾患（２）	予習：内分泌系とホルモンの臓器作用について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
5	代謝疾患（１）	予習：生体代謝について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	

6	代謝疾患（２）	予習：生体代謝について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
7	膠原病・アレルギー疾患（１）	予習：免疫とアレルギーについて、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
8	膠原病・アレルギー疾患（２）	予習：免疫とアレルギーについて、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
9	神経疾患（１）	予習：神経系について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
10	神経疾患（２）	予習：神経系について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
11	神経疾患（３）	予習：神経系について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
12	感染症（１）	予習：人体諸臓器について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
13	感染症（２）	予習：人体諸臓器について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
14	感染症（３）	予習：人体諸臓器について、解剖生理学を復習せよ。 復習：講義資料と教科書を用いて、講義内容を復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間	
15	総復習	予習：配布された練習問題を自力で解いておくこと。 復習：教員による解説も参照しつつ復習せよ。 学習所要時間目安：合計二時間（別途、定期試験準備を行う必要がある）	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験（DP②③）			100%

授業科目名	救急処置法(作業)（Emergecy Treatment）				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SB114	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

救急患者とは健康状態が急変した人であり、救急医療とはただちに何らかの医学的介入を必要とする人を対象にした医療である。講義では多岐にわたる内因性、外因性疾患の救急病態を概説すると同時に、診断と治療が同時に進行する救急医療現場で、どのような対応が求められるかを学ぶ。中でも応急処置は一般市民やクラブ活動の指導者にも要求される基本的なものであり、医療従事者としてこれを確実に身につけることが必要である。作業療法の実施中に起こる不慮の事故を想定し、それに対応できる知識と処置の実際を学ぶ。

到達目標

１）わが国における救急医療システムを理解し、対応の基本を学ぶ。
２）内因性、外因性救急疾患の代表事例の病態、診断・治療の原則を学ぶ。
３）蘇生法、止血法、体位保持法、固定法、運搬法等、各救急場面における基本的な処置技術を習得する。
４）呼吸療法認定士や、認定作業療法士から専門作業療法士の取得を目標とする人は、ぜひ、選択をして頂きたい。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

救急医療に従事した 40 年余の経験から、実際の事例や研究結果をスライドに示して、臨床に密着した講義を行う。救急医療は医療の原点であると同時に、内科的知識と外科的知識の両方が必要な応用医療でもある。したがって３年生までに行われた他の講義と重複する内容も多いので、3 年生前期までに得られた知識について質問をしながら、対話形式で授業を進める。評価はこの授業中の質問（50 点）、レポート（50 点）で行う。理学療法学科では必修科目であり、作業療法学科もなるべく多くの学生に選択して頂きたい。
注意事項
１．救急疾患について論理的なイメージを構築する努力をすること。
２．疑問点を大切にし、解決に向けて行動すること。質問は大歓迎。
３．配布資料で十分理解できるように資料を整えているので、毎回出席し内容を理解すれば、選択科目でもあり、必ずしも参考書を購入する必要はない。ただし、講義で配布する資料に記した頁数は、参考書①の頁数である。

教科書

配布プリント（適宜配布します。）

参考書

①救急検査指針：救急検査認定技師テキスト　へるす出版
②救急蘇生法の指針２０１５（医療従事者用、改訂第５版）　へるす出版
③リハビルテーション　リスク管理ハンドブック　（株）メジカルビュー社
④救急法（野外活動における応急手当）：ボーイスカウト連盟

研究室／オフィスアワー

吉岡敏治（C 棟、研究室４）／原則月曜日　2・3 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション（自己紹介） 救急医療総論(1) 救急医療の特徴と救急・災害医学 重症度と緊急度	予習：不要 復習：救急医療の方程式、ABCDE アプローチ、尖鋭度（acuity）を理解する。	
2	救急医療総論(2) 救急医療体制と搬送システム、救急医療情報システム、その他精神科、小児の救急医療システムについて 関連法について	予習：不要 復習：救急医療体制（救急医療施設と搬送システム、救急医療情報システム）の整備状況、その他医師法等関連法を理解理解する。	
3	救急医療総論(3) 心肺停止と一次救命処置（BLS） 応急手当の普及活動、心肺停止例の予後	予習：不要 復習：心肺蘇生法の効果と一次救命処置の重要性を理解する。	
4	救急医療総論(4) 心肺蘇生時の循環動態と組織血流 ウツタインプロジェクトと心肺蘇生の変遷 大阪発のエビデンス	予習：不要 復習：心肺蘇生時の循環動態を理解し、手法の変遷を理解する。医師の行う二次救命処置を理解する。	

5	ショック(1) ショックの定義と原因による分類 循環の３要素とその指標、Frunk-Starling の法則、Starling & Pappenheimer の法則、血流の再配分とショック臓器 体液構成と各種体液の電解質濃度	予習：不要 復習：循環の３要素、Frunk-Starling の法則、Starling & Pappenheimer の法則、血流の再配分とショック臓器を理解する。	
6	ショック(2) ショック時に見られる反応（代償）、各種ショックの発生原因、ショックの臨床診断、ショック時の搬送体位と輸液の効果	予習：不要 復習：ショック初期の代償とバイタルサインの変化、各種ショックの臨床症状について理解する。	
7	ショック（3） 輸液に関する基礎知識とショック時の輸液	予習：不要 復習：輸液の目的、輸液製剤の種類による各体液腔への水分量配分、ショックの初期輸液量と輸液の臨床的指標を理解する。	
8	中枢神経系救急疾患	予習：不要 復習：神経の分類、脳血管障害と炎症性脳疾患の診断と治療（理学所見、画像診断、髄液所見）を理解する。	
9	循環器系救急疾患 呼吸器系救急疾患	予習：不要 復習：高血圧性緊急症、急性冠症候群、不整脈、感染性心内膜炎、大動脈解離の病態と治療、 ガス交換機序（換気血流比）、過換気症候群、アナフィラキシー、肺塞栓症、その他の呼吸器疾患を理解する。	
10	消化器系救急疾患	予習：不要 復習：消化管出血、穿孔、腸管虚血、腸閉塞、腸重積、嵌頓ヘルニア、肝・胆道系の結石、炎症の診断と治療を理解する。	
11	泌尿・生殖器系救急疾患 内分泌・代謝系救急疾患、その他	予習：不要 復習：尿路結石症、前立腺肥大の診断と治療、高血糖緊急症（糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン生高浸透圧症）の病態と治療を理解する。	
12	外傷総論 頭部外傷、脊髄損傷	予習：不要 復習：外傷の重症度と予後（Big Data）、JPTEC プロトコールを理解し、外傷患者の観察・処置の流れを理解する。 死因や後遺症の原因となる頭部外傷、精髄損傷を理解し、初期対応を身につける。	
13	熱傷、熱中症 （凍傷、偶発性低体温症、電撃傷）	予習：不要 復習：熱傷・熱中症の病態を理解し、診断、重症度判定、初療（現場対応）ができるようになる。	
14	中毒、化学損傷、異物	予習：不要 復習：急性中毒の基本的な毒物動態を理解し、治療の原則を理解する。日本中毒情報センターのホームページを閲覧する。	
15	災害医療総論、災害医療体制、 広域自然災害と局所災害、特殊災害（NBC 災害）	予習：不要 復習：災害医療体制の基本（DMAT、災害拠点病院、災害医療情報システム）を理解し、医療人の果たすべき役割を考える。	
成績評価方法と基準			割合
①授業中の質問 ②レポート			①50% ②50%

授業科目名	脳神経外科学(作業)（Neurosurgery）				
主担当教員	三木　宏文		担当教員	三木　宏文	
科目ナンバリング	SB115	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

脳神経外科学は、医療法では「脳、脊髄および末梢神経の外科」と規定されている。しかし、脳神経外科学の進歩はめざましく、現在では開頭術以外に、定位放射線治療や血管内治療のような「頭をあけない」治療法も確立されている。外科学の一分野として始まった脳神経外科学ではあるが、今ではより広いニューロサイエンスの一分野となっている。本講座では、脳神経疾患の基礎を学び、兆候から診断、治療について、総合的に理解することを目標とする。基本病態生理を理解して、代表的疾患を通じ、神経学の応用が得られるよう学習を進めてもらうことを期待する。

到達目標

1)　神経解剖の基本を確認する。
2)　頭蓋骨の中という特殊な状況下で生じる脳圧亢進、脳浮腫、水頭症について学ぶ。
3)　開頭術以外の治療法の長所、短所を理解する。
4)　最新の脳科学の知見についても理解する。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)　講義資料を配布し、資料に従い講義を進めます。
2)　出席は重視します。
3)　講義内容を理解することが肝要で、参考者として教科書を提示します。試験は講義内容から出題されますので、講義を重視して下さい。

教科書

なし。資料を配布します。

参考書

生塩之敬、種子田護、山田和雄　編集：ニュースタンダード脳神経外科学（第３版）

研究室／オフィスアワー

研究室 13

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	脳神経外科総論	資料に従い講義を進める。中枢神経系の解剖と生理を理解し、その基礎知識に基づいた病態生理を理解できること、および考える力、応用力を高めることを目標とする。	
2	神経系の形態と機能	中枢神経系の解剖と生理	
3	主要神経症候と病態	中枢神経系の病態生理	
4	診断法	神経学的理学所見、画像診断などを理解する	
5	脳神経外科各論。脳血管障害１	基礎疾患の理解と脳梗塞を中心に解説する	
6	脳神経外科各論、脳血管障害２	くも膜下出血、脳内出血を中心に、治療法の解説をする	
7	脳腫瘍	代表的な脳腫瘍を理解し、治療法を理解する。	
8	頭部外傷１	頭部外傷の病態生理を理解する	
9	頭部外傷２	頭部外傷の病態生理の理解の下、診断、治療法を解説する	
10	先天異常、水頭症等。	発生異常に伴う先天性疾患を理解する	
11	中枢神経系の感染性性疾患	代表的な感染性疾患を理解し、診断法、予防法を解説する	
12	中枢神経系の変性疾患	パーキンソン病を中心とした基底核編成疾患の病態生理を理解する	
13	中枢神経系の変性疾患２、その他の変性疾患	認知症、その他の編成疾患の病態生理を理解する	

14	脊髄・脊椎疾患	脊髄神経系の代表的疾患を理解する	
15	末梢神経の外科、脳神経外科疾患とリハビリテーション	末梢神経障害の代表的疾患を理解する	
成績評価方法と基準			割合
定期試験の成績で行う。DP①②			100%

授業科目名	整形外科学(作業)（Orthopedics）				
主担当教員	宮田　重樹		担当教員	宮田　重樹	
科目ナンバリング	SB116	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 4 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

整形外科疾患は、理学療法士が治療する中心の一つである。
四肢・体幹疾患の理学療法を行う上で知っておくべき整形外科学を学ぶ。
実習に際して必要な知識、国家試験に際して必要な知識、理学療法士として仕事するうえで必要な知識を学ぶ。
教科書、スライドを中心に進め、知識を深める。

到達目標

1. 整形外科疾患をどのように診断するのか学ぶ。
2. 整形外科疾患をどのように治療するのか学ぶ。
3. 整形外科疾患の保存療法と手術療法を学ぶ。
4. 整形外科疾患に対する治療をすすめる上で必要な整形外科学基礎知識を学ぶ。
5. 整形外科疾患が原因の身体障害者に対する基本的動作能力の回復を図るには、何が必要か学ぶ。
6. 運動器の問題を見つける目を育てる。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

私語ｅｔｃ授業の妨げとなる生徒は退場してもらう。

教科書

TEXT 整形外科　南山堂

参考書

整形外科疾患の理学療法　金原出版
運動機能障害症候群のマネジメント　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

講義日の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	整形外科とは、運動器の働き、姿勢、歩容	授業に使うスライドのプリント	
2	整形外科的診断法、整形外科的治療法	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
3	脊椎・脊髄（頸椎・腰椎）疾患	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
4	脊椎疾患のリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
5	上肢疾患（肩、肘、手）とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
6	下肢疾患（股、膝、足）とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
7	スポーツ障害とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
8	骨代謝疾患、骨関節感染症	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
9	関節症、骨端症、関節リウマチ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
10	骨軟部腫瘍、骨関節系統疾患	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
11	外傷 1	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
12	外傷 2	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
13	脊椎・脊髄損傷とリハビリ	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
14	末梢神経障害	授業に使うスライドのプリント　小テスト	

15	ロコモ、フレイル、介護予防、介護保険	授業に使うスライドのプリント　小テスト	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験 ②小テスト DP①②			①84% ②16%

授業科目名	小児科学(人間発達学)(作業) (Pediatrics【Human Development Studies】)				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子、金森　幸	
科目ナンバリング	SB117	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

作業療法の対象となる，種々な小児疾患を知り、新たな疾患に対応するための手順を学習する。これまで学習した医療の基礎知識を再確認するとともに実際に子どもに出会ったときの健康管理、リスク管理ができること。チーム医療で必要な各種疾患の理解と作業療法との関係を説明し，次年度の治療学にむけた準備を行う。国家試験で求められる知識水準を理解する。

到達目標

①1 年で学んだ基礎知識を再確認し、病態や検査法を理解する. ＜DP①②＞
②出産後の機能的変化と、その後の発達期のリスクを理解する。＜DP①②＞
③作業療法の対象となった場合の、作業療法士の役割を理解する。＜DP①②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

各疾患について 1 年生で学んだ内容を元に各自で発表する形式の授業です。少子高齢化がすすむ社会で、低出生体重児や発達障害児の増加は重大な課題である。ひとりひとりの子どもの発達を見守り、健全な育成をはかる役割を地域医療は担っている。病院や地域で出会う子どもたちの健康に配慮し、安全な教育環境ではぐくむための医療職としての基本的な知識と態度を学んでほしい。生活障がいと各種検査の関連、バイタルや聴診の意味を理解し,医療職に求められる技術水準を理解してください。

教科書

標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「小児科学」第五版　医学書院

参考書

リハビリテーションのための人間発達学第２版　編集大城昌平　メディカルプレス

研究室／オフィスアワー

月曜日・火曜日の午後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	小児の成長・発達・成熟	予習:授業の進め方の理解。教科書の通読(P.1-29) 復習：担当領域の調査(2 時間)	伊藤
2	胎児期・新生児・低出生体重児	予習:出生時のリスク。教科書の通読(P.30-57) 復習：地域の検診システムの調査(2 時間)	伊藤
3	先天異常と遺伝病	予習:障がい発生の理解。教科書の通読(P.58-76) 復習：地域の療育機関の調査(2 時間)	伊藤
4	神経筋骨系疾患	予習：神経筋障害の理解。教科書の通読(P.77-120) 復習：主要疾患の整理(2 時間)	伊藤
5	循環器疾患	予習：出産時の変化の理解。教科書の通読(P.121-132) バイタルの意味（聴診①）(2 時間)	伊藤
6	呼吸器疾患	予習：呼吸リハビリテーション。教科書の通読(P.133-141) 復習：医療ケア（聴診②）(2 時間)	伊藤
7	感染症	予習：スタンダードプリコーション。(P.142-155) 復習：医療職としての感染管理(2 時間)	金森
8	消化器疾患	予習：摂食嚥下障害の基礎。教科書通読(156-167) 復習：栄養サポートチーム(2 時間)	金森
9	内分泌・代謝疾患・血液疾患	予習:ホルモン・糖尿病教科書通読(P.168-186) 復習：糖尿病のリハビリテーション・血液検査の理解①(2 時間)	金森
10	腎・泌尿器、生殖器疾患	予習：腎臓リハビリテーション教科書通読(P.196-202) 復習：血液検査の理解②(2 時間)	金森

11	免疫・アレルギー疾患、膠原病・腫瘍性疾患	予習：がんリハビリテーション。教科書通読(186-207) 復習：血液検査の理解③(2 時間)	金森
12	習癖・睡眠関連疾患・心身症・虐待	予習：子どもを取り巻く環境の理解。教科書通読(206-212) 復習：近隣の養護施設などを知る(2 時間)	金森
13	重症心身障害児	予習：医療的ケア、超重症・準超重症児。教科書通読(P.213-219) 復習：重症心身障害児施設・小児在宅医療(2 時間)	伊藤
14	眼科・耳鼻科的疾患	予習：視覚・聴覚の情報処理。教科書通読(P.220-226) 復習：学習障害児の理解(2 時間)	伊藤
15	小児疾患の特徴と作業療法を展開するうえでの注意事項	予習：セルフアセスメント(P.227-240)模擬テスト 復習：健康教育の実際・一次予防・二次予防・三次予防(2 時間)	伊藤
成績評価方法と基準			割合
①出席/授業シートの提出　授業態度　＜DP①②＞ ②発表　＜DP①②＞ ③定期試験　＜DP①②＞ 出席を重視します。各自の担当の調査や発表の内容と態度。他者の発表の内容のまとめなど、提出物やテストで判断します。			①30% ②30% ③40%

授業科目名	精神医学(作業)（Psychiatric Medicine）				
主担当教員	神澤 創		担当教員	神澤 創、前川　佳敬	
科目ナンバリング	SB118	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本講義では精神医学を総論的に学ぶ。医学・医療における精神医学の意義と役割り、基本的な理念、精神医療の歴史を概観したのち、多様な精神症状の概念的知識と評価・検査法を体系的に学ぶとともに、身体的基盤を有する精神障害から環境や心理的側面の関与が大きい精神障害に至るまで精神障害の成因論と、薬物・身体療法および精神療法に関する基本的知識を体系的に習得する。

到達目標

1．精神医学の意義と基本的理念を理解し、説明できる。
2．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。
3．精神障害を生物・心理・社会的な観点から多面的に捉えることができる。
4．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。
5．代表的な精神疾患の特徴を理解し、その概要を説明できる。
6．精神科的治療の種類と方法を理解し、その概要を説明できる。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛で誠実な態度で授業の場に臨んでいただきたい。
本講義で学んだ知識や情報（メンタルヘルスリテラシー）を自分自身や周囲の人たちの精神的健康の維持・増進に役立てられるようになってくださいね。

教科書

精神医学マイテキスト 改訂 2 版、金芳堂
B5 判・216 頁、定価（本体 3,800 円＋税）

参考書

「PACT モデル～精神保健コミュニティケア　プログラム～」D．オールネス著亀島信也・神澤創監訳,メディカ出版

研究室／オフィスアワー

神澤：非常勤講師なので質問は講義終了後に教室内で受けることにします
前川：C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション　－ヒューマニズムとしての精神医学－	予習：教科書第 1 章を読み精神医学の全体像をイメージする 復習：「心の病」について改めて考えてみる	前川
2	精神医学の方法と考え方・歴史・諸分野―	予習：教科書第 1 章を読み、精神医学の歴史と発展について確認する 復習」：治部自身の精神病に関する考え方を見つめなおす	神澤
3	精神症候学 ①意識障害 ②見当識障害	初秋：教科書第 2 章を読読む 復習：識障害の分類法（ＪＣＳ、GCS など)について説明できるようにしておく	神澤
4	精神症候学③幻覚 ④妄想	予習：教科書第 2・6 章を読む 復習：「意識」の異常に関する知識を整理しておく	神澤
5	精神症候学 ⑤感情・気分の障害	予習：教科書第 2・7 章を読む 復習：感情の働きについて考えてみる	神澤
6	精神症候学 ⑥記憶障害 ⑦知能障害	予習：教科書第 2・3 章を読む 復習：記憶と知能に関する知識を整理しておく	神澤
7	精神症候学 ⑦自我意識の障害 ⑧その他	予習：教科書第 2 章を読む 復習：意識の除障害とはなにか説明できるようにしておく	神澤
8	精神疾患の分類（古典分類・ICD・DSM）	予習：教科書第 4 章を読む 復習：精神疾患の診断部類に関す知識を整理しておく	神澤
9	精神障害の成因 ③家族力動 ④社会力動	予習：精神疾患と家族の関係につて考えておく	神澤

10	精神疾患概論 ①器質性精神疾患	教科書第 11 章を読む	神澤
11	精神疾患概論 ②児童期の精神疾患	教科書１２章を読む	神澤
12	精神疾患概論 ③検査	教科書第５章を読む	神澤
13	精神科治療総論 ①薬物療法 ②身体療法	予習：教科書１６章を読む	神澤
14	精神科治療総論 ③心理療法 ③生活支援	予習：教科書 17 章を読む 復習精神医療ｂにアセスメント関する法律と制度に関する知識異を整理しておく	神澤
15	講義全体のまとめ	精神医療が将来目指すものとは？	神澤
成績評価方法と基準			割合
定期試験 DP①②			100%

授業科目名	精神医学各論(作業)（Detailed Psychiatry）				
主担当教員	神澤 創		担当教員	神澤 創、前川 佳敬	
科目ナンバリング	SB119	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本講義では精神医学各論を学ぶ。いわゆる内因性精神病（統合失調症、気分障害など）、器質性精神疾患（エピレプシー、薬物・アルコール性精神病、認知症など）、心因性精神疾患、人格障害、発達障害（注意欠陥/多動性障害、広汎性発達障害など）などの主要な障害をとりあげ、国際疾病分類（ICD-10）および米精神医学会診断マニュアル（DSM-V）による診断基準、病前性格・精神症状・行動の特徴、成因、検査方法、治療方法について修得する。

到達目標

１．精神疾患の分類体系を理解し、国際的な診断基準にもとづいて説明できる。
２．精神疾患の分類項目における主要な疾患について、それぞれの診断基準、病前性格、精神症状、行動の特徴、成因、検査方法、治療方法を理解し、説明できる。
３．各疾患の特性を考慮して、対象者を支援する際の課題を検討できる。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛で誠実な態度で授業の場に臨んでいただきたい。
大学でひとつの教科を学ぶということは 1 冊の教科書を丸ごと頭に入れるということです。

教科書

精神医学マイテキスト 改訂 2 版、金芳堂
B5 判・216 頁、定価（本体 3,800 円＋税）

参考書

「PACT モデル～精神保健コミュニティケア　プログラム～」D．オールネス著亀島信也・神澤創監訳,メディカ出版

研究室／オフィスアワー

神澤：非常勤講師なので質問は講義終了後に教室内で受けることにします
前川：C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション	総論の振り返りと各論への指針	前川
2	神経発達障害群	予習：教科書第 12 章を読む	神澤
3	統合失調症スペクトラム	「統合失調症ナビ」などのサイトで統合失調症に関する情報に触れ、教科書第 6 章を読む	神澤
4	気分障害・双極性障害・抑うつ障害	双極性障害が疑われる歴史上の人物について調べ、教科書第 7 章を読む	神澤
5	不安障害	自分にとって不安とは何かについて考え、教科書第 8 章を読む	神澤
6	強迫性障害	確かめ行為等身近な強迫行為について考え、教科書第 8 章を読む	神澤
7	心的外傷およびストレス関連障害	ストレスの心身への影響につい考え、教科書第 8 章を読む	神澤
8	解離性障害	解離の問題について考え、教科書第 7 章を読む	神澤
9	摂食障害	摂食障害を身近な問題ととらえ､教科書第 13 章を読む	神澤
10	嗜癖性障害（物質・行動）	ネットや薬物などへの依存・乱用について考え、教科書第 10 章を読む	神澤
11	パーソナリティ障害	人格の障害について考え、教科書第 9 章を読む	神澤
12	身体的治療	薬物療法などに関して教科書第 16 章を読む	神澤
13	精神療法	心理療法的アプローチに関して教科書第 16 章を第 2 節読む	神澤
14	心理社会的治療	精神保健福祉法、障がい者自立支援法、各種障害福祉サービスについて学ぶとともに「NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ」等のサイトを閲覧してみる	神澤

15	講義全体のまとめと振り返り	予習：精神疾患が人生に与える影響について考える 復習：精神障害の周辺にある「生きづらさ」を理解する	神澤
成績評価方法と基準			割合
定期試験 DP①②			100%

授業科目名	臨床心理学(作業)（Clinical Psychology）				
主担当教員	神澤 創		担当教員	神澤 創	
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

臨床心理学は心の健康を維持・増進するための理論と技法からなり、その背景には長年にわたる、科学的心理学と臨床実践の積み重ねがある。本講義では、心理的健康に関する基本的な理論とアセスメントおよび心理的支援技法について学ぶことを目的とする。基本的には講義形式で行うが必要に応じて、視聴覚教材の活用や心理検査実習、ロールプレイなどを導入する。

到達目標

１．　患者・利用者・クライエントなどと呼ばれる人たちの心理的側面に配慮できるようになる。
２．作業療法評価の一つとして、臨床心理学的視点を加えられるようになる。
３．講義で学んだ知識や技術を実際に臨床場面で活用できるようになる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業計画表はあくまでも予定ですので、進度に合わせて変更することもあります。

教科書

適宜資料を配布します。

参考書

「臨床心理面接の実践」心理学のポイント・シリーズ」第９巻　臨床心理学、玉瀬耕治編、学文社
「PACT モデル～精神保健コミュニティケア　プログラム～」D．オールネス著亀島信也・神澤創監訳, メディカ出版

研究室／オフィスアワー

講義日_非常勤講師なので質問は講義終了後に教室内で受けることにします.

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション　臨床心理学とは何か	予習：こころとからだを柔らかくしてくる。 復習：推奨される文献を読み、映画を観る。	神澤
2	臨床心理学の基礎理論　1　力動論	予習：「夢」を記録してくる。 復習：「無意識」について考えてみる。	神澤
3	臨床心理学の基礎理論　2　行動論	予習：犬と猫ではどちらが「賢い」か考えてみる 復習：「学習」の意味を確認する	神澤
4	臨床心理学の基礎理論　3　人間性心理学	予習：「自分らしさ」について考えてみる 復習：心の「成長」について考えてみる。	神澤
5	心理アセスメント　1　検査と面接	予習：アセスメントの目的について考える 復習：アセスメントの意味を確認する	神澤
6	心理アセスメント　2　知能検査	予習：知能とは何か考えてみる。 復習：知能の意味について確認する。	神澤
7	心理アセスメント　3　質問紙法	予習：「占い」と「心理テスト」の違いについて考えてくる。 復習：質問紙の特性について理解する。	神澤
8	心理アセスメント　5　投影法	予習：占いと心理テストの違いについて考えてみる。 復習：質問紙の特性について理解する。	神澤
9	心理療法の実際　1　　カウンセリング	予習：できれば映画グッドウイルハンティング」か「普通の人々」を観る。 復習：人の話しを聴いてみる	神澤
10	心理療法の実際　2　ブリーフセラピー	予習：Mental Rsearch Instittute の HP をのぞいておく 復習：使えそう技法を練習する。	神澤
11	心理療法の実際　3　ＳＳＴ	予習：ＳＳＴ普及協会のＨＰをのぞいてくる 復習：地域にある施設や活動を見学する	神澤
12	心理療法の実際　4　表現療法	予習：自分が気になった絵や写真を集めておく 復讐：ひとりでやってみる	神澤
13	臨床心理的地域支援　1　　自殺予防対策	予習：日本自殺予防学会のホームページをのぞいてくる 復習：自分にできそうな自殺対策について考え	神澤

		る	
14	臨床心理的地域支援　2　　精神障害者の活動支援	予習：精神障害の種類や症状について勉強しておく 復習：地域にある施設や活動を見学する	神澤
15	講義全体のまとめと振り返り	予習： 復習：	神澤
成績評価方法と基準			割合
筆記試験　60 点以上 平常点 DP②③			100%

授業科目名	老年医学(作業)（Geriatrics）				
主担当教員	前川　佳敬		担当教員	前川　佳敬	
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

高齢化社会において必要不可欠である老年病医学について講義する。老化の概念・加齢に伴う生理的変化・老年症候群を概説し、老年期に多く見られる各種疾患の特徴について講義する。

到達目標

1. 老化のメカニズムが説明できる。
2. 加齢に伴う機能の変化を理解する。
3. 高齢者の機能評価の意義と手法を説明できる。
4. 老年症候群の意義と病態を理解する。
5. 老年期における各種疾患の病態を把握する。
6. 疾患治療としての医療だけでなく、全人的医療を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．高齢化社会における医療人として、社会的必要性の高い知識であることを認識すること。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．学習すべき量が多いため、効率よく理解すべく必ずノートに板書内容を記載すること。試験前に教科書を読んで全部覚えるのは不可能です。ノートに沿って教科書を活用してください。
４．疾患について論理的なイメージを理解する努力をすること。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
６．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
７．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
８．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

標準理学療法学・作業療法学　老年学　（著者：大内尉義　　医学書院）

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室８／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	老化のメカニズムと独立した概念としての老年病医学の理解	老年医療の独自性・特殊性を復習して理解する。	
2	加齢に伴う生理機能・運動機能・精神心理面の変化	老化による生理機能・運動機能・精神心理面の変化を自宅学習にて理解しておく。	
3	高齢者の機能評価	機能評価の手法を説明できるようにしておく。	
4	老年症候群における代表的な症候の理解	老年症候群の意味と高齢者医療における重要性を理解しておく。	
5	精神疾患（認知症・うつ病など）	認知症の症状・原因疾患、高齢者のうつ病の特徴について理解を深めること。	
6	高齢者の脳血管障害	種々の脳血管障害の特徴について理解を深めること。	
7	高齢者の循環器疾患	虚血性心疾患・不整脈・心不全の理解を深める。	
8	高齢者の呼吸器・内分泌疾患	高齢者の肺炎・COPD、糖尿病・合併症について理解を深めること。	
成績評価方法と基準			割合
筆記テスト			筆記テスト 100%

授業科目名	リハビリテーション医学(作業)（Rehabilitation Medicine）				
主担当教員	前田 薫		担当教員	前田 薫	
科目ナンバリング	SB122	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、リハビリテーション医学の全体像を解説する。リハビリテーション医学の科学的基礎は多岐に渡り研究されている。これらのうち、基礎と思われる事項について講義を行う。

到達目標

リハビリテーション医学の各分野の基礎事項について説明できる（DP①②③）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義内容が多岐に渡る。したがって、講義内容をより良く理解するためには、各回に指定されている予習・復習を行うことが重要である。

教科書

千野直一（監修），現代リハビリテーション医学（改訂第４版），金原出版

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

前田：アポイントメントを事前にとってください。対応困難な時間帯：毎週月曜２限、毎週火曜、および前田が担当する講義時間

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーション医学総論（前田）	予習：教科書の当該範囲を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
2	組織の修復課程（前田）	予習：事前配布資料を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
3	リハビリテーション診断、機能障害の評価（前田）	予習：教科書の当該範囲を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
4	リハビリテーション治療学および各論①（前田）	予習：教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
5	リハビリテーション治療学および各論②（前田）	予習：教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
6	リハビリテーション治療学および各論③（前田）	予習：教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
7	リハビリテーション治療学および各論④（前田）	予習：教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
8	リハビリテーション治療学および各論⑤（前田）	予習：教科書の事前に指定された範囲を読む。 復習：講義で強調した箇所について理解できているかを確認する。	前田
成績評価方法と基準			割合
筆記試験で到達目標の達成の程度を評価する（DP①②③）。			100%

授業科目名	医療関係法規論(作業)（Medicine Related Laws and Regulations）				
主担当教員	李 庸吉		担当教員	李 庸吉	
科目ナンバリング	SB123	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

ここで勉強することになる分野は「医事法」と称される領域になるが、それは憲法をはじめ民法、刑法、行政法等、複数の法の複合領域ともいえる。そこで、まず医事法全体を概観しながら法の基本的な概念を身につけていき、次いで作業療法士にとって関連の深い諸法について学び、裁判例などにも触れてみたい。

到達目標

1. 作業療法士に関連を有する法律並びに行政について理解させる。
2. 基本的な法概念と法感覚を身につけた上、理学療法士及び作業療法士法を理解させる。
3. 医師法はじめとする医療関係者法並びに医療法の概要、さらに作業療法士の法的な位置づけについての知識を習得させる。
4. また責任法という観点から、法を学ぶことが医療者の行動指針につながることも理解させる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

他の教科もそうでしょうが、法学も一夜漬けでどうこうできるものではありません。欠席が多いと訳が分からなくなるのは必至でしょうから、毎回の出席と復習が何より大事だと思います。

教科書

手嶋豊『医事法入門[第５版]』（有斐閣アルマ）

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	イントロダクション、医療者が法を学ぶ意義	配布資料を基に復習することが望ましいと思います。まずは用語に慣れることも念頭においておくとよいでしょう。	
2	法とは何か、法の種類と体系	同上また、最初は予習より復習の方に主眼をおくことでよいと思います。	
3	医療と人権（総説）	同上個別具体的な事項については講義の中で適宜お伝えします。	
4	各論：自己決定権、プライバシー権等	同上ゆとりのある方は、上にあげている参考書等を用いて予習をすることができれば、さらに理解が立体的になってよいと思います。	
5	医療における刑法上の問題（総説）	同上	
6	各論：生命：身体に関する罪を中心に	同上	
7	医療における民法上の問題（総説）	同上	
8	各論：医療契約、不法行為	同上	
9	理学療法士及び作業療法士法①（総則、免許、欠格事由）	同上	
10	理学療法士及び作業療法士法②（業務、守秘義務、罰則）	同上	
11	医療関係者法（医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法等）	同上	
12	医療法（医療提供の理念、医療提供施設及びその管理等）	同上	
13	医療安全（医療の質、リスクマネジメント等）	同上加えて参考資料等を適宜紹介するようにします。	
14	判例学習	同上	
15	講義全体のまとめと振り返り	試験に向けて総復習となるでしょうが、とにか	

		く反復すること、考えることがしっかりした理解にも結びつきます。 法学は決して暗記オンリーの科目ではないことに留意する必要があるでしょう。	
成績評価方法と基準			割合
①レポート（ミニレポート）課題 ②定期試験			①30% ②70%

授業科目名	理学療法概論(作業)（Introduction to Physical Therapy）				
主担当教員	金尾　顕郎		担当教員	金尾　顕郎、三木屋　良輔、中根　征也	
科目ナンバリング	SB124	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

リハビリテーションにおける作業療法と理学療法の位置づけを理解し，理学療法の概念，歴史，理論，具体的手段にについて学修する．

到達目標

１）理学療法を概観し，理解する．＜DP①②＞
２）作業療法と理学療法の違いを理解する．＜DP①②＞
３）理学療法に関する基本的知識を知る．＜DP①②＞

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１）授業中の私語，メールなどには厳しく対処する．
２）疑問点を大切にして常に自己で調べて解決するように行動すること．

教科書

資料を配布する

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

三木屋良輔：E 棟４階 研究室10／金曜日以外平日５限目以降（時間は事前に相談してください）
中根征也：E 棟４階 研究室 19／木曜日４時限目以降（時間は事前に相談してください）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーション医療と作業療法・理学療法	予習：１年次のリハビリテーション概論、作業療法概論を復習しておく。（１時間） 復習：授業内容をまとめ，作業療法、理学療法の共有点、相違点を理解する．（１時間）	三木屋
2	運動と身体	予習：１年次に学修した「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」について復習しておく．（１時間） 復習：授業内容をまとめ，運動中に生じる身体の機能と変化に理解する．（１時間）	中根
3	運動療法 １	予習：１年次の基礎運動学（関節運動）を復習しておく。（１時間） 復習：授業内容をまとめ，関節可動域の治療について理解する．（１時間）	三木屋
4	運動療法 ２	予習：１年次の基礎運動学（骨格筋）を復習しておく。（１時間） 復習：授業内容をまとめ，筋力増強運動について理解する．（１時間）	三木屋
5	物理療法 １	予習：事前に配布した資料を熟読し，物理療法の知識を深めておく．（１時間） 復習：授業内容をまとめ，物理療法の適応と禁忌について理解する．（１時間）	中根
6	物理療法 ２	予習：物理療法の適応と禁忌について復習しておく．（１時間） 復習：授業内容をまとめ，物理療法を施行する際の手順を理解する．（１時間）	中根
7	理学療法の実際 １	予習：運動学・力学を復習しておく．（１時間） 復習：授業内容を身体機能と照らし合わせて理解する．（１時間）	金尾
8	理学療法の実際 ２	予習：移動動作の手順を復習しておく．（１時間） 復習：授業内容をもとに、実際の ADL 場面を想定して練習すること．（１時間）	金尾
成績評価方法と基準			割合

1．定期試験【DP①②】 2．レポート課題【DP①②】	1．80% 2．20%

授業科目名	芸術療法論(作業)（Art Therapy）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、金森　幸、小川　泰弘	
科目ナンバリング	SB125	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

主な芸術療法（ダンスセラピー、アートセラピーなど）の体験を通じて自身や他者に表れた身体的・精神的効果を実感し、その効果がなぜ表れるのかを脳機能からも理解を深める。また,様々な疾患に対する芸術療法の適応についても学ぶ。さらには作業療法にとって必要な集団療法について、芸術療法をどのように生かせるのかを学ぶ。

到達目標

1．芸術療法の概念を学んだ後、体験を通し理解を深める<DP①②>
2．芸術療法の治療的効果について学ぶ<DP①②>
3．体験を通して身体とこころのあり方を学ぶ<DP①②>
4．集団療法の効果について学ぶ<DP①②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

8 回を通しての芸術療法ですので必ず出席してください。

教科書

指定教科書はありません。

参考書

1．　表現アートセラピー入門　小野京子　誠信書房
2.人と集団・場―人の集まりと場を利用するー　第２版　鎌倉矩子編　三輪書店
3．レクリエーション　社会参加を促す治療的レクリエーション　寺山久美子監修　三輪書店
4．脳卒中者の集団リハビリテーション　大田仁史　三輪書店

研究室／オフィスアワー

水曜日（１４：４０～１６：１０）　木曜日（１０：４０～１２：１０）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	芸術療法の歴史 芸術療法の表現様式と適応 芸術療法とリハビリテーション	予習：芸術療法の歴史や様々な様式について知る。復習：芸術療法がどのような疾患に適応するのかを学ぶ。また、作業療法との接点を考える。 （予習復習含めて 4 時間）	橋本・金森
2	ニューロダンス/実技	ダンスを体験し、身体的、精神的変化について実感したことをレポートに考察を入れて提出する。(4 時間)	橋本・金森
3	ボディ-ワーク/実技	体験したことを分析し、身体活動が精神、認知面へおよぼす効果についてレポートを提出する（4 時間）	橋本・金森
4	身体、心、脳の関係について学ぶ	予習：脳機能について予習 復習：今まで体験してきた授業内容と身体、心、脳の関係について考える。 予習・復習含めて 4 時間	橋本・金森
5	集団における芸術療法の適応について学ぶ 1	予習：集団療法について知る 復習：集団における芸術療法の適応について理解を深め、説明できるようにする 予習・復習含め 4 時間	橋本・金森
6	集団における芸術療法の適応について学ぶ　2	集団における芸術療法の適応についてレポートを提出(3 時間)	橋本・金森
7	様々な療法の実践方法と効果について学ぶ　1	療法の実践方法について考えレポートを作成する(3 時間)	橋本・金森
8	様々な療法の実践方法と効果について学ぶ　2	これまでに体験した療法の実践方法と効果について考えレポートを提出する(4 時間)	橋本・金森

成績評価方法と基準	割合
1.レポート点 2.実技試験	1.60% 2.40%

授業科目名	言語聴覚療法、摂食・嚥下障害学(作業)（Speech-hearing Therapy / Eating and Degultition Disorder）				
主担当教員	堀　竜次		担当教員	堀　竜次、金尾　顕郎、渋谷　静英、戸名　久美子	
科目ナンバリング	SB126	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 4 限 月曜 5 限 火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

（概要）オムニバス方式にて理学療法士・作業療法士が知っておくべき言語・高次脳機能障害および摂食・嚥下障害について学習する。
【言語聴覚療法 渋谷静英 4 回・戸名久美子 4 回】
コミュニケーション障害の内容と評価・訓練方法について学習する
【嚥下障害学 渋谷静英 2 回】嚥下障害の評価と摂食嚥下療法について学習する。
【嚥下障害学 堀　竜次 4 回】嚥下に関わる解剖学と生理学および誤嚥性肺炎予防のアプローチについて学習する。
【嚥下障害学 金尾顕郎 1 回】嚥下機能と姿勢調整について学習する。

到達目標

1.言語・高次脳機能障害について理解し、意思伝達時の留意点・工夫などを体得する。〈DP②〉
2.嚥下障害について理解し、理学療法士・作業療法士がどのように介入できるかを考えられるようになる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.講義内容は、理学療法・作業療法を進めるにあたり必要な内容であることを認識すること。
2.演習やグループワークには積極的に参加し、疑問点について、必ず解決の行動をとること。

教科書

「絵でわかる言語障害」毛束真知子　学研
「脳からわかる摂食・嚥下障害」馬場元毅、鎌倉やよい　学研

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

堀：金曜日の３・４限目（研究室）
金尾：水曜日の１限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。
渋谷、戸名：講義日の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	言葉とは？	予習：教科書の第Ⅰ章を予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習する（120 分）	戸名
2	聴覚障害	予習：教科書の 12～23 ページを予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習する（120 分）	戸名
3	構音障害	予習：教科書の 24～49 ページを予習しておく（120 分） 復習：発声・発語の仕組みについて復習する（120 分）	渋谷
4	音声障害	予習：教科書の 50～53 ページを予習しておく（120 分） 復習：音声障害の症状について復習する（120 分）	渋谷
5	失語症　1	予習：教科書の 58～99 ページを予習しておく（120 分） 復習：失語症の概念と症状について復習する（120 分）	渋谷
6	失語症　2　・高次脳機能障害　1	予習：教科書の 58～99 ページを予習しておく 120 分） 復習：失語症の評価と対応について復習する（120 分）	渋谷
7	高次脳機能障害 2 ・　認知症	予習：事前に配布する「高次脳機能障害」のプリントを予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習をする（120 分）	戸名
8	吃、小児の言語障害、AAC	予習：第 1 回目講義で配布する「吃、小児の言語障害、AAC」のプリントを予習しておく（120 分） 復習：講義で実施した小テストの復習する（120 分）	戸名
9	嚥下のメカニズム	予習：嚥下の５期モデルについて予習しておく（120 分） 復習：嚥下に関わる解剖学と生理学を復習する（120 分）	堀
10	摂食嚥下にかかわる神経機構	予習：教科書の 25～55 ページを予習しておく（120 分） 復習：摂食嚥下にかかわる神経機構を復習する（120 分）	堀
11	嚥下障害の評価	予習：教科書の 77～89 ページを予習しておく（120 分） 復習：嚥下障害の評価を復習する（120 分）	渋谷
12	摂食嚥下療法	予習：教科書の 92～104 ページを予習しておく（120 分） 復習：直接嚥下訓練、間接嚥下訓練について復習する（120 分）	渋谷
13	誤嚥性肺炎の予防	予習：誤嚥性肺炎について予習しておく（120 分） 復習：誤嚥性肺炎予防の概念について復習する（120 分）	堀
14	咀嚼嚥下機能と理学療法（実技を中心に）	予習：咀嚼嚥下機能について予習しておく（120 分） 復習：咀嚼嚥下機能について復習する（120 分）	堀
15	嚥下機能と姿勢調整	予習：嚥下の運動メカニズムについて予習しておく（120 分） 復習：嚥下と姿勢の関係について復習する（120 分）	金尾

成績評価方法と基準	割合
1.学期末の筆記試験により評価する（言語聴覚療法：60%、嚥下障害学：40%）〈DP②〉 2.授業中に実施される課題レポート・小テストを評価の対象とする。〈DP②〉	1.　70% 2.　30%

授業科目名	介護学概論・ボランティア活動論(作業)（Introduction to Nursing Care / Volunteer Activities Studies）				
主担当教員	上田　喜敏		担当教員	上田　喜敏	
科目ナンバリング	SB127	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

介護学概論では、日本の高齢者や障害のある人々のケア（介護）ついて述べる。具体的には介護に必要な基本技術について述べてゆき、理解を深める。将来介護保険などの関係者と協業したり、介護保険現場に就職した時に必要な介護の基本について理解する。ボランティア活動論ではボランティアについての理解と医療人として障害のある人々や高齢者の方を思える人間形成として学ぶ。

到達目標

1.ケア（介護）について理解する。<DP②>
2.日本の社会制度について理解することができる。<DP②>
3.ボランティアについて理解することができる。<DP③>
4.車いす介助操作を理解する。<DP①>
5.自発性を養うことができる。<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.必ず復習はすること（初めての言葉等が多いので）
2.興味を持つこと
3.講義中は携帯電話等はカバンに入れること
4.車いす介助の実技がある（季節によって前にする場合がある）

教科書

配布資料ですすめる。

参考書

介護支援専門員テキスト

研究室／オフィスアワー

上田：研究室 7/木曜日午前

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	社会保障について	予習：初回でなし 復習：社会保障について確認（2 時間）	
2	社会保障と社会構造	予習：社会保障制度について（2 時間） 復習：社会保障制度と社会構造の変化について確認（2 時間）	
3	社会保障(介護保険の背景)について と介護目的	予習：介護居ついて調べる（2 時間） 復習：介護の目的について確認（2 時間）	
4	車いす	予習：車いすに就て調べる（2 時間） 復習：車いすについて確認（2 時間）	
5	介護保険	予習：介護保険について調べる（2 時間） 復習：介護保険制度について確認する（2 時間）	
6	介護保険（居宅サービス）	予習：居宅サービスについて調べる（2 時間） 復習：居宅サービスについて確認（2 時間）	
7	介護保険（その他と施設）	予習：施設について調べる（2 時間） 復習:その他のサービスと施設について確認(2 時間)	
8	高齢者支援	予習：介護について調べる（2 時間） 復習：介護と食事介護について確認（2 時間）	
9	排泄	予習：排泄について調べる（2 時間） 復習：排泄についてまとめる（2 時間）	
10	褥瘡と安眠	予習：褥瘡について調べる（2 時間） 復習：褥瘡・安眠についてまとめる。	
11	入浴と口腔	予習：浴槽で入りについて調べる（2 時間） 復習：入浴と口腔について確認	
12	ボランティアとコミュニケーション	予習：ボランティアについて調べる（2 時間） 復習：ボランティアについて確認	
13	言葉遣いと虐待	予習：虐待について調べる（2 時間） 復習：言葉遣いと虐待について確認（2 時間）	
14	車いす介助	実技での練習	
15	福祉用具について	実技での練習	

成績評価方法と基準	割合
1.定期試験（90 点） 2.レポート等（10 点） ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要 DP①②③	1. 90% 2. 10%

授業科目名	スポーツ医学(作業)（Sports Medicine）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久、吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SB128	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

2年次の整形外科学で学んだ運動器の解剖とスポーツ傷害について、メディカルチェックや症状、対処法などについてより理解を深め、またスポーツ外傷における救急処置の重要性についても学ぶ。あわせてスポーツ現場で遭遇しやすい内科疾患についてもメディカルチェックや症状について学ぶ。

到達目標

1. 重症度と緊急度を理解し、スポーツ現場で発生する最も重篤な心肺停止に対応できるようになること、また、発生頻度の高い脳震盪と頭部外傷、熱中症の病態を理解し、発生現場における予防や救急処置法を習得する。〈DP①②③〉
2. さらにスポーツ現場で遭遇する運動器の外傷や障害、内科疾患についてのメディカルチェックや対処法についても習得する。〈DP①②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

スポーツ医学は、運動器の解剖学、生理学を土台にするもので、他の講義で学んだ局所解剖や運動機能の評価方法、理学所見の取り方等を質問することから始める。ほとんどの授業内容は、資料として配付するスライドを中心に進めるので、講義に出席せず、資料だけを見ても理解困難である。心停止や頭部外傷、熱中症等の傷害発生の理論的なイメージを獲得する努力をすることが重要である。

教科書

配布プリント（適宜配布いたします。）

参考書

1. 臨床医学各論（第２版）医歯薬出版 179 頁～185 頁、288 頁～301 頁
2. 救急蘇生法の指針 2015（医療従事者用、改訂第５版）へるす出版
3. 標準整形外科学 第 12 版. 中村利孝/松野丈夫 監修. 医学書院. 2014.
4. 新版 スポーツ整形外科マニュアル. 福林徹 監修.　中外医学社. 2013.
5. スポーツ整形外科学. 中嶋寛之 編集. 南江堂. 1998 年.

研究室／オフィスアワー

吉岡敏治（C 棟研究室４）／原則月曜日２・３時間目ですが、その他、部屋にいれば、いつでも訪問可です。
川畑浩久（C 棟研究室 707）／木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	スポーツ外傷の救急処置： 重症度と緊急度、心肺蘇生について	予習：整形外科学の外傷部分（整形外科学（教科書）の当該箇所） 復習：配布プリントならびに整形外科学（教科書）の当該箇所を参照 なお予習、復習を各１時間行うこと。	吉岡
2	スポーツ外傷の救急処置： 脳震盪と頭部外傷、脊髄損傷、熱中症について	予習：スポーツにより発生する重篤な外傷として、頭部外傷や脊髄損傷、熱中症の講義が他の講座で行われていれば、その部分をみなおしておくこと（内科学、臨床病態学資料の当該箇所参照） 復習：配布プリントならびに内科学、臨床病態学資料の当該箇所を参照 なお予習、復習を各１時間行うこと。	吉岡
3	スポーツ障害の総論： 1）運動器疾患に対する健診およびメディカルチェック 2）運動器外傷に対する応急処置 3）内科的疾患に対する健診およびメディカルチェック	予習：スポーツにより発生する主な運動器疾患ならびに内科的疾患について予習しておくこと（整形外科学・内科学（教科書）の該当箇所） 復習：これまで学んだ運動器疾患ならびに内科的疾患の検査法、治療法などについて復習すること（配布資料ならびに整形外科学・内科学（教科書）の該当箇所） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
4	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肩関節の外傷について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照）	川畑
5	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肩関節の障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
6	肘関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：肘関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肘関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
7	手関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：手関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ手関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
8	指関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：指関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ指関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
9	股関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：股関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ股関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
10	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：膝関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
11	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：膝関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ膝関節の障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
12	下腿部・足関節・足部のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：下腿、足関節、足部の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ下腿、足関節、足部の外傷について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
13	下腿部・足関節・足部のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：下腿、足関節、足部の解剖学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ下腿、足関節、足部の障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
14	体幹（頚部、胸部、腰部）のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：頚部、胸部、腰部の解剖学、運動学について予習しておくこと（解剖学・運動学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ頚部、胸部、腰部の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに整形外科学（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
15	スポーツによる内科的疾患： 1）循環器・呼吸器疾患における慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：スポーツにより発生する主な循環器、呼吸器、消化器、泌尿器などの疾患の症状などについて予習しておくこと（内科学（教科書）の当該箇所）	川畑

	2）消化器・泌尿器疾患における慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	復習：これまで学んだ循環器、呼吸器、消化器、泌尿器疾患について復習すること（配布プリントならびに内科学（教科書）の当該箇所） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験〈DP①②③〉			1.10%

授業科目名	漢方医学各論(作業)（Detailed Kampo Medicine）				
主担当教員	教員未確定		担当教員	教員未確定	
科目ナンバリング	SB129	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年、医師の大半が漢方薬を処方し、ドラッグストアではある程度自由に漢方薬を購入することができる。そのため、医療に携わる人たちが漢方に関する知識を習得することはとても重要である。ここでは、現代医療で使用される漢方薬とそれに配合される生薬について理解するために、基本的な知識や考え方と臨床での実際について講義を行う。

到達目標

医薬品としての漢方薬だけでなく、セルフメディケーションとしての漢方薬や生薬製剤について、専門的な捉え方ができることを目指し、作業療法への応用につなげて欲しい。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

まず、基本的な用語を含め、漢方の特徴について理解するように努めてください。漢方の考え方は理解しにくい部分もあると思いますが、わからないことをそのままにせず質問すること、また教科書は理解するのにとても役立つと思うので、講義の前後によく読むことを勧めます。

教科書

病態からみた漢方薬物ガイドライン　第３版　ー処方構成・適正使用・科学的根拠の解説までー
岡村信幸（著）、京都廣川書店　ISBN978-4-906992-67-6

参考書

パートナー生薬学　改訂第３版増補
竹谷孝一　他（編）、南江堂　ISBN978-4-524-40361-5

研究室／オフィスアワー

E 棟 1 階 非常勤控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	漢方と生薬について 漢方の特徴を確認し、漢方薬とそれを構成する生薬について学ぶ	予習：これまで学んだ漢方概論を復習しておくこと 復習：授業後に教科書や配布プリントで振り返ること	
2	漢方の基本概念 漢方薬の特性と証、証の診断方法について学ぶ	予習：教科書の該当範囲を読んでおくこと 復習：授業後に教科書や配布プリントで振り返ること	
3	証の診断基準① 証の診断基準（八綱弁証、三陰三陽）について学ぶ	予習：教科書の該当範囲を読んでおくこと 復習：授業後に教科書や配布プリントで振り返ること	
4	証の診断基準② 証の診断基準（気血水、五臓）を学ぶ	予習：教科書の該当範囲を読んでおくこと 復習：授業後に教科書や配布プリントで振り返ること	
5	漢方の治療法と治療法則 基本概念をもとに治療について学ぶ	予習：教科書の該当範囲を読んでおくこと 復習：授業後に教科書や配布プリントで振り返ること	
6	漢方薬と配合生薬　各論① 漢方処方群について学ぶ 桂麻剤と配合生薬について学ぶ	予習：教科書の該当範囲を読んでおくこと 復習：授業後に教科書や配布プリントで振り返ること	
7	漢方薬と配合生薬　各論② 柴胡剤、?連剤と配合生薬について学ぶ	予習：教科書の該当範囲を読んでおくこと 復習：授業後に教科書や配布プリントで振り返ること	
8	消化器疾患と漢方	3 回目は消化管、肝・胆・膵疾患と漢方治療について理解を深めます。	
9	呼吸器疾患と漢方	4 回目は呼吸器疾患と漢方治療について理解を深めます。	
10	循環器疾患と漢方	5 回目は循環器疾患と漢方治療について理解を深めます。	
11	腎・泌尿器疾患と漢方	6 回目は腎・泌尿器疾患と漢方治療について理解を深めます。	

12	産婦人科疾患と漢方	7 回目は産婦人科疾患と漢方治療について理解を深めます。	
13	神経、精神疾患と漢方	8 回目は神経、精神疾患と漢方治療について理解を深めます。	
14	整形外科疾患と漢方	9 回目は整形外科疾患と漢方治療について理解を深めます。	
15	生活習慣病と高齢者医療に対する漢方	最後は現代医療における漢方医学の位置づけについて総合的な理解を深めます。未病、無病息災の概念から、代謝、内分泌疾患を含めた生活習慣病に対する漢方治療の重要性を理解します。特に高齢者では、疾病が様々で複合していることも多く、高齢者の特徴とこれまで学んで来たことの応用法について理解を深めます。	
成績評価方法と基準			割合
１：単元ごとに小テスト（５問程度）を実施する。評価は 40% ２：定期試験：評価は 60%			１.40% ２.60%

授業科目名	東洋医学概論Ⅰ(作業)（Introduction to Oriental Medicine Ⅰ）				
主担当教員	横山　浩之		担当教員	横山　浩之	
科目ナンバリング	SB130	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。

到達目標

下記の内容の概要を理解する。
１．東洋医学の分野を理解する。
２．東洋医学の基本的思考法を理解する。
３．東洋医学が身近なものであることを認識する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．東洋医学の用語に慣れること。
２．全ての授業に出席すること。
３．できれば、自分のノートをつくること。

教科書

なし

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス、東洋医学とは この講義を学習することの意味を説明できる	復習：授業の振返り	
2	東洋医学の分野	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
3	陰陽・五行	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
4	臓腑経絡(1)	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
5	臓腑経絡(2)	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
6	診察	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
7	鍼灸治療	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
8	漢方治療	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	

成績評価方法と基準	割合
【評価の配点】 １．出席・授業態度 ２．レポート提出 ＊詳細は授業内で告知する	1.40% 2.60%

授業科目名	東洋医学概論Ⅱ(作業)（Introduction to Oriental Medicine Ⅱ）				
主担当教員	横山　浩之		担当教員	横山　浩之	
科目ナンバリング	SB131	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 3 限 木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

東洋医学概論Ⅱでは、各種診断治療体系の具体例を教授する。特に、鍼、灸、あん摩、指圧など東洋医学系物理療法の施術の実際を紹介し、それらに共通した経絡と経穴のうちリハビリテーションにおいて応用可能と思われるものを重点的に解説する。また、漢方と鍼灸で一般的に行われる「証」すなわち東洋医学的に見た体質の判断に必要な「望聞問切」のテクニック、例えば脈診、腹診、舌診などを教授し、さらに気・血・水といった生命活動の基本的要素に障害が起こった時に現れる訴えや症状を知ることによって、「証」にもとづいて行われる各種治療法の施術や処方の特徴を説明する。

到達目標

下記の内容の概要を理解する。
1．東洋医学の分野を理解する。
2．東洋医学の基本的思考法を理解する。
3．東洋医学が身近なものであることを認識する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．東洋医学の用語に慣れること。
2．全ての授業に出席すること。
3．できれば、自分のノートをつくること。

教科書

なし

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	手技療法	復習：授業の振返り	
2	中医学	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
3	東洋医学の歴史	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
4	東洋医学の特徴	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
5	東洋医学と国際情勢	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
6	家庭における東洋医学	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
7	東洋医学と民間療法	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
8	東洋医学の将来と課題	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	

成績評価方法と基準	割合
【評価の配点】 1．出席・授業態度 2．レポート提出 ＊詳細は授業内で告知する	1. 40% 2. 60%

授業科目名	IPW 論(作業)（Inter-Professional Work）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、山下　仁、増山　祥子、大川　祐世、角田　晃啓、中根　征也、村上　生美、吉村　弥須子、関根　将、藤江　建朗、伊藤　直子、松下　太、橋本　弘子、中村　めぐみ、中西　一、金森　幸、東　泰弘、小川　泰弘、由利　禄巳	
科目ナンバリング	SB132	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 3 限 水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

各学科において、他学科の連携や知識・技術に触れることを目的に看護学・鍼灸学・作業療法学、臨床検査学および理学療法学を学び、IPW（Interprofessional Work = 専門職連携）を 5 学科協働で演習形式にて実践する。
　各分野の特徴やチーム内での役割とその専門性を学び、その上で看護、鍼灸、作業療法、臨床検査、理学療法の各分野で共通する疾患や障害を基に、IPW の実際について、討議・経験・学修する。(オムニバス形式／全 15 回)

到達目標

各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理観を養う。<DP①②③④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。
2）疑問点を大切にして常に自己で調べて解決するように行動すること。

教科書

指定する教科書はなし。検討事例に関する資料を配布する。

参考書

担当事例に関する参考書を、図書館などで各自準備する。

研究室／オフィスアワー

研究室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療系職種の理解①（理学療法学）	予習：本学理学療法学科のカリキュラムに目を通しておく（2 時間）。 復習：理学療法の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく（2 時間）。	中根
2	医療系職種の理解②（看護学）	予習：本学看護学科のカリキュラムに目を通しておく（2 時間）。 復習：看護の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく（2 時間）。	村上
3	医療系職種の理解③（臨床検査学）	予習：本学臨床検査学科のカリキュラムに目を通しておく（2 時間）。 復習：臨床検査の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく（2 時間）。	関根
4	医療系職種の理解④（鍼灸学）	予習：本学鍼灸学科のカリキュラムに目を通しておく（2 時間）。 復習：鍼灸の専門性を理解し、作業療法との接点を理解しておく（2 時間）。	山下・増山・大川
5	医療系職種の理解⑤（臨床工学）	予習：本学臨床工学科のカリキュラムに目を通しておく（2 時間）。 復習：臨床工学の専門性を理解し、作業療法と	藤江

		の接点を理解しておく（2時間）。	
6	チーム医療の実際 （各学科教員によるCase Conference）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく（2時間）。 復習：教員による事例検討（デモンストレーション）を通じ、各分野と作業療法の役割を理解する（2時間）。	学科教員全員
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①	予習:作業療法士の役割を再確認しておく(2時間)。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく（2時間）。	学科教員全員
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察②	予習:作業療法士の役割を再確認しておく(2時間)。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく（2時間）。	学科教員全員
9	症例提示におけるアプローチ立案とその考察③	予習:作業療法士の役割を再確認しておく(2時間)。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく（2時間）。	学科教員全員
10	症例提示におけるアプローチ立案とその考察④	予習:作業療法士の役割を再確認しておく(2時間)。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるように準備をしておく（2時間）。	学科教員全員
11	IPW①（11回〜14回は4コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく（2時間）。 復習：IPWで討議したことをまとめておく（2時間）。	学科教員全員
12	IPW②（11回〜14回は4コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく（2時間）。 復習：IPWで討議したことをまとめておく（2時間）。	学科教員全員
13	IPW③（11回〜14回は4コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく（2時間）。 復習：IPWで討議したことをまとめておく（2時間）。	学科教員全員
14	IPW④（11回〜14回は4コマ連続）	予習：IPWで討議したことをまとめる(2時間)。 復習：プレゼンテーションの準備（2時間）。	学科教員全員
15	IPW⑤（プレゼンテーションと振り返り）	予習：プレゼンテーションの準備（2時間）。 復習：IPWや発表で得たことをまとめておく（2時間）。	学科教員全員
成績評価方法と基準			割合
1）レポート　＜DP①②③④＞ 2）【IPW】プレゼンテーション：成績の評価基準となるルーブリックを提示します。＜DP①②③④＞ 出席は2/3以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う			1）40% 2）60%

授業科目名	身体障害作業療法評価学(作業)（Occupational Therapy Evaluation for Physical Disability）				
主担当教員	松下　太		担当教員	松下　太、中村　めぐみ、中西　一	
科目ナンバリング	SS205	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 4 限 金曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

身体障害を有する人々に作業療法を実践していくには、クライエントの作業ニーズを把握した上で、身体機能の状態を正しく捉えてクライエントの障害像を明確に理解する必要がある。この講義では、身体機能障害の障害像を正確に捉えるための評価プロセスや方法、技術（検査・測定）を学修する。特に関節可動域測定、徒手筋力テスト、感覚検査、反射検査などの主要な身体機能評価についてその概要や方法、あるいは基礎技法を実習し修得する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1)　関節可動域測定の意義や目的について説明できる。＜DP①④＞
2)　筋力検査の意義や目的について説明できる。＜DP①④＞
3)　感覚検査、反射検査、上肢機能検査の意義や目的を説明できる。＜DP①④＞
4)　上記の基本的評価手技を、解剖学・生理学・運動学の知識と結びつけて説明できる。＜DP①＞
5)　上記の基本的評価手技を適切な方法で実施することができる。　＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)　本科目は演習科目であり、必要出席時間数は「授業時数の5分の4以上」を採用する。
2)　指定された教科書を毎回の授業に持参すること。
3)　関節可動域測定実習の授業時にはゴニオメーター、伸張反射・病的反射検査の授業時には打腱器を持参すること。
4)　実習形式の場合には、本学指定のジャージ一上下、ポロシャツを着用して参加すること。また、骨や筋の触知等を行なうため、肩甲帯・上腕部・大腿部が露出できるようアンダーウエア（ノースリーブ、タンクトップ、短パン等）を着用しておくこと。
5)　身だしなみについては臨床実習の手引きに準じる。特に髪や爪は清潔にして授業に出席すること。
6)　本科目を履修するためには、解剖学・生理学・運動学の基礎知識が必要であるため、開講までに解剖学・生理学の復習をしておくこと。(特に、筋の起始・停止、表在感覚の伝導路、反射弓、錐体路・錐体外路等について)

教科書

1)　矢谷令子 監修：標準作業療法学専門分野 作業療法評価学（第2版）、医学書院、2011
2)　津山直一、中村耕三 訳：新・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医書出版社、2014
3)　田崎義昭、斎藤佳雄 著：ベッドサイドの神経の診かた第18版、南山堂、2016
4)　林典雄 編著：機能解剖学的触診技術上肢改訂第2版、メジカルビュー社、2011
5)　林典雄 編著：機能解剖学的触診技術下肢・体幹 改訂第2版、メジカルビュー社、2012

参考書

1)　佐竹勝、石井文康 編：作業療法評価学（改訂第2版）、メジカルビュー社、2015
2)　青木主税 著：動画で学ぶ関節可動域測定法 ROMナビ増補改訂第2版、ラウンドフラット、2013
3)　伊藤俊一 監修：PT・OTのための測定評価 DVDシリーズ1・2・3・4・7、三輪書店

研究室／オフィスアワー

松下　太　：C棟7階研究室／木曜日1・2・3限目
中村めぐみ：C棟7階教職員室／木曜日1・2限目
中西　一　：C棟7階教職員室／月曜日16:30-18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	関節可動域測定1：概論 関節可動域測定2：実習（上肢）	予習：1.教科書「作業療法評価学（第2版）P81-89を熟読しておくこと 2.左記部位におけるランドマーク位置 ※予習・復習に要する時間80分	
2	関節可動域測定3：実習（上肢・手指）	予習：左記部位におけるランドマーク位置 ※予習・復習に要する時間80分	
3	関節可動域測定4：実習（下肢）	予習：左記部位におけるランドマーク位置 ※予習・復習に要する時間80分	
4	関節可動域測定5：実習（体幹）	予習：左記部位におけるランドマーク位置 ※予習・復習に要する時間80分	
5	OSCE（ROM-Tの確認実技テスト）	予習：それまで学習したROM-Tのすべて ※予習に要する時間80分以上	

6	徒手筋力検査法 1：原理原則、注意点 握力、ピンチ力測定法	予習：教科書「作業療法評価学（第 2 版）P104-108 を熟読しておくこと ※予習・復習に要する時間 80 分	
7	徒手筋力検査法 2：実習（上肢）	予習：左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経 ※予習・復習に要する時間 80 分	
8	徒手筋力検査法 3：実習（上肢・手指）	予習：左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経 ※予習・復習に要する時間 80 分	
9	徒手筋力検査法 4：実習（手指・体幹）	予習：左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経 ※予習・復習に要する時間 80 分	
10	徒手筋力検査法 5：実習（下肢）	予習：左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経 ※予習・復習に要する時間 80 分	
11	徒手筋力検査法 6：実習（下肢・頭頸部）	予習：左記の運動に関わる筋の起始、停止、及び支配神経 ※予習・復習に要する時間 80 分	
12	感覚検査 小テスト	予習：生理学で学んだ表在感覚の伝導路、デルマトームについて復習しておくこと 小テスト範囲：筋の神経支配（髄節レベル）と MMT の代償動作 ※予習・復習に要する時間 80 分以上	
13	OSCE（MMT の確認実技テスト）	テスト範囲：上肢、手指、頭頸部、体幹、下肢の MMT ※予習に要する時間 80 分以上	
14	伸張反射・病的反射検査・上肢機能検査	予習：解剖学や生理学で学んだ反射弓、錐体路、錐体外路について復習しておくこと ※予習・復習に要する時間 80 分	
15	上肢機能検査（STEF、片麻痺機能テストなど）	予習：教科書「作業療法評価学（第 2 版）」P200-207、P341-347 を熟読しておくこと ※予習・復習に要する時間 80 分	

成績評価方法と基準	割合
1）実技テスト＜DP①＞ 2）小テスト＜DP①＞ 3）定期試験＜DP①④＞ ※先修条件科目であることから、原則として欠席は認めない。単位認定のための必要出席時間数は「5 分の 4 以上」とする。	1）30% 2）10% 3）60%

授業科目名	精神障害作業療法評価学(作業)（Occupational Therapy Evaluation for Mental Disorder）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、小川　泰弘	
科目ナンバリング	SS206	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

精神障害作業療法における評価は、一通りの評価を終えてから治療を開始するといった方法が取りにくい。初回の面接時から援助関係を築きながら評価を随時行っていく事となる。その評価の基本的な流れ（導入評価→初期評価→再評価→最終評価）といった、評価のプロセス、そして面接、観察の具体的方法、基本的な留意点について学修し、実施できるようにする。また対象者主体に考えた評価項目（過去・現在の生活、これからの生活、環境因子、個人因子、自己理解と受容）と評価の視点を理解し、精神科作業療法における評価手段を習得する。

到達目標

1. 精神科作業療法評価の意義と目的を理解し、口頭で説明できるようになる＜DP①＞
2. 精神科作業療法評価のプロセスを説明できるようになる＜DP①＞
3. 精神科作業療法評価の評価項目について学修し、説明できるようになる＜DP①＞
4. 精神科作業療法評価における基本的技法である面接、観察の具体的方法を学び実施できるようにする＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業後には復習を必ず行い、理解を深めてください。
また精神科作業療法に関する文献などを積極的に読むようにしてください。

教科書

1)「精神障害と作業療法　新版」　山根　寛/三輪書店 ISBN978-4-89590-583-1
2)「国際生活機能分類ＩＣＦの理解と活用」　上田　敏/萌文社 ISBN978-4-89491-096-6

参考書

1)「国際生活機能分類―国際障害分類改訂版―」　/WHO

研究室／オフィスアワー

木曜日（１０：４０～１２：１０）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神科作業療法評価のプロセスについて学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：精神科作業療法プロセスを図示する 予習復習ともに 2 時間行う	
2	精神科作業療法における情報収集と評価について学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：精神科作業療法評価の流れについて説明する 予習復習ともに 2 時間行う	
3	精神科作業療法評価と ICF について学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 精神科作業療法における ICF を理解し、図示しながら説明する 予習復習ともに 2 時間行う	
4	精神障害の捉え方について	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：障害相互の影響や活動と参加に対しての促進因子や阻害因子について考える予 習復習ともに 2 時間行う	
5	精神障碍とはどんな病気かを知る	予習：これまでの授業の復習を行い、実際の精神障害者の生活を想像しておく 課題：当事者のＤＶＤを見てレポートを提出 予習課題ともに 2 時間ずつ行う	
6	神科作業療法の評価項目について学ぶ　1 （外観、第一印象、話し方、運動系自律神経系,対人パターン	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習・課題：精神科作業療法の評価項目につい	

		て説明できる レポートを提出する（ウォッチングリスト、対人パターンチェックリスト） 予習復習ともに 2 時間行う	
7	精神科作業療法の評価項目について学ぶ （日常生活機能評価、社会参加能力評価）	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：精神科作業療法の評価項目について説明できる（日常生活機能評価・社会参加能力評価）。次回の授業で小テストあり 予習復習ともに 2 時間行う	
8	精神科作業療法の評価項目について学ぶ （作業遂行機能評価）	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：精神科作業療法の評価項目について説明できる（作業遂行機能評価）次回の授業で小テストあり。 予習復習ともに 2 時間行う	
9	精神科作業療法の面接について学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：課題・復習：面接技法を用いながら課題について面接を実施し、その内容をレポートにまとめる．予習復習ともに 2 時間行う	
10	精神科作業療法の面接について学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習・課題：面接技法を用いながら課題について面接を実施し、その内容をレポートにまとめる． 予習復習ともに 2 時間行う	
11	精神科作業療法の作業を通した観察評価について学ぶ 1 （構成的作業と非構成的作業）	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習・課題：構成的作業と非構成的作業の評価についてレポート提出 予習復習ともに 2 時間行う	
12	精神科作業療法の作業を通した観察評価について学ぶ２ （構成的作業と非構成的作業）	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：構成的作業と非構成的作業の評価についてレポート提出 予習復習ともに 2 時間行う	
13	精神科作業療法における集団の評価	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習：精神科作業療法における集団の評価について説明できる。次回の授業で小テストあり。 予習復習ともに 2 時間行う	
14	精神科作業療法評価の面接演習	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習・課題：3 年生に対し面接を実施する．レポート作成 予習復習ともに 2 時間行う	
15	精神科作業療法評価の実際について学ぶ ２	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく 復習・課題：ビデオ映像から観察評価しレポート提出する 予習復習ともに 2 時間行う	
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験＜DP①＞ ※出題範囲：授業で扱った範囲 2.レポート課題＜DP①④＞ 3.授業中に行う小テスト＜DP①＞ 必要出席時間数は授業時間数の 4/5 以上である.			1.70% 2.20% 3.10%

授業科目名	発達障害作業療法評価学(作業)（Occupational Therapy Evaluation for Developmental Disability）				
主担当教員	伊藤 直子		担当教員	伊藤 直子、金森 幸	
科目ナンバリング	SS207	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

子どもの月齢や年令による変化や行動を観察できるようにする。乳幼児期からの発達を身体運動面から理解し、それに伴う感覚・知覚・認知発達、対象操作や言語コミュニケーション能力との関連を理解する。授業は実技と観察を中心とし、治療者としての身体イメージの獲得、医療者としての表象（言語や文章・描画による）、を高める。各種評価尺度の理解を含みます。

到達目標

1. 月齢による運動発達の変化と連続性の理解＜DP①＞
2. 感覚・知覚・認知発達の理解＜DP①＞
3. 身体企画・身体イメージ・身体概念の理解＜DP④＞
4. 自律反応と自発運動の関係の理解＜①④＞
5. 言語発達の基盤の理解＜①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業では、実技演習を重視します。実習用の服装と態度で臨んでください。自分の身体的特徴を十分理解し、健康管理と準備（柔軟性の獲得や協調運動の理解）を日ごろから行ってください。自身のボディイメージを整備し、健康を維持しておくことは、スポーツ選手と同様、医療職としてのパフォーマンスを最大化するために重要です。

教科書

写真でみる乳児の運動発達　Lois Bly　協同医書出版

参考書

小児リハ評価ガイド　MEDICALVIEW
発達を学ぶ　森岡周著　協同医書出版社
リハビリテーションのための人間発達学第二版　編集大城昌平　メディカルプレス
正常発達第２版　脳性まひの治療アイデイア　Jung Sun Hong 三輪書店

研究室／オフィスアワー

研究室：木曜日午後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	総論：正常発達を学ぶ意義　授業の進め方	予習：教科書の概覧(序文) 復習：柔軟体操・可動域確認(1 時間)	伊藤
2	新生児:基本的な姿勢運動発達の見方	予習：運動学の復習。教科書通読(P.1-33) 復習：観察のポイントの理解、シートの記入(1 時間)	
3	３ヶ月児:頭のコントロール、対称的姿勢の獲得	予習：原始反射の意義。教科書通読(P.35-92)Milani-Comparetti 運動発達評価表 復習：視覚の発達(1 時間)	
4	５ヶ月児:抗重力姿勢の発達、四肢の運動、随意運動の発達のしくみ	予習：抗重力活動。教科書通読(93-176) 復習：体幹・四肢の発達(1 時間)	
5	7ヶ月児:寝返りの獲得、視覚と体性感覚の統合	予習：体軸内回旋.。教科書通読(177-222) 復習：視覚と体性感覚の統合(1 時間)	
6	9ヶ月児:座位の獲得と三項関係の理解	予習：四つ這い移動教科書通読(P.223-254) 復習：座位の獲得(1 時間)	
7	1歳児:立位の獲得、平衡反応、両手動作	予習:上肢機能の発達。教科書通読(P.255-283) 復習：リーチ・グラスプ・リリース・マニュプレーション(1 時間)	
8	1歳 5 ケ月児:言語発達	予習：K-ABC、WISL-4、新版 K 式発達検査 復習：両手動作・道具操作(1 時間)	
9	２歳児:感覚・知覚・認知	予習：ピアジェ：発生的認知論 復習：感覚運動期・前概念(1 時間)	
10	3歳児:言語と社会性の発達、幼児期後半	予習：ブルーナー：学習過程 復習：ボウルビー：母子相互作用(1 時間)	
11	4歳児:学習基礎能力	予習：集団遊びの発達 復習：Vineland-Ⅱ(1 時間)	
12	5歳児：就学準備	予習：視知覚認知発達 復習：円城寺式乳幼児分析的発達検査表・デン	

		バーⅡ(1 時間)	
13	6 歳児：就学と地域小学校の生活	予習：学童期の発達 復習：エリクソン(1 時間)	
14	学童期の発達	予習：日常生活技能・ライフスキル・マズロー 復習：教科学習の基礎(文部科学省)（1 時間）	
15	ノートの編集と実技テスト	予習：実技試験の準備 復習：ノートの完成と提出(1 時間)	
成績評価方法と基準			割合
①各期で実技試験を行います。<DP①④> ②平常点数（授業態度を含む)、提出レポート、ノートの管理。<DP①④> ③定期試験の実施(実技試験・ノートの作成・基礎知識の確認）<DP①④> 4/5 以上の出席が必要			①20% ②20% ③60%

授業科目名	高次脳機能障害作業療法評価学(作業)（Occupational Therapy Evaluation for Mental Disorder）				
主担当教員	中村　めぐみ		担当教員	中村　めぐみ、中西　一	
科目ナンバリング	SS208	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

本演習では，人間が日常生活や社会生活を営む上で必要な高次脳機能の働きについて学ぶ．また，様々な高次脳機能の評価方法を実際の評価・検査・測定を用いて学習する．
　臨床で接する，高次脳機能障害を呈する対象者に対し，適切な評価を選択し，かつその評価結果を解釈する力を養う機会となることを期待している．そのためには，脳の機能局在や神経の成り立ちを含めた解剖学・生理学の知識が必要である．本演習で学習する様々な脳の働きは，我々が普段行っている活動を支えている．演習を通じて，生活活動の分析がより深く行えるようになるために，評価の方法だけでは区，幅広い視点で学習していくことを目指している．それゆえに，定期試験では選択式ではなく，記述式の解答を求めることがある．また，評価の演習では，セラピストとしての態度を含めて指導する．演習中は作業療法士としての振る舞いを求められていることを忘れず，礼節のある態度をとること．

到達目標

1）認知機能の定義や評価の目的について説明できる<DP①④>
2）注意機能，遂行機能の定義や評価項目，評価の目的について説明できる<DP①④>
3）講義で紹介した評価や検査に関連する用語について，解剖学・生理学の知識と結び付けて理解できる<DP①④>
4）講義で紹介し評価を適切な方法で実施することができる<DP①④>
5）高次脳機能障害の臨床症状や評価項目，評価の目的について説明できる<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）講義では配布されたプリントは全てファイリングし，必要に応じ持参すること
2）本演習を履修するには，脳と神経にかかわる解剖学・生理学の知識が必要であるため，復習をしておくこと
3)本講義は演習であるため，必要出席時間数は「授業時数の 5 分の 4 以上」を採用する．
4)学習状況の確認のために小テストを実施することがある

教科書

1）石合純夫：高次脳機能障害学（第 2 版），医歯薬出版株式会社，2012 年
2）田崎義昭，斎藤佳雄著，坂井文彦改訂：ベッドサイドの神経の診かた（改訂 17 版），南山堂，2010 年．
3）岩﨑テル子他編．標準作業療法学専門分野　作業療法評価学（第 2 版），医学書院，2011．

参考書

能登真一　編：標準作業療法学専門分野　高次脳機能作業療法学．医学書院，2012 年．
生田宗博　編：作業療法学全書第 3 巻　作業療法評価学（第 3 版），協同医書出版社，2009 年．
渕　雅子　編：作業療法学全書第 8 巻　作業治療学 5 高次脳機能障害（第 3 版），共同医書出版社，2011 年．
森岡　周：リハビリテーションのための脳・神経科学入門（改訂第 2 版），共同医書出版社，2016 年．
石原　健司：CD-ROM でレッスン脳画像の読み方　医歯薬出版株式会社，2010 年．

研究室／オフィスアワー

中村めぐみ：7 階教職員室／木曜日 1・2・3 限目
中西　一　　：7 階教職員室／月曜火曜 5 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	高次脳機能とは　脳の図を書く，意識の評価を学ぶ（JSC,GCS）	予習：「高次脳機能作業療法学」p.1-21.「ベッドサイド神経の診かた」p.281-306. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
2	脳の局在と機能を学ぶ	予習：「高次脳機能作業療法学」p.10-21.「ベッドサイド神経の診かた」p.129-142. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
3	注意機能の評価（CAT）と評価バッテリーの採点，活用について	予習：「高次脳機能作業療法学」p.193-197. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
4	前頭葉機能とは：前頭葉機能の評価（FAB 他）	予習：「高次脳機能作業療法学」p.136-154,「作業療法評価学」p.220-231. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
5	記憶について：記憶障害の評価（三宅式，WMS-R,リバーミード行動記憶検査，ベントン視覚記	予習：「高次脳機能作業療法学」p.197-219.「ベッドサイド神経の診かた」p.133.	中村・中西

	名検査等）	復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	
6	高次脳機能障害の評価：失認について（視空間認知障害（BIT 等）	予習：「高次脳機能作業療法学」p.151-180.「ベッドサイド神経の診かた」p.259-265. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
7	高次脳機能の評価：身体失認	予習：「高次脳機能作業療法学」p.179-188.「ベッドサイド神経の診かた」p.259-265 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
8	高次脳機能障害の評価：失語症等	予習：「高次脳機能作業療法学」p.23-57.「ベッドサイド神経の診かた」p.247-258. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
9	高次脳機能の評価：失行	予習：「高次脳機能作業療法学」p.61-104.「ベッドサイド神経の診かた」p.259-265. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
10	遂行機能とは：遂行機能の評価（BADS，レーブン色彩マトリックス検査，WCST，ハノイの塔，ティンカートイテスト等）	予習：「高次脳機能作業療法学」p.193-231.「ベッドサイド神経の診かた」p.259-265. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
11	評価体験	これまでの評価項目を復習し，対象や目的の確認をしてください． 予習復習時間は 60 分	中村・中西
12	臨床における高次脳機能障害の評価と治療（ゲストスピーカー）	予習：事前連絡 復習：授業範囲の復習 予習復習時間は 60 分	学科担当教員と作業療法士
13	画像について	予習：「高次脳機能作業療法学」p.10-21. 復習：予習範囲の教科書の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
14	ケーススタディ（ゲストスピーカー）	予習：各自必要な用語を調べる 復習：レポート作成（配点 20 点） 予習復習時間は 60 分	学科担当教員と作業療法士
15	評価のまとめ，実技体験	予習：各自学習・実習したい評価バッテリーの資料を持参する 復習：予習範囲の見直し 予習復習時間は 60 分	中村・中西
成績評価方法と基準			割合
1）①定期試験，②レポートの配点とする．提出期限の過ぎたレポートはマイナス 10 点． 2）必要出席時間は授業時数の 5 分の 4 以上である． 3）講義で配布した資料はファイリングして次回以降も必ず持参すること． 4）教科書はテーマに合わせ忘れず持参すること 5）毎回開始時に小テストを実施する．小テストの平均点が 70 点を下回る学生は本試前に補講に参加する必要が生じる．（開催日時は後日通知）			①80% ②20%

授業科目名	身体障害作業療法治療学総論(作業)（General Occupational Therapy for Physical Disability）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、中村　めぐみ、中西　一、東　泰弘	
科目ナンバリング	SS302	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

身体障害領域における作業療法の治療的介入方法を知り、疾患の特性に合わせた治療および支援・技術を学ぶ。治療学として、評価の選択・評価の実施・問題点の抽出・目標設定・治療プログラム立案の経過に合わせ、患者自身の「生活」を支援する技術を学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 作業療法的介入を学び、作業療法士の役割を考える<DP①>
2. 疾患別に評価から治療までの経過を説明することができる<DP①>
3. 作業療法で用いられる治療的支援技術について学修する<DP①>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１．基礎医学の知識の総まとめとして疾患に展開できるよう、解剖学・生理学・運動学など復習しておく
２．作業療法的介入を考えるにあたり、作業遂行や作業科学について復習しておく
３．作業の遂行を考えるにあたり、日常生活活動学について復習しておく
４．総合臨床実習に向けて事例検討を行う

教科書

作業療法学　ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰﾃｷｽﾄ４　身体障害作業療法学　長崎重信編集監修　MEDICAL VIEW

参考書

１．PT/OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　羊土社
２．リハビリテーションビジュアルブック　学研
３．病気が見える７　脳・神経　MEDIC MEDIA
４．絵で見る脳と神経　しくみと障害のメカニズム第３版　医学書院
５．標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学　第３版
６．作業療法学全書　４　作業治療学１　身体障害　日本作業療法士会　共同医書出版
７．クリニカル作業療法シリーズ　身体領域の作業療法　第２版　中央法規

研究室／オフィスアワー

研究室 C 棟 7 階 19 号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	身体障害作業療法治療学総論１ 作業療法治療モデルについて学習する	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
2	身体障害作業療法治療学総論２ 治療学概論・作業療法的介入について学習する	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
3	身体障害作業療法治療学総論３ 評価から治療への実際について学習する	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
4	身体障害作業療法　骨関節障害１ 高齢者の骨折（大腿部頸部骨折・圧迫骨折・coiies 骨折）　について学習する	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
5	身体障害作業療法治療学　中枢神経障害１:脳血管障害	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
6	身体障害作業療法治療学　中枢神経障害 2:変性疾患パーキンソン	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
7	身体障害作業療法治療学　中枢神経障害 3:変性疾患 SCD	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
8	身体障害作業療法治療学　中枢神経障害 4:神経筋疾患 ALS 筋ジス等	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
9	身体障害作業療法治療学　中枢神経障害 5:神経筋難病/その他疾患	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員
10	身体障害作業療法治療学　中枢神経障害 6:脊髄損傷（ギランバレー・MS など）	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4 時間）	全員

11	身体障害作業療法治療学　内部障害１:循環器系障害（心血管系）検査データ・心電図	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4時間）	全員
12	身体障害作業療法治療学　内部障害2:呼吸・摂食嚥下障害(VF・水飲みテストなど)	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4時間）	全員
13	身体障害作業療法治療学　内部障害 3:廃用症候群・ｻﾙｺﾍﾟﾆｱ・ﾌﾚｲﾙ・生活習慣病	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4時間）	全員
14	身体障害作業療法治療学 脳血管障害事例について学習する	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4時間）	全員
15	身体障害作業療法治療学 その他事例について学習する	予習・復習：シラバスに該当する内容ついて予習し、授業内容を確認しまとめる（4時間）	全員
成績評価方法と基準			割合
2/3 回の出席必要 1.期末テスト<DP①> 2.提出物<DP①> これらを総合的に評価する			1.70% 2.30%

授業科目名	精神障害作業療法治療学総論(作業)（General Occupational Therapy for Mental Disorder）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、小川　泰弘	
科目ナンバリング	SS303	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

精神科疾患の特徴を理解しながら、日常生活における問題点について学修する。日常生活における問題点を国際生活機能分類（ICF:International Classification of Functioning）に基づいて心身機能・参加・活動・環境因子・個人因子から把握できるようにし、相互依存や相対的独立の関連性をみつけ、精神科疾患の行動特性と脳機能を関連させて考察できるように学修する。さらに精神科作業療法実践における基本的理論について学修し、精神科作業療法における論理的な思考を習得する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.国際生活機能分類（ICF:International Classification of Functioning）に基づいた心身機能・参加・活動・環境因子・個人因子における相互依存や相対的独立の関連性を理解する<DP①>
2.精神科疾患の行動特性と脳機能を関連させて考察できる<DP①>
3.精神科作業療法における理論を理解する<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

各因子の関連性、理論、脳機能を統合的に考えることによって、対象者一人一人にどのように治療すればいいかが見えてきます。
様々な要因を統合的に考えられる思考過程を身につけましょう。
授業内で実施する小テストは8割を超えるように、毎回の授業の復習をしてください。

教科書

1)『精神障害と作業療法　新版』　山根　寛/三輪書店 ISBN978-4-89590-583-1
2）統合失調症患者の行動特性　　その支援とＩＣＦ　　昼田源四郎　金剛出版 ISBN978-4-7724-1005-2
3）作業療法全書　精神障害　冨岡詔子　共同医書出版社 ISBN978-4-7639-2122-2

参考書

1）作業療法実践のための 6 つの理論―理論の形成と発展　岩崎テル子監訳　共同医書出版社
2)『国際生活機能分類 ICF の理解と活用』　上田敏/萌文社
3）国際機能分類―国際障害分類改訂版ー　ＷＨＯ　中央法規

研究室／オフィスアワー

木曜日 2 限（10：40～12：10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法実践のプロセス	予習：これまでに実施した精神科作業療法の授業から評価から治療までのプロセスについて教科書、レジュメ等で復習しておく 復習：作業療法治療プロセスについて理解しておく （予習・復習含めて 4 時間）	
2	回復状態に応じた作業療法の役割	予習：疾患の回復状態について予習 復習：回復状態に応じた作業療法の役割 （予習・復習含めて 4 時間）	
3	ICF の特性と各因子の関連性 小テスト実施	予習：回復状態に応じた作業療法の役割について小テスト 復習：ICF の特性と各因子の関連性について教科書を熟読 （予習・復習含めて 4 時間）	
4	ICF における精神機能 1 ―全般的精神機能―	予習：全般的機能について配布資料を見ておく 復習：全般的機能について理解し憶える （予習・復習含めて 4 時間）	
5	ICF における精神機能 2 ―個別的精神機能― 小テスト実施	予習：全般的機能について小テスト準備 復習：注意、記憶等について配布資料を見ておく （予習・復習含めて 4 時間）	
6	ICF における精神機能 3 ―個別的精神機能― 小テスト実施	予習：個別的機能について小テスト 復習：情動、思考等について配布資料を見ておく	

		（予習・復習含めて４時間）	
7	ICFにおける精神機能４ ―個別的精神機能ー 小テスト実施	予習：個別的機能について小テスト 復習：高次認知機能等について配布資料を見ておく （予習・復習含めて４時間）	
8	疾患の行動特性およびその支援とＩＣＦ1 小テスト実施	予習：個別的機能について小テスト 復習：行動特性について教科書を見ておく （予習・復習含めて４時間）	
9	疾患の行動特性およびその支援とＩＣＦ2 小テスト実施	予習：行動特性について小テスト 復習：行動特性について教科書を見ておく （予習・復習含めて４時間）	
10	理論とは？ 小テスト実施	予習：行動特性について小テスト 復習：理論について教科書を見ておく （予習・復習含めて４時間）	
11	精神科作業療法における理論について	予習：精神科作業療法における理論について教科書を熟読 復習：精神科作業療法における理論についてまとめ理解する （予習・復習含めて４時間）	
12	症例検討１ 全体像の把握から治療計画まで（データの整理,要約） 小テスト実施	予習：理論について小テスト 復習：治療プロセスに関するこれまでの配布資料を見ておく、教科書熟読 （予習・復習含めて４時間）	
13	症例検討２ 全体像の把握から治療計画まで（全体像の把握）	予習：症例を熟読 復習：全体像を考える （予習・復習含めて４時間）	
14	症例検討３ 全体像の把握から治療計画まで（治療計画立案）	予習：症例を熟読 復習：全体像を考える （予習・復習含めて４時間）	
15	臨床における精神科作業療法治療	予習：精神科病院で実践されている作業療法について学び理解する 復習：治療プロセスに必要な治療的要素を整理し理解する （予習・復習含めて４時間）	
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験<DP①> 2.小テスト 4/5以上の出席を必要とする			1.70% 2.30%

授業科目名	老年期障害作業療法治療学総論(作業)（General Occupational Therapy for Geriatric Disorder）				
主担当教員	松下　太		担当教員	松下　太	
科目ナンバリング	SS304	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

この科目では、身体機能低下・脳血管障害・骨関節疾患・認知症等変性疾患・自立生活困難・健康維持など高齢者が抱える生活上の問題を加齢や生涯発達という枠組みの中で捉えながら介入していく視点と技術、作業療法プログラムについて学習する。また入院・入所や廃用性低下など環境の変化や周囲からの関わり方が活動・参加に及ぼす影響をプラス面だけでなくマイナス面からも理解する包括的な視野を養う。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.高齢社会とその問題点について説明できる。＜DP①＞
2.老年者を対象に作業療法を実施する場合に考慮すべき加齢現象を列挙し，かつその内容を簡潔に説明できる。＜DP①＞
3.老年期の対象者に対する作業療法士の役割を説明できる。＜DP①＞
4.老年期の特徴的な疾患に対する作業療法の評価，介入について説明できる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

必ず復習をして十分に理解してください。
常日頃より，高齢者問題に関心を持って，新聞やニュース等のメディアを通じて情報を取り入れてください。

教科書

1.標準作業療法学専門分野，高齢期作業療法学第３版　　松房利憲，新井健五 編　　医学書院
2.認知症をもつ人への作業療法アプローチ　　宮口英樹 監修　　メジカルビュー社

参考書

1.小川敬之、竹田徳則、認知症の作業療法 第２版、医歯薬出版
2.山口晴保、認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第３版、協同医書出版
3.宮永和夫 編、若年認知症－本人・家族が紡ぐ７つの物語－、中央法規

研究室／オフィスアワー

C棟７階研究室17／木曜日１・２・３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	高齢社会とその課題 老年期障害作業療法の概念	高齢社会の問題や課題について予習・復習すること.（予習復習に２時間）	
2	加齢に伴う身体・精神的変化と特徴（1）	加齢に伴う心身変化と特徴について予習復習すること.（予習復習に２時間）	
3	加齢に伴う身体・精神的変化と特徴（2）	心理学や精神医学等で学修した「知能」や「記憶」に関して予習しておくこと.（予習復習に２時間）	
4	認知症総論（サポーター養成講座兼ねる）	（予習）４大認知症疾患の概要（１時間） （復習）４大認知症疾患の症状特徴（１時間）	
5	認知症疾患各論	（予習）４大認知症疾患の病態特徴（１時間） （復習）４大認知症疾患の特徴を踏まえた関わり方（１時間）	
6	認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション（1）	パーソン・センタード・ケアの概念を復習すること. （予習復習に２時間）	
7	認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション（2）	パーソン・センタード・ケアの「認知症の人の心理的ニーズ」「well being、ill being」を復習すること.（復習に２時間）	
8	認知症の人に対するパーソン・センタード・ケアとコミュニケーション（3）	パーソン・センタード・ケアを基本に認知症の人とのコミュニケーションについて復習する（復習に２時間）	
9	認知症の人に対するOT評価（1）	（予習）認知症の人に対する評価項目（１時間） （復習）認知症の人に対する評価の内容（１時間）	
10	認知症の人に対するOT評価（2）	認知症の人に対するOT評価の実際を予習復習しておくこと.（予習復習に２時間）	

11	老年期の障害別作業療法（認知症疾患 1）	（予習）4 大認知症の病態（1 時間） （復習）4 大認知症の特徴と作業療法（1 時間）	
12	老年期の障害別作業療法（認知症疾患 2）	（予習）非薬物療法の理論（1 時間） （復習）非薬物療法の実際（1 時間）	
13	老年期の障害別作業療法（認知症疾患 3）	（予習）認知症の人の作業療法の特徴（1 時間） （復習）認知症の人の作業療法の実際（1 時間）	
14	老年期の障害別作業療法（中枢性疾患，運動器疾患，廃用性症候群など）	（予習）身体障害作業療法治療学の中でで学んだ中枢神経障害や骨関節系障害に対する作業療法について（1 時間） （復習）高齢者における中枢神経障害や骨関節系障害に対する作業療法の実際（1 時間）	
15	介護保険施設における作業療法について	（予習）介護保険施設の特徴と概要（1 時間） （復習）介護保険施設における作業療法の特徴（1 時間）	
成績評価方法と基準			割合
１）定期試験＜DP①＞ ２）授業内発表＜DP①＞ ３）レポート＜DP①＞			１）60% ２）20% ３）20%

授業科目名	発達障害作業療法治療学総論(作業)（General Occupational Therapy for Developmental Disability）				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子、金森　幸	
科目ナンバリング	SS305	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

周産期から思春期にかけての障がいのある子どもの発達と作業療法士のアプローチを学びます。障がいや年齢にそった日常生活や学業の支援技術を教科書にそって学びながら、より具体的な対応方法を検討します。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

①作業療法概論・小児科学・発達障害作業療法評価学をふまえ、子どもの発達課題を疾患別に理解します。＜DP①＞
②ICF を基盤とし、生活行為向上マネジメントの考え方をふまえて目標設定できるようにします。＜DP①＞
③生活の場で必要となる機能を目標に、子ども自身が主体的に取り組める「作業」を見出します。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①1，2 年生の復習をしっかり行う事（教科書・ノートの活用）
②図書館などを利用して事前学習をしてください。
③基本的な作業療法士の在り方を考えてください。

教科書

イラストでわかる発達障害の作業療法　監修上杉雅之、編集辛島千恵子　医歯薬出版株式会社

参考書

発達を学ぶ　森岡周著　協同医書出版社

研究室／オフィスアワー

月曜日 13:00～15:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	小児の作業療法過程	予習：2 年次の学習（小児科学・評価学）の復習。教科書の通読(P.1-11)(2 時間) 復習：こどものライフステージ、ピアジェ、エリクソン(2 時間)	
2	評価・治療・援助のための基礎知識	予習：発達課程と評価表。教科書通読(P.13-38)(2 時間) 復習：小児の評価と検査(2 時間)	
3	心身機能と発達過程	予習：発達の各項目の整理。教科書通読(P.39-61)(2 時間) 復習：視覚・上肢機能・口腔運動の発達(2 時間)	
4	発達障害：広汎性発達障害	予習：感覚情報処理過程。教科書通読(P.63-79)(2 時間) 復習：感覚統合療法、コミュニケーション(2 時間)	
5	発達障害：注意欠如・多動症	予習：粗大運動発達と ADL。教科書通読(P.81-90) 復習：時間空間概念	
6	発達障害：学習障害	予習：眼球運動と教科学習。教科書通読(P.91-102)(2 時間) 復習：特別支援教育(2 時間)	
7	脳性麻痺：痙直型脳性麻痺	復習:GMFCS と二次障害予防。教科書通読(P.103-125)(2 時間) 復習：各タイプの ADL 及び支援技術(2 時間)	
8	脳性麻痺：アテトーゼ型脳性麻痺	予習：上肢操作と二次障害。教科書通読(P.127-145)(2 時間) 復習：姿勢・介助方法など(2 時間)	
9	重症心身障害	予習：三間表・感覚評価・医療ケア。教科書通読(147-158)(2 時間) 復習：姿勢介助・スヌーズレン(2 時間)	

10	知的障害：ダウン症	予習：聴覚認知・ワーキングメモリ・言語発達。教科書通読(P.159-175)(2 時間) 復習：言語発達の支援(2 時間)	
11	デュシャンヌ型筋ジストロフィー	予習：特別支援教育と IT 支援。教科書通読(P.177-191)(2 時間) 復習：ホームプログラム(2 時間)	
12	小児整形外科疾患（二分脊椎・分娩麻痺・骨形成不全症）	予習：子どもの最善の利益とインフォームドアセント。教科書通読(P.193-210)(2 時間) 復習：Hoffer と Sharrard の評価(2 時間)	
13	小児リハビリテーションと支援制度	予習：児童福祉法、年齢、疾患と制度。教科書通読(P.211-222)(2 時間) 復習：児童福祉法、特別支援教育、自立・移行期支援(2 時間)	
14	障がい児の保護者への子育て支援	予習：母子相互作用、家族支援、地域支援。教科書通読(223-232)(2 時間) 復習：子育て支援(2 時間)	
15	知識の整理と試験準備	予習：関連する国家試験問題を確認(2 時間) 復習：活動参加支援について検討(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
①授業態度、主体性と積極性　<DP①> ②事前学習と発表　<DP①> ③試験　<DP①>	①30% ②30% ③40%

授業科目名	身体障害作業療法治療学各論(作業)（Detailed Occupational Therapy for Physical Disability）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、西垣　孝行、藤江　建朗、辻　義弘、中村　めぐみ、中西　一、東　泰弘	
科目ナンバリング	SS306	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

身体障害領域における作業療法の治療的介入方法を知り、疾患の特性に合わせた治療および支援・技術を学ぶ。治療学として、評価の選択・評価の実施・問題点の抽出・目標設定・治療プログラム立案の経過に合わせ、患者自身の「生活」を支援する技術を学ぶ。

到達目標

1.作業療法的介入を学び、作業療法士の役割を考える<DP①>
2.疾患別に評価から治療までの経過を説明することができる<DP①>
3.作業療法で用いられる治療的支援技術について学修する<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 基礎医学の知識の総まとめとして疾患に展開できるよう、解剖学・生理学・運動学など復習しておく
2. 作業療法的介入を考えるにあたり、作業遂行や作業科学について復習しておく
3. 作業の遂行を考えるにあたり、日常生活活動学について復習しておく
4. 総合臨床実習に向けて事例検討を行う

教科書

クリニカル作業療法シリーズ　身体領域の作業療法　第 2 版　大嶋伸雄編集　中央法規

参考書

1. PT/OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　羊土社
2. リハビリテーションビジュアルブック　学研
3. 病気が見える 7　脳・神経　MEDIC MEDIA
4. 絵で見る脳と神経　しくみと障害のメカニズム第 3 版　医学書院
5. 標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学　第 3 版
6. 作業療法学全書　4　作業治療学 1　身体障害　日本作業療法士会　共同医書出版
7. クリニカル作業療法シリーズ　身体領域の作業療法　第 2 版　中央法規

研究室／オフィスアワー

研究室 C 棟 7 階 19 号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	身体障害作業療法治療学　各論: 作業療法治療学について学習する	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
2	身体障害作業療法治療学　各論: ハンドセラピィ①	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
3	身体障害作業療法治療学　各論: ハンドセラピィ②	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
4	身体障害作業療法治療学　各論: RA	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
5	身体障害作業療法治療学　各論: 癌	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
6	身体障害作業療法治療学　各論: 脳血管障害	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
7	身体障害作業療法治療学　各論: 頭部外傷	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
8	身体障害作業療法治療学　各論: 神経筋難病	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	全員
9	身体障害作業療法治療学　各論: 呼吸器リハビリテーション	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	藤江
10	身体障害作業療法治療学　各論: 心臓リハビリテーション	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	西垣
11	身体障害作業療法治療学　各論: 腎臓リハビリテーション	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4 時間）	辻

12	身体障害作業療法治療学　各論：摂食嚥下	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4時間）	全員
13	身体障害作業療法治療学　各論 評価と治療①　ＯＳＣＥ・事例検討	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4時間）	全員
14	身体障害作業療法治療学　各論 評価と治療②ＣＶＡ事例	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4時間）	全員
15	身体障害作業療法治療学　各論 評価と治療③ＭＴＤＬＰ事例	予習・復習：シラバスに該当する内容について予習し、授業内容をまとめ確認する（4時間）	全員
成績評価方法と基準			割合
2/3回の出席必要 1.期末テスト<DP①> 2.提出物<DP①> これらを総合的に評価する			1.70% 2.30%

授業科目名	精神障害作業療法治療学各論(作業)（Detailed Occupational Therapy for Mental Disorder）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、小川　泰弘	
科目ナンバリング	SS307	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

各精神科疾患に対する精神科作業療法の治療の実際について学ぶ。各疾患の障害像の概要、その作業療法の目的と課題、回復過程にあった援助、留意点を学ぶ。そして学習したことを事例をとおして、その症例にあった治療法を立案し、実際にロールプレイなどを行いながら疾患ごとに違う治療法について理解を深めていく。

到達目標

1.　各疾患に対する障害像を理解する＜DP①＞
2.　各疾患にあった作業療法の目的と課題を考えることができる＜DP①＞
3.　各疾患にあった評価方法を立案できる＜DP①＞
4.　プログラムを立案できる＜DP①＞
5.　回復過程に応じた作業療法を考えることができる＜DP①＞
6.　作業療法実施上の留意点について述べることができる＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

これまで学習してきたことの集大成となります。自ら考え問題解決行動をとるように授業に参加してください。

教科書

1)『精神障害と作業療法　新版』　山根　寛/三輪書店 ISBN978-4-89590-583-1
2) 作業療法全書　精神障害　冨岡詔子　共同医書出版社 ISBN978-4-7639-2122-2
3) PT/OT 国家試験　必修ポイント　障害別ＯＴ治療学　身体障害領域　発達障害領域　精神障害領域　医歯薬出版編 ISBN978-4-263-21648-4

参考書

1) 作業療法実践のための6つの理論―理論の形成と発展　岩崎テル子監訳　共同医書出版社
2)『国際生活機能分類ICFの理解と活用』　上田敏/萌文社
3) 国際機能分類―国際障害分類改訂版―　ＷＨＯ　中央法規
4) 精神障害作業療法学　長崎重信監修　メディカルビュー社

研究室／オフィスアワー

木曜日2限（10:40~12:10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	精神科作業療法 疾患別アプローチについて 統合失調症に対する作業療法1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	
2	統合失調症に対する作業療法2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	
3	気分障害に対する作業療法1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	
4	気分障害に対する作業療法2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	
5	神経症性障害に対する作業療法1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	
6	神経症性障害に対する作業療法2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	
7	摂食障害、パーソナリティ障害に対する作業療法1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	
8	摂食障害、パーソナリティ障害に対する作業療法2	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習2時間ずつ行う	

9	てんかん、アルコール・薬物依存に対する作業療法 1	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習 2 時間ずつ行う	
10	心理教育・SST・認知行動療法・認知矯正療法について	復習：心理教育・SST・認知行動療法・認知矯正療法の実施について 予習：認知行動療法について ※予習、復習 2 時間ずつ行う	
11	治療者とは 作業療法の基本構造	予習：作業療法の基本構造について 復習：精神科作業療法プロセスについて ※予習、復習 2 時間ずつ行う	
12	症例検討：症例提示(外観、第一印象をまとめる)	復習：精神科作業療法プロセスについて 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習 2 時間ずつ行う	
13	症例検討：治療計画立案まで（一般情報のまとめ）	復習：精神科作業療法の評価法について 予習：教科書にて疾患の勉強をしておく ※予習、復習 2 時間ずつ行う	
14	症例検討：治療計画立案まで（作業療法評価と行動特性の理解 1）	予習：精神科作業療法における ICF について 復習：症例を ICF の視点で理解する ※予習、復習 2 時間ずつ行う	
15	症例検討：治療計画立案まで（作業療法評価と行動特性の理解 2）	予習：統合失調症の行動特性について 復習：症例の問題点と利点の抽出 ※予習、復習 2 時間ずつ行う	
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験＜DP1＞			1.10%

授業科目名	老年期障害作業療法治療学各論(作業)（Detailed Occupational Therapy for Geriatric Disorder）				
主担当教員	由利　禄巳		担当教員	由利　禄巳	
科目ナンバリング	SS308	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

老年期障害作業療法治療学総論で学んだ，老年期障害作業療法の基本的な治療理論を踏まえ，事例検討を通じて臨床への応用力を養う．

到達目標

老年期における作業療法の理解を有機的に深め，老年期の各種疾患に対する作業療法を実践できる．＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. グループ学習が中心となるため，各自が積極的に参加し，積極的に調べ，積極的に意見を述べること．
2. 他の学生に教授するという責任感と自覚を持って取り組むこと．
3. レポート等の提出期限・時間は厳守すること．
4. グループ発表の時間は 20 分+質疑応答 10 分とする．

教科書

1.標準作業療法学専門分野，高齢期作業療法学第 3 版　松房利憲，新井健五 編　医学書院
2.認知症をもつ人への作業療法アプローチ　宮口英樹 監修　メジカルビュー社

参考書

1.小川敬之、竹田徳則、認知症の作業療法 第 2 版、医歯薬出版
2.山口晴保、認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第 3 版、協同医書出版
3.宮永和夫 編、若年認知症ー本人・家族が紡ぐ 7 つの物語ー、中央法規

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階研究室 17／木曜日 1・2・3 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション	3 年前期開講の「老年期障害作業療法治療学総論」で学んだことを，あらかじめ復習しておくこと．（復習 2 時間）	
2	グループワーク＆発表準備	事例をＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔにまとめ，レジュメも作成する．（予習 2 時間）	
3	グループワーク＆発表準備	プレゼンはフリーで実施できるように準備する．（予習 2 時間）	
4	グループ発表＆討議①②	発表を聞いた内容（特に OT の評価～介入計画立案～介入経過）を復習する（復習 2 時間）	
5	グループ発表＆討議③④	発表を聞いた内容（特に OT の評価～介入計画立案～介入経過）を復習する（復習 2 時間）	
6	グループ発表＆討議⑤⑥	発表を聞いた内容（特に OT の評価～介入計画立案～介入経過）を復習する（復習 2 時間）	
7	グループ発表＆討議⑦⑧	発表を聞いた内容（特に OT の評価～介入計画立案～介入経過）を復習する（復習 2 時間）	
8	グループ発表＆討議⑨⑩	発表を聞いた内容（特に OT の評価～介入計画立案～介入経過）を復習する（復習 2 時間）	
成績評価方法と基準			割合
１）授業内発表内容・プレゼン力＜DP①＞ ２）レポート（発表用レジュメ）＜DP①＞			１）70% ２）30%

授業科目名	発達障害作業療法治療学各論(作業)（Detailed Occupational Therapy for Developmental Disability）				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子、金森　幸	
科目ナンバリング	SS309	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

１，２年生で学んだ、健常児の発達や小児の病理を基盤に、疾患をもつ子どもの年齢に応じた作業療法プログラムを作成していく。作業療法を必要とする子どもたちのシナリオを題材に、必要な情報収集や調査を行いながら、評価や治療計画を作成、実際の治療や指導のプログラムを遂行する。

到達目標

発達領域でよく使われる治療手法を理解する。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

具体的な支援技術を学びます。
基本的な学習は前期ですませておいてください。

教科書

イラストでわかる発達障害の作業療法　監修上杉雅之、編集辛島千恵子　医歯薬出版株式会社

参考書

作業療法学ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」Medical View 社

研究室／オフィスアワー

金曜日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、低出生体重児の育児支援	課題：NICU 環境や後方支援の仕組み、障害児の育児環境を知る 関連内容に関しての予習・復習を各１時間ずつ行うこと。	全教員
2	脳性麻痺　痙直型	運動発達の重要性と上肢活動・視覚認知・巧緻協調動作の発達 関連内容に関しての予習・復習を各２時間ずつ行うこと。	全教員
3	脳性麻痺　アテトーゼ型	運動発達の重要性と上肢活動・視覚認知・巧緻協調動作の発達 関連内容に関しての予習・復習を各２時間ずつ行うこと。	全教員
4	重症心身障害児	集団生活での支援・友達関係 関連内容に関しての予習・復習を各２時間ずつ行うこと。	全教員
5	知的障害・ダウン症	言語発達の基盤作りと日常生活指導 関連内容に関しての予習・復習を各２時間ずつ行うこと。	伊藤
6	発達障害（自閉性スペクトラム症）	感覚運動障害を考慮した支援方法、生活における支援 関連内容に関しての予習・復習を各２時間ずつ行うこと。	金森
7	発達障害（注意欠陥多動症、学習障害）	障害特性と学校生活で求められることの関係とその準備 関連内容に関しての予習・復習を各２時間ずつ行うこと。	金森
8	発達障害児の地域生活	地域生活における目標設定・多職種との連携・家族支援 関連内容に関しての予習・復習を各２時間ずつ行うこと。	全教員

成績評価方法と基準	割合
①出席と授業態度＜DP①＞	①20%
②定期試験＜DP①＞	②80%

授業科目名	義肢装具学(作業)（Prosthetics）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、中村　めぐみ	
科目ナンバリング	SS310	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

義肢・装具・補装具における、種類・機能・構造を知り、適応・処方などが理解できるよう学修する。また日常生活活動における機能の代償・代替・補完としての義肢装具療法を知り、QOL の維持拡大について考えることが出来るよう学修する。

到達目標

１．義肢・装具・補装具の基本的な種類・構造・機能について説明できる<DP①④>
２．各義肢・装具の適応について考えることが出来る<DP①④>
３．作業療法における基本的な装具療法を考えることが出来る<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書・参考書・視聴覚教材・配付資料など全ての内容に目を通すこと。
＜授業の進め方＞
１総論・各論は視聴覚教材を導入した一斉講義を行う
２装具制作実習では演習・グループ討議・発表などを行う

教科書

技師装具と作業療法　評価から実践まで　大庭潤平・西村誠次・柴田八衣子編著　医歯薬出版株式会社

参考書

義肢装具のチェックポイント　第８版　監修日本整形外科学会　医学書院
作業療法学全書　改訂第３版　作業療法技術学１　「義肢装具学」　古川宏編集　共同医書出版
リハビリテーション義肢装具学　清水順市・青木主税編集　Medical View
装具学　日本技師装具学会監修　飛松好子・高嶋孝倫編　医歯薬出版株式会社
義肢学　日本義肢装具学会監修　澤村誠志・田澤英二・内田充彦編　医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

研究室Ｃ棟７階19号室,共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション（学修の目的・授業内容について） 義肢装具に関するオリエンテーション	教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
2	義肢装具の歴史と概要 義肢・装具の種類と分類	義肢装具の歴史を知り、総論を学ぶ。視聴覚教材にて理解を深める。教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
3	義肢（義足について）・義足の構造と機能 下肢装具	義足/・下肢装具の構造と機能について学ぶ.教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	河村
4	上肢装具 末梢神経損傷	装具を知り、種類と構造を学ぶ。教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
5	上肢装具（アクティブラーニング・グループワーク①）	教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
6	上肢装具（アクティブラーニング・グループワーク②）	教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
7	義手の構造と機能 義手適応の実際	義手の構造と機能について学ぶ。教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
8	義手（アクティブラーニング・グループワーク①）	教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
9	義手，装具に関する総合学習	教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
10	スプリント作成演習①	熱可塑性樹脂を使ったスプリントの作成について事前学習を行う. 教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
11	装具（上肢装具） スプリント制作演習②	上肢装具 スプリントを作成する 熱可逆性素材使用	小林・中村
12	スプリント制作演習③	上肢装具 スプリントを作成する 熱可逆性素材使用 教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
13	スプリント制作演習④	上肢装具 スプリントを作成する 熱可逆性素材使用 教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
14	グループワーク１ 義手体験演習①	電動義手・体験型義手などを体験する 教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村
15	グループワーク２ 義手体験演習②	電動義手・体験型義手などを体験する 教科書で予習し配布プリント等で復習する（1時間）	小林・中村

成績評価方法と基準	割合
2/3 回以上の出席が必要 1.期末テスト<DP①④> 2.小テスト・レポート・課題提出<DP①④> これらを総合的に評価する	 1.70% 2.30%

授業科目名	作業療法特論Ⅰ(作業)（Advanced Occupational Therapy Ⅰ）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、伊藤　直子、松下　太、橋本　弘子、中村　めぐみ、中西　一、金森　幸、東　泰弘、小川　泰弘、由利　禄巳	
科目ナンバリング	SS311	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

解剖学・生理学・運動学や一般臨床医学などの基礎分野から，基礎作業療法学・作業療法評価学・作業療法治療学・地域作業療法学などの専門分野まで，国家試験の出題範囲の主要な箇所に焦点を当て，体系的かつ網羅的に学修する．

到達目標

臨床において必要な基礎知識と作業療法の実践における考える力を習得する。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業進行において、項目毎の予習・復習が必須となるため、怠らないように注意すること。

教科書

１）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野 基礎医学 2019 電子版・オンラインテスト付
２）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野 臨床医学 2019 電子版・オンラインテスト付
３）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント基礎 OT 学 2019 電子版・オンラインテスト付
４）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント障害別 OT 治療学 2019 電子版・オンラインテスト付

参考書

３年次までの全ての授業で使用した教科書

研究室／オフィスアワー

各教員のオフィスアワーに準ずる．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	解剖生理学Ⅰ（植物機能）	循環器系，消化器系，泌尿器系，呼吸器系，代謝，内分泌系，発生と組織など	
2	解剖生理学Ⅱ（動物機能）	中枢神経，末梢神経，骨格筋，感覚など	
3	運動機能学	骨，関節，体表解剖，上肢，下肢，脊柱，四肢・体幹の筋，神経支配，正常歩行，バイオメカニクス，立位姿勢，運動学習など	
4	人間発達学	小児の反射・反応，小児の運動発達，小児の歩行など	
5	病理学	創傷治癒，組織の病理変化，炎症，感染，腫瘍，病理所見，病因など	
6	内科学	循環器疾患，代謝性疾患，呼吸器疾患，消化器疾患，肝疾患，内分泌疾患，膠原病・自己免疫疾患，慢性腎不全，薬物療法など	
7	整形外科学	骨折，骨髄腫，関節リウマチ，脊椎，変形性関節症，四肢血行障害，末梢神経障害，小児整形外科疾患，脊髄損傷，切断，骨粗鬆症など	
8	神経内科学	脳血管障害，高次脳機能障害，変性疾患，嚥下障害，頭蓋内圧亢進，正常圧水頭症，運動ニューロン疾患，脱髄性疾患，神経筋接合部疾患，筋疾患，複合問題，脳波，髄膜刺激症候など	
9	臨床心理学	防衛機制，心理療法，心理検査，障害受容，学習理論，心理発達など	
10	精神医学	統合失調症，気分（感情）障害，認知症，せん妄，依存症，薬物療法，てんかん，神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害，摂食障害，パーソナリティ障害/種々のパーソナリティ障害，高齢者の精神・心理障害，青年期の精神・心理障害，小児期の精神・心理・発達障害，精神疾患，自殺など	
11	リハビリテーション医学	廃用症候群，高齢者にみられる変化・老年症候群，小児疾患，クリニカルパス，ADL，IADL，個人情報保護法，脳卒中治療ガイドライン，予防医学（一次予防・二次予防・三次予防）など	
12	リハビリテーション概論	国際生活機能分類（ICF），ユニバーサルデザイン，ノーマライゼーション，バリアフリー新法，身体障害者障害程度等級表，介護保険法など	
13	作業療法の基礎	作業療法概要，正常動作分析など	
14	作業療法評価学	運動系感覚系の評価，発達の評価，高次脳機能障害の評価，日常生活活動の評価，作業能力・職業関連活動の評価，日常生活活動・作業能力・職業関連活動の総合評価など	
15	作業療法治療学	基本介入手段，義肢学，装具学，自助具・福祉用具など	
16	地域作業療法学	地域生活支援・家庭生活支援など	
17	障害別治療学（身体障害領域）	骨関節系障害領域，中枢神経系障害領域，神経筋系障害領域，内部障害領域など	
18	障害別治療学（精神障害領域）	精神障害総論，精神科集団作業療法，統合失調症・気分（感情）障害等の精神心理障害領域など	
19	障害別治療学（発達障害領域）	脳性麻痺・Down 症候群・重症心身障害児・二分脊椎等の運動発達障害領域，知的障害・自閉症スペクトラム障害・注意欠如・多動性障害（ADHD）・障害児療育/感覚統合的アプローチ・プレイセラピー等の精神心理発達障害領域など	

成績評価方法と基準	割合
1）授業ごとに提示される課題の進捗状況および担当教員による口頭試問で総合評価する．＜DP①④＞ 2）必要出席回数は「授業回数の５分の４以上」を採用する	課題の進捗状況４割 口頭試問：６割

授業科目名	作業療法特論Ⅱ(作業)（Advanced Occupational Therapy Ⅱ）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、伊藤　直子、松下　太、橋本　弘子、中村　めぐみ、中西　一、金森　幸、東　泰弘、小川　泰弘、由利　禄巳	
科目ナンバリング	SS312	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

作業療法特論Ⅰで学修した，国家試験の出題範囲（基礎分野から専門分野まで）について，国家試験に準じた出題基準・内容・時間で 4 回の模擬試験を実施し，国家試験前の総仕上げを行う．

到達目標

本学で設定している難易度（国家試験に準ずる）の問題を 6 割以上解答できること．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）国家試験の出題形式・内容・時間に準じた模擬試験を 4 回実施する．
２）国家試験に準じるため遅刻は厳禁とする．
３）2 時間 40 分の試験時間で途中退席することなく，試験時間を有効活用する．

教科書

なし

参考書

１）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野 基礎医学 2019 電子版・オンラインテスト付
２）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野 臨床医学 2019 電子版・オンラインテスト付
３）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント基礎 OT 学 2019 電子版・オンラインテスト付
４）医歯薬出版編：理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント障害別 OT 治療学 2019 電子版・オンラインテスト付
５）3 年次までの全ての授業で使用した教科書

研究室／オフィスアワー

各教員のオフィスアワーに準ずる．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	模擬試験１	国家試験の出題基準に準ずる	
	模擬試験２	国家試験の出題基準に準ずる	
	模擬試験３	国家試験の出題基準に準ずる	
	模擬試験４	国家試験の出題基準に準ずる	

成績評価方法と基準	割合
1）4 回の模擬試験において 6 割以上の成績を単位認定する．＜DP①④＞ 2）必要出席回数は「授業回数の 5 分の 4 以上」を採用する	試験 10 割

授業科目名	身体障害作業療法治療学演習(作業)（Occupational Therapy for Physical Disability (Seminar)）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、西垣　孝行、藤江　建朗、辻　義弘、中村　めぐみ、中西　一、東　泰弘	
科目ナンバリング	SS313	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

身体障害領域における作業療法の治療的介入方法を知り、疾患の特性に合わせた治療および支援・技術を学ぶ。治療学として、評価の選択・評価の実施・問題点の抽出・目標設定・治療プログラム立案の経過に合わせ、患者自身の「生活」を支援する技術を学ぶ。

到達目標

1.作業療法的介入を学び、作業療法士の役割を考える<DP①④>
2.疾患別に評価から治療までの経過を説明することができる<DP①④>
3.作業療法で用いられる治療的支援技術について学修する<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．基礎医学の知識の総まとめとして疾患に展開できるよう、解剖学・生理学・運動学など復習しておく
２．作業療法的介入を考えるにあたり、作業遂行や作業科学について復習しておく
３．作業の遂行を考えるにあたり、日常生活活動学について復習しておく
４．総合臨床実習に向けて事例検討を行う

教科書

特に定めない
配布プリント

参考書

１．PT/OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　羊土社
２．リハビリテーションビジュアルブック　学研
３．病気が見える７　脳・神経　MEDIC MEDIA
４．絵で見る脳と神経　しくみと障害のメカニズム第３版　医学書院
５．標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学　第３版
６．作業療法学全書　４　作業治療学１　身体障害　日本作業療法士会　共同医書出版
７．クリニカル作業療法シリーズ　身体領域の作業療法　第２版　中央法規

研究室／オフィスアワー

研究室 C 棟 7 階 19 号室と共同研究室にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体作業療法治療学演習：骨折・外傷	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
2	身体作業療法治療学演習：ハンドセラピィ①	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
3	身体作業療法治療学演習：ハンドセラピィ②	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
4	身体作業療法治療学演習：ＲＡ	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
5	身体作業療法治療学演習：癌	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
6	身体作業療法治療学演習：脳血管障害	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
7	身体作業療法治療学演習：頭部外傷	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
8	身体作業療法治療学演習：神経筋難病①	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
9	身体作業療法治療学演習：神経筋難病②	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
10	身体作業療法治療学演習：内部障がい	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	小林・中村・中西・東
11	身体作業療法治療学演習 呼吸・循環・透析（臨床工学実習室演習）	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1 時間）	藤江・西垣・辻

12	身体作業療法治療学演習 摂食嚥下ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1時間）	小林・中村・中西・東
13	身体作業療法治療学演習 事例①ＯＳＣＥ	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1時間）	小林・中村・中西・東
14	身体作業療法治療学演習 事例②ＣＶＡ	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1時間）	小林・中村・中西・東
15	身体作業療法治療学演習 事例③ＭＴＤＬＰ	予習・復習：演習の準備と振り返り学修を行う（1時間）	小林・中村・中西・東
成績評価方法と基準			割合
4/5回は出席必要 １．期末テスト<DP①④> ２．提出物<DP①④> など総合的に評価する			1.70% 2.30%

授業科目名	精神障害作業療法治療学演習(作業)（Occupational Therapy for Mental Disorder (Seminar)）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、小川　泰弘	
科目ナンバリング	SS314	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

治療は評価が終了してから始まるのではなく、作業療法士と出会ったときから始まっている。その治療をはじめるにあたり、まずは作業療法の特徴である、作業という媒体を多様な場で使用するために論理的に治療条件を整理する方法を学修する。そして治療構造を理解できるようにする。さらに理解を深めるために、様々な症例検討を通して、疾患別に治療目標、プログラム作成、実施計画を立案できるようにし、授業の演習を経て、臨床実習にて実施できるようにする。

到達目標

1.　対象者にあった作業療法の目的と課題を考えることができる＜DP①④＞
2.　評価方法を立案できる＜DP①④＞
3.　理論をベースにした治療法を考えることができる＜DP①④＞
4.　プログラムを立案できる＜DP①④＞
5.　治療実施計画を立案できる＜DP①④＞
6.　論理的な思考に基づいて評価から治療計画までが一貫して立案、実施できるようになる。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

この授業は主に症例検討を行います。臨床的疑問を持ちそれらを明らかにしていく過程を身につけられるように、積極的に授業に参加してください。

教科書

１）『精神障害と作業療法　新版』　山根　寛/三輪書店　ISBN978-4-89590-583-1
２）統合失調症患者の行動特性　その支援とＩＣＦ　昼田源四郎　金剛出版 ISBN978-4-7724-1005-2
３）作業療法全書　精神障害　冨岡詔子　共同医書出版社 ISBN978-4-7639-2122-2

参考書

１）作業療法実践のための６つの理論―理論の形成と発展　岩崎テル子監訳　共同医書出版社
２）『国際生活機能分類 ICF の理解と活用』　上田敏/萌文社
３）国際機能分類―国際障害分類改訂版ー　ＷＨＯ　中央法規
４）精神障害作業療法学　長崎重信監修　メディカルビュー社

研究室／オフィスアワー

木曜日２限（10:40~12:10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	症例検討：治療計画立案①全体像の把握１	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読 症例の特性を考える ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
2	症例検討：治療計画立案ー全体像の把握と問題点、治療目標の設定	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,問題点の抽出 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
3	症例検討：治療計画立案ー全体像の把握と治療計画立案１	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画立案 心身機能を考える ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
4	症例検討：治療計画立案ー全体像の把握と治療計画立案２	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読, 全体像を考え本人の希望、ニーズと照らし合わせる ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
5	症例検討：治療計画立案ー全体像の把握と治療計画立案３	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読, 利点、問題点の抽出 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
6	症例検討：治療計画立案ー全体像の把握と治療計画立案４	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画立案 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
7	特別講義　実際の治療について	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画準備	

		※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
8	症例検討：治療計画立案ー治療計画準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画準備 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
9	症例検討：治療計画立案ー治療計画準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画準備 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
10	症例検討：治療計画実施	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画実施 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
11	症例検討：治療計画実施	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画実施 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
12	症例検討：発表準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読, 治療計画実施について再考 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
13	症例検討：発表準備	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読,治療計画実施について発表準備 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
14	症例検討：症例発表１	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読, 治療計画実施について発表 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
15	症例検討：症例発表２ 振り返り	復習：評価から治療までのプロセスについて 予習：症例の熟読, 治療計画実施について発表 ※予習、復習ともに１時間ずつ行う	
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験（口頭試問）＜DP1＞ 2.発表＜DP1,4＞ 4/5 以上の出席を成績評価対象とする			1.80% 2.20%

授業科目名	老年期障害作業療法治療学演習(作業)（Occupational Therapy for Geriatric Disorder (Seminar)）				
主担当教員	由利　禄巳		担当教員	由利　禄巳	
科目ナンバリング	SS315	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	金曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

老年期障害領域における作業療法の主要な対象疾患である認知症の非薬物療法について再確認し、実際に学外の施設等に出向いて認知症高齢者とのコミュニケーションをはかり、認知症高齢者とのコミュニケーション力を養うとともに、観察力を通じてアセスメントを行い、非薬物療法の理論に基づいた集団療法について、グループごとに企画する。企画した集団療法は、先に出向いた学外の施設等でコミュニケーションをはかり観察をした認知症高齢者を対象に行う。また、集団療法実施後に振り返りを行い、更に作業療法士として認知症高齢者に対する非薬物療法、そして集団療法の担い手となれるよう、その能力を養う.

到達目標

老年期障領域におけるさまざまな問題を理解し，作業療法のより実践的な知識と技術を身につける．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．集団療法をグループごとに企画・実施するため，グループ内でのディスカッションや実践が中心となる．そのため，各自が積極的に取り組むこと
２．単なるレクリェーションにとどまらず，非薬物療法（特に回想法や RO や音楽療法）の理論を取り入れた集団療法を考えること.
２．学外施設での体験が多いため、遅刻等は厳禁である.
３．レポート等の提出期限・時間は厳守すること.

教科書

標準作業療法学専門分野，高齢期作業療法学第３版　松房利憲，新井健五 編　医学書院
認知症をもつ人への作業療法アプローチ　宮口英樹 監修　メジカルビュー社

参考書

1.小川敬之、竹田徳則、認知症の作業療法 第２版、医歯薬出版
2.山口晴保、認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第３版、協同医書出版
3.宮永和夫 編、若年認知症ー本人・家族が紡ぐ７つの物語ー、中央法規

研究室／オフィスアワー

C 棟７階研究室 17／木曜日 1・2・3 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション	あらかじめ，老年期作業療法治療学総論や各論で学修した，認知症の人に対する非薬物療法について復習しておくこと．（予習復習２時間）	
2	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント（観察や会話を中心に）をおこなう.（予習復習２時間）	
3	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント（観察や会話を中心に）をおこなう.（予習復習２時間）	
4	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント（観察や会話を中心に）をおこなう.（予習復習２時間）	
5	学外施設における体験学習	集団療法の対象となる認知症高齢者のアセスメント（観察や会話を中心に）をおこなう.（予習復習２時間）	
6	グループディスカッション（対象者に合わせた集団療法の検討）	課題：集団療法計画書の作成と提出（予習復習２時間）	
7	グループディスカッション（対象者に合わせた集団療法の検討）	課題：集団療法計画書の作成と提出（予習復習２時間）	
8	グループディスカッション（対象者に合わせた集団療法の検討）	課題：集団療法計画書の作成と提出（予習復習２時間）	
9	グループディスカッション（対象者に合わせた集団療法の検討）	課題：集団療法計画書の作成と提出　（予習復習２時間）	
10	学外施設における体験学習（集団療法の実施）	集団療法を実施する上での留意点について予習しておく（予習２時間）	

11	学外施設における体験学習（集団療法の実施）	集団療法を実施する上での留意点について予習しておく（予習 2 時間） 課題：レポート提出	
12	グループディスカッション（集団療法の振り返り；反省会）	集団療法場面の動画を確認しながら振り返りをおこなう.（復習 2 時間） 課題：レポート提出	
13	グループディスカッション（集団療法の振り返り；反省会）	集団療法場面の動画を確認しながら振り返りをおこなう.（復習 2 時間） 課題：レポート提出	
14	認知症高齢者をとりまく様々な課題 1（講義）	認知症高齢者をとりまく様々な課題について予習復習をする（予習復習 2 時間） 課題：レポート提出	
15	認知症高齢者をとりまく様々な課題 2（講義）	認知症高齢者をとりまく様々な課題について予習復習をする（予習復習 2 時間） 課題：レポート提出	
成績評価方法と基準			割合
1)学外施設での集団療法の計画書および実施内容＜DP①④＞ 2)レポート＜DP①④＞ 3)演習科目であるため、必要出席回数は「授業回数の 5 分の 4 以上」を採用する			1)60% 2)40%

授業科目名	発達障害作業療法治療学演習(作業)（Occupational Therapy for Developmental Disability (Seminar)）				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子、金森　幸	
科目ナンバリング	SS316	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

発達領域で必要となる自助具や教材の作成に必要な技術の習得

到達目標

要請にこたえる支援技術の獲得＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

日頃から素材の確保やアイデアの集積を行う
対象者の全体像を把握した支援機器の作成を心掛ける

教科書

「小児リハ評価ガイド　統合と解釈を理解するための道しるべ」　楠本泰士/メジカルビュー社　ISBN　978-4758319485

参考書

子どもの AAC 入門など

研究室／オフィスアワー

金曜日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション・集団活動	ライフステージに応じた発達課題について 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
2	肢体不自由児への介入・実技①	正常発達、姿勢反応、運動学、姿勢分析、座位と上肢機能の関係性 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
3	肢体不自由児への介入・実技②	正常発達、姿勢反応、運動学、姿勢分析、座位と上肢機能の関係性 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
4	肢体不自由児への介入・実技③	姿勢変換と介助方法 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
5	摂食について　介入方法と支援方法	食事姿勢、嚥下機能、食形態、介助技術 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	伊藤
6	感覚運動遊び（運動あそびと感覚）	姿勢反応、感覚について、発達障害児の特性、遊具使用時のリスク管理 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	金森
7	視覚情報・聴覚情報の整備	正常発達、作業分析、小児疾患の知識、道具を用いた治的療介入や支援 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	金森
8	眼球運動・前庭迷路系刺激	ビジョントレーニング 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
9	教材つくり①	正常発達、作業分析、小児疾患の知識、道具を用いた治的療介入や支援、小学校の教科学習 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
10	教材つくり②	正常発達、作業分析、小児疾患の知識、道具を用いた治的療介入や支援、小学校の教科学習 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
11	教材づくり③	正常発達、作業分析、小児疾患の知識、道具を用いた治的療介入や支援 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
12	生活行為向上マネジメントの活用①	生活行為向上マネジメントの理解と活用 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員
13	生活行為向上マネジメントの活用②	生活行為向上マネジメントの理解と活用 予習・復習を合計 1 時間行うこと。	全教員

14	生活行為向上マネジメントの活用③	生活行為向上マネジメントの理解と活用 予習・復習を合計１時間行うこと。	全教員
15	個別オリジナル教材	支援プログラムの実際 予習・復習を合計１時間行うこと。	全教員
成績評価方法と基準			割合
①授業中の取り組み＜DP①④＞ ②作品やレポート、提出物＜DP①④＞ ③プレゼンテーション＜DP①④＞ 4/5 以上の出席が必要			①20% ②20% ③60%

授業科目名	地域作業療法学(作業)（Ocupational Therapy for Communities）				
主担当教員	由利　禄巳		担当教員	由利　禄巳	
科目ナンバリング	SS401	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らすために必要な制度や社会資源を理解した上で，その人が地域生活を営むための基本的な知識・技術について学ぶ．地域作業療法では対象者の作業ニーズを把握し，多職種との協働の中で作業療法の役割を認識し，作業に焦点をあてた支援が重要となる．この授業では個人の機能を全体像として統合し，多職種とどのように協働していけばよいのか，その中で，作業療法理論がどのように実践されるのかについて教授する．さらに，高齢者の介護を要する原因の上位を占める認知症や転倒の予防など介護予防の考え方も教授する．

到達目標

1）地域で，その人が必要とする作業を遂行するために，常に「人」・「作業」・「環境」の３要因で分析する思考を持つ．＜DP①＞
2）地域リハビリテーションの概念を正しく理解し，説明できる．＜DP①＞
3）地域作業療法に関わる法制度・社会資源を正しく理解し，説明できる．＜DP①＞
4）地域作業療法に関わる多職種との連携について理解し，説明できる．＜DP①②＞
5）作業を基盤とした介護予防プログラムを立案することができる．＜DP①②＞
6）地域で用いる作業療法理論を提示し，説明できる．＜DP①②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）積極的に地域リハビリテーション実践者の症例報告を読む．
2）障害福祉領域で活動する作業療法士が執筆した論文や報告書を読む．
3）社会保障制度に関する新聞記事を読む．

教科書

『地域リハビリテーション学　第２版』　重森健太，横井賀津志（編集）／羊土社．

参考書

1）『地域リハビリテーション論　第５版』　大田仁史，下斗米貴子，澤俊二，浜村明徳 ／ 三輪書店
2）『地域作業療法学（標準作業療法学専門分野）』 小川恵子 ／ 医学書院

研究室／オフィスアワー

木曜日２限目（10：40-12：10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	地域リハビリテーションの歴史，対象，法制度，実施施設．	予習：法制度を整理する（2 時間）． 復習：地域リハビリテーションの概念をまとめる（2 時間）．	
2	地域作業療法のプロセス	予習：地域リハビリテーションのプロセスを図示する（2 時間）． 復習:地域作業療法のプロセスを図示する(2 時間)．	
3	地域作業療法のプロセス（評価 1）	予習：地域作業療法において必要な評価を列挙する（2 時間）． 復習：予習で列挙した評価の目的や意義を整理する（2 時間）．	
4	地域作業療法のプロセス（評価 2）	予習：地域作業療法において必要な評価の実施方法をまとめる（2 時間）． 復習：地域作業療法の実践に関する論文を講読する（2 時間）．	
5	地域作業療法のプロセス（評価 3）	予習：地域作業療法において必要な評価の実施方法をまとめる（2 時間）． 復習：地域作業療法の実践に関する論文を講読する（2 時間）．	
6	地域リハビリテーションの実践報告	予習：作業療法理論を復習しておく（2 時間）． 復習:作業療法理論に関する創設を講読する(2 時間)．	
7	地域リハビリテーションの実践報告 地域における集団の利用	予習：作業と集団についてまとめる（2 時間）． 復習：作業療法における集団の利用に関する論	

		文を講読する（2 時間）.	
8	作業療法の理論基盤 作業を基盤とした社会変革 ソーシャルインクルージョン	予習:理論構築のプロセスを図示する(2 時間). 復習：作業が社会に変化をもたらすことが記述されている文献を講読する（2 時間）.	
9	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割	予習：厚生労働省 HP より，地域包括ケアシステムについての情報を入手しておく（2 時間）. 復習：自助，互助，共助，公助について整理する（2 時間）.	
10	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割（1 次予防）	予習：1,2,3 次予防とは何かをまとめる．作業療法士が実践する 1 次予防に関する論文を購読する（2 時間）. 復習：介護予防に関する総説を講読する（2 時間）.	
11	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割（2 次予防）	予習：作業療法士が実践する 2 次予防に関する論文を購読する（2 時間）. 復習：介護予防に関する総説を講読する（2 時間）.	
12	地域ケアシステムにおける作業療法士の役割，施設系作業療法（3 次予防）	予習：地域ケアシステムの概念図を書いて理解し，作業療法の位置づけをまとめる（2 時間）. 復習：作業療法士が実践する施設系サービスに関する論文を講読する（2 時間）.	
13	通所系作業療法（就労支援を含む）	予習:通称系サービスとは何かをまとめる(2 時間). 復習：作業療法士が実践する通所系サービスに関する論文を講読する（2 時間）.	
14	訪問作業療法	予習:訪問作業療法の役割をまとめる(2 時間). 復習:訪問作業療法の流れを図示する(2 時間).	
15	・地域作業療法実習にむけての知識と技術の確認 ・確認試験	復習:作業療法士の地域での役割を整理する(2 時間). 復習：保健・福祉実習に必要な知識と技術を整理する（2 時間）.	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験＜DP①②＞			①100%

授業科目名	生活環境論(作業)（Detailed Living Environment）				
主担当教員	小林 貴代		担当教員	小林 貴代、東 泰弘	
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

作業療法は機能の回復を目指すことはもちろんであるが、障害とともに自身の環境下で生活を営むことへの支援も重要である。福祉用具の選択や活用技術、住宅改修などの生活環境論を学び、その人らしい生活を支援することが作業療法の核であり、専門性である。身体機能・精神心理的機能・社会的背景など生活に必要なすべての要因を広く捉え、作業療法士として、人の行為を支えることについて考え、学修する

到達目標

1.福祉用具について学び、名称や特徴、使用方法など説明できる〈DP①④〉
2.住宅環境について学び、略式平面図など簡易に作成し改造案を考えることができる〈DP①④〉
3.人とモノの総合的な適応を考えることができる〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

作業療法の専門分野である生活環境の調整において、福祉用具や住宅改修を学び、作業療法士としての役割を考えることができるよう、１・２年生で履修した日常生活活動学などの科目の復習を行う。

教科書

テクニカル作業療法シリーズ　「福祉用具・住環境整備の作業療法」　玉垣努・渡辺慎一編集　中央法規

参考書

標準作業療法学専門分野「日常生活活動・社会生活行為学」　浜口豊太編集　医学書院
作業療法学ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰﾃｷｽﾄ「日常生活活動・福祉用具学」木之瀬隆編集　Medical View
福祉住環境コーディネーター検定試験３級公式テキスト　東京商工会議所編
福祉住環境コーディネーター検定試験２級公式テキスト　東京商工会議所編
作業療法ジャーナル増刊号保存版　テクニカルエイド　生活の視点で役立つ選び方・使い方　三輪書店

研究室／オフィスアワー

研究室 C 棟 7 階 19 号室にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	生活環境論　総論	教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
2	福祉用具の概念と種類	福祉用具の種類を知り、名称や特徴などを学ぶ。目的や場面による選定や活用についても学ぶ。教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
3	ADL と疾患（ベッド・床上動作関連）	ベッド・マットレス・体圧測定・ポジショニングなどを学ぶ教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
4	ADL と疾患（移乗移動関連）	杖・歩行器・車いす・クッション・リフト・スリング・ボード・シートなどについて学ぶ教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
5	ADL と疾患（食事関連）	摂食嚥下機能について学び、食事用具などの自助具を学ぶ。教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
6	ADL と疾患（整容・更衣関連）	整容・更衣動作から衣類の工夫や動作分析を行い、自助具などについて学ぶ。教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
7	ADL と疾患（入浴関連）	入浴に関連する、リフトやｽﾘﾝｸﾞ・シャワーチェアーを学び、洗体に関連する自助具についても学ぶ。教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
8	ADL と疾患（排泄関連）	排泄関連用具を学び、おむつなどの装着体験と解除技術を体験する教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東
9	ADL と疾患（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・環境制御装置関連）	コミュニケーション機器を体験し、使用方法を学ぶ教科書の予習と配布物の復習を行う(1 時間)	小林・東

10	住宅環境整備・住宅改修 1	住環境評価を学ぶ(準備を行い資料を作成する 1 時間)	小林・東
11	住宅環境整備・住宅改修 2	簡易略式平面図を学ぶ(準備を行い資料を作成する 1 時間)	小林・東
12	福祉用具プランニングの実際 1	事例 1 (準備を行い資料を作成する 1 時間)	小林・東
13	福祉用具プランニングの実際 2	事例 2(準備を行い資料を作成する 1 時間)	小林・東
14	福祉用具プランニングの実際 3	事例 3(準備を行い資料を作成する 1 時間)	小林・東
15	福祉用具プランニングの実際 4	まとめ(準備を行い資料を作成する 1 時間)	小林・東
成績評価方法と基準			割合
4/5 回の出席が必要 1.期末テスト<DP①④> 2.小テスト、課題、レポートなど<DP①④> これらを総合的に評価する			1.70% 2.30%

授業科目名	障害者地域生活支援論(作業) (Support for Community Life of the Disabled)				
主担当教員	伊藤 直子		担当教員	伊藤 直子	
科目ナンバリング	SS403	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修
授業概要					
子どもや成人障害者の社会参加を支援するために、近隣の社会資源を実際に見学し、そこで働く人たちや利用者にインタビューして、当事者の生活や将来への希望を傾聴する。					
到達目標					
ICF および MTDLP(活行為向上マネジメント) における、活動参加支援に必要な情報収集や環境調整に必要な手続きを学ぶ <DP①②③>					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
自分の家族や近隣の人たちへの洞察を深め、支援技術を高める 自分自身のふるまいや言動にも客観的な視点をもち、作業療法士としてふさわしい行動ができるようにしてください。					
教科書					
特にありません。各自で HP や図書館、フィールドワークで調査します					
参考書					
ケアからエンパワメントへ　北野誠一　ミネルヴァ書房					
研究室／オフィスアワー					
金曜日					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	基本的な考え方と用語の理解/MTDLP 生活行為向上マネジメントの実践のために	予習：教科書・厚生労働省 HP で制度の確認 復習：ワークシートの作成 (1 時間)	
2	日本の制度の現状　障害者総合支援法など	予習：市民として、必要な制度を調べておく 復習：地域情報の調査 (1 時間)	
3	乳幼児を取り巻く環境・母子保健	予習：児童福祉法と改正内容の確認 復習：地域資源の調査 (1 時間)	
4	児童発達支援事業・相談支援	予習:NICU 後方支援と重症児コーディネーター事業 復習:地域周産期母子医療センターの調査(1 時間)	
5	保育所等訪問支援事業	予習：障がい児支援施策 (厚生労働省 HP) 復習：児童発達支援・放課後等デイサービス調査 (1 時間)	
6	放課後等デイサービス	予習：障がい児の就学について(大阪府 HP) 復習：特別支援学校調査 (1 時間)	
7	特別支援教育	予習：インクルーシブ教育 (文部科学省 HP) 復習：教科学習の調査 (1 時間)	
8	いきいき・学童・子ども食堂など	予習：共働き家庭の放課後 復習：子育て支援調査 (1 時間)	
9	入所施設・児童養護施設	予習：虐待や DV、いじめ、医療少年院 復習：児童相談所調査 (1 時間)	
10	自立支援センター・相談支援施設	予習：障がい児の地域生活 復習：障害者相談支援事業所調査 (1 時間)	
11	就労支援施設	予習：自立支援・就労支援の仕組み 復習：就労支援 A 型・B 型調査 (1 時間)	
12	障がい者雇用・ハローワーク	予習：障がい者就労の現実 復習：就労支援施設調査 (1 時間)	
13	特別講演①相談支援	予習：背景を理解する学習 復習：相談支援センター調査 (1 時間)	
14	特別講演②子育て支援	予習：背景を理解する学習 復習：子育て支援センター調査 (1 時間)	

15	特別講演③自立支援	予習：背景を理解する学習 復習：自立支援センター調査（1時間）	
成績評価方法と基準			割合
①提出物・調査ノート<DP①②③> ②調査報告書<DP①②③> ③プレゼンテーション<DP①②③> 4/5以上の出席を必要とする			①20% ②20% ③60%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):小林 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	小林 貴代		担当教員	小林 貴代	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1）研究倫理について理解することができる．<DP①④>
2）科学的・論理的に自分の意見を表現する．．<DP①④>
3）作業療法研究の必要性と意義を説明できる．．<DP①④>
4）研究計画書を作成できる．．<DP①④>
5）予備実験ができる．．<DP①④>
6）結果を分析し，解釈することができる．．<DP①④>
7）卒業論文作成の準備ができる．．<DP①④>
8）プレゼンテーションができる．．<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく．

教科書

指定する教科書はなし．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に通知する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む．(予習・復習・研究作業として4時間)	
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる．．(予習・復習・研究作業として4時間)	
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる．．(予習・復習・研究作業として4時間)	
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する．．(予習・復習・研究作業として4時間)	
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする．．(予習・復習・研究作業として4時間)	
6	テーマの焦点化	テーマを絞る．．(予習・復習・研究作業として4時間)	
7	研究計画作成1（対象と方法）	研究計画書の推敲．(予習・復習・研究作業として4時間)	
8	研究計画作成2（解析方法）	研究計画書の推敲．(予習・復習・研究作業として4時間)	
9	研究計画作成3	研究計画書の推敲．(予習・復習・研究作業として4時間)	
10	研究計画発表会1	研究計画をプレゼンするための準備．．(予習・復習・研究作業として4時間)	
11	研究計画発表会2	研究計画をプレゼンするための準備．．(予習・復習・研究作業として4時間)	

12	研究計画の再検討	研究計画書を見直し修正する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
13	プレ調査	方法に準じ，パイロット調査を実施する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
14	プレ調査 2	方法に準じ，パイロット調査を実施する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
15	プレ調査 3	方法に準じ，パイロット調査を実施する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
16	プレ調査の結果と解釈 研究実施 1	パイロット調査の結果をまとめ，考察する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成す.（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成す.（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成す.（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
30	結果に対する考察	先行文献を整理する..（予習・復習・研究作業として 4 時間）	
成績評価方法と基準			割合
1 研究計画書の作成．<DP①④> 2 パイロット調査の発表．<DP①④> 4/5 以上の出席を必要とする			1．60% 2．40%

授業科目名	卒業研究 I（作業）:横井 （Graduation Research I）				
主担当教員	横井 賀津志		担当教員	横井 賀津志	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期（金曜 5 限）、後期（金曜 5 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要である．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，リサーチクエッションの立て方，研究方法調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などである．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1）研究倫理について理解することができる．<DP①>
2）科学的・論理的に自分の意見を表現する．<DP①④>
3）作業療法研究の必要性と意義を説明できる．<DP①④>
4）研究疑問を明確にすることができる．<DP①④>
5）研究計画書を作成できる．<DP①④>
6）予備実験ができる．<DP①④>
7）結果を分析し，解釈することができる．<DP①④>
8）卒業論文作成の準備ができる．<DP①④>
9）研究計画および研究中間報告のプレゼンテーションができる．<DP①④>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく．

教科書

指定する教科書はなし．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．文献複写が必要な場合はゼミ担当教員に申し出ること．

研究室／オフィスアワー

木曜日 2 限目（10：40-12：10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法研究とは	予習：雑誌「作業療法」の原著論文を講読する（2 時間）． 復習：予習で講読した論文をまとめる（2 時間）．	横井
2	量的研究とは	予習：雑誌「作業療法」の量的研究に関する原著論文を講読する（2 時間）． 復習：量的研究法をまとめる（2 時間）	横井
3	質的研究とは	予習：雑誌「作業療法」の質的研究に関する原著論文を講読する（2 時間）． 復習：質的研究の方法をまとめる（2 時間）．	横井
4	文献検索	予習：テーマに関連する文献を検索する（2 時間）．復習：関心のあるテーマで，雑誌「作業療法」の原著論文を講読する（2 時間）．	横井
5	文献レビュー	予習：検索した文献をレビューする（2 時間）． 復習：レビュー表の作成を試みる（2 時間）．	横井
6	研究疑問 テーマの焦点化	予習：テーマを絞る（2 時間）． 復習：テーマをキーワードに論文を再検索する（2 時間）．	横井
7	研究計画作成 1（対象と方法）	予習・復習：研究計画書の推敲（4 時間）	横井
8	研究計画作成 2（解析方法）	予習・復習：研究計画書の推敲（4 時間）．	横井
9	研究計画作成 3	予習・復習：研究計画書の推敲（4 時間）．	横井

10	研究計画発表会 1	予習・復習：研究計画をプレゼンするための準備（4 時間）.	横井
11	研究計画発表会 2	予習・復習：研究計画をプレゼンするための準備（4 時間）.	横井
12	研究計画の再検討	予習・復習：研究計画書を見直し修正する（4 時間）.	横井
13	プレ調査 1	予習・復習：研究計画の方法に準じ，パイロット調査を実施する（4 時間）.	横井
14	プレ調査 2	予習・復習：研究計画の方法に準じ，パイロット調査を実施する（4 時間）.	横井
15	プレ調査 3	予習・復習：研究計画の方法に準じ，パイロット調査を実施する（4 時間）.	横井
16	プレ調査の結果と解釈	予習・復習：パイロット調査の結果をまとめ，考察する（4 時間）.	横井
17	研究実施 1	予習・復習：研究実施ノートを作成する（4 時間）. 実験ノートは配布します.	横井
18	研究実施 2	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（4 時間）.	横井
19	研究実施 3	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（4 時間）.	横井
20	研究実施 4	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（4 時間）.	横井
21	研究実施 5	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（4 時間）.	横井
22	データの分析 1	予習・復習：分析した量的・質的データを解釈するための論文を講読する（4 時間）.	横井
23	データの分析 2	予習・復習：分析した量的・質的データを解釈するための論文を講読する（4 時間）.	横井
24	データの分析 3	予習・復習：分析した量的・質的データを解釈するための論文を講読する（4 時間）.	横井
25	研究進捗中間発表 1	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（4 時間）.	横井
26	研究進捗中間発表 2	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（4 時間）.	横井
27	研究進捗中間発表 3	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（4 時間）.	横井
28	研究進捗中間発表 4	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（4 時間）.	横井
29	研究進捗中間発表 5	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（4 時間）.	横井
30	中間発表の振り返り	予習・復習：先行文献を整理する．レビュー表への追加（4 時間）.	横井
成績評価方法と基準			割合
4/5 以上の出席が必要です. ①研究計画書の作成．＜DP①④＞ ②中間発表：成績評価基準についてはルーブリックを提示します．＜DP①④＞			①60% ②40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):伊藤 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	伊藤 直子		担当教員	伊藤 直子	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

発達領域に関わる研究方法の学習
地域でのナラティブや参与観察による質的研究を支援します。

到達目標

研究倫理について理解することができる<DP①>
ナラティブや参与観察といった質的研究法を学びながら、対象となる子どもや成人、地域、作業療法への理解を深める<①④>
作業科学研究を知る<DP①>
自分の研究課題を見つける<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

情報収集、文献調査、研究データの収集を積極的に行う
自分が主体的に取り組める課題を見つけよう

教科書

よくわかる質的研究の進め方・まとめ方　グレッグ美鈴他編著　医歯薬出版株式会社

参考書

子どものエスノグラフィー入門　柴山真琴　新曜社
ソーシャルワーク・リサーチの方法　志村健一著　相川書房

研究室／オフィスアワー

火曜日 16:20～

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	全体のプログラムに準じる	予習：研究法の学習。教科書通読(P.1-53)(1 時間) 復習：自分の関心のあるテーマについて著書や文献を探す(1 時間)	
2	全体のプログラムに準じる	予習:研究法の確認。教科書通読(P.54-72)(1 時間) 復習：質的記述的研究(1 時間)	
3	全体のプログラムに準じる	予習：研究法の確認。教科書通読(P.73-105)(1 時間) 復習：フィールドノートの作成(1 時間)	
4	発達領域で見られる研究の概覧・文献収集	予習：文献検索。教科書通読(P.107-158)(1 時間) 復習：関連論文の収集(1 時間)	
5	関連文献の検索	予習：文献レビューのしかた。教科書通読(P.159-169)(1 時間) 復習：関連文献の収集とレビュー(1 時間)	
6	関連文献の検索	予習：関連文献の検索(1 時間) 復習：文献レビュー(1 時間)	
7	研究テーマの検討	予習：関連文献・研究法の検討(1 時間) 復習：研究テーマの決定と文献の整理(1 時間)	
8	研究計画書の作成	予習：研究方法の確認(1 時間) 復習：研究計画書の作成(1 時間)	
9	研究計画書の作成	予習：研究方法の確認(1 時間) 復習：研究計画書の作成(1 時間)	
10	倫理申請書の作成	予習：倫理審査ガイドライン等の確認(1 時間) 復習：倫理申請書の作成(1 時間)	
11	研究実施	予習：結果の考察(1 時間) 復習：論文の作成(1 時間)	

12	研究実施	予習：結果の考察(1 時間) 復習：論文の作成(1 時間)	
13	研究実施	予習：結果の考察(1 時間) 復習：論文の作成(1 時間)	
14	研究結果・論文作成	予習：研究計画書の作成(1 時間) 復習：チェックを受けた内容の修正(1 時間)	
15	論文作成	予習：修正と仕上げ(1 時間) 復習：発表準備(1 時間)	
成績評価方法と基準			割合
卒業論文審査 ＜DP①④＞ 4/5 以上の出席を必要とする			100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):松下 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	松下 太		担当教員	松下 太	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1）研究倫理について理解することができる．＜DP①④＞
2）科学的・論理的に自分の意見を表現する．＜DP①④＞
3）作業療法研究の必要性と意義を説明できる．＜DP①④＞
4）研究計画書を作成できる．＜DP①④＞
5）予備実験ができる．＜DP①④＞
6）結果を分析し，解釈することができる．＜DP①④＞
7）卒業論文作成の準備ができる．＜DP①④＞
8）プレゼンテーションができる．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておくこと．
２）図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」などの原著論文や総説を積極的に読んでおくこと．
３）常に，指導教員には研究の進捗状況の報告・連絡・相談をしながら，指導教員とよく話し合って研究活動を進めること．
４）期日や時間は必ず守ること．

教科書

特に指定する教科書はなし．ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な資料は指導教員から提示する．

参考書

特に指定する参考書はなし．ゼミ活動の進捗に応じて適宜必要な参考書，論文，資料等は指導教員から提示する．

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階研究室 17／木曜日 1・2・3 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む．(予習復習に 2 時間)	
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる．(予習復習に 2 時間)	
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる．(予習復習に 2 時間)	
4	文献検索 1	研究疑問からキーワードの検討，キーワードに関連する文献を検索する．(予習復習に 2 時間)	
5	文献検索 2	疑問に関する文献を検索する（予習復習に 2 時間）	
6	文献レビューの作成 1	文献レビューを作成する．(予習復習に 2 時間)	
7	文献レビューの作成 2	文献レビューを作成する．(予習復習に 2 時間)	
8	文献レビューの発表	文献レビューを発表しテーマを絞る．(予習復習に 2 時間)	
9	研究計画作成 1（テーマの焦点化）	研究計画書の推敲（予習復習に 2 時間）	
10	研究計画作成 2（対象と方法）	研究計画書の推敲（予習復習に 2 時間）	

11	研究計画作成 3（解析方法，その他）	研究計画書の推敲（予習復習に 2 時間）	
12	研究計画の発表 1	研究計画をプレゼンするための準備．（予習復習に 2 時間）	
13	研究計画の発表 2	研究計画をプレゼンするための準備（予習復習に 2 時間）	
14	研究計画確定，研究環境の整備，対象の確保	研究計画を確定させて，研究環境を整備し，対象者を選定・依頼する．対象者には同意書を得る．（予習復習に 2 時間）	
15	プレ実験 1	計画に準じプレ実験を実施する．同時に，倫理委員会への申請準備を進める．(予習復習に 2 時間）	
16	プレ実験 2	計画に準じ，プレ実験を実施する．同時に，倫理委員会への申請を行なう．（予習復習に 2 時間）	
17	プレ実験の結果の解釈と研究計画の微調整	プレ実験の結果に基づき，研究計画を微調整する．（予習復習に 2 時間）	
18	データ収集	研究実施ノートを作成する．（復習に 2 時間）	
19	データ収集	研究実施ノートを作成する．（復習に 2 時間）	
20	データ収集	研究実施ノートを作成する．（復習に 2 時間）	
21	データ収集	研究実施ノートを作成する．（復習に 2 時間）	
22	データ収集	研究実施ノートを作成する．（復習に 2 時間）	
23	データの分析 1	解析ソフトで統計処理を行なう．(予習復習に 2 時間）	
24	データの分析 2	統計処理したデータを解釈する．(予習復習に 2 時間）	
25	データの分析 3	統計処理したデータを解釈する．(予習復習に 2 時間）	
26	研究進捗中間発表 1	PowerPoint を用いた発表の準備（予習に 2 時間）	
27	研究進捗中間発表 2	PowerPoint を用いた発表の準備（予習に 2 時間）	
28	研究進捗中間発表 3	PowerPoint を用いた発表の準備（予習に 2 時間）	
29	研究進捗中間発表 4	PowerPoint を用いた発表の準備（予習に 2 時間）	
30	結果に対する考察	先行文献を整理する．（復習に 2 時間）	
成績評価方法と基準			割合
1）研究計画書の作成＜DP①④＞ 2）プレ実験の発表＜DP①④＞ 3）単位認定のための必要出席時間数は「5 分の 4 以上」とする			1）60% 2）40%

授業科目名	卒業研究 I（作業）:橋本 （Graduation Research I）				
主担当教員	橋本 弘子		担当教員	橋本 弘子	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 5 限）、後期（金曜 5 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1）研究倫理について理解することができる．＜DP①④＞
2）科学的・論理的に自分の意見を表現する．＜DP①④＞
3）作業療法研究の必要性と意義を説明できる．＜DP①④＞
4）研究計画書を作成できる．＜DP①④＞
5）予備実験ができる．＜DP①④＞
6）結果を分析し，解釈することができる．＜DP①④＞
7）卒業論文作成の準備ができる．＜DP①④＞
8）プレゼンテーションができる．＜DP①④＞

履修上の注意（学生へのメッセージ）

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく．

教科書

研究の育て方　ゴールとプロセスの「見える化」・医学書院・近藤克則
ISBN978-4-260-03674-0

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．

研究室／オフィスアワー

木曜日（10：40～12：10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法研究とは	課題：雑誌「作業療法」の原著論文を読む．(1 時間)	
2	量的研究とは	課題：量的研究の方法をまとめる．(1 時間)	
3	質的研究とは	課題：質的研究の方法をまとめる．(1 時間)	
4	文献検索	課題：テーマに関連する文献を検索しまとめる．(1 時間)	
5	文献レビュー	課題：検索した文献をレビューする　(1 時間)	
6	テーマの焦点化	課題：テーマを絞る（1 時間）	
7	研究計画作成 1（対象と方法）	課題：研究計画書の推敲（1 時間）	
8	研究計画作成 2（解析方法）	課題：研究計画書の推敲（1 時間）	
9	研究計画作成 3	課題：研究計画書の推敲（1 時間）	
10	研究計画発表会 1	課題:研究計画をプレゼンするための準備(1 時間）	
11	研究計画発表会 2	課題:研究計画をプレゼンするための準備(1 時間）	

12	研究計画の再検討	課題：研究計画書を見直し修正する（1 時間）	
13	プレ調査 1	課題：方法に準じ，パイロット調査を実施する（1 時間）	
14	プレ調査 2	課題：方法に準じ，パイロット調査を実施する（1 時間）	
15	プレ調査 3	課題：方法に準じ，パイロット調査を実施する（1 時間）	
16	プレ調査の結果と解釈	課題：パイロット調査の結果をまとめ，考察する（1 時間）	
17	研究実施 1	課題：研究実施ノートを作成する（1 時間）	
18	研究実施 2	課題：研究実施ノートを作成する（1 時間）	
19	研究実施 3	課題：研究実施ノートを作成する（1 時間）	
20	研究実施 4	課題：研究実施ノートを作成する（1 時間）	
21	研究実施 5	課題：研究実施ノートを作成する（1 時間）	
22	データの分析 1	課題：分析したデータを解釈する（1 時間）	
23	データの分析 2	課題：分析したデータを解釈する（1 時間）	
24	データの分析 3	課題：分析したデータを解釈する（1 時間）	
25	研究進捗中間発表 1	課題：分析したデータを解釈する（1 時間）	
26	研究進捗中間発表 2	課題:パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）	
27	研究進捗中間発表 3	課題:パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）	
28	研究進捗中間発表 4	課題:パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）	
29	研究進捗中間発表 5	課題:パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）	
30	結果に対する考察	課題：先行文献を整理するとともに目的を明確にする（1 時間）	

成績評価方法と基準	割合
1.研究計画書の作成＜DP①④＞ 2.パイロット調査の発表＜DP①④＞ 4/5 以上の出席を必要とする	1.60% 2.40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):中村 （Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	中村 めぐみ		担当教員	中村 めぐみ	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1）研究倫理について理解することができる．
2）科学的・論理的に自分の意見を表現する．
3）作業療法研究の必要性と意義を説明できる．
4）研究計画書を作成できる．
5）予備実験ができる．
6）結果を分析し，解釈することができる．
7）卒業論文作成の準備ができる．
8）プレゼンテーションができる．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく．

教科書

指定する教科書はなし．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．

研究室／オフィスアワー

月曜 1，2 限
木曜 1，2 限
金曜 4，5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
6	テーマの焦点化	テーマを絞る． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
7	研究計画作成 1（対象と方法）	研究計画書の推敲 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
8	研究計画作成 2（解析方法）	研究計画書の推敲 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備． 予習復習を含め 1 時間自己学習をすること．	

12	研究計画の再検討	研究計画書を見直し修正する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
13	プレ調査 1	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
14	プレ調査 2	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
15	プレ調査 3	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
16	プレ調査 4	パイロット調査の結果をまとめ，考察する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
30	結果に対する考察	先行文献を整理する. 予習復習を含め1時間自己学習をすること.	
成績評価方法と基準			割合
単位認定のための必要出席時間数は「5分の4以上」とする ①研究計画書の作成（60%） ②パイロット調査の発表（40%）			①60% ②40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):中西 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	中西 一		担当教員	中西 一	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1) 研究倫理について理解することができる．＜DP①④＞
2) 科学的・論理的に自分の意見を表現する．＜DP①④＞
3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる．＜DP①④＞
4) 研究計画書を作成できる．＜DP①④＞
5) 予備実験ができる．＜DP①④＞
6) 結果を分析し，解釈することができる．＜DP①④＞
7) 卒業論文作成の準備ができる．　＜DP①④＞
8) プレゼンテーションができる．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく．

教科書

指定する教科書はなし．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階共同研究室/月曜火曜 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む. 予習復習時間は 60 分	中西
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる. 予習復習時間は 60 分.	中西
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる. 予習復習時間は 60 分.	中西
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する. 予習復習時間は 60 分.	中西
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする. 予習復習時間は 60 分.	中西
6	テーマの焦点化	テーマを絞る. 予習復習時間は 60 分.	中西
7	研究計画作成 1（対象と方法）	研究計画書の推敲. 予習復習時間は 60 分.	中西
8	研究計画作成 2（解析方法）	研究計画書の推敲 予習復習時間は 60 分.	中西
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲 予習復習時間は 60 分.	中西
10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備. 予習復習時間は 60 分.	中西
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備. 予習復習時間は 60 分.	中西

12	研究計画の再検討	研究計画書を見直し修正する. 予習復習時間は 60 分.	中西
13	プレ調査 1	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習復習時間は 60 分.	中西
14	プレ調査 2	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習復習時間は 60 分.	中西
15	プレ調査 3	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習復習時間は 60 分.	中西
16	プレ調査の結果と解釈	パイロット調査の結果をまとめ，考察する. 予習復習時間は 60 分.	中西
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する. 予習復習時間は 60 分.	中西
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する. 予習復習時間は 60 分.	中西
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する. 予習復習時間は 60 分.	中西
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する. 予習復習時間は 60 分.	中西
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する. 予習復習時間は 60 分.	中西
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する. 予習復習時間は 60 分.	中西
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する. 予習復習時間は 60 分.	中西
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する. 予習復習時間は 60 分.	中西
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習時間は 60 分.	中西
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習時間は 60 分.	中西
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習時間は 60 分.	中西
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習時間は 60 分.	中西
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習復習時間は 60 分.	中西
30	結果に対する考察	先行文献を整理する. 予習復習時間は 60 分.	中西
成績評価方法と基準			割合
1)研究計画書の作成 2)パイロット調査の発表 単位認定のための必要出席時間数は「5 分の 4 以上」とする DP①④			1)60% 2)40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):金森 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	金森 幸		担当教員	金森 幸	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1) 研究倫理について理解することができる．＜DP①④＞
2) 科学的・論理的に自分の意見を表現する．＜DP①④＞
3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる．＜DP①④＞
4) 研究計画書を作成できる．＜DP①④＞
5) 予備実験ができる．＜DP①④＞
6) 結果を分析し，解釈することができる．＜DP①④＞
7) 卒業論文作成の準備ができる．＜DP①④＞
8) 研究計画および研究中間報告のプレゼンテーションができる．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく．

教科書

指定する教科書はなし．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む. 予習・復習として、関心のある論文や関連する情報収集を 1 時間行うこと。	
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる. 予習・復習として、関心のある論文や関連する情報収集を 1 時間行うこと。	
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる. 予習・復習として、関心のある論文や関連する情報収集を 1 時間行うこと。	
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する. 予習・復習として、関心のある論文や関連する情報収集を 1 時間行うこと。	
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする. 予習・復習として、関心のある論文や関連する情報収集を 1 時間行うこと。	
6	テーマの焦点化	テーマを絞る. 予習･復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
7	研究計画作成 1（対象と方法）	研究計画書の推敲 予習･復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
8	研究計画作成 2（解析方法）	研究計画書の推敲 予習･復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲 予習･復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	

10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
12	研究計画の再検討	研究計画書を見直し修正する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
13	プレ調査 1	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
14	プレ調査 2	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
15	プレ調査 3	方法に準じ，パイロット調査を実施する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
16	プレ調査の結果と解釈	パイロット調査の結果をまとめ，考察する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
25	研究進捗中間発表 1	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	
30	結果に対する考察	先行文献を整理する. 予習・復習として、自己学習を 1 時間行うこと。	

成績評価方法と基準	割合
出席基準：4/5 以上. ①研究計画書の作成＜DP①④＞ ②パイロット調査の発表＜DP①④＞	①60% ②40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):小川 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	小川 泰弘		担当教員	小川 泰弘	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1) 研究倫理について理解することができる．＜DP①④＞
2) 科学的・論理的に自分の意見を表現する．＜DP①④＞
3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる．＜DP①④＞
4) 研究計画書を作成できる．＜DP①④＞
5) 予備実験ができる．＜DP①④＞
6) 結果を分析し，解釈することができる．＜DP①④＞
7) 卒業論文作成の準備ができる．＜DP①④＞
8) プレゼンテーションができる．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく

教科書

指定する教科書はなし.

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します.

研究室／オフィスアワー

火曜日（10：40～12：10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業療法研究とは	雑誌「作業療法」の原著論文を読む．(1 時間)	
2	量的研究とは	量的研究の方法をまとめる． (1 時間)	
3	質的研究とは	質的研究の方法をまとめる．(1 時間)	
4	文献検索	テーマに関連する文献を検索する．(1 時間)	
5	文献レビュー	検索した文献をレビューする．(1 時間)	
6	テーマの焦点化	テーマを絞る(1 時間)	
7	研究計画作成 1（対象と方法）	研究計画書の推敲(1 時間)	
8	研究計画作成 2（解析方法）	研究計画書の推敲(1 時間)	
9	研究計画作成 3	研究計画書の推敲(1 時間)	
10	研究計画発表会 1	研究計画をプレゼンするための準備．(1 時間)	
11	研究計画発表会 2	研究計画をプレゼンするための準備．(1 時間)	
12	研究計画の再検討	研究計画書を見直し修正する．(1 時間)	

13	プレ調査 1	方法に準じ，パイロット調査を実施する．(1 時間)	
14	プレ調査 2	方法に準じ，パイロット調査を実施する．(1 時間)	
15	プレ調査 3	方法に準じ，パイロット調査を実施する．(1 時間)	
16	プレ調査の結果と解釈	パイロット調査の結果をまとめ，考察する．(1 時間)	
17	研究実施 1	研究実施ノートを作成する．(1 時間)	
18	研究実施 2	研究実施ノートを作成する．(1 時間)	
19	研究実施 3	研究実施ノートを作成する．(1 時間)	
20	研究実施 4	研究実施ノートを作成する．(1 時間)	
21	研究実施 5	研究実施ノートを作成する．(1 時間)	
22	データの分析 1	分析したデータを解釈する．(1 時間)	
23	データの分析 2	分析したデータを解釈する．(1 時間)	
24	データの分析 3	分析したデータを解釈する．(1 時間)	
25	研究進捗中間発表 1	分析したデータを解釈する．　(1 時間)	
26	研究進捗中間発表 2	パワーポイントを用いた発表の準備．　(1 時間)	
27	研究進捗中間発表 3	パワーポイントを用いた発表の準備．(1 時間)	
28	研究進捗中間発表 4	パワーポイントを用いた発表の準備．(1 時間)	
29	研究進捗中間発表 5	パワーポイントを用いた発表の準備．(1 時間)	
30	結果に対する考察	先行文献を整理する．　(1 時間)	
成績評価方法と基準			割合
1.研究計画書の作成＜DP①④＞ 2.パイロット調査の発表＜DP①④＞ 4/5 以上の出席を必要とする			1.60% 2.40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(作業):東（Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	東　泰弘		担当教員	東　泰弘	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．具体的な内容はテーマの見つけ方，文献検索および文献抄読の方法，調査・実験の実施方法，研究計画書作成，研究論文の基本的な構成，研究発表の方法などを教授する．さらに，卒業論文作成に向けての準備も指導する．

到達目標

1）研究倫理について理解することができる．
2）科学的・論理的に自分の意見を表現する．
3）作業療法研究の必要性と意義を説明できる．
4）研究計画書を作成できる．
5）予備実験ができる．
6）結果を分析し，解釈することができる．
7）卒業論文作成の準備ができる．
8）プレゼンテーションができる．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，関心のあるテーマを幾つか提示できるように準備しておく．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の原著論文や総説を積極的に読んでおく．

教科書

指定する教科書はなし．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．

研究室／オフィスアワー

共同研究室/金曜 4 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法研究とは	予習：雑誌「作業療法」の原著論文を読む． 復習：予習で読んだ論文をまとめる． 予習・復習を合わせて 1 時間．	東　泰弘
2	量的研究とは	予習：雑誌「作業療法」の量的研究に関する原著論文を読む． 復習：量的研究法の方法をまとめる． 予習・復習を合わせて 1 時間．	東　泰弘
3	質的研究とは	予習：雑誌「作業療法」の質的研究に関する原著論文を読む． 復習：質的研究法の方法をまとめる． 予習・復習を合わせて 1 時間．	東　泰弘
4	文献検索	予習：テーマに関連する文献を検索する． 復習：関心のあるテーマで、雑誌「作業療法」の原著論文を読む． 予習・復習を合わせて 1 時間．	東　泰弘
5	文献レビュー	予習：検索した文献をレビューする． 復習：レビュー表の作成を試みる． 予習・復習を合わせて 1 時間．	東　泰弘
6	テーマの焦点化	予習：テーマを絞る． 復習：テーマをキーワードに論文を再検索する． 予習・復習を合わせて 1 時間．	東　泰弘
7	研究計画作成 1（対象と方法）	予習・復習：研究計画書の推敲． 予習・復習を合わせて 1 時間．	東　泰弘

8	研究計画作成 2（解析方法）	予習・復習：研究計画書の推敲（1 時間）.	東　泰弘
9	研究計画作成 3	予習・復習：研究計画書の推敲（1 時間）.	東　泰弘
10	研究計画発表会 1	予習・復習：研究計画をプレゼンするための準備（1 時間）.	東　泰弘
11	研究計画発表会 2	予習・復習：研究計画をプレゼンするための準備（1 時間）.	東　泰弘
12	研究計画の再検討	予習・復習：研究計画書を見直し修正する（1 時間）.	東　泰弘
13	プレ調査 1	予習・復習：研究計画の方法に準じ、パイロット調査を実施する（1 時間）.	東　泰弘
14	プレ調査 2	予習・復習：研究計画の方法に準じ、パイロット調査を実施する（1 時間）.	東　泰弘
15	プレ調査 3	予習・復習：研究計画の方法に準じ、パイロット調査を実施する（1 時間）.	東　泰弘
16	プレ調査の結果と解釈	予習・復習：パイロット調査の結果をまとめ、考察する（1 時間）.	東　泰弘
17	研究実施 1	予習・復習：研究実施ノートを作成する（1 時間）. 実験ノートは配布します.	東　泰弘
18	研究実施 2	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（1 時間）.	東　泰弘
19	研究実施 3	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（1 時間）.	東　泰弘
20	研究実施 4	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（1 時間）.	東　泰弘
21	研究実施 5	予習・復習：研究実施ノートに経過を追記する（1 時間）.	東　泰弘
22	データの分析 1	予習・復習：分析した量的・質的データを解釈するための論文を読む（1 時間）.	東　泰弘
23	データの分析 2	予習・復習：分析した量的・質的データを解釈するための論文を読む（1 時間）.	東　泰弘
24	データの分析 3	予習・復習：分析した量的・質的データを解釈するための論文を読む（1 時間）.	東　泰弘
25	研究進捗中間発表 1	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）.	東　泰弘
26	研究進捗中間発表 2	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）.	東　泰弘
27	研究進捗中間発表 3	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）.	東　泰弘
28	研究進捗中間発表 4	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）.	東　泰弘
29	研究進捗中間発表 5	予習・復習：パワーポイントを用いた発表の準備（1 時間）.	東　泰弘
30	結果に対する考察	予習・復習：先行文献を整理する. レビュー表への追加（1 時間）.	東　泰弘
成績評価方法と基準			割合
4/5 以上の出席が必要です. ①研究計画書の作成＜DP①④＞ ②中間発表：成績評価基準についてはルーブリックを提示します＜DP①④＞			①60% ②40%

授業科目名	卒業研究Ⅱ（身体障害）（作業）（Graduation Research Ⅱ (Physical Disability)）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、中村　めぐみ、中西　一、東　泰弘	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（月曜 1 限）、後期（月曜 1 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

「運動学」,「日常生活活動学」,「身体障害作業療法学」等で学んだ動作分析，ＡＤＬ，身体障害領域の知識や技術，病院，施設，在宅における課題を中心に，担当教員の指導の下に研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する．研究テーマに基づき，リサーチクエッションを明確にし，研究計画を作成し，実験等によるデータの収集と分析，結果の考察というプロセスを修得する．その総括として，地域作業療法分野の論文完成を目指す.

到達目標

1. 研究テーマに関する先行研究について検索・入手・通読し，それらの詳細を理解している．〈DP①④〉
2. 自分の計画した研究のオリジナリティと限界を説明することができる.．〈DP①④〉
3. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる.．〈DP①④〉
4. 研究プロトコールを作成できる.．〈DP①④〉
5. 予備的研究結果を踏まえ，実験することができる.．〈DP①④〉
6. 実験結果を解釈し，考察することができる.．〈DP①④〉
7. 研究成果を論文にすることができ，抄録ならびにパワーポイントを用いて発表できる.．〈DP①④〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

自身の研究テーマに関連する論文を講読し，文献レビューを作成する.

教科書

指定する教科書はなし.

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します.

研究室／オフィスアワー

月曜日 5 限目（16：20-17：50）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの確立 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：（4 時間）先行研究をレビューし，まとめておく.	小林 中村 中西 東
2	リサーチクエッションの明確化 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：（4 時間）先行研究をレビューし，まとめておく.	小林 中村 中西 東
3	プロトコールの見直しと確立 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：（4 時間）先行研究をレビューし，まとめておく.	小林 中村 中西 東
4	予備実験① 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：（4 時間）先行研究をレビューし，まとめておく.	小林 中村 中西 東

5	予備実験② 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究 I において，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：(4 時間）先行研究をレビューし，まとめておく．	小林 中村 中西 東
6	予備実験結果の解釈と実験開始準備 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究 I において，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：(4 時間）先行研究をレビューし，まとめておく．	小林 中村 中西 東
7	データ収集①	予習・復習：(4 時間）倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する．	小林 中村 中西 東
8	データ収集②	予習・復習：(4 時間）倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する．	小林 中村 中西 東
9	データ収集③	予習・復習：(4 時間）外れ値を解釈する．	小林 中村 中西 東
10	データ収集④	予習・復習：(4 時間）収集済みデータを入力する．	小林 中村 中西 東
11	データ収集⑤	予習・復習：(4 時間）収集済みデータを入力する．	小林 中村 中西 東
12	論文作成①	予習・復習：(4 時間）結果を分析するための分析手法を整理する．	小林 中村 中西 東
13	論文作成②	予習・復習：(4 時間）結果を分析するための分析手法を整理する．	小林 中村 中西
14	論文作成③	予習・復習：(4 時間）結果を解釈するための先行研究を追加する．	小林 中村 中西
15	論文作成④	予習・復習：(4 時間）結果を解釈するための先行研究を追加する．	小林 中村 中西
16	論文作成⑤	予習・復習：(4 時間）結果を解釈するための先行研究を追加する．	小林 中村 中西
17	論文作成⑥	予習・復習：(4 時間）背景と研究目的を完成させる．	小林 中村 中西
18	論文作成⑦	予習・復習：(4 時間）研究方法記載に不足がないか確認する	小林 中村 中西
19	論文作成⑧	予習・復習：(4 時間）結果を示す文章よび図表に過不足がないか確認する．	小林 中村 中西
20	論文作成⑨	予習・復習：(4 時間）飛躍した考察がないか確認する．	小林 中村 中西
21	論文作成⑩	予習・復習：(4 時間）飛躍した考察がないか確認する．	小林 中村 中西
22	成果発表①	予習・復習：(4 時間）成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる．	小林 中村 中西
23	成果発表②	予習・復習：(4 時間）成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる．	小林 中村 中西
24	成果発表③	予習・復習：(4 時間）成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる．	小林 中村 中西
25	成果発表④	予習・復習：(4 時間）成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる．	小林 中村 中西
26	研究の限界の振り返り①	予習・復習：(4 時間）成果発表時のコメントを参考に，研究の限界についてまとめておく．	小林 中村 中西
27	研究の限界の振り返り②	予習・復習：(4 時間）成果発表時のコメントを参考に，研究の限界についてまとめておく．	小林 中村 中西
28	研究成果の社会的貢献①	予習・復習：研究成果の社会への発信方法をまとめる．(4 時間）	小林 中村 中西
29	研究成果の社会的貢献②	予習・復習：研究成果の社会への発信方法をまとめる．(4 時間）	小林 中村 中西
30	臨床応用について検討する	予習・復習：自身が就職する領域での研究について考えておく．(4 時間）	小林 中村 中西
成績評価方法と基準			割合
4/5 以上の出席を必要とする． ①論文作成．〈DP①④〉 ②研究成果発表．〈DP①④〉			①60% ②40%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(精神障害)(作業) (Graduation Research Ⅱ(Mental Disorder))				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、小川　泰弘	
科目ナンバリング	SS503	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、 後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり，臨床実践の質を高め，社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める．この科目では，作業療法研究における必要性と意義を理解し，調査研究と実験研究を進めるための方法を修得する．卒業研究Ⅰで考えた調査・実験の実施方法について、データの収集と分析、結果の考察というプロセスを、段階を踏みながら習得する。その総括として，卒業論文作成と研究発表に向けての準備する．

到達目標

1) 研究倫理について理解することができる<DP①④>
2) 科学的・論理的に自分の意見を表現する<DP①④>
3) 作業療法研究の必要性と意義を説明できる<DP①④>
4) 研究計画書を作成できる<DP①④>
5) 予備実験ができる<DP①④>
6) 結果を分析し，解釈することができる<DP①④>
7) 卒業論文作成ができる<DP①④>
8) プレゼンテーションができる<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自身の研究目的に沿って、研究疑問を明らかにすべく主体的に取り組むようにしてください。

教科書

指定する教科書はない．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．

研究室／オフィスアワー

火曜日 (13:00～14:10)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画の検討	中間発表を踏まえて研究計画書を見直し修正する． (1 時間)	
2	研究計画の検討	研究実施のための具体的なプラン作成(1 時間)	
3	研究計画実施の準備	研究実施のための物品等の準備(1 時間)	
4	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施　(1 時間)	
5	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施 (1 時間)	
6	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施(1 時間)	
7	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施(1 時間)	
8	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施　(1 時間)	
9	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施 (1 時間)	
10	データを収集	方法に準じ依頼からデータ収集と整理までを実施 (1 時間)	
11	データの分析	結果の解析(1 時間)	
12	データの分析	結果の解析(1 時間)	
13	データの分析	結果の解析(1 時間)	
14	データの分析	結果の解析(1 時間)	
15	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める　(1 時間)	
16	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める(1 時間)	
17	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める(1 時間)	
18	分析結果の考察	分析結果を先行文献などとともに考察を深める(1 時間)	
19	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理だてて書き進める(1 時間)	
20	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理だてて書き進める(1 時間)	
21	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理だてて書き進める(1 時間)	
22	論文作成	これまでの結果を踏まえ、「要旨、はじめに、方法、結果、考察、研究の限界、今後の展望、おわりに」を論理だてて書き進める(1 時間)	
23	論文作成と発表準備	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	
24	論文作成と発表準備	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	
25	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	
26	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	
27	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	
28	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	
29	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	
30	卒業論文発表	論文を作成しながら、パワーポイントで発表原稿を作成する(1 時間)	

成績評価方法と基準	割合
1. 論文の作成<DP①④> 2. 論文発表<DP①④> 4/5 の出席を必要とする	1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(老年期障害・地域)(作業) (Graduation Research Ⅱ(Geriatric Disorder / Community))				
主担当教員	松下 太		担当教員	松下 太	
科目ナンバリング	SS504	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

「老年期障害作業療法に関する科目」,「作業科学入門」,「地域作業療法学」で学んだ作業の健康への貢献，認知症に対する作業療法，介護予防の知識や技術，施設や在宅における課題を中心に，担当教員指導の下に研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する．研究テーマに基づき，リサーチクエッションを明確にし，研究計画を作成し，実験等によるデータの収集と分析，結果の考察というプロセスを修得する．その総括として，老年期障害または地域作業療法分野の論文完成を目指す．

到達目標

1．研究テーマに関する先行研究について検索・入手・通読し，それらの詳細を理解している．＜DP①＞
2．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を説明することができる．＜DP①④＞
3．倫理的な配慮を理解し，研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる．＜DP①④＞
4．研究プロトコールを作成できる．＜DP①④＞
5．予備的研究結果を踏まえ，実験することができる．＜DP①④＞
6．実験結果を解釈し，考察することができる．＜DP①④＞
7．研究成果を論文にすることができ，抄録ならびにパワーポイントを用いて発表できる．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自身の研究テーマに関連する論文を講読し，文献レビュー表を作成する．

教科書

指定する教科書はなし．

参考書

研究領域に関連する資料，論文，記事を随時提示します．　文献複写が必要な場合は，ゼミ担当に申し出ること．

研究室／オフィスアワー

月曜日 5 限目 (16：20-17：50)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの確立 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：総説，文献レビュー，文献研究などを購読し，文献レビュー表の作成方法を知る（4 時間）	横井，松下
2	リサーチクエッションの明確化 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：先行研究をレビューし，まとめる．研究倫理審査のための資料を作成する（4 時間）．	横井，松下
3	プロトコールの見直しと確立 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：先行研究をレビューし，まとめる．研究倫理審査のための資料を作成する（4 時間）．	横井，松下
4	予備実験① 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：先行研究をレビューし，まとめる．研究倫理審査のための資料を作成する（4 時間）．	横井，松下
5	予備実験② 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：先行研究をレビューし，まとめる．研究倫理審査のための資料を作成する（4 時間）．	横井，松下
6	予備実験結果の解釈と実験開始準備 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予習・復習：先行研究をレビューし，まとめる．研究倫理審査のための資料を作成する（4 時間）．	横井，松下
7	データ収集①	予習・復習：倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する（4 時間）．	横井，松下
8	データ収集②	予習・復習：倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する（4 時間）．	横井，松下
9	データ収集③	予習・復習：外れ値を解釈する（4 時間）．	横井，松下
10	データ収集④	予習・復習：収集済みデータを入力する（4 時間）．	横井，松下
11	データ収集⑤	予習・復習：収集済みデータを入力する（4 時間）．	横井，松下
12	論文作成①	予習・復習：結果を分析するための分析手法を整理する（4 時間）．	横井，松下
13	論文作成②	予習・復習：結果を分析するための分析手法を整理する（4 時間）．	横井，松下
14	論文作成③	予習・復習：結果を解釈するための先行研究を追加する（4 時間）．	横井，松下
15	論文作成④	予習・復習：結果を解釈するための先行研究を追加する（4 時間）．	横井，松下
16	論文作成⑤	予習・復習：結果を解釈するための先行研究を追加する（4 時間）．	横井，松下
17	論文作成⑥	予習・復習：背景と研究目的を完成させる（4 時間）．	横井，松下
18	論文作成⑦	予習・復習：研究方法記載に不足がないか確認する（4 時間）．	横井，松下
19	論文作成⑧	予習・復習：結果を示す文章よび図表に過不足がないか確認する（4 時間）．	横井，松下
20	論文作成⑨	予習・復習：飛躍した考察がないか確認する（4 時間）．	横井，松下
21	論文作成⑩	予習・復習：飛躍した考察がないか確認する（4 時間）．	横井，松下
22	成果発表①	予習・復習：成果発表時の質疑，意見を整理する（4 時間）．他者の研究についての意見を述べる．	横井，松下
23	成果発表②	予習・復習：成果発表時の質疑，意見を整理する（4 時間）．他者の研究についての意見を述べる．	横井，松下
24	成果発表③	予習・復習：成果発表時の質疑，意見を整理する（4 時間）．他者の研究についての意見を述べる．	横井，松下
25	成果発表④	予習・復習：成果発表時の質疑，意見を整理する（4 時間）．他者の研究についての意見を述べる．	横井，松下
26	研究の限界の振り返り①	予習・復習：成果発表時のコメントを参考に，研究の限界についてまとめておく（4 時間）．	横井，松下
27	研究の限界の振り返り②	予習・復習：成果発表時のコメントを参考に，研究の限界についてまとめておく（4 時間）．	横井，松下
28	研究成果の社会的貢献①	予習・復習：研究成果の社会への発信方法をまとめる（4 時間）．	横井，松下
29	研究成果の社会的貢献②	予習・復習：成果発表時のコメントを参考に，研究の限界についてまとめておく（4 時間）．	横井，松下
30	臨床応用について検討する	予習・復習：自身が就職する領域での研究について考える（4 時間）．	横井，松下

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席を必要とする． ①論文作成＜DP①④＞ ②研究成果発表：成績評価基準はルーブリックにて提示します．＜DP①④＞	①60% ②40%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(発達障害)(作業) (Graduation Research Ⅱ(Developmental Disability))				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子、金森　幸	
科目ナンバリング	SS505	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

「質的研究の進め方、まとめ方」を参考にして、各自ですすめている研究計画にそって、文献研究や結果の考察をすすめる。担当教員には、適時経過を報告し、研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する．研究テーマに基づき，リサーチクエッションを明確にし，研究計画を作成し，インタビューやフィールドワーク等によるデータの収集と分析，結果の考察というプロセスを修得する．その総括として，作業療法士としての論文完成を目指す．

到達目標

1．研究テーマに関する先行研究について検索・入手・通読し，それらの詳細を理解している．＜DP①④＞
2．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を説明することができる．＜DP①④＞
3．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる．＜DP①④＞
4．研究プロトコールを作成できる．＜DP①④＞
5．予備的研究結果を踏まえ，観察、インタビューやフィールドワークを行うことができる．＜DP①④＞
6．実験結果を解釈し，考察することができる．＜DP①④＞
7．研究成果を論文にすることができ，抄録ならびにパワーポイントを用いて発表できる．＜DP①④＞
8．卒業後も発達領域に役立つ作業療法士としての研究活動を継続できるようになること．＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自身の研究テーマに関連する論文を講読し，文献レビューを作成する．
研究活動は、各自で自覚をもって主体的に取り組んでください。

教科書

特に指定はありません

参考書

「質的研究入門」小田博志著.春秋社
「エスノグラフィー入門」小田博志著.春秋社
「子どもの参画」ロジャー・ハート著.Unicef 萌文社

研究室／オフィスアワー

研究室にスケジュール表を掲示していますので、事前に相談の予約をとってください（基本的に周 1 回以上）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画の確認 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	倫理審査の提出 先行研究をレビューし，まとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
2	リサーチクエッションの明確化 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	同意書・研究環境の整備 先行研究をレビューし，まとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
3	プロトコールの見直しと確立 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	準備に必要な資料や文献の整備 先行研究をレビューし，まとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
4	予備実験① 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	研究方法の確認 先行研究をレビューし，まとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
5	予備実験② 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	予備実験の結果の整理 先行研究をレビューし，まとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
6	予備実験結果の解釈と実験開始準備 1 から 6 回において，研究倫理審査資料を作成し提出する（卒業研究Ⅰにおいて，既に研究倫理審査を提出済みの場合は，研究結果解釈のための先行研究を講読する）	本研究の準備 先行研究をレビューし，まとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
7	データ収集①	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
8	データ収集②	倫理審査に提出したデータ管理の方法を確認する． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
9	データ収集③	データを確認する． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
10	データ収集④	収集したデータを入力する． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
11	データ収集⑤	収集したデータを入力する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
12	論文作成①	分析方法を確認する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
13	論文作成②	分析方法を確認する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
14	論文作成③	結果を解釈するための先行研究を追加する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
15	論文作成④	結果を解釈するための先行研究を追加する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
16	論文作成⑤	結果を解釈するための先行研究を追加する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
17	論文作成⑥	背景と研究目的を完成させる 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
18	論文作成⑦	研究方法記載に不足がないか確認する 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
19	論文作成⑧	結果を示す文章よび図表に過不足がないか確認する． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
20	論文作成⑨	飛躍した考察がないか確認する． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
21	論文作成⑩	飛躍した考察がないか確認する． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
22	成果発表①	成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
23	成果発表②	成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
24	成果発表③	成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
25	成果発表④	成果発表時の質疑，意見を整理する．他者の研究についての意見を述べる． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
26	研究の限界の振り返り①	成果発表時のコメントを参考に，研究の限界についてまとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
27	研究の限界の振り返り②	成果発表時のコメントを参考に，研究の限界についてまとめておく． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
28	研究成果の社会的貢献①	研究成果の社会への発信方法をまとめる． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	
29	研究成果の社会的貢献②	研究成果の社会への発信方法をまとめる． 自己学習を 1 時間以上行うこと．	

30	臨床応用について検討する	自身が就職する領域での研究について考えておく. 自己学習を 1 時間以上行うこと.	
成績評価方法と基準			割合
4/5 以上の出席を必要とする. ①論文作成＜DP①④＞ ②研究成果発表＜DP①④＞			割合 ①60% ②40%

授業科目名	臨床検査実習(作業)（Clinical Examination Training）				
主担当教員	中村 めぐみ		担当教員	中村 めぐみ、横井 賀津志、 伊藤 直子、松下 太、小林 貴代、 橋本 弘子、中西 一、金森 幸	
科目ナンバリング	SS507	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

臨床現場での実習を通じて，作業療法プロセスで必要となる心身機能，身体構造，活動，参加，個人因子，環境など ICF で分類されている項目の検査・測定を実践する機会とする．これまで修得してきた各領域での作業療法の面接・観察および検査・測定を，クライエントに正確に実施できる技術を修得する．さらに，得られた検査・測定結果に対して解釈を加え，その結果が生活場面にどのように影響するかを予測できるようになることも目的とする．

到達目標

1．2 年前後期に開講される各領域の「作業療法評価学」の知識を活用し，検査・測定を実際の臨床現場で明らかな誤りのない範囲で遂行できる．そのために，以下の 4 つの下位目標を提示する．1)検査・測定実施前に場所の設定や必要な道具の準備をする，2)検査・測定時に，クライエントに目的を適切に説明する，3)検査・測定時にクライエントが理解できる言葉で手順を説明する，4)検査・測定を適切に実施する，5)検査・測定中は，クライエントの状態を観察し，必要に応じて柔軟に内容を変更する．DP＜①②③④＞
2．作業療法士の面接・観察および検査・測定場面を見学・模倣し，その内容を客観的に記録できる．DP＜①②③④＞
3．　1 日の行動計画を立てるとともに，検査・測定した内容をデイリーノートにまとめる．デイリーノートには検査・測定の事実を記録し，事実に対する考察を記録できる．DP＜①②③④＞

以下は，1 年次の臨地見学実習の学修目標の一部である．2 年次においても実習の土台となる目標である．
1．実習生としての基本的態度をとることができる．
2．対象者を一人の人間として尊重する．
3．実習指導者に必要な報告，連絡，相談ができる．
4．　自ら対象者とのコミュニケーションの機会を持つことができる．
5．対象者の話に傾聴できる．対象者に不安を与えない対応ができる．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．臨床検査実習の前後に開催される実習セミナーに必ず出席すること．
2．臨床検査実習前に配布される実習の手引きを熟読し，分からない点は質問すること．
3．実習オリエンテーションを含めた出席日数も評価対象とする．

教科書

なし

参考書

2 年次までの全ての授業で使用した教科書

研究室／オフィスアワー

各実習施設の担当教員のオフィスアワーに準ずる．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	作業療法士の面接・観察および検査・測定場面を見学・模倣し，その内容を記録する．	1．各領域の「作業療法評価学」を復習しておくこと．特に，検査・測定の目的を整理し，正確に実施できるように繰り返し練習しておくこと． 2．実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で，実習施設の概要についてまとめる．	学科教員
2	検査・測定を遂行する．1)場所を設定し，必要な道具を準備する，2)クライエントに目的を適切に説明する，3)クライエントに手順を説明する，4)クライエントの状態に応じて柔軟に対応する．	日々の実習内容をデイリーノートに整理する．実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに，解決するための手立てを講じる．	学科教員
3	クライエント一人ひとりに対応方法が異なることを理解し，検査・測定技術の幅を広げる．	1．検査・測定した内容について知識・技術・態度の面から振り返る． 2．他の学生と情報交換して，実習で学んだこと	学科教員

		をまとめる. 3. 実習で指導を受けた内容について発展学習する. 4. 実習で経験した検査・測定について，まとめた事を発表する.	
4	実習後セミナー	上記課題に関する学びを学内での発表や報告により共有する．そして，3 年次の学びに関する目標と実行すべき課題を明確にする.	学科教員
成績評価方法と基準			割合
①実習地での成績 ②学内でのセミナー，提出物により総合的に判断します.			①70% ②30%

授業科目名	臨床評価実習(作業)（Clinical Evaluation Training）				
主担当教員	小林 貴代		担当教員	小林 貴代、伊藤 直子、松下 太、 橋本 弘子、中村 めぐみ、 中西 一、金森 幸	
科目ナンバリング	SS508	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(実習)、後期 (実習)
授業形態	実習	単位数	4	必修･選択	必修

授業概要

臨床現場での実習を通して，「作業ニーズの特定」，「特定された作業の観察」，「検査・測定による確認」，「全体像の予測と焦点化」，「全体像の再構成」という作業療法評価の過程を経験し修得することを目的とする．対象者への面接，観察，検査・測定実施と生活場面の情報収集から対象者の生活障害を構造的に捉え，全体像をまとめ，問題点を抽出し作業療法介入プログラムを立案することを目標にする．実習では，臨床教育指導者が実施する評価を見学・模倣して経験を積み重ねるプロセスを重視する．さらに，臨床教育指導者が実施する疾患別の作業療法評価場面を見学し，疾患に対する作業療法評価の特性を教授する．以下に 4 週間のおおまかな実習概要を記載する.

第 1 週　作業ニーズの把握，評価計画を立案し実施する.
第 2 週　評価の実施，実施した評価結果から全体像をまとめる.
第 3 週　追加評価実施と作業療法で取り組む課題の抽出をする.
第 4 週　追加評価実施と作業療法実施に向けてのプログラムを立案し，実習全体を振り返る.

到達目標

1）2 年次の臨床検査実習において習得した検査・測定に関する知識と技術を踏まえ，3 年前期に開講される各領域の「作業療法総論」の知識・技術を活用し，作業療法評価を実際の臨床現場で明らかな誤りのない範囲で遂行できる．作業療法評価のプロセスは，クライエントの作業ニーズを捉え，作業遂行場面を観察し，検査・測定によりクライエントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして，全体像を把握することである．そして，可能な範囲で治療プログラムを立案することを含む．加えて，作業療法の領域別，疾患別の評価にも対応できるようになる．＜DP①②③④＞
2）臨床実習指導者（作業療法士）の評価場面を見学・模倣・実施し，その内容を客観的に記録できる．＜DP①②③④＞
3）1 日の行動計画を立てるとともに，評価した内容をデイリーノートにまとめる．デイリーノートには評価内容の事実を記録し，事実に対する考察を記録できる．＜DP①②③④＞

以下は，1 年次の臨地見学実習の学修目標の一部である．当然 3 年次においても実習の土台となる目標である.
1. 実習生としての基本的態度をとることができる.
2. 対象者を一人の人間として尊重する.
3. 臨床教育指導者に必要な報告，連絡，相談ができる.
4.　自ら対象者とのコミュニケーションの機会を持つことができる.
5. 対象者の話に傾聴できる．対象者に不安を与えない対応ができる.

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）臨床評価実習の前後に開催される実習セミナーには必ず出席し，必要な課題を提出すること.
2）臨床評価実習前に配布される実習の手引きを熟読し，分からない点は質問すること.
3）出席日数も成績評価の対象とします.

教科書

指定する教科書はないが，3 年次までの全ての授業で使用した教科書を用いる.

参考書

随時提示する.

研究室／オフィスアワー

各実習施設の担当教員のオフィスアワーに準ずる.

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
	実習前セミナー（客観的臨床能力試験（OSCE）を含む） 実習オリエンテーション	予習・復習：客観的臨床能力試験（OSCE）の準備. 実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で，実習施設の概要についてまとめる.	学科教員
	臨床教育指導者（作業療法士）の評価場面を見学・模倣し，客観的事実と考察を，臨床教育指	予習・復習：各領域の「作業療法評価学」および「作業療法総論」をすべて復習しておくこと.	学科教員

	導者の指導のもとに記録する.	特に，領域別・疾患別評価の目的を整理しておく．2 年次に実施した検査・測定は正確に実施できるように繰り返し練習しておくこと.	
	臨床教育指導者（作業療法士）の指導のもと，検査・測定を含めた作業療法評価を遂行する.	予習・復習：日々の実習内容をデイリーノートに整理する．実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに，解決するための手立てを記録する.	学科教員
	臨床教育指導者（作業療法士）の評価場面を見学・模倣し，客観的事実と考察を，臨床教育指導者の指導のもとに記録する.	予習・復習：学生自身で実習の中間評価を行い，臨床実習指導者の評価との乖離に気づく．そして，実習目標を達成するために後半の実習に向けて具体的な行動計画を立てる.	学科教員
	検査・測定を含めた作業療法評価を遂行する．クライエントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして，臨床教育指導者の指導のもと，全体像をまとめる.	予習・復習：日々の学習内容をデイリーノートに整理する．実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに，解決するための手立てを記録する.	学科教員
	臨床教育指導者（作業療法士）の指導のもと，作業療法評価の一連のプロセスをまとめる．可能な範囲で，作業療法介入プログラムを立案する.	予習・復習：評価した内容について知識・技術・態度の面から振り返る．担当した症例について，レジメを作成する.	学科教員
	実習後セミナー	予習・復習：実施した評価項目・方法・結果について再確認する．実施した評価の結果からの考察について再検討する．担当した症例について総合的に報告し，指導を受ける．症例報告で指導を受けた内容について発展的に学習する.	学科教員
成績評価方法と基準			割合
①実習地での成績＜DP①②③④＞ ②学内でのセミナー＜DP①②③④＞ ③提出物＜DP①②③④＞ ④実習セミナーにおける客観的臨床能力試験（OSCE）＜DP①②③④＞			①60% ②③40% ④は実習参加の条件とする.

授業科目名	臨床総合実習(作業)（Comprehensive Clinical Training）				
主担当教員	松下 太		担当教員	松下 太、横井 賀津志、伊藤 直子、小林 貴代、橋本 弘子、中村 めぐみ、中西 一、金森 幸	
科目ナンバリング	SS509	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	実習
授業形態	実習	単位数	16	必修･選択	必修

授業概要

3 年次までに履修した作業療法全般にわたる知識と技術，臨床評価実習で習得した作業療法評価の実践能力をもとに，臨床現場で臨床教育実習指導者の指導のもと，「評価→プログラム立案→プログラム実施→再評価→プログラム検討・修正」という作業療法の過程を経験し修得することを目的とする．作業療法を実施する中で，クライエントおよび自己の変化を捉え，プログラムの検討を行う．それに加えて，クライエントへの援助方法や治療的存在としての作業療法士の態度や行動を身につけ，多職種連携チームの中の作業療法士の役割を学修する.
1 カ所の臨床実習施設において 8 週間の実習を行い，4 年次を通じて 2 カ所の臨床実習施設で，計 16 週間実施する.

到達目標

臨床現場での実習を通いて，クライエントのニーズを把握し，クライエントへの面接，観察，評価実施と生活場面の情報収集から，クライエントの生活障害を構造的に捉える．そして，全体像をまとめ，予後予測・焦点化をおこない，作業療法プロセスを実施し，学生自身で検討・修正できることを目標とする．これを実現するための目標を以下の通りとする．＜DP①②③④＞
①職業人として望ましい態度や行動をとることができる.
②クライエントの全体像を把握できる.
③クライエントへの作業療法介入計画を立案できる.
④クライエントへ治療・指導・援助を実施することができる.
⑤作業療法の成果を確認し，必要に応じて作業療法計画を見直すことができる.
⑥記録・報告をすることができる.
⑦管理・運営について理解することができる.

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）臨床総合実習を履修するためには，必ず事前および事後に開催される実習セミナーに出席することが条件となる.
2）上記以外の履修要件として，学科専門科目群・専門基礎科目の必修科目の単位を取得しておくこと.
3）実習態度には十分に注意する．（言葉遣い，身だしなみ，素行，時間・期限の厳守など，前医療人・学生としての規律やマナーの遵守）
4）臨床総合実習前に配布される実習の手引きを熟読し，分からない点は質問すること.
5）出席日数も成績評価の対象とします.

教科書

指定する教科書はないが，3 年次までの全ての授業で使用した教科書を用いる.

参考書

随時提示する.

研究室／オフィスアワー

各臨床実習施設の担当教員のオフィスアワーに準ずる.

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	実習前セミナー オリエンテーション	1．実習前の準備として客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する. 2．実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で，実習施設の概要についてまとめる.	学科教員
2	臨床教育指導者（作業療法士）の指導の下，クライエントの情報収集を行い，臨床教育指導者の指導のもと評価計画を立案する.	各領域の「作業療法評価学」および「作業療法総論」をすべて復習しておくこと．特に，領域別・疾患別評価の目的を整理しておく.	学科教員
3	臨床教育指導者（作業療法士）の指導のもと，面接・観察・検査・測定を含めた作業療法評価を遂行する.	1．2 年および 3 年次の授業で実施した検査・測定等の評価技術は正確に実施できるように繰り返し練習しておくこと. 2．実施内容をケースノートに記載・整理する．実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに，解決するための手立てを講じる.	学科教員

4	実施した作業療法評価をもとに，クライエントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして，臨床教育指導者の指導のもと，全体像をまとめる.	実施内容等をケースノートに整理する. 実習中に疑問に感じたことを言語表出するとともに，解決するための手立てを講じる.	学科教員
5	臨床教育指導者（作業療法士）の指導のもと，作業療法評価の一連のプロセスをまとめ，目標を立案し，クライエントのニーズを踏まえ，作業療法介入プログラムを立案する.	1.「作業療法治療学総論」および各領域の「作業療法治療学各論・演習」をすべて復習しておくこと. 2. 担当した症例の介入プログラム立案までについて，レジュメを作成する.	学科教員
6	臨床教育指導者（作業療法士）の指導のもと，計画された作業療法介入プログラムを実施する.	1. 日々の経過をケースノートに記載・整理する. 2. クライエントの状況変化に応じて，実施するプログラムを修正する. 3. 学生自身で実習の中間評価を行い，臨床教育指導者の評価との乖離に気づく．そして，実習目標を達成するために後半の実習に向けて具体的な行動計画を立てる.	学科教員
7	臨床教育指導者（作業療法士）の指導のもと，再評価計画を立案し，臨床教育指導者の指導のもと，面接・観察・検査・測定を含めた再評価を遂行する.	1. 実施した介入プログラムの効果について検証する。 2. 立案した短期目標と照らし合わせ，その到達度に応じた考察を行う. 3. 再評価結果により，必要があれば介入プログラムを修正する. 4. 担当した事例について，レジュメを作成する.	学科教員
8	実習後セミナー	1. 実施した評価・介入プログラム・再評価について再確認する. 2. 実施内容の結果からの考察について再検討する. 3. レジュメを使って，担当事例を総合的に報告し，指導を受ける. 4. 事例報告で指導を受けた内容について発展的に学習する.	
成績評価方法と基準			割合
①実習地での成績＜DP①②③④＞ ②学内でのセミナー＜DP①②③④＞ ③提出物＜DP①②③④＞ ④実習前セミナーにおける客観的臨床能力試験（OSCE）			①60% ②③40% ④は実習参加の条件とする.

作業療法学科

（2020 年度入学生カリキュラム）

授業科目名	基礎ゼミナール(作業)（Basic Seminar）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、阿部　秀高、伊藤　直子、松下　太、橋本　弘子、中村　めぐみ、中西　一、金森　幸、東　泰弘、小川　泰弘、由利　禄巳	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限 木曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本演習は，新入生が大学生としての役割を身につけることができるように，学生を支援することを目的としている．具体的には，学生を少人数のグループに分けて担当教員に配属し，(1)大学での学修に必要で，かつ高等学校までの教育において習得すべき内容の教育，(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方，レポート・論文の書き方や文献の探し方，(3)大学生に求められる一般常識や態度，(4)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて，ディスカッションを交えて演習を行う．（オムニバス方式/全 15 回）

（作業療法学科教員/前半 8 回）（共同）
専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて，ディスカッションを交えて演習を行う．
（阿部秀高/後半 7 回）
(1)大学での学修に必要で，かつ高等学校までの教育において取得すべき内容の教育，(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方，レポート・論文の書き方や文献の探し方，(3)大学生に求められる一般常識や態度について解説する．

到達目標

1．受動的ではなく自ら学ぶ意志を示す．＜DP②③④＞
2．自ら課題を見つけそれを解決するための手段がわかる．＜DP②③④＞
3．集団構成メンバーと積極的に関わる態度が見られる．＜DP②③④＞
4．意欲的に発表し，意見や質問を積極的に行う．＜DP②③④＞
5．講義ノートの取り方を理解し，実行できる．＜DP②④＞
6．基礎的なレポートやレジュメを作成できるようになる．＜DP②④＞
7．論理的に自分の意見を表現できるようになる．　＜DP②③④＞
8．課題に対する文献検索の方法を知っており，実行できる．＜DP②③④＞
9．グループで討議したことを論理的に発表することができる．＜DP②③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，ノートを授業後に整理して復習をしてください．また，図書館でレポートの書き方や文章の書き方などに関する図書を積極的に読んでください．

教科書

論文，記事，関連資料を適宜配布する．教科書の指定はない．

参考書

授業内で随時提示します．

研究室／オフィスアワー

各教員のオフィスアワーに準ずる．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	大学での学び	予習：高校での学びと大学での学びの違いを考え，学士力を養うための方法をまとめる（4 時間）．	学科教員
2	学ぶ姿勢について	予習：自身のこれまでの学びを振り返る（2 時間）． 復習：講義後に学びについての目標を設定する（2 時間．	学科教員
3	グループディスカッションの方法	予習：集団討議に必要なルールを考え，まとめる．KJ 法とは何か調べる（2 時間）． 復習：グループワークの方法についてまとめる（2 時間）．	学科教員
4	レポートの作成方法とプレゼンテーションの基本	予習・復習：レポート作成とプレゼンに必要な知識を考え，まとめる（4 時間）．	学科教員
5	「医療従事者に求められるもの」①　グループ討議	予習：脳卒中について調べる（2 時間）． 復習：実際の事例と出会い，作業療法士としてどのようなことができるか考える．グループ討議後に再検討する（2 時間）．	学科教員
6	「医療従事者に求められるもの」②　グループ討議	予習・復習：人，環境，作業の理解について考える（4 時間）．	学科教員
7	「医療従事者に求められるもの」③　発表会	予習・復習：発表資料作成と発表準備（4 時間）．	学科教員
8	「医療従事者に求められるもの」と「作業療法士の魅力」	予習：講義 5，6，7 を振り返り，まとめる（1 時間）． 復習：講演後の気づきを踏まえレポートを作成し提出する（3 時間）．	ゲストスピーカー
9	オリエンテーション（講義への取り組み方・大学生としての自分を見つめる）	予習：シラバスの確認。（２時間） 復習：学びの履歴シートによる大学生として必要な資質/能力についてのまとめ（２時間）	阿部秀高
10	理事長に学ぶ（学園・大学・学生への思い）	予習：学園の 3 つポリシーや設立理念の確認。（２時間）復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部秀高
11	学長・学科長に学ぶ（医療人・作業療法士を目指すものに対する思い）	予習：作業療法士の仕事の概要を調べておく。（２時間） 復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部秀高
12	コミュニケーションスキル・学修スキル向上	予習：レポートの書き方について高校までに学んだことを想起しておく（２時間） 復習：学んだレポートの書き方について記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部秀高
13	論理的文章の書き方・資料活用の方法	予習：言語技術について、高校までに学んだことを想起しておく（２時間） 復習：学んだ言語技術について記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部秀高
14	プレゼンテーション・スキル	予習：プレゼンテーションについて高校までに学んだことを想起しておく。（２時間） 復習：プレゼンテーションの作り方、発表の仕方についてまとめる。（２時間）	阿部秀高
15	本授業における学びのまとめ・振り返り	予習：自分の作成したプレゼンテーションの練習）（２時間） 復習：７回の講義で学んだ社会人基礎力に関してまとめておく。（２時間）	阿部秀高

成績評価方法と基準	割合
【作業療法学科教員】 ①授業内での課題　＜DP②③④＞ ②レポート課題　＜DP②③④＞ 　【阿部秀高】 ③平常点評価（授業毎回の振り返りなど）６０％＜DP②③④＞ ④講義最終回に作成した課題レポート４０％＜DP②③④＞	【学科教員】 ①70% ②30% 【阿部秀高】 ③60% ④40% ①から④の平均とする．

授業科目名	物理学(作業)（Physics）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
さまざまな自然現象もよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかります。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっています。本講義は力学、熱力学に絞り、作業療法士として最低限必要な物理学の教養を身につけることができるようにしてあります。
到達目標
物理量・単位 力のつりあい 力のモーメント てこの原理の人体中での応用 血圧とは 　上記の内容を学習していきます。<DP③>
履修上の注意(学生へのメッセージ)
１．自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識して下さい。 ２．配布された資料を使用し、講義を行います。
教科書
プリントを使用します。
参考書
ベッドサイドを科学する　平田雅子　著　Gakken
研究室／オフィスアワー
非常勤控室　月曜
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	水の体積と温度の関係、スカラーとベクトル	＜予習・復習 各２時間＞ ベクトルという数学で扱う内容が書かれていますが、力を作図するとき必要になりますので、わからなくなったら教科書を読みなおしてください。	
2	比熱、力の合成	＜予習・復習 各２時間＞ 力の合成は、平行四辺形を作る、ということだけ覚えましょう。	
3	代謝量、力の分解	＜予習・復習 各２時間＞ 力の分解は、力の合成の逆というだけですが、内容が難しいので、教科書や小テストを何回も読みなおしましょう。	
4	小テスト①とその解説、ニュートンの運動の法則	＜予習・復習 各２時間＞ 自転車や車の運転を考えると、加速度は力に比例、質量に反比例することがわかります。	
5	作用・反作用の法則、力のモーメント	＜予習・復習 各２時間＞ シーソーの話しは簡単ですが、次回以降につながりますので、しっかり復習しましょう。	
6	摩擦力、第１種のてこ	＜予習・復習 各２時間＞ 重い頭を支えているのは誰でしょう？	
7	心臓マッサージ、第２種のてこ	＜予習・復習 各２時間＞ 第２種のてこは、人体にはあまりないのです。	
8	質量と重さの違い、第３種のてこ	＜予習・復習 各２時間＞ 第３種のてこの利点をおさえましょう。	
9	力と圧力の違い、腰にかかる力	＜予習・復習 各２時間＞ 腰への負担を減らすにはどうすべきだったでしょうか？	
10	小テスト②とその解説	＜予習・復習 各２時間＞ 第１種～第３種のてこについて復習しておきましょう。	
11	気圧とは	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちには１気圧の力が働いていますが、それを認識すると、いろいろなことが見えてきます。	
12	入浴の圧力効果	＜予習・復習 各２時間＞ 和式風呂と洋式風呂による、人体への影響について確認しましょう。	
13	酸素ボンベ、仕事	＜予習・復習 各２時間＞ 酸素ボンベに残る酸素の量の求め方について	
14	浮力	＜予習・復習 各２時間＞ 以前、献血のときに使われていた血液比重。その仕組みについて確認しましょう。	
15	血圧、運動量	＜予習・復習 各２時間＞ 体への衝撃は何によるのでしょうか？	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト（計２回）<DP③> ②確認テスト<DP③> ③定期試験<DP③> 小テスト（計２回）と定期試験は必ず受験して下さい。	①30% ②30% ③40%

授業科目名	生物学(作業)（Biology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
医療人にとって必要な生物学的知識を学習し、この後に展開する基礎医学への理解を容易にする。
到達目標
生物に共通する生体のシステムやその仕組みについて理解を深めることができ、人体と連関して思考できる。＜DP③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
生物学自体は高校までの教科としてすでに学んでいるかもしれないが、医学に直結する領域についてはまだ学んでいないか、理解が不十分であろうと思われる。既に学んでいる、知っている学問という認識は排除して新たな教科を学ぶ姿勢で臨んでほしい。
教科書
「理工系のための生物学」　裳華房
参考書
生物学　カレッジ版　医学書院
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室 1

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命と栄養と代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
2	糖質の種類	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
3	糖代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
4	脂質とその代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
5	ビタミンの種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
6	細胞の構造とオルガネラ	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
7	核酸の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
8	転写と翻訳	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
9	タンパク質の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
10	細胞のシグナル伝達	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
11	細胞分裂と増殖	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
12	発生と分化	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
13	免疫システム	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
14	細胞の初期化と再生医療	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
15	細胞死とアポトーシス	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2 時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
1　定期試験　＜DP③＞	1　100%

授業科目名	化学(作業)（Chemistry）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択
授業概要					
基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。					
到達目標					
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解することができる。それらが生理機能に密接に連関することを認識できる。＜DP③＞					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
たとえすでに化学を履修していようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学びなおす必要があると捉えておいて欲しい。					
教科書					
「ライフサイエンスのための化学」　化学同人					
参考書					
「理工系の基礎化学」　化学同人					
研究室／オフィスアワー					
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭化水素化合物１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	炭化水素化合物２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	化学のまとめ	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　＜DP③＞	1　100%

授業科目名	情報処理(作業)（Information Processing）				
主担当教員	平山　裕子		担当教員	平山　裕子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)はWindows を、ソフトウェアはマイクロソフトのWord, Excel, PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる<DP③>
２．Wordによる文書（レポート，論文）の作成ができる<DP③>
３．Excelによる基本的なデータの集計・解析ができる<DP③>
４．PowerPointを用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PCを使った演習を行なうので、出席をすること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するためのUSBメモリを用意すること
３．PC演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

中村健壽監修，森由紀著，医療従事者のための情報リテラシー，日経BP社

参考書

佐藤憲一他，Windows 7によるコ・メディカルのための情報リテラシー，共立出版，2013
金谷孝之・服部建大，基礎から学ぶ医療情報，共立出版，2014

研究室／オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス Lesson1【コンピュータ概論】	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson1【コンピュータ概論】を読む USBを用意する ※課題については、毎回の授業内で指示します。以下同様	
2	Lesson15【情報セキュリティと情報モラル】 Word① Lesson2【文字入力とファイル管理】 文字入力確認、及び応用 ファイル管理、USBの扱い方等	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson15-2【情報モラルと情報モラル】及び Lesson2【文字入力とファイル管理】を読む	
3	Word② Lesson3【基本的な文書作成】 WORDの基本的な書式設定を習得 Lesson4【ビジネス文書の作成】 ビジネス文書の作成	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson3【基本的な文書の作成】及び Lesson4【ビジネス文書の作成】を読む	
4	Word③ Lesson5【表の作成】 表の挿入、表内セルの書式設定	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson5【表の作成】を読む	
5	Word④ Lesson6【図形とイラストの挿入】 図形の活用方法及びイラストの挿入操作	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson6【図形とイラストの挿入】を読む	
6	WORDまとめ 長文レポート等でのヘッダー・フッター機能活用	＜予習・復習 各２時間＞ 別途配布する資料を読む	
7	WORD復習テスト 授業内でWORD復習テストを実施	＜予習・復習 各２時間＞ Wordに関する操作・機能を確認 復習テストに備えておくこと	
8	Excel① Lesson7【集計表の作成】 基本操作（四則計算）の操作 基本的な書式設定	＜予習・復習 各２時間＞ テキストLesson7【集計表の作成】を読む	
9	Excel② Lesson8【関数を使った表作成1】 SUM,AVERAGE,MAX,MIN Lesson9【関数を使った表作成2】 COUNT,COUNTA,RANK,IF	＜予習・復習 各２時間＞ EXCEL② Lesson8【関数を使った表計算1】及び Lesson9【関数を使った表計算2】を読む	
10	Excel③ Lesson10【統計処理】 ROUND,MEDIAN,MODE 関数のネスト	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
11	Lesson11【データとグラフ】 Excel④ 縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
12	Lesson12【データの活用】 Excel⑤ 関数応用 today,datedif,vlookup,	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson12【データの活用】を読む	
13	EXCEL復習テスト 授業内でEXCEL復習テストを実施	＜予習・復習 各２時間＞ Excelに関する操作・機能を確認する 復習テストに備えておくこと	
14	PowerPoint基礎	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson13【プレゼンテーションの作成】を読む	
15	Lesson14 PowerPoint応用	＜予習・復習 各２時間＞ Lesson14【プレゼンテーションファイル作成】を読む	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②課題の提出状況及び完成度、授業態度含む<DP③> ③小テスト（授業内で実施）WORD及びEXCEL<DP③> 5分の4以上の出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	心理学(作業)（Introduction to Psychology）				
主担当教員	神澤 創		担当教員	神澤 創	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

心理学は、人の心の仕組みや働きがどのようになっているかを研究する学問です。授業では性格や認知のほか、こころの健康や人間関係の心理などについても学習します。基本的には講義形式で行いますが必要に応じて、視聴覚教材の活用や心理検査実習、ロールプレイなどを導入する予定です。

到達目標

１．心理学の基本的な研究方法について説明できる
２．心理学の諸理論について説明ができる
３．心理学の諸問題と日常生活上の諸問題を結びつけて理解、解決ができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業計画表はあくまでも予定ですので、進度に合わせて変更することもあります。

教科書

西川隆三他著,「心自己理解の心理学」福村出版

参考書

適宜指示します。

研究室／オフィスアワー

非常勤講師なので質問は講義終了後に教室内で受けることにします

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：テキスト第 1 章を読む （単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）	
2	性格とは何か	予習：テキスト第 1 章を読む 復習：心の働きについて考えてみる。	
3	性格のタイプと特性	予習：テキスト第 2 章を読む 復習：自分の性格について考えてみる。	
4	心の深層を探る	予習：テキスト第 3 章を読む 復習：無意識の働きについて考えてみる。	
5	行動から心を見る	予習：テキスト第 4 章を読む 復習：行動や経験の働きについて考えてみる。。	
6	認知と性格	予習：テキスト第 5 を読む 復習：「認知」の働きについて考えてみる	
7	「自己」を見つめて	予習：テキスト第 5 章を読む 復習：自分を好きになる方法について考えてみる。	
8	対人関係と行動	予習：テキスト第 7 章を読む 復習：他者とののかかわり方について考えてみる。	
9	文化と性格	予習：テキスト第 8 章を読む 復習：時代や文化が心に与える影響について考えてみる。	
10	親子関係と愛着	予習：テキスト第 9 章を読む 復習：初期経験と愛着の意味について考えてみる。	
11	ライフサイクルと心の健康	予習：テキスト第 10 章を読む 復習：人生の各段階におけるこころの健康について考えてみる。	
12	ストレスと心の病理	予習：テキスト第 11 章を読む 復習：ストレスマネージメントについて考えてみる。	
13	人間関係と癒し	予習：テキスト第 12 章を読む 復習：他者とのかかわりと癒しについて考えてみる。	
14	幸福の心理学	予習：ポジティブ心理学について調べてみる 復誓：幸福について自分なりに理解する	
15	振返り	前期の講義を振り返る	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験 60 点以上 ②平常点（レポート、授業態度など）	①80% ②20%

授業科目名	生命倫理学(作業)（Bioethics）				
主担当教員	日高　明		担当教員	日高　明	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、現代の社会で起こっている多様な生命倫理上の問題とともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介します。受講者がこれらについての考察を行い討議することで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。

到達目標

1. 講義で扱った生命倫理問題を理解する。具体的には、各テーマについて、大まかな説明ができる。
2. 広く生命倫理の問題を知ることで、生命観・人間観を養う。具体的には、「生命とはなにか」「人間とはなにか」 という問いに、先人の知見や社会通念を引いて答えることができる。あるいは自分の経験を交えて語ることができる。
３. 生命倫理的な社会問題について、広く関心を持つようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義で取り扱った倫理学および生命倫理にかかわるケースについて、他の受講者と話をしてみてください。相手の考えに同意できなければ、なぜ自分の考えと食い違うのかという「食い違いのポイント」を一緒に探してください。また、二者択一ではなく、他の方法はないのかも考えてください。
受講に当たっての細かいルールは、第一回の講義で説明します。

教科書

使用しない(適宜、資料を配布する)

参考書

小泉博明ほか『テーマで読み解く生命倫理』教育出版、2016 年。そのほか必要に応じて紹介する。

研究室／オフィスアワー

講義の前後に兼任講師控室にて対応可

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理とは、生命倫理学とは（概要、分類、なぜ学ぶのか）	シラバスの確認、資料の復習	日高明
2	人間とは（「人間」の定義、人間と動物とのギャップ、人間の社会性）	配布資料の復習とノートのまとめ。人間とその他の動物を分けるものはなにか、考える。	日高明
3	規範倫理学①（功利主義、義務論）	多数を救うために少数が犠牲になる事例をひとつ想定し、功利主義と義務論それぞれの立場では、どのような態度をとりうるかをまとめる。	日高明
4	規範倫理学②（徳倫理学、ケアの倫理）	資料の復習。規範倫理学のそれぞれの立場についてまとめる。	日高明
5	西洋と東洋の生命観①	近代医学（科学）は生命をどのようなものとして捉えるか、まとめる。	日高明
6	西洋と東洋の生命観②	講義中に説明した複数の「死後のあり方」のうち、自分がどれにリアリティを感じるか、またなぜそう感じるのかについて考える。	日高明
7	個人情報保護	講義で紹介された事例をもとに、医療・介護施設において、なにが個人情報にあたるか、第三者へ提供するさいにどういった制限があるかについて、まとめる。	日高明
8	死について考える①（死の捉え方の変遷、死のプロセス、死の疑似体験）	「10 年後の自分」を想定し、そこから「今の自分」を振り返り、「喪失したもの」について語ってみる。	日高明
9	死について考える②（EOL のケア、ACP）	実際にアドバンスディレクティブ（事前指示書）に記入し、その時点で指示した代理人と、話し合う。	日高明
10	死について考える③（安楽死・尊厳死）	尊厳死肯定派と否定派、双方の立場についてまとめる。	日高明
11	臨床のコミュニケーション	話し合った内容をまとめる。	日高明
12	生について考える①（出生前診断、代理出産）	人間の生命のはじまりはどの時点からか、考える。代理出産をめぐって、どのような問題が生じうるか。講義で説明した事例をもとにまとめる。	日高明
13	生について考える②（卵子・精子提供、デザイナーベイビー）	生殖補助医療はどこまで認められているかについて調べ、どこまで認められるべきかを考える。	日高明
14	患者の権利と自己決定	患者の権利と医療倫理の善行原則や公平性原則がバッティングするケースについて考える。	日高明
15	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	

成績評価方法と基準	割合
１、テスト ２、グループワークと講義への参加度	１、６０％ ２、４０％

授業科目名	哲学(作業)（Philosophy）				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような仕方で正しく認識できるのか・知ることができるのかについて学んでいく。
　「哲学」のもともとの意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方でそれらをわれわれは手に入れることができるのか、は哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上でこの問題は避けて通れないものである。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。
　この授業ではこの認識論・知識論という問題について、「懐疑論」というものを手掛かりに考察を深めていきたい。物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものであろう。哲学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行ってみたらどうなるか、が中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえた上で、自然科学的な知識はどのような仕方で正当化されるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な源流である 17 世紀の自然科学について論じる。

到達目標

１．ヘレニズム時代の古代懐疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを充分に理解することができる。〈DP③〉
２．近代において復活した古代懐疑主義が近代においてどのように受容され、改変されていったのかを充分に理解することができる。具体的にはモンテーニュの信仰主義、デカルトの方法的懐疑を充分に理解することができる。〈DP③〉
３．極端な懐疑の論理構造がいかなるものであるのかを、ウィトゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に充分に理解することができる。〈DP③〉
４．近代の自然科学的知識がどのように成立していったのかを、17 世紀に活躍したデカルトやニュートンの思想を参照することを通じて、充分に理解することができる。〈DP③〉
５．近代以降の自然科学が発展するにあたって、その方法論がどのようなものであったのかを充分に理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代では何の疑いもなく受け容れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきている。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。
　「哲学」および「懐疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。
　他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	（予習）「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	ソクラテスの哲学：「哲学」とはどういう営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
3	ヘレニズム時代の思想①：懐疑論とはそもそも何か？　およびストア主義の思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間)	
		（復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
4	ヘレニズム時代の思想②：古代懐疑主義の思想。ピュロン、アルケシラオス、アイネシデモス、アグリッパなど。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
5	近代の懐疑主義的思想①：モンテーニュにおけるピュロン主義、およびデカルト思想の全体像。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
6	近代の懐疑主義的思想②：デカルトの方法的懐疑その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
7	近代の懐疑主義的思想③：デカルトの方法的懐疑その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
8	懐疑論に抗して：ウィトゲンシュタインの思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
9	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その①：デカルトの自然学その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
10	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その②：デカルトの自然学その 2、およびデカルトにおける心身問題その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
11	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その③：デカルトにおける心身問題その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
12	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その④：デカルトの自然学とニュートン物理学、および近代における自然科学と形而上学との関係。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
13	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑤：近代における自然科学の方法論（帰納法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
14	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑥：近代における自然科学の方法論（仮説演繹法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。〈DP③〉 　小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数	①期末試験 50% ②小テスト 50%

で述べることができるかどうかを評価する。 　期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。	

授業科目名	社会福祉学(作業)（Social Welfare）				
主担当教員	掛川　直之		担当教員	掛川　直之	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

〈貧困〉という問題をつうじて、社会福祉の基礎を学ぶ。社会福祉にかんする考え方、制度、課題等について、時事的な問題や映像素材などをとおして具体的に学んでいく。一方通行にならないように、受講生の意見を聴いたり、グループワークをとりいれるなど、できるだけ退屈にならないような参加型の講義を心がける。

到達目標

日本社会に生起するさまざまな生活問題とその背景について、社会福祉の観点から理解することで、その解決に向けて自分の考えを自分のことばで説明できるようになることを目標とする。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義の進め方や成績評価の方法等の詳細については、初回の授業において説明する。なお、講義毎に、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。ここで出された質問等については、次回の講義の冒頭で解説をくわえる。

教科書

毎回の講義においてレジュメを配布する。

参考書

金子充『入門 貧困論：ささえあう／たすけあう社会をつくるために』（明石書店、2017 年）
岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門〔改訂版〕:「福祉の世界」への招待』（有斐閣、2013 年）
掛川直之編著『不安解消！出所者支援：わたしたちにできること』（旬報社、2018 年）

研究室／オフィスアワー

講義の前後、あるいはメール等にて質問等を受け付ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	〔オリエンテーション〕社会福祉の学び方：医療と福祉はつながっている	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	〔社会福祉の基本①〕社会福祉の考え方：人間はひとりでは生きられない	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	〔社会福祉の基本②〕貧困問題から社会福祉を考える：あなたはどんな「溜め」をもっている？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	〔社会福祉の基本③〕社会保障のしくみ：国や自治体の役割を考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	〔社会福祉の基本④〕ドラマ『サイレント・プア』から考えるソーシャルワーク：ソーシャルワーカーのしごと	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	〔社会福祉の分野①〕拡大する高齢者の貧困：老後は年金だけで生活できる？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	〔社会福祉の分野②〕病気や障がいをもつ人と貧困：適切な医療を受けるために	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	〔社会福祉の分野③〕女性やマイノリティは貧困に陥りやすい？：ジェンダーについて考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	〔社会福祉の分野④〕子どもの貧困も自己責任？：成長発達の権利	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	〔社会福祉の分野⑤〕漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える生活保護制度：生きるための最後の砦	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	

11	〔社会福祉の分野⑥〕映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』から考える生活保護受給とバッシング：差別と偏見の背後にある誤解	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
12	〔地域と社会福祉〕釜ヶ崎とホームレス問題：医療・保健・福祉の機能が集約された逃れのまち	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	〔犯罪と社会福祉〕どうして〈犯罪者〉に福祉が必要なの？：貧困・社会的排除のスパイラル	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	〔生活と社会福祉〕社会の〈障害〉をみつける：社会を変えることはできるのか？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	〔社会福祉の応用〕私たちにできること：第 1 回～第 14 回のまとめ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 本講義全体を見直す	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP③> ②コミュニケーションペーパー<DP③>			①70% ②30%

授業科目名	日本国憲法(作業)（Constitution of Japan）				
主担当教員	植田　重幸		担当教員	植田　重幸	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コ・メディカルをもとに、診療の補助の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規（保健衛生関連法規）の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。

到達目標

1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。<DP③>
2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。<DP③>
3. 医療と人権に関する大切さを理解する。<DP③>
4. 作業療法学科における『理学療法士及び作業療法士法』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。<DP③>
5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。<DP③>
6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。
2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。
3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。
4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。

教科書

指定しない。

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特色 基本理念及び基本原理	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権（人格権と幸福追求権）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	

8	基本的人権規定④ 　尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在的解釈を確認する	
9	関係法規① 　コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する	
10	関係法規② 　日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 　医療過誤の実態と権利侵害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 　医療過誤における法的責任	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 　国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 　裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	

成績評価方法と基準	割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(作業 A)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	竹内　恵子		担当教員	竹内　恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。〈DP②〉
基本的な文法、語彙、表現を身につける。〈DP②〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟 1 階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(作業Ｂ)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
１．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
２．医学用語の基礎知識を学ぶ。
３．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。<DP②>
基本的な文法、語彙、表現を身につける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(作業 A)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	竹内 恵子		担当教員	竹内 恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(作業 B）（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan ／ Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。<DP②>			①40% ②40% ③20%

授業科目名	MBS(Morinomiya Basic Seminar)(作業) (Morinomiya Basic Seminar)				
主担当教員	橋本 弘子		担当教員	橋本 弘子、金森 幸、小川 泰弘	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本授業は、大学生としての学習や生活をスムーズにスタートさせるために、大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を身につけること、学園の歴史や建学の精神の意味やディプロマポリシーを理解することで、本学への帰属意識を確立させることを目的とする。
また、履修に関することや教育課程（カリキュラム）、学生生活に関するルール等を理解することで、大学で学ぶために必要な能力を身につけることを目的とする。
医療の歴史及び医療の現在と未来を知ることで、医療全体への興味をより深めることを目的とする。

到達目標

・本学の建学の精神及びディプロマポリシーを理解している。<DP②③>
・大学で学ぶために必要な能力を身につけている。<DP②③>
・生徒から学生へ移行する（主体的・能動的な学習スタイルを身につける）<DP②③>
・医療人を目指す学生であることに対しての自覚を強く持つ。<DP②③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理想の大学生活とは？想像している内容と異なる話を聞くこともあるでしょうが、4 年間を有意義に過ごせるようこれからの生活を考えるきっかけとなることを願います。

教科書

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

蓮池研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【本学の歩みと未来／生徒から学生へ】 ・理事長による「本学の起源や今後の展望」、 ・学長による「医療・医学を学ぶ上での心構え」についての講義。 ・在校生から新入生に向けて大学生活の過ごし方や講義の受け方についてのプレゼンテーション。	予習：本学の Web サイトで「建学の精神」「森ノ宮医療学学園の歴史」「本学の特徴」について調べる．(1 時間) 復習：大学生としての心得を考え，まとめる．(1 時間)	橋本 金森 小川
2	【作業療法学科のカリキュラムについて】 ・カリキュラムについて ・カリキュラムポリシーについて ・ディプロマポリシーについて	予習：学生手帳の「作業療法学科 授業科目・単位数」と「本学学士過程における三つのポリシー」「作業療法学科における三つのポリシー」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分にとって今後の大学生活で必要なことを考える．(2 時間)	橋本 金森 小川
3	【情報化社会における情報リテラシーと情報モラルについて】 ・情報リテラシーと情報モラル （SNS の取り扱い） ・医療情報の取り扱いについて ・その他社会問題等	予習：「情報リテラシー」「情報モラル」について調べ，自分の考えをまとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，多くの情報から適切に情報を得る方法を考える．(2 時間)	橋本 金森 小川
4	【作業療法士のキャリアについて】 ・自身のキャリアについて ・履修モデルの解説と自身のキャリア形成プランの検討 ・作業療法士に必要な学びと研究	予習：自分自身，将来どのような「大人」になりたいか，また，目標とする「作業療法士像」を考え，まとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分の将来像を明確にする．(2 時間)	橋本 金森 小川
5	地域医療について 住之江区長による「住之江区の医療・福祉の現状」についての講話	予習：本学が位置する「住之江区」の Web サイト「広報誌 さざんか」にて，住之江区における「福祉・健康」の施策について調べる（2 時間）	橋本 金森 小川

		復習：授業をまとめ，今の自分でも参加できることを（ボランティア等）を探す．(2 時間)	
6	西洋医学とは 医師による西洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：西洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：西洋医学の中での作業療法の重要性を調べ，まとめる．(2 時間)	橋本 金森 小川
7	東洋医学とは 鍼灸師による東洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：東洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，西洋医学との違いを理解し，東洋医学の重要性をまとめる．(2 時間)	橋本 金森 小川
8	チーム医療とは ・チーム医療について知る	予習：本学の Web サイトで「チーム医療」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，チーム医療の重要性を理解する．(2 時間)	橋本 金森 小川
成績評価方法と基準			割合
レポート試験：「自己のキャリア構築のために今後の大学生活で何をすべきか」を 1600 字程度で述べる。〈DP②③〉 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	チーム医療見学実習(作業)				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、金森　幸、小川　泰弘	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

１．医療の実践の場である病院等の施設で医療従事者の 1 日を体験することにより、医療職への理解を深める。
２．保健医療施設における自己の目指す専門職の役割や機能を知ると共にチーム医療を構成する
様々な専門職の役割・機能について知識を深める。
３．チーム医療の実際を知り、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性を知る。

＜施設見学の実施概要＞
開講時期：9 月下旬
実習施設：大阪急性期・総合医療センター(日程調整中)、大阪国際がんセンター(9 月 28・29・30 日または
9 月 23・24・25 日)、日本生命病院(9 月 23・25・28 日)、関西メディカル病院(9 月 25・28・29 日)

＜実施方法＞
１．本見学実習は大学内で実施する事前授業（4 コマ）と施設見学（4 コマ）とする。
２．1 班 8 名程度の学科混成グループを作り、各グループ上記施設の中から 1 施設を見学する。
３．1 班ごとに 1 名の本学教員が引率し、基本的には引率教員の指示のもと決められたスケジュール通りに
施設内を見学する

到達目標

１．実習を通じて医療施設の全体的な業務や役割について知ることができる。DP2
２．実習を通じてチーム医療の構成を知り、目指す専門職の役割および責任を自覚することができる。DP2
３．実習を通じて医療に取り組む姿勢を養い、専門科目の学習への意欲向上のきっかけとし、今後、
専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。DP23

履修上の注意(学生へのメッセージ)

見学時は、担当者のみならず院内の全ての方(就業者や患者さん等)に迷惑がかからない行動を取るとともに、発言にも最大限配慮すること。
見学当日はバスで送迎を行います。集合場所や時間を等は引率教員の指示に従うこと。

教科書

とくになし

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

橋本、金森、小川：木曜日 4 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	事前授業①（授業の目的や概要について）	【事前授業１】（授業の目的や概要について） 予習：本学に設置されている学科の仕事内容を調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、チーム医療についての考えをまとめる。(3 時間)	橋本 金森 小川
2	事前授業②（授業の目的や概要について）	【事前授業２】（施設見学における注意事項について） 予習：大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて実践できるようにする （3 時間）	橋本 金森 小川
3	事前授業③（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる	橋本 金森 小川

		（3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	
4	事前授業④（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	橋本 金森 小川
5	【学修内容：⑤～⑧】 「施設見学」 ＜見学スケジュール例＞ ①リハビリテーション室の見学 →それぞれの職種間でのコミュニケーションを学ぶ ②ICU・CCU →医師や看護師の連携について学ぶ。最新機器等の設備について知識を深める ③各種検査室の見学 →検査技師と医師や看護師など他の職種との連携について学ぶ ④透析室 →透析の機器等について知識を深める ⑤手術室 →手術室とはどのような環境の部屋なのか、実際の設備や雰囲気を知る	復習：見学実習での学びをレポートにまとめる。自修時間 6 時間→課題提出	橋本 金森 小川
成績評価方法と基準			割合
レポート課題<DP②③> 「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			1.10%

授業科目名	基礎体育(作業 A)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
　日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
　学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習 1 時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	基礎体育(作業 B)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習１時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 　その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(作業) (Health Science【Including Sports Sociology】)				
主担当教員	佐野　加奈絵		担当教員	佐野　加奈絵	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。

到達目標

・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける（DP③)。
・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する（DP③)。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回配布する資料を用いて、必ず復習してください。

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005 年
田中喜代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006 年

研究室／オフィスアワー

東棟 4F　月曜 9:00-10.30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康とは？	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
2	運動・栄養と肥満症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
3	運動・栄養と糖尿病との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
4	運動・栄養と脂質異常症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
5	三大栄養素（糖質・脂質・タンパク質）の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
6	微量栄養素（ビタミン・ミネラル）と水の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
7	消化器の構造と機能	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
8	食品群の理解と応用	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
9	エネルギー摂取量と消費量との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
11	運動処方の原則と実際	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
12	運動と食欲の関係ー最新のトピックスー	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：　これまでのプリントの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
成績評価方法と基準			割合

①定期試験で評価する（DP③）。 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	①100%

授業科目名	人体の構造演習Ⅰ(運動器)(作業)（Human Anatomy Seminar Ⅰ 【Motor System】）				
主担当教員	北村 清一郎		担当教員	北村 清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

人体の構造演習(運動器)（理学）のⅠとⅡでは、人体の基礎を構成し、運動器の中心的な役割を担う骨格系と筋肉系を学習する。骨格系については、骨の分類・構造などの総論と、個々の骨の解剖構造や形態的特徴、ならびに隣接骨間の連結などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。筋肉系については、筋肉（筋）の分類・構造などの総論に加えて、個々の筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。これらの学習を通じて、骨と筋が運動器として機能するときにどのような連携しているか考えるとともに、運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深める。 前期に実施する「人体の構造演習Ⅰ(運動器)(作業)」では、骨格系・骨の連結・筋肉系の総論、ならびに上肢の骨格系と筋肉系を学習する。

到達目標

（１）骨の構造と連結の概要、ならびに全身の骨格系の概要が説明できる（DP②③④）
（２）筋肉の構造とはたらきの概要、ならびに筋肉系を支える構造の概略が説明できる（DP②③④）
（３）上肢の各骨の主要構造や主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる（DP②③④）
（４）上肢の各筋の存在部位とはたらき、ならびに他筋との位置関係が説明できる（DP②③④）
（５）上肢の主要関節の構造とそれに係わる筋の作用が説明できる（DP②③④）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめに配布するので、これを元に予習ノートを作成する。実習は講義室とは別の部屋で行われる。実習ではスケッチの提出が求められるので、A4の無地ノート（線が引かれていない）を準備する。

教科書

「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 解剖学(第４版）」　編集　野村　嶬　（医学書院）
「カラーアトラス人体　解剖と機能　第４版」　横地千仭ら　医学書院

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

E 棟４階研究室５／毎週月曜日・火曜日・木曜日の昼休み。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	骨格系総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
2	ともかく骨を見てみよう（実習） 1	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
3	靭帯学総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
4	ともかく骨を見てみよう（実習）2	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
5	筋学総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村

6	ともかく骨を見てみよう（実習）3	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
7	上肢の骨と関節 1	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
8	上肢の骨の観察（実習） 1	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
9	上肢の骨と関節 2	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
10	上肢の骨の観察（実習）2	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
11	上肢の骨の観察（実習）3	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
12	浅背筋と浅胸筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
13	上肢帯の筋と上腕の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
14	前腕の筋と手の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(1時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(1時間)	北村
15	上肢の筋の解剖 DVD 鑑賞	予習：講義プリントに沿って上肢筋を復習しておく（1 時間） 復習：DVD の内容を元にを元に予習ノートの加筆と修正（1 時間）	北村
成績評価方法と基準			割合
学期末に筆記試験を行う（DP②③④）。筆記試験は 100 点満点、これに 15 点満点の実習スケッチ点を合わせて合計 115 点満点とし、その 60%以上の得点でもって合格とする。 合格点に達しない場合には筆記試験の再試験を 1 回のみ行い、やはりスケッチ点を合わせた 60%以上の得点でもって合格とする。			筆記試験 87% スケッチ 13%

授業科目名	人体の構造演習Ⅱ(運動器)(作業)（Human Anatomy SeminarⅡ 【Motor System】）				
主担当教員	北村 清一郎		担当教員	北村 清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

人体の構造演習(運動器)（理学）のⅠとⅡでは、人体の基礎を構成し、運動器の中心的な役割を担う骨格系と筋肉系を学習する。骨格系については、骨の分類・構造などの総論と、個々の骨の解剖構造や形態的特徴、ならびに隣接骨間の連結などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。筋肉系については、筋肉（筋）の分類・構造などの総論に加えて、個々の筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。これらの学習を通じて、骨と筋が運動器として機能するときにどのような連携しているか考えるとともに、運動時に重要な役割を果たしている関節や靱帯の形態と機能についても理解を深める。 後期に実施する「人体の構造演習Ⅱ(運動器)(作業)」では、下肢と体幹（頭蓋・脊柱・胸郭）の骨格系と筋肉系を学習する。

到達目標

（１）下肢と体幹の各骨の主要解剖構造や主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる（DP②③④）
（２）下肢と体幹の各筋の存在部位とはたらき、ならびに他筋との位置関係が説明できる（DP②③④）
（３）下肢と体幹の主要関節の構造とそれに係わる筋の作用が説明できる（DP②③④）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめに配布するので、これを元に予習ノートを作成する。実習は講義室とは別の部屋で行われる。実習ではスケッチの提出が求められるので、A4 の無地ノート（線が引かれていない）を準備する。

教科書

「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 解剖学(第４版）」　編集　野村　嶬　（医学書院）
「カラーアトラス人体　解剖と機能　第４版」　横地千仞ら　医学書院

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

E 棟４階研究室５／毎週月曜日・水曜日・木曜日の昼休み。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	下肢の骨と関節１	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
2	下肢の骨の観察(実習)１	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
3	下肢の骨と関節２	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
4	下肢の骨の観察(実習)２	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
5	下肢の骨の観察(実習)３	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
6	下肢帯の筋・大腿の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
7	下腿の筋・足の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１	北村

		時間）	
8	頭蓋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
9	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習）１	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
10	脊柱と胸郭	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
11	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習）２	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
12	頭蓋・脊柱・胸郭の骨の観察(実習）３	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
13	頭部の筋・頸部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
14	深胸部の筋・腹部の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
15	深背部の筋・下肢の筋の解剖 DVD の鑑賞	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（１時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（１時間）	北村
成績評価方法と基準			割合
学期末に筆記試験を行う（DP②③④）。筆記試験は 100 点満点、これに 15 点満点の実習スケッチ点を合わせて合計 115 点満点とし、その 60%以上の得点でもって合格とする。 　合格点に達しない場合には筆記試験の再試験を１回のみ行い、やはりスケッチ点を合わせた 60%以上の得点でもって合格とする。			筆記試験 87% スケッチ 13%

授業科目名	人体の構造Ⅰ(神経系)(作業)（Human Anatomy Ⅰ【Nervous System】）				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之、吉田　篤	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造Ⅰ（神経系）では、系統解剖学の立場から、末梢神経系、中枢神経系、感覚器について学習する。末梢神経系では、感覚器により得られた外界の情報を中枢神経に送り、中枢神経系からの出力情報を末梢効果器に伝えるシステムについて学修する。 さらに運動神経系、感覚神経系、自律神経系の機能と形態との関連性について学修する。中枢神経系では、外界からの様々な情報 を処理・統合して行動、情動、思考、記憶など高度な機能を営むシステムについて学修する。感覚器では、外界の情報を受容する組織・器官の構造と機能について学修する。これらの学修を通じて、生体が外界からの情報処理と統合を行うシステムの形態学的構成・特徴について理解を深める。

到達目標

（１）感覚器の種類と基本的構造を説明できる（DP②③）
（２）末梢神経系の基本的構成を説明できる（DP②③）
（３）中枢神経系の基本的構成を説明できる（DP②③）
（４）感覚器、末梢神経系、中枢神経系による情報処理の仕組みの概要を説明できる。(DP②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書を中心に進めます。自発的な予習と復習を心掛けて下さい。適宜資料を配付するので、復習時に活用して理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書

野村嶸　編集　『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（第４版)』　医学書院

参考書

藤田恒太郎『人体解剖学　改訂第 42 版』(南江堂)
クロスマン、ニアリー（水野、野村　訳）『神経解剖カラーテキスト　第２版』(医学書院)

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 11）
月曜日午後５時～午後７時、各日昼休みの時間帯（金曜日を除く）は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要、感覚器（外皮、視覚器）	事前に教科書の目次や第１章「解剖学総論」などを参考に、学習内容を概観して下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい(2 時間)。。	森谷
2	感覚器（平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
3	神経系総論	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
4	末梢神経（脳神経①　第Ⅰ～Ⅵ脳神経）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	吉田
5	末梢神経（脳神経②　第Ⅶ～第 XII 脳神経）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
6	末梢神経（脊髄神経①　頸神経　胸神経）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
7	末梢神経（脊髄神経②　腰神経　仙骨神経、自律神経系）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
8	感覚器と末梢神経の形態に関するまとめと確認テスト	感覚器と末梢神経系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間)。	森谷
9	中枢神経（脊髄）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷

10	中枢神経（脳幹）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
11	中枢神経（小脳）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
12	中枢神経（間脳、終脳①　大脳皮質）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
13	中枢神経（終脳②　辺縁系　大脳基底核）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
14	中枢神経（神経路）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
15	中枢神経の形態に関するまとめと確認テスト	中枢神経系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4時間）。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験（90%）（DP②③） ②課題等の提出（10%）（DP②③） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			①90% ②10%

授業科目名	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）（作業）（Human Anatomy Ⅱ【Splanchnic Circulation】）				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造Ⅱ（循環・内臓）では、循環系と内臓系とを中心に人体の正常構造について系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学修する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

①循環系（心臓血管系、リンパ系など）の基本的構成を説明できる。(DP②③)
②内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器など）の基本的構成を説明できる。(DP②③)

履修上の注意（学生へのメッセージ）

講義は教科書を中心に進めます。自発的な予習と復習を心掛けて下さい。適宜資料を配付するので、復習時に活用して理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書

野村嶬　編集　『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（第4版）』　医学書院

参考書

藤田恒太郎『人体解剖学　改訂第42版』（南江堂）

研究室／オフィスアワー

E棟4階（研究室11）
月曜日午後5時～午後7時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要 血液とリンパ 脈管系（循環器系）総論	事前に教科書の目次などを参考に、学習内容を概観して下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
2	心臓	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
3	小循環（肺循環）と大循環（体循環） 動脈系①（総頚動脈、鎖骨下動脈、胸大動脈）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
4	動脈系②（腹大動脈、総腸骨動脈）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
5	静脈系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
6	胎生期の循環系 リンパ系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
7	脈管系の形態に関するまとめと確認テスト	脈管系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4時間）。	森谷
8	内臓学総論 消化器系①（口腔、咽頭、食道）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
9	消化器系②（胃、小腸、大腸）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
10	消化器系③（肝臓、膵臓） 呼吸器系①（外鼻、鼻腔）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
11	呼吸器系②（気管、気管支、肺）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に	森谷

		復習して下さい（2 時間）。	
12	泌尿器系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
13	生殖器系①（男性生殖器）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
14	生殖器系②（女性生殖器） 内分泌系	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間）。	森谷
15	内臓系の形態に関するまとめと確認テスト	内臓系の形態とその特徴について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間）。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験（90%）（DP②③） ②課題等の提出（10%）（DP②③） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			①90% ②10%

授業科目名	人体の機能Ⅰ(動物性機能)(作業)（Human Physiology Ⅰ【Animal Function】）				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能Ⅰでは、神経系と血液を中心に取り扱う。

到達目標

・体細胞の構造と機能のあらましを述べることができる。(DP①)
・心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。(DP①)
・呼吸力学とガスの運搬を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。(DP①)
・消化器の働きを説明できるとともに、栄養素の消化・吸収・代謝について概説できる。(DP①)
・腎臓の働きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。(DP①)
・血液と血球の働きを説明できる。(DP①)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。

教科書

生理学　（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）　執筆：岡田隆夫、鈴木敦子、長岡正範　ISBN978-4-260-03644-3 医学書院

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

研究室在室時 月曜日～木曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	生理学とは 細胞の構造と機能（その１）	・教科書 1～18 ページを用いて、生命現象と人体、細胞の構造と機能についてそれぞれ述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
2	細胞の構造と機能（その２）	・教科書 1～18 ページを用いて、細胞の構造と機能、ホメオスタシスについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
3	心臓と循環（その１）	・教科書 102～127～ページを用いて、循環器の働きを概説できるとともに、心臓のポンプ機能について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
4	心臓と循環（その２）	・教科書 102～127 ページを用いて、心電図の基本波形が持つ意味と、血管系の働きについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
5	心臓と循環（その３）	・教科書 102～127 ページを用いて、血圧の成因と循環調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
6	呼吸とガスの運搬（その１）	・教科書 131～142 ページを用いて、呼吸機能検査と換気力学について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
7	呼吸とガスの運搬（その２）	・教科書 131～142 ページを用いて、ガス交換と呼吸調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	

8	消化と吸収（その１）	・教科書 159～170 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
9	消化と吸収（その２）	・教科書 159～170 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
10	尿の生成と排泄、酸塩基平衡（その１）	・教科書 144～158 ページを用いて、体液の分布と尿生成と腎機能調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
11	尿の生成と排泄、円塩基平衡（その２）	・教科書 144～158 ページを用いて、水電解質調節、酸 - 塩基平行について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
12	血液（その１）	・教科書 86～99 ページを用いて、血液の成分について概説できるようになるとともに、赤血球の働きについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
13	血液（その２）	・教科書 86～99 ページを用いて、白血球・血小板の働きと血液型の仕組みについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
14	重点項目の復習	・人体の機能Ｉの重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
15	重点項目の復習	・人体の機能Ｉの重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験（DP①）			100%

授業科目名	人体の機能Ⅱ(植物性機能)(作業)（Human Physiology Ⅱ【Vegitative Function】）				
主担当教員	河口　直正		担当教員	河口　直正	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能 II では、内分泌・神経・筋肉を中心に取り扱う。

到達目標

・神経細胞とシナプスについて概説することができる。中枢神経の主要部位の構造とその主な機能を述べることができる。(DP②③)
・感覚の受容について述べることができる。(DP②③)
・体温の調節について概説できる。(DP②③)
・さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。(DP②③)
・生殖と発生のあらましを説明できる。: さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。(DP②③)
・筋肉の収縮・弛緩について述べることができる。(DP②③)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について?集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各?が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を?められない者は退席させる。
２）予習・復習について?講義内容は膨?であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が?じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を?うこと。

教科書

生理学（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野） 執筆：岡田隆夫、鈴木敦子、長岡正範　ISBN978-4-260-03644-3　医学書院

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

研究室在室時 月曜日～木曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系（その１）	・教科書 21～50 ページを用いて、神経組織、神経生理、シナプスの基礎的事項を説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
2	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系（その２）	・教科書 21～50 ページを用いて、中枢神経系の働きについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
3	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系（その３）	・教科書 21～50 ページを用いて、大脳の働きについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
4	神経の興奮と末梢神経、中枢神経系（その４）	・教科書 21～50 ページを用いて、末梢神経系の働きについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
5	感覚（その１）	・教科書 71～84 ページを用いて、感覚の受容の仕組みについて概説できるようになるとともに、体性感覚・内臓感覚について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
6	感覚（その２）	・教科書 71～84 ページを用いて、視覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
7	感覚（その３）	・教科書 71～84 ページを用いて、聴覚・味覚・嗅覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	

8	代謝と体温（その１）	・教科書 188～198 ページを用いて、栄養素の分類とそれぞれの吸収の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
9	代謝と体温（その２）	・教科書 188～198 ページを用いて、栄養素の代謝と体温調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
10	内分泌（その１）	・教科書 172～185 ページを用いて、内分泌系について概説できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
11	内分泌（その２）	・教科書 172～185 ページを用いて、それぞれのホルモンの分泌調節の仕組みと標的臓器での作用について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
12	生殖と発生・成長と老化	・教科書 199～212 ページを用いて、生殖と発生の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
13	筋と骨（その１）	・教科書 53～68 ページを用いて、骨・筋の代謝を説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
14	筋と骨（その２）	・教科書 149～161 ページを用いて、筋運動について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
15	重点項目の復習	・人体の機能Ⅱの重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験（DP②③）			100%

授業科目名	基礎運動学(作業)（Basic Kinesiology）				
主担当教員	中西　一		担当教員	中西　一、東　泰弘	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

1. 身体運動の仕組みを運動器の構造と機能を中心に理解する。
2. 解剖学で学んだ運動器の知識をもとに、学生相互の身体で構造等を確認する。

到達目標

①関節運動と運動に関与する筋がいえる。＜DP3＞
②各筋の支配神経（末梢神経）、脊髄レベルがいえる。＜DP3＞
③体表から観察できる筋・腱・ランドマーク等を正確に触知できる。＜DP3＞
④筋の弛緩・収縮および収縮の程度を触知判別できる。＜DP3＞
⑤運動を力学的に説明できる。＜DP3＞
⑥観察された現象を客観的に、専門用語を用いて記載できる。＜DP3＞
⑦観察された現象を、運動学（関節運動・筋活動・力学）の観点から記載できる。＜DP3＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①身体運動や筋収縮を実際に触知し、確認・学習する機会がある科目は、作業療法士の教育課程では限られている。数少ない学習機会に、確実に習得するという自覚を持って臨むこと。
②学習部位の触知がしやすい衣類を着用。
③グループで実習を行う。全員で協力して取り組むこと。

教科書

『PT・OT のための運動学テキスト』小柳・西村・山下・大西編　金原出版株式会社

参考書

『基礎運動学』中村・斎藤・長崎著　医歯薬出版
『図解　四肢と脊椎の診かた』野島元雄監訳　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階教職員室/月曜火曜 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	コースオリエンテーション・総論・運動学の基礎	予習：教科書 P2-57 復習：教科書・プリント 予習復習時間は 4 時間	中西
2	運動学の基礎	予習：教科書 P2-57 復習：教科書・プリント 予習復習時間は 4 時間	中西
3	肩甲帯の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は 4 時間	中西
4	肩甲帯の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は 4 時間	中西
5	肩の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は 4 時間	中西
6	肩の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は 4 時間	中西
7	肘・前腕の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成	中西

		予習復習時間は4時間	
8	手関節の骨関節運動	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
9	手関節の骨関節運動	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
10	手の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
11	骨盤帯・股関節の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
12	膝関節・下腿の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
13	足関節・足の骨関節運動と筋の機能	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
14	頸部・体幹の骨関節運動と筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
15	脊髄レベルと主要筋	予習：該当部位の筋骨系解剖学 復習：教科書・プリントの授業終了範囲、ワークシートの完成 予習復習時間は4時間	中西
成績評価方法と基準			割合
平常点：20%（小テスト、ワーク提出など） 定期試験：80% 平常点と定期試験の点数を合わせて100点とする。			平常点 20% 定期試験 80%

授業科目名	リハビリテーション概論(作業)（Introduction to Rehabilitation）				
主担当教員	由利 禄巳		担当教員	由利 禄巳	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜3限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

リハビリテーション概論では，リハビリテーションの全体像を理解し，作業療法のあり方を教授する．その主な指導内容は，リハビリテーションの概念，理念，歴史，リハビリテーションの対象となる障害，障害の意味（国際障害分類および国際生活機能分類による），障害者の種別と人数，障害者の心理，リハビリテーションチームの構成と関連職種，リハビリテーションの関係施設（病院リハ，高齢者入所施設リハ，通所リハ，訪問リハ等），リハビリテーションの諸制度と関係法規および行政に関することである．さらに，作業療法の4領域（身体障害，精神障害，老年期障害，発達障害）の実践報告を行い，作業療法のイメージを強化する．

到達目標

1．リハビリテーションに対する理解と関心を深める．＜DP①②③＞
2．リハビリテーションに関連するTVや新聞記事等，身近な情報を積極的に収集・分析する．＜DP①②③＞
3．社会におけるリハビリテーションの位置づけや役割を考える．＜DP①②③＞
4．リハビリテーションの全体像を解説できる．＜DP①＞
5．リハビリテーションの定義，歴史，目的を学ぶ．＜DP①③＞
6．リハビリテーションの学問体系と技術体系を説明できる．＜DP①②③＞
7．施設別，病期別リハビリテーションにおける対象者の理解の方法，治療手段，治療原理について説明できる．＜DP①②③＞
8．作業療法の4領域（身体障害，精神障害，老年期障害，発達障害）をイメージできる．＜DP①②③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，ノートを授業後に整理して復習をしてください．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」のリハビリテーションの理念についての特集を積極的に読んでください．

教科書

『リハビリテーション　ビジュアルブック　第2版』学研メディカル秀潤社

参考書

『最新リハビリテーション医学　第3版』江藤文夫，里宇明元/医歯薬出版
『ICF国際生活機能分類ー国際障害分類改定版ー』中央法規出版

研究室／オフィスアワー

木納：木曜日2限目（10：40-12：10）
金尾：水曜日の1限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーションの概念	予習・復習：リハビリテーションの歴史をまとめる（4時間）．	
2	①リハビリテーション関連制度 ②リハビリテーションと心理	予習：医療・介護・保健に関する制度と社会資源について自己学習する（2時間）． 復習：障害受容について考え，まとめる（2時間）．	
3	リハビリテーションの理解 1　（バリアフリー展への参加）	予習：バリアフリー，ノーマライゼーションについて自己学習する（2時間） 復習：バリアフリー展参加後に資料を整理する（2時間）．	
4	リハビリテーションの理解 2　（高齢者・障がい者の方の快適な生活）	予習・復習：バリアフリー展の資料をまとめ，発表の準備をする（4時間）．	
5	ADL，QOL	予習・復習：ADLとQOLについてまとめる（4時間）．	
6	リハビリテーションの理解 3　（発表）	予習・復習：他班の発表を聞き，高齢者・障がい者の方の快適な生活について発表できるようにまとめる（4時間）．	
7	リハビリテーションの理解 4　（発表）	予習・復習：他班の発表を聞き，高齢者・障がい者の方の快適な生活について発表できるようにまとめる（4時間）．	
8	身体障害のリハビリテーヨンの展開．リハビリテーションの評価とプログラム 2（ICIDH，ICF含む）（作業療法，チームアプローチ，手段，対	予習：身体障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる（2時間）． 復習：ICFに関する資料を読み，講義後に ICF	

	象者）	の意義をまとめる（2 時間）.	
9	精神障害のリハビリテーションの展開（作業療法，チームアプローチ，手段，対象者）	予習：精神障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる（2 時間）. 復習：ICF に関する資料を読み，講義後に ICF の意義をまとめる（2 時間）.	
10	老年期障害のリハビリテーションの展開（作業療法，チームアプローチ，手段，対象者）	予習：老年期障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる（2 時間）. 復習：ICF に関する資料を読み，講義後に ICF の意義をまとめる（2 時間）.	
11	発達障害のリハビリテーションの展開（作業療法，チームアプローチ，手段，対象者）	予習：発達障害領域のリハビリテーションの枠組みをまとめる（2 時間）. 復習：ICF に関する資料を読み，講義後に ICF の意義をまとめる（2 時間）.	
12	臨地見学実習に必要となるリハビリテーションの知識と技術	予習・復習：臨地実習施設の特徴や作業療法士の施設内での役割についてまとめる（4 時間）.	
13	理学療法	予習・復習：理学療法士の役割をまとめる（4 時間）.	
14	医療人としての資質	予習：日本作業療法士協会の倫理規定を読む（1 時間） 復習：医療人に必要な接遇・マナーを整理する（3 時間）.	
15	リハビリテーションにおける協業	予習・復習：リハビリテーション関連団体について学び、まとめる（4 時間）.	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験＜DP①②＞ ②ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ課題＜DP①②③＞			①80% ②20%

授業科目名	公衆衛生学(作業)（Public Health）				
主担当教員	今村　行雄		担当教員	今村　行雄	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、衛生･公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、衛生･公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。さらに、世界における日本の現状および動向について理解し、日本における公衆衛生のあり方について考える。

到達目標

私たちの生活や健康は、社会の制度に支えられている。公衆衛生学は、健康を支える制度そのものである。公衆衛生の歴史や体制、内容を知り、自らの生活や健康を守り、向上を図るための知識を習得する。
1．公衆衛生学とは何かを知る。
2．疫学について知り、曝露について理解する。
3．健康を害する因子を探り、予防とは何かを理解する。
4．健康維持のための施策について理解する。
5．日本の医療状況を理解し、世界各国の状況と比較できる。DP②③

履修上の注意（学生へのメッセージ）

1．公衆衛生学は、進歩する医療技術や研究成果だけでなく、国の情勢や法律、予算などにも左右され、変化していくものである。講義で習ったことは現時点での事実であることを認識し、講義終了後には統計データなどは最新のものを各自、調べて知識をアップデートする必要がある（特に国家試験前）ことに留意する。
2．新聞やニュースなどを通じて、社会情勢に目を向けること。
3．常に疑問を持ち、調べ、客観的に評価し、自分の知識を深めること。

教科書

なし。（参考書 1 に基づいて作成した配布資料を使って講義を進めます）

参考書

1. 学生のための現代公衆衛生（南山堂）
2. 公衆衛生が見える（メディックメディア）

研究室／オフィスアワー

非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康の科学としての公衆衛生学	課題：公衆衛生とは何か、WHO，疫学研究	
2	人口の動向	授業の復習 課題：人口の増減が社会生活にどう影響するか	
3	新生児・乳幼児期の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題：胎児、乳幼児期の保健を理解する	
4	青少年の保健	授業の復習 課題：学校保健について理解する	
5	成人期の保健	授業の復習と次回講義の予習 課題：生活習慣病について理解する	
6	老年期の保健と死の問題 1	授業の復習および次回の講義の予習 課題：高齢者福祉について理解する	
7	老年期の保健と死の問題 2	予習：シラバス・資料確認 課題：高齢者の健康についての諸問題について理解し、死や臓器移植について考察する	
8	心の健康と心身障害	予習：シラバス・資料確認 課題：精神保健について理解する	
9	環境の衛生	予習：シラバス・資料の確認 課題：環境とは何か、理解する	
10	環境汚染と公害	予習：シラバス・資料の確認 課題：公害問題について理解する	
11	感染症：微生物による病気	予習：シラバス・資料を確認 課題：感染症について理解	

12	食物と健康 1	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒について理解	
13	食物と健康 2	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒菌などの理解を深める	
14	職業生活と健康	予習：シラバス・資料の確認 課題：職業病について理解する	
15	保健・医療の行政	予習：資料の確認 課題：衛生行政の種類について理解する	
成績評価方法と基準			割合
試験（90%）+授業態度（10%）で評価します。試験で評価し、単位認定とする。 単位認定基準及び試験受験資格は、大学の規定に従う。DP②③			試験 90% 受講態度 10%

授業科目名	基礎作業学(作業)（Basic Occupational Science）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、中村　めぐみ、金森　幸、 小川　泰弘	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 4 限 月曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本講義は、作業療法の基礎となる作業活動についての実践を通し作業療法の学びを深めることを目的としている。作業療法の治療場面において用いる作業の実践と，作業活動を分析することによる治療への応用について考える．そして、作業療法治療計画の基礎を学ぶ機会を提供する。具体的には、手工芸の実践、作業活動の工程分析、作業療法理論を基盤とした、作業活動を治療として活用するための演習などが挙げられる。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

・作業療法で用いる作業活動の実践を通し，作業活動に必要な工程を知る<DP①④>
・作業活動の工程分析を通じ，作業活動に含まれる治療効果について理解する<DP①④>
・各作業種目に関心を持ち、作業手順を見て自ら作品づくりを行うことができる<DP①④>
・作業活動を行うことで、その作業実施に必要な環境・身体機能・材料・手順を書きだすことができる<DP①④>

本講義を通し、作業療法の核である「人が営む作業」に関心を持ち、集団の中で強調して動くことができるようになることが目標である。各種作業活動に関心を抱き、向上心を持って挑んでほしい。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書・参考書・配布資料などすべてに目を通すこと
作成した作品およびレポートの提出の厳守

教科書

作業活動　実習マニュアル　つくる・あそぶを治療にいかす　　改訂第 2 版　医歯薬出版株式会社

参考書

1. 標準作業療法学　専門分野　基礎作業学　第２版　編集：小林　夏子ほか　医学書院
2. 基礎作業学(作業療法学全書) 改訂第 3 版 澤田 雄二（著，編集），日本作業療法士協会（監修，監修）協同医書出版社

研究室／オフィスアワー

月曜日、木曜日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション：基礎作業学授業の概要と授業スケジュールを説明する。	教科書をあらかじめ見て目次と学んでおくべき点を知る。 予習・復習を 1 時間行うこと。	全教員
2	集団レクリエーション	経験した作業とその治療的応用と作業の教授法について理解する。 予習・復習を 1 時間行うこと。	全教員
3	マクラメ 基本的な編み方を実習。説明書をもとに編み方を理解し実践できる。	マクラメについて調べておく 予習・復習を 1 時間行うこと。	全教員
4	マクラメ 基本的な編み方を実習。説明書をもとに編み方を理解し実践できる	マクラメの作品を完成させ、治療的要素を理解する 作品とレポート提出 予習・復習を 1 時間行うこと。	全教員
5	絵画：キミコ方式を用いた絵画法を学ぶ。３原色で色作り。もやし，空を描く。	キミコ方式について調べておく 予習・復習を 1 時間行うこと。	全教員
6	絵画：キミコ方式を用いた絵画法を学ぶ。３原色で色作り。もやし，空を描く。	キミコ方式について調べておく 作品とレポート提出 予習・復習を 1 時間行うこと。	全教員
7	ダンス：臨床で実施されているリハビリテーションダンスを体験し、治療的要素を学ぶ。	ダンスセラピーについて調べておく。 レポート提出。 予習・復習を 1 時間行うこと。	全教員

8	作業分析の方法と理解①	作業分析について教科書を読んでおく。 これまでに書いたレポートを振り返る。 作業の分析の方法・内容の理解を深め、レポートに表現する方法を学ぶ。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
9	陶芸：①ひもづみで作る小鉢 ②手回しろくろで作るマグカップ 陶芸の基本的な流れ（作成ー素焼きー色付けー焼成）について学ぶ。	陶芸作品を本やインターネットでみて、気に入った作品をコピーして持参する 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
10	陶芸：①ひもづみで作る小鉢 ②手回しろくろで作るマグカップ 陶芸の基本的な流れ（作成ー素焼きー色付けー焼成）について学ぶ。	陶芸作品を本やインターネットでみて、気に入った作品をコピーして持参する レポート提出 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
11	金工①（七宝焼き）リスク管理について知る（オーブンの危険性を知る）②七宝焼で小物を作成する。	七宝について教科書やインターネットなどで調べておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
12	金工①（七宝焼き）リスク管理について知る（オーブンの危険性を知る）②七宝焼で小物を作成する。	七宝について教科書やインターネットなどで調べておく。 作品とレポート提出。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
13	木工：（ウッドラック作成） 工具の使用方法を学び，作品の完成図を作成し，採寸，木を切る	のこぎり，そして電動工具の安全な使用および道具の管理方法について知る。 木工における作業分析と木工の治療的要素について学ぶ。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
14	木工：（ウッドラック作成） 工具の使用方法を学び，作品の完成図を作成し，採寸，木を切る	木工における作業分析と木工の治療的要素について学ぶ。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
15	木工：（ウッドラック作成） 木の角の処理を行い、組み立てを行う	木工における作業分析と木工の治療的要素について学ぶ。 作品とレポート提出 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
16	作業分析の方法と理解②	作業分析について教科書を読んでおく。 これまでに書いたレポートを振り返る。 作業の分析の方法・内容の理解を深め、レポートに表現する方法を学ぶ。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
17	革細工： 革細工で使用する物品の把握と管理方法および使用方法について学ぶ	革細工でできている製品について調べておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
18	革細工：（コースター作成） 革のスタンピング・染色・仕上げ	革細工でできている製品について調べておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
19	革細工：（ケース作成） デザインのトレースから刻印まで	前回の復習と工程の理解をしておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
20	革細工：（ケース作成） デザインの刻印まで	前回の復習と工程の理解をしておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
21	革細工：（ケース作成） 刻印と色付けまで	前回の復習と工程の理解をしておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
22	革細工：（ケース作成） 刻印、色付け、金具付けまで	前回の復習と工程の理解をしておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
23	革細工：（ケース作成） 金具付けからレーシングまで	前回の復習と工程の理解をしておく。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
24	作業分析の方法と理解③	前回の復習と工程の理解をしておく。 作品とレポート提出 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
25	籐細工：かご作り 籐細工の基本的な編み方を学ぶ。	底編みから立ち上げまでを次回までに仕上げる。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
26	籐細工：かご作り 籐細工の基本的な編み方を学ぶ。	底編みから立ち上げまでを次回までに仕上げる。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
27	籐細工：かご作り かごを仕上げる。	籐細工の治療的因子と効果について学ぶ。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
28	籐細工：かご作り かごを仕上げる。	籐細工の治療的因子と効果について学ぶ。 作品とレポート提出 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
29	教授法：経験した作業とその治療的応用と作業の教授法について理解する。	教授法について学び、作業を実践するだけでなく、対象者に教えるために必要な視点について学び、実践する。 予習・復習を1時間行うこと。	全教員
30	教授法：ペアになりお互いに作業を教え合う。	レポート提出 予習・復習を1時間行うこと。	全教員

成績評価方法と基準	割合
1.レポート点，2.提出物，3.定期試験 ・作業ごとにレポート課題がある。 作業工程の理解、作業分析、治療的要素などについて＜DP①④＞ ・定期試験（作業の治療的目的と作業分析，治療効果についての設問と基礎作業学領域における国家試験に出題される問題を解く＜DP①④＞ ・4/5以上の出席が必要。	1.40% 2.10% 3.50%

授業科目名	作業科学入門(作業)（Introduction to Occupational Science）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、小川　泰弘、由利　禄巳	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限 水曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

作業を分析して利用することは作業療法の核である．中でも大切なことは，クライエントが必要とする作業が，個人にとってどのような意味を持ち，どの程度ニーズに沿ったものであるのかということである．対象者を作業的存在として捉え，クライエント中心の援助が行えるよう作業の概念を構築する．また，実際の作業場面を通して，その人らしさや作業ニーズをとらえる技術を教授する．

（横井　賀津志：前半 7 回）
作業療法評価および介入の核となる作業について，より深く作業を分析（作業の形態，作業の意味，作業の機能，作業の領域）できるようにする．加えて，作業の歴史を振り返ることの重要性を知り，作業的存在の意味を考察できるようにする．

（橋本　弘子：後半 8 回）
人が日々の生活へ参加・従事することは，毎日の生活における満足感や健康を達成する可能性を担っている．そこでまず自身の生活を振り返り，その日常生活についてどのような環境のもと活動参加が可能になっているかを分析的に捉えることができるようにする．

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1．すべての人によりよい作業があることを知り，その人を定義づけられる作業に関心を持つ．（作業とは何かを説明できる）＜DP①＞
2．作業により，その人が存在するという考えを持つようになる．（作業的存在を説明できる）＜DP①＞
3．その人にとって必要な作業の形態，意味，機能が何であるかを考えるようになる．（作業の特性を説明できる）＜DP①＞
4．クライエント中心の作業療法実践のために，作業を分析し，必要とする作業を引き出すためのマネジメントツールを使用できる．そして，マネジメントが生活行為向上につながることを説明できる．（作業ニーズを捉えることができる．作業基盤の介入プロセスを説明できる）＜DP①②＞
5．人にとっての「生活」の意味を考えながら、日常生活における意味ある作業とは何かを考える視点を持つことができるようになる．（作業の視点で人を捉えることができる）＜DP①②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業後にノートを整理して復習してください．また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の中で，作業に焦点を当てた特集を積極的に読んでください．

教科書

『「作業」って何だろう 第 2 版 作業科学入門』　吉川ひろみ / 医歯薬出版

参考書

1)　Ruth Zemke（編著），Florence Clark（編著），佐藤 剛（翻訳）：作業科学―作業的存在としての人間の研究．三輪書店．
2)　エリザベス・タウンゼン（編著），ヘレン・ポラタイコ（編著），吉川ひろみ（監訳），吉野英子（監訳）：作業療法の視点続 作業を通しての健康と公正．大学教育出版．
3) 吉川ひろみ：カナダモデルで読み解く作業療法．シービーアール．

研究室／オフィスアワー

木曜日 2 限　(10：40-12：10)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	「作業」とは何であるか	予習：「作業」の定義をまとめる．作業と活動の違いをまとめる（2 時間）． 復習：自分の作業と他者の作業を比較する（2 時間）．	由利
2	「作業」の特性	予習：「作業」の 3 つの特性をまとめる（2 時間）． 復習：「作業」に共通する特性とは何かをまとめる（2 時間）．	由利
3	「作業」の分析	予習・復習：身内の「作業」を分析する（4 時間）．	由利
4	「作業」は健康に寄与する	予習：身内の作業について聞き取りレポートを書く（3 時間）． 復習：他学生の聞き取りレポートの内容と比較し，個別性があることをまとめる（1 時間）．	由利
5	「作業ニーズ」を見つけるための方法	予習・復習：身内に COPM を実施する（4 時間）．	由利
6	「作業」歴の分析，作業バランス	予習：作業に焦点をあてたライフコースを作成する（2 時間）． 復習：自分は何者であるかを作業的に検証する（2 時間）．	由利
7	①「作業」を基盤とした症例報告 ②前半担当分の定期試験	予習：作業的存在とは何かまとめる（2 時間）． 復習:作業的公正とは何かをまとめる(2 時間)．	由利
8	生・老・病・死を考える　1	予習：テーマ（老）について考えまとめる（2 時間） 復習：テーマ（老・生）について考えまとめる（2 時間）	橋本
9	生・老・病・死を考える　2	予習：テーマ（老・病気）について考えまとめる（2 時間） 復習：テーマ（老・生・死）について考えまとめる（2 時間	橋本
10	生・老・病・死を考える 3	予習：テーマ（生・老・病・死）について発表準備（2 時間） 復習：人はどうやって生き、死んでいくのが幸福につながるのかを考え、まとめる（2 時間）	橋本
11	生活を送るとは	予習：：生活はどんな活動で構成されているのかを考える（2 時間） 復習：生活における活動を ICF の概念に基づいて分類し、生活はどのように成り立っているかを考える（2 時間）	橋本
12	自身の生活を知る	予習：自身の生活はどのように成り立っているかを、過去と現在の生活をワークシートに表し知る（2 時間） 復習：自身の生活はどのように成り立っているかをレポートを作成する（2 時間）	橋本
13	自身の今後の生活を考える	予習：これまでの自身の生活の過去，現在，希望から今後を考えまとめる（2 時間） 復習：自身の希望を今後につなげて考えていくためにはどういった因子が必要かをまとめる（2 時間）	橋本
14	生活における作業の重要性について知る 1	予習：生活の中の作業はどんな行為から成り立っているかを考える（2 時間） 復習：日常生活における作業の活動分析を行いまとめる（2 時間）	橋本
15	生活における作業の重要性について知る 2	予習：生活に必要な作業とどんな活動で成り立っているかをまとめる（2 時間） 復習：生活の中の作業はどんな行為から成り立っているか，またその行為を可能にする機能は何かを考える．レポートを作成する（2 時間）	橋本

成績評価方法と基準	割合
①定期試験＜DP①②＞ ②課題レポート，グループワーク課題および発表＜DP①②＞	①80% ②20%

授業科目名	作業療法概論(作業)（Introduction to Occupational Therapy）				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

世界と日本の作業療法の歴史を学び、作業療法が人の健康と幸福に貢献する専門職であることを確認する。日本や大阪における各領域の先人の功績を知る機会を通じて、自分たちがどのような作業療法士になりたいのか自らイメージできるように、自分自身で調べ創造する姿勢を身につける。市民として地域に貢献できる作業療法士のキャリアデザインを行い、自分の人生とともにある作業療法を構築する。この授業は予習内容を発表して議論し、対象者に医療職として出会う準備をする。後半の授業では実際に当事者の経験を伺い、傾聴の姿勢など、臨床にむかう態度を学ぶ。※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．世界と日本の作業療法の歴史を説明できる。〈DP①〉
２．自分や家族の健康な生活に必要な「作業」を捉えることができる。〈DP①〉
３．どんなに重い障害をもっていても、人を「作業的存在」として捉えることができる。〈DP①〉
４．障害を受けた人に必要な「作業療法」を説明できる。〈DP①〉
５．「どのような作業療法士になりたいか」現実的に説明できる。〈DP①〉
６．「作業療法」を支える理論的枠組みを説明できる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

これから、自分が取り組む「作業療法士」という職業を正しく理解し、学校や地域で学ぶ姿勢を高めてほしい。人との出会いや地域での医療と生活に向き合うことで、人の「作業」を理解し、地域に貢献できる作業療法士になることを、自分自身の成長の課題として、現実的に捉えてほしい。

教科書

作業療法学ゴールドマスターテキスト「作業療法概論」Medical View

参考書

『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント2015(日本作業療法士協会著)』医歯薬出版社
『大阪作業療法ジャーナル』

研究室／オフィスアワー

月曜日：10:40～12:10

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	イントロダクション・作業療法は難しいか	予習：シラバス・教科書（P.0-20）質問を準備する 復習：資料を作成し家族や友人に作業療法を説明する	伊藤
2	作業療法の歴史	予習：分担領域の作業療法の歴史を調べる（教科書 p22-84） 復習：年表を作成する	伊藤
3	作業療法の対象	予習：教科書（P.96-194）に基づいて調査 復習：実際の地域の作業療法士を調査する	伊藤
4	自分の健康と必要な医療機関の調査	予習：自分や家族の健康状態の調査と二次医療圏の医療機関調査 復習：必要なィ慮う情報の調査	伊藤
5	「ライフステージ」年令や時期による「価値観」の違いやその時期の作業を知る	予習：家族や高齢者への聞き取り(生活時間や作業バランス、ライフヒストリー） 復習：地域医療（二次医療圏）の現状を知る	伊藤
6	生活の中の「作業」を調べる、人にとっての「意味ある作業」とは何か理解する	予習：一日、一週間、一月、一年の作業分析 復習：自身の健康な生活ｔと作業について考える	伊藤
7	作業療法の周辺（関連する学問と職種）	予習：学習すべき項目の整理（教科書 P.196-225） 復習：疾病について調査する方法を確認する	伊藤
8	「障害」のある人の「生活」と「人生」と「作業療法」	予習：当事者に会う前に調べる事や質問の準備 復習：当事者の「生活」と「人生」を考える	伊藤
9	「法・制度・サービス」障害者の生活実態を学び、「自立生活」を考える	予習：当事者を取り巻く地域資源を調べる 復習：居住地の資源を報告する	
10	「作業療法プロセス」「活動/参加支援」「移行期支援：人生の転換期を支える」	予習：関心のある人生の移行期を調べる 復習：小テスト	
11	周産期・NICU・乳幼児期を取り巻く問題と作業療法	予習：人の出生にまつわる制度を知る 復習：自分の出生について考える	
12	就学を取り巻く状況と作業療法「特別支援教育とインクルーシブ教育」	予習：自分の学生時代を振り返る 復習：子どもを育てる環境と制度を調べる	
13	自立支援・就労支援　世界の障害者自立運動や当事者運動を知る	予習：障害者総合支援法を調べる 復習：障害者差別解消法を理解する	
14	ライフクライシス・高齢化　障害を持ったり高齢化することと作業療法	予習：身近な高齢者と話す 復習：自分のできる支援を考える	
15	「管理・運営、記録と報告」作業療法士のキャリアデザインをレポートする	予習：自分の目指す作業療法を考える 復習：そのために、何をするか考える	

成績評価方法と基準	割合
①出席/授業シートの提出　授業態度　〈DP①〉	①20%
②発表　〈DP①〉	②20%
③レポート　〈DP①〉	③20%
④定期試験　〈DP①〉	④40%

授業科目名	作業療法評価学総論(作業)（General Occupational Therapy Evaluation）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、松下　太、小川　泰弘	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 3 限 金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

作業療法を実施するには，クライエントの作業ニーズを把握する必要がある．そして，クライエントの心身機能とクライエントを取りまく環境，クライエントが必要とする作業の 3 つの側面と治療計画が適切に関係づけられなければならない．そのためには作業を基盤とした評価が重要になる．評価は，作業ニーズの把握，作業遂行の観察，検査測定から得た情報を整理・分析・解釈することで対象者の全体像を把握し，問題点と強みを明らかにして作業療法での対応課題を導き出していく一連の過程である．この講義では，作業療法評価の意義と目的，対象と過程，評価の流れなど講義形式で評価の概要について学修する．そして，今後習得する領域別の評価学に結び付けるための手掛かりとする．

横井（前半 7 回）
作業を必要としている全ての方を対象に，作業療法プロセスで必要となる評価（「作業ニーズの特定」，「作業遂行の観察」，「全体像の予測と焦点化」，「全体像の再構成」）の流れについて学修する．

橋本・小川（後半 8 回）
精神障害における対象者の生活上の困り事と必要な作業ニーズを把握するため，精神障害リハビリテーションの歴史，精神障害の実態とニーズ，精神障害リハビリテーションの基本的な考え方を教授する．その上で精神障害作業療法評価に対するプロセスを教授する．

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1．障がいのある「その人」を評価するという ICF の概念を学び，「その人」に関心を持つ．＜DP①＞
2．作業療法評価の意義と目的を理解し，口頭で説明できるようになる．＜DP①＞
3．作業療法プロセスについて図を用いて表出できるようになる．＜DP①＞
4．作業療法全体のプロセスを理解した上で，作業療法評価を正しく捉えることができる．＜DP①＞
5．精神科作業療法の必要性について述べ評価の視点について説明できるようになる．＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

準備学習として，ノートを授業後に整理して復習をしてください．
また，図書館で雑誌「作業療法」や「作業療法ジャーナル」の作業療法評価関連の特集を積極的に読んでください．

教科書

1)『標準作業療法学・専門分野　作業療法評価学　第 3 版』　岩崎テル子，他/医学書院
2)『ベッドサイドの神経の診かた　改訂 17 版』　田崎義昭，斎藤佳雄，坂井文彦/南山堂
3)『国際生活機能分類 ICF の理解と活用』　上田敏/萌文社　ISBN978-4-89491-096-6
4)『精神障害と作業療法　新版』　山根　寛/三輪書店　ISBN978-4-89590-583-1

参考書

授業内で随時提示します．

研究室／オフィスアワー

木曜日 2 限　(10：40-12：10)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	作業ニーズの捉え方およびニーズの優先順位．	予習：作業ニーズとは何かをまとめる(2 時間)． 復習：作業療法介入プロセスを図示する（2 時間）．	横井
2	作業療法評価の意義と目的，リハビリテーション評価の手順（情報収集，面接，観察，検査測定，統合と解釈，問題点抽出）と作業療法評価の手順．	予習：リハビリテーション評価プロセスと作業療法プロセスを図示する（2 時間）． 復習：OTIPM を図示する（2 時間）．	横井
3	作業療法評価の手順①（目標設定，プログラム立案，プログラム実施，再評価，プログラム再考），ICF の概念と全体像の捉え方．	予習：配付した事例報告を読み込む（2 時間）． 復習：図示してきた作業療法プロセスを配布事例に当てはめる（2 時間）．	横井
4	作業療法評価の手順②（目標設定，プログラム立案，プログラム実施，再評価，プログラム再考），ICF の概念と全体像の捉え方．	予習・復習：配付した事例報告を読み込む（4 時間）．	横井
5	①記録方法 ②四肢形態計測	予習：解剖学の復習（2 時間）． 復習：SOAP 法により記載する練習（2 時間）．	横井
6	バイタル測定（脈拍・血圧）	予習：生理学の復習（2 時間）． 復習：多くひとの脈拍，血圧測定を経験する（2 時間）．	横井
7	作業療法プロセスのまとめ	予習：配布した事例報告を読み込む（2 時間）． 復習：作業療法評価の位置づけを再確認する（2 時間）．	横井
8	精神障碍者のとらえ方について事例を通して考える．	予習：配布した資料を読む．（2 時間） 復習：レポートを作成する．（2 時間）	橋本・小川
9	精神障害リハビリテーションの歴史 1 古代中世から近代までの歴史を学ぶ．	予習：精神科リハビリテーションの流れを調べておく(2 時間) 復習：歴史の流れを把握する　(2 時間)	橋本・小川
10	精神障害リハビリテーションの歴史 2 近代から現代までの歴史を学ぶ．	予習：精神科の歴史にとって要となる事件、法律などがある。それらの内容とその後に与えた影響などを各グループで調べ、発表できるようにする。　(2 時間) 復習：各グループの発表と自グループの内容をつなげて復習する。　(2 時間)	橋本・小川
11	精神科医療を取り巻く状況	予習：精神障害の患者数、入院患者数の推移を調べておく。精神科の入院形態について調べておく。　(2 時間) 復習：現在の精神科医療の動向について歴史を踏まえて考え、理解する。　(2 時間)	橋本・小川
12	精神科リハビリテーションの考え方	予習：リカバリーの概念について調べておく　(2 時間) 復習：精神科リハビリテーションについて理解する　(2 時間)	橋本・小川
13	精神科作業療法の視点を事例を通して学ぶ	予習：歴史と精神科医療の動向について小テスト準備　(2 時間) 復習：精神科作業療法の視点について　(2 時間)	橋本・小川
14	精神障害リハビリテーションにおける作業療法．	予習：シラバスに該当する教科書の部分を読んでおく。(2 時間) 復習：精神科作業療法がおこなわれる場と治療構造について理解する	橋本・小川
15	精神科作業療法の評価について	予習：場と治療構造に関する小テスト準備(2 時間) 復習：精神科作業療法の評価の目的と方法について理解する（2 時間）	橋本・小川

成績評価方法と基準	割合
①定期試験＜DP①＞ ②レポート課題，発表および小テスト＜DP①＞	①80% ②20%

授業科目名	日常生活活動学(作業)（Activities of Daily Living）				
主担当教員	小林　貴代		担当教員	小林　貴代、東　泰弘	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

日常生活動作とその概念を知り、疾病や障がいをもたらす問題点や課題を考える。誰もが繰り返し毎日営む、その人らしい日常生活動作を分析し、その過程を通して作業や活動の特性・個別性を知り、人としての生きる力を支えることへの理解を深める。作業療法士として QOL を支える基本動作（起居・移乗移動）・セルフケア（食事・排泄・整容・更衣・入浴・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ等）・応用動作・生活関連動作等の評価及び支援技術を理解し、QOL を向上させるための ADL 支援について学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１ADL の概念や評価方法について説明できる＜DP①＞
２動作分析・活動分析により日常生活活動の特性・個別性が理解できる＜DP①＞
３障がいﾓﾃﾞﾙと生活環境整備などの関連付けが説明できる＜DP①＞
４作業療法としての ADL 支援技術・適応技術について理解できる＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

＜授業の進め方＞
視聴覚教材・配布教材を用いた講義と、演習・ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議・発表などを並行して行う

教科書

作業療法学全書　作業療法技術学３　日常生活動作：協同医書出版：日本作業療法士協会監修

参考書

新版　日常生活活動（ADL）評価と支援の実際　：　医歯薬出版：編集伊藤利之ら
ADL（PTOT ビジュアルテキスト）第１版　：羊土社：柴喜崇編集

研究室／オフィスアワー

研究室 C 棟 7 階 19 号室にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション ADL の概念を知り、視聴覚教材にて理解を深める	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
2	ADL の総論：ADL・APDL・QOL 障がいの有無にかかわらず、人生を通しての生活を知る。生活機能から見た ADL の位置付けを知る。	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
3	ADL 各論：摂食活動の基礎 摂食嚥下の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
4	ADL 各論：排泄活動の基礎 排泄活動の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
5	ADL 各論：更衣・整容・入浴活動の基礎 更衣・整容・入浴活動の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
6	ADL 各論：移乗・移動の基礎 移乗・移動の基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
7	ADL 各論：コミュニケーションの基礎 コミュニケーションの基本を知り、評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
8	学外研修：ATC エイジレスセンターにて実習を行う	予習：今まで学習した ADL 各論の復習＜2 時間＞ 復習：学外研修で学んだことをレポートにまとめる＜2 時間＞	小林・東
9	ADL 応用：義肢装具と ADL 機能の代償である義肢装具の活用について評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
10	ADL 応用：自助具・福祉用具と ADL 機能の代償である福祉用具の評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
11	ADL 応用：自助具・福祉用具と ADL 自助具を作成、発表する	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
12	ADL 評価 1 ADL の構成要素や評価方法を知る	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
13	ADL 評価 2 各評価方法の特性を学び、体験する	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
14	ADL 応用：居住環境と ADL 機能の代償である居住環境の評価や支援の理論を学ぶ	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東
15	疾患別 ADL 支援技術 疾患別の特性に基づいた ADL の事例を通して、作業療法の生活機能向上支援技術としての ADL 支援を理解する	予習：シラバスに該当する教科書の確認＜2 時間＞ 復習：授業をもとにした教科書の確認＜2 時間＞	小林・東

成績評価方法と基準	割合
2/3 回以上の出席が必要 1.期末テスト＜DP①＞ 2.小テスト、レポート（ルーブリックにて評価）、課題提出＜DP①＞ これらを総合的に評価する	1.70% 2.30%

授業科目名	臨地見学実習(作業)（Clinical Observation Training）				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、横井　賀津志、伊藤　直子、松下　太、中村　めぐみ、中西　一、金森　幸、東　泰弘、小川　泰弘	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

保健・医療・福祉領域における臨地・臨床現場での見学実習を通して，作業療法の対象となる人々の特性を理解し，専門職，社会人としてのルールやマナーに基づいて行動できるようになることを目的にする．それに加えて，作業療法で用いる作業（セルフケア，生産活動，レジャー）の目的を考え，対象者とコミュニケーションの取り方についても解説する．さらに，対象者を中心としたリハビリテーションチームの構成について学び，その役割を把握する．

到達目標

1．1 年前期に開講される「リハビリテーション概論」や「基礎作業学」、「作業科学入門」などの知識を実際の臨床現場で確認できる．＜DP①＞
2．1 日の行動予定を立てるとともに，参加・見学した内容をデイリーノートにまとめる．デイリーノートには見たこと，体験したことなどの事実を記録し，事実に対する考察を記録できる．＜DP①④＞
3．実習生としての基本的態度をとることができる．＜DP①②③④＞
4．対象者を一人の人間として尊重する．＜DP①②③＞
5．実習指導者に必要な報告、連絡、相談ができる．＜DP①②④＞
6．自ら対象者とのコミュニケーションの機会を持つことができる．＜DP②③④＞
7．対象者の話を傾聴できる．対象者に不安を与えない対応ができる．＜DP②③④＞
8．見学した施設における作業療法の役割を述べることができる．＜DP①②＞
9．見学した施設におけるチームの役割を述べることができる．＜DP①②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．臨地見学実習前後に開催される実習セミナーには必ず出席すること．
2．臨地見学実習前に配布される実習の手引きを熟読し，分からない点は質問すること．
3．出席日数も評価対象とします．

教科書

指定教科書はなし．
随時資料配布

参考書

必要に応じて紹介する

研究室／オフィスアワー

各実習施設担当教員のオフィスアワーに準ずる．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1）病院・施設見学および作業療法場面を見学する． 2）施設の概要と作業療法の役割について学ぶ． 3）保健・医療・福祉の専門職としての基本的マナーを学ぶ．	予習・復習：実習オリエンテーションで説明した実習内容を十分に理解した上で，見学する施設の概要と作業療法の役割についてまとめる．そして、日々の学習内容をデイリーノートに整理する．また，疑問に感じたことを言語化して表出する準備を行う．	学科教員
2	1）病院・施設見学および作業療法場面を見学する． 2）施設の概要と作業療法の役割について学ぶ． 3）保健・医療・福祉の専門職としての基本的マナーを学ぶ． 4）「作業」の目的を学ぶ．	予習・復習：日々の学習内容をデイリーノートに整理する．また，疑問に感じたことを言語化して表出する準備を行う．	学科教員
3	1）施設の概要と作業療法の役割について学ぶ． 2）チーム医療について学ぶ．	予習・復習：見学施設の概要と作業療法の役割をまとめる．実習で学んだことをまとめる．	学科教員
4	学内セミナー	予習・復習：見学した内容について知識・技術・態度の面から再検討する．他の学生と情報交換して，実習で学んだことをまとめる．実習で指導を受けた内容について発展学習する．見学施設の概要と作業療法の役割をまとめ発表する	学科教員

成績評価方法と基準			割合
1．実習地での成績＜DP①②③④＞ 2．学内でのセミナー，提出物＜DP①②④＞ 1．2 より総合的に判断します			1．60% 2．40%

臨床検査学科

(2016 年度以降入学生カリキュラム)

授業科目名	英会話Ⅰ(検査)（English Conversation Ⅰ）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA013	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

英会話Ⅰでは、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話力を身につける。

到達目標

・自己紹介ができる。〈DP②〉
・最低限の日常会話ができる。〈DP②〉
・自分の考えを最低限伝えることができる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Common Verb-based Phrases: 基本動詞を用いた実用英語表現 (Yoshinori Tomoshige, Mark Taylor 著、南雲堂, 2017)、Expressions for Everyday Actions: 日常動作を表す英語表現 (Hidehiko Konaka 著、南雲堂, 2019)

参考書

英和・和英辞典

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 22 / 木曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Getting to know each other	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Introducing yourself	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about interests	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Greeting someone	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about family	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Asking and talking about family and relatives	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about people	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Describing what people look like	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about work	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Telling time	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about past experiences	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about vacations	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about sports	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about physical condition	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①口頭試問〈DP②〉 ②授業参加態度〈DP②〉 ③その他プレゼンテーションや課題など〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	英会話Ⅱ(検査)（English Conversation Ⅱ）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA014	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

英会話Ⅰに引き続き、英会話Ⅱでは英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で他人と関わる際に必要となる英会話力を身につける。さらに、自分の伝えたいことを的確に表現できる英語力の習得を目指す。

到達目標

・日常生活に困らない程度の会話ができる。〈DP②〉
・自分の考えを的確に伝えることができる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Common Verb-based Phrases: 基本動詞を用いた実用英語表現 (Yoshinori Tomoshige, Mark Taylor 著、南雲堂, 2017)、Expressions for Everyday Actions: 日常動作を表す英語表現 (Hidehiko Konaka 著、南雲堂, 2019)
ただし、英会話Ⅰの履修者は購入する必要なし。英会話Ⅱからの履修者のみ、購入すること。

参考書

英和・和英辞典

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22 木曜日 3 限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Talking about other countries	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Nationalities, languages and ethnic foods	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about experiences	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Asking about experiences	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about places	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Talking about Past Experiences	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about sports	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Talking about other countries	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about places	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Describing locations and asking directions	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about Japanese things	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about future events	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about school	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Talking about Health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
口頭試問 〈DP②〉 授業参加態度〈DP②〉 その他プレゼンテーションや課題など〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	30% 40% 30%

授業科目名	医学英語Ⅰ(検査) (English for Medicine Ⅰ)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA015	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。
将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。

到達目標

最低限患者とコミュニケーションがとれる。<DP②>
最低限の医学用語が理解できる。<DP②>
医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。
携帯電話の使用、私語は慎むこと。

教科書

実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 22 木曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Medical terminology	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Getting to know the patients 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Getting to know the patients 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Getting to know the patients 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	Getting to know the patients 4	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
7	Examination 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Examination 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Instruction medication	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Treating the patients	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Pubmedについて、論文の構成について	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Aritic1es on Medical Technology 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	Articles on Medical Technology 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Aritic1es on Medical Technology 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Review	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト<DP②> ②プレゼンテーションおよびその他課題<DP②> ③授業参加<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	医学英語Ⅱ(検査)（English for Medicine Ⅱ）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA016	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

医学英語Ⅰに引き続き、医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力の向上を目指し,臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法を学び、実際に自分で興味のあるテーマの論文を検索・収集する。そして、それらの論文から正確に情報を読み取るためのリーディングのスキルを習得する。
なお、医学英語Ⅰを履修していない者の受講も歓迎する。

到達目標

患者とコミュニケーションがとれる。〈DP②〉
基本的な医学用語が理解できる。〈DP②〉
医学分野の英語の論文から正確な情報を読み取ることができる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。
携帯電話の使用、私語は慎むこと。

教科書

実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）
（医学英語Ⅰを履修した者は、再度購入する必要はない。）

参考書

英和辞典

研究室／オフィスアワー

E棟４階研究室 22 木曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Treating the Patients 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Treating the Patients 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Treating the Patients 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Operation	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Pregnancy	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	In the Hospital	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	
		おくこと	
7	Emergencies	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Living a Healthy Life	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Review 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Articles on Medical Technology 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Articles on Medical Technology 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Articles on Medical Technology 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	Articles on Medical Technology 4	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Articles on Medical Technology 5	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Review 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト〈DP②〉 ②プレゼンテーションおよびその他課題〈DP②〉 ③授業参加態度〈DP②〉 2/3 回以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(検査)（Team Medical Care and Communication）				
主担当教員	関根　将		担当教員	関根　将、田畑　泰弘	
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療は医師のみが治療にあたるのではない。1 人の患者を中心に多職種の専門職が協働して
ケアにあたる必要がある。その為にはコミュニケーション能力が重要である。

到達目標

1.　　チームアプローチが必要な病態を学ぶ
2.　　患者への検査説明や療養支援の実際を学び、必要となるスキルを習得する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床検査技師の役割は患者の検査を担うのみではない。検査のプロフェッショナルとして専門的な知識を患者指導に役立てることも重要である。臨床の現場で求められている検査技師の知識は医療全体をカバーできるため、役割は多岐にわたっており、積極的な参画が求められている。検査技師ではなく、『臨床検査技師』として患者に寄り添うためのスキルを学ぶ意欲で望んで欲しい。

教科書

JAMT 技術教本シリーズ　臨床検査技師のためのチーム医療読本　　じほう社

参考書

適時資料配布

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階職員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	チーム医療のとらえ方(関根)	教科書 P2 から P8 予習	関根
2	患者を中心としたチームアプローチ①　(関根)	教科書 P9 から P14 予習	関根
3	患者を中心としたチームアプローチ②(関根)	教科書 P15 から P25 予習	関根
4	患者への直接支援①(田畑)	教科書 P26 から P35 予習	田畑
5	患者への直接支援②(田畑)	教科書 P35 から P40 予習	田畑
6	コミュニケーションスキル(関根)	教科書 P42 から P58 予習	関根
7	チームアプローチの実際①ＩＣＴ　NST(関根)	教科書 P60 から P76 予習	関根
8	チームアプローチの実際②糖尿病療養指導士 内視鏡技師(関根)	教科書 P77 から P92 予習	関根
9	病棟検査技師の役割(関根)	教科書 P95 から P112 予習	関根
10	検査相談室の実際(関根)	教科書 P114 から P129 予習	関根
11	臨床検査部門別での検査報告体制(関根)	教科書 P130 から P144 予習	関根
12	臨床検査技師による検査説明(田畑)	教科書 P146 から P160 予習	田畑
13	病院運営組織への臨床検査技師の参画(田畑)	教科書 P162 から P170 予習	田畑
14	チーム医療に必要なスキル①(田畑)	教科書 P172 から P180 予習	田畑
15	チーム医療に必要なスキル②(関根)	教科書 P181 から P197 予習	関根

成績評価方法と基準	割合
1.　　レポート提出 30 点　（次回の予習範囲をレポートとして授業前に提出）	1. 30%
2.　　定期試験　70 点 DP②③	2. 70%

授業科目名	健康管理学Ⅰ(検査)（Healthcare Management Ⅰ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病の危険因子が明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方の条件（強度・時間・頻度）に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウオーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。

到達目標

1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません。

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村愼一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動　3	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点　1 ウォームアップとウォームダウン　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点　2 ウォームアップとウォームダウン　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点　3 オーバーエクササイズによる身体的の問題	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	トレーニングでの注意点　4 障害を予防するためのアイシング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要			①70% ②30%

授業科目名	健康管理学Ⅱ(検査)（Healthcare Management Ⅱ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS023	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきている。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモーティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。

到達目標

1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村慎一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康管理について　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動　1 メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動　2 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動　3 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動　4 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動　5 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて 1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	ウォームアップとウォームダウンについて 2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 授業の 2/3 回以上の出席が必要			①70% ②30%

授業科目名	栄養学(検査)（Nutriology）				
主担当教員	西崎　大祐		担当教員	西崎　大祐	
科目ナンバリング	CS024	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択
授業概要					
身体を維持・運営することについて、食べ物はもちろん時代・社会環境をも含めた中での健康というものを考えることができる知識を身につけさせる。基本、教科書を使用。プリントで復習。					
到達目標					
生きるという事から考えると、食べることは重要だが、このことだけでは健康は手に入らない。栄養はもちろんのことだが、時代・社会・環境問題も含めた中での健康を考えられる知識を見につける。					
履修上の注意（学生へのメッセージ）					
プリントを渡しますので、復習をすること。					
教科書					
イラスト基礎栄養学（大口健司他著）東京教学社					
参考書					
特になし					
研究室／オフィスアワー					
授業前後の非常勤講師控え室					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	栄養の概念	１．栄養の定義 ２．栄養と健康・疾患 ３．遺伝形質と栄養の相互作用	
2	食物の摂取	１．空腹感と食欲 ２．食事のリズムとタイミング	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態	１．消化器系の構造と機能 ２．食物の消化・吸収・排泄の流れ ３．管腔内消化の調節 ４．膜消化・吸収 ５．栄養素別の消化・吸収 ６．栄養素の体内動態 ７．生物学的利用度	
4	たんぱく質の栄養①	１．たんぱく質代謝の特徴 ２．食後のたんぱく質代謝 ３．食間期のたんぱく質代謝 ４．たんぱく質代謝回転の調節機構	
5	たんぱく質の栄養②	５．たんぱく質の栄養管理 ６．アミノ酸代謝の臓器差 ７．たんぱく質の栄養価 ８．たんぱく質の栄養価判定 ９．アミノ酸の捕捉効果	
6	炭水化物の栄養①	１．食後の糖質代謝 ２．食間期の糖質代謝 ３．血糖の調節機構	
7	炭水化物の栄養②	４．エネルギー源としての糖質の特性 ５．他の栄養素との関連 ６．食物繊維・難消化性オリゴ糖の利用	
8	脂質の栄養①	１．脂質の体内代謝 ２．コレステロール代謝とその調節	
9	脂質の栄養②	３．摂取する脂質の量と質 ４．他の栄養素との関係	
10	ビタミンの栄養①	１．ビタミンの種類と構造 ２．ビタミンの生理機能 ３．ビタミンの栄養学的機能	

11	ビタミンの栄養②	４．ビタミンの生物学的利用度 ５．他の栄養素との関係	
12	ミネラル（無機質）の栄養①	１．ミネラルの分類と栄養学的機能 ２．硬組織とミネラル ３．生体機能の調節作用	
13	ミネラル（無機質）の栄養②	４．酵素反応の賦活作用 ５．鉄代謝と栄養 ６．ミネラルの生物学的利用度 ７．他の栄養素との関係	
14	水・電解質の栄養的意義	１．体内での水の働き ２．水の出納 ３．水分のバランス ４．水・電解質の代謝	
15	エネルギー代謝	１．エネルギー代謝の概念 ２．エネルギー消費量 ３．臓器別エネルギー代謝 ４．エネルギー代謝量の測定法	
成績評価方法と基準			割合
筆記試験			100%

授業科目名	身体運動科学(検査)（Science of Human Body Movement）				
主担当教員	外林　大輔		担当教員	外林　大輔	
科目ナンバリング	CS025	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて学び、身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニングや栄養との関連性について学ぶ。

到達目標

運動がもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の重要さを理解し、資格取得後の現場に活かせる知識と考え方を身に付ける。〈DP③〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

最新のデータや知見を踏まえて講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらいので、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などありましたら、遠慮なくお寄せください。

教科書

授業時に配布するプリント

参考書

改訂版 運動生理学の基礎と発展（春日規克著・フリースペース）
運動生理学のニューエビデンス（宮村実晴著・真興交易医書出版）

研究室／オフィスアワー

大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。
sotobayashi@morinomiya.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	身体運動科学の概要	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動と筋・骨格①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	運動と筋・骨格②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	ストレングス＆コンディショニング	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	柔軟性の科学①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	柔軟性の科学②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動と循環①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動と循環②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	運動と呼吸	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	運動と免疫	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	運動と栄養	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

12	運動と食生活	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	フィジカルチェック	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	脳振盪	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ・試験対策	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
1.授業の 3 分の 2 以上の出席が必要です。 2.期末テスト 60 点以上で単位認定とします。〈DP③〉			①100%

授業科目名	漢方医学概論(検査)（Introduction to Kampo Medicine）				
主担当教員	生島　忍		担当教員	生島　忍	
科目ナンバリング	CS026	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

現在の私たちの日常生活では、東洋医学ないし漢方医学に関する知識が、相対的に必要となっている。本講義では、学生諸氏が標準的で正しい知識を得られるよう、意図しています。しかし、鍼灸を専攻しない学生のための選択科目なので、詳細には立ち入らず、東洋医学に興味がもてるよう、また東洋医学の具体的な内容については、世界標準である「中医学（=中国伝統医学）」にもとづいて、講義をします。

到達目標

中国伝統医学の萌芽、形成と成立、内容、理論などを理解する。
中国伝統医学は、2000 年ほど昔に成立したいくつかの経典を基本に、徐々に内容が追加されて現在に至ったものです。内容は自然科学ではなく、むしろ人文科学に近いものといえます。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義では、全 15 回で教科書の前半のみ、第 3 章まで（p. 126 まで）を学習したい。以降の部分は各自が自己の興味に応じて学習されるとよい。教科書はカラーでイラストが多く一見やさしそうだが、大部分の学生諸君にとっては、たぶん生まれて初めて目にする内容にて、暗記が必要となるので、心して取り組んでください。

教科書

「オールカラー版・基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書」ナツメ社、2014 年初版。¥1.500+税。
必要に応じて適宜、参考資料を配布する。

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

兼任講師のため、授業の前後に兼任講師控室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	第 1 章　東洋医学的なカラダを理解しよう、臓腑論、東洋医学的人体論、人体関連図。肝、心。（p. 7～15）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
2	脾、肺、腎；胃、小腸・大腸・膀胱。（p. 16～23）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
3	胆、三焦、脳、胞宮、骨・脈・髄、五官、その他。（p. 24～32）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
4	第 2 章　東洋医学基礎講座、東洋医学概論①―東洋医学の成立と発展、東洋医学概論②―現代医学と東洋医学の違い。基本理論①―陰陽論。（p. 33～39）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
5	基本理論②―五行論、基本理論③―五行色体表、基本理論④―整体観念。（p. 40～45）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
6	気血津液概論①―気・血・津液、気血津液概論②―気の概念、気血津液概論③―気の不調、気血津液概論④―血の概念、気血津液概論⑤―血の不調。（p. 46～55）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
7	気血津液概論⑥―津液の概念、気血津液概論⑦―津液の不調、気血津液概論⑧―精の概念、気血津液概論⑨―精の不調。（p. 56～63）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
8	蔵象学説①―蔵象学説の基礎理論、蔵象学説②―肝の不調、蔵象学説③―心の不調、蔵象学説④―脾の不調。（p. 64～71）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
9	蔵象学説⑤肺の不調、蔵象学説⑥―腎の不調、蔵象学説⑦―六腑の不調、蔵象学説⑧―奇恒の腑の不調。（p. 72～80）	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
10		事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
11	病因④―不内外因、病機―病気の進行、診察法①―四診による診察、診察法②―望診―全身・	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	

	局部。(p. 90～97)		
12	診察法③—望診—舌、診察法④—聞診、診察法⑤—問診—寒熱・汗、診察法⑥—問診—痛み。(p. 98～105)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
13	診察法⑦—切診—脈診、診察法⑧—切診—腹診、弁証論治①—弁証する(診断する)、弁証論治②—八綱弁証とは? (p. 106～113)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
14	弁証論治③—八綱弁証—表裏・寒熱、弁証論治④—八綱弁証—虚実・陰陽、弁証論治⑤—その他の弁証。(p. 114～121)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
15	治則①—治病求本・扶正?邪など、治則②—治法を決める。(p. 122～126)	事前に教科書の該当範囲を読み、授業後にもう一度振り返ること	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験 ②レポート課題			①80% ②20%

授業科目名	統合医療概論(検査) (Introduction to Integrative Medicine)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、森 美侑紀、増山 祥子	
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 4 限 月曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素であるEBMと補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。

到達目標

1．統合医療の概念と現状について理解する。
2．EBMの概念と手法について理解する。
3．補完代替医療の種類と概要について説明できる。
4．各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。

教科書

資料を配布する。

参考書

各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟24研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM	EBMについて調べる	山下
3	EBMシミュレーション	自分の専門領域のエビデンスについて調べる	増山
4	EBMと診療ガイドライン	自分の専門領域または興味のある疾患の診療ガイドラインを調べる	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	利益相反状態と利益相反行為の違いについて調べる	山下
6	補完代替医療概論	代替医療と補完医療の違いについて調べる	山下
7	代表的な補完代替療法	自分が興味のある補完代替療法についてネットや図書館で調べる	山下
8	鍼灸と経穴	鍼灸に関する書籍や雑誌を図書館で調べる	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
11	ヨガ・マインドフルネス	ヨガ・マインドフルネスに関するネット動画を見る	増山
12	サプリメント	興味のあるサプリメントを幾つか選んでその広告の内容に関する疑問点を調べる	山下
13	統合医療とスピリチュアルとNBM	スピリチュアルという概念について調べる	山下
14	緩和ケア・難病ケアと統合医療	末期がんまたは難病の患者の実情について調べる	増山

15	総括：統合医療は何を統合するのか	14 回までに習った内容を整理する	山下
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②課題提出物			①70% ②30%

授業科目名	生化学実習(検査)（Biochemistry (Practice)）				
主担当教員	森 誠司		担当教員	森 誠司、佐伯 康匠	
科目ナンバリング	SB107	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 4 限 木曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体を構成する有機物質および高分子物質の性質と機能ならびにそれらの合成と分解のメカニズムを理解する。生化学および生化学各論の講義で学んだ生体構成物質それぞれについて特異的な定性法や定量法、また混合物から特定の生体成分の分離同定をおこなう。酵素反応に関しては反応速度の実験から酵素の性質や機能について学修する。これら生化学的実験を通して生命現象は様々な物質と化学反応から構成されるものであることを理解する。

到達目標

以下のような事項を理解し実践できるようにする。
１．分光光度計をはじめ機器の正しい取り扱いができる
２．生化学実験の組み立てと論理の進め方を理解できる。
３．生体物質分析の原理について説明できる DP①④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

実習を通して生化学をより深く理解し、科学的操作や物質の定量的測定法になれ、分析することの重要性を修得する。共同実験者と協調的かつ丁寧に実習すること。

教科書

配布する実習書

参考書

シンプル生化学　（南江堂）

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、機器の基本的な取り扱いについて	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
2	アミノ酸の定性／定量－１	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
3	〃	〃	
4	アミノ酸の定性／定量－２	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
5	〃	〃	
6	糖質の定性／定量－１	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
7	〃	〃	
8	糖の定性／定量－２	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
9	〃	〃	
10	酵素活性の測定	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
11	〃	〃	
12	タンパク質の分離／精製	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
13	〃	〃	
14	タンパク質の定量法	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	

15	〃	〃	
成績評価方法と基準			割合
テーマごとにレポートをまとめ期限内に提出すること。 レポートの点数が基準点に満たないものは救済として再試験期間中に筆記試験をおこなう。 4/5 以上の出席が必要。DP①④			レポート 100%

授業科目名	小児医学(検査)（Pediatrics）				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

未来を担う子どもたちの健やかな成長は、人類共通の願いであると言える。子どもをとりまく医療水準は、近年、飛躍的進歩を遂げているが、他方、今日でもなお、病気で苦しむ子どもたちが多いことも事実である。本講義では、小児期に特徴的な疾患の知識・考え方について学修する。

到達目標

1.　各種臓器に起こる小児疾患の特徴・病態を、論理的に理解する。
２．各種小児疾患の原因、病理、症状などについて、説明できる。DP②③

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１．　講義は教科書を中心に進めるが、講義を聞かずに教科書を読んでも理解が難しいと考えられるので、講義には出席すること。
２．　わからないことは、積極的に質問すること。

教科書

小児臨床看護各論　（医学書院）

参考書

標準小児科学　第８版、医学書院

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	染色体異常	学習予定の教科書の部分を予習すること。「染色体異常」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
2	新生児疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「新生児疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
3	小児代謝性疾患、　小児内分泌疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児代謝性疾患、　小児内分泌疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
4	小児免疫疾患・アレルギー疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児免疫疾患・アレルギー疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
5	小児感染症・呼吸器疾患①	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児感染症・呼吸器疾患①」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
6	小児感染症・呼吸器疾患②	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児感染症・呼吸器疾患②」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
7	小児循環器疾患①	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児循環器疾患①」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
8	小児循環器疾患②	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児循環器疾患②」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
9	小児消化器疾患①	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児消化器疾患①」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
10	小児消化器疾患②	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児消化器疾患②」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	

11	小児血液・造血器疾患、　小児悪性新生物	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児血液・造血器疾患、　小児悪性新生物」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
12	小児腎・泌尿器・生殖器疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児腎・泌尿器・生殖器疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
13	小児神経疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児神経疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
14	小児運動器疾患、　小児皮膚疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児運動器疾患、　小児皮膚疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
15	小児眼疾患、　小児耳鼻咽喉疾患	学習予定の教科書の部分を予習すること。「小児眼疾患、　小児耳鼻咽喉疾患」について、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
定期試験を行う。　　毎回の講義で、小テストを行う。DP②③			定期試験 80% 小テスト 20%

授業科目名	老年医学(検査)（Geriatrics）				
主担当教員	前川　佳敬		担当教員	前川　佳敬	
科目ナンバリング	SB110	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

現在の日本は、これまで先進国が経験したことがないスピードで超高齢社会に突入している。高齢者医療・介護・福祉は、現代社会における大きな課題であり、これからの医療者にとって老年医学は必要不可欠の学問である。

到達目標

１高齢社会の現況とその対策
２老化による生体の構造や機能の変化
３高齢者の代表的疾患と特徴
４高齢者の介護・福祉
などを習得する DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

老年医学に関する知識や情報を習得するだけではなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようになってほしい。

教科書

指定の教科書はありません。
随時資料を配布します。

参考書

老年医学　系統講義テキスト　日本老年医学会
老年病・認知症～長寿の秘訣～　監修：荻原俊男

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	老年医学総論	毎回レジュメは用意し、参考書などから図表を抜粋する。授業で学んだ内容を再確認しておくこと。	
2	老年医学を学ぶうえでの基本的な事項	〃	
3	老化メカニズムと老化制御	〃	
4	高齢者の診かたと高齢者総合機能評価	〃	
5	老年症候群	〃	
6	臓器の加齢変化と老年疾患の発症（１）	〃	
7	臓器の加齢変化と老年疾患の発症（２）	〃	
8	老年疾患の臨床に必要な基礎知識（１）	〃	
9	老年疾患の臨床に必要な基礎知識（２）	〃	
10	高齢者における主な疾患（１）	〃	
11	高齢者における主な疾患（２）	〃	
12	高齢者における主な疾患（３）	〃	
13	高齢者における主な疾患（４）	〃	
14	高齢者の介護と在宅医療	〃	
15	高齢者の緩和医療・終末期医療	〃	

成績評価方法と基準	割合
筆記テスト	筆記テスト 100%

授業科目名	救急災害医学(検査)（Emergency Medicine）				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SB111	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

救急医療は医療の原点であると同時に、内科的知識と外科的知識の両方が必要で、応用医療でもある。講義では多岐にわたる内因性、外因性疾患の救急病態を概説すると同時に、診断と治療が同時に進行する救急医療現場で、どのような対応が求められるかを学ぶ。中でも応急処置は一般市民にも要求される基本的なものであり、これを確実に身につけることが必要である。一方、わが国は近年、耐えまなく地震・台風・豪雨災害等、自然災害に見舞われているが、隣国北朝鮮の存在もさることながら世界では国際的なテロネットワークを有するイスラム過激派の活動もあり、災害医学は自然災害とテロ災害の両面からの理解と対応が必要である

到達目標

１）わが国における救急医療システムを理解し、対応の基本を学ぶ。
２）内因性、外因性救急疾患の代表事例の病態、診断・治療の原則を学ぶ。
３）蘇生法、止血法、体位保持法、運搬法等、各救急場面における基本処置技術を習得する。
４）わが国における大規模自然災害に対して構築されたシステムと特殊災害（CBRNE テロ：化学兵器、生物兵器、核、爆弾テロ）への対応を理解する。
５）卒業後の資格として救急認定看護師、救急認定薬剤師、救急検査認定技師等があるが、その基礎を学ぶ DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

救急患者とは健康状態が急変した人であり、救急医療とはただちに何らかの医学的介入を必要とする状態を指す。救急医療に従事した 40 年余の経験から、実際の事例や研究結果をスライドに示して、対話型で授業を進める。なお、選択科目であることから、最初に受講者名簿を確定し、出席を重視する。
注意事項
１．救急疾患について論理的なイメージを構築する努力をすること。
２．疑問点を大切にし、解決に向けて行動すること。質問は大歓迎。
３．救急医療と災害医療の両方に興味を持ち、理解を進めてもらうために、原則として、１コマの前半を救急医療、後半を災害医療として場面を変えて、講義する。
４．卒業後の資格として、救急検査認定技師を目指す人は、是非選択すること。
５．救急検査認定技師を目指す人以外は、必ずしも教科書を購入する必要はない。配布資料で十分理解できるように資料を整えている。

教科書

救急検査指針：救急検査認定技師テキスト　へるす出版

参考書

救急蘇生法の指針２０１５（医療従事者用、改訂第５版）　へるす出版

研究室／オフィスアワー

吉岡敏治（C 棟、研究室４）／原則月曜日　2・3 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	・オリエンテーション（自己紹介、学習目標の設定） ・救急診療の特徴、救急医療体制について ・重症度と緊急度	予習：不要 復習：わが国の救急医療体制の概要と ABCDE アプローチ、尖鋭度（acuity）を理解する。以下、全ての講義で 配布する資料をもとに、復習する習慣を身につけてほしい。	
2	・救急搬送システムと救急医療情報システム。 ・災害の分類と対応の原則	予習：不要 復習：左記講義プリントの復習、三次コーディネートとは／緊急度と重症度。	
3	・救急医療総論：心肺蘇生、救急初期診療、根本治療、集中治療、院内連携 ・災害医療体制と災害医療システム	予習：不要 復習：CPR が、なぜ現在の術式になったのかを理解する。 災害拠点病院と患者管理システム	
4	・ショック：その分類と血行動態 ・日本 DMAT と地域（大阪）DMAT	予習：不要 復習：ショックの特徴と生体反応の理解 災害派遣チームの訓練内容：CSCATTT を身につける。	

5	・救急医療における内因性疾患（１）：中枢神経系疾患 ・広域災害救急医療情報システム（EMIS）と、全国瞬時警報システム（J-ALERT）	予習：不要 復習：脳血管障害の診断、病態、医師のアプローチの仕方を理解する。 国の構築した災害医療情報システムを理解する。	
6	・救急医療における内因性疾患（2）：循環器系疾患 ・災害対策に関連する法律	予習：不要 復習：急性冠症候群を中心に症状、診断、治療について復習。 災害対策基本法と国民保護法、関連の法令	
7	・救急医療における内因性疾患（3）：呼吸器系疾患 ・集団災害発生時における現地関係機関(消防、警察、保健所、自衛隊、その他）の役割と連携	予習：不要 復習：ガス交換傷害の機序（換気・血流比、肺気量分画等）と代表的な呼吸器系疾患を理解する。 国や自治体の定める現地関係機関連携指針の理解。	
8	・救急医療における内因性疾患（4）：消化器系疾患 ・阪神・淡路大震災の患者搬送状況	予習：不要 復習：消化管の炎症、穿孔、閉塞、感染、血管疾患、その他の急性腹症を理解する。 都市直下型地震時の患者搬送手段と転送状況から、大規模災害時の初期対応を学ぶ	
9	・救急医療における内因性疾患（5）：泌尿・生殖器系疾患 ・阪神・淡路大震災時の傷病別入院患者数と転帰	予習：不要 復習：尿路結石、尿閉、腎梗塞、尿路感染等の症状と初療を理解する 地震時に発生する外傷の種類と被災地の疾病構造の変化を理解する	
10	・救急医療における内因性疾患（6）：内分泌・代謝系疾患 ・地震災害とクラッシュ症候群	予習：不要 復習：糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン生高浸透圧症の病態と治療を理解する クラッシュ症候群の発生状況、病態、治療を理解する	
11	・救急医療における外因性疾患（1）：外傷 ・阪神・淡路大震災から学んだこと	予習：不要 復習：多発外傷、頭部・胸部・腹部外傷、心血管損傷。 災害医療体制構築の理論的背景を理解する	
12	・救急医療における外因性疾患（2）：熱傷、熱中症、偶発性低体温症、電撃傷 ・災害拠点病院と広域搬送拠点基地（SCU）について	予習：不要 復習：熱傷、凍傷、熱中症、電撃傷等の診断と治療。災害拠点病院の指定条件、SCU：Staging Care Unit、災害医療コントロールセンターの役割と構築について	
13	・救急医療における外因性疾患（3）：中毒 ・東南海地震の被害想定	予習：不要 復習：中毒、化学損傷の発生状況、治療の原則、中毒情報センターの役割。 想定津波高、想定死者数、ライフラインの断絶期間	
14	・東日本大震災における医療支援 ・DMAT とドクターヘリの活動	予習：不要 復習：災害急性期から亜急性期、慢性期に大阪府の行った医療支援	
15	・大量殺傷兵器（NBC テロ災害）について（CBRNE） 東日本大震災における DMAT とドクターヘリの活動 ・化学テロを中心に	予習：不要 復習：NBC 災害の特徴と対応体制について学ぶ	

成績評価方法と基準	割合
①授業中の質問、議論への参加、受講態度（30 点） ②前期期末レポート（70 点）DP②③	①30% ②70%

授業科目名	薬理学(検査)（Pharmacology）				
主担当教員	小林 吉晴		担当教員	小林 吉晴	
科目ナンバリング	SB112	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

体内で薬物と生体内分子がどのように関わりあい、作用を示すのか学ぶ。

到達目標

薬物の主作用、副作用、相互作用,中毒作用、解毒薬などを説明できる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生化学、人体の構造と機能、生物学の知識が必要なのでこれらの科目と合わせて復習をしておくこと。

教科書

集中講義 薬理学 渡邊康裕 編 メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-0096-4

参考書

シンプル薬理学 南江堂
標準薬理学 医学書院

研究室／オフィスアワー

月曜日 16:00-17:00、火曜日 16:00-17:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	薬理学総論Ⅰ受容体	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
2	薬理学総論Ⅱ トランスポーター、オータコイド、サイトカイン	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
3	自律神経系と骨格筋に作用する薬物、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
4	統合失調症、躁うつ病、睡眠障害治療薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
5	麻薬性鎮痛薬、全身麻酔薬の薬物名､作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
6	てんかん、アルツハイマー病、パーキンソン病治療薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
7	高血圧症、狭心症、うっ血性心不全に用いられる薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
8	ジギタリス中毒について。抗不整脈薬の分類と代表的な薬物、作用機序	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
9	関節リウマチ、痛風・高尿酸血症、の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
10	非ステロイド性抗炎症薬、副腎皮質ステロイド、免疫抑制薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
11	呼吸器系薬物、消化性潰瘍治療薬、下剤と止瀉薬、利尿薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
12	糖尿病治療薬、脂質低下薬、性ホルモン薬、甲状腺疾患治療薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
13	骨粗鬆症、貧血治療薬,抗血液凝固作用薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
14	抗感染症薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
15	抗腫瘍薬の薬物名、作用機序、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	

成績評価方法と基準	割合

1．小テスト：(DP2) ２０点 2．定期試験：(DP2,3) ８０点 DP②③	小テスト 20% 定期試験 80%

授業科目名	リハビリテーション概論(検査)（Introduction to Rehabilitation）				
主担当教員	金尾　顕郎		担当教員	金尾　顕郎、三木屋　良輔、中根　征也、杉本　圭、松尾　浩希、小林　貴代	
科目ナンバリング	SB113	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

リハビリテーションは障害を有する者を対象とする．医学や医療技術の進歩，超高齢化社会の到来とともに，障害とかかわって生活することは誰にでも起こりうる社会となった．もちろん，リハビリテーション関連職以外の医療従事者にも「リハビリテーション」の知識が求められる時代である．本授業ではリハビリテーションの基本理念，生活機能とその障害を正しく理解し，リハビリテーション医療の特性と包括的なアプローチを学修する．

到達目標

１）社会におけるリハビリテーションの位置づけや役割，歴史，目的を理解する．＜DP②③＞
２）リハビリテーションの諸領域と専門職連携について理解する．＜DP②③＞
３）特にリハビリテーション医療における臨床検査技師とリハビリテーション専門職との連携を考える．＜DP②③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業中の私語，メールなどには厳しく対処する．
２）疑問点を大切にして常に自己で調べて解決するように行動すること．。

教科書

資料を配布する

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

金尾顕郎：E 棟 4 階 研究室 23/時間は事前に相談してください
小林貴代：C 棟 7 階 研究室 19/時間は事前に相談してください
三木屋良輔：E 棟 4 階 研究室 10／金曜日以外平日５限目以降（時間は事前に相談してください）
杉本　圭：
松尾浩希：E 棟 4 階 共同研究室／金曜日 5 時限目以降（時間は事前に相談してください）
中根征也：E 棟 4 階 研究室 19／木曜日 4 時限目以降（時間は事前に相談してください）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	リハビリテーション医療の概要	予習：リハビリテーションの概念について調べておく．（２時間） 復習：授業内容をまとめ，リハビリテーション医療の概念・理念・定義について理解する．（２時間）	三木屋
2	フィールド・ワーク １【バリアフリー展への参加】	予習:バリアフリー展の概要を Web などで調べ，見学したいブースを調べる．（４時間） 復習：見学したブースをまとめる．(4 時間)	全員
3	フィールド・ワーク ２【バリアフリー展への参加】	予習:バリアフリー展の概要を Web などで調べ，見学したいブースを調べる．（４時間） 復習：見学したブースをまとめる．(4 時間)	全員
4	ワークショップ【バリアフリー展への参加】	予習：見学したブースの内容をまとめ，発表準備をする (2 時間) 復習：授業内容をまとめる．(2 時間)	全員
5	疾病と障害（障害学）	予習：リハビリテーションにおける「障害」とは何か？を調べ，まとめる．（２時間） 復習：授業内容をまとめ，リハビリテーションにおける障害像を理解する．（２時間）	中根
6	ADL・QOL の概念		松尾
7	理学療法の実際 １（運動器・神経系障害）	到達目標：ADL・QOL の構成要素を知り評価できる。	杉本
8	理学療法の実際 ２（呼吸・循環・代謝系障害）	予習：呼吸・循環・代謝における生理学について，再度確認する．（２時間） 復習：臨床検査技術にて障害を明確にする方法	金尾

		をまとめる．（２時間）	
9	作業療法の実際 １		小林
10	作業療法の実際 ２		小林
11	言語聴覚療法の実際	予習：言語聴覚士について調べ，まとめる．（２時間） 復習：授業内容をまとめ，言語聴覚士の仕事を理解する．（２時間）	中根
12	病期別リハビリテーション １（急性期）	予習：急性期医療の対象について調べること．（２時間） 復習：ICU・HUC・SCU・NICU にある機器についてまとめること．（２時間）	金尾
13	病期別リハビリテーション ２（回復期）		松尾
14	病期別リハビリテーション ３（在宅期・終末期）	予習：在宅・終末期のリハビリテーションについて調べておく．（２時間） 復習：授業内容をまとめ，在宅・終末期のリハビリテーションについて理解する．（２時間）	三木屋
15	チームアプローチ （臨床検査技師とリハビリテーションのつながり）		中根 杉本
成績評価方法と基準			割合
１．定期試験【DP②③】 ２．レポート課題【DP②③】			1．80% 2．20%

授業科目名	病理学(検査)（Pathology）				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子、小林 彩香	
科目ナンバリング	SB116	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

病理学とは、病気の原因、発症メカニズム、病態、形態変化などを解明する学問である。　また病理学は、臨床医学を学修する際に、その基本となる。　先ず病理学総論として、病理学の意義、染色体・遺伝子の異常、組織細胞傷害と修復、物質代謝異常、循環障害、炎症、免疫異常、腫瘍などに関する病理学の基本的概念を学ぶ。　次に、病理学各論として、各臓器における主な病気に関する病理学を学ぶ。

到達目標

１．各臓器における主な疾患の病因、成り立ち、病理学的特徴などを説明できる。
２．病理学で学ぶ「医学用語」は、病理検査学や臨床医学を学ぶ基本となるので、正しく理解する。DP①②③

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１．人体の正常構造や正常機能を理解していないと、病理学を理解することはできないので、１年次の解剖学、組織学、生理学の教科書を復習してから、病理学の講義にのぞむこと。
２．病理学の講義は、教科書を中心に進めるが、講義を聞かずに教科書を読んでも理解が難しいと考えられるので、講義には出席すること。
３．わからないことは、積極的に質問すること。

教科書

病理学／病理検査学　（医歯薬出版）

参考書

解明病理学、第２版、医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

在室時には、いつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	総論：　病理学とは何か、　染色体・遺伝子・発生の異常	教科書の「病理学とは何か、　染色体・遺伝子・発生の異常」について、予習、復習をすること。	
2	総論：　組織細胞傷害とその修復、　物質代謝異常	教科書の「組織細胞傷害とその修復、　物質代謝異常」について、予習、復習をすること。	
3	総論：　循環障害、　炎症	教科書の「循環障害、　炎症」について、予習、復習をすること。	
4	総論：　免疫異常、　腫瘍	教科書の「免疫異常、　腫瘍」について、予習、復習をすること。	
5	各論：　循環器系の疾患	教科書の「循環器系」について、予習、復習をすること。	
6	各論：　呼吸器系の疾患	教科書の「呼吸器系」について、予習、復習をすること。	
7	各論：　消化器系の疾患　（１）	教科書の「消化器系（前半）」について、予習、復習をすること。	
8	各論：　消化器系の疾患　（２）	教科書の「消化器系（後半）」について、予習、復習をすること。	
9	各論：　内分泌系の疾患	教科書の「内分泌系」について、予習、復習をすること。	
10	各論：　泌尿器系の疾患	教科書の「泌尿器系」について、予習、復習をすること。	
11	各論：　生殖器および乳腺の疾患	教科書の「生殖器および乳腺」について、予習、復習をすること。	
12	各論：　造血臓器系の疾患	教科書の「造血臓器系」について、予習、復習をすること。	
13	各論：　神経系の疾患	教科書の「神経系」について、予習、復習をすること。	
14	各論：　運動器系の疾患、　感覚器系の疾患	教科書の「運動器系、　感覚器系」について、予習、復習をすること。	

15	各論：　皮膚系の疾患、　膠原病（自己免疫疾患）	教科書の「皮膚系、　膠原病（自己免疫疾患）」について、予習、復習をすること。	
成績評価方法と基準			割合
定期試験を行う。　毎回の講義で、小テストを行う。DP①②③			定期試験 80% 小テスト 20%

授業科目名	IPW 論(検査)（Inter-Professional Work）				
主担当教員	関根　将		担当教員	関根　将、山下　仁、増山　祥子、 大川　祐世、角田　晃啓、中根　征也、 村上　生美、吉村　弥須子、藤江　建朗、 小林　貴代、田畑　泰弘	
科目ナンバリング	SB119	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 1 限 水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修
授業概要					
他学科との専門職連携や各々の知識、指導技術に触れることを目的に、IPW(interprofessional　Work=専門職連携)を 5 学科協働で演習形式にて実践する。オムニバス形式にて IPW の実際について討議・経験・学修する。うち 4 回は 5 学科でのグループワークを行う。					
到達目標					
各分野の専門性を理解し、実際の症例に応じて職種間でのアプローチの違いを経験する。患者の権利や意思を尊重したチームアプローチ法について学修する。＜DP①②③④＞					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業中の私語、スマートフォンの利用には厳しく対処する。 疑問点を大切にして探究心を持って自身で文献等検索し解決に結びつけるように行動する。 出席は 3/5 以上を必要とし、その基準を満たした物について成績評価を行う					
教科書					
適時資料配布する					
参考書					
各自準備すること					
研究室／オフィスアワー					
小宮山研究室/月曜　、木曜　18 時～					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医療系職種の理解①（理学療法士）	本学理学療法学科のカリキュラムに目を通しておく	小林彩　小宮山　中根
2	医療系職種の理解②（作業療法士）	本学作業療法学科のカリキュラムに目を通しておく	小林　彩 小宮山　小林
3	医療系職種の理解③（看護師）	本学看護学科のカリキュラムに目を通しておく	小林　彩 小宮山　吉村
4	医療系職種の理解④（鍼灸師）	本学鍼灸学科のカリキュラムに目を通しておく	小林　彩 小宮山　山下　増山 大川
5	医療系職種の理解⑤（臨床工学技士）	本学臨床工学科のカリキュラムに目を通しておく	小林　彩 小宮山　藤江
6	チーム医療の実際 （各学科教員による Case Conference）	各学科の専門性について復習をしておく	小林　彩 小宮山
7	症例提示によるアプローチ立案とその考察①	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林　彩 小宮山
8	症例提示によるアプローチ立案とその考察②	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林　彩 小宮山
9	症例提示によるアプローチ立案とその考察③	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林　彩 小宮山
10	症例提示によるアプローチ立案とその考察④	臨床検査技師の役割を再確認しておく	小林　彩 小宮山

11	IPW①（11-14 は 4 コマ連続）	各職種の専門性について復習をしておく	田畑　小林 彩
12	IPW②（11-14 は 4 コマ連続）	各職種の専門性について復習をしておく	田畑　小林 彩
13	IPW③（11-14 は 4 コマ連続）	各職種の専門性について復習をしておく	田畑　小林 彩
14	IPW④（11-14 は 4 コマ連続）	各職種の専門性について復習をしておく	田畑　小林 彩
15	IPW⑤（プレゼンテーションと総評）	プレゼンテーンションの準備	小林　彩 小宮山
成績評価方法と基準			割合
1. レポート(1-15 のまとめ)＜DP①②③④＞ 2. IPW プレゼンテーション＜DP①②③④＞ 出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う			1.　40% 2.　60%

授業科目名	医用工学概論(検査)（Introduction to Medical Engineering）				
主担当教員	吉田　靖		担当教員	吉田　靖、脇　英彦	
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療の分野で行われる生体情報の収集・分析や治療における工学技術の基本となる電気電子工学の基礎について講義した後，生体計測機器，診断装置，治療機器の使用目的，原理，構造，特徴について概説するとともに，医用機器・設備の安全対策について教授する

到達目標

電気電子工学の基礎を理解する．
生体計測機器，医療機器の概要を理解する．
医用機器，設備の安全対策を理解する．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医用工学の専門用語や概念が難解ですが、医療資格として不可欠な基礎的な内容が多いので教科書を通読し、講義のサブノートを作成して習得すべきポイントを項目ごとに整理し理解する。

教科書

嶋津秀昭ほか(2018)「最新臨床検査学講座　医用工学概論」（医歯薬出版）

参考書

木村雄治(2001)「医用工学入門」（コロナ社）他、電気・電子工学に関するテキスト

研究室／オフィスアワー

担当教員に確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	科目内容の説明、生体物性の基礎と医療工学の必要性	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
2	電気・電子の基礎(1)　電気工学の基本(単位と記号、オームの法則)	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
3	電気・電子の基礎(2)　電磁気学の基礎	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
4	電気・電子の基礎(3)　直流回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
5	電気・電子の基礎(4)　交流回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
6	電気・電子の基礎(5)　能動素子	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
7	医用電子回路(1)　増幅器	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
8	医用電子回路(2)　発振回路と濾波回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
9	医用電子回路(3)　テレメータと変調、復調	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
10	医用電子回路(4)　電源回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
11	医用電子回路(5)　アナログ回路とデジタル回路	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
12	生体からの情報収集　生体信号と電極　生体信号変換器(トランスジューサ)	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
13	医療検査機器　波形情報と画像診断装置と治療機器	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
14	安全対策(1)　電撃とその対策　医用機器の安全基準	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	
15	安全対策(2)　漏れ電流との対策	教科書の該当項目を通読し不明な単語を抽出する。講義資料をポイントごとに整理する。	

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験（80%）と②レポート課題（20%）で評価する	①80% ②20%

授業科目名	医用工学実習(検査)（Medical Engineering (Practice)）				
主担当教員	吉田　靖		担当教員	吉田　靖、脇　英彦	
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

電気電子工学の基礎実験，医用エレクトロニクス回路の特性解析，医療測定装置，変換機器などの安全性試験や特性試験などの実験を行う．

到達目標

測定値を適切に処理できる．
電気素子の測定原理と測定方法を理解し，正しく測定できる．
オシロスコープを用いて，各種電気現象を解析できる．
医療測定機器を用いて，生体信号を正しく測定できる．DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実験をする前に必ず実験の目的、原理、方法、注意事項、機器及び電子部品の構造、特性などを良く理解しておくこと。
　数人が共同にて実験を行うので各自協力して円滑に実験を行う。
　実験終了後は必ず器具を片付け、万一機器及び電子部品を破損させたときは直ちに教官に報告すること。
　レポートは、簡潔で要領を得たものとすること。

教科書

嶋津秀昭ほか(2018)「最新臨床検査学講座 医用工学概論」（医歯薬出版）

参考書

木村雄治(2001)「医用工学入門」（コロナ社）他、電気・電子工学に関するテキスト

研究室／オフィスアワー

担当教員に確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション／実習レポート作成概要	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
2	テスタの取扱とその応用	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
3	オシロスコープの基本操作の取得/抵抗素子・コンデンサの特徴	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
4	C-R 結合回路の周波数特性と時定数の測定	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
5	ダイオードの特性/半波整流・全波整流回路	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
6	ダイオードを用いた平滑回路	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
7	トランジスタの増幅度測定	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
8	トランジスタの特性の測定	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
9	オペアンプの特性	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
10	オペアンプの各種演算回路	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
11	各種論理回路の特性	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
12	各種論理回路の動作確認	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
13	サーミスタと光電素子の動作	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
14	医用機器安全	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	
15	安全と雑音	教科書を通読しキーワードを理解する。 実習レポートをポイントごとに整理する。	

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験（60%）と②実習レポート（40%）で評価する 4/5 の出席が必要 DP①④	①60% ②40%

授業科目名	臨床病態学Ⅰ(検査)（Clinical Pathology Ⅰ）				
主担当教員	前川　佳敬		担当教員	前川　佳敬	
科目ナンバリング	SS201	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な臨床病態学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、検査結果から治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。

到達目標

１．各種臓器の働きを理解する。
２．各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。
３．各種疾病の臨床症状・検査法・治療法が合理的に説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床病態学に関する知識や情報を習得するだけではなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようになってほしい。
講義内容にあらかじめ目を通し、自分の考えをもっておくことが望ましい。

教科書

臨床医学総論/臨床検査医学概論（医歯薬出版株式会社）

参考書

病気がみえる　シリーズ　MEDIC MEDIA
教材がある場合は適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医学概論	教科書の目次通りのタイトルであり、授業の順番も目次どおりに行う。授業に該当する疾患臓器などの解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。学んだ疾患の病態・検査・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。	
2	循環器疾患（１）	〃	
3	循環器疾患（２）	〃	
4	循環器疾患（３）	〃	
5	呼吸器疾患（１）	〃	
6	呼吸器疾患（２）	〃	
7	消化器疾患（１）	〃	
8	消化器疾患（２）	〃	
9	肝・胆・膵疾患（１）	〃	
10	肝・胆・膵疾患（２）	〃	
11	感染症（１）	〃	
12	感染症（２）	〃	
13	感染症（３）	〃	
14	感染症（４）	〃	

15	総復習	授業での総復習を確認しつつ、総合的な復習を自宅で行うこと。	
成績評価方法と基準			割合
筆記テスト			筆記テスト 100%

授業科目名	臨床病態学Ⅱ(検査)（Clinical Pathology Ⅱ）				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング	SS202	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な臨床病態学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにすると同時に、検査結果から治療の必要性の有無が判断できる能力を身につける。

到達目標

１．各種臓器の働きを理解する。
２．各種疾病の本質・病態を論理的に理解する。
３．各種疾病の臨床症状・検査法・治療法が合理的に説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床病態学に関する知識や情報を習得するだけではなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようになってほしい。講義内容にあらかじめ目を通し、自分の考えをもっておくことが望ましい。

教科書

臨床医学総論/臨床検査医学概論（医歯薬出版株式会社）

参考書

病気がみえる　シリーズ　MEDIC MEDIA
教材がある場合は適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	血液・造血器疾患（１）	教科書の目次通りのタイトルであり、授業の順番も目次どおりに行う。授業に該当する疾患臓器などの解剖・生理機能については、必ず自宅学習で知識を確実にしておくこと。学んだ疾患の病態・検査・治療を合理的に説明できるようにしておくこと。小テストや課題提出の可能性もあります。	
2	血液・造血器疾患（２）	〃	
3	血液・造血器疾患（３）	〃	
4	内分泌疾患（１）	〃	
5	内分泌疾患（２）	〃	
6	腎・尿路疾患	〃	
7	男性・女性生殖器疾患	〃	
8	神経・運動器疾患（１）	〃	
9	神経・運動器疾患（２）	〃	
10	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症（１）	〃	
11	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症（２）	〃	
12	代謝・栄養障害（１）	〃	
13	代謝・栄養障害（２）	〃	
14	感覚器疾患（眼・耳鼻） 中毒	〃	

15	染色体・遺伝子異常症 皮膚および乳腺の疾患	〃	
成績評価方法と基準			割合
筆記テスト			筆記テスト 100%

授業科目名	血液検査学Ⅰ(検査)(Clinical Laboratory Hematology Ⅰ)				
主担当教員	藤原 牧子		担当教員	藤原 牧子、鳩宿 敏彦	
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

血液検査は、貧血、白血病、凝固異常症などの診断や、炎症の有無、抗凝固療法のモニタリングなど各種疾患のスクリーニング、治療後の効果判定、経過観察などに用いられている。最も一般的に行われる検査であり、正確な検査結果を報告するためには、血液の構成要素について熟知し、検査の原理、異常値の出る要因についての知識を修得することが必要である。血液検査学Ⅰでは血液検査の基礎となる血球、凝固・線溶系について基礎知識を習得し、検査方法と結果の判定について学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1.血球の機能を理解し、産生と崩壊について説明できる。〈 DP① 〉
2.血球の形態が判別できる。〈 DP① 〉
3.凝固・線溶機構について理解し、分子マーカーについて説明できる。〈 DP① 〉
4.血液検査の意義を理解し、異常値について考察できる。〈 DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

血液検査Ⅰは血液検査学Ⅱ (2 年次後期)、血液検査学実習 (3 年次前期) の基礎知識として非常に重要な内容です。毎回予習、復習に努め、知識を積み重ねてください。

教科書

『最新臨床検査学講座　血液検査学』　奈良信雄　他/医歯薬出版株式会社

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

C棟７階職員室　水曜 17 時～

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	血液の基礎①　血液の成分　造血	予習：教科書を読んでくる(1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時間)	藤原
2	血液の基礎②　検体の採取と保存　自動分析法	予習：教科書を読んでくる(1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時間)	藤原
3	赤血球①　赤血球の産生と崩壊　赤血球の機能　エネルギー代謝	予習：教科書を読んでくる (1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時間)	藤原
4	赤血球②　鉄の代謝　ビタミン・葉酸の代謝	予習：教科書を読んでくる (1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時間)	藤原
5	血球数の算定　血球自動分析装置　血沈　溶血検査	予習：教科書を読んでくる (1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時間)	鳩宿
6	白血球①　白血球の産生と崩壊　形態と機能　細胞回転	予習：今まで習った範囲を復習 (1 時間) 復習:授業をもとに重要個所を各自整理する(1 時間)	鳩宿
7	白血球②　白血球の異常と疾患	予習：教科書を読んでくる (1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時間)	鳩宿
8	骨髄像検査	予習：教科書を読んでくる (1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時間)	鳩宿
9	特殊染色　細胞表面抗原　染色体・遺伝子染色体検査	予習：教科書を読んでくる (1 時間) 復習：講義内容を整理し、再確認する (1 時間)	鳩宿
10	血小板①　血小板の産生と崩壊　血小板の形態と機能	予習：教科書を読んでくる (1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する (1 時	鳩宿

		間）	
11	血小板②　血小板機能検査法	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	鳩宿
12	凝固・線溶系①　血液凝固の機序と制御機構 凝固因子　凝固検査	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	藤原
13	凝固・線溶系②　線溶の機序と線溶の制御機構 分子マーカー検査	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	藤原
14	凝固・線溶系③　出血性素因とその検査法　血栓症	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	藤原
15	症例検討	予習：これまで習った範囲を教科書で確認する（1 時間） 復習：講義内容を整理し、再確認する（1 時間）	藤原
成績評価方法と基準			割合
1.　小テスト　〈 DP①〉 2.　定期試験　〈 DP①〉			1. 20% 2. 80%

授業科目名	血液検査学Ⅱ(検査)（Clinical Laboratory Hematology Ⅱ）				
主担当教員	藤原　牧子		担当教員	藤原　牧子、鳩宿　敏彦	
科目ナンバリング	SS204	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

血液検査は、貧血、白血病、凝固異常症などの診断や、炎症の有無、抗凝固療法のモニタリングなど各種疾患のスクリーニング、治療後の効果判定、経過観察などに用いられている。最も一般的に行われる検査であり、正確な検査結果を報告するためには、血液の構成要素について熟知し、検査の原理、異常値の出る要因についての知識を修得することが必要である。血液検査学Ⅱでは血液検査学Ⅰで修得した知識を検査結果の評価と診断への応用、疾患の鑑別に用いる過程について学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 血液検査結果が正しく評価できる 。〈 DP①〉
2. 主要な血液疾患についての知識を習得し、診断に用いられる検査項目を列挙することができる。〈 DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

血液検査Ⅱでは、より臨床に即した知識を修得します。血液検査学Ⅰ（2 年次前期）が基礎知識として必要であるため、前期の学修内容を含めて毎回予習、復習に努め、知識を積み重ねてください。

教科書

『最新臨床検査学講座　血液検査学』　奈良信雄　他/医歯薬出版株式会社

参考書

必要に応じて紹介する

研究室／オフィスアワー

C棟７階職員室　水曜　17 時～

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	赤血球系疾患①　血球数算定法（用手・機械） 赤血球数恒数　形態異常	予習：教科書を読んでくる(1 時間) 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
2	赤血球系疾患②　貧血・多血症	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
3	赤血球系疾患③　貧血の検査	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
4	凝固・線溶因子の異常①　凝固検査　線溶検査 分子マーカー　血友病　VWD	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
5	凝固・線溶因子の異常②　クロスミキシング試験　循環抗凝血素　DIC APS	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
6	血管の異常・血管性紫斑病・血栓性素因　紫斑病　先天性血栓性素因　深部静脈血栓症	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
7	血栓性素因 血栓症と抗血栓療法	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
8	出血性素因と血栓症のまとめ	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
9	血小板の異常による出血性素因①　血小板機能検査　偽性血小板減少症	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
10	血小板の異常による出血性素因②　血小板減少・増加症　血小板機能異常症	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	

11	白血球系疾患①	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
12	造血器疾患①	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
13	造血器疾患②	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
14	悪性リンパ腫①	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
15	悪性リンパ腫②	予習：教科書を読んでくる（1 時間） 復習：授業をもとに教科書を再確認する（1 時間）	
成績評価方法と基準			割合
1.小テスト　〈 DP① 〉 2.定期試験〈 DP① 〉			1. 20% 2. 80%

授業科目名	血液検査学実習(検査)（Clinical Laboratory Hematology (Practice)）				
主担当教員	藤原　牧子		担当教員	藤原　牧子、鳩宿　敏彦	
科目ナンバリング	SS205	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 3 限 木曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

血液検査に関して、病院実習あるいは臨床現場で必要とされる基礎的な検査技術を実習する。

到達目標

1. 検査に応じた検体処理ができる。〈 DP① 〉
2. 各種血球数の算定ができる。〈 DP① 〉
3. 末梢血標本を作製できる。〈 DP① 〉
4. 普通染色、特殊染色が施行できる。〈 DP① 〉
5. 血球形態が判別できる。〈 DP ① 〉
6. 血小板機能検査ができる。〈 DP① 〉
7. 凝固検査ができる。〈 DP① 〉
8. 凝固・線溶系分子マーカーの測定原理について説明できる。〈 DP①④ 〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・検査の目的と原理について復習しておくこと。
・予め実習手順書を熟読し、検査手技をイメージして実習に臨むこと。
・班単位で実習をおこなう指示がある場合は、班員の役割分担を明確にし、全員が行動できるように工夫して取り組むこと。
・実習前半と後半で実習内容の割り当てが変わることがある。教員の指示を注意深く聴いて自主的に行動することを期待する。

教科書

配布資料

参考書

『JAMT 技術教本シリーズ　血液検査技術教本』　一般社団法人日本臨床衛生検査技師会監修　丸善出版株式会社
『臨床検査学実習書シリーズ　血液検査学実習書』　一般社団法人日本臨床検査学教育協議会監修　医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

C棟７階職員室　水曜　17 時～

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：血液検査学ⅠⅡで履修した内容の復習 復習：オリエンテーションで配布した資料を確認し、次の実習の準備をする。	藤原・鳩宿
2	形態系実習室） 血球数目視算定・薄層塗抹標本作成 顕微鏡室） 正常血液標本の観察①	予習：実習手順書の確認(1 時間) 復習：レポート課題の作成（1 時間）	藤原・鳩宿
3	〃	〃	〃
4	形態系実習室） 血球数目視算定 ヘマトクリット 薄層塗抹標本作成 顕微鏡室） 正常血液標本の観察② CML 標本	予習：実習手順書の確認(1 時間) 復習：レポート課題の作成（1 時間）	藤原・鳩宿
5	〃	〃	〃
6	形態系実習室） 染色① 顕微鏡実習室） CML 標本の観察 末梢血・骨髄標本	予習：実習手順書の確認(1 時間) 復習：レポート課題の作成（1 時間）	藤原・鳩宿

7	〃	〃	〃
8	形態系実習室） 染色② 顕微鏡室） 実習で作成した標本や CML 標本などの観察	予習：実習手順書の確認（1 時間） 復習：レポート課題の作成（1 時間）	藤原・鳩宿
9	〃	〃	〃
10	形態系実習室） 血小板機能検査 顕微鏡室） 特殊染色標本の観察	予習：実習手順書の確認（1 時間） 復習：レポート課題の作成（1 時間）	藤原・鳩宿
11	〃	〃	〃
12	形態系実習室） 凝固検査① 顕微鏡室） 血液疾患標本の観察	予習：実習手順書の確認（1 時間） 復習：レポート課題の作成（1 時間）	藤原・鳩宿
13	〃	〃	〃
14	形態系実習室） 凝固検査② 顕微鏡室 ／ 講義室） 総合テスト	予習：実習手順書の確認（1 時間） 復習：レポート課題の作成（1 時間）	藤原・鳩宿
15	〃	〃	〃
成績評価方法と基準			割合
1.　講義中の手技確認〈 DP①④〉 2.　レポート〈 DP④〉			50% 50%

授業科目名	病理検査学(検査)（Clinical Laboratory Pathology）				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子、小林　彩香	
科目ナンバリング	SS206	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

病理検査は、人体から採取された組織や細胞の一部を顕微鏡で観察し、病変の有無や種類、広がりなどを調べるもので、患者の診断や治療方針にも直結する重要な検査の１つである。正しい病理診断には、迅速で誤りのない標本作製が必須であり、標本作製を担当する臨床検査技師の知識・技量が大きく関わる。本講義では、病理検査法の意義、種類、標本作製法などを学び、人体の臓器、組織、細胞の形態と機能の変化を通じて、疾患の原因・成り立ち・経過・転帰を理解する。

到達目標

1.　病理検査の意義と標本作製法が説明できる。
2.　様々な染色法の意義・目的・原理・手技などを説明することができ、病理検査学実習へスムーズに移行できる。
3.　上記の知識を習得し、これを用いて正常形態や病的形態を、肉眼レベル・顕微鏡レベルで理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

人体の構造および人体の構造実習（組織学）を理解しておくこと。
項目ごとに小テストを行うので、講義後に教科書をよく読み復習を十分に行うこと。

教科書

「病理学／病理検査学」　医歯薬出版
「入門組織学」　南江堂

参考書

「臨床検査学入門」　KTC 中央出版
「標準病理学」　医学書院
「シンプル病理学」　南江堂
臨床検査学講座「解剖学」　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

上田真喜子　　研究室／在室時には、いつでも訪問可です。
小林彩香　　職員室／在室時には、いつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	病理学的検査の意義、業務管理、病理解剖について	予習：「人体の構造」「病理学」を復習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
2	病理組織標本作製法①　（固定、切り出し、脱脂、脱灰）	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
3	病理組織標本作製法②　（包埋、薄切）、凍結切片標本作製法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
4	染色法の一般理論と操作概要	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
5	ヘマトキシリン・エオジン染色	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
6	結合組織の染色法①　（膠原線維） 線維素の染色法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
7	結合組織の染色法②　（弾性線維、細網線維）	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
8	多糖類、腎糸球体基底膜の染色法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
9	脂質、核酸、アミロイド、組織内無機物質の染色法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
10	生体内色素、内分泌細胞の染色法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
11	組織内病原体、神経組織の染色法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
12	免疫組織化学染色法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
13	電子顕微鏡標本作製法	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
14	細胞学的検査法①　（意義、処理法）	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	

15	細胞学的検査法②　（染色、スクリーニング）	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	
成績評価方法と基準			割合
1.　授業中に行う小テスト 2.　定期試験			小テスト 20% 定期試験 80%

授業科目名	病理検査学実習(検査)（Clinical Laboratory Pathology (Practice)）				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子、小林　彩香	
科目ナンバリング	SS207	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限 水曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

病理検査学で学習した項目(固定、薄切、HE 染色、特殊染色など)を習得する。標本作製に関した専門的知識の重要性と必要性を理解する。特殊染色と疾患との関連性について学ぶ。

到達目標

１．固定、包埋、薄切～染色までの病理組織学的検査法の一連の流れを理解する。
２．HE 染色・特殊染色の原理、染色手順、結果を説明できる。
３．観察目的に応じた染色法を選択できる。
実習を通じて学習したことについて知識と技術の定着を図る。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習中は、安全な服装に白衣を着用し長い髪は束ねる。鋭利な刃物、有害な薬品等の使用も多いためケガや事故には十分注意する。諸注意を聞かない状態での途中入室は認めない。
スケッチは色鉛筆を使用するので持参すること。本実習では、国家試験で頻出の染色法を選出しているので、病理検査学の講義内容と関連づけて理解すること。

教科書

「病理検査技術教本（JAMT 技術教本シリーズ）」　日本臨床衛生検査技師会
「病理学/病理検査学」　医歯薬出版
「入門組織学」　南江堂

参考書

「最新 染色法のすべて」　医歯薬出版
「臨床検査学入門」　KTC 中央出版
「標準病理学」　医学書院

研究室／オフィスアワー

上田真喜子　研究室/在室時には、いつでも訪問可です。
小林彩香　職員室/在室時には、いつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1,2 ガイダンス（実習内容の説明・注意事項）、染色の準備 固定、切り出し、脱灰、脱脂、パラフィン浸透	予習：該当項目を勉強してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
2	3,4 包埋、薄切、脱パラフィン～HE 染色、封入	予習：該当項目を勉強してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
3	5,6 結合組織の染色法（アザン染色、マッソン・トリクローム染色、EVG 染色）	予習：該当項目を勉強してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
4	7,8 結合組織の染色法（渡邉の鍍銀染色、PAM 染色、PTAH 染色）	予習：該当項目を勉強してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
5	9,10 神経系染色法（クリューバー・バレラ染色） 多糖類の染色（PAS 反応、アルシアン青染色）	予習：病理検査学の講義内容を復習してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
6	11,12 組織内病原体の染色（グロコット染色、チール・ネルゼン染色）	予習：該当項目を勉強してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
7	13,14 無機物質の染色（ベルリン青染色） 脂肪染色（オイル赤 O）	予習：該当項目を勉強してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
8	15 細胞学的検査法、パパニコロウ染色	予習：該当項目を勉強してくる。 復習：実習内容をまとめる。	上田 小林
成績評価方法と基準			割合
１．レポート ２．定期試験 ３．実習での積極性			１．40% ２．50% ３．10%

授業科目名	一般検査学(検査)（Urinalysis and Body Fluids）				
主担当教員	小宮山　恭弘		担当教員	小宮山　恭弘、竹浦　久司	
科目ナンバリング	SS208	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

一般検査学では、尿・便・体液検査等の各項目について、目的・原理・方法・注意点を学修する。また、測定結果の解釈を学ぶとともに、検査がどのような病態変化をとらえるために検査が依頼されるのかを理解する。
尿検査と糞便検査は、患者の負担が少ない非侵襲的検査であり、クリニックから大学病院まであらゆる検査室において実施されており、スクリーニング検査としての一面も有している。臨床検査技師が一度は経験する分野であるため、本授業で知識と技術の定着を図る。

到達目標

１．検体の取り扱いを理解して説明できる。
２．尿・便・体液検査の各項目について、目的・原理・方法・注意点を理解し行える。
３．測定結果がどのような病態を反映しているのかを解釈できる。
講義・実習を通じて学習したことについて知識と技術の定着を図る。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習の際には、テキストやノート等の勉強道具以外は持ち込まない。荷物やコートはロッカーに入れておく。実習中は、白衣を着用し長い髪は束ねる。また、遅刻により諸注意を聞かない状態での実習は不可のため、途中入室は認めない。実習では、自分の尿を用いることで患者心理理解の一助とする。

教科書

「臨床検査学講座一般検査学」　医歯薬出版 ISBN978-4-263-22367-3 C3347
「臨床検査学実習書シリーズ　一般検査学実習書」　医歯薬出版

参考書

「臨床検査学入門」　KTC 中央出版
「臨床検査法提要」　金原出版

研究室／オフィスアワー

小宮山　恭弘　研究室／　　月曜日　16：30-17：30　火曜日 16：30-17：30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	一般検査の概論、尿の基礎知識、尿の一般的性状、尿検体・尿試験紙取り扱いについて	予習：１年前期の「臨床検査学総論」の尿に関する部分の復習をしてくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 ｐ１～13	竹浦　久司
2	尿比重、尿浸透圧、尿ｐH、尿蛋白、尿糖、ケトン体の測定について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 ｐ13～24	竹浦　久司
3	ビリルビン、ウロビリン体、血尿、亜硝酸塩、白血球、アスコルビン酸、hCG 妊娠反応について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 P24～35	竹浦　久司
4	ポルフィリン体、フェニルケトン体、アルカプトン等の病的代謝物質について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 ｐ35～47	竹浦　久司
5	腎機能検査について	予習：教科書の該当部分を読んでくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p48～50	竹浦　久司
6	尿沈渣、尿中の有形成分と細胞について 実習の諸注意について	予習：実習書を読んでくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 p50～87	竹浦　久司
7	尿の性状検査（尿量、色調、混濁の鑑別）、尿試験紙、自動分析装置 実習	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。	竹浦　久司
8	尿沈渣（無染色　S 染色）顕微鏡操作 実習	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる.	竹浦　久司
9	尿沈渣成分と臨床的意義について	予習：実習書を読んでくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	竹浦　久司
10	便検査、胃液、十二指腸液、結石について	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	竹浦 久司
		ｐ89～97、113～120、p147、148	
11	便潜血反応検査 実習	予習：実習書を読んでくる。 復習：実習内容をノートにまとめる。	竹浦　久司
12	喀痰、体液、穿刺液について	予習：教科書の該当部分を読んでくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 ｐ107～111、121～127、137～145	竹浦　久司
13	精液、髄液	予習：教科書の該当部分を学習してくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。 ｐ129～136、99～105	竹浦　久司
14	髄液検査	予習：実習書を読んでくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	竹浦　久司
15	総復習（尿の基礎知識から結石まで）	予習：予習：第 1～14 回の講義・実習の復習をしてくる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	竹浦　久司

成績評価方法と基準	割合
１．講義のときは、小テスト。実習のときは、レポート提出 ２．定期試験 ３．4/5 以上の出席が必要です	１．30% ２．70%

授業科目名	臨床化学検査学Ⅰ(検査)（Clinical Chemistry Ⅰ）				
主担当教員	小林 吉晴		担当教員	小林 吉晴	
科目ナンバリング	SS209	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
基本的な臨床化学分析法について解説し、各生体成分の測定原理、疾患との関連について解説する。また、臨床化学分析によって得られるデータから、総合的に病態を理解できるようになり、さらに検査データが疾病の早期発見や治療効果の判定に用いられることを習得する。
到達目標
臨床検査値の臨床的意義を理解できるとともに、生体成分の測定法の原理について学ぶ。病態の変動に伴う検査データから病態を解析できるようになる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
生化学、人体の構造と機能、生物学の知識が必要なのでこれらの科目と合わせて復習をしておくこと。
教科書
最新 臨床検査学講座 臨床化学検査学 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-22363-5 C3347
参考書
特になし
研究室／オフィスアワー
小林　吉晴研究室/在室であれば随時
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床化学分析とその意義	教科書P1-36 復習	
2	臨床化学分析の単位と標準物質	教科書P8-10 復習	
3	測定値の管理	教科書P11-18 復習	
4	基準範囲	教科書P19-22 復習	
5	臨床判断値	教科書P23-24 復習	
6	生理的変動と測定技術変動 臨床化学分析の標準体系	教科書P25-36 復習	
7	自動分析装置(ディスクリート型・ドライケム)	精密さの評価、正確さの評価について復習	
8	電解質と微量分析の分析法と意義①	Ｎａ～重炭酸イオン（教科書P115-124 予習）	
9	電解質と微量分析の分析と意義②	Ｃａ～Ｚｎ（亜鉛）（教科書P125-142 予習）	
10	糖質及び血糖関連検査の分析と意義	Ｇｌｕ～乳酸（教科書P143-153 予習）	
11	脂質とリポ蛋白の分析と意義①	リポ蛋白～TG（教科書P154-168 予習）	
12	脂質とリポ蛋白の分析と意義②	リン脂質～ケトン体（教科書P168-182 予習）	
13	蛋白質と蛋白分画の分析と意義	ＴＰ～BJ蛋白（教科書P183-200 予習）	
14	その他蛋白・窒素化合物の分析と意義	CRP～Ｃｒｅ（教科書P204-215 予習）	
15	非蛋白性窒素化合物の分析と意義	UA～ビリルビン（教科書P215-223 予習）	

成績評価方法と基準	割合
小テスト(DP1) 20点　定期試験、筆記試験（DP1）80点	小テスト 20% 定期試験（DP1）80%

授業科目名	臨床化学検査学Ⅱ(検査)（Clinical ChemistryⅡ）				
主担当教員	小林　吉晴		担当教員	小林　吉晴、森　誠司、竹浦　久司	
科目ナンバリング	SS210	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床化学分析の標準法とその原理について学修する。分析項目の測定値と疾患との関連性について病態を交えて知識を深める。検査データが疾病の早期発見や治療効果判定に用いられることを習得する。

到達目標

臨床検査値の臨床的意義を理解できるとともに、生体成分の測定法の原理について学修する。疾患の進行に伴う検査データ変化から病態を解析できるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

国家試験の出題頻度の高い履修科目であり、学修する検査項目も多いため、事前の予習をしっかりと行い準備をすること。

教科書

最新 臨床検査学講座 臨床化学検査学 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-22363-5 C3347

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

小林　吉晴研究室　在室であれば随時
森 誠司研究室　在室であれば随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	酵素活性分析と意義①	AST～ALT（教科書 P224-239 予習）	小林吉晴
2	酵素活性分析と意義②	LD～ALP（教科書 P239-255 予習）	小林吉晴
3	酵素活性分析と意義③	γGT～LIP（教科書 P255-267 予習）	小林吉晴
4	酵素活性分析と意義④	ACP～NAG（教科書 P267-275 予習）	小林吉晴
5	骨代謝マーカー分析と意義	BAP～TR-AcP（教科書 P276-280 予習）	小林吉晴
6	ホルモン分析と意義①	GH～PTH（教科書 P281-297 予習）	森 誠司
7	ホルモン分析と意義②	コルチゾル～hCG（教科書 P298-309 予習）	森 誠司
8	ホルモン分析③とビタミン分析と意義	IRI～水溶ビタミン（教科書 P309-327 予習）	森 誠司
9	臓器機能評価と病態・肝機能	教科書　肝機能を予習	森 誠司
10	臓器機能評価と病態・心・循環機能	教科書　心・循環機能を予習	森 誠司
11	肝臓、胆道、膵臓系疾、循環器系および腎臓における疾患と臨床化学検査	予習：教科書による事前学習 復習：教科書を参考にした講義内容確認	前田　育宏
12	酸塩基平衡、代謝性疾患と臨床化学検査	予習：教科書による事前学習 復習：教科書を参考にした講義内容確認	前田　育宏
13	炎症と腫瘍における臨床化学検査	予習：教科書による事前学習 復習：教科書を参考にした講義内容確認	前田　育宏
14	薬物の体内動態と薬物血中濃度測定	予習：教科書による事前学習 復習：教科書を参考にした講義内容確認	前田　育宏
15	臨床化学検査のスクリーニング検査結果の病態解釈	予習：教科書による事前学習 復習：教科書を参考にした講義内容確認	前田　育宏

成績評価方法と基準	割合
小テスト(DP1)20点　定期試験(DP1)80点	小テスト 20% 定期試験 80%

授業科目名	臨床化学検査学実習(検査)（Clinical Chemistry (Practice)）				
主担当教員	小林 吉晴		担当教員	小林 吉晴、関根 将	
科目ナンバリング	SS211	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限 水曜 3 限 水曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

臨床化学の検体検査で用いられる器具や機器の取り扱いを習熟する。同時に検体の取り扱い方について学ぶ。また、生体成分の中の代表的な検査法の測定原理を理解し、各生体成分を用手法により測定して測定手技を修得する。さらに、得られた検査結果を病態と関連させて考察する。あわせて薬物などが検査結果に影響を与えることを確認する。レポートの書き方も学修する。

到達目標

(1) 検体の取り扱い方、注意点を習得する。
(2) 測定法の実技を習得し、測定項目の目的や臨床的意義を理解する。
(3) 得られた結果を考察し、レポートとしてまとめる能力を養う。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1mm 方眼紙、A4 レポート用紙を持参すること。積極的に実習に取り組み、実習レポートは毎回期日までに提出すること。

教科書

プリント及び
臨床化学検査学　医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-22363-5 C3347

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	分光光度分析の基礎、器具・試薬・検体およびデータの取り扱い方、レポートの書き方	実験手順を再確認する。レポートの書き方を確認する。	小林吉晴、関根 将
2	血清グルコースのグルコースオキシダーゼ・ペルオキシダーゼ・色素生成法による測定。検体中のアスコルビン酸のグルコース測定に及ぼす影響。測定法の特異性の確認（フルクトース、ガラクトースによる呈色）。	臨床化学検査学で使用した教科書 p88、p97、p145 を参考に、予習すること	小林吉晴、関根 将
3	血清尿酸のウリカーゼ・ペルオキシダーゼ・色素生成法による測定。総コレステロールのコレステロールオキシダーゼ・ペルオキシダーゼ・色素生成法コレステロールオキシダーゼ・ペルオキシダーゼ・色素生成法による測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p217、p162 を参考に、予習すること	小林吉晴、関根 将
4	血清総タンパク質を屈折計法、ビュレット法、電気泳動法で測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p185、p186、p193 を参考に、予習すること。	小林吉晴、関根 将
5	血清乳酸脱水素酵素（LD）活性を紫外部吸収法（UV 法）で測定。アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）を紫外部吸収法で測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p233、p240 を参考に、予習すること。	小林吉晴、関根 将
6	血清クレアチニンをヤッフェ反応直接法で測定。クレアチニンクリアランスを求める。	臨床化学検査学で使用した教科書 p213、p347 を参考に、予習すること。	小林吉晴、関根 将
7	血清総ビリルビンを Evelyn-Malloy 変法で測定。ドライケミストリーによる検体測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p219、p221 を参考に、予習すること。	小林吉晴、関根 将
8	血清鉄をバソフェナンスロリン直接法で測定。血清アルカリホスファターゼを Kind-King 法で測定。	臨床化学検査学で使用した教科書 p136、p251 を参考に、予習すること。	小林吉晴、関根 将

成績評価方法と基準	割合
各項目ごとにレポートをまとめ期限内に提出すること(DP1,4)。4/5 回以上の出席が必要。	100%

授業科目名	放射性同位元素検査学(検査)（Radioisotope Science）				
主担当教員	森 誠司		担当教員	森 誠司	
科目ナンバリング	SS212	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

放射性同位元素（RI）は診断・治療といった医療の様々な場面で利用されている。本講義では臨床検査における RI の利用を中心に学修する。まず RI の物理的・化学的・生物学的な特性およびその検出法について基礎的な事項を学ぶ。放射線防護、放射線障害防止および管理に関する知識を伝え、臓器ごとに応用される RI 検査の原理と概要そして意義、また RI 検査薬の知識についても学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

「放射性物質」は自然科学において基礎から医療まで幅広く活用されており、我々の生活水準の維持や向上に欠くことはできないことを学修する。放射性核種と原子核の特徴、放射性核種の製造法について理解し、放射性核種の測定法を学ぶとともに、臨床検査への応用についての基礎的事項を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

高校化学基礎の原子の構造について復習しておくこと。

教科書

臨床検査学講座 放射性同位元素検査技術学　（医歯薬出版株式会社）

参考書

メディカルサイエンス放射性同位元素検査学（近代出版）編集：河村誠治 他

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	放射線とエネルギー	予習：原子の構造について理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
2	放射線の性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
3	放射線の測定①	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
4	放射線の測定②	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
5	放射性同位元素の製造	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
6	放射性医薬品とその基本的性質①	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
7	放射性医薬品とその基本的性質②	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
8	検体検査法　in vitro 法①	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
9	検体検査法　in vitro 法②	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
10	検体検査法　in vivo 法①	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	検体検査法　in vivo 法②	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	体外測定による検査法	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	放射線の生物作用	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	放射線損傷と細胞応答	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	

15	安全取扱法と管理法	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合
1.　小テスト 2.　期末試験 2/3 以上の出席を必要とする			1. 20% 2. 80%

授業科目名	遺伝子検査学(検査)（Medical Genetics）				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング	SS213	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

遺伝子検査は分子生物学的解析技術の進歩に伴い、発展の著しい臨床検査の分野である。感染症や血液疾患を中心に一部は日常検査として定着している。講義では実際の遺伝子検査について具体的な検査項目を取り上げ教授する。とくに先進的な医療での応用例なども積極的に紹介し遺伝子検査の可能性を学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

以下の事項を修得する。
１．遺伝子とその発現機構について理解する
２．遺伝子の基本的な取扱について理解する
３．遺伝子解析法の原理と遺伝子検査の実際を理解する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生物基礎（DNA、遺伝子、ゲノム）に関して理解してくること。また一年次の生物、生化学の核酸についても復習しておくこと。

教科書

標準臨床検査学　遺伝子検査学　（医学書院）編集：宮地　勇人／横田　浩充

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	セントラルドグマについて	予習：生物・生化学の復習をしてくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
2	染色体の構造と機能	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
3	染色体異常の種類	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
4	遺伝子マッピング	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
5	染色体の検査法	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
6	染色体異常症と疾患	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
7	ゲノムとは	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
8	遺伝子の異常	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
9	遺伝病と遺伝様式	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
10	遺伝子診断その１	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	遺伝子診断その２	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	遺伝子治療	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	遺伝子検査法	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	遺伝子検査用機器とその保守管理	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	

15	遺伝子検査の応用と課題	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト 2. 期末試験			1. 20% 2. 80%

授業科目名	遺伝子検査学実習(検査) (Medical Genetics (Practice))				
主担当教員	森 誠司		担当教員	森 誠司、佐伯 康匠	
科目ナンバリング	SS214	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

遺伝子検査学の講義で学んだ知識をもとに基礎的な遺伝子分析技術を修得し、臨床検査への応用に必要な基礎技術を学ぶ。組織から DNA・RNA の抽出を試み、その原理と方法を修得する。制限酵素を利用した DNA の組み換えや形質転換、ポリメラーゼ連鎖反応（PCR 法）による DNA の増幅、電気泳動による遺伝子を分離同定する技術などを修得する。

到達目標

遺伝子検査に必要なサンプルを適切に取扱うことができる。
DNA および RNA の抽出と定量が適切にできる。
PCR 法の原理を理解し実施できる。
核酸の電気泳動ができる。
これら実習を通して遺伝子検査学の基本的な技術を修得し理論を体得することを目標とする。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

手順書を熟読し原理を予習してくること。

教科書

事前に手順書を配布する。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、機器の基本的な取り扱いについて	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
2	組織からの核酸の抽出と定量	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
3	〃		
4	細胞からの核酸抽出と増幅	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
5	〃		
6	遺伝子発現定量　RT-PCR 法　①	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
7	〃		
8	遺伝子発現定量　RT-PCR 法　②	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
9	〃		
10	多型解析：PCR-RFLP	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
11	〃		
12	遺伝子組換え実験①	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	
13	〃		
14	遺伝子組換え実験②	予習：実習書を熟読し理解してくること 復習：テーマごとにレポートを作成する	

15	〃	〃	
成績評価方法と基準			割合
テーマごとにレポートをまとめ期限内に提出する事。 レポートが基準に満たない場合は再試験期間中に筆記試験を課す。 4/5 以上の出席が必要。			レポート 100%

授業科目名	バイオテクノロジー演習(検査)（Biotechnology Seminar）				
主担当教員	森 誠司		担当教員	森 誠司	
科目ナンバリング	SS215	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	火曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

バイオテクノロジーは生命が持つ多様な機能を解き明かすことを目指した学問であり、それを利用する技術である。医薬品開発、食品生産、品種改良、環境保全など多くの分野に応用されており、基礎研究を通して新しい生物機能の開発や生理活性物質の探索など人々の生活に活用されることがさらに期待されている。反面バイオハザードの危険性、倫理的な問題もあり医学における生命工学の課題についても学ぶ。将来この分野の知識を生して活躍できるように遺伝子工学、タンパク質工学、細胞工学の基礎的知識と技術を、演習を通して教授する。

到達目標

遺伝子工学でもちいる酵素の特性や使用法を理解する。
遺伝子増幅法の各種応用、および遺伝子組み換え技術とその応用を理解する。
広く産業界で利用されるタンパク質工学、細胞工学の基礎的事項を理解する
遺伝子工学の医療への応用を理解する。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

バイオテクノロジーはさまざまな分野で応用されており発展は目覚ましい、興味ある領域に関しては自ら進んで情報収集をしてほしい。講義ではどの分野であっても理解できる基礎的知識を修得してもらいたい。

教科書

資料等は配布する。

参考書

基礎から学ぶ遺伝子工学　羊土社
理系総合のための生命科学　第３版　東京大学生命科学教科書編集委員会／編

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	生物工学の基礎：遺伝子工学イントロ・基礎	予習：生化学・遺伝子検査学を復習してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
2	生物工学の技術①：クローニング、増殖法	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
3	生物工学の技術②：遺伝子導入	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
4	生物工学の技術③：タンパク質工学	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
5	細胞工学①：培養技術、核酸導入（発現量の制御）	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
6	細胞工学②：培養技術、応用	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
7	生殖・発生工学	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
8	ゲノム医療・創薬	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
9	演習：核酸の定量法①	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
10	演習：核酸の定量法②	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	演習：細胞からの核酸抽出と PCR 法	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	演習：PCR を用いた多型解析	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	演習：遺伝子発現定量　RT-PCR 法①	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	演習：遺伝子発現定量　RT-PCR 法②	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	

15	演習：遺伝子組換え実験	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合
1. 期末試験 2. 小テスト 4/5 以上の出席が必要。DP①④			1. 80% 2. 20%

授業科目名	微生物検査学Ⅱ(検査)（Clinical Laboratory Microbiology Ⅱ）				
主担当教員	木下 承皓		担当教員	木下 承皓	
科目ナンバリング	SS217	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

感染症の原因微生物について学習し、その病態と強毒微生物、常在菌、日和見感染菌の関係を理解する。感染症検査に必要な知識と考え方および微生物の病原性・毒素を解説する。
臨床材料から細菌を分離・同定をするために必要な顕微鏡観察、培養方法、性状試験と薬剤感受性や耐性菌の考え方を学ぶ。
培養・同定検査以外の迅速診断検査（POCT）や検出法についても理解する。また、臨床的に重要なウイルス感染症および真菌（酵母や糸状菌）の病態を学び、補助診断としての検出法を説明する。

到達目標

感染症診断に必要な基本的な微生物検査法（グラム染色、培養、同定、感受性）を理解する。
臨床検査材料から分離される病原微生物の種類と感染症の病態を理解し説明できる。
無菌材料と常在菌が混入する検査材料を理解し、原因微生物を考える。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

微生物名は学名で覚える必要があるため、普段から菌種名を書くようにする。
グラム染色による細菌分類を理解し説明できる。
感染症の診断に必要な微生物検査法の理論と実際を習得する。

教科書

最新　臨床検査学講座　臨床微生物学
医歯薬出版株式会社
編集　松本哲哉

参考書

新・カラーアトラス微生物検査　山中喜代治／編集　医歯薬出版
医科ウイルス学　南山堂　高田賢藏

研究室／オフィスアワー

講義の日、連絡及び問い合わせメール kino@med.kobe-u.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	感染症・病原微生物の対応と検査法	全身性炎症性反応（SIRS）の説明、各種染色法、分離・選択培地	
2	グラム陽性球菌、グラム陰性菌の性状・病原性・検査法	ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌、ナイセリア	
3	グラム陰性桿菌 1 の性状・病原性・検査法	腸内細菌、ビブリオ、アエロモナス、プレジオモナス	
4	グラム陰性桿菌 2 の性状・病原性・検査法	ブドウ糖非発酵菌（緑膿菌、アシネトバクター)、パスツレラ、ヘモフィルス、フランシセラ、バルトネラ	
5	グラム陰性桿菌 3･グラム陰性らせん菌の性状・病原性・検査法	レジオネラ、ボルデテラ、カンピロバクター、ヘリコバクター	
6	グラム陽性桿菌の性状・病原性・検査法	バチルス、リステリア、コリネバクテリウム、アクチノマイセス	
7	抗酸菌の性状・病原性・検査法	結核菌、非結核性抗酸菌、ノカルディア	
8	嫌気性菌の性状・病原性・検査法	クロストリジウム、バクテロイデス、アクチノマイセス、フゾバクテリウム、グラム陽性球菌	
9	化学療法薬の特徴	ボレリア、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	
10	真菌の分類および病原性	皮膚糸状菌・深部真菌・深在性真菌、酵母・糸状菌	
11	各種真菌の性状と検査法、	染色法、分離培養、スライド培養、同定、β-D グルカン	
12	ウイルスの分類	構造と形態、DNA/RNA ウイルス、プリオン	
13	ウイルスの各論（DNA ウイルス）	ポックスウイルス、ヘルペスウイルス、アデノウイルス、ヘパドナウイルス	

14	ウイルスの各論（RNA ウイルス）	インフルエンザウイルス、麻疹・水痘・風疹・ムンプスウイルス、HIV、肝炎ウイルス	
15	臨床検査材料の採取・取り扱いと病原微生物の分離法・同定	血液培養、髄液培養、腸管感染症の培養、尿路・泌尿器培養、上気道・下気道の培養	
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験：70% 2. 小テスト：30%			1. 70% 2. 30%

授業科目名	微生物検査学実習(検査)（Clinical Laboratory Microbiology (Practice)）				
主担当教員	木下 承皓		担当教員	木下 承皓、佐伯 康匠、関根 将	
科目ナンバリング	SS218	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

実習を通じて感染症の原因となる微生物について学び、微生物検査を行うのに必要な知識を理解する。臨床検査材料の取扱者が感染しないことや周囲環境の汚染を起こさないように消毒・殺菌および標準予防策を学ぶ。
細菌を中心とした微生物の基本的な取り扱い方法と無菌操作、標本作成法と顕微鏡観察、培養・同定法、薬剤感受性法の理論と手技を学び習得する。

到達目標

感染症診断に必要である基本的な微生物検査法の考え方を理解する。
実習を通して無菌操作、顕微鏡観察法、分離・同定法、薬剤感受性検査法を習得する。
各種染色法により細菌・真菌を推定できるようにする。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

日頃から健康状態に注意すること。
自己の感染防御に注意するとともに疑義があるときは個人で判断せずに教官に申し出ること。
環境汚染や取り扱いで事故等がある場合は必ず教官等に連絡して対処すること。
実習レポートは実際に行った方法（培地・試薬）・結果・考察などを記載し、できる限り実習後直ちに提出すること。

教科書

最新　臨床検査学講座　臨床微生物学
医歯薬出版株式会社
編集　松本哲哉

参考書

新・カラーアトラス微生物検査　山中喜代治／編集　医歯薬出版
JAMT「臨床微生物検査技術教本」　丸善出版

研究室／オフィスアワー

講義の日、連絡及び問い合わせメール kino@med.kobe-u.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	実習ガイダンスと器材の取り扱い	無菌操作、培地調整、消毒と滅菌、標準予防策（手洗い、手袋、マスク、エプロンなど）	
2	各種塗抹染色法と顕微鏡による観察	グラム染色、芽胞染色（バチルス、クロストリジウム）	
3	各種培養法および環境検査	培地への接種、釣菌の仕方、菌数定量	
4	グラム陽性球菌の培地選択・集落観察	ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌の分離	
5	グラム陽性球菌の分離・同定	ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌の性状試験	
6	グラム陰性桿菌の培地選択・集落観察	腸内細菌、ブドウ糖非発酵菌の分離	
7	グラム陰性桿菌の分離・同定	腸内細菌、ブドウ糖非発酵菌の同定	
8	腸管感染症の毒素検査と O 抗原検査	大腸菌、赤痢菌、サルモネラ、ビブリオ	
9	その他グラム陰性菌の分離・集落観察・同定	ヘモフィルス、リステリア、ナイセリア	
10	薬剤感受性試験 1	抗菌薬の選択、MIC 法、ディスク拡散法	
11	薬剤感受性試験 2	感受性の判定、耐性菌の簡易鑑別	
12	抗酸菌およびノカルディアの染色法と培地観察	チールネルセン染色、小川培地	
13	真菌の分離培地、集落およびスライド培養の観察	酵母、皮膚糸状菌、アスペルギルス	
14	嫌気培養と微好気培養	バクテロイデス、クロストリジウム、キャンピロバクター	

15	迅速診断検査法とまとめ	尿中抗原、各種ウイルス検査（イムノクロマトグラフィー）	
成績評価方法と基準			割合
1. 実習試験：30% 2. 実技・レポート：70% DP①④			1. 50% 2. 50%

授業科目名	寄生虫検査学(検査)（Medical Parasitology）				
主担当教員	大西　義博		担当教員	大西　義博、佐伯　康匠、関根　将	
科目ナンバリング	SS219	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

寄生虫とは何かを習熟し、さらに、これらによって惹起される寄生虫病の検査法についても習得する。

到達目標

寄生虫検査法である糞便検査法や血液検査法などを習得し、検出した寄生虫の特徴的な形態を観察することによってこれら寄生虫を鑑別し同定できるようにする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

白紙ノート（A4 サイズ）、色鉛筆及び白衣の持参。寄生虫はヒトに感染するものであることを認識し、白衣を着用し、検体の取り扱いには十分注意すること（細菌感染やウイルス感染の防止）。

教科書

医動物学カラーアトラス、大西義博/三恵社

参考書

医動物学、平山謙二／医歯薬出版 KK
図説人体寄生虫学、吉田幸雄・有薗直樹共著／南山堂

研究室／オフィスアワー

E 棟 1 階非常勤講師控室/授業の前後のみ対応可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義： 原虫①赤痢アメーバ原虫とランブル鞭毛虫 条虫①日本海裂頭条虫、大複殖門条虫 線虫①回虫 実習の心得、顕微鏡の取り扱い方 糞便検査①直接塗抹法、ヨード・ヨードカリウム染色法とコーン染色法	予習：アメーバ類、ランブル鞭毛虫、日本海裂頭条虫と回虫について 復習：アメーバ類、ランブル鞭毛虫、日本海裂頭条虫と回虫について	大西
2	講義： 原虫②クリプトスポリジウム 線虫②鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫、鞭虫 実習の心得、顕微鏡の取り扱い方 糞便検査①直接塗抹法、ヨード・ヨードカリウム染色法とコーン染色法 小テスト①赤痢アメーバとランブル鞭毛虫、日本海裂頭条虫と回虫について	予習：　クリプトスポリジウム、鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫、鞭虫　について 復習：クリプトスポリジウム、鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫、鞭虫　について	大西
3	実習： 実習の心得、顕微鏡の取り扱い方 糞便検査①直接塗抹法、ヨード・ヨードカリウム染色法とコーン染色法 スケッチ：赤痢アメーバ原虫栄養型とランブル鞭毛虫栄養型、大腸アメーバのシスト、日本海裂頭条虫卵、大複殖門条虫卵と回虫卵の観察		大西
4	講義： 糞便検査法②ショ糖液遠心浮遊法と抗酸染色、飽和食塩水浮遊法と濾紙培養法 吸虫②日本住血吸虫とマンソン住血吸虫、 条虫②有鉤条虫、無鉤条虫 線虫③蟯虫 小テスト②クリプトスポリジウム、鉤虫、糞線虫、東洋毛様線虫と鞭虫について	予習：日本住血吸虫、マンソン住血吸虫、有鉤条虫、無鉤条虫と蟯虫について 復習：日本住血吸虫、マンソン住血吸虫、有鉤条虫、無鉤条虫と蟯虫について	大西
5	実習： 糞便検査法②ショ糖液遠心浮遊法と抗酸染色、飽		大西

	和食塩水浮遊法と濾紙培養法 スケッチ：クリプトスポリジウム・パルバムのオーシスト、ズビニ鉤虫（犬鉤虫卵で代用）、糞線虫一期幼虫、糞線虫三期幼虫（サル糞線虫で代用）と鞭虫卵（ネズミ鞭虫卵）で代用）の観察		
6	講義： 糞便検査法③ホルマリンエーテル法、AMSⅢ法 糞便検査法④セロファン肛囲検査法 吸虫③肺吸虫、肝吸虫、横川吸虫 小テスト③日本住血吸虫、マンソン住血吸虫、有鉤条虫、無鉤条虫と蟯虫について	予習：肺吸虫、肝吸虫と横川吸虫について 復習：肺吸虫、肝吸虫と横川吸虫	大西
7	実習： 糞便検査法③ホルマリンエーテル法、AMSⅢ法 糞便検査法④セロファン肛囲検査法 スケッチ：赤痢アメーバのシスト、ランブル鞭毛虫のシスト、日本住血吸虫卵、マンソン住血吸虫卵、無鉤条虫卵と蟯虫卵の観察		大西
8	実習：ホルマリンエーテル法の実技（全員）	予習：ホルマリンエーテル法について 復習：	大西
9	実習： スケッチ：ウエステルマン肺吸虫卵、宮崎肺吸虫卵、肝吸虫卵、横川吸虫卵、その他の観察		大西
10	講義： 血液検査法：血液薄層塗抹法と血液厚層塗抹法 原虫③マラリア、トリパノソーマ 線虫④バンクロフト糸状虫 小テスト④肺吸虫、肝吸虫と横川吸虫について	予習：マラリア、トリパノソーマとバンクロフト糸状虫について 復習：マラリア、トリパノソーマとバンクロフト糸状虫について	大西
11	実習： スケッチ：熱帯熱マラリア原虫（輪状体、栄養型、分裂体、生殖母体）、三日熱マラリア原虫、卵形マラリア原虫の観察		大西
12	実習： マラリア原虫検出のための血液薄層塗抹標本の作製とギムザ染色（全員）	予習：血液薄層塗抹標本の作製法 復習：	大西
13	実習 スケッチ：マラリア原虫（残り）とガンビアトリパノソーマ原虫（trypomastigote型）、クルーズトリパノソーマ原虫（trypomastigote 型とamastigote 型）とフィラリアのミクロフィラリア（犬糸状虫で代用）とその他の観察		大西
14	講義： 原虫④赤痢アメーバによる肝膿瘍、トキソプラズマ症、膣トリコモナス症、リーシュマニア症、シャーガス病、 条虫③有鉤嚢虫症、単包虫症と多包虫症 線虫⑤旋毛虫症、顎口虫症、旋尾線虫症 寄生虫病の免疫診断法とPCR 節足動物（ダニ類と昆虫類）、 寄生虫の固定・保存方法、まとめ 小テスト⑤トリパノソーマ原虫とバンクロフト糸状虫について	予習：トキソプラズマ原虫、膣トリコモナス、リーシュマニア、エキノコッカス、顎口虫、旋毛虫と節足動物について 復習：小テスト⑥トキソプラズマ原虫、リーシュマニア、膣トリコモナス、エキノコッカス、顎口虫、旋毛虫、旋尾線虫について 小テスト⑦節足動物について	大西
15	実習： スケッチ：トキソプラズマ原虫栄養型とシスト、リーシュマニアの amastigote 型、膣トリコモナス栄養型、旋毛虫筋肉内幼虫とその他の観察		大西
成績評価方法と基準			割合
1．スケッチの提出 2．復習で行う小テスト（国家試験に出題されたもの） 3．定期試験 出題範囲：小テストから出題（文章問題と写真による問題） 4．4/5 回以上の出席が必要です。			1.40% 2.10% 3.50%

授業科目名	免疫検査学Ⅰ（検査）（Clinical Laboratory Immunology Ⅰ）				
主担当教員	竹岡　啓子		担当教員	竹岡　啓子	
科目ナンバリング	SS220	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

免疫は“自己と非自己を識別して非自己を排除する生体のしくみ”で、いわば生体の防御反応であり、複雑な免疫機構で成立しています。免疫検査学は臨床検査において、大きなウェイトを占める科目の一つで、血液検査学とも関連性があります。また、免疫機構を利用した検査は検体検査分野で広範囲に活用されています。免疫検査学Ⅰでは教科書の第１章と第２章を学修します。免疫に関するの基礎知識を深め、たくさん出てくる用語を理解し、臨床免疫および疾患との関わりを学修しましょう。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 免疫系（生体防御）のしくみを理解して説明できるようにする。
2. 免疫学的検査と疾患の関わりについて理解して説明できるようにする。
3. 免疫学的検査の基礎知識を理解して説明できるようにする。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

1. 免疫は検体検査の各分野とも関連性が深く重要です。繰り返し学修することが大切です。
2. 講義の内容について説明できるように、各自で教科書・資料をまとめましょう。
3. 学修内容が多岐に亘るので、疑問点はおろそかにせずに、その都度解決しましょう。
4. 予習・復習は２時間ずつする。

教科書

「最新臨床検査学講座 免疫検査学」 窪田哲朗編集/医歯薬出版

参考書

必要に応じて紹介します。

研究室／オフィスアワー

C棟 7階 研究室10 ／在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第１章「免疫系のしくみ」 Ⅰ免疫系の構成要素	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
2	Ⅱ自然免疫 Ⅲ獲得免疫系への抗原提示	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
3	Ⅳ獲得免疫における抗原の認識 Ⅴ獲得免疫におけるＴ細胞の活性化機構と役割	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
4	Ⅵ獲得免疫における抗体の産生機構と役割	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
5	Ⅶ補体系の役割 Ⅷ能動免疫と受動免疫 Ⅸ自己寛容	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
6	第１章「免疫系のしくみ」について、復習と演習問題	教科書の第１章 「免疫系のしくみ」について、各自で重要ポイントを整理する。 復習小テスト実施する。	
7	第２章「免疫学検査が有用な疾患」 Ⅰ感染症①	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
8	Ⅰ感染症②	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
9	Ⅱ腫瘍性疾患 Ⅲアレルギー	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	

10	Ⅳ自己免疫疾患①	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
11	Ⅳ自己免疫疾患②	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
12	Ⅴ免疫不全症	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
13	第 2 章 「免疫学検査が有用な疾患」について、復習と演習問題	教科書の第 2 章 「免疫学検査が有用な疾患」について、各自で重要ポイントを整理する。 復習小テスト実施する。	
14	総合復習と演習問題	予習：教科書、配布資料を見直す。 配布演習問題で免疫検査学全般について復習する。	
15	第 3 章にイントロダクション	予習：教科書の第 3 章に目を通しておく。 免疫検査学前期の範囲で総復習テストを実施する。	
成績評価方法と基準			割合
1.出席基準 2/3 以上 2.授業への出席、授業中に行う小テスト 3..定期試験			1.30% 2.70%

授業科目名	免疫検査学Ⅱ(検査)（Clinical Laboratory Immunology Ⅱ）				
主担当教員	竹岡 啓子		担当教員	竹岡 啓子	
科目ナンバリング	SS221	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

免疫は“自己と非自己を識別して非自己を排除する生体のしくみ”で、いわば生体の防御反応であり、複雑な免疫機構で成立しています。免疫検査学は臨床検査において、大きなウェイトを占める科目の一つで、血液検査学とも関連性があります。 また、免疫機構を利用した抗原抗体反応原理は検体検査分野で広範囲に活用されています。免疫検査学Ⅱでは教科書の第 3 章を学修します。免疫学的検査の測定原理に関する知識を深め、たくさん出てくる用語を理解する。さらに疾患と関連する免疫学的検査について学修しましょう。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 免疫学的検査の基礎となる試験管内抗原抗体反応や沈降反応、非標識・標識抗原抗体測定法、電気泳動法などの原理について理解し説明できるようにする。
2. 免疫関連疾患の免疫学的検査について理解説明できるようにする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 免疫は検体検査の各分野とも関連性が深く重要です。繰り返し学修することが大切です。
2. 講義の内容について説明できるように、各自で教科書・資料をまとめましょう。
3. 学修内容が多岐に亘るので、疑問点はおろそかにせずに、その都度解決しましょう。
4. 予習・復習は 2 時間ずつする。

教科書

「最新臨床検査学講座 免疫検査学」 窪田哲朗編集/医歯薬出版

参考書

必要に応じて紹介します。

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階 研究室 10 ／在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	第 3 章 免疫学的検査の現場 「A.免疫学的検査の原理」 Ⅰ試験管内抗原抗体反応の基礎	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
2	Ⅱ沈降反応 Ⅲ凝集反応 Ⅳ溶解反応 Ⅴ中和反応	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
3	Ⅵ 非標識免疫測定法 Ⅶ 標識免疫測定法①	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
4	Ⅶ 標識免疫測定法②	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
5	Ⅷ 電気泳動法	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
6	第 3 章 免疫学的検査の現場 「A.免疫学的検査の原理」について、復習&演習問題	教科書の第 3 章 免疫学的検査の現場 「A.免疫学的検査の原理」について、各自で重要ポイントを整理する。復習小テスト実施する。	
7	第 3 章 免疫学的検査の現場 「B.免疫学的検査の実際」 Ⅰ感染症の検査①	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
8	Ⅰ感染症の検査②	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	

9	Ⅰ感染症の検査③ Ⅱアレルギーの検査	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
10	Ⅲ自己免疫疾患関連検査①	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
11	Ⅲ自己免疫疾患関連検査②	予習：教科書を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を確認する。	
12	Ⅳ免疫不全関連検査 Ⅴ腫瘍マーカー検査	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
13	Ⅵ血清蛋白異常症関連検査	予習：教科書を読んでくる。 復習：授業内容を教科書・配布資料でする 復習小テスト実施する。	
14	第３章 免疫学的検査の現場 「B.免疫学的検査の実際」について、復習と演習問題	教科書の第３章 免疫学的検査の現場 「B.免疫学的検査の実際」について、各自で重要ポイントを整理する。復習小テスト実施する。	
15	総合復習と演習問題	予習：教科書、配布資料を見直す。 配布演習問題で免疫検査学全般について復習する。	
成績評価方法と基準			割合
1.出席基準 2/3 以上 2.授業への出席、授業冒頭に実施する復習小テスト 3..定期試験			1.30% 2.70%

授業科目名	免疫検査学実習(検査)（Clinical Laboratory Immunology (Practice)）				
主担当教員	竹岡 啓子		担当教員	竹岡 啓子、関根 将	
科目ナンバリング	SS222	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 2 限 金曜 3 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修
授業概要					
免疫検査学 Ⅰ、Ⅱで学修した生体防御のしくみ、試験管内での抗原抗体反応をはじめとする免疫検査法について理解を深める。実習する検査法の測定原理と検査手技を修得し、結果を正確に分析できること。					
到達目標					
1. 各測定法の原理を理解し説明できる。 2. 分析時のピペット操作を完全マスターする。 3. 分析機器等の適切な取り扱いができる。DP①④					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
実習を通して免疫検査学について、より理解を深め検体検査全般に関連する免疫学の重要性を認識する。実習は限られた時間内で行うため、共同実験者とのコミュニケーションを図り、疑問点はそのままにせずに１つ１つ丁寧に理解できるよう心掛ける。予習・復習は２時間ずつする。					
教科書					
配布する実習の手引き 「最新臨床検査学講座 免疫検査学」 窪田哲朗編集/医歯薬出版					
参考書					
臨床免疫検査 技術教本　丸善出版					
研究室／オフィスアワー					
C 棟 7 階 研究室 10 ／在室時は随時					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：配布資料を熟読し，免疫検査学実習の目的をテーマ単位で調べてレポートする。	竹岡 啓子 関根 将
2	マイクロピペットの操作法と精度チェック	予習 ：２回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
3	抗原抗体反応(抗原）①	予習 ：３回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
4	抗原抗体反応(抗原）②	予習 ：３回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
5	抗原抗体反応(抗体）①	予習 ：５回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
6	抗原抗体反応(抗体）②	予習 ：５回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
7	補体結合反応①	予習 ：７ 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将

8	補体結合反応②	予習 ：7 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
9	凝集反応①	予習 ：9 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
10	凝集反応②	予習 ：9 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
11	二重免疫拡散法①	予習 ：11 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
12	二重免疫拡散法②	予習 ：11 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
13	免疫電気泳動①	予習 ：13 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
14	免疫電気泳動②	予習 ：13 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
15	AFP 測定(FEIA)①	予習 ：15 回目の実習内容について、予習書（目的・方法・対象）を作成する。 復習：テーマ毎にレポート（結果、考察、結語）を作成提出する。	竹岡 啓子 関根 将
成績評価方法と基準			割合
1. 出席基準：4/5 以上 2. テーマ毎にレポートを提出。提出は 1 週間以内。 評価ポイントは結果、考察です。 3. 成績評価方法：実習操作・結果・考察レポート 、定期試験 DP①④			2. 20% 3. 80%

授業科目名	輸血･移植検査学(検査)（Blood Transfusion and Transplantation Science）				
主担当教員	押田 眞知子		担当教員	押田 眞知子	
科目ナンバリング	SS223	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修
授業概要					
輸血は疾患に伴う貧血、また外傷や手術に伴う出血に対して不可欠な補充療法である。しかしながら輸血には免疫性・感染性、その他の副作用のリスクも存在する。また、造血幹細胞移植や臓器移植も行われており、HLA や移植時の輸血に関しても正しい知識が必要となってきている。本授業では、安全で適正な輸血療法を行うために必要な知識・検査方法を理解し、習得することを目的とする。					
到達目標					
輸血用血液製剤の使用目的、使用方法、管理方法、輸血療法に伴う副作用に関して理解し、安全で適正な輸血療法に必要な基礎知識を学習し、理解する。 輸血療法を行う上で必要な検査に関し目的、原理、方法を理解する。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
配布資料に目を通すなど、予習・復習を必ず行うこと。不明点はその都度確認し理解するよう努める事。					
教科書					
最新臨床検査学講座「免疫検査学」医歯薬出版株式会社 配布資料					
参考書					
特に無し					
研究室／オフィスアワー					
授業日の非常勤講師控室					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	輸血療法について。輸血の歴史、血液製剤の種類と特性	予習：教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
2	輸血の適応と製剤の選択。輸血療法に関する法律、指針。	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
3	輸血療法や輸血検査に必要な基礎知識	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
4	輸血前に必要な検査	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
5	ABO 血液型と検査法	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
6	Rh 血液型と検査法	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
7	ABO、Rh 以外の血液型	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
8	赤血球不規則抗体とその検査法	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
9	交差適合試験と適合血の選択	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
10	直接抗グロブリン試験の目的と検査法、胎児・新生児溶血性疾患について	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
11	輸血副作用	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
12	自己血輸血	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
13	HLA、血小板抗原、顆粒球抗原	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
14	造血幹細胞移植、臓器移植	予習：授業資料、教科書の確認 復習：授業資料の再確認	
15	医療機関での輸血業務、まとめ	予習：今までの授業資料の確認 復習：理解不足の部分を理解する	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験	100%

授業科目名	輸血・移植検査学実習(検査)（Blood Transfusion　and Transplantation Science (Practice)）				
主担当教員	押田　眞知子		担当教員	押田　眞知子、竹岡　啓子、佐伯　康匠	
科目ナンバリング	SS224	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

輸血を安全に実施するために最低限必要な血液型検査、赤血球不規則抗体検査、交差適合試験、適合血の選択、間接抗グロブリン試験、直接抗グロブリン試験などに関して正しい知識と技術の習得を行う。

到達目標

安全な輸血療法を実施するために最低限必要な輸血検査に関する正しい知識・技術の習得を目標とする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

予習：輸血・移植検査学の講義資料・実習資料に目を通す
復習：レポート作成を通じて検査の目的、検査原理、技術、結果の解釈について理解する。

教科書

臨床検査学講座、輸血・移植検査学講義での配布資料、輸血・移植検査学実習時の配布資料

参考書

臨床検査学講座　免疫検査学

研究室／オフィスアワー

授業日の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	輸血検査の流れ、器具の取り扱い方など ABO, RhD血液型検査① 試験管法、スライド法	予習：講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習：レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
2	ABO, RhD血液型検査② カラム凝集法、RhD 陰性確認試験	予習：講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習：レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
3	抗体価の測定。 凝集抑制試験による唾液中の血液型物質の測定	予習：講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習：レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
4	赤血球不規則抗体検査	予習：講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習：レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
5	交差適合試験と適合血の選択	予習：講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習：レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
6	直接抗グロブリン試験	予習：講義資料および配布資料に目を通しておくこと 復習：レポート作成を通して、実習内容を理解する。	
7	実技試験	輸血検査の流れ、検査内容、特に血液型、赤血球不規則抗体検査、交差適合試験、適合血の選	

		択について理解しておくこと。	
8	輸血・移植検査学実習のまとめ		
成績評価方法と基準			割合
①定期試験 ②レポート点、実技試験			①80% ②20%

授業科目名	生理機能検査学Ⅱ(検査)（Clinical Physiology Ⅱ）				
主担当教員	小宮山 恭弘		担当教員	小宮山 恭弘	
科目ナンバリング	SS226	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生理機能検査学Ⅰでの学修内容をベースに、各々の検査での異常所見について学修を深める。検査所見の特徴とそこから予測される疾患を学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

循環器・呼吸器・神経生理・その他検査での測定原理・基本的な検査手技を学修する。
各検査での、異常所見と疾患名の紐付けが行えるように系統的に学習する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

異常所見を見る際に重要なことは、基本的知識がきちんと整理できているかが重要となる。
正常所見をしっかり学修した上で、どこに違いがあり、なぜ違いが生じるかを学んで欲しい。

教科書

JAMT 技術教本シリーズ循環器機能検査技術教本　じほう社
JAMT 技術教本シリーズ呼吸機能検査技術教本　じほう社
JAMT 技術教本シリーズ神経生理検査技術教本　じほう社

参考書

適時プリント配布し補足する
15 回目講義はインターネット情報などを閲覧する

研究室／オフィスアワー

脇　英彦研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30
小宮山　恭弘研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	異常心電図　不整脈①	期外収縮について調べる	脇　小宮山
2	異常心電図　不整脈②	発作性頻拍、絶対性不整脈について調べる	脇　小宮山
3	異常心電図　不整脈③	伝導異常について調べる	脇　小宮山
4	異常心電図　不整脈④	ペースメーカー適応疾患について調べる	脇　小宮山
5	異常心電図　心肥大	心肥大について調べる	脇　小宮山
6	異常心電図　虚血性心疾患	狭心症・心筋梗塞について調べる	脇　小宮山
7	異常心音図	収縮期雑音・拡張期雑音について調べる	脇　小宮山
8	異常脈波	頚動脈波・頚静脈波・心尖拍動図異常を調べる	脇　小宮山
9	異常脳波①	てんかんの種類を調べる	脇　小宮山
10	異常脳波②	てんかんでの突発性異常脳波を調べる	脇　小宮山
11	異常筋電図①	軸索変性と脱髄について調べる	脇　小宮山
12	異常筋電図②	針筋電図で見られる異常所見を調べる	脇　小宮山
13	呼吸機能検査の異常所見	換気障害の種類・疾患について調べる	脇　小宮山
14	精密呼吸機能検査	機能的残気量・肺拡散能について調べる	脇　小宮山
15	味覚検査　臭覚検査	味覚検査・臭覚検査について調べる	脇　小宮山
成績評価方法と基準			割合

1. 小テスト　30 点 2. 定期試験　70 点	1. 30% 2. 70%

授業科目名	生理機能検査学Ⅲ(検査)（Clinical Physiology Ⅲ）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、小宮山　恭弘	
科目ナンバリング	SS227	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 4 限 木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

超音波の基本原理を学修するとともに、正常画像を判読するための解剖学的知識の再確認を行う。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

超音波の物理特性を学修する。1 年次に学んだ人体の構造を立体的（3 次元的）にイメージしながら、血管走行、臓器の位置を系統的に学ぶ。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

超音波検査は、多くの臓器を安全に迅速に検査できます。基本原理をきちんと学んだ上で、そこから得られる画像の特徴を理解しましょう。

教科書

生理機能検査学 第 3 版　大久保 善朗 他　　医歯薬出版　ISBN978-4-263-22368-0
日超検　心臓超音波テキスト 日本超音波検査学会監修　医歯薬出版
日超検　腹部超音波テキスト 日本超音波検査学会監修　医歯薬出版

参考書

適時プリントを配布し補足する

研究室／オフィスアワー

脇　英彦研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30
小宮山　恭弘研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	超音波の原理①	超音波の性質・物理現象について調べる	脇　小宮山
2	超音波の原理②	超音波の性質　分解能について調べる	脇　小宮山
3	超音波の原理③	ドプラ法について調べる	脇　小宮山
4	超音波の原理④	装置（プローブ・レシーバー・表示部）調べる	脇　小宮山
5	超音波の原理⑤	人工産物（アーチファクト）について調べる	脇　小宮山
6	超音波心臓正常画像①	Ｂモード　Ｍモードについて調べる	脇　小宮山
7	超音波心臓正常画像②	心機能評価法（計算式）について調べる	脇　小宮山
8	超音波心臓正常画像③	房室弁、動脈弁のドプラ波形を調べる	脇　小宮山
9	超音波腹部正常画像①	腹部（肝臓・脾臓）正常画像について調べる	脇　小宮山
10	超音波腹部正常画像②	腹部（胆嚢・膵臓・腎臓）正常画像について調べる	脇　小宮山
11	超音波腹部正常画像③	下腹部　消化器　正常画像について調べる	脇　小宮山
12	超音波腹部異常画像①	腹部（肝臓・脾臓）疾患について調べる	脇　小宮山
13	超音波腹部異常画像②	腹部（胆嚢・膵臓・腎臓）疾患について調べる	脇　小宮山
14	超音波甲状腺画像	甲状腺ホルモンについて調べる	脇　小宮山
15	超音波頚動脈正常画像	血管狭窄測定法について調べる	脇　小宮山
成績評価方法と基準			割合

1. 小テスト　　30 点 2. 定期試験　70 点	1. 30% 2. 70%

授業科目名	生理機能検査学実習(検査)（Clinical Physiology (Practice)）				
主担当教員	小宮山　恭弘		担当教員	小宮山　恭弘、脇　英彦、田上　展子	
科目ナンバリング	SS228	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

生理機能検査の各検査の基本的検査手技と機器の操作法について学修する。
生理機能検査は患者に直接接する検査であり、患者の安全やプライバシーに配慮する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

心電図・肺機能・神経伝導速度検査・脳波検査の検査手技をマスターする。
情報システム（ファイリング）を用いて、病院と同じ環境で検査を行う DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

限られた機器での実習のため、効率良く実習を行う必要がある。検査手技については実習までに十分に予習しておく。

教科書

JAMT 技術教本シリーズ循環器機能検査技術教本　　じほう社
JAMT 技術教本シリーズ呼吸機能検査技術教本　　じほう社
JAMT 技術教本シリーズ神経生理検査技術教本　　じほう社

参考書

適時資料配布する

研究室／オフィスアワー

脇　英彦研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30
小宮山　恭弘研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心電図①	心電図の誘導法を予習しておく	脇　小宮山
2	心電図②	心電図検査手技について理解しておく	脇　小宮山
3	心電図③	マスター2 段階負荷心電図について理解しておく	脇　小宮山
4	心電図④	自律神経検査　C－V　R－R検査について調べておく	脇　小宮山
5	神経伝導速度検査①	MCS　F 波について調べておく	脇　小宮山
6	神経伝導速度検査②	MCS F 波の測定手技について調べておく	脇　小宮山
7	神経伝導速度検査③	SCS について調べておく	脇　小宮山
8	神経伝導速度検査④	SCS の測定手技について調べておく	脇　小宮山
9	脳波検査①	10-20 法について調べておく	脇　小宮山
10	脳波検査②	脳波測定条件　機器設定について調べておく	脇　小宮山
11	脳波検査③	脳波検査レポートについて学習しておく	脇　小宮山
12	脳幹誘発電位検査	脳幹誘発電位検査について調べておく	脇　小宮山
13	呼吸機能検査①	肺活量測定法について調べておく	脇　小宮山
14	呼吸機能検査②	努力性肺活量の測定について調べておく	脇　小宮山
15	総合評価	1-14 の実習の総合評価を行う	脇　小宮山

成績評価方法と基準	割合
1. 実技テスト　（総合評価）　20 点 2. 定期試験　80 点 ・全授業のうち 4/5 以上の出席が必要 DP①④	1. 20% 2. 80%

授業科目名	画像検査学(検査)（Medical Imaging Technology）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦	
科目ナンバリング	SS229	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

画像検査学は、診療・治療等で広く行われている医用画像診断の方法、原理、手順、測定装置、データ管理・保存の方法、安全対策、画像所見判読の仕方を学修する。臨床検査技師が業務として行えるものは、超音波検査、磁気共鳴画像検査、サーモグラフィーなどに限られているが、画像診断では、多くの方法で得られた画像と生化学検査を総合的に判断する能力が必要とされている。超音波検査、レントゲン検査、CT、内視鏡検査、血管撮影、PET 等の画像の基礎的知識と実際の画像から判読について学修する。

到達目標

超音波検査、X 線検査、CT、内視鏡検査、血管撮影、PET 等の画像の基礎的知識と実際の画像からの判読できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

診療の実践で行われている画像診断を模擬経験し、病院で行われている診断・治療の内容を理解できるように心がける。

教科書

生理機能検査学　大久保 善朗 他　医歯薬出版　ISBN978-4-263-22310-9 C3347

参考書

日本超音波検査学会監修　心臓超音波テキスト　医歯薬出版 ISBN978-4-263-22929-3 C3047
日本超音波検査学会監修　腹部超音波テキスト　医歯薬出版 ISBN978-4-263-22931-6 C3047

研究室／オフィスアワー

脇　英彦研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30
小宮山　恭弘研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	胸部・腹部 X 線像の見方	X 線の原理を調べる.。	脇　英彦
2	CT 検査の基礎と解剖概論	CT の原理を調べる.	脇　英彦
3	MRI 検査の原理と造影剤	MRI の原理を調べる。	脇　英彦
4	MRI、CT、血管造影（頭頚部）	頭頚部の解剖と疾病を調べる。	脇　英彦
5	MRI、CT、PET（腹部と心臓）	腹部の解剖と疾病を調べる。	脇　英彦
6	画像診断　症例分析 1	提示症例の疾病について予習・復習する。	脇　英彦
7	画像診断　症例分析 2	提示症例の疾病について予習・復習する。	脇　英彦
8	画像診断　症例分析 3	提示症例の疾病について予習・復習する。	脇　英彦
9	画像診断　症例分析 4	提示症例の疾病について予習・復習する。	脇　英彦
10	画像診断　症例分析 5	提示症例の疾病について予習・復習する。	脇　英彦
11	画像診断　症例分析 6	提示症例の疾病について予習・復習する。	小宮山 恭弘
12	画像診断　症例分析 7	提示症例の疾病について予習・復習する。	小宮山　恭弘
13	画像診断　症例分析 8	提示症例の疾病について予習・復習する。	小宮山　恭弘
14	画像診断　症例分析 9	提示症例の疾病について予習・復習する。	小宮山　恭弘
15	画像診断　症例分析 10	提示症例の疾病について予習・復習する。	小宮山　恭弘
成績評価方法と基準			割合

1.　　小テスト 20 点 2.　　定期試験 80 点	1.　小テスト 20 点 2.　定期試験 80 点

授業科目名	超音波検査学Ⅰ(検査)（Ultrasonography Science　Ⅰ）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、小宮山　恭弘、田上　展子	
科目ナンバリング	SS230	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

心臓超音波検査及び血管（頚動脈・下肢静脈）検査基本技術を習得する。
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

心臓超音波検査(B モード　M モード　Doppler THI　)各モードでの検査ができる。
正常断層像を描出することができる。頚動脈検査及び下肢静脈検査ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

心臓及び血管の超音波検査は、計測系の検査であり、超音波の基本原理をしっかりとイメージしながら
きれいな画像を描出するテクニック（技術）を身に付けてもらいます。

教科書

医歯薬出版　心臓超音波テキスト　第 2 版　日本超音波検査学会　監修　増田喜一　遠田栄一　編集
医歯薬出版　血管超音波テキスト　日本超音波検査学会監修

参考書

じほう社　JAMT 技術教本シリーズ
　超音波検査技術教本　一般社団法人　日本臨床衛生検査技師会　監修

研究室／オフィスアワー

脇研究室/月曜　火曜　18 時～
小宮山研究室/月曜　、木曜　18 時～

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	心臓超音波検査総論	心臓構造と循環生理を理解しておく	脇、小宮山
2	心臓超音波 B モード画像	左室短軸像　左室長軸像　心尖部像	脇、小宮山
3	心臓超音波　左心機能計測	左心機能計測法を調べておく	脇、小宮山
4	心臓超音波　Doppler 法	4 つの弁の狭窄、閉鎖不全調べておく	脇、小宮山
5	心臓超音波　THI 法	拡張能の計測法について調べておく	脇、小宮山
6	頚部動脈超音波総論	頚動脈　椎骨動脈の解剖を理解する	脇、小宮山
7	頚部動脈超音波 IMT 計測	IMT 計測法と年齢毎基準値を調べる	脇、小宮山
8	頚部超音波　Doppler 法	頚部血管流速波形を調べておく	脇、小宮山
9	経頭蓋超音波総論	事前配布資料にて予習	脇、小宮山
10	経頭蓋超音波　Doppler 法	事前配布資料にて予習	脇、小宮山
11	下肢血管超音波総論	下肢血管の検査意義を調べる	脇、小宮山
12	下肢血管超音波　動脈　Doppler 法	下肢動脈の構造を理解しておく	脇、小宮山
13	下肢血管超音波　静脈　B モード法	下肢静脈の構造を理解しておく	脇、小宮山
14	下肢血管超音波　静脈　Doppler 法	深部静脈血栓症について調べる	脇、小宮山
15	演習全体のまとめと振り返り	1-14 演習内容を復習しておく	脇、小宮山

成績評価方法と基準	割合
1.　レポート 30% 2.　定期試験 70% 3.　4/5 以上の出席が必要	1.30% 2.70%

授業科目名	超音波検査学Ⅱ(検査)（Ultrasonography Science Ⅱ）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、小宮山　恭弘、田上　展子	
科目ナンバリング	SS231	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
腹部超音波検査及び表在（甲状腺・乳腺）検査基本技術を習得する。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です
到達目標
腹部超音波検査(上腹部　消化管　腎尿路系)検査ができる。 正常断層像を描出することができる。甲状腺・乳腺超音波基本断面が描出できる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
腹部、甲状腺、乳腺超音波検査は、診断系の検査であり、超音波の基本原理をしっかりとイメージしながら きれいな画像を描出するテクニック（技術）を身に付けてもらいます。またレポートについても学びます。
教科書
医歯薬出版　日超検　腹部超音波テキスト　第２版 日本超音波検査学会　監修　関根智紀　南里和秀　編集
参考書
じほう社　JAMT 技術教本シリーズ超音波検査技術教本 一般社団法人　日本臨床衛生検査技師会　監修
研究室／オフィスアワー
脇研究室/月曜　火曜　18 時～ 小宮山研究室/月曜　、木曜　18 時～
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	腹部超音波検査総論	各臓器の解剖を理解しておく	脇　小宮山
2	腹部超音波　肝臓 1	肝臓のクイノ-8 区域を理解しておく	脇　小宮山
3	腹部超音波　肝臓 2	胆管　門脈　肝動脈を理解する	脇　小宮山
4	腹部超音波　胆嚢	胆嚢の構造を理解しておく	脇　小宮山
5	腹部超音波　脾臓　腎臓	脾臓　腎臓の構造を理解しておく	脇　小宮山
6	腹部超音波　膵臓	膵臓の構造を理解しておく	脇　小宮山
7	腹部超音波　胃　大腸	胃　小腸　大腸の構造を理解する	脇　小宮山
8	腹部超音波　Doppler 法	門脈　肝静脈流速波形を調べておく	脇　小宮山
9	腹部超音波　泌尿器　婦人科	膀胱　前立腺　婦人科臓器を調べる	脇　小宮山
10	甲状腺超音波総論	甲状腺の構造を理解しておく	脇　小宮山
11	甲状腺及び副甲状腺	甲状腺検査の意義を調べる	脇　小宮山
12	乳腺超音波総論	乳腺・周囲リンパ節の構造を理解する	脇　小宮山
13	乳腺超音波　B モード法	乳腺超音波での走査法を理解する	脇　小宮山
14	乳腺超音波 SW エラストグラフィ-	Shear wave 法について調べる	脇　小宮山
15	演習全体のまとめと振り返り	1-14 演習内容を復習しておく	脇　小宮山

成績評価方法と基準	割合
1.　レポート　30 点 2. 定期試験　70 点	1. 30% 2. 70%

・全授業のうち出席 4/5 以上を必要とする	

授業科目名	検査総合管理学(検査)（Integrated Management of Medical Technology）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、竹岡　啓子	
科目ナンバリング	SS301	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

検査総合管理学は、臨床検査の管理に必要な事項を総括的に知り、日々変化する医療状況の中で臨床検査室の管理体制の構築の確立、信頼性の高い検査結果を提供するための幅広い知識の修得を目指す。医療状況の変化を理解し、医療における臨床検査の位置づけを学修する。

到達目標

臨床検査の業務、人事、物品、検査機器の管理と医療安全、感染性廃棄物の管理について学修する。また、検査成績の信頼性を高める精度管理について学修する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 医療人としての臨床検査技師の心構えを理解する。
2. 臨床検査の精度管理を理解するように努める。
3. 講義終了後のノート整理とまとめの作業で、検査総合管理学の理解と確認をする。
4. 予習・復習は２時間ずつする。

教科書

最新臨床検査学講座
　検査総合管理学 高木 康、三村邦裕編　医歯薬出版　ISBN978―4―263―22366―6 C3347

参考書

バイオサイエンスの統計学　市原　清志著
必要な資料を随時配布

研究室／オフィスアワー

竹岡　啓子研究室／　在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床検査技師のキャリアアップについて	予習：臨床検査技師の職業倫理と社会的貢献について調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
2	臨床検査の意義	予習：臨床検査の診断法について調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
3	臨床検査の管理	予習：医療機関の組織編制について調べる 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
4	臨床検査の検査体制（検体検査）	予習：検査の中央化について調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
5	検体検査の業務体制と迅速検査	予習：医療過誤について調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
6	チーム医療の概要	予習：チーム医療の意義について調べる。 復習：講義内容をノート整理する	竹岡　啓子
7	検体検査業務管理（マニュアル作成）	復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
8	臨床検査の情報管理・財務管理	予習：個人情報保護法について調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
9	臨床検査の医療安全・感染管理	予習：医療安全管理学ノートを見直す 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
10	臨床検査の受付と報告	復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
11	検査の精度保障（クオリティーマネージメント）	予習：検査の国際標準化について調べる。 復習：講義内容をノート整理する	竹岡　啓子
12	臨床検査の誤差	予習：検査の真度と精密さについて調べる。 復習：講義内容をノート整理する	竹岡　啓子
13	臨床検査の精度管理①	予習：X-Rs 管理について調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子
14	臨床検査の精度管理②	復習：講義内容をノート整理する	竹岡　啓子
15	検査総合官理学の重要項目を確認する	復習：講義内容をノート整理する。	竹岡　啓子

成績評価方法と基準	割合
①小テスト　　20 点 ②定期テスト　80 点	①20% ②80%

授業科目名	医療情報科学(検査) (Medical Information Science)				
主担当教員	小宮山　恭弘		担当教員	小宮山　恭弘	
科目ナンバリング	SS302	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 1 限 月曜 2 限 火曜 2 限 火曜 3 限 金曜 2 限 金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1 年次から 3 年次で学習した専門科目の学習内容と、その報告形式や報告形態について学ぶ。
各種検査項目と部門検査システム（検体・輸血・微生物・病理・生理検査）について学ぶ。
臨床検査部門システムや電子カルテとの連携　病院セキュリティを学修する。

到達目標

情報系・統計に強い研究能力の高い、臨検査技師を目指す

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床検査技師として働く際に、役立つ情報管理技術知識と、3 年間学習してきた専門科目の内容を授業に盛り込みます。
臨地実習で学んだ知識と学校で学んだ知識を再確認する良い機会にしてください。

教科書

医療情報 情報処理技術編 （日本医療情報学会医療情報技師育成部会）　篠原出版

参考書

医療情報　病院システム編（日本医療情報学会医療情報技師育成部会）　篠原出版
医葉薬出版　臨床検査学講座　一般検査、血液検査、臨床化学、移植輸血学、微生物学、病理学、生理機能検査学
を適時教員の指示により使用する。

研究室／オフィスアワー

小宮山研究室/月　木　18 時以降

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	コンピュータシステム	P3-64	小宮山
2	プログラミング　データベース	P65-115	小宮山
3	ネットワーク技術と情報セキュリティー	P119-349	小宮山
4	臨床検査とシステム 1	適時指示する	小宮山
5	臨床検査とシステム 2	適時指示する	小宮山
6	臨床検査とシステム 3	適時指示する	小宮山
7	臨床検査とシステム 4	配布資料	小宮山
8	臨床検査とシステム 5	配布資料	小宮山
9	病院部門システム　医事　薬剤　看護	配布資料	小宮山
10	病院部門システム　臨床検査 1	配布資料	小宮山
11	病院部門システム　臨床検査 2	配布資料	小宮山
12	病院部門システム　画像情報管理	配布資料	小宮山
13	画像情報機器とネットワーク接続	配布資料	小宮山
14	臨床検査部門での精度管理手法 1	配布資料	小宮山
15	臨床検査部門での精度管理手法 2	配布資料	小宮山

成績評価方法と基準	割合
1　小テスト　30 点 2.　定期試験　70 点 授業は各担当教員のオムニバス形式で行うため、時間割については担当教員の指示に従うこと。 出席は補講を含め 2/3 以上とする。	①　30% ②　70%

授業科目名	関係法規(検査)（Related Laws and Regulations）				
主担当教員	藤原　牧子		担当教員	藤原　牧子	
科目ナンバリング	SS303	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
関係法規は、臨床検査技師として臨床検査業務に必要な法規を学び、業務遂行の指針とする知識を教授する。また、チーム医療で適切な行動がとれるよう関連領域の法規や臨床検査に関連して起こりやすい医療過誤を知り、それらを未然に防ぐ医療安全を教授する。
到達目標
医事法学の概要、臨床検査技師等に関する法律と政令、臨床検査技師等に関する省令、臨床検査技師に関する通達または通知、医療従事者の法規、医療関係法規について学修する。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
１．医療人としての臨床検査技師の心構えを理解する。 ２．臨床検査技師の法律を理解するように努める。 ３．講義終了後のノート整理とまとめの作業で、関係法規の理解と確認が重要である。
教科書
最新臨床検査学講座 　関係法規佐藤乙一編　医歯薬出版　ISBN978―4―263―22360―4 C3347
参考書
必要資料は随時配布する。
研究室／オフィスアワー
脇　英彦研究室／　月曜日　16：10-18：00　火曜日 16：00-18：00 藤原　C 棟７階職員室／　水、木、金曜日　17：00-18:00
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	憲法、医事法概説	復習：講義内容をノート整理する。	脇英彦
2	臨床検査技師等に関する法律	予習：臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	藤原牧子
3	医療・保健・福祉概説	予習：医師法、感染症に関する法律を調べる 復習：講義内容をノート整理する。	藤原牧子
4	医療安全に関する法律の概要	予習：医療過誤について調べる。 復習：講義内容をノート整理する	藤原牧子
5	医療安全に関る法律の各論	予習：医療過誤について調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	藤原牧子
6	臨床検査技師に関する主要法令	予習：臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	藤原牧子
7	臨床検査技師に関する関係通達	予習：臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	藤原牧子
8	臨床検査技師に関する疑義回答	予習：臨床検査技師業務範囲を調べる。 復習：講義内容をノート整理する。	藤原牧子

成績評価方法と基準	割合
小テスト 20 点 定期テスト　80 点	小テスト 20 点 定期テスト 80 点

授業科目名	医療安全管理学(検査)（Medical Safety Management）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、竹岡　啓子	
科目ナンバリング	SS304	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
臨床検査業務を行う上で重要な臨床倫理、患者接遇とコミュニケーションスキル、患者同意、感染防御の標準予防策、チーム医療、医療過誤、危機管理、リスクマネージメントについて学習する。さらに、検体採取の方法についても学習する。
到達目標
標準予防策の実践を理解する。　患者同意の必要性を理解する。　リスクマネージメントを理解する。　安全な検体採取の方法を理解する。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
医療安全と感染管理は，　医療従事者として医療機関に勤める際に極めて重要な知識である。
教科書
医療安全管理学　医歯薬出版　ISBN978-4-263-22365-9 C3347
参考書
随時プリントを配布
研究室／オフィスアワー
脇　英彦研究室　（月）16：30～17：30　（火）16：30～17：30
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床倫理	生命倫理について予習する。	脇 英彦
2	患者接遇とコミュニケーションスキル	患者同意について予習する。	脇　英彦
3	チーム医療	ICT　NST　糖尿病指導について予習する。	脇　英彦
4	インシデント、アクシデント	医療事故、医療過誤について調べる。	脇　英彦
5	感染対策	ワクチンの意義、手洗い手順について予習する。	脇　英彦
6	採血手順と注意事項	採血方法と禁忌について調べる。	脇　英彦
7	採血以外の検体採取と注意事項	皮膚、口腔、鼻腔、粘膜採取について予習する。	脇　英彦
8	医療安全管理の重要点を確認	安全管理に関する国家試験過去問題を調べる。	脇　英彦

成績評価方法と基準	割合
1.小テスト 20 点 2.定期テスト 80 点	1.小テスト 20 点 2.定期テスト 80 点

授業科目名	臨床薬理学(検査)（Clinical Pharmacology）				
主担当教員	小林　吉晴		担当教員	小林　吉晴	
科目ナンバリング	SS401	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性、個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ.

到達目標

・薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を理解できる.
・薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる.
・各種疾病の病態生理や病状を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討できる.
・主要薬物の安全管理と処方の理論を理解できる.

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生化学、生理学、人体の機能、人体の構造などの講義と合わせて復習する。

教科書

カラーイラストで学ぶ 集中講義 薬理学 渡邊康裕 編 メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-0096-4

参考書

シンプル薬理学 野村 隆英 他 編 南江堂

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	薬物の作用（薬の役割、剤形）	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
2	薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄)、副作用、相乗効果	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
3	中枢神経系の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
4	中枢神経系疾患の臨床における薬剤、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
5	内分泌、代謝疾患の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
6	内分泌、代謝疾患の臨床における薬剤の使用方法、副作用。糖尿病・痛風など	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
7	循環器系の病態と用いられる薬剤。	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
8	循環器系疾患の臨床における薬剤の使用方法、副作用。利尿薬、抗不整脈・心筋梗塞など	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
9	消化器系の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
10	消化器系疾患の臨床における薬剤の使用方法、副作用。消化性潰瘍・過敏性腸症候群など	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
11	腫瘍の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
12	腫瘍の臨床における薬剤の使用方法、副作用。	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
13	骨疾患の病態と臨床で用いられる薬剤、副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
14	感染症、呼吸器系疾患の病態と用いられる薬剤	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	
15	感染症、呼吸器系疾患の臨床における薬剤の使用方法と副作用	講義を受講後、配布プリントを参考に、まとめノートを作成する。	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト（DP1）20点 ②定期試験　(DP1）80点	①20% ②80%

授業科目名	食品衛生学(検査)（Food Hygienics）				
主担当教員	西崎　大祐		担当教員	西崎　大祐	
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

食品衛生学は、現在の食中毒発生状況を認識し、食品がもたらす様々な危害について具体的な事例を通して講義するとともに、食中毒発生を防止するための対処法について基本的な知識を教授する。また、臨床検査技師の視点から、食品衛生行政、経口感染症、食品関係施設における衛生管理、食品などの規格基準などについて教授する。さらに、残留農薬、遺伝子組み換え食品、有害物質による食品汚染など食品衛生学が抱える新たな課題についても教授する。

到達目標

氾濫する健康食品等に対して、 一般消費者がこの分野における様々な情報を正確にかつタイムリーに得て、自らの健康維持増進の目的にあった食品を選択し、安全な生活ができるようにアドバイスできる知識を得る。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

小テストで評価するので、復習をすること。

教科書

保健機能食品学(一般社団法人 日本食品安全協会)

参考書

健康食品管理士認定試験のための問題解説集(一般社団法人 日本食品安全協会)

研究室／オフィスアワー

E 棟 1 階非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	保健機能食品総論①	授業内容の復習	
2	保健機能食品総論②	授業内容の復習	
3	保健機能食品各論①	授業内容の復習	
4	保健機能食品各論②	授業内容の復習	
5	食と栄養①	授業内容の復習	
6	食と栄養②	授業内容の復習	
7	医薬品と食品の相互作用①	授業内容の復習	
8	医薬品と食品の相互作用②	授業内容の復習	

成績評価方法と基準	割合
授業内での小テスト	100%

授業科目名	食品関係法規(検査)（Regulation Concerning Food Hygiene）				
主担当教員	竹岡　啓子		担当教員	竹岡　啓子	
科目ナンバリング	SS403	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

食品関係法規では、保健機能食品学を学修するのに必要な関係法規も概要について学修する。関連する食品安全基本法、食品衛生法、健康増進法、JAS 法、医薬品医療機器等法などを授業する。さらに臨床検査技師の視点から保健機能食品が果たす疾患予防などの知識を深める。

到達目標

「機能性表示食品制度」の整備が進められている状況にあって、食全般の安全安心と健康に関することを学修する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

食品関係法規を履修上、授業前に「保健機能食品学」のテキストを予習すると理解度が向上するので、
予習をして下さい。予習・復習は 1 時間ずつする。

教科書

保健機能食品学(一般社団法人 日本食品安全協会)

参考書

健康食品管理士認定試験のための問題解説集(一般社団法人 日本食品安全協会)

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階 研究室 10 ／在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	関係法規 ①	予習：テキストを予習する. 復習：講義内容を復習、次週の小テストに備える.	
2	関係法規 ②	予習：テキストを予習する. 復習：講義内容を復習、次週の小テストに備える.	
3	病態解析と栄養管理 ①	予習：テキストを予習する. 復習：講義内容を復習、次週の小テストに備える.	
4	病態解析と栄養管理 ②	予習：テキストを予習する. 復習：講義内容を復習、次週の小テストに備える.	
5	病態解析と栄養管理 ③	予習：テキストを予習する. 復習：講義内容を復習、次週の小テストに備える.	
6	食の安全性 ①	予習：テキストを予習する. 復習：講義内容を復習、次週の小テストに備える.	
7	食の安全性 ② 食品表示	予習：テキストを予習する. 復習：講義内容を復習、次週の小テストに備える.	
8	授業全体のまとめ	予習：関係法規から食品表示まで復習する	

成績評価方法と基準	割合
成績評価方法と基準 1. 出席基準 2/3 以上 2. 定期試験	2. 100%

授業科目名	総合演習Ⅰ(検査)（Integrated Seminar Ⅰ）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、上田　真喜子、森　誠司、小宮山　恭弘、小林　吉晴、前川　佳敬、竹岡　啓子、佐伯　康匠、藤原　牧子、小林　彩香、関根　将、田路　英作	
科目ナンバリング	SS404	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（月曜２限 月曜３限 火曜２限）、後期（月曜２限 月曜３限 火曜２限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床検査学が網羅する学問領域は多岐にわたり、個々の専門科目を独立して学ぶが、検査の実践においては横断的な理解が必要となる。本演習では臨床を見据え各検査を実践するために必要な知識・技術を統合的に理解できるようになることを目標とする。総合演習Ⅰでは臨床病態学と形態検査学（血液検査学、病理検査学、一般検査学）また基礎医学系科目（解剖学、病理学）を中心に基礎から応用まで重要なポイントを整理し学習する。

到達目標

1）病態理解の基盤となる解剖学・生理学・生化学・病理学の知識を確固たるものにする。
2）各検査法を実践するために不可欠な原理・原則について理解を深める。
3）各種疾患に対して行われる臨床検査から得られるデータを統合的に理解し評価できるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

下記の授業計画は時系列ではない。詳細な日程は教員の指示に従うこと。
授業進行には十分な予習と復習が必要であるため、自宅学習は計画的に継続しておこなうこと。
理解の足りないところ、苦手なところは後回しにせず早期に克服する術を講じること。

教科書

指示する。

参考書

指示する。

研究室／オフィスアワー

各教員は随時対応する。ただし、事前に予約すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床検査技師の職業意識と自己のキャリアアップについて	臨床検査技師の社会における有用性について調べる。	
2	解剖学：呼吸器系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
3	解剖学：消化器系・内分泌系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
4	解剖学：泌尿器・生殖器系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
5	解剖学：神経系・感覚器系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
6	病理学：組織障害・修復機構	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
7	病理学：代謝障害	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
8	病理学：循環障害	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
9	病理学；感染症・免疫異常	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
10	病理学：腫瘍	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
11	臨床病態学：循環器・呼吸器系疾患	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
12	臨床病態学：泌尿器系疾患	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
13	臨床病態学：感染症・自己免疫疾患	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
14	臨床病態学：内分泌系疾患	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
15	臨床病態学；神経・筋疾患	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
16	病理検査学：組織標本作成・包埋、薄切	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
17	病理検査学：一般染色・結合組織染色	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
18	病理検査学：糖質・酸性粘液多糖類の染色	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
19	病理検査学: 核酸・アミロイド・脂質の染色	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
20	病理検査学：免疫組織化学染色	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
21	病理検査学：細胞検査学	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
22	血液検査学：血球数算定	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
23	血液検査学：赤血球に関する検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
24	血液検査学：塗抹標本・染色	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
25	血液検査学：血液像の観察	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
26	血液検査学：凝固検査?	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
27	血液検査学：凝固検査②	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
28	一般検査学：尿沈査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
29	一般検査学：尿の生化学検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	

30	一般検査学：脳脊髄液・糞便・喀痰検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
成績評価方法と基準			割合
マークシート形式の試験を前期末（中間テスト）、後期末（期末テスト）にそれぞれ複数回おこない、総合成績が基準以上であった者に単位を認定する。 4/5 以上の出席を必要とする。			中間テスト 30% 期末テスト 70%

授業科目名	総合演習Ⅱ(検査)（Integrated Seminar Ⅱ）				
主担当教員	脇 英彦		担当教員	脇 英彦、上田 真喜子、森 誠司、小宮山 恭弘、小林 吉晴、前川 佳敬、竹岡 啓子、佐伯 康匠、藤原 牧子、小林 彩香、関根 将、田路 英作	
科目ナンバリング	SS405	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（火曜３限 水曜２限 水曜３限）、 後期（火曜３限 水曜２限 水曜３限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床検査学が網羅する学問領域は多岐にわたり、個々の専門科目を独立して学ぶが、検査の実践においては横断的な理解が必要となる。本演習では臨床を見据え各検査を実践するために必要な知識・技術を統合的に理解できるようになることを目標とする。総合演習 II では生物化学分析検査学（臨床化学、遺伝子検査学、放射性同位元素検査学）、病因・生体防御検査学（免疫検査学、輸血・移植検査学、微生物検査学、寄生虫検査学）また基礎医学系科目（生化学）を中心に基礎から応用まで重要なポイントを整理し学習する。

到達目標

1）病態理解の基盤となる解剖学・生理学・生化学・病理学の知識を確固たるものにする。
2）各検査法を実践するために不可欠な原理・原則について理解を深める。
3）各種疾患に対して行われる臨床検査から得られるデータを統合的に理解し評価できるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

下記の授業計画は時系列ではない。詳細な日程は教員の指示に従うこと。
授業進行には十分な予習と復習が必要であるため、自宅学習は計画的に継続しておこなうこと。
理解の足りないところ、苦手なところは後回しにせず早期に克服する術を講じること。

教科書

指示する。

参考書

指示する。

研究室／オフィスアワー

随時対応する。ただし、事前に予約すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生化学：生体構成成分	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
2	生化学：解糖系・糖新生	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
3	生化学： 酵素反応	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
4	生化学：TCA サイクル・電子伝達系、脂質代謝	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
5	生化学：アミノ酸代謝	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
6	遺伝子検査学：核酸の性質、	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	

7	遺伝子検査学：遺伝学的検査・体細胞遺伝子検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
8	遺伝子検査学：遺伝子検査技術	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
9	免疫検査学：生体防御のメカニズム	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
10	免疫検査学：感染防御・腫瘍免疫	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
11	免疫検査学：アレルギー・自己免疫疾患	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
12	免疫検査学：抗原抗体反応を用いた分析法①	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
13	免疫検査学：抗原抗体反応を用いた分析法②	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
14	免疫検査学：免疫機能検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
15	輸血・移植検査学：血液型、ABO 型、Rh 型、HLA	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
16	輸血・移植検査学：血液型検査、不規則抗体	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
17	輸血・移植検査学：クロスマッチ試験	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
18	輸血・移植検査学：輸血管理・製剤の種類	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
19	輸血・移植検査学：移植免疫・HLA タイピング	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
20	微生物検査学：無菌操作・検体採取・染色法	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
21	微生物検査学：細菌①	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
22	微生物検査学：細菌②	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
23	微生物検査学：細菌③	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
24	微生物検査学：真菌・ウイルス	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
25	微生物検査学：微生物検査結果の評価	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
26	寄生虫検査学：感染経路と生活史	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
27	寄生虫検査学：線虫類・吸虫類・条虫類	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
28	寄生虫検査学：原虫類・衛生動物	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
29	放射性同位元素検査学：放射性物質の性質	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着	
		させる。	
30	放射性同位元素検査学：RI 検査技術	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	

成績評価方法と基準	割合
マークシート形式の試験を前期末（中間テスト）、後期末（期末テスト）にそれぞれ複数回おこない、総合成績が基準以上であった者に単位を認定する。 4/5 以上の出席を必要とする。	中間テスト 30% 期末テスト 70%

授業科目名	総合演習Ⅲ(検査)（Integrated Seminar Ⅲ）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、上田　真喜子、森　誠司、小宮山　恭弘、小林　吉晴、前川　佳敬、竹岡　啓子、佐伯　康匠、藤原　牧子、小林　彩香、関根　将、田路　英作	
科目ナンバリング	SS406	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜２限 木曜３限　金曜２限)、後期(木曜２限 木曜３限　金曜２限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床検査学が網羅する学問領域は多岐にわたり、個々の専門科目を独立して学ぶが、検査の実践においては横断的な理解が必要となる。本演習では臨床を見据え各検査を実践するために必要な知識・技術を統合的に理解できるようになることを目標とする。総合演習 III ではと生理機能検査学、検査総合管理学（検査総合管理学、医療情報学、関係法規）また基礎医学系科目（生理学、公衆衛生学、医用工学）を中心に基礎から応用まで重要なポイントを整理し学習する。

到達目標

1）病態理解の基盤となる解剖学・生理学・生化学・病理学の知識を確固たるものにする。
2）各検査法を実践するために不可欠な原理・原則について理解を深める。
3）各種疾患に対して行われる臨床検査から得られるデータを統合的に理解し評価できるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

下記の授業計画は時系列ではない。詳細な日程は教員の指示に従うこと。
授業進行には十分な予習と復習が必要であるため、自宅学習は計画的に継続しておこなうこと。
理解の足りないところ、苦手なところは後回しにせず早期に克服する術を講じること。

教科書

指示する。

参考書

指示する。

研究室／オフィスアワー

随時対応する。ただし、事前に予約すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生理学：循環器系・呼吸器系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
2	生理学：消化器系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
3	生理学：泌尿器・生殖器系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
4	生理学：内分泌系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
5	生理学：神経系・感覚器系	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
6	公衆衛生学：健康・予防・生活環境・保健	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
7	公衆衛生学：疫学調査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
8	公衆衛生学：生物環境・感染予防	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
9	医用工学：電気回路の基本	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
10	医用工学：電源・内部抵抗、交流	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
11	医用工学：抵抗、コンデンサ、コイル、CR 回路	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
12	医用工学：ダイオード、トランジスタ、増幅器	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
13	医用工学：生体物性・生体計測・安全対策	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
14	生理機能検査学：循環器系検査?	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
15	生理機能検査学：循環器系検査②	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
16	生理機能検査学：呼吸器系検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
17	生理機能検査学：神経系検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
18	生理機能検査学：運動器系検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
19	生理機能検査学：感覚器系検査	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
20	生理機能検査学：画像検査?	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
21	生理機能検査学：画像検査②	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
22	検査総合管理学：　検査部門の安全管理	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
23	検査総合管理学：　精度管理・基準範囲	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
24	検査総合管理学：　採血・検体採取と保存	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
25	検査総合管理学：検査情報管理	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
26	医療情報学：論理演算・データ形式と情報処理	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
27	医療情報学：プログラム言語・ネットワークシステム	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
28	医療情報学：医療情報システム	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
29	関係法規?	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着	

		させる。	
30	関係法規②	予習：教科書の該当範囲を予習する。 復習：ノート・配布資料等を活用し知識を定着させる。	
成績評価方法と基準			割合
マークシート形式の試験を前期末（中間テスト）、後期末（期末テスト）にそれぞれ複数回おこない、総合成績が基準以上であった者に単位を認定する。 4/5 以上の出席を必要とする。			中間テスト 30% 期末テスト 70%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):上田 真喜子・小林 彩香（Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子、小林 彩香	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜 5 限)、後期(木曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要					
研究指導教員の下で研究テーマを決め、データ解析などを行う。 主に、「病理学」「病理検査学」領域の研究を行う。 研究成果として、抄録を提出する。					
到達目標					
1. 研究倫理について理解することができる。 2. 専門領域について文献収集ができる。 3. 専門領域における実験などの研究方法を理解する。 4. 研究に関して、論理的思考・解析・考察ができる。DP①④					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
1. 教員とよく話し合って研究活動を進めること。 2. 期日を守ること。					
教科書					
特に定めない。					
参考書					
特に定めない。					
研究室／オフィスアワー					
教員の指示に従う。					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義 オリエンテーション	研究領域について、事前、事後の自己学習を行う。	上田真喜子 小林彩香
2	文献検索・抄読①	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
3	文献検索・抄読②	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
4	文献検索・抄読③	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
5	文献検索・抄読④	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
6	文献検索・抄読⑤	研究領域や研究の流れについて文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
7	研究テーマの設定①	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香
8	研究テーマの設定②	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香
9	研究テーマの設定③	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香
10	研究テーマの設定④	研究テーマについて指導教員とディスカッションする。	上田真喜子 小林彩香
11	研究テーマの参考文献抄読①	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
12	研究テーマの参考文献抄読②	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
13	研究テーマの参考文献抄読③	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
14	研究テーマの参考文献抄読④	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香

15	研究テーマの参考文献抄読⑤	研究テーマに関する参考文献を読み、理解する。	上田真喜子 小林彩香
16	研究計画の立案①	研究計画をたてる。	上田真喜子 小林彩香
17	研究計画の立案②	研究計画をたてる。	上田真喜子 小林彩香
18	研究データの収集と解析①	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
19	研究データの収集と解析②	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
20	研究データの収集と解析③	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
21	研究データの収集と解析④	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
22	研究データの収集と解析⑤	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
23	研究データの収集と解析⑥	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
24	研究データの収集と解析⑦	研究データを収集し、解析する。	上田真喜子 小林彩香
25	抄録作成の準備①	文献を読み、抄録作成の準備をする。	上田真喜子 小林彩香
26	抄録作成の準備②	文献を読み、抄録作成の準備をする。	上田真喜子 小林彩香
27	抄録作成の準備③	文献を読み、抄録作成の準備をする。	上田真喜子 小林彩香
28	抄録作成の準備④	文献を読み、抄録作成の準備をする。	上田真喜子 小林彩香
29	抄録作成①	抄録を作成する。	上田真喜子 小林彩香
30	抄録作成②	抄録を作成する。	上田真喜子 小林彩香
成績評価方法と基準			割合
1.研究成果として、抄録の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。 2.全授業の 4/5 の出席を必要とする。DP①④			1.100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):森　誠司 （Graduation Research　Ⅰ）				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期（木曜 5 限）、 後期（木曜 5 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要					
がんの進展メカニズムについて in vitro の解析法を主体に研究をおこなう。卒業研究Ⅰではとくに研究に必要な基礎的素養を見つける。まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出することに十分な時間を割き方向性を見極める。この過程を通して外国語論文の読解力を養うとともに、論文作成の基礎を修得する。次に、卒業研究 II を視野に入れて研究計画を立案する。実験の施行にあたっては、まず実験系の確立と予備実験をおこなう。最終的には、得られたデータから仮説の検証等の考察を加え、他者に説明できるようにする。					
到達目標					
1. 研究倫理について理解することができる。 2. 当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる。 3. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。 4. 実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる。 5. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。 6. 研究成果をプレゼンテーションができる。DP①④					
履修上の注意（学生へのメッセージ）					
指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。					
教科書					
指示する					
参考書					
指示する					
研究室／オフィスアワー					
随時					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容		予習・復習・課題等		担当
1	1から６回：研究領域の理解と文献抄読		背景について担当教員と議論し理解する		
2	７から９回：実験仮説と方法の立案		論文検索をおこない課題を抽出する		
3	１０から１２回：プロトコルの作成		論理的かつ実現可能な計画を策定する		
4	１３から１５回：実験系の確立		実験手法を修得するとともに予備実験をおこなう		
5	１６から２５回：実験実施（データ収集、解析）		実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める		
6	２６から２９回：結果のまとめ、解釈		実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める		
7	３０回：プレゼンテーションの準備		図表等の発表資料の作成。論理的に説明する		
成績評価方法と基準					割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要 DP①④					100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):小宮山 恭弘・藤原 牧子 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	小宮山 恭弘		担当教員	小宮山 恭弘、藤原 牧子	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜 5 限)、後期(木曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

小宮山
医学、臨床検査分野での興味あるテーマについて、超音波検査やその他の生理機能検査について、先行研究にて明らかになっている論理点とその根拠を理解し、未だ明らかにされていない未開の部分を自らのクリティカルな発想により明らかにする。

藤原
臨床血液学、血液疾患、各種血液、凝固系検査やそれに関連する病態について、先行研究にて明らかになっている論理点とその根拠を理解し、未だ明らかにされていない未開の部分を自らのクリティカルな発想により明らかにする。

到達目標

研究倫理について理解することができる。これまで大学で学修した医学、臨床検査分野の知識から個々に研究テーマを設定する。
研究で得られた結果がどのような意味を持つものかを考える。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究とは明らかになっていない疑問点をどのように解釈していくかの 1 手法である。超音波診断や新しい超音波検査手法、生理機能検査手法,また臨床血液学、凝固系検査、血液疾患などについて学ぶとともに、血液データも加えた総合診断能力を身につけるようにともに勉強しましょう。

教科書

超音波技術教本　　じほう
血液検査学　医歯薬出版

参考書

研究論文篇　　クリティカルシンキング
J・メルツォフ著　中澤　潤　監訳　北大路書房

研究室／オフィスアワー

小宮山 藤原　研究室/月曜　、木曜　18 時～

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究と仮説について 研究テーマ選定	1-30 まで随時指示をする	小宮山 藤原
2	研究方法と研究に用いる変数、サンプルの考え方		小宮山 藤原
3	最新の血液疾患治療		小宮山 藤原
4	最新の超音波診断技術		小宮山 藤原
5	研究デザインに対する考え方　　研究テーマ決定		小宮山 藤原
6	それぞれの研究テーマに沿った関係文献を読み込む		小宮山
7	それぞれの研究テーマに沿った関係文献を読み込む		小宮山
8	それぞれの研究テーマに沿った関係文献を読み込む		小宮山
9	卒業研究データ収集　1		小宮山 藤原
10	卒業研究データ収集　2		小宮山
11	卒業研究データ収集　3		小宮山
12	卒業研究データ収集　4		小宮山
13	卒業研究データ収集　5		小宮山
14	卒業研究データ収集　6		小宮山
15	研究中間データ報告会	発表用データ持参すること	小宮山 藤原
16	文献抄読会 1		小宮山 藤原
17	文献抄読会 2		小宮山
18	文献抄読会 3		小宮山
19	研究結果統計解析 1		小宮山
20	研究結果統計解析 2		小宮山
21	研究結果統計解析 3		小宮山
22	研究結果統計解析 4		小宮山
23	研究結果統計解析 5		小宮山
24	研究結果統計解析 6		小宮山
25	研究室内発表会予演会		小宮山 藤原
26	研究内容まとめ（研究データ作成）		小宮山 藤原
27	研究内容まとめ　修正予備日　1		小宮山
28	研究内容まとめ　修正予備日　2		小宮山
29	研究内容まとめ　修正予備日　3		小宮山
30	中間発表会	発表用データ持参すること	小宮山 藤原

成績評価方法と基準	割合
1. 中間データ報告会　15 コマ目 2. 中間発表会及び抄録の提出　30 コマ目 ・全授業のうち 4/5 以上の出席を必要とする DP①④	1. 40% 2. 60%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):小林 吉晴・竹岡 啓子 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	小林 吉晴		担当教員	小林 吉晴、竹岡 啓子	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜 5 限)、後期(木曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、研究計画作成を行う。
研究成果として、研究計画を中間発表会で報告する。
研究テーマ①は、ステロイドホルモンの分析法の開発とその病態解析への応用とする（小林)。
研究テーマ②は、免疫検査学に関連する分析法の開発とその病態解析への応用とする （竹岡)。
研究手法として、調査研究を実施する。

到達目標

1.研究倫理について理解することができる。
2.専門領域における資料および文献収集ができる。
3.専門領域における実験または調査などの研究方法を理解する。
4.研究計画を作成し、プレゼンテーションができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員とよく話し合って研究活動を進めること。

教科書

配布資料、文献など

参考書

随時紹介する

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション/卒業研究について説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
2	卒業論文テーマの見つけ方などについて説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
3	卒業論文執筆について/論文執筆方法について説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
4	文献読解と要約の方法/テキストや文献、論文の読解と要約方法を説明する。	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
5	関連領域の論文抄読（１）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
6	関連領域の論文抄読（２）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
7	関連領域の論文抄読（３）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
8	関連領域の論文抄読（４）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
9	関連領域の論文抄読（５）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
10	関連領域の論文抄読（６）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
11	関連領域の論文抄読（７）	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
12	各自の研究テーマのまとめとグループ内での発表準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
13	各自の研究テーマのまとめとグループ内での発表準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
14	各自の研究テーマのまとめとグループ内での発表準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
15	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
16	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
17	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
18	グループ内で各テーマについて発表する	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
19	実験計画（プロトコル）作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
20	実験計画（プロトコル）作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
21	実験計画（プロトコル）作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
22	実験計画（プロトコル）作成	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
23	グループ内での実験計画発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
24	グループ内での実験計画発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
25	グループ内での実験計画発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
26	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
27	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
28	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
29	中間報告会準備	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子
30	発表会	実施テーマに関する事前、事後の自己学習を行う	小林吉晴 竹岡啓子

成績評価方法と基準	割合
研究テーマ報告書の提出(DP1,4)．中間報告会での発表を評価対象とする(DP1,4)。 4/5 以上の出席が必要。 DP①④	プレゼンテーション 70%、中間報告会 30%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):脇 英彦・前川 佳敬 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	脇 英彦		担当教員	脇 英彦、前川 佳敬	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜 5 限)、後期(木曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1～2 年生で学んだ知識と技術を基礎として、臨床病態学の検査領域について研究する。
担当教員の指導を基に研究計画、結果のまとめ方、発表方法の基礎について学ぶ。
卒業発表に向けての基礎実践力を養う。

到達目標

① 研究倫理について理解することができる。
② 本講座を通して、探究心を養う。
③ 調査方法と結果のまとめ方を養う。
④ 結果の発表方法を学ぶ。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

調査・研究テーマについて十分に理解し、積極的に行う。
疑問点は指導教員への質問や討論を通して理解に努める。
研究室のメンバーとして、節度ある行動に心がける。

教科書

特に定めない。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

研究室における指導に準じる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床病態学における（循環器、老年、消化器疾患）での研究テーマ、研究方法、結果のまとめ方、発表方法の概論。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦
2	臨床病態学（循環器）における臨床検査の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	前川 佳敬
3	臨床病態学（老年学）における臨床検査の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	前川 佳敬
4	臨床病態学（消化器）における臨床検査の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦
5	臨床病態学（循環器）における画像診断の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	前川 佳敬
6	臨床病態学（消化器）における画像診断の役割について。	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦
7	研究と仮説について①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
8	研究と仮説について②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
9	研究デザインの取り組み方①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
10	研究デザインの取り組み方②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
11	研究テーマの設定①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
12	研究テーマの設定②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
13	卒業研究に必要なデータ収集①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
14	卒業研究に必要なデータ収集②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
15	卒業研究に必要なデータ収集③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
16	卒業研究に必要なデータ収集④	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
17	卒業研究に必要なデータ収集⑤	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
18	文献抄読会①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
19	文献抄読会②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
20	文献抄読会③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
21	中間報告へのデータ解析①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
22	中間報告へのデータ解析②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
23	中間報告へのデータ解析③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
24	中間報告への小括準備①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
25	中間報告への小括準備②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
26	中間報告への小括準備③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
27	中間報告への小括準備④	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
28	中間報告への小括準備⑤	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
29	中間発表会①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬
30	中間発表会②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇 英彦 前川 佳敬

成績評価方法と基準	割合
1、出席は 4/5 以上とする。 2、中間発表会もしくは抄録の提出 DP①④	中間発表会もしくは抄録 100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):佐伯　康匠（Graduation Research　Ⅰ）				
主担当教員	佐伯　康匠		担当教員	佐伯　康匠	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜 5 限)、後期(木曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

微生物検査に関する研究をおこなう。卒業研究Ⅰではとくに研究に必要な基礎的素養を見つける。まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出することに十分な時間を割き方向性を見極める。この過程を通して外国語論文の読解力を養うとともに、論文作成の基礎を修得する。次に、卒業研Ⅱを視野に入れて研究計画を立案する。実験の施行にあたっては、まず実験系の確立と予備実験をおこなう。最終的には、得られたデータから仮説の検証等の考察を加え、他者に説明できるようにする。

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。
2. 当該研究領域に関連する資料および文献の収集ができる。
3. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。
4. 実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる。
5. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。
6. 研究成果をプレゼンテーションできる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指示する。

参考書

指示する。

研究室／オフィスアワー

キャナルポート７階教職員室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１から６回：研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する	
2	７から９回：実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する	
3	１０から１２回：プロトコルの作成	論理的かつ実現可能な計画を策定する	
4	１３から１５回：実験系の確立	実験手法を修得するとともに予備実験をおこなう	
5	１６から２５回：実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
6	２６から２９回：結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する	
7	３０回：プレゼンテーションの準備	図表等の発表資料の作成。論理的に説明する	

成績評価方法と基準	割合
研究計画書の提出、中間報告会での発表を評価対象とする 4/5 以上の出席が必要 DP①④	100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):川畑　浩久（Graduation Research　Ⅰ）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜 5 限)、後期(木曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1. 1〜2 年生で学んだ知識と技術を基礎として、実験病理学領域について研究する。
2. 担当教員の指導を基に研究計画、結果のまとめ方、発表方法の基礎について学ぶ。
3. 卒業発表に向けての基礎実践力を養う。

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。〈DP①〉
2. 当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる。〈DP①〉
3. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。〈DP①〉
4. 実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる。〈DP①〉
5. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。〈DP①④〉
6. 研究成果をプレゼンテーションができる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 調査・研究テーマについて十分に理解し、積極的に行う。
2. 疑問点は指導教員への質問や討論を通して理解に努める。
3. 学生として節度ある行動に心がける。

教科書

1. 適宜プリントおよび資料を配布する。

参考書

1. 新染色法のすべて．医歯薬出版株式会社 著．医歯薬出版株式会社 1999 年.
2. 渡辺・中根 酵素抗体法．名倉 宏ほか編集．学際企画．2002 年.
3. バイオ実験イラストレイテッド①、②．中山広樹、西方敬人著．学研メディカル秀潤社．1995 年.
4. マウス解剖イラストレイテッド．野村慎太郎著．学研メディカル秀潤社．2013 年.

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 707／木、金曜日 17:00〜18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実験病理学（組織学、分子生物学）の概要と研究に向けてのオリエンテーション	予習：組織学・分子生物学の研究手法について図書館などを利用して、概略を調べておくこと。 復習：組織学・分子生物学の研究手法について復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
2	実験病理学による病態の理解①：組織修復（骨折、皮膚創傷など）	予習：骨折修復過程、皮膚の創傷治癒過程について調べておくこと。 復習：骨折修復過程、皮膚の創傷治癒過程における細胞組織・遺伝子発現の変化について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
3	実験病理学による病態の理解②：炎症性関節疾患（関節リウマチ）	予習：関節リウマチの病態について調べておくこ。 復習：関節リウマチの病態における細胞組織・遺伝子発現の変化について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
4	実験病理学による病態の理解③：皮膚疾患	予習：アレルギー性皮膚炎の病態について調べておくこと。 復習：アレルギー性皮膚炎の病態における細胞組織・遺伝子発現の変化について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	

5	実験病理学による病態の理解④：炎症性腸炎	予習：炎症性腸炎の病態について調べておくこと。 復習：炎症性腸炎の病態における細胞組織・遺伝子発現の変化について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
6	実験病理学による病態の理解⑤：病的線維化（関節拘縮）	予習：関節拘縮における滑膜組織の病態について調べておくこと。 復習：関節拘縮における滑膜組織の病態における細胞組織・遺伝子発現の変化について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
7	研究テーマの仮設定 ：可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：リストアップした研究テーマとその内容に ついて調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容 についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
8	研究テーマの仮設定 ：可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：リストアップした研究テーマとその内容について調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
9	研究テーマの仮設定 ：可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：リストアップした研究テーマとその内容について調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
10	研究テーマの決定 ：先?研究の現状と実?可能性を踏まえて研究テーマ決定	予習：これまで講義内で?ってきた説明や議論から、最終的に研究テーマを遂?するための根拠（設備や環境）を確認しておくこと。 復習：決定した研究テーマについて、先?研究や講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
11	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	予習：研究デザインを決定するための根拠（設備や環境も含めて）を確認しておくこと。 復習：講義内で得られた情報を整理し、研究デザインにういての理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
12	研究計画の?案： 研究計画書（プロトコール）の?案と作成	予習：研究計画書の?案のために必要な資料を??し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や??資料をもとに研究計画書を作成しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
13	研究計画の?案： 研究計画書（プロトコール）の?案と作成	予習：研究計画書の?案のために必要な資料を??し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や??資料をもとに研究計画書を作成しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
14	研究計画の?案： 研究計画書（プロトコール）の?案と作成	予習：研究計画書の?案のために必要な資料を??し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や??資料をもとに研究計画書を作成しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
15	倫理審査： 研究倫理審査の必要性と申請	予習：研究倫理について調べておくこと。 復習：講義内での説明・議論や資料をもとに研究 倫理審査の必要性と重要性の理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
16	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験	

		ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
17	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
18	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
19	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
20	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
21	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
22	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
23	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
24	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
25	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
26	結果の考察: 先?研究と関連?献を参考に結果を考察する	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習:実験の結果についての考察を?い、自分の研究の妥当性を確認しておくこと。また疑問点や改善点がある場合には、抽出しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
27	結果の考察: 先?研究と関連?献を参考に結果を考察する	予習:関連分野の論?や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習:実験の結果についての考察を?い、自分の研究の妥当性を確認しておくこと。また疑問点や改善点がある場合には、抽出しておくこと。	

		なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
28	発表準備： 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	予習：予備研究の結果についてスライドおよび配布資料を作成しておくこと。 復習：作成したスライドおよび配布資料について、講義での説明・議論をもとに修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
29	中間報告会 ：中間報告会における発表と質疑応答	予習：作成したスライドおよび配布資料について十分に理解し、質疑にも対応できるように準備しておくこと。 復習：中間報告会での質疑をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
30	中間報告会 ：報告会における質疑応答と問題点指摘を踏まえ た研究計画の修正	予習：プロトコール発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえて、必要に応じて研究計画の修正を 図ること。 復習：プロトコール発表会での質疑をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと	
成績評価方法と基準			割合
1. 抄録の提出もしくは中間発表会〈DP①④〉 2. 出席は 4/5 以上とする。			100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(検査):関根 将 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	関根 将		担当教員	関根 将	
科目ナンバリング	SS501	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(木曜 5 限)、 後期(木曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

ウイルス，寄生虫を対象とした研究を行う。
卒業研究Ⅰでは研究計画，結果の解析，発表方法について学ぶ。
また、外国語文献の読解力を養う。

到達目標

1. 研究倫理について理解することができる。〈DP①〉
2. 当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる。〈DP①〉
3. 当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。〈DP①〉
4. 実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる。〈DP①〉
5. 得られた結果を分析しまとめ考察ができる。〈DP①④〉
6. 研究成果をプレゼンテーションができる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 調査・研究テーマについて十分に理解し、積極的に行う。
2. 疑問点は指導教員への質問や討論を通して理解に努める。
3. 学生として節度ある行動に心がける。

教科書

1. 適宜プリントおよび資料を配布する。

参考書

1. 図説人体寄生虫学 南山堂
2. 寄生虫学テキスト 文光堂
3. 顧みられない熱帯病 - グローバルヘルスへの挑戦 東京大学出版
4. 標準微生物学 医学書院
5. 医科ウイルス学 南江堂

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階教員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	寄生虫，ウイルスの概要と研究に向けてのオリエンテーション	予習：寄生虫学，ウイルス学の研究手法について図書館などを利用して、概略を調べておくこと。 復習：寄生虫学，ウイルス学の研究手法について復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
2	寄生虫症についての理解① ： 原虫類	予習：原虫類およびその疾患について調べておくこと。 復習：原虫類およびその疾患について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
3	寄生虫症についての理解② ： 蠕虫類-1	予習：蠕虫類およびその疾患について調べておくこと。 復習：蠕虫類およびその疾患について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
4	寄生虫症についての理解② ： 蠕虫類-2	予習：蠕虫類およびその疾患について調べておくこと。 復習：蠕虫類およびその疾患について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
5	ウイルス感染症についての理解① ： DNA ウイルス	予習：DNA ウイルスおよびその疾患について調べておくこと。 復習：DNA ウイルスおよびその疾患について復	

		習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
6	ウイルス感染症についての理解② ： RNA ウイルス	予習：RNA ウイルスおよびその疾患について調べておくこと。 復習：RNA ウイルスおよびその疾患について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
7	研究テーマの仮設定 ：可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：リストアップした研究テーマとその内容について調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
8	研究テーマの仮設定 ：可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：リストアップした研究テーマとその内容について調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
9	研究テーマの仮設定 ：可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：リストアップした研究テーマとその内容について調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
10	研究テーマの決定 ：先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	予習：これまで講義内で行ってきた説明や議論から、最終的に研究テーマを遂行するための根拠（設備や環境）を確認しておくこと。 復習：決定した研究テーマについて、先行研究や講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
11	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザイン の決定とその限界の考察	予習：研究デザインを決定するための根拠（設備や環境も含めて）を確認しておくこと。 復習：講義内で得られた情報を整理し、研究デザインにういての理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
12	研究計画の?案： 研究計画書（プロトコール）の?案と作成	予習：研究計画書の?案のために必要な資料を?手し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や?手資料をもとに研究計画書を作成しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
13	研究計画の?案： 研究計画書（プロトコール）の?案と作成	予習：研究計画書の?案のために必要な資料を?手し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や?手資料をもとに研究計画書を作成しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
14	研究計画の?案： 研究計画書（プロトコール）の?案と作成	予習：研究計画書の?案のために必要な資料を?手し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や?手資料をもとに研究計画書を作成しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
15	倫理審査： 研究倫理審査の必要性と申請	予習：研究倫理について調べておくこと。 復習：講義内での説明・議論や資料をもとに研究倫理審査の必要性と重要性の理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
16	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
17	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
18	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
19	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
20	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
21	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
22	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
23	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
24	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
25	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
26	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察する	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果についての考察を行い、自分の研究の妥当性を確認しておくこと。また疑問点や改善点がある場合には、抽出しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
27	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察する	予習:関連分野の論文や資料を?手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果についての考察を行い、自分の研究の妥当性を確認しておくこと。また疑問点や改善点がある場合には、抽出しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
28	発表準備： 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	予習：予備研究の結果についてスライドおよび配布資料を作成しておくこと。 復習：作成したスライドおよび配布資料について、講義での説明・議論をもとに修正しておくこと。	

		なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
29	中間報告会 ：中間報告会における発表と質疑応答	予習：作成したスライドおよび配布資料について十分に理解し、質疑にも対応できるように準備しておくこと。 復習：中間報告会での質疑をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
30	中間報告会 ：報告会における質疑応答と問題点指摘を踏まえ た研究計画の修正	予習：プロトコール発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえて、必要に応じて研究計画の修正を図ること。 復習：プロトコール発表会での質疑をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	

成績評価方法と基準	割合
1. 抄録の提出もしくは中間発表会〈DP①④〉 2. 出席は 4/5 以上とする。	100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査):上田 真喜子・小林 彩香（Graduation Research Ⅱ）				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子、小林 彩香	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 3 限）、 後期（金曜 3 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

３年生までに学修した知識や技術を基に、「病理学」や「病理検査学」の領域について、研究を進める。
研究指導教員の下で、データ解析、結果のまとめ方、考察について学ぶ。
論理的思考に基づく解析力を養う。

到達目標

データ解析を行い、結果をまとめることができる。
研究・調査結果の小論文を作成する。DP①④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

指導教員とよく話し合って、研究活動をすすめること。
調査・研究については、積極的に行うこと。
質問や討論を通じて、疑問点の解明に努めること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

研究室／オフィスアワー

教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	卒業研究に必要なデータ収集	テーマについて、十分に予習、復習をする。	上田・小林
2	卒業研究に必要なデータ収集	以降は、担当教員の指示による。	上田・小林
3	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
4	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
5	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
6	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
7	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
8	卒業研究に必要なデータ収集		上田・小林
9	データの解析		上田・小林
10	データの解析		上田・小林
11	データの解析		上田・小林
12	データの解析		上田・小林
13	データの解析		上田・小林
14	データの解析		上田・小林
15	データの解析		上田・小林
16	結果のまとめ		上田・小林

17	結果のまとめ		上田・小林
18	結果のまとめ		上田・小林
19	結果のまとめ		上田・小林
20	結果のまとめ		上田・小林
21	結果の考察		上田・小林
22	結果の考察		上田・小林
23	結果の考察		上田・小林
24	結果の考察		上田・小林
25	結果の考察		上田・小林
26	成果発表・小論文作成・討論		上田・小林
27	成果発表・小論文作成・討論		上田・小林
28	成果発表・小論文作成・討論		上田・小林
29	成果発表・小論文作成・討論		上田・小林
30	成果発表・小論文作成・討論		上田・小林
成績評価方法と基準			割合
1．出席は4/5以上とする。 2．小論文の提出。DP①④			小論文提出 100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査):森　誠司　(Graduation Research　Ⅱ)				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 3 限)、 後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修
授業概要					
がんの進展メカニズムについて in vitro の解析法を主体に研究をおこなう。卒業研究 II では、まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出し方向性を見極める。「卒業研究 I」に引き続き実現可能な研究計画を立案する。仮説の検証のための実験を中心に研究を進める。最終的には、得られたデータをまとめ、考察を加え、論文の作成をおこなう。					
到達目標					
1．当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる 2．当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。 3．実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる 4．得られた結果を分析しまとめ考察ができる。 5．研究成果をプレゼンテーションおよび論文作成ができる。DP①④					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。					
教科書					
指示する。					
参考書					
指示する。					
研究室／オフィスアワー					
随時					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容		予習･復習･課題等		担当
1	1 から 3 回：研究領域の理解と文献抄読		背景について担当教員と議論し理解する		
2	4 から 6 回：実験仮説と方法の立案		論文検索をおこない課題を抽出する		
3	7 から 9 回：プロトコルの作成		論理的かつ実現可能な計画を策定する		
4	10 から 13 回：実験系の確立		実験条件の決定のため予備実験をおこなう		
5	14 から 25 回：実験実施（データ収集、解析）		実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める		
6	26 から 29 回：結果のまとめ、解釈		得られたデータを考察する。論文作成。		
7	30 回：プレゼンテーションの準備		図表等の発表資料の作成。論理的に説明する		
成績評価方法と基準					割合
研究計画書の提出、卒業研究報告会での発表および卒業研究論文を評価対象とする。 4/5 以上の出席が必要　DP①④					100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査):小宮山 恭弘・藤原 牧子 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	小宮山 恭弘		担当教員	小宮山 恭弘、藤原 牧子	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、 後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
演習
到達目標
3 年次実施した研究前のデータ収集法より求めた、実験データから予測された結果との相違点や その理由など、過去の文献などから考察する。 今回の実験方法の検証結果、方法、結果、考察にまとめ参考引用文献を加え卒業論文を作成する。DP①④
履修上の注意(学生へのメッセージ)
3 年次に実施した実験方法の検証データをまとめておくこと。
教科書
卒業研究 1 で使用したものを継続して使用する。
参考書
演習内で適時配布する。
研究室／オフィスアワー
月曜日 18 時以降
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究方法に関連する過去の文献の整理。	統計手法確認しておく。	小宮山
2	研究方法に関連する過去の文献の整理。	統計手法確認しておく。	小宮山
3	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山
4	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山
5	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山
6	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
7	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
8	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
9	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
10	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
11	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
12	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
13	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
14	実験計画に基づきデータ収集	適時具体的に指示する。	小宮山 藤原
15	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
16	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
17	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
18	実験データ整理	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
19	実験データ　統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
20	実験データ　統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山 藤原
21	実験データ　統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
22	実験データ　統計解析と検証	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
23	追加実験　検証作業	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
24	追加実験　検証作業	クリティカルシンキング 4-7 章熟読しておく	小宮山
25	論文作成作業	クリティカルシンキング 8 章熟読しておく	小宮山
26	論文作成作業	クリティカルシンキング 8 章熟読しておく	小宮山
27	予演会	クリティカルシンキング 8 章熟読しておく	小宮山
28	論文修正作業	参考引用文献を整理	小宮山
29	論文修正作業	参考引用文献を整理	小宮山 藤原
30	論文完成	論文を自身で校正しておく。	小宮山 藤原

成績評価方法と基準	割合
卒業論文提出をもって単位取得とする。 2/3 以上の出席が必要。DP①④	論 文 提 出 100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査):小林 吉晴・竹岡 啓子 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	小林 吉晴		担当教員	小林 吉晴、竹岡 啓子	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまでの既得修得知識や臨地実習を想起し 3 年次に学修した「臨床検査研究」の知識や技術を活用し、各自が立てた研究計画をもとにデータ収集、解析、考察を深め、卒業論文としてその成果をまとめる。

到達目標

1. 研究課題に関連する研究成果を調査し、評価することができる。
2. 研究課題達成のために解決すべき問題点を抽出することができる。
3. 研究課題の内容をまとめることができる。
4. 研究課題の成果を発表し、適切に質疑応答することができる。
5. 研究課題の成果を報告書としてまとめることができる。
6. 自らの研究課題に基づいて、次の研究課題を提案することができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に欧文誌も参考論文として取り入れるように心がける。

教科書

特になし

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

在室の時、随時対応可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	関連領域の論文抄読 (1)	研究課題に関する事前、事後の自己学習を行う	
2	関連領域の論文抄読 (2)		
3	関連領域の論文抄読 (3)		
4	関連領域の論文抄読 (4)		
5	関連領域の論文抄読 (5)		
6	関連領域の論文抄読 (6)		
7	関連領域の論文抄読 (7)		
8	関連領域の論文抄読 (8)		
9	関連領域の論文抄読 (9)		
10	関連領域の論文抄読 (10)		
11	関連領域の論文抄読 (11)		
12	関連領域の論文抄読 (12)		
13	関連領域の論文抄読 (13)		
14	関連領域の論文抄読 (14)		
15	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
16	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
17	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
18	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
19	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
20	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
21	各自の研究課題のまとめとグループ内での発表準備		
22	グループ内で各研究課題について発表する		
23	グループ内で各研究課題について発表する		
24	グループ内で各研究課題について発表する		
25	グループ内で各研究課題について発表する		
26	グループ内で各研究課題について発表する		
27	研究課題を発表会で発表する		
28	研究課題について報告書をまとめる準備 (1)		
29	研究課題について報告書をまとめる準備 (2)		
30	研究課題について報告書を提出する		

成績評価方法と基準	割合
研究課題報告書の提出(DP1,4). 研究報告会での発表を評価対象とする(DP1,4)。 4/5 以上の出席が必要	プレゼンテーション 50% 報告書 50%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査):脇 英彦・前川 佳敬 (Graduation Research Ⅱ)				
主担当教員	脇 英彦		担当教員	脇 英彦、前川 佳敬	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1～3 年生で学んだ知識と技術を基礎として、臨床病態学の検査領域について研究する。
担当教員の指導を基に研究計画、結果のまとめ方、発表方法について学ぶ。
卒業発表に向けての実践力を養う。

到達目標

① 調査方法と結果のまとめ方を養う。
② 結果の発表方法を学ぶ。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

調査・研究テーマについて十分に理解し、積極的に行う。
疑問点は指導教員への質問や討論を通して理解に努める。
研究室のメンバーとして、節度ある行動に心がける。

教科書

特に定めない。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

研究室における指導に準じる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	卒業研究に必要なデータ収集①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
2	卒業研究に必要なデータ収集②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
3	卒業研究に必要なデータ収集③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
4	卒業研究に必要なデータ収集④	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
5	卒業研究に必要なデータ収集⑤	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
6	卒業研究に必要なデータ収集⑥	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
7	卒業研究に必要なデータ収集⑦	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
8	卒業研究に必要なデータ収集⑧	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
9	データの解析と分析①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
10	データの解析と分析②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
11	データの解析と分析③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
12	データの解析と分析④	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
13	データの解析と分析⑤	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
14	データの解析と分析⑥	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
15	データの解析と分析⑦	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
16	データの解析と分析⑧	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
17	データの解析と分析⑨	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
18	データの解析と分析⑩	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
19	データの解析と分析⑫	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
20	データの解析と分析⑬	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
21	データの解析と分析⑭	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
22	データの解析と分析⑮	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
23	データの解析と分析⑯	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
24	データの解析と分析⑰	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
25	データの解析と分析⑱	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
26	成果発表①	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
27	成果発表②	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
28	成果発表③	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
29	成果発表④	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬
30	成果発表⑤	予習：調査・研究テーマについて十分に理解する。 復習：疑問点を理解する。	脇英彦・前川佳敬

成績評価方法と基準	割合
1、出席は 4/5 以上とする。 2、発表会もしくは抄録の提出 DP①④	発表もしくは抄録100%

授業科目名	卒業研究Ⅱ(検査):佐伯　康匠（Graduation Research Ⅱ）				
主担当教員	佐伯　康匠		担当教員	佐伯　康匠	
科目ナンバリング	SS502	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

微生物検査に関する研究をおこなう。卒業研究 II では、まず当該研究のバックグラウンドから課題を抽出し方向性を見極める。「卒業研究 I」に引き続き実現可能な研究計画を立案する。仮説の検証のための実験を中心に研究を進める。最終的には、得られたデータをまとめ、考察を加え、論文の作成をおこなう。

到達目標

1．当該研究領域に関連する資料および文献収集ができる
2．当該研究における実験または調査などの研究方法を理解する。
3．実現可能な適切な研究計画を作成でき、実行できる
4．得られた結果を分析しまとめ考察ができる。
5．研究成果をプレゼンテーションおよび論文作成ができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指示する。

参考書

指示する。

研究室／オフィスアワー

キャナルポート 7 階教職員室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する	
2	研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する	
3	研究領域の理解と文献抄読	背景について担当教員と議論し理解する	
4	実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する	
5	実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する	
6	実験仮説と方法の立案	論文検索をおこない課題を抽出する	
7	プロトコルの作成	論理的かつ実現可能な計画を策定する	
8	プロトコルの作成	論理的かつ実現可能な計画を策定する	
9	プロトコルの作成	論理的かつ実現可能な計画を策定する	
10	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう	
11	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう	
12	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう	
13	実験系の確立	実験条件の決定のため予備実験をおこなう	
14	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
15	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
16	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
17	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
18	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
19	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
20	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
21	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
22	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
23	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
24	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
25	実験実施（データ収集、解析）	実験データを収集し適宜解釈を加え方向性を見極める	
26	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。	
27	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。	
28	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。	
29	結果のまとめ、解釈	得られたデータを考察する。論文作成。	
30	30 回：プレゼンテーションの準備	図表等の発表資料の作成。論理的に説明する	

成績評価方法と基準	割合
研究計画書の提出、卒業研究報告会での発表および卒業研究論文を評価対象とする。 4/5 以上の出席が必要 DP①④	100%

授業科目名	臨地実習(検査)（Practical Training at the Hospital）				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子、森　誠司、小宮山　恭弘、小林　吉晴、前川　佳敬、竹岡　啓子、脇　英彦、佐伯　康匠、藤原　牧子、小林　彩香	
科目ナンバリング	SS503	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	7	必修・選択	必修

授業概要

臨地実習病院で臨床検査を体験し、学習する。
検体検査と生理検査の複数部署で診療の現場行われている検査を見学、体験して学習する。

到達目標

①　実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。
②　採血業務と生理検査では、患者に対するマナーと接遇の仕方を理解する。
③　臨床検査技師のチーム医療への役割について理解する。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

病院職員に礼儀正しい態度をとること。
病院は患者の治療を行う施設であるため、実習中の行動には十分配慮する。
今まで学習したことが基礎となるため、予習と復習を怠らず、臨床現場の検査を有意義に学ぶように努める。
以下に記載されている授業内容を実習中に行います(進捗は各施設により異なります)。

教科書

臨床検査実習マニュアル（森ノ宮医療大学臨床検査学科編集）

参考書

実習病院で配布される資料を用いる。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指導に準じる。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床現場での臨床検査の意義を学ぶ	検査管理学を確認する。	指導教員 臨地病院担当技師
2	医療現場の安全管理	医療安全学を復習する。	指導教員 臨地病院担当技師
3	医療現場の感染対策	標準予防策を確認する。	指導教員 臨地病院担当技師
4	採血業務の見学	採血手順を確認する。	指導教員 臨地病院担当技師
5	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　①	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
6	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　②	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
7	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　③	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
8	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　④	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
9	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　⑤	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
10	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　⑥	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
11	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　⑦	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
12	検体部門（臨床化学・免疫・輸血等）　⑧	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
13	検体部門（臨床微生物・病理等）　①	実習病院で行われている検体検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
14	検体部門（臨床微生物・病理等）　②	実習病院で行われている病理・微生物検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
15	検体部門（臨床微生物・病理等）　③	実習病院で行われている病理・微生物検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
16	検体部門（臨床微生物・病理等）　④	実習病院で行われている病理・微生物検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
17	検体部門（臨床微生物・病理等）　⑤	実習病院で行われている病理・微生物検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
18	検体部門（臨床微生物・病理等）　⑥	実習病院で行われている病理・微生物検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
19	検体部門（臨床微生物・病理等）　⑦	実習病院で行われている病理・微生物検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
20	検体部門（臨床微生物・病理等）　⑧	実習病院で行われている病理・微生物検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
21	臨床生理部門　①	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
22	臨床生理部門 ②	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
23	臨床生理部門 ③	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
24	臨床生理部門 ④	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
25	臨床生理部門 ⑤	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
26	臨床生理部門 ⑥	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
27	臨床生理部門 ⑦	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
28	臨床生理部門 ⑧	実習病院で行われている生理検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
29	緊急検査　①	実習病院で行われている緊急検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師
30	緊急検査　②	実習病院で行われている緊急検査の進め方と検査技術を理解する。	指導教員 臨地病院担当技師

成績評価方法と基準	割合
臨地実習病院の指導者の評価をもとに、学科長が総合評価をする。DP①④	5段階評価

臨床検査学科

（2020 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	基礎ゼミナール(検査)（Basic Seminar）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、阿部　秀高、上田　真喜子、森　誠司、小宮山　恭弘、小林　吉晴、竹岡　啓子、佐伯　康匠、藤原　牧子、小林　彩香、関根　将	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 2 限 木曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

【脇英彦、森誠司、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子、関根将・8 回】
本演習は、新入生が大学生としての役割を身につけることができるように、学生を支援することを目的としている。具体的には、(1) 講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(2)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において取得すべき内容の教育、 (3)大学生に求められる一般常識や態度、(4)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、グループに分かれてディスカッションを交えて演習を行う。

【阿部秀高 7 回】
大学では、「自ら問いを立て答えを導く」という与えられた課題に対して主体的に文献を集め、レポートにまとめていく技法が必要になる。本科目では、そのために必要となる技能を基礎から学び習得していくことを目指す。

到達目標

【脇英彦、森誠司、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子、関根将・8 回】
1．レポートの書き方、文献検索などのスタディスキル・アカデミックスキルを修得する。
2．大学生に求められる基礎学力と社会常識を理解する。
3．医学を学ぶという自覚を確立する。
4．臨床検査学の各分野で必要な基礎的知識を理解する。DP②③④

【阿部秀高】
自分の考えを理論的な文章として表現できるようにすることを重視する。具体的には、
①ノートを取ろう（ノートの取り方）
②大学図書館の利用方法（文献検索）
③文章表現について（大学のレポートにふさわしい用語・符号の使い方や構成など文章表現）
を学んでいく。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

在学中はもちろんのこと卒業後も新しい知識や技術を学び身につけていく必要がある。そのために効果的な学習法の修得が重要である。自分にあった学習スタイルを早期に獲得し、生涯にわたり役立ててもらうことを期待する。また検査学科教員より提供される話題から臨床検査に求められている基礎的な知識・技能とはどのようなものか積極的な議論を通して理解してもらいたい。

教科書

【脇英彦、森誠司、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子、関根将・8 回】
適宜資料を配布する。

【阿部秀高】
特に指定はしない。授業時にプリントを配布するので、各自紛失しないようにファイリングし毎回持参すること。

参考書

【脇英彦、森誠司、小林吉晴、小宮山恭弘、竹岡啓子、小林彩香、佐伯康匠、藤原牧子、関根将・8 回】
担当教員が適宜指示する。

【阿部秀高】
講義内で適宜指示する

研究室／オフィスアワー

臨床検査学科　各研究室　月-金曜日　　18 時以降

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床検査技師の職業理解と社会の関係について考える。(脇英彦)	予習：臨床検査技師の業務内容について調べる。	脇　英彦
2	生体成分の分析法の原理を理解するために必要な、化学の基礎知識を修得する。(小林吉晴)	予習：「元素周期表」とは何か調べておく。	小林吉晴
3	生理機能検査はどのような場合に実施されるのか、その目的と有用性について考える。(小宮山恭弘)	予習：生理機能検査にはどの様な検査があるのか調べておく。	小宮山　恭弘
4	免疫学検査は免疫の概念について学修し、臨床検査における免疫反応について考える。(竹岡啓子)	予習：予防接種とは何か、どのような種類があるかを調べる。	竹岡啓子
5	遺伝子検査・遺伝学的検査のメリット・デメリットについて議論する。(森誠司)	予習：DTC（Direct-to-Consumer Genetic Testing）にどのようなものがあるか調べる。 復習：検査から得られる遺伝情報の扱いについて考える。	森　誠司
6	病理検査とは何か。基本的な知識と技術を理解し、イメージをつかむ。(小林綾香)	予習：組織診検査と細胞診検査とは何かについて調べておく。 復習：病理検査の役割を知る。 。	小林綾香
7	微生物と感染症の関連性、および感染制御の重要性について考える。 (佐伯康匠)	予習：「標準予防策」について調べておく。 復習：効果的な感染防御法を習慣づける。	佐伯康匠
8	血液検査が医療現場でどのように活用されているか考える。(藤原牧子)	予習：自分や家族が今まで受けた健康診断の血液検査結果用紙を確認してくる。血液検査項目より１項目選び、検査の意義などを調べてくる。 復習：血液検査の意義を考える。また、将来自分がどのような臨床検査技師になりたいか考える。	藤原牧子
9	オリエンテーション（講義への取り組み方・大学生としての自分を見つめる）	予習：シラバスの確認。（２時間） 復習：学びの履歴シートによる大学生として必要な資質/能力についてのまとめ（２時間）	阿部秀高
10	理事長に学ぶ（学園・大学・学生への思い）	予習：学園の３つポリシーや設立理念の確認。（２時間） 復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部秀高
11	学長・学科長に学ぶ（医療人・臨床検査技師を目指すものに対する思い）	予習：看護師の仕事の概要を調べておく。(２時間) 復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部秀高
12	コミュニケーションスキル・学修スキル向上	④予習：レポートの書き方について高校までに学んだことを想起しておく（２時間） 復習：学んだレポートの書き方について記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部秀高
13	論理的文章の書き方・資料活用の方法	予習：言語技術について、高校までに学んだことを想起しておく（２時間） 復習：学んだ言語技術について記録をもとにまとめる。(２時間）	阿部秀高
14	プレゼンテーション・スキル	予習：プレゼンテーションについて高校までに学んだことを想起しておく。（２時間） 復習：プレゼンテーションの作り方、発表の仕方についてまとめる。（２時間）	阿部秀高
15	本授業における学びのまとめ・振り返り	予習：自分の作成したプレゼンテーションの練習）（２時間） 復習：７回の講義で学んだ社会人基礎力に関してまとめておく。（２時間）	阿部秀高

成績評価方法と基準	割合
①【臨床検査学科教員】 教員ごとに小テストを行い評価する。　50% ②【阿部秀高】平常点評価（授業内での課題小テストなど）30%。 講義最終回に作成したアウトラインに基づく課題レポート 20%。 ①及び②での評価各々50%ずつを合計したものを総合評価とする。 全体の 2/3 以上の出席が必要。DP②③④	①50% ②50%

授業科目名	物理学(検査)（Physics）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学習し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。

到達目標

電気（回路計算）、電磁気の基本知識
水の比熱と日本の気候との関係について
てこと原理と人体中での応用
注射器の先端が皮膚に及ぼす圧力について
血圧とは
　上記の内容を学修していく。<DP③>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１．自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。
２．配布された資料を使用し、講義を行う。
３．出席は重視する。
４．身近な自然現象を物理学の観点で考察する。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて努力する。

教科書

プリント使用

参考書

電気基礎講座１プログラム学習による基礎電気工学　直流編

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	熱力学　比熱 単位について	＜予習・復習 各２時間＞ 水の比熱が大きいことで人間は体温を一定に保つことができる。 スマートフォンのバッテリーの単位などについて学習します。	
2	熱力学 クーロンの法則・電流について 回路のイメージをつかむ	＜予習・復習 各２時間＞ 水分が蒸発する際、必要となる熱量について 電気の基本について一つ一つ確認していきましょう。	
3	熱力学 電圧・抵抗について オームの法則を用いた計算	＜予習・復習 各２時間＞ コンセントの電圧は１００Ｖですね。このボルトについて学習していきます。また、抵抗の単位はオームです。	
4	力とは 色々なオームの法則を用いた計算を練習する	＜予習・復習 各２時間＞ 最も重要な法則です。頑張って覚えましょう。	
5	力学 直列回路の考え方について	＜予習・復習 各２時間＞ 電圧降下、内部抵抗、合成抵抗という言葉が出てきました。	
6	力学 並列回路の考え方について	＜予習・復習 各２時間＞ 直列回路、並列回路の計算に慣れていきましょう。	
7	力学 複雑な回路計算	＜予習・復習 各２時間＞ 直列・並列の融合問題を扱います。	
8	力学 ブリッジ回路	＜予習・復習 各２時間＞ いろんな回路の計算を復習しましょう。	
9	力学 直流と交流の違い ジュール熱	＜予習・復習 各２時間＞ 直流と交流の違いを確認しましょう。	
10	力学 １００Ｖは何を表しているか。 電力	＜予習・復習 各２時間＞ 最大値・実効値・瞬時値・平均値 言葉の確認をしましょう。 電力とは、電灯が光を出したり、モーターが力を出すときに使われる電気エネルギーの大きさを表します。	
11	コイル（インダクタ） コイルのリアクタンス（誘導性リアクタンス）	＜予習・復習 各２時間＞ リアクタンスは周波数で大きさが変わります。	
12	コンデンサ（キャパシタ） コンデンサのリアクタンス（容量性リアクタンス）	＜予習・復習 各２時間＞ コンデンサは電気を蓄えたり、放出したりする電子部品です。電子機器には欠かせない部品です。	
13	インピーダンスとは 位相とは	＜予習・復習 各２時間＞ 交流回路の計算をするときには位相を考える必要があります。	
14	RL 直列回路	＜予習・復習 各２時間＞ 直列回路のインピーダンスを計算できるようにしよう。	
15	RC 直列回路 RLC 直列回路の計算	＜予習・復習 各２時間＞ 14 回目・15 回目の回路計算を見直してみましょう。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験５５点<DP③> ②小テスト４５点<DP③> 合計１００点のうち、６０点以上で単位認定する。	①５５％ ②４５％

授業科目名	生物学(検査)（Biology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療人にとって必要な生物学的知識を学習し、この後に展開する基礎医学への理解を容易にする。

到達目標

生物に共通する生体のシステムやその仕組みについて理解を深めることができ、人体と連関して思考できる。＜DP③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生物学自体は高校までの教科としてすでに学んでいるかもしれないが、医学に直結する領域についてはまだ学んでいないか、理解が不十分であろうと思われる。既に学んでいる、知っている学問という認識は排除して新たな教科を学ぶ姿勢で臨んでほしい。

教科書

「理工系のための生物学」　裳華房

参考書

生物学　カレッジ版　医学書院

研究室／オフィスアワー

火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室１

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命と栄養と代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
2	糖質の種類	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
3	糖代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
4	脂質とその代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
5	ビタミンの種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
6	細胞の構造とオルガネラ	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
7	核酸の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
8	転写と翻訳	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
9	タンパク質の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
10	細胞のシグナル伝達	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
11	細胞分裂と増殖	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
12	発生と分化	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
13	免疫システム	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
14	細胞の初期化と再生医療	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	
15	細胞死とアポトーシス	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
1　定期試験　＜DP③＞	1 100%

授業科目名	化学(検査)（Chemistry）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。
到達目標
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解することができる。それらが生理機能に密接に連関することを認識できる。＜DP③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
たとえすでに化学を履修していようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学びなおす必要があると捉えておいて欲しい。
教科書
「ライフサイエンスのための化学」　化学同人
参考書
「理工系の基礎化学」　化学同人
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめる	
		よう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭化水素化合物１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	炭化水素化合物２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	「化学」のまとめと振り返り	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　＜DP③＞	1 100%

授業科目名	情報処理(検査 A)（Information Processing）				
主担当教員	平山　裕子		担当教員	平山　裕子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)はWindows を、ソフトウェアはマイクロソフトのWord, Excel, PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる<DP③>
２．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる<DP③>
３．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる<DP③>
４．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PC を使った演習を行なうので、出席をすること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するためのUSB メモリを用意すること
３．PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

中村健壽監修，森由紀著，医療従事者のための情報リテラシー，日経 BP 社

参考書

佐藤憲一他，Windows 7 によるコ・メディカルのための情報リテラシー，共立出版，2013
金谷孝之・服部建大，基礎から学ぶ医療情報，共立出版，2014

研究室／オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス Lesson1【コンピュータ概論】	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson1【コンピュータ概論】を読む USB を用意する ※課題については、毎回の授業内で指示します。以下同様	
2	Lesson15【情報セキュリティと情報モラル】 Word① Lesson2【文字入力とファイル管理】 文字入力確認、及び応用 ファイル管理、USB の扱い方等	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson15-2【情報モラルと情報モラル】及び Lesson2【文字入力とファイル管理】を読む	
3	Word② Lesson3【基本的な文書作成】 WORD の基本的な書式設定を習得 Lesson4【ビジネス文書の作成】 ビジネス文書の作成	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson3【基本的な文書の作成】及び Lesson4【ビジネス文書の作成】を読む	
4	Word③ Lesson5【表の作成】 表の挿入、表内セルの書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson5【表の作成】を読む	
5	Word④ Lesson6【図形とイラストの挿入】 図形の活用方法及びイラストの挿入操作	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson6【図形とイラストの挿入】を読む	
6	WORD まとめ 長文レポート等でのヘッダー・フッター機能活用	＜予習・復習 各 2 時間＞ 別途配布する資料を読む	
7	WORD 復習テスト 授業内で WORD 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Word に関する操作・機能を確認	
		復習テストに備えておくこと	
8	Excel① Lesson7【集計表の作成】 基本操作（四則計算）の操作 基本的な書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ テキスト Lesson7【集計表の作成】を読む	
9	Excel② Lesson8【関数を使った表作成 1】 SUM, AVERAGE, MAX, MIN Lesson9【関数を使った表作成 2】 COUNT, COUNTA, RANK, IF	＜予習・復習 各 2 時間＞ EXCEL② Lesson8【関数を使った表計算 1】及び Lesson9【関数を使った表計算 2】を読む	
10	Excel③ Lesson10【統計処理】 ROUND, MEDIAN, MODE 関数のネスト	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
11	Lesson11【データとグラフ】 Excel④ 縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
12	Lesson12【データの活用】 Excel⑤ 関数応用 today,datedif,vlookup,	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson12【データの活用】を読む	
13	EXCEL 復習テスト 授業内で EXCEL 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Excel に関する操作・機能を確認する 復習テストに備えておくこと	
14	PowerPoint 基礎	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson13【プレゼンテーションの作成】を読む	
15	Lesson14 PowerPoint 応用	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson14【プレゼンテーションファイル作成】を読む	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②課題の提出状況及び完成度、授業態度含む<DP③> ③小テスト（授業内で実施）WORD 及び EXCEL<DP③> 5 分の 4 以上の出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	情報処理(検査 B)（Information Processing）				
主担当教員	平山　裕子		担当教員	平山　裕子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word, Excel, PowerPoint 等を使用する。

到達目標

1．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる<DP③>
2．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる<DP③>
3．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる<DP③>
4．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．PC を使った演習を行なうので、出席をすること
2．作業内容（作成したファイル等）を保存するための USB メモリを用意すること
3．PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

中村健壽監修，森由紀著，医療従事者のための情報リテラシー，日経 BP 社

参考書

佐藤憲一他，Windows 7 によるコ・メディカルのための情報リテラシー，共立出版，2013
金谷孝之・服部建大，基礎から学ぶ医療情報，共立出版，2014

研究室／オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス Lesson1【コンピュータ概論】	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson1【コンピュータ概論】を読む USB を用意する ※課題については、毎回の授業内で指示します。以下同様	
2	Lesson15【情報セキュリティと情報モラル】 Word① Lesson2【文字入力とファイル管理】 文字入力確認、及び応用 ファイル管理、USB の扱い方等	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson15-2【情報モラルと情報モラル】及び Lesson2【文字入力とファイル管理】を読む	
3	Word② Lesson3【基本的な文書作成】 WORD の基本的な書式設定を習得 Lesson4【ビジネス文書の作成】 ビジネス文書の作成	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson3【基本的な文書の作成】及び Lesson4【ビジネス文書の作成】を読む	
4	Word③ Lesson5【表の作成】 表の挿入、表内セルの書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson5【表の作成】を読む	
5	Word④ Lesson6【図形とイラストの挿入】 図形の活用方法及びイラストの挿入操作	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson6【図形とイラストの挿入】を読む	
6	WORD まとめ 長文レポート等でのヘッダー・フッター機能活用	＜予習・復習 各 2 時間＞ 別途配布する資料を読む	
7	WORD 復習テスト 授業内で WORD 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Word に関する操作・機能を確認	
		復習テストに備えておくこと	
8	Excel① Lesson7【集計表の作成】 基本操作（四則計算）の操作 基本的な書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ テキスト Lesson7【集計表の作成】を読む	
9	Excel② Lesson8【関数を使った表作成 1】 SUM, AVERAGE, MAX, MIN Lesson9【関数を使った表作成 2】 COUNT, COUNTA, RANK, IF	＜予習・復習 各 2 時間＞ EXCEL② Lesson8【関数を使った表計算 1】及び Lesson9【関数を使った表計算 2】を読む	
10	Excel③ Lesson10【統計処理】 ROUND, MEDIAN, MODE 関数のネスト	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
11	Lesson11【データとグラフ】 Excel④ 縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
12	Lesson12【データの活用】 Excel⑤ 関数応用 today, datedif, vlookup,	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson12【データの活用】を読む	
13	EXCEL 復習テスト 授業内で EXCEL 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Excel に関する操作・機能を確認する 復習テストに備えておくこと	
14	PowerPoint 基礎	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson13【プレゼンテーションの作成】を読む	
15	Lesson14 PowerPoint 応用	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson14【プレゼンテーションファイル作成】を読む	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②課題の提出状況及び完成度、授業態度含む<DP③> ③小テスト（授業内で実施）WORD 及び EXCEL<DP③> 5 分の 4 以上の出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	統計学(検査)（Statistics）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。

到達目標

１．統計学の基礎を理解する〈DP③〉
２．推定と検定の考え方を理解し，説明することができる〈DP③〉
３．量的データに対して適切な分析方法を選択することができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回の授業のつながりが非常に重要です．また，毎回小テストを実施しますので，欠席のないように留意すること

教科書

向後千春・冨永敦子，ファーストブック 統計学がわかる，技術評論社

参考書

市原清志 著，「バイオサイエンスの統計学 -正しく活用するための実践理論-」，南江堂

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して，テキスト「はじめに」を読む（単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）．【4 時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	測定値の性質（尺度水準）	「尺度水準」とは何か調べる．【4】	
3	平均と度数分布・分散と標準偏	テキスト１章を読む【4】	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト２章を読む【4】	
5	相関係数：２変数間の関係	ピアソンの積率相関係数，スピアマンの順位相関係数，ケンドールの順位相関係数について調べる【4】	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト 3-1 を読む【4】	
7	観測度数と期待度数	テキスト 3-2，3-3 を読む【4】	
8	カイ２乗検定	テキスト 3-4 を読む【4】	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト 4-1，4-2 を読む【4】	
10	対応がないデータによるｔ検定（ウェルチの方法）	テキスト 4-3 を読む【4】	
11	対応があるデータによるｔ検定	テキスト５章を読む【4】	
12	１要因の分散分析-1-	テキスト 6-1，6-2 を読む【4】	
13	１要因の分散分析-2-	テキスト 6-3 を読む【4】	
14	２要因の分散分析-1-	テキスト 7-1，7-2 を読む【4】	
15	２要因の分散分析-2-	テキスト 7-3 を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
① 定期試験〈DP③〉 ② 平常点（小テスト，授業内課題等）〈DP③〉	① 80% ② 20%

授業科目名	心理学(検査)（Introduction to Psychology）				
主担当教員	海蔵寺　陽子		担当教員	海蔵寺　陽子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

心理学は、人の心の仕組みや働きがどのようになっているかを研究する学問です。授業では人の性格、知覚や感情のほか、人の成長過程や人間関係の心理などについても学習します。

到達目標

１．人間の一般的心理、基本的心理、行動を理解することができる<DP③>
２．身近な経験について心理学的に説明することができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義形式を中心に授業を進める。レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。

教科書

イラストレート心理学入門　斎藤勇　著　　誠信書房

参考書

心理学の基礎　　今田寛・宮田洋・賀集寛　共編　　培風館
その他、適宜指示する。

研究室／オフィスアワー

なし

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心理学とは	予習：教科書の目次を読み、わからない用語等について調べをしておく（2 時間） 復習：復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
2	知覚と認知１	予習:認知機能について教科書を読む。(2 時間) 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
3	知覚と認知２	予習：ヒトの情報処理システムについて教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
4	感情と情動	予習：情動表出について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
5	欲求と動機付け１	予習：生理的欲求、心理的欲求について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
6	欲求と動機付け２	予習：心理的欲求について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
7	学習１	予習:古典的条件付けについて教科書を読む(2 時間) 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
8	学習２	予習：学習理論について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
9	記憶	予習：記憶について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
10	性格と気質	予習：性格について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2	
		時間）	
11	臨床心理	予習：臨床心理について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
12	無意識と深層心理１	予習：無意識について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
13	無意識と深層心理２	予習:自我防衛機制について教科書を読む(2 時間) 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
14	発達心理	予習：発達段階とその特徴について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
15	社会心理	予習：自己評価について教科書を読む（2 時間） 復習：本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②小テスト・レポート等<DP③>	①80% ②20%

授業科目名	生命倫理学(検査)（Bioethics）				
主担当教員	日高　明		担当教員	日高　明	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、現代の社会で起こっている多様な生命倫理上の問題とともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介します。受講者がこれらについての考察を行い討議することで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。

到達目標

1. 講義で扱った生命倫理問題を理解する。具体的には、各テーマについて、大まかな説明ができる。
2. 広く生命倫理の問題を知ることで、生命観・人間観を養う。具体的には、「生命とはなにか」「人間とはなにか」 という問いに、先人の知見や社会通念を引いて答えることができる。あるいは自分の経験を交えて語ることができる。
３. 生命倫理的な社会問題について、広く関心を持つようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義で取り扱った倫理学および生命倫理にかかわるケースについて、他の受講者と話をしてみてください。相手の考えに同意できなければ、なぜ自分の考えと食い違うのかという「食い違いのポイント」を一緒に探してください。また、二者択一ではなく、他の方法はないのかも考えてください。
受講に当たっての細かいルールは、第一回の講義で説明します。

教科書

使用しない(適宜、資料を配布する)

参考書

小泉博明ほか『テーマで読み解く生命倫理』教育出版、2016 年。そのほか必要に応じて紹介する。

研究室／オフィスアワー

講義の前後に兼任講師控室にて対応可

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理とは、生命倫理学とは（概要、分類、なぜ学ぶのか）	シラバスの確認、資料の復習	日高明
2	人間とは（「人間」の定義、人間と動物とのギャップ、人間の社会性）	配布資料の復習とノートのまとめ。人間とその他の動物を分けるものはなにか、考える。	日高明
3	規範倫理学①（功利主義、義務論）	多数を救うために少数が犠牲になる事例をひとつ想定し、功利主義と義務論それぞれの立場では、どのような態度をとりうるかをまとめる。	日高明
4	規範倫理学②（徳倫理学、ケアの倫理）	資料の復習。規範倫理学のそれぞれの立場についてまとめる。	日高明
5	西洋と東洋の生命観①	近代医学（科学）は生命をどのようなものとして捉えるか、まとめる。	日高明
6	西洋と東洋の生命観②	講義中に説明した複数の「死後のあり方」のうち、自分がどれにリアリティを感じるか、またなぜそう感じるのかについて考える。	日高明
7	個人情報保護	講義で紹介された事例をもとに、医療・介護施設において、なにが個人情報にあたるか、第三者へ提供するさいにどういった制限があるかについて、まとめる。	日高明
8	死について考える①（死の捉え方の変遷、死のプロセス、死の疑似体験）	「10 年後の自分」を想定し、そこから「今の自分」を振り返り、「喪失したもの」について語ってみる。	日高明
9	死について考える②（EOL のケア、ACP）	実際にアドバンスディレクティブ（事前指示書）に記入し、その時点で指示した代理人と、話し合う。	日高明
10	死について考える③（安楽死・尊厳死）	尊厳死肯定派と否定派、双方の立場についてまとめる。	日高明
11	臨床のコミュニケーション	話し合った内容をまとめる。	日高明
12	生について考える①（出生前診断、代理出産）	人間の生命のはじまりはどの時点からか、考える。代理出産をめぐって、どのような問題が生じうるか。講義で説明した事例をもとにまとめる。	日高明
13	生について考える②（卵子・精子提供、デザイナーベイビー）	生殖補助医療はどこまで認められているかについて調べ、どこまで認められるべきかを考える。	日高明
14	患者の権利と自己決定	患者の権利と医療倫理の善行原則や公平性原則がバッティングするケースについて考える。	日高明
15	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	

成績評価方法と基準	割合
１、テスト ２、グループワークと講義への参加度	１、６０％ ２、４０％

授業科目名	哲学(検査)（Philosophy）				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような仕方で正しく認識できるのか・知ることができるのかについて学んでいく。
　「哲学」のもともとの意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方でそれらをわれわれは手に入れることができるのか、は哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上でこの問題は避けて通れないものである。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。
　この授業ではこの認識論・知識論という問題について、「懐疑論」というものを手掛かりに考察を深めていきたい。物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものであろう。哲学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行ってみたらどうなるか、が中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえた上で、自然科学的な知識はどのような仕方で正当化されるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な源流である 17 世紀の自然科学について論じる。

到達目標

1．ヘレニズム時代の古代懐疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを充分に理解することができる。〈DP③〉
2．近代において復活した古代懐疑主義が近代においてどのように受容され、改変されていったのかを充分に理解することができる。具体的にはモンテーニュの信仰主義、デカルトの方法的懐疑を充分に理解することができる。〈DP③〉
3．極端な懐疑の論理構造がいかなるものであるのかを、ウィトゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に充分に理解することができる。〈DP③〉
4．近代の自然科学的知識がどのように成立していったのかを、17 世紀に活躍したデカルトやニュートンの思想を参照することを通じて、充分に理解することができる。〈DP③〉
5．近代以降の自然科学が発展するにあたって、その方法論がどのようなものであったのかを充分に理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代では何の疑いもなく受け容れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきている。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。
　「哲学」および「懐疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。
　他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	（予習）「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	ソクラテスの哲学：「哲学」とはどういう営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
3	ヘレニズム時代の思想①：懐疑論とはそもそも何か？　およびストア主義の思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
4	ヘレニズム時代の思想②：古代懐疑主義の思想。ピュロン、アルケシラオス、アイネシデモス、アグリッパなど。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
5	近代の懐疑主義的思想①：モンテーニュにおけるピュロン主義、およびデカルト思想の全体像。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
6	近代の懐疑主義的思想②：デカルトの方法的懐疑その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
7	近代の懐疑主義的思想③：デカルトの方法的懐疑その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
8	懐疑論に抗して：ウィトゲンシュタインの思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
9	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その①：デカルトの自然学その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
10	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その②：デカルトの自然学その 2、およびデカルトにおける心身問題その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
11	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その③：デカルトにおける心身問題その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
12	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その④：デカルトの自然学とニュートン物理学、および近代における自然科学と形而上学との関係。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
13	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑤：近代における自然科学の方法論（帰納法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
14	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑥：近代における自然科学の方法論（仮説演繹法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何	

		度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
成績評価方法と基準			割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。〈DP③〉 小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることができるかどうかを評価する。 期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。			①期末試験 50% ②小テスト 50%

授業科目名	社会福祉学(検査)（Social Welfare）				
主担当教員	中村　亮太		担当教員	中村　亮太	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択
授業概要					
現代の社会問題や障害のある人の地域での生活について知ることを通して、社会福祉の基礎について学ぶ。社会福祉に関する考え方、制度、支援などについて、時事問題や映像資料も踏まえながら具体的に学んでいく。適宜、受講者の意見を聞きながら、授業を進めていく。					
到達目標					
様々な社会問題について、社会福祉の視点から考察し、理解できるようになることを目標とする。					
履修上の注意（学生へのメッセージ）					
授業では、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。そこで提出されたものについては、次回の授業で解説やコメントを行なう。					
教科書					
毎回の授業においてレジュメを配布する。					
参考書					
授業中に適宜紹介する。					
研究室／オフィスアワー					
授業の前後、あるいはメール等にて質問などを受け付ける。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容		予習・復習・課題等		担当
1	オリエンテーション――社会福祉とは何か		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
2	社会福祉の歴史について		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
3	障害の社会モデルについて①		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
4	障害の社会モデルについて②		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
5	社会福祉とマスメディア		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
6	社会福祉における自立の考え方		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
7	社会福祉と自立生活運動		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
8	社会福祉と優生思想		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
9	障害のある人の地域生活について①		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
10	障害のある人の地域生活について②		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
11	生活保護制度について①		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
12	生活保護制度について②		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
13	ベーシックインカムについて		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
14	社会福祉と財源		今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる		
15	講義全体のまとめと振り返り		本講義全体を見直す		
成績評価方法と基準					割合

レポート試験 ※試験内容・提出期限等は授業内にて説明する	100%

授業科目名	日本国憲法(検査)（Constitution of Japan）				
主担当教員	植田　重幸		担当教員	植田　重幸	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コ・メディカルをもとに、診療の補助の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規（保健衛生関連法規）の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。

到達目標

1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。〈DP③〉
2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。〈DP③〉
3. 医療と人権に関する大切さを理解する。〈DP③〉
4. 臨床検査学科における『臨床検査技師等に関わる法律』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。〈DP③〉
5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。〈DP③〉
6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。
2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。
3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。
4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。

教科書

指定しない。

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特色 基本理念及び基本原理	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権（人格権と幸福追求権）	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	

8	基本的人権規定④ 　尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在的解釈を確認する	
9	関係法規① 　コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する	
10	関係法規② 　日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 　医療過誤の実態と権利侵害	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 　医療過誤における法的責任	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 　国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 　裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	＜予習・復習 各2時間＞ 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	

成績評価方法と基準	割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	英語Ⅰ(初級)(検査A)(EnglishⅠ【Beginner】)				
主担当教員	藤重　仁子		担当教員	藤重　仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜4限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。〈DP②〉
基本的な文法、語彙、表現を身につける。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟4階研究室22 / 木曜日3限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ(初級)(検査B)(English Ⅰ【Beginner】)				
主担当教員	竹内 恵子		担当教員	竹内 恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜4限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。<DP②>
基本的な文法、語彙、表現を身につける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟1階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ(中級)(検査A)(English Ⅱ【Intermediate】)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜4限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E棟4階研究室22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ(中級)(検査B)(English Ⅱ【Intermediate】)				
主担当教員	竹内 恵子		担当教員	竹内 恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜4限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E棟1階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	MBS(Morinomiya Basic Seminar)(検査)（Morinomiya Basic Seminar）				
主担当教員	関根 将		担当教員	関根 将	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本授業は、大学生としての学習や生活をスムーズにスタートさせるために、大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を身につけること、学園の歴史や建学の精神の意味やディプロマポリシーを理解することで、本学への帰属意識を確立させることを目的とする。
また、履修に関することや教育課程（カリキュラム）、学生生活に関するルール等を理解することで、大学で学ぶために必要な能力を身につけることを目的とする。
医療の歴史及び医療の現在と未来を知ることで、医療全体への興味をより深めることを目的とする。

到達目標

・本学の建学の精神及びディプロマポリシーを理解している。<DP②③>
・大学で学ぶために必要な能力を身につけている。<DP②③>
・生徒から学生へ移行する（主体的・能動的な学習スタイルを身につける）<DP②③>
・医療人を目指す学生であることに対しての自覚を強く持つ。<DP②③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理想の大学生活とは？想像している内容と異なる話を聞くこともあるでしょうが、4年間を有意義に過ごせるようこれからの生活を考えるきっかけとなることを願います。

教科書

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

関根研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【本学の歩みと未来／生徒から学生へ】 ・理事長による「本学の起源や今後の展望」、 ・学長による「医療・医学を学ぶ上での心構え」についての講義。 ・在校生から新入生に向けて大学生活の過ごし方や講義の受け方についてのプレゼンテーション。	予習：本学のWebサイトで「建学の精神」「森ノ宮医療学学園の歴史」「本学の特徴」について調べる．(1時間) 復習：大学生としての心得を考え，まとめる．(1時間)	関根
2	【臨床検査学科のカリキュラムについて】 ・カリキュラムについて ・カリキュラムポリシーについて ・ディプロマポリシーについて	予習：学生手帳の「臨床検査学科 授業科目・単位数」と「本学学士過程における三つのポリシー」「臨床検査学科における三つのポリシー」について調べる．(2時間) 復習：授業をまとめ，自分にとって今後の大学生活で必要なことを考える．(2時間)	関根
3	【情報化社会における情報リテラシーと情報モラルについて】 ・情報リテラシーと情報モラル（SNSの取り扱い） ・医療情報の取り扱いについて ・その他社会問題等	予習：「情報リテラシー」「情報モラル」について調べ，自分の考えをまとめる．(2時間) 復習：授業をまとめ，多くの情報から適切に情報を得る方法を考える．(2時間)	関根
4	【臨床検査技師のキャリアについて】 ・自身のキャリアについて ・履修モデルの解説と自身のキャリア形成プランの検討 ・臨床検査技師に必要な学びと研究	予習：自分自身，将来どのような「大人」になりたいか，また，目標とする「臨床検査技師像」を考え，まとめる．(2時間) 復習：授業をまとめ，自分の将来像を明確にする．(2時間)	関根
5	地域医療について 住之江区長による「住之江区の医療・福祉の現状」についての講話	予習：本学が位置する「住之江区」のWebサイト「広報誌 さざんか」にて，住之江区における「福祉・健康」の施策について調べる（2時間）	関根

		復習：授業をまとめ，今の自分でも参加できることを（ボランティア等）を探す．(2 時間)	
6	西洋医学とは 医師による西洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：西洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：西洋医学の中での臨床検査の重要性を調べ，まとめる．(2 時間)	関根
7	東洋医学とは 鍼灸師による東洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：東洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，西洋医学との違いを理解し，東洋医学の重要性をまとめる．(2 時間)	関根
8	チーム医療とは ・チーム医療について知る	予習：本学の Web サイトで「チーム医療」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，チーム医療の重要性を理解する．(2 時間)	関根
成績評価方法と基準			割合
レポート試験：「自己のキャリア構築のために今後の大学生活で何をすべきか」を 1600 字程度で述べる。〈DP②③〉 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	チーム医療見学実習(検査)				
主担当教員	関根　将		担当教員	関根　将	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

１．医療の実践の場である病院等の施設で医療従事者の 1 日を体験することにより、医療職への理解を深める。
２．保健医療施設における自己の目指す専門職の役割や機能を知ると共にチーム医療を構成する
様々な専門職の役割・機能について知識を深める。
３．チーム医療の実際を知り、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性を知る。

＜施設見学の実施概要＞
開講時期：9 月下旬
実習施設：大阪急性期・総合医療センター(日程調整中)、大阪国際がんセンター(9 月 28・29・30 日または
9 月 23・24・25 日)、日本生命病院(9 月 23・25・28 日)、関西メディカル病院(9 月 25・28・29 日)

＜実施方法＞
１．本見学実習は大学内で実施する事前授業（4 コマ）と施設見学（4 コマ）とする。
２．1 班 8 名程度の学科混成グループを作り、各グループ上記施設の中から 1 施設を見学する。
３．1 班ごとに 1 名の本学教員が引率し、基本的には引率教員の指示のもと決められたスケジュール通りに
施設内を見学する

到達目標

１．実習を通じて医療施設の全体的な業務や役割について知ることができる。DP2
２．実習を通じてチーム医療の構成を知り、目指す専門職の役割および責任を自覚することができる。DP2
３．実習を通じて医療に取り組む姿勢を養い、専門科目の学習への意欲向上のきっかけとし、今後、
専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。DP23

履修上の注意(学生へのメッセージ)

見学時は、担当者のみならず院内の全ての方(就業者や患者さん等)に迷惑がかからない行動を取るとともに、発言にも最大限配慮すること。
見学当日はバスで送迎を行います。集合場所や時間を等は引率教員の指示に従うこと。

教科書

とくになし

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階職員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	事前授業①（授業の目的や概要について）	【事前授業１】（授業の目的や概要について） 予習：本学に設置されている学科の仕事内容を調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、チーム医療についての考えをまとめる。(3 時間)	関根
2	事前授業②（授業の目的や概要について）	【事前授業２】（施設見学における注意事項について） 予習：大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて実践できるようにする （3 時間）	関根
3	事前授業③（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる	関根

		（3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	
4	事前授業④（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	関根
5	【学修内容：⑤～⑧】 「施設見学」 ＜見学スケジュール例＞ ①リハビリテーション室の見学 →それぞれの職種間でのコミュニケーションを学ぶ ②ICU・CCU →医師や看護師の連携について学ぶ。最新機器等の設備について知識を深める ③各種検査室の見学 →検査技師と医師や看護師など他の職種との連携について学ぶ ④透析室 →透析の機器等について知識を深める ⑤手術室 →手術室とはどのような環境の部屋なのか、実際の設備や雰囲気を知る	復習：見学実習での学びをレポートにまとめる。自修時間 6 時間→課題提出	関根
成績評価方法と基準			割合
レポート課題<DP②③> 「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	基礎体育(検査 A)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
　日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
　学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習 1 時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	基礎体育(検査 B)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3時限目・4時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習１時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 　その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(検査) (Health Science【Including Sports Sociology】)				
主担当教員	佐野　加奈絵		担当教員	佐野　加奈絵	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。

到達目標

・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける（DP③)。
・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する（DP③)。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回配布する資料を用いて、必ず復習してください。

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005 年
田中喜代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006 年

研究室／オフィスアワー

東棟 4F　月曜 9:00-10.30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康とは？	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
2	運動・栄養と肥満症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
3	運動・栄養と糖尿病との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
4	運動・栄養と脂質異常症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
5	三大栄養素（糖質・脂質・タンパク質）の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
6	微量栄養素（ビタミン・ミネラル）と水の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
7	消化器の構造と機能	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
8	食品群の理解と応用	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
9	エネルギー摂取量と消費量との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
11	運動処方の原則と実際	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
12	運動と食欲の関係－最新のトピックス－	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：　これまでのプリントの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
成績評価方法と基準			割合

①定期試験で評価する（DP③）。 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	①100%

授業科目名	人体の構造Ⅰ(検査)（Human Anatomy Ⅰ）				
主担当教員	北村　清一郎		担当教員	北村　清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造Ⅰでは、人体の概要、細胞と組織、脈管系、および内臓系（内分泌系を除く）を学習する。人体の概要や、細胞と組織では、以後の学習に必要な基礎的概念を把握する。循環器系は、引き続き学習する消化器系や呼吸器系、泌尿器系と密接に関連しており、これらのつながりを把握することも重要である。内臓系では，各系の内臓の構造を、細胞・組織レベルから理解し、機能と関連させることが重要である。

到達目標

（１）細胞の構造、組織の概要、細胞・組織・器官の層序性を説明できる（DP②③）
（２）循環器系の構成と体内での分布、消化器系、呼吸器系、泌尿器系との関わりを説明できる（DP②③）
（３）各内臓系を構成する臓器の位置と形態が分かるとともに、各臓器の構造を機能との関わりから説明できる（DP②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。

教科書

「最新臨床検査学講座　解剖学」　秋田恵一、星　治　（医歯薬出版）

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

E 棟４階研究室５／毎週月曜日・火曜日・木曜日の昼休み。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	解剖学序論	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（2時間）	北村
2	細胞	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（2時間）	北村
3	上皮組織、支持組織	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（2時間）	北村
4	筋組織、神経組織	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（2時間）	北村
5	血液循環、血管壁の構造	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（2時間）	北村
6	心臓、動脈系	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（2時間）	北村
7	動脈系、静脈系、胎児循環	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間） 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正（2時間）	北村
8	リンパ系、胸腺と脾臓	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成（2時間）	北村

		復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	
9	消化器系、口腔、咽頭、食道	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
10	胃、小腸，大腸、肛門	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
11	肝臓、胆嚢、膵臓、腹腔	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
12	呼吸器系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
13	泌尿器系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
14	男性生殖器	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
15	女性生殖器	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
成績評価方法と基準			割合
学期末に筆記試験を行う（DP②③）。筆記試験は100点満点とし、60%以上の得点でもって合格とする。合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。			筆記試験100%

授業科目名	人体の構造Ⅱ(検査)（Human Anatomy Ⅱ）				
主担当教員	北村　清一郎		担当教員	北村　清一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜2限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造Ⅱでは、ヒトの発生の概要、および内分泌系、神経系、感覚器系、骨格系、筋系の構造を学習する。内分泌系ではホルモン分泌の仕組みや神経系との関わりを理解する。神経系と感覚器系では、人体内外での情報の受容、伝達、処理、統合、出力などの仕組みを理解する。骨格系と筋系では、体の動く仕組みを理解する。

到達目標

（１）ヒトの発生の概要を説明できる（DP②③）
（２）内分泌器官の構造を機能との係わりから説明できる（DP②③）
（３）中枢神経系の形態と、各部の役割を説明できる（DP②③）
（４）末梢神経系の分布と、主要神経の役割を説明できる（DP②③）
（５）感覚器の構造を機能の面から説明できる（DP②③）
（６）人体を構成する骨の名称と部位を述べることができる（DP②③）
（７）人体を構成する筋の名称と部位、役割を述べることができる（DP②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書の内容を中心に、構造の理解に不可欠な図を多く取り込んだパワーポイント（スライド）を用いて行う。講義内容はプリントにして、あらかじめ配布するので、これを元に予習ノートを作成する。

教科書

「最新臨床検査学講座　解剖学」　秋田恵一、星　治　（医歯薬出版）

参考書

特に無し

研究室／オフィスアワー

E棟４階研究室５／毎週月曜日・水曜日・木曜日の昼休み。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ヒトの発生	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
2	内分泌系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
3	中枢神経系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
4	中枢神経系	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
5	脊髄神経、脳神経	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
6	脳神経、自律神経	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
7	視覚器	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村

8	聴覚器・平衡覚器	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
9	味覚器、嗅覚器、皮膚	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
10	骨格系総論	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
11	頭蓋骨、体幹の骨	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
12	上肢の骨、下肢の骨	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
13	筋系総論、頭頸部の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
14	胸部・腹部・背部の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村
15	上肢の筋、下肢の筋	予習:講義プリントに沿って予習ノート作成(2時間) 復習:授業を元に予習ノートの加筆と修正(2時間)	北村

成績評価方法と基準	割合
学期末に筆記試験を行う（DP②③）。筆記試験は100点満点とし、60%以上の得点でもって合格とする。合格点に達しない場合には、筆記試験の再試験を1回のみ行う。	筆記試験 100%

授業科目名	人体の構造実習(検査)（Human Anatomy Training）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜1限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体の構造的、機能的最小単位である細胞には様々な形態を有しているものがあり、器官・臓器はそれらが一定の秩序に従って構成されている。本実習ではヒトの身体から頂いた組織標本の顕微鏡観察を通じて、これまで学習した「人体の構造」と「人体の機能」について、ミクロからマクロまで関連づけながら理解を深めるとともに、生命の尊厳についても学習する。

到達目標

生物の最小単位である細胞がいかなる「形態」を有し、どのような「機能」を発揮しうるのかについて「観察」を通じて理解を深めることで、各器官・臓器の機能についてもより深く理解し、さらに疾病における形態変化がどのような機能障害を生じるかについても考察できるようにする。〈DP②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 組織学の理解を深めることは、解剖学や生理学のみならず病理学や病態学の理解を深めることにつながることから、積極的に学習すること。
2. 顕微鏡観察においては観察力を身につける努力をすること。
3. 毎回テーマが異なるため極力欠席をしないようにすること。
4. 実習で扱う顕微鏡やプレパラートは精密機器かつ貴重な資料であることから、丁寧に取り扱うこと。
5. 実習室は精密機器を扱うことから飲食を禁止する。
6. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。また私語などは授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる場合がある。

教科書

1. 入門組織学 改訂第2版. 牛木辰男 著. 南江堂. 2016年. ISBN978-4-524-21617-8.
2. その他適宜プリントを配布する

参考書

1. 伊藤隆、阿部和厚　著. 組織学　第19版.　南山堂. 2005年.
2. 野上晴雄　著. 新組織学（Qシリーズ）改訂第6版. 日本医事新報社. 2016年.

研究室／オフィスアワー

C棟研究室707：木、金曜日17:00～18:00ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習の進め方、組織学の歴史、組織学総論（4大組織）についての解説、顕微鏡の使用方法	予習：人体の構造、機能で学んだ組織・細胞の確認（解剖学 p7-24, 169-181） 復習：4大組織について復習すること（解剖学 p7-24, 169-181、配布資料） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
2	上皮組織1：上皮組織（皮膚組織）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p29-44, 295-302）の確認 復習：観察した上皮組織および皮膚組織の構造について復習すること（教科書 p29-44, 295-302、配布資料） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
3	消化器系1：消化管（食道、胃）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p164-172）の確認 復習：観察した食道、胃の構造について復習すること（教科書 p164-172、配布資料） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
4	消化器系2：消化管（小腸、大腸）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p172-183）の確認 復習：観察した小腸、大腸の構造について復習すること（教科書 p172-183、配布資料） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
5	消化器系3：肝臓、胆嚢についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p183-192）の確認 復習：観察した肝臓、胆嚢の構造について復習すること（教科書 p183-192、配布資料） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
6	消化器系4：膵臓、唾液腺についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p154-158, 192-198）の確認 復習：観察した唾液腺、膵臓の構造について復	川畑

		習すること（教科書 p154-158,192-198、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	
7	呼吸器系：気管、肺についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p202-210）の確認 復習：観察した気管、肺の構造について復習すること（教科書 p202-210、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
8	循環器系：心・血管（動静脈）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p104-116）の確認 復習：観察した心・血管（動静脈）の構造について復習すること（教科書 p104-116、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
9	泌尿器系：腎（糸球体および尿細管）についての観察および解説	予習：シラバス・教科書（p211-226）の確認 復習：観察した腎、膀胱の構造について復習すること（教科書 p211-226、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
10	内分泌系：内分泌腺（甲状腺・膵・副腎）についての観察および解説	予習：シラバス・教科書（p278-282,196-198,284-289）の確認 復習：観察した内分泌腺（甲状腺・膵・副腎）の構造について復習すること（教科書 p278-282,196-198,284-289、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
11	筋組織：横紋筋、平滑筋、心筋についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p69-82）の確認 復習：観察した筋組織の構造について復習すること（教科書 p69-82、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
12	骨格系：骨・軟骨組織（気管軟骨・骨端軟骨）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p58-67）の確認 復習：観察した骨・軟骨組織の構造について復習すること（教科書 p58-67、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
13	神経組織：神経組織（脊髄、大脳、小脳）についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p83-97）の確認 復習：観察した神経組織の構造について復習すること（教科書 p83-97、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
14	生殖器系：生殖腺（精巣、前立腺、卵巣、子宮についての解説および観察	予習：シラバス・教科書（p227-236,245-258）の確認 復習：観察した精巣、卵巣、子宮の構造について復習すること（教科書 p227-236,245-258、配布資料） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
15	組織学のまとめ：これまで観察してきた正常組織像の総復習	予習：これまでの講義を振り返る（教科書、配布資料） 復習：教科書、配布資料などの振り返りを行うこと。なお予習・復習を各 1 時間行うこと。また、本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	川畑
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験〈DP④〉 2. 実習ノートの提出〈DP②～④〉 （※実習ノートは授業終了後必ず提出すること。評価基準は授業開始時に提示する。なおノートの未提出は欠席とみなす場合もある。） 3. 4/5 以上の出席が必要			1. 50% 2. 50%

授業科目名	人体の機能Ⅰ(検査)（Human Physiology Ⅰ）				
主担当教員	五十嵐 淳介		担当教員	五十嵐 淳介	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能Ⅰでは、循環器・呼吸器・消化器をはじめとした内臓系を中心に取り扱う。

到達目標

・体細胞の構造と機能のあらましを述べることができる。(DP①)
・心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。(DP①)
・呼吸力学とガスの運搬を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。(DP①)
・消化器の働きを説明できるとともに、栄養素の消化・吸収・代謝について概説できる。(DP①)
・腎臓の働きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。(DP①)
・血液と血球の働きを説明できる。(DP①)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
2）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。

教科書

奈良信雄、和田隆志　編集、「臨床検査学講座　生理学」　ISBN978-4-263-22373-4 歯薬出版

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

研究室在室時 月曜日～木曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生理学とは 細胞、組織、器官（その 1）	・生理学とはどのような学問かを述べられるようにせよ。教科書 1～9 ページを用いて、ヒトの細胞、組織、器官について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
2	細胞、組織、器官（その２）	・教科書 1～9 ページを用いて、ヒトの細胞、組織、器官について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
3	心血管系（その 1）	・教科書 11～26 ページを用いて、循環器の働きを概説できるとともに、心臓のポンプ機能について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
4	心血管系（その２）	・教科書 11～26 ページを用いて、心電図の基本波形が持つ意味と、血管系の働きについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
5	心血管系（その３）	・教科書 11～26 ページを用いて、血圧の成因と循環調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
6	呼吸器系（その 1）	・教科書 27～39 ページを用いて、呼吸機能検査と換気力学について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
7	呼吸器系（その２）	・教科書 27～39 ページを用いて、ガス交換と呼吸調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
8	消化器系（その 1）	・教科書 41～51 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせ	

		よ。 ・予習・復習に 4 時間	
9	消化器系（その２）	・教科書 41～51 ページを用いて、消化器の運動機能・分泌機能について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
10	腎と体液（その１）	・教科書 53～63 ページを用いて、体液の分布と尿生成と腎機能調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
11	腎と体液（その２）	・教科書 53～63 ページを用いて、水電解質調節、酸 - 塩基平行、腎ホルモンについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
12	血液、造血器、凝固、免疫（その１）	・教科書 65～75 ページを用いて、血液の機能、造血器、血液成分について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
13	血液、造血器、凝固、免疫（その２）	・教科書 65～75 ページを用いて、止血、免疫、血液型について述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
14	重点項目の復習	・人体の機能Ⅰの重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
15	重点項目の復習	・人体の機能Ⅰの重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験（DP①）			100%

授業科目名	人体の機能Ⅱ(検査)（Human Physiology Ⅱ）				
主担当教員	河口　直正		担当教員	河口　直正	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生理学について学ぶ。人体の正常な機能について学習し、医学の他の分野を学ぶための基礎を身につけることを目的とする。人体の機能Ⅱでは、血液・内分泌・神経を中心に取り扱う。

到達目標

・神経細胞とシナプスについて概説することができる。中枢神経の主要部位の構造とその主な機能を述べることができる。（DP①）
・感覚の受容について述べることができる。(DP①)
・体温の調節について概説できる。(DP①)
・さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。(DP①)
・生殖と発生のあらましを説明できる。: さまざまなホルモンの分泌の仕組みと働きについて説明できる。(DP①)
・筋肉の収縮・弛緩について述べることができる。(DP①)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。

教科書

奈良信雄、和田隆志　編集、「臨床検査学講座　生理学」　ISBN978-4-263-22373-4 医歯薬出版

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

研究室在室時 月曜日～木曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	神経系（その１）	・教科書 77～94 ページを用いて、神経組織、神経生理、シナプスの基礎的事項を説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
2	神経系（その２）	・教科書 77～94 ページを用いて、中枢神経系の働きについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
3	神経系（その３	・教科書 77～94 ページを用いて、大脳の働きについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
4	神経系（その４）	・教科書 77～94 ページを用いて、末梢神経系の働きについて説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
5	感覚系（その１）	・教科書 95～111 ページを用いて、感覚の受容の仕組みについて概説できるようになるとともに、体性感覚・内臓感覚について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
6	感覚系（その２）	・教科書 95～111 ページを用いて、視覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
7	感覚系（その３）	・教科書 95～111 ページを用いて、聴覚・味覚・嗅覚の受容の仕組みについて概説できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
8	代謝・栄養系（その１）	・教科書 113～124 ページを用いて、栄養素の分類とそれぞれの吸収の仕組みについて述べ	

		られるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
9	代謝・栄養系（その２）	・教科書 113～124 ページを用いて、栄養素の代謝と体温調節の仕組みについて述べられるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
10	内分泌系（その１）	・教科書 125～137 ページを用いて、内分泌系について概説できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
11	内分泌系（その２）	・教科書 125～137 ページを用いて、それぞれのホルモンの分泌調節の仕組みと標的臓器での作用について説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
12	生殖系	・教科書 139～148 ページを用いて、生殖と発生の仕組みを説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
13	運動系（その１）	・教科書 149～161 ページを用いて、骨・筋の代謝を説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
14	運動系（その２）	・教科書 149～161 ページを用いて、骨・関節運動と筋運動をそれぞれ説明できるようにせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
15	重点項目の復習	・人体の機能Ⅱの重要項目について学習の一助とせよ。 ・予習・復習に 4 時間	
成績評価方法と基準			割合
期末定期試験（DP①）			100%

授業科目名	生化学(検査)（Biochemistry）				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生化学は生命現象を分子レベルで学ぶ学問である。本講義では人体を構成している化学物質の生体内での生物化学反応と生命維持との関わりについて学ぶ。糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸などの主要な生体構成物質の構造と機能について学び、生命が多様な物質より構成されていることを理解する。

到達目標

生体を構成する糖質、タンパク質、脂質といった分子の構造と性質について理解する。
生体内での化学反応、すなわち酵素反応について理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

高校までの生物と化学について復習しておくこと。

教科書

シンプル生化学　（南江堂）

参考書

マッキー生化学　（化学同人）
リッピンコットシリーズイラストレイテッド生化学　（丸善）
カラーイラストで学ぶ集中講義　生化学　（メジカルビュー社）

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命現象と生化学	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
2	糖の定義と分類	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
3	単糖類、オリゴ糖類、多糖類	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
4	糖タンパク質とプロテオグリカン	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
5	脂質の定義と分類	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
6	脂肪酸の基本的な構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
7	単純脂質と複合脂質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
8	アミノ酸の構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
9	タンパク質の構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
10	核酸とヌクレオチドの構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	DNA・RNA の構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	酵素の一般的な構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	酵素の構造と活性中心	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	酵素反応速度論	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
15	酵素活性の調節	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合

1．小テスト 2．定期試験	20% 80%

授業科目名	生化学特論(検査)				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態		単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生化学は生命現象を分子レベルで学ぶ学問である。本講義では人体を構成している化学物質の生体内での生物化学反応と生命維持との関わりについて学ぶ。糖質、脂質、アミノ酸、核酸などの合成と分解の代謝経路の詳細について学修することで、生命活動が多様なシステムより構築されていることを理解する。また免疫反応や腫瘍における生化学，分子生物学，ゲノム解析学，実験技術などの最新の進歩に関しても学修する。

到達目標

糖質、脂質、アミノ酸、核酸の代謝経路を理解する。
ミトコンドリアにおけるエネルギー代謝を理解する
それぞれの代謝経路の相互関係と調節機構を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前期の「生化学」について復習をしておくこと。

教科書

シンプル生化学　（南江堂）

参考書

マッキー生化学　（化学同人）
リッピンコットシリーズイラストレイテッド生化学　（丸善）
カラーイラストで学ぶ集中講義　生化学　（メジカルビュー社）

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生体内におけるビタミンの働き	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
2	生体膜の構造と物質輸送	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
3	消化と吸収	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
4	糖質の代謝・解糖系	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
5	グリコーゲン合成と分解	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
6	クエン酸回路・糖新生・ペントースリン酸回路	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
7	脂質の代謝・貯蔵と動員	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
8	脂肪酸の分解・脂肪酸の生合成	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
9	リン脂質・ステロイド化合物の代謝	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
10	アミノ酸の分解	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	アミノ酸から合成される生体物質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	アミノ酸の生合成	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	新生経路によるモノヌクレオチドの代謝	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	デオキシリボヌクレオチドの合成	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	

15	ヌクレオチドの代謝分解と再生経路	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合
１．小テスト ２．定期試験			20% 80%

授業科目名	分析化学(検査)（Analytical Chemistry）				
主担当教員	小林　吉晴		担当教員	小林　吉晴	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

臨床検査で生体分子を測定するために必要な代表的な分析法（各種クロマトグラフィー、電気泳動、紫外・可視吸光度測定法、蛍光光度測定法、質量分析、NMR などの原理）や検体の前処理法と分析学の基礎理論を修得する。

到達目標

１．生体を構成する元素、原子、分子、化合物を理解する。
２．溶液の濃度、電解質、イオン強度、について理解する。
３．酸と塩基、酸化・還元反応について説明できる。
４．電気泳動法の原理を説明できる。
５．化学物質の分離・精製方法について理解する。
６．電磁波について説明できる。
７．紫外可視分析法、蛍光・りん光分析、赤外分光法を理解する。
８．核磁気共鳴法、質量分析法、原子吸光法の原理を理解し、臨床検査での利用を理解する。
９．　クロマトグラフィーの原理を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．分析化学は臨床検査の基礎となる学問であることを認識する。
２．生体成分の分析は生体を構成する元素、原子、分子、化合物を分析することと認識する。
３．種々の分析法の特徴について理解し、どの分析法が目的物質の分析に最適か考える。

教科書

「よくわかる最新分析化学の基本と仕組み」秀和システム　・津村ゆかり著
ISBN978-4-7980-4650-1

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

小林吉晴研究室/月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	水素、窒素、炭素、酸素などの元素としての特徴や元素周期表を学ぶ。	予習：不要 復習：元素周期表を第３周期まで自分で書ける。	
2	水素、窒素、炭素、酸素などの電子軌道を学ぶ。電子について理解する。	予習：不要 復習：水素、窒素、炭素、酸素の電子軌道を書ける。	
3	溶液の濃度の単位や電解質の意味を理解する。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
4	酸と塩基の定義を理解する。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
5	酸化還元反応を理解する。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
6	分析化学で使用する試薬、ガラス器具の使用方法を正しく知る。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
7	電気泳動法の原理を理解し、臨床検査での応用例を説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
8	電磁波の種類とその特徴について説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
9	紫外・可視分析法の特徴とランバートベアの法則を説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
10	蛍光とりん光の違いを説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
11	赤外分光法の原理と測定法の特徴を説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	

12	核磁気共鳴法の原理と測定法の特徴を説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
13	質量分析法の原理と測定法の特徴を説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
14	原子吸光法の原理と測定法の特徴を説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
15	クロマトグラフィーの原理を説明できる。	予習：不要 復習：授業内容をノートにまとめる。	
成績評価方法と基準			割合
１．小テスト(DP1)：２０点 ２．定期試験(DP1)：８０点			小テスト 20% 本試験 80%

授業科目名	臨床検査学総論(検査)（Clinical Laboratory Science）				
主担当教員	小林 吉晴		担当教員	小林 吉晴、竹岡 啓子	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義を一般臨床検査、臨床化学検査、血液検査、免疫・輸血関係、微生物検査、病理検査、および生理機能検査に分類し、それぞれの分野の概要および代表的な検査と病気と健康との関係について学修する。

到達目標

１．臨床検査それぞれの意義と重要性を学修する。
２．臨床検査部門の業務と管理について学修する（１回目）。
３．臨床検査部門の業務と管理について学修する（2回目）。
４．検体採取と保存について学修する（１回目）。
５．検体採取と保存について学修する（２回目）。
６．検体採取と保存について学修する（３回目）。
７．採血行為の範囲、業務に際しての注意事項および採血時の患者状態と血液検体の取り扱い上の留意点を学修する。
８．採血手順・手技（標準採血法ガイドライン）について学修する。
９．尿検査の一般的注意事項学修する。
１０．尿化学検査について理解する（１回目）。
１１．尿化学検査について理解する（２回目）。
１２．尿化学検査について理解する（３回目）。
１３．尿化学検査について理解する（４回目）。
１４．尿化学検査について理解する（５回目）。
１５．腎機能検査を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．疾病と臨床検査の関係を理解するように努める。
２．各種測定法の原理を理解し、生体成分の測定意義を説明できるようにする。
３．講義終了後のノート整理とまとめの作業で、理解の確認が大切。
４．臨床検査データの読める臨床検査技師を目指す。
5．予習・復習は2時間ずつする。

教科書

最新臨床検査学講座
一般検査学　三村邦裕　宿谷賢一　編 医歯薬出版　ISBN978-4-263-22367-3 C3347

参考書

臨床検査ガイドライン　JSLM2015　日本臨床検査医学会
標準臨床検査学　臨床検査総論　伊藤機一・松尾収二　編　医学書院
臨床検査提要　第34版　金原出版
標準採血法ガイドライン　GP4-A3　JCCLS 日本臨床検査標準協議会

研究室／オフィスアワー

小林吉晴研究室/　月曜日 16:00-18:00、火曜日 16:00-18:00
竹岡啓子研究室/　在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	一般検査の意義と重要性を理解する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
2	臨床検査部門の検査体制、業務および管理について学修する（１回目）。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
3	臨床検査部門の業務と管理について学修する（2回目）。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
4	糞便検査、喀痰検査について学修する。	予習：糞便検査、喀痰検査について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
5	胃液、十二指腸液について学修する。	予習：胃液、十二指腸液について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
6	精液、その他の体液、結石成分分析について学修する。	予習：体液の種類、結石成分について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子

7	採血の目的、採血時の安全管理（注意事項・留意点等）について学修する。	予習：予習：採血手技とリスクについて予習すること。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
8	採血手順・手技（標準採血法ガイドライン）について採血シュミレータを用いて学修する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
9	尿検査の基礎知識と検体採取と取り扱いについて学修する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	竹岡　啓子
10	腎臓の構造と機能を理解する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	小林 吉晴
11	尿比重と尿蛋白について理解する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	小林 吉晴
12	尿糖、尿アセトン体、尿ビリルビン理解する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	小林 吉晴
13	尿中アスコルビン酸、尿中薬物、ヒト絨毛性ゴナドトロピンについて理解する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	小林 吉晴
14	尿中ポルフィリン体、フェニルケトン体、アルカプトン、ＶＭＡ、脂肪について理解する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	小林 吉晴
15	腎機能検査(クリアランス、eGFR)などを理解する。	復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめ、理解し学修する。	小林 吉晴

成績評価方法と基準	割合
１．小テスト(DP1)：２０点 ２．定期試験(DP1)：８０点	小テスト 20% 定期試験 80%

授業科目名	検査技術科学序論(検査)（Introduction to Medical Technology）				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、久国　正章、上田　真喜子、森　誠司、小宮山　恭弘、小林　吉晴、前川　佳敬、竹岡　啓子、佐伯　康匠、藤原　牧子、小林　彩香、関根　将	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限 金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床検査は科学技術（テクノロジー）に基礎をなす学問でありその応用である。検体検査および生理学検査ともに機械工学、電子工学、生命工学といった技術に基づいて発展し、現在の高度化・効率化された検査を構築している。またこれら科学技術を用いて検査を実践するのは臨床検査技師であり、そのために検体や生体あるいは機器を取り扱うために専門的な技能（スキル）を修得する必要がある。各種検査をおこなう上で必要な基礎的な知識から先端技術までを各教員の専門領域の紹介も含めオムニバス形式で講義する。
【脇英彦１回】、【【小林吉晴・２回】、【小宮山恭弘・２回】、【竹岡啓子・２回】、【森誠司・２回】、【久国正章・２回】、【小林彩香・１回】、【佐伯康匠・１回】、【藤原牧子・１回】、【関根将・１回】

到達目標

１．臨床検査を技術的観点からとらえ、それを支える基礎的事項について理解する。
２．医療において技術を駆使するのは医療従事者でありスキルの重要性を理解する。
３．科学の進歩に伴い臨床検査の技術も日々進歩していることを理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

各教員の専門とする検査領域の学問的・技術的な背景が講義の主軸となるが、最新の医療技術についての紹介もある。１年次後期ではまだ十分な知識が備わってないこともあるので、分からないことは積極的に質問すること。また学習内容と事前指導を確認し準備をしておくこと。

教科書

適宜資料を配布する

参考書

担当教員が適宜指示する。

研究室／オフィスアワー

臨床検査学科　各研究室　月-金曜日　18 時以降

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床検査の最新技術 担当：脇英彦	予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する	脇英彦
2	病理学検査の基礎から最新技術 担当：小林彩香	予習：不要 復習：講義内容を整理・確認する	小林彩香
3	臨床化学検査の基礎から最新技術 ① 担当：小林吉晴	予習：不要 復習：講義の内容をﾉｰﾄに整理する	小林吉晴
4	臨床化学検査の基礎から最新技術 ② 担当：小林吉晴	予習：不要 復習：講義の内容をﾉｰﾄに整理する	小林吉晴
5	生理学的検査の基礎から最新技術 ① 担当：小宮山恭弘	予習：臨床生理学の心電図検査とはどのようなものか理解してくること。 復習：心電図と他の循環器機能検査との違いを考える。	小宮山　恭弘
6	生理学的検査の基礎から最新技術 ② 担当：小宮山恭弘	予習：臨床生理学の脳波検査とはどのようなものか理解してくること。 復習：脳波記録時に波形に影響を与える要因について考える。	小宮山　恭弘

7	免疫学的検査の基礎から最新技術 ① 担当：竹岡啓子	予習：免疫学と臨床検体検査との関連性について理解してくる。 復習：免疫学に関するキーワードを整理・確認する。	竹岡啓子
8	免疫学的検査の基礎から最新技術 ② 担当：竹岡啓子	予習：抗原抗体反応を利用した臨床検体検査について理解してくること。 復習：臨床検査分野に関する免疫キーワードを整理・確認する。	竹岡啓子
9	生化学・遺伝子検査の基礎から最新技術 ① 担当：森誠司	予習：高校の生物基礎（DNA、遺伝子、ゲノム）に関して理解してくること。 復習：キーワードの再確認	森　誠司
10	生化学・遺伝子検査の基礎から最新技術②　担当：森誠司	予習:「オーダーメード医療」という言葉を理解してくること。 復習：遺伝子工学の医療への応用について考える。	森　誠司
11	臨床検査に必要な物理 ① 直流と交流の違い・ジュール熱 担当：久国正章	予習：不要 復習：講義資料を見直し、用語・公式等、確認をする。	久国正章
12	臨床検査に必要な物理 ② 電力の計算・電磁誘導 担当：久国正章	予習：不要 復習：計算問題をもう一度解いてみる。電磁誘導のページについてはプリントを一通り読み直す。	久国正章
13	寄生虫感染症の現状 担当：関根将	予習：寄生虫疾患　（特に顧みられない感染症）について調べてくる。 復習：　寄生虫感染症の現状と対策について確認する。	関根将
14	微生物学検査の基礎から最新技術 担当：佐伯康匠	予習：微生物学の検査（主に細菌）の手法にどのようなものがあるかを理解してくること。 復習：微生物の検査結果の活用について考える。	佐伯康匠
15	血液学検査の基礎から最新技術 担当：藤原牧子	予習：赤血球、白血球、血小板が生体内で担う役割について調べてくること。 復習：赤血球、白血球、血小板のいずれかが数的あるいは機能的に異常となった場合について、考えられることをまとめる。	藤原牧子
成績評価方法と基準			割合
1.各教員の講義の最後に小テストをおこなう。　100%			1.　100%

授業科目名	医学概論(検査)（Introduction to Medicine）				
主担当教員	前川　佳敬		担当教員	前川　佳敬	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医学・医療技術の革新的進歩、超高齢社会の到来、価値観の多様化、社会構造の変化などに伴い、医療を取巻く環境は大きく変化している。本講座では、医療の本質、現代医療の問題点、生命倫理、患者の権利、EBM(evidence based medicine)、インフォームドコンセント、医療経済等を概説し、医療人の基盤となるべき精神・考え方・知識を学修する。さらに、チーム医療の重要性を鑑み、他医療専門職分野の知識・現状も概説し、広く横断的な視点を持ちつつ、医療における臨床検査学の在り方を教授する。

到達目標

１．大学生に求められる基礎学力と社会常識を修得する。
２．医療従事者になるという動機を明確なものとして確立する。
３．臨床検査学の各分野で必要な基礎的知識を理解する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医学・医療に対する考え方や、よき医療人になるための意識・心構えを培うための講座である。
医学・医療に関する知識や情報を習得するだけではなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようになってほしい。講義内容にあらかじめ目を通し、自分の考えをもっておくことが望ましい。
古代医学の誕生から近代医学誕生までの歴史の変遷を学び、医療従事者の一員として臨床検査の成り立ちから今日までの臨床検査の歴史を学び､臨床検査の将来展望と検査技術の発展について学ぶ。

教科書

＜系統看護学講座　専門基礎分野＞健康支援と社会保障制度（１）　総合医療論

参考書

なし
教材がある場合は適宜配布する。参考書は特に指定しないが、テーマごとに図書館などを利用して積極的に学習する。

研究室／オフィスアワー

前川：C 棟研究室８／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	援助と共感	将来、皆さんが歩まれる医療者としての心構えについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
2	医療と看護の原点①	私たち人間にとってかけがえのない命と健康について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
3	医療と看護の原点②	医療従事者が携わる病と癒しについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
4	医療の歩みと医療観の変遷	現代社会において大きく変化している医療環境について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
5	私達の生活と医療①	もしも私たちが病気やけがをしたらどうしたらいいのか？を具体的に考えながら予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
6	私達の生活と医療②	健康を維持するために重要な環境衛生と疾病予防について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
7	私達の生活と医療③	安心して暮らせる社会作りを目指して国が重点的に取り組んでいる高齢社会・障がい者・こころの健康について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
8	技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題①	めまぐるしく進化する先端医療技術について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川

9	技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題②	めまぐるしく進化する先端医療と産業社会の発展の影響について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
10	成熟する社会と人々の意識改革	患者の意思を尊重する医療の基本となるインフォームドコンセントについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
11	医療を見つめなおす新しい視点①	医学・医療の進歩とともに重要視されている医の倫理について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
12	医療を見つめなおす新しい視点②	医療が円滑かつ効率的に行えるような医療の管理について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
13	健康概念の質的変化と保健・医療の新しい潮流①	医療倫理、医療制度改革、救急医療の見直しなど、医療変革の波について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
14	健康概念の質的変化と保健・医療の新しい潮流②	医学・医療を取り巻く環境の変化を踏まえたこれからの医療について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
15	健康概念の質的変化と保健・医療の新しい潮流③	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るように、厚生労働省が推進している地域包括医療システムについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	前川
成績評価方法と基準			割合
①筆記テスト ②小テストDP②③			①筆記テスト80%、②小テスト20%

授業科目名	公衆衛生学(検査)（Public Health）				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜3限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれます。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問です。本講義では、多要因から成る健康の成り立ちを理解し、健康的な生活の保持増進と疾病の予防のために、広い視野に立って考え行動することができるように、知識と方法論を修得します。

到達目標

広い視野に立って、人々の健康的な生活の保持増進と疾病予防のために考え行動することができるように、以下のことを修得します。
１）健康事象を人と社会・環境の相互作用として捉え、理解する。
２）人間集団の観察技術を身につけ、社会集団や地域における健康問題を分析・考察する。
３）広い社会的視野を持ち、社会変動と健康の関係を洞察する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

公衆衛生学に関する知識や情報を習得するだけではなく、自分の意見をもち、かつそれを表出できるようになってほしい。
講義内容にあらかじめ目を通し、自分の考えをもっておくことが望ましい。

教科書

わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考書

公衆衛生がみえる（MEDIC MEDIA）
シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）

研究室／オフィスアワー

C棟研究室8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	公衆衛生とは	環境や行動を社会的に整えて人々の健康を守る公衆衛生の概念について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
2	健康と環境、疫学的方法	健康は環境など多要因から成り立っている事、多要因を解析する疫学について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
3	健康の指標	集団の健康水準を測定する尺度の総称である健康の指標について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
4	感染症とその予防	感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防や蔓延防止の方策について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
5	食品保健と栄養	食生活の安全を確保するため、食中毒予防の新しい技術や知識ならびに食品衛生の制度について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
6	生活環境の保全（１）	現代の生活が環境に何をもたらしたか、それが人々の健康にどのような影響をもたらしたか、どのような仕組みで対策を講じているかについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
7	生活環境の保全（２）	現代の生活が環境に何をもたらしたか、それが人々の健康にどのような影響をもたらしたか、どのような仕組みで対策を講じているかについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
8	医療の制度、地域保健活動	社会保障制度の医療に関わる部分、地域の住民が適切なヘルスサービスを受ける構造について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認	

		しておくこと	
9	母子保健	少子化が急速に進行する中で、我が国の母子保健の現状と今後の方向について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
10	学校保健	学校における児童生徒及び職員の保健管理、学校における安全管理について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
11	生活習慣病・難病	がん、心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病、医学が進歩した現代においても治療法が確立しない難病について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
12	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーションの概念やその取り組み方について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
13	精神保健福祉	精神障がい者の人権尊重が重視され、こころの健康づくりが新たな課題となった精神保健福祉について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
14	産業保健	仕事によって生じる病気・健康障害を予防し、健康を増進する産業保健について予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
15	これからの公衆衛生	将来の社会を展望し、公衆衛生はいかにあるべきかについて予習し、授業で学んだ内容を教科書で再確認しておくこと	
成績評価方法と基準			割合
①筆記テスト ②小テスト			①筆記テスト 80%、②小テスト 20%

授業科目名	微生物検査学Ⅰ(検査)（Clinical Laboratory Microbiology Ⅰ）				
主担当教員	木下 承皓		担当教員	木下 承皓	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

微生物は人類と共存し生命活動に必須ですが、一方で人類の健康や生命を脅かす病原微生物による感染症を起こします。微生物検査は感染症の診断・治療に必須の検査で、細菌、真菌、寄生虫、ウイルスに分類されます。主に臨床的に重要な微生物の分類・形態、基本的な性状について解説し、その感染経路や予防法、患者検体の取り扱いに必要な滅菌・消毒の仕方について説明します。細菌の培養法、化学療法剤と問題となっている薬剤耐性菌について講義します。微生物感染のメカニズム、感染症の治療と感染対策、法律についても概説します。

到達目標

微生物の歴史と微生物の基本構造や性質・形態について理解します。
病原微生物の病原因子と感染症を起こす病態を理解します。
感染経路を理解し、必要な消毒・滅菌法および予防対策を説明できるようにする。
常在細菌叢を理解し、感染症との関連性を考えます。
基本的な顕微鏡的検査法・培養法・同定法について説明できるようにします。
化学療法薬について作用機序と特徴を理解し、薬剤耐性菌の重要性を考えます。
感染症で用いられる医学的用語（日和見感染、院内感染、敗血症、化学療法など）を理解し、患者さんに説明できるようにします。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

微生物名は学名で覚える必要があるため、普段から菌種名を書くようにする。
グラム染色による細菌分類を理解し説明できる。
感染症の診断に必要な微生物検査法の理論と実際を習得する。

教科書

「最新　臨床検査学講座　臨床微生物学」
医歯薬出版株式会社
編集／松本哲也

参考書

新・カラーアトラス微生物検査　山中喜代治／編集　医歯薬出版
医科ウイルス学　南山堂　高田賢藏

研究室／オフィスアワー

講義の日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	感染症・微生物学の歴史、微生物の分類	予習：細菌・真菌・原虫・ウイルスの理解 復習：教科書・配布資料	
2	細菌の形態と構造	予習：細菌の構造・配列と性状、形態 復習：教科書・配布資料	
3	細菌の代謝と発育	予習：細菌の発育、栄養要求、呼吸と発酵 復習：教科書・配布資料	
4	顕微鏡の種類と細菌の観察法・染色法	予習：顕微鏡による観察法、微生物の染色 復習：教科書・配布資料	
5	細菌の発育に必要な環境および栄養	予習：細菌の栄養素、培地の分類と成分 復習：教科書・配布資料	
6	細菌の培養法および集落観察・同定	予習：培地の種類と目的、培養法と集落観察 復習：教科書・配布資料	
7	微生物の遺伝・変異と遺伝子診断	予習：遺伝子の構成、形質転換、形質導入、接合、プラスミド、遺伝子診断 復習：教科書・配布資料	
8	滅菌および消毒	予習：滅菌・消毒の概念、消毒薬の種類と方法 復習：教科書・配布資料	

9	化学療法の概念と抗菌薬・抗ウイルス薬	予習：抗菌薬の種類と特徴、抗結核薬、抗ウイルス薬 復習：教科書・配布資料	
10	薬剤耐性菌、ワクチンの概念・種類	予習：細菌の薬剤耐性機序、ワクチン接種 復習：教科書・配布資料	
11	正常細菌叢の分布と感染	予習：正常細菌叢の概念、分布、役割 復習：教科書・配布資料	
12	病原性と抵抗力	予習：感染経路、感染因子、生体防御と免疫応答、菌交代現象、日和見感染 復習：教科書・配布資料	
13	標準予防策と感染経路予防策、バイオセーフティ	予習：各種感染症の感染経路と概念、新興・再興感染症、性感染症 復習：教科書・配布資料	
14	医療関連感染と感染制御チーム	予習：市中感染と院内感染、感染防止対策 復習：教科書・配布資料	
15	感染症関連法規、感染症法・食品衛生法等、まとめ	予習：感染症法と特定病原体、検疫法 復習：教科書・配布資料	
成績評価方法と基準			割合
1. 小テスト　30 点 2. 定期試験　70 点			1. 30% 2. 70%

授業科目名	生理機能検査学Ⅰ(検査)（Clinical Physiology Ⅰ）				
主担当教員	小宮山　恭弘		担当教員	小宮山　恭弘、脇　英彦	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生理機能検査学Ⅰは、診療等で行われている生理検査につき、測定装置、原理、測定方法、臨床的意義を学修する。生理検査機器を用いて被検者から生理的情報を取得・解析し、そのデータの臨床的意義を教授する。さらにそのデータを基に疾病の診断、治療に役立たせることを学修する。内容は、循環器系検査（心電図、心音図、脈波）、神経・筋機能検査（脳波、筋電図、神経伝導検査）、呼吸機能検査、聴覚・平衡検査、基礎代謝、眼底検査などである

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 生理機能検査の業務範囲と特徴を理解する。心臓の機能と心電図の基礎を理解する
2. 異常心電図（不整脈）の臨床的意義を理解する。
3. 異常心電図（心筋疾患）の臨床的意義を理解する。運動負荷心電図の臨床的意義を理解する。
4. ホルター心電図、ヒス束心電図、加算平均心電図の臨床的意義を理解する。
5. 心音図の臨床的意義を理解する。
6. 脈波の臨床的意義を理解する。
7. 脳波の臨床的意義を理解する。
8. 筋電図の臨床的意義を理解する。
9. 呼吸機能の臨床的意義を理解する。
10. 動脈血液ガス分析の臨床的意義を理解する。
11. 睡眠呼吸検査の臨床的意義を理解する。
12. 基礎代謝の検査の臨床的意義を理解する。
13. 聴覚検査の臨床的意義を理解する。
14. 平衡機能検査の臨床的意義を理解する。
15. 眼底検査の臨床的意義を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 医療人としての臨床検査技師の心構えを理解する。
2. 疾病と生理検査の関係を理解するように努める。
3. 各種測定法の原理を理解し、その臨床的意義を説明できるようにする。
4. 講義終了後のノート整理とまとめの作業で、生理検査の理解と確認が重要である。
5. 臨床検査データの読める臨床検査技師を目指す。

教科書

生理機能検査学　（臨床検査学講座）　東條　尚子　川良　徳弘著　　医師薬出版 ISBN978-4-163-22368-0

参考書

心電図を学ぶ人のために　医学書院　ISBN978-4-260-33381-8
臨床検査提要　第３４版　金原出版

研究室／オフィスアワー

小宮山恭弘研究室／　　月曜日　16：00-18：00　火曜日 16：00-18：00
脇　英彦研究室／　月曜日　16：00-18：00　火曜日 16：00-18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床検査技師等に関する法律で定義されている生理検査の業務範囲を理解する。心臓機能と心電図の成り立ちを理解する	予習：生理検査の種類を調べる 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇
2	異常心電図（不整脈）の心電図波形を理解する。	予習：不整脈の種類について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇
3	異常心電図（心筋疾患）の心電図波形を理解する。運動負荷試験臨床的意義を理解する。	予習：心筋梗塞、心筋炎について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
4	ホルター心電図、ヒス束心電図、加算平均心電図の臨床的意義を理解する。	予習：不整脈の種類について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇
5	心周期と心音の成り立ち、心雑音の性質、心疾患と心雑音について理解する。	予習：心臓弁膜症の概要について調べる 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇

6	脈波の臨床的意義（指尖容積脈波、足関節上腕血圧比、血管内皮機能検査）について理解する。	予習：動脈硬化の概要について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
7	脳波検査の臨床的意義、正常脳波、年齢による脳波の変化、異常脳波を示す疾患について理解する。	予習：脳の解剖生理について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
8	筋電図検査と誘発筋電図検査の臨床的意義と異常を示す疾患について理解する。	予習：　神経の解剖生理について調べる。 復習：　授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
9	呼吸機能検査の臨床的意義、肺気量分画、フローボリューム曲線について理解する。	予習：　換気機能について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
10	動脈血液ガス分析の臨床的意義を理解する。検体採取法と検体の取り扱いについて理解する。	予習：　酸塩基平衡について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇
11	睡眠呼吸検査の臨床的意義を理解する。睡眠ポリグラフ(PSG)について理解する。	予習：睡眠と呼吸生理について調べる 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
12	間接的熱量測定の臨床的意義を理解する。	予習：基礎代謝に影響を与える因子について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇
13	純音聴覚検査の臨床的意義を理解する。	予習：難聴の種類について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
14	重心動揺検査の臨床的意義を理解する。	予習：　平衡機能検査の検査前説明と注意点について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇
15	眼底検査・眼底撮影の臨床的意義を理解する。	予習：眼の構造と機能について調べる。 復習：授業内容をﾉｰﾄにまとめる。	脇　小宮山
成績評価方法と基準			割合
1．小テスト　　30 点 2．定期試験　70 点			1．30% 2．70%

臨床工学科

（2018 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	哲学(工学)（Philosophy）				
主担当教員	田中　美子		担当教員	田中　美子	
科目ナンバリング	LA018	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

「何のために生きるのか」をテーマに、「人生を支えるもの」を考えます。元気なときには人生について思い悩まない人でも、けがや病気をきっかけに、人生について考えるようになります。患者さんの思いに寄り添えることを目ざして、古今東西のさまざまな思想や宗教を、おもに講義形式で学びます。

到達目標

１．患者さんの悩み（「なぜ私はがんになったのでしょう」など）を、具体的に想像できる。〈DP③〉
２．（患者さんの立場に立ってみて）悩む自分を、さらにその外側から捉えられる。〈DP③〉
３．古今東西の哲学や宗教の概略を知る。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書は使用しません。ノートを用意してください。
授業の内容は、学生の希望を伺ったうえで、変更することがあります。

教科書

使用しない。

参考書

『生命科学ただいま講義中』　岡田安弘著　金芳堂　2016 年
『生きるための哲学』　岡田尊司著　河出文庫（河出書房新社）　2016 年
『がん哲学外来へようこそ』　樋野興夫著　新潮新書（新潮社）　2016 年
『死を迎える心構え』　加藤尚武著　ＰＨＰ研究所　2016 年
『出家的人生のすすめ』　佐々木閑著　集英社新書（集英社）　2015 年
『哲学の使い方』　鷲田清一著　岩波新書（岩波書店）　2014 年
『くじけそうな時の臨床哲学クリニック』　鷲田清一著　ちくま学芸文庫（筑摩書房）　2011 年
『4 コマ哲学教室』　南部ヤスヒロ・相原コージ著　イースト・プレス　2006 年

研究室／オフィスアワー

授業の前後に、質問等を受け付けます。
自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	哲学と他の学問とのちがい	ノートをまとめ直しましょう。	
2	仏教の「毒矢のたとえ」	初期仏教思想について調べて、ノートにまとめておきましょう。	
3	「確かなものは何もない」という確かさ	「諸行無常」や「ニヒリズム」（ニーチェ）について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
4	死ぬために生きられるか	ハイデガーの哲学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
5	悩まない「物」になりたいか	サルトルの哲学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
6	つらい気持を、はき出してみる	フロイトの心理学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
7	表現することで救われる	ユングの心理学について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
8	なぜ病室に千羽鶴があるのか	千羽鶴に込められた意味を知り、他の日本の伝統文化についても調べてみましょう。	
9	東洋的アイデンティティ	仏教の「無我」、西田幾多郎の哲学（「矛盾的自己同一」がキーワード）、和辻哲郎の倫理学（「間柄」がキーワード）などについて調べ、ノートにまとめておきましょう。	
10	がんに期待されているとしたら	東洋思想を応用し、「私が」けがや病気をなんとかするのではなく、「けがや病気が」私に何を期待しているのか等と、発想を転換して考えてみましょう。	
11	「がん哲学外来」という試み	授業の内容と併せて、自分の考えもノートにまとめておきましょう。	
12	イスラームについて知ろう	イスラーム（イスラム教）について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
13	正義の味方はだれの味方か	正義論について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
14	たんなる手段ではなく目的としての人間	カントの哲学やその背景のキリスト教について調べ、ノートにまとめておきましょう。	
15	ケース・スタディとディスカッション	けがをした人や病気になった人の気持ちを想像して、目に見えない大切なものについて考えてみましょう。	

成績評価方法と基準	割合
①毎授業の「振り返り（ミニレポート）」。〈DP③〉 授業の内容が反映されていること。 ②学期末の「レポート」。〈DP③〉 調べた内容が客観的にまとめられていること。 自分の考察が書かれていること。	①約 50% ②約 50%

授業科目名	英会話(工学) (English Conversation)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA021	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本授業では、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話力を身につける。

到達目標

・自己紹介ができる。〈DP②〉
・最低限の日常会話ができる。〈DP②〉
・自分の考えを最低限伝えることができる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Common Verb-based Phrases: 基本動詞を用いた実用英語表現 (Yoshinori Tomoshige, Mark Taylor 著、南雲堂, 2017)、Expressions for Everyday Actions: 日常動作を表す英語表現 (Hidehiko Konaka 著、南雲堂, 2019)

参考書

英和・和英辞典

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 22 / 木曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Getting to know each other	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Introducing yourself	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Talking about interests	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Talking about family	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Talking about people	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	Talking about work	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Talking about past experiences	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Talking about other countries	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Talking about places	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Talkin about Japanese things	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Talking about future events	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Talking about school	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Talking about health	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Tallk, talk, talk! You can talk about anything all in English.	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review and oral exam	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①口頭試問〈DP②〉 ②授業参加態度〈DP②〉 ③その他プレゼンテーションや課題など〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	①30% ②40% ③30%

授業科目名	医学英語(工学)（English for Medicine）				
主担当教員	長尾　晋宏		担当教員	長尾　晋宏	
科目ナンバリング	LA022	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。
将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。

到達目標

最低限患者とコミュニケーションがとれる。
最低限の医学用語が理解できる。
医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。
携帯電話の使用、私語は慎むこと。

教科書

実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Medical terminology / Getting to know the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Getting to know the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Getting to know the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Getting to know the patients 4	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Examination 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	Examination 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
7	Instructing medication	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Treating the patients 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Treating the patients 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Treating the patients 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Operation / Pubmed について、論文の構成について	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Pregnancy / Articles on Medical Engineering 1	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	In the hospital / Articles on Medical Engineering 2	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Emergencies / Articles on Medical Engineering 3	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Living a healthy life / Review	次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
小テスト プレゼンテーションおよびその他課題 授業参加態度 2/3 回以上の出席が必要。	30% 40% 30%

授業科目名	基礎英語演習(工学)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA023	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。<DP②>
TOEIC500 点相当の英語力を身に着ける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	品詞①：名詞（可算名詞・不可算名詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 2 Dining Out	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	品詞②：形容詞（名詞修飾、補語）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 3 Media	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	品詞③：副詞（動詞・形容詞修飾）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 4 Entertainment	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	
		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	時制（現在・過去・未来・現在進行形）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Unit 5 Purchasing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	3 単現の s（修飾語句を伴う主語）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 6 Clients	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	能動態・受動態（感情を表す表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 7 Recruiting	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	動詞の後ろの動名詞・不定詞（前置詞の後ろの動名詞、定型表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト<DP②> ②その他課題・授業態度・参加<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②60%

授業科目名	応用英語演習(工学)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA024	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

文法、語彙、表現を徹底的に習得する。〈DP②〉
TOEIC550 点相当程度の英語力を身に着ける。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)
（前期に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 8 Personnel	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	代名詞（主格・所有格・目的格・所有代名詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 9 Advertising	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	比較（比較級、最上級、as ... as）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 10 Meetings	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	前置詞（理由・譲歩・時、定型表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 11 Finance	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	
		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	接続詞（理由・譲歩・時）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Unit 12 Offices	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	前置詞・接続詞対比	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 13 Daily Life	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	関係代名詞（主格・所有格・目的格）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①（名詞・形容詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Unit 15 Events 語彙②（動詞・副詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト〈DP②〉 ②その他課題・授業態度・参加〈DP②〉 ③Review Test〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②20% ③40%

授業科目名	健康管理学Ⅰ(工学)（Healthcare Management Ⅰ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病の危険因子が明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方の条件（強度・時間・頻度）に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウオーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。

到達目標

1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません。

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村慎一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	健康管理について　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	生活習慣病と運動　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	生活習慣病と運動　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	生活習慣病と運動　3	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	トレーニングの基礎知識	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	全身持久力トレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	筋持久力・筋力トレーニングについて　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	筋持久力・筋力トレーニングについて　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	パワートレーニングについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	トレーニングでの注意点　1 ウォームアップとウォームダウン　1	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	トレーニングでの注意点　2 ウォームアップとウォームダウン　2	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	トレーニングでの注意点　3 オーバーエクササイズによる身体的の問題	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	トレーニングでの注意点　4 障害を予防するためのアイシング	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 ・全授業のうち 2/3 以上の出席が必要	①70% ②30%

授業科目名	健康管理学Ⅱ(工学)（Healthcare Management Ⅱ）				
主担当教員	伊黒　浩二		担当教員	伊黒　浩二	
科目ナンバリング	CS023	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきている。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモ―ティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。

到達目標

1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①寝ない　②喋らない　③内職しない　④スマホを触らない
以上のルールを守って熱心に学習して下さい。

教科書

特にありません

参考書

健康・スポーツ科学の基礎（出村慎一監修・杏林書院）
健康・スポーツ科学テキスト　トレーニング科学（北川薫編集・文光堂）
特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル（佐藤祐造編集・文光堂）、他

研究室／オフィスアワー

授業開始前は非常勤講師室にいます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理について　１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	健康管理について　２	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	中高年者の身体的特徴と運動　１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	骨粗鬆症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	変形性関節症と運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	生活習慣病と運動　１ メタボリックシンドローム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	生活習慣病と運動　２ 高血圧症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	生活習慣病と運動　３ 糖尿病	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	生活習慣病と運動　４ 高脂血症	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	生活習慣病と運動　５ 虚血性心疾患	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	有酸素エクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	レジスタンスエクササイズについて	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	ウォームアップとウォームダウンについて１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	ウォームアップとウォームダウンについて２	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
15	講義全体のまとめ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験 ②授業ごとの小テスト・課題提出 授業の 2/3 回以上の出席が必要	①70% ②30%

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(工学)（Team Medical Care and Communication）				
主担当教員	藤江　建朗		担当教員	藤江　建朗	
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

現代の医療は，高度化と細分化により各専門職種は互いに連携しチームとして治療に携わることが必然となっている．また，厚生労働省の在宅医療推進により，臨床工学技士も在宅医療チームに参加しはじめており，臨床工学技士が携わるチーム医療の規模は膨らみつつある．それらの現状を踏まえ，本科目ではチーム医療に携わる医療・保健・福祉分野の各職種の役割を理解し，臨床工学技士の専門性とチーム医療内での役割について理解する．また，チーム医療に参加するためのコミュニケーション能力についても深く考え，基盤となる聞く・表現する・話し合うの３技法について理解する．

到達目標

1.　チーム医療の意義と必要性について理解し説明ができる．＜DP2-3＞
2.　臨床工学技士の役割について理解し説明ができる．＜DP2-3＞
3.　チーム医療内での各職種の役割について理解することができる．＜DP3＞
4.　チーム医療を実践するためのコミュニケーション能力について理解し習得できる．＜DP2-3＞
　　（具体的には，他者の立場や意見を理解し，自らの意見を表現することができる）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.　チーム医療は，特別なものではなく，院内で当然のように行われている日常的なものです．チーム医療がもたらす効果について認識してください．
2.　授業以外でも，提示してある参考書にも目を通してみてください．
3.　チーム医療に関心を寄せ，将来のあなた自身の臨床工学技士観について考えてみてください．
4.　授業中は適宜，グループワークを行います．限られた時間内に意見をまとめ，どのようにしてグループ内の意見を作り上げればよいか考えてみてください．

教科書

適時資料を配布します．

参考書

1.　福原麻希：チーム医療を成功させる10か条―現場に学ぶチームメンバーの心得．中山書店．
2.　水本清久他編：実践チーム医療論．医歯薬出版．
3.　東京慈恵会医科大学付属病院　看護部・医療安全管理部編著：TeamSTEPPS を活用したヒューマンエラー防止策．日本看護協会出版会．

研究室／オフィスアワー

在席していれば，いつでも対応可
水曜日は大学不在日で対応できません．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	本科目のガイダンス チーム医療のとは何か，意義と必要性について	予習： チーム医療とは何かについて調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容１で学んだ事をまとめる．(1時間)	
2	臨床工学技士の誕生と役割について	予習： 臨床工学技士とは何をする職種なのか調べる．(1時間) 復習： 学修内容２で学んだ事をまとめる．(1時間)	
3	チーム医療に関わる医療職について①	予習： チーム医療とは何かについて調べる．(1時間) 復習： 学修内容３で学んだ事をまとめる．(1時間)	
4	チーム医療に関わる医療職について②	予習： チーム医療に関わる職種について調べる．(1時間) 復習： 学修内容４で学んだ事をまとめる．(1時間)	
5	チーム医療と医療倫理	予習： チーム医療の種類について調べてくる．(1時間)	
6	各チーム医療と臨床工学技士の関わり方	予習： チーム医療に臨床工学技士がどう関わっているか調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容６で学んだ事をまとめる．(1時間)	
7	患者の心理とキーパーソンの心理について	予習： 患者・キーパーソンとは何か，調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容７で学んだ事をまとめる．(1時間)	
8	”聞く”について考える	予習： 傾聴とは何かについて調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容８で学んだ事をまとめる．(1時間)	
9	”表現する”について考える	予習： 発言するとは何かについて調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容９で学んだ事をまとめる．(1時間)	
10	”話し合う”について考える	予習： ディスカッションとは何か調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容10で学んだ事をまとめる．(1時間)	
11	アンガーマネジメントについて	予習： なぜ人は怒ってしまうのかについて調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容11で学んだ事をまとめる．(1時間)	
12	医療事故とコミュニケーション①	予習： 医療事故とは何かについて調べてくる．(1時間) 復習： 学修内容12で学んだ事をまとめる．(1時間)	
13	医療事故とコミュニケーション②	復習： 学修内容13で学んだ事をまとめる．(2時間)	
14	臨床工学技士としてチーム医療に参加する手法を学ぶ	予習： 今までの学修内容を復習する．(2時間)	
15	チーム医療とコミュニケーションのまとめ	期末試験対策として 30 時間を費やし，自身の臨床工学技士会についてまとめる．	

成績評価方法と基準	割合
1.　授業参加度＜DP2-3＞ 2.　定期試験＜DP2-3＞	1.　30% 2.　70%

授業科目名	身体運動科学(工学)（Science of Human Body Movement）				
主担当教員	外林　大輔		担当教員	外林　大輔	
科目ナンバリング	CS025	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて学び、身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニングや栄養との関連性について学ぶ。

到達目標

運動がもたらす身体への生理学的意義について、これまで学習してきた生理学や解剖学をベースに学ぶことで、改めて基礎医学の重要さを理解し、資格取得後の現場に活かせる知識と考え方を身に付ける。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

最新のデータや知見を踏まえて講義を進めます。できるだけ学生さんたちに興味を持ってもらいので、講義中のディスカッションや講義に対する内容の要望などありましたら、遠慮なくお寄せください。

教科書

授業時に配布するプリント

参考書

改訂版 運動生理学の基礎と発展（春日規克著・フリースペース）
運動生理学のニューエビデンス（宮村実晴著・真興交易医書出版）

研究室／オフィスアワー

大学の講義時は非常勤講師室におります。それ以外の時間帯に質問などがありましたら、メールで連絡してください。
sotobayashi@morinomiya.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	身体運動科学の概要	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動と筋・骨格①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	運動と筋・骨格②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	ストレングス＆コンディショニング	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	柔軟性の科学①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	柔軟性の科学②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動と循環①	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動と循環②	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	運動と呼吸	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	運動と免疫	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	運動と栄養	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	運動と食生活	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	フィジカルチェック	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	脳振盪	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
15	講義全体のまとめ・試験対策	＜予習・復習 各２時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

成績評価方法と基準	割合
1.授業の３分の２以上の出席が必要です。 2.期末テスト 60 点以上で単位認定とします。〈DP③〉	①100%

授業科目名	東洋医療概論(工学)				
主担当教員	横山　浩之		担当教員	横山　浩之	
科目ナンバリング	CS028	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。

到達目標

下記の内容の概要を理解する。
１．東洋医学の分野を理解する。
２．東洋医学の基本的思考法を理解する。
３．東洋医学が身近なものであることを認識する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．東洋医学の用語に慣れること。
２．全ての授業に出席すること。
３．できれば、自分のノートをつくること。

教科書

なし

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、東洋医学とは この講義を学習することの意味を説明できる	復習：授業の振返り	
2	東洋医学の分野	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
3	陰陽・五行	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
4	臓腑経絡(1)	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
5	臓腑経絡(2)	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
6	診察	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
7	鍼灸治療	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
8	漢方治療	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
9	手技療法	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
10	中医学	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
11	東洋医学の歴史	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
12	東洋医学の特徴	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
13	家庭における東洋医学	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
14	東洋医学と民間療法	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	
15	東洋医学の将来と課題	予習：前回の授業を振返っておくこと 復習：授業の振返り	

成績評価方法と基準	割合
【評価の配点】 １．出席・授業態度 ２．レポート提出 ＊詳細は授業内で告知する DP②③	 1.40% 2.60%

授業科目名	統合医療概論(工学)（Introduction to Integrative Medicine）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、増山 祥子、森 美侑紀	
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜１限 月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素であるEBMと補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。

到達目標

１．統合医療の概念と現状について理解する。
２．EBMの概念と手法について理解する。
３．補完代替医療の種類と概要について説明できる。
４．各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。

教科書

資料を配布する。

参考書

各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟24研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM	EBMについて調べる	山下
3	EBMシミュレーション	自分の専門領域のエビデンスについて調べる	増山
4	EBMと診療ガイドライン	自分の専門領域または興味のある疾患の診療ガイドラインを調べる	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	利益相反状態と利益相反行為の違いについて調べる	山下
6	補完代替医療概論	代替医療と補完医療の違いについて調べる	山下
7	代表的な補完代替療法	自分が興味のある補完代替療法についてネットや図書館で調べる	山下
8	鍼灸と経穴	鍼灸に関する書籍や雑誌を図書館で調べる	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
11	ヨガ・マインドフルネス	ヨガ・マインドフルネスに関するネット動画を見る	増山
12	サプリメント	興味のあるサプリメントを幾つか選んでその広告の内容に関する疑問点を調べる	山下
13	統合医療とスピリチュアルとNBM	スピリチュアルという概念について調べる	山下
14	緩和ケア・難病ケアと統合医療	末期がんまたは難病の患者の実情について調べる	増山
15	総括：統合医療は何を統合するのか	14回までに習った内容を整理する	山下

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験 ②課題提出物	①70% ②30%

授業科目名	IPW 論(工学)（Inter-Professional Work）				
主担当教員	藤江　建朗		担当教員	藤江　建朗、山下　仁、増山　祥子、大川　祐世、中根　征也、吉村　弥須子、関根　将、西垣　孝行、小林　貴代	
科目ナンバリング	CS029	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 3 限 水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

各学科において、他学科の連携や知識・技術に触れることを目的に看護学・鍼灸学・作業療法学、臨床検査学および理学療法学を学び、IPW（Interprofessional Work = 専門職連携）を 5 学科協働で演習形式にて実践する。
　各分野の特徴やチーム内での役割とその専門性を学び、その上で看護、鍼灸、作業療法、臨床検査、理学療法の各分野で共通する疾患や障害を基に、IPW の実際について、討議・経験・学修する。（オムニバス形式／全 15 回）

到達目標

各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理
観を養う。<DP②③④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。
2）疑問点を大切にして常に自己で調べて解決するように行動すること。
3）出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。

教科書

資料を配布あり

参考書

各自準備すること

研究室／オフィスアワー

在席していれば，いつでも対応可
水曜日は大学不在日で対応できません.

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療系職種の理解①（鍼灸学） 到達目標 　看護の定義、看護の対象（個人・家族・集団）を共通 理解し、チーム医療における看護の役割について説 明できる。	予習：本学鍼灸学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：鍼灸の専門性を理解し、理学療法との接点を理 解しておく。	山下・増山・大川
2	医療系職種の理解②（作業療法学）	予習：本学作業療法学科のカリキュラムに目を通して おく。 復習：作業療法の専門性を理解し、理学療法との接 点を理解しておく。	小林　貴代
3	医療系職種の理解③（理学療法学）	予習：本学理学療法学科のカリキュラムに目を通して おく。 復習：理学療法の専門性を理解し、臨床工学との接 点を理解しておく。	中根　征也
4	医療系職種の理解④（臨床検査学）	予習：本学臨床検査学科のカリキュラムに目を通して おく。 復習：臨床検査の専門性を理解し、理学療法との接 点を理解しておく。	関根　将
5	医療系職種の理解⑤（看護学） 到達目標 　看護の定義、看護の対象（個人・家族・集団）を共通 理解し、チーム医療における看護の役割について説 明できる。	予習：本学看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：看護の専門性を理解し、理学療法との接点を理 解しておく。	吉村　弥須子
6	チーム医療の実際 （各学科教員による Case Conference）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：デモンストレーションを通じ、各分野と理学療法 の役割を理解する。	全学科教員
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察①	予習：臨床工学技士の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	学科担当教員
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察②	予習：臨床工学技士の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	学科担当教員
9	提示症例におけるアプローチ立案とその考察③	予習：臨床工学技士の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	学科担当教員
10	提示症例におけるアプローチ立案とその考察④	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	学科担当教員
11	IPW①（11 回～14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	全学科教員
12	IPW②（11 回～14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	全学科教員
13	IPW③（11 回～14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	全学科教員
14	IPW④（11 回～14 回は 4 コマ連続） プレゼンテーション	予習：IPW で討議したことをまとめる。 復習：プレゼンテーションの準備。	全学科教員
15	IPW⑤プレゼンテーションと振り返り	予習：プレゼンテーションの準備。 復習：IPW や発表で得たことをまとめておく。	全学科教員

成績評価方法と基準	割合
①レポート <DP②③④> ②【IPW】プレゼンテーション（提示するルーブリックに基づき表価する） <DP②③④> 出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う	①40% ②60%

授業科目名	病理学(工学)（Pathology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング	SB108	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患を中心に、その病因や成り立ち、病態を理解できるよう、さまざまな疾患についての詳細な説明と演習を行う。

到達目標

学生が将来臨床の現場に立つ時に目の当たりにする疾患について、その病因や成り立ち、病態を把握し　＜DP①＞　理解できる。＜DP②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

病理学の専門用語やいろいろな病態に対する概念は、他の医学分野でも共通に用いるものである。それらをしっかりと理解し、自らも用いることができ、かつ的確に表現できなければならない。そのためにはそれらを確実に理解し、記憶に留めておかなければならない。

教科書

疾病のなりたちと回復の促進１　病理学　　医学書院

参考書

「新病理学（Ｑシリーズ）」　日本医事新報社

研究室／オフィスアワー

火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室 1

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学の概要	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	病因論	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	退行性病変	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	進行性病変	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	循環障害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	免疫	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	炎症	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	感染症	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	腫瘍	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	腫瘍２	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	放射線障害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	老化	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	先天異常	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	総論のまとめと振り返り１	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	総論のまとめと振り返り２	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　＜DP①・②＞	1　100%

授業科目名	免疫学(工学) (Immunology studies)				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
臨床工学技士に求められる免疫学を体系的に学習する。
到達目標
臨床の現場で必要とされる免疫学的知識が得られる。　＜DP①・②＞　国家試験で出題される免疫学的知識を理解することができる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
はじめて聞く用語や概念が続々と出てくるため、予習復習は欠かせない。
教科書
「図説 免疫学入門」　　東京化学同人
参考書
「免疫生物学」　南江堂
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室 1
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	免疫に基本構造	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	自然免疫	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	獲得免疫	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	抗原レセプター	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	抗原提示	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	リンパ球の分化	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	抗体の構造と種類	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	抗体遺伝子再構成	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	サイトカインの機能	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	免疫不全	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	アレルギーの分類１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	アレルギーの分類２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	移植免疫	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	自己免疫疾患	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	腫瘍免疫	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　＜DP①・②＞	1　100%

授業科目名	薬理学(工学)（Pharmacology）				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SB110	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

疾病の治療や予防に用いられる薬物に関する基本的な知識を修得することで、薬物を用いた医療行為の円滑な実践と、薬物による医療事故の防止を行う能力を身につける。

到達目標

１．主要な薬物の作用機序を理解する。
２．主要な薬物の主な作用と重篤な副作用についての知識を得る。
３．薬物の適正な使い方を、事例を通して理解する。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。
３）練習問題について：第十四回目の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。

教科書

カラーイラストで学ぶ　集中講義　薬理学　改訂２版
ISBN978-4-7583-0096-4

参考書

NEW 薬理学改訂第７版
ISBN：978-4-524-26175-8

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（C棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	薬理学序論	予習：人体の機能・人体の構造 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
2	臨床薬理学	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
3	麻酔薬・鎮痛薬（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
4	麻酔薬・鎮痛薬（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
5	麻酔薬・鎮痛薬（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
6	麻酔薬・鎮痛薬（４）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
7	循環薬理（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
8	循環薬理（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
9	循環薬理（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
10	腎臓・呼吸薬理	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
11	抗凝固薬	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
12	抗感染症薬（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
13	抗感染症薬（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
14	抗感染症薬（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、練習問題を解く時間を要する）	
15	総復習	予習：練習問題 復習：第１～１５回講義 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、定期試験準備の必要がある）	

成績評価方法と基準	割合
期末定期試験（マークシート式）DP①④	100%

授業科目名	看護学概論(工学) (Introduction to Nursing)				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子	
科目ナンバリング	SB111	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

医療を目指す者としてまた質の高い多職種連携を行なうためには、共に協働する専門職者がそれぞれの役割や必要な能力を理解することは重要である。本講義では、国民の健康や生活に着目し、健康とは何か、看護の対象は誰なのか、看護の目的や方法など実践的学問としての看護について全体像を概観する。また、医療事故など医療安全や倫理、施策についても考えていく。

到達目標

1.　国民の健康・生活の全体像を把握できる。(DP①)
2.　人間の基本的欲求と日常生活の関連が理解できる。(DP①)
3.　健康とは何か、看護の対象と家族について理解できる。(DP①)
4.　看護とは何か,、看護の役割と機能について理解できる。(DP①)
5.　倫理、医療安全・施策について理解できる。(DP①②)
6.　看護活動について理解できる。(DP①②)
7.　看護実践について理解できる。(DP①②)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.　　身近な経験を通して看護を考えてみる
2.　専門職を目指す者として看護について理解する
3.　　講義資料は配布するためよく読んでおく
4.　他職種連携について自己の役割について考えてみる

教科書

使用しない

参考書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護学①　看護学概論　医学書院

研究室／オフィスアワー

WP432　　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科ガイダンス 国民の健康と生活の全体像の把握① 健康とは何か、障害とは何か、生活と健康	予習１時間：人間にとっての健康、障害とは何かについて調べておく 復習１時間：国民の健康と生活、障害、生活と健康について、講義内容も含めて自己学習する	伊津美孝子
2	国民の健康と生活の全体像の把握② ライフサイクルと健康・生活について	予習１時間：人間のライフサイクルについて 復習１時間：人間のライフサイクルと健康・生活について自己の生活を想起し考察する(課題については指示する)	伊津美孝子
3	人間の基本的欲求と日常生活	予習２時間：人間の基本的欲求について V.Henderson について調べる	伊津美孝子
4	看護とは何か	予習１時間：看護とは何かについて調べてみる	伊津美孝子
5	看護の対象の理解 家族とは何か	予習１時間：看護の対象、家族について調べてみる	伊津美孝子
6	倫理,、医療事故と安全	予習１時間：現代社会と倫理について 過去の医療事故の事例を調べ、 考察する	伊津美孝子
7	看護提供のしくみ	予習１時間：看護提供のしくについて調べてみる	伊津美孝子
8	看護活動	予習(1時間)：看護の活動領域について 提出課題作成、論文抄読、整理 (4時間)	伊津美孝子

成績評価方法と基準	割合
1. 課題レポート「看護学概論を学修して考えたこと」、副題は自分でつける(DP①②) 評価基準:論旨の一貫性、よく調べている、根拠のある主張、本人の主張、文章の推敲 詳細については、別途指示する	1. 80%
2. 課題提出状況	2. 20%
3. 2/3以上の出席が必要	

授業科目名	基礎医学実習(工学 A)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、西垣　孝行、布江田　友理	
科目ナンバリング	SB112	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 2 限 月曜 3 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

①生理機能を測定し、測定法やその技術を学び、 得られた結果からその生理学的意義について理解する。
②生体構成主要成分である糖質・脂質・タンパク質・核酸について、それぞれ の構造・性質・代謝を、実習を通して理解する。

到達目標

①生体の働きについてのメカニズムの基本的事項を，人体構造学の知識を基盤に人体の生理機能を理解させる事を目標とする。＜DP①②＞
②生物体を構成する物質の構造、性質、機能、分布、存在状態などを学び、物質の示す生物学的機能と化学構造との関係や生命現象における意義について理解することを目的とする。＜DP①②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。

教科書

オリエンテーション時に実習書を配布します。

参考書

1 年及び 2 年前期までに開講された人体の構造、人体の機能、生化学及び病理学の教科書・講義資料

研究室／オフィスアワー

各実習担当のオフィスアワー

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床工学科担当教員カンファレンス（実習書の説明、履修方法について）	予習：シラバスの確認 復習：実習書の熟読・実習準備 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
2	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
3	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
4	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
5	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
6	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
7	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
8	臨床検査学科担当教員カンファレンス（実習書の説明、履修方法について）	予習：シラバスの確認 復習：実習書の熟読・実習準備 予習（30 分）と復習（30 分）を行う。	脇
9	【生理機能実習】（超音波診断装置の講義・実習）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	脇
10	【生化学実習】（糖質：グルコース測定）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	森、　小林
		1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	
11	【生化学実習】（蛋白質：総蛋白測定）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	森、　小林
12	【生化学実習】（脂質：中性脂肪測定）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	森、　小林
13	【生化学実習】(非蛋白性窒素：クレアチニン測定)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	森、　小林
14	【病理学実習】（組織標本の顕微鏡観察）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	川畑
15	授業全体のまとめ	予習：レポート作成 復習：本講義総まとめ 1 時間予習・復習(レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田

成績評価方法と基準	割合
各実習に対してレポート提出は必須である。 【臨床工学科教員】 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など）＜DP①②＞ ②課題評価（レポート提出、内容など）＜DP①②＞ 【臨床検査学科教員】 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など）＜DP①②＞ ②課題評価（レポート提出、内容など）＜DP①②＞ 出席基準：4/5 以上	【臨床工学科教員】 ①30% ②20% 【臨床検査学科教員】 ①30% ②20%

授業科目名	基礎医学実習(工学 B)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、西垣　孝行、布江田　友理	
科目ナンバリング	SB112	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 2 限 月曜 3 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

①生理機能を測定し、測定法やその技術を学び、 得られた結果からその生理学的意義について理解する。
②生体構成主要成分である糖質・脂質・タンパク質・核酸について、それぞれ の構造・性質・代謝を、実習を通して理解する。

到達目標

①生体の働きについてのメカニズムの基本的事項を，人体構造学の知識を基盤に人体の生理機能を理解させる事を目標とする。＜DP①②＞
②生物体を構成する物質の構造、性質、機能、分布、存在状態などを学び、物質の示す生物学的機能と化学構造との関係や生命現象における意義について理解することを目的とする。＜DP①②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。

教科書

オリエンテーション時に実習書を配布します。

参考書

1 年及び 2 年前期までに開講された人体の構造、人体の機能、生化学及び病理学の教科書・講義資料

研究室／オフィスアワー

各実習担当のオフィスアワー

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床工学科担当教員カンファレンス（実習書の説明、履修方法について）	予習：シラバスの確認 復習：実習書の熟読・実習準備 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
2	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
3	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
4	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
5	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
6	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
7	【生理機能実習】(心臓・循環・呼吸機能の演習・実習)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田
8	臨床検査学科担当教員カンファレンス（実習書の説明、履修方法について）	予習：シラバスの確認 復習：実習書の熟読・実習準備 予習（30 分）と復習（30 分）を行う。	脇
9	【生理機能実習】（超音波診断装置の講義・実習）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	脇
10	【生化学実習】（糖質：グルコース測定）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成	森、　小林
		1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	
11	【生化学実習】（蛋白質：総蛋白測定）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	森、　小林
12	【生化学実習】（脂質：中性脂肪測定）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	森、　小林
13	【生化学実習】(非蛋白性窒素：クレアチニン測定)	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	森、　小林
14	【病理学実習】（組織標本の顕微鏡観察）	予習：実習書の熟読・実習準備 復習：レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	川畑
15	授業全体のまとめ	予習：レポート作成 復習：本講義総まとめ 1 時間予習・復習(レポート含む）を行う。	片山、西垣、布江田

成績評価方法と基準	割合
各実習に対してレポート提出は必須である。 【臨床工学科教員】 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など）＜DP①②＞ ②課題評価（レポート提出、内容など）＜DP①②＞ 【臨床検査学科教員】 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など）＜DP①②＞ ②課題評価（レポート提出、内容など）＜DP①②＞ 出席基準：4/5 以上	【臨床工学科教員】 ①30% ②20% 【臨床検査学科教員】 ①30% ②20%

授業科目名	応用数学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング	SB115	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床工学技士の国家試験や在学中に受験可能な第２種 ME 検定、更には臨床工学技士となってからも各種認定試験の資格取得では多くの計算問題が出題される。この講義では、微分方程式の数学的解法やラプラス変換による解法任意について学習し、実際の現象に数学を適用する応用力を身につける。

到達目標

①電気工学で必要となる三角関数、指数関数、対数関数について復習する。〈DP①〉
②複素数を使った交流の表記法及び周波数特性について理解する。〈DP①〉
③必要とされる微分・積分の具体的な計算を体得し、過渡特性と微分方程式との関係を理解する。〈DP①〉
④微分方程式を解析する手法としてのラプラス変換を理解する。〈DP①〉
⑤周期関数としての任意の波形を数学的に表記するフーリエ級数についても理解する。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義内容に従って、理解を深めるための演習を行うので、復習を忘れないように行い、講義内容で分かったことと分からないことを明確にし、分からないことは質問すること。

教科書

使用しない
講義毎に問題と資料を配布

参考書

電気工学・電子工学の教科書、参考書
「基礎科学のための数学的手法」、小田垣孝著、裳華房

研究室／オフィスアワー

南棟７階研究室 21／電気がついていれば在室です。質問があればいつでもどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【指数と対数】（指数と対数は、臨床工学分野では必須の概念であり、電気工学での指数と対数を理解し応用できる。）	予習：(1 時間)数学演習の資料の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
2	【複素数と三角関数（１）】（複素数について復習し、三角関数との関係を説明できる。）	予習：(1 時間)数学演習の資料の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
3	【複素数と三角関数（２）】（複素数について習をし、三角関数との関係を説明できる。）	予習：(1 時間)複素空間の予習 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
4	【微分法（１）】（電気回路において用いられる微分を理解し、微分法を応用できる。）	予習：(1 時間)数学演習の資料と電気回路の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
5	【微分法（２）】（電気回路において用いられる微分を理解し、微分法を応用できる。）	予習：(1 時間)数学演習の資料と電気回路の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
6	【積分法（１）】（電気回路において用いられる積分を理解し、積分法を応用できる。）	予習：(1 時間)数学演習の資料と電気回路の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
7	【積分法（２）】（電気回路において用いられる積分を理解し、積分法を応用できる。）	予習：(1 時間)数学演習の資料と電気回路の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
8	【微分方程式（１）】（微分方程式を解くことで過渡現象を理解し、時定数を説明できる。）	予習：(1 時間)微分法・積分法の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
9	【微分方程式（２）】（微分方程式を解くことで過渡現象を理解し、時定数を説明できる。）	予習：(1 時間)微分法・積分法の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
10	【ラプラス変換（１）】（微分方程式をラプラス変換で解き、システム制御を説明できる。）	予習：(1 時間)微分方程式の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
11	【ラプラス変換（２）】（微分方程式をラプラス変換で解き、システム制御を説明できる。）	予習：(1 時間)微分方程式の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
12	【周波数応答（１）】（電気回路において用いられる周波数特性を理解し、周波数応答に応用する。）	予習：(1 時間)電気回路の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
13	【周波数応答（２）】（電気回路において用いられる周波数特性を理解し、周波数応答に応用する。）	予習：(1 時間)電気回路の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
14	【周波数応答（３）】（電気回路において用いられる周波数特性を理解し、周波数応答に応用する。）	予習：(1 時間)電気回路の確認 復習：(1 時間)テスト・課題内容の確認	片山
15	授業全体のまとめ	予習：(2 時間)使用した全問題の確認 復習：(2 時間)使用した全問題の復習	片山

成績評価方法と基準	割合
成績評価の種別：1.筆記試験、2.小テスト、3.平常点(問題演習への取り組み等)〈DP①〉 成績評価の基準：筆記試験、小テスト、平常点を総合して評価し、60 点以上を可とする 出席基準：2/3 回	1.60% 2.20% 3.20%

授業科目名	応用物理学(工学)				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング	SB116	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

医療機器を扱う臨床工学技士は，生体計測や治療において，エネルギーの生体への作用を安全かつ効果的に行うために，人体生理の機序や医用機器の動作原理を熟知している必要がある．そのための基礎となる科目が物理学や電気工学である．物理学を学ぶ目的の一つは，少数の原理を用いて多様な現象を理解・説明するという，理学・工学的思考法を習得することである．応用物理学では，物理学や電気工学など，これまでに学んだ基礎科目と生体現象や医療機器とがどのように関係しているかを理解し，説明できるようにすることを目標とする．

到達目標

1. 基本単位，組立単位について理解し，説明することができる
2. 簡単な運動，電気回路について微分方程式を立て，解くことができる
3. ポンプの原理について理解し，説明することができる
4. 生体計測に必要なフィルタ回路について理解し，説明することができる
5. 除細動器の原理について理解し，説明することができる
6. 音波に関する特性について理解し，説明することができる
7. 光に関する特性について理解し，説明することができる
8. 放射線，X 線に関する特性について理解し，説明することができる
9. 熱に関する特性について理解し，説明することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回，講義内容に関連した演習問題を配付する．演習問題を用いて復習をしっかりすること．理解が不十分な項目については早めに対応し，理解できるように努力すること．

教科書

使用しない．毎回，資料を配付する．

参考書

必要に応じて参考書を紹介する．

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは原則として木曜日 1 時限とするが，質問等は随時受け付ける．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明，物理の基礎に関する小テスト	復習：小テストの復習（2 時間）	稲田
2	基本単位，組立単位，次元解析，接頭辞	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
3	三角関数，微分方程式	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
4	等速運動，等加速度運動	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
5	微分方程式の立て方	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
6	微分方程式の解き方	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
7	単振動	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
8	円運動，遠心ポンプ	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
9	電気工学（フィルタ回路）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
10	電気工学（除細動器の原理）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
11	波（音波，ドップラー効果，衝撃波）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
12	光（屈折，反射）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
13	放射線，X 線	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
14	熱（比熱，熱伝導，熱膨張）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容，全演習問題の確認（0.5 時間） 復習：全講義内容，全演習問題の復習（2 時間）	稲田

成績評価方法と基準	割合
1． 定期試験	1． 100%

授業科目名	応用化学(工学)				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング	SB117	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本科目は，血液浄化装置や体外循環装置の動作原理の理解に必要な化学の基礎知識を高めることを目的とした演習科目である．これらの装置の動作原理を理解するためには，有機化学や血液の流体力学，溶液中の物質移動現象について理解する必要がある．本科目では，血液浄化装置や体外循環装置で用いられている材料の基礎となる有機化合物，濃度や浸透圧などの溶液化学について概説する．

到達目標

1．有機化学の基礎を理解し，説明できる
2．溶液化学の基礎を理解し．説明できる
3．流体力学の基礎を理解し，血液の性質および流動特性を説明できる
4．血液浄化装置の動作原理である透析，濾過，吸着について理解し，説明できる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回，講義内容に関連した演習問題を配付する．演習問題を用いて，復習をしっかりすること．理解が不十分な項目については早めに対応し，理解できるように努力すること．

教科書

使用しない．毎回，資料を配付する．

参考書

必要に応じて参考書を紹介する．

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは原則として木曜日 1 時限とするが，質問等は随時受け付ける．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明，化学の基礎に関する小テスト	復習：小テストの復習（2 時間）	稲田
2	原子軌道と原子配置	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
3	有機化合物の命名法	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
4	官能基，有機化合物の反応	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
5	官能基，有機化合物の反応	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
6	有機化学（糖質，脂質）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
7	有機化学（アミノ酸，タンパク質，核酸）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
8	物質量と濃度，当量，規定度，拡散，浸透圧	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
9	物質量と濃度，当量，規定度，拡散，浸透圧	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
10	物質量と濃度，当量，規定度，拡散，浸透圧	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
11	流体力学（血液の性質，血液の流動特性）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
12	流体力学（血液の性質，血液の流動特性）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
13	血液浄化（透析，濾過，吸着の原理とその応用）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
14	血液浄化（透析，濾過，吸着の原理とその応用）	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容，全演習問題の確認（1 時間） 復習：全講義内容，全演習問題の復習（2 時間）	稲田
成績評価方法と基準			割合
1．　定期試験			1．　100%

授業科目名	電気工学実習(工学 A)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭、稲田　慎	
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

電気工学 I および電気工学 II では、受動素子の特性や静電気・磁気について学習した。電気工学実習では、電気現象を計測するために計測機器の取り扱いを学び、受動素子にかかる電圧などを計測する。電気工学 I や電気工学 II で学習した理論から求めた値と実際に計測された値を比較し、差異について考察することで電気工学 I 及び電気工学 II で学んだ理論の定着を図る。

到達目標

計測機器の取り扱いを学習し、電気工学 I および電気工学 II で学んだ理論値と計測された値の比較やシミュレーションによる再現などを主体的に取り組むことで、電気回路 I と電気回路 II に関する知識を深める。具体的には、
1. オシロスコープ、ファンクションジェネレータ、テスタといった計測装置を適切に取り扱えるようになる。〈DP①④〉
2. 複数の抵抗器を組み合わせた合成抵抗器の値を計測したり、閉回路における起電力と降下電圧を計測したりすることで、合成抵抗及びキルヒホッフの法則の理解を深める。〈DP①④〉
3. LCR 回路を構築し、周波数、回路におけるインダクタンスとキャパシタンスと抵抗器の両端電圧の関係を明らかにすることで、共振周波数に関する知識を深める。〈DP①④〉
4. パルス波形が入力された CR 回路の抵抗器およびキャパシタの両端電圧を計測し、CR 回路の時定数が出力波形に及ぼす影響を明らかにすることで、過渡応答に関する理解を深める。〈DP①④〉
5. CR 回路で構築したハイパス及びローパスフィルタについて、入力される電圧信号の周波数、抵抗器の抵抗及びキャパシタの静電容量が出力波形に及ぼす影響を計測することで、CR フィルタ回路に関する知識を深める。〈DP①④〉
である。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。

教科書

事前に手順書を配布します。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

原　　C 棟教職員室 / 火曜日 2 限
稲田 C 棟研究室 14 / 木曜日 1 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション: ・実習装置の取り扱い方やレポートに提出方法など実習に関する注意事項を説明する。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 電気工学 I および電気工学 II の復習 復習時間: 0.5 時間 復習内容: 配布された実習の注意事項の確認	原　良昭 稲田　慎
2	レポートの作成方法① ・Word ファイルの書式設定方法を知り、レポートとして適切な書式を設定できるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
3	レポートの作成方法② ・レポートに掲載する図表の作成方法や参考文献の書式などを知る。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わから	原　良昭 稲田　慎
		ないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	
4	計測装置の取り扱い①: ・直流安定化電源およびテスタを使用できるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
5	計測装置の取り扱い②: ・オシロスコープと周波数発振器を使用できるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
6	PC ベース計測・制御システムを用いた信号生成と計測①: ・PC に接続された計測装置を扱えるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
7	PC ベース計測・制御システムを用いた信号生成と計測②: ・PC に接続された計測装置を扱えるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
8	合成抵抗及びキルヒホッフの法則の確認 ・複数の抵抗を組み合わせた合成抵抗の抵抗値を計測したり、起電力や降下電圧を計測することで直流回路に対する理解を深め、合成抵抗やキルヒホッフの法則を説明できるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
9	回路シミュレータによる受動素子を用いたい電気回路の実習 ・回路シミュレータを用いて受動素子と電源からなる回路を構築できるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
10	入出力インピーダンスが及ぼす影響: ・周波数発振器の出力インピーダンスが回路に及ぼす影響を実感し説明できるようになる。	予習時間:　0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実	原　良昭 稲田　慎

		習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	
11	回路シミュレータを用いた共振回路の特性評価: ・回路シミュレータでLCR回路を構築し、構築したLCR回路の周波数特性を評価できるようになる。	予習時間: 0.5時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
12	CR回路が入出力電圧特性の評価: ・CR回路の入出力特性を評価し、CR回路の入出力特性が説明できるようになる。	予習時間: 0.5時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
13	回路シミュレータを用いたCR回路の周波数特性の評価: ・回路シミュレータでCR回路を構築できるようになる。 ・構築したCR回路の周波数特性を説明できるようになる。	予習時間: 0.5時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原　良昭 稲田　慎
14	過渡応答における時定数の計測: ・パルス波形が入力されたCR回路に対して、時定数の計測を行うことにより､CR回路における時定数を説明できるようになる	予習時間: 0.5時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること。 復習時間: 0.5時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
15	回路シミュレータを用いた過渡応答における時定数の計測: ・パルス波形が入力されたCR回路およびLR回路について波形の変化から、時定数の計測を行うことにより、CR回路およびLR回路における時定数を説明できるようになる	予習時間: 0.5時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原　良昭 稲田　慎
成績評価方法と基準			割合
1. 実習毎に作成するレポートによる評価。<DP①④> 2. 定期試験による評価。<DP①> #　出題範囲は実習で学ぶ範囲と同じとする。			1. 50% 2. 50%

授業科目名	電気工学実習(工学B)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭､稲田　慎	
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

電気工学Ⅰおよび電気工学ⅡⅡでは、受動素子の特性や静電気・磁気について学習した。電気工学実習では、電気現象を計測するために計測機器の取り扱いを学び、受動素子にかかる電圧などを計測する。電気工学Ⅰや電気工学ⅡⅡで学習した理論から求めた値と実際に計測された値を比較し、差異について考察することで電気工学Ⅰ及び電気工学ⅡⅡで学んだ理論の定着を図る。

到達目標

計測機器の取り扱いを学習し、電気工学Ⅰおよび電気工学ⅡⅡで学んだ理論値と計測された値の比較やシミュレーションによる再現などを主体的に取り組むことで、電気回路Ⅰと電気回路ⅡⅡに関する知識を深める。具体的には、
1. オシロスコープ、ファンクションジェネレータ、テスタといった計測装置を適切に取り扱えるようになる。<DP①④>
2. 複数の抵抗器を組み合わせた合成抵抗器の値を計測したり、閉回路における起電力と降下電圧を計測したりすることで、合成抵抗及びキルヒホッフの法則の理解を深める。<DP①④>
3. LCR回路を構築し、周波数、回路におけるインダクタンスとキャパシタンスと抵抗器の両端電圧の関係を明らかにすることで、共振周波数に関する知識を深める。<DP①④>
4. パルス波形が入力されたCR回路の抵抗器およびキャパシタの両端電圧を計測し、CR回路の時定数が出力波形に及ぼす影響を明らかにすることで、過渡応答に関する理解を深める。<DP①④>
5. CR回路で構築したハイパス及びローパスフィルタについて、入力される電圧信号の周波数、抵抗器の抵抗及びキャパシタの静電容量が出力波形に及ぼす影響を計測することで、CRフィルタ回路に関する知識を深める。<DP①④>
である。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。

教科書

事前に手順書を配布します。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

原　　C棟教職員室 / 火曜日2限
稲田 C棟研究室14 / 木曜日1限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション: ・実習装置の取り扱い方やレポートに提出方法など実習に関する注意事項を説明する。	予習時間: 0.5時間 予習内容: 電気工学Ⅰおよび電気工学ⅡⅡの復習 復習時間: 0.5時間 復習内容: 配布された実習の注意事項の確認	原　良昭 稲田　慎
2	レポートの作成方法① ・Wordファイルの書式設定方法を知り、レポートとして適切な書式を設定できるようになる。	予習時間: 0.5時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
3	レポートの作成方法② ・レポートに掲載する図表の作成方法や参考文献の書式などを知る。	予習時間: 0.5時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わから	原　良昭 稲田　慎

		ないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	
4	計測装置の取り扱い①: ・直流安定化電源およびテスタを使用できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
5	計測装置の取り扱い②: ・オシロスコープと周波数発振器を使用できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
6	PC ベース計測・制御システムを用いた信号生成と計測①: ・PC に接続された計測装置を扱えるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
7	PC ベース計測・制御システムを用いた信号生成と計測②: ・PC に接続された計測装置を扱えるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
8	合成抵抗及びキルヒホッフの法則の確認 ・複数の抵抗を組み合わせた合成抵抗の抵抗値を計測したり、起電力や降下電圧を計測することで直流回路に対する理解を深め、合成抵抗やキルヒホッフの法則を説明できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
9	回路シミュレータによる受動素子を用いたい電気回路の実習 ・回路シミュレータを用いて受動素子と電源からなる回路を構築できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
10	入出力インピーダンスが及ぼす影響: ・周波数発振器の出力インピーダンスが回路に及ぼす影響を実感し説明できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実	原 良昭 稲田 慎

		習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	
11	回路シミュレータを用いた共振回路の特性評価: ・回路シミュレータで LCR 回路を構築し、構築した LCR 回路の周波数特性を評価できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
12	CR 回路が入出力電圧特性の評価: ・CR 回路の入出力特性を評価し、CR 回路の入出力特性が説明できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
13	回路シミュレータを用いた CR 回路の周波数特性の評価: ・回路シミュレータで CR 回路を構築できるようになる。 ・構築した CR 回路の周波数特性を説明できるようになる。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎
14	過渡応答における時定数の計測: ・パルス波形が入力された CR 回路に対して、時定数の計測を行うことにより、CR 回路における時定数を説明できるようになる	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること。 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原 良昭 稲田 慎
15	回路シミュレータを用いた過渡応答における時定数の計測: ・パルス波形が入力された CR 回路および LR 回路について波形の変化から、時定数の計測を行うことにより、CR 回路および LR 回路における時定数を説明できるようになる	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること 復習時間: 0.5 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる	原 良昭 稲田 慎
成績評価方法と基準			割合
1. 実習毎に作成するレポートによる評価。<DP①④> 2. 定期試験による評価。<DP①> ＃ 出題範囲は実習で学ぶ範囲と同じとする。			1. 50% 2. 50%

授業科目名	電子工学Ⅰ(工学)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭	
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜３限 火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療機器を取り扱う臨床工学技士にとって、医療機器に組み込まれている電子回路の動作・仕組みを理解することは必要不可欠である。電子工学Ⅰでは、電子回路の基本となるダイオードやトランジスタ、オペアンプの仕組みを学ぶ。また、これらを組み合わせて構築される様々な電子回路についても取り組む。

到達目標

1. ダイオードの仕組みや基本特性について説明できるようになる<DP①>
2. ダイオードを用いた整流回路をはじめとする波形整形回路の仕組みや基本特性を説明できるようになる<DP①>
3. トランジスタの種類や仕組み、基本特性について説明できるようになる<DP①>
4. トランジスタを用いた増幅回路について説明できるようになる<DP①>
5. オペアンプの種類や特性などについて説明できるようになる<DP①>
6. オペアンプを用いた反転増幅回路や非反転増幅回路など基本的な回路について動作を説明できるようになる<DP①>
7. オペアンプを用いた微分回路・積分回路について、オペアンプを用いない CR 回路と比較して特性および動作を説明できるようになる<DP①>
8. オペアンプを用いた差動増幅回路について同相除去比を用いて特性を説明できるようになる<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 電子工学Ⅰは積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなります。そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。
2. 電気工学Ⅰと電気工学ⅠⅠの内容を確認しておくこと

教科書

『臨床工学講座　医用電子工学　第２版』監修 一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会、医歯薬出版株式会社

参考書

『臨床工学技士のための基礎電子工学』, 稲岡秀検・野城真理, コロナ社

研究室／オフィスアワー

C棟７階 教職員室 / 火曜日２限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	半導体とは ・半導体の性質を導体と絶縁体と比較しながら説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 電気工学１及び電気工学２の復習および教科書 p1-p12 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
2	ダイオードの仕組み: ・ダイオードの仕組みを pn 接合と拡散電位を用いて説明できるようになる ・LED やフォトダイオードなどダイオードの種類について説明できるようになる ・ツェナーダイオードについて特徴を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p13-p20 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
3	ダイオードを用いた整流平滑化回路: ・ダイオードを用いた整流回路の仕組みを説明できるようになる。 ・半波整流回路及び全波整流回路の違いを平滑化の観点から説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p21-p27 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	
4	ダイオードによる波形整形回路: ・ダイオードを用いた波形整形回路として、クリッパ回路、リミッタ回路、スライサ回路、クランパ回路の動作を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p29-p40 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
5	トランジスタの基礎と信号増幅: ・トランジスタの種類や特徴を説明できるようになる。 ・信号増幅について、電流利得、電圧利得、電力利得の違いを説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p41-p50 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
6	バイポーラトランジスタ: ・バイポーラトランジスタの入力特性や電流伝達特性といった静特性について説明できるようになる。 ・エミッタ接地、コレクタ接地、ベース接地の各回路について動作および特徴を説明できるようになる。 ・入出力特性や周波数特性といった増幅回路の性質について説明できるようになる。 ・負帰還について説明できるようになる。 ・入力インピーダンスと出力インピーダンスを用いてインピーダンス変換回路の特徴を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p51-p80 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
7	電界効果トランジスタ ・電界効果トランジスタの仕組みを説明できるようになる。 ・電界効果トランジスタの特徴を電流制御と電圧制御の観点から説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p81-p92 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
8	ダイオードとトランジスタのまとめ ・ダイオードとトランジスタについて学習した内容を要約することで、ダイオードとトランジスタに対する理解を深める。	予習時間: 3 時間 予習内容: 教科書 p1-p92 までの要約を作成する。 復習時間: 1 時間 復習内容: 講義により露わになった理解が不十分であった内容についてノートに要約を作成する。	原　良昭
9	オペアンプの基本特性 ・オペアンプの基本特性や種類、特徴を説明できるようになる。 ・オペアンプが容易にコンパレータとして利用できることを、オペアンプの特性を用いて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p93-p104 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭

10	オペアンプによる反転増幅回路 ・反転増幅回路の仕組みを数式を用いて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p104-p107 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
11	オペアンプによる非反転増幅回路: ・非反転増幅回路の仕組みを数式を用いて説明できるようになる。 ・ボルテージフォロワー回路をインピーダンス変換の観点から説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p108-p111 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
12	オペアンプを用いた積分回路 ・オペアンプを用いた積分回路の仕組みと特徴を、オペアンプを用いない CR 回路と比較して説明できるようになる。 ・積分回路における抵抗器とキャパシタをインピーダンスとして扱うことで、反転増幅回路を等価であることを説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p111-p114 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
13	オペアンプを用いた微分回路 ・オペアンプを用いた微分回路の仕組みと特徴を、オペアンプを用いない CR 回路と比較して説明できるようになる。 ・微分回路における抵抗器とキャパシタをインピーダンスとして扱うことで、反転増幅回路を等価であることを説明できるようになる。 ・負帰還増幅回路の周波数特性について、オペアンプのスルーレートを用いて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p115-p118 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
14	オペアンプを用いた差動増幅回路 ・生体信号計測とノイズ対策の観点から差動増幅回路の有益性を説明できるようになる。 ・同相信号除去比について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p118-p120 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭
15	オペアンプを用いた加減算回路と比較回路 ・加減算回路の仕組みと動作を説明できるようになる ・ヒステリシス特性がある比較回路について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 p120-p126 までを確認し、理解が難しかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。また、講義でも理解が難しいことがあった場合は、教員に確認すること	原　良昭

成績評価方法と基準	割合
1.定期試験<DP①> 授業内で扱った範囲を対象とした筆記試験を行います。	1. 100%

授業科目名	電子工学Ⅱ(工学)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭	
科目ナンバリング	SB122	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 3 限 火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療機器を取り扱う臨床工学技士にとって、医療機器に組み込まれている電子回路の動作・仕組みを理解することは必要不可欠である。電子工学 II では、ディジタル回路を主題として、論理回路や A/D 及び D/A 変換回路などを学ぶ。また、変調・復調回路を取り扱う。

到達目標

1. LED や受光素子など代表的な電子回路部品や主なセンサなどの特徴や仕様を説明できるようになる。<DP①>
2. アナログとディジタルの差異を理解し、二進法を使いこなせるようになる。<DP①>
3. 論理代数を理解し、ベン図やカルノー図を活用しながら論理演算を行うことができるようになる。<DP①>
4. 論理演算を実際の電子回路で行うために、各論理素子における回路の動作を説明できるようになる。<DP①>
5. フリップフロップ回路及びカウンタ回路の動作を説明できるようになる。<DP①>
6. A/D 及び D/A 変換回路を説明できるようになる。<DP①>
7. 発振回路を構築し、その動作を説明できるようになる。<DP①>
8. 変調・復調の方法を理解し、その動作を説明できるようになる。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 電子工学 II は積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなります。そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。

教科書

『臨床工学講座　医用電子工学　第２版』監修 一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会、医歯薬出版株式会社

参考書

『臨床工学技士のための基礎電子工学』, 稲岡秀検・野城真理, コロナ社

研究室／オフィスアワー

C 棟７階 教職員室 / 火曜日２限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	電子回路部品: ・LED や受光素子など代表的な電子回路部品の特徴や仕様を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.127-133 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容 : 講義内容についてノートに要約を作成する。	
2	電子回路における主なセンサ ・電子回路で用いられる代表的なセンサの特徴について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.133-136 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容 : 講義内容についてノートに要約を作成する。	
3	アナログとディジタルの基礎: ・アナログとディジタルの差異を説明できるようになる。 ・二進法を含む N 進法での計算を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.137-142 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容 : 講義内容についてノートに要約を作成する。	

4	論理代数: ・論理代数の説明及び実際の計算ができるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.143-145 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
5	論理ゲート ・AND, OR, NOT といった基本的な論理素子の回路図をダイオードやトランジスタを用いて作成できるようになる。作成した回路の動作を説明できるようになる。 ・NAND, NOR, ExOR を含む基本的な論理素子の動作を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.146-150 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
6	ベン図とカルノー図: ・ベン図やカルノー図の説明ができるようになる。具体的にはベン図を用いた論理演算の可視化でき、カルノー図を用いた論理演算の簡略化ができるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.150--158 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
7	論理ゲートの組み合わせによる論理回路 ・基本的な論理素子を組み合わせて半加算器回路や全加算回路、一致回路などを構築できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.158-162 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
8	フリップフロップ回路とカウンタ回路 ・フリップフロップ回路の動作を説明できる。 ・一般的なカウンタ回路を構築し、動作を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.163-176 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
9	A/D 変換回路および D/A 変換回路 ・A/D 変換における基本的な用語である標本化やサンプリング定理、量子化などを説明できるようになる。 ・A/D 変換を行う各方法について、基本的な仕組みに加えてメリット・デメリットなどを説明できるようになる。 ・復号化や補間、アパーチャ効果など D/A 変換で用いる用語について説明できるようになる。 ・D/A 変換を行う回路について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.177-188 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
10	発振回路 ・発振回路の基本的な仕組みを説明できるようになる ・様々な発振回路から代表的な発振回路である LC 発振回路の種類やその仕組みと特徴を説明できるようななる。 ・水晶発振回路の説明ができるようなる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.189-195 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
11	マルチバイブレータ ・マルチバイブレータの概念を説明できるようになる。 ・無安定マルチバイブレータの動作を説明できるようなる。 ・単安定マルチバイブレータの動作を説明できるようになる。 ・双安定マルチバイブレータの動作を説明できるようなる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.195-200 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
12	通信の基礎とアナログ変調・復調 ・現在社会における通信の果たす役割の概要を説明できるようになる。 ・変調・復調の概念について説明できるようになる。 ・振幅変調の概念を理解し、振幅変調及び復調を行う回路の動作を説明できるようになる。 ・周波数変調の概念を理解し、その内容を説明できるようになる。 ・位相変調の概念を理解し、その内容を説明できるようなる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.201-223 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
13	ディジタル信号を対象とした変調・復調 ・ディジタル信号を対象とした変調・復調方法の原理と特徴を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 pp.223-234 を確認し、わからなかった事柄を要約する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
14	生体計測で用いられている電子回路 ・生体計測で用いられている主な電子回路について説明できるようになる。	予習時間: 3 時間 予習内容: 前回までに学習した内容について、ノートを確認し、不明瞭な項目をリスト化する。リスト化した項目について学習する。 復習時間: 1 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
15	機器制御で用いられている電子回路 ・機器制御で用いられている主な電子回路について説明できるようになる。	予習時間: 3 時間 予習内容: 前回までに学習した内容について、ノートを確認し、不明瞭な項目をリスト化する。リスト化した項目について学習する。 復習時間: 1 時間 復習内容: 講義内容についてノートに要約を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験<DP①> 授業内で扱った範囲を対象とした筆記試験を行います。			1. 100%

授業科目名	電子工学実習(工学 A)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭、稲田　慎	
科目ナンバリング	SB123	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 3 限 水曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

医療機器には電子回路が含まれており、電子回路の深い理解は、医療機器を扱う臨床工学技士にとって必須である。本字集では、電子工学 1 及び電子工学 2 で学習した電子工学の回路を、実際に組み上げ作成し特性評価を行うことで、電子工学 1 及び電子工学 2 で学習した知識の定着を図る。

到達目標

電子工学 I および電子工学 II で学習した知識と実際の電子回路での計測値を比較することで、電子回路に関する知識を深める。具体的には、
1. ダイオードを用いた波形整形回路を構築することで、ダイオードの特性および波形整形回路の特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
2. トランジスタを用いたエミッタフォロワ回路を構築することで、トランジスタの特性およびエミッタフォロワ回路の特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
3. オペアンプを用いた反転増幅回路・非反転増幅回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
4. オペアンプを用いた加算/差動/積分/微分回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
5. 論理素子からなるディジタル回路を構築し動作を確認することで、論理演算に関する知識を深める。〈DP①④〉
6. 発振回路を構築し動作を確認することで、発振回路に関する知識を深める。〈DP①④〉
7. 電圧-周波数変換回路を構築することで、オペアンプの特性、変調に関する知識を深める。〈DP①④〉
である。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。

教科書

事前に手順書を配布します

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

原　C 棟教職員室 / 水曜日 5 限
稲田 C 棟研究室 14 / 木曜日 1 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション: 実習装置の取り扱い方、実習結果のまとめ方、レポートの作成方法など実習に関する注意事項を説明する。 また、実習内容の手順書を配布する。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 電子工学 I および電子工学 II について復習をする。 復習時間: 0.5 時間 復習内容: 配布された手順書を確認する。	原　良昭 稲田　慎
2	ダイオードを利用した波形整形回路の特性評価 ・ブレッドボードを用いて実際の回路を組み上げられるようになる。 ・回路シミュレータを用いてダイオードを利用した波形整形回路のシミュレーションが行えるようになる	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
3	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
4	トランジスタを用いた回路の特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
5	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
6	オペアンプの基本的回路における特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
7	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
8	オペアンプを用いた応用的回路における特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
9	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
10	ディジタル回路の特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
11	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
12	発振回路の特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
13	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
14	電圧-周波数変換回路	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
15	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎

成績評価方法と基準	割合
1. 実習毎に作成するレポートで評価する。〈DP①④〉 2. 定期試験。〈DP①〉 # 出題範囲は実習内容と同じである。	1. 50% 2. 50%

授業科目名	電子工学実習(工学 B)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭、稲田　慎	
科目ナンバリング	SB123	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 3 限 水曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

医療機器には電子回路が含まれており、電子回路の深い理解は、医療機器を扱う臨床工学技士にとって必須である。本字集では、電子工学 1 及び電子工学 2 で学習した電子工学の回路を、実際に組み上げ作成し特性評価を行うことで、電子工学 1 及び電子工学 2 で学習した知識の定着を図る。

到達目標

電子工学 I および電子工学 II で学習した知識と実際の電子回路での計測値を比較することで、電子回路に関する知識を深める。具体的には、
1. ダイオードを用いた波形整形回路を構築することで、ダイオードの特性および波形整形回路の特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
2. トランジスタを用いたエミッタフォロワ回路を構築することで、トランジスタの特性およびエミッタフォロワ回路の特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
3. オペアンプを用いた反転増幅回路・非反転増幅回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
4. オペアンプを用いた加算/差動/積分/微分回路を構築し特性を評価することで、オペアンプの特性に関する知識を深める。〈DP①④〉
5. 論理素子からなるディジタル回路を構築し動作を確認することで、論理演算に関する知識を深める。〈DP①④〉
6. 発振回路を構築し動作を確認することで、発振回路に関する知識を深める。〈DP①④〉
7. 電圧-周波数変換回路を構築することで、オペアンプの特性、変調に関する知識を深める。〈DP①④〉
である。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習手順をイメージできるように、配布する手順書を事前に熟読してください。

教科書

事前に手順書を配布します

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

原　C 棟教職員室 / 水曜日 5 限
稲田 C 棟研究室 14 / 木曜日 1 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション: 実習装置の取り扱い方、実習結果のまとめ方、レポートの作成方法など実習に関する注意事項を説明する。 また、実習内容の手順書を配布する。	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 電子工学 I および電子工学 II について復習をする。 復習時間: 0.5 時間 復習内容: 配布された手順書を確認する。	原　良昭 稲田　慎
2	ダイオードを利用した波形整形回路の特性評価 ・ブレッドボードを用いて実際の回路を組み上げられるようになる。 ・回路シミュレータを用いてダイオードを利用した波形整形回路のシミュレーションが行えるようになる	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
3	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
4	トランジスタを用いた回路の特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
5	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
6	オペアンプの基本的回路における特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
7	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
8	オペアンプを用いた応用的回路における特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
9	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
10	ディジタル回路の特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
11	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
12	発振回路の特性評価	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
13	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎
14	電圧-周波数変換回路	予習時間: 1 時間 予習内容: 講義開始時から実習を遅滞なく行うため、実習書を熟読し理解しておくこと。もし、わからないことがあれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	原　良昭 稲田　慎
15	〃	復習時間: 1 時間 復習内容: レポート作成時にわからなかったことを調べる。	原　良昭 稲田　慎

成績評価方法と基準	割合
1. 実習毎に作成するレポートで評価する。〈DP①④〉 2. 定期試験。〈DP①〉 # 出題範囲は実習内容と同じである。	1. 50% 2. 50%

授業科目名	放射線工学概論(工学)				
主担当教員	長井　英仁		担当教員	長井　英仁	
科目ナンバリング	SB124	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
放射線の基礎と医療への応用について概説する。放射線の基礎、生体における放射線の影響、医療における放射線の役割に至るまで、放射線の臨床応用に関して幅広く講義する。
到達目標
①放射線の種類と特徴を説明できる。　②放射線医療機器の種類、役割と特徴を説明できる。　③放射線に対する被ばく低減を説明できる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
課題は必ず提出して下さい。
教科書
未定
参考書
なし
研究室／オフィスアワー
非常勤講師控室/授業の前後のみ対応可能
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	放射線とアイソトープの基礎１	予習： 復習：	
2	放射線とアイソトープの基礎２		
3	医療における放射線の利用（X 線機器）１		
4	医療における放射線の利用（X 線機器）２		
5	医療における放射線の利用（核医学）１		
6	医療における放射線の利用（核医学）２		
7	放射線の生体に与える影響・放射線の安全管理・放射線治療		
8	授業のまとめ(総括)・学習到達度の確認テスト		

成績評価方法と基準	割合
評価対象：定期試験、課題レポート、小テスト ①評価基準：授業中に行う小テスト・課題 ②評価基準：定期試験 2/3 回以上の出席が必要です。	①50% ②50%

授業科目名	情報処理工学(工学)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄	
科目ナンバリング	SB125	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
本講義では、 デジタル信号の表現と論理演算、論理回路、コンピュータの基本構成とコンピュータの動作原理、オペレーティングシステム、プログラム開発とプログラミング言語、ユーザインタフェース、データ処理アルゴリズム、データベース、データ通信とネットワーク、コンピュータによる計測・制御の考え方と方法、コンピュータが構成要素となっている医療・治療機器事例や計測システム、医療情報システム事例、医療現場でのセキュリティ対策など情報技術の基礎を学ぶ。
到達目標
医療従事者として知っておいてもらいたいコンピュータの基本技術や情報処理の基礎的考え方を理解する。<DP①④>
履修上の注意(学生へのメッセージ)
情報処理工学に関する基本的な知識を身につけ、専門用語に親しんでください。
教科書
寺嶋廣克 , 他著, はじめて学ぶコンピュータ概論　－ ハードウェア・ソフトウェアの基本 － , コロナ社, 2016 年
参考書
日本臨床工学技士教育施設協議会監修, 臨床工学講座　医用情報処理工学, 医歯薬出版, 2010 年（２０１９年春改訂）
研究室／オフィスアワー
C 棟 7 階研究室 720/金曜日１０時～１２時
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
2	10 進数と 2 進数、ビットとバイト、数の表現	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
3	基数変換、2 進数の演算、負数の表現方法	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
4	論理演算、論理回路	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
5	コンピュータの種類と特徴、コンピュータの構成要素：CPU、記憶装置、入出力装置、インタフェース	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
6	小テスト	予習：教科書・これまでの講義資料の確認 復習：小テスト問題の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
7	情報処理システムの構成：処理形態、利用形態、システム構成、システムの信頼性、データの信頼性	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
8	ソフトウェア：システムソフト、アプリケーション、オープンソース、数の表現：実数の表し方、誤差	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
9	オペレーティングシステム：API、ジョブ管理、タスク管理、主記憶管理、入出力管理、ファイル管理	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
10	ＡＤ変換：生体信号処理・解析、応用ソフトウェア：種類、代表的なソフトウェア	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
11	ユーザインタフェース:進展と構成要素、GUI 部品、画面設計、帳票設計、Web デザイン、ユニバーサルデザイン	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
12	ネットワーク：インターネット、プロトコル、ネットワークの接続形態、接続装置、ＩＰアドレス	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄

13	マルチメディア：文字、画像、情報セキュリティ：概念、定義、脅威と脆弱性、セキュリティ対策	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
14	データベース：関係データベース、設計、正規化、操作、トランザクション処理	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
15	プログラム言語：種類、アルゴリズム、データ構造	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験<DP②③④> ②小テスト<DP②③④>			①80% ②20%

授業科目名	医療統計学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング	SB126	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

統計学とは、集団データに潜む規則性や法則性を、表し（記述）、見出し（検出）、または証明（検証）するための、主として数量的な方法論の体系である。統計学は過去から様々な分野（医療もその一つ）で実践的関心のもとに発達し、数学的に統合されてきたものである。本講義では統計学の基礎をしっかりと学ぶ。

到達目標

①保健・医療分野の研究においてデータ解析を行う上で必須となる統計学の基礎知識を理解する。〈DP①〉
②臨床現場及び臨床研究に於いて求められる統計学の実践的技術を習得する。〈DP①〉
③統計学の臨床データにおいて結果の解釈方法を習得する。〈DP①〉
④適切な臨床データの収集方法とデータセットの作成法習得する。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義内容に従って、理解を深めるための演習を行うので、復習を忘れないように行い、講義内容で分かったことと分からないことを明確にし、分からないことは質問すること。

教科書

「バイオサイエンスのための統計学」／市原清志／南江堂
講義毎に問題と資料を配布

参考書

「エクセル活用コメディカル統計テキスト」／宮城重二／医歯薬出版
「やさしく学ぶ統計学　Ｅｘｃｅｌによる統計解析」／石村貞夫他／東京図書

研究室／オフィスアワー

南棟７階研究室21／電気がついていれば在室です。質問があればいつでもどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【標本と母集団】[母集団と標本について説明でき、無作為抽出法について説明できる]	予習：(1時間)シラバスの確認 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
2	【確率分布】[正規分布について説明できる、他の分布について概要を説明できる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
3	【標本と母集団、点推定と区間推定】[標本と母集団および点推定と区間推定について理解し、説明できる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
4	【データの種類（尺度水準）】 [尺度水準について理解し、説明できる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
5	【分布の特徴を記述する①：代表値】 [算術平均の計算ができる；中央値、最頻値について説明ができる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
6	【分布の特徴を記述する②；散布度】 [分散と標準偏差について説明できる；範囲と四分位数について説明できる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
7	【演習：算術平均と標準偏差を中心に】 [データの種類、内容により、様々な分布の特徴があることを理解する]	予習：(1時間)統計用語の確認 復習：(1時間)演習内容の確認	片山
8	【２変数間の関連性とその強さの記述(1)】 [相関係数、回帰直線、クロス表、連関係数等について理解し、説明できる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
9	【２変数間の関連性とその強さの記述(2)】 [相関係数、回帰直線、クロス表、連関係数等について理解し、説明できる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山
10	【演習：相関係数、回帰直線を中心に】 [データの種類、内容により、様々な解釈があることを理解する]	予習：(1時間)統計用語の確認 復習：(1時間)演習内容の確認	片山
11	【統計的検定（量的データ）】 [統計的検定とは何かを説明でき、帰無仮説と対立仮説、両側検定と片側検定の違いを説明できる]	予習：(1時間)テキストの予習 復習：(1時間)統計用語の確認	片山

12	【統計的検定（質的データ）】 ［質的データの検定に用いる検定法を理解し、説明できる］	予習：(1 時間)テキストの予習 復習：(1 時間)統計用語の確認	片山
13	【検定方法の選択】 ［データの種類、検定内容により、様々な検定方法を理解する］	予習：(1 時間)テキストの予習 復習：(1 時間)統計用語の確認	片山
14	【演習：t 検定と χ 二乗検定を中心に】 ［データの種類、検定内容により、様々な検定方法があることを理解する］	予習：(1 時間)統計用語の確認 復習：(1 時間)演習内容の確認	片山
15	まとめ	予習：(1 時間)使用した演習問題の確認 復習：(1 時間)使用した演習問題の確認	片山
成績評価方法と基準			割合
成績評価の種別：1.筆記試験、2.小テスト、3.平常点(問題演習への取り組み等)〈DP①〉 成績評価の基準：筆記試験、小テスト、平常点を総合して評価し、60 点以上を可とする 出席基準：2/3 回			1.50% 2.20% 3.30%

授業科目名	システム制御工学(工学)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭	
科目ナンバリング	SB127	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生体や臨床工学技士が扱う医療機器の仕組みを理解するにはシステムとして把握することが重要である。また、医療機器の多くは機械的・電子的に制御されているため、臨床工学技士にとって制御工学の理解は必須である。本講義では、工学的見地からシステムについての説明を行い、システムの信頼性などを学ぶ。その後、制御工学として、制御方式の一般的な説明を皮切りに、ラプラス変換・逆変換、伝達関数、ブロック線図、過渡応答、周波数応答を学習する。そして、特に重要な制御方式であるフィードバック制御の 1 つである PID 制御の特徴について理解を深める。

到達目標

・複数のサブシステムから構築されるシステムの信頼度を数式を用いて説明できるようになる。＜DP①＞
・ラプラス変換・逆変換を数式を用いて説明できるようになる。＜DP①＞
・比例要素、積分要素、微分要素、一次遅れ要素、二次遅れ要素の伝達関数について説明できる。＜DP①＞
・各要素を繋ぐブロック線図を作成することができる。また、ブロック線図の等価変換を行うことができる。＜DP①＞
・比例要素、積分要素、微分要素、一次遅れ要素、二次遅れ要素について、過渡応答および周波数応答が説明できる。＜DP①＞
・ボード線図に見方について説明できる。＜DP①＞
・フィードバック制御の特徴を説明できるようになる。＜DP①＞
・PID 制御の特徴を説明できるようになる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. システム制御工学は積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなります。そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。
2. システム制御工学では、「システムの信頼性」や「周波数応答」などの算出に数学的知識が必要となります。数学演習で学んだ三角関数や微分積分については、十分に慣れるまで復習しておくことが望ましいです。

教科書

1. 『臨床工学講座　医用システム・制御工学』, 医歯薬出版株式会社, 嶋津秀昭・堀内邦雄
2. 『絵ときでわかる機械制御 第２版』, オーム社, 宇津木論

参考書

1. 『新 FTA 技法』, 日科技連, 信頼性技術叢書編集委員会
2. 『新 FMEA 技法』, 日科技連, 信頼性技術叢書編集委員会
3. 『制御工学の基礎』, 東京電機大学出版局, 足立修一
4. 『ゼロからはじめる PID 制御』, 日刊工業新聞社, 熊谷英樹

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階 教職員室 / 火曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	システムの設計と評価 ・システム工学の基本的な考え方であるサブシステムについて説明できるようになる。 ・システムを設計するための代表的な手法について説明できるようになる。	予習時間:２時間 予習内容: 教科書 1 の pp.1-35 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間:２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
2	システムの信頼性と安全性 ・システムの信頼度を数式を用いて説明できるようになる。 ・平均修理時間と平均故障間隔を数式を用いて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 1 の pp.36-43 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認する	原　良昭

		こと	
3	システムの故障解析と生体システム ・代表的な故障解析法である FTA と FEMA について、両手法の特徴を説明できるようになる。 ・フールプルーフやフェイルセーフを具体的な例を挙げながら説明できるようになる。	予習時間: ２時間 予習内容: 教科書 1 の pp.37-60 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
4	自動制御の概要 ・制御方法の種類や各制御方法の特徴を説明できるようになる	予習時間: ２時間 予習内容: 教科書 2 の pp.2-16 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
5	制御系における関数の扱い ・線形関数について説明できるようになる ・ラプラス変換とラプラス逆変換について説明できるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.18-44 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
6	伝達関数の基本 ・伝達関数について説明ができるようになる ・比例・積分・微分要素について説明ができるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.46-55 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
7	一次および二次遅れ要素の伝達関数 ・一次遅れ要素と二時遅れ要素の説明ができるようになる ・むだ時間について説明できるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.56-64 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
8	ブロック線図: ・ブロック線図について説明できるようになる ・結合則を用いてブロック線図を等価変換できるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.66-86 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
9	ラプラス変換と逆変換、伝達関数、ブロック線図の統合 ・ブロック線図から各要素の伝達関数を求め、ラプラス逆変換を用いて、実際の式に変換できるようになる ・実際の制御システム系について、各要素の伝	予習時間: 2 時間 予習内容: 再度、教科書 2 の pp.18-86 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容:	原　良昭

	達関数を求め、システム全体をブロック線図で表現できるようになる	予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	
10	基本要素と一次遅れの過渡応答 ・過渡応答に用いる代表的な入力信号を説明できる ・比例要素、積分要素、微分要素の過渡応答を説明できる ・一次遅れ要素の過渡応答を説明できる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.88-97 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
11	基本要素と一次遅れの周波数応答 ・周波数応答の表示に用いるボード線図を説明できる ・比例要素、積分要素、微分要素の周波数応答を説明できる ・一次遅れ要素の周波数応答を説明できる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.110-125 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
12	2 次遅れ要素の過渡応答と周波数応答 ・2 次遅れ要素の過渡応答を説明できるようになる ・2 次遅れ要素の周波数応答を説明できるようになる ・過渡応答と周波数応答の関係を説明できるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.98-107 および pp.122-133 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったこと を中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
13	フィードバック制御系 ・正帰還と負帰還について説明できるようになる ・フィードバック制御における各指標を説明できるようになる ・フィードバック制御における指標として、特に、定常偏差について説明できるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.136-149 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
14	PID 制御 ・P 制御について説明できるようになる ・PI 制御について説明できるようになる ・PID 制御について説明できるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 2 の pp.150-155 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
15	医療における制御 ・輸液ポンプや透析装置の典型的な制御内容を説明できるようになる	予習時間: 2 時間 予習内容: 教科書 1 の pp.121-127 までを確認し、理解が不十分であったことをまとめておくこと 復習時間: ２時間 復習内容: 予習でわからなかったことを中心に講義内容を再確認し、ノートにまとめる。復習でもわからなかった内容がある場合は、教員に確認すること	原　良昭
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験<DP①> 学習した範囲内を対象とした筆記試験を行います			100%

授業科目名	情報処理･システム制御工学実習(工学 A)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、中沢　一雄、稲田　慎、原　良昭	
科目ナンバリング	SB128	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 4 限 月曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

１．２年次前期で学習した「情報処理工学」の内容を実習において確認する。特にエクセル VBA において実用的なデータ処理やアルゴリズムの基本となる考え方を実践する。
２．２年次前期で学習した「システム制御工学」の内容を実習において確認する。特に医療機器の制御で用いられている各制御方法の特徴について実習を通じて理解を深める
３．自作プログラムの入力方法、実行方法を習得するとともに、データ処理の基本を体験する。

到達目標

１．医療従事者として必要と思われる実務的なデータ処理が実行できる。〈DP①④〉
２．実習を通じて各制御方法の特徴に対する理解を深め、適切な制御方法を選択できる知識を習得する。〈DP①④〉
３．プログラミングの基礎を習得する。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

無断の遅刻・欠席は厳禁です。遅刻は全体の実習計画の遅延につながるので注意願います。
目的意識を持って積極的に実習を行ってください。
実習終了後は必ず実習機材を片付け、実習機材を破損させたときは直ちに教員に報告してください。

教科書

使用しない（必要に応じて資料を講義時に配布）

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

中沢：C 棟７階 研究室 720 / 金曜日１０時～１２時
原　：C 棟７階 教職員室 / 水曜日 5 限
稲田：C 棟７階 研究室 714 / 授業後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンスと情報リテラシーの復習	予習：エクセルの基本機能を確認しておくこと 復習：講義内容の確認 学習所要時間目安：１時間	中沢　一雄
2	プログラム実習（１）　プログラミングの基礎について講義した後、プログラムの実習環境の使い方を確認し，実際にノートパソコンを用いてプログラミングの実習を行う。	予習：実習書の確認	稲田　慎
3	プログラム実習（２）ディジタル信号のフィルタ処理等のプログラムを入力し、実行する。	プログラムの実行結果についてレポートを作成する	稲田　慎
4	フィードバック制御の実習: ・電子回路シミュレータによる PID 制御回路のシミュレーション	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 実習書を確認し、理解が難しい回路図や数式について調べる。 復習時間: 0.5 時間 復習内容: 実習内容をまとめたレポートを作成する。	原　良昭
5	ロボットカーの制御: ・ロボットカーを用いた on-off 制御と P 制御の比較	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 実習書を確認し、on-off 制御と比例制御の違いについてまとめる。 復習時間:0.5 時間 復習内容: 実習内容をまとめたレポートを作成する。	原　良昭
6	マイコンを用いた PID 制御実習(1): ・マイコンに対するプログラム方法を学ぶ	予習時間: １時間 予習内容: 実習書を確認し、マイコンのプログラム方法や PID 制御について予習を行う	原　良昭
7	マイコンを用いた PID 制御実習(2): ・マイコンの出力端子が指定した電圧になるように PID 制御を行うプログラムを作成し，PID 制御を学ぶ。	復習時間: １時間 復習内容: 実習内容についてレポートを作成する	原　良昭
8	生体計測データのプログラミング処理(1)	予習：実習書の確認	片山　俊郎
9	生体計測データのプログラミング処理(2)	実習内容についてレポートを作成する	片山　俊郎
10	エクセル：ワークシートで関数グラフをつくる（１）	予習：実習書の確認１時間	中沢　一雄
11	エクセル：ワークシートで関数グラフをつくる（２）	プログラムの実行結果などを提出する。 学習所要時間の目安：１時間	中沢　一雄
12	エクセル：VBA で組む簡単プログラム（１）	予習：実習書の確認１時間	中沢　一雄
13	エクセル：VBA で組む簡単プログラム（２）	プログラムの実行結果などを提出する。 学習所要時間の目安：１時間	中沢　一雄
14	エクセル：VBA でつくる動くグラフィックス（１）	予習：実習書の確認１時間	中沢　一雄
15	エクセル：VBA でつくる動くグラフィックス（２）	プログラムの実行結果などを提出する。 学習所要時間の目安：１時間	中沢　一雄

成績評価方法と基準	割合
課題評価（レポート提出、内容など）〈DP①④〉	100%

授業科目名	情報処理･システム制御工学実習(工学 B)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、中沢　一雄、稲田　慎、 原　良昭	
科目ナンバリング	SB128	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 4 限 月曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

１．２年次前期で学習した「情報処理工学」の内容を実習において確認する。特にエクセル VBA において実用的なデータ処理やアルゴリズムの基本となる考え方を実践する。
２．2 年次前期で学習した「システム制御工学」の内容を実習において確認する。特に医療機器の制御で用いられている各制御方法の特徴について実習を通じて理解を深める
３．自作プログラムの入力方法、実行方法を習得するとともに、データ処理の基本を体験する。

到達目標

１．医療従事者として必要と思われる実務的なデータ処理が実行できる。〈DP①④〉
２．実習を通じて各制御方法の特徴に対する理解を深め、適切な制御方法を選択できる知識を習得する。〈DP①④〉
３．プログラミングの基礎を習得する。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

無断の遅刻・欠席は厳禁です。遅刻は全体の実習計画の遅延につながるので注意願います。
目的意識を持って積極的に実習を行ってください。
実習終了後は必ず実習機材を片付け、実習機材を破損させたときは直ちに教員に報告してください。

教科書

使用しない（必要に応じて資料を講義時に配布）

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

中沢：C 棟 7 階 研究室 720 / 金曜日 １０時～１２時
原　：C 棟 7 階 教職員室 / 水曜日 5 限
稲田：C 棟 7 階 研究室 714 / 授業後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンスと情報リテラシーの復習	予習：エクセルの基本機能を確認しておくこと 復習：講義内容の確認 学習所要時間目安：１時間	中沢　一雄
2	プログラム実習（１）　プログラミングの基礎について講義した後、プログラムの実習環境の使い方を確認し，実際にノートパソコンを用いてプログラミングの実習を行う。	予習：実習書の確認	稲田　慎
3	プログラム実習（２）ディジタル信号のフィルタ処理等のプログラムを入力し、実行する。	プログラムの実行結果についてレポートを作成する	稲田　慎
4	フィードバック制御の実習: ・電子回路シミュレータによる PID 制御回路のシミュレーション	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 実習書を確認し、理解が難しい回路図や数式について調べる。 復習時間: 0.5 時間 復習内容: 実習内容をまとめたレポートを作成する。	原　良昭
5	ロボットカーの制御: ・ロボットカーを用いた on-off 制御と P 制御の比較	予習時間: 0.5 時間 予習内容: 実習書を確認し、on-off 制御と比例制御の違いについてまとめる。 復習時間:0.5 時間 復習内容: 実習内容をまとめたレポートを作成する。	原　良昭
6	マイコンを用いた PID 制御実習(1): ・マイコンに対するプログラム方法を学ぶ	予習時間: １時間 予習内容: 実習書を確認し、マイコンのプログラム方法や PID 制御について予習を行う	原　良昭
7	マイコンを用いた PID 制御実習(2): ・マイコンの出力端子が指定した電圧になるように PID 制御を行うプログラムを作成し，PID 制御を学ぶ。	復習時間: １時間 復習内容: 実習内容についてレポートを作成する	原　良昭
8	生体計測データのプログラミング処理(1)	予習：実習書の確認	片山　俊郎
9	生体計測データのプログラミング処理(2)	実習内容についてレポートを作成する	片山　俊郎
10	エクセル：ワークシートで関数グラフをつくる（１）	予習：実習書の確認１時間	中沢　一雄
11	エクセル：ワークシートで関数グラフをつくる（２）	プログラムの実行結果などを提出する。 学習所要時間の目安：１時間	中沢　一雄
12	エクセル：VBA で組む簡単プログラム（１）	予習：実習書の確認１時間	中沢　一雄
13	エクセル：VBA で組む簡単プログラム（２）	プログラムの実行結果などを提出する。 学習所要時間の目安：１時間	中沢　一雄
14	エクセル：VBA でつくる動くグラフィックス（１）	予習：実習書の確認１時間	中沢　一雄
15	エクセル：VBA でつくる動くグラフィックス（２）	プログラムの実行結果などを提出する。 学習所要時間の目安：１時間	中沢　一雄

成績評価方法と基準	割合
課題評価（レポート提出、内容など）〈DP①④〉	100%

授業科目名	生体物性工学(工学)				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング	SS201	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床において使用される生体計測機器や治療機器の多くは，様々な物理エネルギーを生体に加えている．そのため，これらの機器を安全かつ効果的に使用するためには，生体へのエネルギーの作用に対する応答を予測することが重要であり，そのためには生体の物理的特性を理解する必要がある．本講義では，物理学や応用物理学で学んだ内容を基盤とし，物理的エネルギーと生体との関係について講義する．

到達目標

1．生体物質について理解し，説明することができる
2．生体の電気的特性について理解し，説明することができる
3．生体の音響特性について理解し，説明することができる
4．生体の力学的特性について理解し，説明することができる
5．生体の流体的特性について理解し，説明することができる
6．生体の熱的特性について理解し，説明することができる
7．生体の光特性について理解し，説明することができる
8．生体の放射線特性について理解し，説明することができる
9．計測工学，生体計測装置学，治療機器学，医療機器安全管理学など，３年生で学ぶ科目へ向けた視野を獲得する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回，講義内容に関連した演習問題を配付する．演習問題を用いて復習をしっかりすること．理解が不十分な項目については早めに対応し，理解で切りように努力すること．

教科書

村林俊，臨床工学技士のための生体物性，コロナ社

参考書

必要に応じて参考書を紹介する．

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは原則として木曜日１時限とするが，質問等は随時受け付ける．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明，小テスト	復習：小テストの復習（2 時間）	稲田
2	生体物性の概要	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
3	生体物性に重要な生体物質	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
4	生体の電気的特性（受動的特性）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
5	生体の電気的特性（能動的特性）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
6	生体の電気的特性（電流の生体作用，電磁界の生体作用）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
7	生体の音響特性	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
8	生体の音響特性	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
9	生体の力学的特性（力学的性質）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
10	生体の力学的特性（生体組織の力学モデル，生体組織の力学的特性）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
11	生体の流体的特性	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
12	生体の熱的特性	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
13	生体の光特性	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
14	生体の放射線特性	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容，全演習問題の確認（2 時間） 復習：全演習問題の復習（2 時間）	稲田

成績評価方法と基準	割合
1.　定期試験	1.　100%

授業科目名	生体材料工学(工学)				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング	SS202	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

現代の医療では様々な医用材料が医療用具や医療機器に用いられている．安全かつ適切な医療を提供するためには，医用材料の特性を正しく理解する必要がある．本講義では，まず医用材料を学ぶために必要な化学の基礎について講義し，次に医用材料の種類，性質，用途，生体適合性等について講義する．

到達目標

1. 医用材料の基礎となる化学の基礎（金属材料，無機材料，有機材料）について理解し，説明することができる
2. 医用材料の種類について理解し，説明することができる
3. 医用材料の応用について理解し，説明することができる
4. 医用材料と生体との相互作用について理解し，説明することができる
5. 医用材料の生体適合性について理解し，説明することができる
6. 医用材料の滅菌について理解し，説明することができる
7. 医用材料の安全性評価について理解し，説明することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回，講義内容に関連した演習問題を配付する．演習問題を用いて復習をしっかりすること．理解が不十分な項目については早めに対応し，理解できるように努力すること．

教科書

堀内孝，村林俊，医用材料工学，コロナ社

参考書

必要に応じて参考書を紹介する．

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは原則として木曜日 1 時限とするが，質問等は随時受け付ける．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明，小テスト，医用材料の基礎（原子の結合と材料）	復習：小テストの復習（2 時間）	稲田
2	医用材料の基礎（金属材料，無機材料）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
3	医用材料の基礎（有機材料）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
4	医用材料の種類（金属材料，無機材料	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
5	医用材料の種類（高分子材料，生体由来材料）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
6	医用材料の応用（非観血的組織代替材料）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
7	医用材料の応用（観血的組織代替材料）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
8	医用材料の応用（体外循環治療用材料）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
9	医用材料の応用（インタフェース材料）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
10	医用材料の生体適合性（医用材料と生体の相互作用）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
11	医用材料の生体適合性（血栓形成反応）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
12	医用材料の生体適合性（補体活性化反応，その他の反応）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
13	医用材料の滅菌	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
14	医用材料の安全性評価	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容，全演習問題の確認（2 時間） 復習：全講義内容，全演習問題の復習（2 時間）	稲田

成績評価方法と基準	割合
1. 定期試験	1. 100%

授業科目名	バイオメカニクス(工学)（Biomechanics）				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

バイオメカニクスは，生体の構造や機能を力学的に解析し，医学に役立てる学問である．本講義では，流体力学，熱力学，材料力学，機械力学等を講義する．

到達目標

1．圧力について理解し，問題を解くことができる
2．流体力学に関する基礎的な定理，法則を理解し，問題を解くことができる
3．熱に関する概念，法則を理解し，問題を解くことができる
4．機械要素の強度，変形に関する概念，法則を理解し，問題を解くことができる
5．機械要素について理解し，説明できる
6．剛体の力学に関する原理を理解し，問題を解くことができる
7．音波，超音波に関する法則を理解し，問題を解くことができる
8．摩擦に関する概念について理解し，説明することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回，前回の講義内容に関する演習問題を配付する．演習問題を用いて復習をしっかりすること．理解が不十分な項目については早めに対応し，理解できるように努力すること．

教科書

馬渕清資，医用機械工学，コロナ社

参考書

必要に応じて参考書を紹介する．

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは原則として木曜日１時限とするが，質問等は随時受け付ける．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業形態の説明，小テスト，流体力学（流体静力学）	復習：小テストの復習（2 時間）	稲田
2	流体力学（連続の式，トリチェリーの式，グレアムの法則，ベルヌーイの定理）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
3	流体力学（ハーゲン・ポアゼイユの法則）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
4	流体力学（層流・乱流，粘度測定，水撃）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
5	熱力学（温度と熱）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
6	熱力学（温度管理）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
7	材料力学（強度，応力，ひずみ）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
8	材料力学（弾性係数，梁の曲げ，安全率）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
9	機械要素	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
10	機械力学（剛体の力学）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
11	機械力学（リンク機構）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
12	波動工学	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
13	トライボロジー（固体の接触，摩擦）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
14	トライボロジー（摩耗，潤滑）	予習：教科書を用いた講義内容の確認（2 時間） 復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	稲田
15	講義全体のまとめ	予習：全講義内容，全演習問題の確認（2 時間） 復習：全講義内容，全演習問題の復習（2 時間）	稲田

成績評価方法と基準	割合
１．　定期試験	１．　100%

授業科目名	バイオレオロジー(工学)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄、福島　修一郎	
科目ナンバリング	SS204	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

生体組織の力学的特性は弾性・粘性・塑性のいずれか１つに分類される単純なものではなく、これら３つの特性が混在した複雑な様相を呈する。こうした力学的特性を対象とする学問分野をレオロジーといい、とりわけ生体組織を対象とするレオロジーをバイオレオロジーという。血管の変形や血液の流動といった複雑な現象の理解には、単純化された数理モデルから出発することがその助けとなるため、単に現象の定性的記述にとどまらず、数式を用いた現象の表現などを教授する。

到達目標

バイオレオロジーを理解するための数学・物理学の基礎を理解する。循環器病の診断に用いられるカテーテルや超音波装置で得られる心臓や血管内の圧や血流速度の合理的解釈を身につける。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

やや高度な数学や物理学の理解が必要になります。数式示す意味や物理的な解釈の方法に慣れてください。

教科書

無し。講義資料を配布する。

参考書

菅原基晃、前田信治 著、血流のレオロジー、コロナ社、2003

研究室／オフィスアワー

C棟７階研究室 720/金曜日１０時～１２時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	入門、バイオレオロジーとは何か	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 福島　修一郎
2	血流と疾患	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	福島　修一郎
3	流体、固体とは何か	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	福島　修一郎
4	弾性固体の性質、記述方法	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	福島　修一郎
5	流体の性質、記述方法	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	福島　修一郎
6	"中間的性質"をもつ物体（粘弾性体、弾性流体）の記述方法	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	福島　修一郎
7	血液の物性の評価方法（レオメーターなど）	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	福島　修一郎
8	まとめ、研究紹介	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	福島　修一郎

成績評価方法と基準	割合
①平常点評価〈DP①〉 ②課題評価（レポート提出、内容など）〈DP①〉	①40% ②60%

授業科目名	計測工学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング	SS205	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

生体医用計測機器は日進月歩で技術が進化しており、臨床工学に必須の技術であり、電子工学の応用である様々な手法が開発されている。生体情報の性質や生体計測法の基本技術である運動系、電気電子系、熱系、生体系の各システムにおいて利用されているセンサの原理、計測用センサについての電気・電子工学的知識を修得し、センシングを有した新たな機器・システム開発の基礎を修得し、医用計測の原理とその応用機器について学びます。

到達目標

１．生体計測の基礎が理解できる。〈DP①〉
２．医療現場で用いられる生体計測装置の構造と機能が理解できる。〈DP①〉
３．種々の測定機器の原理を知り、説明できる。〈DP①〉
４．アナログ式とディジタル式の測定器の、それぞれの特徴や長所を説明できる。〈DP①〉
５．応用技術が理解できる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

電磁気学、電気回路、電子回路などに関する基礎的な知識と理解のあることが前提となります。
電気工学、電子工学を十分に復習しておいてください。

教科書

臨床工学講座 生体計測装置学　日本臨床工学技士教育施設協議会監修　医歯薬出版株式会社　ISBN978-4-263-73406-3

参考書

生体計測工学入門　橋本成広著　コロナ社 ISBN 4-339-00720-X

研究室／オフィスアワー

片山俊郎研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	単位系と標準：基本単位と組立単位	予習：(1 時間)目的、授業計画、到達目標を知る。 復習：(1 時間)単位系、次元についてまとめる。	片山
2	誤差の種類と特徴	予習：(1 時間)誤差について教科書を読む。 復習：(1 時間)系統誤差、偶然誤差についてまとめる。	片山
3	雑音とその対策	予習：(1 時間)雑音について教科書を読む。 復習：(1 時間)雑音とその対策についてまとめる。	片山
4	差動増幅と CMRR	予習：(1 時間)雑音について教科書を読む。 復習：(1 時間)差動増幅と CMRR についてまとめる。	片山
5	トランスデューサと入力インピーダンス	予習：(1 時間)トランスデューサについて調べる。 復習：(1 時間)トランスデューサについてまとめる。	片山
6	電極	予習：(1 時間)電極について調べる。 復習：(1 時間)電極についてまとめる。	片山
7	抵抗型センサ(ストレインゲージ等)	予習：(1 時間)抵抗型センサについて調べる。 復習：(1 時間)抵抗型センサについてまとめる。	片山
8	圧センサ(変位→抵抗)	予習：(1 時間)圧センサについて調べる。 復習：(1 時間)圧センサについてまとめる。	片山
9	圧センサ(圧電素子)	予習：(1 時間)圧電素子について調べる。 復習：(1 時間)圧電素子についてまとめる。	片山
10	超音波センサ１	予習：(1 時間)超音波について調べる。 復習：(1 時間)超音波についてまとめる。	片山
11	超音波センサ２	予習：(1 時間)ドプラ法について調べる。 復習：(1 時間)ドプラ法についてまとめる。	片山

12	温度センサ１	予習：(2 時間)サーミスタについて調べる。 復習：(2 時間)サーミスタについてまとめる。	片山
13	温度センサ２	予習：(1 時間)サーモパイルについて調べる。 復習：(1 時間)サーモパイルについてまとめる。	片山
14	光センサ１	予習：(1 時間)光センサについて調べる。 復習：(1 時間)光センサについてまとめる。	片山
15	光センサ２	予習：(1 時間)赤外光について調べる。 復習：(1 時間)赤外光についてまとめる。	片山
成績評価方法と基準			割合
①小テスト<DP①> ②定期試験<DP①> 出席基準：2/3 以上			① 30% ② 70%

授業科目名	生体情報処理工学(工学)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄、稲田　慎	
科目ナンバリング	SS206	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択
授業概要					
生体情報の基礎となる知識を身につける、特に脳神経系および心臓循環器系の情報処理機構を学び、生体情報の理論的基礎や処理手法について学習する。さらに、医用画像処理や人工心臓についても基本知識や最新の研究成果などについて知識を広める。					
到達目標					
脳神経系および心臓循環器系を中心に種々の生体情報の特性を理解する。<DP①> 生体情報のデータ処理やモデル・シミュレーションの手法の考え方を身につける。<DP①>					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
臨床工学技士として業務に役立つ知識を身につけ、できれば研究分野への応用にも興味を広げてほしいと思います。					
教科書					
無し。講義資料を配布する。					
参考書					
授業の中で紹介します。					
研究室／オフィスアワー					
C 棟 7 階研究室 720/金曜日１０時から１２時					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：生体の情報処理に学ぶ	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄
2	脳神経系の情報処理（１）：ニューロンと神経回路	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄
3	脳神経系の情報処理（２）　学習・記憶・AI	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄
4	脳神経系の情報処理（３）：AI その２	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄
5	脳の疾患と外科治療：脳神経外科領域での手術支援の進歩	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄（ゲストスピーカ）
6	脳神経系の情報処理（４）：AI　その３	復習：講義資料の確認とレポート提出	中沢一雄
7	心臓循環器系の情報処理（１）：心臓の機能と構造，心臓電気生理学概論	復習：講義資料の確認	稲田慎
8	心臓循環器系の情報処理（２）：心電図解析による不整脈発生起源の同定	復習：講義資料の確認	稲田慎
9	心臓循環器系の情報処理（３）：計算科学概論，活動電位モデル・心臓形状モデルの構築	復習：講義資料の確認	稲田慎
10	心臓循環器系の情報処理（４）：計測とシミュレーションによる心臓刺激伝導系の解析	復習：講義資料の確認	稲田慎
11	心臓循環器系の情報処理（５）：スーパーコンピュータを用いた大規模シミュレーションによる不整脈解析	復習：講義資料の確認とレポート提出	稲田慎
12	人工心臓：血液循環に使用される医療機器の解説	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄（ゲストスピーカ）
13	医用画像処理（１）	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄（ゲストスピーカ）
14	医用画像処理（２）	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄（ゲストスピー

			カ）
15	医用画像処理（３）	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間	中沢一雄（ゲストスピーカ）
成績評価方法と基準			割合
①平常点評価<DP①> ②課題評価（レポート提出、内容など）<DP①>			①40% ②60%

授業科目名	医用機器学概論(工学)				
主担当教員	布江田　友理		担当教員	布江田　友理	
科目ナンバリング	SS207	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

医用機器の全体像と臨床医療における医用機器の役割を教授する。
具体的には、病院内の医療機器安全管理責任者の設置意義を説明し、生体計測・監視用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、治療用機器の構成、原理、使用環境および使用条件、医用機器で使用する電磁波、超音波、放射線、レーザなどの人体への影響と適用原理、医用機器の事故事例と安全対策、医用機器適用時の倫理などについて解説する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 様々な医療機器の構造・機能の特徴・概要について説明できる。<DP①④>
2. 第２種 ME 検定試験問題に対応できる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め調べ、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。

教科書

「イラスト図解医療機器と検査・治療のしくみ」日本実業出版社

参考書

ME の基礎知識と安全管理改訂第６版　（監修）日本生体医工学会 ME 技術教育委員会　南江堂　ISBN:　978-4-524-26959-4
医療機器＆材料ディテールＢＯＯＫ 医学通信社　ISBN: 978-4-87058-660-4

研究室／オフィスアワー

研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医療機器とは	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
2	医療機器の安全対策	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
3	生体計測機器１；心電計、心電図モニタ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
4	生体計測機器２；血圧計	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
5	生体計測機器３；体温計	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
6	生体計測機器４；パルスオキシメータ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
7	生体計測機器５；カプノメータ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
8	講義全体のまとめ１	予習：講義 1～8 に関する問題を解き、これまでの講義内容を理解する。	

		復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
9	治療の基礎	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
10	医用治療機器 1;　輸液ポンプ・シリンジポンプ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
11	医用治療機器 2;　除細動器　AED	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
12	医用治療機器 3;　ペースメーカ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
13	講義全体のまとめ 2 （グループディスカッション）	予習：講義 3～12 までの講義内容の把握 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
14	講義全体のまとめ 3 （講義に関わる問題および第 2 種 ME 実力検定試験範囲の問題演習）	予習：講義 9～13 に関する問題を解き、これまでの講義内容を理解する。 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
15	医療機器の事故事例　安全対策	予習：医療機器の事故事例を調べ、安全対策を考える。 復習：キーワードの確認・授業をもとに自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	

成績評価方法と基準	割合
1. 平常点評価（受講態度、小テスト、課題）＜DP①④＞ 2. 定期試験　　出題範囲：授業内に扱った全範囲（配布したプリントも含む）＜DP①④＞ 3.　2/3 回以上出席が必要である。	1．40% 2．60%

授業科目名	生体計測装置学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、小宮山　恭弘、脇　英彦	
科目ナンバリング	SS208	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生体計測は様々な生体現象を計測対象としている。従って、生体現象である能動的電気現象、熱輸送現象、生体内圧や血流等の物理現象及び受動的物理エネルギの反応現象を理解するために、生体電気計測機器、生体温度計測機器、血圧・血流計測機器、呼吸機能計測機器及び画像計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性などについて学びます。
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です。

到達目標

1.　生体計測装置の原理と特徴を理解する。<DP①>
2.　生体計測装置により計測させる生体現象を理解する。<DP①>。
3.　生体電気計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
4.　生体温度計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
5.　血圧・血流計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
6.　呼吸機能計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
7.　画像計測機器の原理、仕組み、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
8.　心電計の機器原理、仕組、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
9.　脳波計の機器原理、仕組、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
10. 筋電計の機器原理、仕組、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
11. 呼吸機能装置の機器原理、仕組、得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
12. 超音波診断装置の機器原理特性を理解する。<DP①>。
13. 超音波診断装置から得られるデータの特性を理解する。<DP①>。
14. 核磁気共鳴画像計測装置の機器原理を理解する。<DP①>。
15. 核磁気共鳴画像計測装置から得られるデータの特性を理解する。<DP①>。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 生体計測装置学の原理を理解するための電気・電子工学の知識を深める。
2. 生体計測装置により計測させる生体現象を理解するように努める。
3. 生体計測装置の原理を理解し、その特徴を説明できるようにする。

教科書

臨床工学講座 生体計測装置学　日本臨床工学技士教育施設協議会監修　医歯薬出版株式会社　ISBN978-4-263-73406-3

参考書

最新臨床検査学講座 生理機能検査学 東條尚子・川良徳弘緒　医歯薬出版 ISBN-13: 978-4263223680

研究室／オフィスアワー

脇英彦研究室／
小宮山恭弘研究室／
片山俊郎研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	生体計測装置学について	予習：(1 時間)目的、授業計画、到達目標を知る。 復習：(1 時間)授業内容をノートにまとめる。	片山
2	非観血式血圧計 1	予習:(1 時間)非観血式について教科書を読む。 復習：(1 時間)授業内容をノートにまとめる。	片山
3	非観血式血圧計 2	予習:(1 時間)非観血式について教科書を読む。 復習：(1 時間)授業内容をノートにまとめる。	片山
4	観血式血圧計 1	予習：(1 時間)観血式について教科書を読む。 復習：(1 時間)授業内容をノートにまとめる。	片山
5	観血式血圧計 2	予習：(1 時間)観血式について教科書を読む。 復習：(1 時間)授業内容をまとめる。	片山
6	血流計	予習：(1 時間)血流計について教科書を読む。 復習：(1 時間)授業内容をまとめる。	片山
7	心拍出量計	予習：(1 時間)心拍出量計について教科書を読む 復習：(1 時間)心拍出量計についてまとめる。	片山

8	心電計	予習：(1 時間)心電計について教科書を読む。 復習：(1 時間)心電計についてまとめる。	小宮山　脇
9	脳波計	予習：(1 時間)脳波計について教科書を読む。 復習：(1 時間)脳波計についてまとめる。	小宮山　脇
10	筋電計	予習：(1 時間)筋電計について教科書を読む。 復習：(1 時間)筋電計についてまとめる	小宮山　脇
11	呼吸機能装置	予習：(1 時間)呼吸機能装置について教科書を読む。 復習：(1 時間)呼吸機能装置についてまとめる。	小宮山　脇
12	超音波診断装置 1	予習：(1 時間)超音波診断装置について教科書を読む。 復習：(1 時間)超音波診断装置についてまとめる。	小宮山　脇
13	超音波診断装置 2	予習：(1 時間)超音波診断装置について教科書を読む。 復習：(1 時間)超音波診断装置についてまとめる。	小宮山 脇
14	核磁気共鳴画像計測装置 1	予習：(1 時間)核磁気共鳴画像計測装置について教科書を読む。 復習：(1 時間)核磁気共鳴画像計測装置についてまとめる。	小宮山　脇
15	核磁気共鳴画像計測装置 2	予習：(1 時間)核磁気共鳴画像計測装置について教科書を読む。 復習：(1 時間)核磁気共鳴画像計測装置についてまとめる。	脇 小宮山
成績評価方法と基準			割合
①小テスト<DP①> ②定期試験<DP①>			① 30% ② 70%

授業科目名	生体計測装置学実習(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、小宮山　恭弘、脇　英彦	
科目ナンバリング	SS209	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

生体計測装置は日進月歩で技術が進化しており、臨床工学に必須の技術であり、電子工学の応用である様々な手法が開発されている。生体情報の性質や生体計測法の基本技術である電気的手法、物理学的手法に基づく生体計測の機器構成とその操作法について実習を通して学修します。

到達目標

1. 生体計測装置の原理や構造について理解する。<DP①④>
2. 生体計測装置の適切な操作および保守点検ができるようになる。<DP①④>
3. 生体計測装置の検査結果を理解し、生理的現象について理解できるようになる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

人体の構造と機能および臨床生理学について復習をし、生体計測装置学で学んだ知識を整理すること。

教科書

臨床工学講座 生体計測装置学　日本臨床工学技士教育施設協議会監修　医歯薬出版株式会社　ISBN978-4-263-73406-3

参考書

最新臨床検査学講座 生理機能検査学 東條尚子・川良徳弘緒　医歯薬出版 ISBN-13: 978-4263223680

研究室／オフィスアワー

脇英彦研究室／
小宮山恭弘研究室／
片山俊郎研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンンテーション	予習：シラバスの確認 復習：注意事項の確認予習 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山 脇
2	心電計・心電モニタ	予習：心電計・心電モニタについて教科書を読む。 復習：実習結果からレポートを作成する。 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山
3	非観血式血圧計・観血式血圧計	予習：非観血式血圧・観血式血圧計について教科書を読む。 復習：実習結果からレポートを作成する。 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山
4	パルスオキシメータ・血圧脈波検査装置	予習：パルスオキシメータ・血圧脈波検査装置について教科書を読む。 復習：実習結果からレポートを作成する。 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山
5	スパイロメータ・カプノメータ	予習：スパイロメータ・カプノメータについて教科書を読む。 復習：実習結果からレポートを作成する。 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山
6	心電図計測	予習：心電計について教科書を読む。 復習：実習結果からレポートを作成する。 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山
7	呼吸計測	予習：心電計について教科書を読む。 復習：実習結果からレポートを作成する。 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山
8	心電図検査	予習：心電計について教科書を読む。 復習：実習結果からレポートを作成する。 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇

9	負荷心電図	予習：負荷心電図の種類について調べる 復習：負荷心電図の意義についてまとめる 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇
10	呼吸機能検査実習 1	予習：呼吸機能検査について教科書を読む 復習：実習内容についてまとめる 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇
11	呼吸機能検査実習 2	予習：呼吸機能検査について教科書を読む 復習：実習内容についてまとめる 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇
12	筋電図検査(神経伝導速度検査)	予習：筋電図検査について教科書を読む 復習：実習内容についてまとめる 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇
13	超音波検査 1 B モード法	予習：超音波査について教科書を読む 復習：実習内容についてまとめる 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇
14	超音波検査 2 カラードプラ法	予習：超音波査について教科書を読む 復習：実習内容についてまとめる 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇
15	超音波検査 3 FFT 解析	予習：超音波査について教科書を読む 復習：実習内容についてまとめる 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	小宮山　脇
成績評価方法と基準			割合
① 平常点評価(受講態度、発表内容、議論への貢献度など) <DP①④> ② 課題評価(レポート提出、内容など)<DP①④> 出席基準：4/5 以上			① 60% ② 40%

授業科目名	医用治療機器学(工学)				
主担当教員	布江田　友理		担当教員	布江田　友理、西垣　孝行、加納　寛也	
科目ナンバリング	SS210	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床医学における治療には様々あり、薬剤療法における内科的療法、手術や人工臓器療法を中心とした外科的療法、物理エネルギーを用いた理学・放射線療法、精神療法に大別される。最近では、薬剤と何らかの物理的作用を併用した薬剤溶出性ステントや、画像支援下のナビゲーション手術による経内視鏡や経カテーテル的治療法があり、治療機器を用いて治療が行われることが多い。そのため、臨床工学技士の業務内容は拡大しており、原理や機能、操作運用、保守管理に関わる基礎知識をもつ必要がある。
　本講義では、各治療機器の原理および構造を学び、治療効果ならびに保守管理技術を教授する。

到達目標

1. 医用治療機器学における各機器について、原理構造、操作運用、保守管理に係る基礎知識を深め、理解する。<DP①④>
2. 第２種 ME 技術実力検定試験の範囲内容を理解する。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書の「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め読み、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。

教科書

臨床工学講座 医用治療機器学 第２版 医歯薬出版株式会社 ISBN: 978-4-263-73419-3

参考書

・ME の基礎知識と安全管理　第６版　南江堂　ISBN:　978-4-524-26959-4
・講義中に紹介する書籍

研究室／オフィスアワー

各教員　研究室および教職員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	機械的治療機器　(輸液ポンプとシリンジポンプ)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノート作成 1時間予習・復習を行う。	西垣
2	電磁気治療機器(体外式・体内式ペースメーカ)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	西垣
3	電磁気治療機器(除細動器と ICD)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	西垣
4	最新の不整脈治療機器(PM と ICD と CRT-D)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	西垣
5	最新の不整脈カテーテル治療機器（カテーテルアブレーション装置）	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	西垣
6	機械的治療機器(吸引器)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	加納
7	機械的治療機器(結石砕石装置)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	加納
8	機械的治療機器(冠動脈インターベンション)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	加納
9	機械的治療機器(大動脈と末梢血管に対するインターベンション)	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	加納
10	レーザ手術装置	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田

11	超音波治療機器	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田
12	内視鏡	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田
13	電気手術器と熱治療機器	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田
14	治療機器の最新状況1	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	加納・布江田
15	治療機器の最新状況2	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	加納・布江田
成績評価方法と基準			割合
出席基準：2/3回以上必要である。 ①平常点評価（受講態度、講義ノートの確認、小テストを含む） ②試験評価＜DP①④＞			①40% ②60%

授業科目名	医用治療機器学実習(工学A)				
主担当教員	布江田　友理		担当教員	布江田　友理、西垣　孝行、加納　寛也	
科目ナンバリング	SS211	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	水曜3限 水曜4限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

生体に物理的エネルギーを加えて治療を行う医療機器について、原理や構造を含めて治療効果および組織障害などの副作用について、医用治療機器学で学修しました。本講義では、その知識をもとに、実際に治療機器を触れながら、治療機器の原理および操作方法、保守管理技術を学修する。さらに、医用治療機器の概要及び注意点について説明できる能力を身につける。

到達目標

1. 医用治療機器の機能および構造と保守管理技術を理解させ、実践できる。＜DP①④＞
2. 医用治療機器に用いる物理エネルギーによる生体および他の機器への影響を理解し、説明できる。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。また、臨床現場で実践している外部講師も招待するため、臨床実習を想定し、実習に取り組んで下さい。

教科書

実習前に配布される実習書や参考資料（プリント）

参考書

開講中の医用治療機器学および２年までに開講された医用工学、医用機器学概論、人体機能補助装置学の教科書・講義資料
・MEの基礎知識と安全管理　第６版　南江堂　ISBN:　978-4-524-26959-4
・臨床工学講座 医用治療機器学 第２版 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-73419-3

研究室／オフィスアワー

各実習担当のオフィスアワー

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【電気メス】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
2	【電気メス】保守点検・操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
3	【除細動器】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
4	【除細動器】保守点検・操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
5	【経皮的血管内治療器1】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
6	【経皮的血管内治療器1】保守点検・操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
7	【経皮的血管内治療器2】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
8	【経皮的血管内治療器2】保守点検・操作技術	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準	布江田、加

	の演習・実習	備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	納、西垣
9	【心臓ペースメーカ】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
10	【心臓ペースメーカ】操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
11	【心臓ペースメーカ】保守点検の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
12	【内視鏡外科手術器】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
13	【内視鏡外科手術器】操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
14	【内視鏡外科手術器】保守点検の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
15	医用治療機器に関するまとめおよび問題演習	予習：1～14で使用した治療機器の確認 復習：各治療機器に関する問題作成 1時間予習・復習を行う。	布江田、加納、西垣
成績評価方法と基準			割合
全実習を出席し、各項目のレポートを提出することが必要である。 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など）DP1,4 ②課題評価（レポート提出、内容など）DP1,4			①50% ②50%

授業科目名	医用治療機器学実習(工学B)				
主担当教員	布江田　友理		担当教員	布江田　友理、西垣　孝行、加納　寛也	
科目ナンバリング	SS211	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

生体に物理的エネルギーを加えて治療を行う医療機器について、原理や構造を含めて治療効果および組織障害などの副作用について、医用治療機器学で学修しました。本講義では、その知識をもとに、実際に治療機器を触れながら、治療機器の原理および操作方法、保守管理技術を学修する。さらに、医用治療機器の概要及び注意点について説明できる能力を身につける。

到達目標

1. 医用治療機器の機能および構造と保守管理技術を理解させ、実践できる。＜DP①④＞
2. 医用治療機器に用いらえる物理エネルギーによる生体および他の機器への影響を理解し、説明できる。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。また、臨床現場で実践している外部講師も招待するため、臨床実習を想定し、実習に取り組んで下さい。

教科書

実習前に配布される実習書や参考資料（プリント）

参考書

開講中の医用治療機器学および２年までに開講された医用工学、医用機器学概論、人体機能補助装置学の教科書・講義資料
・MEの基礎知識と安全管理　第６版　南江堂　ISBN:　978-4-524-26959-4
・臨床工学講座 医用治療機器学 第２版 医歯薬出版株式会社 ISBN978-4-263-73419-3

研究室／オフィスアワー

各実習担当のオフィスアワー

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【電気メス】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
2	【電気メス】保守点検・操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
3	【除細動器】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
4	【除細動器】保守点検・操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
5	【経皮的血管内治療器1】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
6	【経皮的血管内治療器1】保守点検・操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
7	【経皮的血管内治療器2】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
8	【経皮的血管内治療器2】保守点検・操作技術	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準	布江田、加

	の演習・実習	備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	納、西垣
9	【心臓ペースメーカ】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
10	【心臓ペースメーカ】操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
11	【心臓ペースメーカ】保守点検の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
12	【内視鏡外科手術器】特性・原理の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
13	【内視鏡外科手術器】操作技術の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
14	【内視鏡外科手術器】保守点検の演習・実習	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	布江田、加納、西垣
15	医用治療機器に関するまとめおよび問題演習	予習：1～14で使用した治療機器の確認 復習：各治療機器に関する問題作成 1時間予習・復習を行う。	布江田、加納、西垣
成績評価方法と基準			割合
全実習を出席し、各項目のレポートを提出することが必要である。 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など）DP1,4 ②課題評価（レポート提出、内容など）DP1,4			①50% ②50%

授業科目名	画像診断装置学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、長井　英仁	
科目ナンバリング	SS212	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

人体を傷つけることなく、外部からは目視できない生体内部を画像化し、断層像や 3 次元画像を得る医用画像装置の普及は目覚ましいものがあります。本講義では、臨床現場で利用されている超音波診断装置、X 線 CT、MRI、核医学診断装置などの装置としての原理を学びます。本講義では，臨床現場で利用されている，今後，医用画像分野における情報通信工学の技術者となるために必要な基礎を築くことを目的とします。(片山)
放射線の基礎と医療への応用について各モダリティについて概説する。
医療における放射線診断、X 線検査、CT 検査、MRI 検査、血管造影検査、SPECT 検査、PET 検査、放射線治療、放射線の安全管理に至るまで放射線の臨床応用に関して幅広く講義する。
放射線の医療利用への理解と放射線に対する正しい知識を習得することを目標とする。(長井)

到達目標

医用画像装置の原理に関する知識を身につけ、構造、要素技術、技術変遷、臨床利用などを知識として習得する(片山)<DP①>
①放射線の種類と特徴を説明できる。　②放射線医療機器について、各機器の医療画像の特徴・検査内容を説明できる。　③医療従事者の被ばく低減の方法と管理について説明できる。(長井))<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書の「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め読み、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。(片山)
課題は必ず提出して下さい。(長井)

教科書

「臨床工学講座　生体計測装置学」医歯薬出版

参考書

「ME の基礎知識と安全管理」南江堂

研究室／オフィスアワー

南棟 7 階研究室 21／電気がついていれば在室です。質問があればいつでもどうぞ。(片山)
非常勤講師控室/授業の前後のみ対応可能(長井)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【画像診断装置学】種類と特徴 【超音波診断装置】機器構成と原理	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
2	【超音波診断装置学】超音波検査とエコー画像について	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
3	【内視鏡検査装置学】内視鏡検査機器の構成と画像	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
4	【内視鏡手術装置学】内視鏡手術機器の構成と画像	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
5	【脈管カテーテル検査装置学】脈管カテーテル検査とは	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
6	【脈管カテーテル検査装置学】機器構成と原理	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
7	【脈管カテーテル検査装置学】手技と画像	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
8	【脈管カテーテル検査装置学】症例と禁忌事項	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山

9	放射線とアイソトープの基礎１	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	長井
10	放射線の利用、放射線診断１　X線機器	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	長井
11	放射線診断２　CT	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	長井
12	放射線診断３　ANGIO	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	長井
13	放射線診断４　SPECT	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	長井
14	放射線診断5　PET	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	長井
15	授業のまとめ(総括)・学習到達度の確認テスト	予習：講義ノートの確認・テスト対策 復習： 2時間予習を行う。	長井
成績評価方法と基準			割合
片山：①平常点評価（受講態度、講義ノートの確認））<DP①> ②試験評価)<DP①> 長井:①評価基準：授業中に行う小テスト・課題)<DP①> ②評価基準：定期試験)<DP①>			片山： ①30% ②70% 長井： ①30% ②70%

授業科目名	医用監視システム装置学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング	SS213	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

集中治療室では、術後症例、多臓器障害例、急性呼吸器不全、慢性呼吸器不全の急性憎悪、急性心 不全、意識障害等あらゆる重症疾患患者が収容されており、血圧、酸素、体温、心電図モニタ等の各種監視装置が使用されている。病態と治療内容、各種モニタを観察し集中治療領域における医療機器について理解を深める。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

到達目標

集中治療室における臨床工学技士として基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解する。 <DP①>
①集中治療室における医用監視システム装置の機能について理解する。<DP①>
②循環モニタの構成と機能と適応疾患について理解する。<DP①>
③呼吸モニタの構成と機能と適応疾患について理解する。<DP①>
④代謝モニタの構成と機能と適応疾患について理解する。<DP①>
⑤各種モニタの実際について理解する。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 医用監視システム装置学の原理を理解するための電気・電子工学の知識を深める。
2. 医用監視システム装置により計測させる生体現象を理解するように努める。
3. 医用監視システム装置の原理を理解し、その特徴を説明できるようにする。

教科書

臨床工学講座 生体計測装置学　日本臨床工学技士教育施設協議会監修　医歯薬出版株式会社　ISBN978-4-263-73406-3

参考書

ICU・CCUのベッドサイドモニタリング―写真と図解でマスター！　妙中信之監修　メディカ出版　ISBN-13: 978-4840421492

研究室／オフィスアワー

片山俊郎研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医用監視システムとは	予習：目的、授業計画、到達目標を知る。 復習：授業内容をまとめる。	片山
2	循環モニタ(心電図 1)	予習：心電図について教科書を読む。 復習：授業内容をまとめる。	片山
3	循環モニタ(心電図 2)	予習：循環モニタについて教科書を読む 復習：心電図モニタについてまとめる。	片山
4	循環モニタ(血圧)	予習：血圧について教科書を読む。 復習：血圧モニタについてまとめる。	片山
5	循環モニタ(心機能評価)	予習：心機能評価について教科書を読む。 復習：心機能評価についてまとめる。	片山
6	循環モニタ(中心静脈圧・肺動脈圧)	予習：中心静脈圧・肺動脈圧について教科書を読む。 復習：中心静脈圧・肺動脈圧について纏める	片山
7	呼吸モニタ(パルスオキシメータ)	予習：パルスオキシメータについて教科書を読む。 復習：パルスオキシメータについてまとめる。	片山
8	呼吸モニタ(カプノメータ 1)	予習：呼吸について教科書を読む。 復習：呼吸モニタについてまとめる。	片山
9	呼吸モニタ(カプノメータ 2)	予習：呼吸モニタについて教科書を読む。 復習：カプノメータについてまとめる。	片山
10	呼吸モニタ(血液ガス)	予習：血液ガスについて教科書を読む。 復習：血液ガスについてまとめる。	片山
11	呼吸モニタ(酸塩基平衡)	予習：酸塩基平衡について教科書を読む。 復習：酸塩基平衡についてまとめる。	片山
12	代謝モニタ(尿量・性状)	予習：尿量・性状について教科書を読む。 復習：尿量・性状についてまとめる。	片山

13	代謝モニタ(体温１)	予習：体温について教科書を読む。 復習：体温モニタについてまとめる。	片山
14	代謝モニタ(体温２)	予習：代謝モニタについて教科書を読む。 復習：体温測定についてまとめる。	片山
15	まとめ	予習：まとめたノートを確認する。 復習：追加・補足を行う。	片山
成績評価方法と基準			割合
①小テスト〈DP①〉 ②定期試験〈DP①〉			① 30% ② 70%

授業科目名	体外循環装置学(工学)				
主担当教員	西垣　孝行		担当教員	西垣　孝行	
科目ナンバリング	SS301	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

生命維持管理装置の一つである人工心肺システムを構成する材料をはじめ血液ポンプ、人工肺、フィルター、リザーバなどについてその基礎から最新の技術面を含めて教授する。まず、血液ポンプ、人工肺、人工心肺の原理と構成について解説する。次に血液に対する影響、内分泌、免疫への影響、循環動態などの体外循環の病態生理について解説し、さらに人工心肺充填液、適正灌流量、モニタリング、心筋保護などの体外循環技術を学習させる。また体外循環のトラブル対策、合併症など安全管理について教授する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

人工心肺の歴史から現在の臨床現場で使用されているシステム構成と特徴が説明できる。＜DP①＞
体外循環の病態生理が説明できる。＜DP①＞
人工心肺装置の操作に必要なモニターや充填液組成、心筋保護液組成などが説明できる。＜DP①＞
人工心肺装置のトラブルや合併症の対策について、説明できる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

人工心肺装置は、全身の生理学や解剖学、血液学など、非常に多岐にわたる基礎知識を患者さんの病態に合わせて結びつけながら学習しなければなりません。さらに人工心肺の管理中は、非生理学と言われる程、人体は非常に特殊な状況になります。予習・復習を必ず実施してください。

教科書

臨床工学講座「生体機能代行装置学　体外循環装置」、医歯薬出版株式会社、監修：一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会　編集：見目 恭一、福長 一義、ISBN978-4-263-73411-7 C3347

参考書

日本体外循環技術医学会ホームページ「http://jasect.sakura.ne.jp/」
近畿地方会ホームページ「http://jasect-k.umin.jp/」

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階：教員室/オフィスアワー：水曜日午前、木曜日午前・午後
必ず事前に連絡してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	人工心肺の概要と歴史	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
2	人工心肺総論	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
3	人工心肺回路のデバイス構成	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
4	人工心肺装置の周辺機器と構成	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
5	生体との接続とトラブル	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
6	人工心肺装置のモニタリング	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	

7	心臓手術時の生体側モニタリング	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
8	体外循環の生理	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
9	体外循環の病態生理	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
10	心筋保護の目的と概念	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
11	心筋保護液の注入の種類と実際	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
12	通常の体外循環操作の実際	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
13	人工心肺の安全管理（トラブルシューティング）	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
14	人工心肺の離脱と止血操作	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	
15	人工心肺の実際のまとめ	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて自修を１時間実施する。	

成績評価方法と基準	割合
１、授業中に行う小テスト＜DP①＞ ２、小テストの範囲をレポート提出＜DP①＞ ＊提出期限・作成方法等の詳細は、授業内で説明します。 ３、定期試験＜DP①＞ 出題範囲：授業内で扱った範囲（小テストの内容を含む） ４、2/3 回以上の出席が必要。	１、３０％ ２、３０％ ３、４０％

授業科目名	体外循環療法学(工学)				
主担当教員	加納　寛也		担当教員	加納　寛也	
科目ナンバリング	SS302	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生命維持管理装置の一つである人工心肺装置を必要とする心臓血管外科手術の主な対象疾患である、虚血性心疾患・心臓弁膜症・大血管疾患・静脈疾患・先天性心疾患などを解説し、これら疾患に対する人工心肺操作の必要性に繋げ心臓血管外科手術内容の理解を深め、人工心肺装置にかかわる合併症などについても教授する。

到達目標

人工心肺の構成、原理が説明できる DP1
各疾患ごとの病態生理が説明できる DP1
各疾患に対する人工心肺操作の手順、原理について説明できる DP1

履修上の注意(学生へのメッセージ)

心臓血管外科手術は他の外科的手術とは異なり、特異性が増します。人工心肺装置と患者が手術中に繋がるなかで、その疾患を理解した人工心肺管理ができるよう身につけてください。体外循環学はもちろん病理学、血液学など幅が広いですが、気になることは調べて予習復習に取り組んでください。

教科書

臨床工学技士標準テキスト　第３版増補　2019　：金原出版
臨床工学講座　生体機能代行装置学　体外循環、医歯薬出版株式会社（2 年後期：体外循環装置学指定教科書）

参考書

日本循環器学会ガイドラインシリーズ　http://j-circ.or.jp/guideline/
体外循環装置学で使用した資料一式
心臓血管外科手術のまずはここから：メジカルビュー社
心臓血管外科手術エクセレンス・弁膜症の手術：中山書店
心臓血管外科手術エクセレンス・冠動脈疾患の手術：中山書店
臨床工学技士イエローノート（臨床編）：メジカルビュー社

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階：教職員室（事前予約制：金曜日を除く）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	心臓血管外科手術とは	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
2	人工心肺歴史/静脈疾患	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
3	虚血性心疾患	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
4	弁膜症疾患	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
5	心不全	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
6	大動脈疾患（大動脈瘤）	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認	加納

		復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	
7	大動脈疾患（急性大動脈解離）	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
8	中間試験（小テスト）	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
9	先天性心疾患	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
10	急性大動脈解離に合併する臓器灌流不全	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
11	胸腹部大動脈疾患１	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
12	胸腹部大動脈疾患２	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
13	急性大動脈解離に合併する臓器灌流不全	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
14	特殊症例	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納
15	総論、まとめおよび確認テスト	予習：今までの講義内容に沿った教科書および参考資料、作成ノートを用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深めこれまでの項目において自宅で合計30時間程度の自己学習をしておくこと	加納

成績評価方法と基準	割合
1、授業中に行う小テスト(DP1) 2、定期テスト(DP1)	1、 30% 2、 70%

授業科目名	体外循環実習(工学A)				
主担当教員	加納 寛也		担当教員	加納 寛也、西垣 孝行	
科目ナンバリング	SS303	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜４限 木曜５限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

体外循環装置学、体外循環療法学を教授し、実際の人工心肺装置に触れ操作し、実臨床で必要な技術知識を習得させる。実臨床に近い形で、シミュレータを用いた人工心肺操作や、トラブルシューティング等を習得し、模擬患者情報の収集から手術プランまでのカンファレンスを実施し、各疾患症例に対する人工心肺プランの提示、模擬手術の実際にいたるまで教授する。

到達目標

1、人工心肺回路のプライミング、心筋保護回路のプライミングができる DP1.4
2、心疾患、大動脈疾患の症例に応じた手術プラン、人工心肺管理プランの提示ができる DP1.4
3、人工心肺操作を振り返り、術後経過についてプレゼンテーションができる DP1.4

履修上の注意（学生へのメッセージ）

実習毎にて学生自身で手順書を作成します。体外循環装置学、体外循環療法学を十分に復習し理解したうえで実習に挑んでください。（購入した白衣・ズボン・シューズ持参の事）
病院での業務同様に準備から実習となります。2班に分け各項目を隔週で行い、班別からさらに2グループに分けし実習します。
時間厳守で開始できるよう事前確認を前回の班もしくは担当教員に確認してください

教科書

体外循環装置学および体外循環療法学に使用した教科書、資料

参考書

日本循環器学会ガイドラインシリーズ　http://j-circ.or.jp/guideline/
関連する講義で用いた資料、参考書

研究室／オフィスアワー

C棟７階：教職員室（事前予約制、金曜日不在：加納）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人工心肺回路プライミング	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、教員に確認すること	加納 西垣
2	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で2時間は調べる	加納 西垣
3	術前カンファレンス、術前模擬患者データ収集、画像検査収集、人工心肺プラン検討	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
4	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で2時間は調べる	加納 西垣
5	Ⅰ：術前カンファレンス手術および人工心肺操作・管理プレゼンテーション/Ⅱ：人工心肺装置メンテナンス及び内部構造	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を復習し自己学習で理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
6	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で2時間は調べる	加納 西垣
7	Ⅰ：模擬手術の実施/Ⅱ：人工肺酸素化能の評価	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
8	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で2時間は調べる	加納 西垣

9	Ⅰ：人工心肺装置メンテナンス及び内部構造/Ⅱ：術前カンファレンス手術および人工心肺操作・管理プレゼンテーション	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を復習し自己学習で理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
10	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
11	Ⅰ：人工肺酸素化能の評価/Ⅱ：術前カンファレンス手術および人工心肺操作・管理プレゼンテーション	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
12	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
13	術後カンファレンス、人工心肺操作・管理プレゼンテーション：模擬患者手術プランの発表	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
14	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
15	総括	予習復習：全ての実習過程において得た知識をまとめる。自宅にてこれまでの復習時間を合計 15 時間すませ、わからないことがあれば理解でいるようにオフィスアワーを利用すること	加納 西垣
成績評価方法と基準			割合
1、課題評価（レポート提出：期限内厳守、班・チームごとにおける実習に対する協力体制など） DP(1,4) 2、小テスト DP(4)			1,80% 2,20%

授業科目名	体外循環実習(工学Ｂ)				
主担当教員	加納 寛也		担当教員	加納 寛也、西垣 孝行	
科目ナンバリング	SS303	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 4 限 木曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

体外循環装置学、体外循環療法学を教授し、実際の人工心肺装置に触れ操作し、実臨床で必要な技術知識を習得させる。実臨床に近い形で、シミュレータを用いた人工心肺操作や、トラブルシューティング等を習得し、模擬患者情報の収集から手術プランまでのカンファレンスを実施し、各疾患症例に対する人工心肺プランの提示、模擬手術の実際にいたるまで教授する。

到達目標

1、人工心肺回路のプライミング、心筋保護回路のプライミングができる DP1.4
2、心疾患、大動脈疾患の症例に応じた手術プラン、人工心肺管理プランの提示ができる DP1.4
3、人工心肺操作を振り返り、術後経過についてプレゼンテーションができる DP1.4

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習毎にて学生自身で手順書を作成します。体外循環装置学、体外循環療法学を十分に復習し理解したうえで実習に挑んでください。(購入した白衣・ズボン・シューズ持参の事)
病院での業務同様に準備から実習となります。2 班に分け各項目を隔週で行い、班別からさらに２グループに分けし実習します。
時間厳守で開始できるよう事前確認を前回の班もしくは担当教員に確認してください

教科書

体外循環装置学および体外循環療法学に使用した教科書、資料

参考書

日本循環器学会ガイドラインシリーズ　http://j-circ.or.jp/guideline/
関連する講義で用いた資料、参考書

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階：教職員室（事前予約制、金曜日不在：加納）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	人工心肺回路プライミング	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、教員に確認すること	加納 西垣
2	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
3	術前カンファレンス、術前模擬患者データ収集、画像検査収集、人工心肺プラン検討	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
4	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
5	Ⅰ:術前カンファレンス手術および人工心肺操作・管理プレゼンテーション/Ⅱ:人工心肺装置メンテナンス及び内部構造	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を復習し自己学習で理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
6	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
7	Ⅰ:模擬手術の実施/Ⅱ:人工肺酸素化能の評価	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
8	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣

9	Ⅰ：人工心肺装置メンテナンス及び内部構造/Ⅱ：術前カンファレンス手術および人工心肺操作・管理プレゼンテーション	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を復習し自己学習で理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
10	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
11	Ⅰ：人工肺酸素化能の評価/Ⅱ：術前カンファレンス手術および人工心肺操作・管理プレゼンテーション	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
12	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
13	術後カンファレンス、人工心肺操作・管理プレゼンテーション：模擬患者手術プランの発表	講義開始から実習を遅滞なく行うため、体外循環装置学で得た知識を自己学習で復習し理解しておくこと。また、わからない事があれば、先に実習を行った班もしくは教員に確認すること	加納 西垣
14	〃	復習：レポート作成時にわからなくなったことを自己学習で 2 時間は調べる	加納 西垣
15	総括	予習復習：全ての実習過程において得た知識をまとめる。自宅にてこれまでの復習時間を合計 15 時間すませ、わからないことがあれば理解でいるようにオフィスアワーを利用すること	加納 西垣
成績評価方法と基準			割合
1、課題評価（レポート提出：期限内厳守、班・チームごとにおける実習に対する協力体制など） DP(1,4) 2、小テスト DP(4)			1,80% 2,20%

授業科目名	血液浄化装置学(工学)				
主担当教員	辻 義弘		担当教員	辻 義弘、人見 泰正	
科目ナンバリング	SS304	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

血液浄化療法は，腎機能の低下により，慢性腎臓病に陥り体液の恒常性を維持できなくなった状態を体外循環技術を応用して是正する治療法である． 本講義では，血液浄化療法について，原理・適応疾患・装置構成・操作方法について総合的に概説する．

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

本講義では，血液透析を中心とした血液浄化療法の原理，人工腎臓，透析液，ハ?スキュラーアクセスなと?を理解する．また，血液浄化装置の構造及ひ?保守点検管理，水処理システムなと?を学ひ?，治療の実際と患者管理についての基礎知識の習得を目標とする．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)毎回，講義スライドを印刷したプリントと演習問題のプリントを配布する．各講義の予習・復習は必ず行うこと．
2)適宜，小テスト，課題，レポートを課す．
3)血液浄化装置学は臨床工学技士にとって非常に重要な科目の 1 つであるので積極的な態度と姿勢で授業へ参加すること．

教科書

「血液浄化療法ハント?フ?ック 2020」透析療法合委員同専門会 企画・編集　共同医書出版社

参考書

臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法装置、竹澤真吾他編、医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

在室していればいつでも対応します．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	腎臓病の病態と症状，血液透析の適応について	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
2	血液浄化装置の構成とその周辺装置について，血液回路の構成と役割	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
3	血液透析の原理	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
4	バスキュラーアクセス	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	人見
5	血液透析器の種類と特徴	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
6	透析液の種類と特徴	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
7	血液浄化療法における抗凝固薬	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
8	水処理装置と透析液の清浄化	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
9	血液濾過と血液透析濾過の原理	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
10	血液透析の実際と血液浄化療法施行中の安全管理	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
11	適正透析について	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
12	長期透析に伴う合併症、薬物療法と食事療法	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
13	特殊透析療法の原理と構成 1	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
14	特殊透析療法の原理と構成 2	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻

15	我が国における透析療法の現況と血液浄化療法の歴史	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布した演習問題を行う	辻
成績評価方法と基準			割合
出席は 4/5 以上を必要とし，その基準を満たした者について成績評価を行う． 1.小テスト・課題・レポート 2.定期試験			1.30% 2.70%

授業科目名	血液浄化療法学(工学)				
主担当教員	藤江 建朗		担当教員	藤江 建朗、人見 泰正	
科目ナンバリング	SS304	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本講義では，腎不全（急性期，保存期，末期，慢性）の理解，患者管理，心理的ケアなど，血液浄化療法に必要な基礎知識の習得に向けて学習する．

到達目標

1. 腎疾患の病態と進行度の変化について理解し，患者の状態および検査結果から病状が理解できる．〈DP①〉
2. 臨床工学技士に必要な透析患者の基礎的な管理方法について習得できる．〈DP①〉
3. 臨床工学技士に必要な透析患者のケアのについて理解できる．〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 外部講師を招聘して講義を行うため，シラバスの学修内容が前後する場合がある．その場合，事前に授業中に説明する．
2. 血液浄化装置学の内容について復習をしておくこと．
3. 予習・復習をしなければ，学習の理解が追い付かないため必ずすることを勧める．

教科書

血液浄化装置学で使用した
「血液浄化療法ハント?フ?ック 2019」透析療法合委員同専門会 企画・編集　共同医書出版社　ISBN　978-4-7639-5026-0
を持参すること．

参考書

臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法装置、竹澤真吾他編、医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

在室していればいつでも対応可能．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	腎疾患の病態と生理 ①	予習：血液浄化装置学の内容 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
2	腎疾患の病態と生理 ②	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
3	血液検査データの見方	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
4	透析患者の管理 ①	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
5	透析患者の管理 ②	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
6	透析患者の管理 ③	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
7	透析患者の管理 ④	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
8	透析患者の管理 ⑤	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
9	透析患者の管理 ⑥	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
10	中間試験	過去 9 回分の授業の復習，授業内容の整理と不明点を理解する 5 時間	

11	透析患者の薬物療法	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
12	腎臓病患者の心理的ケア，倫理的問題	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
13	持続的血液浄化療法，特殊血液浄化療法の適応	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
14	腹膜透析	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
15	透析患者の看護	予習：シラバス・教科書の確認 復習：期末テストに向けて 15 コマの授業内容を復習する（30 時間）	
成績評価方法と基準			割合
①中間試験 ②期末試験 <DP①>			①30% ②70%

授業科目名	血液浄化実習(工学 A)				
主担当教員	藤江 建朗		担当教員	藤江 建朗、辻 義弘、人見 泰正	
科目ナンバリング	SS306	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限 金曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

血液浄化療法は，腎機能の低下により，慢性腎臓病に陥り体液の恒常性を維持できなくなった状態を体外循環技術を応用して是正する治療法である．血液浄化実習では，透析室を模した実習室にて実際に作業やデータ解析を行う．臨床工学技士の血液浄化業務に関する一連の流れを理解することを目的に血液浄化療法の原理，装置構成，機器原理や操作方法，関連する医療材料の特性，トラブルシューティングの詳細について総合的に教授する．

到達目標

臨床工学技士として血液浄化業務における基礎的な知識と実践能力を身につけ，チーム医療の一員としての責任と役割を自覚することを目標とする．また，各種血液浄化法の構成と基礎的な構造および動作原理，血液浄化器の機能，血液浄化監視装置の構成と機能，各種血液浄化療法の実際について，水処理装置の保守管理について体系的な知識を修得することを目標とする．

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・血液浄化学は臨床工学技士にとって非常に重要な科目の 1 つであるので積極的な態度と姿勢で授業へ参加すること．
・講義開始時間には遅れず?に入室していること。講義開始後の入室は遅刻とする。また、講義中の飲食、及び?携帯電話等については禁止とする．
・白衣またはスクラブを着用し，名札を必ずつけること．標準予防策（スタンダードプリコーション）として，マスク，ゴーグル，手袋を必ず着用し，手洗いを徹底すること．また必要時，ガウンを着用すること．
・逸脱した行為を行なった者に対しては，担当教員の判断で実習を停止する．
・客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination：OSCE) は、態度，身だしなみ，服装も評価対象とする．病院実習と同等の態度で臨むこと．
・各実習テーマに関連した講義科目（2 年次後期に履修した「血液浄化装置学」，3 年次に履修した「血液浄化療法学」）について，十分な予習・復習を行っておくこと．また，「レポートの書き方」や「論文の書き方」などの参考図書を実習前に熟読し，レポートの下書きを作成しておくこと．

教科書

血液浄化療法ハント?フ?ック 2019、共同医書出版社

参考書

臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法装置、竹澤真吾他編、医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

在室していればいつでも対応します．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	カ?イタ?ンス（実習の心得及び?注意事項など?）	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと	藤江、辻
2	フ?ライミンク?実技練習・血液透析業務に必要な周辺機器	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
3	フ?ライミンク?実技練習・血液透析業務に必要な周辺機器	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
4	透析液の管理と作成	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻

5	透析液の管理と作成	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
6	水処理装置と透析液，透析用水の管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
7	水処理装置と透析液，透析用水の管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
8	クリアランスの測定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
9	クリアランスの測定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
10	バスキュラーアクセスの管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
11	バスキュラーアクセスの管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
12	患者監視装置の仕組みと操作，各種設定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
13	患者監視装置の仕組みと操作，各種設定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
14	客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法なと?をよく理解しておくこと 復習：接遇や身だしなみなど注意を受けた項目について臨床実習までに改善すること	藤江、辻
15	客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法なと?をよく理解しておくこと 復習：接遇や身だしなみなど注意を受けた項目について臨床実習までに改善すること	藤江、辻
成績評価方法と基準			割合
① 臨床実習および課題、実習態度・意欲等を総合的に評価 ② 実習報告書・発表			①30[%] ②70[%]

授業科目名	血液浄化実習(工学B)				
主担当教員	藤江 建朗		担当教員	藤江 建朗、辻 義弘、人見 泰正	
科目ナンバリング	SS306	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限 金曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

血液浄化療法は，腎機能の低下により，慢性腎臓病に陥り体液の恒常性を維持できなくなった状態を体外循環技術を応用して是正する治療法である．血液浄化実習では，透析室を模した実習室にて実際に作業やデータ解析を行う．臨床工学技士の血液浄化業務に関する一連の流れを理解することを目的に血液浄化療法の原理，装置構成，機器原理や操作方法，関連する医療材料の特性，トラブルシューティングの詳細について総合的に教授する．

到達目標

臨床工学技士として血液浄化業務における基礎的な知識と実践能力を身につけ，チーム医療の一員としての責任と役割を自覚することを目標とする．また，各種血液浄化法の構成と基礎的な構造および動作原理，血液浄化器の機能，血液浄化監視装置の構成と機能，各種血液浄化療法の実際について，水処理装置の保守管理について体系的な知識を修得することを目標とする． DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・血液浄化学は臨床工学技士にとって非常に重要な科目の１つであるので積極的な態度と姿勢で授業へ参加すること．
・講義開始時間には遅れず?に入室していること。講義開始後の入室は遅刻とする。また、講義中の飲食、及ひ?携帯電話等については禁止とする．
・白衣またはスクラブを着用し，名札を必ずつけること．標準予防策（スタンダードプリコーション）として，マスク，ゴーグル，手袋を必ず着用し，手洗いを徹底すること．また必要時，ガウンを着用すること．
・逸脱した行為を行なった者に対しては，担当教員の判断で実習を停止する．
・客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE) は、態度，身だしなみ，服装も評価対象とする．病院実習と同等の態度で臨むこと．
・各実習テーマに関連した講義科目（2 年次後期に履修した「血液浄化装置学」，3 年次に履修した「血液浄化療法学」）について，十分な予習・復習を行っておくこと．また，「レポートの書き方」や「論文の書き方」などの参考図書を実習前に熟読し，レポートの下書きを作成しておくこと．

教科書

血液浄化療法ハント?フ?ック 2019、共同医書出版社

参考書

臨床工学講座 生体機能代行装置学 血液浄化療法装置、竹澤真吾他編、医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

在室していればいつでも対応します．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	カ?イタ?ンス(実習の心得及ひ?注意事項なと?)	予習：教科書の当該範囲を読む 復習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと	藤江、辻
2	フ?ライミンク?実技練習・血液透析業務に必要な周辺機器	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
3	フ?ライミンク?実技練習・血液透析業務に必要な周辺機器	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
4	透析液の管理と作成	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
5	透析液の管理と作成	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻

6	水処理装置と透析液，透析用水の管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
7	水処理装置と透析液，透析用水の管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
8	クリアランスの測定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
9	クリアランスの測定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
10	バスキュラーアクセスの管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
11	バスキュラーアクセスの管理	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
12	患者監視装置の仕組みと操作，各種設定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
13	患者監視装置の仕組みと操作，各種設定	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法をよく理解しておくこと 復習：教科書の当該範囲を読み内容について復習すること	藤江、辻
14	客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法など?をよく理解しておくこと 復習：接遇や身だしなみなど注意を受けた項目について臨床実習までに改善すること	藤江、辻
15	客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)	予習：配布資料を熟読し，実習の各テーマにおいて目的や方法など?をよく理解しておくこと 復習：接遇や身だしなみなど注意を受けた項目について臨床実習までに改善すること	藤江、辻
成績評価方法と基準			割合
① 臨床実習および課題、実習態度・意欲等を総合的に評価 ② 実習報告書・発表 DP①④			①30[%] ②70[%]

授業科目名	人工呼吸装置学(工学)				
主担当教員	布江田　友理		担当教員	布江田　友理	
科目ナンバリング	SS307	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	金曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

補助装置を含めた人工呼吸器の構造・装置・操作について総合的に教授する。まず、人工呼吸器の目的と医用ガスの物性と気体力学などの原理および人工呼吸器の種類と構造について学習させる。人工呼吸の技術として、自発呼吸と人工呼吸、換気モード、開始基準、人工呼吸器の設定、患者状態の把握等について解説する。さらに、在宅呼吸管理（酸素療法、人工呼吸）、安全管理の手法として各機器の安全管理、日常・定期点検、消毒と洗浄などについて解説する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．人工呼吸器の構造・原理・機能、さらに付属部品の必要性について説明ができる。〈DP①〉
２．臨床工学技士が関わる呼吸治療業務を把握し、現状を説明ができる。〈DP④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．「授業計画」に記載されている学習内容に相当する内容を教科書で確認し、予習しておく。
２．講義後は復習し、小テストを受ける。
３．疑問点があれば、次回の講義までに解決しておく。

教科書

臨床工学技士のための呼吸治療ガイドブック　MEDICAL VIEW社 ISBN 978-4-7583-1480-0
病気がみえる　呼吸器　第３版　　MEDIC MEDIA社 ISBN 978-4-89632-730-4

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	呼吸療法総論 呼吸療法の歴史・現状など	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
2	呼吸管理に必要な解剖・呼吸器系の役割	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
3	呼吸不全の病態	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
4	酸素療法	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
5	高気圧酸素療法	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
6	人工呼吸器１　基本構造・付属品	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	
7	人工呼吸器２　管理・医療ガスの基礎	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 １時間予習・復習を行う。	

8	授業全体のまとめ 1	予習：講義 1~7 に関する問題を解く。 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
9	気道確保と気道管理	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
10	人工呼吸器の機能 1　換気方式	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
11	人工呼吸器の機能 2　換気モード(設定項目)	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
12	人工呼吸器の機能 3　換気モード(モニター波形)	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
13	人工呼吸器のウィーニング・アラーム	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
14	非侵襲的陽圧換気法	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
15	授業全体のまとめ 2	予習：講義 9~14 までの授業に関する問題を解く。 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノート作成 1 時間予習・復習を行う。	
成績評価方法と基準			割合
1．授業中に行う小テスト＜DP①④＞ 2．定期試験　　出題範囲：授業内に扱った全範囲（配布したプリントも含む）＜DP①④＞ 3．4/5 回以上の出席が必要である。			1．50% 2．50%

授業科目名	人工呼吸療法学(工学)				
主担当教員	藤江　建朗		担当教員	藤江　建朗	
科目ナンバリング	SS308	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

人工呼吸療法に必要な解剖生理学を一度整理し，人工呼吸療法が必要な病態について学習する．また，人工呼吸装置および周辺機器を使用した人工呼吸療法技術のための知識を習得し，患者管理，災害と医療安全管理対策の基礎について学ぶ．

到達目標

人工呼吸療法が必要な病態生理，人工呼吸管理の基礎を理解し，臨床工学技士として必要な人工呼吸療法の基礎知識を身に付け説明することができる．〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・呼吸器系に関する人体の構造，人体の機能と人工呼吸装置学について復習しておくこと．
・講義は，指定教科書 2 冊により進めますが，参考書の内容も使用します．参考書については，適宜内容をまとめたものをプリントで配布する予定です．

教科書

・病気がみえる vol.4．呼吸器 第 3 版．（株）メディックメディア
・人工呼吸装置学で使用した「臨床工学技士のための呼吸治療ガイドブック」を持参すること．

参考書

授業中に適宜，紹介する．

研究室／オフィスアワー

在席していれば適宜対応します．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	本科目のガイダンス ・自発呼吸について理解する ・酸素化と換気について考える	予習：人工呼吸装置学の内容 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
2	人工呼吸器装着患者のアセスメント フィジカル編	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
3	人工呼吸器装着患者のアセスメント ベンチレーター編	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
4	人工呼吸中の鎮静と鎮痛の基礎を理解する	予習：シラバス・教科書の確認 人工呼吸装置学のグラフィックモニタを復習しておく． 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
5	気道管理と気道クリアランスについて理解する	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
6	血液ガスと酸塩基を理解する	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
7	中間試験	過去 6 回分の授業の復習，授業内容の整理と不明点を理解する 5 時間	
8	人工呼吸器の合併症の基礎知識 主に VAP と VILI	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
9	非侵襲的換気療法の管理 導入，維持・管理，離脱，在宅管理	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
10	睡眠中の呼吸管理 ・睡眠時無呼吸症候群の疫学，検査，治療 ・睡眠中の肺胞低換気の考え方	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	

11	人工呼吸器に関連した災害対策の考え方	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
12	各疾患の人工呼吸管理① ・ARDS と肺保護換気の基礎 ・術後管理 ・肺炎	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
13	各疾患の人工呼吸管理② ・ARDS と肺保護換気の基礎 ・術後管理 ・肺炎	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
14	各疾患の人工呼吸管理③ 慢性呼吸不全の呼吸管理（在宅を含む） ・慢性閉塞性肺疾患と慢性拘束性肺疾患 ・神経筋疾患	予習：シラバス・教科書の確認 復習：授業内容の整理と不明点を理解する 各 1 時間ずつ	
15	人工呼吸器からの離脱とその後の管理	予習：シラバス・教科書の確認 復習：期末テストに向けて 15 コマの授業内容を復習する（30 時間）	
成績評価方法と基準			割合
1. 授業参加態度 2. 中間試験 3. 期末試験 ＜DP①＞			1. 10% 2. 30% 3. 60%

授業科目名	人工呼吸実習(工学 A)				
主担当教員	布江田　友理		担当教員	布江田　友理、藤江　建朗	
科目ナンバリング	SS309	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

①人工呼吸装置学，人工呼吸療法学の知識をもとに，人工呼吸装置および周辺機器の操作方法や保守管理方法の技術の習得を目指す．
②人工呼吸器が必要な病態について理解を深め，各疾患に対する人工呼吸器管理技術の基礎知識の習得を身に付ける．

到達目標

人工呼吸装置学，人工呼吸療法学の知識をもとに，臨床工学技士に必要な人工呼吸療法技術の基礎が習得できる．〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・事前に実習内容について予習を行い，積極的に実習に取り組みようにしてください．
・無断の遅刻・欠席は厳禁です．また外部講師も招聘して実習を行うため，実習態度，言葉使いなどには十分配慮すること．
・客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination：OSCE) は，態度，身だしなみ，服装も評価対象とする．臨床実習と同等の態度で臨むこと．
・学内実習は臨床実習前の大切な実習の位置づけであるため，出席については遅刻も含め厳しく評価する．

教科書

適宜，資料を配布します．

参考書

・人工呼吸装置学，人工呼吸療法学で使用した教科書
・その他の参考書については，実習中に適宜紹介します．

研究室／オフィスアワー

各担当教員が在室時に適宜対応します．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習オリエンテーション	予習・復習 人工呼吸装置学，人工呼吸療法学の授業の復習をして理解しておくこと．(1 時間ずつ)	布江田，藤江
2	人工呼吸器の装置構成について① （全体実習）	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
3	人工呼吸器の装置構成について② （全体実習）	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
4	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ基礎①	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
5	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ基礎②	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
6	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ応用①	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
7	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ応用②	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
8	気道確保，用手人工呼吸，気管内吸引と酸素療法①	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
9	気道確保，用手人工呼吸，気管内吸引と酸素療法②	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
10	NPPV と用手的呼気介助①	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
11	NPPV と用手的呼気介助②	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
12	人工呼吸器に関連したトラブル対応① 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination：OSCE)	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江
13	人工呼吸器に関連したトラブル対応② 客観的臨床能力試験(Objective Structured	1 時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う．	布江田，藤江

	Clinical Examination : OSCE)		
14	豚肺による人工換気と肺保護換気① （全体実習）	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
15	豚肺による人工換気と肺保護換気② （全体実習）	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
成績評価方法と基準			割合
①平常点評価（受講態度, 発表内容, 議論への貢献度　など） ②課題評価（レポート提出, 内容など）〈DP①④〉 ③出席率			①30% ②50% ③20%

授業科目名	人工呼吸実習(工学B)				
主担当教員	布江田　友理		担当教員	布江田　友理、藤江　建朗	
科目ナンバリング	SS309	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜４限 火曜５限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

①人工呼吸装置学, 人工呼吸療法学の知識をもとに, 人工呼吸装置および周辺機器の操作方法や保守管理方法の技術の習得を目指す.
②人工呼吸器が必要な病態について理解を深め, 各疾患に対する人工呼吸器管理技術の基礎知識の習得を身に付ける.

到達目標

人工呼吸装置学, 人工呼吸療法学の知識をもとに, 臨床工学技士に必要な人工呼吸療法技術の基礎が習得できる. 〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・事前に実習内容について予習を行い, 積極的に実習に取り組みようにしてください.
・無断の遅刻・欠席は厳禁です. また外部講師も招聘して実習を行うため, 実習態度, 言葉使いなどには十分配慮すること.
・客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE) は, 態度, 身だしなみ, 服装も評価対象とする. 臨床実習と同等の態度で臨むこと.
・学内実習は臨床実習前の大切な実習の位置づけであるため, 出席については遅刻も含め厳しく評価する.

教科書

適宜, 資料を配布します.

参考書

・人工呼吸装置学, 人工呼吸療法学で使用した教科書
・その他の参考書については, 実習中に適宜紹介します.

研究室／オフィスアワー

各担当教員が在室時に適宜対応します.

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実習オリエンテーション	予習・復習 人工呼吸装置学, 人工呼吸療法学の授業の復習をして理解しておくこと. (1時間ずつ)	布江田, 藤江
2	人工呼吸器の装置構成について① （全体実習）	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
3	人工呼吸器の装置構成について② （全体実習）	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
4	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ基礎①	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
5	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ基礎②	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
6	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ応用①	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
7	人工呼吸器のモードとグラフィックモニタ応用②	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
8	気道確保, 用手人工呼吸, 気管内吸引と酸素療法①	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
9	気道確保, 用手人工呼吸, 気管内吸引と酸素療法②	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
10	NPPV と用手的呼気介助①	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
11	NPPV と用手的呼気介助②	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
12	人工呼吸器に関連したトラブル対応① 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
13	人工呼吸器に関連したトラブル対応② 客観的臨床能力試験(Objective Structured	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江

	Clinical Examination : OSCE)		
14	豚肺による人工換気と肺保護換気① （全体実習）	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
15	豚肺による人工換気と肺保護換気② （全体実習）	1時間ずつ予習・復習（レポート作成）を行う.	布江田, 藤江
成績評価方法と基準			割合
①平常点評価（受講態度, 発表内容, 議論への貢献度　など） ②課題評価（レポート提出, 内容など）〈DP①④〉 ③出席率			①30% ②50% ③20%

授業科目名	人体機能補助装置学(工学)				
主担当教員	西垣　孝行		担当教員	西垣　孝行	
科目ナンバリング	SS310	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	水曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

人体機能補助装置学では、循環器系の補助装置である大動脈内バルーンパンピング（IABP)、経皮的心肺補助装置（PCPS)、ペースメーカーおよび補助人工心臓などの目的、原理、使用する物品・機器および装着手順と操作法について解説し、動作チェックおよびトラブル対策について教授する。さらに脈管カテーテル治療・検査の目的・原理・使用する物品・機器および装着手順と操作方法について解説し、動作チェックをおよびトラブル対策について教授する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の歴史から現在の臨床現場で使用されているシステム構成と特徴が説明できる。〈DP①〉
各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の病態生理が説明できる。。〈DP①〉
各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の特徴や操作の流れが説明できる。。〈DP①〉
各種補助循環装置およびカテーテル治療機器のトラブルや合併症の対策について説明できる。
。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

各種補助循環装置およびカテーテル治療機器は、全身の生理学や解剖学、血液学など、非常に多岐にわたる基礎知識を患者さんの病態に合わせて結びつけながら学習しなければなりません。さらに各種補助循環装置は、非生理学と言われる程、人体は非常に特殊な状況になります。さらにカテーテル治療機器は、新規デバイスがどんどん開発され低侵襲化が非常に進んでいます。
予習・復習を必ず実施してください。

教科書

臨床工学講座「医用治療機器学」、医歯薬出版株式会社、監修：一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会　編集：篠原一彦、ISBN978-4-263-73400-1 C3347

参考書

人体のメカニズムから学ぶ臨床工学「循環器治療学」、メジカルビュー社、監修：的場　聖明、編集：白山　武司、八木克史、ISBN978-4-7583-1716-0 C3347

日本体外循環技術医学会ホームページ「http://jasect.sakura.ne.jp/」
近畿地方会ホームページ「http://jasect-k.umin.jp/」
日本人工臓器学会ホームページ「http://www.jsao.org/」

研究室／オフィスアワー

C棟７階：教員室/オフィスアワー：水曜日午前・午後、木曜日午前・午後
必ず事前に連絡してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	各種補助循環装置およびカテーテル治療機器の総論	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
2	大動脈内バルーンパンピング（IABP）の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる 合わせて１時間程度自修すること。	
3	経皮的心肺補助装置（PCPS）の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
4	補助人工心臓の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	

5	心内留置型ポンプカテーテルの目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
6	各種補助循環デバイスの選択基準と併用	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
7	冠動脈カテーテル治療の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
8	弁膜症カテーテル治療の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
9	人工血管グラフト治療の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
10	ペースメーカーの目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
11	植え込み型除細動装置（ICD）の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
12	両心室ペーシング機能付き除細動装置（CRT-D）の目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
13	カテーテルアブレーション装置のの目的、原理、使用する物品・機器、合併症	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
14	各種補助循環装置およびカテーテル治療機器における臨床の実際まとめ	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	
15	各種補助循環装置およびカテーテル治療機器に関する遠隔医療の実際と将来性	予習：教科書および参考資料を用いて関連する事項に目を通す。 復習：授業の内容をまとめる。 合わせて１時間程度自修すること。	

成績評価方法と基準	割合
１、授業中に行う小テスト〈DP①〉 ２、小テストの範囲をレポート提出〈DP①〉 ＊提出期限・作成方法等の詳細は、授業内で説明します。 ３、定期試験〈DP①〉 　出題範囲：授業内で扱った範囲（小テストの内容を含む） ４、2/3 回以上の出席が必要。	１、３０％ ２、３０％ ３、４０％

授業科目名	人体機能補助療法学(工学)				
主担当教員	加納　寛也		担当教員	加納　寛也	
科目ナンバリング	SS311	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

人体機能補助療法学では、循環器系の補助装置である大動脈バルーンパンピング（IABP）や心肺補助装置（PCPS・ECMO)、人工心臓などの目的、適応疾患および禁忌事項について解説しモニタリングのポイント、離脱条件、血液データおよび患者確認について教授する。

到達目標

各補助循環装置の構成、原理が説明できる DP1
各疾患ごとの病態生理が説明できる DP1
各疾患に対する補助循環操作の手順、原理について説明できる DP1

履修上の注意(学生へのメッセージ)

手術室、集中治療室、心臓カテーテル室、救急外来など多くの現場で使用する機器です。装置と患者が繋がるなかで、その疾患を理解した管理ができるよう身につけてください。人体機能補助循環学はもちろん病理学、血液学など幅が広いですが、気になることは調べて予習復習に取り組んでください。

教科書

臨床工学技士標準テキスト　第３版増補　2019　：金原出版（体外循環療法学指定教科書）
臨床工学技士イエローノート（臨床編）：メジカルビュー社
臨床工学講座　生体機能代行装置学　体外循環、医歯薬出版株式会社（2 年後期：体外循環装置学指定教科書）

参考書

日本循環器学会ガイドラインシリーズ　http://j-circ.or.jp/guideline/
人体補助装置学で使用した資料一式

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階：教職員室（事前予約制：金曜日を除く）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	循環不全、補助循環とは	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
2	IABP を要する疾患及び循環状態	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
3	IABP を要する疾患及び循環状態からの離脱	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
4	PCPS（ECMO）を要する疾患及び循環状態１	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
5	PCPS（ECMO）を要する疾患及び循環状態２	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
6	PCPS（ECMO）を要する疾患及び循環状態からの離脱	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
7	人工心臓について	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
8	中間テスト（小テスト）	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
9	小児補助循環	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
10	集中治療室での補助循環の役割、管理１	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
11	集中治療室での補助循環の役割、管理２	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
12	補助循環管理における合併症１	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
13	補助循環管理における合併症２	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
14	脳死	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
15	総括、まとめおよび確認テスト	予習：今までの講義内容に沿った教科書および参考資料、作成ノートを用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め自宅にて今までの項目の復習時間の合計が 30 時間程度の自己学習済であること	加納

成績評価方法と基準	割合
1、授業中に行う小テスト(DP1) 2、定期テスト(DP1)	1、 30% 2、 70%

授業科目名	人体機能補助実習(工学)				
主担当教員	加納　寛也		担当教員	加納　寛也、西垣　孝行	
科目ナンバリング	SS312	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

人体機能補助装置学、人体機能補助療法学を教授し、実際の機能補助装置に触れ操作し、実臨床で必要な技術知識を習得させる。実臨床に近い形で、シミュレータを用いた操作や、トラブルシューティング等を習得する。人間の循環動態を把握するために、各疾患や各装置の利点欠点を体験できる模擬患者システムを作成し、その概要についてプレゼンテーションを実施する。
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1、IABP のセッティングができ、トラブル対応ができる DP1,4
2、PCPS のプライミングができ、トラブル対応ができる DP1,4
3、集中治療室での患者に応じた補助循環管理プランの提示ができる DP1,4
4、模擬患者システムを作成し、その概要についてプレゼンテーションができる　DP1,4

履修上の注意(学生へのメッセージ)

手術室、集中治療室、心臓カテーテル室、救急外来など多くの現場で使用する機器です。装置と患者が繋がるなかで、その疾患を理解した管理ができるよう技術・知識を身につけてください
・購入した白衣・ズボン・シューズ持参の事
病院での業務同様に準備から実習となります。時間厳守で開始できるよう事前確認を前回の班もしくは担当教員に確認してください

教科書

人体機能循環装置学および人体機能循環療法学に使用した教科書、資料

参考書

日本循環器学会ガイドラインシリーズ　http://j-circ.or.jp/guideline/
関連する講義で用いた資料、参考書

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階：教職員室（事前予約制、金曜日不在：加納）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
2	IABP（大動脈内バルーンパンピング）の準備、患者接続、導入操作、日常点検	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
3	IABP（大動脈内バルーンパンピング）の維持管理およびトラブルシューティング	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
4	補助循環回路の準備、日常点検、プライミング操作	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
5	補助循環回路の患者接続、導入操作、トラブルシューティング	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
6	体外式補助人工心臓の原理、準備、手動ポンプによる駆動体験	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
7	体外式補助人工心臓のトラブル模擬対応と血行動態の把握	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること	加納 西垣
		予習復習含めて自修は１時間実施すること	
8	模擬患者カルテを使用した人体機能補助装置の選択と治療計画の立案	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
9	カンファレンスの再現	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
10	模擬患者システムの作成 ①	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
11	模擬患者システムの作成 ②	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
12	模擬患者システムの作成 ③	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
13	患者模擬システムのプレゼンテーション	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
14	患者模擬システムを使用した各種トラブルシューティング	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣
15	総括（トラブルシューティングのシナリオ作成）	実習内容に関係する箇所について、人体機能補助装置学および人体機能補助療法学をしっかり復習すること 予習復習含めて自修は１時間実施すること	加納 西垣

成績評価方法と基準	割合
1、課題評価（レポート提出：期限内厳守、班・チームごとにおける実習に対する協力体制など）　DP(1,4) 2、小テスト DP(4)	1,80% 2,20%

授業科目名	医用機器安全管理学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、布江田　友理、藤江　建朗	
科目ナンバリング	SS313	科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療の進化が、医療機器を進化させ、近年、病院では医療機器安全管理責任者が設置されている。臨床工学技士業務の一つとして医療機器の安全管理があるため、医療機器安全管理責任者は臨床工学技士がなることが望ましい。本講義では、医療機器の安全管理の基礎概念から点検方法を含めた安全対策、病院の電気設備および事故事例をもとに医療機器の安全管理を教授する。

到達目標

1. 医療機器の生体および他の機器への影響を説明できる。<DP①④>
2. 医療機器の安全基準について学び、そのための安全対策法を説明できる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書の「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め読み、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。

教科書

ME の基礎知識と安全管理　第６版　南江堂　ISBN:　978-4-524-26959-4

参考書

・臨床工学講座 医用機器安全管理学 第２版 医歯薬出版株式会社 ISBN: 978-4-263-73415-5
・講義中に紹介する書籍

研究室／オフィスアワー

各教員　研究室および教職員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	安全管理とは	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	片山
2	エネルギーと生体反応の関係	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	片山
3	電撃に対する生体特性ーマクロショック・ミクロショック	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	片山
4	医用機器の安全基準と分類	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	片山
5	医用機器の漏れ電流と許容値	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	片山
6	病院電気設備の安全基準１－接地・EPR システム	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	片山
7	病院電気設備の安全基準２－非接地配線方式・非常電源	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	布江田
8	安全管理技術１―保守点検業務	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	布江田
9	安全管理技術２―保守点検技術	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	布江田
10	医療ガスに関する安全基準	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	布江田
11	電磁環境	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成	布江田
		1時間予習復習を行う。	
12	システム安全	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	布江田
13	洗浄・消毒・滅菌	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	藤江
14	リスクマネジメント	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	藤江
15	医療安全管理の実際	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習復習を行う。	藤江

成績評価方法と基準	割合
出席基準：2/3回以上必要である。 【片山】 ①平常点評価（受講態度、講義ノートの確認） ②試験評価＜DP①④＞ 【布江田，藤江】 ①平常点評価（受講態度、講義ノートの確認、小テスト） ②試験評価＜DP①④＞	片山： ①30% ②70% 布江田・藤江： ①30% ②70%

授業科目名	医用機器安全管理学実習(工学A)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、原　良昭、布江田　友理、藤江　建朗	
科目ナンバリング	SS314	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限 火曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

臨床工学技士の重要な業務である医用機器安全管理業務について、実習を通して学ぶ。実習では、医用電気安全通則や病院電気設備の JIS による安全基準を理解するため、医用機器の漏れ電流や電源プラグの保持力などを測定する。また、医療ガスに関する安全基準を点検器具を用いて測定する。さらに、医用機器の操作方法を理解し、事故を防止するための保守点検方法（定期点検、日常点検など）を理解し、実践する。

到達目標

医用機器安全管理学で習得した知識をもとに、実際に医用機器の操作及び安全点検を行うことができる。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。また、臨床現場で実践している外部講師も招待するため、臨床実習を想定し、実習に取り組んで下さい。

教科書

実習前に配布される実習書や参考資料（プリント）

参考書

・ME の基礎知識と安全管理　第 6 版　南江堂　ISBN:　978-4-524-26959-4
・臨床工学講座 医用機器安全管理学 第 2 版 医歯薬出版株式会社 ISBN: 978-4-263-73415-5

研究室／オフィスアワー

各教員　研究室および教職員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療機器の漏れ電流測定 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
2	医療機器の漏れ電流測定 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
3	医療機器の漏れ電流測定 3	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
4	医療ガス配管設備とアウトレット　保守点検技術習得	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
5	清潔・不潔の概念および実習 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
6	清潔・不潔の概念および実習 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
7	病院電気設備の安全基準	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
8	輸液ポンプ・シリンジポンプの保守点検の技術習得 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
9	輸液ポンプ・シリンジポンプの保守点検の技術習得 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
10	保育器　基礎的知識の理解	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
11	保育器　保守点検および技術習得 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
12	保育器　保守点検および技術習得 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
13	麻酔器　基礎的知識の理解	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
14	麻酔器　保守点検および技術習得 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
15	麻酔器　保守点検および技術習得 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田

成績評価方法と基準	割合
全実習を出席し、各項目のレポートを提出することが必要である。 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など） ②課題評価（レポート提出、内容など）＜DP①④＞	1. 50% 2. 50%

授業科目名	医用機器安全管理学実習(工学B)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、原　良昭、布江田　友理、藤江　建朗	
科目ナンバリング	SS314	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限 火曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

臨床工学技士の重要な業務である医用機器安全管理業務について、実習を通して学ぶ。実習では、医用電気安全通則や病院電気設備の JIS による安全基準を理解するため、医用機器の漏れ電流や電源プラグの保持力などを測定する。また、医療ガスに関する安全基準を点検器具を用いて測定する。さらに、医用機器の操作方法を理解し、事故を防止するための保守点検方法（定期点検、日常点検など）を理解し、実践する。

到達目標

医用機器安全管理学で習得した知識をもとに、実際に医用機器の操作及び安全点検を行うことができる。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

あらかじめ実習書・講義資料・教科書などを参考に、実習内容について十分下調べを行った上で、目的意識を持って積極的に実習に臨んでください。無断の遅刻・欠席は厳禁です。また、臨床現場で実践している外部講師も招待するため、臨床実習を想定し、実習に取り組んで下さい。

教科書

実習前に配布される実習書や参考資料（プリント）

参考書

・ME の基礎知識と安全管理　第 6 版　南江堂　ISBN:　978-4-524-26959-4
・臨床工学講座 医用機器安全管理学 第 2 版 医歯薬出版株式会社 ISBN: 978-4-263-73415-5

研究室／オフィスアワー

各教員　研究室および教職員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療機器の漏れ電流測定 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
2	医療機器の漏れ電流測定 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
3	医療機器の漏れ電流測定 3	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
4	医療ガス配管設備とアウトレット　保守点検技術習得	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
5	清潔・不潔の概念および実習 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
6	清潔・不潔の概念および実習 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
7	病院電気設備の安全基準	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
8	輸液ポンプ・シリンジポンプの保守点検の技術習得 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
9	輸液ポンプ・シリンジポンプの保守点検の技術習得 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
10	保育器　基礎的知識の理解	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
11	保育器　保守点検および技術習得 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
12	保育器　保守点検および技術習得 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
13	麻酔器　基礎的知識の理解	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
14	麻酔器　保守点検および技術習得 1	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田
15	麻酔器　保守点検および技術習得 2	予習：シラバスの確認・実習書の熟読・実習準備 復習：キーワードの確認・レポート作成 1 時間予習・復習（レポート作成含む）を行う。	片山・原・藤江・布江田

成績評価方法と基準	割合
全実習を出席し、各項目のレポートを提出することが必要である。 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など） ②課題評価（レポート提出、内容など）＜DP①④＞	1. 50% 2. 50%

授業科目名	関係法規(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング	SS315	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床工学技士法に基づく臨床工学技士の身分及び業務について理解し、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保に関する薬機法について学び、医療機器に関する知識を習得し、医療事故防止に寄与できるようにする。加えて、臨床工学技士が業務を行なう病院等に関する医療制度を規定した医療法について学び、社会保障の内容を理解し、臨床工学技士として責任を持った行動ができるような知識を備える。
※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です。

到達目標

１．臨床工学技士法に規定されている身分及び業務について理解する。<DP①②>
２．臨床工学技士の相対的欠格事由について熟知する。<DP①②>
３．医療機器関連法について理解し、有効性及び安全性の確保についての知識を備える。<DP①②>
４．医療法について理解し、医療制度に関して熟知する。<DP①②>
５．医師法、看護師法を理解し、チーム医療に寄与できるようにする。<DP①②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

配布した資料の内容につき、教科書のみならず厚生労働省ホームページの「所管の法令等」を閲覧し、内容の確認に務めてください。

教科書

臨床工学講座 関係法規　日本臨床工学技士教育施設協議会監修　医歯薬出版株式会社　ISBN978-4-263-734 14-8

参考書

看護・医療を学ぶ人のための よくわかる関係法規 (Basic&Practice 看護学テキスト専門基礎分野)　松原孝明著　学研メディカル秀潤社　ISBN-13: 978-4780913866

研究室／オフィスアワー

片山俊郎研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法について	予習：目的、授業計画、到達目標を知る。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
2	臨床工学技士法１	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
3	臨床工学技士法２	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
4	臨床工学技士法３	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
5	臨床工学技士法４	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
6	臨床工学技士法５	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
7	医薬品医療機器等法１	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
8	医薬品医療機器等法２	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
9	医薬品医療機器等法３	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
10	医療法１	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
11	医療法２	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
12	医療法３	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
13	その他の関連法１	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
14	その他の関連法２	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 1時間予習・復習を行う。	片山
15	まとめ	予習：まとめのノートを確認する。 復習：追加・訂正等を行い、ノートを仕上げる。 1時間予習・復習を行う。	片山

成績評価方法と基準	割合
①小テスト <DP①②> ②定期試験 <DP①②>	① 30% ② 70%

授業科目名	臨床医学総論(内科学･外科学)(工学)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SS316	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。関連科目「臨床医学総論」と一体的に講義を進める。

到達目標

１．代表的な臨床症候と画像診断手技を概説できる。
２．脳神経・消化管肝胆膵・免疫・内分泌・血液の各種臓器の働きを理解する。
３．症状・症候の病的意義が説明できる。
４．各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。
３）練習問題について：第十四回目の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。

教科書

臨床工学講座 臨床医学総論
日本臨床工学技士教育施設協議会　監修／篠原一彦・小谷透　編著
ISBN978-4-263-73412-4

参考書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野
内科学(第３版)
ISBN978-4-260-01707-7（医学書院）
※関連科目「内科学」では指定教科書として用いる

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	症候学概論	予習：人体の機能・人体の構造 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
2	画像診断学概論・神経（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
3	神経（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
4	神経（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
5	神経（４）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
6	消化器（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
7	消化器（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
8	消化器（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書	
		学習所要時間目安：合計二時間	
9	消化器（４）・免疫膠原病（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
10	免疫膠原病（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
11	内分泌（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
12	内分泌（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
13	血液（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
14	血液（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、練習問題を解く時間を要する）	
15	総復習	予習：練習問題 復習：第１～１５回講義 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、定期試験準備の必要がある）	

成績評価方法と基準	割合
期末定期試験（マークシート式）：DP①④	100%

授業科目名	内科学各論(循環器・呼吸器・腎・感染症)(工学)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SS317	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

よき医療人になる上で必要不可欠な内科学の知識・考え方について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。関連科目「臨床医学総論」と一体的に講義を進める。

到達目標

１．循環・呼吸・腎尿路・生体防御の各種臓器の働きを理解する。
２．症状・症候の病的意義が説明できる。
３．各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。
３）練習問題について：第十四回目の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。

教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野
内科学(第３版)
ISBN978-4-260-01707-7（医学書院）

参考書

臨床工学講座 臨床医学総論
日本臨床工学技士教育施設協議会　監修／篠原一彦・小谷透　編著
ISBN978-4-263-73412-4
※関連科目「臨床医学総論」では指定教科書として用いる

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	動脈硬化・代謝	予習：人体の機能・人体の構造 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
2	循環器（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
3	循環器（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
4	循環器（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
5	循環器（４）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
6	呼吸器（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
7	呼吸器（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
8	呼吸器（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
9	腎・尿路（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
10	腎・尿路（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
11	腎・尿路（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
12	感染症（１）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
13	感染症（２）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
14	感染症（３）	予習：前回までの講義・教科書 復習：講義プリント・教科書 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、練習問題を解く時間を要する）	
15	総復習	予習：練習問題 復習：第１～１５回講義 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、定期試験準備の必要がある）	

成績評価方法と基準	割合
期末定期試験（マークシート式）：DP①④	100%

授業科目名	外科学各論(循環・呼吸・泌尿器・麻酔・集中治療学)(工学)				
主担当教員	三木　宏文		担当教員	三木　宏文	
科目ナンバリング	SS318	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

外科系臨床の基礎である侵襲とショック・創傷治癒・消毒滅菌・外科栄養と周術期管理などについて学修する。さらに心臓血管外科・呼吸器外科・腎泌尿器外科・脳神経外科・消化器外科の疾患と診断治療及び癌の集学的治療(Interventional radiologyや低侵襲治療を含む)・麻酔科学・集中治療医学等について学修する。

到達目標

臨床工学技士として必要な外科学の基礎を理解するとともに病院実習のために必要な知識を修める。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業の中で説明します

教科書

臨床工学講座 臨床医学総論(日本臨床工学技士教育施設協議会監修、篠原一彦・小谷透編集、医歯薬出版、2012、ISBN-10:4263734122)

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

S棟/在室時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	外科学総論 1：手術前後の患者評価と管理についての概要と外科侵襲学と創傷治癒の基礎と創傷管理について概要を学修する。	都度指示する	
2	外科学総論 2：手術前後の患者評価と管理についての概要と外科侵襲学と創傷治癒の基礎と創傷管理について概要を学修する。		
3	外科学総論 3：手術前後の患者評価と管理についての概要と外科侵襲学と創傷治癒の基礎と創傷管理について概要を学修する。		
4	心臓血管外科 1：心臓外科の基礎と ASD、VSD 等代表的先天性心疾患の概要と術式、心臓弁膜症・虚血性心疾患の概要と術式、血管外科の概要と補助人工心臓の概要について学修する。		
5	心臓血管外科 2：心臓外科の基礎と ASD、VSD 等代表的先天性心疾患の概要と術式、心臓弁膜症・虚血性心疾患の概要と術式、血管外科の概要と補助人工心臓の概要について学修する。		
6	呼吸器外科：肺縦隔領域の代表的外科疾患の概要と術式について学修する。		
7	腎泌尿器外科学：腎泌尿器外科と透析用シャントの概要について学修する。		
8	泌尿器外科学：泌尿器外科と透析用シャントの概要について学修する。		
9	消化器外科学 1：消化管の外科的疾患の病態、術式、使用器材、周術期管理の概要、肝胆膵の外科的疾患の病態、術式、使用器材、周術期管理の概要について学修する。		
10	消化器外科学 2：消化管の外科的疾患の病態、術式、使用器材、周術期管理の概要、肝胆膵の外科的疾患の病態、術式、使用器材、周術期管理の概要について学修する。		
11	内視鏡外科学：内視鏡外科手術の歴史と適応疾患の拡大、使用器材の進歩について学修する。		
12	脳神経外科学：代表的な脳外科手術について学修する。		
13	癌治療学：癌の縮小手術を可能とした抗がん剤の概要、放射線照射などの概要と使用器材について学修する。		
14	麻酔科学：麻酔科学の基礎と復習とともにトピックスについて学修する。		
15	集中治療医学：集中治療室の目的とその特殊性及び医用機器の種類について学修する。 講義全体のまとめ		

成績評価方法と基準	割合
定期試験 DP①②	100%

授業科目名	臨床医学演習(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、加納　寛也、藤江　建朗、辻　義弘	
科目ナンバリング	SS319	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

臨床工学演習は基本的な生命維持管理技術の理解と治療効果およびチーム医療の中での臨床工学技士の役割や責任等について解説し、臨床実習での事前準備となる臨床工学技士の使命を自覚し臨床工学技士業務に必要な医学知識・臨床推論法・技能・態度を身につけさせることを目標とする。

到達目標

1、臨床工学技士業務における、呼吸・循環・代謝の３本柱となる人工呼吸器・人工心肺・人工透析の知識・技能を身につける)<DP①②④>
2、臨床実習に必要な態度、能力について自己分析しまとめることができる)<DP①②④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床実習に出る事前の心得として重要なところですので演習を通じディスカッション、グループワークを重ねていきましょう。
（白衣持参）
時間厳守で開始できるよう予習復習を行い積極的に取り組んでください

教科書

関連する科目に相当する教科書および資料

参考書

日本循環器学会ガイドラインシリーズ　http://j-circ.or.jp/guideline/
関連する科目に相当する教科書および資料

研究室／オフィスアワー

各担当教員の指示に従うこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床工学技士の役割と責任	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	片山
2	手術室業務	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	加納
3	救急外来業務	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	加納
4	集中治療室業務１	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	加納
5	血管カテーテル室業務	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	藤江
6	一般病棟業務	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	藤江
7	集中治療室業務２	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	藤江
8	人工透析室業務	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	辻
9	血管シャント作成手術	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	辻
10	集中治療業務３	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成	辻
11	中間試験（小テスト）	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと(小テスト範囲：講義10までの講義内容から) 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	加納 辻 藤江
12	臨床工学技士の役割とチーム医療	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	加納 辻 藤江
13	症例検討グループワーク１	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	加納 辻 藤江
14	症例検討グループワーク２	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し自己学習を２時間程度行うこと	加納 辻 藤江
15	授業全体のまとめ	予習：シラバス内容に対する内容について教科書・資料を用いておくこと 復習：授業をもとに教科書の確認・自己学習ノートの作成し理解を深めこれまでの項目において自宅で合計 30 時間程度の自己学習をしておくこと	加納 辻 藤江

成績評価方法と基準	割合
1、授業中に行う小テスト(DP1,2,4) 2、定期試験(DP1,2,4)	1、30% 2、70%

授業科目名	先進科学技術論(工学)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄、稲田　慎、原　良昭	
科目ナンバリング	FS501	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

先進科学技術論では、臨床工学や医療機器に関する最先端の知識や学際的な知識を広く学習させることにより、医療人としての将来像の構築、研修・研究などの動機づけの一助とすることを目標として教授する。現在進歩が著しく、将来の発展が期待されている分野のトピックスなどを紹介・教授する。

到達目標

1. 眼科領域、脳の視覚情報処理機構の知識を身につける。<DP①④>
2. 心臓や心筋細胞の働きをイオンチャネルから説明できる。<DP①④>
3. 最新の不整脈アブレーション治療の知識を身につける。<DP①④>
4. 放射光の発生機序について説明できるようになる。<DP①④>
5. 放射光の医療的応用内容について説明できるようになる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

最新の研究事情やトピックスに触れて、医療人としての知識の幅を広げて欲しいと思います。

教科書

無し。講義資料を配布する。

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

中沢：C棟７階研究室 720/金曜日１０時～１２時
原　：C棟７階教職員室/水曜日５限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、視覚情報処理	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄（ゲストスピーカ）
2	コンピュータ上の仮想空間で心臓や心筋細胞の働きを再現する電子教材	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄（ゲストスピーカ）
3	心房細動リアルタイム映像化手法に基づくアブレーション治療	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄（ゲストスピーカ）
4	イメージング科学 ・電極を用いた細胞外電位計測の原理について説明できるようにする ・電極マッピングの原理について説明できるようにする	予習時間：2 時間 電極を用いた細胞外電位の計測原理を理解するためには，電気工学で学んだ電気回路，生体物性工学で学んだ生体の電気的特性を復習しておく必要がある．また，計測対象である洞結節の役割やについての知識も必要である． 復習時間：2 時間 講義内容についてまとめる．	稲田慎
5	イメージング科学 ・興奮性細胞の興奮現象を光学的に計測する原理について説明できるようにする ・光学マッピングの計測結果について説明できるようにする	予習時間：2 時間 光を用いた興奮性細胞の計測原理を理解するためには，電気工学で学んだ電気回路，生体物性工学で学んだ生体の光特性，心電図の計測原理について復習しておく必要がある． 復習時間：2 時間 講義内容についてまとめる．	稲田慎
6	イメージング科学 ・マッピング技術を臨床応用したことにより明らかになったことについて説明できるようにする	予習時間：2 時間 マッピング技術の臨床応用に関する論文の概要を確認し，関連事項について調べる． 復習時間：2 時間 講義内容についてまとめ，レポートを作成する．	稲田慎
7	放射光科学の理論的基礎 ・放射光の発生機序について説明できるようになる。 ・放射光の特徴について説明できるようになる。	予習時間:3 時間 予習内容: 放射光の発生機序は、電気工学１及び２、電子工学１及び２で学んだ内容が基盤となり、特に電磁気学におけるローレンツ力の理解が重要となる。電磁気学を中心に電気工学１及び２、電子工学１及び２を復習しておくこと。 復習時間:1 時間 復習内容: 放射光の発生機序について、数式を覚え、その数式の意味を数式ではなく文章で説明できるようになるまで、復習に努める。 一般的な光と比較した放射光の特徴を、文章で説明できるようになるまで、復習に努める。	原　良昭
8	放射光の応用 ・医療における単色Ｘ線イメージングでの応用について説明できるようになる。 ・主な医療以外の応用内容について説明できるようになる。	予習時間:2 時間 予習内容: 放射光の医療応用や医療応用以外の応用について調査しまとめる。 復習時間:2 時間 復習内容: 講義内容をノートに要約する。	原　良昭

成績評価方法と基準	割合
①平常点評価<DP①④> ②課題評価（レポート提出、内容など）<DP①④>	①40% ②60%

授業科目名	先進計測技術学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、西垣　孝行、布江田　友理	
科目ナンバリング	FT502	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 4 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

生体計測の基礎としての光、レーザー、超音波などの物理的性質の基盤の元に、近赤外生体酸素計測法が医療に必須の技術や手法として近年注目を集めているので、先進計測技術学では循環動態の時間分解分析、体循環における酸素濃度分布の３次元解析などについて解説し、急速に発展してきた脳の機能を可視化する機能的近赤外分光分析法(fNIRS)の原理、目的、機器構成及び構造について解説し、得られた情報を効率よく利用するための時系列データの分析法について教授し、生体の酸素分布情報と組織の機能との関連について学びます。

到達目標

１．機能的近赤外分光分析法の計測原理と方法を理解する。＜DP①④＞
２．組織中の酸素化ヘモグロビン、脱酸素化ヘモグロビンについて理解する。＜DP①④＞
３．時系列データの分析法について理解する。＜DP①④＞
４．生体の酸素分布情報と組織の機能との関連について理解する。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

近赤外分光分析法はパルスオキシメータの測定原理であるので、この原理を再確認しておくこと。時系列データの分析法は、心電図や脳波のデータ分析に使用されている分析法を再確認しておくこと。

教科書

講義ごとに資料を配布する。

参考書

必要時に講義毎に指定する。

研究室／オフィスアワー

西垣研究室／C 棟 7F 教職員室 /面談は可能な限り事前予約すること
布江田研究室／
片山研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	近赤外分光分析法の原理	予習：パルスオキシメータの測定原理の確認 復習：講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	片山
2	機能的近赤外分光分析法の計測原理と方法	予習：前回の講義内容の確認 復習：講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	片山
3	時系列データの分析法	予習：データ分析法の確認 復習：講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	片山
4	血行動態モニタリングシステム　1	予習：配布資料の確認 復習：講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	西垣　孝行
5	血行動態モニタリングシステム　2	予習：前回の講義内容の確認 復習：講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	西垣　孝行
6	機能的近赤外分光分析機器１	予習：配布資料の確認 復習：講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	布江田
7	機能的近赤外分光分析機器２	予習：前回の講義内容の確認 復習：講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	布江田
8	まとめ	予習：前回までの講義内容の確認 復習：全講義内容をまとめる。 2 時間ずつ予習・復習を行う。	片山

成績評価方法と基準	割合
①講義ごとの課題評価＜DP①④＞	①50%
②レポート評価＜DP①④＞	②50%

授業科目名	先進治療技術学(工学)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介、加納　寛也、藤江　建朗、辻　義弘	
科目ナンバリング	FT503	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

最新の医療技術について学ぶ。医療ニーズに対応して臨床医学がどのように進歩してきたかをさまざまな観点から俯瞰する。分野で述べると、分子細胞生物学・免疫感染症学・腫瘍医学・組織再生医療学・生体機能代行装置学・臓器細胞工学などである。

到達目標

大目標：
医学・医療進歩の歴史・現状・未来展望について、自らの考えを述べることができる
個別目標：
１）医療技術の進歩によって可能になった新しい診療内容について述べることができる
２）１）の技術的背景について、医学生物学的な知識を踏まえて説明できる
３）１）によって新たに満たされた医療ニーズについて述べることができる
４）１）によっても未だ解決できていない医療ニーズの例を挙げることができる
５）今後どのような医療技術が開発されることが望まれるか、論じることができる DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は一回完結方式とする。特段の予習は要しない。講義は集中して聴講し、授業内レポート（小テスト）を注意深く作成・提出せよ。講義後は配布資料を材料に、医学・医療の過去・現在・未来展望について学習せよ。その際、これまでに履修した医学生物学系科目の内容を基盤とせよ。自らが今後の医療技術発展に貢献するとの意志を持ち、主体的に学習することが望まれる。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に適宜従うこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	動脈硬化予防における血管内皮の役割	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	五十嵐
2	虚血性心疾患に対する血管新生促進治療	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	五十嵐
3	特殊体外循環についての疾患対応	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	加納
4	腸管虚血における変化について	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	加納
5	人工呼吸器関連肺傷害の構成要素と肺保護換気戦略	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	藤江
6	患者-人工呼吸器間の同調性と非同調性因子の対応	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	藤江
7	特殊血液浄化療法の適応について	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	辻
8	特殊血液浄化療法の種類について	予習：要しない 復習：講義資料を基に行え（目安：２時間）	辻
成績評価方法と基準			割合
授業内レポート（小テスト）：DP①④			100%

授業科目名	機能評価分析学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、加納　寛也、藤江　建朗、辻　義弘	
科目ナンバリング	FS504	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

機能評価分析学では、生体内の臓器と人工臓器の機能的な違いや特性、さらに具体的な機能評価の方法について教授する。それぞれの人工臓器、生体機能の測定方法や機能を理解させ解説を行いデータの分析・評価法を教授し、その結果から生体臓器との違いについて理解させる。

到達目標

1、生体臓器と人工臓器との違いが理解でき説明ができる DP1.4
2、生体臓器と人工臓器の違いから使用目的や病態が理解できる DP1.4

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は一回完結方式とする。他の講義にて得た知識をしっかりと復習しておくこと。講義は集中して聴講し、授業内レポート（小テスト）を注意深く作成・提出せよ。自らが今後の医療技術発展に貢献するとの意志を持ち、主体的に学習することが望まれる。

教科書

臨床工学技士標準テキスト　第３版増補　2019　：金原出版
臨床工学講座　生体機能代行装置学　体外循環、医歯薬出版株式会社（2 年後期：体外循環装置学指定教科書）

参考書

関連する講義の資料など

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に従うこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	機能評価のデータ分析と評価法	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	片山
2	自己心と人工心臓	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納
3	自発呼吸と強制換気１	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	藤江
4	腎臓と人工腎臓（ダイアライザー）	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	辻
5	中間テスト（小テスト）	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納 藤江 辻
6	自己肺と人工肺	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を２時間行う	加納

7	自発呼吸と強制換気 2	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を 2 時間行う	藤江
8	総括まとめ	予習：今までの講義内容に沿った教科書および参考資料、作成ノートを用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深めこれまでの項目において自宅で合計 30 時間程度の自己学習をしておくこと	片山 加納 藤江 辻
成績評価方法と基準			割合
1、小テスト DP1,4 2、定期試験 DP 1,4			1,30% 2,70%

授業科目名	機能評価学演習(工学)				
主担当教員	片山 俊郎		担当教員	片山 俊郎、加納 寛也、藤江 建朗、辻 義弘	
科目ナンバリング	FS505	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

機能評価分析学演習では、生体内の臓器と人工臓器の機能的な違いや特性、さらに具体的な機能評価の方法について理解する。
それぞれの人工臓器、生体機能の測定方法や機能を理解させ解説を行いデータの分析・評価法を教授し、その結果から生体臓器との違いについて理解させる。

到達目標

1、臨床工学技士業務における、呼吸・循環・代謝の 3 本柱となる心臓・腎臓・肺の人工臓器について知識・技能を身につける)〈DP①④〉
2、演習に必要な態度、能力について自己分析しまとめることができる)〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は一回完結方式とする。他の講義にて得た知識をしっかりと復習しておくこと。講義は集中して聴講し、授業内レポート（小テスト）を注意深く作成・提出せよ。自らが今後の医療技術発展に貢献するとの意志を持ち、主体的に学習することが望まれる。

教科書

関連する科目に相当する教科書および資料

参考書

関連する科目に相当する教科書および資料

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に従うこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	機能評価のおけるデータ解析、総論	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を 2 時間行う	片山
2	循環不全と補助循環 1	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を 2 時間行う	加納 藤江 辻
3	循環不全と補助循環 2	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を 2 時間行う	加納 藤江 辻
4	人工呼吸器の機能評価①	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を 2 時間行う	加納 藤江 辻
5	人工呼吸器の機能評価②	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を 2 時間行う	加納 藤江 辻
6	血液浄化における機能評価①	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を 2 時	加納 藤江 辻

		間行う	
7	血液浄化における機能評価②	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納 藤江 辻
8	中間テスト（小テスト）	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	片山 加納 藤江 辻
9	人工肺の機能評価 1	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納 藤江 辻
10	人工肺の機能評価 2	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納 藤江 辻
11	人工呼吸器の機能評価③	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納 藤江 辻
12	人工呼吸器の機能評価④	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納 藤江 辻
13	血液浄化における機能評価③	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納 藤江 辻
14	血液浄化における機能評価④	予習：講義内容に沿った教科書および参考資料を用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深め次回授業までに自己学習を2時間行う	加納 藤江 辻
15	総括まとめ	予習：今までの講義内容に沿った教科書および参考資料、作成ノートを用いて確認 復習：講義内容時に作成した自身のノートを見直し理解を深めこれまでの項目において自宅で合計 30 時間程度の自己学習をしておくこと	片山 加納 藤江 辻
成績評価方法と基準			割合
1、中間テスト DP1,4 2、定期テスト DP1,4			1、30% 2、70%

授業科目名	医療情報システム学(工学)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄、稲田　慎、辻　義弘	
科目ナンバリング	FS506	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択
授業概要					
医療の特質を踏まえ、最適な情報処理技術に基づいて医療情報を安全かつ有効に活用・提供することができる知識および技術について教授する。					
到達目標					
１．医療情報システムについて、運用・管理を含めた一般知識を取得する。<DP①④> ２．医療機関における医療情報の流れを説明できる。<DP①④>					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
医療情報技師の試験問題の解説などを中心として、医療情報全般的な理解を得ることを目指します。					
教科書					
無し。講義資料を配布する。					
参考書					
特になし。					
研究室／オフィスアワー					
中沢：C 棟７階 研究室 720 / 金曜日１０時～１２時					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等			担当
1	医療情報の特性と医療情報システム	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
2	医療を支える情報システムの構成	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
3	病院情報システムの機能	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
4	病院情報システムの導入	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
5	病院情報システムの運用	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
6	病院情報システムの評価と改善	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
7	病院情報の標準化	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
8	医療情報を支える手法・スキル	予習：特になし　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間目安：２時間			中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
成績評価方法と基準					割合
①平常点評価<DP①④> ②課題評価（レポート提出、内容など）<DP①④>					①40% ②60%

授業科目名	医療情報システム学演習(工学)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄、稲田　慎、辻　義弘	
科目ナンバリング	FS507	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

情報技術(IT)の医療・看護への応用事例やトピックスを学ぶことにより、最近の医療・看護における情報科学・情報技術の重要性を教授する。

到達目標

１．医療における情報の意味を知り、情報技術が現代の医療・看護に与えた変化と果たしている役割を理解する。〈DP①④〉
２．医療現場における診療情報の流れや管理方法を学び、取り扱いに関する患者への配慮と実践の方法を習得する。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医療情報の重要性を理解し、実践に役立てるようにしてください。

教科書

第４版 医療情報サブノート、日本医療情報学会医療情報技師育成部会、篠原出版

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

中沢：C 棟７階 研究室 720 / 金曜日１０時～１２時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	序・医療情報学ノススメ	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
2	医療情報学序論	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
3	コンピュータと情報システム	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
4	情報科学的に見た病院	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
5	病院情報システムⅠ（部門システム）	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
6	病院情報システムⅡ（オーダリングシステム）	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
7	病院情報システムⅢ（電子カルテ）	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
8	看護の IT 化	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
9	地域医療情報システム	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
10	EHR (Electronic Health Record)	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
11	医療の評価と IT	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
			辻　義弘
12	医療情報の共有と標準化	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
13	医療情報倫理と個人情報保護	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
14	医療の IT 化がめざすもの	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘
15	まとめ	予習：特になし　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎 辻　義弘

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験〈DP①④〉 ②平常点評価〈DP①④〉	①80% ②20%

授業科目名	医用ロボット工学(工学)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭、西垣　孝行	
科目ナンバリング	FS508	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

医用ロボット工学では、まず、ロボットを動作させるアクチュエータやロボットが外界の情報を認識・知覚するために必要なセンサ、センサから得られた情報を適切に処理する信号処理方法について学ぶ。その後、医療現場で活用されているロボットの具体的な例として、電子制御型義足、埋め込み型人工心臓、手術ロボット、医療用 AI などについて理解を深める。

到達目標

・ロボットに用いられる多様なセンサの種類と特性を数式を交えながら説明でき、また、必要に応じて適切なセンサを選択できるようになる。〈DP①④〉
・ロボットに用いられる多様なアクチュエータの種類と特性を数式を交えながら説明でき、必要に応じて適切なアクチュエータを選択できるようになる。〈DP①④〉
・埋め込み型人工心臓、手術ロボット、医療用 AI などについて、構造や特徴が説明できるようになる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・ロボット工学自体が複数の工学的学問分野が交差する学際領域と呼ばれ分野である。医用ロボット工学はロボット工学に加えて医療系の知識も必要となる。そのため、本科目では、３年次前期までに履修した専門基礎科目および専門科目の深い理解が必要となる。

教科書

『イラストで学ぶロボット工学』，木野仁，谷口忠大，講談社

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

西垣：C 棟 7F 教職員室 /面談は可能な限り事前予約すること
原：　C 棟 7F 教職員室 / 面談は可能な限り事前予約すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ロボット工学とは何か	予習時間:1 時間 予習内容: ・教科書の第 1 章の要約を作成し、理解が難しい項目をリスト化する。 復習時間:1 時間 復習内容: ・講義内容の要約を作成する。	原　良昭
2	ロボットの知覚と運動器: ・主なセンサの種類と特性について説明できるようになる。 ・アクチュエータの種類と特性について説明できるようになる。	予習時間:2 時間 予習内容: ・教科書の 6 章と 7 章の要約を作成し、わからなかった事項をリスト化する。 復習時間:2 時間 復習内容: ・講義内容の要約を作成する。	原　良昭
3	ロボットの機構: ・自由度について具体例を挙げながら定量的に説明できるようになる。 ・順運動学と逆運動学について説明できるようになり、順運動学および逆運動学の数値解を求めることができるようになる。	予習時間:2 時間 予習内容: ・教科書の 2 から 5 章の要約を作成し、わからない事をまとめる。 復習時間:2 時間 復習内容: ・講義内容の要約を作成する。	原　良昭
4	ロボットの基礎的制御法: ・ロボットの主な基礎的制御手法について特徴を説明できるようになる	予習時間:2 時間 予習内容: ・前回講義で指示した内容について要約を作成し、わからなかった事項をリスト化する。	原　良昭
		復習時間:2 時間 復習内容: ・講義内容の要約を作成する。	
5	医療福祉におけるロボット工学の活用: ・義肢を対象にロボット工学がどのように応用されているかを説明できるようになる。	予習時間:2 時間 予習内容: 第４回の講義にて配布する義肢に関する資料について理解が難しい単語などを調べる。 復習時間:2 時間 復習内容: 講義内容についてまとめたノートを作成する。	原　良昭
6	医療現場で応用されているロボットの概要 ロボットと AI の進化	予習時間:2 時間 予習内容:医療現場で応用が進んいるロボットや AI ついて、興味が沸いた内容をまとめる。 復習時間:2 時間 復習内容:　講義にて配布する資料について理解が難しい単語などを調べる。講義内容を復習しノートを作成する。	西垣　孝行
7	医療現場で応用されているロボット事例（１） ダビンチ	予習時間:2 時間 予習内容:医療現場で応用が進んいるロボットや AI ついて、興味が沸いた内容をまとめる。 復習時間:2 時間 復習内容:　講義にて配布する資料について理解が難しい単語などを調べる。講義内容を復習しノートを作成する。	西垣　孝行
8	医療現場で応用されているロボット事例（２） 補助人工心臓	予習時間:2 時間 予習内容:医療現場で応用が進んいるロボットや AI ついて、興味が沸いた内容をまとめる。 復習時間:2 時間 復習内容:　講義にて配布する資料について理解が難しい単語などを調べる。講義内容を復習しノートを作成する。	西垣　孝行

成績評価方法と基準	割合
①定期テスト＜DP①④＞ ②レポート評価＜DP①④＞ 出席基準：2/3 以上	①60% ②40%

授業科目名	遺伝子検査学(工学)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介、布江田　友理、藤江　建朗	
科目ナンバリング	FS509	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

遺伝学は急速に進歩している学術分野である。こんにちの臨床医学では遺伝子レベルでの診断が日常的に行われ、その結果が治療に反映されるようになっている。当科目では遺伝学の基礎とともに、臨床で用いる遺伝子検査において用いる手技と、臨床工学技士が取り扱う可能性が高い遺伝性疾患について概説する。

到達目標

１）遺伝子とその発現機構について理解する<DP①④>
２）遺伝子検体の基本的な取扱について理解する<DP①④>
３）遺伝子解析法の原理と遺伝子検査の実際を理解する<DP①④>
４）遺伝子異常を伴う疾患の例を理解する<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

高校理科の生物基礎（DNA、遺伝子、ゲノム）に関して理解しておくこと。また一年次の医学系基礎科目（生物学、生化学、人体の構造、人体の機能）を復習しておくこと。全講義終了後に筆記試験を行う。日程は別途指定する。

教科書

遺伝子検査学 矢冨 裕（著）、医学書院 ISBN-13: 978-426001519
理系総合のための生命科学　第４版　分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ 東京大学生命科学教科書編集委員会（編）、羊土社 ISBN-13：　9784758120869

参考書

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第２巻 分子遺伝学、デイヴィッド・サダヴァほか(著)、講談社 ISBN-13: 978-4062576734

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に適宜従うこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	セントラルドグマ	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	五十嵐
2	染色体の構造と機能	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	五十嵐
3	ゲノム	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	五十嵐
4	細胞機能と遺伝子の関係	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	五十嵐
5	染色体と遺伝子の検査法（１）	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	布江田
6	染色体と遺伝子の検査法（２）	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	布江田
7	遺伝子異常を伴う疾患（１）	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	藤江
8	遺伝子異常を伴う疾患（２）	予習：高校理科・医学系基礎科目 復習：講義プリント （所要時間目安：合計二時間）	藤江
成績評価方法と基準			割合
筆記試験：DP①④			100%

授業科目名	先進科学技術演習(工学)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭、布江田　友理、藤江　建朗	
科目ナンバリング	FS510	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限 金曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本科目では医用ロボット工学および遺伝子検査学で学習した内容について演習を介して理解を深める。
科目前半では医用ロボット工学で学習した内容の理解を深めるために、グループワークとしてセンサを用いたサーボモータの制御演習を実施する。
科目後半では遺伝子検査学で学習した内容の理解を深めるために、遺伝子検体を取扱い、遺伝子解析を実施するまでの過程を教授する。

到達目標

1. ロボットにおけるアクチュエータの１つであるサーボモータの仕組みを説明できるようになる。<DP①④>
2. サーボモータを別のサーボモータの速度計測装置として利用できる仕組みを説明できるようになる。<DP①④>
3. サーボモータの角度を検知するセンサであるロータリエンコーダーについて説明できるようになる。<DP①④>
4. サーボモータの速度制御および角度制御を行う PID 制御の arduino 用プログラムを作成できるようになる。<DP①④>
5. 遺伝子検体の基本的な取扱を理解し、実践できる<DP①④>
6. 遺伝子解析法の原理と遺伝子検査を理解し、実践できる<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医用ロボット工学および遺伝子検査学で学習した内容に基づき演習が実施されるため、医用ロボット工学および遺伝子工学を履修しておくことが望ましい。

教科書

とくになし

参考書

RNA 実験ノート　上巻　RNA の基本的な取り扱いから解析手法まで　ISBN 978-4-89706-924-1
RNA 実験ノート 下巻 小分子 RNA の解析から RNAi への応用まで ISBN 978-4-89706-925-8

研究室／オフィスアワー

原　　C 棟 7F 教職員室
布江田　C 棟 7F 教職員室
藤江　　C 棟 7F 教職員室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	サーボモータの速度制御演習① ・サーボモータの回転速度の検知方法を説明できるようになる。 ・サーボモータの速度制御方法を説明できるようになる。	予習時間：２時間 予習内容： ・医用ロボット工学で学習したサーボモータの仕組みについて要約を作成する。 ・システム制御工学で学習したフィードバック制御および PID 制御について要約を作成する。 復習時間：１時間 復習内容： ・講義内容について要約をまとめる。	原
2	サーボモータの速度制御演習① ・サーボモータの速度制御プログラムを作成でき、その内容を説明できるようになる。	予習時間：３時間 予習内容： ・配付資料を確認し、制御用プログラムの動作について要約をまとめる。 復習時間：１時間 復習内容： ・講義内容について要約をまとめる。	原
3	サーボモータの角度制御演習① ・ロータリエンコーダーを説明できるようになる。 ・サーボモータとロータリエンコーダーを用いるとサーボモータの角度制御が行えることを説明できるようになる。	予習時間：２時間 予習内容： ・配付資料を確認し、ロータリエンコーダーについて要約する。 ・サーボモータの角度制御法について要約をまとめる。	原

		復習時間: 2 時間 復習内容: ・講義内容について要約をまとめる。	
4	サーボモータの角度制御演習② ・arduino を対象にサーボモータの角度制御用プログラムを作成でき、その内容について説明できるようになる。	予習時間: 3 時間 予習内容: ・配付資料を確認し、制御用プログラムの動作について要約をまとめる。 復習時間: 1 時間 復習内容: ・講義内容について要約をまとめる	原
5	・植物組織または動物組織から細胞抽出 1	予習　実習資料および「遺伝子工学」資料を確認する 復習　レポート作成 1 時間ずつ予習、復習を行う。	布江田 藤江
6	・植物組織または動物組織から細胞抽出 2	予習　実習資料および「遺伝子工学」資料を確認する 復習　レポート作成 1 時間ずつ予習、復習を行う。	布江田 藤江
7	植物組織または動物組織の RNA 抽出 定性評価	予習　実習資料および「遺伝子工学」資料を確認する 復習　レポート作成 1 時間ずつ予習、復習を行う。	布江田 藤江
8	植物組織または動物組織の RNA 抽出 定量評価	予習　実習資料および「遺伝子工学」資料を確認する 復習　レポート作成 1 時間ずつ予習、復習を行う。	布江田 藤江
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験<DP①> 2. レポート<DP①④>			1. 50% 2. 50%

授業科目名	卒業研究 I (工学):片山 (Graduation Research I)				
主担当教員	片山 俊郎		担当教員	片山 俊郎	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

近赤外生体酸素計測法による循環動態の時間分解分析、体循環における酸素濃度分布の３次元解析から心拍出量の非侵襲的計測、脳領域の各深度における酸素濃度の非侵襲的計測を実施するとともに、AppleWatch や Fitbit 等のウェアラブルデバイスによる心拍数や睡眠記録の活用により、透析患者や呼吸器循環器疾患による睡眠障害の評価を行います。
ゼミ生は、研究デザインに即したプロトコルの作成法を学び、近赤外生体酸素計測法による自分自身の計測データから呼吸循環器系の生理機能メカニズムの解析やウェアラブルデバイスによる睡眠障害の評価・検討を行い、医療への直接的な貢献を目指します。

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。<DP①>
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。<DP①④>
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。<DP①>
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。<DP①④>
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。<DP①④>
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員

6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
7	実験仮説の立案①	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 　計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 　発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 　発表練習を行う。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):五十嵐 (Graduation Research I)				
主担当教員	五十嵐 淳介		担当教員	五十嵐 淳介	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

循環生理を題材に、生体機能測定の実技と機能調節機序の考察を行う。具体的には血圧と心拍数を主要な指標とし、種々の負荷のもとでの測定・記録を行う。負荷の例としては寒冷・姿勢変化・運動・過呼吸などが考えられる。教員監修のもと、検者・被検者はいずれもゼミ生が務める。循環生理学の歴史を学ぶ・計画を策定する・実技を行う・データを解析する・文献的考察を行うなど、さまざまな方向に展開していくことが望まれる。

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。〈DP①〉
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。〈DP①④〉
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。〈DP①〉
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。〈DP①④〉
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。〈DP①④〉
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。	担当教員全員
		復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	
7	実験仮説の立案①	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容:	担当教員全員

		実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 発表練習を行う。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):稲田 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

卒業研究では研究手法の習得を目的とし，研究テーマの設定，課題解決のための計画立案，研究実施，学内外での研究成果の発表までを 2 年間で行う．研究テーマは，心臓の不整脈発生メカニズム解析を目指した電気現象のシミュレーションや心電図の解析等がある．研究を進めるために必要なプログラミングや可視化手法の技術等を身につけてもらうことを原則とする．

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。<DP①>
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。<DP①④>
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。<DP①>
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。<DP①④>
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。<DP①④>
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時：ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容:	担当教員全員

		学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
7	実験仮説の立案①	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。	担当教員全員

		予習時間と復習時間の合算は1時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 発表練習を行う。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):中沢 (Graduation Research I)				
主担当教員	中沢 一雄		担当教員	中沢 一雄	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

シミュレーション医工学に関わる研究を行う。生体情報や医療情報に関連する広範な領域において、数学モデルやコンピュータシミュレーションを応用した診療支援を図るためのシステム開発やシステム評価などを実施する。基本的に、一般的な情報処理や機器の取り扱いなどに関わる知識を習得した上で、個々の課題の設定から解決、さらに学会発表や研究論文の作成など、研究成果の公表に至るプロセスについても（可能な限り）体験させる予定である。

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。〈DP①〉
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。〈DP①④〉
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。〈DP①〉
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。〈DP①④〉
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。〈DP①④〉
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
7	実験仮説の立案①	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容:	担当教員全員

		実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 発表練習を行う。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):加納 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	加納 寛也		担当教員	加納 寛也	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床工学技士の視点からの心臓血管外科学、体外循環関連についての実技、考察を行う。ゼミ生は、人工心肺・PCPS/IABP などの生命維持管理装置の手技操作、研究や、周術期における集中治療管理、心臓血管外科領域全般について客員教授、教員の指導・監修の下学ぶ。研究について計画策定しデータ解析、文献検索、文献的考察を行い循環器領域について学ぶことが望まれる。

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。<DP①>
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。<DP①④>
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。<DP①>
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。<DP①④>
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。<DP①④>
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。	担当教員全員

		復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
7	実験仮説の立案①	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容:	担当教員全員

		実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 　計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 　発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 　発表練習を行う。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):辻 (Graduation Research I)				
主担当教員	辻　義弘		担当教員	辻　義弘	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

血液浄化療法一般、総合的生体情報解析を研究テーマとする．総合的生体情報解析では、人間の行動の心理的機能と生理的機能の対応関係を調べ，人間の感性という主観的で論理的に説明しにくい反応を科学的手法によって説明し，研究成果を血液浄化療法分野，実社会に還元・応用することを目的とする．

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。〈DP①〉
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。〈DP①④〉
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。〈DP①〉
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。〈DP①④〉
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。〈DP①④〉
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 　研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
7	実験仮説の立案①	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。	担当教員全員

		予習時間と復習時間の合算は１時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 　計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 　発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 　発表練習を行う。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):西垣 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	西垣 孝行		担当教員	西垣 孝行	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜５限)、後期(火曜１限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床現場（人工心肺・補助循環・ペースメーカー業務など）と大学をつなぐVR体験型教材の開発、補助循環システムの人工肺結露予防のための温風装置開発、ウェアラブル体温計の開発を、多施設共同研究や企業との共同研究開発として実施する。これらの研究案件を社会実装する過程について実践的に学習することにより、社会人基礎力を磨く。
特徴は、アントレプレナーシップを学びながらビジネスモデルキャンバスやバリュープロポジションキャンバスを応用しつつ視野を広げて研究を遂行する能力を養うことである。

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。<DP①>
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。<DP①④>
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。<DP①>
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。<DP①④>
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。<DP①④>
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 　研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 　研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員

6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
7	実験仮説の立案①	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 発表練習を行う。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員

成績評価方法と基準	割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>	1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):原 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	原 良昭		担当教員	原 良昭	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療・教育に対する工学的支援を軸に研究を行います。具体的な研究テーマとしては、3D プリンタを用いた自助具製作及び製作した自助具の評価、リハビリテーションにおける患者動作の可視化、国試対策用問題アプリケーションの開発・データ処理などです。本ゼミの目的は、前述した研究テーマの遂行を通じて、課題解決を目的とした計画立案能力や信号・統計処理に基づく各種データの活用能力といった医療人として必要な能力を養うことである。

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。〈DP①〉
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。〈DP①④〉
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。〈DP①〉
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。〈DP①④〉
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。〈DP①④〉
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
7	実験仮説の立案①	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容:	担当教員全員

		実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 発表練習を行う。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):布江田 (Graduation Research I)				
主担当教員	布江田 友理		担当教員	布江田 友理	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(火曜１限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

これまで、非侵襲的陽圧換気に対する生化学物質の定量評価およびデータ解析や冠動脈狭窄モデルにおける冠血流予備量比の基礎的研究を行ってきました。今後も病態モデルを作製し、NPPV の生体反応評価を行う予定です。また、携帯端末を利用した学習教材の効果およびウェアラブルデバイスを利用した教材作成・評価も検討しています。ICT 教材の活用報告は多数されており、国家試験および各試験対策の教材作成および評価を行います。

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。<DP①>
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。<DP①④>
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。<DP①>
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。<DP①④>
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。<DP①④>
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時: ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は１時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。	担当教員全員

		復習内容: 　学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
7	実験仮説の立案①	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 　実験仮説を考える。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 　立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 　指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容:	担当教員全員

		実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 　実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 　実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 　計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 　考察の発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 　発表資料を作成する。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 　発表練習を行う。 復習内容: 　指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(工学):藤江 (Graduation Research Ⅰ)				
主担当教員	藤江 建朗		担当教員	藤江 建朗	
科目ナンバリング	FS511	科目区分	研究分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(火曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生体機能計測あるいは人工呼吸器に関するテーマの中から自ら選択し，実験，分析，文章作成とプレゼンテーションを通して研究手法について学ぶ．具体的には，生体計測記録装置を使った生体信号（電気信号や画像など）の記録，保存，解析を行い，生理現象との関連性について解明する．人工呼吸器については，各機種の性能評価を行い特徴について整理し新たな機能の開発を行っていきたい．

到達目標

1. 研究倫理について理解し説明できるようになる。〈DP①〉
2. 研究に必要な資料を収集できるようになる。〈DP①④〉
3. 実験・調査などの研究方法を理科し説明できるようになる。〈DP①〉
4. 実現可能な研究計画を作成し、遂行できるようになる。〈DP①④〉
5. 得られた結果を分析し、分析結果から妥当な考察を得ることができるようになる。〈DP①④〉
6. 研究成果をプレゼンテーションすることができるようになる。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 指導教員との十分なディスカッションのもと研究活動を進めるが、学生自身の積極的かつ主体的な取り組みも重要である。

教科書

指定する教科書はない。

参考書

研究内容に関する資料や論文などを随時提示する。

研究室／オフィスアワー

随時：ただし、可能な限り事前に予約を得ること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究領域の理解と文献抄読①	予習内容: 研究倫理について調べて要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
2	研究領域の理解と文献抄読②	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
3	研究領域の理解と文献抄読③	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
4	研究領域の理解と文献抄読④	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
5	研究領域の理解と文献抄読⑤	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。 復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
6	研究領域の理解と文献抄読⑥	予習内容: 研究領域および文献内容の要約を作成する。	担当教員全員
		復習内容: 学習内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	
7	実験仮説の立案①	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
8	実験仮説の立案②	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
9	実験仮説の立案③	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
10	実験仮説の立案④	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
11	実験仮説の立案⑤	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
12	実験仮説の立案⑥	予習内容: 実験仮説を考える。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験仮説を改善する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
13	実験環境の確立①	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
14	実験環境の確立②	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
15	実験環境の確立③	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
16	実験環境の確立④	予習内容: 立案した実験計画を実施するための実験環境を考案する。 復習内容: 指摘内容を踏まえ、実験環境の改善を考える。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
17	実験の遂行（データ収集、分析）①	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は 1 時間	担当教員全員
18	実験の遂行（データ収集、分析）②	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容:	担当教員全員

		実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	
19	実験の遂行（データ収集、分析）③	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
20	実験の遂行（データ収集、分析）④	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
21	実験の遂行（データ収集、分析）⑤	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
22	実験の遂行（データ収集、分析）⑥	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
23	実験の遂行（データ収集、分析）⑦	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
24	実験の遂行（データ収集、分析）⑧	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
25	実験の遂行（データ収集、分析）⑨	予習内容: 実施する実験の手順を要約する。 復習内容: 実施した内容の要約を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
26	結果のまとめ、解釈①	予習内容: 計測結果に対する考察を考える。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
27	結果のまとめ、解釈②	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
28	結果のまとめ、解釈③	予習内容: 考察の発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した考察を考える。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
29	プレゼンテーションの準備①	予習内容: 発表資料を作成する。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
30	プレゼンテーションの準備②	予習内容: 発表練習を行う。 復習内容: 指摘内容を反映した発表内容を作成する。 予習時間と復習時間の合算は1時間	担当教員全員
成績評価方法と基準			割合
1. 提出された研究計画書<DP①> 2. プレゼンテーション内容<DP①④>			1. 60% 2. 40%

臨床工学科

（2020 年度入学生カリキュラム）

授業科目名	基礎ゼミナール(工学)（Basic Seminar）				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、中沢　一雄、五十嵐　淳介、山本　淳	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床工学科教員の専門的関心を背景にした素材を通じて、真の勉強(研究)の仕方やその成果の発表(報告)の仕方などを学び、その後、大学で学ぶことの初歩から専門的分野まで、そして資料の読み方から、議論の仕方、レポート・論文の作成まで幅広く学んでいきます。

到達目標

①講義を聞いて、学術的な文章を読んでその内容を理解できる。〈DP②③④〉
②調べたいテーマに関する文献を検索・収集でき、テーマに即した論理的な文章を書くことができる。〈DP②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

履修上の注意・履修要件 無断の遅刻・欠席は厳禁です。一人ひとりの自主性を尊重しますので、目的意識を持って積極的にゼミナール活動に参加してください。

教科書

使用しない（資料を講義時に配布）

参考書

使用しない

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に従うこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床工学科での学び（カリキュラム、履修方法等について）	予習：シラバスの確認 復習：キーワード調査・レポート作成 1時間予習・復習を行う。	片山
2	臨床工学技士について（役割、業務等について）	予習：シラバスの確認 復習：キーワード調査・レポート作成 1時間予習・復習を行う。	片山
3	ロジカルシンキングとディスカッションの作法と実践	予習：シラバスの確認 復習：キーワード調査・レポート作成 1時間予習・復習を行う。	片山
4	キャリア設計に向けて	予習：シラバスの確認 復習：キーワード調査・レポート作成 1時間予習・復習を行う。	片山
5	医療の世界：心臓と血管	予習：シラバスの確認 復習：キーワード調査・レポート作成 学習所要時間目安：合計二時間	五十嵐
6	医療の世界：腎臓と体液	予習：シラバスの確認 復習：キーワード調査・レポート作成 学習所要時間目安：合計二時間	五十嵐
7	工学のすすめ１：シミュレーション医学・医療（心臓電気現象の基礎）	予習：シラバスの確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢
8	工学のすすめ２：シミュレーション医学・医療（最近のトピックスなど）	予習：前回講義資料の確認　　復習：講義資料の確認 課題：レポート作成 学習所要時間目安：２時間	中沢
9			山本
10			山本
11			山本
12			山本
13			山本
14			山本
15			山本

成績評価方法と基準	割合
【臨床工学科教員】 ①平常点評価（受講態度、発表内容、議論への貢献度など）〈DP②③④〉 ②課題評価（レポート提出、内容など）〈DP②③④〉 【山本淳】 ①平常点評価（授業内での課題小テストなど）〈DP②③④〉 ②講義最終回に作成したアウトラインに基づく課題レポート〈DP②③④〉	【臨床工学科教員】 ①60% ②40% 【山本】 ①60% ②40%

授業科目名	物理学(工学) (Physics)				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学習し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。

到達目標

電気(回路計算)、電磁気の基本知識
水の比熱と日本の気候との関係について
てこと原理と人体中での応用
注射器の先端が皮膚に及ぼす圧力について
血圧とは
　上記の内容を学修していく。<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。
２．配布された資料を使用し、講義を行う。
３．出席は重視する。
４．身近な自然現象を物理学の観点で考察する。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて努力する。

教科書

プリント使用

参考書

電気基礎講座１プログラム学習による基礎電気工学　直流編

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜と水曜の午前中

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	熱力学　比熱 単位について	＜予習・復習 各２時間＞ 水の比熱が大きいことで人間は体温を一定に保つことができる。 スマートフォンのバッテリーの単位などについて学習します。	
2	熱力学 クーロンの法則・電流について 回路のイメージをつかむ	＜予習・復習 各２時間＞ 水分が蒸発する際、必要となる熱量について 電気の基本について一つ一つ確認していきましょう。	
3	熱力学 電圧・抵抗について オームの法則を用いた計算	＜予習・復習 各２時間＞ コンセントの電圧は１００Ｖですね。このボルトについて学習していきます。また、抵抗の単位はオームです。	
4	力とは 色々なオームの法則を用いた計算を練習する	＜予習・復習 各２時間＞ 最も重要な法則です。頑張って覚えましょう。	
5	力学 直列回路の考え方について	＜予習・復習 各２時間＞ 電圧降下、内部抵抗、合成抵抗という言葉が出てきました。	
6	力学 並列回路の考え方について	＜予習・復習 各２時間＞ 直列回路、並列回路の計算に慣れていきましょう。	
7	力学 複雑な回路計算	＜予習・復習 各２時間＞ 直列・並列の融合問題を扱います。	
8	力学 ブリッジ回路	＜予習・復習 各２時間＞ いろんな回路の計算を復習しましょう。	
9	力学 直流と交流の違い ジュール熱	＜予習・復習 各２時間＞ 直流と交流の違いを確認しましょう。	
10	力学 １００Ｖは何を表しているか。 電力	＜予習・復習 各２時間＞ 最大値・実効値・瞬時値・平均値 言葉の確認をしましょう。 電力とは、電灯が光を出したり、モーターが力を出すときに使われる電気エネルギーの大きさを表します。	
11	電磁誘導	＜予習・復習 各２時間＞ 右ネジの法則・フレミングの左手の法則の確認 IH 調理器、リニアモーターカーなど電磁誘導について復習しておきましょう。	
12	コイル(インダクタ) コイルのリアクタンス(誘導性リアクタンス)	＜予習・復習 各２時間＞ リアクタンスは周波数で大きさが変わります。	
13	コンデンサ(キャパシタ) コンデンサのリアクタンス(容量性リアクタンス)	＜予習・復習 各２時間＞ コンデンサは電気を蓄えたり、放出したりする電子部品です。電子機器には欠かせない部品です。	
14	インピーダンスとは 位相とは	＜予習・復習 各２時間＞ 交流回路の計算をするときには位相を考える必要があります。	
15	RL 直列回路 RC 直列回路 RLC 直列回路の計算	＜予習・復習 各２時間＞ 直列回路のインピーダンスを計算できるようにしよう。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験５５点<DP③> ②小テスト４５点<DP③> 合計１００点のうち、６０点以上で単位認定する。	①５５％ ②４５％

授業科目名	生物学(工学)（Biology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
医療人にとって必要な生物学的知識を学習し、この後に展開する基礎医学への理解を容易にする。
到達目標
生物に共通する生体のシステムやその仕組みについて理解を深めることができ、人体と連関して思考できる。＜DP③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
生物学自体は高校までの教科としてすでに学んでいるかもしれないが、医学に直結する領域についてはまだ学んでいないか、理解が不十分であろうと思われる。既に学んでいる、知っている学問という認識は排除して新たな教科を学ぶ姿勢で臨んでほしい。
教科書
「理工系のための生物学」　裳華房
参考書
生物学　カレッジ版　医学書院
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室１
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命と栄養と代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
2	糖質の種類	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
3	糖代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
4	脂質とその代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
5	ビタミンの種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
6	細胞の構造とオルガネラ	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
7	核酸の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
8	転写と翻訳	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
9	タンパク質の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
10	細胞のシグナル伝達	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
11	細胞分裂と増殖	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
12	発生と分化	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
13	免疫システム	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
14	細胞の初期化と再生医療	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
15	細胞死とアポトーシス	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	

成績評価方法と基準	割合
1　定期試験　＜DP③＞	1　100%

授業科目名	化学(工学)（Chemistry）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。
到達目標
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解し、それらが生理機能に密接に連関することを理解して欲しい。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
たとえすでに化学を履修していようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学びなおす必要があると捉えておいて欲しい。
教科書
「ライフサイエンスのための化学」　化学同人
参考書
「理工系の基礎化学」　化学同人
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭化水素化合物１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	炭化水素化合物２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	「化学」のまとめと振り返り	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験	①100%

授業科目名	情報処理(工学Ａ)（Information Processing）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、PC を用いて錯視実験を行い，そのレポートを作成する過程を通して，コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word，Excel，PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる〈DP③〉
２．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる〈DP③〉
３．Wordによる文書（レポート，論文）の作成ができる〈DP③〉
４．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる〈DP③〉
５．インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PC を使った演習を行なうので，休むことなく参加すること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するための USB メモリを用意すること
３．PC 演習室ての飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

特に指定しない．
適宜資料を配付する．

参考書

適宜指示する．

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	授業をすすめるに際して，また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする． そのアイテムは，次回までに用意すること．.【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する意識の欠如や，情報モラルの欠如によって，主にインターネット上で起こった，問題事例について調べる．.【4】	
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	Delbouef の錯視について調べる【4】	
4	Excel 基礎-１- Excel の基本操作の習得	前回収集したデータを，分析しやすい形に成形する【4】	
5	Excel 基礎-２- 関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する【4】	
6	Excel 応用-1- データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて，適切な図を作成する【4】	
7	Excel 応用-2- 図や表を大学レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点に従って，適切な形式に修正する【4】	
8	Word 基礎-1- Word の基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため，タイピングの練習を継続して実施する【4】	
9	Word 基礎-2- 文書のレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する【4】	
10	Word 応用 Excel で作成した図表の利用	Excel から図表を取り込む際の方法の違いを理解し，使い分けられるようにする【4】	
11	PowerPoint 基礎-1- PowerPoint の基本操作の習得	スライドの概念について理解し，実験データの発表の流れについて考える【4】	
12	PowerPoint 基礎-2- スライドの修飾	スライドを修飾し，興味関心を引く工夫をする【4】	
13	PowerPoint 応用 アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え，特に注目してもらえるように工夫する【4】	
14	プレゼンテーション-1- 錯視実験のデータについて発表を行う	これまでに作成したスライドを使用して，クラスで発表する内容を考える【4】	
15	プレゼンテーション-2- 錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に，より良い発表ができるように工夫する【4】	

成績評価方法と基準	割合
1．課題の完成度〈DP③〉	1．100%
1.1．Excel 資料〈DP③〉	1.1．40%
1.2．Word 資料〈DP③〉	1.2．40%
1.3．Powerpoint 資料〈DP③〉	1.3．20%

授業科目名	情報処理(工学Ｂ)（Information Processing）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、PC を用いて錯視実験を行い，そのレポートを作成する過程を通して，コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word，Excel，PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる〈DP③〉
２．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる〈DP③〉
３．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる〈DP③〉
４．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる〈DP③〉
５．インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PC を使った演習を行なうので，休むことなく参加すること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するための USB メモリを用意すること
３．PC 演習室ての飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

特に指定しない．
適宜資料を配付する．

参考書

適宜指示する．

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	授業をすすめるに際して，また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする． そのアイテムは，次回までに用意すること．.【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する意識の欠如や，情報モラルの欠如によって，主にインターネット上で起こった，問題事例について調べる．.【4】	
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	Delbouef の錯視について調べる【4】	
4	Excel 基礎-１- Excel の基本操作の習得	前回収集したデータを，分析しやすい形に成形する【4】	
5	Excel 基礎-２- 関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する【4】	
6	Excel 応用-1- データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて，適切な図を作成する【4】	
7	Excel 応用-2- 図や表を大学レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点に従って，適切な形式に修正する【4】	
8	Word 基礎-1- Word の基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため，タイピングの練習を継続して実施する【4】	
9	Word 基礎-2- 文書のレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する【4】	
10	Word 応用 Excel で作成した図表の利用	Excel から図表を取り込む際の方法の違いを理解し，使い分けられるようにする【4】	
11	PowerPoint 基礎-1- PowerPoint の基本操作の習得	スライドの概念について理解し，実験データの発表の流れについて考える【4】	
12	PowerPoint 基礎-2- スライドの修飾	スライドを修飾し，興味関心を引く工夫をする【4】	
13	PowerPoint 応用 アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え，特に注目してもらえるように工夫する【4】	
14	プレゼンテーション-1- 錯視実験のデータについて発表を行う	これまでに作成したスライドを使用して，クラスで発表する内容を考える【4】	
15	プレゼンテーション-2- 錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に，より良い発表ができるように工夫する【4】	

成績評価方法と基準	割合
1．課題の完成度〈DP③〉 1.1．Excel 資料〈DP③〉 1.2．Word 資料〈DP③〉 1.3．Powerpoint 資料〈DP③〉	1．100% 1.1．40% 1.2．40% 1.3．20%

授業科目名	統計学(工学)（Statistics）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。

到達目標

１．統計学の基礎を理解する〈DP③〉
２．推定と検定の考え方を理解し，説明することができる〈DP③〉
３．量的データに対して適切な分析方法を選択することができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回の授業のつながりが非常に重要です．また，毎回小テストを実施しますので，欠席のないように留意すること

教科書

向後千春・冨永敦子，ファーストブック 統計学がわかる，技術評論社

参考書

市原清志 著，「バイオサイエンスの統計学 -正しく活用するための実践理論-」，南江堂

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して，テキスト「はじめに」を読む（単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様），【4 時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	測定値の性質（尺度水準）	「尺度水準」とは何か調べる．【4】	
3	平均と度数分布・分散と標準偏	テキスト１章を読む【4】	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト２章を読む【4】	
5	相関係数：２変数間の関係	ピアソンの積率相関係数，スピアマンの順位相関係数，ケンドールの順位相関係数について調べる【4】	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト 3-1 を読む【4】	
7	観測度数と期待度数	テキスト 3-2，3-3 を読む【4】	
8	カイ２乗検定	テキスト 3-4 を読む【4】	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト 4-1，4-2 を読む【4】	
10	対応がないデータによるｔ検定（ウェルチの方法）	テキスト 4-3 を読む【4】	
11	対応があるデータによるｔ検定	テキスト５章を読む【4】	
12	１要因の分散分析-1-	テキスト 6-1，6-2 を読む【4】	
13	１要因の分散分析-2-	テキスト 6-3 を読む【4】	
14	２要因の分散分析-1-	テキスト 7-1，7-2 を読む【4】	
15	２要因の分散分析-2-	テキスト 7-3 を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
① 定期試験〈DP③〉 ② 平常点（小テスト，授業内課題等）〈DP③〉	① 80% ② 20%

授業科目名	心理学(工学)（Introduction to Psychology）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

心理学が扱う問題・領域は多岐にわたっているが，それらに共通しているのは，「こころ」を理解しようとしていることである．しかしながら，一見すると，一体どこに「こころ」があるのか疑問になるような問題を扱っていることも多い．
　本講義では，心理学が現在の「こころの科学」としての心理学の形をとるようになった過程の全般的な流れについて概説した後に，領域ごとに解説を展開する．
　医療の現場では，様々な状況に置かれた人々と関わりを持つ機会が非常に多い．心理学を学び，「こころ」に関する知識を修得することが，医療人としての皆さんに，直接的に，また，間接的に役立つことを期待している．

到達目標

１．「こころの科学」としての心理学の成り立ちについて説明できる〈DP③〉
２．「こころ」の発露である行動の基本様式について説明できる〈DP③〉
３．心理学が扱う問題・領域を概観して「こころ」を捉えることができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編，「心理学［第５版］」，東京大学出版会

参考書

大竹文雄・平井啓 編著，「医療現場の行動経済学―すれ違う医者と患者―」，東洋経済新報社
その他、適宜指示する。

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	こころを捉える：こころとはなにか？	テキスト第１章を読む （単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）【4 時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	こころを捉える：行動の基本様式	テキスト第２章を読む【4】	
3	こころを捉える：遺伝と環境	テキスト第３章を読む【4】	
4	学習：条件付け	テキスト第４章１節を読む【4】	
5	学習：技能学習と社会学習	テキスト第４章２節、３節を読む【4】	
6	記憶：短期記憶と長期記憶	テキスト第４章４節を読む【4】	
7	学習・記憶の神経学的基礎	テキスト第４章５節を読む【4】	
8	感覚：感覚様相と閾	テキスト第５章１節を読む【4】	
9	知覚：視覚系の生理学	テキスト第５章２節,１項，２項を読む【4】	
10	知覚：視知覚の特性	テキスト第５章２節、3，4，5，6，７項を読む【4】	
11	思考・言語：問題解決と認知発達	テキスト第６章１節，２節，３節，４節を読む【4】	
12	思考・言語：言語・非言語コミュニケーション	テキスト第６章５節，６節を読む【4】	
13	動機づけ：達成動機づけ	テキスト第７章４節を読む【4】	
14	社会行動：社会的認知	テキスト第９章１節，２節を読む【4】	
15	社会行動：態度と説得・社会的影響	テキスト９章３節，４節を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP③〉 ②平常点（小テスト・レポート等）〈DP③〉	①80% ②20%

授業科目名	生命倫理学(工学)（Bioethics）				
主担当教員	田中　美子		担当教員	田中　美子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

「生命倫理学」の主なトピックを取り上げながら、その是非について一緒に真剣に考える時間をもちます。授業は講義が中心ですが、ディスカッションも行う予定です。

到達目標

１.「『いのち』は誰が決めるのか」と、どの現場でも考えられる習慣を身につける。〈DP③〉
２.「誰のための医療か」「誰のためのケアか」を、他の人の立場でも考えられる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書とノートを用意してください。
授業の内容は、多少、変更することがあります。

教科書

『はじめて学ぶ生命倫理学』　小林亜津子著　ちくまプリマー新書 167（筑摩書房）　2011 年

参考書

『生命科学ただいま講義中』　岡田安弘著　金芳堂　2016 年
『生命倫理学とは何か』　アラステア・Ｖ・キャンベル著　山本圭一郎他訳　勁草書房　2016 年
『生命倫理の教科書』　黒崎剛・野村俊明編著　ミネルヴァ書房　2014 年
『ルポ　看護の質』　小林美希著　岩波新書 1614（岩波書店）　2016 年
『QOL って何だろう』　小林亜津子著　ちくまプリマー新書　2018 年
『看護師という生き方』　宮子あずさ著　ちくまプリマー新書　2013 年
『いのちはなぜ大切なのか』　小澤竹俊著　ちくまプリマー新書　2007 年

研究室／オフィスアワー

授業の前後に、質問等を受け付けます。
自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理学と他の学問とのちがい	ノートをまとめ直しましょう。	
2	いのちの「終わり」は誰が決めるのか	教科書第 1 章を読んでおきましょう。	
3	安楽死事件と安楽死に伴う諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
4	子どもの医療は誰が決めるのか	教科書第 2 章を読んでおきましょう。	
5	子どもの医療に関する事例 宗教、あるいは人を支えるもの	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
6	判断能力は誰が決めるのか	教科書第 3 章を読んでおきましょう。	
7	不均衡な構造がもたらす諸問題（男女差別、人種差別、医療者と患者の関係等）	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
8	いのちの「質」は誰が決めるのか	教科書第 4 章を読んでおきましょう。	
9	デザイナー・ベビーをめぐる諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
10	双子の生死は誰が決めるのか	教科書第 5 章を読んでおきましょう。	
11	意識は人格の座か（意識と身体の哲学）	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
12	人体実験からインフォームド・コンセントへ	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
13	いのちの「優先順位」は誰が決めるのか	教科書第 6 章を読んでおきましょう。	
14	いのちの「始まり」は誰が決めるのか	教科書第 7 章を読んでおきましょう。	
15	受精卵と中絶胎児に関する諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	

成績評価方法と基準	割合
①毎授業の「振り返り（ミニレポート）」。〈DP③〉 授業の内容が反映されていること。 ②学期末の「レポート」。〈DP③〉 調べた内容が客観的にまとめられていること。 自分の考察が書かれていること。	①約 50% ②約 50%

授業科目名	社会福祉学(工学)（Social Welfare）				
主担当教員	掛川　直之		担当教員	掛川　直之	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

〈貧困〉という問題をつうじて、社会福祉の基礎を学ぶ。社会福祉にかんする考え方、制度、課題等について、時事的な問題や映像素材などをとおして具体的に学んでいく。一方通行にならないように、受講生の意見を聴いたり、グループワークをとりいれるなど、できるだけ退屈にならないような参加型の講義を心がける。

到達目標

日本社会に生起するさまざまな生活問題とその背景について、社会福祉の観点から理解することで、その解決に向けて自分の考えを自分のことばで説明できるようになることを目標とする。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義の進め方や成績評価の方法等の詳細については、初回の授業において説明する。なお、講義毎に、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。ここで出された質問等については、次回の講義の冒頭で解説をくわえる。

教科書

毎回の講義においてレジュメを配布する。

参考書

金子充『入門 貧困論：ささえあう／たすけあう社会をつくるために』（明石書店、2017 年）
岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門〔改訂版〕:「福祉の世界」への招待』（有斐閣、2013 年）
掛川直之編著『不安解消！出所者支援：わたしたちにできること』（旬報社、2018 年）

研究室／オフィスアワー

講義の前後、あるいはメール等にて質問等を受け付ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	〔オリエンテーション〕社会福祉の学び方：医療と福祉はつながっている	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	〔社会福祉の基本①〕社会福祉の考え方：人間はひとりでは生きられない	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	〔社会福祉の基本②〕貧困問題から社会福祉を考える：あなたはどんな「溜め」をもっている？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	〔社会福祉の基本③〕社会保障のしくみ：国や自治体の役割を考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	〔社会福祉の基本④〕ドラマ『サイレント・プア』から考えるソーシャルワーク：ソーシャルワーカーのしごと	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	〔社会福祉の分野①〕拡大する高齢者の貧困：老後は年金だけで生活できる？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	〔社会福祉の分野②〕病気や障がいをもつ人と貧困：適切な医療を受けるために	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	〔社会福祉の分野③〕女性やマイノリティは貧困に陥りやすい？：ジェンダーについて考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	〔社会福祉の分野④〕子どもの貧困も自己責任？：成長発達の権利	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	〔社会福祉の分野⑤〕漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える生活保護制度：生きるための最後の砦	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	〔社会福祉の分野⑥〕映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』から考える生活保護受給とバッシング：差別と偏見の背後にある誤解	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
12	〔地域と社会福祉〕釜ヶ崎とホームレス問題：医療・保健・福祉の機能が集約された逃れのまち	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	〔犯罪と社会福祉〕どうして〈犯罪者〉に福祉が必要なの？：貧困・社会的排除のスパイラル	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	〔生活と社会福祉〕社会の〈障害〉をみつける：社会を変えることはできるのか？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	〔社会福祉の応用〕私たちにできること：第 1 回～第 14 回のまとめ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 本講義全体を見直す	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP③〉 ②コミュニケーションペーパー〈DP③〉	①70% ②30%

授業科目名	日本国憲法(工学)（Constitution of Japan）				
主担当教員	植田　重幸		担当教員	植田　重幸	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コ・メディカルをもとに、診療の補助の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規（保健衛生関連法規）の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。

到達目標

1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。〈DP③〉
2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。〈DP③〉
3. 医療と人権に関する大切さを理解する。〈DP③〉
4. 臨床工学科における『臨床工学士法』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。〈DP③〉
5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。〈DP③〉
6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。
2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。
3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。
4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。

教科書

指定しない。

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特色 基本理念及び基本原理	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権（人格権と幸福追求権）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在的解釈を確認する	
9	関係法規① コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する	
10	関係法規② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 医療過誤の実態と権利侵害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 医療過誤における法的責任	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	

成績評価方法と基準	割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	東洋史概説(工学)				
主担当教員	重信　あゆみ		担当教員	重信　あゆみ	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

古代より人類は多くの活動を連携して行ってきた。その積み重ねが歴史である。そして、現在の医療には、チーム力が必須であり、そのためにはどのようにチームに貢献していくのかを各人が考えていく必要がある。人間活動の痕跡である歴史は、人間関係の構築を知る格好の材料である。歴史を俯瞰的にみることにより、チームに貢献するための人間力を向上させる。

到達目標

中国文化の基盤となっている歴史、思想を理解する。中国の思想には「いかに生き抜くか」が根底にある。その中で、諸子百家と呼ばれる人々は多くの思想を生み出し、広めてきた。思想やその背景となる歴史を人間関係の構築という観点からみることにより、チームに貢献するための「行動」について考える力を養う。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 配付された資料には必ず目を通すこと。
2. 出席は重視する。
3. 疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

マイケル・ピュエット／クリスティーン・グロス＝ロー著　熊谷淳子訳
『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』早川書房　2016 年

研究室／オフィスアワー

授業後、非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教科科目のガイダンス	＜予習・復習 各 2 時間＞ 半期でする時代の流れを復習すること	
2	死生観のあらわれ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 中国の墓の壁画を通じて、死生観を学ぶ	
3	孔子の理想とした西周	＜予習・復習 各 2 時間＞ 西周の遺物を中心に文化・歴史を学ぶ	
4	黄泉の国　「中国と日本の比較」	＜予習・復習 各 2 時間＞ 中国と日本の死後の世界を図像を通して比較する	
5	孫子の兵法	＜予習・復習 各 2 時間＞ 孫子の兵法が三国時代や現在にまで影響を及ぼしていることを学ぶ	
6	古代中国における病気の退散方法	＜予習・復習 各 2 時間＞ 古代中国の人々は病気の原因を何に求めたのか、そして、それを退散させるには、どのように考えていたのかを考える。	
7	道教の神「西王母」	＜予習・復習 各 2 時間＞ 不老長寿の神である西王母について学ぶ。西王母は古来より現在に至るまで信仰されている神である。なぜ、ひとびとは、不老長寿を追いかけるのか。西王母の変遷を通じて考える。	
8	張目吐舌	＜予習・復習 各 2 時間＞ ひとびとは生き抜くためにあらゆる手段を講じた。そのなかでも悪霊から自身を守るために魔除けをつくる。その共通点が「張目吐舌」である。東西交渉を通じて伝えられた「「張目吐舌」について考える。	
9	「精」「気」「神」	＜予習・復習 各 2 時間＞ 「精」「気」という人にとって基本となる思想について触れる。ほんとうの元気とは何かについて考える。	
10	老子　「道」	＜予習・復習 各 2 時間＞ 「柔は剛より強い」、この思想を通して、どのように実践されてきたのか、現在にどのように実践していくのかを考える。	
11	科挙制度を学ぶ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 科挙制度を通じて、古代中国における人材確保の仕方を学ぶ。また、教育についても触れる。	
12	日本の中の中国①	＜予習・復習 各 2 時間＞ 日本における中国の影響を学ぶ。	
13	日本の中の中国②	＜予習・復習 各 2 時間＞ 前講義につづき、日本の中の中国の影響、そして、変容を学ぶ。	
14	「癒し」	＜予習・復習 各 2 時間＞ ストレス社会である現在、さまざまな「癒し」がある。各自の癒しについて考えてもらい、なぜ癒されるのかを科学的に検証していく。	
15	思想と東洋医学	＜予習・復習 各 2 時間＞ 半期のまとめを行う。ひとはなぜ「不老長寿」を追い求めてきたのかをまとめを行いながら考えていく。	

成績評価方法と基準	割合
①授業ごとの感想文〈DP③〉 ②レポート課題〈DP③〉 ③定期試験〈DP③〉	①10% ②20% ③70%

授業科目名	西洋史概説(工学)				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

現代の日本社会においては、意識するしないに関わらず、様々な分野で西洋社会（ヨーロッパ諸国・北アメリカ）の影響を受けている。とりわけ江戸時代が終わり明治時代になって以降、政治・経済システムや文化といった側面で、日本は多くのものを西洋社会から受け入れ、伝統的な日本社会に溶け込ませようとしてきた（それがうまくいった例もあれば、失敗に終わった例もあろう）。　本講義では、そのような点で重要なものである西洋社会の特色について、西洋の歴史を古代から現代まで概観していくことで、理解を深めていくことを目指したい。
　西洋の歴史もかなり古く、数多くの重大な出来事が起こっているが、本講義ではそれらを網羅的に事細かく解説することは避け、いくつかのトピックに絞って西洋文化・社会の特徴を把握することを試みる。例えば古代ギリシャ・ローマ文明、中世のキリスト教社会の成立、近代の様々な革命的な出来事（科学革命・産業革命・政治革命）などである。
　また本講義では西洋における自然科学史、特に医療にかかわる歴史についても適時紹介し解説していきたい。現代の医療もまた様々な面で西洋文化の影響下にあり、西洋において「医」の考え方がどのように変遷していったのかを理解することは、現代の医療を学ぶ上でも重要な視点を与えてくれるだろう。

到達目標

１．現在の西洋社会の出発点ともいえる古代ギリシャ・ローマ文明の内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
２．現代の西洋社会においても重要な一部を成しているキリスト教が西洋中世においてどのように社会に浸透していったのかを理解することができる。〈DP③〉
３．ルネサンス期から近世にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には宗教改革や、17 世紀の科学革命、18 世紀の啓蒙思想などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
４．近代から現代にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には産業革命やフランス革命、アメリカの独立戦争や第一次・第二次世界大戦、東西冷戦などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
５．西洋の歴史において、医療についての考え方や医療技術がどのような変遷を経てきたのかを理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代の日本社会・文化においては、西洋社会・文化に由来するものが数多くあり、常識となっているものもあろう（逆に違和感があり馴染めないというものもあろう）。本講義では、そういったもののルーツとなるものを、西洋の歴史をたどって概観していくことで理解を深めてもらい、またそういったものについていろいろと考えを巡らせてみるきっかけとしてもらいたい。
　西洋史におけるさまざまなトピックを充分に学修するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。
　他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明（ガイダンス）。また講義の導入として古代ギリシャの文化・社会について①。	（予習）西洋社会・文化について自分がどういうイメージを抱いているのかを考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	古代ギリシャの文化・社会について②。およびヒポクラテスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
3	古代ローマの文化・社会について。およびガレノスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
4	中世キリスト教社会の成立について①。およびアヴィケンナの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
5	中世キリスト教社会の成立について②。および「ペスト（黒死病）」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
6	ルネサンス、ルターの宗教改革、三十年戦争について。および「解剖学」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
7	１７世紀の西洋社会・文化について（近代的な国家の形成過程や科学革命など）。およびハーヴィの「血液循環論」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
8	１８世紀の啓蒙思想について（モンテスキュー、ルソー、アダム・スミスなどの思想）。およびレーウェンフックの「顕微鏡」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
9	産業革命とフランス革命について。およびパストゥールの「フラスコ」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
10	ウィーン体制と国民国家の形成過程、帝国主義について。および「X 線装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
11	アメリカ独立戦争とアメリカ合衆国の成立について。および「天然痘」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
12	第一次世界大戦前後の西洋社会・文化について（ロシア革命やヴェルサイユ体制など）。および「人工心肺装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
13	第二次世界大戦前後の西洋社会・文化について（世界大恐慌やファシズムの台頭など）。およびクリックとワトソンの「二重らせん」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	

14	第二次世界大戦後の西洋社会・文化について（冷戦とポスト冷戦など）。および「MRI スキャナー」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間） （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。<DP③> 小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることができるかどうかを評価する。 期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。	①期末試験 50% ②小テスト 50%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(工学 A）（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
１．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
２．医学用語の基礎知識を学ぶ。
３．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。<DP②>
基本的な文法、語彙、表現を身につける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 22 / 木曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(工学B)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜2限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
１．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
２．医学用語の基礎知識を学ぶ。
３．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。<DP②>
基本的な文法、語彙、表現を身につける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟4階研究室14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(工学A)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan ／Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E棟4階研究室22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(工学Ｂ)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	長尾　晋宏		担当教員	長尾　晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	MBS(Morinomiya Basic Seminar)(工学) (Morinomiya Basic Seminar)				
主担当教員	藤江 建朗		担当教員	藤江 建朗	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本授業は、大学生としての学習や生活をスムーズにスタートさせるために、大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を身につけること、学園の歴史や建学の精神の意味やディプロマポリシーを理解することで、本学への帰属意識を確立させることを目的とする。
また、履修に関することや教育課程（カリキュラム）、学生生活に関するルール等を理解することで、大学で学ぶために必要な能力を身につけることを目的とする。
医療の歴史及び医療の現在と未来を知ることで、医療全体への興味をより深めることを目的とする。

到達目標

・本学の建学の精神及びディプロマポリシーを理解している。<DP②③>
・大学で学ぶために必要な能力を身につけている。<DP②③>
・生徒から学生へ移行する（主体的・能動的な学習スタイルを身につける）<DP②③>
・医療人を目指す学生であることに対しての自覚を強く持つ。<DP②③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理想の大学生活とは？想像している内容と異なる話を聞くこともあるでしょうが、4 年間を有意義に過ごせるようこれからの生活を考えるきっかけとなることを願います。

教科書

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

在席していれば，いつでも対応可
水曜日は大学不在日で対応できません。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【本学の歩みと未来／生徒から学生へ】 ・理事長による「本学の起源や今後の展望」、 ・学長による「医療・医学を学ぶ上での心構え」についての講義。 ・在校生から新入生に向けて大学生活の過ごし方や講義の受け方についてのプレゼンテーション。	予習：本学の Web サイトで「建学の精神」「森ノ宮医療学学園の歴史」「本学の特徴」について調べる．(1 時間) 復習：大学生としての心得を考え，まとめる．(1 時間)	藤江
2	【臨床工学科のカリキュラムについて】 ・カリキュラムについて ・カリキュラムポリシーについて ・ディプロマポリシーについて	予習：学生手帳の「臨床工学科 授業科目・単位数」と「本学学士過程における三つのポリシー」「臨床工学科における三つのポリシー」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分にとって今後の大学生活で必要なことを考える．(2 時間)	藤江
3	【情報化社会における情報リテラシーと情報モラルについて】 ・情報リテラシーと情報モラル（SNS の取り扱い） ・医療情報の取り扱いについて ・その他社会問題等	予習：「情報リテラシー」「情報モラル」について調べ，自分の考えをまとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，多くの情報から適切に情報を得る方法を考える．(2 時間)	藤江
4	【臨床工学技士のキャリアについて】 ・自身のキャリアについて ・履修モデルの解説と自身のキャリア形成プランの検討 ・臨床工学技士に必要な学びと研究	予習：自分自身，将来どのような「大人」になりたいか，また，目標とする「臨床工学技士像」を考え，まとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分の将来像を明確にする．(2 時間)	藤江
5	地域医療について 住之江区長による「住之江区の医療・福祉の現	予習：本学が位置する「住之江区」の Web サイト「広報誌 さざんか」にて，住之江区における	藤江

	状」についての講話	「福祉・健康」の施策について調べる（2 時間） 復習：授業をまとめ，今の自分でも参加できることを（ボランティア等）を探す．（2 時間）	
6	西洋医学とは 医師による西洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：西洋医学とは何か？を調べる．（2 時間） 復習：西洋医学の中での臨床工学の重要性を調べ，まとめる．（2 時間）	藤江
7	東洋医学とは 鍼灸師による東洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：東洋医学とは何か？を調べる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，西洋医学との違いを理解し，東洋医学の重要性をまとめる．（2 時間）	藤江
8	チーム医療とは ・チーム医療について知る	予習：本学の Web サイトで「チーム医療」について調べる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，チーム医療の重要性を理解する．（2 時間）	藤江
成績評価方法と基準			割合
レポート試験：「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度<DP②③> ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	チーム医療見学実習(工学)				
主担当教員	加納 寛也		担当教員	加納 寛也	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

１．医療の実践の場である病院等の施設で医療従事者の 1 日を体験することにより、医療職への理解を深める。
２．保健医療施設における自己の目指す専門職の役割や機能を知ると共にチーム医療を構成する
様々な専門職の役割・機能について知識を深める。
３．チーム医療の実際を知り、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性を知る。

＜施設見学の実施概要＞
開講時期：9 月下旬
実習施設：大阪急性期・総合医療センター(日程調整中)、大阪国際がんセンター(9 月 28・29・30 日または
9 月 23・24・25 日)、日本生命病院(9 月 23・25・28 日)、関西メディカル病院(9 月 25・28・29 日)

＜実施方法＞
１．本見学実習は大学内で実施する事前授業（4 コマ）と施設見学（4 コマ）とする。
２．1 班 8 名程度の学科混成グループを作り、各グループ上記施設の中から 1 施設を見学する。
３．1 班ごとに 1 名の本学教員が引率し、基本的には引率教員の指示のもと決められたスケジュール通りに
施設内を見学する

到達目標

１．実習を通じて医療施設の全体的な業務や役割について知ることができる。DP2
２．実習を通じてチーム医療の構成を知り、目指す専門職の役割および責任を自覚することができる。DP2
３．実習を通じて医療に取り組む姿勢を養い、専門科目の学習への意欲向上のきっかけとし、今後、
専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。DP23

履修上の注意(学生へのメッセージ)

見学時は、担当者のみならず院内の全ての方(就業者や患者さん等)に迷惑がかからない行動を取るとともに、発言にも最大限配慮すること。
見学当日はバスで送迎を行います。集合場所や時間を等は引率教員の指示に従うこと。

教科書

とくになし

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階：教職員室（事前予約制：金曜日を除く）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	事前授業①（授業の目的や概要について）	【事前授業１】（授業の目的や概要について） 予習：本学に設置されている学科の仕事内容を調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、チーム医療についての考えをまとめる。(3 時間)	加納
2	事前授業②（授業の目的や概要について）	【事前授業２】（施設見学における注意事項について） 予習：大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて実践できるようにする （3 時間）	加納
3	事前授業③（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる	加納

		（3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	
4	事前授業④（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	加納
5	【学修内容：⑤～⑧】 「施設見学」 ＜見学スケジュール例＞ ①リハビリテーション室の見学 →それぞれの職種間でのコミュニケーションを学ぶ ②ICU・CCU →医師や看護師の連携について学ぶ。最新機器等の設備について知識を深める ③各種検査室の見学 →検査技師と医師や看護師など他の職種との連携について学ぶ ④透析室 →透析の機器等について知識を深める ⑤手術室 →手術室とはどのような環境の部屋なのか、実際の設備や雰囲気を知る	復習：見学実習での学びをレポートにまとめる。自修時間 6 時間→課題提出	加納
成績評価方法と基準			割合
レポート課題〈DP②③〉 「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	基礎体育(工学 A)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習 1 時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 　その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	基礎体育(工学 B)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
　日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
　学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習１時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	

8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。			①100%

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(工学) (Health Science【Including Sports Sociology】)				
主担当教員	佐野　加奈絵		担当教員	佐野　加奈絵	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。

到達目標

・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける（DP③)。
・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する（DP③)。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回配布する資料を用いて、必ず復習してください。

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005 年
田中喜代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006 年

研究室／オフィスアワー

東棟 4F　月曜 9:00-10.30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康とは？	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
2	運動・栄養と肥満症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
3	運動・栄養と糖尿病との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
4	運動・栄養と脂質異常症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
5	三大栄養素（糖質・脂質・タンパク質）の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
6	微量栄養素（ビタミン・ミネラル）と水の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
7	消化器の構造と機能	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
8	食品群の理解と応用	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
9	エネルギー摂取量と消費量との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
11	運動処方の原則と実際	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
12	運動と食欲の関係ー最新のトピックスー	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：　これまでのプリントの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
成績評価方法と基準			割合

①定期試験で評価する（DP③）。 15回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	①100%

授業科目名	栄養学(工学)（Nutriology）				
主担当教員	南方　克之		担当教員	南方　克之	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

国民総医療費は 38 兆 5850 億円に達し、その医療費の 55.6%は 65 歳以上の高齢者が占めているとのことである。2013 年度の高齢者数は 3190 万人（全人口の 25.1%）であるが、2030 年度には 3685 万人（31.6%）に達すると予測されている。総医療費の半分以上を占める高齢者が、15 年後には 3 人に 1 人の割合になることを考えると、いかにして高齢者の健康寿命を長くするかがとても重要になる。1 人でも多くの高齢者が健康で過ごせるように医療従事者が食事指導できることが大切と考え、健康の保持増進に欠くことのできない「栄養」に関する正しい知識を学修する。

到達目標

１．栄養素の種類と働きについて理解し、食生活と疾病の関係性について説明できる。
２．消化と吸収およびエネルギー代謝について説明できる。
３．ライフサイクルと栄養摂取について理解し、栄養アセスメントについて説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１.「栄養学」に興味を持って授業に臨んでください。
２．初回授業で実施の詳細を説明します。

教科書

『イラスト基礎栄養学第 2 版』大口健司・小野廣紀・田村明／東京教学社

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

森ノ宮医療大学：西棟４F434 研究室（火曜日 11：00～18：00）
森ノ宮医療学園専門学校：２F 職員事務室／授業外対応可能（木曜日以外）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	栄養の概念	予習：教科書（P.1～12）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
2	食物の摂取	予習：教科書（P.13～19）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態①	予習：教科書（P.21～38）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
4	消化・吸収と栄養素の体内動態②	予習：教科書（P.21～38）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
5	たんぱく質の栄養①	予習：教科書（P.39～52）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
6	たんぱく質の栄養②	予習：教科書（P.39～52）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
7	炭水化物の栄養①	予習：教科書（P.53～63）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
8	炭水化物の栄養②	予習：教科書（P.53～63）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
9	脂質の栄養①	予習：教科書（P.67～77）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
10	脂質の栄養②	予習：教科書（P.67～77）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
11	ビタミンの栄養①	予習：教科書（P.79～97）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
12	ビタミンの栄養②	予習：教科書（P.79～97）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
13	ミネラル（無機質）の栄養	予習：教科書（P.99～112）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
14	水・電解質の栄養的意義	予習：教科書（P.113～121）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
15	エネルギー代謝	予習：教科書（P.123～136）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験　出題範囲：授業内で扱った範囲	100%

授業科目名	医学概論(工学)（Introduction to Medicine）				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

少子高齢化の進展する今日、医療施設においてはIT化、入院期間の短縮化、疾病に対する高度な治療技術の導入が進んでいる。
本教科目では、現代医療をめぐる社会環境の変化・動向を把握し、患者中心の医療が成果をあげるために、まずは進歩する現代医療の実態を把握するとともに、各専門職のチームワークが重要であることを、広い視点から学修する。
医療の本質、現代医療の課題、EBM（Evidence Based Medicine）、医療の対象としての個人や集団、インフォームドコンセント、医療安全、生命の誕生と死（脳死）、臓器移植、医療経済、各種専門職の役割、IPW（Inter-professional Work）、IPE（Inter-professional Education）等について学修する。

到達目標

１．社会環境や疾病構造の変化を理解する.
２．患者の権利宣言や医療倫理に関する事項を理解する.
３．患者に提供されている医療の実態を把握し，現状を理解する.
４．医療の対象としての人間（生と死、個人・家族・集団）について考え、理解する.
５．医療の成果を挙げるための仕組みやチーム医療、各学科の垣根を越えた専門職種間連携（IPW）について理解する.
６．実験的最新医療の臨床応用と災害医療における生命倫理について考え、理解する.
７．脳死判定や臓器移植とコーディネイターの役割について理解する.
８．医療におけるリスクマネジメントについて理解する.

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．医療者の考えと患者の医療に対する考えのずれを認識する.
２．医療システムと上手な受診、医療者のモラルを考える.
３．「医学概論」は医療する側の原点であることを認識する.
４．グループ討議には積極的に参加する.
５．日々の学生生活の中から現代医療に関する情報を収集し、考える習慣をつける

教科書

小泉俊三，平尾智広，有吉浩美：総合医療論　健康支援と社会保障制度①　医学書院

参考書

中島泉：医学概論　医学のコンセプトと医療のエッセンス　南江堂
厚生の指標　増刊　61(9) 国民衛生の動向　2014/2015 厚生労働統計協会.
その他，講義時に紹介する

研究室／オフィスアワー

C棟、研究室４、原則月曜日　2・3時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	自己紹介、オリエンテーション（レポートの課題説明等）、医療コミュニケーション	予習：教科書2頁～9頁を読んでおくこと（医療コミュニケーションとはなにかを理解すること）、 復習：配布資料により、レポートの課題内容を理解すること	吉岡
2	生命倫理について：人の誕生と死に関する諸課題	予習：教科書の散在する関連部分を読んでおくこと 復習：　配布物より、生と死について、持論を確立すること	吉岡
3	わが国の医療システムと医療スタッフの役割	予習：教科書56頁～72頁を読んでおくこと 復習：配布資料より、わが国の医療システムと医療機関内におけるチーム医療を理解すること	吉岡
4	インフォームドコンセントと医療情報の開示・共有	予習：教科書132頁～139頁を読んでおくこと 復習：配布物より､進化した基幹病院の多職種間のカルテ共有システムと地域チーム医療を理解すること	吉岡
5	疾病の一次予防と健康増進	予習：教科書73頁～95頁を読んでおくこと 復習：配布資料より健康日本２１の内容を理解	吉岡

		すること	
6	実験的最新医療の臨床応用と災害医療における生命倫理	予習：教科書 98 頁～111 頁を読んでおくこと 復習：配布物により、災害医療における生命倫理を理解すること	吉岡
7	脳死判定と臓器移植	予習：不要 復習：配布物より、臓器移植の現況を知り、脳死を理解するだけではなく、その判定手順を学ぶ	吉岡
8	医療安全：リスクマネジメント	予習：148 頁～153 頁 復習：配布物により、実践的なリスク管理を身につけること	吉岡
成績評価方法と基準			割合
①期末レポート ②講義内容の小レポート （詳細な評価法は講義の中で発表する）.			①60% ②40%

授業科目名	公衆衛生学(工学)（Public Health）				
主担当教員	神田　靖士		担当教員	神田　靖士	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	月曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

公衆衛生学は、ひとびとの健康維持、増進を実践する方法や技術を学ぶ専門科です。すなわち、何が健康を邪魔しているのか、何をすれば健康が守れるのか、どのような仕組みを作れば健康の維持、増進にプラスになるのかなどを科学的に解析し、それらを実践する学問です。
　本講義では、衛生･公衆衛生学の総論、衛生行政、予防医学、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。

到達目標

国民の基本的人権としての健康を保障するための科学、技術、倫理を医学の観点から学ぶ学問である。国民の健康を守るべき看護学生として、国民の健康状態と保健、衛生、福祉の体制を正しく理解し、国民の健康を守るための保健医療サービスと公衆衛生事業のしくみと方法について学習し、会得することが目標である。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．講義を積極的に受講すれば行政のしくみや法におよび統計を理解できるようにしています。
２．講義内容の他に社会の福祉・保健・統計については新聞に記載されることがあり、日頃から注意してみることで学ぶことができます。新聞を読んでください。
３．出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
４．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考書

国民衛生の動向（厚生統計協会）

研究室／オフィスアワー

在室時は訪問可。
質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。
メールアドレス：kandas@hirakata.kmu.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	公衆衛生学概論と歴史	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：授業を基に配布資料確認（2 時間）	
2	人口統計と保健統計	予習：人口の諸問題を考える（2 時間） 復習:授業を基に配布資料･教科書の確認(2 時間)	
3	保健統計　出生と死亡	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。(2 時間)	
4	疾病統計	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配布資料･教科書の確認(2 時間)	
5	感染症とその予防	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：授業を基に微生物・予防接種法など確認（2 時間）	
6	食品保健と公衆衛生栄養	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配布資料･教科書の確認(2 時間)	
7	生活環境保全	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配布資料を基に重要語句の確認(2 時間)	
8	医療の制度（医療保険、公費負担制度）	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認(2 時間)	
9	地域保健活動	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配布資料を基に重要語句の確認(2 時間)	

10	母子保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認。(2 時間)	
11	学校保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：配付資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
12	生活習慣病対策	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：疾病の種類、リスクと予防の確認（2 時間）	
13	高齢者対策（後期高齢者医療、介護保険制度）	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:高齢者医療の仕組みと介護制度を学ぶ(2 時間）	
14	精神保健福祉	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：精神保健福祉法、インフォームドコンセントを確認。(2 時間）	
15	産業保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配付資料・教科書の確認（2 時間）	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②平常評価（出席状況）<DP②> 上記①②で総合評価します。			①80% ②20%

授業科目名	人体の構造Ⅰ(工学)（Human Anatomy Ⅰ)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人体に関する基本事項を形態機能学を基盤として学修する。当科目では細胞、組織など生体を構成する要素の概要、運動器系、神経系を取り扱う。臨床系専門科目に先駆けて、運動器系、神経系を系統立てて学修し理解を深める。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

生命現象の基盤となる細胞や組織の概要について説明できる。(DP②③)
骨格や筋など運動器を構成する要素の機能と形態について概要を説明できる。(DP②③)
中枢神経系と末梢神経系の機能と形態について概要を説明できる。(DP②③)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）講義は教科書を中心に進めます。適宜「参考書」を活用しつつ、自発的な予習と復習を心掛けて下さい。
2)「資料」を配付します。復習時に活用して理解を深めて下さい。
3）講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。学習内容の特性を踏まえて、積極的に学習に取り組んで下さい。
4)「人体の機能Ⅰ」と共通の教科書で並行して講義が進行します。両科目での学習項目を十分に整理して理解するように心掛けて下さい。

教科書

原田 玲子他　編集　『人体の構造と機能（第 5 版)』　医歯薬出版株式会社

参考書

坂井建夫　岡田隆夫　『専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①』　医学書院
日本人体解剖学（南山堂)、人体解剖学（南江堂)、標準生理学（医学書院)、生理学テキスト（文光堂）など

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 11)
月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞、組織、器官、器官系	事前に教科書の目次などを参考に、学習内容を概観して下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
2	運動系とは?（運動系総論)、骨格（骨の構造と機能、全身の骨格）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
3	骨格（脊柱、胸郭、四肢の骨、頭蓋骨）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
4	関節、骨格筋（骨格筋の構造と機能）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
5	骨格筋（筋収縮の機構)、全身の骨格筋（抗重力筋）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
6	骨格筋（四肢の筋、頸部の筋、頭部の筋、呼吸筋、骨盤底筋）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
7	運動の調節（骨格筋の神経支配、運動反射）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
8	細胞、組織、運動器系の形態と機能に関するまとめと確認テスト	細胞、組織、運動器系の形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間)。	森谷
9	神経系とは?、神経細胞と神経組織	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷

10	中枢神経系（中枢神経系の構造、中枢神経系の統合機能）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
11	中枢神経系（大脳の構造と機能、視床と視床下部の構造と機能、脳幹の構造と機能）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
12	中枢神経系（小脳の構造と機能、脊髄の構造と機能、中枢神経の保護と栄養）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
13	末梢神経系（脳神経、脊髄神経と神経叢）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
14	末梢神経系（脊髄神経、自律神経系）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（2時間）。	森谷
15	中枢神経系と末梢神経系の形態と機能に関するまとめと確認テスト	中枢神経系と末梢神経系の形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4時間）。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験（90%）（DP②③） ②課題等の提出（10%）（DP②③） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			①90% ②10%

授業科目名	人体の構造Ⅱ(工学)（Human Anatomy Ⅱ）				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体に関する基本事項を形態機能学を基盤として学修する。当科目では感覚器系、体温調節、生体リズム、内分泌、生殖と老化について、恒常性維持の視点から形態機能学的特徴を取り扱う。臨床系専門科目に先駆けて、恒常性維持に関わる器官系について学修し理解を深める。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

感覚器を構成する要素の機能と形態について概要を説明できる（DP②③）。
体温調節、生体リズムの形成に関わる仕組みの概要について説明できる（DP②③）。
内分泌系の機能と形態について概要を説明できる（DP②③）。
生殖と老化に関わる臓器・器官の機能と形態について概要を説明できる（DP②③）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）教科書と配布資料を用いて講義を進行します。また、課題の提出を課すので、必ず提出して下さい。
２）前期の「人体の構造Ⅰ」、「人体の機能Ⅰ」と密接に関連している事項を学習します。必要に応じて、前期の関連項目を十分に復習して下さい。
３）初回講義時に講義の進行について説明します。学習内容の特性を踏まえて、積極的に学習に取り組んで下さい。
４）「人体の機能Ⅱ」と共通の教科書で並行して講義が進行します。両科目での学習項目を十分に整理して理解するように心掛けて下さい。

教科書

原田 玲子他　編集　『人体の構造と機能（第４版）』　医歯薬出版株式会社

参考書

坂井建夫　岡田隆夫　『専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①』　医学書院
日本人体解剖学（南山堂）、人体解剖学（南江堂）、標準生理学（医学書院）、生理学テキスト（文光堂）など

研究室／オフィスアワー

E棟４階（研究室11）
月曜日午後５時～午後７時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	感覚器系（感覚器の一般的性質） 視覚①（概要）	事前に教科書の目次などを参考に、学習内容を概観して下さい（1時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1時間）。	森谷
2	視覚②（各論）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1時間）。	森谷
3	聴覚、平衡覚	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1時間）。	森谷
4	味覚、嗅覚、体性感覚	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1時間）。	森谷
5	内臓感覚、痛覚	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1時間）。	森谷
6	感覚器系のまとめ	感覚器系の形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4時間）。	森谷
7	内分泌系①（ホルモンの種類と分泌調節）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1時間）。	森谷
8	内分泌系②（視床下部・下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1時間）。	森谷
9	内分泌系③（副腎皮質、副腎髄質、消化管のホルモン、腎臓のホルモン、性腺ホルモン、その	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1時間）。また、配布資料を参考に	森谷

	他のホルモン）	復習して下さい（1 時間）。	
10	体温調節と生体リズム①（体温とその調節）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間）。	森谷
11	体温調節と生体リズム②（体温異常、生体リズム）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間）。	森谷
12	生殖と老化①（生殖とは？、女性の生殖器系）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間）。	森谷
13	生殖と老化②（男性の生殖器系、受精と発生）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間）。	森谷
14	生殖と老化③（成長と老化）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間）。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間）。	森谷
15	体温調節、生体リズム、内分泌系、生殖と老化のまとめ	体温調節、生体リズム、内分泌系、生殖と老化に関わる形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間）。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験（DP②③） ②課題等の提出（DP②③） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。			①90% ②10%

授業科目名	人体の機能 I（工学）（Human Physiology I）				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では自律機能（不随意機能）を有する臓器を中心に取り扱う。

到達目標

ホメオスタシス（生体の恒常性）について説明できる。
体液の分類および、細胞の構造と機能のあらましを述べられる。
血液と血球の働きを説明できる。
心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。DP①④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。一コマあたり２～４ヶ所で「小括」を設ける。問題形式にしてあるので、講義後に自力で解くことで復習の一助とせよ。
３）質問について：科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。
４）練習問題について：第十四回目の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。第十五回目の講義にて解答を回収する。提出の有無は評点の対象とする。
５）他科目との関連：当講義は別科目「人体の構造」と共通の教科書を用いて進める。内容も密接に関係しているので、並行して学習すること。

教科書

人体の構造と機能 第５版 医歯薬出版株式会社 原田 玲子ほか編集（ISBN978-4-263-23721-2）

参考書

系統看護学講座 解剖生理学 第９版 医学書院 坂井建雄ほか編集（ISBN978-4-260-01826-5）

図表は指定教科書・参考書以外からも多数引用するが、可能な限り個々の出典を示す。発展学習を希望する者にはさらに高度な教科書を個別に推薦するので、申し出よ。

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	自律機能性臓器による?体機能の調節	予習：要さない 復習：講義プリントを用いよ。在学中に自らが学ぶべき事柄の多きを知れ。 学習所要時間目安：合計二時間	
2	生体の恒常性	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
3	体液	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
4	血液（１）：総論、赤血球	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
5	血液（２）：血小板、止血機構	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
6	血液（３）：血液型 生体防御（１）：非特異的防御機構	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	

7	生体防御（２）：特異的防御機構、リンパ系器官	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間（別途、中間試験準備の必要がある）	
8	中間試験	予習：第１～７回講義 復習：中間試験問題 学習所要時間目安：合計二時間	
9	循環器（１）：循環器の概観、心臓の構造、心臓電気生理	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
10	循環器（２）：心臓興奮収縮連関、心電図、心周期	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
11	循環器（３）：血管の構造と機能	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
12	循環器（４）：人体各部位の血管	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
13	循環器（５）：血圧の成因、心機能調節	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
14	循環器（６）：血圧の調節、循環器系のストレス応答、リンパ管	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、練習問題を解く時間を要する）	
15	総復習	予習：練習問題 復習：第１～１５回講義 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、定期試験準備の必要がある）	
成績評価方法と基準			割合
中間試験（論述式・マークシート式）（DP①④） 期末定期試験（マークシート式）（DP①④） 練習問題提出（第１５回講義）（DP①④）			30% 60% 10%

授業科目名	人体の機能Ⅱ(工学)（Human Physiology Ⅱ）				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では自律機能（不随意機能）を有する臓器を中心に取り扱う。

到達目標

呼吸力学とガスの運搬を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。
腎臓の働きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。
消化器の働きを説明できるとともに、栄養素の消化・吸収について概説できる。
人体における代謝の仕組みについて説明できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。一コマあたり２～４ヶ所で「小括」を設ける。問題形式にしてあるので、講義後に自力で解くことで復習の一助とせよ。
３）質問について：科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。
４）練習問題について：第十四回目の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。第十五回目の講義にて解答を回収する。提出の有無は評点の対象とする。
５）他科目との関連：当講義は別科目「人体の構造」と共通の教科書を用いて進める。内容も密接に関係しているので、並行して学習すること。

教科書

人体の構造と機能 第５版 医歯薬出版株式会社 原田 玲子ほか編集（ISBN978-4-263-23721-2）

参考書

系統看護学講座 解剖生理学 第９版 医学書院 坂井建雄ほか編集（ISBN978-4-260-01826-5）

図表は指定教科書・参考書以外からも多数引用するが、可能な限り個々の出典を示す。発展学習を希望する者にはさらに高度な教科書を個別に推薦するので、申し出よ。

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	呼吸器（１）：概観、上気道	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
2	呼吸器（２）：肺、換気力学	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
3	呼吸器（３）：ガスの交換と輸送	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
4	呼吸器（４）：呼吸調節	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
5	腎臓（１）：ネフロン、腎機能測定	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
6	腎臓（２）：腎機能調節、蓄尿・排尿	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
7	電解質異常・酸塩基平衡	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書	

		学習所要時間目安：合計二時間（別途、中間試験準備の必要がある）	
8	中間試験	予習：第１～７回講義 復習：中間試験問題 学習所要時間目安：合計二時間	
9	消化器（１）：概観、上部消化管運動	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
10	消化器（２）：下部消化管運動	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
11	消化器（３）：消化液の分泌	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
12	消化器（４）：栄養素の消化と吸収	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
13	代謝（１）：栄養素の代謝	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
14	代謝（２）：生体物質の代謝	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、練習問題を解く時間を要する）	
15	総復習	予習：練習問題 復習：第１～１５回講義 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、定期試験準備の必要がある）	

成績評価方法と基準	割合
中間試験（論述式・マークシート式）（DP①④） 期末定期試験（マークシート式）（DP①④） 練習問題提出（第１５回講義）（DP①④）	30% 60% 10%

授業科目名	生化学(工学)（Biochemistry）				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生化学は生命現象を分子レベルで学ぶ学問である。糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸などの主要な生体構成物質の構造と機能について学び、生命が多様な物質より構成されていることを理解する。またこれら人体を構成している化学物質の生体内での生物化学反応と生命維持との関わりについて学ぶ。

到達目標

生体を構成する糖質、タンパク質、脂質といった分子の構造と性質について理解する。
生体内での化学反応、すなわち酵素反応について理解する。
糖質、脂質、アミノ酸、核酸の代謝経路を理解する。
ミトコンドリアにおけるエネルギー代謝を理解する
それぞれの代謝経路の相互関係と調節機構を理解する。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

高校までの生物と化学について復習しておくこと。

教科書

シンプル生化学　（南江堂）

参考書

マッキー生化学　（化学同人）
リッピンコットシリーズイラストレイテッド生化学　（丸善）
カラーイラストで学ぶ集中講義　生化学　（メジカルビュー社）

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	糖の定義と分類	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
2	単糖類、オリゴ糖類、多糖類	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
3	脂質の定義と分類	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
4	脂肪酸の基本的な構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
5	アミノ酸の構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
6	タンパク質の構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
7	核酸とヌクレオチドの構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
8	酵素の構造と性質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
9	酵素反応の調節	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
10	糖質の代謝・解糖系・糖新生・ペントースリン酸回路	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
11	クエン酸回路・電子伝達系	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
12	脂肪酸の分解・脂肪酸の生合成	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
13	アミノ酸の分解	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
14	アミノ酸から合成される生体物質	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	

15	ヌクレオチドの代謝分解と再生経路	予習：前回の講義を理解してくる 復習：重要事項をノートにまとめる	
成績評価方法と基準			割合
期末試験 小テスト DP①②			80% 20%

授業科目名	医用工学(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎、布江田　友理	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

医用工学は医学と工学の融合された学問で、この歴史的発展を追いながら、生体情報の収集?分析に使用される生体計測機器の原理，構造，特徴，安全対策を講義した後、臨床工学技士業務で使用する治療機器、生体機能代行装置の使用目的、原理、構造、特徴について教授する。

到達目標

1．医用工学の領域と意義、生体の構造・機能の特徴概要について説明できる。＜DP①④＞
2．様々な医療機器について知り、その原理や用途についての概要が説明できる。＜DP①④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書の「授業計画」欄に記載されている内容に相当する部分を予め読み、講義後は、疑問点を放置せず、自ら解決できるように努力し、授業内容を自分自身の言葉でまとめ直すこと。

教科書

「イラスト図解医療機器と検査・治療のしくみ」 日本実業出版社

参考書

ME の基礎知識と安全管理　第 6 版　南江堂　ISBN: 978-4-524-26959-4
講義中に紹介する参考書

研究室／オフィスアワー

適宜相談に応じる

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医用工学の歴史と発展	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	片山
2	生体の構造と物理化学的特性	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	片山
3	生体電気現象の計測 1：心電計・脳波計・筋電計	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	片山
4	生体電気現象の計測 2：血圧・心音	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	片山
5	生体化学現象の計測：ｐH・O2・CO2	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	片山
6	生体を媒体とする計測：医用画像診断装置	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	布江田
7	治療機器１：電気メス	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	布江田
8	治療機器２：除細動器・AED	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	布江田
9	治療機器３：ペースメーカ 機能	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	布江田
10	治療機器４：ペースメーカ 設定項目	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	布江田
11	治療機器５：輸液ポンプ・シリンジポンプ	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1 時間予習・復習を行う。	布江田

12	生体機能代行装置１	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田
13	生体機能代行装置２	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田
14	医療機器の設置環境および安全システム	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田
15	講義7～14に関する問題演習	予習：シラバス確認・講義内容の把握 復習：キーワード確認・講義ノートの完成 1時間予習・復習を行う。	布江田

成績評価方法と基準	割合
2/3回以上の出席が必要である。 【片山】 ①平常点評価（受講態度、講義ノートの確認） ②試験評価＜DP①④＞ 【布江田】 ①平常点評価（受講態度、講義ノートの確認、小テスト） ②試験評価＜DP①④＞	片山： ①30% ②70% 布江田： ①50% ②50%

授業科目名	数学演習(工学)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

診療放射線技師として放射線科学・技術の理解に必要となる数学の基礎的事項について、「数学」で学修した指数関数、対数関数、三角関数などを演習形式で計算問題を中心に具体的に例題等を提示しながら概説する。さらに各種数式等について実際にグラフを書く演習と徹底した解説を通して、数学的なものの見方･考え方および表現方法について理解を深めることを目標とする。

到達目標

三角関数の性質や相互関係を理解し、その応用やそれを用いた計算ができる。〈DP①〉
指数関数と対数関数の性質を理解し、計算できる。〈DP①〉
複素数・複素関数の性質や相互関係を理解し、その応用やそれを用いた計算ができる。〈DP①〉
関数の微分・積分の考え方を理解し、それを用いた計算ができる。〈DP①〉
微分方程式の性質を理解し、微分方程式の意味を説明でき、簡単な計算問題を解くことができる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

事前に、シラバスに沿って教科書・参考等でその内容を調べておく。
演習問題は必ず手を動かして行い、分からないことは出来る限り次の講義の前までに解決する。

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい理工系の基礎数学、金原粲など編集、実務出版株式会社
ISBN978-4-407-31830-2

参考書

放射線技師のための数学、福田 覚、医療科学社 3訂版、ISBN-13: 978-4860034689
高校課程の教科書等

研究室／オフィスアワー

片山研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	高校数学Ⅰ課程の履修状況の確認	予習：高校数学Ⅰ課程の内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
2	高校数学Ⅱ課程の履修状況の確認	予習：高校数学Ⅱ課程の内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
3	高校数学Ⅲ課程の履修状況の確認	予習：高校数学Ⅲ課程の内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
4	三角関数(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
5	三角関数(医用工学関連問題)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
6	指数関数・対数関数(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
7	指数・対数関数(医用工学関連問題)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
8	複素数(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
9	複素関数(医用工学関連問題)の確認１	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習1時間と復習1時間を行う。	片山
10	複素関数(医用工学関連問題)の確認２	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山

		予習１時間と復習１時間を行う。	
11	１変数関数の微分（応用・計算）の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
12	微分（医用工学関連問題）の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
13	１変数関数の積分（応用・計算）の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
14	積分（医用工学関連問題）の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
15	まとめ	予習：数学演習の授業内容の確認 復習：全授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
成績評価方法と基準			割合
①確認課題演習<DP①> ②定期試験<DP①>			① 50% ② 50%

授業科目名	電気工学Ⅰ（工学）				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限 水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

人工心肺装置や人工透析装置といった臨床工学技士が取り扱う医療機器の多くは電気を動力源としており、内部では様々な電気回路が動作している。また、神経信号の伝達や筋肉の収縮などは電気が重要な役目を果たしている。したがって、臨床工学技士にとって電気に関する知識は必要不可欠である。電気工学１では、電気回路の基礎的な知識習得を目的に、電荷や電圧といった電気に関する基礎的な要素から始め、直流回路、交流回路、電力、共振回路について学習する。

到達目標

1. 電荷や電圧、電流といった電気工学の基礎的な専門用語について数値的な定義に基づき説明できる。<DP①>
2. 受動素子からなる直流回路について、オームの法則やキルヒホッフの法則などを用いて、回路中の電圧や電流などの計算ができる。<DP①>
3. 受動素子の特性について、数式を用いて説明できる。<DP①>
4. 受動素子からなる交流回路についても、回路中の電圧や電流、インピーダンスなどを計算できる。また、求めた値を用いて、回路をベクトル図や複素数を用いて表現できる。<DP①>
5. 電力を数値的な定義に基づき説明できる。また、回路で消費される電力が計算できる。<DP①>
6. 電力に基づき共振回路を数値的に説明できる。また、共振回路の特性を数値的に説明できる。<DP①>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

1. 電気工学Ⅰは積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなります。そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。

教科書

1.『臨床工学講座　医用電気工学 1』監修一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会/医歯薬出版株式会社

参考書

1.『電気基礎講座１　プログラム学習による基礎電気工学　直流編』監修 末武国弘，編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版
2.『電気基礎講座３　プログラム学習による基礎電気工学　交流編』監修 末武国弘，編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版
3.『電気基礎講座４　プログラム学習による基礎電気工学　電気回路編』監修 末武国弘，編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版

研究室／オフィスアワー

C 棟７階 教職員室 / 水曜日５限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	電気工学の基礎 ・臨床工学技士にとって電気工学の知識が不可欠な理由を説明できる ・電流、電位などを説明できるようになる。 ・電圧計、電流計の接続方法を説明できるようになる	予習時間：２時間 予習内容： 　前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書１(pp.1-11，153-156)の要約を作成 復習時間：２時間 復習内容： 　講義内容の要約を作成	
2	オームの法則 ・オームの法則を用いて回路の電圧、電流及び抵抗を算出できる。 ・直列接続された抵抗、並列接続された抵抗の合成値を算出できる。	予習時間：２時間 予習内容： 　前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書１(pp.13-21，15-158)の要約を作成 復習時間：２時間 復習内容： 　講義内容の要約を作成	
3	キルヒホッフの法則と重ねの理 ・キルヒホッフの法則を用いて複雑な回路を解くことができる。 ・重ねの理を用いて複雑な回路を解くことがで	予習時間：２時間 予習内容： 　前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書	

	きる。	1(pp.22-32)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
4	抵抗・電圧・電流の測定方法 ・抵抗を測定する方法を説明できる。 ・電圧を測定する方法を説明できる。 ・電流を測定する方法を説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.33-39)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
5	・電圧源の内部抵抗を数式で説明できる ・ブリッジ回路の平衡条件を数式で説明できる。また、未知抵抗の抵抗値を計算できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.39-50)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
6	直流回路の電力 ・電流による発熱作用を数式で説明できる。また、発熱量を計算できる。 ・電力について、定義の説明、供給電力が最大になる条件の説明と最大供給電力の算出ができる。 ・送配電について、送配電における電力損失及び漏電と感電について説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.51-61, 42-43)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
7	複雑な回路の解法 ・テブナンの定理を用いて複雑な回路を解くことができる。 ・ミルマンの定理を用いて複雑な回路を解くことができる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.63-75)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
8	交流の特性 ・直流と交流の違いを説明できる。 ・周波数や位相など交流波形を特徴付ける値を説明できる。 ・三角関数を用いて交流波形を表現できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.77-89, 158-162)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
9	交流回路における受動素子(抵抗、インダクタ、キャパシタ)の特性 ・ベクトルで交流波形を表すことができる。 ・交流回路における抵抗の特性を数式で説明できる。 ・交流回路におけるインダクタの特性を数式で説明できる。 ・交流回路におけるキャパシタの特性を数式で説明できる。 ・インピーダンスの説明と算出ができる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.89-100)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
10	受動素子を直列に接続した交流回路の特性 ・RL 直列回路、RC 直列回路及び RLC 直列回路の各回路について、特性の説明、電圧、電流及びインピーダンスの計算ができる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.100-106)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
11	受動素子を並列に接続した交流回路の特性 ・RL 並列回路、RC 並列回路及び RLC 並列回路の各回路について、特性の説明、電圧、電流及びインピーダンスの計算ができる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.107-113)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
12	直列回路の複素数表記 ・複素数の説明ができる ・RL 直列回路、RC 直列回路及び RLC 直列回路の各回路について、複素数を用いた表現及び電圧・電流・インピーダンスの算出ができる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.113-118, 163-168)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
13	並列回路の複素数表記 ・RL 並列回路、RC 並列回路及び RLC 並列回路の各回路について、複素数を用いた表現及び電圧・電流・インピーダンスの算出ができる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.118-120)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
14	共振について ・共振回路の特徴を電力に関連づけて説明できる。 ・直列共振回路の特性について数式を用いて説明できる。 ・並列共振回路の特性について数式を用いて説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.120-125)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	
15	交流回路の電力 ・交流回路における電力の特徴である、瞬時電圧、電圧と電流の位相差が電力に及ぼす影響、力率について数式で説明できる。 ・皮相電力、有効電力、無効電力について数式で説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲について要約を作成。指定がない場合は、教科書1(pp.125-135)の要約を作成 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の要約を作成	

成績評価方法と基準	割合
1.定期試験<DP①> 授業内で扱った範囲を対象として筆記試験を行います。	100%

授業科目名	電気工学Ⅱ(工学)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限 水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

電気工学 II では、電気工学 I で学習した直流回路と磁気の発展として、静電気と交流回路を学ぶ。
静電気では、電界や電束について理解を深め、キャパシタの静電容量を導出できる知識を身につける。
交流回路では、交流回路における抵抗器やキャパシタ、インダクタの特性を学習する。その後、交流回路を解析する手法としてベクトルでの表示法や複素数での表示法について示す。
また、電気工学 I で学習した知識と併せて、医療機器の取り扱いで重要な基礎知識であるフィルタ回路や過渡応答、電力装置、電磁波についても学習する。

到達目標

1. 電気力線、電束、仕事に対する電圧と電位の関係といった静電気に関して説明できるようになる。〈DP①〉
2. キャパシタに関しては、誘電率や導体形状が静電容量に及ぼす影響、複数のキャパシタを連結したときの合成静電容量及びキャパシタが蓄えるエネルギーなどを説明できるようになる。また、実際のどの様な種類のキャパシタがあるかについて説明できるようになる。〈DP①〉
3. 受動素子の特性について、数式を用いて説明できるようになる。〈DP①〉
4. 受動素子からなる交流回路についても、回路中の電圧や電流、インピーダンスなどを計算できる。また、求めた値を用いて、回路をベクトル図や複素数を用いて表現できるようになる。〈DP①〉
5. 交流電力を数値的な定義に基づき説明できる。また、回路で消費される電力が計算できるようになる。〈DP①〉
6. 電力に基づき共振回路を数値的に説明できる。また、共振回路の特性を数値的に説明できるようになる。〈DP①〉
7. CR フィルタ回路や過渡応答について説明できるようになる。〈DP①〉
8. 電力装置である変圧器、インバータ、コンバータ、電動機及び発電機を説明できる。また、変圧器と電動機については仕組みについて数式に基づいて説明できるようになる。〈DP①〉
9. 電磁波について、その種類と性質、また、電磁波障害とノイズ対策について説明できるようになる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 電気工学 II は積み上げ型の教科であるため、各講義は、以前の講義内容及び電子工学 I を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなります。そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。

教科書

1.『臨床工学講座 医用電気工学 1』 監修 一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 / 医歯薬出版株式会社
2.『臨床工学講座 医用電気工学 2』 監修 一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 / 医歯薬出版株式会社

参考書

１.『電気基礎講座２　プログラム学習による基礎電気工学　磁気・静電気編』監修 末武国弘, 編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版
３.『電気基礎講座４　プログラム学習による基礎電気工学　電気回路編』監修 末武国弘, 編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階 教職員室 / 水曜日 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	フィルタ回路 ・キャパシタと抵抗で構成されるフィルタ回路の特性について数式を用いて説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 電気工学 1 の最後の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 1(p.137-140)及び教科書 2(p. 182-190)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認。特に、微分と積分の考え方には十分に慣れること	
2	過度現象 ・電気回路における過渡現象として、充放電時及び方形波入力時における電圧及び電流の変化を数式に基づいて説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 1(pp.141-152)の確認	
		復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
3	電磁場の概念 ・物質の電気的性質を説明できる ・電場と磁場及び電磁波の概念を説明できる	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp.1-18)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
4	電荷と電界 ・電荷と電界についてクーロンの法則に基づいて数式で説明できる ・電気力線と電束を数式で説明できる	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp.19-36)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
5	電圧と電位 ・電圧と電位を仕事に関連づけて数式で説明できる	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp.37-49)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
6	静電界の性質 ・静電界における導体及び絶縁体の性質について数式を用いて説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp.51-66)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
7	キャパシタの性質 ・電流の定義を理解し、電流密度や導線を流れる電流と電界について説明できる。 ・静電容量が説明できる。また、誘電率や導体形状が静電容量に及ぼす影響を数式に基づき説明できる。 ・キャパシタの種類や特性を説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp.67-82)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
8	キャパシタの合成静電容量 ・複数のキャパシタを接続した際の合成静電容量を計算できる。 ・キャパシタが蓄えるエネルギーや充放電特性につて数式で説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp.82-96)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
9	磁気の性質 ・磁極におけるクーロンの法則を数式に基づいて説明できる。 ・磁界、磁束、磁束密度について数式を用いて説明できる。 ・磁化とヒステリシスを説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp.97-106)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
10	電流による磁界 ・電流による磁界について数式を用いて説明で	予習時間: 2 時間 予習内容:	

	きる。 ・ローレンツ力について数式を用いて説明できる。	前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp. 107-117)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
11	電磁誘導 ・ファラデーの電磁誘導の法則、レンツの法則とフレミングの右手の法則を説明できる。 ・誘導起電力について数式を用いて説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp. 119-125)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
12	インダクタ ・自己誘導、相互誘導及びインダクタに蓄えられるエネルギーについて数式を用いて説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp. 127-134)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
13	電磁力 ・フレミングの左手の法則について説明できる。 ・電流力について数式を交えながら説明できる。 ・電磁力によって行われる仕事について数式を用いて説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp. 135-142)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認	
14	電力装置 ・変圧器の仕組みについて数式に基づき説明できるようになる。 ・コンバータとインバータを説明できるようになる。 ・電動機の仕組みについて数式を用いて説明できるようになる。 ・電動機と発電機の関係を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp. 143-157)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認。	
15	電磁波の性質 ・電磁波の種類と性質について数式を交えながら説明できるようになる。 ・電磁波障害とノイズ対策について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書の範囲を確認。指定がない場合は、教科書 2(pp. 159-173)の確認 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義内容の確認。	
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験<DP①> 授業内で扱った範囲を対象とした筆記試験を行います。			100%

診療放射線学科

（2020 年度入学生カリキュラム）

授業科目名	基礎ゼミナール(放射線)（Basic Seminar）				
主担当教員	小縣　裕二		担当教員	小縣　裕二、阿部　秀高、今井　信也	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 3 限 月曜 4 限 木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本演習では、学生を少人数のグループに分けて担当教員を配属し、(1) 大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において修得すべき内容の教育、(2) 講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3) 大学生に求められる一般常識や態度、(4) 専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。

到達目標

1．　大学生として必要な基礎学習能力を身に着けている。<DP④>
2．　自分の想いを伝え、相手の想いを理解することができる。<DP②③>
3．　テーマについて問題点の発見と解決策についてディスカッションすることができる。<DP④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．　初回授業で実施の詳細を説明します。
2．　与えられた学修内容に関連したテーマについて、ディスカッションできるように十分に準備して授業に臨むこと。
3．　グループディスカッションには積極的に参加すること。

教科書

診療放射線技術　上巻改訂第 14 版　ISBN: 9784524258598　小塚隆弘・稲邑清也・監　南江堂
診療放射線技術　下巻改訂第 14 版　ISBN: 9784524258611　小塚隆弘・稲邑清也・監　南江堂

参考書

放射線について考えよう。　ISBN: 9784991034800　多田将　明幸堂
医用放射線辞典 第 5 版　ISBN: 9784320061750　医用放射線辞典編集委員会　共立出版

研究室／オフィスアワー

小縣　裕二　研究室／　月曜日　9:00～12:00　16:30～17:30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	「大学」について考える①	予習：シラバスを確認する。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
2	「大学」について考える②	予習：与えられたテーマについて調べる。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
3	「単位制度」について考える①	予習：与えられたテーマについて調べる。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
4	「単位制度」について考える②	予習：与えられたテーマについて調べる。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
5	「指定規則」について考える①	予習：与えられたテーマについて調べる。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
6	「指定規則」について考える②	予習：与えられたテーマについて調べる。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
7	「法的規制」について考える①	予習：与えられたテーマについて調べる。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
8	「法的規制」について考える②	予習：与えられたテーマについて調べる。(2h) 復習：討論した内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二、 今井　信也
9	オリエンテーション（講義への取り組み方・大学生としての自分を見つめる）	予習：シラバスの確認。（２時間） 復習：学びの履歴シートによる大学生として必要な資質/能力についてのまとめ（２時間）	阿部　秀高
10	理事長に学ぶ（学園・大学・学生への思い）	予習：学園の 3 つポリシーや設立理念の確認。（２時間）復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部　秀高
11	学長・学科長に学ぶ（医療人・放射線技師を目指すものに対する思い）	予習:放射線技師の仕事の概要を調べておく。（２時間）復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部　秀高
12	コミュニケーションスキル・学修スキル向上	予習：レポートの書き方について高校までに学んだことを想起しておく（２時間）復習：学んだレポートの書き方について記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部　秀高
13	論理的文章の書き方・資料活用の方法	予習：言語技術について、高校までに学んだことを想起しておく（２時間） 復習：学んだ言語技術について記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部　秀高
14	プレゼンテーション・スキル	予習：プレゼンテーションについて高校までに学んだことを想起しておく。（２時間） 復習：プレゼンテーションの作り方、発表の仕方についてまとめる。（２時間）	阿部　秀高
15	本授業における学びのまとめ・振り返り	予習：自分の作成したプレゼンテーションの練習）（２時間） 復習：７回の講義で学んだ社会人基礎力に関してまとめておく。（２時間）	阿部　秀高

成績評価方法と基準	割合
【学科教員】 ①授業中討論し、発表した内容を期日までにレポートにまとめ提出する。<DP②③④> 【阿部秀高】 ②平常点評価（授業毎回の振り返りなど）６０%<DP②③④> 講義最終回に作成した課題レポート４０%<DP②③④>	①50% ②50%

授業科目名	物理学(放射線)（Physics）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学習し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。

到達目標

電気(回路計算)、電磁気の基本知識
直流と交流の違いについて
ベルヌーイの定理・血圧とは
　上記の内容を学修していく。<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。
２．配布された資料を使用し、講義を行う。
３．出席は重視する。
４．身近な自然現象を物理学の観点で考察する。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて努力する。

教科書

プリント使用

参考書

電気基礎講座１プログラム学習による基礎電気工学　直流編

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜と水曜の午前中

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	熱力学　比熱 単位について	＜予習・復習 各２時間＞ 水の比熱が大きいことで人間は体温を一定に保つことができる。 スマートフォンのバッテリーの単位などについて学習します。	
2	熱力学 クーロンの法則・電流について 回路のイメージをつかむ	＜予習・復習 各２時間＞ 水分が蒸発する際、必要となる熱量について 電気の基本について一つ一つ確認していきましょう。	
3	熱力学 電圧・抵抗について オームの法則を用いた計算	＜予習・復習 各２時間＞ コンセントの電圧は１００Ｖですね。このボルトについて学習していきます。また、抵抗の単位はオームです。	
4	力とは 色々なオームの法則を用いた計算を練習する	＜予習・復習 各２時間＞ 最も重要な法則です。頑張って覚えましょう。	
5	力学 直列回路の考え方について	＜予習・復習 各２時間＞ 電圧降下、内部抵抗、合成抵抗という言葉が出てきました。	
6	力学 並列回路の考え方について	＜予習・復習 各２時間＞ 直列回路、並列回路の計算に慣れていきましょう。	
7	力学 複雑な回路計算	＜予習・復習 各２時間＞ 直列・並列の融合問題を扱います。	
8	力学 ブリッジ回路	＜予習・復習 各２時間＞ いろんな回路の計算を復習しましょう。	
9	力学 直流と交流の違い ジュール熱	＜予習・復習 各２時間＞ 直流と交流の違いを確認しましょう。	
10	力学 １００Ｖは何を表しているか。 電力	＜予習・復習 各２時間＞ 最大値・実効値・瞬時値・平均値 言葉の確認をしましょう。 電力とは、電灯が光を出したり、モーターが力を出すときに使われる電気エネルギーの大きさを表します。	
11	電磁誘導	＜予習・復習 各２時間＞ 右ネジの法則・フレミングの左手の法則の確認 IH 調理器、リニアモーターカーなど電磁誘導について復習しておきましょう。	
12	コイル(インダクタ) コイルのリアクタンス(誘導性リアクタンス)	＜予習・復習 各２時間＞ リアクタンスは周波数で大きさが変わります。	
13	コンデンサ(キャパシタ) コンデンサのリアクタンス(容量性リアクタンス)	＜予習・復習 各２時間＞ コンデンサは電気を蓄えたり、放出したりする電子部品です。電子機器には欠かせない部品です。	
14	インピーダンスとは 位相とは	＜予習・復習 各２時間＞ 交流回路の計算をするときには位相を考える必要があります。	
15	RL 直列回路 RC 直列回路 RLC 直列回路の計算	＜予習・復習 各２時間＞ 直列回路のインピーダンスを計算できるようにしよう。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験５５点<DP③> ②小テスト４５点<DP③> 合計１００点のうち、６０点以上で単位認定する。	①５５％ ②４５％

授業科目名	生物学(放射線)（Biology）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
医療人にとって必要な生物学的知識を学習し、この後に展開する基礎医学への理解を容易にする。
到達目標
生物に共通する生体のシステムやその仕組みについて理解を深めることができ、人体と連関して思考できる。＜DP③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
生物学自体は高校までの教科としてすでに学んでいるかもしれないが、医学に直結する領域についてはまだ学んでいないか、理解が不十分であろうと思われる。既に学んでいる、知っている学問という認識は排除して新たな教科を学ぶ姿勢で臨んでほしい。
教科書
「理工系のための生物学」　裳華房
参考書
生物学　カレッジ版　医学書院
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室１
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生命と栄養と代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
2	糖質の種類	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
3	糖代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
4	脂質とその代謝	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
5	ビタミンの種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
6	細胞の構造とオルガネラ	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
7	核酸の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
8	転写と翻訳	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
9	タンパク質の種類と機能	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
10	細胞のシグナル伝達	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
11	細胞分裂と増殖	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
12	発生と分化	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
13	免疫システム	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
14	細胞の初期化と再生医療	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	
15	細胞死とアポトーシス	予習　テキストを読み込んでおいてほしい。(2時間) 復習　講義内容の確認をしておくこと。(2時間)	

成績評価方法と基準	割合
1　定期試験　＜DP③＞	1　100%

授業科目名	化学(放射線)（Chemistry）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。

到達目標

放射性物質などを取り扱う際、必要とされる基本的な化学的知識が得られる。さらに、生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解し、それらが生理機能に密接に連関することを理解得られすることができる。　<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

たとえすでに化学を履修していようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学びなおす必要があると捉えておいて欲しい。

教科書

「ライフサイエンスのための化学」　化学同人

参考書

「理工系の基礎化学」　化学同人

研究室／オフィスアワー

火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論１	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論２	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭化水素化合物１	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	炭化水素化合物２	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	「化学」のまとめと振り返り	<予習・復習 各２時間> 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　<DP③>	1　100%

授業科目名	情報処理(放射線 A) (Information Processing)				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、PC を用いて錯視実験を行い，そのレポートを作成する過程を通して，コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word，Excel，PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる〈DP③〉
２．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる〈DP③〉
３．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる〈DP③〉
４．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる〈DP③〉
５．インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PC を使った演習を行なうので，休むことなく参加すること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するための USB メモリを用意すること
３．PC 演習室ての飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

特に指定しない．
適宜資料を配付する．

参考書

適宜指示する．

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	授業をすすめるに際して，また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする． そのアイテムは，次回までに用意すること．.【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する意識の欠如や，情報モラルの欠如によって，主にインターネット上で起こった，問題事例について調べる．.【4】	
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	Delbouef の錯視について調べる【4】	
4	Excel 基礎-1- Excel の基本操作の習得	前回収集したデータを，分析しやすい形に成形する【4】	
5	Excel 基礎-2- 関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する【4】	
6	Excel 応用-1- データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて，適切な図を作成する【4】	
7	Excel 応用-2- 図や表を大学レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点に従って，適切な形式に修正する【4】	
8	Word 基礎-1- Word の基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため，タイピングの練習を継続して実施する【4】	
9	Word 基礎-2- 文書のレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する【4】	
10	Word 応用 Excel で作成した図表の利用	Excel から図表を取り込む際の方法の違いを理解し，使い分けられるようにする【4】	
11	PowerPoint 基礎-1- PowerPoint の基本操作の習得	スライドの概念について理解し，実験データの発表の流れについて考える【4】	
12	PowerPoint 基礎-2- スライドの修飾	スライドを修飾し，興味関心を引く工夫をする【4】	
13	PowerPoint 応用 アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え，特に注目してもらえるように工夫する【4】	
14	プレゼンテーション-1- 錯視実験のデータについて発表を行う	これまでに作成したスライドを使用して，クラスで発表する内容を考える【4】	
15	プレゼンテーション-2- 錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に，より良い発表ができるように工夫する【4】	

成績評価方法と基準	割合
1．課題の完成度〈DP③〉 1.1．Excel 資料〈DP③〉 1.2．Word 資料〈DP③〉 1.3．Powerpoint 資料〈DP③〉	1．100% 1.1．40% 1.2．40% 1.3．20%

授業科目名	情報処理(放射線Ｂ)（Information Processing）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、PC を用いて錯視実験を行い，そのレポートを作成する過程を通して，コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ基礎的な情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word，Excel，PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる〈DP③〉
２．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる〈DP③〉
３．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる〈DP③〉
４．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる〈DP③〉
５．インターネットを利用した情報検索のスキルを習得する〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PC を使った演習を行なうので，休むことなく参加すること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するための USB メモリを用意すること
３．PC 演習室ての飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

特に指定しない．
適宜資料を配付する．

参考書

適宜指示する．

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	授業をすすめるに際して，また今後の学生生活においても必要となるアイテムについて説明をする． そのアイテムは，次回までに用意すること．.【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	情報セキュリティと情報モラル	情報セキュリティに関する意識の欠如や，情報モラルの欠如によって，主にインターネット上で起こった，問題事例について調べる．.【4】	
3	コンピュータを利用した錯視実験の実施	Delbouef の錯視について調べる【4】	
4	Excel 基礎-１- Excel の基本操作の習得	前回収集したデータを，分析しやすい形に成形する【4】	
5	Excel 基礎-２- 関数を使った計算の基礎	成形したデータの基本的な統計量を算出する【4】	
6	Excel 応用-1- データの図式化	算出した統計量の特徴に応じて，適切な図を作成する【4】	
7	Excel 応用-2- 図や表を大学レポート向けに修正する	レポートとして利用する際の注意点に従って，適切な形式に修正する【4】	
8	Word 基礎-1- Word の基本操作の習得	キーボード操作に習熟するため，タイピングの練習を継続して実施する【4】	
9	Word 基礎-2- 文書のレイアウト機能の習得	レイアウト操作および操作結果を確認する【4】	
10	Word 応用 Excel で作成した図表の利用	Excel から図表を取り込む際の方法の違いを理解し，使い分けられるようにする【4】	
11	PowerPoint 基礎-1- PowerPoint の基本操作の習得	スライドの概念について理解し，実験データの発表の流れについて考える【4】	
12	PowerPoint 基礎-2- スライドの修飾	スライドを修飾し，興味関心を引く工夫をする【4】	
13	PowerPoint 応用 アニメーションの設定	より強調したい箇所について考え，特に注目してもらえるように工夫する【4】	
14	プレゼンテーション-1- 錯視実験のデータについて発表を行う	これまでに作成したスライドを使用して，クラスで発表する内容を考える【4】	
15	プレゼンテーション-2- 錯視実験のデータについて発表を行う	前回の発表を参考に，より良い発表ができるように工夫する【4】	

成績評価方法と基準	割合
1．課題の完成度〈DP③〉 1.1．Excel 資料〈DP③〉 1.2．Word 資料〈DP③〉 1.3．Powerpoint 資料〈DP③〉	1．100% 1.1．40% 1.2．40% 1.3．20%

授業科目名	統計学(放射線)（Statistics）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。

到達目標

１．統計学の基礎を理解する〈DP③〉
２．推定と検定の考え方を理解し，説明することができる〈DP③〉
３．量的データに対して適切な分析方法を選択することができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回の授業のつながりが非常に重要です．また，毎回小テストを実施しますので，欠席のないように留意すること

教科書

向後千春・冨永敦子，ファーストブック 統計学がわかる，技術評論社

参考書

市原清志 著，「バイオサイエンスの統計学 -正しく活用するための実践理論-」，南江堂

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して，テキスト「はじめに」を読む（単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様），【4 時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	測定値の性質（尺度水準）	「尺度水準」とは何か調べる．【4】	
3	平均と度数分布・分散と標準偏	テキスト１章を読む【4】	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト２章を読む【4】	
5	相関係数：２変数間の関係	ピアソンの積率相関係数，スピアマンの順位相関係数，ケンドールの順位相関係数について調べる【4】	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト 3-1 を読む【4】	
7	観測度数と期待度数	テキスト 3-2，3-3 を読む【4】	
8	カイ２乗検定	テキスト 3-4 を読む【4】	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト 4-1，4-2 を読む【4】	
10	対応がないデータによるｔ検定（ウェルチの方法）	テキスト 4-3 を読む【4】	
11	対応があるデータによるｔ検定	テキスト５章を読む【4】	
12	１要因の分散分析-1-	テキスト 6-1，6-2 を読む【4】	
13	１要因の分散分析-2-	テキスト 6-3 を読む【4】	
14	２要因の分散分析-1-	テキスト 7-1，7-2 を読む【4】	
15	２要因の分散分析-2-	テキスト 7-3 を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
① 定期試験〈DP③〉 ② 平常点（小テスト，授業内課題等）〈DP③〉	① 80% ② 20%

授業科目名	心理学(放射線)（Introduction to Psychology）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

心理学が扱う問題・領域は多岐にわたっているが，それらに共通しているのは，「こころ」を理解しようとしていることである．しかしながら，一見すると，一体どこに「こころ」があるのか疑問になるような問題を扱っていることも多い．
　本講義では，心理学が現在の「こころの科学」としての心理学の形をとるようになった過程の全般的な流れについて概説した後に，領域ごとに解説を展開する．
　医療の現場では，様々な状況に置かれた人々と関わりを持つ機会が非常に多い．心理学を学び，「こころ」に関する知識を修得することが，医療人としての皆さんに，直接的に，また，間接的に役立つことを期待している．

到達目標

１．「こころの科学」としての心理学の成り立ちについて説明できる〈DP③〉
２．「こころ」の発露である行動の基本様式について説明できる〈DP③〉
３．心理学が扱う問題・領域を概観して「こころ」を捉えることができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編，「心理学［第５版］」，東京大学出版会

参考書

大竹文雄・平井啓 編著，「医療現場の行動経済学―すれ違う医者と患者―」，東洋経済新報社
その他、適宜指示する。

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	こころを捉える：こころとはなにか？	テキスト第１章を読む （単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	こころを捉える：行動の基本様式	テキスト第２章を読む【4】	
3	こころを捉える：遺伝と環境	テキスト第３章を読む【4】	
4	学習：条件付け	テキスト第４章１節を読む【4】	
5	学習：技能学習と社会学習	テキスト第４章２節、３節を読む【4】	
6	記憶：短期記憶と長期記憶	テキスト第４章４節を読む【4】	
7	学習・記憶の神経学的基礎	テキスト第４章５節を読む【4】	
8	感覚：感覚様相と閾	テキスト第５章１節を読む【4】	
9	知覚：視覚系の生理学	テキスト第５章２節,１項，２項を読む【4】	
10	知覚：視知覚の特性	テキスト第５章２節、3，4，5，6，７項を読む【4】	
11	思考・言語：問題解決と認知発達	テキスト第６章１節，２節，３節，４節を読む【4】	
12	思考・言語：言語・非言語コミュニケーション	テキスト第６章５節，６節を読む【4】	
13	動機づけ：達成動機づけ	テキスト第７章４節を読む【4】	
14	社会行動：社会的認知	テキスト第９章１節，２節を読む【4】	
15	社会行動：態度と説得・社会的影響	テキスト９章３節，４節を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP③〉 ②平常点（小テスト・レポート等）〈DP③〉	①80% ②20%

授業科目名	生命倫理学(放射線)（Bioethics）				
主担当教員	田中　美子		担当教員	田中　美子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

「生命倫理学」の主なトピックを取り上げながら、その是非について一緒に真剣に考える時間をもちます。授業は講義が中心ですが、ディスカッションも行う予定です。

到達目標

１.「『いのち』は誰が決めるのか」と、どの現場でも考えられる習慣を身につける。〈DP③〉
２.「誰のための医療か」「誰のためのケアか」を、他の人の立場でも考えられる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書とノートを用意してください。
授業の内容は、多少、変更することがあります。

教科書

『はじめて学ぶ生命倫理学』　小林亜津子著　ちくまプリマー新書 167（筑摩書房）　2011 年

参考書

『生命科学ただいま講義中』　岡田安弘著　金芳堂　2016 年
『生命倫理学とは何か』　アラステア・Ｖ・キャンベル著　山本圭一郎他訳　勁草書房　2016 年
『生命倫理の教科書』　黒崎剛・野村俊明編著　ミネルヴァ書房　2014 年
『ルポ　看護の質』　小林美希著　岩波新書 1614（岩波書店）　2016 年
『QOL って何だろう』　小林亜津子著　ちくまプリマー新書　2018 年
『看護師という生き方』　宮子あずさ著　ちくまプリマー新書　2013 年
『いのちはなぜ大切なのか』　小澤竹俊著　ちくまプリマー新書　2007 年

研究室／オフィスアワー

授業の前後に、質問等を受け付けます。
自宅への電話でも受け付けます。番号は改めてお伝えします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理学と他の学問とのちがい	ノートをまとめ直しましょう。	
2	いのちの「終わり」は誰が決めるのか	教科書第 1 章を読んでおきましょう。	
3	安楽死事件と安楽死に伴う諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
4	子どもの医療は誰が決めるのか	教科書第 2 章を読んでおきましょう。	
5	子どもの医療に関する事例 宗教、あるいは人を支えるもの	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
6	判断能力は誰が決めるのか	教科書第 3 章を読んでおきましょう。	
7	不均衡な構造がもたらす諸問題（男女差別、人種差別、医療者と患者の関係等）	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
8	いのちの「質」は誰が決めるのか	教科書第 4 章を読んでおきましょう。	
9	デザイナー・ベビーをめぐる諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
10	双子の生死は誰が決めるのか	教科書第 5 章を読んでおきましょう。	
11	意識は人格の座か（意識と身体の哲学）	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
12	人体実験からインフォームド・コンセントへ	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	
13	いのちの「優先順位」は誰が決めるのか	教科書第 6 章を読んでおきましょう。	
14	いのちの「始まり」は誰が決めるのか	教科書第 7 章を読んでおきましょう。	
15	受精卵と中絶胎児に関する諸問題	自分の考えをノートに記録しておきましょう。	

成績評価方法と基準	割合
①毎授業の「振り返り（ミニレポート）」。〈DP③〉 授業の内容が反映されていること。 ②学期末の「レポート」。〈DP③〉 調べた内容が客観的にまとめられていること。 自分の考察が書かれていること。	①約 50% ②約 50%

授業科目名	社会福祉学(放射線)（Social Welfare）				
主担当教員	掛川　直之		担当教員	掛川　直之	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

〈貧困〉という問題をつうじて、社会福祉の基礎を学ぶ。社会福祉にかんする考え方、制度、課題等について、時事的な問題や映像素材などをとおして具体的に学んでいく。一方通行にならないように、受講生の意見を聴いたり、グループワークをとりいれるなど、できるだけ退屈にならないような参加型の講義を心がける。

到達目標

日本社会に生起するさまざまな生活問題とその背景について、社会福祉の観点から理解することで、その解決に向けて自分の考えを自分のことばで説明できるようになることを目標とする。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義の進め方や成績評価の方法等の詳細については、初回の授業において説明する。なお、講義毎に、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。ここで出された質問等については、次回の講義の冒頭で解説をくわえる。

教科書

毎回の講義においてレジュメを配布する。

参考書

金子充『入門 貧困論：ささえあう／たすけあう社会をつくるために』（明石書店、2017 年）
岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門〔改訂版〕:「福祉の世界」への招待』（有斐閣、2013 年）
掛川直之編著『不安解消！出所者支援：わたしたちにできること』（旬報社、2018 年）

研究室／オフィスアワー

講義の前後、あるいはメール等にて質問等を受け付ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	〔オリエンテーション〕社会福祉の学び方：医療と福祉はつながっている	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	〔社会福祉の基本①〕社会福祉の考え方：人間はひとりでは生きられない	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	〔社会福祉の基本②〕貧困問題から社会福祉を考える：あなたはどんな「溜め」をもっている？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	〔社会福祉の基本③〕社会保障のしくみ：国や自治体の役割を考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	〔社会福祉の基本④〕ドラマ『サイレント・プア』から考えるソーシャルワーク：ソーシャルワーカーのしごと	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	〔社会福祉の分野①〕拡大する高齢者の貧困：老後は年金だけで生活できる？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	〔社会福祉の分野②〕病気や障がいをもつ人と貧困：適切な医療を受けるために	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	〔社会福祉の分野③〕女性やマイノリティは貧困に陥りやすい？：ジェンダーについて考える	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	〔社会福祉の分野④〕子どもの貧困も自己責任？：成長発達の権利	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	〔社会福祉の分野⑤〕漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える生活保護制度：生きるための最後の砦	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	〔社会福祉の分野⑥〕映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』から考える生活保護受給とバッシング：差別と偏見の背後にある誤解	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
12	〔地域と社会福祉〕釜ヶ崎とホームレス問題：医療・保健・福祉の機能が集約された逃れのまち	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	〔犯罪と社会福祉〕どうして〈犯罪者〉に福祉が必要なの？：貧困・社会的排除のスパイラル	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	〔生活と社会福祉〕社会の〈障害〉をみつける：社会を変えることはできるのか？	＜予習・復習 各 2 時間＞ 今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	〔社会福祉の応用〕私たちにできること：第 1 回～第 14 回のまとめ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 本講義全体を見直す	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP③〉 ②コミュニケーションペーパー〈DP③〉	①70% ②30%

授業科目名	日本国憲法(放射線)（Constitution of Japan）				
主担当教員	植田　重幸		担当教員	植田　重幸	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、コ・メディカルをもとに、診療の補助の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規（保健衛生関連法規）の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。

到達目標

1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。〈DP③〉
2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。〈DP③〉
3. 医療と人権に関する大切さを理解する。〈DP③〉
4. 診療放射線学科における『診療放射線技師法』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。〈DP③〉
5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。〈DP③〉
6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。
2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。
3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。
4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。

教科書

指定しない。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	法と社会生活① 法の成立並びに社会と規範	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特色 基本理念及び基本原理	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 基本的人権の成立経緯と人権規定	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 包括的基本権、自律的自己決定権	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 新しい人権（人格権と幸福追求権）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	
8	基本的人権規定④ 尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在的解釈を確認する	
9	関係法規① コ・メディカルに対する関係法規のしくみと位置づけ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、コ・メディカルの役割を確認する	
10	関係法規② 日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 医療過誤の実態と権利侵害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 医療過誤における法的責任	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	

成績評価方法と基準	割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	英語Ⅰ(初級)(放射線A)(English Ⅰ【Beginner】)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜1限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。〈DP②〉
基本的な文法、語彙、表現を身につける。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟4階研究室22 / 木曜日3限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	
		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各2時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP②〉 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加〈DP②〉 ③多読〈DP②〉 2/3以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ(初級)(放射線B)(English Ⅰ【Beginner】)				
主担当教員	長尾　晋宏		担当教員	長尾　晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
１．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
２．医学用語の基礎知識を学ぶ。
３．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。〈DP②〉
基本的な文法、語彙、表現を身につける。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan　/ Cengage Learning, 2014)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP②〉 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加〈DP②〉 ③多読〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ(中級)(放射線 A)(English Ⅱ【Intermediate】)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。〈DP②〉
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。〈DP②〉
簡単な英文を正確に理解できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	
		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP②〉 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加〈DP②〉 ③多読〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ(中級)(放射線 B)(English Ⅱ【Intermediate】)				
主担当教員	長尾　晋宏		担当教員	長尾　晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。〈DP②〉
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。〈DP②〉
簡単な英文を正確に理解できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ② (Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014)（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP②〉 ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加〈DP②〉 ③多読〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	MBS(Morinomiya Basic Seminar)(放射線)（Morinomiya Basic Seminar）				
主担当教員	山口　功		担当教員	山口　功	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜４限 火曜５限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本授業は、大学生としての学習や生活をスムーズにスタートさせるために、大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を身につけること、学園の歴史や建学の精神の意味やディプロマポリシーを理解することで、本学への帰属意識を確立させることを目的とする。
また、履修に関することや教育課程（カリキュラム）、学生生活に関するルール等を理解することで、大学で学ぶために必要な能力を身につけることを目的とする。
医療の歴史及び医療の現在と未来を知ることで、医療全体への興味をより深めることを目的とする。

到達目標

・本学の建学の精神及びディプロマポリシーを理解している。〈DP②③〉
・大学で学ぶために必要な能力を身につけている。〈DP②③〉
・生徒から学生へ移行する（主体的・能動的な学習スタイルを身につける）〈DP②③〉
・医療人を目指す学生であることに対しての自覚を強く持つ。〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理想の大学生活とは？想像している内容と異なる話を聞くこともあるでしょうが、4年間を有意義に過ごせるようこれからの生活を考えるきっかけとなることを願います。

教科書

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

蓮池研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【本学の歩みと未来／生徒から学生へ】 ・理事長による「本学の起源や今後の展望」、 ・学長による「医療・医学を学ぶ上での心構え」についての講義。 ・在校生から新入生に向けて大学生活の過ごし方や講義の受け方についてのプレゼンテーション。	予習：本学の Web サイトで「建学の精神」「森ノ宮医療学学園の歴史」「本学の特徴」について調べる．（1 時間） 復習：大学生としての心得を考え，まとめる．（1 時間）	山口
2	【診療放射線学科のカリキュラムについて】 ・カリキュラムについて ・カリキュラムポリシーについて ・ディプロマポリシーについて	予習：学生手帳の「診療放射線学科 授業科目・単位数」と「本学学士過程における三つのポリシー」「診療放射線学科における三つのポリシー」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分にとって今後の大学生活で必要なことを考える．(2 時間)	山口
3	【情報化社会における情報リテラシーと情報モラルについて】 ・情報リテラシーと情報モラル（SNS の取り扱い） ・医療情報の取り扱いについて ・その他社会問題等	予習：「情報リテラシー」「情報モラル」について調べ，自分の考えをまとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，多くの情報から適切に情報を得る方法を考える．(2 時間)	山口
4	【診療放射線技師のキャリアについて】 ・自身のキャリアについて ・履修モデルの解説と自身のキャリア形成プランの検討 ・診療放射線技師に必要な学びと研究	予習：自分自身，将来どのような「大人」になりたいか，また，目標とする「診療放射線技師像」を考え，まとめる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，自分の将来像を明確にする．(2 時間)	山口
5	地域医療について 住之江区長による「住之江区の医療・福祉の現状」についての講話	予習：本学が位置する「住之江区」の Web サイト「広報誌 さざんか」にて，住之江区における「福祉・健康」の施策について調べる (2 時間)	山口
		復習：授業をまとめ，今の自分でも参加できることを（ボランティア等）を探す．(2 時間)	
6	西洋医学とは 医師による西洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：西洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：西洋医学の中での診療放射線の重要性を調べ，まとめる．(2 時間)	山口
7	東洋医学とは 鍼灸師による東洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：東洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，西洋医学との違いを理解し，東洋医学の重要性をまとめる．(2 時間)	山口
8	チーム医療とは ・チーム医療について知る	予習：本学の Web サイトで「チーム医療」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，チーム医療の重要性を理解する．(2 時間)	山口

成績評価方法と基準	割合
レポート試験：「自己のキャリア構築のために今後の大学生活で何をすべきか」を 1600 字程度で述べる。〈DP②③〉 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。	100%

授業科目名	チーム医療見学実習(放射線)				
主担当教員	大西　英雄		担当教員	大西　英雄、垣本　晃宏	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

１．医療の実践の場である病院等の施設で医療従事者の１日を体験することにより、医療職への理解を深める。
２．保健医療施設における自己の目指す専門職の役割や機能を知ると共にチーム医療を構成する
様々な専門職の役割・機能について知識を深める。
３．チーム医療の実際を知り、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性を知る。

＜施設見学の実施概要＞
開講時期：９月下旬
実習施設：大阪急性期・総合医療センター(日程調整中)、大阪国際がんセンター(9 月 28・29・30 日または
9 月 23・24・25 日)、日本生命病院(9 月 23・25・28 日)、関西メディカル病院(9 月 25・28・29 日)

＜実施方法＞
１．本見学実習は大学内で実施する事前授業（4 コマ）と施設見学（4 コマ）とする。
２．１班 8 名程度の学科混成グループを作り、各グループ上記施設の中から１施設を見学する。
３．１班ごとに１名の本学教員が引率し、基本的には引率教員の指示のもと決められたスケジュール通りに
施設内を見学する

到達目標

１．実習を通じて医療施設の全体的な業務や役割について知ることができる。DP2
２．実習を通じてチーム医療の構成を知り、目指す専門職の役割および責任を自覚することができる。DP2
３．実習を通じて医療に取り組む姿勢を養い、専門科目の学習への意欲向上のきっかけとし、今後、
専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。DP23

履修上の注意(学生へのメッセージ)

見学時は、担当者のみならず院内の全ての方(就業者や患者さん等)に迷惑がかからない行動を取るとともに、発言にも最大限配慮すること。
見学当日はバスで送迎を行います。集合場所や時間を等は引率教員の指示に従うこと。

教科書

とくになし

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

別途連絡します

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	事前授業①（授業の目的や概要について）	【事前授業１】(授業の目的や概要について) 予習：本学に設置されている学科の仕事内容を調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、チーム医療についての考えをまとめる。(3 時間)	大西 垣本
2	事前授業②（授業の目的や概要について）	【事前授業２】(施設見学における注意事項について) 予習：大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて実践できるようにする （3 時間）	大西 垣本
3	事前授業③（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	大西 垣本
4	事前授業④（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	大西 垣本
5	【学修内容：⑤～⑧】 「施設見学」 ＜見学スケジュール例＞ ①リハビリテーション室の見学 →それぞれの職種間でのコミュニケーションを学ぶ ②ICU・CCU →医師や看護師の連携について学ぶ。最新機器等の設備について知識を深める ③各種検査室の見学 →検査技師と医師や看護師など他の職種との連携について学ぶ ④透析室 →透析の機器等について知識を深める ⑤手術室 →手術室とはどのような環境の部屋なのか、実際の設備や雰囲気を知る	復習：見学実習での学びをレポートにまとめる。自修時間 6 時間→課題提出	大西 垣本

成績評価方法と基準	割合
レポート課題<DP②③> 「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。 4/5 以上の出席を必要とする、	100%

授業科目名	基礎体育(放射線Ａ)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
　日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）運動施設について
　学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　３時限目・４時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習１時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習１時間	

成績評価方法と基準	割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 　その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。	①100%

授業科目名	基礎体育(放射線 B)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲームを自主的に運営する能力を養う。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

1．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
2．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
3．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
4．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（1）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（2）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（3）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（1）集合場所
日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所を変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（2）運動施設について
学内体育館、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱ、ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ、ｺｽﾓﾎｰﾙを使用します。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。 予習・復習 1 時間	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤・レポート	実技種目の競技特性理解を行う 予習・復習 1 時間	

成績評価方法と基準	割合
授業回数の 2/3(10 コマ)以上出席すること。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。 ①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。	①100%

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(放射線) (Health Science【Including Sports Sociology】)				
主担当教員	佐野　加奈絵		担当教員	佐野　加奈絵	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。

到達目標

・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける。〈DP③④〉
・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する。〈DP③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・大学生として節度ある態度で授業に臨むこと

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005 年
田中喜代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006 年

研究室／オフィスアワー

非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：シラバスの確認（2 時間） 復習：内容の確認（2 時間）	
2	健康・体力の概念	予習：健康に関する記事をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
3	アルコールの影響とは	予習：身体に及ぼす影響をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
4	喫煙について	予習：身体に及ぼす影響をチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
5	高脂血症・動脈硬化症	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
6	高血圧・脳卒中・心臓病	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
7	糖尿病・メタボリックシンドローム	予習：どのような症状があるかチェック（2 時間） 復習：今回の内容を再確認（2 時間）	
8	前半まとめ	予習：今まで内容の確認（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
9	身体活動の必要性	予習：運動習慣のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
10	肥満について	予習：体型をチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
11	薬物乱用について	予習：薬物の影響のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
12	救急法	予習：心肺蘇生法のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
13	スポーツトレーニング	予習：スポーツの種目のチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
14	健康に関する VTR	予習：健康に関する記事をチェック（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	
15	後半まとめ	予習：今までの内容の確認（2 時間） 復習：今回の内容の再確認（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
定期試験で評価する。〈DP③④〉 15 回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	100

授業科目名	数学(放射線) (Mathematics)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

数学は数量および空間図形の性質について理解する学問であり、自然科学の学修には数学の基礎知識とシンボルを用いた表現力は不可欠である。本講義では放射線科学・技術の理解を深めるために必要となる指数関数、対数関数、三角関数、複素関数、微分及び積分などを中心に数学的なものの見方・考え方に関する基礎を教授する。

到達目標

三角関数の性質や相互関係を理解し、その応用やそれを用いた計算ができる。〈DP①〉
指数・対数関数の性質を理解し、計算できる。〈DP①〉
複素数・複素関数の基本的性質を理解し、その応用やそれを用いた計算ができる。〈DP①〉
関数の微分・積分の考え方を理解し、それを用いた計算ができる。〈DP①〉
多変数関数の微積分の方法を理解し、計算できる。〈DP①〉
微分方程式の意味を理解し、簡単な微分方程式を解くことができる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

事前に、シラバスに沿って参考文献等でその定義を調べておくこと。
演習問題は必ず手を動かして下さい。わからないことは、出来る限り次の講義の前までに解決するようにして下さい。

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい理工系の基礎数学、金原粲など編集、実務出版株式会社
ISBN978-4-407-31830-2

参考書

放射線技師のための数学、福田 覚、医療科学社 3 訂版、ISBN-13: 978-4860034689
高校課程の教科書等

研究室／オフィスアワー

片山研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	三角関数(単振動・弧度法)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
2	三角関数(三角比・グラフ)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
3	三角関数(加法定理・関連公式)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
4	指数関数(指数法則・グラフ)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
5	対数関数(対数法則・グラフ)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
6	指数関数・対数関数(応用)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
7	複素数(定義・基本的性質)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
8	複素関数(定義・基本的性質)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
9	複素関数(応用)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
10	１変数関数の微分(微分係数・導関数)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
		予習１時間と復習１時間を行う。	
11	１変数関数の微分(応用・計算)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
12	１変数関数の積分(不定積分等)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
13	１変数関数の積分(置換積分等)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
14	微分方程式(1 階常微分方程式)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
15	微分方程式(応用・計算)	予習：シラバスによる内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答 予習１時間と復習１時間を行う。	片山

成績評価方法と基準	割合
①小テスト〈DP①〉	① 30%
②定期試験〈DP①〉	② 70%

授業科目名	数学演習(放射線)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

診療放射線技師として放射線科学・技術の理解に必要となる数学の基礎的事項について、「数学」で学修した指数関数、対数関数、三角関数などを演習形式で計算問題を中心に具体的に例題等を提示しながら概説する。さらに各種数式等について実際にグラフを書く演習と徹底した解説を通して、数学的なものの見方・考え方および表現方法について理解を深めることを目標とする。

到達目標

三角関数の性質や相互関係を理解し、その応用やそれを用いた計算ができる。<DP①>
指数関数と対数関数の性質を理解し、計算できる。<DP①>
複素数・複素関数の性質や相互関係を理解し、その応用やそれを用いた計算ができる。 <DP①>
関数の微分・積分の考え方を理解し、それを用いた計算ができる。<DP①>
微分方程式の性質を理解し、微分方程式の意味を説明でき、簡単な計算問題を解くことができる。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

事前に、シラバスに沿って教科書・参考等でその内容を調べておく。
演習問題は必ず手を動かして行い、分からないことは出来る限り次の講義の前までに解決する。

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい理工系の基礎数学、金原粲など編集、実務出版株式会社
ISBN978-4-407-31830-2

参考書

放射線技師のための数学、福田 覚、医療科学社 3 訂版、ISBN-13: 978-4860034689
高校課程の教科書等

研究室／オフィスアワー

片山研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	高校数学Ⅰ課程の履修状況の確認	予習：高校数学Ⅰ課程の内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
2	高校数学Ⅱ課程の履修状況の確認	予習：高校数学Ⅱ課程の内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
3	高校数学Ⅲ課程の履修状況の確認	予習：高校数学Ⅲ課程の内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
4	三角関数(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
5	三角関数(医用工学関連問題)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
6	指数関数・対数関数(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
7	指数・対数関数(医用工学関連問題)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
8	複素数(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
9	複素関数(医用工学関連問題)の確認１	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
10	複素関数(医用工学関連問題)の確認２	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
11	１変数関数の微分(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
12	微分(医用工学関連問題)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
13	１変数関数の積分(応用・計算)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
14	積分(医用工学関連問題)の確認	予習：数学の授業内容の確認 復習：授業内容の確認と問題の解答	片山
15	まとめ	予習：数学演習の授業内容の確認 復習：全授業内容の確認と問題の解答	片山

成績評価方法と基準	割合
①確認課題演習<DP①> ②定期試験<DP①>	① 50% ② 50%

授業科目名	物理学演習(放射線)				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

診療放射線技師として放射線科学・技術の理解に必要となる物理学の基礎的事項について，自然現象を定量的に理解するために必要な数学的事項，物体の運動を理解する力学，波の性質，光の性質，相対性理論，原子と原子核などについて演習形式で概説し，物理学的なものの見方・考え方および表現方法について理解を深めることを目標とする．

到達目標

1. 力学の基礎について理解し，説明することができる
2. 波動工学の基礎について理解し，説明することができる
3. 光学の基礎について理解し，説明することができる
4. 熱力学の基礎について理解し，説明することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回，講義内容に関連した演習問題を配付する．演習問題を用いて復習をしっかりすること．理解が不十分な項目については早めに対応し，理解できるように努力すること．

教科書

指定しない．適宜，資料を配付する．

参考書

大塚徳勝，これならわかる物理学，共立出版，2012 年．

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは原則として木曜日 1 時限とするが，質問等は随時受け付ける．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	力：力の単位，質量，重さなど	復習：講義内容，演習問題の復習	
2	運動の法則：等速運動，等加速度運動，運動の法則，運動方程式など	復習：講義内容，演習問題の復習	
3	重力による運動，万有引力：自由落下，鉛直投射，放物運動，斜面の運動など	復習：講義内容，演習問題の復習	
4	円運動：角速度，周期，向心力，遠心力など	復習：講義内容，演習問題の復習	
5	仕事，エネルギー：仕事の原理，仕事率，力学的エネルギー保存の法則など	復習：講義内容，演習問題の復習	
6	運動量，力積：運動量保存の法則，はね返り係数，衝突など	復習：講義内容，演習問題の復習	
7	単振動：ばね振り子，単振り子，振動のエネルギーなど	復習：講義内容，演習問題の復習	
8	波動：波，縦波，横波，波動，波動のエネルギー，定常波など	復習：講義内容，演習問題の復習	
9	波の伝わり方：ホイヘンスの原理，反射，屈折，干渉，回折，うなりなど	復習：講義内容，演習問題の復習	
10	音波：音の 3 要素，共鳴，超音波，衝撃波など	復習：講義内容，演習問題の復習	
11	光：光，光速，屈折，全反射など	復習：講義内容，演習問題の復習	
12	光波，スペクトル：光の干渉，光の回折，偏光，分散，スペクトルなど	復習：講義内容，演習問題の復習	
13	熱と温度：熱，温度，ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則，気体の状態方程式	復習：講義内容，演習問題の復習	
14	熱の移動と物質の状態変化：熱伝導，対流，熱放射，飽和蒸気圧，湿度	復習：講義内容，演習問題の復習	
15	気体分子の運動と熱力学：気体の圧力，気体の温度，内部エネルギー，熱力学の第 1 法則	復習：全講義内容，全演習問題の復習	

成績評価方法と基準	割合
1． 定期試験	1． 100%

授業科目名	生物学演習(放射線)				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

これまでで生物学を学んできたものの、いまひとつ理解できないでいるという人や全く学習してないという人の為にーから生物学を見直そうとする授業となる。

到達目標

生物学の基本的事項を確認でき、それらが何を意味するのかが理解できる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生物学を履修していない、あるいは、履修はしたけれどあまり得意ではないといった学生もいると思う。そうした学生の不安を取り除くべく講義を展開したいと考えている。

教科書

「身近な生物学」　羊土社

参考書

「理工系のための生物学」　裳華房

研究室／オフィスアワー

火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ヒトの体とエネルギー	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	糖の種類とエネルギー	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	資質の構造と性質	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	脂質の構造と性質	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	脂質の代謝	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	ビタミンの働き	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	細胞の構造と機能	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	DNA の構造と働き	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	タンパク室の働き	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	細胞分裂のしくみ	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	発生と分化	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	細胞のストレス応答機構	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	免疫とは何か	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	ES 細胞と iPS 細胞と再生医療	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	細胞死とアポトーシス	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　終了試験　＜DP①＞	1　100%

授業科目名	化学演習(放射線)				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

放射性物質などの取り扱いには化学的知識が必要となる。その理解に役立つ事項を取り上げて解説する。

到達目標

化学の基本的事項の確認ができ、今後の各分野でさまざまに展開される化学の理解がより深まる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

化学を履修していない、あるいは、履修はしたけれどあまり得意ではないといった学生もいると思う。そうした学生の不安を取り除くべく講義を展開したいと考えている。

教科書

「教養の化学」　東京化学同人

参考書

「ライフサイエンスのための化学」　化学同人

研究室／オフィスアワー

火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	暮らしの中の化学	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	原子と元素	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	エネルギーと暮らし	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	食品とエネルギー	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	物理変化と化学変化	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	水と溶液と気体	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめる	
		よう努力して欲しい。	
8	酸と塩基	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	放射能の化学	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	電子移動とエネルギー	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	きれいの化学	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	クスリと遺伝子	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	石油化学と環境汚染	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	食品の成分	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	生命科学の中の化学	＜予習・復習 各 30 分＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　終了試験　＜DP①＞	1　100%

授業科目名	医学概論(放射線)（Introduction to Medicine）				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

少子高齢化の進展する今日、医療施設においてはIT化、入院期間の短縮化、疾病に対する高度な治療技術の導入が進んでいる。
本教科目では、現代医療をめぐる社会環境の変化・動向を把握し、患者中心の医療が成果をあげるために、まずは進歩する現代医療の実態を把握するとともに、各専門職のチームワークが重要であることを、広い視点から学修する。
医療の本質、現代医療の課題、EBM（Evidence Based Medicine）、医療の対象としての個人や集団、インフォームドコンセント、医療安全、生命の誕生と死（脳死）、臓器移植、医療経済、各種専門職の役割、IPW（Inter-professional Work）、IPE（Inter-professional Education）等について学修する。

到達目標

１．社会環境や疾病構造の変化を理解する.
２．患者の権利宣言や医療倫理に関する事項を理解する.
３．患者に提供されている医療の実態を把握し，現状を理解する.
４．医療の対象としての人間（生と死、個人・家族・集団）について考え、理解する.
５．医療の成果を挙げるための仕組みやチーム医療、各学科の垣根を越えた専門職種間連携（IPW）について理解する.
６．実験的最新医療の臨床応用と災害医療における生命倫理について考え、理解する.
７．脳死判定や臓器移植とコーディネイターの役割について理解する.
８．医療におけるリスクマネジメントについて理解する.

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．医療者の考えと患者の医療に対する考えのずれを認識する.
２．医療システムと上手な受診、医療者のモラルを考える.
３.「医学概論」は医療する側の原点であることを認識する.
４．グループ討議には積極的に参加する.
５．日々の学生生活の中から現代医療に関する情報を収集し、考える習慣をつける

教科書

小泉俊三，平尾智広，有吉浩美：総合医療論　健康支援と社会保障制度①　医学書院

参考書

中島泉：医学概論　医学のコンセプトと医療のエッセンス　南江堂
厚生の指標　増刊　61(9) 国民衛生の動向　2014/2015 厚生労働統計協会.
その他，講義時に紹介する

研究室／オフィスアワー

C棟、研究室４、原則月曜日　2・3時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	自己紹介、オリエンテーション（レポートの課題説明等）、医療コミュニケーション	予習：教科書2頁～9頁を読んでおくこと（医療コミュニケーションとはなにかを理解すること）、 復習：配布資料により、レポートの課題内容を理解すること	
2	生命倫理について：人の誕生と死に関する諸課題	予習：教科書の散在する関連部分を読んでおくこと 復習：　配布物より、生と死について、持論を確立すること	
3	わが国の医療システムと医療スタッフの役割	予習：教科書56頁～72頁を読んでおくこと 復習：配布資料より、わが国の医療システムと医療機関内におけるチーム医療を理解すること	
4	インフォームドコンセントと医療情報の開示・共有	予習：教科書132頁～139頁を読んでおくこと 復習：配布物より、進化した基幹病院の多職種間のカルテ共有システムと地域チーム医療を理解すること	
5	疾病の一次予防と健康増進	予習：教科書73頁～95頁を読んでおくこと 復習：配布資料より健康日本２１の内容を理解すること	
6	実験的最新医療の臨床応用と災害医療における生命倫理	予習：教科書98頁～111頁を読んでおくこと 復習：配布物により、災害医療における生命倫理を理解すること	
7	脳死判定と臓器移植	予習：不要 復習：配布物より、臓器移植の現況を知り、脳死を理解するだけではなく、その判定手順を学ぶ	
8	医療安全：リスクマネジメント	予習：148頁～153頁 復習：配布物により、実践的なリスク管理を身につけること	

成績評価方法と基準	割合
①期末レポート ②講義内容の小レポート （詳細な評価法（レポートの課題）は講義の中で説明する）	①60% ②40%

授業科目名	公衆衛生学(放射線)（Public Health）				
主担当教員	神田　靖士		担当教員	神田　靖士	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

公衆衛生学は、ひとびとの健康維持、増進を実践する方法や技術を学ぶ専門科です。すなわち、何が健康を邪魔しているのか、何をすれば健康が守れるのか、どのような仕組みを作れば健康の維持、増進にプラスになるのかなどを科学的に解析し、それらを実践する学問です。
　本講義では、衛生･公衆衛生学の総論、衛生行政、予防医学、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。

到達目標

国民の基本的人権としての健康を保障するための科学、技術、倫理を医学の観点から学ぶ学問である。国民の健康を守るべき看護学生として、国民の健康状態と保健、衛生、福祉の体制を正しく理解し、国民の健康を守るための保健医療サービスと公衆衛生事業のしくみと方法について学習し、会得することが目標である。〈DP①②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．講義を積極的に受講すれば行政のしくみや法におよび統計を理解できるようにしています。
２．講義内容の他に社会の福祉・保健・統計については新聞に記載されることがあり、日頃から注意してみることで学ぶことができます。新聞を読んでください。
３．出席者は、私語・スマホの使用は厳禁。講義中の私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
４．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考書

国民衛生の動向（厚生統計協会）

研究室／オフィスアワー

在室時は訪問可。
質問がある場合は授業終了時に各自申し出て下さい。また、メールでも随時受付を行います。
メールアドレス：kandas@hirakata.kmu.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	公衆衛生学概論と歴史	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：授業を基に配布資料確認（2 時間）	
2	人口統計と保健統計	予習：人口の諸問題を考える（2 時間） 復習:授業を基に配布資料・教科書の確認（2 時間）	
3	保健統計　出生と死亡	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。（2 時間）	
4	疾病統計	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配布資料・教科書の確認（2 時間）	
5	感染症とその予防	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：授業を基に微生物・予防接種法など確認（2 時間）	
6	食品保健と公衆衛生栄養	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配布資料・教科書の確認（2 時間）	
7	生活環境保全	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配布資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
8	医療の制度（医療保険、公費負担制度）	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
9	地域保健活動	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配布資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
10	母子保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認。(2 時間）	
11	学校保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:配付資料を基に重要語句の確認（2 時間）	
12	生活習慣病対策	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：疾病の種類、リスクと予防の確認（2 時間）	
13	高齢者対策（後期高齢者医療、介護保険制度）	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:高齢者医療の仕組みと介護制度を学ぶ（2 時間）	
14	精神保健福祉	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習：精神保健福祉法、インフォームドコンセントを確認。（2 時間）	
15	産業保健	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業を基に配付資料・教科書の確認（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP①②〉 ②平常評価（出席状況）〈DP①②〉 上記①②で総合評価します。	①80% ②20%

授業科目名	人体の構造Ⅰ(放射線)(Human Anatomy Ⅰ)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体に関する基本事項を形態機能学を基盤として学修する。当科目では細胞、組織など生体を構成する要素の概要、運動器系、神経系を取り扱う。臨床系専門科目に先駆けて、運動器系、神経系を系統立てて学修し理解を深める。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

生命現象の基盤となる細胞や組織の概要について説明できる。(DP②③)
骨格や筋など運動器を構成する要素の機能と形態について概要を説明できる。(DP②③)
中枢神経系と末梢神経系の機能と形態について概要を説明できる。(DP②③)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1) 講義は教科書を中心に進めます。適宜「参考書」を活用しつつ、自発的な予習と復習を心掛けて下さい。
2)「資料」を配付します。復習時に活用して理解を深めて下さい。
3) 講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。学習内容の特性を踏まえて、積極的に学習に取り組んで下さい。
4)「人体の機能Ⅰ」と共通の教科書で並行して講義が進行します。両科目での学習項目を十分に整理して理解するように心掛けて下さい。

教科書

原田 玲子他　編集　『人体の構造と機能（第５版)』　医歯薬出版株式会社

参考書

坂井建夫　岡田隆夫　『専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①』　医学書院
日本人体解剖学（南山堂)、人体解剖学（南江堂)、標準生理学（医学書院)、生理学テキスト（文光堂）など

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 11）
月曜日午後５時～午後７時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞、組織、器官、器官系	事前に教科書の目次などを参考に、学習内容を概観して下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
2	運動系とは?（運動系総論)、骨格（骨の構造と機能、全身の骨格）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
3	骨格（脊柱、胸郭、四肢の骨、頭蓋骨）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
4	関節、骨格筋（骨格筋の構造と機能）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
5	骨格筋（筋収縮の機構)、全身の骨格筋（抗重力筋）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
6	骨格筋（四肢の筋、頸部の筋、頭部の筋、呼吸筋、骨盤底筋）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
7	運動の調節（骨格筋の神経支配、運動反射）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
8	細胞、組織、運動器系の形態と機能に関するまとめと確認テスト	細胞、組織、運動器系の形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間)。	森谷
9	神経系とは?、神経細胞と神経組織	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
10	中枢神経系（中枢神経系の構造、中枢神経系の統合機能）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
11	中枢神経系（大脳の構造と機能、視床と視床下部の構造と機能、脳幹の構造と機能）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
12	中枢神経系（小脳の構造と機能、脊髄の構造と機能、中枢神経の保護と栄養）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
13	末梢神経系（脳神経、脊髄神経と神経叢）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
14	末梢神経系（脊髄神経、自律神経系）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（2 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（2 時間)。	森谷
15	中枢神経系と末梢神経系の形態と機能に関するまとめと確認テスト	中枢神経系と末梢神経系の形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間)。	森谷

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験（90%）(DP②③) ②課題等の提出（10%）(DP②③) 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。	①90% ②10%

授業科目名	人体の構造Ⅱ(放射線)(Human Anatomy Ⅱ)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体に関する基本事項を形態機能学を基盤として学修する。当科目では感覚器系、体温調節、生体リズム、内分泌、生殖と老化について、恒常性維持の視点から形態機能学的特徴を取り扱う。臨床系専門科目に先駆けて、恒常性維持に関わる器官系について学修し理解を深める。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

感覚器を構成する要素の機能と形態について概要を説明できる（DP②③）。
体温調節、生体リズムの形成に関わる仕組みの概要について説明できる（DP②③）。
内分泌系の機能と形態について概要を説明できる（DP②③）。
生殖と老化に関わる臓器・器官の機能と形態について概要を説明できる（DP②③）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）教科書と配布資料を用いて講義を進行します。また、課題の提出を課すので、必ず提出して下さい。
２）前期の「人体の構造Ⅰ」、「人体の機能Ⅰ」と密接に関連している事項を学習します。必要に応じて、前期の関連項目を十分に復習して下さい。
３）初回講義時に講義の進行について説明します。学習内容の特性を踏まえて、積極的に学習に取り組んで下さい。
４）「人体の機能Ⅱ」と共通の教科書で並行して講義が進行します。両科目での学習項目を十分に整理して理解するように心掛けて下さい。

教科書

原田 玲子他　編集　『人体の構造と機能（第４版)』　医歯薬出版株式会社

参考書

坂井建夫　岡田隆夫　『専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能①』　医学書院
日本人体解剖学（南山堂)、人体解剖学（南江堂)、標準生理学（医学書院)、生理学テキスト（文光堂）など

研究室／オフィスアワー

E棟４階（研究室 11）
月曜日午後５時～午後７時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	感覚器系（感覚器の一般的性質） 視覚①（概要）	事前に教科書の目次などを参考に、学習内容を概観して下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
2	視覚②（各論）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
3	聴覚、平衡覚	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
4	味覚、嗅覚、体性感覚	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
5	内臓感覚、痛覚	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
6	感覚器系のまとめ	感覚器系の形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間)。	森谷
7	内分泌系①（ホルモンの種類と分泌調節）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
8	内分泌系②（視床下部・下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
9	内分泌系③（副腎皮質、副腎髄質、消化管のホルモン、腎臓のホルモン、性腺ホルモン、その他のホルモン）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	
10	体温調節と生体リズム①（体温とその調節）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
11	体温調節と生体リズム②（体温異常、生体リズム）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
12	生殖と老化①（生殖とは？、女性の生殖器系）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
13	生殖と老化②（男性の生殖器系、受精と発生）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
14	生殖と老化③（成長と老化）	事前に教科書の該当部分を読んで予習しておいて下さい（1 時間)。また、配布資料を参考に復習して下さい（1 時間)。	森谷
15	体温調節、生体リズム、内分泌系、生殖と老化のまとめ	体温調節、生体リズム、内分泌系、生殖と老化に関わる形態と機能について、教科書、配布資料などでこれまでの学修内容を十分に復習して下さい（4 時間)。	森谷

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験（DP②③） ②課題等の提出（DP②③） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。	①90% ②10%

授業科目名	人体の機能Ⅰ(放射線)(Human Physiology Ⅰ)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では自律機能（不随意機能）を有する臓器を中心に取り扱う。

到達目標

ホメオスタシス（生体の恒常性）について説明できる。
体液の分類および、細胞の構造と機能のあらましを述べられる。
血液と血球の働きを説明できる。
心臓と血管のあらましを説明できるとともに、循環調節について概説することができる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。一コマあたり２～４ヶ所で「小括」を設ける。問題形式にしてあるので、講義後に自力で解くことで復習の一助とせよ。
３）質問について：科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。
４）練習問題について：第十四回目の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。第十五回目の講義にて解答を回収する。提出の有無は評点の対象とする。
５）他科目との関連：当講義は別科目「人体の構造」と共通の教科書を用いて進める。内容も密接に関係しているので、並行して学習すること。

教科書

人体の構造と機能 第５版 医歯薬出版株式会社 原田 玲子ほか編集（ISBN978-4-263-23721-2）

参考書

系統看護学講座 解剖生理学 第９版 医学書院 坂井建雄ほか編集（ISBN978-4-260-01826-5）

図表は指定教科書・参考書以外からも多数引用するが、可能な限り個々の出典を示す。発展学習を希望する者にはさらに高度な教科書を個別に推薦するので、申し出よ。

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	自律機能性臓器による人体機能の調節	予習：要さない 復習：講義プリントを用いよ。在学中に自らが学ぶべき事柄の多きを知れ。 学習所要時間目安：合計二時間	
2	生体の恒常性	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
3	体液	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
4	血液（１）：総論、赤血球	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
5	血液（２）：血小板、止血機構	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
6	血液（３）：血液型 生体防御（１）：非特異的防御機構	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
7	生体防御（２）：特異的防御機構、リンパ系器官	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間（別途、中間試験準備の必要がある）	
8	中間試験	予習：第１～７回講義 復習：中間試験問題 学習所要時間目安：合計二時間	
9	循環器（１）：循環器の概観、心臓の構造、心臓電気生理	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
10	循環器（２）：心臓興奮収縮連関、心電図、心周期	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
11	循環器（３）：血管の構造と機能	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
12	循環器（４）：人体各部位の血管	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
13	循環器（５）：血圧の成因、心機能調節	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
14	循環器（６）：血圧の調節、循環器系のストレス応答、リンパ管	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、練習問題を解く時間を要する）	
15	総復習	予習：練習問題 復習：第１～１５回講義 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、定期試験準備の必要がある）	

成績評価方法と基準	割合
中間試験（論述式・マークシート式）(DP②③)	30%
期末定期試験（マークシート式）(DP②③)	60%
練習問題提出（第１５回講義）(DP②③)	10%

授業科目名	人体の機能Ⅱ(放射線)(Human Physiology Ⅱ)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

生理学・解剖学を含めた、人体に関する基本事項について学ぶ。当科目では自律機能（不随意機能）を有する臓器を中心に取り扱う。

到達目標

呼吸力学とガスの運搬を概説できるとともに、呼吸調節について説明できる。
腎臓の働きについて説明できるとともに、体液調節の仕組みについて述べることができる。
消化器の働きを説明できるとともに、栄養素の消化・吸収について概説できる。
人体における代謝の仕組みについて説明できる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）授業態度について：集中して講義を聴講すること。毎回、講義スライドを印刷したプリントを配布する。それをもとに、各自が可能な限り詳しくノートを作成すること。講義中の私語は厳禁とする。私語を止められない者は退席させる。
２）予習・復習について：講義内容は膨大であるから、講義ごとの予習復習は必須である。一コマあたり２～４ヶ所で「小括」を設ける。問題形式にしてあるので、講義後に自力で解くことで復習の一助とせよ。
３）質問について：科目の性質上、講義後に多くの疑問点が生じるはずである。いかなる内容でも歓迎するので、積極的に質問を行うこと。
４）練習問題について：第十四回目の講義終了時に練習問題を配付する。補助教材として活用せよ。第十五回目の講義にて解答を回収する。提出の有無は評点の対象とする。
５）他科目との関連：当講義は別科目「人体の構造」と共通の教科書を用いて進める。内容も密接に関係しているので、並行して学習すること。

教科書

人体の構造と機能 第５版 医歯薬出版株式会社 原田 玲子ほか編集（ISBN978-4-263-23721-2）

参考書

系統看護学講座 解剖生理学 第９版 医学書院 坂井建雄ほか編集（ISBN978-4-260-01826-5）

図表は指定教科書・参考書以外からも多数引用するが、可能な限り個々の出典を示す。発展学習を希望する者にはさらに高度な教科書を個別に推薦するので、申し出よ。

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	呼吸器（１）：概観、上気道	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
2	呼吸器（２）：肺、換気力学	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
3	呼吸器（３）：ガスの交換と輸送	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
4	呼吸器（４）：呼吸調節	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
5	腎臓（１）：ネフロン、腎機能測定	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
6	腎臓（２）：腎機能調節、蓄尿・排尿	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
7	電解質異常・酸塩基平衡	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書	
		学習所要時間目安：合計二時間（別途、中間試験準備の必要がある）	
8	中間試験	予習：第１～７回講義 復習：中間試験問題 学習所要時間目安：合計二時間	
9	消化器（１）：概観、上部消化管運動	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
10	消化器（２）：下部消化管運動	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
11	消化器（３）：消化液の分泌	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
12	消化器（４）：栄養素の消化と吸収	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
13	代謝（１）：栄養素の代謝	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間	
14	代謝（２）：生体物質の代謝	予習：教科書 復習：講義プリント、教科書 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、練習問題を解く時間を要する）	
15	総復習	予習：練習問題 復習：第１～１５回講義 学習所要時間目安：合計二時間 （別途、定期試験準備の必要がある）	

成績評価方法と基準	割合
中間試験（論述式・マークシート式）(DP②③)	30%
期末定期試験（マークシート式）(DP②③)	60%
練習問題提出（第１５回講義）(DP②③)	10%

授業科目名	電気・電子工学(放射線)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

診療放射線技師が取り扱う医療機器の多くは電気を動力源としており、内部では様々な電子回路が動作している。また、神経信号の伝達や筋収縮などでも電気は重要な役割を果たしている。このように診療放射線技師にとって電気・電子に関する知識は不可欠である。電気・電子工学では、電気・電子工学の知識取得を目的に、直流回路や交流回路といった電気に関する基礎的内容から始め、ダイオードやオペアンプを用いた電子回路および電気が生体へ及ぼす影響について学習する。

到達目標

1. 電荷や電圧、電流といった電気工学の基礎的な専門用語について数値的な定義に基づき説明できる。〈DP①〉
2. 抵抗やキャパシタといった受動素子からなる直流回路について、オームの法則やキルヒホッフの法則などを用いて、回路中の電圧や電流などの計算ができる。〈DP①〉
3. 受動素子の特性について、数式を用いて説明できる。〈DP①〉
4. 受動素子からなる交流回路についても、回路中の電圧や電流、インピーダンスなどを計算できる。また、求めた値を用いて、回路をベクトル図や複素数を用いて表現できる。〈DP①〉
5. 電力を数値的な定義に基づき説明できる。また、回路で消費される電力が計算できる。〈DP①〉
6. 電力に基づき共振回路を数値的に説明できる。また、共振回路の特性を数値的に説明できる。〈DP①〉
7. 半導体の性質を説明できるようになる。〈DP①〉
8. ダイオードの性質や活用方法を説明できるようになる。〈DP①〉
9. トランジスタの性質を知り、電気的なスイッチとして活用できることを説明できるようになる。〈DP①〉
10. オペアンプの性質を知り、電気信号の増幅器として活用できることを説明できるようになる。〈DP①〉
11. 過渡応答について説明できるようになる。〈DP①〉
12. 変圧器の性質を知り、交流回路では電圧の変換が容易にできることを説明できるようになる。〈DP①〉
13. 電気が生体に及ぼす影響について概要を説明できるようになる。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.　電気・電子工学は積み上げ型の教科であるため、各講義内容は、以前の講義内容を理解していることを前提としています。したがって、わからない箇所を放置すると、それ以降の講義が全てわからなくなります。そのため、講義終了後には必ず復習を行い、授業内容の理解度について確認して下さい。復習中にわからないことがあれば、必ず質問に来て下さい。

教科書

1. 『診療放射線基礎テキストシリーズ 医用工学』, 共立出版, ISBN978-4-320-06187-3

参考書

1.『電気基礎講座１　プログラム学習による基礎電気工学　直流編』監修 末武国弘, 編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版
2.『電気基礎講座２　プログラム学習による基礎電気工学　交流編』監修 末武国弘, 編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版
3.『電気基礎講座４　プログラム学習による基礎電気工学　電気回路編』監修 末武国弘, 編著 松下電器工学院 / 廣済堂出版

研究室／オフィスアワー

C棟 7F 教職員室/水曜日５限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	抵抗器の性質とオームの法則 ・抵抗器の抵抗値と長さや面積などとの関係について理解を深める。 ・オームの法則を用いて回路の電圧、抵抗値、電流が求められるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: シラバス内容を確認し、教科書の２章の内容を要約し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
2	合成抵抗と分圧・分流 ・直列接続された抵抗器の抵抗値、並列接続された抵抗器の抵抗値および直並列接続された抵抗器の抵抗値を算出できるようになる。 ・分圧を抵抗器の直列接続を絡めて説明できるようになる。 ・分流を抵抗器の並列接続を絡めて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
3	複雑な電気回路の解法 ・ブリッジ回路の特徴を説明できるようになる。 ・抵抗器が上下左右対称に接続された回路の特徴を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
4	電池の直列・並列接続 ・電池を電圧源と内部抵抗で表すことができるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
5	直流回路の電力 ・直流回路において抵抗器で消費される電力を算出できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
6	交流波形の表現方法 ・直流と交流の違いを説明できるようになる。 ・周波数や位相など交流波形を特徴付ける値を説明できるようになる。 ・三角関数を用いて交流波形を表現できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
7	交流回路における受動素子の特性 ・交流回路における抵抗の特性を数式で説明できるようになる。 ・交流回路におけるインダクタの特性を数式で説明できるようになる。 ・交流回路におけるキャパシタの特性を数式で説明できるようになる。 ・インピーダンスの説明と算出ができるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
8	受動素子の直列接続・並列接続 ・受動素子を直列に接続することで、電圧と電流の位相がどのように変化するかを数式を用いて具体的に説明できるようになる。 ・受動素子を並列に接続することで、電圧と電流の位相がどのように変化するかを数式を用いて具体的に説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
9	交流回路の複素数表現 ・RL 直列回路、RC 直列回路及び RLC 直列回路の各回路について、複素数を用いた表現及び電圧・電流・インピーダンスの算出ができるようになる。 ・RL 並列回路、RC 並列回路及び RLC 並列回路の各回路について、複素数を用いた表現及び電圧・電流・インピーダンスの算出ができるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
10	交流回路における電力と共振現象 ・交流回路における電力の特徴である、瞬時電圧、電圧と電流の位相差が電力に及ぼす影響、力率について数式で説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。	

	・皮相電力、有効電力、無効電力について数式で説明できるようになる。 ・共振回路の特徴を電力に関連づけて説明できるようになる。 ・直列共振回路の特性について数式を用いて説明できるようになる。 ・並列共振回路の特性について数式を用いて説明できるようになる。	復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
11	半導体とダイオード ・半導体の性質を説明できるようになる。 ・電流の流れを制御するという観点からダイオードを説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
12	トランジスタとオペアンプ ・電気的なスイッチとしてトランジスタの挙動を説明できるようになる。 ・信号増幅の観点からオペアンプを説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
13	過渡応答 ・電気回路における過渡現象として、充放電時及び方形波入力時における電圧及び電流の変化を数式に基づいて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
14	変圧器 ・交流回路では電圧変換が容易にできることを変圧器の原理を用いて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
15	生体への影響 ・電流や電圧が生体に及ぼす影響を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	

成績評価方法と基準	割合
1. 定期試験<DP①> 授業内で扱った範囲を対象とした筆記試験を行います。	100%

授業科目名	医用工学(放射線)				
主担当教員	片山 俊郎		担当教員	片山 俊郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

放射線診療で使用する医療機器の原理を理解するために必要となる医用工学分野の知識を修得させることを目標とする。具体的には、機器工学の学修に必要な電気・電子回路の基礎知識および医療安全の確保に必要な電子工学的技術について概説する。Ｘ線を発生するのに必要な交流回路、変圧器・高電圧回路およびコンデンサ回路、整流回路などの基礎を学ぶことで、放射線診療機器の原理を理解していく上で必要となる力を身に付けさせることを目指す。

到達目標

１．場の量(電場と磁場)の概念およびそれらの相互作用を説明できる。<DP①>
２．簡単な直流回路の電圧、電流、電力を説明できる。<DP①>
３．交流回路のインピーダンス、電圧、電流、それらの周波数特性について説明できる。<DP①>
４．直流回路、交流回路の定常応答、過渡応答について説明できる。<DP①>
５．半導体の特性を理解し、ダイオード、トランジスタについて説明できる。<DP①>
６．演算増幅器による簡単な増幅回路の利得や同相除去比について説明できる。<DP①>
７．２進数、１６進数、サンプリングテイルなどの情報の基礎について説明できる。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医用放射線機器の動作や取り扱いに関する理解を深めるために必要科目なので、教科書・配布資料・演習問題を利用して予習・復習に努めてください。

教科書

診療放射線基礎テキストシリーズ医用工学　富永孝宏他著　共立出版　ISBN 978-4-320-06187-3 診療放射線基礎テキストシリーズ医用工学　富永孝宏他著　共立出版　ISBN 978-4-320-06187-3

参考書

医用工学 改訂第２版 (診療放射線技師 スリム・ベーシック)　小倉泉著・福祉政広編集 メジカルビュー社 ISBN-13: 978-4758319171

研究室／オフィスアワー

片山研究室／

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	電荷、クーロン力、電界、電位、電流、静電容量について	予習：目的、授業計画、到達目標を知る。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
2	磁界、フレミングの法則、電流と磁界、コイル、誘導作用について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
3	導体、抵抗、オームの法則、抵抗の直列、並列接続、コンデンサの直列、並列接続、キルヒホッフの法則について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
4	電力、熱量、ブリッジ回路、ブリッジ回路の応用について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
5	複素平面における正弦波、交流電力、コンデンサと交流回路、皮相電力について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
6	コイルと交流回路、トランスによる昇圧、ＬＣＲ回路と共振について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
7	CR 回路、LR 回路の過渡応答、時定数、周波数特性について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
8	半導体の基礎、ダイオードの性質、整流回路と平滑化、各種ダイオード回路について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
9	バイポーラトランジスタと FET および交流増幅回路の基礎について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山

10	増幅回路、作動増幅回路と CMRR、微分回路、積分回路について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
11	フィルター回路と周波数特性について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
12	演算増幅器、反転増幅回路、非反転増幅回路、ボルテージフォロアについて	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
13	論理回路、論理回路を用いた発振回路について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
14	２進数、8 進数、16 進数、ブール代数について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
15	AD 変換、DA 変換、フーリエ解析について	予習：学習内容について教科書を読む。 復習：講義内容をノートにまとめる。 予習１時間と復習１時間を行う。	片山
成績評価方法と基準			割合
①小テスト<DP①> ②定期試験<DP①>			① 30% ② 70%

授業科目名	工学演習(放射線)				
主担当教員	稲田 慎		担当教員	稲田 慎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

工学演習では，「電気・電子工学」「医用工学」で学んだ知識を基盤として，診療放射線技師として必要な保健医療福祉における理工学的基礎に関する知識ならびに放射線の科学および技術について理解を深める．特に，電磁気学，電気工学，電子工学および医用工学に関する基礎的な内容について演習と通して理論的な体系づけを行う．さらに知識の整理と統合化を図り診療放射線技師としての物の見方・考え方および表現方法を身につけ，診療放射線技術を実践するための基礎的な能力を高めることを目標とする．

到達目標

1. 原子，原子核の構造について理解し，説明することができる<DP①④>
2. 放射線の基礎について理解し，説明することができる<DP①④>
3. 相対性理論の基礎について理解し，説明することができる<DP①④>
4. 電気工学，電子工学の基礎について理解し，説明することができる<DP①④>
5. 電磁波，X 線の基礎について理解し，説明することができる<DP①④>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回，講義内容に関連した演習問題を配付する．演習問題を用いて復習をしっかりすること．理解が不十分な項目については早めに対応し，理解できるように努力すること．

教科書

指定しない．必要に応じて資料を配付する．

参考書

大塚徳勝，これならわかる物理学，共立出版，2012 年．
福田覚，放射線技師のための物理学，医療科学社，2000 年．

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは原則として木曜日 1 時限とするが，質問等は随時受け付ける．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	光，原子の構造：光量子説，物質波，不確定性原理	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
2	原子核の構造・性質：核力，放射能，半減期，核反応，結合エネルギー，質量欠損，核分裂，核融合	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
3	放射線の性質と作用：放射線の種類，放射線の性質，光電効果，コンプトン効果，電子対創生，放射線の強さ，放射線の量，放射線の応用	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
4	X 線	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
5	相対性理論：特殊相対性理論，マイケルソン・モーリーの実験，ローレンツ収縮，質量とエネルギーの等価性	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
6	静電気とコンデンサー：静電気，クーロンの法則，静電誘導，誘電分極，電場，電位コンデンサー，静電エネルギー	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
7	磁気と電流の磁気作用：磁場，ローレンツ力，サイクロトロン	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
8	電流と直流回路の性質:オームの法則，抵抗率，合成抵抗，内部抵抗，キルヒホッフの法則など	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
9	電流と直流回路の性質:オームの法則，抵抗率，合成抵抗，内部抵抗，キルヒホッフの法則など	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
10	電磁誘導：電磁誘導，自己誘導，相互誘導	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
11	交流：交流発電機の原理，実効値，RCL 共振回路，交流の電力	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	
12	電磁波：電気振動，共振，電磁波，電磁波の応用	復習：講義内容，演習問題の復習（2 時間）	

13	電気エネルギーと半導体：電力，ジュール熱，半導体，ダイオード，トランジスタ，オペアンプ，集積回路，太陽電池	復習：講義内容，演習問題の復習（2時間）	
14	電気エネルギーと半導体：電力，ジュール熱，半導体，ダイオード，トランジスタ，オペアンプ，集積回路，太陽電池	復習：講義内容，演習問題の復習（2時間）	
15	電気エネルギーと半導体：電力，ジュール熱，半導体，ダイオード，トランジスタ，オペアンプ，集積回路，太陽電池	復習：講義内容，演習問題の復習（2時間）	
成績評価方法と基準			割合
１．　定期試験<DP①④>			１．　100%

授業科目名	情報処理工学(放射線)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎分野	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本講義では、 デジタル信号の表現と論理演算、論理回路、コンピュータの基本構成とコンピュータの動作原理、オペレーティングシステム、プログラム開発とプログラミング言語、ユーザインタフェース、データ処理アルゴリズム、データベース、データ通信とネットワーク、コンピュータによる計測・制御の考え方と方法、コンピュータが構成要素となっている医療・治療機器事例や計測システム、医療情報システム事例、医療現場でのセキュリティ対策など情報技術の基礎を学ぶ。

到達目標

医療従事者として知っておいてもらいたいコンピュータの基本技術や情報処理の基礎的考え方を理解する。<DP①>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

情報処理工学に関する基本的な知識を身につけ、専門用語に親しんでください。

教科書

寺嶋廣克 ,他著, はじめて学ぶコンピュータ概論　－ ハードウェア・ソフトウェアの基本 － ,コロナ社,2016 年

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階研究室 720/金曜日１０時～１２時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
2	10 進数と 2 進数、ビットとバイト、数の表現	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
3	基数変換、2 進数の演算、負数の表現方法	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
4	論理演算、論理回路	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
5	コンピュータの種類と特徴、コンピュータの構成要素：CPU、記憶装置、入出力装置、インタフェース	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
6	小テスト	予習：教科書・これまでの講義資料の確認 復習：小テスト問題の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
7	情報処理システムの構成：処理形態、利用形態、システム構成、システムの信頼性、データの信頼性	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
8	ソフトウェア：システムソフト、アプリケーション、オープンソース、数の表現：実数の表し方、誤差	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
9	オペレーティングシステム：API、ジョブ管理、タスク管理、主記憶管理、入出力管理、ファイル管理	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
10	ＡＤ変換：生体信号処理・解析、応用ソフトウェア：種類、代表的なソフトウェア	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
11	ユーザインタフェース:進展と構成要素、GUI 部品、画面設計、帳票設計、Web デザイン、ユニバーサルデザイン	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
12	ネットワーク：インターネット、プロトコル、ネットワークの接続形態、接続装置、ＩＰアドレス	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄

13	マルチメディア：文字、画像、情報セキュリティ：概念、定義、脅威と脆弱性、セキュリティ対策	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
14	データベース：関係データベース、設計、正規化、操作、トランザクション処理	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
15	プログラム言語：種類、アルゴリズム、データ構造	予習：教科書の確認　　復習：講義資料の確認 学習所要時間目安：２時間	中沢　一雄
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験<DP①> ②小テスト<DP①>			①80% ②20%

授業科目名	医療統計学(放射線)				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

統計学に関する知識や技術は，文系も含めた，あらゆる領域において必要とされるようになってきており，医療の領域においては必須と言って良い．かつては，多大な労力を必要とした統計学的分析も，現在は，コンピュータ関連技術の発達によって，その労力はかなり軽減されている．しかしながら，データの性質や分析手法に関する知識が不十分なためか，必ずしも正しく処理されていない場合もある．
　データを通して正しく現象を理解するためには，データの性質・特徴を理解し，収集・分析を正しく行うことが重要であるが，データの収集・分析方法は多岐にわたり，研究内容に応じて適切に選択するための知識と技術が必要となる．
　本講義では，医療に関連する様々な現象を，データに基づいて明らかにするために必要な，統計学的知識と技術を身につけることを目標としている．

到達目標

１）データ分析を考慮したデータ収集方法を説明・選択できる．〈DP①④〉
２）データの性質・特徴を的確に捉え，適切な分析手法を説明・選択できる．〈DP①④〉
３）公表されている統計資料を分析し，社会の健康や安全に貢献できる．〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

８回の講義であることと，演習形式を取り入れますので，一度の欠席が理解に大きな影響を与えます．休むことの無いよう，出席して下さい．

教科書

適宜資料を配付する．

参考書

市原清志 著，「バイオサイエンスの統計学 -正しく活用するための実践理論-」，南江堂

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス：医療データの統計処理	日常場面で目にする医療関連領域のデータやその解釈について意識し，どのようにしてそのデータが得られたのか，なぜ，そのような解釈がなされるのかを考える（２時間．以下，文末の括弧内の数は，予習復習の時間を示す）	
2	母集団と標本と無作為抽出	予習）母集団と標本の違いと，無作為抽出の必要性について調べる（3） 復習）予習で調べた内容と，講義内容・配付資料を照らし合わせて，どの程度理解できたか確認する（2）	
3	代表値・散布度・相関	予習）代表値と散布度，および相関について調べる（3） 復習）予習で調べた内容と，講義内容・配付資料を照らし合わせて，どの程度理解できたか確認する（2）	
4	データ収集方法と尺度水準	予習）データ収集方法と尺度水準，また，データ収集方法と尺度水準の対応について調べる（3） 復習）予習で調べた内容と，講義内容・配付資料を照らし合わせて，どの程度理解できたか確認する（2）	
5	データの特徴と統計手法	予習）データの特徴に応じた統計手法を調べる（3） 復習）予習で調べた内容と，講義内容・配付資料を照らし合わせて，どの程度理解できたか確認する（2）	

6	バイアスの取り扱い	予習）バイアス・交絡，またその制御方法について調べる（3） 復習）予習で調べた内容と，講義内容・配付資料を照らし合わせて，どの程度理解できたか確認する（2）	
7	データに適した分析手法を考える	予習）配付のデータに対して，異なる分析手法を用いて分析し，分析結果を解釈してみる（3） 復習）予習で調べた内容と，講義内容・配付資料を照らし合わせて，どの程度理解できたか確認する（2）	
8	国や自治体が公表している統計資料の活用	予習）厚生労働省や地方自治体の web サイトにアクセスして，公表されている統計資料を調べる（3） 復習）予習で調べた内容と，講義内容・配付資料を照らし合わせて，どの程度理解できたか確認する（2）	
成績評価方法と基準			割合
１．定期試験〈DP①④〉 （状況によって，レポートを課す場合があります） ２．小テスト・小レポート〈DP①④〉			１．80% ２．20%

授業科目名	放射化学(放射線)				
主担当教員	垣本　晃宏		担当教員	垣本　晃宏	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

放射化学は、放射線科学・技術の修得に必要な放射線の化学的性質について基礎的な知識を身に付けさせることを目標とする。放射性同位体と核種、放射性壊変の種類と壊変の法則、放射平衡、天然放射性核種の種類と人工放射性核種の製造法、放射性同位元素（RI）の化学的諸性質と分離、RI 標識化合物の合成法について教授し、必要な計算力を高める。診療放射線技術の修得と実践に必要な放射化学に関する知識を身に付け、専門科目である「核医学検査技術学Ⅰ」「核医学検査技術学Ⅱ」「放射線安全管理学」などを理解するために必要となる基礎学力を修得させる。

到達目標

1.　放射線の化学的性質を理解し、有益な作用と有害な作用の二面性を説明できる
2.　現代社会において利用されている放射線や放射性同位体元素を説明できる
3.　国家試験・放射線取扱主任者試験のためのベースとなる知識を習得する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.　初回の授業で講義の詳細、単位認定・評価の方法を説明する
2.　レポート等の提出期限を厳守すること
3.　教科書をベースとし、必要に応じて参考書等で補足する

教科書

『診療放射線技師　スリム・ベーシック　放射化学　（改訂第 2 版）』
編集・福士政広／MEDICAL VIEW
ISBN：978-4-7583-1916-4

参考書

※購入不要
『放射線概論　－第 1 種放射線取扱主任者試験受験用テキスト－　（改訂第 12 版）』
編集・柴田徳思／通商産業研究社
ISBN：978-4-86045-130-1

研究室／オフィスアワー

垣本：　水曜日 13:00～15:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	［ガイダンス］ 講義の詳細、単位認定・評価の方法を説明する	課題：放射能発見の歴史	垣本
2	元素の性質について	予習：教科書 p15～23 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
3	放射能と単位について	予習：教科書 p24～33 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
4	放射性壊変について	予習：教科書 p33～45 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
5	放射性核種について	予習：教科書 p47～66 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
6	ジェネレータについて	課題：放射平衡	垣本
7	放射性核種の製造について(1)	予習：教科書 p67～80 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
8	放射性核種の製造について(2)	予習：教科書 p81～98 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
9	放射性核種の分離について(1)	予習：教科書 p99～110 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
10	放射性核種の分離について(2)	予習：教科書 p111～124 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
11	放射性標識化合物について	予習：教科書 p125～140 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
12	放射性核種の化学的利用について	予習：教科書 p141～162 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
13	放射化学の核医学への応用について(1)	予習：標識化合物、SPECT 検査 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本

14	放射化学の核医学への応用について(2)	予習：PET 検査 復習：キーワード・重要語句の確認	垣本
15	講義全体のまとめおよび確認テスト	予習：これまでの講義についてふり返る	垣本
成績評価方法と基準			割合
1.　課題(1)および課題(2)　<DP1> ※提出期限・作成方法等は授業内で説明する ※評価基準はルーブリックを提示する 2.　授業中に行う小テスト 3.　定期試験　<DP2> ※出題範囲：授業で扱った範囲(小テストに準ずる) 2/3 以上の出席を必要とする			1. 15% 2. 15% 3. 70%

授業科目名	放射線生物学(放射線)				
主担当教員	山本 浩一		担当教員	山本 浩一	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

1. 放射線の被ばくによって分子・細胞・組織・個体に発生する生物的な影響とその発症機序を概説する。
2. なぜ放射線でがん治療が可能なのかについて、基礎的な機序を概説する。
3. 放射線被ばくを受けたとしても、どのようにその障害から回復していくか機序を概説する。

到達目標

1. 放射線が発生する生物学的な影響が発症する機序について理解し、他者に説明できるようになる。
2. 放射線の急性障害・晩発障害・遺伝的影響について理解し、他者に説明できるようになる。
3. 主要臓器に対する放射線の影響（感受性）について理解し、他者に説明できるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

各回講義開始時に小テスト（試験範囲は前回講義内容）を実施しますので、復習を欠かさず行ってください。講義は主に配付資料にて行いますが、教科書を使って予習・復習をしてください。講義に関する説明を行うため、第 1 回目は必ず出席してください。

教科書

人体のメカニズムから学ぶ放射線生物学　松本義久編集　メジカルビュー社

参考書

1. 診療放射線技師国家試験　受験対策本（放射線生物学）
2. 放射線取扱主任者　受験対策本（放射線生物学）

研究室／オフィスアワー

授業開始前・授業開始後
非常勤講師のため、あらかじめアポイントメントを取っていただけると助かります。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	放射線の基礎（α線、β線、γ線、X 線）	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時に Take home message を伝えるので、確認しておく。	
2	被ばくとは（内部・外部被ばく、）	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時に Take home message を伝えるので、確認しておく。	
3	生物学の基礎（細胞の構造と機能）	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時に Take home message を伝えるので、確認しておく。	
4	生物学の基礎（細胞分裂と細胞死）	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時に Take home message を伝えるので、確認しておく。	
5	直接作用・間接作用、ラジカルとは	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時に Take home message を伝えるので、確認しておく。	
6	放射線による細胞死、染色体異常	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時に Take home message を伝えるので、確認しておく。	

7	亜致死損傷・潜在的致死損傷からの回復	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
8	放射線による臓器への影響	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
9	放射線による発がん	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
10	細胞障害からの修復機能	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
11	放射線による影響を左右する因子	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
12	放射線増感剤・放射線防護剤	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
13	放射線によるがん治療	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
14	正常細胞と腫瘍細胞での放射線感受性	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	
15	放射線防護と安全管理の概要 講義のまとめ	予習：シラバスを確認し、学習内容の用語を調べておく。 復習：講義終了時にTake home messageを伝えるので、確認しておく。	

成績評価方法と基準	割合
1.事後学習を評価するため講義開始時に小テスト 2.期末試験	1.15% 2.85%

授業科目名	放射線化学・生物学演習(放射線)				
主担当教員	武本　渚		担当教員	武本　渚、山畑　飛鳥	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

放射化学・生物学演習は、「放射化学」「放射線生物学」で学んだ知識を基盤として、診療放射線技師として必要な“保健医療福祉における理工学的基礎に関する知識並びに放射線の科学及び技術”について理解を深めさせる。特に（1）放射性核種の製造、(2）放射性核種の化学的作用、(3）放射線の人体への影響、(4）放射線の生物学的効果に関する知識について演習を通して理論的な体系づけを行う。さらに知識の整理と統合化を図り診療放射線技師としての物の見方・考え方および表現方法を身に付けさせ、診療放射線技術を実践するための基礎的な能力を高めることを目標とする。

到達目標

1.「放射化学」「放射線生物学」の習得にあたり、必須な基礎的知識を説明できる〈DP①〉
2.「放射化学」「放射線生物学」の習得にあたり、必須な基礎演習問題を解くことができる〈DP④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

当科目は「放射化学」「放射線生物学」の補習的位置づけの科目です。
高等学校教育における化学や生物に苦手意識のある学生、あるいは当科目の演習を通して「放射化学」「放射線生物学」の知識を深めたい学生の受講を想定しています。
「放射化学演習」、「放射線生物学演習」を交互に実施します。
「放射化学」、「放射線生物学」の演習問題解説と理解度確認用の小テストを行います。
?講義内で次回の演習課題を配布しますので、事前に実施し持参してください（初回は授業当日に問題を配布し、演習・解説を行います）。
演習内容・解説をもとに各自復習し、「放射化学」「放射線生物学」の理解・習得が可能なレベルに到達することを目標としてください。

教科書

指定なし。授業時の配布物を持参してください（上記参照）。

参考書

?『診療放射線技師　スリム・ベーシック　放射化学　(改訂第２版)』 編集・福士政広／MEDICAL VIEW ISBN：978-4-7583-1916-4
?人体のメカニズムから学ぶ放射線生物学 松本義久編集 メジカルビュー社 ISBN-13: 978-4758317252
?診療放射線技術 上巻(改訂第14版) 南江堂 小塚隆弘 ISBN:9784524258598
?診療放射線技術 下巻(改訂第14版) 南江堂 小塚隆弘 ISBN:9784524258611
?医用放射線辞典 第５版 共立出版 医用放射線辞典編集委員会 ISBN:9784320061750

研究室／オフィスアワー

担当教員研究室／講義終了後２時間

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【ガイダンス】 講義の進め方、評価方法等に関する説明 【放射線生物学演習１】 ?放射線の基礎（α線,β線,γ線,X線）	予習：放射線生物学演習課題１範囲（左記参照）の参考書通読(30分) 復習：放射線生物学演習課題１に該当する放射線生物学の理解・まとめ(30分)	
2	【放射化学演習１】 ?元素の性質について	予習：放射化学演習課題１の実施(30分) 復習：放射化学演習課題１に該当する放射線化学の理解・まとめ(30分)	
3	【放射線生物学演習２】 ?被ばくとは（内部・外部被ばく） ?生物学の基礎（細胞の構造と機能）	予習：放射線生物学演習課題２の実施(30分) 復習：放射線生物学演習課題２に該当する放射線生物学の理解・まとめ(30分)	
4	【放射化学演習２】 ?放射能と単位について ?放射性壊変について	予習：放射化学演習課題２の実施(30分) 復習：放射化学演習課題２に該当する放射線化学の理解・まとめ(30分)	
5	【放射線生物学演習３】 ?生物学の基礎（細胞分裂と細胞死） ?直接作用・間接作用、ラジカルとは	予習：放射線生物学演習課題３の実施(30分) 復習：放射線生物学演習課題３に該当する放射線生物学の理解・まとめ(30分)	

6	【放射化学演習３】 ?放射性核種について ?ジェネレータについて	予習：放射化学演習課題３の実施(30分) 復習：放射化学演習課題３に該当する放射線化学の理解・まとめ(30分)	
7	【放射線生物学演習４】 ?放射線による細胞死、染色体異常 ?亜致死損傷・潜在的致死損傷からの回復	予習：放射線生物学演習課題４の実施(30分) 復習：放射線生物学演習課題４に該当する放射線生物学の理解・まとめ(30分)	
8	【放射化学演習４】 ?放射性核種の製造について	予習：放射化学演習課題４の実施(30分) 復習：放射化学演習課題４に該当する放射線化学の理解・まとめ(30分)	
9	【放射線生物学演習５】 ?放射線による臓器への影響 ?放射線による発がん	【放射線生物学演習５】 ?放射線による臓器への影響 ?放射線による発がん	
10	【放射化学演習５】 ?放射性核種の分離について	予習：放射化学演習課題５の実施(30分) 復習：放射化学演習課題５に該当する放射線化学の理解・まとめ(30分)	
11	【放射線生物学演習６】 ?細胞障害からの修復機能 ?放射線による影響を左右する因子	予習：放射線生物学演習課題６の実施(30分) 復習：放射線生物学演習課題６に該当する放射線生物学の理解・まとめ(30分)	
12	【放射化学演習６】 ?放射性標識化合物について ?放射性核種の化学的利用について	予習：放射化学演習課題６の実施(30分) 復習：放射化学演習課題６に該当する放射線化学の理解・まとめ(30分)	
13	【放射線生物学演習７】 ?放射線増感剤・放射線防護剤 ?放射線によるがん治療	予習：放射線生物学演習課題７の実施(30分) 復習：放射線生物学演習課題７に該当する放射線生物学の理解・まとめ(30分)	
14	【放射化学演習７】 ?放射化学の核医学への応用について	予習：放射化学演習課題７の実施(30分) 復習：放射化学演習課題７に該当する放射線化学の理解・まとめ(30分)	
15	【放射線生物学演習８】 ?正常細胞と腫瘍細胞での放射線感受性 ?放射線防護と安全管理の概要	予習：放射線生物学演習課題８の実施(30分) 復習：放射線生物学演習課題８に該当する放射線生物学の理解・まとめ(30分)	
成績評価方法と基準			割合
1.小テスト ?各回の演習分野の理解度を確認するため、小テストを講義の終わりに毎回実施〈DP①④〉			1:100%

授業科目名	放射線物理学(放射線)				
主担当教員	岩元　新一郎		担当教員	岩元　新一郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	月曜１限 月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

放射線物理学は、放射線科学・技術を修得するための最も根幹をなす科目である。「物理学」の学修を基盤として、電離放射線の発生原理および電離放射線と物質との相互作用に関する詳細を修得し、診療放射線技術に関連する専門基礎科目・専門科目群の学修に繋げるとともに、診療放射線技師国家試験や第 1 種放射線取扱主任者試験の放射線物理学関連問題に対応できる力を養う。具体的には、①電離放射線の基礎、②原子と原子核、③電離放射線の発生、④電離放射線と物質との相互作用についての基礎的理解を深める。また、超音波および核磁気共鳴現象の基本原理についても概説する。

到達目標

1　ICRU の電離放射線の定義を理解し、電離放射線の種類と特徴を正しく説明できる。＜DP①＞
2　原子物理の基礎的事項を理解し、各種電離放射線の発生原理とエネルギー分布を正しく説明できる。＜DP①＞
3　電離放射線と物質との多様な相互作用の特徴を混乱することなく理解し、種々の電離放射線の物質中における減弱過程とエネルギー伝達過程を正しく説明できる。＜DP①＞
4　診療放射線技師国家試験および第一種放射線取扱主任者試験の放射線物理学に関する問題に対応できる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1　授業は教科書と板書で行い、演習用課題を提示します。演習の遂行状況は次回授業開始時に確認します。
2　授業中は関数電卓（スマートフォン不可）とアイソトープ手帳を必携とします。
3　受講中の教室内でのスマートフォン等の閲覧および使用は一切不可とします。
4　授業の理解度に応じてシラバスの進度や内容を適宜調整します。

教科書

1　『診療放射線基礎テキストシリーズ 放射線物理学』鬼塚昌彦 他著/共立出版 ISBN 978-4-320-06188-0
2　『アイソトープ手帳』日本アイソトープ協会/丸善出版 ISBN 978-4-89073-211-1

参考書

『放射線概論』柴田得思 編/通商産業研究社 ISBN 978-4-86045-099-1

研究室／オフィスアワー

非常勤講師控室/授業の前後のみ対応可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	第１章　放射線の基礎① ICRU に定める電離放射線を定義し、電磁放射線および粒子放射線の概要について学修する。	予習：教科書 pp.1～3 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(30分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。（45分）	
2	第１章　放射線の基礎② 粒子（光子含む）の基本的特徴を整理し、特殊相対論的エネルギーの取扱いを概説する。	予習：教科書 pp.4～8 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(30分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。（45分） ③教科書 p.8 の章末問題を演習ノートに整理する。(20分)	
3	第２章　原子と原子核① ボーアの原子模型を概説し、量子力学的な原子モデルに拡張する。	予習：教科書 pp.9～14 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(30分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解する。(30分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。（45分）	
4	第２章　原子と原子核② 安定な原子核の特徴を調べ、質量とエネルギー	予習：教科書 pp.15～21 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(30分)	

	の同等性から核力の本質について理解を深める。	復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 pp.27-28 の章末問題を演習ノートに整理する。(20 分)	
5	第 3 章　放射線の発生① 原子核の壊変現象を説明し、種々の壊変形式と壊変の Q 値について理解を深める。	予習：教科書 pp.33～44 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(30 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分)	
6	第 3 章　放射線の発生② 壊変の法則から放射能を定義し、続いて放射能の時間的挙動について理解を深める。	予習：教科書 pp.29～33 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(30 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 pp.57-58 の章末問題 3.1～3.4 を演習ノートに整理する。(15 分)	
7	第 3 章　放射線の発生③ X 線の発生原理と発生 X 線のエネルギー分布について詳説する。	予習：教科書 pp.50～57 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(30 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 pp.58～59 の章末問題 3.5～3.7 を演習ノートに整理する。(15 分)	
8	第 4 章　物質との相互作用② 光子の三相互作用の原子断面積とその決定因子および関連事項を詳説する。	予習：教科書 pp.61～87 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分)	
9	第 4 章　物質との相互作用③ 光子束の減弱過程の数学的取扱いについて説明し、光子から二次電子へのエネルギー伝達について学修する。	予習：教科書 pp.61～87 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 p.　59 の章末問題 3.8～3.9 を演習ノートに整理する。(15 分)	
10	第 4 章　物質との相互作用④ 連続スペクトル光子束の減弱曲線を説明し、実効エネルギーの考え方を学修する。	予習：教科書 pp.87～92 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 p.129 の章末問題 4.1～4.3 を演習ノートに整理する。(15 分)	
11	第 4 章　物質との相互作用⑤ 荷電粒子の相互作用の種類を整理し、阻止能と飛程の考え方を理解する。	予習：教科書 pp.92～121 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分)	
12	第 4 章　物質との相互作用⑥ 電子の阻止能と飛程の特徴を詳説する。	予習：教科書 pp.92～121 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分)	
13	第 4 章　物質との相互作用⑦ 重荷電粒子の阻止能と飛程の特徴を詳説する。	予習：教科書 pp.116～125 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 pp.130-131 の章末問題 4.7～4.15 を演習ノートに整理する。(15 分)	
14	第 4 章　物質との相互作用⑧ 中性子と物質との相互作用を分類し、それぞれの特徴を概説する。	予習：教科書 pp.125～129 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 pp.131-132 の章末問題 4.16～4.20 を演習ノートに整理する。(15 分)	
15	第 5 章　超音波 第 6 章　核磁気共鳴	予習：教科書 pp.135-158 を通読し、主要なキーワードをチェックする。(50 分) 復習：①板書ノートと教科書の内容を関連づけてノートに再整理し、理解を深める。(30 分) ②指定した課題演習を演習ノートに整理する。(45 分) ③教科書 pp.144-146、pp.159-160 の章末問題を演習ノートに整理する。(50 分)	

成績評価方法と基準	割合
1.　自己学修（演習課題）の遂行状況　＜DP①＞ ※自己学修用ノートの作成や遂行状況の確認等は授業内で説明します。 2.　定期試験 ＜DP①＞ ※出題範囲：授業で扱った範囲および演習課題の内容	1. 20% 2. 80%

授業科目名	放射線計測学(放射線)				
主担当教員	今井 信也		担当教員	今井 信也	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

放射線計測学は人間の感覚でとらえられない放射線を放射線計測機器を用いて計測する技術を学ぶ学問である。ここでは放射線の性質や物質との相互作用、放射線検出の原理と特徴など基礎的な知識を習得する。さらに、放射線測定に必要な測定機器や測定技術を理解することで、核医学検査技術や放射線治療技術、放射線安全管理学等の関連分野に繋げる。

到達目標

1. 放射線測定に必要な単位や検出器の特徴を説明できる。＜DP①＞
2. 各種放射線の線量およびエネルギーの測定技術を説明できる。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 講義中の私語は慎むこと。
2. 放射線と物質の相互作用を理解しておくこと。
3. 初回授業でシラバスについて説明します。

教科書

放射線計測学 改訂第２版　メジカルビュ-社　福士政広　ISBN：9784758319188

参考書

・診療放射線技術 上巻(改訂第 14 版)　南江堂　小塚隆弘　ISBN：9784524258598

・診療放射線技術 下巻(改訂第 14 版)　南江堂　小塚隆弘　ISBN：9784524258611

・医用放射線辞典 第５版　共立出版　医用放射線辞典編集委員会　ISBN：9784320061750

研究室／オフィスアワー

授業中に指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	放射線計測学の目的と対象	予習：シラバス・教科書（P3 ~17 ）の確認 復習:授業をもとにシラバス・教科書(P3 ~17)の確認	
2	放射線に関する量と単位	予習：シラバス・教科書（P19 ~27 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P19 ~27 ）の確認	
3	放射線と物質の相互作用（光子、電子）	予習：シラバス・教科書（P30 ~52 ）の確認 復習:授業をもとにシラバス・教科書(P30~52)の確認	
4	放射線と物質の相互作用(重荷電粒子、中性子)	予習：シラバス・教科書（P52 ~71 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P52 ~71 ）の確認	
5	吸収線量及びブラッグ・グレイの空洞理論	予習：シラバス・教科書（P72 ~78 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P72 ~78 ）の確認	
6	測定値の処理 確認テスト	予習：シラバス・教科書（P79 ~83 ）の確認 復習:授業をもとにシラバス・教科書(P79 ~83)の確認	
7	放射線の計測装置（電離箱、比例計数管）	予習：シラバス・教科書（P88 ~108 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P88 ~108 ）の確認	
8	放射線の計測装置（GM 計数管）	予習：シラバス・教科書（P109 ~115 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P109 ~115 ）の確認	
9	放射線の計測装置（シンチレーション検出器、半導体検出器）	予習：シラバス・教科書（P117 ~148 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P117 ~148 ）の確認	
10	放射線の計測装置（熱傾向線量計、蛍光ガラス線量計、OSL 線量計）	予習：シラバス・教科書（P149 ~181 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P149 ~181 ）の確認	
11	照射線量及び吸収線量の測定	予習：シラバス・教科書（P192 ~210 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P192 ~210 ）の確認	
12	個人被ばく線量 確認テスト	予習：シラバス・教科書（P210 ~214 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P210 ~214 ）の確認	
13	放射能の測定	予習：シラバス・教科書（P216 ~225 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P216 ~225 ）の確認	
14	放射能エネルギーの測定	予習：シラバス・教科書（P226 ~235 ）の確認 復習：授業をもとにシラバス・教科書（P226 ~235 ）の確認	
15	講義全体のまとめ	これまでの講義について振り返る	

成績評価方法と基準	割合
1. 確認テスト 2. 定期試験 <DP1> ※出題範囲：授業で扱った範囲	1. 20% 2. 80%

授業科目名	放射線物理学･計測学演習(放射線)				
主担当教員	奥村　雅彦		担当教員	奥村　雅彦	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

放射線物理学・計測学演習は、「放射線物理学」「放射線計測学」で学んだ知識を基盤として、2 年次から学ぶ放射線治療に必要な理工学的基礎に関する知識ならびに放射線物理技術について理解を深めさせる。ICRU レポート 60 の線量計測量の理論およびそれに関連する放射線測定技術に関する演習を通じて理論的な体系づけを行う。さらに知識の整理と統合化を図り、診療放射線技師としての物の見方・考え方および表現方法を見に付けさせ、診療放射線技術を実践するための基礎的な能力を高めることを目標とする。

到達目標

1. 線量計測量の概念について説明できる。(DP①)
2. 電離箱線量計の原理、構造について説明できる。(DP①)
3. 水吸収線量に関する空洞理論について説明できる。(DP①)
4. 放射線治療に関する物理学の基礎について説明できる。(DP①④)
5. 放射線治療計測に関わる統計について説明できる。(DP①④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義・演習時は、テキスト、ノート、関数電卓（スマートフォン可)、筆記用具を準備すること。これ以外の荷物はロッカーに入れておく。

教科書

なし。授業は配布プリントと講義で行う。

参考書

放射線治療物理学(国際文献)、診療放射線技師スリム・ベーシック　放射線計測学(Medical View)、外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法 日本医学物理学会編、通商産業研究社

研究室／オフィスアワー

奥村雅彦・研究室/　授業担当日終了後の１時間

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	放射線場の量(ラジメトリクス量)①	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
2	放射線場の量(ラジメトリクス量)②	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
3	相互作用の係数	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
4	線量測定量(ドジメトリック量)①	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
5	線量測定量(ドジメトリック量)②	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
6	放射能に関する物理量①	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
7	放射能に関する物理量②	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
8	電離箱線量計の原理	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
9	水吸収線量の計測理論Ⅰ（標準校正）	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
10	水吸収線量の計測理論Ⅰ（空洞理論）	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
11	水吸収線量の計測理論 II（計測理論）	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
12	水吸収線量の計測理論 II（各補正係数）	予習：放射線物理学、計測学で用いる教科書の該当部分を予習する。 復習：授業内容、配布資料の整理。	奥村
13	放射線治療計画のための物理学	予習：事前に配布するプリントを予習する。 復習：授業内容、演習問題をまとめる。	奥村
14	放射線治療計測の統計学Ⅰ	予習：事前に配布するプリントを予習する。 復習：授業内容、演習問題をまとめる。	奥村
15	放射線治療計測の統計学 II	予習：事前に配布するプリントを予習する。 復習：授業内容、演習問題をまとめる。	奥村

成績評価方法と基準	割合
1. 演習問題の提出 (DP①④) 2. 課題レポートの提出 (DP①④)	1. 50% 2. 50%

授業科目名	放射線科学(放射線)				
主担当教員	小縣　裕二		担当教員	小縣　裕二	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

放射線科学は、これから大学で診療放射線技術学に関する専門知識を学修するにあたり、診療放射線技師の役割と義務について教授する。診療放射線技術の修得に必要な放射線の科学・取扱技術及び放射線機器の原理・構造を学ぶために必要となる理工学の基礎的知識を概説する。

到達目標

１．　放射線を理解し、説明できる。＜DP①＞
２．　診療放射線技師になるために必要な学習内容の概要を理解している。＜DP①＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．　初回授業で実施の詳細を説明します。

教科書

放射線について考えよう。　ISBN: 9784991034800　多田将　明幸堂
医用放射線辞典　第５版　　ISBN: 9784320061750　医用放射線辞典編集委員会　共立出版

参考書

診療放射線技術　上巻改訂第14版　ISBN: 9784524258598　小塚隆弘・稲邑清也・監　南江堂
診療放射線技術　下巻改訂第14版　ISBN: 9784524258611　小塚隆弘・稲邑清也・監　南江堂

研究室／オフィスアワー

小縣　裕二　研究室／　月曜日　9:00～12:00　16:30～17:30

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	放射線を勉強するために	予習：シラバスの確認(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二
2	放射線とは	予習：学修内容について調べておく。(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二
3	放射線物理・化学・生物①	予習：学修内容について調べておく。(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二
4	放射線物理・化学・生物②	予習：学修内容について調べておく。(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二
5	診療放射線学とは	予習：学修内容について調べておく。(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二
6	診療放射線技術学とは	予習：学修内容について調べておく。(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二
7	診療放射線技師を知る	予習：学修内容について調べておく。(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二
8	診療放射線技師になるためには	予習：学修内容について調べておく。(2h) 復習：・ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2h)	小縣　裕二

成績評価方法と基準	割合
１．　授業内容を期日までにレポートにまとめ提出する。＜DP①＞ ２．　定期試験＜DP①＞	１．40% ２．60%

授業科目名	放射線医学概論(放射線)				
主担当教員	小水　満		担当教員	小水　満	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

・医療／医学とは何かについて、その発祥と発展の歴史的事象を学ぶ。
・医療／医学における放射線技術学／技術の発展の経緯を文献的に歴史年表から学ぶ。
・放射線技術学／技術と、それを医療で駆使する診療放射線技師の現状と将来、そして医療倫理・職業倫理について考える。

到達目標

医療／医学のなかで、放射線技術学／技術とは何か、診療放射線技師はどんな仕事をする職業なのかを歴史的な事項を含めて学び、あわせて医療倫理・職業倫理の概略などの基礎を学ぶ。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

放射線専門科目を学ぶ前に知っておくべき放射線技術学／技術を解説する。

教科書

医療放射線技術学概論講義　放射線医療を学ぶ道標　日本放射線技師会出版　2009年 ISBN978-4-86157-031-5

参考書

系統看護学講座　別巻「医学概論」医学書院　2019年第８版 ISBN978-4-260-35508-7

研究室／オフィスアワー

講義前後の兼任講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	放射線医学概論講義の概要説明 医療放射線技術学概論として、診療放射線技術学と診療放射線技師について学ぶ	予習：教科書の第１講を予め読む 復習：「診療放射線技師の道を選んだ」自分自身についてまとめる	
2	診療放射線技師が扱う診療放射線装置と機器の概要を学ぶ	予習：教科書第２講を予め読む 復習：「アナログとデジタルの違い」をまとめる	
3	診療放射線技師が扱う診療放射線装置と機器の概要を学ぶ	予習：教科書の第２講を予め読む 復習：胸部Ｘ線撮影で「大きく息を吸って止めて」を行う意義をまとめる。	
4	「医学」に「技術」を架橋した人々について学ぶ	予習：教科書の第３講を予め読む 「レントゲンのＸ線の発見」をまとめる	
5	「医学」に「技術」を架橋した人々について学ぶ	予習：教科書の第３講を予め読む。 復習：ハンスフィールドを支援した「技術」をまとめる	
6	診療放射線技師の歴史的背景と現状を学ぶ	予習：教科書の第４講を予め読む 復習：「診療放射線技師」とはどのような職業であるかをまとめる	
7	診療放射線技師の歴史的背景と現状を学ぶ	予習：教科書の第４講を予め読む 復習：「医師と技師との分業と連携」をまとめる	
8	放射線障害と防護と管理の概要を学ぶ	予習：教科書の第５講を予め読む 復習：「放射線防護の必要性」をまとめる	
9	放射線障害と防護と管理の概要を学ぶ	予習：教科書の第５講を予め読む 復習：「放射線管理性」をまとめる	

10	医療倫理について学ぶ	予習：教科書の第 6 講を予め読む 復習：「医療倫理」についてまとめる	
11	医療倫理について学ぶ	予習：教科書の第 6 講を予め読む 復習：事例について感じることをまとめる	
12	技術と科学・医療と医学を学ぶ	予習：教科書の第 7 講を予め読む。 復習：「技術の概念」をまとめる	
13	技術と科学・医療と医学を学ぶ	予習：教科書の第 7 講を予め読む 復習：「技術と科学」についてまとめる	
14	技術と科学・医療と医学を学ぶ	予習：教科書の第 7 講を予め読む 復習：「医療と医学」についてまとめる	
15	診療放射線技師に必要なこととは	予習：これまでの講義全般を考える	
成績評価方法と基準			割合
期末試験 DP①②			100%

鍼灸学科　鍼灸コース・スポーツ特修コース

（2014 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	鍼灸総合演習Ⅰ(鍼灸)（Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar Ⅰ）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、辻　涼太、堀川　奈央、森　優也	
科目ナンバリング	SS507	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限 水曜１限 水曜２限 木曜１限
授業形態	講義	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

卒業年次を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、鍼灸臨床を行う上で頻度の高い項目について、「解剖学」「生理学」「東洋医学概論」「経絡経穴学」「臨床医学総論」を関連付けて学習する。

到達目標

3年次までの学習で鍼灸臨床を行う上で重要な知識を再認識したと考える。4年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①開講される全ての科目において3分の2以上の出席を求める。
②自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。
③授業中の許可ない入退室および睡眠は認めない。

教科書

特に指定しない。

参考書

東洋療法学校協会編
「解剖学」「生理学」「東洋医学概論」「経絡経穴学」「臨床医学総論」

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に従うこと。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	気血津液弁証 臓腑弁証	予習：気血津液のさまざまな病的状態を確認する。各臓腑の特徴を確認する。 復習：各弁証の特徴的な症状を覚える。臓腑の失調で出現する特徴的な症状を覚える。	
2	経脈病証 六経弁証	予習：経脈病証について、教科書で予習する。六経弁証について、教科書で予習しておく。 復習：経脈の流注上の症状を確実に覚えてから、その他の症状を覚えていく。授業で習った六経ごとの症状を、確実に覚える。	
3	奇経八脈病証 黄帝内経中の疾病	予習：奇経八脈の流注や八総穴を覚える。内経中に出てくる様々な疾病名は難しい名称が多いため、教科書で予習しておく。 復習：奇経八脈の病証を理解し、覚える。各疾病を理解して覚える。	
4	脈診、腹診、舌診	予習：脈診、腹診、舌診について確認する。 復習：弁証と絡めて覚える。	
5	難経６９難、難経７５難	予習：難経69難について確認する。 復習：難経69難によって導き出される経穴を覚える。	
6	補瀉の手技 古代鍼法	予習：補瀉の手技を確認する。古代九鍼と古代刺法を確認する。 復習：補瀉の手技を覚える。古代九鍼を3つの分類ごとに覚え、それらを用いて行う古代刺法を覚える。	
7	解剖学の基礎 骨学、筋学（体幹）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
8	骨学、筋学（上肢、下肢）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
9	脈管（心臓）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
10	脈管（動脈、静脈）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
11	内臓（消化管、呼吸器）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
12	内臓（腎臓、生殖器）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
13	神経系（中枢神経）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
14	神経系（自律神経）	毎回、前回の学習分について小テストを行います。復習を怠らないようにしてください。	
15	血液・心臓	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
16	血圧、呼吸器の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
17	消化器の機能、代謝	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
18	体温、腎機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
19	内分泌、生殖器の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
20	神経の機能（神経、シナプス、末梢神経） 中枢の機能	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
21	筋の作用機序、反射	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
22	感覚器の機能 生体の防御系	国家試験過去問題の出題傾向を分析してくること 出題率の高い項目は、反復して学習すること	
23	骨度法	経穴を取るための骨度について予習してください。	
24	経絡の流注	経絡の接続や流れを確認する。	
25	総経穴の学習	経穴の書き取りテストを実施する。要予習。	
26	胸部・腹部の経穴の確認	主に横並びについての学習を行う。小テストなども行うので要復習のこと。	
27	経穴に関する解剖学	経穴に関係した局所解剖についての講義。要復習。	
28	要穴の学習	要穴について、小テストも複数回行う。要復習。	
29	奇経八脈の学習	小テストなども行う。要復習。	
30	国家試験過去問題の学習	過去問題で誤った問題についてノートに解説を作成し、1週間以内に提出すること。	

成績評価方法と基準	割合
１５週で構成される科目が４種類ある。全体で３分の２以上の出席が必要である。 学期末評価として５科目によって構成される１００問の試験を実施する。６０点以上で合格とする。	期末評価 100%

授業科目名	鍼灸総合演習Ⅱ(鍼灸)（Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar Ⅱ）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、高橋　秀郎、安部　辰夫、森　優也、山本　哲也	
科目ナンバリング	SS508	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	月曜１限 火曜１限 木曜１限 木曜２限 金曜２限
授業形態	講義	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

卒業年次を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、現代医学を遂行する上で必要な一般臨床医学に繋がる知識について、「医療概論」「公衆衛生学」「関係法規」「解剖学」「生理学」「病理学」「臨床医学総論」「臨床医学各論」「リハビリテーション医学」を関連付けて学習する。

到達目標

3年次までの学習で医学知識および技術を遂行する上で重要な知識を再認識したと考える。4年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①開講される全ての科目において３分の２以上の出席を求める。
②自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。
③授業中の許可ない入退室および睡眠は認めない。

教科書

特に指定しない。

参考書

東洋療法学校協会編
「医療概論」「公衆衛生学」「関係法規」「解剖学」「生理学」「病理学」「臨床医学総論」「臨床医学各論」

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に従うこと。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	社会保障制度、医療制度について理解する。医療倫理について理解する。 医療関係法規について理解する。	予習：我が国の社会保障制度について調べる。 我が国の法制度について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
2	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律を深く理解する。	予習：関係法規を確認しておく。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
3	公衆衛生活動の概要を理解する。 ライフスタイル、食品衛生や運動と健康との関係を理解する。	予習：予防医学について調べる。食中毒の種類、原因、症状を調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
4	環境と健康① 生活環境と健康との関係を理解する。	予習：病理学の病因分類を確認しておく。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
5	環境と健康② 公害、環境問題について理解する。	予習：環境問題について情報を収集する。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
6	産業保健を理解する。 精神保健、精神障害を理解する。	予習：労働衛生、精神保健について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
7	母子保健について理解する。 成人保健および高齢者保健につい理解する。	予習：母子保健統計、生活習慣病について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
8	感染症とその対策について理解する。	予習：感染症法について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
9	消毒法消毒法の種類と内容について理解する。 疫学と保健統計について理解する。	予習：消毒薬、分析疫学について調べる。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
10	診察学・疾患各論 ①診察の方法、神経疾患	予習：シラバスを確認する。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
11	診察学・疾患各論 ②生命徴候の診察、整形外科疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
12	診察学・疾患各論 ③局所の診察、循環器・呼吸器疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
13	診察学・疾患各論 ④全身の診察、内分泌疾患、肝胆膵疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
14	診察学・疾患各論 ⑤神経系の診察、血液・造血器疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
15	診察学・疾患各論 ⑥神経系の診察、膠原病、代謝・栄養疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
16	診察学・疾患各論 ⑦運動機能検査、感染症	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
17	診察学・疾患各論 ⑧臨床検査法、消化管疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
18	診察学・疾患各論 ⑨その他の診察、主な症状の診察法、泌尿器疾患、一般外科	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
19	診察学・疾患各論 ⑩主な症状の診察法、麻酔科・耳鼻科疾患・眼科疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
20	診察学・疾患各論 ⑪主な症状の診察法、その他の疾患	予習：配布課題の解答解説をする。 復習：配布資料を活用した知識の定着を図る。	
21	感覚器系（視覚）	解剖学全範囲の４択問題を実施します。誤った部分の解説を作成しなさい。	
22	感覚器系（聴覚）	解剖学全範囲の４択問題を実施します。誤った部分の解説を作成しなさい。	
23	解剖学総合学習	解剖学全範囲の４択問題を実施します。誤った部分の解説を作成しなさい。	
24	疾病についての基本的考え方、病因	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認	
25	循環障害	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認	
26	退行性病変	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認	
27	進行性病変	予習：特になし 復習：授業をもとに・教科書の確認	
28	植物生理学復習	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	
29	動物生理学復習	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	
30	生理学総合演習	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	

成績評価方法と基準	割合
開講される全ての科目（分類はオリエンテーションで指定）を総合して３分の２以上の出席を必要とする。 後期に実施される６回の単位認定試験（１６０問）のうち、当該科目にあたる問題数のうち、以下の条件を必要とする。 ①６回の試験の平均で６割以上 ②１～４の試験で５割以上で、かつ５，６回試験の平均で６割以上 ①あるいは②の条件を満たしたものを合格とする。	100%

授業科目名	鍼灸総合演習Ⅲ(鍼灸)（Acupuncture/Moxibustion Comprehensive Seminar Ⅲ）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、松熊　秀明、辻　涼太、 高橋　秀郎、堀川　奈央	
科目ナンバリング	SS509	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	月曜１限 月曜２限 火曜１限 水曜２限 金曜１限
授業形態	講義	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

卒業年次を迎えて、これまで学習した事項を整理し、改めて学習することで認識が深まることを目的とする。ここでは、鍼灸臨床を行う上で頻度の高い項目について、「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学」「はり理論・きゅう理論」を関連付けて学習する。

到達目標

３年次までの学習で鍼灸臨床を行う上で重要な知識を再認識したと考える。４年次に改めて学習することで、知識を完成させて卒業後の臨床で活用できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①開講される全ての科目において３分の２以上の出席を求める。
②自主的かつ計画的に自宅学習を行うこと。
③e-ラーニングを活用すること。
④授業中の許可ない入退室および睡眠は認めない。

【尾河由清】
東洋医学に少しでも不安があれば、しっかり取り組むこと

教科書

新版経絡経穴概論、東洋療法学校協会編、医道の日本
新版東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本
東洋医学臨床論 はりきゅう編、東洋療法学校協会編、医道の日本

参考書

東洋療法学校協会編
「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学」「はりきゅう理論」
東洋学術出版社
「鍼灸学（臨床編）」

研究室／オフィスアワー

各教員の指示に従うこと。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	気血津液や蔵象の復習（東洋医学概論）	予習：東洋医学概論の振り返り 復習：授業でのキーワードを振り返り、まとめること	辻
2	八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証の解説（東洋医学概論）	予習：蔵象の振り返り 復習：配布する症例問題から弁証を立てられるように日頃より取り組んでください	辻
3	東洋医学症例　過去問題での対策（東洋医学臨床論　東洋）	臓腑のキーワードを振り返りながら、練習問題のキーワードを確認する。	辻
4	東洋医学症例、過去問題の解答（東洋医学臨床論　東洋）	練習問題を確認する。	辻
5	東洋臨床論問題作成と解説作成（東洋医学臨床論　東洋）	出来る限り東洋的キーワードを押さえながら、症例を考えてきてください。	辻
6	リハビリテーション医学総論	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
7	障害の評価	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
8	関節運動、正常歩行	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
9	脳卒中、脊髄損傷のリハビリテーション	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
10	末梢神経障害と装具、閉塞性肺疾患、慢性関節リウマチとリハビリテーション	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
11	パーキンソン病、切断、膝関節疾患、腰痛疾患のリハビリテーション	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
12	東洋医学臨床論（現代） 頸肩部上肢の疾患と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
13	東洋医学臨床論（現代） 腰下肢の疾患と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
14	東洋医学臨床論（現代） 上肢のスポーツ障害と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
15	東洋医学臨床論（現代） 下肢のスポーツ障害と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
16	東洋医学臨床論（現代） 顔面神経麻痺、三叉神経痛、後頭神経痛と鍼灸治療	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
17	東洋医学臨床論（現代） 内科　神経内科	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
18	東洋医学臨床論（現代） 外科・麻酔科	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
19	東洋医学臨床論（現代） 心療内科・歯科・眼科・その他	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	鍋田
20	五要穴確認	予習：要穴を振り返ってください 復習：要穴表をマスターするまで反復してください	辻
21	背部兪穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
22	腹部・胸部の経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
23	頭部の経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
24	上腕部・大腿部の経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
25	4択問題を通して、全経絡・全経穴の確認	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	辻
26	鍼灸の基礎知識	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
27	リスク管理	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
28	鍼灸治効の基礎	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
29	鍼灸療法の一般治効理論	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊
30	関連学説	予習：特になし 復習：課題ノートの提出	松熊

成績評価方法と基準	割合
開講される全ての科目（分類はオリエンテーションで指定）を総合して３分の２以上の出席を必要とする。 後期に実施される６回の単位認定試験（１６０問）のうち、当該科目にあたる問題数のうち、以下の条件を必要とする。 ①６回の試験の平均で６割以上 ②１～４の試験で５割以上で、かつ５，６回試験の平均で６割以上 ①あるいは②の条件を満たしたものを合格とする。	100%

授業科目名	附属施術所応用実習(鍼灸 B) (Practical Training at the Affiliated Clinic)				
主担当教員	辻　涼太		担当教員	辻　涼太、尾崎　朋文、増山　祥子、辻丸　泰永、堀川　奈央、大川　祐世、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS403	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限 金曜 4 限)、後期(月曜 3 限 月曜 4 限)
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1．教員の指導下で、施術活動に補助として参加する。
2．問診や診察により病態を推察し、治療計画や評価について教員と意見交換をする。
3．観察あるいは施術補助した症例や疾患について、文献検索などを用いて調べ、power point 等を用いてカンファレンスで発表し討論する。

到達目標

1．基本的な患者応対、問診、診察補助、鍼灸適否判断、施術補助、記録ができる。
2．患者の苦痛を理解し、医療従事者としてのモラルと使命感を身に付ける。
3．観察した症例を正確に記し、病態や治療効果を客観的に分析してプレゼンできる。
4．現代医学、東洋医学の両面で患者の病態を把握できる力を身につける。
5．模擬患者を対象として実際に治療ができる技術を身に付ける。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．実習マニュアルにもとづき、身だしなみや態度などに細心の注意を払うこと。
2．遅刻は、臨床業務に支障を来たす行為であり、臨床実習における心構えの観点からも認めない。
3．指定された時間に附属鍼灸施術所に集合し、出席確認・身だしなみチェック・必要備品のチェック・注意事項などを行った上で実習を開始する。
4．施術準備を手伝う。
5．少数人数に分かれ教員のブースで見学や施術補助を行う。
6．片付けを手伝う。
7．疑問点や学んだことをメモして、臨床実習終了後に調べてまとめ、グループや担当教員と意見交換を行う。

教科書

各授業時に配付された資料に基づく

参考書

1．工藤慎太郎編著＜運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学、医学書院＞
2．工藤慎太郎編著＜運動療法の「なぜ？」がわかる超音波剖学、医学書院＞

研究室／オフィスアワー

報告書の提出時に、書く指導教員の指定する日時・場所にて実施する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1．施術所における実習 　1）小グループによるローテーションとする。 　2）指導教員の下で、患者案内、問診、診察、施術補助などを行う。 　3）模擬カルテに記録し、不明な点を調べて加筆した後、 実習簿にあるカンファレンス用紙に記載する。模擬カルテの書き方は SOAP 方式に沿って記載する。実習簿にあるカンファレンス用紙は、意見交換した施術担当教員の印をもらう。 2．臨床カンファレンス（隔回で実施する） 　1）観察・施術補助した症例、あるいは与えられた課題疾患について調べる。 　2）プレゼン資料を作成する。(最低 1 文献以上は論文検索を行うこと) 　3）資料（配布または power point 等）に基づき症例の発表をする。 　4）討論して意見交換を行う。 3．医療面接トレーニング（時間的に余裕がある場合に実施する） 　1）小グループで協力患者または模擬患者を相手に医療面接を行う。 　2）学生全体で問題点を指摘し合う。 　3）教員から改善点の指導を受ける。 4．診察トレーニング（隔回で実施する） 　1）徒手検査、東洋医学検査を模擬患者相手に実施し、修練する。 　2）全ての学生が検査と診察をスムーズに出来るように実施する。 　3）模擬患者を相手に診察から施術までのロールプレイ式トレーニングを行う。 　4）初回に限り、文献検索の方法も合わせて指導する。	予習：経絡経穴学、現代医学系鍼灸実習、東洋医学系鍼灸実習、附属施術所基礎実習で学んだ内容を実習に入る前に確認すること。 復習：附属施術所で見学した症例について各自で調べ、power point 等にまとめること。	

成績評価方法と基準	割合
①実習態度・身だしなみ・質疑応答・施術補助能力に関するチェックを行う。 ②カンファレンスにおける発表や取り組みを学内ルーブリックに基づき評価する。 ※カンファレンスは全て出席し、症例報告のプレゼン、発言、知識のチェックを行う。 ※割り当てられた全てのローテーションへの出席を必要とする。 上記全ての項目が認められて、初めて成績として評価を行う。 但し、学年末試験が 60 点以上とれていない場合は再試験を受けなければならない。 出席では公欠の場合に補講を実施するが、その他の遅刻・欠席の補講は認めず、成績を不可とする。DP①④	①60% ②40%

授業科目名	附属施術所応用実習(鍼灸 A) (Practical Training at the Affiliated Clinic)				
主担当教員	辻　涼太		担当教員	辻　涼太、尾崎　朋文、増山　祥子、辻丸　泰永、堀川　奈央、大川　祐世、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS403	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 3 限 月曜 4 限)、後期(金曜 3 限 金曜 4 限)
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

附属施術所における見学実習に必要な診察上の基礎知識や、医療従事者としての常識を身につける。ロールプレイを通じて、診療の流れを理解する。自身が患者になることによって、患者の立場を理解する。積極的にディスカッションに参加する。

また、スポーツ現場において、安全かつ計画的に鍼灸師が治療を行うのに必要な検査・病態把握・対処法について学ぶ。スポーツ障害の基本を理解するとともに、傷害の予防法・治療法をテーピング、目的別のストレッチ法などを用いて、アスリートのコンディション、パフォーマンス向上についての知識・技術の習得およびスポーツ外傷の応置を習得する。

到達目標

①医療者として自覚と責任ある行動ができるようになる。
②患者の立場を理解する。
③診療の流れを身に着ける。
④ディスカッションに自らの意見を持って積極的に参加する。
⑤スポーツ鍼灸に必要なテーピング・ストレッチの知識を習得し説明できる。
⑥スポーツ外傷の処置の知識を習得し説明できる。
⑦スポーツに必要な関連領域の事項について理解し説明できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

常にそばに患者がいると想定しながら、現場を意識して授業に臨む。
実習室を使用する際には白衣の着用を義務付け,態度不良な場合は、減点の対象とする。

教科書

各授業時に配付された資料に基づく

参考書

1．工藤慎太郎編著＜運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学、医学書院＞
2．工藤慎太郎編著＜運動療法の「なぜ？」がわかる超音波剖学、医学書院＞

研究室／オフィスアワー

報告書の提出時に、各指導教員の指定する日時・場所にて実施する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1．施術所における実習 1）小グループによるローテーションを行う。 2）指導教員下で、患者案内、問診、診断、施術補助を行う。 3）模擬カルテに記載し、不明な点を調べて加筆した後、実習簿のあるカンファレンス用紙に記載する。模擬カルテの書き方は SOAP 方式に沿って記載する。実習簿にあるカンファレンス用紙は、意見交換した担当教員に印をもらう。 2、臨床カンファレンス（隔回の実施） 1）観察。施術補助した症例、あるいは与えられた課題疾患について調べる。	予習：経絡経穴学、現代医学系鍼灸実習、スポーツ医学等について付属施術所基礎実習で学んだ内容を実習前に確認する。 復習：附属施術所で見学した症例について各自で調べ、power point 等にまとめる。	
	2）プレゼン資料を作成する。(1 文献以上の論文検索を行う) 3）資料（配布または Power Point 等）に基づき症例を発表する。 4）討論して意見交換を行う。 3、医療面接トレーニング（時間的に余裕のある場合に実施） 1）小グループで協力患者または模擬患者相手に実施する。 2）学生全体で問題点を指摘し合う。 3）教員から改善点の指導を受ける。 4、徒手検査、テーピング、ストレッチトレーニング（隔回の実施） 1）スポーツ障害等の症例に対する検査を、診察をスムーズに行うように実施する。 2）模擬患者を相手に診察から、対処法（テーピング、ストレッチ等）をロールプレイ式でトレーニングを行う。 3）文献検索の方法も合わせて指導する。		

成績評価方法と基準	割合
①実習態度・身だしなみ・質疑応答・施術補助能力に関するチェックを行う。 ②カンファレンスにおける発表や取り組みを学内ルーブリックに基づき評価する。 ※カンファレンスは全て出席し、症例報告のプレゼン、発言、知識のチェックを行う。 ※割り当てられた全てのローテーションへの出席を必要とする。 上記全ての項目が認められて、初めて成績として評価を行う。 但し、学年末試験が 60 点以上とれていない場合は再試験を受けなければならない。 出席では公欠の場合に補講を実施するが、その他の遅刻・欠席の補講は認めず、成績を不可とする。DP①④	①60% ②40%

授業科目名	関係法規･経営論(鍼灸)（Related Laws and Regulations / Management）				
主担当教員	安田　実		担当教員	安田　実	
科目ナンバリング	SS216	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

医療従事者として、また開業することが可能な医療資格保持者として私たちを取り巻く社会の「法律」の重要性は極めて高い。国家試験出題基準に「関係法規」が課せられている所以でもある。
　法の基礎から医療に従事する上で必須の法規に至るまで、実務に即して解説し、知識が身につくよう実践的な視点で授業を構成する。また開業の実践に基礎としての「経営論」の視点も授業の中に織り込む。すなわち、開業可能な鍼灸師は、保健医療分野における学問的な知識や施術者としての技術のみならず、幅広い経営的知識、法律的知識の理解と活用など、いわゆるビジネスセンスも要求される。
　さらに、医療を含め広く健康サービスに関わる業種は、一般企業と比較して法律や行政や動向についてより直接的に影響を大きく受けることもあり、企業とは異なるアプローチを強く要請されている。本講義では、現在の医療を取り巻く法律の基礎的な考え方は当然として、その知識について実例を通して、物事の本質的理解を基本の考え方として学ぶ。一方、基準となる法律の解釈は、意思決定や問題解決の手法について基本的な知識の取得と情報の入手や選別の判断について多くの事例とともに理解し、取得することを授業の主題においている。
　なお、授業展開及び授業計画については、単元ごとの有機的相関関係と理解深度により、また講義全体の理解を容易にするため順序の変更や学修内容を変更する場合がある。

到達目標

１.
学習者は、第一次的目標として、法律の基礎的考え方、医療従事者としての高い倫理性を兼ね備えた法規の理解、その概念と重要性、また将来の事業創出の概略について知識を持ち、理解する。
２.
学習者の個別到達目標としては、法律の基礎知識や考え方を取得することで、地方公共団体や、行政と社会のあり方、その仕組みの概括的知理解の取得と問題解決の方法の一部を理解することができる。具体的には、・社会と法についての関係について見解を述べることができる。・
３.
鍼灸師の活動全般において、医療機関や、介護福祉組織等のサービスの提供する側の発想と論理について理解を深めることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１.
教科書および参考のために教員の作成した講義資料を読み、自分自身でさらに考えを深め、コメントを付け加えることができるような批評的視点を持つこと。
２.
出された課題は必ず提出すること。
３.
新聞雑誌等で報道される社会のあらゆる法律的な判断や解釈、経済・社会活動について、立場や役割を代えて視点を持つ、また思考する訓練を実践してみること。

教科書

公益社団法人東洋療法学校協会編、前田和彦著「関係法規第 7 版」（医歯薬出版株式会社）

（および「鍼灸院経営入門（サブテキスト）」2020 年版　これは講義担当者が、該当部分を配布します）

参考書

・吉田利宏『法律を読む技術・学ぶ技術』ダイヤモンド社 2016 年
・副田ら『ライフステージと法　第 7 版』有斐閣 2017 年
・今井むつみ『学びとは何か』岩波新書 2016 年
・川井龍介『社会を生きるための教科書』岩波ジュニア新書 2010 年
・木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』星海社新書 2012 年
・ソロモン『消費者行動論』丸善出版 2015 年
・マイケル・E・ポーター『医療戦略の本質』日経 BP 社 2009 年
・水越康介・藤田健『新しい公共・非営利のマーケティング』中央経済社 2013 年
・C・グルンルース『北欧型サービス志向のマネジメント』ミネルヴァ書房 2013 年
・F・コトラー他『コトラーのプロフェッショナル・サービス・マーケティング』ピアソン 2002 年

研究室／オフィスアワー

南棟 7 階　毎週木曜日 4 限 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	法と社会、法の体系、法哲学、法律の基礎	予習：既存知識で知っている法律についてどのようなものがあるのかを調査リストアップする 復習：サブテキストの課題提出	安田
2	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の法制定の目的と免許	予習：法律で定められているには医療資格どのようなものがあるのかを調査リストアップする 復習：サブテキストの課題提出	安田
3	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の業務	予習：はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師について事前に調べておく 復習：サブテキストの課題提出	安田
4	医業類似行為とは何か	予習：医業類似行為とはどのような定義がなされているのかについて事前に調べておく 復習：サブテキストの課題提出	安田
5	学校・養成施設､国家試験実施機関、審議会	予習：関西にある鍼灸師養成の学校について調査リストアップする 復習：サブテキストの課題提出	安田
6	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の罰則	予習：新聞記事の中で法律と罰則の関係について調べておく。 復習：サブテキストの課題提出	安田
7	医療関係法規、医療制度、医療法と医師法、医療従事者の法律、薬事法	予習：医師法、その他医療従事者に関する法律としては何があるのか事前に調べておく 復習：サブテキストの課題提出	安田
8	衛生関係法規、社会福祉関係法規（地域保健法、母体保護法、健康増進法）	予習：保健所の役割、仕事、歴史的経緯について事前に調べておく 復習：サブテキストの課題提出	安田
9	社会保険関係法規、その他の法規（健保・国保の特徴、後期高齢者医療制度	予習：社会福祉関係の仕事について予め調べておく。 復習：サブテキストの課題提出	安田
10	わが国の医療保険制度（医療保険の仕組み、介護保険、生命保険と年金、仕事中のけが、労災）	予習：西欧の保険制度や発展途上国の保険制度についてわが国の制度と比較して事前に調べておく。 復習：サブテキストの課題提出	安田
11	事業活動の基本（会社の仕事・経営、顧客ニーズ、コンプライアンス）	予習：身近な会社の概要を調べる（どんなセクションがあるのか、また、鍼灸関連の会社はどのようなものがあるか等） 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
12	ブランドとブランド作り、サイレントセールスとは？ ビジネスマナー・コミュニケーションとその手法 リーダーシップとチームワーク、人のネットワーク 法人、会社設立とその関連法規について	予習：今までの経験で接客応対でのクレーム事象はあったか、その場合の対処について思ったことをまとめる。 身近な家族、先輩にビジネスマナーの概要を調べる（どんなことが言われているのか、また、アポイントや訪問時の注意等 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
13	企業経営における財務・経理の基本と分析と損益分岐点の演習	予習：ある特定の企業の財務諸表を入手し、不明な語句を抜き出す 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
14	顧客心理とクレーム対応、信頼性の確保、リスクマネジメントとは？ 鍼灸院経営の目標設定、中長期計画、スケジュール化、事業計画案作成	予習：身近な百貨店、ホテル、専門ショップ、コンビニ、ファーストフード等サービス提供を主体とする起業の接客応対の状況を調べる（どんなことが基本となっているのか。また、印象	安田

		はどう違うのか等） 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	
15	ビジネス文書・契約書、税務の基本知識	予習：契約書を読みそれの理解を深めるとともに自ら作成してみる 復習：授業をもとにシラバス、プリント教材の確認	安田
成績評価方法と基準			割合
①講義中間期の理解度試験 ②各講義後の課題または確認問題の提出 ③講義終了時の理解度試験及びレポート試験			①40% ②20% ③40%

授業科目名	マーケティング入門(鍼灸)（Introduction to Marketing）				
主担当教員	安田 実		担当教員	安田 実	
科目ナンバリング	SS217	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

将来開業する可能性のある鍼灸院、また就職する可能性の高い医療法人や行政機関など多くの公益法人は通常の企業と比較して非営利法人としての公益性や役割の重要性をより多く担っている。
　また、医療を含め広くサービスに関わる業種は、マーケティングやマネジメントについても、モノの製造を中心とするメーカーや企業型営利法人とは異なるアプローチを要請されている。本講義では、現在のサービスマーケティングの考え方について実例を通して、批評的視点で学ぶ。さらに、意思決定や問題解決の手法について基本的な知識の取得と情報の入手や選別の判断について多くの事例とともに理解し、取得することを講義の主題においている。

到達目標

１．学修者は、一般的目標として、マーケティングの基礎的考え方、サービスの概念と重要性、企業経営の概略について知識を持ち、理解する。
２．個別到達目標としては、マーケティングの発想法や考え方を取得することで、産業社会の仕組みの概括的知理解と問題解決の方法の一部を理解することができる。
３．消費生産活動において、組織等のサービスの提供する側の発想と論理について理解を深めることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．配布された講義資料を読み、自分自身でさらに考えを深め、コメントを付け加えることができるような批評的視点を持つこと。
２．出された課題は提出すること。
３．社会のあらゆる経済活動について、立場や役割を代えて視点を持つ、また思考する訓練を実践してみること。

教科書

プリント教材「マーケティング入門（サブテキスト）2019 年版」
（毎回講義時に該当部分を配布します）

参考書

・フィリップコトラー他『コトラーのマーケティング 4.0』朝日新聞出版規 2017
・フィリップ・コトラー『コトラーマーケティングの未来と日本』KADOKAWA　2017
・國田圭作『行動デザインの教科書』すばる舎 2016
・ソロモン『消費者行動論』丸善出版 2015
・C・グルンルース『北欧型サービス志向のマネジメント』ミネルヴァ書房 2013
・池尾恭一他『マーケティング』有斐閣 2010
・小川　孔輔『マーケティング入門』日本経済新聞社 2009
・博報堂ブランドコンサルティング『サービスブランディング』ダイヤモンド社 2008
・フィスク他『サービスマーケティング入門』法政大学出版局

研究室／オフィスアワー

研究室３／木曜日 5 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	マーケティングとは何か	予習：シラバスの確認と「サービスの特性の理解」、「サービスマーケティングとその周辺について」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
2	マーケティングとサービス	予習：事前配布プリントの確認と「サービスの種類」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
3	マーケティングマネジメントとは	予習：事前配布プリントの確認と「口コミとサービス」「サービススクリプトの理解」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
4	口コミの本質	予習：事前配布プリントの確認と「連立計算問題」、「損益計算演習」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	

5	損益分岐点の理解と応用	予習：事前配布プリントの確認と「マーケティングの 7Pの理解」、「損益計算演習（2）」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
6	損益分岐点の演習、活用	予習：事前配布プリントの確認と「マーケティングの 7Pの理解」、「損益計算演習（2）」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
7	サービスマーケティングの7P とは	予習：事前配布プリントの確認と「マーケティングマトリクスの理解」、「ディズニーランドの不思議」の事前予習プリントの提出	
8	サービスの要素とその特性について	予習：事前配布プリントの確認と「適職発見」「演繹法と帰納法」、「批判的思考」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
9	マーケティングミックスとは	予習：事前配布プリントの確認と「購入決定のプロセス」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
10	サービス行為のデザイン	予習：事前配布プリントの確認と「医療法人とは何か」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
11	マーケティング戦略とブランドマネジメント	予習：事前配布プリントの確認と「医療法・あはき法とは何か」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
12	鍼灸院・医療機関とマーケティングの活用応用	予習：事前配布プリントの確認と「論文の書き方」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
13	事業運営の法律的基礎知識	予習：事前配布プリントの確認と「論文の書き方」、「医療法と広告制限」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
14	マーケティングと身近な法律、行動経済学	予習：事前配布プリントの確認と「医療経済学と行動経済学」の事前予習プリントの提出 復習：授業をもとにプリント教材の作成提出	
15	顧客満足度を高める、提携関係を結ぶ 今までの学習内容の総括とその理解チェック	予習：事前配布プリントの確認と「法律用語」の事前予習プリントの提出	

成績評価方法と基準	割合
1.各講義後の課題または確認問題の提出 40% 2.講義終了時の理解度確認テスト及びレポート試験 60%	1.40% 2.60%

授業科目名	学外見学実習Ⅱ（鍼灸）（Extramural Observation Training Ⅱ）				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、山下　仁、仲西　宏元、 大月　隆史	
科目ナンバリング	SS405	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（実習）、 後期（実習）
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

学外の鍼灸あるいは現代医療の臨床施設を訪問し、見学を行う。学内では得ることのできない緊張感や体験を通じて職業意識を強く持たせる。また、その内容を詳細に記録し、見学した症例と診断治療について調べてレポートで報告する。
　スポーツ特修コース・教職課程の学生は、特別支援学校実習およびコース長が定める学外施設において実習を行う。
　一般企業での就業を目指す学生で希望する者は、企業におけるインターンシップ実習を行う。
　実習は、30 時間以上を必須とする。

到達目標

臨床現場の雰囲気を鋭く感じ取り、臨機応変な判断と言動ができる。
患者の苦痛を理解し、医療従事者としてのモラルと使命感を身に付ける。
観察した症例を正確に記し、病態や治療効果を冷静に分析して報告できる。
スポーツ特修コース・教職課程の学生、及び一般企業におけるインターンシップを履修する者は、各施設における実習を通じて就業意識を高める。DP①④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

1．疑問点は早期に解決するように積極的に行動すること。
2．態度・姿勢には十分気をつけること。

教科書

特になし

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室９、研究室３
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	授業計画 1．オリエンテーション 1）注意事項。 2）見学施設の選定。 3）見学施設の決定と見学計画立案。 2．学外見学（前期期間中の定められた曜日または夏期休暇を利用して実施する） 1）決定した見学先の訪問と見学。遅刻は欠席と同等に扱う。 2）見聞したこと、指導を受けたことを詳細に記録する。 3．レポート提出 1）見学した症例や治療法について文献を参考にして詳しく調べる。 2）レポートを書く。 教科書 配付資料 参考書 ？ 授業の進め方 ｸﾞﾙｰﾌﾟごとに決められた実習施設へ参加する。 成績評価方法と基準 実習態度と身だしなみ（見学施設からのフィードバック含む）50% レポート 50%	予習：患者への対応、四診法について勉強しておくこと。（10 時間） 復習：各自症例について内容をまとめ病態を理解すること。（20 時間）	

	割り当てられた見学実習先での遅刻なき参加が必要		
成績評価方法と基準			割合
課題レポートの提出することによって単位の認定を行う。(DP1,4) 遅刻、欠席は認められない。			100%

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅲ(小児･婦人科)(鍼灸)（Applied Acupuncture Treatment Ⅲ【Pediatric / Gynecological】）				
主担当教員	増山　祥子		担当教員	増山　祥子、中村　真理	
科目ナンバリング	SS410	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

産婦人科鍼灸学では、婦人科・産科領域の主症状および代表的疾患を取り上げ、現代医学および東洋医学的な両面から症状の発生機序、治療方針、鑑別診断が可能となるように指導すると共に、女性の生理や月経異常、更年期障害、妊娠嘔吐、乳汁分泌不足などの代表的疾患の主症状および疾患に対する鍼灸治療の基本的な技術と知識を教授する。また、小児鍼灸学では、大阪で発達した小児鍼を中心に小児に対する鍼施術の基本と様々な技術を教授する。特に小児に多くみられる疾患についての知識と診察方法を修得することによって、症状が急激に変化しやすい小児に対応できる臨床能力を養う。

到達目標

・1～7 回　臨床効果を数値に表す必要性を理解する。「美容」「増毛」「不眠」「バストアップ」「鍼灸院経営」をテーマに各種弁証を確立し配穴まで理解する。「美容」「増毛」の効果について写真と臨床研究の結果から患者へのプレゼンテーションが実践できる。「美容」を実技にて完成する。「増毛」を局所治療のデモンストレーションにより、理解を深める。「不眠」は弁証を学び、実技をすることにより、臨床能力を高める。（中村真理）
・8～15 回 EBM の観点から小児鍼灸および鍼灸婦人科疾患（月経に伴う愁訴、更年期障害、妊娠悪阻、骨盤位、不妊）に対する情報を得ることができる。本領域に関わる国家試験レベルの理解ができる。（増山祥子）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

東洋医学概論、東洋医学臨床論が基礎知識として必要である。特に気血津液弁証、臓腑弁証について理解する必要がある。実技ではお互いに顔面部や頭部に刺鍼する。授業までに教科書に目を通しておくこと。（中村真理）

教科書

東洋医学概論（医道の日本社）
東洋医学臨床論（医道の日本社）

参考書

鍼灸学「基礎編」　「臨床編」　「経穴編」　（東洋学術出版社）
中医診断学ノート　内山恵子著　（東洋学術出版社）

研究室／オフィスアワー

木曜５限（増山祥子）
授業前後の時間（中村真理）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	美容鍼灸	予習：気血津液の各々の症状について確認 復習：授業をもとにシラバスの確認	中村
2	美容鍼灸（実技・プレゼンテーション）	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村
3	増毛鍼灸	予習：東洋医学臨床論の「脱毛」 復習：前回授業内容の復習	中村
4	増毛鍼灸（鍼灸院経営・実技デモンストレーション）	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村
5	バストアップ・肩こり	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村
6	不眠	予習：東洋医学臨床論の「不眠」 復習：前回授業内容の復習	中村
7	不眠弁証と実技	予習：シラバスの確認 復習：前回授業内容の復習	中村
8	小児領域の鍼灸	予習：鍼灸対応の小児疾患について調べる 復習：授業内容の復習	増山
9	婦人科　月経周期と女性ホルモンについて～月経に伴う愁訴１	予習：女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習	増山
10	婦人科　月経に伴う愁訴２	予習：シラバスの確認 復習：性成熟期における女性ホルモンの働きについての復習	増山
11	婦人科　更年期障害と鍼灸	予習：更年期における女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習	増山
12	婦人科　不妊症と鍼灸	予習：シラバスの確認	増山

		復習：授業内容の復習	
13	婦人科　国家試験対策・実技	予習：シラバスの確認 復習：授業内容の復習	増山
14	婦人科　産科における鍼灸 1～妊娠悪阻、骨盤位妊娠	予習：妊娠期の女性ホルモンの働きについて 復習：授業内容の復習	増山
15	婦人科　産科における鍼灸 2～総論　　妊婦体験、実技	予習：シラバスの確認 復習：授業内容の復習	増山
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験および総合的に評価する（中村真理） ②筆記試験および総合的に評価する（増山祥子） ③出席は 2/3 回以上を必要とし，基準を満たした者について試験を実施する.			①50% ②50%

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅳ(外科･麻酔科･泌尿器科･耳鼻科･眼科)(鍼灸)（Applied Acupuncture Treatment Ⅳ）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	SS411	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

疼痛疾患・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科の主症状および代表疾患を取り上げ、現代医学的および東洋医学的な両面から症状の発現機序と鑑別診断を理解する必要がある。さらに各領域の代表疾患および主症状に対する鍼灸治療の基本的な方法と知識を修得し、自ら鍼灸治療の理論を考究する。

到達目標

応用鍼灸治療学Ⅳは患者の病態と心身状態を把握し、鍼灸医学と西洋医学の特徴を理解し、適切な対応ができる基本的な知識と鍼灸技術と医療人としての態度を身につけることを目標とする、本科目を理解するには関連教科と密接に関連させ、現代医学と鍼灸医学との関連性が理解できる。〈DP①〉
1．外科・麻酔科領域では疼痛疾患とその治療法が説明できる。〈DP①〉
2．耳鼻咽喉科領域では顔面、鼻、耳、口腔の代表疾患と治療法を説明できる。〈DP①〉
3．眼科領域では、眼瞼・結膜、白内障、緑内障、屈折・調節異常などの疾患を理解し、その治療法を説明できる。〈DP①〉
4．皮膚科領域では湿疹・脱毛などの疾患と治療法を説明できる。〈DP①〉
5．各領域の疾患に対し、適切な治療部位（経穴など）に適切な刺鍼・施灸技術を身につける。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布された講義資料にも目を通すこと。
2．出席は重視する。
3．予習・復習は必ず 1 時間行うこと。

教科書

配布テキスト

参考書

配付資料にて実施する。

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室９
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	疼痛性疾患の鍼灸治療法１（外科・麻酔科専門領域の理解）	予習：麻酔科領域での疼痛疾患を考究しておくこと 復習：痛みの鍼治療法の仕方について理解しておくこと	
2	疼痛性疾患の鍼灸治療法２（顔面痛・三叉神経痛の理解）	予習：三叉神経痛について理解しておくこと 復習：鍼治療法の仕方について理解しておくこと	
3	耳鼻咽喉科の鍼灸治療１（鼻の主症候、鼻閉・鼻汁・くしゃみ）	予習：鼻の構造について。 復習：鼻症状と疾患、鍼灸治療について。	
4	耳鼻咽喉科の鍼灸治療２ （耳の構造・機能と眩暈・耳鳴・難聴）	予習：耳の構造について。 復習：耳症状と疾患の関連性ついて。	
5	耳鼻咽喉科の鍼灸治療３（顔面神経麻痺の病態と診察法）	予習：顔面神経の病態生理について。 復習：末梢性顔面神経麻痺の鍼灸治療について。	
6	耳鼻咽喉科の鍼灸治療４（口腔疾患、口内炎・顎関節症の病態と診察法）	予習：口腔の構造、機能について。 復習：口腔疾患の鍼灸治療について。	
7	皮膚疾患１（アトピー性皮膚炎の鍼灸治療）	予習：皮膚の構造機能について。 復習：重要な皮膚疾患の鍼灸治療について。	
8	皮膚疾患２（脱毛症の鍼灸治療）	予習：皮膚の構造機能について。 復習：重要な皮膚疾患の鍼灸治療について。	

9	眼科疾患の鍼灸治療１（眼の構造と機能、病歴聴取のポイン）	予習：眼の機能と構造。 復習：眼の中医学を理解すること。	
10	眼科疾患の鍼灸治療２（眼瞼疾患の概要、屈折・調節異常、眼精疲労）	予習：眼の屈折・調節機能について。 復習：疾患の鍼灸治療法について。	
11	眼科疾患の鍼灸治療３（麦粒腫、眼瞼下垂など）	予習：眼瞼部の構造と疾患について。 復習：各疾患の鍼灸治療法について。	
12	眼科疾患の鍼灸治療４（結膜・角膜疾患の概要、結膜炎、角膜炎）	予習：結膜・角膜の構造と機能について。 復習：結膜疾患の鍼灸治療法について。	
13	眼科疾患の鍼灸治療５（水晶体の疾患、白内障特に老人性白内障）	予習：水晶体の構造について。 復習：白内障の中医学ついて理解すること。	
14	眼科疾患の鍼灸治療６（眼圧と緑内障）	予習：眼圧と網膜について。 復習：緑内障の中学について。	
15	泌尿器科疾患の鍼灸治療	予習：各科の構造と重要疾患について。 復習：基本的構造と疾患の鍼灸治療について。	
成績評価方法と基準			割合
4/5 以上の出席を必要とする。 ①レポート、②口頭試験にて評価する。〈DP①〉			①50% ②50%

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅵ（リハビリ・老年）（鍼灸）（Applied Acupuncture Treatment Ⅵ【Rehabilitation / Geriatric】）				
主担当教員	髙橋 秀郎		担当教員	髙橋 秀郎	
科目ナンバリング	SS413	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

外傷後や老年期に起こりえる身体の動きの不調についての改善策を検討する。
歩行を含めた日常生活動作の不調を主訴とした患者の、関節の動きや身体の使い方を観察する
これからの高齢社会、余暇社会を視野においた時代的な要求に応えられる幅広い知識を深めるため、整形外科疾患による身体構造の変化がどのように日常生活に影響するかといった基本的事項等も学習する。

到達目標

整形外科疾患患者の身体変化を観察できる
関節の動きを観察、評価することができる
歩行訓練、体位変換、可動域訓練の基本的事項を実践できる

履修上の注意（学生へのメッセージ）

実技、実演を多用する予定
積極的に実技に参加すること
1. 出席を重視する。
2. 授業態度が不良（私語、携帯を見ること等）の者は減点対象とする。
3. 遅刻の申告、延着証明の提出は当日に限り有効とする

教科書

標準整形外科学第 11 版　内田淳正　監修　医学書院
解剖学　河野邦夫　伊藤隆造　著　東洋療法学校協会

参考書

都度指示する

研究室／オフィスアワー

月曜日、水曜日、金曜日　各曜日 9:00～17:45
但し講義時間以外

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	歩行 歩行サイクルの説明	歩行サイクルの用語について復習する	
2	歩行 歩行の観察	歩行サイクルの用語について復習する	
3	歩行 歩行時の筋活動	歩行サイクルの用語について復習する	
4	腰部疾患 腰痛の原因となる疾患 画像読影　適応の判断	標準整形外科学の学習	
5	腰部疾患 疼痛の発生原因とその対策	標準整形外科学の学習	
6	腰部疾患 適応外の判断と医療安全を考慮した計画	標準整形外科学の学習	
7	頚部疾患 頚部疾患の症状と診断	頚部疾患の特徴の予習	
8	頚部疾患 変形性頚椎症　頚椎ヘルニア 画像読影　適応の判定	頚部の骨格の復習 頚部の軟部組織の復習	
9	頚部疾患 治療の原則　頚椎疾患の及ぼす影響	頚部神経の復習	
10	肩関節疾患 肩関節疾患の鑑別　治療方針の原則	肩関節周囲の解剖 構造の理解	
11	肩関節疾患 肩関節疾患の症状　適応外診断	肩関節周囲の骨格の理解	
12	肩関節疾患 画像読影　安全性を考慮しての可動域訓練	肩関節周囲の構造 軟部組織の構造の理解	

13	膝関節疾患 膝関節疾患とその症状	膝関節の解剖 軟部組織の構造の理解	
14	膝関節疾患 膝関節疾患の症状が歩行に与える影響	歩行サイクル 歩容の観察	
15	総合演習	総合復習	
成績評価方法と基準			割合
レポートにより評価を行う。 4/5 以上の出席が必要。			100%

授業科目名	応用鍼灸治療学Ⅶ(物理療法)(鍼灸) (Applied Acupuncture Treatment Ⅶ【Physical Medicine】)				
主担当教員	髙橋 秀郎		担当教員	髙橋 秀郎	
科目ナンバリング	SS414	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

将来臨床現場で扱う可能性の高い物理療法機器の作用機序を学び
実際に使用することによって、機器の使用感や操作方法について学ぶ

到達目標

物理療法機器の操作に精通することができる
物理療法機器を使用したときの身体の変化について観察することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実技、実演を多用する予定
積極的に実技に参加すること
1. 出席を重視する。
2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

月曜日の 3 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 療養費の支給基準について	講義予定説明	髙橋、松熊
2	背部　脊柱起立筋の触診　肩甲間部　手技療法	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	髙橋、松熊
3	腰部　腰痛　体幹回旋ストレッチ	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	髙橋、松熊
4	頚部　回旋ストレッチ　頚部の筋触診	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	髙橋、松熊
5	背部　脊柱起立筋の触診　肩甲間部　手技療法	配布資料を熟読すること 講義の重要事項について整理すること	髙橋、松熊
6	肩関節　肩甲骨周囲筋群　五十肩　腱板断裂	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
7	肘関節　肘関節捻挫　内反外反ストレステスト 拘縮後療	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
8	手関節　前腕筋群ストレッチ　外側上顆炎 肘筋のアプローチ	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
9	手指部　母指球筋　中手筋　触診ストレッチ 手指関節脱臼捻挫	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
10	股関節　殿筋群触診　ストレッチ　手技療法	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
11	足関節　徒手検査　下腿前面後面　手技療法	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
12	物理療法機器について解説 1	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
13	物理療法機器について解説 2	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
14	物理療法機器について解説 3	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊
15	物理療法機器について解説 4	局所解剖と関節構造の理解 手技の復習	髙橋、松熊

成績評価方法と基準	割合
期末試験(100%) 4/5 以上の出席が必要	100%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸東洋系(松熊)（Graduation Research）				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(水曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
尾﨑朋文（教授）：安全な刺鍼と小児鍼に関する実験的研究
仲西宏元（教授）：感覚器系（耳鼻科・皮膚科・眼科）に及ぼす鍼灸治療の基礎研究
辻　涼太（講師）：東洋医学的治療の研究（腕踝鍼・経絡治療など）
大月　隆史（講師）・堀川奈央（助教）：睡眠障害と鍼灸治療の研究

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。(1 時間) 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。(1 時間)	尾﨑、仲西、辻、大月、堀川
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。(2 時間)	尾﨑、仲西、辻、大月、堀川
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。(2 時間)	尾﨑、仲西、辻、大月、堀川
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。(2 時間)	尾﨑、仲西、辻、大月、堀川
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。(2 時間)	尾﨑、仲西、辻、大月、堀川
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。(2 時間)	尾﨑、仲西、辻、大月、堀川

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。(2 時間)	尾崎、仲西、辻、大月、堀川

成績評価方法と基準	割合
全授業の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。〈DP1,4〉 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。〈DP1,4〉	100%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸現代系(松熊)（Graduation Research）				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(水曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
鍋田智之（教授）：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。
松熊秀明（准教授）：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究
辻丸泰永（講師）：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析
高橋秀郎（講師）：スポーツ障害に対する鍼灸治療
髙崎雷太（講師）：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。(1 時間) 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。(1 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成す	鍋田、松熊、

		る。(2時間)	高橋、髙崎、辻丸
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。(2時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。(2時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
成績評価方法と基準			割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。 研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。<DP1,4> 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。<DP1,4>			100%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸情報系(山下)（Graduation Research）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(水曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
山下　仁（教授）：安全な鍼灸施術に関する実験的研究、日本鍼灸のエビデンスのデータベース作成、鍼灸のエビデンスの情報収集と情報整備、世界の鍼灸事情に関する文献からの情報抽出、または代田文誌の遺した資料の調査を行う。その他、学生の提案で指導可能と判断した研究も可能とする。
増山祥子（准教授）：婦人科領域における鍼灸のエビデンス（文献調査･問題点抽出）、緩和ケア領域における鍼灸のエビデンス（文献調査・問題点抽出）、鍼灸臨床における衛生操作情報のアート表現、または低周波鍼通電療法による鎮痛に関する実験を行う。その他、学生の提案で指導可能と判断した研究も可能とする。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30単元以上の活動を行ってください。
②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。	

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	

成績評価方法と基準	割合
全授業の３分の２以上の出席を必要とする。 研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。 DP①④	報告書 60% 平常の取り組み 40%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):スポーツ特修系 （Graduation Research）				
主担当教員	中原 英博		担当教員	中原 英博、老田 準司、佐野 加奈絵、伊奈 新太郎、信江 彩加	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 5 限）、後期（水曜 5 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
以下の各生理学的研究テーマ（①～⑧）については、中原英博（教授），佐野加奈絵（講師），信江彩加（助教）の３名の教員が協力して指導に当たります。また、学校保健体育科教育に関する⑩⑪の研究テーマは、老田準司（教授）が指導に当たります。
①生体の統合的呼吸・循環調節機構の解明。
②長期運動トレーニングによる生体適応のメカニズムに関する研究（トレーニング効果）。
②③運動負荷に対する生体反応のメカニズムに関する研究（運動生理）。
④高強度運動時の骨格筋糖脂質代謝動態の定量解析。
⑤システム定量解析を用いた新しいトレーニング評価システムの開発に関する研究。
⑥システム定量解析を用いた運動時換気亢進の病態生理機構の解明（主に動物実験）。
⑦スポーツウエアの着圧が生理学的パラメータに及ぼす影響の検討。
⑧鍼刺激療法を用いた新規循環制御システムの構築。
⑨アロマセラピーに用いる精油の芳香刺激が生体に及ぼす影響。
⑩体育の授業教材の意義についての一考察。
⑪体育と保健の授業での取り扱いについての一考察。
⑫上記内容に関わらず、学生が希望する内容で各教員が指導可能と判断したもの。

到達目標

①研究倫理について理解することができる（DP①④）。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる（DP①④）。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる（DP①④）。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる（DP①④）。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる（DP①④）。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる（DP①④）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行	

		う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める（DP①④）。 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する（DP①④）。			100%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸現代系(辻丸)（Graduation Research）				
主担当教員	辻丸　泰永		担当教員	辻丸　泰永	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 5 限）、後期（水曜 5 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
鍋田智之（教授）：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。
松熊秀明（准教授）：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究
辻丸泰永（講師）慢性疼痛
高橋秀郎（講師）：スポーツ障害に対する鍼灸治療
髙崎雷太（講師）：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。（ＤＰ①）
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。（ＤＰ①）
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。（ＤＰ④）
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。（ＤＰ④）
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
成績評価方法と基準			割合
①全授業の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 ②研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。 ③研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。（ＤＰ①、④）			100%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸現代系(鍋田)（Graduation Research）				
主担当教員	鍋田 智之		担当教員	鍋田 智之	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 5 限）、後期（水曜 5 限）
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
鍋田智之（教授）：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。
松熊秀明（准教授）：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究
辻丸泰永（講師）：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析
高橋秀郎（講師）：スポーツ障害に対する鍼灸治療
髙崎雷太（講師）：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	

7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	

成績評価方法と基準	割合
全授業の 5 分の 4 以上の出席を必要とする。	40%
研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。DP①④	60%

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸現代系(髙崎)（Graduation Research）				
主担当教員	髙崎　雷太		担当教員	髙崎　雷太	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(水曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
鍋田智之（教授）：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。
松熊秀明（准教授）：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究
辻丸泰永（講師）：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析
高橋秀郎（講師）：スポーツ障害に対する鍼灸治療
髙崎雷太（講師）：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。
⑥学修内容に準じた検索・まとめ等を、2 時間/日行う。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2 時間/日行う。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2 時間/日行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2 時間/日行う。	

4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PCを用いてデータベースを作成すること。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。 学修内容に準じた検索・まとめ等を、2時間/日行う。	
成績評価方法と基準			割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。 研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。 ※到達目標①④について、評価する。DP①④			出席基準を満たし、100点満点の評価で行い、平常評価および論文提出により評価を行う。

授業科目名	卒業研究(鍼灸):鍼灸現代系(髙橋)（Graduation Research）				
主担当教員	髙橋　秀郎		担当教員	髙橋　秀郎	
科目ナンバリング	SS511	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(水曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
鍋田智之（教授）：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。
松熊秀明（准教授）：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究
辻丸泰永（講師）：施術所受診患者のカルテ集計による特定病態の分析
髙橋秀郎（講師）：スポーツ障害に対する鍼灸治療
髙崎雷太（講師）：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	

成績評価方法と基準	割合
全授業の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。DP①④	100%

授業科目名	スポーツ傷害学･栄養学(鍼灸)（Sports Injuries / Nutriology）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久、植杉　優一	
科目ナンバリング	SS518	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 5 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

スポーツ選手にとって、体力の維持および競技成績の向上という具体的な目標を達成するためや、将来の健康づくり指導者としては生活習慣病の予防・改善を指導するためには、幅広い栄養的知識が必要である。本講義ではそれらをふまえた栄養知識と食事のあり方を学ぶ。また、スポーツ外傷や運動を起因とする疾病について、それらの発生メカニズムを知り、運動中のケガと疾病の予防およびその対処方法を理解することは重要である。本授業においては、これらをあわせて学ぶ。

到達目標

（植杉）
スポーツ現場に従事する者として，状況に見合った適切な栄養管理・指導ができるよう，現場で活躍できる知識を身につける。〈DP①〉
（川畑）
スポーツ現場で遭遇する運動器の障害の病態について正確に理解し、メディカルチェックや対処法についても根拠をもって実施できるよう知識を深める。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

（植杉）
1.栄養学，運動生理学と関連付けて学修するため，既に受講済みである授業の内容について復習しておくこと。
2.基本的な数学を必要とすることがあるが，できるだけ解りやすく行う。
（川畑）
1. スポーツ傷害学は、運動器の解剖学、生理学などを土台にするもので、他の講義で学んだ局所解剖や運動機能の評価方法、理学所見の取り方などを復習しておくこと。
2. 疑問点は大切にし、解決に向けて積極的に行動すること。
3. 出席は授業の理解にも影響することから、欠席をしないようにすること。
4. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる場合がある。その場合、速やかに退室すること。
5. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

1. 適宜プリントや資料などを配布する。

参考書

（植杉）
1. 樋口満　編著「コンディショニングのスポーツ栄養学」，2001 年
2. 小林修平・樋口満　編著「アスリートのための栄養・食事ガイド」，2001 年
（川畑）
1. 標準整形外科学 第 12 版. 中村利孝/松野丈夫 監修. 医学書院. 2014.
2. 新版 スポーツ整形外科マニュアル. 福林徹 監修. 中外医学社. 2013.
3. スポーツ整形外科学. 中嶋寛之 編集. 南江堂. 1998.

研究室／オフィスアワー

（植杉）
兼任講師のため，質問等は授業前後の時間に受け付ける。
（川畑）
C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	スポーツ傷害学総論：運動器疾患のメディカルチェック	予習：スポーツにより発生する主な運動器疾患の身体評価法（ROM、MMT など）について予習しておくこと。 復習：講義で学んだ運動器疾患の検査法などについて、実技も含め理解を深めてこと（配布資料参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
2	スポーツ傷害学総論：運動器疾患の応急処置とコンディショニング	予習：運動器疾患の応急処置とコンディショニングについて予習しておくこと。 復習：授業で学んだ運動器疾患の応急処置とコンディショニングについて復習すること（配布資料参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
3	上肢のスポーツ傷害①：肩関節	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと （解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ肩関節の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
4	上肢のスポーツ傷害②：肘関節	予習：肘関節の解剖学について予習しておくこと （解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ肘関節の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
5	上肢のスポーツ傷害③：手関節および指	予習：手関節・指の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ手関節・指の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
6	下肢のスポーツ傷害①：股関節	予習：股関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ股関節の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
7	下肢のスポーツ傷害②：膝関節	予習：膝関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ膝関節の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
8	下肢のスポーツ傷害③：下腿・足関節・足部	予習：下腿・足関節・足部の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ下腿・足関節・足部の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
9	体幹のスポーツ傷害①：頸部・胸部	予習：頸部・胸部の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ頸部・胸部の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
10	体幹のスポーツ傷害②：腰部	予習：腰部の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照）。 復習：授業で学んだ腰部の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照）。 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
11	スポーツ実施時の代謝と栄養(植杉)	予習：　栄養学，運動生理学の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認. なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	植杉
12	スポーツ選手の基本の食事 （試合期・休養期の食事）（植杉）	予習：　普段の食事バランスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認. なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	植杉
13	スポーツ選手の体づくり （増量と減量）（植杉）	予習：　競技特性についての確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認. なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	植杉
14	スポーツ選手の障害予防のための栄養(植杉)	予習：　スポーツ障害学等の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認. なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	植杉

15	スポーツ・健康とサプリメント(植杉)	予習：　自ら摂取中のサプリメントの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認. なお予習、復習を各 1 時間行うこと。また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	植杉
成績評価方法と基準			割合
植杉：担当する授業の最終回にプレゼンテーションを実施する。〈DP①〉 川畑：筆記試験を実施する。〈DP①〉			1．40% 2．60%

授業科目名	体力トレーニング論(鍼灸スポーツ)（Physical Training Studies）				
主担当教員	信江　彩加		担当教員	信江　彩加	
科目ナンバリング	SS519	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	4	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

本講義では、体力トレーニングに関連する機能解剖学や運動生理学などについて、講義形式にて学びを深める。トレーニングによる組織や器官（器官系）の構造的・機能的変化やそれに伴う生理機能の変化などについて学ぶとともに、各種トレーニングの効果について最新の学術的根拠についても解説する。また各種トレーニングを実践するとともに、安全かつ効果的なトレーニング方法の取得と指導方法などについても学ぶ。さらに目的に応じたトレーニングプログラム作成が可能となるよう授業を進めていく。

到達目標

1．体力・トレーニングに関連した機能解剖学・運動生理学・トレーニング科学を理解する。
2．安全かつ効果的なトレーニングの実践および指導が可能となる。
3．目的に応じたトレーニングプロラムの作成が可能となる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．実技を実施するので動きやすい服装および室内履きを準備すること。
2．実技では得手不得手は問わないので積極的に参加すること。

教科書

特になし。必要に応じてプリントなどを配布する。

参考書

『体力トレーニングの理論と実際』その他、必要に応じて提示する

研究室／オフィスアワー

火曜日 9:00～11:00：教室または非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス/体力トレーニング論とは	予習：シラバスの確認 復習：体力の定義について確認	
2	体力トレーニングの科学的基礎１	予習・復習：トレーニング原理・原則について事前にまとめ、再確認する	
3	体力トレーニングの科学的基礎２	予習：骨学・関節学・筋学について確認 復習：運動器の解剖学についてまとめる	
4	体力トレーニングの科学的基礎３	予習：運動生理学の基礎を確認 復習：キーワード・重要語句の確認	
5	ウォーミングアップ・クーリングダウン	予習：ストレッチングの各種形態をまとめる 復習：自身の競技特性を考慮し応用する	
6	レジスタンストレーニング１（実習）	予習：上半身の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する	
7	レジスタンストレーニング２（実習）	予習：下半身の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する	
8	レジスタンストレーニング３（実習）	予習：体幹の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する	
9	パワー・スピード系トレーニング（実習）	予習：オリンピックリフトについて理解 復習：指定メディアを通じてポイントを確認	
10	有酸素系トレーニング１（実習）	予習：呼吸・循環器機能について確認 復習：キーワード・重要語句の確認	
11	有酸素系トレーニング２（実習）	予習：サーキットトレーニングをまとめる 復習：指定参考書の確認	
12	ピリオダイゼーション（期分け）とは	予習：子どもの発育・発達について理解 復習：課題について考察し次週提出	
13	トレーニングプログラムの作成	予習：球技系競技の特性について理解 復習：課題について考察し次週発表する	
14	トレーニングプログラムの指導	予習：グループ発表について取り組む 復習：発表について自己評価する	
15	体力トレーニングにおける安全対策	予習：CPR/RICE 処置を確認しておく 復習：臨床での応用を自己でまとめる	

成績評価方法と基準	割合
1．原則 3 分の 2 以上の出席者を評価の対象とする。 2．授業への参加度：50% ・ グループ発表：40% ・ 授業内レポート 10% 3．授業への参加度とは、得手不得手に関わらない能動的な実技への参加と、講義において教員からの質問に対する論理的かつ積極的な発言などを評価する。	2-1:50 2-2:40 2-3:10

授業科目名	附属施術所応用実習(鍼灸スポーツ)（Practical Training at the Affiliated Clinic）				
主担当教員	辻丸　泰永		担当教員	辻丸　泰永、松熊　秀明、辻　涼太、大川　祐世、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS403	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	前期（火曜 3 限 火曜 4 限）、後期（火曜 3 限 火曜 4 限）
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1．教員の指導下で、施術活動に補助として参加する。
2．問診や診察により病態を推察し、治療計画や評価について教員と意見交換をする。
3．観察あるいは施術補助した症例や疾患について、文献検索などを用いて調べ、power point 等を用いてカンファレンスで発表し討論する。

到達目標

1．基本的な患者応対、問診、診察補助、鍼灸適否判断、施術補助、記録ができる。
2．患者の苦痛を理解し、医療従事者としてのモラルと使命感を身に付ける。
3．観察した症例を正確に記し、病態や治療効果を客観的に分析してプレゼンできる。
4．現代医学、東洋医学の両面で患者の病態を把握できる力を身につける。
5．模擬患者を対象として実際に治療ができる技術を身に付ける。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．実習マニュアルにもとづき、身だしなみや態度などに細心の注意を払うこと。
2．遅刻は、臨床業務に支障を来たす行為であり、臨床実習における心構えの観点からも認めない。
3．指定された時間に附属鍼灸施術所に集合し、出席確認・身だしなみチェック・必要備品のチェック・注意事項などを行った上で実習を開始する。
4．施術準備を手伝う。
5．少数人数に分かれ教員のブースで見学や施術補助を行う。
6．片付けを手伝う。
7．疑問点や学んだことをメモして、臨床実習終了後に調べてまとめ、グループや担当教員と意見交換を行う。

教科書

各授業時に配付された資料に基づく

参考書

1．工藤慎太郎編著＜運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学、医学書院＞
2．工藤慎太郎編著＜運動療法の「なぜ？」がわかる超音波剖学、医学書院＞

研究室／オフィスアワー

高﨑：共同研究室　水曜日 14：00～　金曜日（不定期なため事前に確認が必要）
辻：E 棟 4F　研究室 3

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1．施術所における実習 1）小グループによるローテーションとする。 2）指導教員の下で、患者案内、問診、診察、施術補助などを行う。 3）模擬カルテに記録し、不明な点を調べて加筆した後、 実習簿にあるカンファレンス用紙に記載する。模擬カルテの書き方はSOAP方式に沿って記載する。実習簿にあるカンファレンス用紙は、意見交換した施術担当教員の印をもらう。 2．臨床カンファレンス（隔回で実施する） 1）観察・施術補助した症例、あるいは与えられた課題疾患について調べる。 2）プレゼン資料を作成する。（最低 1 文献以上は論文検索を行うこと） 3）資料（配布または power point 等）に	予習：経絡経穴学、現代医学系鍼灸実習、東洋医学系鍼灸実習、附属施術所基礎実習で学んだ内容を実習に入る前に確認すること。(30 時間) 復習：附属施術所で見学した症例について各自で調べ、power point 等にまとめること。(30 時間)	辻丸　泰永、松熊　秀明、辻　涼太、仲村　正子

	基づき症例の発表をする。 　　４）討論して意見交換を行う。 ３．医療面接トレーニング（時間的に余裕がある場合に実施する） 　　１）小グループで協力患者または模擬患者を相手に医療面接を行う。 　　２）学生全体で問題点を指摘し合う。 　　３）教員から改善点の指導を受ける。 ４．診察トレーニング（隔回で実施する） 　　１）徒手検査、東洋医学検査を模擬患者相手に実施し、修練する。 　　２）全ての学生が検査と診察をスムーズに出来るように実施する。 　　３）模擬患者を相手に診察から施術までのロールプレイ式トレーニングを行う。 　　４）初回に限り、文献検索の方法も合わせて指導する。		
成績評価方法と基準			割合
①実習態度・身だしなみ・質疑応答・施術補助能力に関するチェックを行う。(DP1,4) ②カンファレンスにおける発表や取り組みを学内ルーブリックに基づき評価する。(DP1,4) ※カンファレンスは全て出席し、症例報告のプレゼン、発言、知識のチェックを行う。 ※割り当てられた全てのローテーションへの出席を必要とする。 上記全ての項目が認められて、初めて成績として評価を行う。 但し、学年末試験が 60 点以上とれていない場合は再試験を受けなければならない。 出席では公欠の場合に補講を実施するが、その他の遅刻・欠席の補講は認めず、成績を不可とする。			①60% ②40%

鍼灸学科　鍼灸コース・スポーツ特修コース

（2018 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	情報処理(鍼灸 A)（Information Processing）				
主担当教員	平山　裕子		担当教員	平山　裕子	
科目ナンバリング	LA004	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 3 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は Windows を、ソフトウェアはマイクロソフトの Word, Excel, PowerPoint 等を使用する。

到達目標

1．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる<DP③>
2．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる<DP③>
3．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる<DP③>
4．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．PC を使った演習を行なうので、出席をすること
2．作業内容（作成したファイル等）を保存するための USB メモリを用意すること
3．PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

中村健壽監修，森由紀著，医療従事者のための情報リテラシー，日経 BP 社

参考書

佐藤憲一他，Windows 7によるコ・メディカルのための情報リテラシー，共立出版，2013
金谷孝之・服部建大，基礎から学ぶ医療情報，共立出版，2014

研究室／オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス Lesson1【コンピュータ概論】	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson1【コンピュータ概論】を読む USB を用意する ※課題については、毎回の授業内で指示します。以下同様	
2	Lesson15【情報セキュリティと情報モラル】 Word① Lesson2【文字入力とファイル管理】 文字入力確認、及び応用 ファイル管理、USB の扱い方等	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson15-2【情報モラルと情報モラル】及び Lesson2【文字入力とファイル管理】を読む	
3	Word② Lesson3【基本的な文書作成】 WORD の基本的な書式設定を習得 Lesson4【ビジネス文書の作成】 ビジネス文書の作成	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson3【基本的な文書の作成】及び Lesson4【ビジネス文書の作成】を読む	
4	Word③ Lesson5【表の作成】 表の挿入、表内セルの書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson5【表の作成】を読む	
5	Word④ Lesson6【図形とイラストの挿入】 図形の活用方法及びイラストの挿入操作	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson6【図形とイラストの挿入】を読む	
6	WORD まとめ 長文レポート等でのヘッダー・フッター機能活用	＜予習・復習 各 2 時間＞ 別途配布する資料を読む	
7	WORD 復習テスト 授業内で WORD 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Word に関する操作・機能を確認 復習テストに備えておくこと	
8	Excel① Lesson7【集計表の作成】 基本操作（四則計算）の操作 基本的な書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ テキスト Lesson7【集計表の作成】を読む	
9	Excel② Lesson8【関数を使った表作成 1】 SUM,AVERAGE,MAX,MIN Lesson9【関数を使った表作成 2】 COUNT,COUNTA,RANK,IF	＜予習・復習 各 2 時間＞ EXCEL② Lesson8【関数を使った表計算 1】及び Lesson9【関数を使った表計算 2】を読む	
10	Excel③ Lesson10【統計処理】 ROUND,MEDIAN,MODE 関数のネスト	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
11	Lesson11【データとグラフ】 Excel④ 縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
12	Lesson12【データの活用】 Excel⑤ 関数応用 today,datedif,vlookup,	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson12【データの活用】を読む	
13	EXCEL 復習テスト 授業内で EXCEL 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Excel に関する操作・機能を確認する 復習テストに備えておくこと	
14	PowerPoint 基礎	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson13【プレゼンテーションの作成】を読む	
15	Lesson14 PowerPoint 応用	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson14【プレゼンテーションファイル作成】を読む	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②課題の提出状況及び完成度、授業態度含む<DP③> ③小テスト（授業内で実施）WORD 及び EXCEL<DP③> 5 分の 4 以上の出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	情報処理(鍼灸Ｂ)（Information Processing）				
主担当教員	平山　裕子		担当教員	平山　裕子	
科目ナンバリング	LA004	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算、プレゼンテーションを中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の習得を目標とする。また、コンピュータ利用技術の習得に加えて、情報化社会に必要な倫理観と情報の保護を学ぶために、技術的な面に加えて個人情報保護法等の法令や指針についても学ぶ。なお、コンピュータのオペレーティングシステム(OS)はWindows を、ソフトウェアはマイクロソフトのWord, Excel, PowerPoint 等を使用する。

到達目標

１．PC 利用に限らず，広く，情報倫理と個人情報保護の重要性を理解し，説明できる<DP③>
２．Word による文書（レポート，論文）の作成ができる<DP③>
３．Excel による基本的なデータの集計・解析ができる<DP③>
４．PowerPoint を用いて資料を作成し，効果的なプレゼンテーションができる<DP③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．PC を使った演習を行なうので、出席をすること
２．作業内容（作成したファイル等）を保存するためのUSB メモリを用意すること
３．PC 演習室での飲食は禁止(机の上に置くのも禁止）する

教科書

中村健壽監修，森由紀著，医療従事者のための情報リテラシー，日経 BP 社

参考書

佐藤憲一他，Windows 7によるコ・メディカルのための情報リテラシー，共立出版，2013
金谷孝之・服部建大，基礎から学ぶ医療情報，共立出版，2014

研究室／オフィスアワー

授業前後

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス Lesson1【コンピュータ概論】	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson1【コンピュータ概論】を読む USB を用意する ※課題については、毎回の授業内で指示します。以下同様	
2	Lesson15【情報セキュリティと情報モラル】 Word① Lesson2【文字入力とファイル管理】 文字入力確認、及び応用 ファイル管理、USB の扱い方等	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson15-2【情報モラルと情報モラル】及び Lesson2【文字入力とファイル管理】を読む	
3	Word② Lesson3【基本的な文書作成】 WORD の基本的な書式設定を習得 Lesson4【ビジネス文書の作成】 ビジネス文書の作成	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson3【基本的な文書の作成】及び Lesson4【ビジネス文書の作成】を読む	
4	Word③ Lesson5【表の作成】 表の挿入、表内セルの書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson5【表の作成】を読む	
5	Word④ Lesson6【図形とイラストの挿入】 図形の活用方法及びイラストの挿入操作	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson6【図形とイラストの挿入】を読む	
6	WORD まとめ 長文レポート等でのヘッダー・フッター機能活用	＜予習・復習 各 2 時間＞ 別途配布する資料を読む	
7	WORD 復習テスト 授業内で WORD 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Word に関する操作・機能を確認 復習テストに備えておくこと	
8	Excel① Lesson7【集計表の作成】 基本操作（四則計算）の操作 基本的な書式設定	＜予習・復習 各 2 時間＞ テキスト Lesson7【集計表の作成】を読む	
9	Excel② Lesson8【関数を使った表作成 1】 SUM,AVERAGE,MAX,MIN Lesson9【関数を使った表作成 2】 COUNT,COUNTA,RANK,IF	＜予習・復習 各 2 時間＞ EXCEL② Lesson8【関数を使った表計算 1】及び Lesson9【関数を使った表計算 2】を読む	
10	Excel③ Lesson10【統計処理】 ROUND,MEDIAN,MODE 関数のネスト	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
11	Lesson11【データとグラフ】 Excel④ 縦棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson10【統計処理】を読む	
12	Lesson12【データの活用】 Excel⑤ 関数応用 today,datedif,vlookup,	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson12【データの活用】を読む	
13	EXCEL 復習テスト 授業内で EXCEL 復習テストを実施	＜予習・復習 各 2 時間＞ Excel に関する操作・機能を確認する 復習テストに備えておくこと	
14	PowerPoint 基礎	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson13【プレゼンテーションの作成】を読む	
15	Lesson14 PowerPoint 応用	＜予習・復習 各 2 時間＞ Lesson14【プレゼンテーションファイル作成】を読む	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP③> ②課題の提出状況及び完成度、授業態度含む<DP③> ③小テスト（授業内で実施）WORD 及び EXCEL<DP③> 5 分の 4 以上の出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	統計学(鍼灸)（Statistics）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング	LA010	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	鍼灸:選択 スポーツ:必修

授業概要

統計学の基礎や概念を学び、実験や調査で得られたデータをどのような統計手法を用いて分析し、どのように解釈すればよいかを理解し、それらを元に実際に自分たちでデータを分析することによって、基礎的な統計処理を身につけることを目指す。

到達目標

１．統計学の基礎を理解する〈DP③〉
２．推定と検定の考え方を理解し，説明することができる〈DP③〉
３．量的データに対して適切な分析方法を選択することができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回の授業のつながりが非常に重要です．また，毎回小テストを実施しますので，欠席のないように留意すること

教科書

向後千春・冨永敦子，ファーストブック 統計学がわかる，技術評論社

参考書

市原清志 著，　「バイオサイエンスの統計学 -正しく活用するための実践理論-」，南江堂

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	シラバスを確認して，テキスト「はじめに」を読む（単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）．【4 時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	測定値の性質（尺度水準）	「尺度水準」とは何か調べる．【4】	
3	平均と度数分布・分散と標準偏	テキスト１章を読む【4】	
4	母集団と標本・区間推定と信頼区間	テキスト２章を読む【4】	
5	相関係数：２変数間の関係	ピアソンの積率相関係数，スピアマンの順位相関係数，ケンドールの順位相関係数について調べる【4】	
6	仮説検定の考え方と帰無仮説	テキスト 3-1 を読む【4】	
7	観測度数と期待度数	テキスト 3-2，3-3 を読む【4】	
8	カイ２乗検定	テキスト 3-4 を読む【4】	
9	被験者ごとの差の平均の信頼区間	テキスト 4-1，4-2 を読む【4】	
10	対応がないデータによるｔ検定（ウェルチの方法）	テキスト 4-3 を読む【4】	
11	対応があるデータによるｔ検定	テキスト５章を読む【4】	
12	１要因の分散分析-1-	テキスト 6-1，6-2 を読む【4】	
13	１要因の分散分析-2-	テキスト 6-3 を読む【4】	
14	２要因の分散分析-1-	テキスト 7-1，7-2 を読む【4】	
15	２要因の分散分析-2-	テキスト 7-3 を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
① 定期試験〈DP③〉 ② 平常点（小テスト，授業内課題等）〈DP③〉	① 80% ② 20%

授業科目名	心理学(鍼灸)（Psychology）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング	LA005	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

心理学が扱う問題・領域は多岐にわたっているが，それらに共通しているのは，「こころ」を理解しようとしていることである．しかしながら，一見すると，一体どこに「こころ」があるのか疑問になるような問題を扱っていることも多い．
　本講義では，心理学が現在の「こころの科学」としての心理学の形をとるようになった過程の全般的な流れについて概説した後に，領域ごとに解説を展開する．
　医療の現場では，様々な状況に置かれた人々と関わりを持つ機会が非常に多い．心理学を学び，「こころ」に関する知識を修得することが，医療人としての皆さんに，直接的に，また，間接的に役立つことを期待している．

到達目標

１．「こころの科学」としての心理学の成り立ちについて説明できる〈DP③〉
２．「こころ」の発露である行動の基本様式について説明できる〈DP③〉
３．心理学が扱う問題・領域を概観して「こころ」を捉えることができる〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

PC によるプレゼンテーション資料を活用した講義形式を中心に授業を進める。適宜、簡単な実習形式の実験を実施し、レポート提出を求めたり、小テストを課すことがある。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編，「心理学［第５版］」，東京大学出版会

参考書

大竹文雄・平井啓 編著，「医療現場の行動経済学―すれ違う医者と患者―」，東洋経済新報社
その他、適宜指示する。

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	こころを捉える：こころとはなにか？	テキスト第１章を読む（単に読むだけではなく，わからない専門用語等について下調べをしておく，以下同様）【4時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	こころを捉える：行動の基本様式	テキスト第２章を読む【4】	
3	こころを捉える：遺伝と環境	テキスト第３章を読む【4】	
4	学習：条件付け	テキスト第４章１節を読む【4】	
5	学習：技能学習と社会学習	テキスト第４章２節、３節を読む【4】	
6	記憶：短期記憶と長期記憶	テキスト第４章４節を読む【4】	
7	学習・記憶の神経学的基礎	テキスト第４章５節を読む【4】	
8	感覚：感覚様相と閾	テキスト第５章１節を読む【4】	
9	知覚：視覚系の生理学	テキスト第５章２節,１項，２項を読む【4】	
10	知覚：視知覚の特性	テキスト第５章２節、3，4，5，6，７項を読む【4】	
11	思考・言語：問題解決と認知発達	テキスト第６章１節，２節，３節，４節を読む【4】	
12	思考・言語：言語・非言語コミュニケーション	テキスト第６章５節，６節を読む【4】	
13	動機づけ：達成動機づけ	テキスト第７章４節を読む【4】	
14	社会行動：社会的認知	テキスト第９章１節，２節を読む【4】	
15	社会行動：態度と説得・社会的影響	テキスト９章３節，４節を読む【4】	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP③〉 ②平常点（小テスト・レポート等）〈DP③〉	①80% ②20%

授業科目名	生命倫理学(鍼灸)（Bioethics）				
主担当教員	日髙　明		担当教員	日髙　明	
科目ナンバリング	LA006	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、現代の社会で起こっている多様な生命倫理上の問題とともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介します。受講者がこれらについての考察を行い討議することで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。

到達目標

1. 講義で扱った生命倫理問題を理解する。具体的には、各テーマについて、大まかな説明ができる。
2. 広く生命倫理の問題を知ることで、生命観・人間観を養う。具体的には、「生命とはなにか」「人間とはなにか」 という問いに、先人の知見や社会通念を引いて答えることができる。あるいは自分の経験を交えて語ることができる。
３. 生命倫理的な社会問題について、広く関心を持つようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義で取り扱った倫理学および生命倫理にかかわるケースについて、他の受講者と話をしてみてください。相手の考えに同意できなければ、なぜ自分の考えと食い違うのかという「食い違いのポイント」を一緒に探してください。また、二者択一ではなく、他の方法はないのかも考えてください。
受講に当たっての細かいルールは、第一回の講義で説明します。

教科書

使用しない(適宜、資料を配布する)

参考書

小泉博明ほか『テーマで読み解く生命倫理』教育出版、2016 年。そのほか必要に応じて紹介する。

研究室／オフィスアワー

講義の前後に兼任講師控室にて対応可

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理とは、生命倫理学とは（概要、分類、なぜ学ぶのか）	シラバスの確認、資料の復習	日高明
2	人間とは（「人間」の定義、人間と動物とのギャップ、人間の社会性）	配布資料の復習とノートのまとめ。人間とその他の動物を分けるものはなにか、考える。	日高明
3	規範倫理学①（功利主義、義務論）	多数を救うために少数が犠牲になる事例をひとつ想定し、功利主義と義務論それぞれの立場では、どのような態度をとりうるかをまとめる。	日高明
4	規範倫理学②（徳倫理学、ケアの倫理）	資料の復習。規範倫理学のそれぞれの立場についてまとめる。	日高明
5	西洋と東洋の生命観①	近代医学（科学）は生命をどのようなものとして捉えるか、まとめる。	日高明
6	西洋と東洋の生命観②	講義中に説明した複数の「死後のあり方」のうち、自分がどれにリアリティを感じるか、またなぜそう感じるのかについて考える。	日高明
7	個人情報保護	講義で紹介された事例をもとに、医療・介護施設において、なにが個人情報にあたるか、第三者へ提供するさいにどういった制限があるかについて、まとめる。	日高明
8	死について考える①（死の捉え方の変遷、死のプロセス、死の疑似体験）	「10 年後の自分」を想定し、そこから「今の自分」を振り返り、「喪失したもの」について語ってみる。	日高明
9	死について考える②（EOL のケア、ACP）	実際にアドバンスディレクティブ（事前指示書）に記入し、その時点で指示した代理人と、話し合う。	日高明
10	死について考える③（安楽死・尊厳死）	尊厳死肯定派と否定派、双方の立場についてまとめる。	日高明
11	臨床のコミュニケーション	話し合った内容をまとめる。	日高明
12	生について考える①（出生前診断、代理出産）	人間の生命のはじまりはどの時点からか、考える。代理出産をめぐって、どのような問題が生じうるか。講義で説明した事例をもとにまとめる。	日高明
13	生について考える②（卵子・精子提供、デザイナーベイビー）	生殖補助医療はどこまで認められているかについて調べ、どこまで認められるべきかを考える。	日高明
14	患者の権利と自己決定	患者の権利と医療倫理の善行原則や公平性原則がバッティングするケースについて考える。	日高明
15	グループワーク	話し合った内容をまとめる。	

成績評価方法と基準	割合
１、テスト ２、グループワークと講義への参加度	１、６０％ ２、４０％

授業科目名	社会福祉学(鍼灸)（Social Welfare）				
主担当教員	中村　亮太		担当教員	中村　亮太	
科目ナンバリング	LA008	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
現代の社会問題や障害のある人の地域での生活について知ることを通して、社会福祉の基礎について学ぶ。社会福祉に関する考え方、制度、支援などについて、時事問題や映像資料も踏まえながら具体的に学んでいく。適宜、受講者の意見を聞きながら、授業を進めていく。
到達目標
様々な社会問題について、社会福祉の視点から考察し、理解できるようになることを目標とする。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
授業では、質問や感想を記したコミュニケーションペーパーの提出を求める。そこで提出されたものについては、次回の授業で解説やコメントを行なう。
教科書
毎回の授業においてレジュメを配布する。
参考書
授業中に適宜紹介する。
研究室／オフィスアワー
授業の前後、あるいはメール等にて質問などを受け付ける。
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション――社会福祉とは何か	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
2	社会福祉の歴史について	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
3	障害の社会モデルについて①	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
4	障害の社会モデルについて②	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
5	社会福祉とマスメディア	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
6	社会福祉における自立の考え方	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
7	社会福祉と自立生活運動	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
8	社会福祉と優生思想	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
9	障害のある人の地域生活について①	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
10	障害のある人の地域生活について②	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
11	生活保護制度について①	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
12	生活保護制度について②	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
13	ベーシックインカムについて	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
14	社会福祉と財源	今回の講義内容について見直し、次回の講義テーマについて調べる	
15	講義全体のまとめと振り返り	本講義全体を見直す	

成績評価方法と基準	割合
レポート試験 ※試験内容・提出期限等は授業内にて説明する	100%

授業科目名	東洋史概説(鍼灸)				
主担当教員	熊野　弘子		担当教員	熊野　弘子	
科目ナンバリング	LA019	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

3年次では歴史の試練に耐え発展してきた東洋医学を中心に東洋史を学び、これまで習ってきた医学史をさらに掘り下げる。「東洋医学概論」の補足・応用として、（１）各時代の医学理論や医学思想、そしてときに（２）専門用語を理解するための文法解説、（３）背景となっている東洋思想、（４）昔の漢文医書の内容に触れる。

到達目標

鍼灸師としての幅を広げるために、東洋医学史と「東洋医学概論」の知識を深める。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

各時代・医家の診断治療理論などが理解できるよう、1・2年で学んだ「東洋医学概論」を復習しておくこと。

教科書

新版　東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本社

参考書

医療概論、東洋療法学校協会編、医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

E棟　／　在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中国・日本の歴史１	授業の内容を振り返る	
2	中国・日本の歴史２	授業の内容を振り返る	
3	中国医学史　　古代～	授業の内容を振り返る	
4	中国医学思想・理論　古代～	授業の内容を振り返る	
5	中国医学史　　～漢	授業の内容を振り返る	
6	中国医学思想・理論　～漢	授業の内容を振り返る	
7	中国医学史　　～宋	授業の内容を振り返る	
8	中国医学思想・理論　～宋	授業の内容を振り返る	
9	中国医学史　　～現代	授業の内容を振り返る	
10	中国医学思想・理論　～現代	授業の内容を振り返る	
11	日本医学史　　～近世	授業の内容を振り返る	
12	日本医学思想・理論　～近世	授業の内容を振り返る	
13	日本医学史　　～現代	授業の内容を振り返る	
14	日本医学思想・理論　～現代	授業の内容を振り返る	
15	講義全体のまとめ	これまでの講義を振り返る	

成績評価方法と基準	割合
期末筆記試験、出席・授業態度	100%

授業科目名	英会話(鍼灸)（English Conversation）				
主担当教員	Julian Houseman		担当教員	Julian Houseman	
科目ナンバリング	LA021	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	鍼灸:選択 スポーツ:必修

授業概要

英会話Ⅰでは、基本的な英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的とする。英会話の基本的ルールである、（１）主語の存在、（２）語順（主語・動詞、疑問文、疑問詞など）、（３）瞬発力、を意識しながら、日常生活の中で、道を尋ねる、買い物をする、自己紹介をするなどといった他人と関わる際に最低限必要な会話力を身につける。

到達目標

・自己紹介ができる。
・最低限の日常会話ができる。
・自分の考えを最低限伝えることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ペアワーク、グループワークなどによる会話の練習が多いため、積極的に授業に参加すること。前回の授業の復習を必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

書名／Title　：　CHALLENGER BOOK α　1
著者名／Authors　：　ECC 総合教育研究所
出版社・出版年／ ECC

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

E 棟１階非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Course introduction, Classroom English	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
2	Introduction yourself Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
3	Greetings friends Casual Greetings	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
4	What’ s your sister’ s name? Talk about people	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
5	Free time Talk about activities	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
6	Exercise Talk about exercise	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
7	What kind of bike do you have? Closed questions and follow-up questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
8	Food you like Open questions and closed questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
9	Clothes Talk about shopping	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
10	Is it expensive? Adjectives and recommendations	授業の復習並びに会話確認テスト準備	

11	Visiting someone Talking someone	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
12	Saying people Offering something	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
13	What’s this wooden thing? Talk about objects	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
14	Describing people Wh～questions	授業の復習並びに会話確認テスト準備	
15	講義全体のまとめ	授業の復習並びに総括小テスト準備	
成績評価方法と基準			割合
①授業参加度 ②小テスト ③確認テスト			①20% ②60% ③20%

授業科目名	医学英語(鍼灸)（English for Medicine）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング	LA022	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	水曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択
授業概要					
医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため、臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、患者に正確な指示を伝えたりするために必要となる表現や語彙を習得する。また、医学関連の文献や論文、その他情報の収集方法と論文の構成を習得し、専門分野における最先端の研究情報を得るためのスキルを身につける。 将来医療従事者となる皆さんに、ぜひ受講をお勧めする。					
到達目標					
最低限患者とコミュニケーションがとれる。〈DP②〉 最低限の医学用語が理解できる。〈DP②〉 医学分野の英語の論文がどのような構成になっているのか理解できる。〈DP②〉					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
積極的に授業に参加すること。 宿題や予習（特にリーディング）は必ずしてから授業に臨むこと。 携帯電話の使用、私語は慎むこと。					
教科書					
実践看護英語（竹林修一、英宝社、2014）					
参考書					
英和辞書					
研究室／オフィスアワー					
東棟４階研究室14					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	Introduction / Medical terminology / Getting to know the patients 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
2	Getting to know the patients 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
3	Getting to know the patients 3	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
4	Getting to know the patients 4	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
5	Examination 1	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
6	Examination 2	＜予習・復習 各２時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

7	Instructing medication	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
8	Treating the patients 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
9	Treating the patients 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
10	Treating the patients 3	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
11	Operation / Pubmed について、論文の構成について	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
12	Pregnancy / Articles on Acupuncture 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
13	In the hospital / Articles on Acupuncture 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
14	Emergencies / Articles on Acupuncture 3	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	
15	Living a healthy life / Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと	

成績評価方法と基準	割合
小テスト<DP②> プレゼンテーションおよびその他課題<DP②> 授業参加態度<DP②> 2/3 回以上の出席が必要。	30% 40% 30%

授業科目名	健康管理学 I（鍼灸）（Healthcare Management I）				
主担当教員	河合　英理子		担当教員	河合　英理子	
科目ナンバリング	CS022	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病の危険因子が明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾患に罹患する確率が高くなることから、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、運動不足の健康への影響を学び、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動基準、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を学修する。特に、有酸素性運動の健康上の必要性を学び、運動処方の条件（強度・時間・頻度）に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、ウオーミングアップとクーリングダウン、及びレジスタンス運動を含めた、運動処方プログラムの構成についても学修する。

到達目標

1. 健康管理と疾病の予防に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康づくりのための運動に必要な知識、生活習慣病予防に役立つ基礎知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

この講義では、健康実践指導者の資格取得に向けて運動や健康に関する基礎を学びます。一緒に頑張っていきましょう。

教科書

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康体力づくり事業財団）

参考書

健康運動実践指導者試験 筆記対策 分野別&模擬問題集（NESTA JAPAN）
「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集（西端 泉）

研究室／オフィスアワー

講義の無い曜日は学校にいないので連絡があるときは講義の前後にお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康管理と運動の効果	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
2	運動不足と健康への影響	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
3	健康づくりのための身体活動基準 2013	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
4	健康づくりのための運動プログラム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
5	トレーニングの原理・原則	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
6	運動処方の条件	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
7	運動強度の指標	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
8	運動処方プログラムの構成	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
9	ウォーミングアップとクーリングダウン	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
10	有酸素性運動とその効果	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
11	有酸素性運動の強度	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
12	有酸素性運動の運動時間・頻度	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
13	有酸素性運動の指導上の留意点	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
14	レジスタンス運動	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	

15	健康づくりの運動プログラムの実際	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
1. 授業態度及び授業への参加姿勢 2. 筆記試験			1. 30% 2. 70%

授業科目名	健康管理学Ⅱ(鍼灸)（Healthcare Management Ⅱ）				
主担当教員	河合　英理子		担当教員	河合　英理子	
科目ナンバリング	CS023	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

近年、生活習慣病だけでなく、加齢に伴う生活機能低下を防ぐ対策が重要課題となってきている。健康寿命を延伸するために、日常生活でいかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と身体活動・運動不足の関連性、身体運動のメカニズム、および健康度の一つの尺度となる体力・日常動作について理解を深めると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防・介護予防に役立つ根拠について学修する。生活習慣病とロコモーティブシンドロームを予防し、健康寿命を延伸するための理論、並びに具体的な実践方法についても理解を深める。

到達目標

1. 生活習慣病・加齢に伴う生活機能低下に関する基礎知識を習得し、予防医学の重要性を理解する。
2. 健康寿命の延伸に必要な基礎知識、生活習慣病予防・介護予防に役立つ健康づくり運動の知識を説明できる。
3. 健康管理のための正しい知識を身につけ、健康の保持増進に役立てることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

この講義では、健康実践指導者の資格取得に向けて運動や健康に関する基礎を学びます。一緒に頑張っていきましょう。

教科書

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康体力づくり事業財団）

参考書

健康運動実践指導者試験 筆記対策 分野別&模擬問題集(NESTA JAPAN)
「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集(西端 泉)

研究室／オフィスアワー

講義の無い曜日は学校にいないので連絡があるときは講義の前後にお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	疾病構造の変化と健康管理	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
2	身体運動に関する筋肉・骨・関節	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
3	関節運動と筋機能	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
4	運動発現のメカニズム	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
5	骨格筋の収縮とエネルギー供給	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
6	筋繊維の種類とその特徴	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
7	筋収縮の様式と筋力	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
8	トレーニングと骨格筋	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
9	体力・基本的動作スキルの発達	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
10	老化に伴う身体機能の変化	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
11	姿勢と歩行の発達と退行	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
12	運動実践の効果	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
13	健康管理の進め方と実際１	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
14	健康管理の進め方と実際２	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	
15	健康管理の進め方と実際３	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにノート・プリントを確認	

成績評価方法と基準	割合
1. 授業態度及び授業への参加姿勢 2. 筆記試験	1. 30% 2. 70%

授業科目名	チーム医療とコミュニケーション(鍼灸)（Team Medical Care and Communication）				
主担当教員	増山 祥子		担当教員	増山 祥子、鍋田 智之	
科目ナンバリング	CS020	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

チーム医療とコミュニケーションについて、それぞれを分けて考える。

〇チーム医療

昨今、医療現場では様々な場面でチーム医療が重視されている。質の高い安全な患者中心の医療は、チーム医療として多職種連携を行うことが必須である。一方、鍼灸師は開業が中心であり、病院内でのチーム医療の輪の中に入っていない場合がほとんどである。しかし鍼灸師から見たチーム医療は病院の中だけでなく、開業医との連携、在宅医療への参入、介護施設やホスピスケアなど、将来様々な場面で多職種と連携すべき場面に遭遇することが予想される。この授業では、多職種連携における鍼灸師の役割と責務について理解し、鍼灸師としての連携のあり方について、実際の事例を通して考察する。

〇コミュニケーション
現代のはり師きゅう師は、単に治療法を習得するだけではなく、現在の患者や医療をとりまく社会環境を充分に理解、認識し、患者とのコミュニケーションを図る必要がある。医療コミュニケーションでは複雑な社会に生活する患者とのコミュニケーション形成を主体にし、医療面接技法を活用し、患者を取り巻く状況を理解することを目指す。

到達目標

患者ー医療者間のコミュニケーションの重要性を理解し、医療者としての基本的な態度や技術を身につける。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝについては、参加型の授業を実施するため、欠席しないようにすること

教科書

臨床医学総論

参考書

チーム医療論　鷹野和美　編著　　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

担当教員の研究室にて対応します。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	概論：チーム医療と鍼灸師／事例考察 1（医療機関とのコミュニケーション）	復習：チーム医療における鍼灸師の役割を考える	増山
2	事例考察 2（病院病棟）	予習：病院病棟の医療現場について調べてくること 復習：なし	増山
3	事例考察 3（ホスピス・緩和ケア）	予習：ホスピス・緩和ケアの医療現場について調べてくること 復習：なし	増山
4	事例考察 4（在宅医療）	予習：在宅医療の医療現場について調べてくること 復習：なし	増山
5	事例考察 5（介護施設）	予習：介護施設について調べてくること 復習：なし	増山
6	事例考察 6（災害ボランティア活動）	予習：災害ボランティア活動の医療現場について調べてくること 復習：なし	増山
7	事例考察 7 総論	予習：これまで実施した課題について確認してくること 復習：なし	増山
8	医療面接とは		鍋田

9	医療情報の記録と意義		鍋田
10	模擬症例を用いた面接トレーニング１		鍋田
11	模擬症例を用いた面接トレーニング２		鍋田
12	模擬症例を用いた面接トレーニング３		鍋田
13	模擬症例を用いた面接トレーニング４		鍋田
14	患者を対象とした医療面接と病態把握トレーニング１		鍋田
15	患者を対象とした医療面接と病態把握トレーニング２		鍋田
成績評価方法と基準			割合
チーム医療：毎回のレポート提出合計　50 点 医療コミュニケーション：医療面接実技試験　50 点 4/5 以上の出席が必要 DP②③			50% 50%

授業科目名	栄養学(鍼灸)（Nutriology）				
主担当教員	南方　克之		担当教員	南方　克之	
科目ナンバリング	CS024	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

国民総医療費は 38 兆 5850 億円に達し、その医療費の 55.6%は 65 歳以上の高齢者が占めているとのことである。2013 年度の高齢者数は 3190 万人（全人口の 25.1%）であるが、2030 年度には 3685 万人（31.6%）に達すると予測されている。総医療費の半分以上を占める高齢者が、15 年後には 3 人に 1 人の割合になることを考えると、いかにして高齢者の健康寿命を長くするかがとても重要になる。1 人でも多くの高齢者が健康で過ごせるように医療従事者が食事指導できることが大切と考え、健康の保持増進に欠くことのできない「栄養」に関する正しい知識を学修する。

到達目標

１．栄養素の種類と働きについて理解し、食生活と疾病の関係性について説明できる。
２．消化と吸収およびエネルギー代謝について説明できる。
３．ライフサイクルと栄養摂取について理解し、栄養アセスメントについて説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．「栄養学」に興味を持って授業に臨んでください。
２．初回授業で実施の詳細を説明します。

教科書

『イラスト基礎栄養学第 2 版』大口健司・小野廣紀・田村明／東京教学社

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

森ノ宮医療大学：西棟４F434 研究室（火曜日 11：00～18：00）
森ノ宮医療学園専門学校：２F 職員事務室／授業外対応可能（木曜日以外）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	栄養の概念	予習：教科書（P.1～12）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
2	食物の摂取	予習：教科書（P.13～19）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
3	消化・吸収と栄養素の体内動態①	予習：教科書（P.21～38）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
4	消化・吸収と栄養素の体内動態②	予習：教科書（P.21～38）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
5	たんぱく質の栄養①	予習：教科書（P.39～52）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
6	たんぱく質の栄養②	予習：教科書（P.39～52）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
7	炭水化物の栄養①	予習：教科書（P.53～63）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
8	炭水化物の栄養②	予習：教科書（P.53～63）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
9	脂質の栄養①	予習：教科書（P.67～77）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
10	脂質の栄養②	予習：教科書（P.67～77）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
11	ビタミンの栄養①	予習：教科書（P.79～97）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
12	ビタミンの栄養②	予習：教科書（P.79～97）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
13	ミネラル（無機質）の栄養	予習：教科書（P.99～112）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
14	水・電解質の栄養的意義	予習：教科書（P.113～121）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	
15	エネルギー代謝	予習：教科書（P.123～136）の確認 復習：授業をもとに授業内容の確認	

成績評価方法と基準	割合
定期試験　出題範囲：授業内で扱った範囲	100%

授業科目名	身体運動科学(鍼灸)（Science of Human Body Movement）				
主担当教員	今井　大喜		担当教員	今井　大喜	
科目ナンバリング	CS025	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

ヒトが運動する、あるいは活動するということはどういうことを意味するのか。本講義では、このような最も基本的な事柄から紐解き、身体を運動させることの意義や目的とその達成のために我々の身体がどのように適応するのかについて科学的根拠に基づきながら解説する。

到達目標

身体を運動させる意義や目的を理解し、各々の目的に応じた適応を自ら積極的に獲得できるような専門的知識を習得する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎時間コミュニケーションカードに授業内容についてのコメントや質問等を記入してもらう。必要に応じて授業の冒頭で返答する。

教科書

使用しない

参考書

必要に応じて紹介する

研究室／オフィスアワー

授業時限の前後 20 分

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	イントロダクション	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
2	健康と体力	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
3	体力と身体運動	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
4	運動のメカニズム	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
5	体力における精神的要素	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
6	運動時の体温調節（暑熱環境）	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
7	運動時の体温調節（寒冷環境）	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
8	運動と脱水	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
9	スポーツイベントと運動強度	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
10	筋力トレーニング	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
11	持久力トレーニング	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
12	運動トレーニングとエネルギー消費量	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
13	エネルギー補給とからだづくり	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
14	コンディショニングのための栄養	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
15	講義全体のまとめと振り返り	配布資料（Web 掲載）を参考に学修内容を整理しておくこと	
成績評価方法と基準			割合

①定期試験（80%） ②レポート（20%）	①80% ②20%

授業科目名	統合医療概論(鍼灸)（Introduction to Integrative Medicine）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、森 美侑紀、増山 祥子	
科目ナンバリング	CS027	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 1 限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要
統合医療という言葉が医療の中で使われるようになってきたが、実際に統合医療が何を指し、どうあるべきなのかについては合意が得られていない。本授業では、統合医療の概念と現状について解説するとともに、統合医療の重要な構成要素であるEBMと補完代替医療について概説する。また、各種治療の有効性と安全性について、エビデンスにもとづく批判的吟味のポイントについても解説する。
到達目標
１．統合医療の概念と現状について理解する。 ２．EBMの概念と手法について理解する。 ３．補完代替医療の種類と概要について説明できる。 ４．各種医療手段についてエビデンスにもとづく批判的吟味ができる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
医療や行政において統合医療は賛否両論である。医師その他の医療従事者も支持派と反対派に分かれている。本学学生も卒業すればいずれその議論に巻き込まれる。なぜ賛否両論があるのか、よく考えながら受講していただきたい。
教科書
資料を配布する。
参考書
各教員が必要に応じて授業担当時に紹介する。
研究室／オフィスアワー
山下　仁：東棟24研究室、月・火６時限
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医療におけるエビデンスの重要性	健康関連商品の広告に目を通す	山下
2	EBM	EBMについて調べる	山下
3	EBMシミュレーション	自分の専門領域のエビデンスについて調べる	増山
4	EBMと診療ガイドライン	自分の専門領域または興味のある疾患の診療ガイドラインを調べる	山下
5	健康産業と研究倫理・利益相反	利益相反状態と利益相反行為の違いについて調べる	山下
6	補完代替医療概論	代替医療と補完医療の違いについて調べる	山下
7	代表的な補完代替療法	自分が興味のある補完代替療法についてネットや図書館で調べる	山下
8	鍼灸のエビデンス	鍼灸に関する書籍や雑誌を図書館で調べる	山下
9	アロマセラピー①	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
10	アロマセラピー②	エッセンシャルオイルの種類について調べる	森
11	ヨガ・マインドフルネス	ヨガ・マインドフルネスに関するネット動画を見る	増山
12	サプリメント	興味のあるサプリメントを幾つか選んでその広告の内容に関する疑問点を調べる	山下
13	統合医療とスピリチュアルとNBM	スピリチュアルという概念について調べる	山下
14	緩和ケア・難病ケアと統合医療	末期がんまたは難病の患者の実情について調べる	増山

15	総括：統合医療は何を統合するのか	14 回までに習った内容を整理する	山下
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験 ②課題提出物			①70% ②30%

授業科目名	IPW 論(鍼灸)（Inter-Professional Work）				
主担当教員	増山 祥子		担当教員	増山 祥子、山下 仁、大川 祐世、角田 晃啓、中根 征也、村上 生美、吉村 弥須子、関根 将、藤江 建朗、小林 貴代	
科目ナンバリング	CS029	科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	水曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

各学科において、他学科の連携や知識・技術に触れることを目的に看護学・鍼灸学・作業療法学、臨床検査学および理学療法学
を学び、IPW（Interprofessional Work = 専門職連携）を 5 学科協働で演習形式にて実践する。
　各分野の特徴やチーム内での役割とその専門性を学び、その上で看護、鍼灸、作業療法、臨床検査、理学療法の各分野で共通する疾患や障害を基に、IPW の実際について、討議・経験・学修する。（オムニバス形式／全 15 回）

到達目標

各分野の講義を通じ専門性を理解しつつ、実際の症例を基に IPW を経験し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と倫理
観を養う。＜DP②③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1）授業中の私語、メールなどには厳しく対処する。
2）疑問点を大切にして常に自己で調べて解決するように行動すること。
3）出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う。

教科書

資料を配布あり

参考書

各自準備すること

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	医療系職種の理解①（看護学）	予習：本学看護学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：看護の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。	
2	医療系職種の理解②（理学療法学）	予習：本学理学療法学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：理学療法の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。	
3	医療系職種の理解③（作業療法学）	予習：本学作業療法学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：作業療法の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。	
4	医療系職種の理解④（臨床検査学）	予習：本学臨床検査学科のカリキュラムに目を通しておく。 復習：臨床検査の専門性を理解し、鍼灸との接点を理解しておく。	
5	医療系職種の理解④（臨床工学）	予習：本学臨床工学科のカリキュラムに目を通して	

		おく。 復習：臨床工学の専門性を理解し、鍼灸との接点を理 解しておく。	
6	チーム医療の実際 （各学科教員による Case Conference）	予習：鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	
7	症例提示におけるアプローチ立案とその考察 ①	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：デモンストレーションを通じ、各分野と鍼灸の役割を理解する。	
8	症例提示におけるアプローチ立案とその考察 ②	予習：鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	
9	症例提示におけるアプローチ立案とその考察 ③	予習：鍼灸師の役割を再確認しておく。 復習：立案したアプローチを各分野に説明できるよう に準備をしておく。	
10	症例提示におけるアプローチ立案とその考察 ④	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
11	IPW①（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
12	IPW②（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
13	IPW③（11 回〜14 回は 4 コマ連続）	予習：各分野の専門性についての復習をしておく。 復習：IPW で討議したことをまとめておく。	
14	IPW④（11 回〜14 回は 4 コマ連続） プレゼンテーション	予習：IPW で討議したことをまとめる。 復習：プレゼンテーションの準備。	
15	IPW⑤プレゼンテーションと振り返り	予習：プレゼンテーションの準備。 復習：IPW や発表で得たことをまとめておく。	
成績評価方法と基準			割合
1）レポート＜DP②③④＞ 2）【IPW】プレゼンテーション（提示するルーブリックに基づき表価する）＜DP②③④＞ 出席は 2/3 以上を必要とし、その基準を満たした者について成績評価を行う			40% 60%

授業科目名	西洋史概説(鍼灸)				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング	LA020	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

現代の日本社会においては、意識するしないに関わらず、様々な分野で西洋社会（ヨーロッパ諸国・北アメリカ）の影響を受けている。とりわけ江戸時代が終わり明治時代になって以降、政治・経済システムや文化といった側面で、日本は多くのものを西洋社会から受け入れ、伝統的な日本社会に溶け込ませようとしてきた（それがうまくいった例もあれば、失敗に終わった例もあろう）。　本講義では、そのような点で重要なものである西洋社会の特色について、西洋の歴史を古代から現代まで概観していくことで、理解を深めていくことを目指したい。
　西洋の歴史もかなり古く、数多くの重大な出来事が起こっているが、本講義ではそれらを網羅的に事細かく解説することは避け、いくつかのトピックに絞って西洋文化・社会の特徴を把握することを試みる。例えば古代ギリシャ・ローマ文明、中世のキリスト教社会の成立、近代の様々な革命的な出来事（科学革命・産業革命・政治革命）などである。
　また本講義では西洋における自然科学史、特に医療にかかわる歴史についても適時紹介し解説していきたい。現代の医療もまた様々な面で西洋文化の影響下にあり、西洋において「医」の考え方がどのように変遷していったのかを理解することは、現代の医療を学ぶ上でも重要な視点を与えてくれるだろう。

到達目標

１．現在の西洋社会の出発点ともいえる古代ギリシャ・ローマ文明の内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
２．現代の西洋社会においても重要な一部を成しているキリスト教が西洋中世においてどのように社会に浸透していったのかを理解することができる。〈DP③〉
３．ルネサンス期から近世にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には宗教改革や、17 世紀の科学革命、18 世紀の啓蒙思想などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
４．近代から現代にかけて、西洋社会で巻き起こった様々な変化を理解することができる。具体的には産業革命やフランス革命、アメリカの独立戦争や第一次・第二次世界大戦、東西冷戦などの内実と特徴を理解することができる。〈DP③〉
５．西洋の歴史において、医療についての考え方や医療技術がどのような変遷を経てきたのかを理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

現代の日本社会・文化においては、西洋社会・文化に由来するものが数多くあり、常識となっているものもあろう（逆に違和感があり馴染めないというものもあろう）。本講義では、そういったもののルーツとなるものを、西洋の歴史をたどって概観していくことで理解を深めてもらい、またそういったものについていろいろと考えを巡らせてみるきっかけとしてもらいたい。
　西洋史におけるさまざまなトピックを充分に学修するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。
　他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明（ガイダンス）。また講義の導入として古代ギリシャの文化・社会について①。	（予習）西洋社会・文化について自分がどういうイメージを抱いているのかを考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	古代ギリシャの文化・社会について②。およびヒポクラテスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。	

		（2 時間）	
3	古代ローマの文化・社会について。およびガレノスの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
4	中世キリスト教社会の成立について①。およびアヴィケンナの「医」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
5	中世キリスト教社会の成立について②。および「ペスト（黒死病）」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
6	ルネサンス、ルターの宗教改革、三十年戦争について。および「解剖学」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
7	１７世紀の西洋社会・文化について（近代的な国家の形成過程や科学革命など）。およびハーヴィの「血液循環論」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
8	１８世紀の啓蒙思想について（モンテスキュー、ルソー、アダム・スミスなどの思想）。およびレーウェンフックの「顕微鏡」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
9	産業革命とフランス革命について。およびパストゥールの「フラスコ」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
10	ウィーン体制と国民国家の形成過程、帝国主義について。および「X 線装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
11	アメリカ独立戦争とアメリカ合衆国の成立について。および「天然痘」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
12	第一次世界大戦前後の西洋社会・文化について（ロシア革命やヴェルサイユ体制など）。および「人工心肺装置」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
13	第二次世界大戦前後の西洋社会・文化について（世界大恐慌やファシズムの台頭など）。およびクリックとワトソンの「二重らせん」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
14	第二次世界大戦後の西洋社会・文化について（冷戦とポスト冷戦など）。および「MRI スキャナー」について。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。（2 時間） （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。〈DP③〉 小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数で述べることができるかどうかを評価する。 期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。	①期末試験 50% ②小テスト 50%

授業科目名	基礎英語演習(鍼灸)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA023	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

基本的な文法、語彙、表現を徹底的に習得する。<DP②>
TOEIC500 点相当の英語力を身に着ける。<DP②>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 1 Travel	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	品詞①：名詞（可算名詞・不可算名詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 2 Dining Out	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	品詞②：形容詞（名詞修飾、補語）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 3 Media	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	品詞③：副詞（動詞・形容詞修飾）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 4 Entertainment	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	
		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	時制（現在・過去・未来・現在進行形）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Unit 5 Purchasing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	3 単現の s（修飾語句を伴う主語）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 6 Clients	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	能動態・受動態（感情を表す表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 7 Recruiting	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	動詞の後ろの動名詞・不定詞（前置詞の後ろの動名詞、定型表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト<DP②> ②その他課題・授業態度・参加<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②60%

授業科目名	応用英語演習(鍼灸)				
主担当教員	藤重 仁子		担当教員	藤重 仁子	
科目ナンバリング	LA024	科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本授業では、TOEIC 形式の練習問題を解きながら、リーディング力とリスニング力を強化することを目的とする。頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、日常生活を送るうえで相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力を身に着ける。

到達目標

文法、語彙、表現を徹底的に習得する。〈DP②〉
TOEIC550 点相当程度の英語力を身に着ける。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-Intermediate (Yumiko Mizoguchi, Machiko Yanagita / 金星堂, 2019)
（前期に基礎英語演習を履修した者は、再度購入する必要はありません）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 22

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Introduction / Unit 8 Personnel	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	代名詞（主格・所有格・目的格・所有代名詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Unit 9 Advertising	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	比較（比較級、最上級、as ... as）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Unit 10 Meetings	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	前置詞（理由・譲歩・時、定型表現）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Unit 11 Finance	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	
		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	接続詞（理由・譲歩・時）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Unit 12 Offices	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	前置詞・接続詞対比	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Unit 13 Daily Life	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	関係代名詞（主格・所有格・目的格）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Unit 14 Sales & Marketing 語彙①（名詞・形容詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Unit 15 Events 語彙②（動詞・副詞）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①小テスト〈DP②〉 ②その他課題・授業態度・参加〈DP②〉 ③Review Test〈DP②〉 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②20% ③40%

授業科目名	運動学(鍼灸)（Kinesiology）				
主担当教員	髙橋　秀郎		担当教員	髙橋　秀郎	
科目ナンバリング	SB108	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要					
関節の動きを理解する。 関節の構成体である骨、筋を理解し、動力源である筋の作用を理解する。					
到達目標					
各関節の具体的な動きを理解、体験する。 筋の作用と実際の動きを関連付けさせる。DP①③					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
従前の解剖学の知識を復習する事 遅刻の申告、延着証明の提出は当日に限り有効とする					
教科書					
リハビリテーション医学　東洋療法学校協会編　・土肥信之著　・医歯薬出版株式会社					
参考書					
特に無し					
研究室／オフィスアワー					
共同研究室 /月曜日、水曜日、金曜日　各曜日9:00～17:45 但し講義時間以外					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　歩行とは　歩行サイクル	歩行の動作について	
2	歩行　歩行の期　重心の軌跡とメカニズム	動きと筋の作用の合致	
3	異常歩行の種類　説明	歩行に関する筋について	
4	関節運動とてこ　トルク　てこの３種類	動きと筋の作用の合致	
5	空間における関節運動　運動面と軸　重心線 下肢の荷重　異常姿勢	関節構造の理解 起始、停止の理解	
6	運動路と感覚路　錐体路と錐体外路　2 次ニューロン　反射　反射弓	反射の構成要素	
7	脊髄反射、姿勢反射と立ち直り反射 連合反応と共同運動	反射の構成要素	
8	随意運動と不随意運動　フィードバック制御 フィードフォワード制御　脊柱体幹の機能	運動の種類について	
9	脊柱の動きと筋の作用　胸郭の動きと呼吸筋の作用肩甲帯と肩の機能	関節構造の理解 起始停止の理解	
10	肩甲帯・肩とは、肩甲帯・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋	動きと筋の作用の合致	
11	肩甲帯・肩とは、肩甲帯・肩の構造 肩甲骨の動きと作用する筋	関節構造の理解 起始停止の理解	
12	肘と前腕の機能	動きと筋の作用の合致	
13	手と手指の機能　手指の内転と外転まで	関節構造の理解 起始停止の理解	
14	母指に作用する筋　手の変形　骨盤と股関節	動きと筋の作用の合致	
15	膝関節の機能　骨の構造　半月板　膝関節の靭帯	関節構造の理解 起始停止の理解	

成績評価方法と基準	割合
定期試験 DP①③	100%

授業科目名	生化学(鍼灸)（Biochemistry）				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング	SB120	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

生体の恒常性維持に必要な基本物質の構造と機能、それらの代謝に関する知識を学ぶ。

到達目標

1）細胞の基本構造と細胞内小器官の役割について説明できる。
2）三大栄養素（タンパク質・糖質・脂質）の構造と機能、代謝の概略について説明できる。
3）酵素の反応機構ならびに調節機構の概略を説明できる。
4）核酸の構造と機能、遺伝情報からのタンパク質合成について説明できる。
5）無機質やホルモンの作用について説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教科書を中心に講義を行いますが、板書内容や配布資料も参考にして理解を深めてください。

教科書

イラスト　生化学入門　相原英孝　他著　東京教学社

参考書

医学書院　生化学　人体の構造と機能②

研究室／オフィスアワー

西棟 239 研究室／ 火曜日・水曜日以外の 17：00～19：00
その他、質問等あればいつでもお越しください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人体の仕組み	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
2	タンパク質の構造と働き①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
3	タンパク質の構造と働き②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
4	糖質の構造と働き①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
5	糖質の構造と働き②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
6	脂質の構造と働き①	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
7	脂質の構造と働き②	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
8	核酸の構造と働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
9	酵素の性質と働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
10	ビタミンの種類と働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
11	水・無機質の働き	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
12	栄養素の消化と吸収	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
13	生体の恒常性を保つシステム	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
14	エネルギーの消費と供給 生体の防御システム（免疫）	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと	
15	全体のまとめと振り返り	予習：教科書の該当部分を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も合わせて振り返りを行うこと 予習復習を各１時間行うこと また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験	100%

授業科目名	病理学(鍼灸)（Pathology）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久、湯谷　達、川波　博	
科目ナンバリング	SB109	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

解剖学に重ねて、各臓器の機能、その間を流れる物の代謝を理解し、正常（健康）な状態の身体を理解し、異常（病的）な状態（病理学）と比較することで、病的状態の程度を診断できる力を身につける。

到達目標

身体（臓器）の働き（機能）を学び、正常（健康）な身体のメカニズムを理解した上で、疾病の病因や成り立ち、病態を理解する。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 病理学の理解を深めることは、解剖学や生理学のみならず病態学の理解を深めることにつながることから、積極的に学習すること。
2. 疑問点は大切にし、解決に向けて積極的に行動すること。
3. 出席は授業の理解にも影響することから、欠席をしないようにすること。
4. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる場合がある。その場合、速やかに退室すること。
5. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

1. 病理学概論　第２版. 社団法人東洋療法学校協会　監修. 医歯薬出版. 2004.
2. 必要に応じて、適宜プリントを配布する。

参考書

1. 標準病理学　第５版. 坂本 穆彦監修. 医学書院. 2015 年.

研究室／オフィスアワー

1. 川畑. C 棟研究室 707／木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。
2. 湯谷. 兼任講師のため, 質問等は授業前後の時間に受け付けます。
3. 川波. 兼任講師のため, 質問等は授業前後の時間に受け付けます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病理学の概要（概論、疾病について）	予習：人体の構造、機能で学んだ組織・細胞の確認（解剖学、生理学教科書の当該箇所）、シラバスの確認 復習： 授業で学んだに病理学の概要（概論、疾病について）ついて復習すること（病理学概論 p1-5、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
2	病因１（内因、栄養障害）	予習：シラバス・教科書（p7-17）の確認 復習：授業で学んだ病因（内因、栄養障害）について復習すること（教科書 p7-17、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	湯谷
3	病因２（物理的外因、化学的外因、生物学的外因）	予習：シラバス・教科書（p17-26）の確認 復習：授業で学んだ病因（物理的外因、化学的外因、生物学的外因）について復習すること（教科書 p17-26、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	湯谷
4	循環障害１（充血、うっ血、貧血・虚血、出血）	予習：シラバス・教科書（p27-32）の確認 復習：授業で学んだ循環障害（充血、うっ血、貧血・虚血、出血）について復習すること（教科書 p27-32、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	湯谷
5	循環障害２（血栓、塞栓、梗塞、浮腫）	予習：シラバス・教科書（p32-38）の確認 復習：授業で学んだ循環障害（血栓、塞栓、梗塞、浮腫）について復習すること（教科書 p32-38、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	湯谷
6	炎症（炎症の一般、分類）	予習：シラバス・教科書（p59-69）の確認 復習：授業で学んだ炎症（炎症の一般、分類）について復習すること（教科書 p59-69、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	湯谷
7	退行性病変１（萎縮、変性）	予習：シラバス・教科書（p39-44）の確認 復習：授業で学んだ退行性病変（萎縮、変性）について復習すること（教科書 p39-44、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
8	退行性病変２（加齢と老化、生活習慣病、壊死と死）	予習：シラバス・教科書（p44-48）の確認 復習：授業で学んだ退行性病変（加齢と老化、生活習慣病、壊死と死）について復習すること（教科書 p44-48、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
9	進行性病変（肥大・増殖、再生、化生、移植、創傷治癒・異物の処理）	予習：シラバス・教科書（p49-58）の確認 復習：授業で学んだ進行性病変（肥大・増殖、再生、化生、移植、創傷治癒・異物の処理）について復習すること（教科書 p49-58、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
10	腫瘍１（腫瘍の形態と構造、腫瘍細胞、組織学、分類、発生諸段階）	予習：シラバス・教科書（p71-81）の確認 復習：授業で学んだ腫瘍（腫瘍の形態と構造、腫瘍細胞、組織学、分類、発生諸段階）　について復習すること（教科書 p71-81、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
11	腫瘍（生体に及ぼす影響、発生原因、良性・悪性腫瘍）	予習：シラバス・教科書（p82-90）の確認 復習：授業で学んだ腫瘍（生体に及ぼす影響、発生原因、良性・悪性腫瘍）について復習すること（教科書 p82-90、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
12	免疫異常１（免疫の仕組み、アレルギー）	予習：シラバス・教科書（p91-94）の確認 復習：授業で学んだ免疫異常（免疫の仕組み、アレルギー）について復習すること（教科書 p91-94、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
13	免疫異常２（免疫不全、自己免疫疾患）	予習：シラバス・教科書（p94-97）の確認 復習：授業で学んだ免疫異常（免疫不全、自己免疫疾患）について復習すること（教科書 p94-97、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
14	先天異常（奇形、遺伝性疾患、染色体異常）	予習：シラバス・教科書（p99-108）の確認 復習：授業で学んだ先天異常（奇形、遺伝性疾患、染色体異常）について復習すること（教科書 p99-108、配布資料） なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
15	病理学概論のまとめ	予習：シラバス・教科書の確認 復習：教科書や板書内容、配布資料も合わせて復習を行うこと。予習復習を各１時間行うこと。また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	川畑

成績評価方法と基準	割合
①定期試験〈DP②〉	①100%

授業科目名	臨床医学総論(鍼灸)				
主担当教員	辻丸　泰永		担当教員	辻丸　泰永	
科目ナンバリング	SB121	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

良き医療人になるためには、適切な診察法を理解し、疾患の主な症候を理解することが重要である。内科学・整形外科学を基盤とした診察法・検査所見・症候学の理解を深める.

到達目標

1. 症候の理解を深める。
2. 各症候、診察結果、検査結果から考えられる疾患を想起出来る様にする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 医療人として重要な知識であることを認識する。
2. 疑問点は大切にし、解決の向けて努力すること。
3. 授業中の許可のない入退室および睡眠は認めない。
4. 最低限度の礼儀をわきまえること。
5. 3分の2以上の出席を求める。
6. 各講義毎に予習１時間、復習１時間を必ずおこなって下さい。

教科書

臨床医学総論（東洋療法学校協会編　医歯薬出版株式会社）

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

水曜日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	頸肩腕痛（肩こり）	予習：頸肩腕痛（肩こり）の分類、発生機序を理解する。 復習：診察・検査から肩こり（頸肩腕痛）の原因疾患を想起出来る様にすること。 各講義ごとに予習１時間、復習１時間おこなう事。 以下同様におこなって下さい。	
2	肩痛・上肢痛・関節痛	予習：肩痛・上肢痛・関節痛の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査から肩痛・上肢痛・関節痛の原因疾患を想起出来る様にすること	
3	腰下肢痛・運動麻痺	予習：腰痛・腰下肢痛・運動麻痺の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査から腰痛・腰下肢痛・運動麻痺の原因疾患を想起出来る様にすること	
4	発熱・発疹・口渇	予習：発熱・発疹・口渇の分類、発症機序を理解する。復習：診察・検査から発熱・発疹・口渇の原因疾患を想起出来る様にすること	
5	嗄声・嚥下困難・血痰・喀血	予習：嗄声・嚥下困難・血痰・喀血の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査から嗄声・嚥下困難・血痰・喀血の原因を想起出来る様にすること。	
6	頭痛・顔面痛・歯痛	予習：頭痛・顔面痛・歯痛の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査から肩こりの原因疾患を想起出来る様にすること	
7	めまい・耳鳴り・難聴・眼振	予習：めまい・耳鳴り・難聴・眼振の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査からめまい。耳鳴り・難聴の原因疾患を想起出来る様にすること	
8	不眠・疲労・倦怠	予習：不眠・疲労・倦怠の分類、発症機序を理解する。復習：診察・検査から不眠、疲労、倦怠感の原因疾患を想起出来る様にすること	
9	動悸・胸痛	予習：動悸・胸痛の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査から動悸・胸痛の原因疾患を想起出来る様にすること	
10	咳･痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難（息切れ）	予習：咳･痰・鼻閉・鼻汁・呼吸困難の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査から咳・痰・鼻閉・呼吸困難の原因疾患を想起出来る様にすること	
11	腹痛・吐血・下血・易感染	予習：腹痛・吐血・下血・易感染の分類、発症機序を理解する。 復習：診察・検査から腹痛・吐血・下血・易感染の原因疾患を想起出来る様にすること	
12	排尿障害（頻尿・無尿・多尿）・浮腫	予習：排尿障害・浮腫の分類、発症機序を理解する。復習：診察・検査から排尿異常・浮腫の原因疾患を想起出来る様にすること	
13	月経異常・不正性器出血	予習：月経異常・不正器出血の分類・発症機序を理解する。 復習：診察・検査から月経異常・不正性器出血の原因疾患を原因疾患を想起出来る様にすること	
14	肥満・やせ・便秘・下痢・食欲不振	予習：肥満・やせ・便秘・下痢・食欲不振の分類発症機序を理解する。 復習：診察・検査から肥満・やせ・便秘・食欲不振の原因疾患を想起出来る様にすること	
15	出血・貧血・ショック	予習：出血・貧血・ショックの分類発症機序を理解する。 復習：診察・検査から出血・貧血・ショックの原因疾患を想起出来る様にすること	

成績評価方法と基準	割合
1.筆記テスト 100% 2.3分2以上の出席	1.100% ※3分の2以上の出席がないと受験資格がありません

授業科目名	整形外科学(鍼灸)（Orthopedics）				
主担当教員	髙橋　秀郎		担当教員	髙橋　秀郎	
科目ナンバリング	SB111	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

整形外科疾患は、四肢・体幹の運動器の疾患で鍼灸やスポーツ医学では特に重要である。四肢体幹の診断・治療をすすめていく上で知っておくべき整形外科学を学ぶ。

到達目標

1. 整形外科医がどのように整形外科疾患を診断・治療するのかを学ぶ。
2. 基本は運動器の解剖である。
3. 整形外科疾患の保存療法と手術療法を学ぶ。
4. 整形外科疾患に対する治療をすすめる上で必要な整形外科学基礎知識を学ぶ。
5. 整形外科疾患が原因の身体障害者に対する基本的動作能力の回復を図るには、何が必要かを学ぶ。運動器の問題点を見つける目を育てる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

整形外科学は解剖学、生理学、臨床病態学を土台とするものである。教科書、スライドを中心に授業を進めるが、これまでに他の講義で学んできた局所解剖や運動機能の評価方法等について質問することから始める。質問は座席表にしたがって行う。教科書にない疾患や病態も重要なものは一部講義対象にするが、これらは配布するプリントでカバーする。

注意事項
１．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
２．疾患について理論的なイメージを持ち、理解する努力をすること。
３．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
４．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる。最低限の礼儀を辨えること。
６．遅刻の申告、延着証明の提出は当日限り有効とする
７．座席表にしたがって、着席すること。

教科書

臨床医学各論（第２版）医歯薬出版 121 頁～192 頁

参考書

整形外科疾患の理学療法 金原出版、運動機能障害症候群のマネジメント 医歯薬出版
標準整形外科学　医学書院

研究室／オフィスアワー

共同研究室 /月曜日、水曜日、金曜日　各曜日 9:00～17:45
但し講義時間以外

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	自己紹介、今後の授業について	インフォームドコンセントについて理解すること。	
2	整形外科総論（１）：保存的治療と観血的治療	運動器の解剖、関節の動き（基本）について解剖学で学んだことを予習しておくこと	
3	整形外科総論（２）：診断と検査	授業で学んだ筋力評価、整形外科的診察法、画像診断法の理解を深めること。	
4	関節疾患（１）	関節の構造、関節症について復習し理解すること。	
5	関節疾患（２）	小児関節疾患を含むその他の関節疾患について復習し理解を深めること。小テストを実施する。	
6	骨代謝性疾患、骨腫瘍	骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、骨腫瘍について授業内容を復習し理解を深めること。	
7	関節リウマチと類縁疾患	授業に使うスライドとプリントを復習すること。	
8	筋・腱膜疾患	運動器疾患術後管理・合併症を理解し、周術期看護を整理すること。	
9	形態異常（小児整形）	先天性股関節脱臼、内反足、筋性斜頸、側彎症について理解を深めること。	
10	脊椎疾患（１）	椎間板ヘルニア、後縦靱帯骨化症、変形性脊椎症について理解を深めること。	
11	脊椎疾患（２）	脊椎骨折、脊髄損傷について理解を深めること。小テストを実施する。	
12	骨及び軟部組織の外傷（１）	骨折、脱臼、捻挫について復習して理解を深めること。	
13	骨及び軟部組織の外傷（２）	スポーツ障害（テニス肘、ゴルフ肘、野球肘野球肩、ジャンパー膝）について復習して理解を深めること。	
14	ロコモと高齢者運動療法	授業に使うスライドとプリントを復習すること。小テストを実施する。	
15	その他の整形外科疾患	胸郭出口症候群、頚腕症候群、手根管症候群について復習して理解を深めること。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験	100%

授業科目名	内科学(鍼灸)（Internal Medicine）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久、川波　博	
科目ナンバリング	SB122	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

各臓器の構造や機能（解剖学・生理学）、さらには病態（病理学）を把握したうえで、診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。また各種疾患について臓器別に学び、その病態・治療を論理的に理解・説明できるようにする。

到達目標

１．消化器系、循環器系、呼吸器系、内分泌系の各種臓器の働きを理解する。〈DP②〉
２．症状・症候の病的意義が説明できる。〈DP②〉
３．各種疾病の病態を理解し、そこから臨床症状が合理的に説明できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 内科学の理解を深めることは、臨床における鑑別や正確な判断につながることから、積極的に学習すること。
2. 各疾患の病態を論理的に理解したうえで、疑問点は大切にし、解決に向けて積極的に行動すること。
3. 出席は授業の理解にも影響することから、欠席をしないようにすること。
4. 私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させる場合がある。その場合、速やかに退室すること。
5. 受講にあたっては最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

1. 臨床医学各論 第２版. 医歯薬出版株式会社. 東洋療法学校協会編. ISBN978-4-263-24168-4
2. 適宜プリントや資料を配布する。

参考書

1. 臨床医学総論 第２版. 東洋療法学校協会編/奈良信雄著. 医歯薬出版株式会社.
2. 病気がみえる vol1-4（消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、呼吸器）. MEDIC MEDIA.
3. その他講義内で適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

1. 川畑. C棟研究室 707／木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。
2. 川波. 兼任講師のため, 質問等は授業前後の時間に受け付けます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	消化管疾患-1	予習：シラバス・教科書（p21-25）を確認しておくこと。あわせて口腔と食道の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ消化器疾患（口腔・食道疾患）について復習すること（教科書 p21-25、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
2	消化管疾患-2	予習：シラバス・教科書（p26-31）を確認しておくこと。あわせて胃・十二指腸の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ消化器疾患（胃・十二指腸疾患）について復習すること（教科書 p26-31、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
3	消化管疾患-3	予習：シラバス・教科書（p31-40）を確認しておくこと。あわせて大腸・腹膜の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ消化器疾患（大腸・腹膜疾患）について復習すること（教科書 p31-40、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
4	肝胆膵疾患-1	予習：シラバス・教科書（p41-51）を確認しておくこと。あわせて肝臓の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ消化器疾患（肝疾患）について復習すること（教科書 p41-51、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
5	肝胆膵疾患-2	予習：シラバス・教科書（p51-56）を確認しておくこと。あわせて胆嚢、膵臓の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ消化器疾患（胆嚢・膵臓疾患）について復習すること（教科書 p51-56、配布資料）。	川畑
		なお予習、復習を各１時間行うこと。	
6	循環器疾患-1	予習：シラバス・教科書（p193-208）を確認しておくこと。あわせて心臓の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ心疾患について復習すること（教科書 p193-208、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
7	循環器疾患-2	予習：シラバス・教科書（p193-208）を確認しておくこと。あわせて心臓の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ心疾患について復習すること（教科書 p193-208、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川波
8	循環器疾患-3	予習：シラバス・教科書（p208-219）を確認しておくこと。あわせて動脈（血圧）の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ動脈疾患および高血圧について復習すること（教科書 p208-219、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
9	循環器疾患-4	予習：シラバス・教科書（p208-219）を確認しておくこと。あわせて動脈（血圧）の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ動脈疾患および高血圧について復習すること（教科書 p208-219、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
10	呼吸器疾患-1	予習：シラバス・教科書（p57-65）を確認しておくこと。あわせて呼吸器の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ感染性呼吸器疾患について復習すること（教科書 pp57-65、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
11	呼吸器疾患-2	予習：シラバス・教科書（p65-73）を確認しておくこと。あわせて呼吸器の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ閉塞性・拘束性呼吸器疾患について復習すること（教科書 p65-73、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
12	呼吸器疾患-3	予習：シラバス・教科書（p74-80）を確認しておくこと。あわせて呼吸器の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ気胸、肺癌、気管支拡張症などについて復習すること（教科書 p74-80、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
13	内分泌疾患-1	予習：シラバス・教科書（p97-105）を確認しておくこと。あわせて下垂体、甲状腺の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ下垂体、甲状腺疾患について復習すること（教科書 p97-105、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
14	内分泌疾患-2	予習：シラバス・教科書（p105-109）を確認しておくこと。あわせて副腎の解剖学、生理学についても確認しておくこと。 復習：授業で学んだ副腎疾患について復習すること（教科書 p105-109、配布資料）。 なお予習、復習を各１時間行うこと。	川畑
15	内科学のまとめ（消化器・循環器・呼吸器・内分泌）	予習：シラバス・教科書の確認 復習：教科書や板書内容、配布資料も合わせて復習を行うこと。予習復習を各１時間行うこと。また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	川畑

成績評価方法と基準	割合
1. 定期試験〈DP②〉	100%

授業科目名	臨床医学各論Ⅰ(鍼灸)（Detailed Clinical Medicine Ⅰ）				
主担当教員	三木　宏文		担当教員	三木　宏文	
科目ナンバリング	SB123	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講座では、脳神経疾患の基礎を学び、兆候から診断、治療について、総合的に理解することを目標とする。基本病態生理を理解して、代表的疾患を通じ、神経学の応用が得られるよう学習を進めてもらうことを期待する。

到達目標

中枢神経系、末梢神経系の基礎を理解し、代表的疾患を通じてその病態生理の理解と、応用ができる学力を養成することを目標とする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は基本的に教科書に準じて進め、試験も講義内容から出題するため、日々の講義内容を理解することに努め、予習復習を旨として欲しい。評価に際し、出席は重視します。必要に応じ、資料を配布いたします。

教科書

東洋療法学校協会編：臨床医学各論　医歯薬出版株式会社　第２版

参考書

生塩之敬、種子田護、山田和雄　編集：ニュースタンダード脳神経外科学（第３版）

研究室／オフィスアワー

研究室１３

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	神経疾患総論１	神経系の解剖と機能を理解する	
2	神経疾患総論２	神経系の生理機能と病態生理	
3	神経疾患総論３	神経系の病態生理	
4	脳血管疾患１	脳血管障害の基礎と病態生理を理解する。脳梗塞を中心に解説する。	
5	脳血管疾患２	脳血管障害の病態生理と治療を理解する。くも膜下出血、脳内出血を中心に解説する。	
6	感染性疾患	神経系感染性疾患について代表的疾患と病態生理を理解する	
7	脳・脊髄腫瘍	脳腫瘍を中心に代表的脳腫瘍につき解説し、病態生理を理解する。	
8	基底核変性疾患	パーキンソン病を中心とした基底各変性疾患疾患につき解説する。	
9	その他の変性疾患	その他の変性疾患につき、解説する	
10	認知症性疾患	脳疾患の総集としての認知症につき、考える応用能力を鍛える。	
11	外科学概論１	外科学の総論的知識を学ぶ	
12	外科学概論２、麻酔学概論	外科学、麻酔学の総論的知識を学ぶ	
13	外科学各論１	損傷の概論を学ぶ	
14	外科学各論２	熱傷を中心に解説する	
15	救命救急	救命救急の現状と概要を解説する。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験の成績にて行う	100%

授業科目名	臨床医学各論Ⅱ(鍼灸)（Detailed Clinical Medicine Ⅱ）				
主担当教員	小黒 亮輔		担当教員	小黒 亮輔	
科目ナンバリング	SB124	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

臨床医学各論Ⅱでは、神経内科、婦人科、小児科、心療内科について基本的な知識を身につけることを目的とする。神経内科領域では、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の障害によって起こるさまざまな疾患について学び、各疾患の病態、症状、診断、治療について学修する。婦人科系では、子宮癌、乳癌、月経異常や更年期障害を中心に学修する。小児科系では小児神経症や夜尿症を中心に学修する。心療内科では心身症や神経性食行動異常を中心に学修する。内容は教科書に準拠するが、必要と思われる領域については追加で解説を行う。

到達目標

１）各種疾患・病態を理解し、論理的に説明できる。〈DP②〉
２）病態から治療が合理的に説明できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．医療人として重要な知識であることを認識すること。
２．講義を聞かずに教科書だけ読んでも理解困難と考えられるため、出席して講義を聞くこと。
３．疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。
４．努力をしない学生・態度不良の学生には単位を与えることはできません。
５．私語は授業妨害・他学生への迷惑行為なので退室させます。その場合、速やかに退室すること。
６．最低限の礼儀をわきまえること。

教科書

東洋療法学校協会編：臨床医学各論　医歯薬出版株式会社

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

木曜日４時限の授業前後／Ｅ棟 1F 非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	脳血管疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 236～243 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
2	感染性疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 243～246 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
3	脳・脊髄腫瘍	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 247～252 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
4	基底核変性疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 252～255 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
5	その他の変性疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 255～257 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
6	認知症性疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 257～260 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
7	筋疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 260～263 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
8	運動ニューロン疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 263～264 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
9	末梢神経性疾患	＜予習・復習各２時間＞ 予習：教科書 264～269 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	

10	神経痛	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：教科書 269～271 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
11	機能性疾患	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：教科書 272～274 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
12	小児科疾患	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：教科書 286～287 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
13	婦人科疾患	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：教科書 311～314 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
14	心療内科	＜予習・復習各 2 時間＞ 予習：教科書 325～326 ページを読んでおく 復習：本授業を振り返りノートにまとめる	
15	授業の振り返りと確認テスト		
成績評価方法と基準			割合
定期試験（筆記試験）〈DP②〉			100%

授業科目名	臨床医学各論Ⅲ(鍼灸)（Detailed Clinical Medicine Ⅲ）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	SB125	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

感覚器には聴覚器・視覚器・触覚器などがあり、特に授業では耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科領域の基礎知識、各領域の重要な疾患、および診察法を学習する。

到達目標

耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科領域の構造と機能、領域の疾患の特徴を理解し、病態生理・検査方法・治療法が説明できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．配布された資料にも眼を通すこと。
２．出席は重視する。
３．復習・予習を必ず各 1 時間すること。

教科書

配布資料

参考書

系統看護学講座　成人看護学［12］皮膚　渡辺晋一　医学書院
系統看護学講座　成人看護学［13］眼　大鹿哲朗　医学書院
系統看護学講座　成人看護学［14］耳鼻咽喉　小松浩子　医学書院

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室９
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	耳鼻咽喉科 1 耳・鼻・口腔・咽喉頭の解剖学的な構造と機能	予習：解剖学と生理学を再度確認すること。 復習：基本的な構造を覚えること。	
2	耳鼻咽喉科 2 重要な症状の病態生理	予習：症状から考えられる疾患を理解すること。 復習：疾患の病態生理と症状を理解すること。	
3	耳鼻咽喉科 3 耳鼻科の検査と治療法	予習：簡易な検査方法の名称を理解すること。 復習：検査方法の意義を確認すること。	
4	耳鼻咽喉科 4 耳・鼻の重要な疾患について	予習：耳・鼻の構造と症状について理解すること。 復習：耳・鼻の疾患と症状の関連性について理解すること。	
5	耳鼻咽喉科 5 咽喉頭の重要な疾患について	予習：咽喉頭の構造と機能について理解すること。 復習：咽喉頭の重要疾患について理解すること。	
6	耳鼻咽喉科 6 疾患の要点	予習：耳鼻咽喉科疾患について理解すること。 復習：重要な疾患とその検査法と治療法について理解すること。	
7	眼科 1 眼の解剖学的な構造と機能	予習：解剖学と生理学を再度確認すること。 復習：基本的な構造を覚えること。	
8	眼科 2 重要な症状の病態生理	予習：眼科の症状について理解すること。 復習：眼科の症状と考えられる疾患の関連性について理解すること。	
9	眼科 3 眼科の検査と治療法	予習：眼科の検査には何があるか理解すること。 復習：検査結果と疾患の関連性について理解すること。	
10	眼科 4 眼の重要な疾患について	予習：眼の疾患について調べ理解すること。 復習：眼の疾患と症状、検査方法を理解すること。	
11	皮膚科 1 皮膚の解剖学的な構造と機能	予習：解剖学・生理学を再度確認すること。 復習：基本的な構造を覚えること	

12	皮膚科２ 重要な症状と病態生理	予習：皮膚の症状について理解すること。 復習：皮膚科の症状と考えられる疾患の関連性について理解すること。	
13	皮膚科３ 皮膚科の検査と治療法	予習：皮膚科の検査について理解すること。 復習：検査結果と疾患の関連性について理解すること。	
14	皮膚科４ 皮膚の重要な疾患について	予習：皮膚の構造と症状につい理解すること。 復習：皮膚科の疾患と症状の関連性について理解すること。	
15	眼科・皮膚科 疾患の要点	予習：眼科・皮膚科の疾患について理解すること。 復習：重要な疾患とその検査法と治療法について理解すること。	
成績評価方法と基準			割合
定期試験の受験資格は２/３以上の出席。 定期試験を実施して評価を行う。(60%以上)〈DP②〉			100%

授業科目名	スポーツ医学(鍼灸)（Sports Medicine）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久、吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SB116	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

2 年次の整形外科学で学んだ運動器の解剖とスポーツ傷害について、メディカルチェックや症状、対処法などについてより理解を深め、またスポーツ外傷における救急処置の重要性についても学ぶ。あわせてスポーツ現場で遭遇しやすい内科疾患についてもメディカルチェックや症状について学ぶ。

到達目標

1. 重症度と緊急度を理解し、スポーツ現場で発生する最も重篤な心肺停止に対応できるようになること、また、発生頻度の高い脳震盪と頭部外傷、熱中症の病態を理解し、発生現場における予防や救急処置法を習得する。〈DP①②③〉
2. さらにスポーツ現場で遭遇する運動器の外傷や障害、内科疾患についてのメディカルチェックや対処法についても習得する。〈DP①②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

スポーツ医学は、運動器の解剖学、生理学を土台にするもので、他の講義で学んだ局所解剖や運動機能の評価方法、理学所見の取り方等を質問することから始める。ほとんどの授業内容は、資料として配付するスライドを中心に進めるので、講義に出席せず、資料だけを見ても理解困難である。心停止や頭部外傷、熱中症等の傷害発生の理論的なイメージを獲得する努力をすることが重要である。

教科書

配布プリント（適宜配布いたします。）

参考書

1. 臨床医学各論（第 2 版）医歯薬出版 179 頁～185 頁、288 頁～301 頁
2. 救急蘇生法の指針 2015（医療従事者用、改訂第 5 版）へるす出版
3. 標準整形外科学 第 12 版.中村利孝/松野丈夫 監修.医学書院.2014.
4. 新版 スポーツ整形外科マニュアル.福林徹 監修. 中外医学社.2013.
5. スポーツ整形外科学.中嶋寛之 編集.南江堂.1998 年.

研究室／オフィスアワー

吉岡敏治（C 棟研究室４）／原則月曜日２・３時間目ですが、その他、部屋にいれば、いつでも訪問可です。
川畑浩久（C 棟研究室 707）／木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	スポーツ外傷の救急処置： 重症度と緊急度、心肺蘇生について	予習：整形外科学の外傷部分（臨床医学総論、各論の当該箇所） 復習：配布プリントならびに臨床医学総論、各論の当該箇所を参照 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	吉岡
2	スポーツ外傷の救急処置： 脳震盪と頭部外傷、脊髄損傷、熱中症について	予習：スポーツにより発生する重篤な外傷として、頭部外傷や脊髄損傷、熱中症の講義が他の講座で行われていれば、その部分をみなおしておくこと（臨床医学総論、各論の当該箇所参照） 復習：配布プリントならびに臨床医学総論、各論の当該箇所を参照 なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	吉岡
3	スポーツ障害の総論： 1）運動器疾患に対する健診およびメディカルチェック 2）運動器外傷に対する応急処置 3）内科的疾患に対するメディカルチェック	予習：スポーツにより発生する主な運動器疾患ならびに内科的疾患について予習しておくこと（臨床医学各論の該当箇所） 復習：これまで学んだ運動器疾患ならびに内科的疾患の検査法、治療法などについて復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑
4	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肩関節の外傷について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論（教科書）の該当箇所参照） なお予習、復習を各 1 時間行うこと。	川畑

5	肩関節のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：肩関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肩関節の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
6	肘関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：肘関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ肘関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
7	手関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：手関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ手関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
8	指関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：指関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ指関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
9	股関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：股関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ股関節の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
10	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：膝関節の解剖学、運動学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ膝関節の外傷について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
11	膝関節のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：膝関節の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ膝関節の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
12	下腿部・足関節・足部のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）	予習：下腿、足関節、足部の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ下腿、足関節、足部の外傷について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
13	下腿部・足関節・足部のスポーツ外傷・障害： 1）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：下腿、足関節、足部の解剖学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ下腿、足関節、足部の障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
14	体幹（頚部、胸部、腰部）のスポーツ外傷・障害： 1）急性外傷の症状（自覚症状・他覚所見）と処置方法（スポーツの中止と応急処置ならびにその後の治療法）および 2）慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法	予習：頚部、胸部、腰部の解剖学、運動学について予習しておくこと（解剖学（教科書）の該当箇所参照） 復習：授業で学んだ頚部、胸部、腰部の外傷、障害について復習すること（配布資料ならびに臨床医学各論の該当箇所参照） なお予習、復習を各1時間行うこと。	川畑
15	スポーツによる内科的疾患： 1）循環器・呼吸器疾患における慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに予防法 2）消化器・泌尿器疾患における慢性的な障害の症状（自覚症状・他覚所見）と治療法ならびに	予習：スポーツにより発生する主な循環器、呼吸器、消化器、泌尿器などの疾患の症状などについて予習しておくこと（臨床医学総論、各論の当該箇所） 復習：これまで学んだ循環器、呼吸器、消化器、泌尿器疾患について復習すること（配布プリン	川畑

	予防法	トならびに臨床医学総論、各論の当該箇所） なお予習、復習を各1時間行うこと。また、本授業の総まとめを30時間自宅学習すること。	
成績評価方法と基準			割合
1. 定期試験〈DP①②③〉			100%

授業科目名	リハビリテーション医学(鍼灸)（Rehabilitation Medicine）				
主担当教員	髙橋　秀郎		担当教員	髙橋　秀郎	
科目ナンバリング	SB117	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの概念や、代表的疾患のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの実際を概説する

到達目標

他職種である理学療法士との情報共有するための基礎知識を習得する DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

新しい知見の習得に努めること
遅刻の申告、延着証明の提出は当日に限り有効とする

教科書

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学　東洋療法学校協会編　・土肥信之著　・医歯薬出版株式会社

参考書

和才　嘉昭、細川　一郎　共著：リハビリテーション技術全書；株式会社　医学書院

研究室／オフィスアワー

共同研究室　月曜日、水曜日、金曜日　各曜日の９：00～17：45
但し講義の時間は除く

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	Aﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝと障害　基本理念　自立生活Bﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学と医療　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学の概念	教科書の熟読ノートの整理	
2	C障害の評価　心身機能・身体構造の評価　活動の評価	身体構造の理解と解剖学の復習	
3	C障害の評価　参加の評価　合併症（廃用症候群）の評価　失行、失認ﾃｽﾄ	身体構造の理解と解剖学の復習	
4	D医学的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ　装具療法と義肢	身体構造の理解と解剖学の復習	
5	D医学的ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ　装具療法と義肢	身体構造の理解と解剖学の復習	
6	脳卒中のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ脳卒中とは評価急性期のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理学療法、作業療法	教科書の用語の理解評価方法の復習	
7	脳卒中のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ回復期のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ理学療法、作業療法言語療法脳卒中ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのｺﾞｰﾙ	教科書の用語の理解評価方法の復習	
8	脊髄損傷のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ　脊髄損傷とは　脊髄損傷による症状と障害	脊髄の構造について予習	
9	脊髄損傷のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ　急性期のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ回復期のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	教科書の用語の理解ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの目的の理解	
10	切断のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ　切断の原因と分類　合併症	教科書の熟読ノートの整理	
11	小児のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ　小児のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの特徴脳性麻痺のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	教科書の用語の理解ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの目的の理解	
12	骨関節疾患末梢神経麻痺関節リウマチ呼吸器疾患のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ慢性閉塞性肺疾患	解剖学の復習特に末梢神経について	
13	正常歩行と異常歩行歩行とは歩行のサイクル	下肢関節の構造と筋肉の予習	
14	正常歩行と異常歩行　歩行の速度とエネルギー消費　歩行の分析　異常歩行	下肢関節の構造と筋肉の予習	
15	講義全体のまとめと振り返り	講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準	割合
定期試験（100%）DP①②	100%

授業科目名	画像診断学(鍼灸)（Image Diagnosis）				
主担当教員	髙橋　秀郎		担当教員	髙橋　秀郎	
科目ナンバリング	SB118	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

放射線の歴史を学び、画像診断とは、医療においてどのような役割を占めているのか、一般撮影、CT、MRI、超音波などの検査の種類や基礎的なことを学ぶと共に専門職として鍼灸師を目指す学生にも、様々な医療画像を読める力をつける。

到達目標

1.各画像より局所の構造を理解する
4.正常像を理解し局所の異常を見出す努力をする。
6.検査の目的を理解する。
7.色々な検査や疾患との関わりを理解する
8.各画像より疾患の概要を理解する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.各モダリティでの画像診断の特徴を認識する。
2.配布された講義資料に目を通すこと。
3.授業内容での講義内容に耳を傾けること。
4.画像症例を通して、読影力を身につける。
6.解剖学や疾患に対する知識が必要とされる。
7.医療職種として必要な知識なので興味を持って欲しい。

教科書

使用しない（プリント配布）。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

E棟４階共同研究室　月　水　金　但し講義時間を除く

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	脊柱読影　脊柱骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
2	脊柱読影　脊柱骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
3	肩関節の読影　肩関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
4	肩関節の読影　肩関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
5	変形性関節症　変形性関節症の病態	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
6	変形性関節症　変形性関節症の病態	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
7	肘関節の読影　肘関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
8	肘関節の読影　肘関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
9	手関節の読影　手関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	

10	股関節の読影　股関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
11	股関節、膝関節の読影	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
12	膝関節の読影　膝関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
13	足関節の読影　足関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
14	足関節の読影　足関節骨格復習	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
15	MRI と CT	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバスとプリントの確認	
成績評価方法と基準			割合
期末試験 平常点を考慮することがある DP②③			100%

授業科目名	衛生学公衆衛生学(鍼灸)（Hygienic Public Health）				
主担当教員	今村　行雄		担当教員	今村　行雄	
科目ナンバリング	SB119	科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、衛生･公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、衛生･公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、消毒法、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。特に、鍼灸・柔道整復にとっては消毒法・安全確保について身に着けることは必須である。さらに、世界における日本の現状および動向について理解し、日本における公衆衛生のあり方について考える。

到達目標

私たちの生活や健康は、社会の制度に支えられている。公衆衛生学は、健康を支える制度そのものである。公衆衛生の歴史や体制、内容を知り、自らの生活や健康を守り、向上を図るための知識を習得する。
１．公衆衛生学とは何かを知る。
２．疫学について知り、曝露について理解する。
３．健康を害する因子を探り、予防とは何かを理解する。
４．健康維持のための施策について理解する。
５．日本の医療状況を理解し、世界各国の状況と比較できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．公衆衛生学は、進歩する医療技術や研究成果だけでなく、国の情勢や法律、予算などにも左右され、変化していくものである。講義で習ったことは現時点での事実であることを認識し、講義終了後には統計データなどは最新のものを各自、調べて知識をアップデートする必要がある（特に国家試験前）ことに留意する。
２．新聞やニュースなどを通じて、社会情勢に目を向けること。
３．常に疑問を持ち、調べ、客観的に評価し、自分の知識を深めること。

教科書

なし。(参考書１および２に基づいて作成した配布資料を使って講義を進めます)

参考書

1.学生のための現代公衆衛生（南山堂）
2. 衛生学・公衆衛生学（南江堂）
3.公衆衛生が見える（メディックメディア）

研究室／オフィスアワー

非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康の科学としての公衆衛生学	課題：公衆衛生とは何か、WHO, 疫学研究	
2	人口の動向	授業の復習 課題：人口の増減が社会生活にどう影響するか	
3	妊娠・出産と胎児の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題：周産期の保健について理解する	
4	新生児・乳幼児期の保健	授業の復習 課題：胎児、乳幼児期の保健を理解する	
5	青少年の保健	授業の復習と次回講義の予習 課題：学校保健について理解する	
6	成人期の保健	授業の復習および次回の講義の予習 課題：生活習慣病について理解する	
7	老年期の保健と死の問題	予習：シラバス・資料確認 課題：高齢者福祉について理解する	
8	心の健康と心身障害	予習：シラバス・資料確認 課題：精神保健について理解する	
9	環境の衛生	予習：シラバス・資料の確認 課題：環境とは何か、理解する	
10	環境汚染と公害	予習：シラバス・資料の確認 課題：公害問題について理解する	

11	感染症：微生物による病気	予習：シラバス・資料を確認 課題：感染症について理解	
12	消毒法・安全確保と医療倫理	予習：シラバス・資料の確認 課題：消毒法、ヒヤリハットなどについて理解	
13	食物と健康	予習：シラバス・資料の確認 課題：食中毒菌などの理解を深める	
14	職業生活と健康	予習：シラバス・資料の確認 課題：職業病について理解する	
15	保健・医療の行政	予習：資料の確認 課題：衛生行政の種類について理解する	
成績評価方法と基準			割合
試験（90%）+授業態度（10%）で評価します。試験で評価し、単位認定とする。 単位認定基準及び試験受験資格は、大学の規定に従う。			試験 90% 受講態度 10%

授業科目名	経穴局所解剖演習Ⅰ(鍼灸 A)（Topology of Meridian Points Seminar Ⅰ）				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

経穴局所解剖は、経絡経穴学で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、さらに経穴の局所解剖学的見地から三次元的に考察する。すなわち、各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴部に存在する神経幹や動脈幹などを学修する。さらに各経穴の主治や要穴、および奇穴（新穴含む）36 穴の経穴名・取穴部位・主治も学修する。および経絡・経穴の現代的研究も学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 各経穴の局所解剖（筋肉・運動神経・知覚神経・血管）を理解する。
2. 各経穴の主治を理解する。
3. 奇経八脈、要穴を理解する。
4. 奇穴（新穴）の経穴名と取穴と主治を理解する。
5. 経絡・経穴の現代的研究を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 白衣の着用を義務とする。
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3. 取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4. 取穴の際、実技道具にある「灸点ペン」を持参する。

教科書

1.「経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会（尾﨑朋文他）
2.「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂

参考書

大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾﨑朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾﨑：4 階研究室 18 月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13 金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	経穴局所解剖演習概論 奇穴（新穴を含む） 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 奇穴（四神聡～患門）の確認（P216～223） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
2	奇穴（新穴を含む） 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 奇穴（肩内陵～脚気八処の穴）の確認（P224～229） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
3	任脈（局所解剖と主治と要穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（会陰～承漿）の確認（P40～P51） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
4	督脈（局所解剖と主治と要穴）	予習：督脈（長強～齦交）の確認（P26～P39） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
5	手の太陰肺経（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の太陰肺経（中府～少商）の確認（P52～59） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
6	手の陽明大腸経 1（局所解剖と主治と要穴）	予習:手の陽明大腸経(商陽～曲地)の確認(P60～P67) 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子

7	手の陽明大腸経２（局所解剖と主治と要穴）	予習:手の陽明大腸経(肘 j?～迎香)の確認(P66～P71) 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
8	足の陽明胃経１（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の陽明胃経（承泣～欠盆）の確認（P72～P79） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
9	足の陽明胃経２（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の陽明胃経（気戸～気衝）の確認（P78～P85） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
10	足の陽明胃経３（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の陽明胃経（髀関～厲兌）の確認（P84～P91） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
11	足の太陰脾経１（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の太陰脾経（隠白～衝門）の確認（P92～P99） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
12	足の太陰脾経２（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の太陰脾経（府舎～大包）の確認（P98～P102） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
13	手の少陰心経（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の少陰心経（極泉～少衝）の確認(P104～P109) 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
14	手の太陽小腸経１（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の太陽小腸経（少沢～臑俞）の確認（P110～115） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
15	手の太陽小腸経２（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の太陽小腸経（天宗～聴宮）の確認（P116～119） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
成績評価方法と基準			割合
①期末試験（筆記試験）　50% ②期末試験（口答試問）　40% ③小テストの平均点　10% 評価は①～③の合算（100%）とする。 基準は①・②とも 60 点以上で単位認定とする。 4/5 以上の出席を必要とする。			筆記 50% 口頭 40% 小テスト 10%

授業科目名	経穴局所解剖演習Ⅰ(鍼灸 B)（Topology of Meridian Points Seminar Ⅰ）				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS203	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

経穴局所解剖は、経絡経穴学で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、さらに経穴の局所解剖学的見地から三次元的に考察する。すなわち、各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴部に存在する神経幹や動脈幹などを学修する。さらに各経穴の主治や要穴、および奇穴（新穴含む）36 穴の経穴名・取穴部位・主治も学修する。および経絡・経穴の現代的研究も学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 各経穴の局所解剖（筋肉・運動神経・知覚神経・血管）を理解する。
2. 各経穴の主治を理解する。
3. 奇経八脈、要穴を理解する。
4. 奇穴（新穴）の経穴名と取穴と主治を理解する。
5. 経絡・経穴の現代的研究を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 白衣の着用を義務とする。
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3. 取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4. 取穴の際、実技道具にある「灸点ペン」を持参する。

教科書

1.「経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会（尾﨑朋文他）
2.「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂

参考書

大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾﨑朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾﨑：4 階研究室 18 月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13 金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	経穴局所解剖演習概論 奇穴（新穴を含む） 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 奇穴（四神聡～患門）の確認（P216～223） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
2	奇穴（新穴を含む） 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 奇穴（肩内陵～脚気八処の穴）の確認（P224～229） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
3	任脈（局所解剖と主治と要穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（会陰～承漿）の確認（P40～P51） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
4	督脈（局所解剖と主治と要穴）	予習：督脈（長強～齦交）の確認（P26～P39） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
5	手の太陰肺経（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の太陰肺経（中府～少商）の確認（P52～59） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
6	手の陽明大腸経１（局所解剖と主治と要穴）	予習:手の陽明大腸経(商陽～曲地)の確認(P60～P67) 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子

7	手の陽明大腸経２（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の陽明大腸経（肘 j?～迎香）の確認（P66～P71） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
8	足の陽明胃経１（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の陽明胃経（承泣～欠盆）の確認（P72～P79） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
9	足の陽明胃経２（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の陽明胃経（気戸～気衝）の確認（P78～P85） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
10	足の陽明胃経３（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の陽明胃経（髀関～厲兌）の確認（P84～P91） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
11	足の太陰脾経１（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の太陰脾経（隠白～衝門）の確認（P92～P99） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
12	足の太陰脾経２（局所解剖と主治と要穴）	予習：足の太陰脾経（府舎～大包）の確認（P98～P102） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
13	手の少陰心経（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の少陰心経（極泉～少衝）の確認（P104～P109） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
14	手の太陽小腸経１（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の太陽小腸経（少沢～臑俞）の確認（P110～115） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
15	手の太陽小腸経２（局所解剖と主治と要穴）	予習：手の太陽小腸経（天宗～聴宮）の確認（P116～119） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
成績評価方法と基準			割合
①期末試験（筆記試験）　50% ②期末試験（口答試問）　40% ③小テストの平均点　10% 評価は①～③の合算（100%）とする。 基準は①・②とも 60 点以上で単位認定とする。 4/5 以上の出席を必要とする。			筆記 50% 口頭 40% 小テスト 10%

授業科目名	経穴局所解剖演習Ⅱ(鍼灸 A)（Topology of Meridian Points Seminar Ⅱ）				
主担当教員	尾崎　朋文		担当教員	尾崎　朋文	
科目ナンバリング	SS204	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

経穴局所解剖は、経絡経穴学で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、経穴の局所解剖学的見地から三次元的に考察する。各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴部に存在する神経幹や動脈幹などを学修する、さらに各経穴の主治や要穴を学修する。および経絡・経穴の現代学的研究も学習する。また、主要経穴の局所解剖も含め刺鍼の安全深度等も学修する。

＊本科目は実務経験のある教員等による授業科目です。

到達目標

１．各経穴の局所解剖（筋肉、運動神経、知覚神経、血管）を理解する。
２．各経穴の主治を理解する。
３．奇経八脈、要穴を理解する。
４．奇穴（新穴）の経穴名と取穴と主治を理解する。
５．経絡・経穴の現代学的研究を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.白衣の着用を義務とする。
2.必ず教科書、参考図書を持参する。
3.常に触診や取穴時にモデル役ができる服装であること。
4.触診や取穴の際に必要な水性ペン・または灸点ペンを常備しておくこと。

教科書

「経絡経穴概論」医道の日本社、教科書執筆小委員会（尾崎朋文他）
「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」南江堂、大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（北村清一郎、尾崎朋文他）

参考書

特に指定しない

研究室／オフィスアワー

尾崎：4 階研究室 18　月曜日５限
仲村：4 階研究室 13　金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	総論、下肢１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 奇穴１ 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
2	下肢２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
3	下肢３	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 要穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
4	下肢４	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 代表経穴、復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
5	頭頸部１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 体表指標 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
6	頭頸部２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 経穴（奇穴を含む） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子

7	頭頸部３	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 代表経穴、復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
8	復習	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 下肢・頭頸部復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
9	奇経八脈	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 奇経八脈 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
10	経絡・経穴の現代的研究	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 経絡現象、経穴現象 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
11	経穴の局所解剖１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 神経幹・動脈幹と経穴、解剖構造物と経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
12	経穴の局所解剖２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 主要経穴と安全（安全深度） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
13	要穴まとめ１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 五兪穴・八会穴・四総穴・八総穴・下合穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
14	要穴まとめ２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 五行穴・五要穴 習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
15	後期のまとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 後期のまとめ 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
成績評価方法と基準			割合
①小テスト　10% ②期末試験（筆記試験）50% ③期末試験（口頭試問）40% ④評価は①～③の合算（100%）とする ⑤基準は　①・②とも 60 点以上で単位認定とする ４/5 以上の出席を必要とする			10% 50% 40%

授業科目名	経穴局所解剖演習Ⅱ(鍼灸 B)（Topology of Meridian Points Seminar Ⅱ）				
主担当教員	尾﨑 朋文		担当教員	尾﨑 朋文	
科目ナンバリング	SS204	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

経穴局所解剖は、経絡経穴学で学んだ経絡名、経穴名、取穴の知識を踏まえ、経穴の局所解剖学的見地から三次元的に考察する。各経穴の筋、運動神経、知覚神経、血管、および経穴部に存在する神経幹や動脈幹などを学修する、さらに各経穴の主治や要穴を学修する。および経絡・経穴の現代学的研究も学習する。また、主要経穴の局所解剖も含め刺鍼の安全深度等も学修する。

＊本科目は実務経験のある教員等による授業科目です。

到達目標

１．各経穴の局所解剖（筋肉、運動神経、知覚神経、血管）を理解する。
２．各経穴の主治を理解する。
３．奇経八脈、要穴を理解する。
４．奇穴（新穴）の経穴名と取穴と主治を理解する。
５．経絡・経穴の現代学的研究を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 白衣の着用を義務とする。
2. 必ず教科書、参考図書を持参する。
3. 常に触診や取穴時にモデル役ができる服装であること。
4. 触診や取穴の際に必要な水性ペン・または灸点ペンを常備しておくこと。

教科書

「経絡経穴概論」医道の日本社、教科書執筆小委員会（尾崎朋文他）
「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」南江堂、大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（北村清一郎、尾崎朋文他）

参考書

特に指定しない

研究室／オフィスアワー

尾崎：4 階研究室 18　月曜日５限
仲村：4 階研究室 13　金曜日２限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	総論、下肢１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 奇穴１ 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
2	下肢２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
3	下肢３	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 要穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
4	下肢４	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 代表経穴、復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
5	頭頸部１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 体表指標 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
6	頭頸部２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1時間） 経穴（奇穴を含む） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子

7	頭頸部３	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 代表経穴、復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
8	復習	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 下肢・頭頸部復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
9	奇経八脈	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 奇経八脈 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
10	経絡・経穴の現代的研究	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 経絡現象、経穴現象 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
11	経穴の局所解剖１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 神経幹・動脈幹と経穴、解剖構造物と経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
12	経穴の局所解剖２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 主要経穴と安全（安全深度） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
13	要穴まとめ１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 五兪穴・八会穴・四総穴・八総穴・下合穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
14	要穴まとめ２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 五行穴・五要穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
15	後期のまとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 後期のまとめ 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子

成績評価方法と基準	割合
①小テスト　10% ②期末試験（筆記試験）50% ③期末試験（口頭試問）40% ④評価は①～③の合算（100%）とする ⑤基準は　①・②とも 60 点以上で単位認定とする ４/5 以上の出席を必要とする	10% 50% 40%

授業科目名	鍼灸科学概論Ⅰ(鍼灸)（Introduction to Acupuncture and Moxibustion Science Ⅰ）				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明	
科目ナンバリング	SS218	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸科学概論では、人体における感覚器の機能的役割を正確に理解し、人体に対し鍼灸刺激がどのように作用するかについて学習する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

人体における感覚器の機能的役割を正確に理解し、そのことを説明できる。
鍼灸刺激の治療効果のメカニズムを理解し、説明できる。
臨床の場で、容易な言葉で患者に説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席を重視する。
2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
3. 配布された講義資料にも目を通すこと。
4. 疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。

教科書

教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

研究室１(東棟 4F)／月曜日３限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	痛み感覚の受容と伝導～内因性発痛物質（P. 43-46）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲(教科書)を読むこと。(1 時間) 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。(1 時間)	松熊
2	求心性神経線維の種類と特徴（P. 46-48）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲(教科書)を読むこと。(1 時間) 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。(1 時間)	松熊
3	痛覚投射部位～関連痛（P. 48-49）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲(教科書)を読むこと。(1 時間) 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。(1 時間)	松熊
4	温度感覚の受容と伝達（P. 50-51）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲(教科書)を読むこと。(1 時間) 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。(1 時間)	松熊
5	触圧感覚の受容と伝達～触覚の伝導路（P. 52-54）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲(教科書)を読むこと。(1 時間) 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。(1 時間)	松熊
6	筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導（P. 54）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲(教科書)を読むこと。(1 時間) 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。(1 時間)	松熊
7	鍼灸刺激と反射～鍼麻酔（P. 54-60）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲(教科書)を読むこと。(1 時間) 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。(1 時間)	松熊

8	鍼鎮痛～SPA（P.61-62）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲（教科書）を読むこと。（1 時間） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（1 時間）	松熊
9	鍼鎮痛の発現機構（P.63-64）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲（教科書）を読むこと。（1 時間） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（1 時間）	松熊
10	鍼鎮痛の発現機構～ゲートコントロール説（P.64-67）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲（教科書）を読むこと。（1 時間） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（1 時間）	松熊
11	刺激と反応～内臓求心性神経（P.67-75）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲（教科書）を読むこと。（1 時間） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（1 時間）	松熊
12	自律神経系の化学的伝達と受容体～血管の自律神経性調節機序（P.75-77）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲（教科書）を読むこと。（1 時間） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（1 時間）	松熊
13	鍼の血流に及ぼす影響～体性自律反射による鍼の効果（P.78-79）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲（教科書）を読むこと。（1 時間） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（1 時間）	松熊
14	体性自律反射による鍼の効果～鍼刺激とポリモーダル受容器（P.80-83）	予習：シラバスを見て、次回の講義の範囲（教科書）を読むこと。（1 時間） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（1 時間）	松熊
15	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響～白血球機能への影響（P.84-86）	復習：講義資料、教科書を見てまとめること。（2 時間）	松熊
成績評価方法と基準			割合
①小テスト<DP1> ②期末試験<DP1>			①30% ②70%

授業科目名	鍼灸科学概論Ⅱ（鍼灸）（Introduction to Acupuncture and Moxibustion Science Ⅱ）				
主担当教員	大川　祐世		担当教員	大川　祐世	
科目ナンバリング	SS219	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 5 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修
授業概要					
鍼灸科学概論Ⅱでは鍼灸の有効性について科学的に考察する方法、および現時点において科学的に証明されている証拠（鍼灸治療のエビデンス）について学習する					
到達目標					
科学的思考に基づいて鍼灸を概説することが出来る。 鍼灸治療のエビデンスについて臨床の現場で、容易な言葉で患者に説明できる。					
履修上の注意（学生へのメッセージ）					
将来皆さんが患者やその家族、他の医療従事者に対して鍼灸治療について説明をしなければいけない場面で科学的な視点から鍼灸治療を紹介できるようになっていただきたいとおもいます。本授業ではそのための考え方や伝え方を学習します。また授業後半には実際にグループワークとして、様々なテーマに関して調査を行い、発表を行っていただきます。役割分担をして協力し合い、積極的に発表に臨んでください。					
教科書					
教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社					
参考書					
川喜田健司、矢野忠．鍼灸臨床最新科学　メカニズムとエビデンス．2014．医歯薬出版株式会社．					
研究室／オフィスアワー					
木曜日　5 限目					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	臨床研究デザインについて説明できる	臨床研究デザインについて事前に学習しておく	
2	主要な検索エンジンを用いて必要な文献の検索ができる	前回学習した内容を復習しておく 興味のある疾患および症状をリストアップしてくる	
3	鍼灸臨床エビデンスの批判的吟味ができる	前回学習した内容を復習しておく 興味のある分野の臨床試験論文を検索してくる	
4	鍼灸治療と痛みのエビデンスについて概説できる	前回学習した内容を復習しておく 鍼灸治療と痛みについて調べてくる	
5	内科領域における鍼灸治療のエビデンスについて概説できる	前回学習した内容を復習しておく 内科領域においてはどのような疾患・症状に対して鍼灸治療が実施されているかを調べてくる	
6	運動器領域における鍼灸治療のエビデンスについて概説できる	前回学習した内容を復習しておく 運動器領域においてはどのような疾患・症状に対して鍼灸治療が実施されているかを調べてくる	
7	泌尿・生殖器領域における鍼灸治療のエビデンスについて概説できる	前回学習した内容を復習しておく 泌尿・生殖器領域においてはどのような疾患・症状に対して鍼灸治療が実施されているかを調べてくる	
8	感覚器領域における鍼灸治療のエビデンスについて概説できる	前回学習した内容を復習しておく 感覚器領域においてはどのような疾患・症状に対して鍼灸治療が実施されているかを調べてくる	
9	診療ガイドラインについて概説できる	前回学習した内容を復習しておく 診療ガイドラインについて調べてくる	
10	鍼灸の安全性について概説できる①	前回学習した内容について復習しておく 全日本鍼灸学会学術研究部安全性委員会のサイト｛鍼灸の安全対策サイト，https://safety.jsam.jp/index2.html｝を見て	

		鍼灸の安全性について学習してくる	
11	鍼灸の安全性について概説できる②	前回学習した内容を復習しておく 鍼灸治療に関連して起こった医療事故について調べてくる	
12	鍼灸治効理論について説明できる	前回学習した内容を復習しておく 『はりきゅう理論』の第 10 章　鍼灸療法の一般治効理論を読んでくる	
13	鍼灸関連学説について説明できる	前回学習した内容を復習しておく 『はりきゅう理論』第 11 章　関連学説を読んでくる	
14	学生発表	これまでの授業の内容を踏まえ、与えられたテーマに関して調べ学習をして発表の準備をしてくる	
15	学生発表	これまでの授業の内容を踏まえ、与えられたテーマに関して調べ学習をして発表の準備をしてくる	

成績評価方法と基準	割合
1. 小テスト（DP①） 2. 発表内容、および発表態度（DP①） 3. 筆記試験（DP①）	1. 20% 2. 30% 3. 50%

授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）（鍼灸 B）（Acupuncture from Modern Medicine Perspective Ⅱ【Orthopedics】）				
主担当教員	佐藤 正人		担当教員	佐藤 正人、辻丸 泰永、鈴木 信	
科目ナンバリング	SS225	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 2 限 水曜 1 限
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床で最も多い愁訴の中から肩痛、膝痛、頭痛の３症候を取り上げて、それぞれの痛みの発生機序（基礎知識）から診察～治療までの知識と技術を学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 情操／医療者としての自覚を育て、その責任のもとに鍼灸師として行動ができる。
2. 知識／鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して基本的な診察、鑑別ができ、安全でより確実な診察法を工夫できる。
3. 技術／正確な診察法、治療技術を駆使することができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

1. 常に対患者をイメージして愛護的態度を養いかつ正確な診察、治療技術の習得に励む。
2. 診察は推察であり、積極的に推察力を高め、またそれを行動に移す癖を身につける。
3. 徒手検査、治療に支障の出ない服装で臨む。

教科書

・「刺鍼基本テクニックのマスター教本」　発行：日本臨床鍼灸懇話会
・授業時に配付する佐藤作成のテキスト（資料）

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

講師控え室／授業前後の時間帯

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察法　基礎　１．診察法に関するオリエンテーション（2 年次の復習）	予習／シラバスの確認 復習／配布資料の内容再認識	
2	治療法　基礎　１．（2 年次の復習／取穴、刺鍼、施灸）	予習／シラバスの確認 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
3	肩関節痛の診察法　１． （肩関節の解剖、鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛の鑑別指標」の暗記	
4	肩関節痛の治療　１．（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
5	肩関節痛の診察法　２． （肩関節痛の病態把握、理学検査、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛の鑑別指標」の暗記	
6	肩関節痛の治療　2.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
7	肩関節痛の診察法　３． （肩関節痛の身体診察、問診、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛の身体診察法」技術確認	
8	肩関節痛の治療　3.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
9	肩関節痛の診察法　４． （肩関節痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛のインフォームドコンセント」をまとめ	
10	肩関節痛の治療　4.（診察～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	

11	膝関節痛の診察法　1. （膝関節の解剖、鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛の鑑別指標」の暗記	
12	膝関節痛の治療　1.（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
13	膝関節痛の診察法　2. （膝関節痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛の鑑別指標」の暗記	
14	膝関節痛の治療　2.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
15	膝関節痛の診察法　3. （膝関節痛の問診、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛の身体診察法」の技術習得	
16	膝関節痛の治療　3.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
17	膝関節痛の診察法　4. （膝関節痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛のインフォームドコンセント」をまとめる	
18	膝関節痛の治療　4.（診察～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
19	頭痛の診察法　1.（頭痛とは、NIHA の理解）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛の鑑別指標」の暗記	
20	頭痛の治療　1.（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
21	頭痛の診察法　2.（頭痛の神経学的検査、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛の鑑別指標」の暗記	
22	頭痛の治療　2.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
23	頭痛の診察法　3.（頭痛の一次性頭痛とは、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛の身体診察法」の技術習得	
24	頭痛の治療　3.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
25	頭痛の診察法　4. （二次性頭痛、頭痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛のインフォームドコンセント」をまとめる	
26	頭痛の治療　4.（診察～治療技術）	予習／テキスト内容に目を通す 復習／「頭痛の身体診察法」の復習	
27	診察法の総括(1)　1. （肩関節、膝関節、頭痛の診察法）	予習／全症候の学習内容に目を通す 復習／全症候の診察法の要点チェック	
28	治療法の総括（肩関節痛、膝関節痛、頭痛の治療）	予習／全症候の学習内容に目を通す 復習／全症候の治療法の要点チェック	
29	診察法の総括(2)　2. （インフォームドコンセントを中心に）	予習／各症候の診察時に必要かつ基本的なインフォームドコンセントを列挙する。 復習／学生同士で診察をシュミレーションしてみる	
30	診察法と治療法の総括	予習／診察～治療までをイメージしてみる 復習／学生同士で診察～治療までをシュミレーションしてみる	
成績評価方法と基準			割合
①本試験 ②授業内でのペーパーテスト、提出物、授業中の態度評価 ①と②を総合する 。 授業中の態度としては、以下の点が守られずに忠告を受け、その場で即座に改善されない者に対して行う。 １.「実技授業に適さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 ２. ベット上、およびその周りには、授業に関わらない物（飲食物、カバン、上着など）は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 ３. 授業中のやむ得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得え、「入室」時も教員に帰ってきたことを告げて着席する。			①80% ②20%

授業科目名	東洋医学概論Ⅲ(鍼灸)（Introduction to Oriental MedicineⅢ）				
主担当教員	辻　涼太		担当教員	辻　涼太	
科目ナンバリング	SS220	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸の中で用いられている鍼の種類や刺法、診察時に用いる四診法の概要、六経病証や経脈病証に見られる病の捉え方を学ぶ。
実際の症例から考察し治療法を構築できるように指導する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

講義で扱う刺法は名前だけでなく実技に応用できるようになる。
四診法による弁証考察を修得し、難易度の高い各病証をしっかりと把握する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1 年で行ってきた学習内容が必須となります。分からなくなった場合はすぐに 1 年の内容から見直しを始めて下さい。

教科書

新版　東洋医学概論　（医道の日本社）

参考書

配布プリント

研究室／オフィスアワー

東棟 4F 共同研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1 年次の東洋医学を振り返る	予習：1 年生の内容を確認してください 復習：確認テストを参照しておいてください	
2	治法八法と補瀉法	復習：確認テストを参照下さい	
3	四診法の概要（望診）	復習：確認テストを参照下さい	
4	四診法の概要（聞診）	復習：確認テストを参照下さい	
5	四診法の概要（問診）	復習：確認テストを参照下さい	
6	四診法の概要（切診）	復習：確認テストを参照下さい	
7	四診法の概要の復習、テスト	復習：確認テストを参照下さい	
8	古代刺法　講義	復習：確認テストを参照下さい	
9	古代刺法　実習	復習：確認テストを参照下さい	
10	病因病機について	復習：確認テストを参照下さい	
11	難経治則と六経病証	復習：確認テストを参照下さい	
12	難経治療　実習	復習：確認テストを参照下さい	
13	難経治則　確認テスト	復習：確認テストを参照下さい	
14	漢方と腹証（気血弁証を中心とした腹証）	復習：確認テストを参照下さい	
15	総復習の回　東洋医学の基礎をマスターしよう		

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験 60 点満点とする 2　確認テスト　20 点満点とする。学期内に 2 回行い 40 点満点で評価する。（四診法・難経治則） 出席要件：3 分の 2 以上の出席を条件とする。満たさない学生の評価は行わない。	1 60% 2 20%×2 回

授業科目名	鍼灸安全学(鍼灸)（Safe Practice of Acupuncture and Moxibustion）				
主担当教員	山下　仁		担当教員	山下　仁、古瀬　暢達	
科目ナンバリング	SS221	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床におけるリスクを減らして患者および施術者の安全を確保するために必要な理論と手法を学ぶ。

到達目標

１．医療におけるリスクマネージメントの基本的な考え方が理解できる。
２．鍼灸臨床における患者および施術者の安全管理ができる。
３．主要な鍼灸医療事故の対処・分析・予防ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

患者と自身を守る重要な知識と心得なので真剣に取り組んでいただきたい。

教科書

なし　（必要に応じて資料を配布する）

参考書

マンガ鍼灸臨床インシデント　山下仁監修・犬養ヒロ画　医道の日本社
５日間で学ぶ医療安全超入門　日本医療マネジメント学会監修　学研
鍼灸医療安全ガイドライン　鍼灸安全性委員会編　医歯薬出版
鍼灸医療安全対策マニュアル　鍼灸安全性委員会編　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ヒューマンエラーとシステム要因	自分の経験したリスクを想起し列記する	山下
2	医療安全に関する概念モデルと実践モデル	自分の経験したリスクをモデルに当てはめる	山下
3	鍼灸の有害事象（１）　疫学的特徴	インターネットで関連有害事象を調べる	古瀬
4	鍼灸の有害事象（２）　気胸	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
5	鍼灸の有害事象（３）　その他の臓器損傷と折鍼	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
6	鍼灸の有害事象（４）　神経傷害	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
7	鍼灸の有害事象（５）　感染	インターネットで関連有害事象を調べる	古瀬
8	鍼灸の有害事象（６）　その他の有害事象	インターネットで関連有害事象を調べる	山下
9	副作用とインフォームド・コンセント	施術前に患者に説明する事項を考える	山下
10	感染制御	有害事象として報告されている主な細菌・ウイルス感染について調べる	山下
11	鍼灸関連器具・機器と医療廃棄物	主要な鍼灸関連医療機器の仕様を調べる	山下
12	患者の権利、情報管理、信頼維持	リスボン宣言について調べる	山下
13	鍼灸の適応症と禁忌	適応症と禁忌について調べる	山下
14	事故発生後の対応・対処	過去の訴訟と判例についてネットで調べる	山下
15	授業総括と関連情報収集方法	附属図書館のデータベースと図書を調べる	山下

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験	①70%
②ワーク提出物	②30%

授業科目名	臨床生理学(鍼灸)				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之	
科目ナンバリング	SS222	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

一般臨床医学において遭遇する症状を生理学的に読み解き、病態理解につなげる。また、模擬症例から生理的反応を読み解き、鍼灸治療のアプローチ目的を推察できるようにする。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

①症状から病態を推察できる。
②病態を生理学的に解釈することができる。
③臨床検査結果から病態を読み解くことができる。
④全ての患者が有するストレス反応を理解し、鍼灸治療に結び付けることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①授業の履修態度が著しく不良の場合は、退室を指示します。
②教科書および教材（レジメ）を必ず持参してください。

教科書

臨床医学総論　東洋療法学校協会編

参考書

はりきゅう理論　東洋療法学校協会編
生理学　東洋療法学校協会編

研究室／オフィスアワー

E棟４階研究室　在室時（主に昼休みにいます）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察法の意義と方法	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
2	バイタルサインと病態	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
3	顔貌　精神状態　言語	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
4	体格　栄養状態　姿勢 歩行	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
5	皮膚　粘膜　皮下組織　爪	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
6	眼　鼻　耳　口腔	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
7	頸部　胸部　乳房　肺　腹部	予習：教科書を事前に学習すること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
8	中間試験　一般検査	予習：中間試験の勉強をすること 復習：授業で配布する国家試験過去問題を次回授業までに回答してくること	
9	血液生化学検査	予習：自身または家族の血液検査結果を見て理解すること 復習：資料の復習	
10	生理学検査　総論まとめ	予習：教科書を事前に読むこと 復習：復習すること	
11	ストレスによる生体反応	予習：自律神経・ストレスホルモンの作用を生理学の教科書で予習すること 復習：身近な者を問診して症状を考察すること	
12	ストレスと鍼灸	予習：身近な者を問診すること 復習：症状から鍼灸治療部位を考えること	
13	自律神経反応と脈診・舌診	予習：生理学の血管支配・血圧調節について生理学の教科書を読むこと 復習：身近な者の脈・舌を診察すること	
14	睡眠と鍼灸	予習：身近な者の睡眠を調査してくること 復習：自身の睡眠習慣を見直すこと	
15	症例検討	予習：予め配布された症例を読み解くこと 復習：期末試験対策	

成績評価方法と基準	割合
全授業の２／３を出席すること ①中間試験　４０％ ②期末試験　６０％	①４０％ ②６０％

授業科目名	臨床鍼灸学(鍼灸)（Clinical Acupuncture）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之	
科目ナンバリング	SS223	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

はり師・きゅう師国家試験科目である「東洋医学臨床論」は、現代医学領域と東洋医学領域に大別される。現代医学領域では、整形外科疾患をはじめとして、外科・麻酔科・神経内科、心療内科、脳神経外科、歯科、眼科など他領域に渡って鍼灸治療の診察・治療法が出題されている。これらの出題内容を実際の臨床に照らし合わせて治療学するのが本講義の目的である。本講義を通じて、診察で得た情報から適切な病態把握を行い、検査・治療を実践する能力を養う。

到達目標

１）短文の症例から病態把握を行い、適切な検査の選択と実践ができる。
２）短文の症例から病態把握を行い、治療計画の策定が出来る。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１）本講義は附属施術所基礎実習の教育内容と連動している。適切に受講し、臨床力の向上に努めること。
２）本講義における居眠り、無断退室、私語などは認めない。

教科書

なし

参考書

東洋療法学校協会編　「東洋医学臨床論」

研究室／オフィスアワー

研究室に相談に来ること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	OSCE 説明 頸肩部上肢の障害と治療	事前に配布されるプリントの、該当する障害について事前に学習してくること	
2	頸肩部上肢の障害と治療(症例トレーニング)	前の講義で学習した事項について、検査方法、治療部位の取穴を学習してくること	
3	肩関節・肘関節・手関節の障害と治療	事前に配布されるプリントの、該当する障害について事前に学習してくること	
4	肩関節・肘関節・手関節の障害と治療（症例トレーニング）	前の講義で学習した事項について、検査方法、治療部位の取穴を学習してくること	
5	股関節・膝関節の障害と治療	事前に配布されるプリントの、該当する障害について事前に学習してくること	
6	股関節・膝関節の障害と治療（症例トレーニング）	前の講義で学習した事項について、検査方法、治療部位の取穴を学習してくること	
7	下腿・足関節の障害と治療	事前に配布されるプリントの、該当する障害について事前に学習してくること	
8	下腿・足関節の障害と治療(症例トレーニング)	前の講義で学習した事項について、検査方法、治療部位の取穴を学習してくること	
9	腰下肢の障害と治療	事前に配布されるプリントの、該当する障害について事前に学習してくること	
10	腰下肢の障害と治療（症例トレーニング）	前の講義で学習した事項について、検査方法、治療部位の取穴を学習してくること	
11	末梢神経の障害と治療	事前に配布されるプリントの、該当する障害について事前に学習してくること	
12	末梢神経の障害と治療（症例トレーニング）	前の講義で学習した事項について、検査方法、治療部位の取穴を学習してくること	
13	その他の障害と治療	事前に配布されるプリントの、該当する障害について事前に学習してくること	
14	その他の障害と治療（症例トレーニング）	前の講義で学習した事項について、検査方法、治療部位の取穴を学習してくること	
15	OSCE 練習	OSCE 用の症例を学習してくること	

成績評価方法と基準	割合
4 択問題 50 問の筆記試験を行う。 4/5 以上の出席を必要とする。	100%

授業科目名	生体観察(鍼灸 A)				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS224	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸師にとって人体の構造と機能を理解することは重要である。また、経穴の取穴の際、骨や筋や動脈などの生体観察がなければ、経穴が取穴できない。そのためには生態を観察して身体各部の状態を知ることは重要である。さらに鍼灸を行うにあたり、生体観察は重要である。骨指標、関節、筋、筋束、神経、血管などの触診を中心に学習し、経穴も学習する。

到達目標

1．人体の観察で全体の形態や動き、皮膚や組織の状態、左右差を観察し学習する。
2．骨、関節、筋、神経、血管などの触診を習得する。
3．履修した経穴を取穴することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．白衣の着用を義務とする。
2．授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3．触診や取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4．触診や取穴の際に必要な水性ペンを持参する。

教科書

「運動・からだ図解　筋と骨格の触診術の基本」、株式会社マイナビ出版（藤縄理）

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」南江堂、大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（北村清一郎、尾崎朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾﨑：4 階研究室 18　月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13　金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生体観察総論	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 観察と触診 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
2	体幹前面 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 胸腹部の骨、胸筋、腹筋、横隔膜、胸骨裂孔 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
3	体幹前面 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 腹部大動脈、心臓、肺、内臓投影、経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
4	体幹後面 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 棘突起、肩甲骨、骨盤、背部筋 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
5	体幹後面 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 肋間神経、肺、腎臓、内臓投影、経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
6	上肢 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 上肢、前腕、手の骨、上肢・前腕・手の筋 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
7	上肢 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 血管、神経、靭帯、上肢の経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
8	上肢３	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間）	尾﨑 仲村
		経穴、合谷 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	
9	下肢 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 大腿、下腿、足の骨、筋 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
10	下肢 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 血管、神経、靭帯、経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
11	下肢 3	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 下肢の経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間	尾﨑 仲村
12	下肢 4	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 下肢の復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
13	頭頚部 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 頭部、頸部の骨、表情筋、咀嚼筋、頸部の筋、下関、翳風 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
14	頭頚部 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 頭部、血管、神経、亜門、天柱 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
15	まとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 会陰 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村

成績評価方法と基準	割合
①小テスト　10% ②期末試験（筆記試験）50% ③期末試験（口頭試問）40% ④評価は①～③の合算（100%）とする ⑤基準は　①・②とも 60 点以上で単位認定とする 2/3 以上の出席を必要とする	10% 50% 40%

授業科目名	生体観察(鍼灸 B)				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS224	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸師にとって人体の構造と機能を理解することは重要である。また、経穴の取穴の際、骨や筋や動脈などの生体観察がなければ、経穴が取穴できない。そのためには生態を観察して身体各部の状態を知ることは重要である。さらに鍼灸を行うにあたり、生体観察は重要である。骨指標、関節、筋、筋束、神経、血管などの触診を中心に学習し、経穴も学習する。

到達目標

1．人体の観察で全体の形態や動き、皮膚や組織の状態、左右差を観察し学習する。
2．骨、関節、筋、神経、血管などの触診を習得する。
3．履修した経穴を取穴することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．白衣の着用を義務とする。
2．授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3．触診や取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4．触診や取穴の際に必要な水性ペンを持参する。

教科書

「運動・からだ図解　筋と骨格の触診術の基本」、株式会社マイナビ出版（藤縄理）

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」南江堂、大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（北村清一郎、尾崎朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾崎：4 階研究室 18　月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13　金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生体観察総論	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 観察と触診 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
2	体幹前面 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 胸腹部の骨、胸筋、腹筋、横隔膜、胸骨裂孔 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
3	体幹前面 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 腹部大動脈、心臓、肺、内臓投影、経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
4	体幹後面 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 棘突起、肩甲骨、骨盤、背部筋 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
5	体幹後面 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 肋間神経、肺、腎臓、内臓投影、経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
6	上肢 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 上肢、前腕、手の骨、上肢・前腕・手の筋 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
7	上肢 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 血管、神経、靭帯、上肢の経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
8	上肢 3	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 経穴、合谷 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
9	下肢 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 大腿、下腿、足の骨、筋 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
10	下肢 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 血管、神経、靭帯、経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
11	下肢 3	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 下肢の経穴 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
12	下肢 4	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 下肢の復習 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
13	頭頚部 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 頭部、頸部の骨、表情筋、咀嚼筋、頸部の筋、下関、髄風 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
14	頭頚部 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 頭部、血管、神経、亜門、天柱 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村
15	まとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 会陰 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 仲村

成績評価方法と基準	割合
①小テスト　10% ②期末試験（筆記試験）50% ③期末試験（口頭試問）40% ④評価は①～③の合算（100%）とする ⑤基準は　①・②とも 60 点以上で単位認定とする 2/3 以上の出席を必要とする	10% 50% 40%

授業科目名	運動機能検査法(鍼灸 A)（Test Method of Motor Function）				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、伊奈　新太郎	
科目ナンバリング	SS210	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

①整形外科疾患の治療を行う際に必須となる，病態把握（診断）やその手順（診察）の方法を学ぶ
②整形外科疾患の病態を学習し、治療の適応であるかを適切に判断する手法を学習する
以上の知識、技術を用いた運動機能検査法を習得する

到達目標

①検査における「意義」「方法」「陽性所見」を学び、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践することができる
②患者の状態から考えうる整形外科疾患を考察することができる
③適応疾患であることを見極め、安全な治療を計画的に行うことができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①実技、実習なので積極的に参加する事
②多くのモデルが存在する講義実習なのでたくさんのモデルを経験する事
③実技授業の予習と復習を２時間/日行う事

教科書

臨床医学総論　奈良信雄　著　　公益社団法人東洋療法学校協会
目で見る運動機能検査法　竹内義享　澤田規　著　南江堂

参考書

S.Hoppenfeld 著，野島元雄 監訳　「図解四肢と脊椎の診かた」　医歯薬出版，

研究室／オフィスアワー

共同研究室／月曜日～　金曜日 13：00～（不定期なため事前に確認が必要）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	肩関節疾患 肩部の解剖 1ﾀﾞｰﾊﾞﾝｻｲﾝ　2 腕落下ﾃｽﾄ 3ｽﾋﾟｰﾄﾞﾃｽﾄ　4ﾔｰｶﾞｿﾝﾃｽﾄ 5 ペインフルアークサイン	関節構造の理解 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
2	肩関節疾患 肩部の解剖 腱板損傷の発生機序 上腕二頭筋損傷の症状 1ﾀﾞｰﾊﾞﾝｻｲﾝ　2 腕落下ﾃｽﾄ 3ｽﾋﾟｰﾄﾞﾃｽﾄ　4　ﾔｰｶﾞｿﾝﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
3	肘関節周囲の疾患 肘部の解剖 1 中指伸展ﾃｽﾄ　2 ﾁｪｱﾃｽﾄ 3　ﾁﾈﾙ徴候　4 ﾌｧﾚﾝﾃｽﾄ 5　手根管のﾁﾈﾙ徴候 6 ﾌｨﾝｹﾙｽﾀｲﾝﾃｽﾄ　7 ｷﾞﾖﾝ管のﾁﾈﾙ徴候　8 ﾄﾑｾﾞﾝﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
4	肘関節周囲の疾患 肘部の解剖 1 中指伸展ﾃｽﾄ　2 ﾁｪｱﾃｽﾄ 3　ﾁﾈﾙ徴候　4 ﾌｧﾚﾝﾃｽﾄ 5　手根管のﾁﾈﾙ徴候 6 ﾌｨﾝｹﾙｽﾀｲﾝﾃｽﾄ　7 ｷﾞﾖﾝ管のﾁﾈﾙ徴候　8 ﾄﾑｾﾞﾝﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
5	頚部及び上肢の解剖 1ｱﾄﾞｿﾝﾃｽﾄ 2 肋鎖（ｴﾃﾞﾝ）ﾃｽﾄ 3ﾗｲﾄﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
6	頚部及び上肢の解剖 1ｱﾄﾞｿﾝﾃｽﾄ 2 肋鎖（ｴﾃﾞﾝ）ﾃｽﾄ 3ﾗｲﾄﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。	
		実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
7	頚部・背部の解剖 1ｼﾞｬｸｿﾝ側屈圧迫ﾃｽ　2ｼﾞｬｸｿﾝ回旋圧迫ﾃｽﾄ 3ｽﾊﾟｰﾘﾝｸﾞﾃｽﾄ　4 肩引き下げﾃｽﾄ 5 棘突起叩打ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
8	頚部・背部の解剖 1ｼﾞｬｸｿﾝ側屈圧迫ﾃｽ　2ｼﾞｬｸｿﾝ回旋圧迫ﾃｽﾄ 3ｽﾊﾟｰﾘﾝｸﾞﾃｽﾄ　4 肩引き下げﾃｽﾄ 5 棘突起叩打ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
9	腰部の解剖 1 棘突起叩打ﾃｽﾄ　2 下肢伸展挙上テスト 3ﾗｾｰｸﾞﾃｽﾄ　4ﾌﾞﾗｶﾞｰﾄﾞﾃｽﾄ 5 大腿神経伸展ﾃｽﾄ　6 ｹﾝﾌﾟﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
10	仙骨周囲の解剖 1 仙腸関節ｽﾄﾚｯﾁﾃﾃｽﾄ　2 ﾄｰﾏｽﾃｽﾄ 3ﾄﾚﾝﾌﾞﾙｸﾞﾃｽﾄ　4ﾊﾞﾄﾘｯｸﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
11	膝部の解剖 半月板損傷の症状 1ｱﾌﾞﾚｰ圧迫ﾃｽﾄ　2 ﾏｯｸﾏﾚｰﾃｽﾄ 3ｱﾌﾞﾚｰ牽引ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
12	膝部の解剖 1ｱﾌﾞﾚｰ圧迫ﾃｽﾄ　2 ﾏｯｸﾏﾚｰﾃｽﾄ 3ｱﾌﾞﾚｰ牽引ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
13	膝部の解剖 1ﾗｯｸﾏﾝﾃｽﾄ　2 後方引き出し徴候 3 外反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ　4 内反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ （ベーラー徴候）	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
14	膝部の解剖 1ﾗｯｸﾏﾝﾃｽﾄ　2 後方引き出し徴候 3 外反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ　4 内反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
15	膝関節疾患 1 膝蓋骨圧迫ﾃｽﾄ　2 膝蓋骨不安感ﾃｽﾄ 3 膝蓋跳動ﾃｽﾄ 足関節部の解剖 4 足根管のﾁﾈﾙ徴候　5 トンプソンテスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験 ※評価は①について評価する。 出席基準 4/5 以上の出席が必要です。 60 点以上で単位認定する。	①100%

授業科目名	運動機能検査法(鍼灸 B)（Test Method of Motor Function）				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、伊奈　新太郎	
科目ナンバリング	SS210	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

①整形外科疾患の治療を行う際に必須となる,病態把握（診断）やその手順（診察）の方法を学ぶ
②整形外科疾患の病態を学習し、治療の適応であるかを適切に判断する手法を学習する
以上の知識、技術を用いた運動機能検査法を習得する

到達目標

①検査における「意義」「方法」「陽性所見」を学び、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践することができる
②患者の状態から考えうる整形外科疾患を考察することができる
③適応疾患であることを見極め、安全な治療を計画的に行うことができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①実技、実習なので積極的に参加する事
②多くのモデルが存在する講義実習なのでたくさんのモデルを経験する事
③実技授業の予習と復習を２時間/日行う事

教科書

臨床医学総論　奈良信雄　著　　公益社団法人東洋療法学校協会
目で見る運動機能検査法　竹内義享　澤田規　著　南江堂

参考書

S.Hoppenfeld 著, 野島元雄 監訳　「図解四肢と脊椎の診かた」　医歯薬出版,

研究室／オフィスアワー

共同研究室／月曜日～　金曜日 13：00～（不定期なため事前に確認が必要）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	肩関節疾患 肩部の解剖 1ﾀﾞｰﾊﾞﾝｻｲﾝ　2腕落下ﾃｽﾄ 3ｽﾋﾟｰﾄﾞﾃｽﾄ　4ﾔｰｶﾞｿﾝﾃｽﾄ 5ペインフルアークサイン	関節構造の理解 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
2	肩関節疾患 肩部の解剖 腱板損傷の発生機序 上腕二頭筋損傷の症状 1ﾀﾞｰﾊﾞﾝｻｲﾝ　2腕落下ﾃｽﾄ 3ｽﾋﾟｰﾄﾞﾃｽﾄ　4　ﾔｰｶﾞｿﾝﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
3	肘関節周囲の疾患 肘部の解剖 1 中指伸展ﾃｽﾄ　2 ﾁｪｱｱﾃｽﾄ 3　ﾁﾈﾙ徴候　4 ﾌｧﾚﾝﾃｽﾄ 5　手根管のﾁﾈﾙ徴候 6 ﾌｨﾝｹﾙｽﾀｲﾝﾃｽﾄ　7 ｷﾞﾖﾝ管のﾁﾈﾙ徴候　8 ﾄﾑｾﾞﾝﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
4	肘関節周囲の疾患 肘部の解剖 1 中指伸展ﾃｽﾄ　2 ﾁｪｱｱﾃｽﾄ 3　ﾁﾈﾙ徴候　4 ﾌｧﾚﾝﾃｽﾄ 5　手根管のﾁﾈﾙ徴候 6 ﾌｨﾝｹﾙｽﾀｲﾝﾃｽﾄ　7 ｷﾞﾖﾝ管のﾁﾈﾙ徴候　8 ﾄﾑｾﾞﾝﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
5	頚部及び上肢の解剖 1ｱﾄﾞｿﾝﾃｽﾄ 2 肋鎖（ｴﾃﾞﾝ）ﾃｽﾄ 3ﾗｲﾄﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
6	頚部及び上肢の解剖 1ｱﾄﾞｿﾝﾃｽﾄ 2 肋鎖（ｴﾃﾞﾝ）ﾃｽﾄ 3ﾗｲﾄﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。	
		実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
7	頚部・背部の解剖 1ｼﾞｬｸｿﾝ側屈圧迫ﾃｽ　2ｼﾞｬｸｿﾝ回旋圧迫ﾃｽﾄ 3ｽﾊﾟｰﾘﾝｸﾞﾃｽﾄ　4 肩引き下げﾃｽﾄ 5 棘突起叩打ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
8	頚部・背部の解剖 1ｼﾞｬｸｿﾝ側屈圧迫ﾃｽ　2ｼﾞｬｸｿﾝ回旋圧迫ﾃｽﾄ 3ｽﾊﾟｰﾘﾝｸﾞﾃｽﾄ　4 肩引き下げﾃｽﾄ 5 棘突起叩打ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
9	腰部の解剖 1 棘突起叩打ﾃｽﾄ　2 下肢伸展挙上テスト 3ﾗｾｰｸﾞﾃｽﾄ　4ﾌﾞﾗｶﾞｰﾄﾞﾃｽﾄ 5 大腿神経伸展ﾃｽﾄ　6 ｹﾝﾌﾟﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
10	仙骨周囲の解剖 1 仙腸関節ｽﾄﾚｯﾁﾃｽﾄ　2 ﾄｰﾏｽﾃｽﾄ 3ﾄﾚﾝﾌﾞﾙｸﾞﾃｽﾄ　4ﾊﾟﾄﾘｯｸﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
11	膝部の解剖 半月板損傷の症状 1ｱﾌﾟﾚｰ圧迫ﾃｽﾄ　2 ﾏｯｸﾏﾚｰﾃｽﾄ 3ｱﾌﾟﾚｰ牽引ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
12	膝部の解剖 1ｱﾌﾟﾚｰ圧迫ﾃｽﾄ　2 ﾏｯｸﾏﾚｰﾃｽﾄ 3ｱﾌﾟﾚｰ牽引ﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
13	膝部の解剖 1ﾗｯｸﾏﾝﾃｽﾄ　2 後方引き出し徴候 3 外反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ　4 内反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ （ベーラー徴候）	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
14	膝部の解剖 1ﾗｯｸﾏﾝﾃｽﾄ　2 後方引き出し徴候 3 外反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ　4 内反ｽﾄﾚｽﾃｽﾄ	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	
15	膝関節疾患 1 膝蓋骨圧迫ﾃｽﾄ　2 膝蓋骨不安感ﾃｽﾄ 3 膝蓋跳動ﾃｽﾄ 足関節部の解剖 4 足根管のﾁﾈﾙ徴候　5 トンプソンテスト	関節構造の理解 検査における「意義」「方法」「陽性所見」が言えて、ストレスをかける方向と力加減（運動学）を実践できる。 実技授業の予習と復習を２時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
定期試験 ※評価は①について評価する。 出席基準 4/5 以上の出席が必要です。 60 点以上で単位認定する。	①100%

授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)(鍼灸 A)(Acupuncture from Modern Medicine Perspective Ⅰ【Orthopedics】)				
主担当教員	佐藤 正人		担当教員	佐藤 正人、辻丸 泰永、鈴木 信	
科目ナンバリング	SS211	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床で最も多い愁訴の中から頸肩腕痛、腰下肢痛の２症候を取り上げて、それぞれの痛みの発生機序（基礎知識）から診察～治療までの知識と技術を学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 自覚／医療者としての自覚を育て、その責任の元に鍼灸師として行動ができる。
2. 知識／鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して基本的な診察、鑑別ができ、安全でより確実な治療法を工夫できる。
3. 技術／正確な診察法、治療技術を駆使することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 常に対患者をイメージして愛護的態度を養いかつ正確な診察、治療技術の習得に励む。
2. 診察は推察で有り、積極的に推察力を高め、またそれを行動に移す癖を身につける。
3. 徒手検査、治療に支障の無い服装で臨む。

教科書

・「刺鍼基本テクニックのマスター教本」　発行：日本臨床鍼灸懇話会
・授業時に配付する佐藤作成のテキスト（資料）配付する資料

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

講師控え室／授業の前後の時間帯

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察および治療に関するオリエンテーション（鍼灸師と診察、適応不適応についてなど）	予習／シラバスの確認 復習／「鍼灸不適応疾患・病態」暗記	
2	治療に関するオリエンテーション（これまでに学んできた学習内容の復習）	予習／シラバス確認 復習／受講内容の再確認	
3	診察法総論　1.（臨床とカルテ、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容の目を通す 復習／「鍼灸不適応疾患・病態」の暗記	
4	治療技術基礎　1.	予習／シラバス確認 復習／受講内容の再確認	
5	診察法総論　2.（深部反射、病的反射の実習、ペーパーテスト）	予習／テキスト内容に目を通す 復習／「深部反射」の技術確認	
6	治療技術基礎　2.	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
7	頸肩腕痛の診察法　1.（頸肩腕部の解剖、鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛の鑑別指標」の暗記	
8	治療技術基礎　3.	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
9	頸肩腕痛の診察法　2.（頸肩腕痛の病態、理学検査、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛の鑑別指標」の暗記	
10	頸肩腕痛の治療法　1.（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
11	頸肩腕痛の診察法　3.（頸肩腕痛の問診、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛の身体診察法」の技術確認	
12	頸肩腕痛の治療法　2.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
13	頸肩腕痛の診察法　4.（インフォームドコンセント、頸肩腕痛の診察まとめ）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛のインフォームドコンセント」のやり方をまとめる	
14	腰下肢痛の治療法　3.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
15	腰下肢痛の診察法　1.（腰～下肢の解剖、と腰下肢痛の鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰下肢痛の鑑別指標」の暗記	
16	頸肩腕痛の治療法　4.（診察～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
17	腰下肢痛の診察法　2.（腰痛の理学検査、病態把握、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰下肢痛の鑑別指標」の暗記	
18	腰下肢痛の治療法　1.（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
19	腰下肢痛の診察法　3.（下肢痛の病態把握、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰痛の身体診察法」の技術確認	
20	腰下肢痛の治療法　2.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
21	腰下肢痛の診察法　4.（腰下肢痛の問診、身体診察）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰下肢痛の身体診察法」の技術確認	
22	腰下肢痛の治療法　3.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
23	腰下肢痛の診察法　5.（腰下肢痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／「医療面接を交えた診察法」考案 復習／配付資料の内容再認識	
24	腰下肢痛の治療法　4.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
25	診察法の総括　1.（頸肩腕痛、腰下肢痛のインフォームドコンセント）	予習／全症候の学習内容の確認 復習／全症候の診察法の要点チェック	
26	腰下肢痛の治療法　5.（診察～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
27	診察法の総括　2.（頸肩腕痛、腰下肢痛のインフォームドコンセント、身体所見実技）	予習／全症候の診察時に必要かつ基本的なインフォームドコンセントを列挙する 復習／学生同士で問診、身体診察をシュミレーションしてみる	
28	治療法の総括（頸肩腕痛、腰下肢痛の治療法）	予習／全症候の学習内容のチェック 復習／全症候の治療法の要点チェック	
29	診察法の総括　3.（頸肩腕痛、腰下肢痛の問診、身体診察、インフォームドコンセント全般）	予習／全症候の診察時に必要かつ基本的なインフォームドコンセントを列挙する 復習／学生同士で問診、身体診察をシュミレーションしてみる	
30	診察法と治療法の総括（頸肩腕痛、腰下肢痛の診察～治療）	予習／診察～治療までをイメージしてみる 復習／学生同士で診察～治療までをシュミレーションしてみる	

成績評価方法と基準	割合
１）本試験<DP①> ２）授業内でのペーパーテスト、提出物、授業中の態度の評価<DP①> 上記の１）と２）を総合する 。 授業中の態度としては以下の点が守られずに忠告を受け、その場で即座に改善されない者に対して行う。 １.「実技授業に適さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 ２. ベット上、およびその周りには、授業に関わらない物（飲食物、カバン、上着など）は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 ３. 授業中のやむ得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得え、「入室」時も教員に帰ってきたことを告げて着席する。	①80% ②20%

授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)(鍼灸 B)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective Ⅰ【Orthopedics】）				
主担当教員	佐藤 正人		担当教員	佐藤 正人、辻丸 泰永、鈴木 信	
科目ナンバリング	SS211	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 2 限 水曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床で最も多い愁訴の中から頸肩腕痛、腰下肢痛の２症候を取り上げて、それぞれの痛みの発生機序（基礎知識）から診察～治療までを学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 自覚／医療者としての自覚を育て、その責任の元に鍼灸師として行動ができる。
2. 知識／鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して基本的な診察、鑑別ができ、安全でより確実な治療法を工夫できる。
3. 技術／正確な診察法、治療技術を駆使することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 常に対患者をイメージして愛護的態度を養いかつ正確な診察、治療技術の習得に励む。
2. 診察は推察で有り、積極的に推察力を高め、またそれを行動に移す癖を身につける。
3. 徒手検査、治療に支障の無い服装で臨む。

教科書

・「刺鍼基本テクニックのマスター教本」　発行：日本臨床鍼灸懇話会
・授業時に配付する佐藤作成のテキスト（資料）

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

講師控え室／授業の前後の時間帯

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察および治療に関するオリエンテーション （鍼灸師と診察、適応不適応についてなど）	予習／シラバスの確認 復習／「鍼灸不適応疾患・病態」暗記	
2	治療に関するオリエンテーション （これまでに学んできた学習内容の復習）	予習／シラバスの確認 復習／受講内容の再確認	
3	診察法総論　１.（臨床とカルテ、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容の目を通す 復習／「鍼灸不適応疾患・病態」の暗記	
4	治療技術基礎　１.	予習／シラバス確認 復習／受講内容の再確認	
5	診察法総論　２. （深部反射、病的反射の実習、ペーパーテスト）	予習／テキスト内容に目を通す 復習／「深部反射」の技術確認	
6	治療技術基礎　２.	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
7	頸肩腕痛の診察法　１. （頸肩腕部の解剖、鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛の鑑別指標」の暗記	
8	治療技術基礎　３.	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
9	頸肩腕痛の診察法　２. （頸肩腕痛の病態、理学検査、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛の鑑別指標」の暗記	
10	頸肩腕痛の治療法　１. （鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	

11	頸肩腕痛の診察法　3. （頸肩腕痛の問診、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛の身体診察法」の技術確認	
12	頸肩腕痛の治療法　2. （鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
13	頸肩腕痛の診察法　4. （インフォームドコンセント、頸肩腕痛の診察まとめ）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頸肩腕痛のインフォームドコンセント」のやり方をまとめる	
14	頸肩腕痛の治療法　3. （病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
15	腰下肢痛の診察法　1. （腰～下肢の解剖、と腰下肢痛の鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰下肢痛の鑑別指標」の暗記	
16	頸肩腕痛の治療法　4. （診察～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
17	腰下肢痛の診察法　2. （腰痛の理学検査、病態把握、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰下肢痛の鑑別指標」の暗記	
18	腰下肢痛の治療法　1. （鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
19	腰下肢痛の診察法　3. （下肢痛の病態把握、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰痛の身体診察法」の技術確認	
20	腰下肢痛の治療法　2. （鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
21	腰下肢痛の診察法　4. （腰下肢痛の問診、身体診察）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「腰下肢痛の身体診察法」の技術確認	
22	腰下肢痛の治療法　3. （鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
23	腰下肢痛の診察法　5. （腰下肢痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／「医療面接を交えた診察法」考案 復習／配付資料の内容再認識	
24	腰下肢痛の治療法　4. （病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
25	診察法の総括　1. （頸肩腕痛、腰下肢痛のインフォームドコンセント）	予習／全症候の学習内容の確認 復習／全症候の診察法の要点チェック	
26	腰下肢痛の治療法　5. （診察～治療技術）	予習／テスト範囲の学習。診察授業で学んだ範囲に目を通す 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを追試してみる	
27	診察法の総括　2. （頸肩腕痛、腰下肢痛のインフォームドコンセント、身体所見実技）	予習／全症候の診察時に必要かつ基本的なインフォームドコンセントを列挙する 復習／学生同士で問診、身体診察をシュミレーションしてみる	
28	治療法の総括 （頸肩腕痛、腰下肢痛の治療法）	予習／全症候の学習内容のチェック 復習／全症候の治療法の要点チェック	
29	診察法の総括　3. （頸肩腕痛、腰下肢痛の問診、身体診察、インフォームドコンセント全般）	予習／全症候の診察時に必要かつ基本的なインフォームドコンセントを列挙する 復習／学生同士で問診、身体診察をシュミレーションしてみる	
30	診察法と治療法の総括 （頸肩腕痛、腰下肢痛の診察～治療）	予習／診察～治療までをイメージしてみる 復習／学生同士で診察～治療までをシュミレーションしてみる	
成績評価方法と基準			割合

１）本試験＜DP①＞ ２）授業内でのペーパーテスト、提出物、授業中の態度の評価＜DP①＞ 上記の１）と２）を総合する 。 授業中の態度としては以下の点が守られずに忠告を受け、その場で即座に改善されない者に対して行う。 １．「実技授業に適さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 ２．ベット上、およびその周りには、授業に関わらない物（飲食物、カバン、上着など）は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 ３．授業中のやむ得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得え、「入室」時も教員に帰ってきたことを告げて着席する。	①80% ②20%

授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)(鍼灸 A)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective Ⅱ【Orthopedics】）				
主担当教員	佐藤 正人		担当教員	佐藤 正人、辻丸 泰永、鈴木 信	
科目ナンバリング	SS225	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床で最も多い愁訴の中から肩痛、膝痛、頭痛の３症候を取り上げて、それぞれの痛みの発生機序（基礎知識）から診察～治療までの知識と技術を学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1. 情操／医療者としての自覚を育て、その責任のもとに鍼灸師として行動ができる。
2. 知識／鍼灸臨床で遭遇しやすい症候に対して基本的な診察、鑑別ができ、安全でより確実な診察法を工夫できる。
3. 技術／正確な診察法、治療技術を駆使することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 常に対患者をイメージして愛護的態度を養いかつ正確な診察、治療技術の習得に励む。
2. 診察は推察であり、積極的に推察力を高め、またそれを行動に移す癖を身につける。
3. 徒手検査、治療に支障の出ない服装で臨む。

教科書

・「刺鍼基本テクニックのマスター教本」　発行：日本臨床鍼灸懇話会
・授業時に配付する佐藤作成のテキスト（資料）

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

講師控え室／授業の前後の時間帯

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	診察法　基礎　１．診察法に関するオリエンテーション（2 年次の復習）	予習／シラバスの確認 復習／配布資料の内容再認識	
2	治療法　基礎　１．（2 年次の復習／取穴、刺鍼、施灸）	予習／シラバスの確認 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
3	肩関節痛の診察法　１． （肩関節の解剖、鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛の鑑別指標」の暗記	
4	肩関節痛の治療　１．（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
5	肩関節痛の診察法　２． （肩関節痛の病態把握、理学検査、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛の鑑別指標」の暗記	
6	肩関節痛の治療　2.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
7	肩関節痛の診察法　３． （肩関節痛の身体診察、問診、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛の身体診察法」技術確認	
8	肩関節痛の治療　3.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
9	肩関節痛の診察法　４． （肩関節痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「肩関節痛のインフォームドコンセント」をまとめる	
10	肩関節痛の治療　4.（診察～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
11	膝関節痛の診察法　１． （膝関節の解剖、鑑別法など）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛の鑑別指標」の暗記	
12	膝関節痛の治療　１．（鍼灸基礎技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
13	膝関節痛の診察法　２． （膝関節痛の理学検査、病態把握、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛の鑑別指標」の暗記	
14	膝関節痛の治療　2.（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
15	膝関節痛の診察法　３． （膝関節痛の問診、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛の身体診察法」の技術習得	
16	膝関節痛の治療　3.（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
17	膝関節痛の診察法　４． （膝関節痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛のインフォームドコンセント」をまとめる	
18	膝関節痛の治療　４．（診察～治療技術）	予習／テキスト内容に目を通す 復習／「身体診察法」の復習	
19	頭痛の診察法　１．（頭痛とは、NIHA の理解）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛の鑑別指標」の暗記	
20	頭痛の治療　１．（鍼灸基礎技術）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「膝関節痛の診察スタートライン」の暗記	
21	頭痛の診察法　２．（頭痛の神経学的検査、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛の鑑別指標」の暗記	
22	頭痛の治療　２．（鍼灸治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
23	頭痛の診察法　３．（頭痛の一次性頭痛とは、身体診察、ペーパーテスト）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛の身体診察法」の技術習得	
24	頭痛の治療　３．（病態鑑別～治療技術）	予習／テスト範囲の学習 復習／刺鍼、施灸、触診など学んだことを復習する。	
25	頭痛の診察法　４． （二次性頭痛、頭痛の診察まとめ、インフォームドコンセント）	予習／テキストの内容に目を通す 復習／「頭痛のインフォームドコンセント」をまとめる	
26	頭痛の治療　４．（診察～治療技術）	予習／テキスト内容に目を通す 復習／「頭痛の身体診察法」の復習	
27	診察法の総括(1)　１． （肩関節、膝関節、頭痛の診察法）	予習／全症候の学習内容に目を通す 復習／全症候の診察法の要点チェック	
28	治療法の総括（肩関節痛、膝関節痛、頭痛の治療）	予習／全症候の学習内容に目を通す 復習／全症候の治療法の要点チェック	
29	診察法の総括(2)　２． （インフォームドコンセントを中心に）	予習／各症候の診察時に必要かつ基本的なインフォームドコンセントを列挙する。 復習／学生同士で診察をシュミレーションしてみる	
30	診察法と治療法の総括	予習／診察～治療までをイメージしてみる 復習／学生同士で診察～治療までをシュミレーションしてみる	

成績評価方法と基準	割合
①本試験 ②授業内でのペーパーテスト、提出物、授業中の態度評価 ①と②を総合する 。 授業中の態度としては、以下の点が守られずに忠告を受け、その場で即座に改善されない者に対して行う。 １．「実技授業に適さない身だしなみ」は、授業が始まる前に全て整えることを怠らない。 ２．ベット上、およびその周りには、授業に関わらない物（飲食物、カバン、上着など）は一切置かない。また、ワゴンの上段は清潔を保つこと。 ３．授業中のやむ得ない「退出」は、その「理由」を教員に告げて了解を得え、「入室」時も教員に帰ってきたことを告げて着席する。	①80% ②20%

授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)(鍼灸 A)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective Ⅲ【Internal Medicine】）				
主担当教員	鈴木 信		担当教員	鈴木 信	
科目ナンバリング	SS226	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
鍼灸臨床での common disease としての内科疾患を取り上げる。疾患の詳細のついては他科にゆずり、鑑別のための身体診察の習熟に focus する。
到達目標
各種疾患を鑑別するための身体診察技術を習得する。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
授業時間の半分は診察実技としてペアでの練習になるが、常に「患者さん」を意識した思考と行動を徹底して欲しい。
教科書
毎時間の配布資料。
参考書
「刺鍼基本テクニックのマスター教本」
研究室／オフィスアワー
授業時間の前後/兼任講師控室
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　確認小テスト	予習：深部反射、兪穴の取穴 復習：同上	
2	血圧測定　上肢深部反射	予習：血圧測定方法　深部反射 復習：同上	
3	血圧測定　上肢深部反射小テスト	予習：前回と同様 復習：同上	
4	血圧測定　下肢深部反射	予習：下肢深部反射　下肢病的反射 復習：同上	
5	胸部心音聴診プレゼン	予習：心音聴診 復習：同上	
6	虚血性心疾患プレゼン	予習：虚血性心疾患 復習：同上	
7	下肢深部反射小テスト　胸部呼吸音聴診	予習：呼吸音聴診 復習：同上	
8	兪穴診察１　症例検討	予習：背部兪穴の取穴 復習：同上	
9	兪穴診察２	予習：同上 復習：同上	
10	気胸プレゼン	予習：気胸について 復習：同上	
11	督脈・兪穴取穴小テスト	予習：督脈・兪穴の取穴 復習：同上	
12	腹部診察	予習：腹部の診察について 復習：同上	
13	顔面神経麻痺プレゼン	予習：顔面神経麻痺について 復習：同上	
14	総合症例検討	予習：上記までの診察実技 復習：同上	
15	錐体路・錐体外路疾患プレゼン	予習：錐体路・錐体外路について 復習：同上	

成績評価方法と基準	割合
①授業内で行う診察実技小テスト ②後期総合試験 合計で評価する。また授業態度をそれに加味する。	①50% ②50%

授業科目名	現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)(鍼灸 B)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective Ⅲ【Internal Medicine】）				
主担当教員	鈴木 信		担当教員	鈴木 信	
科目ナンバリング	SS226	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
鍼灸臨床での common disease としての内科疾患を取り上げる。疾患の詳細のついては他科にゆずり、鑑別のための身体診察の習熟に focus する。
到達目標
各種疾患を鑑別するための身体診察技術を習得する。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
授業時間の半分は診察実技としてペアでの練習になるが、常に「患者さん」を意識した思考と行動を徹底して欲しい。
教科書
毎時間の配布資料。
参考書
「刺鍼基本テクニックのマスター教本」
研究室／オフィスアワー
授業時間の前後/兼任講師控室
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　確認小テスト	予習：深部反射、兪穴の取穴 復習：同上	
2	血圧測定　上肢深部反射	予習：血圧測定方法　深部反射 復習：同上	
3	血圧測定　上肢深部反射小テスト	予習：前回と同様 復習：同上	
4	血圧測定　下肢深部反射	予習：下肢深部反射　下肢病的反射 復習：同上	
5	胸部心音聴診プレゼン	予習：心音聴診 復習：同上	
6	虚血性心疾患プレゼン	予習：虚血性心疾患 復習：同上	
7	下肢深部反射小テスト　胸部呼吸音聴診	予習：呼吸音聴診 復習：同上	
8	兪穴診察１　症例検討	予習：背部兪穴の取穴 復習：同上	
9	兪穴診察２	予習：同上 復習：同上	
10	気胸プレゼン	予習：気胸について 復習：同上	
11	督脈・兪穴取穴小テスト	予習：督脈・兪穴の取穴 復習：同上	
12	腹部診察	予習：腹部の診察について 復習：同上	
13	顔面神経麻痺プレゼン	予習：顔面神経麻痺について 復習：同上	
14	総合症例検討	予習：上記までの診察実技 復習：同上	
15	錐体路・錐体外路疾患プレゼン	予習：錐体路・錐体外路について 復習：同上	

成績評価方法と基準	割合
①授業内で行う診察実技小テスト ②後期総合試験 合計で評価する。また授業態度をそれに加味する。	①50% ②50%

授業科目名	東洋医学系検査法(鍼灸 A)（Oriental Medical Method of Examination）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、堀川　奈央、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS213	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

1 年生で学習した東洋医学的な診察法である四診法について実技を行う。
中医学では体の異常を四診（望診・問診・聞診・切診）で診察し、診断を行い治療方法の計画を立て経穴に刺鍼や施灸が行えるように技術を修得する。

到達目標

鍼灸治療には「理・法・方・穴・術」という流れによって弁証論治をおこなう。治療に行うのに必要となる情報を得るための四診法を修得する
1．望診（顔色の望診、腹診、舌診、背候診）
2．問診
3．聞診
4．切診（脈診、原穴診、背候診、腹診）

これらの情報を修得する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布された講義資料にも目を通すこと。
2．出席は重視する。
3．予習復習を各 1 時間実施する。

教科書

東洋医学概論（東洋療法学校協会）
配布テキスト

参考書

鍼灸学基礎編

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室 9（仲西）・研究室 13（堀川）

昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義概要 中医学基礎理論と四診法	予習：四診法に必要な虚実の判定について勉強すること 復習：虚実について理解・説明できる	仲西 堀川
2	望診① グループ学習 顔面診、舌診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：舌診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
3	望診② グループ学習 腹診、背候診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：腹診・背候診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
4	望診③ まとめ グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
5	切診① グループ学習 脈診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：脈診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
6	切診② グループ学習 脈診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：脈診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
7	切診③ グループ学習 脈診・原穴診・切経について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：原穴・切経の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
8	切診④ グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと	仲西 堀川
	背候診、腹診について	復習：腹診・背候診の所見を理解・説明できる	
9	切診⑤ まとめ グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：切診の所見を理解・説明できる	仲西 堀川
10	問診① グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：問診からの基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
11	問診② グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：問診から所見を理解・説明できる	仲西 堀川
12	望診 グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
13	まとめ グループ学習 問診・望診	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
14	四診法の実施① グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：四診法からの情報を理解・説明できる	仲西 堀川
15	四診法の実施② グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：四診法からの情報を理解・説明できる	仲西 堀川

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験 100%、実技 100%（試験 70%、授業評価 30%）で評価する。筆記試験と実技試験ともに 60%以上で単位を認定する ＊授業評価は授業態度、提出物、小テストなど 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。	筆記 50%、実技 50%

授業科目名	東洋医学系検査法(鍼灸 B)（Oriental Medical Method of Examination）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、堀川　奈央、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS213	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

1 年生で学習した東洋医学的な診察法である四診法について実技を行う。
中医学では体の異常を四診（望診・問診・聞診・切診）で診察し、診断を行い治療方法の計画を立て経穴に刺鍼や施灸が行えるように技術を修得する。

到達目標

鍼灸治療には「理・法・方・穴・術」という流れによって弁証論治をおこなう。治療に行うのに必要となる情報を得るための四診法を修得する
1．望診（顔色の望診、腹診、舌診、背候診）
2．問診
3．聞診
4．切診（脈診、原穴診、背候診、腹診）

これらの情報を修得する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．配布された講義資料にも目を通すこと。
2．出席は重視する。
3．予習復習を各 1 時間実施する。

教科書

東洋医学概論（東洋療法学校協会）
配布テキスト

参考書

鍼灸学基礎編

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室 9（仲西）・研究室 13（堀川）
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義概要 中医学基礎理論と四診法	予習：四診法に必要な虚実の判定について勉強すること 復習：虚実について理解・説明できる	仲西 堀川
2	望診① グループ学習 顔面診、舌診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：舌診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
3	望診② グループ学習 腹診、背候診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：腹診・背候診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
4	望診③ まとめ グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
5	切診① グループ学習 脈診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：脈診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
6	切診② グループ学習 脈診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：脈診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
7	切診③ グループ学習 脈診・原穴診・切経について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：原穴・切経の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
8	切診④ グループ学習 背候診、腹診について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：腹診・背候診の所見を理解・説明できる	仲西 堀川
9	切診⑤ まとめ グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：切診の所見を理解・説明できる	仲西 堀川
10	問診① グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：問診からの基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
11	問診② グループ学習 患者情報の聴取の練習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：問診から所見を理解・説明できる	仲西 堀川
12	望診 グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
13	まとめ グループ学習 問診・望診	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：望診の基本的な所見を理解・説明できる	仲西 堀川
14	四診法の実施① グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：四診法からの情報を理解・説明できる	仲西 堀川
15	四診法の実施② グループ学習	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：四診法からの情報を理解・説明できる	仲西 堀川

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験 100%、実技 100%（試験 70%、授業評価 30%）で評価する。筆記試験と実技試験ともに 60%以上で単位を認定する ＊授業評価は授業態度、提出物、小テストなど 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。	筆記 50%、実技 50%

授業科目名	東洋医学各論Ⅰ(鍼灸)（Detailed Oriental Medicine Ⅰ）				
主担当教員	辻　涼太		担当教員	辻　涼太	
科目ナンバリング	SS214	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
中医診断学および中医弁証概論 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です
到達目標
中医診断学である、四診法の理論習得と弁証学の基礎を習得する。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
東洋医学概論を基礎とした応用の理論になります。東洋医学的治療の要になります。治療家になる上での楽しさを一緒に共有できればと思いますので、一緒にやり遂げましょう。
教科書
新版　東洋医学概論　教科書 授業プリント
参考書
『針灸学[基礎篇]』
研究室／オフィスアワー
東棟４階　共同研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	東洋医学的診断と意義	1 年前期に行った五行色体表を復習してきてください	
2	弁証の種類と意義	2 年までに行った弁証に関する分類などを復習しておいてください。	
3	四診法（望診）		
4	四診法（望診）演習	実技を踏まえた内容になりますので、これまでの復習を行うこと	
5	四診法（聞診）		
6	四診法（問診）		
7	四診法（問診）		
8	四診法（問診）演習	実技を踏まえた内容になりますので、これまでの復習を行うこと	
9	四診法（切診）		
10	四診法（切診）演習	実技を踏まえた内容になりますので、これまでの復習を行うこと	
11	四診法と弁証　試験	単位評価に関わりますので、試験勉強をして来てください。	
12	八綱弁証と気血津液弁証に対する鍼灸治療と漢方治療	四診法の復習を必ず行ってから来てください。	
13	臓腑弁証における鍼灸治療と漢方治療	四診法の復習を必ず行ってから来てください。	
14	学生グループワーク　弁証に対する治療方法	空き時間に集まり、発表用スライドとレポート作成を行ってください。	
15	グループワーク発表。	レポートを提出して頂きますので用意ください。	

成績評価方法と基準	割合
講義内試験（四診法と弁証）：60 点満点 グループワークレポート：40 点満点 合計 100 点満点で評価する。グループ発表の最優秀発表班には加点 10 点を付与する。	100%

授業科目名	応用鍼灸実技Ⅰ(鍼灸 A)				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、熊野　弘子	
科目ナンバリング	SS311	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
特殊鍼法（小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼療法）および、様々な刺鍼の術式について学ぶ。 ※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です
到達目標
小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼療法を行うことが出来る。 様々な刺鍼の術式を行うことができる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
実技、実演を多用する予定 積極的に実技に参加すること 1.出席を重視する。 2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
教科書
教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社
参考書
図解 鍼灸臨床手技の実際　尾崎昭弘　医歯薬出版株式会社
研究室／オフィスアワー
研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習・復習：1 年次に学んだ鍼灸実技を追試すること。(2 時間)	松熊、熊野
2	小児鍼	予習：はりきゅう理論の教科書 15〜17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
3	皮内鍼、円皮鍼	予習：はりきゅう理論の教科書 15〜17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
4	低周波鍼通電療法 1	予習：はりきゅう理論の教科書 15〜17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
5	低周波鍼通電療法 2	予習：はりきゅう理論の教科書 15〜17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
6	耳鍼	予習：はりきゅう理論の教科書 15〜17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
7	頭鍼療法	予習：はりきゅう理論の教科書 15〜17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
8	間歇術、屋漏術	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
9	旋撚術、回旋術	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
10	振せん術、副刺激術	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
11	示指打法、随鍼術	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
12	内調術、細指術	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
13	管散術、乱鍼術	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
14	鍼尖転移法、刺鍼転向術	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
15	総括（特殊鍼法、様々な刺鍼の術式）	予習：はりきゅう理論の教科書 13〜14、15〜17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野

成績評価方法と基準	割合
①小テスト<DP1> ②期末試験<DP1>	①40% ②60%

授業科目名	応用鍼灸実技Ⅰ(鍼灸 B)				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、熊野　弘子	
科目ナンバリング	SS311	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

特殊鍼法（小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼療法）および、様々な刺鍼の術式について学ぶ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、低周波鍼通電法、耳鍼、頭鍼療法を行うことが出来る。
様々な刺鍼の術式を行うことができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実技、実演を多用する予定
積極的に実技に参加すること
1.出席を重視する。
2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。

教科書

教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社

参考書

図解 鍼灸臨床手技の実際　尾崎昭弘　医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習・復習：1 年次に学んだ鍼灸実技を追試すること。(2 時間)	松熊、熊野
2	小児鍼	予習：はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
3	皮内鍼、円皮鍼	予習：はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
4	低周波鍼通電療法 1	予習：はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
5	低周波鍼通電療法 2	予習：はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
6	耳鍼	予習：はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
7	頭鍼療法	予習：はりきゅう理論の教科書 15～17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
8	間歇術、屋漏術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
9	旋撚術、回旋術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
10	振せん術、副刺激術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
11	示指打法、随鍼術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
12	内調術、細指術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
13	管散術、乱鍼術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
14	鍼尖転移法、刺鍼転向術	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野
15	総括（特殊鍼法、様々な刺鍼の術式）	予習：はりきゅう理論の教科書 13～14、15～17 頁を読むこと。(1 時間) 復習：学習した内容を追試すること。(1 時間)	松熊、熊野

成績評価方法と基準	割合
①小テスト<DP1> ②期末試験<DP1>	①40% ②60%

授業科目名	応用鍼灸実技Ⅱ(鍼灸 A)				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、増山　祥子、辻丸　泰永、大川　祐世、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS312	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 1 限 月曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

ロールプレイを通じて、診療の流れを理解する。また、自身が患者になることによって、患者の立場を理解する。ロールプレイおよびカンファレンスでは積極的にディスカッションに参加する。附属施術所の見学を行い、3 年次以降の実習に参加する心構えを持つ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

①医療者として自覚と責任ある行動ができるようになる。
②患者の立場を理解する。
③診療の流れを身に着ける。
④ディスカッションに自らの意見を持って積極的に参加する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①常にそばに患者がいると想定しながら、現場を意識して授業に臨む。
②学習グループは 9 月に実施する客観的臨床能力試験（医療面接、整形外科的検査、鍼灸実技）の結果から 4 班に分ける。
③習熟度が低い班は検査法および実技の練習から開始するため、ロールプレイ教材を終えることができない場合は、補習授業への出席を義務付ける。
④学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。

教科書

授業中に配付する資料（テキスト）

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

報告書の提出時に、各指導教員の指定する日時・場所にて実施する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 症例のロールプレイの練習	単元 1 で配布される実習所を熟読し、服装や髪型について十分に注意すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
2	カンファレンス ロールプレイ① 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
3	カンファレンス ロールプレイ② 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
4	カンファレンス ロールプレイ③ 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
	④治療		
5	カンファレンス ロールプレイ④ 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
6	カンファレンス ロールプレイ⑤ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
7	カンファレンス ロールプレイ⑥ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
8	3 年生との合同実習 3 年生の患者として診療を受ける。	自身の治療終了後、受けた治療内容について次回のカンファレンスまでに検討すること 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
9	3 年生との合同実習 3 年生の患者として診療を受ける。	自身の治療終了後、受けた治療内容について次回のカンファレンスまでに検討すること 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
10	3 年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3 年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスで議論した内容について、レポートを作成する。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
11	3 年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3 年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスで議論した内容について、レポートを作成する。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
12	附属施術所見学 施術所にて準備・施設についての説明を受ける。 教員が行う診療を見学する。	実習書を熟読してくること。 実習終了後に指定のレポート用紙を用いて、報告書を作成し、1 週間以内に担当者へ提出すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
13	附属施術所見学 施術所にて準備・施設についての説明を受ける。 教員が行う診療を見学する。	実習書を熟読してくること。 実習終了後に指定のレポート用紙を用いて、報告書を作成し、1 週間以内に担当者へ提出すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
14	3 年生との合同実習 3 年生の患者として診療を受ける。	施術所見学を踏まえて、自身の症状に対する診療内容を事前に検討してくること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
15	3 年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3 年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスを経て、報告書を提出すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
①カンファレンス報告書　1 回 ②施術所見学報告書　1 回　　報告書を全て提出すること。 全出席とする。 ロールプレイ教材の全てを終える必要がある。習熟度別班で 2 年次前期までの復習から開始した班は、補習に出席して全教材を終えなければ評価しない。 ※到達目標 1 について、評価する。	①50% ②50%

授業科目名	応用鍼灸実技Ⅱ(鍼灸 B)				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、辻丸　泰永、堀川　奈央、大川　祐世、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS312	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 1 限 金曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

ロールプレイを通じて、診療の流れを理解する。また、自身が患者になることによって、患者の立場を理解する。ロールプレイおよびカンファレンスでは積極的にディスカッションに参加する。附属施術所の見学を行い、3 年次以降の実習に参加する心構えを持つ。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

①医療者として自覚と責任ある行動ができるようになる。
②患者の立場を理解する。
③診療の流れを身に着ける。
④ディスカッションに自らの意見を持って積極的に参加する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①常にそばに患者がいると想定しながら、現場を意識して授業に臨む。
②学習グループは 9 月に実施する客観的臨床能力試験（医療面接、整形外科的検査、鍼灸実技）の結果から 4 班に分ける。
③習熟度が低い班は検査法および実技の練習から開始するため、ロールプレイ教材を終えることができない場合は、補習授業への出席を義務付ける。
④学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。

教科書

授業中に配付する資料（テキスト）

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

報告書の提出時に、各指導教員の指定する日時・場所にて実施する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 症例のロールプレイの練習	単元 1 で配布される実習所を熟読し、服装や髪型について十分に注意すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
2	カンファレンス ロールプレイ① 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
3	カンファレンス ロールプレイ② 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
4	カンファレンス ロールプレイ③ 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、	
	②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
5	カンファレンス ロールプレイ④ 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
6	カンファレンス ロールプレイ⑤ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
7	カンファレンス ロールプレイ⑥ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 ④治療	予習：現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）、運動機能検査法、チーム医療とコミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
8	3 年生との合同実習 3 年生の患者として診療を受ける。	自身の治療終了後、受けた治療内容について次回のカンファレンスまでに検討すること 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
9	3 年生との合同実習 3 年生の患者として診療を受ける。	自身の治療終了後、受けた治療内容について次回のカンファレンスまでに検討すること 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
10	3 年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3 年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスで議論した内容について、レポートを作成する。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
11	3 年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3 年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスで議論した内容について、レポートを作成する。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
12	附属施術所見学 施術所にて準備・施設についての説明を受ける。 教員が行う診療を見学する。	実習書を熟読してくること。 実習終了後に指定のレポート用紙を用いて、報告書を作成し、1 週間以内に担当者へ提出すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
13	附属施術所見学 施術所にて準備・施設についての説明を受ける。 教員が行う診療を見学する。	実習書を熟読してくること。 実習終了後に指定のレポート用紙を用いて、報告書を作成し、1 週間以内に担当者へ提出すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
14	3 年生との合同実習 3 年生の患者として診療を受ける。	施術所見学を踏まえて、自身の症状に対する診療内容を事前に検討してくること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	
15	3 年生との合同カンファレンス 各自が診療を受けた内容について、3 年生を中心にディスカッションする。	カンファレンスを経て、報告書を提出すること。 学修内容に準じた予習・まとめ等を、2 時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
①カンファレンス報告書　1 回 ②施術所見学報告書　1 回　　報告書を全て提出すること。 全出席とする。 ロールプレイ教材の全てを終える必要がある。習熟度別班で 2 年次前期までの復習から開始した班は、補習に出席して全教材を終えなければ評価しない。 ※到達目標 1 について、評価する。	①50% ②50%

授業科目名	現代医学系鍼灸学実習Ⅰ(鍼灸A)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective【Practice I】）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、高﨑　雷太	
科目ナンバリング	SS305	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
整形外科的検査法のうち、関節可動域検査（ROM）、徒手筋力検査（MMT）に着目し、適切な検査法を学習する。また、検査値に問題があった場合の病態理解および治療計画についても学習し、治療の実践も行う。
到達目標
１．各関節の可動域検査を実施できる。 ２．主要な筋の徒手筋力検査を実施できる。 ３．検査結果から、主動筋・拮抗筋・関節の問題に分類して病態把握ができる。 ４．治療計画を作成し、実践できる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
本授業では、無駄な私語や許可がない退室は認めない。 指示以外の行為を行った場合、および授業妨害と認められる場合は、退室を指示することがある。
教科書
なし
参考書
特になし
研究室／オフィスアワー
教員の研究室にて対応する。
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	肩関節の ROM・MMT	肩関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
2	肘関節の ROM・MMT	肘関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
3	股関節の ROM・MMT	股関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
4	膝関節の ROM・MMT	膝関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
5	手・足関節の ROM・MMT	手・足関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
6	頸部の ROM・MMT	頸部を構成する筋肉と作用を学習してくること	
7	腰部の ROM・MMT	腰部を構成する筋肉と作用を学習してくること	
8	肩関節の症例トレーニング	肩関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
9	肘関節の症例トレーニング	肘関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
10	股関節の症例トレーニング	股関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
11	膝関節の症例トレーニング	膝関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
12	足・手関節の症例トレーニング	足・手関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
13	頸部の症例トレーニング	頸部の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
14	腰部の症例トレーニング	腰部の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
15	まとめ	これまでに学習した代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席が必要 筆記試験	100%

授業科目名	現代医学系鍼灸学実習Ⅰ(鍼灸B)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective【Practice I】）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、髙﨑　雷太	
科目ナンバリング	SS305	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
整形外科的検査法のうち、関節可動域検査（ROM）、徒手筋力検査（MMT）に着目し、適切な検査法を学習する。また、検査値に問題があった場合の病態理解および治療計画についても学習し、治療の実践も行う。
到達目標
１．各関節の可動域検査を実施できる。 ２．主要な筋の徒手筋力検査を実施できる。 ３．検査結果から、主動筋・拮抗筋・関節の問題に分類して病態把握ができる。 ４．治療計画を作成し、実践できる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
本授業では、無駄な私語や許可がない退室は認めない。 指示以外の行為を行った場合、および授業妨害と認められる場合は、退室を指示することがある。
教科書
なし
参考書
特になし
研究室／オフィスアワー
教員の研究室にて対応する。
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	肩関節の ROM・MMT	肩関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
2	肘関節の ROM・MMT	肘関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
3	股関節の ROM・MMT	股関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
4	膝関節の ROM・MMT	膝関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
5	手・足関節の ROM・MMT	手・足関節を構成する筋肉と作用を学習してくること	
6	頸部の ROM・MMT	頸部を構成する筋肉と作用を学習してくること	
7	腰部の ROM・MMT	腰部を構成する筋肉と作用を学習してくること	
8	肩関節の症例トレーニング	肩関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
9	肘関節の症例トレーニング	肘関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
10	股関節の症例トレーニング	股関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
11	膝関節の症例トレーニング	膝関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
12	足・手関節の症例トレーニング	足・手関節の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
13	頸部の症例トレーニング	頸部の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
14	腰部の症例トレーニング	腰部の代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	
15	まとめ	これまでに学習した代表的な障害と検査法を事前に学習してくること	

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席が必要 筆記試験	100%

授業科目名	現代医学系鍼灸学実習Ⅱ(鍼灸A)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective【Practice Ⅱ】）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、髙﨑　雷太	
科目ナンバリング	SS309	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

筋骨格系の障害に対する対処法として、硬結・圧痛点の形成メカニズムと対処法を学ぶ。これらの延長上にあるトリガーポイント鍼治療についても理解し、実施が出来ることを目指す。筋骨格系の鍼灸治療とストレッチングの組み合わせは重要であり、一部骨格診断法やマニピュレーションテクニックを加えて運動器系のスペシャリストを目指す。

到達目標

①硬結・圧痛点の形成メカニズムについて理解できる。
②トリガーポイントの成因と特徴を理解できる。
③代表的な筋トリガーポイントの検索ができる。
④代表的な筋へのストレッチングができる。
⑤運動器障害の診察と治療ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本講義は運動器疾患を取り扱う上で基本とされる技術の修得を目指している。よって、実技中の私語や教員の許可ない退室は認めない。また、指示事項以外の行動に対して、注意しても改善が見られない場合は退室を指示する。

教科書

なし

参考書

圧痛点と鍼灸臨床　医道の日本社
はじめてのトリガーポイント鍼治療　医道の日本社

研究室／オフィスアワー

教員の研究室で対応する。
授業時間外に技術の練習をしたいものは、教員が可能な場合に実技室を開室して対応する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	筋硬結・圧痛点の形成メカニズムとトリガーポイント(講義)	1 年次生理学の筋および痛覚（特にポリモーダル受容器）について復習してくること	
2	身体のバランスと筋痛のメカニズム	講義後に家族・友人の身体バランスを観察すること	
3	骨格の視診・触診と罹患筋の検索	頸肩部上肢の筋を復習し、関節 ROM・MMT を復習してくること	
4	脊柱・骨盤の診察	腰部・股関節周囲筋と ROM・MMT を復習してくること	
5	頸肩部の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
6	頸肩部の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
7	肩関節の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
8	肩関節の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
9	腰部の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
10	腰部の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
11	上肢の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
12	上肢の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
13	下肢の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
14	下肢の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
15	症例トレーニング	これまで学習した内容を復習してくること	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験 ①硬結・圧痛点・トリガーポイントの形成メカニズム ②骨格診察 ③代表的な筋トリガーポイント ④代表的な筋上の経穴と経絡	100%

授業科目名	現代医学系鍼灸学実習Ⅱ(鍼灸B)（Acupuncture from Modern Medicine Perspective【Practice Ⅱ】）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、高﨑　雷太	
科目ナンバリング	SS309	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

筋骨格系の障害に対する対処法として、硬結・圧痛点の形成メカニズムと対処法を学ぶ。これらの延長上にあるトリガーポイント鍼治療についても理解し、実施が出来ることを目指す。筋骨格系の鍼灸治療とストレッチングの組み合わせは重要であり、一部骨格診断法やマニピュレーションテクニックを加えて運動器系のスペシャリストを目指す。

到達目標

①硬結・圧痛点の形成メカニズムについて理解できる。
②トリガーポイントの成因と特徴を理解できる。
③代表的な筋トリガーポイントの検索ができる。
④代表的な筋へのストレッチングができる。
⑤運動器障害の診察と治療ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本講義は運動器疾患を取り扱う上で基本とされる技術の修得を目指している。よって、実技中の私語や教員の許可ない退室は認めない。また、指示事項以外の行動に対して、注意しても改善が見られない場合は退室を指示する。

教科書

なし

参考書

圧痛点と鍼灸臨床　医道の日本社
はじめてのトリガーポイント鍼治療　医道の日本社

研究室／オフィスアワー

教員の研究室で対応する。
授業時間外に技術の練習をしたいものは、教員が可能な場合に実技室を開室して対応する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	筋硬結・圧痛点の形成メカニズムとトリガーポイント(講義)	1 年次生理学の筋および痛覚（特にポリモーダル受容器）について復習してくること	
2	身体のバランスと筋痛のメカニズム	講義後に家族・友人の身体バランスを観察すること	
3	骨格の視診・触診と罹患筋の検索	頸肩部上肢の筋を復習し、関節 ROM・MMT を復習してくること	
4	脊柱・骨盤の診察	腰部・股関節周囲筋と ROM・MMT を復習してくること	
5	頸肩部の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
6	頸肩部の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
7	肩関節の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
8	肩関節の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
9	腰部の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
10	腰部の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
11	上肢の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
12	上肢の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
13	下肢の診察とトリガーポイント・ストレッチング	対象部位の筋上の経穴・循経経絡を復習してくること	
14	下肢の症例トレーニング	前回授業内容を復習し、関連部位の運動器疾患を調べてくること	
15	症例トレーニング	これまで学習した内容を復習してくること	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験 ①硬結・圧痛点・トリガーポイントの形成メカニズム ②骨格診察 ③代表的な筋トリガーポイント ④代表的な筋上の経穴と経絡	100%

授業科目名	現代医学系鍼灸応用実習(鍼灸 A)				
主担当教員	藤川　直孝		担当教員	藤川　直孝	
科目ナンバリング	SS307	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

2 年次に履修した現代医学系鍼灸学実習Ⅱでは主に運動器疾患の病態像、およびそれら疾患に対する検査法、鍼灸治療について学習したが、本科目では実際の症例を取り上げ、的確に病態を把握し、それらに対する検査法を駆使して治療方針を立て、治療法も現代医学的手法や東洋医学的な観点からのアプローチができるように演習する。また適切な治療法を自分で考える能力を伸ばし、それらの結果を自分の言葉で記録できる能力を身につける。

到達目標

① 実際の症例から病態を把握できる。
② 病態から検査および治療方針を選択できる。
③ 適切な施術を安全に施行できる。
④ 限られた時間と環境でそれらを実践できる。
⑤ ①～④について実践できた場合、筋骨格系の診察および治療法を理解できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

施術者としての技術のみならず、病を患う人に対する人間理解を深め、はり師・灸師としてもとめられる必要かつ十分な技術を求めます。積極的に実習を行い、疑問点は教員に訪ね、自分で判断し、記録が出来るよう努力してください。

教科書

「ポケット鍼灸臨床ガイド」　坂本　歩監修　アルテミシア刊

参考書

「目で見る運動機能検査法」南江堂刊

研究室／オフィスアワー

水曜日、午後 4 時限
非常勤講師控え室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	頚肩腕部の症例（頸椎症性神経根症・胸郭出口症候群、小胸筋症候群など）	2 年次で学習した頚椎症、胸郭出口症候群について病態把握、検査法について復習すること。	
2	肩関節の症例（肩こり、五十肩、上腕二頭筋長頭腱炎、腱板損傷など）	肩関節周辺疾患について病態把握、検査法について復習すること。	
3	診療演習 1	1～2 回で学習した疾患を実際の症例で演習する。	
4	上肢症例（上腕骨内側・外側上顆炎、腱鞘炎、ゴルフ肘、肘部管症候群）	上肢の症例について病態把握、検査法について復習すること。	
5	上肢の末梢神経傷害の症例（橈骨神経、正中神経、尺骨神経）	上肢の末梢神経傷害である橈骨・正中・尺骨神経障害について復習すること。	
6	診療演習 2	4～5 回で学習した疾患を実際の症例で演習する。	
7	腰痛の症例（筋筋膜性腰痛、腰椎椎間関節性腰痛、仙腸関節性腰痛）	腰痛の症例について病態把握し、検査法を駆使して鑑別できるよう予習すること。	
8	腰下肢痛の症例（変形性腰椎症、腰椎椎間板ヘルニア、梨状筋症候群）	腰下肢痛の症例について病態把握、検査法を予習すること。	
9	診療演習 3	7 ～ 8 回で学習した疾患を実際の症例で演習する。	
10	ジャンパー膝、腸脛靭帯膝関節障害症例（変形性膝関節症、靭帯損傷炎）	膝関節障害の病態把握、検査法を復習すること。	
11	下肢のスポーツ障害（シンスプリント、アキレス腱炎、足関節捻挫など）	日常よく見られるスポーツ傷害について病態把握し検査法を予習すること。	
12	診療演習 4	10～11 回で学習した疾患について演習する。	
13	十二経筋について演習する。	十二経筋について復習する。	
14	十二皮部について演習する	十二皮部について復習する。	
15	全体のまとめと振り返り		

成績評価方法と基準	割合
1. レポート課題 2. 定期試験 DP①④	1. 60% 2. 40%

授業科目名	現代医学系鍼灸応用実習(鍼灸 B)				
主担当教員	藤川　直孝		担当教員	藤川　直孝	
科目ナンバリング	SS307	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

2 年次に履修した現代医学系鍼灸学実習Ⅱでは主に運動器疾患の病態像、およびそれら疾患に対する検査法、鍼灸治療について学習したが、本科目では実際の症例を取り上げ、的確に病態を把握し、それらに対する検査法を駆使して治療方針を立て、治療法も現代医学的手法や東洋医学的な観点からのアプローチができるように演習する。また適切な治療法を自分で考える能力を伸ばし、それらの結果を自分の言葉で記録できる能力を身につける。

到達目標

① 実際の症例から病態を把握できる。
② 病態から検査および治療方針を選択できる。
③ 適切な施術を安全に施行できる。
④ 限られた時間と環境でそれらを実践できる。
⑤ ①～④について実践できた場合、筋骨格系の診察および治療法を理解できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

施術者としての技術のみならず、病を患う人に対する人間理解を深め、はり師・灸師としてもとめられる必要かつ十分な技術を求めます。積極的に実習を行い、疑問点は教員に訪ね、自分で判断し、記録が出来るよう努力してください。

教科書

「ポケット鍼灸臨床ガイド」　坂本　歩監修　アルテミシア刊

参考書

「目で見る運動機能検査法」南江堂刊

研究室／オフィスアワー

水曜日、午後 4 時限
非常勤講師控え室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	頚肩腕部の症例（頸椎症性神経根症・胸郭出口症候群、小胸筋症候群など）	2 年次で学習した頚椎症、胸郭出口症候群について病態把握、検査法について復習すること。	
2	肩関節の症例（肩こり、五十肩、上腕二頭筋長頭腱炎、腱板損傷など）	肩関節周辺疾患について病態把握、検査法について復習すること。	
3	診療演習 1	1～2 回で学習した疾患を実際の症例で演習する。	
4	上肢症例（上腕骨内側・外側上顆炎、腱鞘炎、ゴルフ肘、肘部管症候群）	上肢の症例について病態把握、検査法について復習すること。	
5	上肢の末梢神経傷害の症例（橈骨神経、正中神経、尺骨神経）	上肢の末梢神経傷害である橈骨・正中・尺骨神経障害について復習すること。	
6	診療演習 2	4～5 回で学習した疾患を実際の症例で演習する。	
7	腰痛の症例（筋筋膜性腰痛、腰椎椎間関節性腰痛、仙腸関節性腰痛）	腰痛の症例について病態把握し、検査法を駆使して鑑別できるよう予習すること。	
8	腰下肢痛の症例（変形性腰椎症、腰椎椎間板ヘルニア、梨状筋症候群）	腰下肢痛の症例について病態把握、検査法を予習すること。	
9	診療演習 3	７～８回で学習した疾患を実際の症例で演習する。	
10	ジャンパー膝、腸脛靱帯膝関節障害症例（変形性膝関節症、靭帯損傷炎）	膝関節障害の病態把握、検査法を復習すること。	
11	下肢のスポーツ障害（シンスプリント、アキレス腱炎、足関節捻挫など）	日常よく見られるスポーツ傷害について病態把握し検査法を予習すること。	
12	診療演習 4	10～11 回で学習した疾患について演習する。	
13	十二経筋について演習する。	十二経筋について復習する。	
14	十二皮部について演習する	十二皮部について復習する。	
15	全体のまとめと振り返り		

成績評価方法と基準	割合
1. レポート課題 2. 定期試験 DP①④	1. 60% 2. 40%

授業科目名	東洋医学系鍼灸実習Ⅰ(鍼灸 A)（Acupuncture from Oriental Medicine Perspective【Practice I】）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、堀川　奈央、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS308	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床を行うにあたって、必要となる東洋医学的診察法である四診を中心とした弁証を修得する。
特に東洋医学的基礎を理解し、その中でもに四診法と弁証構成から弁証論治ができ、それに準じた治療法を考え身に着けること。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1．四診法（望・問・聞・切）を理解し、説明できる
2．四診法から患者の病態（弁証）ができ鍼灸治療に応用できる
3．各疾患の弁証を理解し、鍼灸治療に応用できる
4．弁証を理解し、説明できる
5．八綱弁証・病邪弁証・気血津液弁証・臓腑弁証などを理解し、説明できる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．前期　東洋医学系検査法で使用したテキスト・後期新たに配布する授業テキストに目を通すこと。
2．出席は重視する。
3．予習復習を各 1 時間実施する。

教科書

1.「新版　東洋医学概論」東洋療法学校協会
2.配布テキスト

参考書

鍼灸学基礎編

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室 13
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	概要説明（弁証構成）	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：基本的な構成を覚えること	仲西 堀川
2	八綱弁証① 表裏・寒熱について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：虚実・寒熱の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
3	八綱弁証② 虚実・陰陽について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：虚実・陰陽の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
4	病邪弁証 概要説明 傷寒・温病について 内因・外因・不外内因について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：傷寒・温病の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
5	気血津液弁証① 気の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎 気について復習しておくこと。 復習：気の病理変化を理解する。	仲西 堀川
6	気血津液弁証② 血の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎 血を復習しておくこと。 復習：気の病理変化、血の病理変化を理解する。	仲西 堀川
7	気血津液弁証③ 津液の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎津液について復習しておくこと。 復習：気、血、津液の病理変化を理解し、気血津液弁証の説明ができる。	仲西 堀川
8	小テスト	予習：1～7 回目の授業の復習 復習：テストで理解できてなかったところを再学習し、次回の授業に挑むこと。	仲西 堀川
9	臓腑弁証① 心・小腸の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
10	臓腑弁証② 肺・大腸の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
11	臓腑弁証③ 脾・胃の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
12	臓腑弁証④ 肝・胆の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
13	臓腑弁証⑤ 腎・膀胱の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
14	実技試験	予習：実技試験の課題練習 復習：実技試験での反省点を整理し、練習する。	仲西 堀川
15	学生同士で弁証論治から治療まで実施する	東洋医学的な治療方法について自分自身で考え治療ができるように	仲西 堀川

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験 100%、実技試験 100%で評価する。筆記試験と実技試験ともに 60%以上で単位を認定する 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。	筆記 50%、実技 50%

授業科目名	東洋医学系鍼灸実習Ⅰ(鍼灸 B)（Acupuncture from Oriental Medicine Perspective【Practice Ⅰ】）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、堀川　奈央、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS308	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床を行うにあたって、必要となる東洋医学的診察法である四診を中心とした弁証を修得する。
特に東洋医学的基礎を理解し、その中でもに四診法と弁証構成から弁証論治ができ、それに準じた治療法を考え身に着けること。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．四診法（望・問・聞・切）を理解し、説明できる
２．四診法から患者の病態（弁証）ができ鍼灸治療に応用できる
３．各疾患の弁証を理解し、鍼灸治療に応用できる
４．弁証を理解し、説明できる
５．八綱弁証・病邪弁証・気血津液弁証・臓腑弁証などを理解し、説明できる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．前期　東洋医学系検査法で使用したテキスト・後期新たに配布する授業テキストに目を通すこと。
２．出席は重視する。
３．予習復習は各１時間実施する。

教科書

１.新版　東洋医学概論　東洋療法学校協会
２.配布テキスト

参考書

鍼灸学基礎編

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室９
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	概要説明（弁証構成）	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：基本的な構成を覚えること	仲西 堀川
2	八綱弁証① 表裏・寒熱について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：虚実・寒熱の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
3	八綱弁証② 虚実・陰陽について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：虚実・陰陽の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
4	病邪弁証① 傷寒・温病について 内因・外因・不外内因について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：傷寒・温病の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
5	気血津液弁証① 気の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎　気について復習しておくこと 復習：気の病理変化を理解する。	仲西 堀川
6	気血津液弁証② 血の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：衛気営血弁証・三焦弁証の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
7	気血津液弁証① 気・血の病証について	予習：1 年生で学習した東洋医学の基礎を復習しておくこと 復習：気血津液弁証の説明と鍼灸治療できるように	仲西 堀川
8	小テスト	予習：1～7 回目の授業の復習 復習：臓腑弁証の説明ができるようにする。	仲西 堀川
9	気血津液弁証③ 津液の病証について	予習:1 年生で学習した東洋医学の基礎 臓腑について復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明ができるようにする。	仲西 堀川
10	臓腑弁証② 肺・大腸の病証について	予習:1 年生で学習した東洋医学の基礎 臓腑について復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明ができるようにする。	仲西 堀川
11	臓腑弁証③ 脾・胃の病証について	予習:1 年生で学習した東洋医学の基礎 臓腑について復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明ができるようにする。	仲西 堀川
12	臓腑弁証④ 肝・胆の病証について	予習:1 年生で学習した東洋医学の基礎 臓腑について復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明ができるようにする。	仲西 堀川
13	臓腑弁証⑤ 腎・膀胱の病証について	予習:1 年生で学習した東洋医学の基礎 臓腑について復習しておくこと 復習：臓腑弁証の説明ができるようにする。	仲西 堀川
14	実技試験	予習：実技試験の課題練習 復習：実技試験での反省点を整理し練習する。	仲西 堀川
15	全体のまとめと振り返り	東洋医学的な治療方法について自分自身で考え治療ができるように	仲西 堀川

成績評価方法と基準	割合
4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験 50%、実技試験 50%で評価する。筆記試験と実技試験ともに 60%以上で単位を認定する 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。	筆記 50%、実技 50%

授業科目名	東洋医学系鍼灸実習Ⅱ(鍼灸 A)（Acupuncture from Oriental Medicine Perspective【Practice Ⅱ】）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、堀川　奈央、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS309	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床では各疾患を外感病と内傷病に分類し治療を行う病因論がある。そのためには診察法である四診を中心とした弁証を修得することが重要である。この科目では、東洋医学的基礎を理解し、特に外感病と経脈についてに四診法と弁証構成から弁証論治ができ、それに準じた治療法を考え身に着けること。

到達目標

東洋医学における診断・治療の重要な手段である弁証論治について理解し、説明できる。〈DP①〉
１．外感病に用いる弁証方法である六経弁証・衛気営血弁証・三焦弁証について理解し説明できる。〈DP④〉
２．傷寒と六経弁証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉
３．温病と衛気営血弁証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉
４．温病と三焦弁証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉
５．経絡弁証と経病証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．テキスト・配布された資料に眼を通すこと。
２．出席は重視する。
３．予習・復習は各１時間行うこと。

教科書

新版　東洋医学概論（医道の日本社）

参考書

針灸学　基礎編　東洋学術出版社

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 13
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	弁証論理について 弁証構成：外感病について（六経弁証）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：基本的な構成を覚えること。	
2	傷寒と六経弁証１ 太陽病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：太陽病の説明と鍼灸治療ができること。	
3	傷寒と六経弁証２ 陽明病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：陽明病の説明と鍼灸治療ができること。	
4	傷寒と六経弁証３ 少陽病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：少陽病の説明と鍼灸治療ができること。	
5	傷寒と六経弁証４ 太陰病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：太陰病の説明と鍼灸治療ができること。	
6	傷寒と六経弁証５ 少陰病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：少陰病の説明と鍼灸治療ができること。	
7	傷寒と六経弁証６ 厥陰病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：厥陰病の説明と鍼灸治療ができること。	
8	弁証構成 温病と衛気営血弁証	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：衛気営血弁証の説明と鍼灸治療ができること。	
9	弁証構成 温病と三焦弁証	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：三焦弁証の説明と鍼灸治療ができること。	
10	経絡弁証１ 正経十二経の病証（肺・大腸）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：肺・大腸経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
11	経絡弁証２ 正経十二経の病証（胃・脾）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：胃・脾経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
12	経絡弁証３ 正経十二経の病証（心・小腸）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：心・小腸経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
13	経絡弁証４ 正経十二経の病証（膀胱・腎）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：膀胱・腎経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
14	経絡弁証５ 正経十二経の病証（心包・三焦）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：心包・三焦経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
15	経絡弁証６ 正経十二経の病証（胆・肝）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：胆・肝経病証の説明と鍼灸治療ができること。	

成績評価方法と基準	割合
成績評価には 4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験（100%）　。〈DP①〉 実技試験（100%）　。〈DP①④〉 筆記試験と実技試験ともに 60%以上で評価をする。 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。	50% 50%

授業科目名	東洋医学系鍼灸実習Ⅱ(鍼灸 B)（Acupuncture from Oriental Medicine Perspective【Practice Ⅱ】）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、堀川　奈央、熊野　弘子	
科目ナンバリング	SS309	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床では各疾患を外感病と内傷病に分類し治療を行う病因論がある。そのためには診察法である四診を中心とした弁証を修得することが重要である。この科目では、東洋医学的基礎を理解し、特に外感病と経脈についてに四診法と弁証構成から弁証論治ができ、それに準じた治療法を考え身に着けること。

到達目標

東洋医学における診断・治療の重要な手段である弁証論治について理解し、説明できる。〈DP①〉
１．外感病に用いる弁証方法である六経弁証・衛気営血弁証・三焦弁証について理解し説明できる。〈DP④〉
２．傷寒と六経弁証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉
３．温病と衛気営血弁証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉
４．温病と三焦弁証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉
５．経絡弁証と経病証について理解し、鍼灸治療に応用できる。〈DP④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．テキスト・配布された資料に眼を通すこと。
２．出席は重視する。
３．予習・復習は各１時間行うこと。

教科書

新版　東洋医学概論（医道の日本社）

参考書

針灸学　基礎編　東洋学術出版社

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 13
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	弁証論理について 弁証構成：外感病について（六経弁証）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：基本的な構成を覚えること。	
2	傷寒と六経弁証１ 太陽病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：太陽病の説明と鍼灸治療ができること。	
3	傷寒と六経弁証２ 陽明病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：陽明病の説明と鍼灸治療ができること。	
4	傷寒と六経弁証３ 少陽病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：少陽病の説明と鍼灸治療ができること。	
5	傷寒と六経弁証４ 太陰病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：太陰病の説明と鍼灸治療ができること。	
6	傷寒と六経弁証５ 少陰病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：少陰病の説明と鍼灸治療ができること。	
7	傷寒と六経弁証６ 厥陰病について	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：厥陰病の説明と鍼灸治療ができること。	
8	弁証構成 温病と衛気営血弁証	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：衛気営血弁証の説明と鍼灸治療ができること。	
9	弁証構成 温病と三焦弁証	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：三焦弁証の説明と鍼灸治療ができること。	
10	経絡弁証１ 正経十二経の病証（肺・大腸）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：肺・大腸経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
11	経絡弁証２ 正経十二経の病証（胃・脾）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：胃・脾経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
12	経絡弁証３ 正経十二経の病証（心・小腸）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：心・小腸経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
13	経絡弁証４ 正経十二経の病証（膀胱・腎）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：膀胱・腎経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
14	経絡弁証５ 正経十二経の病証（心包・三焦）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：心包・三焦経病証の説明と鍼灸治療ができること。	
15	経絡弁証６ 正経十二経の病証（胆・肝）	予習：1・2 年生で学習した弁証論治を確認すること。 復習：胆・肝経病証の説明と鍼灸治療ができること。	

成績評価方法と基準	割合
成績評価には 4/5 以上の出席を必要とする。 筆記試験（100%）　。〈DP①〉 実技試験（100%）　。〈DP①④〉 筆記試験と実技試験ともに 60%以上で評価をする。 但し、筆記試験は定期試験で実施し、実技試験は授業期間中に実施する。	50% 50%

授業科目名	東洋医学系鍼灸応用実習(鍼灸 A)（Acupuncture from Oriental Medicine Perspective【Applied Practice】）				
主担当教員	赤丸　敏行		担当教員	赤丸　敏行	
科目ナンバリング	SS310	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床で遭遇しうる症状を症例を基に紹介し、適応する鍼灸の守備範囲を理解する。また種々の症候に対する東洋医学的な伝承思想や手技および現代医学的な治効理論や科学的情報の活用を学び、効果的な鍼灸施術の構築を考える.

到達目標

鍼灸臨床において四診や現代医学的な検査および既往から得られた情報を速やかに解析し、的確な施術を構築提供できる技術を習得する．つまり伝承された医学思想および現代医療に対応した臨床情報の活用を学ぶ.
Reality of The Bedside をテーマに一般症状から難病に付随する症状あるいは不定で広範囲に渡る症状などに対し臨場感のある臨床を想定し対応できる技量を身につける．加えて、大きな目標である「必要とされる臨床家」としての適応力、つまり現代医療に携わる医療人（臨床家）としての自覚や知識・技量を研鑽し，人（患者）を思いやる心を育てることを重視する．当然、国家試験も念頭に置く．DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床を意識した授業です．授業では白衣着用．当然ですが飲食や携帯電話の操作は不可です.

教科書

随時テキストを配布します

参考書

参考になる書籍・引用文献は随時紹介します.

研究室／オフィスアワー

授業開始前・講義後に対応可能です

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	四診の重要性の確認：四診の重要性に対する理解と問診表の作成	現代臨床に結びつく四診を理解する．各診察法の特徴を理解する．問診表の作成．復習：四診で何を診るのか確認して下さい.	
2	臨床において多く遭遇する腰痛を例に部位や使用鍼によって得られる鍼の響きや補瀉を理解する.	腰部兪穴中心に膀胱経の経穴を学ぶ．腰痛の治療構築を行うと共に鍼の響きや刺入感を確認する．復習：腰部督脈穴と膀胱経穴を縦横の並びを確認しておく.	
3	疲労と排尿障害を有する患者を弁証し、灸法の効果を検証する.	腎虚症状を検証し、腎経穴を中心に対象とし灸技を磨く．陰虚と陽虚の症例を基に補瀉の必要性を考える. 復習：一般的な灸法の種類、良い艾の特徴を知っておく．下肢の陰経における腎経の流れを確認しておきたい.	
4	難病に伴う症状において鍼灸の守備範囲を理解する.	特定疾患の中にも鍼灸が適応する疾患や症状が存在する．その導入には注意点も多く、鍼灸の守備範囲を理解する. 今回下肢の神経障害の明確なスモンを紹介する. 復習：紹介した難病の特徴を知っておきたい.	
5	難病における鍼灸が対応可能な疾患をさらに紐解いてみたい．その中で鍼灸が適応する症状と適応するドーゼを認識する.	充分な鍼刺激を必要とする場合が臨床上存在する．得気の提供において通電療法が効果的であった症例を挙げて解説する、通電療法の注意点を考えたい. 復習：パーキンソン病・クローン病など鍼灸的対応が可能と思われる疾患の特徴を確認しておく.	
6	末梢性顔面神経麻痺の特徴と鍼灸治療の効果を認識する.	末梢性顔面神経麻痺の特徴と鍼灸治療の効果を認識する. 復習：末梢性顔面神経麻痺の症状を確認しておく．知覚神経障害も存在する．また脳神経を確認しておきたい.	
7	不眠や入眠障害などの睡眠異常に適応する鍼灸治療を考える.	鍼灸の不眠改善効果は興味深いものがあり、その効果発現と施術構築を学ぶ. 復習：不眠の種類を覚えておきたい.	
8	更年期症状から波及する症状を基に集合穴などの灸穴を理解する．血液検査情報から鍼治療の守備範囲を理解する.	男女の更年期特有症状に対する鍼灸治療を念頭に仙骨部や脾経・腎経における灸療法を実施する．性ホルモンの種類や作用を理解しておきたい. 復習：婦人科症状によく用いられる脾経や仙骨部穴を確認しておく.	
9	心身症に伴う種々の症状を基に問診術と適応する手技を考える.	心理状態の変動をとらえる技術も臨床では必要である．心理試験から鍼灸の適応範囲を検証し、自律神経の緊張緩和に用いられる経穴の有効性を検証する.	
10	VDT や難聴を例に感覚器に対する総合的な治療の構築を行う。	ＶＤＴや難聴の感覚器における多岐に渡る症状を理解し、感覚器周囲だけでなく後頚部、肩背部、腰部の経穴に注目する. 復習：VDT の症状を確認する．肩から上部の経絡の流れと配穴を見直しておこう.	
11	卒中後遺症など四肢の麻痺性疾患に対する鍼灸治療を考える	上肢の麻痺や異常歩行あるいは失語など脳血管障害後の症状ついて症例をもとに適応する鍼灸治療を検証する．興味深い灸法や井穴への施灸も取り上げる. 復習：四肢の麻痺の形態を認識しておきたい．失語症ではブロカ失語症の特徴を認識する.	
12	奇穴の応用を考える．経外奇穴や集合穴の臨床応用を検証するためその効果や反応を実習する.	正穴を埋めるように配置される奇穴や集合穴を理解し、その運用を検証する．灸法を基本に実技実習の中で奇穴を確認する. 復習：紹介した奇穴を見直しておきたい.	
13	アンチエイジングの領域での鍼灸の守備範囲を考える．つまり鍼灸の治効理論を理解し検証することである	血流の改善や神経系の調節、免疫担当細胞の活性化、各臓器の機能調節などアンチエイジング*に関わる鍼灸の治効理論を理解し、療法としての可能性を検証し、養生への反映を考える. 復習：鍼灸の治効理論を理解する.	
14	終末医療や老人医療における鍼灸の実際と今後を考える．フレイルなどの消耗性症状や認知症への移行における鍼灸の関わりを考える.	終末医療や老人医療におけるフレイルなどの虚弱症状に対する鍼灸の守備範囲を理解し、補陰・補陽・補血・補気・鎮痛・安神を目標とした治療を検証する．現代医療の中で鍼灸が貢献できる根拠を作用機序だけでなく治療術としてそして養生法としての歴史的経験値を含めて検証したい．また機能訓練が必要な中で鍼灸の関わりを検証する.	
15	鍼灸的知識と技術の確認を行うため、臨床現場を念頭におき、問診からカルテ記入を行う．その結果から治療構築を行い施術に反映させる．臨床情報の活用を復習し、経験知を確認する.	より具体的な臨床を経験するために、四診情報をカルテに記入し治療を構築し実施する．限られた時間で速やかに治療構築を行い施術に反映させる. 復習：四診の手法内容をもう一度確認しておく.	

成績評価方法と基準	割合
定期試験結果を成績評価とする. 授業の取り組み方は重視します．DP①④	試験 100%

授業科目名	東洋医学系鍼灸応用実習(鍼灸 B)（Acupuncture from Oriental Medicine Perspective【Applied Practice】）				
主担当教員	赤丸　敏行		担当教員	赤丸　敏行	
科目ナンバリング	SS310	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸臨床で遭遇しうる症状を症例を基に紹介し、適応する鍼灸の守備範囲を理解する。また種々の症候に対する東洋医学的な伝承思想や手技および現代医学的な治効理論や科学的情報の活用を学び、効果的な鍼灸施術の構築を考える.

到達目標

鍼灸臨床において四診や現代医学的な検査および既往から得られた情報を速やかに解析し、的確な施術を構築提供できる技術を習得する．つまり伝承された医学思想および現代医療に対応した臨床情報の活用を学ぶ.
Reality of The Bedside をテーマに一般症状から難病に付随する症状あるいは不定で広範囲に渡る症状などに対し臨場感のある臨床を想定し対応できる技量を身につける．加えて、大きな目標である「必要とされる臨床家」としての適応力、つまり現代医療に携わる医療人（臨床家）としての自覚や知識・技量を研鑽し，人（患者）を思いやる心を育てることを重視する．当然、国家試験も念頭に置く．DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床を意識した授業です．授業では白衣着用．当然ですが飲食や携帯電話の操作は不可です．

教科書

随時テキストを配布します.

参考書

参考になる書籍・引用文献は時紹介します

研究室／オフィスアワー

授業開始前・講義後に対応可能です.

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	四診の重要性の確認：四診の重要性に対する理解と問診表の作成.	現代臨床に結びつく四診を理解する．各診察法の特徴を理解する．問診表の作成. 復習：四診で何を診るのか確認して下さい.	
2	臨床において多く遭遇する腰痛を例に部位や使用鍼によって得られる鍼の響きの違いなどから補瀉を理解する.	腰部兪穴中心に膀胱経の経穴を学ぶ. 腰痛の治療構築を行うと共に鍼の響きや刺入感を確認する. 復習：腰部督脈穴と膀胱経穴を縦横の並びを確認しておく.	
3	疲労と排尿障害を有する患者の弁証から灸法の効果を検証する.	腎虚症状を検証し、腎経を中心に対象とし灸技を磨く．陰虚と陽虚の症例を基に補瀉の必要性を考える. 復習：一般的な灸法の種類、良い艾の特徴を知っておく．下肢の陰経における腎経の流れをして確認する.	
4	難病に伴う症状において鍼灸の守備範囲を理解する.	特定疾患の中にも鍼灸が適応する疾患や症状が存在する．その導入には注意点も多く、鍼灸の守備範囲を理解する. 今回、下肢の神経障害の明確なスモンを紹介する. 復習：紹介した難病の特徴を知っておきたい.	
5	難病における鍼灸が対応可能な疾患をさらに紐解いてみたい．その中で鍼灸が適応する症状と適応するドーゼを認識する.	充分な鍼刺激を必要とする場合が臨床上存在する．得気の提供において通電療法が効果的であった症例を挙げて解説する、通電療法の注意点を考えたい. 復習：パーキンソン病・クローン病など鍼灸的対応が可能な疾患の特徴を確認しておく.	
6	末梢性顔面神経麻痺の特徴と鍼灸治療の効果を認識する.	末梢性顔面神経麻痺の特徴と鍼灸治療の効果を認識する. 復習：末梢性顔面神経麻痺の症状を確認しておく．知覚神経障害も存在する．また脳神経を確認しておきたい.	
7	不眠や入眠障害などの睡眠異常に適応する鍼灸治療を考える.	鍼灸の不眠改善効果は興味深いものがあり、その効果発現と施術構築を学ぶ. 復習：不眠の種類を覚えておく.	
8	更年期症状から波及する症状を基に集合穴などの灸穴を理解する．血液検査情報から鍼治療の守備範囲を理解する.	男女の更年期特有症状に対する鍼灸治療を念頭に仙骨部や脾経・腎経における灸療法を実施する．性ホルモンの種類や作用を理解しておきたい. 復習：婦人科症状によく用いられる脾経や仙骨部穴を確認しておく.	
9	心身症に伴う種々の症状を基に問診術と適応する手技を考える.	心理状態の変動をとらえる技術も臨床では必要である．心理試験から鍼灸の適応範囲を検証し、自律神経の緊張緩和に用いられる経穴の有効性を検証する.	
10	VDT や難聴を例に感覚器に対する総合的な治療の構築を行う.	ＶＤＴや難聴の感覚器における多岐に渡る症状を理解する．症状の改善・順応を意識し感覚器周囲だけでなく後頚部、肩背部、腰部の経穴に注目する. 復習：VDT の症状を確認する. 肩から上部の経絡の流れと配穴を見直しておこう.	
11	卒中後遺症など四肢の麻痺性疾患に対する鍼灸治療を考える.	上肢の麻痺や異常歩行あるいは失語など脳血管障害後の症状ついて症例をもとに適応する鍼灸治療を検証する．興味深い灸法や井穴への施灸も取り上げる. 復習:四肢の麻痺の形態を認識しておきたい．失語症ではブロカ失語症の特徴を理解する.	
12	奇穴の応用を考える．経外奇穴や集合穴の臨床応用を検証するためその効果や反応を実習する.	正穴を埋めるように配置される奇穴や集合穴を理解し、その運用を検証する．灸法を基本に実技実習の中で奇穴を確認する. 復習：紹介した奇穴を見直しておきたい.	
13	アンチエイジングの領域での鍼灸の守備範囲を考える．つまり鍼灸の治効理論を理解し検証することである.	血流の改善や神経系の調節、免疫担当細胞の活性化、各臓器の機能調節などアンチエイジング゛に関わる鍼灸の治効理論と理解し、療法としての可能性を検証し、養生への反映を考える. 復習：鍼灸の治効理論を理解する.	
14	終末医療や老人医療における鍼灸の実際と今後を考える．フレイルなどの消耗性症状や認知症への移行における鍼灸の関わりを考える.	終末医療や老人医療におけるフレイルなどの虚弱症状に対する鍼灸の守備範囲を理解し、補陰・補陽・補血・補気・鎮痛・安神を目標とした治療を検証する．現代医療の中で鍼灸が貢献できる根拠を作用機序だけでなく治療術としてそして養生法としての歴史的経験値を含めて検証したい. また機能訓練が必要な中で鍼灸の関わりを検証する.	
15	鍼灸的知識と技術の確認を行なうため、臨床現場を念頭におき、問診からカルテ記入を行う．その結果から治療構築を行い施術に反映させる．臨床情報の活用を復習し、経験知を確認する.	より具体的な臨床を経験するために四診情報をカルテに記入し治療を構築し実施する．限られた時間で速やかに治療構築を行い施術に反映させる. 復習：四診の手法内容をもう一度確認しておく.	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験結果を評価対象とする. 授業への取り組み方も重視します．DP①④	100

授業科目名	臨床灸実習(鍼灸 A)（Clinical Moxibustion Training）				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS314	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	鍼灸:必修 スポーツ:選択

授業概要

国家試験に出題された症例に対し、様々な灸法を用いて治療を行う。

到達目標

1. 医療者としての自覚と責任ある行動ができる。
2. 様々な灸法を行うことができる。
3. 各種の症例に対し灸治療ができる。　DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.出席を重視する。
2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
3.次回行う症例を事前に渡すので、病態と治療部位を調べ、治療部位に関しては適切に取穴できること。
4.毎回小テスト（病態、治療部位、取穴）を行う。

教科書

教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社

参考書

中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版
岡田明三「まるごとお灸百科」医道の日本社

研究室／オフィスアワー

研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	上肢の症例に対し、透熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
2	膝の痛みに対し、知熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
3	椎間板ヘルニアに対し、押灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
4	肩の障害に対し、みそ灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
5	大腿部の外側部の痛みとしびれに対し、台座灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
6	過活動膀胱に対し、棒灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
7	上肢の神経麻痺に対し、線香灸または機械灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
8	理学的テスト陽性所見から疾患を考え、薬物灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間)	松熊
		復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	
9	右肩関節痛に対し、隔物灸（受講生が用意）を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
10	膝のスポーツ障害に対し灸頭鍼を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
11	乗り物酔いに対し、台座灸と箱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
12	肘のスポーツ障害に対し、知熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
13	小指にシビレに対し、ビワの葉灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
14	腰痛・肩こりに対し、これまでに学習した灸法の中から受講者が選び治療をする。	復習：これまでに習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(2 時間)	松熊
15	治療法の総括	予習：テスト範囲を学習すること。(1 時間) 復習:学んだことを追試してみること。(1 時間)	松熊

成績評価方法と基準	割合
①期末試験<DP1, 4> ②小テスト<DP1, 4> 4/5 以上の出席を必要とする。	①52% ②48%

授業科目名	臨床灸実習(鍼灸 B) (Clinical Moxibustion Training)				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS314	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	鍼灸:必修 スポーツ:選択

授業概要
国家試験に出題された症例に対し、様々な灸法を用いて治療を行う。
到達目標
1. 医療者としての自覚と責任ある行動ができる。 2. 様々な灸法を行うことができる。 3. 各種の症例に対し灸治療ができる。　DP①④
履修上の注意(学生へのメッセージ)
1.出席を重視する。 2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。 3.次回行う症例を事前に渡すので、病態と治療部位を調べ、治療部位に関しては適切に取穴できること。 4.毎回小テスト（病態、治療部位、取穴）を行う。
教科書
教科書執筆小委員会「はりきゅう理論」医道の日本社
参考書
中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版 岡田明三「まるごとお灸百科」医道の日本社
研究室／オフィスアワー
研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	上肢の症例に対し、透熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
2	膝の痛みに対し、知熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
3	椎間板ヘルニアに対し、押灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
4	肩の障害に対し、みそ灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
5	大腿部の外側部の痛みとしびれに対し、台座灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
6	過活動膀胱に対し、棒灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
7	上肢の神経麻痺に対し、線香灸または機械灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
8	理学的テスト陽性所見から疾患を考え、薬物灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間)	松熊
		復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	
9	右肩関節痛に対し、隔物灸（受講生が用意）を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
10	膝のスポーツ障害に対し灸頭鍼を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
11	乗り物酔いに対し、台座灸と箱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
12	肘のスポーツ障害に対し、知熱灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
13	小指にシビレに対し、ビワの葉灸を行う。	予習：次回行う症例を渡すので、病態および治療部位を考えること。(1 時間) 復習：習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(1 時間)	松熊
14	腰痛・肩こりに対し、これまでに学習した灸法の中から受講者が選び治療をする。	復習：これまでに習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習すること。(2 時間)	松熊
15	治療法の総括	予習：テスト範囲を学習すること。(1 時間) 復習:学んだことを追試してみること。(1 時間)	松熊

成績評価方法と基準	割合
①期末試験<DP1, 4> ②小テスト<DP1, 4> 4/5 以上の出席を必要とする。	①52% ②48%

授業科目名	附属施術所基礎実習(鍼灸 A) (Basic Clinical Training)				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、増山　祥子、辻丸　泰永、大川　祐世、橋垣　志帆	
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限 月曜 2 限)、後期(月曜 1 限 月曜 2 限)
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

【附属施術所実習】
附属施術所実習では、教員の診療を見学して患者への対応力・知識・技術を理解する。学習の進度によるが、患者の検査、治療の補助を指示することがある。3 年次の実習では、特に整形外科・運動器系疾患に対する現代医学的な対処法について学習する。
【カンファレンス】
3 年次に開講される本講義のカンファレンスは、整形外科系疾患に関する診療について理解することを目的にしている。各講義で提示される課題について討議し、問題を解決することを繰り返す。また、ロールプレイ方式を用いて疾患に関する医療面接、検査、病態把握、治療方針決定、治療の実践の全てを行い、実践力を養う。後期後半には 2 年次生と合同カンファレンスを行い、2 年次生を患者として診察・治療を実施する。

到達目標

【附属施術所実習】
①教員の診療を見学し、学習する。
②医療面接を行い、病態を理解する。
③必要な検査を選択し、患者に実施して病態把握に結び付けることができる。
④医療面接・検査結果から病態把握を行い、治療計画を策定できる。
【カンファレンス】
①模擬症例を用いたロールプレイを経て、診療の一連の流れを理解する。
②施術所実習を経て得た情報に基づいて小グループにて討議する。
③施術所実習を経て得た情報に基づいて、検査、治療計画の立案と実践を行うことができる。
④国家試験に出題される整形外科系疾患の鍼灸臨床について理解する。
⑤施術者としての人間性を高める。
⑥模擬患者を対象として、診察・治療の一連の流れを実施できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

【附属施術所実習】
指定された集合時間を遵守すること。特別な事情がない限り遅刻は認めない。
指定された服装、髪型などについて遵守すること。不適切な場合は参加を認めない。
積極的に討議に参加すること。
実習をやむを得ない理由で欠席した場合は、補習を実施することがある。この場合、追評価の扱いとなる。
実習をやむを得ない理由以外で欠席あるいは参加を認められなかった場合、評価を受ける資格を喪失するため、評価を行わない。この場合、補習の実施については学科会議にて協議して決定するが、認められた場合は再評価の扱いとなる。
【カンファレンス】
指定された集合時間を遵守すること。特別な事情がない限り遅刻は認めない。
指定された服装、髪型などについて遵守すること。不適切な場合は参加を認めない。
積極的に討議に参加すること。
模擬患者の診察・治療において知りえた事実について、守秘義務を遵守すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

【附属施術所実習】
実習時の指導者の指示に従うこと。
【カンファレンス担当：鍋田】
月～金の昼休み時間　東棟 4 階 22 研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	カンファレンス　1, 2 単元 ロールプレイ① 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 報告書の作成方法指導 文献検索方法指導	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
2	カンファレンス　3, 4 単元 ロールプレイ② 頸肩部・上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を 1 編検索して学習すること	
3	カンファレンス　5, 6 単元 ロールプレイ③ 腰部・腰下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を 1 編検索して学習すること	
4	カンファレンス　7, 8 単元 ロールプレイ④ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を 1 編検索して学習すること	
5	カンファレンス　9, 10 施術所見学症例を用いたカンファレンス 直近の施術所実習で学習した症例について、同一奨励を担当した学生同士で報告用 PPT を作成し、引用文献に基づいて 1 グループ 10 分間の発表を行い、ディスカッションを行う。	予習：直近の施術所実習にて学習した症例について、報告用 PPT を作成すること 復習：カンファレンスの指摘事項について整理すること	
6	カンファレンス　11, 12 単元 模擬患者（2 年生）を対象とした診察・治療トレーニング	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
7	カンファレンス　13, 14 単元 カンファレンス 11, 12 単元の診療内容に関するカンファレンス（2 年生へ指導）	予習：自身の診療内容にいて、報告できるように準備する。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
8	カンファレンス　15, 16 単元 模擬患者（2 年生）を対象とした診療トレーニングと解説訓練	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
9	附属施術所実習 1, 2 単元 教員の診療見学	医療面接における注意事項を再確認して臨むこと。 集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者側の立場に立った言動を心がけ、医療人とは何かを考えてくること。	
10	附属施術所実習 単元 3, 4 医療面接トレーニング・症例報告	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
11	附属施術所実習 単元 5, 6 医療面接から病態把握をし、検査を選択するトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	

12	附属施術所実習 単元 7,8 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
13	附属施術所実習 単元 9,10 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング。治療補助。	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
14	附属施術所実習 単元 11,12 診療の一連の流れを学生患者を用いて全て実践するトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
15	附属施術所実習 期末評価 模擬症例の問診 問診結果から筆記試験を解答する ①病態把握 ②必要な検査と想定される陽性所見 ③治療計画 ④治療内容 ⑤患者指導	予習：国家試験対象科目である東洋医学臨床論の現代系で出題される各種疾患への対応を学習すること。	

成績評価方法と基準	割合
附属施術所実習 60%　カンファレンス 40%とし、100 点満点で評価する。60 点以上を合格とする。 全出席を必要とする。 客観的臨床能力試験（OSCE）と筆記試験を実施する。OSCE では医療面接・検査・鍼実技・灸実技を行う。1 ステーション 100 点満点×4＝400 点満点で評価し、6 割以上の取得を必要とする。各ステーションは 5 割以上を必須とする。 筆記試験は、国家試験と同様の 4 択問題を実施する。東洋医学概論、経絡経穴学、東洋医学臨床論より 100 問を出題し、60 点以上を合格とする。実習の評価は、OSCE および筆記試験の合格を必須とする。 【カンファレンス】 授業中に指示する課題を評価する。 【附属施術所実習】 レポート評価 10 点×6 回＝60 点とする。 DP①④	附属施術所実習 60 % カンファレンス 40%

授業科目名	附属施術所基礎実習(鍼灸 B)（Basic Clinical Training）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、辻丸　泰永、堀川　奈央、 大川　祐世、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS402	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 1 限 金曜 2 限）、 後期（金曜 1 限 金曜 2 限）
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

【附属施術所実習】
附属施術所実習では、教員の診療を見学して患者への対応力・知識・技術を理解する。学習の進度によるが、患者の検査、治療の補助を指示することがある。3 年次の実習では、特に整形外科・運動器系疾患に対する現代医学的な対処法について学習する。
【カンファレンス】
3 年次に開講される本講義のカンファレンスは、整形外科系疾患に関する診療について理解することを目的にしている。各講義で提示される課題について討議し、問題を解決することを繰り返す。また、ロールプレイ方式を用いて疾患に関する医療面接、検査、病態把握、治療方針決定、治療の実践の全てを行い、実践力を養う。後期後半には 2 年次生と合同カンファレンスを行い、2 年次生を患者として診察・治療を実施する。

到達目標

【附属施術所実習】
①教員の診療を見学し、学習する。
②医療面接を行い、病態を理解する。
③必要な検査を選択し、患者に実施して病態把握に結び付けることができる。
④医療面接・検査結果から病態把握を行い、治療計画を策定できる。
【カンファレンス】
①模擬症例を用いたロールプレイを経て、診療の一連の流れを理解する。
②施術所実習を経て得た情報に基づいて小グループにて討議する。
③施術所実習を経て得た情報に基づいて、検査、治療計画の立案と実践を行うことができる。
④国家試験に出題される整形外科系疾患の鍼灸臨床について理解する。
⑤施術者としての人間性を高める。
⑥模擬患者を対象として、診察・治療の一連の流れを実施できる。DP①④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

【附属施術所実習】
指定された集合時間を遵守すること。特別な事情がない限り遅刻は認めない。
指定された服装、髪型などについて遵守すること。不適切な場合は参加を認めない。
積極的に討議に参加すること。
実習をやむを得ない理由で欠席した場合は、補習を実施することがある。この場合、追評価の扱いとなる。
実習をやむを得ない理由以外で欠席あるいは参加を認められなかった場合、評価を受ける資格を喪失するため、評価を行わない。この場合、補習の実施については学科会議にて協議して決定するが、認められた場合は再評価の扱いとなる。
【カンファレンス】
指定された集合時間を遵守すること。特別な事情がない限り遅刻は認めない。
指定された服装、髪型などについて遵守すること。不適切な場合は参加を認めない。
積極的に討議に参加すること。
模擬患者の診察・治療において知りえた事実について、守秘義務を遵守すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

【附属施術所実習】
実習時の指導者の指示に従うこと。
【カンファレンス担当：鍋田】
月～金の昼休み時間　東棟 4 階 22 研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	カンファレンス　1, 2 単元 ロールプレイ① 上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成 報告書の作成方法指導 文献検索方法指導	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
2	カンファレンス　3,4 単元 ロールプレイ② 頸肩部・上肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を 1 編検索して学習すること	
3	カンファレンス　5,6 単元 ロールプレイ③ 腰部・腰下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を 1 編検索して学習すること	
4	カンファレンス　7,8 単元 ロールプレイ④ 下肢の整形外科疾患に基づいたロールプレイ ①症例の問診 ②検査の選択と実施 ③治療計画の作成	予習：対象疾患の鍼灸治療について学習すること 復習：治療法を復習すること 対象疾患の文献を 1 編検索して学習すること	
5	カンファレンス　9,10 施術所見学症例を用いたカンファレンス 直近の施術所実習で学習した症例について、同一奨励を担当した学生同士で報告用 PPT を作成し、引用文献に基づいて 1 グループ 10 分間の発表を行い、ディスカッションを行う。	予習：直近の施術所実習にて学習した症例について、報告用 PPT を作成すること 復習：カンファレンスの指摘事項について整理すること	
6	カンファレンス　11,12 単元 模擬患者（2 年生）を対象とした診察・治療トレーニング	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
7	カンファレンス　13,14 単元 カンファレンス 11,12 単元の診療内容に関するカンファレンス（2 年生へ指導）	予習：自身の診療内容にいて、報告できるように準備する。 復習：症例について病態、治療法などをまとめること。	
8	カンファレンス　15,16 単元 模擬患者（2 年生）を対象とした診療トレーニングと解説訓練	予習：鍼灸診断治療学、運動機能検査法、医療コミュニケーションを再度確認しておくこと。 復習：提示症例や外来診察して症例について病態、治療法などをまとめること。	
9	附属施術所実習 1, 2 単元 教員の診療見学	医療面接における注意事項を再確認して臨むこと。 集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者側の立場に立った言動を心がけ、医療人とは何かを考えてくること。	
10	附属施術所実習 単元 3,4 医療面接トレーニング・症例報告	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
11	附属施術所実習 単元 5,6 医療面接から病態把握をし、検査を選択するトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
12	附属施術所実習 単元 7,8 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
13	附属施術所実習 単元 9,10 医療面接・検査結果から病態把握をし、治療方針を打ち出すトレーニング。治療補助。	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
14	附属施術所実習 単元 11,12 診療の一連の流れを学生患者を用いて全て実践するトレーニング	集合時間を厳守し、服装・髪型に注意すること。 患者に対するために何をすべきかを考え、必要な予習をして臨むこと。 終了後は 1 週間以内にレポートを完成させ、指導教員の確認を受けてから提出すること。	
15	附属施術所実習 期末評価 模擬症例の問診 問診結果から筆記試験を解答する ①病態把握 ②必要な検査と想定される陽性所見 ③治療計画 ④治療内容 ⑤患者指導	予習：国家試験対象科目である東洋医学臨床論の現代系で出題される各種疾患への対応を学習すること。	

成績評価方法と基準	割合
附属施術所実習 60%　カンファレンス 40%とし、100 点満点で評価する。60 点以上を合格とする。 全出席を必要とする。 客観的臨床能力試験（OSCE）と筆記試験を実施する。OSCE では医療面接・検査・鍼実技・灸実技を行う。1 ステーション 100 点満点×4＝400 点満点で評価し、6 割以上の取得を必要とする。各ステーションは 5 割以上を必須とする。 筆記試験は、国家試験と同様の 4 択問題を実施する。東洋医学概論、経絡経穴学、東洋医学臨床論より 100 問を出題し、60 点以上を合格とする。実習の評価は、OSCE および筆記試験の合格を必須とする。 【カンファレンス】 授業中に指示する課題を評価する。 【附属施術所実習】 レポート評価 10 点×6 回＝60 点とする。 DP①④	附属施術所実習 60 % カンファレンス 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(鍼灸):鍼灸情報系（Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、増山 祥子、大川 祐世	
科目ナンバリング	SS522	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 1 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
山下 仁（教授）：安全な鍼灸施術に関する実験的研究、日本鍼灸のエビデンスのデータベース作成、鍼灸のエビデンスの情報収集と情報整備、世界の鍼灸事情に関する文献からの情報抽出、または代田文誌の遺した資料の調査を行う。その他、学生の提案で指導可能と判断した研究も可能とする。
増山祥子（准教授）：婦人科領域における鍼灸のエビデンス（文献調査･問題点抽出）、緩和ケア領域における鍼灸のエビデンス（文献調査・問題点抽出）、鍼灸臨床における衛生操作情報のアート表現、または低周波鍼通電療法による鎮痛に関する実験を行う。その他、学生の提案で指導可能と判断した研究も可能とする。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	

成績評価方法と基準	割合
全授業の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。 DP①④	報告書 60% 平常の取り組み 40%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(鍼灸):基礎鍼灸（Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、松熊　秀明、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS522	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 1 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
尾崎朋文（教授）：安全な刺鍼に関する実験的研究など。
松熊秀明（准教授）：鍼灸のセルフケアに関する研究など。
仲村正子（助教）：鍼技法の組織に与える影響　ー超音波エコーを用いてー
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。(1 時間) 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。(1 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。(2 時間)	鍋田、松熊、高橋、高崎、辻丸
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成す	鍋田、松熊、

		る。(2時間)	高橋、髙崎、辻丸
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。(2時間)	鍋田、松熊、高橋、髙崎、辻丸
成績評価方法と基準			割合
全授業の3分の2以上の出席を必要とする。 研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の40%を占める。<DP1,4> 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。<DP1,4>			100%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(鍼灸):鍼灸現代系（Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	鍋田 智之		担当教員	鍋田 智之、辻丸 泰永、髙崎 雷太、髙橋 秀郎	
科目ナンバリング	SS522	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 1 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
鍋田智之（教授）：睡眠のメカニズムについて学習し、鍼灸治療が睡眠に与える効果を検証する。
松熊秀明（准教授）：鍼灸の抗炎症作用に関する文献的研究、鍼灸の抗ストレス作用に関する研究
辻丸泰永（講師）：慢性疼痛
高橋秀郎（講師）：スポーツ障害に対する鍼灸治療
髙崎雷太（講師）：足関節捻挫における鍼灸治療後の運動力学的検証
その他、各教員が指導可能と判断した研究を実施する。

到達目標

①研究倫理について理解することができる。(DP①)
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる。(ＤＰ①)
③関連文献の収集に関する方法を修得できる。(ＤＰ④)
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる。(ＤＰ④)
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる。(ＤＰ④)
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30単元以上の活動を行ってください。
②指導教員1名につき、所属できるゼミ生は最大4名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究に必要な論文の検索等に1時間、論文熟読などに1時間おこなう事
⑥研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	

6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	

成績評価方法と基準	割合
①全授業の 5 分の 4 以上の出席を必要とする。 ②研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。 ③研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する。（ＤＰ①、④）	40% 60%

授業科目名	卒業研究Ⅰ(鍼灸):鍼灸東洋系 （Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、辻　涼太、堀川　奈央	
科目ナンバリング	SS522	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 1 限）、後期（金曜 1 限）
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。研究を行うに当たって、その研究に必要とする情報（研究論文等）を収集、分析を行い、研究計画を立案作成する。研究計画に基づいてデータの収集・分析・評価を行い、その内容について論文を作成する。これらの一連の過程を学ぶことによって、社会人として求められる能力を習得する。研究成果は報告書（抄録）として提出を行う。
【指導教員】
仲西宏元（教授）
辻　　涼太（講師）
堀川奈央（助教）
【研究テーマ】
鍼灸東洋医学系では下記に示す疾患や症状等について東洋医学に基づいた治療法や調査などの基礎研究および臨床研究を実施する。
①婦人科疾患
②感覚器系疾患（耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科）
③冷え症
④不眠症
⑤古典（素問霊枢、難経、傷寒論等）
⑥その他、各教員が指導可能と判断した研究

到達目標

①研究倫理について学び、理解することができる。〈DP①〉
②指導教員の指示に従って、研究内容に関連する知識・技能を修得できる。〈DP①〉
③研究に関連する文献の収集をする方法を修得できる。〈DP④〉
④関連文献の内容を精査し、情報の質を評価することができる。〈DP④〉
⑤質の高い方法を用いることによって、データの収集・分析ができる。〈DP④〉
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる。〈DP④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単位以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を順守してください。
⑥卒業研究を行うに当たり、研究テーマに準じた内容について復習予習を各 1 時間行ってください。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	指導教員
2	文献検索	研究テーマに必要なキーワードを用いて指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	指導教員
3	文献検索	研究テーマに必要なキーワードを用いて指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	指導教員

4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	指導教員
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	指導教員
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	指導教員
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	指導教員
8	研究計画の作成　、倫理委員会提出書類の作成	研究に関わる書類を作成すること。	指導教員
9	研究消耗品・備品の確保ならびに研究環境の整備	研究環境を整備する上で必要な事項を整備すること	指導教員
10	研究対象の確保	研究の対象者を確保すること。	指導教員
11	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
12	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
13	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
14	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
15	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
16	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
17	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
18	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
19	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
20	データの収集	倫理委員会で承諾を得た後、倫理規定を順守して研究をデータの収集を行うこと。	指導教員
21	データの整理	収集したデータを必要に応じて表管理ソフトを用いて整理すること。	指導教員
22	データの整理	収集したデータを必要に応じて表管理ソフトを用いて整理すること。	指導教員
23	データの解析	収集したデータを必要に応じて統計ソフト等を用いて解析しまとめること。	指導教員
24	データの解析	収集したデータを必要に応じて統計ソフト等を用いて解析しまとめること。　解析結果は担当教員に報告し、研究目的に対する結果・考察を議論をすること。	指導教員
25	卒業研究報告会準備	報告用資料をパワーポイントを用いて作成すること。	指導教員
26	卒業研究報告会準備	報告用資料をパワーポイントを用いて作成すること。	指導教員
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用資料をパワーポイントを用いて、所定の時間内で発表および質疑応答を行うこと。	指導教員
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項をうけて、論文を作成すること。	指導教員
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項をうけて、論文を作成すること。	指導教員
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項をうけて、完成した論文を担当教員に提出すること。	指導教員
成績評価方法と基準			割合
全授業の 4／5 以上の出席を必要とする。 1.研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める。DP①④ 2.研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期間までに指導教員に提出すること。			40 % 60 %

授業科目名	卒業研究Ⅰ(鍼灸):スポーツ特修系（Graduation Research Ⅰ）				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博、老田　準司、佐野　加奈絵、伊奈　新太郎、信江　彩加	
科目ナンバリング	SS522	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 1 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

鍼灸学科教員が担当するゼミに所属し、指導教員の指示に従って研究活動を行い、卒業論文を作成する。情報を収集し、批判的吟味を経て情報の質を評価し、研究計画を立案作成する。計画に基づいてデータ収集を行い、分析・評価を経て論文としてまとめ上げる。これらの一連の過程を経ることによって、社会人として求められる情報を精査し、計画・立案する能力を修得する。成果は報告書（抄録）として提出し、報告集として印刷される。
【指導教員とテーマ】
　以下の各生理学的研究テーマ（①～⑧）については、中原英博（教授），佐野加奈絵（講師），信江彩加（助教）の３名の教員が協力して指導に当たります。また、学校保健体育科教育に関する⑩⑪の研究テーマは、老田準司（教授）が指導に当たります。
①生体の統合的呼吸・循環調節機構の解明。
②長期運動トレーニングによる生体適応のメカニズムに関する研究（トレーニング効果）。
②③運動負荷に対する生体反応のメカニズムに関する研究（運動生理）。
④高強度運動時の骨格筋糖脂質代謝動態の定量解析。
⑤システム定量解析を用いた新しいトレーニング評価システムの開発に関する研究。
⑥システム定量解析を用いた運動時換気亢進の病態生理機構の解明（主に動物実験）。
⑦スポーツウエアの着圧が生理学的パラメータに及ぼす影響の検討。
⑧鍼刺激療法を用いた新規循環制御システムの構築。
⑨アロマセラピーに用いる精油の芳香刺激が生体に及ぼす影響。
⑩体育の授業教材の意義についての一考察。
⑪体育と保健の授業での取り扱いについての一考察。
⑫上記内容に関わらず、学生が希望する内容で各教員が指導可能と判断したもの。

到達目標

①研究倫理について理解することができる（DP①④）。
②指導教員の指示に従って、関連領域の知識・技術を修得できる（DP①④）。
③関連文献の収集に関する方法を修得できる（DP①④）。
④関連文献を批判的に吟味し、情報の質を評価できる（DP①④）。
⑤質の高い方法論を用いて、データの収集・分析ができる（DP①④）。
⑥論理的な文章構成を用いて論文を作成できる（DP①④）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①ゼミの指導教員の指示に従って、30 単元以上の活動を行ってください。
②指導教員 1 名につき、所属できるゼミ生は最大 4 名とします。
③規定に従って、論文および報告書の提出をしてください。
④研究計画書を作成し、学術研究委員会研究倫理審査部会の承認を得て実施すること。
⑤研究倫理を遵守すること。

教科書

指導教員の指示に従う。

参考書

指導教員の指示に従う。

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	研究テーマの協議	予習：希望する研究内容について考えてくること。必ず資料に基づいて検討すること。 復習：指導教員の指示に従って、具体的なテーマをまとめること。	
2	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行	

		う。	
3	文献検索	テーマに応じてキーワードを決定し、指定された検索サイトを利用して学術論文の収集を行う。	
4	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
5	論文抄読会	収集した文献を熟読し、要点をまとめたレポートを作成すること。	
6	データベースの作成	収集した文献に番号を付け、PC を用いてデータベースを作成すること。	
7	研究計画の作成	研究計画を作成すること。	
8	研究計画の作成。倫理委員会提出書類の作成。	研究計画を作成すること。	
9	備品・消耗品の発注。研究機材の確保。研究環境の整備。	研究環境を整備する上で必要な事項を整理すること。	
10	研究環境の整備。対象の確保。	研究対象の確保を行うこと。	
11	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
12	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
13	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
14	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
15	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
16	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
17	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
18	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
19	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
20	データ収集	倫理委員会の承認を得た後、倫理規定を遵守して、研究データの収集を行うこと。	
21	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
22	データ整理	収集したデータを、表管理ソフトなどを活用して整理する。	
23	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。	
24	データ解析	収集したデータを、必要に応じて統計を用いながら解析する。解析結果を指導教員に報告し、研究目的に対する結果、考察を議論する。	
25	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
26	卒業研究報告会準備	報告用のパワーポイントを作成する。	
27	卒業研究報告会（ゼミ内）	報告用のパワーポイントを作成し、既定の時間内で発表および質疑応答を行う。	
28	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
29	卒業論文作成	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	
30	卒業論文報告書（抄録）提出	報告会での指摘事項を受けて、論文を作成する。	

成績評価方法と基準	割合
研究活動の状況について評価する。平常評価として、最終評価の 40%を占める（DP①④）。 -1 研究成果として、論文および報告書の提出が必要となる。規定に従って、期限までに指導教員へ提出する（DP①④）。-2	1 40% 2 60%

授業科目名	学外見学実習Ⅰ（鍼灸）（Extramural Observation Training I）				
主担当教員	松熊 秀明		担当教員	松熊 秀明、大月 隆史	
科目ナンバリング	SS524	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期（実習）、後期（実習）
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

3 年次に臨床実習を行う前に、社会人として自覚し、求められる姿勢について理解する場として、本実習を実施する。学生各自が多様な分野で実習を行い、社会に求められる人材として成長することを期待している。

到達目標

①社会人として求められる「礼」について実践できる。
②組織の一員として、指示事項を的確に遂行できる。
③活動に自主的かつ積極的に取り組む。
④チーム活動ではメンバーと協調性を持って進めることができる。
⑤議論には積極的に参加し、論理的に物事を考え、論理的に行動に移すことができる。DP①④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

単元 1.14.15 は全員参加にて開催する。指定する日時に必ず出席すること。
大学が指定する施設以外の学外活動を行う場合は、必ず責任者の署名・捺印を受けた報告書を提出する。

教科書

なし

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

学科長・副学科長・学生支援室にて随時受け付ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 社会人マナー研修	社会人としてあるべき姿について、考えてくるように。（2 時間）	
2	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。（2 時間）	
3	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。（2 時間）	
4	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。（2 時間）	
5	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。（2 時間）	
6	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。（2 時間）	
7	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事	

	※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	項については必ず実行してから実習に臨むこと。(2時間)	
8	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。(2時間)	
9	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。(2時間)	
10	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。	
11	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。(2時間)	
12	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。(2時間)	
13	学外ボランティア活動 大学指定実習先での活動 ※社会人としての姿勢として、主体性・協調性・論理性をもに着けてくること。	実習先について事前に調査し、適切な準備をすること。特に指定されている服装および準備物は怠らないこと。また、事前に指示を受けた事項については必ず実行してから実習に臨むこと。(2時間)	
14	学外活動を通じて社会人としての姿勢についてグループワークを行う。	社会人として求められる姿勢についてまとめてくること。(2時間)	
15	学外活動を通じて社会人としての姿勢についてグループワークを行う。	社会人としての姿勢をグループでまとめて、報告書を提出すること。(2時間)	

成績評価方法と基準	割合
単元1,14,15への出席は必須とする。 ①活動報告書の提出を必須とする。(DP1,4) ②グループワーク後に作成する報告書を重視する(DP1,4) 実習先より、実習中に不適切な言動から実習を中止された場合、評価を行わない。	①40% ②60%

授業科目名	美容鍼灸学総論(鍼灸)				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング	SS626	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

心身の健康と美を内面から高める手法としてのアロマセラピーを科学的に学ぶ。アロマセラピーに関する基礎知識、禁忌や注意事項、精油の選択方法、状況に応じたケア方法など「安全かつ的確に用いる」ための理論と実践方法を学ぶ。

到達目標

1.補完代替医療の中でのアロマセラピーの役割を理解する。
2.安全かつ的確な実践方法を学ぶ。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実技にも積極的に参加し、自らの心身両面を通してアロマセラピーの有用性・危険性を感じ、学んでいただきたいと思います。遅刻・欠席・忘れ物のないように。

教科書

もっと身近にアロマセラピー　メディカルから日常まで　改定増補版/森美侑紀著/森ノ宮医療学園出版部

参考書

配布プリント

研究室／オフィスアワー

西棟239研究室/火曜日・水曜日以外の17:00～19:00
その他、質問等あればいつでもお越しください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	アロマセラピーの概要	予習：テキストp6-18を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと。予習復習を各1時間行うこと。	
2	精油の化学成分と禁忌	予習：テキストp127-133を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと。予習復習を各1時間行うこと。	
3	植物精油の基礎知識	予習：テキストp118-126を読んでおくこと 復習：配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと。予習復習を各1時間行うこと。	
4	アロマセラピーの実践 ①上肢のトリートメント座位	上肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
5	アロマセラピーの実践 ②上肢のトリートメント背臥位	上肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
6	アロマセラピーの実践 ③下肢のトリートメント	下肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
7	アロマセラピーの実践 ④上下肢のトータルケア	上肢・下肢のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
8	アロマセラピーの実践 ⑤背部へのトリートメント	背部のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
9	アロマセラピーの実践 ⑥背部から頭部へのトリートメント	背部・頭部のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
10	アロマセラピーの実践 ⑦腹部のトリートメント	腹部のケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
11	アロマセラピーの実践 ⑧フェイストリートメントの基礎	フェイスケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
12	アロマセラピーの実践 ⑨フェイストリートメントの応用	フェイスケアにおける注意事項の復習 ならびに手技の復習。復習を2時間行うこと。	
13	アロマセラピーの実践 ⑩トータルケア1	4～12回までのケアの総復習 復習を2時間行うこと。	
14	アロマセラピーの実践 ⑪トータルケア2	4～12回までのケアの総復習 復習を2時間行うこと。	

15	全体のまとめと振り返り	配布資料や板書内容も併せて振り返りを行うこと。 復習を 2 時間行うこと。また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	
成績評価方法と基準			割合
1.実技レポート 2.筆記試験 2/3 以上の出席が必要			20% 80%

授業科目名	テーピング技術論(鍼灸)（Taping Skills）				
主担当教員	伊奈 新太郎		担当教員	伊奈 新太郎、宮武 大貴	
科目ナンバリング	SS627	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

トレーナーやスポーツ指導者が現場で目の当たりにする外傷や障害に対し、予防や痛みの軽減を目的としたテーピング技術を習得すること

到達目標

各部位におけるｽﾎﾟｰﾂ外傷や障害に対するﾃｰﾋﾟﾝｸﾞを機能的に巻ける（DP①）
競技特性を理解し、数種類のﾃｰﾋﾟﾝｸﾞにて応用を効かせて機能的に巻ける（DP①）
疲労軽減・除痛を目的に機能的に巻ける（DP①）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

初回は合同でオリエンテーションを行い、2 回目以降は 2 グループに分け、上肢/体幹グループと下肢グループを 7 回目で入れ替わる。
上肢/体幹には肩関節・腰部を扱う為、露出が可能な服装にて受講して下さい。
下肢は大腿部・膝関節・足関節を扱う為、大腿部から足趾までが露出が可能な服装にて受講して下さい。
欠席の翌週までに欠席分のﾃｰﾋﾟﾝｸﾞを引き取りに来ない場合は、保管場所が無い為、授業で使わせて頂きます。

教科書

適宜資料を配布する

参考書

ｽﾎﾟｰﾂ外傷障害からみたﾃｰﾋﾟﾝｸﾞの実技と理論（第 5 版）、文光堂、山本幾栄・野田哲由・平沼憲治

研究室／オフィスアワー

東棟 4F 共同研究室／月曜日 13:00～　金曜日 13:00～（不定期なため事前に確認が必要）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞの基礎知識 足関節捻挫予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞの巻き方と実践	ｼﾗﾊﾞｽの確認 予習・復習 1 時間	宮武大貴 伊奈新太郎
2	肩関節①(肩関節の脱臼予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ)	肩関節の解剖 予習・復習 1 時間	宮武大貴
3	肩関節②(肩鎖関節の亜脱臼時の痛み軽減ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ)	前回の理解 肩関節の解剖 予習・復習 1 時間	宮武大貴
4	肘関節①(側副靭帯損傷の予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞと痛み軽減ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ①)	前回の理解 肘関節の解剖 予習・復習 1 時間	宮武大貴
5	肘関節②(肘関節の伸展時における痛みがある場合の固定ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ)	前回の理解 肘関節の解剖 予習・復習 1 時間	宮武大貴
6	手関節～指:母指(母指の脱臼予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ)	前回の理解 手関節の解剖 予習・復習 1 時間	宮武大貴
7	手関節～指:4 指(指の脱臼予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ)	前回の理解 手関節の解剖 予習・復習 1 時間	宮武大貴
8	競技特性ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ（腰部など）	前回の理解 予習・復習 1 時間	宮武大貴
9	足関節①(足関節の予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ・踵部・足底筋膜炎)	足関節の解剖 予習・復習 1 時間	伊奈新太郎
10	足関節②(足関節の予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ・確認ﾃｽﾄ①)	前回の理解 足関節の解剖 予習・復習 1 時間	伊奈新太郎
11	足関節③(足関節の予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ・ｽﾀｰｱｯﾌﾟの違い・自着性ﾃｰﾌﾟ)	前回の理解 足関節の解剖 予習・復習 1 時間	伊奈新太郎

12	足関節④(足関節の予防ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ・伸縮性の違い)評価ﾃｽﾄ②	前回の理解 足関節の解剖 予習・復習１時間	伊奈新太郎
13	膝関節①(膝関節内外側側副靭帯損傷・大腿部打撲)・下腿ｷﾈｼｵ	前回の理解 膝関節の解剖 予習・復習１時間	伊奈新太郎
14	膝関節②(前十字靭帯損傷・後十字靭帯損傷・ﾊﾑｽﾄﾘﾝｸﾞｽの肉離れ)	前回の理解 膝関節の解剖 予習・復習１時間	伊奈新太郎
15	足関節まとめ評価ﾃｽﾄ③	前回の理解 足関節まとめﾃｽﾄに対応した総復習が必要 予習・復習１時間	伊奈新太郎
成績評価方法と基準			割合
1.実技ﾃｽﾄ評価内容（順序、技術、仕上り、機能性）(DP①) 2.筆記ﾃｽﾄならびに授業の取り組む姿勢（DP①） 上肢（宮武）50%：実技テスト２回（指・肩）、筆記テスト 下肢（伊奈）50%：実技テスト３回（足関節）、授業の取り組む姿勢 実技テストの再試験は行わない。 4/5 以上の出席を必要とする。			1.80% 2.20%

授業科目名	コンディショニング技術論(鍼灸)				
主担当教員	宮武　大貴		担当教員	宮武　大貴、伊奈　新太郎	
科目ナンバリング	SS628	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	後期	曜日･時限	木曜１限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択
授業概要					
コンディショニングとは「目的とする試合に向けての期間を限定された中での調整と、日常的なトレーニングをいかによりよい状態で効果的に継続していくかということへの対応」である。※引用：日本オリンピック委員会　スポーツ現場におけるコンディショニングをあらゆる方向から学習（経験）し、選手をよりよい状態で目的とする試合に臨めるように、自ら身体を動かしながら実践形式で学んでいく。					
到達目標					
・選手へのウォーミングアップおよびクールダウンのメニュー作りができるようになる。〈DP①〉 ・あらゆるトレーニングから状況に応じた効果的なトレーニングを選択し、選手のニーズに対応できるようになる。〈DP①〉 ・ペアストレッチング等より選手の疲労回復に努めることができるようになる。〈DP①〉					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
①積極的に授業に参加する。 ②準備から片付けはみんなで協力して行う。					
教科書					
特に無し					
参考書					
特に無し					
研究室／オフィスアワー					
兼任講師控室					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【コンディショニング 1】 ガイダンス	予習：シラバスの確認　解剖学 復習：解剖学　骨学・筋学を主に行う。 予習・復習１時間	
2	【コンディショニング２】 ウォーミングアップの実践①	予習：解剖学　骨学・筋学を主に行う。 復習：ガイダンスの内容 予習・復習１時間	
3	【コンディショニング３】 ウォーミングアップの実践②	予習：解剖学　骨学・筋学を主に行う。 復習：ウォーミングアップの実践①で学んだこと。 予習・復習１時間	
4	【コンディショニング４】 ウォーミングアップの実践③	予習：解剖学　骨学・筋学を主に行う。 復習：ウォーミングアップの実践②で学んだこと。 予習・復習１時間	
5	【コンディショニング５】 下肢ストレッチングの実践①	予習：下肢の筋学を主に覚えておく 復習：ウォーミングアップの実践③で学んだこと。 予習・復習１時間	
6	【コンディショニング６】 下肢ストレッチングの実践②	予習：下肢の筋学を主に覚えておく 復習：下肢ストレッチングの実践① 予習・復習１時間	
7	【コンディショニング７】 上肢ストレッチングの実践①	予習：下肢の筋学を主に覚えておく 復習：下肢ストレッチングの実践② 予習・復習１時間	
8	【コンディショニング８】 上肢ストレッチングの実践②	予習：上肢の筋学を主に覚えておく 復習：上肢ストレッチングの実践① 予習・復習１時間	
9	【コンディショニング９】 コーディネーショントレーニング	予習：上肢の筋学を主に覚えておく 復習：上肢ストレッチングの実践② 予習・復習１時間	

10	【コンディショニング１０】 ファンクショナルトレーニング	予習：ウォーミングアップについて 復習：コーディネーショントレーニング 予習・復習１時間	
11	【コンディショニング１１】 SAQ トレーニング	予習：ウォーミングアップについて 復習：ファンクショナルトレーニング 予習・復習１時間	
12	【コンディショニング１２】 ウエイトトレーニング①	予習：ウォーミングアップについて 復習：SAQ トレーニング 予習・復習１時間	
13	【コンディショニング１３】 ウエイトトレーニング②	予習：ウォーミングアップについて 復習：ウエイトトレーニング 予習・復習１時間	
14	【コンディショニング１４】 講義全体のまとめ①	予習：グループワークのための準備 復習：ウォーミングアップメニュー作成 予習・復習１時間	
15	【コンディショニング１５】 講義全体のまとめ②	予習：グループワークのための準備 復習：ウォーミングアップメニュー作成 予習・復習１時間	
成績評価方法と基準			割合
①平常点 ②14 回目　15 回目　グループによるウォーミングアップメニューの作成と実践 2/3 以上の出席が必要			①30% ②70%

授業科目名	スポーツ鍼灸学総論(鍼灸)（General Sports Acupuncture）				
主担当教員	髙橋　秀郎		担当教員	髙橋　秀郎、髙﨑　雷太	
科目ナンバリング	SS629	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 3 限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

スポーツ傷害の整形外科疾患に対して専門的観点から臨床に応用できるように教授する。講義によって臨床に必要な事項について理解を深め、さらに実習によって診察・治療技術を習得する。
内容として、全身各部位のスポーツ傷害に対し、その原因、症状をもとに患者の局所的症状および総合的症状に対する基本的な診察と治療が行える能力を習得する。
コンディショニングに関連しストレッチ及び、テーピングを状況に応じた利用ができる事を目的とする。

到達目標

１．外傷の知識を習得し説明できる。
２．代表的なスポーツ傷害における診察手順と病態、鍼灸治療について理解し実践できる。
３．コンディショニングとして、ストレッチおよびテーピングが適切に行える。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

スポーツ外傷について対応方法を教授するため、想像力を働かすこと
実際の損傷組織をイメージしどのような根拠のもとに対応するのか理解することに努力する事

教科書

授業時に配付する資料

参考書

東洋医学臨床論　はりきゅう編　公益社団法人東洋療法学校協会
目で見る運動機能検査法　竹内義享　澤田規　著　南江堂

研究室／オフィスアワー

月曜日　水曜日　金曜日
但し講義の時間は除く

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 頸肩部、上肢の解剖 頸肩部、上肢の運動機能特性について	予習：頸肩部上肢の筋・骨格について予習する。 復習：学習した手技は反復練習すること。	
2	肩部のスポーツ傷害と鍼灸治療 肩関節の障害 肩関節周囲のストレッチング 肩関節関連筋群の筋力増強訓練	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
3	肘部のスポーツ傷害と鍼灸治療 肘関節の障害 肘関節周囲のストレッチング 肘関節関連筋群の筋力増強訓練	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
4	頚部から腰部のスポーツ傷害と鍼灸治療 頸部・腰部のスポーツ傷害 頸椎捻挫 頚椎ヘルニアの病態 腰椎すべり症　筋筋膜性腰痛の治療	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
5	足関節・下腿部の障害と鍼灸治療 1 足根管症候群の症状 アキレス腱炎とアキレス腱断裂の鑑別 足関節捻挫の症状	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
6	足関節・下腿部の障害と鍼灸治療 2 シンスプリントの病態 コンパートメント症候群の症状と対応	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
7	現場トレーニング 1 下肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・スト	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の	

	レッチ・テーピングを複合的に実施する。	対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
8	現場トレーニング 2 下肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピングを複合的に実施する	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
9	膝関節部のスポーツ傷害と鍼灸治療 1 外側側副靭帯損傷　内側側副靭帯損傷 前十字靭帯損傷　後十字靭帯損傷 半月板損傷の病態と鑑別	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
10	膝関節の障害と鍼灸治療 2 ジャンパー膝　オスグッド病　鵞足炎　腸脛靭帯炎 膝関節周囲筋群のストレッチと疼痛緩和について	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害について調べる 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
11	現場トレーニング 3 下肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピングを複合的に実施する。	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
12	現場トレーニング 4 下肢障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピングを複合的に実施する。	予習：シラバスおよび教科内容の確認および代表的なスポーツ傷害に対するテーピング等の対応を学ぶ 復習：授業をもとに内容確認 学習した知識を活用した鍼灸治療を組み立てる	
13	症例トレーニング 1 上肢を中心とした症例に対し、適切な検査から治療に至る実技を行う。	予習：授業で実施した治療法について反復練習しておくこと 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
14	症例トレーニング 2 下肢を中心とした症例に対し、適切な検査から治療に至る実技を行う。	予習：授業で実施した治療法について反復練習しておくこと 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
15	症例トレーニング確認 複合体育室にて障害モデルに対して鍼灸治療・手技・ストレッチ・テーピングを複合的に実施する。	予習：授業で実施した治療法について反復練習しておくこと 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
成績評価方法と基準			割合
1．出席は 4/5 回以上を必要とし、基準を満たした者について実技試験を実施する。 2　　総合評価が 60 点以上で単位認定する。			100%

授業科目名	スポーツ鍼灸学各論(鍼灸)（Particular Sports Acupuncture）				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太	
科目ナンバリング	SS630	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

安全かつ計画的に鍼灸師が治療を行うのに必要なスポーツ医学の基本を理解するとともに、スポーツによる傷害の予防法・治療法だけでなく、臨床(整形外科領域)に必要な診察の進め方、アスリートのコンディション、パフォーマンス向上についての知識・技術の習得およびスポーツ外傷の応置を教授し実技において習得する。また、これからの高齢社会、余暇社会を視野においた時代的な要求に応えられる幅広い知識を深めるため、スポーツ活動が身体にどのように影響するかといった基本的事項等も学習する。

到達目標

1．スポーツ傷害に必要な知識、特に整形外科領域を習得し説明できる。
2．スポーツ鍼灸に必要な物理療法機器の知識を習得し説明できる。
3．スポーツ外傷の処置の知識を習得し説明できる。
4．スポーツ鍼灸に必要な関連領域の事項について理解し説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習室を使用する際には白衣の着用を義務付ける。
また授業態度の不良な場合は、1 回目は注意とし 2 回目からは成績より減点する。

教科書

授業時に配付する資料

参考書

1．東洋療法学校協会著＜スポーツ東洋療法ハンドブック、医道の日本社＞
2．内田淳正監修、＜標準整形外科学第 11 版、医学書院＞

研究室／オフィスアワー

共同研究室／月曜日 16:00～18：00、水曜日 16:00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	スポーツ領域で用いられる物理療法 1 寒冷療法が局所に及ぼす生理的特性について	予習：ＲＩＣＥ処置について調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
2	スポーツ領域で用いられる物理療法 2 物理療法が競技者にもたらす生理的変化について	予習：超音波療法、温熱療法、マイクロ波療法、低周波療法、干渉波療法について調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
3	スポーツ外傷の処置の実際 1 整形外科領域 競技者への処置を行う際の留意点 医療安全の観点からの適応の判断	予習：四肢の外傷に対する処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
4	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 1 ストレッチングが局所に及ぼす生理的変化	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
5	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 2 体幹筋群に対するストレッチングの実際	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
6	スポーツ外傷の応急処置の実際 2 整形外科領域 上肢の骨折に対する処置法の実際	予習：四肢の外傷に対する処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
7	スポーツ外傷の応置の実際 3 整形外科領域 下肢の骨折に対する処置法の実際	予習：四肢の外傷に対する応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
8	スポーツ外傷の処置の実際 4 整形外科領域 四肢の脱臼に対する処置法の実際	予習：四肢の外傷に対する応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
9	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 3 整形外科領域 適応疾患の判断と治療法の実際	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
10	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 4 可動域制限と鍼灸治療について	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	

11	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 5 鍼灸治療症例検討	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
12	スポーツ鍼灸に必要な基礎知識 6 鍼灸治療症例検討	予習：ストレッチングについて調べる 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
13	スポーツ外傷の処置の実際 5 整形外科領域 四肢の捻挫に対する処置法の実際	予習：軟部組織損傷の応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
14	スポーツ外傷の応置の実際 6 整形外科領域 靭帯損傷から競技復帰までの留意点	予習：軟部組織損傷の応急処置について調べる 復習：授業で実施した実技について技術習得が確実となるように自己練習する	
15	スポーツ外傷の処置の実際 7 整形外科領域 スポーツ障害の治療総合演習	予習：これまでに習ったことを学習する 復習：授業をもとに重要事項と配付資料の確認	
成績評価方法と基準			割合
1．出席は 4/5 回以上を必要とし、基準を満たした者について実技試験を実施する。 2．定期試験 100%で評価を行う。但し授業態度が不良の者は減点の対象とする。 3．　60 点以上で単位認定する。			100%

授業科目名	介護学概論(鍼灸)（Care Study Outline）				
主担当教員	上田　喜敏		担当教員	上田　喜敏	
科目ナンバリング	SS631	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 3 限
授業形態	講義	単位数	1	必修･選択	選択

授業概要

この授業では、日本の高齢者や障がいのある人々のケアーをする意義について理解し、それに基づいた様々な援助技術の基本を理解する。具体的には、介護保険制度や介護の基本事項について理解する。

到達目標

1. ケア（介護）について理解することができる。＜DP②＞
2. 日本の社会保障制度について理解することができる。＜DP①＞
3. 介護保険制度について理解することができる。＜DP①＞
4. 高齢者支援の方法について理解することができる。＜DP②＞
5. 車いすについて理解できる。＜DP②＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 配布した講義資料については事前に読むこと。
2. 疑問点があれば、必ず聞くこと、講義メモをとること。
3. 今まで聞いたことのない用語が出るので復習をすること。
4. 講義中の携帯電話はカバンの中にしまうこと勿論。使用は禁じる。
5. 授業の進行状況により、内容の変更等がある。
6. 介護に興味を持つように心がけること。

教科書

配布資料にて実施。

参考書

介護支援専門員テキスト

研究室／オフィスアワー

研究室 7/毎木曜日午前

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	科目ガイダンスと介護について	復習：今後の人口動態について確認（2 時間）	上田
2	日本の社会保障制度と介護について、介護保険制度導入の背景について	予習：社会保障とは何か調べる（2 時間） 復習：社会保障と介護保険の背景を確認（2 時間）	上田
3	日本の社会保障制度 2（これからの社会保障について）	予習：これから日本の社会保障制度について調べる（2 時間） 復習：医療介護の 2025 年以降を確認（2 時間）	上田
4	介護保険制度 1	予習：介護保険について調べる（2 時間） 復習：介護保険制度について確認（2 時間）	上田
5	介護保険制度 2	予習：施設について調べる（2 時間） 復習：介護保険制度について確認（2 時間）	上田
6	介護保険制度 3 介護予防	予習：介護予防について調べる（2 時間） 復習：介護予防について確認（2 時間）	上田
7	車いすについて	予習：車いすについて調べる（2 時間） 復習：車いすの種類・技術について確認（2 時間）	上田
8	車いす技術（実技）	復習：車いす名称について確認（2 時間）	上田
9	高齢者身体特性	予習：高齢者の身体について調べる（2 時間） 復習：高齢者の身体特性について確認（2 時間）	上田
10	高齢者身体特性とてんかん	予習：てんかんについて調べる（2 時間） 復習：身体特性とてんかんについて確認（2 時間）	上田
11	言葉遣いと高齢者虐待	予習：虐待について調べる（2 時間） 復習:言葉遣いと高齢者虐待について確認(2 時間）	上田

12	高齢者支援展開論 1	予習:身体介護と家事援助について調べる(2 時間) 復習:介護と食事の介護について確認(2 時間)	上田
13	高齢者支援展開論 2	予習:失禁について調べる(2 時間) 復習:排泄と失禁について確認(2 時間)	上田
14	高齢者支援展開論 3	予習:褥瘡について調べる(2 時間) 復習:褥瘡とその対策について確認(2 時間)	上田
15	高齢者支援展開論 4 とまとめ	予習:睡眠、入浴、口腔について調べる(2 時間) 復習:睡眠、入浴、口腔のかいごについて確認(2 時間)	上田
成績評価方法と基準			割合
1.定期試験(100 点)の結果、60 点以上で単位を認定する。<DP①②> 2.2/3 以上の出席が必要。			100%

授業科目名	老年ケア演習(鍼灸)(Geriatric Care Internship)				
主担当教員	松熊 秀明		担当教員	松熊 秀明、大月 隆史	
科目ナンバリング	SS632	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択
授業概要					
はり師きゅう師も高齢者の実態を知り、積極的なケアが必要である。また、鍼灸臨床においては高齢者や障害者に接する機会は少なくないため介助・介護のあり方および方法の理解は重要である。そこで老年ケア演習では、ベッド、車イスの場合の介護方法と日常生活で必要な食事・排泄・入浴という三つのケアの手順や基本的事項についてシュミレーショントレーニングを交えながら教授する。					
到達目標					
施設の雰囲気を鋭く感じ取り、臨機応変な判断と言動ができる。 利用者を理解し、医療従事者としてのモラルと使命感を身に付ける。 観察した経験を正確に記し、利用者・スタッフの行動を冷静に分析して報告できる。DP①②③④					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
欠席や遅刻をした場合、単位を認められないことがあります。 授業の進め方 学外の施設で実施するので、事前に説明会を行う。 グループを決め、グループごとに期間を設け、実施する。					
教科書					
配付プリント					
参考書					
特になし					
研究室/オフィスアワー					
事務局に常駐しています。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容		予習・復習・課題等		担当
	授業計画 1～15 回の授業は、特別養護老人ホーム等で 1 週間の集中した演習を実施する。 1. オリエンテーション 2. 学外見学 ・見聞きしたこと、指導を受けたことを詳細に記録する。 ・見学した利用者の状況について文献を参考にして詳しく調べる。		担当する部門の利用者の状況に応じて必要な知識・技術を予習・復習する。(30 時間)		小島賢久
成績評価方法と基準					割合
1.実習態度(見学施設からのフィードバック含む) 2.レポート(DP1,2,3,4) 4/5 以上の出席が必要とする。					1.50% 2.50%

授業科目名	美容鍼灸学各論Ⅰ(鍼灸)				
主担当教員	堀川　奈央		担当教員	堀川　奈央、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS633	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

美容鍼灸を行うにおいて必要な解剖学、生理学、経路経穴学を基礎から学ぶ。また鍼灸師としての立ち振る舞いはもちろんのこと美容独特の作法も学ぶ。

到達目標

①社会人としての常識や接客マナーを身に付ける。
②美容業界(西洋医学及び東洋医学を含む)の現在までの歴史や現状を把握し、将来の美容鍼灸師としてどのように活躍したいか創造することができる。
③美容鍼灸における治効理論を理解し説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．出席は重視する。
２．予習復習を各１時間実施する。

教科書

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会（尾﨑朋文他）
「解剖学」社団法人東洋療法学校協会編
「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室 13
授業前後の時間、金曜日以外の昼休み

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業概要説明	予習：本科目の講義内容、評価に関してシラバスを用い把握すること。	堀川 仲村
2	接客マナー	予習：接客マナーについて自身の考えをまとめる。 復習：次回の講義で実践できるよう本日の内容をまとめる。	堀川 仲村
3	（美容）鍼灸師としてのヘアメイク①	予習：適切だと思う医療従事者、特に鍼灸師における服装や髪型髪色を考える。 復習：講義を受けた上で理想とする身だしなみで次回参加できるよう準備する。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
4	（美容）鍼灸師としてのヘアメイク②	予習：前回学んだヘアメイク方法を復習し、練習する。 復習：2 回の講義で学んだヘアメイクの内容をまとめる。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
5	電話対応・クレーム対応・有害事象対応①	予習：自分自身が電話や接客において受けた過去の良い・悪い対応の経験を思い返す。 復習：次週実践できるように復習する。	堀川 仲村
6	電話対応・クレーム対応・有害事象対応②　実践編	予習：実践に向け、接客について適切な言葉遣いや対応ができるように練習する。	堀川 仲村
7	皮膚学、顔面解剖生理学経穴学①	予習：解剖学の教科書で頭顔面部の解剖および経穴を見直すこと。 復習：筋肉や組織名称及び作用を理解する。	堀川 仲村
8	皮膚学、顔面解剖生理学経穴学②	予習：皮膚の構造を教科書を用い確認する。 復習：皮膚の構造を図示し、説明できるようにする。	堀川 仲村
9	美容医療（西洋医学）	予習：美容医療について調べてくる。 復習：美容医療のメリット、デメリットを把握し説明できる。	堀川 仲村
10	化粧品成分及び医薬品の種類について	予習：自身が使っている化粧品の成分を調べ控えてくる。 復習：化粧品の成分の効果を理解し、説明できるようになる。	堀川 仲村
11	はりきゅう理論	予習：１・２年生で学習した鍼灸治療のメカニズムを復習する。 復習：美容に特化した治効を理解し説明できる。	堀川 仲村
12	カウンセリング	予習：2 年生で学んだ医療面接の内容を復習する。 復習：美容鍼灸ならではの問診項目や注意点を理解する。	堀川 仲村
13	西洋医学と東洋医学からみた食	予習：生理学を中心としたこれまで習ってきた栄養学の基礎を確認すること。 復習：美容の側面に注目した食事について患者に説明し、アドバイスできるようにする。	堀川 仲村
14	学生課題発表	1～13 回までの授業において学んできたことについてグループ学習し、発表する。	堀川 仲村
15	授業範囲のまとめ	テスト内容：皮膚の構造を図示し、患者に説明することができる。	堀川 仲村

成績評価方法と基準	割合
１．授業内発表 ２．定期試験 ただし 4/5 以上の出席を必要とする。	１．40% ２．60%

授業科目名	美容鍼灸学各論Ⅱ(鍼灸)				
主担当教員	堀川　奈央		担当教員	堀川　奈央、仲村　正子	
科目ナンバリング	SS634	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜４限 火曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要
１．頭顔面部の解剖、を経穴を含めて復習する。 ２．治療手技だけでなく、経営や接客に必要な様々な知識を、多数の臨床鍼灸師の先生から学ぶ。 （臨床での鍼灸治療の内容を経営から接客、治療について実技を含めてお話していただきます。）
到達目標
美容鍼灸分野の多様性に触れ、自身の将来像を想像することができる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
１．出席は重視する。 ２．外部から講師を招くため、失礼のないよう、体調不良以外での欠席・遅刻は避けること。 ３．予習復習を各１時間実施する。
教科書
「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
参考書
「新版 経絡経穴概論」医道の日本社 教科書執筆小委員会（尾﨑朋文他） 「解剖学」医道の日本社 教科書執筆小委員会
研究室／オフィスアワー
東棟４階研究室 13
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	予習：シラバスを確認し、授業内容や評価方法を把握する。	堀川 仲村
2	基礎の復習（頭・顔面部の筋学と経穴）	予習復習：前期の復習（頭部顔面部の筋学と経穴）	堀川 仲村
3	鍼通電を用いた美容鍼灸	予習復習：美容鍼灸学各論Ⅰの内容を総復習する。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
4	鍼通電を用いた美容鍼灸	予習復習：美容鍼灸学各論Ⅰの内容を総復習する。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
5	鍼通電を用いた美容鍼灸	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
6	鍼通電を用いた美容鍼灸	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
7	刺さない鍼を用いた美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回の講師の先生の略歴を調べる。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
8	刺さない鍼を用いた美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
9	刺さない鍼を用いた美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。	堀川
		復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	仲村 ゲストスピーカー
10	刺さない鍼を用いた美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
11	エステティックの手技を含む美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回の講師の先生の略歴を調べる。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
12	エステティックの手技を含む美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
13	エステティックの手技を含む美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
14	エステティックの手技を含む美容鍼	予習：前回の内容をまとめる。 復習：次回質問できるよう、前回の講義内容について質問を考えておく。	堀川 仲村 ゲストスピーカー
15	3～14 回目の講義の実技を含む振り返り	自分自身の将来像（鍼灸師として、美容鍼灸師として）を今一度考える。	堀川 仲村

成績評価方法と基準	割合
１．レポート課題 ただし 4/5 以上の出席を必要とする。	100%

授業科目名	スポーツ実習Ⅵ器械運動(鍼灸スポーツ)（Sports Practice Ⅵ【Apparatus Gymnastics】）				
主担当教員	正見 こずえ		担当教員	正見 こずえ	
科目ナンバリング	SS605	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

器械運動は非日常的な要素が多く含まれているため敬遠されがちである。しかし、その運動の多くは，体力・運動能力・空間での身体調整能力などを高めるための基礎であり、大変重要な役割を担っている。
本授業は学習指導要領に取り上げられている技を系統的・段階的に指導し、その技の習得をはかる。
また、技を安全に実施できるための幇助法についても習得することを目的とする。

到達目標

・器械運動の基本的な技を習得する。
・器械運動における段階練習の方法や補助方法を習得する。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業時に説明します。

教科書

講義中に適宜必要に応じ指示します。

参考書

講義中に適宜必要に応じ指示します。

研究室／オフィスアワー

授業前後の時間、兼任講師控室等にて

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス／器械運動とは？ 授業の進め方を確認する。 種目特性について理解する。	授業の進め方と種目特性および注意点，テスト種目についての説明	
2	体つくり運動 器械運動の導入にあたる様々な運動を体験する。	器械運動の導入段階としてからだつくり運動を実施する。 手で支える運動から倒立を段階的に習得	
3	マット運動① マット運動の種目特性、技群を理解する。	接点技群の実施（指導方法・技の習得を含む） ゆりかご，前転，後転の習得	
4	マット運動② 支える運動と転がる運動、倒立の体験	接点技群・翻転技群を実施（指導方法・技の習得を含む）および習得する	
5	マット運動③ 接点技群の段階練習を体験する。 技の習得を目指し、補助方法を学習する。	前方倒立回転跳びを中心に，倒立回転系の技を習得	
6	マット運動④ 倒立回転技群の段階練習を体験する。 技の習得を目指し、補助方法を学習する。	技の組み合わせによる連続・テスト種目の練習および習得	
7	マット運動⑤ グループごとにテストを実施する（習得した技を発表する）	技の組み合わせによる連続・テストとその解説	
8	跳び箱運動① 跳び箱運動の種目特性、技群を理解する。	切り返し系・回転系の基本技の実施　抱え込み跳び，台上前転	
9	跳び箱運動② 跳び箱の導入運動、段階練習を体験する。	回転系の基本技の実施（指導方法・技の習得を含む）倒立回転跳び	
10	跳び箱運動③ 切り返し系の技の習得を目指す。	跳び箱運動（切り返し系・回転系）のテストとその解説	
11	跳び箱運動③ 回転系の技の習得を目指す。	懸垂系・腕立て支持系の基本技の実施（指導方法・技の習得を含む）	
12	鉄棒運動① 鉄棒の種目特性、技群を理解する。	懸垂系・腕立て支持系の基本技の実施（指導方法・技の習得を含む）	
13	鉄棒運動② 支持回転の習得を目指す。	技の組み合わせによる連続・テスト種目の練習（上がる、回る、下りる）	
14	鉄棒運動③ 「上がる、回って、降りる」技の習得を目指す。 グループ毎にテストを実施する	技の組み合わせによる連続・テストとその解説	
15	全体のまとめと振り返り	ノートの提出	

成績評価方法と基準	割合
1. 実技点 2. 授業への取り組み DP①③	1. 60% 2. 40%

授業科目名	スポーツ実習Ⅶ水泳(鍼灸スポーツ)（Sports Practice Ⅶ【Swimming】）				
主担当教員	外林　大輔		担当教員	外林　大輔	
科目ナンバリング	SS606	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

水泳の基礎，クロール，平泳ぎ，背泳，バタフライの泳法と特性，指導法および安全管理を学修します．

到達目標

1.クロール，平泳ぎ，背泳ぎ，バタフライの特性と泳法を学び，自身の泳力アップを図るとともに学校体育・生涯スポーツの視点に立った指導法を身につける．
2.水泳における危険性を理解し，水場における安全管理能力も身につける．DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.競泳用水着，キャップ，ゴーグル（任意）を着用すること．
2.着衣水泳実施の際にはＴシャツ，短パンを用意すること．

教科書

なし

参考書

学校体育実技指導資料第４集　水泳指導の手引き　（文部科学省）

研究室／オフィスアワー

大学の講義時は非常勤講師室におります．それ以外の時間帯に質問などがありましたらメールで連絡してください．
sotobayashi@morinomiya.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション：　水泳の特性と注意事項	食事，睡眠をしっかりとり体調を整える．	
2	水泳・水中の安全管理：　衛生上の留意点，救急法，着衣泳，起こりうる事故など	水泳の危険性を確認する．	
3	泳力チェック①：　クロール，平泳ぎ	各種泳法を調べ，確認しておく．	
4	泳力チェック②：　クロール平泳ぎのタイム計測	トップアスリートと自身や他の学生のタイムを比較してみる．	
5	水泳の基本：　浮き身，ストリームラインの姿勢，キックの基本	水泳の基本姿勢であるストリームラインについて調べる．	
6	クロールの泳法と指導法：　基本姿勢との関連，四肢の動かし方，呼吸法，指導上の留意点	クロールの泳法について調べる．	
7	クロールの泳力向上：　泳法を理解し，練習する．	クロールの上達法について調べる．	
8	平泳ぎの泳法と指導法：　基本姿勢との関連，四肢の動かし方，呼吸法，指導上の留意点．	平泳ぎの泳法について調べる．	
9	平泳ぎの泳力向上：　泳法を理解し，練習する．	平泳ぎの上達法について調べる．	
10	背泳ぎの泳法と指導法：　基本姿勢との関連，四肢の動かし方，呼吸法，指導上の留意点．	背泳ぎの泳法について調べる．	
11	背泳ぎの泳力向上：　泳法を理解し，練習する．	背泳ぎの上達法について調べる．	
12	バタフライの泳法と指導法：　基本姿勢との関連，四肢の動かし方，呼吸法，指導上の留意点．	バタフライの泳法について調べる．	
13	泳力の向上，ターン，個人メドレー	ターンの方法について調べる．	
14	距離を泳ぐ：クロール，平泳ぎ	速く泳ぐことと距離を泳ぐことの違いについて調べ，考察する．	
15	泳力チェック③：　各種泳法のタイム計測	第４回目の授業で計測した自身のタイムを確認し，授業を通じて上達した部分，足りない部分について考える．	

成績評価方法と基準	割合
1．学習態度・意欲 2．実技試験 ・実技試験は，クロール，その他１泳法のタイムを評価する． ・見学者にはレポートの提出を課す．DP①④	①70% ②30%

授業科目名	スポーツ実習Ⅷ生涯スポーツ(鍼灸スポーツ)（Sports Practice Ⅷ【Lifelong Sports】）				
主担当教員	濱口　幹太		担当教員	濱口　幹太	
科目ナンバリング	SS639	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本スポーツ実習では、ゲーム主体の授業を行う中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図るのみならず、スポーツを行う楽しさや喜びを通じて生涯にわたり行えるスポーツ実践を図る。また、実習全体を通じて、学生同士の交流や人間関係を育むことも本実習の大きな狙いである。授業では、競技スポーツのような高強度運動だけではなく、軽スポーツ、球技スポーツ、レクリエーションスポーツなど多種多様なスポーツ種目を楽しみながら実施する。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、「体を動かす爽快さ」や「スポーツの楽しさ」を経験することにより、生涯にわたり楽しく計画的に、かつ安全にスポーツを実践する習慣を身につける。
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、学生同士の交流や豊かな人間関係を構築する。
４．グループ学習を通じて、コミュニケーション能力や課題解決能力を高める。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・身体活動が可能な服装（装飾品は不可）
・大学生として節度ある態度で授業に臨むこと

教科書

なし

参考書

必要に応じて授業中に指示する

研究室／オフィスアワー

非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：シラバスの確認 復習：次回の体力測定項目の確認	
2	体力測定	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：体力測定項目の確認 復習：体力測定結果について理解する	
3	屋内団体スポーツ①：基本技術の習得	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：屋内スポーツについて調べる 復習：実践したスポーツの技能の確認	
4	屋内団体スポーツ②：技術の実践　ゲームの展開	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：前回の屋内スポーツの実践について検討する 復習：実践したスポーツの運用の確認	
5	屋外団体スポーツ①：基本技術の習得	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：屋外スポーツについて調べる 復習：実践したスポーツの技能の確認	
6	屋外団体スポーツ②：技術の実践　ゲームの展開	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：前回の屋外スポーツの実践について検討する 復習：実践したスポーツの運用の確認	
7	屋内個人スポーツ①：基本技術の習得	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：屋内スポーツについて調べる 復習：実践したスポーツの技能の確認	
8	屋内個人スポーツ②：技術の実践　ゲームの展開	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：前回の屋内スポーツの実践について検討する 復習：実践したスポーツの運用の確認	
9	屋外個人スポーツ①：基本技術の習得	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：屋外スポーツについて調べる	
		復習：実践したスポーツの技能の確認	
10	屋外個人スポーツ②：技術の応用と実践　ゲームの展開	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：前回の屋外スポーツの実践について検討する 復習：実践したスポーツの運用の確認	
11	ニュースポーツ①：基本技術の習得	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：ニュースポーツについて検討する 復習：実践したスポーツの技能の確認	
12	ニュースポーツ②　ゲームの展開	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：前回のニュースポーツの実践について検討する 復習：実践したスポーツの運用の確認	
13	レクリエーションスポーツ	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：レクリエーションスポーツについて調べる 復習：実践したスポーツの技能の確認	
14	障害者スポーツ	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：障害者スポーツについて調べる 復習：実践したスポーツの技能の確認	
15	体力測定	＜事前事後学習：1 時間＞ 予習：前回の体力測定結果を確認する 復習：前後の測定結果について検討する	

成績評価方法と基準	割合
１．授業への取り組み・態度（積極性、協調性等）・貢献度	60%
２．技能の理解・習熟	20%
３．授業で指示した課題	20%

授業科目名	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学演習Ⅲ(ﾚｼﾞｽﾀﾝｽｴｸｻｻｲｽﾞ 2･水中運動)(鍼灸スポーツ)（Training Science Seminar Ⅲ【Resistance Exercise Ⅱ / Aquatic Exercise】）				
主担当教員	中原 英博		担当教員	中原 英博、折田 真弓	
科目ナンバリング	SS644	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	集中講義
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

運動を安全かつ効果的に行う上で必要不可欠な知識と考え方を学習する。さまざまな環境で運動指導が安全にできるようになる。持久的トレーニングの効果を理解し、適切な指導ができるようになる。

到達目標

1. 運動の効果を理解する（DP①③）。
2. 持久的・間欠的トレーニングを適切に指導できる（DP①③）。
3. 水中運動を適切に指導できる（DP①③）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業内で説明

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康体力づくり事業財団）

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室　水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	持久的トレーニングの効果の理解	シラバスの確認とトレーニングの種類について予習しておくこと。	
2	持久的トレーニングの実践	持久的トレーニングの効果を理解する。	
3	インターバルトレーニングの効果の理解	インターバルトレーニングの特性および種類を理解する。	
4	インターバルトレーニングの実践	持久的トレーニング・インターバルトレーニングの効果について合理的説明ができるように復習すること。	
5	水中運動の利点・問題点の理解	水中運動と陸運動の違いについて説明できるように予習しておくこと。	
6	水中運動における心拍数と強度の関係の理解	心拍数の測定及びＲＰＥの計測方法について予習しておくこと	
7	水中ウォーキング実習	水中ウォーキングの意義について予習しておくこと。	
8	水中エアロビクス実習	水中運動の利点・問題点について合理的説明ができるように復習すること。	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験（７０%）、講義中の意欲・態度（３０%）（DP①③）。 ４／５以上の出席が必要。	筆記試験 70% 講義中の意欲・態度 30%

授業科目名	スポーツバイオメカニクス(鍼灸スポーツ)（Sports Biomechanics）				
主担当教員	佐野 加奈絵		担当教員	佐野 加奈絵	
科目ナンバリング	SS647	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

スポーツや身体運動をバイオメカニクス的に考えるために必要な基礎知識を学習するとともに，歩・走・跳・投・泳などの具体的な身体運動のメカニズムを探る。

到達目標

動きや力に関連する学問であるバイオメカニクス（生体力学）の視点からスポーツや身体運動を分析・考察する能力を養うとともに，体育・スポーツの研究や指導の現場に役立つ基礎知識を身につける（DP①）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.解剖生理学，機能解剖学，運動生理学と関連付けて学修するため，既に受講済みである授業の内容について復習しておくこと。
2.基本的な数学，物理学の知識を必要とすることがあるが，できるだけ解りやすく行う。
3.力学計算を行うので，定規および電卓は毎時間必携である。

教科書

テキストは使用しない．講義にはパワーポイントを使用し，適宜，資料を配付する。

参考書

1. James G. Hay　著「スポーツ技術のバイオメカニクス」ブックハウス HD，2011 年
2. 中村隆一・齋藤宏・長崎浩　著「基礎運動学　第 6 版」医師薬出版，2003 年

研究室／オフィスアワー

東棟４F　月曜日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：バイオメカニクスとは何か，運動指導におけるバイオメカニクスの意義	予習：　シラバスの確認． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
2	筋のしくみと筋電図：筋の種類と特性，筋収縮の仕組み，感覚と反射	予習：　解剖生理学，機能解剖学の確認． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
3	運動と力学 1：力学の基礎，ニュートンの運動方程式	予習：　高校までの数学，物理の復習． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
4	運動と力学 2：ニュートンの運動方程式，落下運動	予習：　高校までの数学，物理の復習． 復習：　配布プリント，キーワードの確認	
5	運動と力学 3：落下運動，力学的エネルギー	予習：　高校までの数学，物理の復習． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
6	運動と力学 4：運動量，力積，てこの原理	予習：　高校までの数学，物理の復習． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
7	筋のしくみと筋電図：筋電図	予習：　解剖生理学，機能解剖学の確認． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
8	「立つ」のバイオメカニクス：立位姿勢の安定性，身体重心	予習：　立つ動作に関わる筋を調べる． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
9	「立つ」のバイオメカニクス：姿勢調節，よい姿勢	予習：　ヒトの立ち姿を観察する． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
10	「歩く」のバイオメカニクス：歩行の流れと名称，歩行率，競歩	予習：　歩く動作に関わる筋を調べる．他人の歩行を観察する． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
11	「走る」のバイオメカニクス：ピッチとストライド，速く走るための動作	予習：　アスリートの走る動作を観察し，速く走る動きについて考える． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
12	「跳ぶ」のバイオメカニクス：　跳躍動作の特徴，筋の弾性と弾性エネルギー，地面反力と抜重	予習：　垂直跳びを実践し，高く飛ぶ動きについて考える． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
13	「投げる」のバイオメカニクス：投動作の特徴と共通点，運動連鎖，ボールの飛行と空気抵抗	予習：　投動作にみられる運動について考える． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	

14	「泳ぐ」のバイオメカニクス：水の抵抗と揚力，泳動作，泳速度の決定因子	予習：　アスリートの泳ぐ動作を観察し，速く走る動きについて考える． 復習：　配布プリント，キーワードの確認．	
15	授業全体のまとめと振り返り	予習：　授業全体を振り返り，バイオメカニクスの意義を考える． 復習：　試験内容の確認．	
成績評価方法と基準			割合
①授業中の意欲・態度（DP①） ②課題・テスト（DP①）			①30% ②70%

授業科目名	運動生理学(鍼灸スポーツ)（Exercise Physiology）				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博	
科目ナンバリング	SS520	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

本講義では、運動負荷時にはじめて出現する生理現象の固有の変化、長期トレーニングによる器官、組織の構造的変化やそれに伴う運動生理機能の向上、不活動（運動不足）による生理機能低下などについて、特に、呼吸器系、循環器系およびそれらをコントロールする自律神経系を中心した、個体レベルでの生体制御システムの運動適応の過程について、運動生理学、スポーツ科学の観点から解説する。これにより、第１次予防の視点に立って運動が健康づくり、 特に生活習慣病予防に役立つ根拠を示す。
また、実際の医療やスポーツ科学の現場において広く活用されている「心肺運動負荷試験の基礎理論とその評価法」を学ぶことで、運動の制限因子や呼吸・循環器疾患における運動不能の原因およびその症状を鑑別するための基礎と臨床応用についての理解を深める。

到達目標

・第１次予防の視点に立って、運動が健康づくり、特に生活習慣病予防に役立つ根拠を説明できる（DP①）。
・スポーツ選手の運動機能の評価や、呼吸循環器疾患における運動不能の原因、およびその症状を識別するため方法論や、それを実施することの意義を理解できる（DP①）。
・１年次に学んだ生理学の知識をベースとして、運動時における生理学的応答の測定方法や長期トレーニングによる生体反応の量的、時間的動態や適応変化を理解し、その評価方法やその反応のメカニズムに関する説明（考察）ができる（DP①）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1，2 年次の生理学、健康スポーツ科学演習、トレーニング科学演習にて得た知識、経験をベースとした授業を展開するため、運動生理学の履修にあたっては、1、2 年次に学んだ上記科目内容について、再度見直しをしておくこと、特に、体力や呼吸循環代謝系に関する各測定項目についての知識や理解を深めておくこと。授業内容の予習、復習については、私のホームページ（www.respiratorycontrol.com）を活用してください。

教科書

アメリカ体育学会 編,日本体力医学会体力科学編集委員会 監訳「運動処方の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第７版」南江堂，２００６年

参考書

参考書・参考資料等
宮村実晴 編集「新運動生理学(下巻)」真興交易(株)医書出版部中野昭一 著「図説・運動の仕組みと応用―運動・生理・生化学・栄養 （普及版）」医歯薬出版，２００１年

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 12）:原則　月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	健康の増進と運動:健康増進における運動の意義、身体運動の生理学的基礎	1，2 年次の生理学、健康スポーツ科学演習、トレーニング科学演習にて得た知識（特に用語）の再確認をしておくこと	
2	運動と代謝システム:運動時のエネルギー供給機構、有酸素性代謝と無酸素性代謝		
3	運動時のエネルギー代謝:運動時の糖質代謝、脂質代謝		
4	運動時のエネルギー代謝:運動時の糖質代謝、脂質代謝		
5	運動時の循環調節:運動時の圧反射システムによる心拍、血圧制御機構		
6	運動と呼吸システム:運動時の肺換気、ガス交換、呼吸運動の神経性および液性調節		
7	運動時の呼吸調節:運動時の化学反射システムによる呼吸調節機構		
8	運動と体温:運動時の体温調節機構		
9	運動と環境:特殊環境下における運動の生理		
10	長期トレーニングと生体システムの運動適応:長期トレーニング、不活動（運動不足）による生体システムの運動適応変化		

11	運動と病態生理:運動制限をきたす疾患の病態生理		
12	運動負荷試験の基礎と実際(1):運動負荷に対する呼吸循環代謝システムの連関メカニズムの概要		
13	運動負荷試験の基礎と実際(2):運動に対する生理学的応答の測定・評価		
14	運動処方の実際(1):運動による生活習慣病の予防効果		
15	運動処方の実際(2):運動による生活習慣病の予防のプログラム作成		
成績評価方法と基準			割合
課題レポート（DP①） 筆記試験（DP①） 上記平均点の結果、６０点以上で単位認定とする。			課題レポート80% 筆記試験20%

授業科目名	運動生理機能学演習(鍼灸スポーツ)（Exercise Physiological Function【Seminar】）				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博、佐野　加奈絵、信江　彩加、河合　英理子、伊藤　剛	
科目ナンバリング	SS521	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	鍼灸:選択 スポーツ:必修

授業概要

本講義では、運動生理学の体験学習を交えた学生参加型の授業を展開する。授業では小班単位で演習課題に取り組み、自らの力でレポートを作成するという過程を通じて、運動時の生体機能に関する知識や理解を深める。

到達目標

スポーツ選手の運動機能の評価や、呼吸循環器疾患における運動不能の原因、およびその症状を識別するため方法論や、それを実施することの意義を理解できる(DP①)。
1年次に学んだ生理学の知識をベースとして、運動時における生理学的応答の測定方法や長期トレーニングによる生体反応の量的、時間的動態や適応変化を理解し、その評価方法やその反応のメカニズムに関する説明（考察）ができる(DP①)。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

運動生理学の知識をベースとした演習授業を展開するため、運動生理機能学演習の履修にあたっては、原則として運動生理学講義を履修し、単位を取得したものに限ります。

演習前の準備
運動生理学の授業で用いた教科書（運動処方の指針）などを調べて、体力や呼吸循環代謝系に関する各測定項目についての知識や理解を深めておく。
演習で修得すべき専門知識、専門技術を調べておく。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康増進における運動の意義、身体運動の生理学的基礎　（講義）	スポーツ選手の運動機能の評価や、呼吸循環器疾患における運動不能の原因、およびその症状を識別するための各種方法論についての理解を深めておく。	
2	運動時における呼吸循環代謝システムの連関メカニズムの概要　（講義）		
3	運動時における生理学的応答（高次脳機能・脳循環・呼吸調節機能）の測定・評価方法　（講義）		
4	運動時のエネルギー代謝機構(有酸素性代謝と無酸素性代謝)の量的、時間的動態　（講義）		
5	最大酸素摂取量の測定及び評価①　（実習）:直接法を用いて最大酸素摂取量を測定し、評価する。		
6	最大酸素摂取量の測定及び評価②(実習):間接法を用いて最大酸素摂取量を測定し、評価する。		
7	無酸素性作業閾値の測定及び評価　（実習）:ランプ運動負荷試験、炭酸ガス及び低酸素ガス負荷試験、肺機能試験によって運動時換気亢進反応の決定機構を定量的に評価する方法を学習する。		
8	新体力テストの測定とその評価方法の学習①（実習）:20～64歳を対象にした、体力テスト		

	によって体力を測定し、評価する。		
9	新体力テストの測定とその評価方法の学習②（実習）：65～74 歳を対象にした、新体力テストによって体力を測定し、評価する。		
10	運動時における生理学的応答の測定及び評価（実習）：体力テスト実施中の生理学的応答（心拍数及び血圧などの自律神経活動の評価、深部体温、心エコー検査、筋電図解析等）を測定し、評価する。		
11	身体組成の測定とその評価　（実習）：皮脂厚計及びインピーダンス法を用いて体脂肪量を測定し、それぞれ評価する。		
12	フィールドにおける体力指標の測定及び評価（実習）：フィールド場面で用いられる、体力指標（腕時計型心拍計、乳酸、血糖、Borg スケール）の測定法を学習し、測定する。		
13	バイオメカニクスにおける分析法とその評価①　（実習）：身体動作を運動学的手法（映像撮影法等）を用いて測定し、評価する。		
14	バイオメカニクスにおける分析法とその評価②（実習）：身体動作を生理学性手法（筋電図等）を用いて測定し、評価する。		
15	課題レポートの提出とそれに基づくプレゼンテーションと質疑応答		
成績評価方法と基準			割合
1. 課題レポート（DP①）。 4/5 以上の出席を必要とする。			1. 100%

授業科目名	スポーツ実習Ⅱサッカー(鍼灸スポーツ)（Sports Practice Ⅱ【Soccer】）				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎	
科目ナンバリング	SS601	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	3	開講学期	後期	曜日･時限	木曜 3 限
授業形態	実習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

本授業では、基礎・基本が中心の技術練習にはなるが、技術の習得だけでは無く、サッカーを介しての指導者（教師）目線での立ち居振る舞いや、プレーヤー（生徒役）への声かけを学ぶ機会として指導実践を複数回行う。
　決められたテーマに沿い、指導案の作成、指導実践、指導実践の振り返りとしてプレーヤー役だった受講生皆でディスカッションし情報を共有する中で、指導技術の向上と技術習得指導、指導者・教育者として『必要なこと』を養う事を目的とする。

到達目標

・サッカーの基本技術を習得し、デモンストレーションができる＜DP①＞
・サッカーの指導実践を行う事で Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価・確認）・Act（改善）サイクルを体現し、準備段階から指導内容に対し深く理解すると共に、実現性・安全性を配慮したメニューの構築と、指導者としての立ち居振る舞いができる＜DP①③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

基本的に、屋外（グリーンスクエア）にて行いますが、天気予報と授業前の降雨状況と体育館の空き状況では体育館で実施する場合もある為、体育館シューズも予め用意するようにして下さい。
受講人数次第ですが、「アイスブレイクとサッカー実技の指導実践」を複数人で行い。一人で「サッカー実技と試合形式の指導実践」の計 2 回の指導実践の実施を予定しています。

持ち物（指導実践時）
笛・バインダー・筆記用具・時計
適切なシューズ（体育館と屋外人工芝）・適切なウェア
※身体接触のある実技を行う関係上、装飾品は一切不可とし、ｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞは脱落しないもの、ﾒｶﾞﾈの場合は、脱落防止対策を必ず行って下さい。

教科書

適宜、資料等を配布する。

参考書

公益財団法人日本サッカー協会「サッカー指導教本 2016　JFA 公認 C 級コーチ」2016 年
財団法人日本サッカー協会「JFA キッズドリル」2005 年
財団法人日本サッカー協会「JFA キッズドリル 2 アイスブレイク集」2010 年

研究室／オフィスアワー

東棟 4F 共同研究室 2　月 13:00~　金 13:00~

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ｻｯｶｰの歴史およびﾙｰﾙについて 指導実践ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	歴史とﾙｰﾙ、ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ後、ｸﾞﾘｰﾝｽｸｴｱにて実技を実施 予習・復習 1 時間	
2	実技①:ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ:「ﾄﾝﾈﾙとｱｰﾁ」「しっぽとり」 ｹﾞｰﾑとｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝ:「ﾎﾞﾃﾞｨｺﾝﾀｸﾄ」「背面ｺﾞｰﾙ」	配布資料のｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を理解する 予習・復習 1 時間	
3	指導実践 A-①:ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ・実技指導 ﾎﾞｰﾙﾌｨｰﾘﾝｸﾞ＆ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ:「複数列ﾎﾞｰﾙﾌｨｰﾘﾝｸﾞ・ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ」・「ﾗｲﾝｺﾞｰﾙ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
4	指導実践 A-②:ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ・実技指導 ﾊﾟｽ&ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ｼｭｰﾄ:「対面ﾊﾟｽ」・「ｽｸｴｱﾊﾟｽ」・「ｼｭｰﾄﾄﾞﾘﾙ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
5	指導実践 A-③:ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ・実技指導 ｺﾞｰﾙｷｰﾊﾟｰ:「ｷｬｯﾁﾝｸﾞ」・「ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾞｳﾝ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
6	指導実践 A-④:ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ・実技指導 守備のﾃｸﾆｯｸ:「ﾊﾝﾄﾞﾊﾟｽｹﾞｰﾑ 4 対 4+ﾀｰｹﾞｯﾄ」・「ﾄﾞｼﾞﾝｸﾞ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
7	指導実践 A-⑤:ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ・実技指導 観る:「5 対 1 おにごっこ」・「4 対 1 ﾎﾟｾﾞｯｼｮﾝ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	

8	指導実践 A-⑥:ｱｲｽﾌﾞﾚｲｸ・実技指導 ｹﾞｰﾑとｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝ:「ﾎﾞﾃﾞｨｺﾝﾀｸﾄ」「背面ｺﾞｰﾙ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
9	指導実践 B-①実技指導・試合形式 ﾎﾞｰﾙﾌｨｰﾘﾝｸﾞ &ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ:「複数列ﾎﾞｰﾙﾌｨｰﾘﾝｸﾞ・ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ」・「ﾗｲﾝｺﾞｰﾙ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
10	指導実践 B-②実技指導・試合形式 ﾊﾟｽ&ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ｼｭｰﾄ:「対面ﾊﾟｽ」・「ｽｸｴｱﾊﾟｽ」・「ｼｭｰﾄﾄﾞﾘﾙ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
11	指導実践 B-③実技指導・試合形式 ｺﾞｰﾙｷｰﾊﾟｰ:「ｷｬｯﾁﾝｸﾞ」・「ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾞｳﾝ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
12	指導実践 B-④実技指導・試合形式 守備のﾃｸﾆｯｸ:「ﾊﾝﾄﾞﾊﾟｽｹﾞｰﾑ 4 対 4+ﾀｰｹﾞｯﾄ」・「ﾄﾞｼﾞﾝｸﾞ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
13	指導実践 B-⑤実技指導・試合形式 観る:「5 対 1 おにごっこ」・「4 対 1ﾎﾟｾﾞｯｼｮﾝ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
14	指導実践 B-⑥実技指導・試合形式 ｹﾞｰﾑとｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝ:「ﾎﾞﾃﾞｨｺﾝﾀｸﾄ」「背面ｺﾞｰﾙ」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	
15	指導実践予備・指導実践振り返り 「総復習:GAME」	ｷｰﾌｧｸﾀｰと留意点を意識した指導と指導された内容に沿ったﾌﾟﾚｰを心掛ける 予習・復習 1 時間	

成績評価方法と基準	割合
1.指導案作成・内容＜DP①＞ （PC で作成、詳細・注意点・作図）※集中講義時の作成方法は要検討とする。 2.授業への取り組み＜DP③＞ （物品の準備、片付け、ﾌﾟﾚｰ時の取り組み） 3.指導実践時の指導力（1 回目からの修正度合）＜DP①＞ （笛・時間配分・説明・ﾒﾆｭｰの準備・指導）	1.20% 2.40% 3.40%

授業科目名	スポーツ実習Ⅳ柔道(鍼灸スポーツ)（Sports Practice Ⅳ【Judo】）				
主担当教員	老田 準司		担当教員	老田 準司	
科目ナンバリング	SS603	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 3 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

柔道の歴史、基本技術について、実技を通して学習する。

到達目標

- 日本の伝統的な武道の柔道について、その精神や体育実技としての柔道について学習する。
- 中学校、高等学校の体育の授業における基本・基礎的技術や理論を習得し、指導できるようになる。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

- 安全を確保にするため、体調管理を徹底すること。

教科書

- 文部科学省「中学校学習指導要領解説　保健体育編」　東山書房
- 文部科学省「高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育編」　東山書房

参考書

新しい柔道の授業づくり（大修館書店）

研究室／オフィスアワー

- 第 14 研究室(火曜日 16：20-18：00)

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	・ 柔道場の設営（畳をひく）、柔道着の着用の方法、　礼法、受け身の基本	予習：体調管理の徹底を図っておくこと。 柔道の歴史について調べておくこと。 実技ノートの内容について理解しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
2	・ 姿勢、捌きの習得 ・ 受け身	予習：柔道着等の清潔を維持する方策を立てておくこと。前時の授業内容について学びを深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
3	・ 受け身（支えつり込み足を利用） ・ 崩しとつくり ・ 固め技（袈裟固め）とその逃れ方	予習：前時に学修した内容について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
4	・ 受け身（組手から中腰姿勢での受け身） ・ 投げ技（形を利用しての支え釣り込み足） ・ 固め技（横四方固め）とその逃れ方	予習：前時に学修した内容について理解を深めるため情報を収集しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
5	・ 受け身（大腰を利用して） ・ 固め技（肩固め）その逃れ方 ・ 固め技の約束稽古	予習：前時に学修した内容、特に受身について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
6	・ 受け身(立技を利用しての受身) ・ 投げ技（形を利用しての送足払） ・ 固め技（約束稽古）	予習：前時に学修した内容、特に投げ技について、理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
7	・ 受け身(前回り受身) ・ 投げ技（形を利用しての払腰）	予習:前時に学修した内容、特に固技について、理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
8	・ 受け身(前回り受身) ・ 投げ技（大内刈り、小内刈り、小外刈り）	予習：前時に学修した内容の課題を整理し、次時の取組を工夫する。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時	老田準司

		間）	
9	・　受け身 ・　投げ技（形を利用しての一本背負い） ・　投げ技の約束稽古	予習：前時に学修した内容、特に投げ技について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
10	・　受け身(前回り受身) ・　立ち技から寝技への連絡	予習：前時に学修した内容、特に約束稽古について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
11	・　寝技の連絡 ・　試合の方法と試合審判規定	予習：立ち技と寝技の連絡方法について、理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
12	・　寝技、立ち技（固め技、投げ技）の復習 ・　約束稽古	予習：前時に学修した内容、特に試合のルールについて理解を深めておく。。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
13	・　形（手技、腰技）の習得	予習：柔道の形の意義について理解しておく。(1 時間)。 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
14	・　形（足技）の習得	予習：形の意義について理解し、基本動作について理解を深めておく。 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
15	・　投げ技、固め技の復習 ・　約束稽古 ・　技術の確認(前回り受身、立ち技のテスト)	予習：柔道の木基本動作、基本となる技について整理し、理解し、説明できるように sy 怪人いておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
成績評価方法と基準			割合
1　基礎技能試験、 　①受身 　②形による立技 2　実技ノート 3　授業態度（意欲・関心・協力）DP①③			1　70% 2　20% 3　10%

授業科目名	学校保健(小児保健・精神保健)(鍼灸スポーツ)（School Health【Child Health / Mental Health】）				
主担当教員	宮永　啓子		担当教員	宮永　啓子	
科目ナンバリング	SS640	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

学校保健を学ぶ意義や目的を理解し、学校現場での実践方法について学修する。
保健体育の教員を目指す立場から、学校保健におけるチーム学校の主体者として、養護教諭やその他の教員との連携を、実際の学校現場をイメージしながら学修する。
授業は講義形式が主であるが、双方向に意見交換できる場も設ける。

到達目標

・学校現場で学ぶ児童・生徒等の健康を護り、増進するために必要な知識とその実践方法を学ぶ。〈DP①〉
・児童・生徒等を取り巻く、現代的な健康課題や精神的な健康問題を学び、将来学校現場での指導に生かすことができる実践力を身につける。〈DP①〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

学校期における健康問題について、興味関心をもって臨むこと。
教職を目指す意欲を持ち、受身ではなく、積極的に授業に参加する姿勢を望みます。

教科書

渡辺正樹 編著「学校保健概論」光生館

参考書

適宜授業時にプリントを配布する。

研究室／オフィスアワー

教職支援センター

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、学校保健の意義と目的	予習：教科書の内容について確認しておく。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
2	学校保健の構造と内容 「チーム学校」と教職員間の連携	予習：自身の中・高時代の学校保健に関する行事や出来事をまとめる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
3	子どもの発育発達・健康診断	予習：教科書 2 章・3 章を予習(2H) 復習：授業の復習(2H)	
4	子どもの健康課題と病気 学校生活において留意すべき子どもの病気	予習：子どもに多いアレルギー疾患を調べる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
5	感染症とその予防	予習：教科書 5 章を予習し、学校で予防すべき感染症についてまとめる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
6	学校精神保健(1) 児童生徒の心の健康に関する現状と課題	予習：最近のニュースや記事から、子どもの心の問題を取り上げてみる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
7	学校精神保健(2) 心の健康問題への対応（不登校・虐待等）	予習：不登校について身近な症例をあげ考える。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
8	性の健康に関する現代的課題 学校での性教育	予習：教科書 8 章を予習(2H) 復習：授業の復習(2H)	
9	保健室の役割 養護教諭の仕事	予習：保健室でのできごとを思い出し、養護教諭の役割を考えてくる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
10	学校安全・危機管理(1) 地域社会	予習：過去のニュースや記事から地域の災害や事故事例を調べる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
11	学校安全・危機管理（2） 学校管理下	予習：日本スポーツ振興センター災害給付について調べる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	

12	学校の環境衛生	予習：教科書 11 章を予習(2H) 復習：授業の復習(2H)	
13	特別支援教育について	予習：教育心理学などで学んだ発達障害について復習しておく。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
14	学校保健計画と学校保健組織活動	予習：教科書 13 章を予習(2H) 復習：授業の復習(2H)	
15	総括 私にとっての学校保健	予習：これまでの学びを振り返りまとめる。(2H) 復習：授業の復習(2H)	
成績評価方法と基準			割合
1.レポート課題 2.筆記試験 3.授業中の発表・発言等			1.20% 2.60% 3.20%

授業科目名	学校保健(学校安全・救急処置)(鍼灸スポーツ)（School Health【Security / Emergency Treatment】）				
主担当教員	老田　準司		担当教員	老田　準司	
科目ナンバリング	SS641	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

学校保健及び学校安全,応急手当、救急法の意義や構造、課題について学ぶ。

到達目標

学校保健は、保健教育、保健管理、保健組織活動によって成り立っていることを理解するとともに、
学校安全では、救急法を体得できるようにする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

アクティブラーニングを用いた授業を展開するので、自分の考えを他の人に理解してもらえるよう、説明方法を工夫・改善するよう
努力してください。(模擬授業を展開する中で、学校保健・安全の内容、課題について意見交換する中で整理する。)

教科書

学校保健概論　光生館　渡邉正樹　編著(前期学校保健からの継続)
高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育編（文部科学省）
中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）
現代高等学校保健体育(大修館書店)

参考書

学校保健マニュアル（南山堂）

研究室／オフィスアワー

１４研究室　金曜日　１６：３０～１７：３０

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	科目オリエンテーション及び学校保健・学校安全の意義と構造について学修する。	予習:教科書の内容について、一覧し,概要を整理しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
2	授業形態の中心である課題解決学習方法、アクティブラーニングについて理解する。	予習:課題解決学習やアクティブラーニングの概要について理解を進めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
3	子どもの発達発育について理解する。	予習:教科書の関連項目を一覧し、概要を把握しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
4	感染症とその予防について理解する。	予習:教科書の関連項目を一覧し、概要を把握しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
5	保健学習　中学校保健分野の指導案作成・発表と評価を行いその保健課題について検討する。	予習:保健分野の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る (1 時間)	老田準司
6	保健学習　中学校保健分野の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。また、保健分野の内容のまとめを行う。	予習:保健分野の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
7	保健学習　高等学校科目保健の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。	予習:高等学校科目保健の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司

8	保健学習　高等学校科目保健の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。	予習：高等学校科目保健の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を考察しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司
9	保健学習　高等学校科目保健の指導案作成・発表とその評価を行い、保健課題について検討する。　また、高等学校科目保健の内容のまとめを行う。	予習：高等学校科目保健の発表される単元について、内容を調べるとともに、発表についての評価方法を考察しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司
10	保健学習のまとめ　学修した内容をまとめる。	予習：学修した内容について理解を深める。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司
11	学校安全・危機管理について理解する。	予習：学校の安全教育について考察をしておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司
12	学校安全　自然災害と熱中症予防	予習：自然災害についての理解と二次災害予防及び熱中症予防の対策について考察しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司
13	学校安全　応急手当のけがの応急手当	止血法を含むけがの応急手当について考察しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司
14	学校安全　応急手当　(AED,蘇生シュミレーターを活用)	予習：応急手当のうち、心肺蘇生法の方法について理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司
15	学校安全　応急手当(AED,蘇生シュミレーターでの実習)	応急手当のうち心肺蘇生法特に胸骨圧迫法について方法を考察しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田準司

成績評価方法と基準	割合
1　課題発表 2　小テスト 3　課題テスト 4　授業積極性	1　30% 2　30% 3　30% 4　10%

授業科目名	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学演習Ⅳ(指導実習)(鍼灸スポーツ)（Training Science Seminar Ⅳ【Coaching Practice】)				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博、折田　真弓	
科目ナンバリング	SS645	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

健康運動実践指導者にとって必要となる、「適切な運動プログラムを構成する能力」・「自ら見本を示せる実演能力」を養う。また、健康づくり運動に必要となる、ウォーキング・ジョギング・水中運動を必要に応じて演習プログラムに取り入れて行う。

到達目標

健康運動実践指導者になるための基礎知識を身につける（DP①）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

この講義では、健康実践指導者の資格取得試験に向けた対策を行います。一緒に頑張っていきましょう。

教科書

健康運動実践指導者養成用テキスト

参考書

健康運動実践指導者試験 筆記対策 分野別&模擬問題集(NESTA JAPAN)
「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集(西端 泉)

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室　水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康づくり施設概論について	シラバスを確認しておくこと。	
2	運動生理学について	テキストの運動生理学に関連する章を読んでおくこと。	
3	機能解剖とバイオメカニクスについて	テキストのバイオメカニクスに関連する章を読んでおくこと。	
4	栄養摂取と運動について	テキストの栄養摂取と運動に関連する章を読んでおくこと。	
5	体力の測定と評価について	テキストの体力測定に関連する章を読んでおくこと。	
6	健康づくりと運動プログラムについて	テキストの運動プログラムに関連する章を読んでおくこと。	
7	運動指導の心理学的基礎について	テキストの運動と心理学に関連する章を読んでおくこと。	
8	運動障害と予防・応急処置について	テキストの運動障害と予防に関連する章を読んでおくこと。	

成績評価方法と基準	割合
1. 筆記試験（DP①） 2. 講義中の意欲・態度（DP①） ４／５以上の出席が必要。	1. 70% 2. 30%

授業科目名	体育原理(鍼灸スポーツ)（Principle of Physical Education）				
主担当教員	老田　準司		担当教員	老田　準司	
科目ナンバリング	SS607	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
体育とスポーツを理解する上で必要な基礎基本的事項や、諸課題について学習する.
到達目標
体育やスポーツの原理的な事項について理解できるようになる。DP①③
履修上の注意(学生へのメッセージ)
アクティブラーニングとして課題解決学習も取り入れるので、受け身でない姿勢で授業に臨んでください。
教科書
教養としての体育原理　　友添秀則・岡出美則　編　大修館書店
参考書
体育原理講義（大修館）
研究室／オフィスアワー
第１４研究室　火曜日１６：３０～１７：３０
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、体育原理の輪郭	予習：体育原理について情報を収集し、概要を調べておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
2	体育とその概念	予習：」体育とは何かを資料を集め考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
3	体育とその理念	予習:体育の理念について考えておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
4	体育とスポーツの相違	予習：体育とスポーツの違いについて考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
5	スポーツ規範と教育的価値	予習：スポーツの教育的価値について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
6	課題発表Ⅰ　スポーツ種目の起源及び発展過程、課題	予習：スポーツ種目の歴史、特長について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
7	課題発表Ⅱ　スポーツ種目の起源及び発展過程、課題	予習：スポーツ種目の歴史、特長について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
8	課題発表Ⅲ　スポーツ種目の起源及び発展過程、課題	予習：発表のスポーツ種目の歴史、特長について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
9	体育における競技	予習:発表競技について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
10	体育と指導者	予習：体育の指導者の役割、価値について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
11	体育と人間形成	予習：人間形成にとっての体育の役割について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
12	体育と身体形成	予習：体育と身体形成の関係について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
13	学校体育の存在意義と目標	予習：学校体育の意義をについて考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
14	学校体育の可能性	予習：学校体育の可能性について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司
15	体育・スポーツの諸課題	予習：体育とスポーツの課題について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田準司

成績評価方法と基準	割合
1　課題の発表 2　課題テストDP①③	1 30% 2 70%

授業科目名	スポーツ心理学(鍼灸スポーツ)（Sports Psychology）				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博	
科目ナンバリング	SS648	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

心理状態は我々の行動に影響を及ぼし、positive な心理状態は良い performance をもたらし、negative な心理状態は悪い performance を生み出す。またその心理状態は、自律神経系を介した呼吸循環応答を表出させる。
授業では、スポーツ現場において必要と考えられる心理学の基礎知識について解説し、スポーツ場面・運動指導時における心理的影響の重要性を理解させるとともに、競技中・指導中の心理状態を外部より知る術を学習する。

到達目標

・心理学の基礎知識を学び、スポーツ場面・指導時における心理的状態がもたらす精神的・身体的影響を理解する（DP①）。
・自分自身の競技生活やスポーツの指導場面において、本講義で学んだことが反映できるようになる（DP①）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義内容の詳細を説明するために、初回の授業に必ず出席すること。

教科書

その都度資料を配布します。

参考書

特になし

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室　水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	心理学の基礎知識	シラバスを確認すること。	
2	スポーツ現場における心理学の重要性	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
3	運動実践にかかわる社会・心理・環境要因ついて	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
4	運動指導にかかる効率と効果について	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
5	心理状態とそれに関連する脳領域	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
6	心理状態と呼吸循環応答	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
7	視覚・音がもたらす知覚認知	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
8	不快（不安と緊張）の情動がもたらす生体反応	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
9	快の情動がもたらす生体反応	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
10	心理的尺度とその測定方法	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
11	心理生理指標とその測定方法	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
12	リラクゼーション方法	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
13	運動スキルの遂行における身体制御	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
14	運動技能の学習	授業に関連する内容を調査しておくこと。	
15	スポーツ現場での心理学の応用	授業に関連する内容を調査しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
レポートを課す。学習態度・意欲などにより総合的に判断する（DP①）。	レポート 80% 学習態度・意欲　20%

鍼灸学科　鍼灸コース・スポーツ特修コース

（2020 年度入学生カリキュラム）

授業科目名	基礎ゼミナール(鍼灸)（Basic Seminar）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、安田　実、松熊　秀明、仲西　宏元、髙﨑　雷太、熊野　弘子、阿部　秀高	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、大学における学びの概略を知り、自ら考えて問題を解決する能力を養うことを目的としている。第一に大学における学習方法や課題作成における注意事項を学ぶ。また、大学での情報収集のハード面・ソフト面について理解する。実際に課題作成および報告のトレーニングも行う。
本学教員による大学における学びのガイダンスと討論を５回ローテーションで受講する。

到達目標

1)学内でゼミを展開する教員の専門分野を知り、テーマを持て討論する。
2)与えられたテーマについて調査、整理、報告のプロセスを実践する。
3)大学での学習における情報編集能力（収集・加工・創造・表現）およびプレゼンテーション能力を習得する。
4)批判的思考および主体的な問題解決方略を探求する態度・姿勢を身につける。
5)図書館などの大学施設を利用した学習方法を身に着ける。
6)グループワークの進行方法や討論方法について学ぶ。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1)後半５ 回は少人数制教育のため、利用教室が異なる。スケジュールを確認し、教室移動に注意すること。
2)テーマを持って学び、積極的に調査、整理、報告を行うこと。
3)グループワークには積極的に参加すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業時に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業時の教員指示に従う。原則、各教員の研究室にて実施する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション（講義への取り組み方・大学生としての自分を見つめる）	予習：シラバスの確認。（２時間） 復習：学びの履歴シートによる大学生として必要な資質/能力についてのまとめ（２時間）	阿部教授
2	理事長に学ぶ（学園・大学・学生への思い）	予習：学園の３つポリシーや設立理念の確認。（２時間）復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部教授
3	学長・学科長に学ぶ（医療人・鍼灸・はり師を目指すものに対する思い）	予習：看護師の仕事の概要を調べておく。（２時間） 復習：講話から学んだことを記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部教授
4	コミュニケーションスキル・学修スキル向上	予習：レポートの書き方について高校までに学んだことを想起しておく（２時間） 復習：学んだレポートの書き方について記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部教授
5	論理的文章の書き方・資料活用の方法	予習：言語技術について、高校までに学んだことを想起しておく（２時間） 復習：学んだ言語技術について記録をもとにまとめる。（２時間）	阿部教授
6	プレゼンテーション・スキル	予習：プレゼンテーションについて高校までに学んだことを想起しておく。（２時間） 復習：プレゼンテーションの作り方、発表の仕方についてまとめる。（２時間）	阿部教授
7	本授業における学びのまとめ・振り返り	予習：自分の作成したプレゼンテーションの練習）（２時間）	阿部教授
		復習：７回の講義で学んだ社会人基礎力に関してまとめておく。（２時間）	
8	医療・社会福祉に関する報告（グループワーク）	医療・社会福祉に関する情報を、新聞記事や信頼できる情報ソースから抜き出し、レポートにまとめてくること。(4 時間)	鍋田教授
9	医療・社会福祉に関する記事について（発表）	グループワークの内容をパワーポイントにまとめてくること。(4 時間)	鍋田教授
10	医療・社会福祉に関する記事について（発表）	グループワークの内容をパワーポイントにまとめてくること。(4 時間)	鍋田教授
11	５グループ　ローテーション授業 「社会科学関係分野の知識の理解とその応用」	大学生として知っておきたい社会科学関係分野のガイドライン知識の取得と討議について学修します。 レポート提出。(4 時間)	安田教授
12	５グループ　ローテーション授業 「東洋医学と鍼灸」	東洋医学の治療法についてWEB や図書館を利用して調べてくること。 レポート提出。(4 時間)	熊野准教授
13	５グループ　ローテーション授業 「鍼灸の実験」	鍼灸治療によるリラクゼーション効果について、WEB や図書館を利用して調べてくること。 レポート提出。(4 時間)	松熊准教授
14	５グループ　ローテーション授業 「スポーツの現場での鍼灸師の役割」	スポーツの現場で活躍する鍼灸師について調べてくること。 レポート提出。(4 時間)	髙﨑講師
15	５グループ　ローテーション授業 「鍼灸臨床における診察から治療」	鍼灸治療について調べてくること。(4 時間)	仲西教授

成績評価方法と基準	割合
【学科教員】　50 点 ①医療の諸問題　レポート　10 点 ②医療の諸問題プレゼンテーション　10 点 ③各教員が指定する提出物の提出状況を評価する 6 点×５ 回　30 点 ２/３以上の出席 【阿部秀高】　50 点 ④平常点評価（授業毎回の振り返りなど）　30 点＜DP②③④＞ ⑤講義最終回に作成した課題レポート　20 点＜DP②③④＞	【学科教員】 ①10% ②10% ③30% 【阿部秀高】 ④30% ⑤20%

授業科目名	物理学(鍼灸)（Physics）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

さまざまな自然現象をよく観察してみると簡単な基本原理に基づいていることがわかる。物理学とはそのような基本原理を論理的に説明する学問であり、工学はもとより生物学、医学などの幅広い分野の基礎となっている。本講義は力学・熱力学・電磁気学などについて幅広い知識を学習し、医療現場で実際に活用できる知識を習得できる授業構成である。

到達目標

水の比熱と日本の気候との関係について
てこの原理の人体中での応用
注射針の先端が皮膚に及ぼす圧力について
血圧とは
電磁気の基本知識
　上記の内容を学習していく。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．自然現象を理解するための基本となる科目であることを認識する。
２．配布された資料を使用し、講義を行う。
３．出席は重視する。
４．身近な自然現象を物理学の観点で考察する。
５．疑問点は大切にし、解決に向けて行動する。

教科書

プリント使用

参考書

ベッドサイドを科学する　平田雅子　著　Gakken

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜と木曜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	熱力学　比熱	＜予習・復習 各２時間＞ 水の比熱が大きいことで人間は体温を一定に保つことができる。 授業用プリントを読み直し、疑問点は質問してください。	
2	熱力学　潜熱、代謝量	＜予習・復習 各２時間＞ 水分が蒸発する際、必要となる熱について 代謝量と年齢・性別との関係について 確認して下さい。	
3	力の合成と分解、力のつりあい、作用・反作用の法則	＜予習・復習 各２時間＞ 力の分解の作図方法を覚えると、授業プリントが理解しやすくなります。	
4	力学　重心、力のモーメント	＜予習・復習 各２時間＞ 筋肉は私たちが思っている以上の力を発揮していることが少なくありません。どれだけの力が働いているのか、力のモーメントの分野を読み直し確認してみましょう。	
5	力学　腰にかかる負担	＜予習・復習 各２時間＞ 腰を曲げたり、重いものを持つと、腰にかなりの負担を強いることになります。具体的な数値を知ることで、日常生活から気を付けるようにしましょう。	
6	力学　滑りにくい床	＜予習・復習 各２時間＞ 雪道の歩き方を確認しましょう。理解が難しい場合は、力の分解のプリントを見直して下さい。	
7	力学　圧力、気圧	＜予習・復習 各２時間＞ 潜水病について確認しておきましょう。１０ｍ潜ると１気圧の力を受けます。	
8	力学　アルキメデスの原理	＜予習・復習 各２時間＞ 以前、献血の際に用いられていた血液比重について復習しておきましょう。	
9	力学　ベルヌーイの定理	＜予習・復習 各２時間＞ 血圧測定を勉強するときに登場する、動圧と静圧。これらはベルヌーイの定理に記載されています。	
10	力学　入浴効果	＜予習・復習 各２時間＞ 和式風呂と洋式風呂の、人体への影響について復習しておきましょう。	
11	電気　オームの法則	＜予習・復習 各２時間＞ 冬になると静電気という見えない敵に悩まされますが、静電気がたまるとは、どういうことなのでしょうか。	
12	電気　感電ショック、アース	＜予習・復習 各２時間＞ 電流値と人体への影響における表を一読しておいて下さい。	
13	単位　ヘマトクリット値	＜予習・復習 各２時間＞ 多くの単位が登場しましたが、わからないものがあれば今回整理しておいて下さい。	
14	磁気　磁界、電磁誘導	＜予習・復習 各２時間＞ ＩＨ調理器、リニアモーターカーなどに利用される電磁誘導について復習しておきましょう。	
15	電磁波　紫外線	＜予習・復習 各２時間＞ 紫外線による人体への影響について確認しておきましょう。	

成績評価方法と基準	割合
毎回レポートを提出してもらう。 ①定期試験５５点〈DP③〉 ②レポート４５点〈DP③〉 合計１００点のうち、６０点以上で単位認定する。	①55% ②45%

授業科目名	生物学(鍼灸)（Biology）				
主担当教員	久国　正章		担当教員	久国　正章	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

専門科目の理解を深めるための基礎的な生物学を学習する。
具体的には、下記単元を中心に、ヒトのからだについて理解を深める。
【細胞の構造】細胞小器官の種類とその働き
【代謝】代謝・消化・吸収
【個体の恒常性と調節】恒常性の維持・ホルモン
【刺激の受容と反応】刺激・受容・神経系

到達目標

ヒトの生命の仕組みについて、その基本的事項を習得することを目的とする。〈DP③〉
好気呼吸の過程を理解する。〈DP③〉
恒常性について理解を深める。〈DP③〉
体液性免疫と細胞性免疫の違いを説明できる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

この講座を通して基礎用語を確認することが出来ます。高校で生物を学習していない、または不得意科目であった学生はぜひ受講して下さい。

教科書

書籍名：視覚でとらえる生物図録
著者名：鈴木孝仁　監修
出版社名：数研出版

参考書

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第１巻 細胞生物学

研究室／オフィスアワー

非常勤控室　月曜と、水曜の午前中

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	細胞の構造とその働き	＜予習・復習 各２時間＞ 細胞の種類はたくさんありますが、細胞の大きさや構造はどのように違っているのでしょうか？	
2	細胞の構造とその働き 細胞を構成する物質（炭水化物と脂肪）	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちの体にはたくさんの細胞がありますが、細胞の基本構造は同じです。その構造について確認しておきましょう。	
3	細胞を構成する物質（タンパク質） 浸透性	＜予習・復習 各２時間＞ ヒトの細胞がどんな物質でできているか確認してみましょう。	
4	選択透過性、動物の組織	＜予習・復習 各２時間＞ 能動輸送にはＡＴＰが必要ですが、その理由を考えてみてください。	
5	細胞内での代謝 酵素の性質	＜予習・復習 各２時間＞ 日常生活でいう「代謝」と生物学で扱う「代謝」は少し異なります。その違いも含めて確認しておきましょう。	
6	酵素の性質	＜予習・復習 各２時間＞ 酵素の性質はたくさんありますが、一つ一つ確認してください。	
7	外呼吸と内呼吸	＜予習・復習 各２時間＞ 生物学でいう「呼吸」は内呼吸のことです。	
8	好気呼吸の過程	＜予習・復習 各２時間＞ 「クエン酸回路」について簡単に説明します。復習した上で、他の教材も読んでみてください。	
9	消化・吸収、恒常性	＜予習・復習 各２時間＞ 食べ物を食べると栄養になりますね。その仕組みについて調べていきましょう。	
10	血液の組成、血液の凝固 血管系	＜予習・復習 各２時間＞ 血液は体重の何分の一を占めていたでしょうか？	
11	心臓と肝臓	＜予習・復習 各２時間＞ 肝臓はお酒を分解するのはもちろん、他にもたくさんの仕事を担っています。	
12	腎臓の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 私たちは毎日何回もおしっこをします。おしっこの役割は何なのでしょうか？	
13	免疫系	＜予習・復習 各２時間＞ 病気から守ってくれる白血球の仕事について確認しましょう。	
14	細胞性免疫、アレルギー	＜予習・復習 各２時間＞ 免疫反応が生体に不利に働くアレルギー。アレルギーに悩まされる人が増えてきていますが、その基本を学習しましょう。	
15	神経系、脳の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 脳は不思議な存在です。少し覗いてみましょう。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験１００点のうち、６０点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	化学(鍼灸)（Chemistry）				
主担当教員	安部　辰夫		担当教員	安部　辰夫	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
基礎医学科目に必要な化学的事項を正しく理解できることを念頭に置いている。
到達目標
生体反応に見られる各種の化学反応を正しく理解することができる。それらが生理機能に密接に連関することを認識できる。＜DP③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
たとえすでに化学を履修していようとも、基礎医学科目で取り上げられる化学はある種生体内の反応に特化しているため、新たに学びなおす必要があると捉えておいて欲しい。
教科書
「ライフサイエンスのための化学」　化学同人
参考書
「理工系の基礎化学」　化学同人
研究室／オフィスアワー
火曜日から金曜日在室　　イーストポート４階　研究室　1
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	原子の構造と周期表	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
2	電子配置とイオン化	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
3	化学結合	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
4	物質の三態	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
5	化学平衡と反応速度論１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
6	化学平衡と反応速度論２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
7	酸と塩基の反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
8	酸化と還元反応	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
9	炭化水素化合物１	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
10	炭化水素化合物２	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
11	糖質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
12	脂質の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
13	タンパク質・アミノ酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
14	核酸の構造と働き	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	
15	講義全体のまとめと振り返り	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として、学習予定にあたるテキストの部分を読み込み、十分理解しておいて欲しい。また、講義で学習した内容を復習し、記憶にとどめるよう努力して欲しい。	

成績評価方法と基準	割合
1　期末試験　＜DP③＞	1　100%

授業科目名	哲学(鍼灸)（Philosophy）				
主担当教員	松枝　啓至		担当教員	松枝　啓至	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

哲学における重大な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、われわれは何をどのような仕方で正しく認識できるのか・知ることができるのかについて学んでいく。
　「哲学」のもともとの意味合いは、「知を愛すること」である。人間にとっての「知識」「知恵」がどのようなものであるのか、あるいはどのような仕方でそれらをわれわれは手に入れることができるのか、は哲学における大きな問題の一つである。どのような分野であれ、何らかの学問をやっていく上でこの問題は避けて通れないものである。このような問題系は一般には認識論・知識論と呼ばれている。
　この授業ではこの認識論・知識論という問題について、「懐疑論」というものを手掛かりに考察を深めていきたい。物事を正しく捉えようとするときに、様々な側面からその対象を疑うという作業は必須のものであろう。哲学における「懐疑論」はその「疑う」という作業を徹底的に行ってみたらどうなるか、が中心テーマとなる。加えてそれらの議論を踏まえた上で、自然科学的な知識はどのような仕方で正当化されるのかについても考察する。今回は特に現代科学の直接的な源流である 17 世紀の自然科学について論じる。

到達目標

１．ヘレニズム時代の古代懐疑主義が、どのような背景で生まれ、その内容・独自性が何であるかを充分に理解することができる。〈DP③〉
２．近代において復活した古代懐疑主義が近代においてどのように受容され、改変されていったのかを充分に理解することができる。具体的にはモンテーニュの信仰主義、デカルトの方法的懐疑を充分に理解することができる。〈DP③〉
３．極端な懐疑の論理構造がいかなるものであるのかを、ウィトゲンシュタインの思想を手掛かりに、批判的に充分に理解することができる。〈DP③〉
４．近代の自然科学的知識がどのように成立していったのかを、17 世紀に活躍したデカルトやニュートンの思想を参照することを通じて、充分に理解することができる。〈DP③〉
５．近代以降の自然科学が発展するにあたって、その方法論がどのようなものであったのかを充分に理解することができる。〈DP③〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

現代では何の疑いもなく受け容れられている思想も、過去に様々な変遷をたどってきている。この授業ではそのような思想のダイナミズムの一端を感じ取ってもらいたい。
　「哲学」および「懐疑論」におけるさまざまな思想を習得するためには、毎回、授業理解を少しずつ積み重ねていく必要がある。このため、この授業では予習として前回までの授業内容を充分におさらいして受講することが求められる。また評価方法に記してあるように、授業中に不定期で小テストを行うが、その設問内容は当日の授業だけでなく、それ以前の授業内容を踏まえたものであるので、毎回の予習・復習を怠らないようにすること。小テストについては、行った回の次回以降で授業中にコメントをするので、それも踏まえて授業内容のより深い理解に努めること。
　他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。ひどい場合は成績評価においてペナルティを与える。

教科書

毎回レジュメプリント・資料プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業内容について質問があるときは、授業時間の前後に直接講師に質問すること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：講義全体の趣旨・概要と成績評価などについて説明。講義の導入としてソクラテスの哲学を紹介する。	（予習）「哲学」および「懐疑論」についてのイメージを自分なりに考えておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントに目を通し、授業内容に対する理解を深めておくこと。(2 時間)	
2	ソクラテスの哲学：「哲学」とはどういう営みかについて、前回に引き続き、ソクラテスを紹介しつつ論じる。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
3	ヘレニズム時代の思想①：懐疑論とはそもそも何か？　およびストア主義の思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間)	
4	ヘレニズム時代の思想②：古代懐疑主義の思想。ピュロン、アルケシラオス、アイネシデモス、アグリッパなど。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
5	近代の懐疑主義的思想①：モンテーニュにおけるピュロン主義、およびデカルト思想の全体像。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
6	近代の懐疑主義的思想②：デカルトの方法的懐疑その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
7	近代の懐疑主義的思想③：デカルトの方法的懐疑その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
8	懐疑論に抗して：ウィトゲンシュタインの思想。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
9	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その①：デカルトの自然学その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
10	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その②：デカルトの自然学その 2、およびデカルトにおける心身問題その１。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
11	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その③：デカルトにおける心身問題その２。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
12	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その④：デカルトの自然学とニュートン物理学、および近代における自然科学と形而上学との関係。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
13	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑤：近代における自然科学の方法論（帰納法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
14	自然科学的知識はどのように正当化されるのか？その⑥：近代における自然科学の方法論（仮説演繹法）。	（予習）前回までの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	
15	講義全体のまとめ 期末試験についての説明	（予習）これまでの授業内容を振り返り、理解を十分に深めておくこと。(2 時間) （復習）期末試験に備え、レジュメプリント・資料プリントを何度も読み返し、授業内容の理解に努めること。(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
①期末試験を５０点、授業中に不定期に行う計５回の②小テスト（１回につき１０）を５０点とし、合わせて１００点満点として評価する。〈DP③〉 　小テストは授業中（授業開始後の３０分か授業終了前の３０分、テスト時間をとる）に行うのでレジュメやノートを見ながら解答して構わない。授業内容を充分に理解し、そのうえで自分の意見や考えを一定の字数	①期末試験 50% ②小テスト 50%

で述べることができるかどうかを評価する。 　期末試験については、講義全体の流れとキーワードをしっかりと理解しているかを問う。試験の出題範囲や形式の詳細については、第 15 回目の講義時に説明する。	

授業科目名	日本国憲法(鍼灸)（Constitution of Japan）				
主担当教員	植田　重幸		担当教員	植田　重幸	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	鍼灸:選択 スポーツ:必修

授業概要

社会規範たる法の理念を理解する中で、法体系のしくみ並びに日本の最高法規としての日本国憲法の現行の概要解釈と、今日の基本的人権規定に関する論点について解説を行うとともに、時事関連・医療関連条項に関わる問題点及び今後の課題に対しても説明を進める。また、国家資格をもとに、施術者の一員として業務に従事するにおいて、必要不可欠な保健衛生に関する法規（保健衛生関連法規）の理解と把握、並びに職務遂行に伴う人権に対する法的責任の現状について、更なる理解を深めるための指導を行う。

到達目標

1. 日本国憲法の成立経緯と特色を理解する。〈DP③〉
2. 基本的人権の尊重規定をもとに、個人の尊厳に関して法的側面から、その理解を深める。〈DP③〉
3. 医療と人権に関する大切さを理解する。〈DP③〉
4. 鍼灸学科における『あはき法』をもとに、今後の業務遂行に必要な関係法規のしくみを学習し理解する。〈DP③〉
5. 現在の医療過誤に関する状況と、人権に対する法的責任の実態を検証する。〈DP③〉
6. 時事関連問題として、違憲立法審査権に関わる諸項目や裁判員制度の現状と今後の対応課題についての理解を深める。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 日本国憲法の内容理解とともに、医療法規に関する指導説明が加わることから、補充解説たる板書筆記が重要となる。
2. 指導内容に即した市販書籍は多数に亘るため、教科書代用の資料冊子にて講義を行う。
3. 疑問点や分かりにくい事項が生じた場合は、適宜質問を行うことで理解を進めること。
4. 将来の業務実践を見据え、指導内容に対する人権・人格の尊重に十分留意し積極的取り組みを求める。

教科書

指定しない。

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

授業前後の非常勤講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	法と社会生活① 　法の成立並びに社会と規範	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
2	法と社会生活② 　法と道徳、法の支配、法体系のしくみ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：社会規範としての法の意義を考える 復習：法の概念の理解と確認を行う	
3	日本国憲法の制定史 　明治憲法との比較、個人の尊厳と人権保障の限界	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：日本国憲法の成立経緯を確認する 復習：講義内容をもとに、基本的人権規定の各事項を理解し把握する	
4	日本国憲法の特色 　基本理念及び基本原理	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
5	基本的人権規定① 　基本的人権の成立経緯と人権規定	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：重要語句について再チェックする	
6	基本的人権規定② 　包括的基本権、自律的自己決定権	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より第 13 条の役割を確認する 復習：講義内容の完全理解に努める	
7	基本的人権規定③ 　新しい人権（人格権と幸福追求権）	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、本項の確認を行う 復習：講義内容の完全理解に努める	

8	基本的人権規定④ 　尊厳死の定義、臓器移植法の問題点	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：自然死と脳死の捉え方の相違をテキスト冊子から理解する 復習：本項目の現在的解釈を確認する	
9	関係法規① 　施術者に対する関係法規のしくみと位置づけ	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認 復習：講義内容をもとに、施術者の役割を確認する	
10	関係法規② 　日本国憲法と保健衛生法規とのつながり	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：シラバス・テキスト冊子の確認を行う 復習：保健衛生法規のしくみの理解と確認を行う	
11	医療過誤と法的責任① 　医療過誤の実態と権利侵害	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子の本項の確認を行う 復習：キーワード、重要語句の確認を行う	
12	医療過誤と法的責任② 　医療過誤における法的責任	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：医療過誤に関する事例を調べる 復習：特に民事責任に関して確認を行う	
13	統治行為① 　国会・内閣規定より、選挙制度並びに議院内閣制	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行の選挙制度を確認する 復習：1 票の格差問題について理解を深める	
14	統治行為② 　裁判所規定より、違憲立法審査権並びに裁判員制度の現状	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：テキスト冊子より、キーワードの確認 復習：講義事項についての確認	
15	日本国憲法の改正手続	＜予習・復習 各 2 時間＞ 予習：現行憲法の改正の必要性を調べる 復習：国民投票法の改正における影響を確認する	

成績評価方法と基準	割合
①指導項目に関し、筆記試験を行う。※60 点以上で単位認定する。〈DP③〉	①100%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(鍼灸 A)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	竹内　恵子		担当教員	竹内　恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。〈DP②〉
基本的な文法、語彙、表現を身につける。〈DP②〉

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟 1 階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅰ（初級）(鍼灸 B)（English Ⅰ【Beginner】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

英語Ⅰでは、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。また、教科書に基づく学習以外にも、以下の取り組みを行う。
1．多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。
2．医学用語の基礎知識を学ぶ。
3．英語Ⅰの受講者全員に共通のプロジェクトに取り組み、目に見える形で成果を出す。

到達目標

日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できる。<DP②>
基本的な文法、語彙、表現を身につける。<DP②>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan / Cengage Learning, 2014）

参考書

英和辞書

研究室／オフィスアワー

東棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	New Friends, New Faces	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Meeting new people	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	Express yourself	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	What are you doing?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	What do we need?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	At the supermarket	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。	

		授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
7	Vacation	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	How's the weather?	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	Heroes	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	Risk-takers	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	The mind	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	Try to remember	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Working on a project 1	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project 2	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。	①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(鍼灸 A)（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	竹内 恵子		担当教員	竹内 恵子	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 5 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan ／ Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 1 階講師控室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	英語Ⅱ（中級）(鍼灸 B）（English Ⅱ【Intermediate】）				
主担当教員	長尾 晋宏		担当教員	長尾 晋宏	
科目ナンバリング		科目区分	教養科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

前期科目の英語Ⅰに引き続き、本授業でも、日常生活で最低限必要とされる、スピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得する。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、最低限自己表現できるコミュニケーション力を身につける。また、多くのリスニングをこなし、英語に耳を慣らしていく。さらに、多読を行い、多量のインプットをすることにより、英語力アップを目指す。授業を通して、英語に対する抵抗感をなくし、英語を学ぶことは楽しいという感覚を習得する。

到達目標

基本的な文法、語彙を確実に身につける。<DP②>
英語で最低限のコミュニケーションが取れる。<DP②>
簡単な英文を正確に理解できる。<DP②>

履修上の注意（学生へのメッセージ）

積極的に授業に参加すること。
宿題（特にリーディングの予習）は必ずしてから授業に臨むこと。
私語、携帯電話の使用などは慎むこと。

教科書

Good Morning World ②（Susan Stempleski, Nancy Douglas, James Morgan ／ Cengage Learning, 2014）（英語Ⅰで使用したテキストを引き続き使用する。英語Ⅰを履修していない者のみ、購入すること。）

参考書

英和辞典
多読用図書

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階研究室 14

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	In the citiy	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
2	Places in my neighborhood	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
3	All about you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
4	Fun activities	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
5	Change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
6	I need a change	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認して	

		おくこと。	
7	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
8	Your health	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
9	The body	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
10	That's amazing	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
11	Terrific talents	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
12	At the movies	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
13	Now showing at a theater near you	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
14	Working on a project	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
15	Review	＜予習・復習 各 2 時間＞ 次回学習する範囲に目を通し、語彙や表現、その他わからない箇所について調べてくること。 授業後の復習では、それらをもう一度確認しておくこと。	
成績評価方法と基準			割合
①定期試験<DP②> ②プレゼンテーション・その他課題・授業態度・参加<DP②> ③多読<DP②> 2/3 以上の出席が必要。			①40% ②40% ③20%

授業科目名	MBS(Morinomiya Basic Seminar)(鍼灸)（Morinomiya Basic Seminar）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、増山 祥子、大川 祐世	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 4 限 火曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本授業は、大学生としての学習や生活をスムーズにスタートさせるために、大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を身につけること、学園の歴史や建学の精神の意味やディプロマポリシーを理解することで、本学への帰属意識を確立させることを目的とする。
また、履修に関することや教育課程（カリキュラム）、学生生活に関するルール等を理解することで、大学で学ぶために必要な能力を身につけることを目的とする。
医療の歴史及び医療の現在と未来を知ることで、医療全体への興味をより深めることを目的とする。

到達目標

・本学の建学の精神及びディプロマポリシーを理解している。<DP②③>
・大学で学ぶために必要な能力を身につけている。<DP②③>
・生徒から学生へ移行する（主体的・能動的な学習スタイルを身につける）<DP②③>
・医療人を目指す学生であることに対しての自覚を強く持つ。<DP②③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理想の大学生活とは？想像している内容と異なる話を聞くこともあるでしょうが、4 年間を有意義に過ごせるようこれからの生活を考えるきっかけとなることを願います。

教科書

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

指定しない。

研究室／オフィスアワー

別途連絡

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【本学の歩みと未来／生徒から学生へ】 ・理事長による「本学の起源や今後の展望」、 ・学長による「医療・医学を学ぶ上での心構え」についての講義。 ・在校生から新入生に向けて大学生活の過ごし方や講義の受け方についてのプレゼンテーション。	予習：本学の Web サイトで「建学の精神」「森ノ宮医療学学園の歴史」「本学の特徴」について調べる．（1 時間） 復習：大学生としての心得を考え，まとめる．（1 時間）	山下 増山 大川
2	【鍼灸学科のカリキュラムについて】 ・カリキュラムについて ・カリキュラムポリシーについて ・ディプロマポリシーについて	予習：学生手帳の「鍼灸学科 授業科目・単位数」と「本学学士過程における三つのポリシー」「鍼灸学科における三つのポリシー」について調べる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，自分にとって今後の大学生活で必要なことを考える．（2 時間）	山下 増山 大川
3	【情報化社会における情報リテラシーと情報モラルについて】 ・情報リテラシーと情報モラル（SNS の取り扱い） ・医療情報の取り扱いについて ・その他社会問題等	予習：「情報リテラシー」「情報モラル」について調べ，自分の考えをまとめる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，多くの情報から適切に情報を得る方法を考える．（2 時間）	山下 増山 大川
4	【鍼灸師のキャリアについて】 ・自身のキャリアについて ・履修モデルの解説と自身のキャリア形成プランの検討 ・鍼灸師に必要な学びと研究	予習：自分自身，将来どのような「大人」になりたいか，また，目標とする「鍼灸師像」を考え，まとめる．（2 時間） 復習：授業をまとめ，自分の将来像を明確にする．（2 時間）	山下 増山 大川
5	地域医療について 住之江区長による「住之江区の医療・福祉の現状」についての講話	予習：本学が位置する「住之江区」の Web サイト「広報誌 さざんか」にて，住之江区における「福祉・健康」の施策について調べる（2 時間）	山下 増山 大川

		復習：授業をまとめ，今の自分でも参加できることを（ボランティア等）を探す．(2 時間)	
6	西洋医学とは 医師による西洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：西洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：西洋医学の中での鍼灸の重要性を調べ，まとめる．(2 時間)	山下 増山 大川
7	東洋医学とは 鍼灸師による東洋医学の概説と西洋医学の起源と現状と未来についての講義	予習：東洋医学とは何か？を調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，西洋医学との違いを理解し，東洋医学の重要性をまとめる．(2 時間)	山下 増山 大川
8	チーム医療とは ・チーム医療について知る	予習：本学の Web サイトで「チーム医療」について調べる．(2 時間) 復習：授業をまとめ，チーム医療の重要性を理解する．(2 時間)	山下 増山 大川
成績評価方法と基準			割合
レポート試験：「自己のキャリア構築のために今後の大学生活で何をすべきか」を 1600 字程度で述べる。〈DP②③〉 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	チーム医療見学実習(鍼灸)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、増山 祥子、大川 祐世	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	火曜 4 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

１．医療の実践の場である病院等の施設で医療従事者の 1 日を体験することにより、医療職への理解を深める。
２．保健医療施設における自己の目指す専門職の役割や機能を知ると共にチーム医療を構成する
様々な専門職の役割・機能について知識を深める。
３．チーム医療の実際を知り、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性を知る。

＜施設見学の実施概要＞
開講時期：9 月下旬
実習施設：大阪急性期・総合医療センター(日程調整中)、大阪国際がんセンター(9 月 28・29・30 日または
9 月 23・24・25 日)、日本生命病院(9 月 23・25・28 日)、関西メディカル病院(9 月 25・28・29 日)

＜実施方法＞
１．本見学実習は大学内で実施する事前授業（4 コマ）と施設見学（4 コマ）とする。
２．1 班 8 名程度の学科混成グループを作り、各グループ上記施設の中から 1 施設を見学する。
３．1 班ごとに 1 名の本学教員が引率し、基本的には引率教員の指示のもと決められたスケジュール通りに
施設内を見学する

到達目標

１．実習を通じて医療施設の全体的な業務や役割について知ることができる。DP2
２．実習を通じてチーム医療の構成を知り、目指す専門職の役割および責任を自覚することができる。DP2
３．実習を通じて医療に取り組む姿勢を養い、専門科目の学習への意欲向上のきっかけとし、今後、
専門的学習に臨む上での自己の考えを述べることができる。DP23

履修上の注意(学生へのメッセージ)

見学時は、担当者のみならず院内の全ての方(就業者や患者さん等)に迷惑がかからない行動を取るとともに、発言にも最大限配慮すること。
見学当日はバスで送迎を行います。集合場所や時間を等は引率教員の指示に従うこと。

教科書

とくになし

参考書

とくになし

研究室／オフィスアワー

別途連絡します

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	事前授業①（授業の目的や概要について）	【事前授業１】（授業の目的や概要について） 予習：本学に設置されている学科の仕事内容を調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、チーム医療についての考えをまとめる。(3 時間)	山下 増山 大川
2	事前授業②（授業の目的や概要について）	【事前授業２】（施設見学における注意事項について） 予習：大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて調べる。(3 時間) 復習：授業内容をまとめ、大学生としてのマナー、社会人としてのマナーについて実践できるようにする （3 時間）	山下 増山 大川
3	事前授業③（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる	山下 増山 大川

		（3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	
4	事前授業④（施設見学における注意事項について）	【事前授業３・４】 （施設見学における注意事項について） 予習：見学させていただく、施設の概要を調べる （3 時間） 復習：授業内容をまとめ、医療者としての心得を理解する（3 時間）	山下 増山 大川
5	【学修内容：⑤～⑧】 「施設見学」 ＜見学スケジュール例＞ ①リハビリテーション室の見学 →それぞれの職種間でのコミュニケーションを学ぶ ②ICU・CCU →医師や看護師の連携について学ぶ。最新機器等の設備について知識を深める ③各種検査室の見学 →検査技師と医師や看護師など他の職種との連携について学ぶ ④透析室 →透析の機器等について知識を深める ⑤手術室 →手術室とはどのような環境の部屋なのか、実際の設備や雰囲気を知る	復習：見学実習での学びをレポートにまとめる。自修時間 6 時間→課題提出	山下 増山 大川
成績評価方法と基準			割合
レポート課題<DP②③> 「施設見学を終えて、チーム医療の重要性について自己の考えを述べよ」1600 字程度 ＊レポートの書き方については、オリエンテーション時に配布した「JOB GUIDE BOOK pp.14-17」を参照のこと。			100%

授業科目名	基礎体育(鍼灸)				
主担当教員	伊奈　新太郎		担当教員	伊奈　新太郎、中原　英博、 佐野　加奈絵、信江　彩加、 濱口　幹太、山口　晏奈	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	水曜 1 限 水曜 2 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	鍼灸:選択 スポーツ:必修

授業概要

本スポーツ健康科学演習では、学生が自らの適正に応じてスポーツ・トレーニング種目を選択できるよう、軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンス、レジスタンス運動など多種多様なスポーツ・トレーニング種目を用意し、各種目特性を生かして、「思いっきり体を動かす爽快感」と「プレーを通じて感じる理屈抜きの楽しさ」を存分に経験できるようなゲーム主体の授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図ると同時に、ゲーム等を自主的に運営する能力を養う。また、スポーツ・トレーニングの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ・トレーニングを実践する習慣を育成することも本実習の大きな狙いである。

到達目標

１．スポーツ活動を通じて、学科の枠を超えた学生同士の心の交流や人間関係を育むことができる。〈DP③〉
２．スポーツ活動を通じて、基礎体力や、技術が向上する。
３．スポーツ活動を通じて、チームワークの重要性を認識できる。〈DP③〉
４．生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツを実践する習慣を身につけることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
（１）各教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。
（２）シューズは屋外用、屋内用ともにゴム底の運動靴を用意すること。 屋外でのスポーツ種目を実施するクラスの者は、雨天により急きょ屋内種目に変更する場合があるので、毎回の授業時において、屋内用シューズは必ず用意しておくこと。
（３）授業中におけるメガネや時計などの破損、コンタクトレンズや装飾品の紛失について担当教員は責任を負わない。

注意事項
（１）集合場所
　日にち（特に雨天時）によって、各クラス担当教員ごとに、授業を行う場所やバス運行時刻等が変更する場合があります。特別指示がない場合においても、毎回、注意して掲示板を見る習慣をつけること。
（２）各運動施設までの移動手段について
　本学では、１回生全員を対象に、本学体育館や近隣の代替運動施設を利用して、スポーツ・健康科学演習を行います。近隣（バスで約 10～20 分）の運動施設までの移動には、大学前から現地まで貸し切りバスをチャーターし、みなさんを送迎します。

※　鍼灸学科スポーツ特修コース希望者は、資格取得のため必要な運動種目（レジスタンス運動）を選択する必要があります。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

原則月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション　クラス分けガイダンス スポーツ種目の選択、コースの決定	軽スポーツ、球技スポーツ、ニュースポーツ、ダンスなど多種多様なスポーツ種目の特性について理解を深めておく。	
2	スポーツ種目特性の理解　種目・用具特性の把握	予習・復習 1 時間	
3	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得	予習・復習 1 時間	

	①		
4	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得②	予習・復習１時間	
5	基本技術の習得 スポーツ種目に応じた基本技術の習得③	予習・復習１時間	
6	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得①	予習・復習１時間	
7	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得②	予習・復習１時間	
8	応用技術の習得 スポーツ種目に応じた応用技術の習得③	予習・復習１時間	
9	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解①	予習・復習１時間	
10	基本・応用技術の発展 模擬ゲームの実施とルールの理解②	予習・復習１時間	
11	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営①	予習・復習１時間	
12	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営②	予習・復習１時間	
13	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営③	予習・復習１時間	
14	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営④	予習・復習１時間	
15	ゲームの展開 学生主体のゲーム運営⑤	予習・復習１時間	
16	健康づくりとレジスタンス運動	予習・復習１時間	
17	形態測定、身体組成の評価	予習・復習１時間	
18	レジスタンス運動の運類①	筋の活動様式から見た分類とその特徴 等尺性筋収縮：アイソメトリックトレーニング 等張性筋収縮：アイソトニックトレーニング 等速性筋収縮：アイソキネティックトレーニング	
19	レジスタンス運動の運類②	運動様式から見た分類	
20	アイソトニックトレーニングの実際①	適切なプログラムの立案の基礎	
21	アイソトニックトレーニングの実際②	基礎体力の養成	
22	アイソトニックトレーニングの実際③	目的別トレーニング	
23	アイソトニックトレーニングの実際④	最大筋力の測定法	
24	アイソトニックトレーニングの実際⑤	フリーウェイトトレーニングとマシントレーニング	
25	アイソトニックトレーニングの実際⑥	長所と短所	
26	身体各部のレジスタンストレーニング①	胸部のトレーニング種目	
27	身体各部のレジスタンストレーニング②	上肢の筋群（上腕部・前腕部）のトレーニング種目	
28	身体各部のレジスタンストレーニング③	背部の筋群のトレーニング種目	
29	身体各部のレジスタンストレーニング④	肩腕部・腹部の筋群のトレーニング種目	
30	身体各部のレジスタンストレーニング⑤	下肢の筋群（脚部・臀部）のトレーニング種目	
成績評価方法と基準			割合
授業回数の 2/3(20 コマ)以上出席すること（本授業科目においては１日で２コマ分の授業となっているので 10 日以上出席が必要です）。授業開始後、30 分を超えての遅刻は欠席とみなす。成績の評価は、原則として 2/3 以上出席した者を対象とする。			①100%

①技能・理解・積極性などを総合的に判定するとともに、授業最終日にはレポートの提出を義務づける。〈DP③〉 その成績が６０点未満の者は不可とし単位を認定しない。	

授業科目名	健康科学(スポーツ社会学を含む)(鍼灸) (Health Science【Including Sports Sociology】)				
主担当教員	佐野　加奈絵		担当教員	佐野　加奈絵	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されている情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本授業では、生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につけることを目標とする。

到達目標

・運動や食事指導に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を身につける（DP③）。
・本邦における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方について理解する（DP③）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回配布する資料と授業中に作成したノートを用いて、必ず復習してください。

教科書

パワーポイントを用いて授業を実施する。適宜、資料を配布する。

参考書

出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義」杏林書院、2005 年
田中喜代次編「健康運動の支援と実践」金芳堂、2006 年

研究室／オフィスアワー

東棟 4F 月曜日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康とは？	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
2	運動・栄養と肥満症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
3	運動・栄養と糖尿病との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
4	運動・栄養と脂質異常症との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
5	三大栄養素（糖質・脂質・タンパク質）の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
6	微量栄養素（ビタミン・ミネラル）と水の役割	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
7	消化器の構造と機能	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
8	食品群の理解と応用	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
9	エネルギー摂取量と消費量との関係	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
10	運動時におけるエネルギー産生メカニズム	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
11	運動処方の原則と実際	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
12	運動と食欲の関係－最新のトピックス－	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
13	日本人の食事摂取基準について	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
14	健康づくりに関する本邦の取り組み	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：　これまでのプリントの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験で評価する（DP③）。 15 回の講義に対し、必要な時間数の出席が必須である。	①100%

授業科目名	東洋医療概論(鍼灸)				
主担当教員	熊野　弘子		担当教員	熊野　弘子	
科目ナンバリング		科目区分	学部共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
医学史、および医療制度・医の倫理など現代医療にまつわる基本的な概論を学ぶ。
到達目標
医療人として備えておきたい基本的知識を身につける。DP②③
履修上の注意(学生へのメッセージ)
国家試験の科目「医療概論」に必要な知識を習得すること。
教科書
医療概論、東洋療法学校協会編、医歯薬出版
参考書
新版　東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本社
研究室／オフィスアワー
E棟　／　在室時は随時
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医学史　1	授業の内容を振り返る	
2	医学史　2	授業の内容を振り返る	
3	医学史　3	授業の内容を振り返る	
4	現代医学の課題	授業の内容を振り返る	
5	東洋医学の課題	授業の内容を振り返る	
6	医療従事者・施設	授業の内容を振り返る	
7	医療費	授業の内容を振り返る	
8	医療保険	授業の内容を振り返る	
9	公費医療、介護保険	授業の内容を振り返る	
10	医療制度	授業の内容を振り返る	
11	医療者の倫理、患者-医療者の倫理	授業の内容を振り返る	
12	社会-医学の倫理	授業の内容を振り返る	
13	医療倫理	授業の内容を振り返る	
14	講義全体のまとめ	これまでの講義を振り返る	
15	講義全体のまとめ	これまでの講義を振り返る	

成績評価方法と基準	割合
期末筆記試験、授業態度 DP②③	90% 10%

授業科目名	解剖学Ⅰ(骨・筋)(鍼灸)（Anatomy Ⅰ【Musculoskeletal】）				
主担当教員	髙橋　秀郎		担当教員	髙橋　秀郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 2 限)、後期(金曜 4 限)
授業形態	講義	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要
解剖学Ⅰ(骨・筋)では、人体の基礎を構成し、運動器系の中心的な役割を担う骨と筋を学習する。 骨については、分類・構造などの総論と、各骨の部位や形態的特徴などを、講義のみならず骨模型実習を通して学習する。 筋については、分類・構造などの総論に加えて、各筋の起始、停止、支配神経、作用などを学習する。 これらの理解を通じて、骨と筋が運動器として機能するときにどのような連携しているか考えるとともに、運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深める。 経穴の取穴部位に記載されている骨、筋は、事前に学習します。
到達目標
（１）骨格系と筋肉系に関わる主要構造や主要部位の名称が言えるとともに、これらがどう配置しているかが説明できる。 （２）骨の連結と筋のはたらきの概要が説明できる。 （３）主要関節の構造とそれに係わる筋の作用が説明できる。DP②③
履修上の注意(学生へのメッセージ)
講義は教科書の内容を中心に解説を行う。 医療人として必要最低限の知識であることを理解すること。 適宜、小テストを行うので暗記作業をしっかりすること。 成績不良の者に対して補講を行うことがある。 遅刻の申告、延着証明の提出は当日に限り有効とする
教科書
解剖学第 2 版、(公益社団) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版会社
参考書
鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス、北村清一郎編集、南江堂 分担解剖学１　総説・骨学・靱帯学・筋学、金原出版 人体解剖学改訂第 42 版　藤田恒太郎　南江堂
研究室／オフィスアワー
月曜日、水曜日、金曜日　各曜日 9：00～17：45 但し講義時間を除く
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	骨学(1)：骨格系・筋系総論	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
2	骨学（2)：骨の連結　脊椎　椎骨の構造	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
3	筋学（1)：筋の種類と補助装置	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
4	筋学（2)：運動の種類　筋の支配神経	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
5	骨学（3)：脊柱部　頚椎　脊柱管　椎間孔	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
6	骨学(4)：脊椎　胸椎　腰椎　仙椎　胸骨　肋骨	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
7	筋学(3)：浅胸筋　深胸筋　呼吸筋の分類 横隔膜の構造と作用	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	

8	筋学（4）：体幹の筋　腹直筋　腹横筋　内腹斜筋 外腹斜筋　鼠径管について	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正 。	
9	筋学（5）：背部の筋　浅背筋　僧帽筋　広背筋 肩甲挙筋　大菱形筋　小菱形筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
10	筋学(6)：背部の筋　深背筋　第１層　上後鋸筋 下後鋸筋　第2層　固有背筋 後頭下筋 板状筋　脊　柱　起　立　筋 横突棘筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
11	骨学（5）：自由上肢骨　鎖骨　肩甲骨	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
12	骨学（6）：上腕骨　尺骨　橈骨	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
13	骨学　(7)：肘関節　近位橈尺関節　遠位橈尺関節 手の骨	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
14	骨学(8)：上肢の関節　指骨と関節	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正 。	
15	筋学(7)：上肢帯の筋　三角筋　棘上筋　棘下筋 小円筋　肩甲下筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
16	筋学(8)：上肢帯の筋　上腕二頭筋　上腕三頭筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
17	筋学(9)：前腕屈筋群　浅層の筋　深層の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
18	筋学(10)：前腕伸筋群　手根管	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
19	筋学(11)：手内筋　母指球筋　小指球筋　中手筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
20	骨学(9)：骨盤　腸骨　恥骨　坐骨　骨盤の構造	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
21	筋学(10)：大腿骨　膝蓋骨　骨盤復習	予習ノートのまとめ	
22	骨学(11)：脛骨　腓骨　足根骨	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
23	筋学(12)：下肢帯筋　内寛骨筋　外寛骨筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
24	筋学(13)：大腿部の筋　伸筋　屈筋　内転筋群	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
25	筋学(14)：大腿の筋復習　下腿の筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
26	筋学(15)：下腿の筋　前面伸筋群　外側面腓骨筋群 後面下腿三頭筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
27	筋学(16)：足部の筋　母指球筋　小指球筋　中足筋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
28	骨学(12)：頭蓋骨　脳頭蓋	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
29	骨学(13)：頭蓋骨　脳頭蓋　内頭蓋底　外頭蓋底	予習：講義プリントに沿って予習ノート作成 復習：授業を元に予習ノートの加筆と修正	
30	骨学(15)：頭蓋骨　顔面頭蓋	予習ノートのまとめ	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験を２回実施する。小テスト、口頭試問を適宜実施する。 いずれにも合格することが必要で、合格点に達しない場合には各回につき再試験を行う。 試験は各 100 点満点。60 点以上で合格とする。 定期試験及び小テスト、口頭試問の成績不良者は補習を行う。 平常点を考慮する場合がある DP:②③	①100%

授業科目名	解剖学Ⅱ(神経)(鍼灸)（Anatomy Ⅱ【Nervous】）				
主担当教員	森　優也		担当教員	森　優也	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

地域医療やスポーツ、健康領域において、他分野の専門職とチームを構成し、はり師、きゅう師の専門知識と専門技術を活用するためには、正常な人体の構造を理解しておくことが必須となる。したがって、解剖学は他職種との協調や連携、コミュニケーションを図る上で最も重要な基礎専門科目のひとつである。解剖学Ⅱ（神経）では、系統解剖学の立場から、中枢神経、末梢神経、感覚器、内分泌器について学習する。これらは、臨床系専門科目で学ぶ神経疾患や内分泌系、感覚系領域を理解するための基礎となり、これらの形態と構造に関わる基礎的知識を習得する。単なる暗記学問とならないためにも、人体の各構造物の形態と機能に興味を持ち、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

（１）中枢神経の基本的構成を説明できる。＜DP②③＞
（２）末梢神経の基本的構成を説明できる。＜DP②③＞
（３）感覚器の種類と基本的構造を説明できる。＜DP②③＞
（４）感覚器、末梢神経、中枢神経による情報処理の仕組みの概要を説明できる。＜DP②③＞
（５）内分泌器の種類と構造や機能を説明できる。＜DP②③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書

社団法人東洋療法学校協会編　『解剖学（第２版)』　医歯薬出版株式会社

参考書

藤田恒太郎『人体解剖学　改訂第 42 版』(南江堂)

研究室／オフィスアワー

E 棟１階（事務室）
月曜日午後５時～午後６時、各日適時 E 棟学生ホールを巡回します。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	解剖学基礎（人体の構成、組織①上皮）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
2	解剖学基礎（組織②結合、筋、神経） 体表構造(皮膚)　神経系総論	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
3	中枢神経の形態	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
4	中枢神経（脊髄①脊髄の構造）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
5	中枢神経（脳②脳幹　小脳）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
6	中枢神経（脳①終脳、間脳）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間)	森
		復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	
7	中枢神経（伝導路・まとめ）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、中枢神経系について教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。(自修１時間)	森
8	末梢神経（脳神経①　第Ⅰ～Ⅵ脳神経）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
9	末梢神経（脳神経②第Ⅶ～ⅩⅡ脳神経、脊髄神経①頚神経）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
10	末梢神経（脊髄神経②頚神経、胸神経、腰神経）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
11	末梢神経（脊髄神経③仙骨神経、自律神経）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
12	感覚器（視覚器）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森谷
13	感覚器（平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森
14	感覚器と末梢神経の形態　まとめ	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、末梢神経系、感覚器について教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。(自修１時間)	森
15	内分泌器系	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。(自修１時間) 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。(自修１時間)	森

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験（90%） ②課題等の提出（10%） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。	①90% ②10%

授業科目名	解剖学Ⅲ(内臓・脈管)(鍼灸)（Anatomy Ⅲ【Visceral / Vascular】）				
主担当教員	森　優也		担当教員	森　優也	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

地域医療やスポーツ、健康領域において、他分野の専門職とチームを構成し、はり師、きゅう師の専門知識と専門技術を活用するためには、正常な人体の構造を理解しておくことが必須となる。したがって、解剖学は他職種との協調や連携、コミュニケーションを図る上で最も重要な基礎専門科目のひとつである。解剖学Ⅲ（内臓・脈管）では、循環系と内臓系とを中心に人体の正常構造について系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学習する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。

到達目標

①循環系（心臓血管系、リンパ系など）の基本的構成を説明できる。<DP②③>
②内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器など）の基本的構成を説明できる。<DP②③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義は教科書を中心に進めます。適宜資料を配付するので、復習時の参考として理解を深めて下さい。講義の進行・予定や単位認定の詳細等については、初回講義時に説明します。

教科書

社団法人東洋療法学校協会編　『解剖学（第２版)』　医歯薬出版株式会社

参考書

藤田恒太郎『人体解剖学　改訂第42版』(南江堂)

研究室／オフィスアワー

E棟１階（事務室）
月曜日午後５時～午後６時、各日適時E棟学生ホールを巡回します

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	講義の概要、脈管系総論	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
2	心脈管系（心臓）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
3	心脈管系（動脈系）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
4	心脈管系（静脈系）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
5	胎児循環 リンパ系（総論）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
6	リンパ系（リンパ節、リンパ管）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
7	脈管系の復習	脈管系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。　（自修２時間）	森
8	内臓系総論	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
9	消化器①（口腔、咽頭、食道、胃）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
10	消化器②（小腸、大腸、肝臓、膵臓）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
11	呼吸器	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
12	泌尿器	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
13	生殖器①（男性生殖器）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森谷
14	生殖器②（女性生殖器）	予習：事前に教科書の該当部分を読んでおいて下さい。（自修１時間） 復習：配布資料への再記入、授業の振り返り等、復習を怠らないようにして下さい。（自修１時間）	森
15	内臓系の復習	内臓系の形態について、教科書、ノート、配布資料などで復習して下さい。　（自修２時間）	森

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験（90%） ②課題等の提出（10%） 評価の具体的な内容については、初回講義時に説明します。DP②③	①90% ②10%

授業科目名	生理学Ⅰ(動物生理学)(鍼灸) (Physiology Ⅰ【Animal】)				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生理学Ⅰでは、神経の基礎、筋運動、感覚について学習する。

到達目標

1．神経の興奮と伝達について理解する。
2．筋収縮のメカニズムについて理解する。
3．脊髄反射について理解する。
4．皮膚感覚について理解する。
5．特殊感覚について理解する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．本講義では、国家試験の出題傾向から重要項目を抜粋して伝えるので、漏らさずに記録すること。
2．講義内容と病気・診察・鍼灸治療法などを関連づけて説明するので、鍼灸師になるために必要な科目であることを十分に理解して臨むこと。
3．前回の授業内容について、5-10 問程度の小テストを毎講義前に行うので、必ず復習して臨むこと。

教科書

「生理学」　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

参考書

目で見るからだのメカニズム　堺章著　医学書院

研究室／オフィスアワー

昼休みを中心として、研究室に在室中はいつでも相談に来ること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 1 章：細胞　体液の組成　物質移動	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
2	第 11 章：ニューロン　興奮伝導	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
3	第 11 章：興奮伝達　脊髄	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
4	第 13 章：筋線維の種類　骨格筋の構造	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
5	第 13 章：興奮収縮連関　筋の収縮型	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
6	第 13 章：筋のエネルギー代謝	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
7	第 14 章：骨格筋の神経支配と伸張反射	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
8	第 14 章：拮抗抑制　自己抑制　屈曲反射	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること 中間テスト対策：1-8 単元での学習内容について、国家試験出題形式（4 肢択一）にて 20 問出題するので、再学習すること。	
9	第 14 章：その他の反射　中間テスト	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
10	第 15 章：感覚の一般　二点弁別測定	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
11	第 15 章：触圧覚　温度覚	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
12	第 15 章：痛覚	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
13	第 15 章：深部感覚　内臓感覚　味覚　嗅覚	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
14	第 15 章：聴覚　平衡覚	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
15	第 15 章：視覚	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。	

成績評価方法と基準	割合
①講義前に実施する全ての小テスト評価　正解数／10 問×4 回＝40 点（最大） ②期末テスト（筆記）　60 点 全評価合計で 60%以上を取得すること。DP②③	①40% ②60%

授業科目名	生理学Ⅱ(植物生理学)(鍼灸) (Physiology Ⅱ【Plant】)				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生理学Ⅱでは、血液、心臓、呼吸、消化、代謝について学習する。

到達目標

1．血液の組成と凝固について理解する。
2．心臓の機能を理解する。
3．循環の調節について理解する。
4．呼吸の調節について理解する。
5．消化・吸収・排泄について理解する。
6．代謝と体温調節について理解する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．本講義では、国家試験の出題傾向から重要項目を抜粋して伝えるので、漏らさずに記録すること。
2．講義内容と病気・診察・鍼灸治療法などを関連づけて説明するので、鍼灸師になるために必要な科目であることを十分に理解して臨むこと。
3．前回の授業内容について、5-10 問程度の小テストを毎講義前に行うので、必ず復習して臨むこと。

教科書

「生理学」　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

参考書

目で見るからだのメカニズム　堺章著　医学書院

研究室／オフィスアワー

月曜から木曜のお昼休み。その他、研究室にいればいつでも。予定表は東棟 4 階研究室 20 のドアに貼っています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	前期確認テストと解説	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
2	第 2 章：血液の組成　血液凝固	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
3	第 2 章：血液型　大・小循環	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
4	第 3 章：心臓	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
5	第 3 章：血管運動と血圧	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
6	第 3 章：循環の調節　リンパ系	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて	
		小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること 中間テスト対策として、これまでの再学習をすること	
7	中間テスト 第 4 章：呼吸運動と肺の機能	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
8	第 4 章：ガス交換と呼吸調節	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
9	第 5 章：口腔内の消化　嚥下	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
10	第 5 章：胃　十二指腸の消化	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
11	第 5 章：小腸の消化と吸収	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
12	第 5 章：大腸の機能と排便	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
13	第 6 章：栄養素と代謝	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
14	第 7 章：産熱と放熱	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
15	第 7 章：体温調節の仕組み	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。	

成績評価方法と基準	割合
①講義前に実施する全ての小テスト評価　正解数／10 問×4 回＝40 点（最大） ②期末テスト（筆記）　60 点 全評価合計で 60%以上を取得すること。DP②③	①40% ②60%

授業科目名	生理学Ⅲ(応用生理学)(鍼灸) (Physiology Ⅲ【Applied】)				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之	
科目ナンバリング		科目区分	専門基礎科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

生理学Ⅲでは、自律神経系、大脳による調節、生体の防御機構、排尿、内分泌について学習する。

到達目標

1．自律神経による生体の調節について理解する。
2．脳が生体情報をどのようにコントロールしているかを理解する。
3．生体が外敵からどのように身を守っているかを理解する。
4．尿の生成と排泄について理解する。
5．内分泌による生体の調節について理解する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．本講義では、国家試験の出題傾向から重要項目を抜粋して伝えるので、漏らさずに記録すること。
2．講義内容と病気・診察・鍼灸治療法などを関連づけて説明するので、鍼灸師になるために必要な科目であることを十分に理解して臨むこと。
3．前回の授業内容について、5-10 問程度の小テストを毎講義前に行うので、必ず復習して臨むこと。

教科書

「生理学」　東洋療法学校協会編　医歯薬出版。

参考書

目で見るからだのメカニズム　堺章著　医学書院

研究室／オフィスアワー

昼休みを中心として、研究室に在室中はいつでも相談に来ること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	第 12 章：自律神経総論　交感神経系	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
2	第 12 章：副交感神経系	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
3	第 12 章：自律神経調節と反射	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
4	第 11 章：脳幹　間脳　小脳	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
5	第 11 章：大脳　生体のフィードバック機構	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
6	第 16 章：炎症	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
7	第 16 章：免疫	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること 中間テストに向けて、これまでの学習内容を再学習すること	
8	第 17 章：生体のリズム	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
9	第 8 章：腎臓の構造と働き	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
10	第 8 章：尿の生成と体液調節	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
11	第 8 章：蓄尿と排尿　内分泌総論	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
12	第 9 章：視床下部　下垂体　甲状腺　副甲状腺	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
13	第 9 章：副腎皮質　副腎髄質	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
14	第 9 章：性ホルモン　血糖調節	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。 復習：本単元の学習内容について、次単元にて小テストを行うので、授業中に重要と述べて項目を学習すること	
15	第 10 章：生殖器の作用	予習：教科書の該当部分を予め読んでくること。	

成績評価方法と基準	割合
①講義前に実施する全ての小テスト評価　正解数／10 問×4 回＝40 点（最大） ②期末テスト（筆記）　60 点 全評価合計で 60%以上を取得すること。DP②③	①40% ②60%

授業科目名	経絡経穴学Ⅰ(鍼灸 A) (Meridian Lines and Points I)				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

経絡経穴は鍼灸の根幹をなすものである。その中で 1 年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学修する。
経絡経穴学Ⅰでは、任脈、督脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経の 158 穴の名称名、部位等を学修する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋腱、動脈拍動部などを学修し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1．経絡と経穴を理解する。
2．骨度法・同身寸法について理解する。
3．経穴を取穴するために必要な解剖学的名称を触り説明できる。
4．履修した経穴を取穴することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 白衣の着用を義務とする。
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3. 取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。

教科書

「経絡経穴概論」医道の日本社　教科書執筆小委員会（尾﨑朋文他）

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾﨑朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾﨑：4 階研究室 18　月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13　金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	経絡経穴学概論１	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 経絡・経穴の基礎（P2～P9） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
2	経絡経穴学概論２	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 骨度法、解剖学的肢位と方向に関する用語の確認（P9～P23） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
3	任脈１（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（会陰～中間）の確認（P40～P47） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
4	任脈２（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（上?～承漿）の確認（P46～P51） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
5	督脈１（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（長強～大椎）の確認（P26～P33）	尾﨑 朋文 仲村 正子
		復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	
6	督脈２（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（?門～齦交）の確認（P32～P39） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
7	手の太陰肺経（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の太陰肺経（中府～少商）の確認（P52～P59） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
8	手の陽明大腸経１（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（商陽～曲池）の確認（P60～P67） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
9	手の陽明大腸経２（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（肘?～迎香）の確認（P66～P71）） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
10	足の陽明胃経１（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（承泣～屋翳）の確認（P72～P79） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
11	足の陽明胃経２（経絡と経穴名と取穴）	復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認 予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（膺窓～気衝）の確認（P78～P85） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
12	足の陽明胃経３（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（髀関～厲兌）の確認（P84～P91） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
13	足の太陰脾経１（経絡と経穴名と取穴）	予習：足の太陰脾経（隠白～衝門）の確認（P92～P99） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
14	足の太陰脾経２（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の太陰脾経（府舎～大包）の確認（P98～P102） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
15	手の少陰心経（経絡と経穴名と取穴） 前期まとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の少陰心経（極泉～少衝）の確認（P104～P109） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子

成績評価方法と基準	割合
①期末試験（筆記試験）　50% ②期末試験（口答試問）　40% ③小テストの平均点　10% 評価は①～③の合算（100%）とする。 基準は①・②とも 60 点以上で単位認定とする。 2/3 以上の出席を必要とする。	①50% ②40% ③10%

授業科目名	経絡経穴学Ⅰ(鍼灸 B) (Meridian Lines and Points I)				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

経絡経穴は鍼灸の根幹をなすものである。その中で 1 年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学修する。
経絡経穴学Ⅰでは、任脈、督脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経の 158 穴の名称名、部位等を学修する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋腱、動脈拍動部などを学修し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1．経絡と経穴を理解する。
2．骨度法・同身寸法について理解する。
3．経穴を取穴するために必要な解剖学的名称を触り説明できる。
4．履修した経穴を取穴することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 白衣の着用を義務とする。
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3. 取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。

教科書

「経絡経穴概論」医道の日本社　教科書執筆小委員会（尾崎朋文他）

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾崎朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾崎：4 階研究室 18　月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13　金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	経絡経穴学概論 1	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 経絡・経穴の基礎（P2～P9） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
2	経絡経穴学概論 2	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 骨度法、解剖学的肢位と方向に関する用語の確認（P9～P23） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
3	任脈 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（会陰～中間）の確認（P40～P47） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
4	任脈 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（上?～承漿）の確認（P46～P51） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
5	督脈 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（長強～大椎）の確認（P26～P33）	尾崎 朋文 仲村 正子
		復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	
6	督脈 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（?門～齦交）の確認（P32～P39） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
7	手の太陰肺経（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の太陰肺経（中府～少商）の確認（P52～P59） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
8	手の陽明大腸経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（商陽～曲池）の確認（P60～P67） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
9	手の陽明大腸経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（肘?～迎香）の確認（P66～P71）） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
10	足の陽明胃経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（承泣～屋翳）の確認（P72～P79） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
11	足の陽明胃経 2（経絡と経穴名と取穴）	復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認 予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（膺窓～気衝）の確認（P78～P85） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
12	足の陽明胃経 3（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（髀関～厲兌）の確認（P84～P91） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
13	足の太陰脾経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：足の太陰脾経（隠白～衝門）の確認（P92～P99） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾崎 朋文 仲村 正子
14	足の太陰脾経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の太陰脾経（府舎～大包）の確認（P98～P102） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子
15	手の少陰心経（経絡と経穴名と取穴） 前期まとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の少陰心経（極泉～少衝）の確認（P104～P109） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾崎 朋文 仲村 正子

成績評価方法と基準	割合
①期末試験（筆記試験）　50% ②期末試験（口答試問）　40% ③小テストの平均点　10% 評価は①～③の合算（100%）とする。 基準は①・②とも 60 点以上で単位認定とする。 2/3 以上の出席を必要とする。	①50% ②40% ③10%

授業科目名	経絡経穴学Ⅱ(鍼灸 A) (Meridian Lines and Points Ⅱ)				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 4 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

経絡経穴は鍼灸の根幹をなすものである。その中で 1 年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学修する。
経絡経穴学Ⅰでは、任脈、督脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経の 158 穴の名称名、部位等を学修する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋腱、動脈拍動部などを学修し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1．経絡と経穴を理解する。
2．骨度法・同身寸法について理解する。
3．経穴を取穴するために必要な解剖学的名称を触り説明できる。
4．履修した経穴を取穴することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 白衣の着用を義務とする。
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3. 取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。

教科書

「経絡経穴概論」医道の日本社　教科書執筆小委員会（尾﨑朋文他）

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾﨑朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾﨑：4 階研究室 18　月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13　金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	手の太陽小腸経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 少沢～じゅゆ（P1102～P115） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
2	手の太陽小腸経 2（経絡と経穴名と取穴） 足の太陽膀胱経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 天宗～聴宮、晴明～絡却（P116～124） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
3	足の太陽膀胱経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（会陰～中間）の確認（P40～P47） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
4	足の太陽膀胱経 3（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（上?～承漿）の確認（P46～P51） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
5	足の太陽膀胱経 4（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（長強～大椎）の確認（P26～P33） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
6	足の太陽膀胱経 5（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（?門～齦交）の確認（P32～P39） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
7	足の j 少陰腎経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の太陰肺経（中府～少商）の確認（P52～P59） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
8	足の j 少陰腎経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（商陽～曲池）の確認（P60～P67） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
9	手の j 厥陰心包経（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（肘?～迎香）の確認（P66～P71）） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
10	手の少陽三焦経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（承泣～屋翳）の確認（P72～P79） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
11	手の少陽三焦経 2（経絡と経穴名と取穴）	復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認 予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（膺窓～気衝）の確認（P78～P85） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
12	足の少陽胆経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（髀関～厲兌）の確認（P84～P91） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
13	足の少陽胆経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：足の太陰脾経（隠白～衝門）の確認（P92～P99） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
14	足の少陽胆経 3（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の太陰脾経（府舎～大包）の確認（P98～P102） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
15	足の厥陰肝経（経絡と経穴名と取穴） まとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の少陰心経（極泉～少衝）の確認（P104～P109） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子

成績評価方法と基準	割合
①期末試験（筆記試験）　50% ②期末試験（口答試問）　40% ③小テストの平均点　10% 評価は①～③の合算（100%）とする。 基準は①・②とも 60 点以上で単位認定とする。 2/3 以上の出席を必要とする。	①50% ②40% ③10%

授業科目名	経絡経穴学Ⅱ(鍼灸 B) (Meridian Lines and Points Ⅱ)				
主担当教員	尾﨑　朋文		担当教員	尾﨑　朋文、仲村　正子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

経絡経穴は鍼灸の根幹をなすものである。その中で 1 年次には入門編という位置づけとし、経絡の種類、それに属する経穴名、経穴を取穴するために必要な解剖学的知識、経穴の取穴部位などを学修する。
経絡経穴学Ⅰでは、任脈、督脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経の 158 穴の名称名、部位等を学修する。取穴に際しては骨度法や同身寸を理解すると共に、基準となる骨、筋腱、動脈拍動部などを学修し、経穴の正確な部位の特定ができるよう学修する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

1．経絡と経穴を理解する。
2．骨度法・同身寸法について理解する。
3．経穴を取穴するために必要な解剖学的名称を触り説明できる。
4．履修した経穴を取穴することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 白衣の着用を義務とする。
2. 授業には、必ず教科書、参考図書を持参する。
3. 取穴の際しては、いつでもモデル役ができるよう服装に気をつけること。
4. 取穴の際に必要な「水性のペン」を持参する。

教科書

「経絡経穴概論」医道の日本社　教科書執筆小委員会（尾﨑朋文他）

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾﨑朋文他）

研究室／オフィスアワー

尾﨑：4 階研究室 18　月曜日 5 限
仲村：4 階研究室 13　金曜日 2 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	手の太陽小腸経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 少沢～じゅゆ（P1102～P115） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
2	手の太陽小腸経 2（経絡と経穴名と取穴） 足の太陽膀胱経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 天宗～聴宮、晴明～絡却（P116～124） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
3	足の太陽膀胱経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（会陰～中間）の確認（P40～P47） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
4	足の太陽膀胱経 3（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 任脈（上?～承漿）の確認（P46～P51） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
5	足の太陽膀胱経 4（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（長強～大椎）の確認（P26～P33） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
6	足の太陽膀胱経 5（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 督脈（?門～齦交）の確認（P32～P39） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
7	足の j 少陰腎経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の太陰肺経（中府～少商）の確認（P52～P59） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
8	足の j 少陰腎経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（商陽～曲池）の確認（P60～P67） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
9	手の j 厥陰心包経（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の陽明大腸経（肘?～迎香）の確認（P66～P71）） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
10	手の少陽三焦経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（承泣～屋翳）の確認（P72～P79） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
11	手の少陽三焦経 2（経絡と経穴名と取穴）	復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認 予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（膺窓～気衝）の確認（P78～P85） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
12	足の少陽胆経 1（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の陽明胃経（髀関～厲兌）の確認（P84～P91） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
13	足の少陽胆経 2（経絡と経穴名と取穴）	予習：足の太陰脾経（隠白～衝門）の確認（P92～P99） 復習：授業をもとにシラバス・教科書の確認	尾﨑 朋文 仲村 正子
14	足の少陽胆経 3（経絡と経穴名と取穴）	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 足の太陰脾経（府舎～大包）の確認（P98～P102） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子
15	足の厥陰肝経（経絡と経穴名と取穴） まとめ	予習：シラバスを見て、次回講義の範囲（教科書）を読むこと（1 時間） 手の少陰心経（極泉～少衝）の確認（P104～P109） 復習：講義資料、教科書を見てまとめること（1 時間）	尾﨑 朋文 仲村 正子

成績評価方法と基準	割合
①期末試験（筆記試験）　50% ②期末試験（口答試問）　40% ③小テストの平均点　10% 評価は①～③の合算（100%）とする。 基準は①・②とも 60 点以上で単位認定とする。 2/3 以上の出席を必要とする。	①50% ②40% ③10%

授業科目名	東洋医学概論Ⅰ(鍼灸)（Introduction to Oriental Medicine Ⅰ）				
主担当教員	熊野　弘子		担当教員	熊野　弘子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

鍼灸師として東洋医学的な診断・治療をするための基礎を学ぶ。

到達目標

１．陰陽・五行、天人相関ほか中国思想、人体への応用を理解する。
２．精気血津液など物質を理解する。
３．東洋医学的な臓腑を理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．東洋医学の土台部分を扱うので、今後学ぶ東洋医学系授業の前提知識として身につけること。
２．鍼灸臨床における東洋医学的診断・治療の基礎となる重要な箇所であると認識すること。
３．国家試験頻出範囲となる。出題傾向をふまえて講義をするので、国家試験を念頭に置くこと。
４．繰り返し学んで慣れることが必要な科目。反復して理解・記憶を増強すること。

教科書

新版　東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本社

参考書

配布プリント

研究室／オフィスアワー

E棟　／　在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	東洋医学の歴史と現状	復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
2	陰陽・五行、天人相関ほか中国思想	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
3	陰陽・五行の相互関係	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
4	医学における陰陽・五行	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
5	生理物質　精、気	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
6	生理物質　血、津液	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
7	生理物質の相互関係	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
8	神、陰陽の生理・病理	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
9	蔵象学　肝系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
10	蔵象学　心系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
11	蔵象学　脾系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
12	蔵象学　肺系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
13	蔵象学　腎系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
14	蔵象学　三焦	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
15	講義全体のまとめ	予習：これまでの講義を振り返る 復習：これまでのプリント・教科書を見る	

成績評価方法と基準	割合
期末筆記試験、授業態度	90% 10%

授業科目名	東洋医学概論Ⅱ(鍼灸)（Introduction to Oriental MedicineⅡ）				
主担当教員	熊野　弘子		担当教員	熊野　弘子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
鍼灸師として東洋医学的な診断・治療をするための知識を身につける。
到達目標
弁証論治を理解する
履修上の注意(学生へのメッセージ)
１．上級学年で学ぶ東洋医学系授業の前提知識として身につけること。 ２．鍼灸臨床における東洋医学的診断・治療に繋がると認識すること。 ３．国家試験の出題傾向をふまえて講義をするので、国家試験を念頭に置くこと。 ４．繰り返し学んで慣れることが必要な科目。反復して理解・記憶を増強すること。
教科書
新版　東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本社
参考書
配布プリント
研究室／オフィスアワー
E棟　／　在室時は随時
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	病因	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
2	病機	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
3	八綱弁証	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
4	気血津液弁証	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
5	臓腑弁証　肝系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
6	臓腑弁証　心系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
7	臓腑弁証　脾系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
8	臓腑弁証　肺系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
9	臓腑弁証　腎系	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
10	衛気営血弁証、三焦弁証	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
11	治則	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
12	治法	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
13	治療法　手技	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
14	治療法　要穴	予習：教科書の該当部分を見る 復習：授業範囲のプリント・教科書を見る	
15	講義全体のまとめ	予習：これまでの講義を振り返る 復習：これまでのプリント・教科書を見る	
成績評価方法と基準			割合

期末筆記試験、授業態度	90% 10%

授業科目名	基礎鍼実技Ⅰ(鍼灸 A)（Basic Skill Practice for Acupuncture Ⅰ）				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、橋垣　志帆	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

１．鍼による衛生的操作と基本操作を指導する
２．正確かつ安全な刺鍼を指導する
３．自身・他人の体への刺鍼を練習する

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．鍼による衛生的操作と基本実技を理解することができる
２．正確かつ安全な刺鍼を体得することができる
３．自身・他人の体への刺鍼を体得することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．本実習は鍼灸の根幹をなすものであることを認識する。
２．出席は重視する。
３．始業時間には、授業に必要な準備を済ませておく。
４．実習における身なりを整える。特に白衣・名札の着用、頭髪、爪など。
５．実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。
６．肩手挿管の練習及び実技授業の復習を２時間/日行う。
７．鍼実技においては、学内（実習室開放日等を利用）にて教員等の指導下で行う。

教科書

「鍼灸医療安全ガイドライン」　医歯薬出版株式会社
尾崎昭弘・坂本歩・尾﨑朋文/鍼灸安全性委員会

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾崎朋文他）
「ポケット鍼灸臨床ガイド」アルテミシア　森ノ宮医療学園出版部
坂本歩

研究室／オフィスアワー

髙﨑：4 階共同研究室／月曜日～　（不定期なため事前に確認が必要）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１．オリエンテーション１（実技室でのマナー、身だしなみ等について、毫鍼について、両手挿管の説明練習、鍼枕見本準備）	レジュメにより、毫鍼各部の名称、規格、材質、などを学習し、両手挿管を練習する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
2	２．オリエンテーション２（両手挿管、片手挿管）	古代九鍼と現在日本で使われている鍼と鍼法を学習し、 パワーポイントにより両手・片手挿管の操作を学ぶ。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
3	３．オリエンテーション３（片手挿管）	「鍼灸基礎実習ノート」を教科書に片手挿管の操作を学び、鍼枕を用いて刺鍼の基本操作を学習する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
4	４．刺鍼の安全性１（医療過誤、事故, 手洗い、消毒、片手挿管小テスト）	「鍼灸医療安全ガイドライン」を教科書に鍼灸医療事故、有害事象の防止対策について学習する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
5	５．刺鍼の安全性２（安全性１、ベッドサイドでの注意）	鍼施術前準備として、心構え、態度、服装、手洗い、消毒について教科書を中心に学習する。 ゼリー鍼台での練習を行う。	
		課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
6	６．身体各部への刺鍼１（自身の下腿への刺鍼）	自身の下腿部に刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
7	７．身体各部への刺鍼２（他人の下腿への刺鍼）	他人の下腿部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
8	８．片手挿管テスト　１分間に 8 回行う。 評価として、8 回未満は減点し、8 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
9	９．刺鍼法について学ぶ（捻鍼法、雀啄など）	刺鍼法について講義を行い、ゼリー鍼台によって練習を行う。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
10	１０．身体各部への刺鍼３（他人の腰部への刺鍼）	他人の腰部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （　　〃　　、腰部の安全深度について学習する） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
11	１１．身体各部への刺鍼４(他人の後頚部(項部)への刺鍼)	他人の後頭部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （　　〃　　、後頭部の安全深度について学習する） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
12	１２．身体各部への刺鍼５(他人の前頸部・前胸部への刺鍼)	他人の前頸部・前胸部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （　　〃　　、前頸部・前胸部の安全深度について学習する） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
13	１３．片手挿管テスト　１分間に 12 回行う。 評価として、12 回未満は減点し、12 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
14	１４．授業内試験①（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、前期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
15	１５.授業内試験②（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、前期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
１．授業内試験（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作） ２．授業内テスト①（片手挿管の連続操作　8 回） ３．授業内テスト②（片手挿管の連続操作　12 回） ※２と３における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の 4/5 以上の出席を必要とし、60 点以上で単位認定する。 ※1~３は、到達目標１につて評価する。	１、70% ２、15% ３、15%

授業科目名	基礎鍼実技Ⅰ(鍼灸 B)(Basic Skill Practice for Acupuncture Ⅰ)				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、橋垣　志帆	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

１．鍼による衛生的操作と基本操作を指導する
２．正確かつ安全な刺鍼を指導する
３．自身・他人の体への刺鍼を練習する

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．鍼による衛生的操作と基本実技を理解することができる
２．正確かつ安全な刺鍼を体得することができる
３．自身・他人の体への刺鍼を体得することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．本実習は鍼灸の根幹をなすものであることを認識する。
２．出席は重視する。
３．始業時間には、授業に必要な準備を済ませておく。
４．実習における身なりを整える。特に白衣・名札の着用、頭髪、爪など。
５．実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。
６．肩手挿管の練習及び実技授業の復習を２時間/日行う。
７．鍼実技においては、学内（実習室開放日等を利用）にて教員等の指導下で行う。

教科書

「鍼灸医療安全ガイドライン」　医歯薬出版株式会社
尾崎昭弘・坂本歩・尾崎朋文/鍼灸安全性委員会

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾崎朋文他）
「ポケット鍼灸臨床ガイド」アルテミシア　森ノ宮医療学園出版部
坂本歩

研究室／オフィスアワー

髙﨑：4 階共同研究室／月曜日～　（不定期なため事前に確認が必要）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１.オリエンテーション１(実技室でのマナー、身だしなみ等について、毫鍼について、両手挿管の説明練習、鍼枕見本準備)	レジュメにより、毫鍼各部の名称、規格、材質、などを学習し、両手挿管を練習する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
2	２．オリエンテーション２（両手挿管、片手挿管）	古代九鍼と現在日本で使われている鍼と鍼法を学習し、 パワーポイントにより両手・片手挿管の操作を学ぶ。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
3	３．オリエンテーション３（片手挿管）	「鍼灸基礎実習ノート」を教科書に片手挿管の操作を学び、鍼枕を用いて刺鍼の基本操作を学習する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
4	４．刺鍼の安全性１（医療過誤、事故, 手洗い、消毒、片手挿管小テスト）	「鍼灸医療安全ガイドライン」を教科書に鍼灸医療事故、有害事象の防止対策について学習する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
5	５．刺鍼の安全性２（安全性１、ベッドサイドでの注意）	鍼施術前準備として、心構え、態度、服装、手洗い、消毒について教科書を中心に学習する。 ゼリー鍼台での練習を行う。	
6	６．身体各部への刺鍼１（自身の下腿への刺鍼）	課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。 自身の下腿部に刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
7	７．身体各部への刺鍼２（他人の下腿への刺鍼）	他人の下腿部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
8	８．片手挿管テスト　1分間に8回行う。 評価として、8 回未満は減点し、8 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
9	９．刺鍼法について学ぶ（捻鍼法、雀啄など）	刺鍼法について講義を行い、ゼリー鍼台によって練習を行う。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
10	１０．身体各部への刺鍼３（他人の腰部への刺鍼）	他人の腰部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （　　〃　　、腰部の安全深度について学習する） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
11	１１.身体各部への刺鍼４(他人の後頸部(項部)への刺鍼)	他人の後頭部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （　　〃　　、後頭部の安全深度について学習する） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
12	１２．身体各部への刺鍼５(他人の前頸部・前胸部への刺鍼)	他人の前頸部・前胸部へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （　　〃　　、前頸部・前胸部の安全深度について学習する） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
13	１３．片手挿管テスト　1分間に12回行う。 評価として、12 回未満は減点し、12 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
14	１４．授業内試験①（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、前期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
15	１５.授業内試験②（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、前期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
１．授業内試験（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作） ２．授業内テスト①（片手挿管の連続操作　8 回） ３．授業内テスト②（片手挿管の連続操作　12 回） ※２と３における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の 4/5 以上の出席を必要とし、60 点以上で単位認定する。 ※1~３は、到達目標１につて評価する。	１、70% ２、15% ３、15%

授業科目名	基礎鍼実技Ⅱ(鍼灸 A)（Basic Skill Practice for Acupuncture Ⅱ）				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、橋垣　志帆	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本講義は、前期までの基礎的な刺鍼操作の復習から始まり、現在鍼灸臨床上で主として行われている様々な刺法を習得し、かつ解剖を理解した上で、体表指標から刺鍼点を捉えることが出来るように指導することを目的としている。本講義で行う鍼灸臨床上で主として行われている刺法とは、小児鍼、皮内鍼法である。正しく刺鍼点を捉える練習として、顔面部刺鍼、後仙骨孔刺鍼、坐骨神経刺鍼を指導する。その他、鍼灸臨床上必要な技術として、血圧測定の方法・意義とその修練を行う。また、知識や技術だけでなく、患者に対する適切な態度や配慮・衛生概念も併せて学習する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

１．鍼による基本実技を行える
２．正確かつ安全な刺鍼を体得することができる
３．自身・他人の体への刺鍼を体得することができる
４．各種鍼法の基本を理解し、正しく行うことができる
５．特殊鍼法の基本を理解し、正しく刺鍼することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．本実習は鍼灸の根幹をなすものであることを認識する。
２．出席は重視する。
３．始業時間には、授業に必要な準備を済ませておく。
４．実習における身なりを整える。特に白衣・名札の着用、頭髪、爪など。
５．実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。
６．肩手挿管の練習及び実技授業の復習を２時間/日行う。
７．鍼実技においては、学内（実習室開放日等を利用）にて教員等の指導下で行う。

教科書

「鍼灸医療安全ガイドライン」　医歯薬出版株式会社
尾崎昭弘・坂本歩・尾崎朋文/鍼灸安全性委員会

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾崎朋文他）
「ポケット鍼灸臨床ガイド」アルテミシア　森ノ宮医療学園出版部(坂本歩)

研究室／オフィスアワー

髙﨑：4 階共同研究室／月曜日～　（不定期なため事前に確認が必要）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１．後期試験評価課題・基準説明　血圧測定　片手挿管確認テスト	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管および血圧を測定する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
2	２．人体刺鍼　他人の上肢下肢腰部への刺鍼　硬物通し練習	他人へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
3	３．人体刺鍼　他人の大腿部への刺鍼　　小児鍼削り説明	他人へ基本操作通りに施術する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
4	４．各種鍼法１（皮内鍼入門）	他人へ基本操作通りに施術する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
5	５．各種鍼法２（小児鍼入門）	他人へ正しい方法で操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
6	６．刺鍼練習台を使用し、安全深度の確認	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による刺入方法で安全深度を学ぶ。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
7	７．人体刺鍼（直刺・斜刺）　他人の背部への刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
8	８．片手挿管テスト　1 分間に 13 回行う。 評価として、13 回未満は減点し、13 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
9	９．人体刺鍼　他人の肩部刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
10	１０．人体刺鍼　（横刺）他人の上肢・下肢部の刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
11	１１．人体刺鍼　他人の顔面部刺鍼と腹部刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
12	１２．人体刺鍼　他人の臀部後仙骨孔刺鍼と坐骨神経刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
13	１３．片手挿管テスト　1 分間に 15 回行う。 評価として、15 回未満は減点し、15 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
14	１４．授業内試験①（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、後期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
15	１５．授業内試験②（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、後期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
１．期末試験（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作） ２．期末試験（片手挿管の連続操作　13 回） ３．期末試験（片手挿管の連続操作　15 回） ※２と３における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の 4/5 以上の出席を必要とし、60 点以上で単位認定する。 ※1~３は、到達目標１につて評価する。	1. 70% 2. 15% 3. 15%

授業科目名	基礎鍼実技Ⅱ(鍼灸 B)（Basic Skill Practice for Acupuncture Ⅱ）				
主担当教員	髙﨑　雷太		担当教員	髙﨑　雷太、橋垣　志帆	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本講義は、前期までの基礎的な刺鍼操作の復習から始まり、現在鍼灸臨床上で主として行われている様々な刺法を習得し、かつ解剖を理解した上で、体表指標から刺鍼点を捉えることが出来るように指導することを目的としている。本講義で行う鍼灸臨床上で主として行われている刺法とは、小児鍼、皮内鍼法である。正しく刺鍼点を捉える練習として、顔面部刺鍼、後仙骨孔刺鍼、坐骨神経刺鍼を指導する。その他、鍼灸臨床上必要な技術として、血圧測定の方法・意義とその修練を行う。また、知識や技術だけでなく、患者に対する適切な態度や配慮・衛生概念も併せて学習する。

到達目標

1．鍼による基本実技を行える
2．正確かつ安全な刺鍼を体得することができる
3．自身・他人の体への刺鍼を体得することができる
4．各種鍼法の基本を理解し、正しく行うことができる
5．特殊鍼法の基本を理解し、正しく刺鍼することができる

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．本実習は鍼灸の根幹をなすものであることを認識する。
2．出席は重視する。
3．始業時間には、授業に必要な準備を済ませておく。
4．実習における身なりを整える。特に白衣・名札の着用、頭髪、爪など。
5．実習の際、手足・体幹が出せる準備をしておく。
6．肩手挿管の練習及び実技授業の復習を２時間/日行う。
7．鍼実技においては、学内（実習室開放日等を利用）にて教員等の指導下で行う。

教科書

「鍼灸医療安全ガイドライン」　医歯薬出版株式会社
尾崎昭弘・坂本歩・尾﨑朋文/鍼灸安全性委員会

参考書

「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」　南江堂
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖グループ（尾崎朋文他）
「ポケット鍼灸臨床ガイド」アルテミシア　森ノ宮医療学園出版部(坂本歩)

研究室／オフィスアワー

髙﨑：4 階共同研究室／月曜日～　（不定期なため事前に確認が必要）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１．後期試験評価課題・基準説明　血圧測定 片手挿管確認テスト	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管および血圧を測定する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
2	２．人体刺鍼　他人の上肢下肢腰部への刺鍼 硬物通し練習	他人へ刺鍼の基本操作通りに刺鍼する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
3	３．人体刺鍼　他人の大腿部への刺鍼　　小児鍼削り説明	他人へ基本操作通りに施術する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
4	４．各種鍼法１（皮内鍼入門）	他人へ基本操作通りに施術する。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
5	５．各種鍼法２（小児鍼入門）	他人へ正しい方法で操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う）	
		課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
6	６．刺鍼練習台を使用し、安全深度の確認	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による刺入方法で安全深度を学ぶ。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
7	７．人体刺鍼（直刺・斜刺）　他人の背部への刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
8	８．片手挿管テスト　1 分間に 13 回行う。 評価として、13 回未満は減点し、13 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
9	９．人体刺鍼　他人の肩部刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
10	１０．人体刺鍼　（横刺）他人の上肢・下肢部の刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
11	１１．人体刺鍼　他人の顔面部刺鍼と腹部刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
12	１２．人体刺鍼　他人の臀部後仙骨孔刺鍼と坐骨神経刺鍼	他人へ正しい方法で刺鍼操作行う。 （手洗い、消毒、廃鍼、医療廃棄物の処理を確実に行う） 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
13	１３．片手挿管テスト　1 分間に 15 回行う。 評価として、15 回未満は減点し、15 回を越える回数は加点する。	衛生的な髪型および服装と、正しい方法による片手挿管を評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
14	１４．授業内試験①（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、後期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	
15	１５．授業内試験②（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作）	鍼実技に必要な準備および衛生的操作ほか、後期実技授業の内容を総合に評価する。 課題:練習及び実技授業の予習または復習を２時間/日行う。	

成績評価方法と基準	割合
1．期末試験（一連の刺鍼操作や特殊鍼法・各種鍼法の刺鍼操作） 2．期末試験（片手挿管の連続操作　13 回） 3．期末試験（片手挿管の連続操作　15 回） ※２と３における、片手挿管連続操作の回数に達していない者は、補講授業を必ず受講する。 原則として授業時間数の 4/5 以上の出席を必要とし、60 点以上で単位認定する。 ※1~3は、到達目標１につて評価する。	1．70% 2．15% 3．15%

授業科目名	基礎灸実技Ⅰ(鍼灸 A) (Basic Skill Practice for Moxibustion Ⅰ)				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、熊野　弘子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

きゅう師に必要な灸の基礎実技を知り、正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。施灸技術に習熟するには技術の鍛錬・研鑽が必要であり大切である。散艾から艾?(米粒大、半米粒大など)を作る方法を学び、形状と大きさが均一の艾?を連続作成できるようにする。作り方によって燃焼温度が上下することを理解し、一定の燃焼温度に成るよう艾?の作成技法を習得する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。
散艾から一定の大きさおよび温度の艾?(米粒大、半米粒大など)を作成できる。
一定の速さで艾?に点火できる技術を身につける。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.出席を重視する。
2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
3.宿題は全て提出すること。

教科書

中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版

参考書

教科書執筆小委員会「はりきゅう実技(基礎編)」医道の日本社

研究室／オフィスアワー

研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ひもの作成	復習：ひも作りの作成(2 時間)	松熊、熊野
2	艾?の作成(米粒大)	復習：艾?の作成(米粒大)(1 時間) 課題：ひも作りが出来ること。(1 時間)	松熊、熊野
3	艾?（米粒大）のスムーズな作成	復習：施灸板を用いた施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野
4	艾?（米粒大）のスムーズな作成および点火	復習：施灸板を用いた施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野
5	施灸用紙を用いた、一定時間内での施灸訓練(米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野
6	紙上施灸(米粒大)、板上施灸(半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 (2 時間)	松熊、熊野
7	スピード練習(米粒大)、紙上施灸(半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 (2 時間)	松熊、熊野
8	スピード練習(米粒大、半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 (2 時間)	松熊、熊野
9	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(米粒大、半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
10	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(半米粒大)、小テスト(スピード：米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
11	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、小テスト(スピード：半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
12	小テスト（紙上施灸：米粒大、半米粒大）	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
13	小テスト(スピード、紙上施灸：米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
14	小テスト(スピード、紙上施灸：半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
15	総復習：板上施灸、紙上施灸（米粒大、半米粒大）	復習：板上施灸、紙上施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野

成績評価方法と基準	割合
1.宿題<DP1> 2.授業中に行う小テスト<DP1> 3.定期試験。(ただし、期末試験で 24 点以下のものは不合格とする) <DP1>	1.20% 2.40% 3.40%

授業科目名	基礎灸実技Ⅰ(鍼灸 B) (Basic Skill Practice for Moxibustion Ⅰ)				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、熊野　弘子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

きゅう師に必要な灸の基礎実技を知り、正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。施灸技術に習熟するには技術の鍛錬・研鑽が必要であり大切である。散艾から艾?(米粒大、半米粒大など)を作る方法を学び、形状と大きさが均一の艾?を連続作成できるようにする。作り方によって燃焼温度が上下することを理解し、一定の燃焼温度に成るよう艾?の作成技法を習得する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

正確かつ安全に身体へ施灸することができるよう知識・技能を学修する。
散艾から一定の大きさおよび温度の艾?(米粒大、半米粒大など)を作成できる。
一定の速さで艾?に点火できる技術を身につける。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.出席を重視する。
2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
3.宿題は全て提出すること。

教科書

中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版

参考書

教科書執筆小委員会「はりきゅう実技(基礎編)」医道の日本社

研究室／オフィスアワー

研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ひもの作成	復習：ひも作りの作成(2 時間)	松熊、熊野
2	艾?の作成(米粒大)	復習：艾?の作成(米粒大)(1 時間) 課題：ひも作りが出来ること。(1 時間)	松熊、熊野
3	艾?（米粒大）のスムーズな作成	復習：施灸板を用いた施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野
4	艾?（米粒大）のスムーズな作成および点火	復習：施灸板を用いた施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野
5	施灸用紙を用いた、一定時間内での施灸訓練(米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野
6	紙上施灸(米粒大)、板上施灸(半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 (2 時間)	松熊、熊野
7	スピード練習(米粒大)、紙上施灸(半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 (2 時間)	松熊、熊野
8	スピード練習(米粒大、半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練 (2 時間)	松熊、熊野
9	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(米粒大、半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
10	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、スピード練習(半米粒大)、小テスト(スピード：米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
11	紙上施灸(米粒大、半米粒大)、小テスト(スピード：半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
12	小テスト（紙上施灸：米粒大、半米粒大）	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
13	小テスト(スピード、紙上施灸：米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
14	小テスト(スピード、紙上施灸：半米粒大)	復習：施灸板を用いた、一定時間内での施灸訓練(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練(1 時間)	松熊、熊野
15	総復習：板上施灸、紙上施灸（米粒大、半米粒大）	復習：板上施灸、紙上施灸訓練(2 時間)	松熊、熊野

成績評価方法と基準	割合
1.宿題<DP1> 2.授業中に行う小テスト<DP1> 3.定期試験。（ただし、期末試験で 24 点以下のものは不合格とする）<DP1>	1.20% 2.40% 3.40%

授業科目名	基礎灸実技Ⅱ(鍼灸 A) (Basic Skill Practice for Moxibustion Ⅱ)				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、熊野　弘子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 1 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体への施灸を練習する。身体各部の構造的特徴、施灸方法と注意点を理解し実践する。施灸の簡単な部位から行い、技術の向上に沿って施灸が困難な部位を実施する。また、無痕灸も併せて実施する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

身体各部の構造的特徴と注意点を理解し、お互いに施灸できる。
直接灸および間接灸について理解し、実践することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.出席を重視する。
2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
3.宿題は全て提出すること。

教科書

中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版

参考書

教科書執筆小委員会「はりきゅう実技(基礎編)」医道の日本社

研究室／オフィスアワー

研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	後期の授業内容、評価方法の説明。大腿部への連続施灸の練習。スピードテストの練習。	予習：スピードテストの練習。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
2	乾燥よもぎから艾の作成	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
3	小テスト：スピードテスト（米粒大） 棒灸作り	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
4	小テスト：スピードテスト（半米粒大） 箱灸、温筒灸	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
5	隔物灸	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
6	小テスト：大腿部への連続施灸 透熱灸（下肢）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
7	透熱灸（上肢）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
8	透熱灸（背部）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
9	透熱灸（腹部）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
10	透熱灸（頭部）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
11	小テスト：スピードテスト（米粒大） 糸状灸	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
12	小テスト：スピードテスト（米粒大） 多壮灸	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
13	小テスト：大腿部への連続施灸 知熱灸	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
14	複数の部位への透熱灸 1	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
15	複数の部位への透熱灸 2	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野

成績評価方法と基準	割合
1.宿題<DP1> 2.授業中に行う小テスト<DP1> 3.定期試験。(ただし、期末試験で 29 点以下のものは不合格とする) <DP1>	1.20% 2.30% 3.50%

授業科目名	基礎灸実技Ⅱ(鍼灸 B)（Basic Skill Practice for Moxibustion Ⅱ）				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明、熊野　弘子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜 2 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

人体への施灸を練習する。身体各部の構造的特徴、施灸方法と注意点を理解し実践する。施灸の簡単な部位から行い、技術の向上に沿って施灸が困難な部位を実施する。また、無痕灸も併せて実施する。

※本科目は実務経験のある教員等による授業科目です

到達目標

身体各部の構造的特徴と注意点を理解し、お互いに施灸できる。
直接灸および間接灸について理解し、実践することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.出席を重視する。
2.授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
3.宿題は全て提出すること。

教科書

中村辰三著「お灸入門」医歯薬出版

参考書

教科書執筆小委員会「はりきゅう実技(基礎編)」医道の日本社

研究室／オフィスアワー

研究室 1(東棟 4F)/月曜日 3 限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	後期の授業内容、評価方法の説明。大腿部への連続施灸の練習。スピードテストの練習。	予習：スピードテストの練習。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
2	乾燥よもぎから艾の作成	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
3	小テスト：スピードテスト（米粒大） 棒灸作り	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
4	小テスト：スピードテスト（半米粒大） 箱灸、温筒灸	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
5	隔物灸	予習/復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。(1 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
6	小テスト：大腿部への連続施灸 透熱灸（下肢）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
7	透熱灸（上肢）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
8	透熱灸（背部）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
9	透熱灸（腹部）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
10	透熱灸（頭部）	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
11	小テスト：スピードテスト（米粒大） 糸状灸	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
12	小テスト：スピードテスト（米粒大） 多壮灸	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
13	小テスト：大腿部への連続施灸 知熱灸	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
14	複数の部位への透熱灸 1	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野
15	複数の部位への透熱灸 2	予習：指定された経穴を取穴できること。(0.5 時間) 復習：スピードテストの練習と大腿部への連続施灸の練習。習った内容をスムーズに行なえるようになるまで、何度も練習する。(0.5 時間) 課題：施灸用紙を用いた施灸訓練。(1 時間)	松熊、熊野

成績評価方法と基準	割合
1.宿題<DP1> 2.授業中に行う小テスト<DP1> 3.定期試験。（ただし、期末試験で 29 点以下のものは不合格とする）<DP1>	1.20% 2.30% 3.50%

授業科目名	キャリアデザイン(鍼灸)（Career Designs）				
主担当教員	鍋田　智之		担当教員	鍋田　智之、松熊　秀明	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

大学進学は将来の自分像を考え、ステップアップするための重大な選択である。自身が描いた将来像を実現するために、大学生活を有意義に過ごす必要がある。そのためには、1 年次に明確な将来計画を考え、大学在学中に何をしなければならないかを決める必要がある。自身が考え、実践した結果が社会に求められる人材への成長に繋がり、就職活動とその結果にも結び付く。本授業では、業界研究を通じて自身のキャリアデザインを作成し、社会人として求められる「主体性」「協調性」「論理性」の基礎を身につける。

到達目標

１．本大学を選んだ進路選択理由について自己確認することができる。
２．鍼灸業界の現状と将来性について理解し、業界研究を通じて自分のキャリアデザインを作成できる。
３．自己分析を通じて自分自身を知り、自己変革に繋げることができる。
４．社会人としてのマナーや態度を理解し、大学生活における生活習慣を身に付けることができる。
５．目標とする資格について理解し、大学生活における学習目標を明確にすることができる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．大学生活を有意義に過ごすだけでなく、卒業後の将来計画にも関係する科目であることを理解する。
２．社会人へのステップとして、大学では自ら情報を収集し、整理、報告しなければならないことを理解し、主体的に取り組むこと。
３．グループワークでは、互いの考えを尊重するとともに、自分の意見を相手に説明する力が必要となる。
４．自分のキャリアデザインについては、家族や周囲の助言を受けつつも、自分自身が考えて決めなければいけないことを理解すること。
５．業界セミナーについては、講師の都合により日程が予定と異なる場合がある。この場合、講義順序の変更を行うことがある。

教科書

特にありません。

参考書

授業時に紹介します。

研究室／オフィスアワー

教員の研究室で対応する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション グループワーク「鍼灸学科を選択した理由と将来の目標」 各自 3 分間の発表	「鍼灸学科を選択した理由と将来の目標」について、指定の用紙に記入して持参すること。(2 時間)	
2	図書館セミナー 図書館利用方法、WEB による文献検索、収集方法について	医療の諸問題について」のグループワーク、レポート作成のために、学習した情報収集作業を駆使して準備すること。(2 時間)	
3	社会人・医療人としてのマナーと態度 自己分析と自己アピール グループワーク	自分の長所、短所について各 10 種類列記し、それぞれ事例をもってアピールできるように準備してくること。(2 時間) 社会人・医療人としてのマナーを心掛けて学生生活を送ること。	
4	鍼灸学科のカリキュラムと履修モデル	学生手帳のカリキュラムや授業に関する項目を読んでくること。(2 時間)	
5	鍼灸師資格とその他の資格との関連について 専門性の高い資格・技術の応用範囲について	興味をもった資格情報を自身で調査すること。(2 時間)	
6	業界セミナー１ 「鍼灸業界団体」	興味を持った内容について、WEB などを用いて情報を収集すること。(2 時間)	
7	業界セミナー２ 「スポーツ鍼灸」	興味を持った内容について、WEB などを用いて情報を収集すること。(2 時間)	
8	業界セミナー３ 「美容鍼灸」	興味を持った内容について、WEB などを用いて情報を収集すること。(2 時間)	
9	業界セミナー４ 「治療院の役割」	興味を持った内容について、WEB などを用いて情報を収集すること。(2 時間)	
10	業界研究① WEB による業界情報の収集	自身の目指す将来構想をまとめてくること。 授業で調べた希望する業界情報を整理してくること。(2 時間)	
11	業界研究② WEB による業界情報の収集 求人情報の閲覧 勤務希望地域、アクセス、希望条件の検討	架空でよいが、希望する就職条件を考えてくること。 授業で調査した結果をレポートにまとめること。(2 時間)	
12	業界研究結果に関するグループワーク	同じ目標を持つ者同士で業界の現状、目指す資格、求められる技術、在学中のプラン、就職活動についてまとめ、次回の発表用のパワーポイントなどプレゼンテーションの準備をすること。(2 時間)	
13	業界研究結果に関するグループ発表 パワーポイントによる発表	同じ目標を持つ者同士で業界の現状、目指す資格、求められる技術、在学中のプラン、就職活動についてまとめ、次回の発表用のパワーポイントなどプレゼンテーションの準備をすること。(2 時間)	
14	業界研究結果に関するグループ発表 パワーポイントによる発表	履歴書を作成するための基礎情報を整理してくること。 自身の考えるキャリアプランについて、保護者と話してくること。(2 時間)	
15	履歴書の記載。 キャリアデザインの作成と提出	面接試験のトレーニングを行うこと。(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
①業界研究レポート<DP2,3,4> ②履歴書・キャリアプラン<DP2,3,4> ③面接実技試験<DP2,3,4> 上記の総合評価の結果、60 点以上で単位認定する。	①20% ②20% ③60%

授業科目名	スポーツ実習Ⅰ体つくり運動(鍼灸スポーツ)（Sports PracticeⅠ【Basic Exercise】）				
主担当教員	佐野　加奈絵		担当教員	佐野　加奈絵	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
本授業では、自己の身体に関心を持ち、体力・運動能力に関する課題をもって体をほぐし、体力を高めることを目的とする。特に、ウォーミングアップやクーリングダウンに関する基礎的な知識を習得することや多様なストレッチングの特徴を理解することを目的とする。
到達目標
・自己の身体の特徴を把握し、それに応じた体つくり運動を実践できるようにする（DP①）。 ・科学的根拠に基づき、適切なストレッチングを選択し、ウォーミングアップやクーリングダウンを行える能力を養う（DP①）。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
諸事情により、授業を見学する際もスポーツウェアに着替えてください。
教科書
文部科学省「中学校学習指導要領解説　保健体育編」東山書房、2017 年 文部科学省「高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編」東山書房、2009 年
参考書
細江文利編「動きの『感じ』と『気づき』を大切にした体つくり運動の授業づくり」教育出版、2011 年
研究室／オフィスアワー
東棟 4F　月曜 AM9:00-16:00
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	体つくり運動の意義と目的	予習：　シラバスの確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
2	ストレッチングの種類と特性	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
3	ストレッチングの目的と効果	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
4	ストレッチングの実際	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
5	ストレッチング実施上のポイントと注意点	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
6	ウォーミングアップとクーリングダウンとは？	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
7	ウォーミングアップとクーリングダウンの目的と効果	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
8	ウォーミングアップとクーリングダウンの実際	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
9	ウォーミングアップとクーリングダウンの注意点	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
10	体ほぐしの運動①　自分や仲間の体や心の状態の確認	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
11	体ほぐしの運動②　体の状態を整える運動	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
12	体ほぐしの運動③　仲間と交流を豊かにするための運動	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
13	体力を高める運動①　調整力	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
14	体力を高める運動②　筋力	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	
15	体力を高める運動③　持久力	予習：　学習指導要領の確認. 復習：　配布プリント，キーワードの確認.	

成績評価方法と基準	割合
①指導案 20%、②授業への取り組み 50%、③課題レポート 30%で評価する（DP①）。	①20% ②50% ③30%

授業科目名	スポーツ実習Ⅲ陸上競技(鍼灸スポーツ)（Sports Practice Ⅲ【Track and Field】）				
主担当教員	濱口　幹太		担当教員	濱口　幹太	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 2 限 月曜 3 限 月曜 4 限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

本授業は教職課程認定科目の一つであり，中高体育科教育を教授するに足る専門的知識および技能を修得することを一目標とする。受講生が，陸上競技における正しい記録測定の方法と実技中の安全対策を学修するとともに，技能向上に積極的に取り組み，記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体感することを期待する。
高等学校学習指導要領に基づき，トラック種目として 100m，400m，リレー，50mハードル及び 2000m競争を，フィールド種目として跳躍種目は走り幅跳び，走り高跳び及び三段跳びを，投てき種目は砲丸投げとやり投げ（ターボジャブ使用）の計 10 種目の記録測定を実施する。

到達目標

本授業の学修目標は以下の 3 点とする。
1）受講生自身が教育現場で見本をみせられるよう，各種目の基本的および効率の良い動きを身につけることができるようにする。<DP①③>
2）陸上競技のルールやマナーを理解し記録測定を正確に実施できるようにする。<DP①③>
3）陸上競技各種目の技術の名称や特有の動きのポイント，体力の高め方，運動観察の方法を理解するとともに，安全性に配慮できるようにする。<DP①③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１回の授業で，複数の種目を組み合わせて練習や記録測定を実施するため，以下の授業計画表のまま実施しない（詳細はオリエンテーションにおいて）。
なお，天候，気温により計画等を変更する場合もある。雨天に備え，傘やタオルや着替用衣服など各自用意しておくこと。
陸上競技の面白さの大部分は，自己記録の更新と相手記録との競争にある。
毎週，より高い記録を出すため研究，創意工夫，準備して授業に臨んでほしい。

ランニングシューズとジャージの着用は必須。
詳細は１週目オリエンテーションにて。

教科書

特になし

参考書

日本陸連　公式サイト　陸上競技ルールブック　　http://www.jaaf.or.jp/athlete/rule/

研究室／オフィスアワー

履修上の相談等は，PC メールアドレス　12448@mwu.jp へメールをお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション（授業の進め方，各種目の記録測定および記録の点数化についての説明，ウォーミングアップの実施）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
2	短距離走 100m（正しいランニングフォームのための練習。スタートダッシュ～加速～中間走～フィニッシュまでの流れを学修する。練習 50m走の記録測定方法など）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
3	短距離走 400m（特に中間走の高いスピードを維持して走ることをねらう）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
4	ハードル走①（インターバルを 3 歩でリズミカルに走る。ハードルを低く走り越す）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
5	ハードル走②（振り上げ脚を振り下ろしながら抜き脚を素早く前へ引き出す。50m走とハードル走とのタイム差からハードリング技能を検証）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
6	リレー　4×100m（4 名の 100m走の合計タイムをおおよそ揃えてチーム分けし，バトンパス練習をする）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
7	長距離走 2000m（自己に適したペースを維持して走ること。ほぼ毎授業，持久走の練習は実施する。）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
8	走り幅跳び　（スピードに乗った助走と力強い踏切，空中動作から効率良い着地動作まで）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
9	走り高跳び（ベリーロールの修得。はさみ跳びから背面跳びへの移行。用具の安全性への配慮）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
10	三段跳び（ホップ・ステップ・ジャンプの一連の身体の使い方）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
11	砲丸投げ（サイドステップやグライドからの投出し速度の獲得。事故防止などの安全対策）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
12	やり投げ（クロスステップから投出し速度の獲得。事故防止などの安全対策）	学修内容について予習（種目のルール，動画）（1 時間）	
13	希望種目の記録更新への再トライアル（トラック種目）	ルールおよび測定方法の復習（1 時間）	
14	希望種目の記録更新への再トライアル（跳躍種目）	ルールおよび測定方法の復習（1 時間）	
15	希望種目の記録更新への再トライアル（投てき種目）	ルールおよび測定方法の復習（1 時間）	

成績評価方法と基準	割合
1. 技能点（測定記録を得点化し，短距離走，跳躍，投てきおよび長距離走の計 10 種目の平均点）<DP①③> 2. レポート<DP①③> を評価の対象とする。	1. 80% 2. 20%

授業科目名	スポーツ実習Ⅴダンス(鍼灸スポーツ)（Sports Practice Ⅴ【Dance】）				
主担当教員	山口　晏奈		担当教員	山口　晏奈	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

心身の健康に役立つ幅広いダンスの指導ができるよう、本実習では楽しみながら行えるスポーツの 1 つであるエアロビックダンスを中心に、その特性を理解し基礎技術を学修する。対象者に応じた安全で効果的なダンスプログラムの作成と指導法を学ぶ。また、各種ダンスで身体表現や創作法を学び、グループワークによる作品づくり・発表を通し、創作力とコミュニケーション力を養うダンス指導についても学修する。

到達目標

①ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身につける。
②共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身につける。
③教育現場等での指導力をみにつける。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教育研究の目的として、ビデオ撮影を行う場合があります。撮影にあたっては、学生の権利・名誉を侵害することのないよう充分配慮します。

教科書

なし

参考書

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康・体力づくり事業財団）
中学校・高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（文部科学省）

研究室／オフィスアワー

質問・相談はメールで受け付けております。
問い合わせ：u214093@ouhs.ac.jp

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス，ダンスとは何か？	予習：シラバスの確認 復習：シラバス・学習指導要領を確認	
2	エアロビックダンス：特性と効果 ダンス：仲間と関わり合うリズムダンス	予習：ダンスの特性を考える 復習：授業をもとにキーワードを確認	
3	エアロビックダンス：音楽について ダンス：基本動作の習得	予習：ダンスの音楽を探す 復習：授業をもとに音楽・リズムの確認	
4	エアロビックダンス：プログラムとは？ ダンス：日常動作からの動きの探求	予習：音楽を用いた基本的な動きを考える 復習：授業をもとにプログラムを確認	
5	エアロビックダンス：運動強度 ダンス：仲間と関わる動きの探求	予習：運動強度を調節する方法を考える 復習：授業をもとに授業内容を確認	
6	エアロビックダンス：基本ステップ１ ダンス：イメージと動きについて	予習：基本ステップを考える 復習：授業をもとに基本ステップを確認	
7	エアロビックダンス：基本ステップ２ ダンス：創作法①テーマと音楽	予習：基本ステップの応用を考える 復習：授業をもとに基本ステップを確認	
8	エアロビックダンス：指導者の役割 ダンス：創作法②動きの大きさと強弱	予習：プログラム作成と指導練習 復習：授業をもとに指導内容を確認	
9	エアロビックダンス：プログラム作成１ ダンス：創作法③群の動きと構成展開	予習：担当プログラムの作成と指導練習 復習：授業をもとにプログラム内容を確認	
10	エアロビックダンス：プログラム作成２ ダンス：動きのイメージについて	予習：担当プログラムの作成と指導練習 復習：授業をもとにプログラム内容を確認	
11	リハーサル	予習：グループ発表に取り組む 復習：授業をもとにダンスと授業内容を確認	
12	創作ダンス発表会	予習：グループ発表に取り組む 復習：授業をもとにダンスと授業内容を確認	
13	ビデオ鑑賞	予習：作品の内容について思い出しておく 復習：発表について評価シートで採点を行う	
14	ダンス指導の実際１	予習：ダンス創作と指導練習 復習：授業をもとに指導内容を確認	
15	ダンス指導の実際２	予習：ダンス創作と指導練習 復習：授業をもとに指導内容を確認	

成績評価方法と基準	割合
①平常点 ②授業内発表 ③レポート提出 DP①③	①50% ②20% ③30%

授業科目名	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学演習Ⅰ(ﾚｼﾞｽﾀﾝｽｴｸｻｻｲｽﾞ1)(鍼灸スポーツ)				
主担当教員	信江　彩加		担当教員	信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

トレーニング科学および身体運動学等の学問分野に関する基本的な知識をベースとして、本演習では、バーベルやダンベルなどのフリーウェイト・マシン機器を用いた最大筋力の評価や、パワー、筋持久力、全身持久力、柔軟性などの体力指標の評価を行い、そこで得られたデータを基にスポーツ種目、個人に応じたスポーツ・レジスタンス系エクササイズトレーニングプログラムの作成に取り組む。

到達目標

・科学的なトレーニングに関する理論とその実践方法について学習する。〈DP①〉
・レジスタンストレーニングに関する基礎理論をベースとして、安全で科学的なトレーニングを実践、指導できる能力を身につける。〈DP①③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

服装について
教員からの指示がない限り、トレーニング用シャツ・パンツ・シューズは毎週持参し、更衣した後、授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業の進行に応じて都度教示します。

研究室／オフィスアワー

E棟４階研究室３/ 原則月曜日３時限目・４時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	トレーニング科学理論の概略	健康づくりとレジスタンス運動 予習・復習各２時間	
2	レジスタンストレーニングの基礎理論（１）	トレーニングの目的 予習・復習各２時間	
3	レジスタンストレーニングの基礎理論（２）	身体特性の評価 予習・復習各２時間	
4	レジスタンストレーニングの応用展開（１）	最大有酸素能力向上のための条件 予習・復習各２時間	
5	レジスタンストレーニングの応用展開（２）	最大無酸素性能力向上のための条件 予習・復習各２時間	
6	レジスタンストレーニングの応用展開（３）	最大筋力・筋パワー・筋持久力向上のための条件 予習・復習各２時間	
7	レジスタンストレーニングの実践	自重や身近な用具を使ったトレーニングの実際 インターバルトレーニングやサーキットトレーニングの実際 予習・復習各２時間	
8	トレーニング適応の効果と適応	呼吸・循環・代謝及び筋骨格系の形態及び機能のトレーニング適応変化 予習・復習各２時間	

成績評価方法と基準	割合
成績の評価は原則として４／５以上出席した者を対象とし、①課題レポート（70 点）〈DP①〉と②演習内容に取り組む姿勢や理解度（30 点）〈DP①③〉を総合的に評価する。	①70% ②30%

授業科目名	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学演習Ⅱ(ｴｱﾛﾋﾞ・ｳｫｰｷﾝｸﾞ・ｼﾞｮｷﾞﾝｸﾞ)(鍼灸スポーツ)				
主担当教員	折田　真弓		担当教員	折田　真弓	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限 月曜５限
授業形態	演習	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

運動（スポーツ）トレーニングを実施する目的は、競技力向上、健康増進、筋力・持久力向上、ダイエット等、実施する個人によって多種、多様である。本演習では、有酸素系エクササイズを演習プログラムの一環として取り入れ、主に有酸素代謝機能の向上やダイエットを目的とする効果的なトレーニング方法の理論と実践を体験学習できるような授業を展開する。また、健康体力に関する測定、講義も行いトレーニング科学および運動生理学等の学問分野に関する基礎的な知識を養う。

到達目標

・エアロビックエクササイズの運動効果を理解し、安全に実践できる。
・ウォーキングとジョギングの特性と効果を理解し説明できる
・対象者に応じた効果的な運動プログラムの作成と、安全な運動指導ができる。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業内で説明

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書

健康運動実践指導者養成用テキスト（健康体力づくり事業財団）

研究室／オフィスアワー

なし

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	健康づくりとエアロビックエクササイズ	予習：シラバスの確認 復習：授業をもとにシラバス・プリントの確認	
2	ウォーキングの運動効果と特性	予習：健康ウォーキング法について考える 復習：授業をもとにシラバス・プリントの確認	
3	ウォーキング測定、歩行速度・歩幅・歩数・心拍数	予習：運動プログラムを考える 復習：測定結果をもとに歩行分析をする	
4	ウォーキングのプログラム作成・フォーム・指導上の留意点	予習：運動プログラムを考える・指導練習 復習：授業をもとにプリント・指導内容の確認	
5	エアロビックエクササイズの実践指導１	予習：運動プログラムを作成する・指導練習 復習：指導の自己評価を行う	
6	ジョギングの運動効果・指導上の注意点	予習：ウォーキングとジョギングの違いについて考える 復習：授業をもとにプリント・指導内容の確認	
7	ジョギング測定、心拍数、ＲＰＥ、プログラム作成	予習：運動プログラムを考える・指導練習 復習：測定結果を分析する	
8	エアロビックエクササイズの実践指導２	予習：運動プログラムを作成する・指導練習 復習：指導の自己評価を行う	

成績評価方法と基準	割合
①授業に取り組む姿勢や態度（積極性、協調性）、参加、貢献の程度（７０%） ②技能の理解、習熟度、運動能力の水準、およびレポート（３０%）をそれぞれ評価する。 ４／５以上の出席が必要。DP①③	①70% ②30%

授業科目名	体力トレーニング論(鍼灸スポーツ)（Physical Training Studies）				
主担当教員	信江　彩加		担当教員	信江　彩加	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本講義では、体力トレーニングに関連する機能解剖学や運動生理学などについて、講義形式にて学びを深める。トレーニングによる組織や器官（器官系）の構造的・機能的変化やそれに伴う生理機能の変化などについて学ぶとともに、各種トレーニングの効果について最新の学術的根拠についても解説する。また各種トレーニングを実践するとともに、安全かつ効果的なトレーニング方法の取得と指導方法などについても学ぶ。さらに目的に応じたトレーニングプログラム作成が可能となるよう授業を進めていく。

到達目標

１．体力・トレーニングに関連した機能解剖学・おうよう・トレーニング科学を理解する。
２．安全かつ効果的なトレーニングの実践および指導が可能となる。
３．目的に応じたトレーニングプログラムの作成が可能となる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．実技を実施するので動きやすい服装および室内履きを準備すること。
２．実技では得手不得手は問わないので積極的に参加すること。

教科書

特になし。必要に応じてプリントなどを配布する。

参考書

『体力トレーニングの理論と実際』その他、必要に応じて提示する

研究室／オフィスアワー

火曜日 9:00～11:00：教室または非常勤講師室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス/体力トレーニング論とは	予習：シラバスの確認 復習：体力の定義について確認	
2	体力トレーニングの科学的基礎１	予習・復習：トレーニング原理・原則について 事前にまとめ、再確認する	
3	体力トレーニングの科学的基礎２	予習：骨学・関節学・筋学について確認 復習：運動器の解剖学についてまとめる	
4	体力トレーニングの科学的基礎３	予習：運動生理学の基礎を確認 復習：キーワード・重要語句の確認	
5	ウォーミングアップ・クーリングダウン	予習：ストレッチングの各種形態をまとめる 復習：自身の競技特性を考慮し応用する	
6	レジスタンストレーニング１（実習）	予習：上半身の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する	
7	レジスタンストレーニング２（実習）	予習：下半身の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する	
8	レジスタンストレーニング３（実習）	予習：体幹の機能解剖学について確認 復習：自身の目的に応じて応用実践する	
9	パワー・スピード系トレーニング（実習）	予習：オリンピックリフトについて理解 復習：指定メディアを通じてポイントを確認	
10	有酸素系トレーニング１（実習）	予習：呼吸・循環器機能について確認 復習：キーワード・重要語句の確認	
11	有酸素系トレーニング２（実習）	予習：サーキットトレーニングをまとめる 復習：指定参考書の確認	
12	ピリオダイゼーション（期分け）とは	予習：子どもの発育・発達について理解 復習：課題について考察し次週提出	
13	トレーニングプログラムの作成	予習：球技系競技の特性について理解 復習：課題について考察し次週発表する	
14	トレーニングプログラムの指導	予習：グループ発表について取り組む 復習：発表について自己評価する	
15	体力トレーニングにおける安全対策	予習：CPR/RICE 処置を確認しておく 復習：臨床での応用を自己でまとめる	

成績評価方法と基準	割合
１．原則３分の２以上の出席者を評価の対象とする。 ２．授業への参加度：50% ・ グループ発表：40% ・ 授業内レポート 10% ３．授業への参加度とは、得手不得手に関わらない能動的な実技への参加と、講義において教員からの質問に対する論理的かつ積極的な発言などを評価する。	2-1:50 2-2:40 2-3:10

鍼灸学科　教職課程

（2012 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	保健体育科教育法Ⅰ(教職課程:鍼灸)(Teaching Method for Health and Physical Education Ⅰ)				
主担当教員	小川　千枝		担当教員	小川　千枝、老田　準司	
科目ナンバリング	SE613	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

学校体育の制度，体育科教育の目標と内容および指導理論を講義形式で学ぶ。また，単元計画および学習指導案を作成し，模擬授業において実践する。

到達目標

学校体育の制度，体育科教育の目標内容および指導理論を理解し，特に高等学校の生徒を対象にした的確な単元計画および学習指導案を作成できるようにする。また，学習指導案に沿った授業を展開できるようにする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢で授業に取り組んでください。

教科書

・高橋建夫＋岡出美則＋友添秀則＋岩田靖　編著「体育科教育学入門」　大修館書店
・日本保健科教育学会　編「保健科教育法入門」 大修館書店
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）　解説　保健体育編」　東山書房
・文部科学省「高等学校学習指導要領　解説　保健体育編・体育編」(出版され次第)

保健体育科教育法ⅠからⅣで通して使用します。

参考書

授業内において指示を出します

研究室／オフィスアワー

月～金曜日

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学習指導要領と学校体育のカリキュラムについて（目標，内容，構造，制度）	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。（1 時間 1 時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
2	体育授業の学習指導論１（教材，教具，学習指導論）	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
3	体育授業の学習指導論２（学習指導，学習形態）	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
4	体育授業の指導方略と指導技術	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
5	高等学校体育授業の単元計画および学習指導案の立案	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。（1 時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
6	高等学校学習指導要領における各領域の内容および評価規準の理解と教材研究１（体づくり運動，器械運動，陸上競技）	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
7	高等学校学習指導要領における各領域の内容および評価規準の理解と教材研究２（水泳，球技）	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
8	高等学校学習指導要領における各領域の内容および評価規準の理解と教材研究３（武道，ダンス，体育理論）	予習：文部科学省のホームページをチェックし，公示された学習指導要領および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
9	学習指導案作成	予習：授業プリントおよび各競技種目の指導書を用いて，教材研究をしておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
10	模擬授業１	模擬授業の準備をしておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
11	模擬授業２	予習：前時の内容を考察し、模擬授業の準備をする。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
12	模擬授業３	予習：前時の内容を考察し、模擬授業の準備をしておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
13	模擬授業４	予習：前時の内容を考察し、模擬授業の準備をしておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
14	模擬授業の振り返りと改善点の検討，学習指導案の修正１	予習：模擬授業についてより深く、考察をしておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
15	模擬授業の振り返りと改善点の検討，学習指導案の修正２	予習：学習指導案や模擬授業について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝

成績評価方法と基準	割合
・授業内レポート（教材研究） ・期末レポート（学習指導案および単元計画）	30% 70%

授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ(教職課程:鍼灸)（Teaching Method for Health and Physical Education Ⅱ）				
主担当教員	小川　千枝		担当教員	小川　千枝、老田　準司	
科目ナンバリング	SE614	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

学校教育（主に高等学校）における保険課教育の学習内容を理解したうえで，高等学校での保健科学習に見合った的確な単元計画および学習指導案を立案する。また，立案した学習指導案にそって模擬授業を行う。

到達目標

学校教育（主に高等学校）における保健科教育の学習内容および評価規準を理解し，適切な単元計画および学習指導案を立案できるようになる。また，立案した指導案にそって授業を行うことができるようになる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢で授業に取り組んでください。

教科書

・高橋建夫＋岡出美則＋友添秀則＋岩田靖　編著「体育科教育学入門」　大修館書店
・日本保健科教育学会　編「保健科教育法入門」 大修館書店
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）　解説　保健体育編」　東山書房
・文部科学省「高等学校学習指導要領　解説　保健体育編・体育編」(出版され次第)

保健体育科教育法ⅠからⅣで通して使用します。

参考書

授業内で指示を出します

研究室／オフィスアワー

月曜～金曜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学校教育における保健科教育の位置づけ（カリキュラム，目標）	予習：文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。（1 時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
2	高等学校「保健」における学習目標の理解，単元計画および学習指導案の立案方法	予習：文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
3	保健の授業における教材，教具	予習:文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
4	保健の授業スタイル，指導方法	予習：文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
5	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規準の理解と教材研究１	予習：文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
6	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規準の理解と教材研究２	予習：文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
7	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規準の理解と教材研究３	予習：文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
8	高等学校学習指導要領における「保健」の各領域の学習内容および評価規準の理解と教材研究４	予習：文部科学省のホームページにアクセスし，公示された学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝 老田準司
9	単元計画および学習指導案の作成	予習：週授業内の資料および各競技種目の指導教本等を参照し，教材研究をしておく。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
10	模擬授業１	予習：前時の内容を考察し、模擬授業の準備をしておく。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
11	模擬授業２	予習：前時の内容を考察し、模擬授業の準備をしておく。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
12	模擬授業３	予習：前時の内容を考察し、模擬授業の準備をしておく。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
13	模擬授業４	予習：前時の内容を考察し、模擬授業の準備をしておく。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
14	模擬授業の振り返りと改善点の検討，学習指導案の修正	予習：前時の内用を考察し、模擬授業の改善点を検討しておく。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝
15	模擬授業の振り返りと改善点の検討および学習指導案の修正２	予習：学習指導案及び模擬授業の改善点を検討しておく。（１時間） 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	小川千枝

成績評価方法と基準	割合
授業内レポート（教材案） 期末レポート（単元計画，学習指導案）	３０％ ７０％

授業科目名	保健体育科教育法Ⅲ(教職課程:鍼灸)（Teaching Method for Health and Physical Education Ⅲ）				
主担当教員	小川　千枝		担当教員	小川　千枝	
科目ナンバリング	SE615	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	中一種免のみ必修

授業概要
中学校保健体育科（体育分野）の目標，内容，指導理論，授業方法を講義形式で行い，実際の授業を想定した単元計画および学習指導案を立案し，模擬授業を行う。
到達目標
中学校保健体育科（体育分野）の目標，内容，評価規準，指導理論を十分に理解することができる。また，実際の授業を想定した単元計画および学習指導案を立案し，模擬授業において実践する。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢で取り組んでください。
教科書
・高橋建夫＋岡出美則＋友添秀則＋岩田靖　編著「体育科教育学入門」　大修館書店 ・日本保健科教育学会　編「保健科教育法入門」 大修館書店 ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）　解説　保健体育編」　東山書房 ・文部科学省「高等学校学習指導要領　解説　保健体育編・体育編」(出版され次第) 保健体育科教育法ⅠからⅣで通して使用します。
参考書
授業内で指示を出します。
研究室／オフィスアワー
授業日の非常勤講師控え室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中学校体育の目標，内容，評価規準，構造，制度	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
2	中学校体育の授業づくり１（教材，教具および評価規準）	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
3	体育の授業づくり２（単元計画，学習指導案）	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
4	体育授業における指導論（学習形態，教師行動，指導技術）	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
5	学習指導要領における各領域の内容及び評価基準の理解と教材研究１（体つくり運動，器械運動，陸上競技）	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
6	学習指導要領における各領域の内容及び評価基準の理解と教材研究２（水泳，球技）	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
7	学習指導要領における各領域の内容及び評価基準の理解と教材研究３（武道，ダンス，体育理論）	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
8	指導案の作成，模擬授業の意義	授業内の資料および各競技種目の実技指導書を参考にし，教材研究をしておくこと。	
9	模擬授業１	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
10	模擬授業２	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
11	模擬授業３	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
12	模擬授業４	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
13	模擬授業５	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
14	模擬授業の振り返りおよび改善策の検討と指導案の修正	模擬授業を振り返り，反省点を挙げておく。	
15	模擬授業の振り返りおよび改善点の検討と学習指導案の修正	模擬授業を振り返り，反省点を挙げておく。	

成績評価方法と基準	割合
授業内レポート（教材案） 期末レポート（単元計画，学習指導案）	３０％ ７０％

授業科目名	保健体育科教育法Ⅳ(教職課程:鍼灸)（Teaching Method for Health and Physical Education Ⅳ）				
主担当教員	小川　千枝		担当教員	小川　千枝	
科目ナンバリング	SE616	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	中一種免のみ必修

授業概要

保健科教育の目標，内容指導理論，授業方法を講義形式で学習し，実際の授業を想定した単元計画および学習指導案を立案し，模擬授業をおこなう。

到達目標

中学校保健体育（保健分野）の目標，内容（評価規準），指導理論を理解し，的確な単元計画および学習指導案を立案できるようになる。また，学習指導要領に沿った授業を展開できるようになる（模擬授業ができる）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教員免許取得のための授業です。積極的な姿勢で取り組んでください。

教科書

・高橋建夫＋岡出美則＋友添秀則＋岩田靖　編著「体育科教育学入門」　大修館書店
・日本保健科教育学会　編「保健科教育法入門」 大修館書店
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）　解説　保健体育編」　東山書房
・文部科学省「高等学校学習指導要領　解説　保健体育編・体育編」(出版され次第)

保健体育科教育法ⅠからⅣで通して使用します。

参考書

授業内で指示を出します

研究室／オフィスアワー

授業日の非常勤講師控え室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	保健科教育と健康教育	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
2	中学校における保健科教育の位置づけ	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
3	学習指導要領における中学校保健分野の目標と評価規準	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
4	中学校保健授業における単元計画，学習指導案の立案方法（教材，教具論）	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。	
5	「（１）健康な生活と疾病予防」の学習内容・評価規準の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみること。	
6	「（２）心身の機能の発達と心の健康」の内容・評価基準の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみること。	
7	「（３）障害の防止」の学習内容・評価規準の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみること。	
8	「（４）健康と環境」の学習内容・評価規準の理解と教材研究	文部科学省のホームページにアクセスし，公示されている学習指導要領（保健体育編）および中央教育審議会の答申に目を通しておくこと。各領域に関わりそうなトピックスをチェックしてみること。	
9	単元計画および学習指導案の作成	各領域の健康課題に関するトピックスを用いて，教材研究をしておくこと。	
10	模擬授業１	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
11	模擬授業２	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
12	模擬授業３	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
13	模擬授業４	模擬授業の準備を綿密に行うこと	
14	模擬授業の振り返り，改善点の検討，指導案の修正	模擬授業を振り返り，反省点を挙げておく。	
15	模擬授業の振り返り，改善策の検討，指導案の修正	模擬授業を振り返り，反省点を挙げておく。	

成績評価方法と基準	割合
授業内レポート（教材案）	30%
期末レポート（単元計画，学習指導案）	70%

授業科目名	教育方法論(教職課程:鍼灸)（Studies of Teaching Methods）				
主担当教員	阿部　秀高		担当教員	阿部　秀高	
科目ナンバリング	SE619	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

国内外の教育方法についての諸理論や実践記録等の検討を通して，これからの時代に求められる学力等を育成する方法について学ぶとともに，実際の学校における，教育課程編成の理論と方法，指導と評価の計画の作成等について考える。授業は，ペアやグループなどによる活動を重視する。

到達目標

学校における教育課程を編成，展開する教育方法についての基礎的基本的な内容を学び，教育方法の技術の基礎を身に付けることを目標とする。あわせて，学生自身が受けてきた授業を相対化することによって，教育方法を柔軟に捉え直すことを目指す。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

毎回の課題に対して自分の学びをレポートすることによって、教育方法や技術に対する理解を深め、日常生活において活用してもらいたい。

教科書

人間教育を実践する教師への道－インクルーシブ教育方法論－ 阿部秀高著　（株）ERP

参考書

授業中必要に応じて提示します。

研究室／オフィスアワー

東棟 20 研究室／在室時随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育内容と教育方法 生徒に何を（教育内容）どのように（教育方法）教えるのかをその一連の過程における原理と方法を学ぶための導入を行う。	予習：「教育方法」の意味について調べておく。（2 時間） 復習：学んだ教育の原理・方法を簡潔にまとめる。（2 時間）	
2	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための教育方法 学力の重要な要素の一つである基礎的・基本的な知識及び技能を育成する教育方法について学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：授業、課外活動などに必要な基礎的・基本的知識技能について学んだことをまとめる。（2 時間）	
3	思考力・判断力・表現力等を育むための教育方法 学力の重要な要素の一つである思考力・判断力・表現力等を育成する教育方法について学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：学習指導要領の３本柱の中心である思考力・判断力・判断力の内実、関係をまとめる。（2 時間）	
4	主体的に学習に取り組む態度を養うための教育方法 学力の要素の一つである主体的に学習に取り組む態度，学習意欲を高める教育方法について学ぶ。	学習意欲の喚起、主体的な学びができた場面を想起しておく。 今回のポイントを 800 字程度でレポートする。（課題） 予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
5	個性を生かす教育の充実を図るための教育方法 個に応じた指導の充実など，現在求められている指導の工夫改善等について幅広く考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：求められている指導の工夫改善について簡潔にまとめる。（2 時間）	
6	生徒理解の方法と実践 生徒理解の重要性と教育相談のあり方、人間関係の構築の方法などについて学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：生徒指導や相談について経験を想起しておく。生徒理解の重要性について自分の考えをまとめる。（2 時間）	
7	これからの時代に求められる能力と教育方法 学習指導要領の理念である生きる力や，21 世紀に求められるスキル等を育成する教育の実践について考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習:「生きる力」とは？について考えをまとめておく。これから求められる教育実践の方向性についてまとめる。（2 時間）	
8	教育課程編成の理論と方法 学習指導要領に基づいた，各学校における教育課程編成の実際について学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：教育課程の編成について学んだことをまとめる。（2 時間）	
9	年間の指導と評価の計画の作成方法 各学校の教育課程に基づく具体的な年間の指導と評価の計画の作成について考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：年間指導計画作成の重要性についてまとめる。（2 時間）	
10	学習指導案の作成方法 各学校の年間の指導と評価の計画に基づく具体的な学習指導案の作成について考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：学習指導案の試案について自分の考えをまとめる。（2 時間）	
11	授業づくりと教材研究の方法 学習指導要領の趣旨の実現に向けた各教科等の授業づくりと教材研究の在り方を考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：教材研究の方法について学んだことをまとめる。（2 時間）	
12	メディアと教育方法 学習指導におけるＩＣＴ等の活用について学び、授業に活用する方法について考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：これからの ICT 活用方法についてまとめる。（2 時間）	
13	学習評価の意義と方法 指導と評価の一体化の重要性を学びその具体的な展開について考える。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：指導と評価の一体化の重要性についてまとめる。（2 時間）	
14	タイムリーな課題 各回で取り上げることが出来なかった話題で，タイムリーなものや現代教育の課題について学ぶ。	予習:前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：興味を持った教育時事について考えをまとめる。（2 時間）	
15	これまでの学びの総括と課題レポート これまでの学びの履歴を振り返り、課題レポートに取り組む。	予習：これまで書いた各回の履歴シートをもとに自分の問題意識をレポートする準備をしておく。（4 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①毎回の授業にて書くレポート ②課題 ③論述試験としての最終レポート ④授業中の発言・プレゼン	①30% ②30% ③30% ④10%

授業科目名	教育実習事前事後指導(教職課程:鍼灸)（Before-and-after Guidance for Teaching Practice）				
主担当教員	老田　準司		担当教員	老田　準司	
科目ナンバリング	SE622	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	3	開講学期	後期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要
教育実習にあたり、生徒に与える影響の大きさを認識するとともに、実習に対する基本的な心構えや技能を学習し、実習に対する実践力を身に付ける。
到達目標
教育実習に活用できる実践力を身に付けるとともに、事後に反省を生かす取組を進める。また、教員としての使命感、倫理観、授業展開力を養う。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
学校教育現場の具体的な場面を想定しての授業を展開するので、体験してきた中学校、高等学校生活をも参考に、生徒に具体的に指導できる方法考えておくこと。
教科書
文部科学省「中学校学習指導要領解説保健体育編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説保健体育・体育編」
参考書
新・めざそう保健体育教師（朝日出版）
研究室／オフィスアワー
１４研究室　火曜日 13:00～14：30 金曜日１０：４０－１４：３０
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学校の概要把握	予習：教育の現状について情報を収集しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高
2	教員免許制度の理解	予習：日本や諸外国の免許制度について調べておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高
3	学校における保健体育科教員の理解	予習：保健体育科教員の存在意義等について、考えをまとめておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、
4	教育実習の目的と意義の学修	予習:教育実習の情報を収集しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高
5	教育実習までに準備しておくべき事項の学修	予習：教育実習の内容について情報を収集し、準備に必要なものを調べておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高
6	教育実習経験者から話を聞く。（４年生から教育実習に臨む心構え、事前に体得すべき事項について話を聞く。）	予習：教育実習の内容を調べておく。(1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る。　（4 年生からの体験談を整理する。）1 時間	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高
7	ラジオ体操の基本理解	予習：ラジオ体操の 13 の運動お練習しておく。（1 時間） 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る。　体育実技の準備体操に多用されるラジオ体操の基本について理解を深める。(1 時間)	老田　準司、
8	ラジオ体操の実践力育成	予習：前時に学修した運動について練習しておく。(1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る。(　理解した基本に基づき、実践力をつけるため、繰り返し練習する。）1 時間	老田　準司、
9	授業展開方法（体育実技種目の理解・学校現場で活用される種目の理解と授業展開方法①）	予習：学校現場で教材となる競技種目の特長、歴史、ルールについて調べておく。(1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る（1 時間）	老田　準司、
10	授業展開方法（体育実技種目の理解・学校現場で活用される種目の理解と授業展開方法②）	予習：教育実習期間に指導される競技種目の特長、歴史、ルールについて理解する。実技の課題の整理しておく。(1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る（1 時間）	老田　準司、
11	授業展開方法（体育実技種目の理解・学校現場で活用される種目の理解と授業展開方法③）	予習：学校の選択授業で展開される競技種目の現状の情報を収集しておく。(1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る（1 時間）	老田　準司、
12	授業展開方法（体育実技種目の理解・学校現場で活用される種目の理解と授業展開方法④）	予習：前時に学修した選択授業で実施される競技種目が指導できるよう内容を整理しておく。（1 時間） 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る（1 時間）	老田　準司、
13	授業実践力の養成①（特別支援教育の現状と理解）	予習：特別支援教育について、情報を収集し、課題等を整理しておく。(1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る（1 時間）	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高
14	教育実践力の養成②（支援教育の理解と実践方法学修）	予習：前時に学修した内容について整理しておく。、課題について、解決方法について事前に情報を収集しておく。(1 時間) 1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る（1 時間）	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高
15	授業まとめと課題整理	予習：学修した教育実習受講時の要領および要点を整理し、課題解決方策のため情報を収集する。(1 時間) 復習：復習：本時の授業における学びを振り返る（1 時間）	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高

成績評価方法と基準	割合
試験(単元のまとめテスト含む) 指導案作成と体育実技の理解、 授業への取組姿勢	60% 30% 10%

授業科目名	教育実習Ⅰ(教職課程:鍼灸)（Teaching Practice Ⅰ）				
主担当教員	老田　準司		担当教員	老田　準司、福島　信也、阿部　秀高、松田　智子	
科目ナンバリング	SE623	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	中一種免のみ必修

授業概要
1　中学校で、実践的指導力のある指導教員の下での体験を通じ、教育実践の基礎基本的能力を身に付ける。 2　教育実践に関わることを通じて、生徒理解を深め、教員になるうえでの課題を把握する。
到達目標
1　教科指導においては、保健分野、体育分野の学習指導案作成方法や生徒の実態を踏まえた指導の基礎基本（情報機器の活用方法含）について理解でき、授業ができるようになる。 2　学級担任や分掌業務等について、職務内容を実地に即して理解できるようになる。 3　生徒との積極的な関わりを通して、生徒理解を深めるとともに、生徒とのコミニュケーション方法を習得する。 4　教育実習から得られた課題について、今後の大学生活で、知識技能を中心に課題解決に努める。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
専門教科の学習については、十分な準備をするとともに、多くの時間、生徒に対応することを念頭に、服装、態度、言葉遣いに細心の注意を払っての行動をとること。
教科書
中学校学習指導要領保健体育編 中学校学習指導要領解説保健体育編
参考書
めざそう保健体育教師（朝日出版）
研究室／オフィスアワー
研究室１４　　火曜日　１６時３０分～１８時
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育実習校でオリエンテーション 1　教育方針、校訓等について説明を聞く。 2　実習中の注意事項について説明を受ける。 3　実習の予定の確認を受ける。 4　校内の施設設備、用具について説明を受ける１	予習：実習日までに、大学で習得した知識、技能について整理し、実習に備えるておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
2	中学校における教育実習の留意点及び、実習への不安対処方法	予習：資料アンケート調査結果で得られた不安への対処法について考察しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
3	中学校教員の業務についての理解	予習：学校業務について考察をしておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
4	中学校学習指導要領による中学校の学習指導	予習：学習指導要領の内容についての理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
5	中学校学習指導要領解説保健体育編による体育分野の領域・内容	予習：８領域のうち、体つくり運動、器械運動について理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
6	中学校学習指導要領解説保健体育編による体育分野の領域・内容	予習：８領域のうち陸上競技、水泳について理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
7	中学校学習指導要領解説保健体育編による体育分野の領域・内容	予習：８領域にうち、球技、武道について理解を深めておく。(1時間)	老田　準司、 福島　信也、
		復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	阿部　秀高、 松田　智子
8	中学校学習指導要領解説保健体育編による体育分野の領域・内容	予習：８領域のうち、ダンス、体育理論について理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
9	学習指導要領解説保健体育編及び実際に学校現場で使用されている教科書を活用しての保健分野の前２単元の理解(アクティブラーニングでの授業展開理解)	予習：心身の機能の発達と心の健康、健康と環境の単元の理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
10	学習指導要領解説保健体育編及び実際に学校現場で使用されている教科書を活用しての保健分野の単元の理解	予習：障害の防止の単元について理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
11	学習指導要領解説保健体育編及び実際に学校現場で使用されている教科書を活用しての保健分野の後半１単元の理解	予習：健康な生活と疾病の予防の単元の理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
12	専門教科以外の教育活動の理解	予習：特別活動等の内容について理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
13	専門教以外の教科の実習	予習：学級活動についての理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
14	教科外活動の理解	予習：部活動についての理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
15	学校教育活動全般について情報を得る	予習：教科や教科外活動全般について理解を深めておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子

成績評価方法と基準	割合
1 実習校からの評価 2 本学での講義 3 教育実習簿（日誌）の内容	1　80% 2　10% 3　10%

授業科目名	教育実習Ⅱ(教職課程:鍼灸)（Teaching Practice Ⅱ）				
主担当教員	老田　準司		担当教員	老田　準司、福島　信也、阿部　秀高、松田　智子	
科目ナンバリング	SE624	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	4	開講学期	前期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1　高等学校で、実践的指導力のある指導教員の下での体験を通じ、教育実践の基礎基本的能力を身に付ける。
2　教育実践に関わることを通じて、生徒理解を深め、教員になるうえでの課題を把握する。

到達目標

1　教科指導においては、科目保健、科目体育の学習指導案作成方法や生徒の実態を踏まえた指導の基礎基本（情報機器の活用方法含）について理解でき、授業ができるようになる。
2　学級担任や分掌業務等について、職務内容を実地に即して理解できるようになる。
3　生徒との積極的な関わりを通して、生徒理解を深めるとともに、生徒とのコミニュケーション方法を習得する。
4　教育実習から得られた課題について、今後の大学生活で、知識技能を中心に課題解決に努める。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教育現場での実習なので、教科指導力や生徒対応力等を向上などの準備をしておくとともに、服装、態度、言葉遣いに細心に注意した行動をとること。

教科書

高等学校学習指導要領
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編

参考書

めざそう保健体育教師（朝日出版）

研究室／オフィスアワー

研究室１４　火曜日亜１６時３０分～１８時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育実習校でオリエンテーション 1　教育方針、校訓等について説明を聞く。 2　実習中の注意事項について説明を受ける。 3　実習の予定の確認を受ける。 4　校内の施設設備、用具について説明を受ける。	予習：実習日までに大学で習得した知識、技能について整理し、実習に備える。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
2	高等学校における教育実習の留意点及び実習への不安対処方法	予習：資料のアンケート調査結果で得られた不安への対処について考察する。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
3	高等学校の教員の業務について理解	予習：学校業務について調べておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
4	高等学校学習指導要領の内容の理解 高等学校全体の学習指導	予習：学習指導要領の内容についての理解を深めておく。 (1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
5	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での、要領改訂の趣旨及び教科保健体育の目標内容	予習：学習指導要領の総説及び教科の目標、内容体つくり運動について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
6	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目体育の内容	予習：８領域のうち、器械運動, 陸上競技について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
7	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目体育の内容	予習：８領域のうち、水泳, 球技について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
8	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目体育の内容	予習：８領域のうち、武道, ダンス、体育理論について理解を深めておく。(木) 1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
9	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目保健の内容(アクティブラーニングの展開方法の理解)	予習：科目保健の目標及び内容のうち、現代社会と健康の単元の理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
10	高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編での科目保健の内容	予習：内容のうち、生涯を通じる健康、社会生活と健康の単元の理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
11	特別活動の理解	予習：ロングホームルームやショートホームルーム、学校行事について生徒への支援方法を考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
12	教科外活動の理解	予習：部活動の支援方法について考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
13	専門教科以外の活動の理解	予習：ホームルーム活動, 学校行事等について考察を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
14	校務分掌について情報を得る	予習：校務分掌についての考察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子
15	学校教育活動全般について理解する	学区全体で取り組まれている活動について理解を深めておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田　準司、 福島　信也、 阿部　秀高、 松田　智子

成績評価方法と基準	割合
1　実習校からの評価 2　本学での講義 3　教育実習簿（日誌）の内容	1 80% 2 10% 3 10%

授業科目名	教職実践演習(中・高)(教職課程:鍼灸)(Practical Training of Teaching【Junior / Senior High School】)				
主担当教員	老田　準司		担当教員	老田　準司、福島　信也、阿部　秀高、松田　智子	
科目ナンバリング	SE625	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	4	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

○　教員としての必要な知識技能を確認するとともに、教職に就くにあたり、自己の課題を把握し、解決の道筋を探る能力を身に付けることができる内容を学修する。
○　教育実習で体得した教育の基礎的技術をより応用の効く技術にするため、事例研究、グループ討議、模擬授業を適切に組み合わせて授業を展開できる能力を身に付ける。

到達目標

○　これまで学修してきた教科、教職に関する事項を確認し、教員としての基礎基本の定着を図る。
○　教科内容の理解を深め、学習指導案作成や授業スキルの習得を図る。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教える立場としての意識を持って授業に臨み、積極的に授業に参加する姿勢を持つこと。

教科書

高等学校学習指導要領解説保健体育・体育編（文部科学省）
中学校学指導要領要領解説保健体育編（文部科学省）

参考書

高等学校学習指導要領（文部科学省）
中学校学指導要領要領（文部科学省）
教育法規（教育開発研究所）

研究室／オフィスアワー

14研究室　火曜日１６時３０分～１８時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション、演習の進め方と評価方法の説明、 教育実習を振り返る―教職の意義	積極的な討議参加するため教育実習の体験をまとめておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
2	教育実習を振り返る・教科指導の課題(中学校・高等学校)	予習：教科指導での課題を整理しグループ内で発表できるようにしておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
3	教育実習を経験後の保健体育科指導案作成	予習：生徒が積極的に取り組める指導案作成の資料をグループで用意しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
4	保健体育科指導案作成と展開①	予習：教育実習を経験を基礎としての 指導案作成のための資料を準備しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
5	保健体育科指導案作成と展開②	予習：選択授業で実施される競技種目の資料を収集しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
6	保健体育科指導案作成と展開③	予習：体験した競技種目の反省点を整理しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
7	保健体育科指導案作成と展開④	予習：展開実践した競技種目の課題を整理しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
8	授業中の事故対応（体育実技中の事故判例研究）	予習：グループ討議の内容を理解しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
9	部活動中の事故対応（事故判例研究）	予習：グループ討議の内容を理解しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
10	道徳教育の学修①（現状と理解）	予習：学校で実施されている道徳教育の現状の情報収集をしておく.(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
11	道徳教育の学修②（課題把握と展開）	予習：道徳教育の課題について、情報を収集しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
12	道徳教育の学修③（課題解決法の検討と展開）	予習：検討課題把握のための情報を収集しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
13	教育現場経験者の講義（支援学校）	予習：支援学校について情報を収集しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
14	学校での新たな課題への対応(職務・生徒指導・教科指導・部活動)	予習：最近の学校での課題を整理しておく。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田
15	演習のまとめ（　教員として使命感、倫理観、授業展開力等が、授業を通して、どれだけ養えたかを確認する。）	予習：これまでの授業内容について課題等を整理する。(1時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1時間)	老田　福島 阿部　松田

成績評価方法と基準	割合
1　指導案作成内容, 2　実技実践への積極的姿勢 3　討議参加姿勢 3　教職理解	1　40% 2　20% 3　20% 4　20%

鍼灸学科　教職課程

(2019 年度以降入学生カリキュラム)

授業科目名	教職論(教職課程:鍼灸)（Studies of Teacher Training）				
主担当教員	阿部　秀高		担当教員	阿部　秀高	
科目ナンバリング	SE608	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

現代における教職とはどのような職業なのかを考えていくことを講義の中心とします。
教職に関する資格・職務・制度についての基礎知識について理解を深め、教職に対しての心構えについて形成する。

到達目標

教職に関する基礎的な知識を的確に答えることができる。また、現代の日本に求められる教師像を、自ら探求し、論述することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教職志望者であるという強い目的意識をもって受講して欲しい。さもないと、途中で断念することになるであろう。講義形式で授業を進めるが、グループワークを取り入れる予定であり、受講生にも発言を求める。
なお、受講生の数、興味・関心に応じて、講義計画を変更することもある。

教科書

人間教育を実践する教師への道ー教師の仕事と教育行政ー　阿部秀高著　（株）ERP

参考書

授業の際に必要に応じて紹介します。

研究室／オフィスアワー

研究室 20 または教職支援センター／在室時随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション　教師をめざす	・教職課程の概要を確認する ・教員のイメージを話し合ってみよう。 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
2	教職とは何か	・教職の意義について確認する。 ・教職の意義について話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
3	教師観の変遷と理想の教師像	・教師観の変遷について、時代と教師の役割から考察する。 ・理想の教師像を話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
4	学校とは 1　成立の歴史と機能	・学校の歴史とその機能について確認する。 ・理想の学校を話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
5	学校とは 2　自身の学校（高等学校を中心に）	・出身校（高等学校）の学校案内・HP より学校の概要を確認する。 ・それぞれの学校についての相違点から、学校とはどのようなものか話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
6	教師の仕事 1　小学校・中学校・高等学校教員	・教師の一日のスケジュール ・各校種の教員の仕事を確認する。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
7	教師の仕事 2　養護教諭の仕事	・一日のスケジュールと年間のスケジュール ・養護教諭の仕事を確認する。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
8	学校と教師 1　教科指導・校務分掌	・授業づくりと評価について確認する。 ・校務分掌について、特に保健に関する分掌について確認する。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
9	学校と教師 2　学級経営・課外活動	・学級経営、課外活動について確認する。 予習：前時の履歴シートをもとに振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
10	学校教育をめぐる現状と教師	・9 回までの学びから学校教育をめぐる現状と教師の役割について話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
11	国内の教育政策の動向 1　学力・役割	・文部科学省 HP より、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる学力と教師の役割について話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
12	国内の教育政策の動向 2　資質・能力の向上	・文部科学省 HP より、最新の教育施策を調べてみよう。 ・今求められる教員の資質・能力について考え、話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
13	諸外国の教師と学校	・外国の学校と教師について確認する。 ・日本との違いについて話し合ってみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：本時の学びの履歴シートのまとめ・データ化（2 時間）	
14	教職への進路選択と教員採用試験	・教員採用試験の情報を調べてみよう。 予習：前時の履歴シートをもとにの振り返り（2 時間） 復習：最終課題レポートに向けこれまでの履歴シートをまとめる（4 時間）	
15	教職論の振り返り　課題レポート	・教職論の学習を振り返り、整理しよう。 ・自分の理想の学校・教師像をまとめてみよう。 予習：最終課題に向けて学びの履歴シートデータの整理を行う。（2 時間） 復習：採用試験受験を目指して、本講義で学んだことを履歴シートデータをもとに教員に求められる資質・能力や仕事内容の項目別に整理するレポートを作成しておく。（4 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①最終回における課題レポート ②授業におけるグループワーク活動への参加・課題への取り組み・学びの履歴シートの出来映え、提出状況などを総合して評価する。　グループワークを取り入れる予定。	①30% ②70%

授業科目名	教育原理(教職課程:鍼灸)（Principle of Education）				
主担当教員	松田　智子		担当教員	松田　智子	
科目ナンバリング	SE609	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要
①教育の基礎・基本的な原理を学ぶために教育の歴史や思想などの視点から各時代において教育や学校がどのように位置づけられてきたかを考察する。 ②諸外国の教育について学び、現在の日本の教育がどのような思想的・歴史的背景を有しているのかを理解することで、学校教育や社会教育の在り方について見識を深める。 ③現代における教育の課題や教育改革等の動きにも理解を深め、現代に求められる教師として必要な資質能力の習得を目指す。
到達目標
①教育の基本的な概念や方法を踏まえた上での教育の意義・目的・理念を理解する。 ②日本及び諸外国の教育に関する歴史や思想、及び学校の営みについての知識を身につける。 ③現代の学校教育について理解を深め、教員として必要な資質能力を身につける。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
授業中の私語にはかなり厳しく対応します。
教科書
「小学校学習指導要領」（平成２９年告示）及び「中学校学習指導要領」（平成２９年告示）を、必ず購入して授業に持参してください。 他、授業中に配布するレジュメをテキストとします。
参考書
授業中に適宜紹介する。
研究室／オフィスアワー
授業に関して何か質問等ありましたら、メールで、大学名・氏名を明記した上で送信してください（携帯メール不可）。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育学と教育の成り立ち	予習:「教育とは何か」について考えをまとめる（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
2	教育する意味と目的①：日本国憲法を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
3	教育する意味と目的②：教育基本法の第１章を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
4	教育する意味と目的③：教育基本法の第２章以降を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
5	教育の理念及び目的についてのまとめと到達度評価	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
6	初等教育のねらいと内容①：小学校学習指導要領の第１章・第２章を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
7	初等教育のねらいと内容②：小学校学習指導要領の第３章以降を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
8	前期中等教育のねらいと内容①：中学校学習指導要領の第１章・第２章を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
9	前期中等教育のねらいと内容②：中学校学習指導要領の第３章以降を読む	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
10	学習指導についてのまとめと到達度評価	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
11	西洋教育思想史①：エラスムス・ルター・コメニウス・ロック	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
12	西洋教育思想史②：ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
13	新教育の思想家と大正自由教育	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
14	戦後日本の教育史	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	
15	教育の思想と歴史についてのまとめと到達度評価	予習：前時を振り返り、記録を読み返す（2 時間） 復習:本時を振り返り、ポイントをまとめる（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①中間試験 ②定期試験	①30% ②70%

授業科目名	教育行政学(教職課程:鍼灸)（Educational Administration）				
主担当教員	松田　智子		担当教員	松田　智子	
科目ナンバリング	SE610	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

教育行政とは、「国や地方公共団体の自治体が、教育政策を実現するため、教育法規を基礎に教育制度を運営し、教育条件の整備と教育活動の規制・助成を行うこと」である。本講義では、教育行政学に関して、受講者がこれまでの学校教育の中で経験した教育行政の一端を振り返るとともに、教育行政施策に関するマスコミ報道等を手掛かりとしながら、日本の教育行政の現状と今後の課題について学修する。

到達目標

１．教育行政の理念、組織、仕組みに関する基礎知識を持つことができる。
２．教育行政と学校・教員との関係を理解することができる。
３．教育行政を巡る今日的な課題について理解することができる。
４．教育行政について考究するために必要な情報の取得方法を知り、活用することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーナーになること。
２．限られた時間内で一定程度の文章を書く習慣を身に付けること。
３．問題意識を持って受講すること。
４．授業中の携帯電話等の使用はしないこと。

教科書

「人間教育を実践する教師への道―教師の仕事と教育行政―」　阿部秀高著　　株式会社 ERP

参考書

『教育法規エッセンス』元兼正浩／花書院　　その他、必要に応じて紹介する。

研究室／オフィスアワー

東棟４階２０研究室／在室時は随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション 「教育行政学」の学びのアウトラインを知る	予習：シラバス・教科書の確認（2 時間） 復習:授業をもとに今後の学修を確認する(2 時間)	
2	公教育の原理と思想 公教育の概念や公教育の原理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：三原則の具体例を調べる（2 時間）	
3	学校体系 外国の単線型・複線型学校体系及び日本の学校体系について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：日本の学校体系について調べる（2 時間）	
4	教育の法体系① 教育法規の体系及び学校教育法制の整備について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:学修内容を４００字程度でまとめる(2 時間)	
5	教育の法体系② 教育基本法の改正と教育行政の責任の明確化について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：今後の課題を調べる（2 時間）	
6	中央教育行政 教育改革における教育行政の役割や文部科学省の組織について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：文部科学省の主要施策を調べる（2 時間）	
7	地方教育行政 地方教育行政の役割と教育委員会の制度について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:出身地の教育振興基本計画を調べる(2 時間)	
8	教育課程行政 教育課程に関する法制度及び学習指導要領の変遷と教科書採択等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：出身校の教科書を調べる（2 時間）	
9	教育財政と学校財務 教育費の基本原理や教職員にかかる経費について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:学修内容を４００字程度でまとめる(2 時間)	
10	学校経営改革 学校経営改革の内容を知るとともに地域と共につくる学校について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：子どもの今について調べる（2 時間）	
11	学校評価 学校評価の制度及び学校評価システムの展開について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：出身校の学校評価を調べる（2 時間）	
12	教員評価 教員評価の制度及び教員評価の実施方法等について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習:学修内容を４００字程度でまとめる(2 時間)	
13	学校安全① いじめ問題への対応及び学校における衛生・健康管理について学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：いじめ防止対策基本方針を調べる（2 時間）	
14	学校安全② 防犯・安全対策及び学校事故への安全対策と災害に対する備えについて学ぶ	予習：教科書を読んでおく（2 時間） 復習：学校事故のニュースを調べる（2 時間）	
15	課題レポート 講義全体を振り返り、学修状況を確認する。	予習:講義内容の振り返りをしておく（2 時間） 復習:学修内容を８００字程度でまとめる(2 時間)	

成績評価方法と基準	割合
１．授業中記録した学びの履歴シート【５０%】 ２．最終回の課題レポート【３０%】 ３．授業での発言、主体的な学びの姿勢【２０%】	１．５０% ２．３０% ３．２０%

授業科目名	教育心理学(教職課程:鍼灸)（Educational Pcychology）				
主担当教員	北口　勝也		担当教員	北口　勝也	
科目ナンバリング	SE611	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修
授業概要					
教育心理学は心理学で得られた知見を教育現場に応用する科学である。学校教育を考える上で、教育心理学に関するさまざまな知識や技術を習得し、それらを利用しながら教育に関わる現象を分析的に捉えることは重要である。また、近年、「不登校」「いじめ」「学級崩壊」「学習障害」といった学校をめぐる出来事が社会問題化してきている。この授業では、教育心理学の基本的知識を正確に理解し、実際の教育現場をイメージしながら考える基礎を養うことを主な目的としている。					
到達目標					
(1) 乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している。 (2) 主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している (3) 教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業前に配布する資料を熟読して授業に備えること。授業後には講義内容を復習し、次回授業冒頭の小テストに備えること。小テストは自己採点して、答えられなかった部分については、前回資料をよく復習して、知識を確実なものにしておくこと。					
教科書					
なし					
参考書					
なし					
研究室／オフィスアワー					
非常勤講師控室					
授業展開及び授業計画表					

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	発達と教育①　－乳幼児期～幼児期－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
2	発達と教育②　－学童期～思春期－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
3	発達と教育③　－青年期－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
4	記憶のしくみを知る　－認知心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
5	記憶に残る教授法を考える　－認知心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
6	学習のしくみを知る　－学習心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
7	行動のしくみを知る　－応用行動分析－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
8	「やる気」の心理学　－動機づけ心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
9	授業に必要な心理学的知識に関するまとめ	＜予習・復習 各２時間＞ 予習としてまとめテストに備えること、復習としてまとめテストの誤答を見直して知識を確認すること	
10	評価の心理的影響を知る	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
11	性格の把握と学べる集団作りを知る　－性格心理学・社会心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
12	発達障害への対応を知る　－臨床心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
13	児童生徒に見られる心の問題　－臨床心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
14	教師の専門性とカウンセリングマインド　－臨床心理学－	＜予習・復習 各２時間＞ 予習として配布資料を熟読すること、復習として小テストを見直して知識を確認すること	
15	個別指導に必要な心理学的知識に関するまとめ	＜予習・復習 各２時間＞ 予習としてまとめテストに備えること、復習としてまとめテストの誤答を見直して知識を確認すること	

成績評価方法と基準	割合
①講義中に行われる２回のまとめテスト ②小テストと復習課題 の成績により評価する。	①75% ②25%

授業科目名	教育課程論(教職課程:鍼灸)（Curriculum Studies）				
主担当教員	河原　和之		担当教員	河原　和之	
科目ナンバリング	SE612	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

教育課程とは、カリキュラム（Curriculum）の訳語であり、学校における教育計画の全体像といってよい。この時間は、日本における教育課程の編成と具体的事例について提案し議論する

到達目標

日本における教育課程をめぐる現実の問題と課題、そして具体例について習得する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ネット情報や新聞をよく読むとともに、メディアの報道にも日常的に注意を払いながら、日本における現実の教育問題について把握するように努力してほしい。

教科書

なし。授業時に資料やワークシートを用意する。

参考書

授業中において適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

授業時に連絡する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション	予習：シラバスの確認 復習：学習の心構えや受講注意　アイスブレーキング	
2	教育課程の歩み	予習：学習指導要領の歴史の概略を知る 復習：学習指導要領変化の要因を確認	
3	教育課程と学習観	予習：系統主義か問題解決学習か 復習：テーマによる学習方法の違いを確認	
4	教育課程と学習指導要領	予習：部活動の位置づけや変化など 復習：上記について自分の意見を書く	
5	主体的、対話的な深い学び１	予習：学習指導要領を読む 復習：授業を受けポイントをまとめる	
6	主体的、対話的な深い学び２	予習：河原　ＮＨＫわくわく授業の分析 復習：河原授業の成果と課題の整理	
7	主体的、対話的な深い学び３	予習：実践事例を書く 復習：分析をまとめる	
8	主体的、対話的な深い学び４	予習：学生による実践事例を読む 復習：分析をまとめる	
9	キーコンピテンシー１	予習：コミュニケーション力を中心に予習 復習：授業時のワークショップを整理	
10	キーコンピテンシー２	予習：ディベート力を中心に予習 復習：授業時のワークショップを整理	
11	キーコンピテンシー３	予習：発表力を中心に予習 復習：他者のプレゼンの成否について整理	
12	キーコンピテンシー４	予習：企画・参画力を中心に 復習：企画・参画型の事例を開発	
13	キーコンピテンシー５	予習：学校行事の具体例の報告 復習：学校行事の意義についてまとめる	
14	キーコンピテンシー６	予習：総合的な学習の意義と具体的事例 復習：総合的な学習の事例を考える	
15	講義全体のまとめと振り返り	予習：授業から学んだことかんがえたことの交流 復習：　まとめの感想を書く	

成績評価方法と基準	割合
１　レポート　授業指導案、総合的な学習、各種行事など ２　プレゼン　授業、各種発表など ３　最終レポート「授業をうけて学んだこと考えたこと」 ４　授業への姿勢 詳細は、授業中に説明する	１　３０％ ２　３０％ ３　２０％ ４　２０％

授業科目名	道徳教育論(教職課程:鍼灸)（Moral Education）				
主担当教員	福島　信也		担当教員	福島　信也	
科目ナンバリング	SE617	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本授業では、『特別の教科・道徳』の授業（中学校５０分）の作り方を実践的に学びます。
　2018 年度から小学校、2019 年度から中学校で特別の教科「道徳科」になり、教科書が配布されています。教育実習でも「道徳科」を担当させている学校が増えています。
　また、新高等学校学習指導要領(2019.4/1～2022.3/31 移行期間.2022 年 4/1 より施行)の主な改善事項の一つに、「道徳教育の充実」が挙げられ、全ての教師が協力して道徳教育を展開することを規定(総則)しています。
　生徒たちが興味をもって深い学びを得られる授業をどうしたらできるでしょうか。
　学校現場の様子(出前授業等の録画視聴もあります)も説明しながら、受講者同士の話し合い（グループ活動)、教材や授業方法の検討、学習指導案作成、プチ模擬授業などを通して、これらの問題を考えていきます

到達目標

※学校における道徳教育の位置づけやねらい、内容について理解する
●『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編（平成２９年７月)』 の重要事項について、答えることができる。
●「道徳とは何か」、「なぜ必要なのか」など、説明することができる。

※道徳授業の実践に資する知識や技能を身につける
●生徒たちの道徳性の発達や興味・関心、社会的要請などを踏まえ、道徳科の指導案を作成する。(全員必修)
●作成した学習指導案をもとに、プチ模擬授業をする。(全員必修)
●道徳授業に興味・関心をもち、道徳授業(生命尊重など)を教育実習においてできるようにする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

●授業で配布したプリントは、必ずファイル（綴じ込んで保存） すること。
●プリントを適宜読み返し、授業で学んだことを復習すること。
●授業で配布した課題プリントは、必ず提出すること。
●教材をじっくり読み込んで(何回も)、学習指導案を作成をすること。

教科書

使用しない。プリントを配布します。

参考書

●文部科学省「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」平成２９年７月

●授業は配布するプリントに基づいて行います。
　学校現場で役立つ内容が含んでいるプリントを用意します。
　プリントは実践に活かすことができるので、ファイル(綴じ込んで保存)すること。
　その他、参考となる文献などは授業中に適宜紹介していきます。

研究室／オフィスアワー

イーストポート４階　研究室２０

水曜日 10：00～14：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	道徳科の素晴らしさ ～ 道徳授業について、オリエンテーション ～	プリント復習(1 時間)	福島信也
2	「特別の教科　道徳」 改訂のポイント（その１） 「中学校学習指導要領解説 道徳編」　配布	プリント復習(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む(1 時間)	福島信也
3	「特別の教科　道徳」 改訂のポイント(その２) 【道徳教材冊子】　配布 課題プリント配布	プリント復習(1 時間) 課題プリント(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む(1 時間)	福島信也
4	福島先生のプチ模擬授業 ～ 小・中・高校でも利用できる教材を使って	プリント復習(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む(1 時間) 「道徳教材冊子」読む(1 時間)	福島信也
5	「特別の教科　道徳」 改訂のポイント(その３)	プリント復習(1 時間) 「道徳教材冊子」読む(1 時間)	福島信也
6	道徳授業の指導法（１） 「授業の形態・指導過程」などについて 研究授業の録画視聴(一部)	プリント復習(1 時間) 「道徳教材冊子」を読み、教材分析(1 時間)	福島信也
7	道徳授業の指導法（２） ～ 「評価」について、「中心発問」について ～ 【課題プリント】配布	プリント復習(1 時間) 課題プリント(1 時間) 「道徳教材冊子」を読み、教材分析(1 時間)	福島信也
8	道徳授業の指導法（３） 指導案作成のポイント 指導案下書き用 配布	プリント復習(1 時間) 課題プリント(1 時間) 「道徳教材冊子」を読み、教材分析(1 時間)	福島信也
9	道徳授業の指導法（４） 授業(導入)について ～ 指導案の内容を工夫しよう！～ 出前授業の録画視聴(一部)	プリント復習(1 時間) 指導案作成(1 時間) 「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む(1 時間)	福島信也
10	道徳授業の指導法（５） 授業(展開)について 指導案のラフスケッチ 研究授業の録画視聴(一部)	プリント復習、「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む(1 時間) 指導案作成(1 時間)	福島信也
11	指導案検討 全体の流れ 出前授業の録画視聴(一部) 「道徳だより(通信)」について 指導案提出用 配布	プリント復習、「中学校学習指導要領解説 道徳編」読む(1 時間) 指導案作成(1 時間)	福島信也
12	指導案検討会 ～指導案をグループで高め合おう＆プチ模擬授業を成功させよう～ 授業のトラブル＆ピンチについて プチ模擬授業の工夫・準備、指導案提出	プリント復習、模擬授業の準備(1 時間) 指導案作成(1 時間)	福島信也
13	プチ模擬授業（１）	プリント復習、模擬授業の準備(1 時間) 「道徳教材冊子」を読む(1 時間) 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
14	プチ模擬授業（２）	プリント復習、模擬授業の準備(1 時間) 「道徳教材冊子」を読む(1 時間) 模擬授業の評価・自己評価	福島信也
15	プチ模擬授業（３） まとめ(理想の道徳授業像について など)	プリント復習、模擬授業の準備(1 時間) 「道徳教材冊子」を読む(1 時間) 模擬授業の評価・自己評価	福島信也

成績評価方法と基準	割合
●プチ模擬授業は全員が行います。 ●学習指導案は全員が提出します。 ●授業では、課題（プリント・コメントシート等）を提出します。	●プチ模擬授業：30% ●道徳指導案：35% ●授業内課題：35%

授業科目名	特別活動論(教職課程:鍼灸)（Special Activities）				
主担当教員	天野　義美		担当教員	天野　義美	
科目ナンバリング	SE618	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

①　　「人間形成の需要な部分を特別活動が担う」という視点から、特別活動の特質や意義、活動内容、指導方法などについて考察する。
②　　一方的な講義に終始するのではなく、話し合いや担当者自身の教育実践の紹介を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追究する。
③　　本授業では、特別活動の理論と指導法について、概論（第１回）→総論（第２～４回）→各論（第５～８回）→細論（第９～１４回）→まとめ（第１５回）で展開し、それぞれの理解を図ったうえで、最後にレポートの提出を課す。

到達目標

①本授業に積極的に参加し、特別活動に関する基礎的な知識を修得できるようにする。
②授業内容を踏まえて、特別活動の教育的意義について自己の考えを確立できるようにする。
③教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべき役割を理解できるようにする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

①中高生の現状や課題に関心を持ち、その原因と対策、解決への道筋などを教育課題として、主体的に授業に臨むこと。
②「為すことによって学ぶ」という特別活動の方法原理に基づいて、授業中のグループワークや演習にも、自主的、実践的に参加すること。
③授業での配布資料の末尾に、その講義の「まとめ」欄を設けているので、授業の展開を振り返って「まとめ」の内容が定着できるように復習に努めること。また、欄外に、次時の学習課題を明記しているので、「学習指導要領解説　特別活動編」などを参考に予習をしておくこと。
④授業中のスマホ使用は認めない。（減点の対象になる場合もあるので厳守のこと）

教科書

なし（講義の中で資料を配布する）

参考書

「やさしく学ぶ特別活動」　赤坂雅裕他（ミネルヴァ書房）
「中学校学習指導要領解説　特別活動編」　　文部科学省（ぎょうせい）
「高等学校学習指導要領解説　特別活動編」　文部科学省（海文堂出版）
「学級・学校文化を創る特別活動　中学校編」　　国立教育政策研究所（東京書籍）

研究室／オフィスアワー

授業終了後、教室内及び講師控室で質問を受ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	特別活動の概要 ・特別活動とは何か？ ・学校教育での位置付け	予習：学校教育における特別活動とは何か。(90分) 復習：教育課程に位置付いている特別活動の内容を確認する。(90 分)	天野
2	特別活動の特質 ・子どもの現状と課題 ・特質と方法原理	予習：教育の課題解決に向けて、特別活動が果たす役割とは何か。(90 分) 復習：特別活動の特質、方法原理を確認する。(90 分)	天野
3	特別活動の変遷 ・歴史的な歩み ・今回の学習指導要領の改訂	予習：特別活動の歩みと指導要領との関連はどうなっているのか。(90 分) 復習：特別活動の変遷と、今回の指導要領の改訂の主旨を理解する。(90 分)	天野
4	特別活動の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・校種間の関連	予習：小・中・高の特別活動の目標、教育的意義、内容とは何か。(90 分) 復習：特別活動の目標・意義・内容について確認する。(90 分)	天野
5	学級活動（ホームルーム活動）の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い	予習：学級活動の目標、及び、それを達成するための内容にはどのようなものがあるのか。(90 分)	天野
	・展開事例	復習：学級活動の目標・意義・内容について理解する。(90 分)	
6	生徒会活動の目標と内容 ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ・展開事例	予習：生徒会活動の目標、及び、それを達成するための内容にはどのようなものがあるのか。(90 分) 復習：生徒会活動の目標・意義・内容について理解する。(90 分)	天野
7	学校行事の目標と内容① ・目標と教育的意義 ・内容とその取扱い ?儀式的行事 ?文化的行事	予習：学校行事の目標、及び、それを達成するための内容（儀式的行事、文化的行事）にはどのようなものがあるのか。(90 分) 復習：学校行事の目標・意義・内容について理解する。(90 分)	天野
8	学校行事の目標と内容② ・内容とその取扱い ?健康安全・体育的行事 ?旅行・集団宿泊的行事 ?勤労生産・奉仕的行事 ・展開事例	予習：学校行事の目標、及び、それを達成するための内容（健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事）にはどのようなものがあるのか。(90 分) 復習：学校教育における学校行事の果たす役割について整理する。(90 分)	天野
9	特別活動の指導計画 ・全体計画 ・３内容の相互関連 ・年間指導計画	予習：特別活動を効果的に展開するための指導計画はどのようになっているのか。(90 分) 復習：特別活動の全体計画、並びに、各々の年間指導計画を理解する。(90 分)	天野
10	特別活動と他の教育活動との関連 ・各教科との関連 ・道徳科との関連 ・総合的な学習の時間との関連	予習：特別活動と、教育課程に位置付く他の教育活動との相互関係はどうなっているか。(90 分) 復習：各教科・道徳科・総合的な学習の時間との教育的な関連を整理する。(90 分)	天野
11	特別活動と学校・学年・学級経営 ・人間関係の形成 ・社会性の育成（社会参画） ・生徒指導の充実（自己実現）	予習：円滑な学級経営を図る上で、特別活動が果たす役割や機能をどう捉えるべきか。(90 分) 復習：学校・学年・学級経営における特別活動の役割や重要性を理解する。(90 分)	天野
12	特別活動の指導実践ー学級活動の(1)【学級や学校における生活づくりへの参画】を中心にー ・指導の実際 ・事前―本時ー事後の流れ ・学習指導案の作成	予習：学習指導案の一般的な形式・書式、書き方、内容はどのようになっているのか。(90 分) 復習：学級活動の活動過程と、一時間の学習指導案の要点を把握する。(90 分)	天野
13	特別活動の評価 ・学力の捉え方 ・特別活動で育つ力 ・評価の実際	予習：評価の持つ意味と、特別活動の評価のあり方とは何か。(90 分) 復習：生徒のよさを積極的に認めて評価することの意義を理解する。(90 分)	天野
14	特別活動をめぐる諸問題 ・理解の深化 ・学校力・教師力 ・活動時間の確保	予習：特別活動の充実を図るために、学校や教師に必要なこととは何か。(90 分) 復習：特別活動の活動時間の確保について、考察する。(90 分)	天野
15	これからの学校教育と特別活動、講義のまとめ ・課題と展望 ・特別活動に求められるもの ・キーワードでの振り返り ・全体のまとめ	予習：これからの学校教育の中で、特別活動に期待されることとは何か。授業で出てきたキーワードをもとに、特別活動論の講義を振り返る。(90 分) 復習：特別活動に関する知識・理解を確実なものにする。(90 分)	天野

成績評価方法と基準	割合
①　　レポート（８０%）、授業時の提出物・授業参加度・授業態度（２０%）により、総合的に評価する。 ・注：授業中のスマホ使用は厳禁。声掛けに従わない場合は、減点の対象とする。 ②　　全授業回数の３分の１を超えて欠席している者は、評価対象外とする。（正当な理由のない遅刻・中抜け・早退は、２回で欠席１回相当とみなす。） ・例：欠席５回と遅刻または早退１回で、評価対象外となる。	・レポート（８０%） ・授業態度（２０%）

授業科目名	教育相談の基礎と方法(教職課程:鍼灸)（Basics and Methods for Educational Counselling）				
主担当教員	吉田　卓司		担当教員	吉田　卓司	
科目ナンバリング	SE621	科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

本講義では、教育相談に関する基礎理論と具体的な対応策を講学する。取り上げる課題は、個別ケースの対処法から、学校、地域社会等のレベルの制度論・政策論まで、多元的である。本講義では、そのような内容理解と今日の子どもたちのおかれている状況を前提として、ロールプレイなどのアクティブラーニングを取り入れて、教育相談の模擬実践を行い、児童生徒の発達状況や環境等を的確にアセスメントする能力と教育相談の対応力を養成する。

到達目標

本講義の目的は、教員として、教育相談に必要な知識、技能などの修得である。単なる知識やスキルの理解にとどまらず、可能な限りアクティブな学修手法を用いながら、教育相談（カウンセリング）における実践的な教育力を育成することを目標とする。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

教職免許取得を目的とする科目であることから、アクティブ・ラーニングや予習・復習に対する主体的な学習態度と品位ある言動を学修のすべての段階において求める。

教科書

文部科学省『生徒指導提要』教育図書
吉田卓司『教育実践基礎論』三学出版
兵庫民主教育研究所子どもの人権委員会『子ども虐待と向き合う』三学出版

参考書

講義時に適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

講義の前後に質問等を受け付ける。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育相談とは何かー教育相談の意義	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
2	教育相談（カウンセリング）の基礎理論	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
3	教育相談の方法原理	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
4	教育相談の具体的方法 1ー個別・集団面接等の手法	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
5	教育相談の具体的方法 2ー課題のある児童生徒の理解とソーシャルワーク	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
6	教育相談の具体的方法 3ーカウンセリングマインドと多角的・総合的支援	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
7	教育相談の進め方 1-受容・共感の姿勢・共感的理解と姿勢	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
8	教育相談の進め方 2-カウンセラー・ソーシャルワーカー等との協働	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
9	教育相談計画と学校組織ーチーム学校と保護者対応	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
10	個別課題に向き合う教育相談の展開 1-いじめ	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
11	個別課題に向き合う教育相談の展開 2-不登校	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
12	個別課題に向き合う教育相談の展開 3-虐待	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
13	個別課題に向き合う教育相談の展開 4-自殺防止	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
14	教育相談とチーム学校ー地域・関係機関(医療・福祉・心理等)との連携	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司
15	:講義の振り返りと総括	＜予習・復習 各２時間＞ 本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。	吉田卓司

成績評価方法と基準	割合
定期試験、講義時に作成するレポート、予習・復習課題に関する評価は、「教職免許取得者として必要な知識の理解と学修内容に関して自ら考え、主体的に学びとったことを表現できているか」を評価基準とする。また、講義時のアクティブラーニングについては、上記に加えて、参加態度の主体性と積極性を評価の基準とする。	定期試験(50%). 講義レポート(20%). アクティブラーニング(15%). 予習・復習課題(15%).

授業科目名	特別支援教育概論(教職課程:鍼灸)				
主担当教員	加藤　美朗		担当教員	加藤　美朗	
科目ナンバリング		科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

到達目標

「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解」
（１）インクルーシブ教育の理念を含む特別支援教育に関する制度や仕組みを理解している。
（２）発達障害等の特別の支援を必要とする児童生徒等の発達や心理的特性を理解している。
（３）障害のある幼児、児童生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的知識を身に付けている。
「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援方法の理解と習得」
（１）特別の支援を必要とする児童生徒等に対する支援の方法について例示することができる。
（２）「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。
（３）個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
（４）校内で及び関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
「障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援についての理解」
（１）母国語や貧困の問題等を抱える児童生徒等の困難や対応の必要性を理解している。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

障害児者の教育や福祉に関する施策の動向やニュースなどに日々留意し、情報収集に努めるとともに問題意識を高めてください。

教科書

なし

参考書

授業中に適宜資料を配布する。

研究室／オフィスアワー

授業中に示す。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	特別支援教育の理念及び枠組みについて	授業内容の復習（2 時間）	
2	障害のある児童生徒の抱える困難について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
3	発達障害のある児童生徒の特性について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
4	発達障害のある児童生徒への配慮について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
5	自立活動を軸とした指導について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
6	実態把握と教育的支援・指導計画について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
7	校内外の体制及び連携のあり方について	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	
8	特別な教育的ニーズに関するまとめ	事前配布資料による予習（2 時間）と事後の復習（2 時間）	

成績評価方法と基準	割合
①定期試験 ②毎回の授業で課す小レポート	①80% ②20%

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法(教職課程:鍼灸)				
主担当教員	福島　信也		担当教員	福島　信也	
科目ナンバリング		科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

「総合的な学習の時間」について、創設された背景やその後の経過を知り、その理念や意義について理解する。
また、「総合的な学習の時間」の目標や内容を理解するとともに、下記の項目について理解を深める。
〇新学習指導要領における「総合的な学習の時間」で育てようとする資質や能力について理解する
〇横断的・総合的な学習や探究的な学習について理解する
〇指導計画の作成について理解する

「総合的な学習の時間」は、授業内容や方法は各学校の指導にゆだねられているので、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する必要がある。中学校（高等学校）の具体的な実践事例などを通して、「総合的な学習の時間」を構想できる基礎的・基本的な知識・技能を身につけることを主眼としている。

到達目標

「総合的な学習の時間」の意義と教育課程において果たす役割について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性について理解する。

※「総合的な学習の時間」の創設の背景と「総合的な学習の時間」のねらい及び育成することを目指す資質・能力を理解する

※「総合的な学習の時間」の横断的・総合的な学習や探究的な学習を構想できる

※「総合的な学習の時間」の指導計画の作成及び学習指導の基本的な考え方について理解する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」などは、講義の中で適宜取り上げていきますが、全てを網羅することはできません。授業後は必ずプリントを読み返し、理解を深めてください。

※授業で配布したプリントは、必ずファイル（綴じ込んで保存）すること

※プリントを適宜読み返し、授業で学んだことを復習すること

※授業で配布した課題プリントは、必ず提出すること

教科書

使用しない。
プリントを配布します。

参考書

〇文部科学省「中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」
〇ぎょうせい　「平成 29 年改正　中学校教育課程実践講座　総合的な学習の時間」
その他、参考になる文献などは授業中に適宜紹介していきます。

研究室／オフィスアワー

イーストポート４階 研究室２０
水曜日 10：00～14：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	「総合的な学習の時間」の導入について ～ オリエンテーション・導入された背景などについて ～	プリント復習（１時間）	福島信也
2	育成する資質・能力の意義について ～ 意義・学力の関係など ～	プリント復習（１時間） 「中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」読む（１時間）	福島信也
3	教育課程と校内体制　その１ ～ 教育課程における位置づけ ～	プリント復習（１時間） 「中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」読む（１時間）	福島信也
4	教育課程と校内体制　その２ ～ 「総合的な学習の時間」の学習内容 ～	プリント復習（１時間） 「中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」読む（１時間）	福島信也

5	全体計画・年間計画・単元計画 ～ 指導計画の基本的な考え方 ～	プリント復習（１時間） 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む（１時間）	福島信也
6	「総合的な学習の時間」の評価 ～ 評価のポイント・評価方法 ～	プリント復習（１時間） 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む（１時間）	福島信也
7	「総合的な学習の時間」の学習指導 ① ～ 『思考ツール』の活用　その１ ～	プリント復習（１時間） 課題プリント（１時間）	福島信也
8	「総合的な学習の時間」の学習指導 ② ～ 『思考ツール』の活用　その２ ～	プリント復習（１時間） 課題プリント（１時間）	福島信也
9	「総合的な学習の時間」の学習指導 ③ ～ 情報の収集について ～	プリント復習（１時間） 事例集を読む（１時間）	福島信也
10	「総合的な学習の時間」の学習指導 ④ ～ まとめ・表現について ～	プリント復習（１時間） 事例集を読む（１時間）	福島信也
11	授業をつくり出そう ～「保健体育」&「総合的な学習の時間」を組み合わせて ～	プリント復習（１時間） 課題プリント（１時間）	福島信也
12	単元計画の作成 ① ～ 事例を選び、単元計画を作成しよう ～	プリント復習及び「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む（１時間） 単元計画作成（１時間）	福島信也
13	単元計画の作成 ② ～ 単元計画をさらに工夫しよう ～	プリント復習及び「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む（１時間） 単元計画作成（１時間）	福島信也
14	グループ検討会 ～ 学んだことをみんなで活かそう ～	プリント復習及び「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」読む（１時間） 単元計画作成（１時間）	福島信也
15	これからの「総合的な学習の時間」の授業づくり ～（仮想）森ノ宮中学校の総合学習を考えよう～	プリント復習（１時間） 課題プリント（１時間）	福島信也
成績評価方法と基準			割合
●単元計画は全員が提出します ●授業では、課題（プリント・コメントシート等）を提出します			●「単元計画」関係の課題：40% ●授業内課題：60%

授業科目名	生徒指導・進路指導論(教職課程:鍼灸)				
主担当教員	杉山　雅		担当教員	杉山　雅	
科目ナンバリング		科目区分	教職に関する科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

現代社会を生きる子ども達の心身の健全な発達について、ＨＲ指導や個別指導を中心に生徒指導の観点から考察します。生徒指導の基本原理を学び、厳罰主義をのりこえ、生徒の自主性を伸ばす指導法を身につけることができます。又、教育現場での具体的な指導事例を取り上げ、生徒指導の実践的な指導力を身につけることができるようになります。

到達目標

・思春期を生きる子どもたちの発達の課題を理解し、自立への過程を考察します。
・体罰や不適切な指導をのり越え、生徒の心に響くしなやかな指導の在り方を学ぶ。
・生徒への個別接近の教育実践例に学び、生徒の内面を丁寧に理解し、生徒指導におけるケアの理論を学ぶ。
・問題行動への取り組み方と専門機関との連携の仕方を学ぶ。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

復習に力を入れてください。受講後、授業で配布された資料を読みなおし、授業のテーマと関連のある参考書の部分に目を通し、理解を深めてください。
生徒指導に養護教諭の専門的領域を活用できる能力を養ってください。

教科書

教科書はなし。毎時間、レジュメと資料を配布します。

参考書

「生徒指導提要」文部科学省　2010 年　教育図書
「教師の仕事を考える」杉山雅　2012 年　学文社

その他、必要に応じて資料を配布します。

研究室／オフィスアワー

講義のある日に講師控室へ来てください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生徒指導とは何か。その基本的な指導法を学ぶ。	予習と復習	
2	体罰とは何か。その定義を学び、体罰を克服する指導の在り方を身につける。	予習と復習	
3	部活動と体罰を考える―近代スポーツの成立とは何か？―	予習：課題ミニレポート「体罰について」	
4	日々の生活指導の技を学び、遅刻や清掃指導の個別接近の方法を学ぶ。	予習と復習	
5	行事の指導について、学校事故の観点からも考察し、事故を防ぐ力を高める。	予習：講義の復習	
6	不登校・登校拒否の概念とその変遷について理解できる力をつける。	予習と復習	
7	不登校・登校拒否の生徒への対応や専門機関との連携の仕方について学ぶ。	予習：課題ミニレポート「不登校について」	
8	「いじめについて考える」―いじめの定義とその発生のメカニズムを考察する。	予習と復習	
9	「いじめについて考える」(その２）―いじめを克服する筋道を展望する。	予習：課題ミニレポート「不登校について」	
10	「児童虐待について考える」―児童虐待とは何か―	予習と復習	
11	「児童虐待について考える」(その２）―児童虐待と取り組む―	予習と復習	
12	広義の虐待と DV について考える―マルトリートメントとは？	予習と復習	
13	進路ガイダンスにおける進路意識を高める取り組みについて考える。	予習と復習	

14	少子高齢化社会の到来を踏まえ、キャリア教育の指導について学ぶ。	予習と復習	
15	子どもの貧困問題と進路保障を考える。	予習と復習	
成績評価方法と基準			割合
定期試験（筆記）　７０％ ミニレポート　３０％			杉山１００％

保健医療学専攻(修士課程)

(2018 年度入学生カリキュラム)

授業科目名	発達健康支援看護学特論(保健医療学専攻)（Life-Long Development and Health Support Nursing (Advanced))				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、白井　文恵	
科目ナンバリング	HP004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

発達健康支援看護学特論では、受精から死に至るまでの個人的発達について理解し支援することを目的とする。
人は、全生涯を通じて続く発達と適応過程を生きる。
ライフサイクルおいて、親、次世代、思春期、高齢者の立場から、発達と健康課題に対する理解を深め、個から家族そして社会
の抱える健康課題に対する有用な支援について考察する。
実り豊かで幸福な人生を積み重ねるためにサクセスデベロップメント・サクセスフル･エイジングについて看護の可能性を模索
する。発達段階における健康課題に関するトピックスを取り入れて授業を展開する。
授業前半では、高齢社会における社会的課題を高齢者のみならず次世代の課題と捉えて考察する。また、ハンセン病対策について回復者と家族の課題について考える。

到達目標

1.生涯発達の思考を培い、個人・家族・社会発達について理解する。
2.人の、全生涯で継続する適応過程と各ライフサイクルにおける共通した発達と発達の課題について理解する。
3.育てられるものから、育てるものへ親になる過程における適応過程と発達そして発達課題について理解する。
4. 一生涯をかけてサクセスフルエイジングの適応と発達を高齢者の生き方と死から考察する。
5. 個の発達と健康が健全でより良いものであるために、有用な支援の在り方について考察する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

柔軟な思考でディベートができるように生涯発達に関連するトピックスや書籍に良く触れること。

教科書

必要時にプリントを配布する

参考書

・服部祥子（2010）：生涯人間発達論，第 2 版，医学書院
・舟島なをみ（2011）：看護のための人間発達学，第 4 版，医学書院
・アードマン・B．パルモア（著），奥山正司(翻訳)(1995)：エイジズム―優遇と偏見・差別,法政大学出版局
・鈴木隆雄(2012)：超高齢社会の基礎知識，講談社
・福西征子（著）：ハンセン病家族の絆 昭和堂
・黒坂愛衣（著）：ハンセン病家族の物語　世織書房
・古林海月（作・画）,蘭由岐子（監修）：麦ばあの島１～４巻　すいれん舎

研究室／オフィスアワー

west port 236　大巻　適宜対応する　　（事前に連絡すること）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	「老い」と社会的価値観	エイジズムＡｇｉｓｍを考える。自らの「老い」に対するイメージを構築する。ハンセン病回復者とその家族に関する資料を収集し、書籍を読むこと。	白井 文恵
2	超高齢社会のサクセスフル・エイジング Successful Aging	高齢化をポジティブにいきる「サクセスフル・エイジング」の課題を模索する。	白井 文恵
3	「高齢社会」に関する社会的問題(1)	高齢化が進むハンセン病回復者の方々が生きてきた道のりから「サクセスフル･エイジング」とは何かを考える。	白井 文恵
4	「高齢社会」に関する社会的問題(2)	療養所に暮らし「社会から疎外されたまま迎える死」の現実を考える。	白井 文恵
5	「高齢社会」に関する社会的問題(3)	ハンセン病問題を家族の立場から考える。	白井 文恵
6	「高齢社会」に関する社会的問題(4)	「老い」に関する課題をメディアが媒体としてどのように扱っているのかを評価し検討する。	白井 文恵
7	「高齢社会」に関する社会的問題(5)	高齢社会に関する社会的課題の現状と動向	白井 文恵
8	周産期・子育て期における家族支援について	家族機能の変化（適応）について学修する。	中西 伸子
9	家族の発達課題について	家族の発達段階の移行について調べてくる。 母親のストレスケアの重要性について学修する。	中西　伸子
10	低出生体重児の発育に影響するデベロップメンタルケアについて	新生児集中治療室（NICU）に入院した子どもをもつ母親と子どもとの相互の適応と発達に関する支援についてディベートする準備をしておく。	中西　伸子
11	子どもの発達障害とは	子どもの発達障害について調べてくる。	中西　伸子
12	児童・思春期をとりまく社会背景と健康課題	児童・思春期の発達段階・発達課題について調べてくる。	中西　伸子
13	成人期をとりまく社会背景と健康課題	成人期の発達段階・発達課題を調べてくる。	中西　伸子
14	生涯発達論の看護への活用	更年期・露年季の発達課題について調べてくる。	中西　伸子
15	生涯発達における看護の役割と可能性	プレゼンテーションできるよう準備する。	中西　伸子

成績評価方法と基準	割合
メディア（映画・テレビドラマ・書籍・広告など）から「老い」に関して取り上げているものを選び、「老い」に関する分析を行う。詳細については授業で行う。(大巻) ①プレゼンテーション(大巻・中西) ②レポート（中西） DP②③ 出席 4/5 以上	30% ①40% ②30%

授業科目名	発達支援看護開発特論(保健医療学専攻)（Nursing Development in Growth Support (Advanced)）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子	
科目ナンバリング	HP005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

人は生涯、発達をし続ける。その発達を生物学的、心理学的、社会学的にさまざまな角度から総合的に捉え、どのように発達すべきか、発達する人間にどのように対応すべきかを考え、多角的視点から学ぶ。
さらに、次世代を生み育てる時期あるいはその準備期でもある思春期・青年期・成人期において、健康に問題を抱えた女性を対象とする発達支援看護学の基礎理論を体系的に理解することを目指す。特に成長発達過程にある思春期や周産期の女性に健康障害が生じた場合やリスクが高い場合について、予防・回復するための根拠、諸活動支援について学ぶ。

到達目標

成長段階に応じた発達はどうあるのか、どのような因子が影響しているのかを考察し、発達理論を基に多角的に学習する。
看護・教育・心理・福祉の視点をもち、女性の健全で幸福な発達を目指し、それらを取り巻く環境（家族、カップル、学校、職場、社会）から支援を考察する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

主体的な学習態度を求める

教科書

舟島なをみ，看護のための人間発達学第４版，医学書院,2015

参考書

服部祥子，生涯人間発達論第２版，医学書院,2014
服部祥子，人を育む人間関係論，医学書院,2014
渡辺久子，母子臨床と世代間伝達，金剛出版,2006
渡辺久子，抱きしめてあげて，太陽出版,2005

研究室／オフィスアワー

適宜相談に応じる

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	人間発達学と発達に影響を及ぼす因子	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
2	発達理論とその歴史	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
3	胎児期の心と身体	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
4	乳幼児期の発達	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
5	乳幼児期の発達の評価	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
6	乳幼児期の発達への支援と課題	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
7	発達障がいとは	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
8	乳幼児虐待と発達に及ぼす影響	テキストに目を通し、トピックなど社会的背景等なども踏まえて自分の意見が言えるようにしておくこと。	中西
9	人間発達と看護	生涯人間発達論を基盤に、近年の課題を通して、看護が果たす役割を考えていく。近年の世界および日本の社会情勢が生涯人間発達に影響を及ぼしていると感じる出来事を確認しておく。	中西
10	ライフサイクルと発達－思春期	性成熟と社会的自立の時間的乖離から生じる思春期を取り巻く課題と支援を考える。事例をもとに討論できるように準備する。	中西
11	ライフサイクルと発達－青年期・成人期	終わらない青年期と遅れていく生殖性/親密性から生じる課題と支援を考える。事例をもとに討論できるように準備する。	中西
12	思春期の発達－教育における支援	思春期臨床に関わる対人援助職とともに、課題や支援を討論し考えていく（健康教育としての性教育を考える）。	中西
13	人を育む人間関係－自己と他者、関係の諸相	人間関係論の基本的視点とその発達を考えていく。個人や対人援助職者としての人間関係の強みと弱みを振り返っておく。	中西
14	人を育む人間関係－コミュニケーション	自己を知り相手を理解するためのコミュニケーションを考える。	中西
15	人を育む人間関係－ストレスマネジメントとストレスコーピング	より良い人間関係を築き、持続していくためのプロセスを考える。	中西

成績評価方法と基準	割合
①講義における発表や討論内容から評価する。 詳細については、授業内で適宜説明する。DP②③	①100%

授業科目名	運動生理学特論(保健医療学専攻)（Exercise Physiology【Advanced】）				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博	
科目ナンバリング	HP006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

呼吸化学調節系や動脈圧受容器反射系は、血液ガスやpH、血圧の恒常性維持に必要不可欠なフィードバックシステムである。この生体制御系の運動時における機能評価について、本特論では、システム生理学の手法を用いて、呼吸・循環系応答の制御メカニズムを系統的に研究分析する方法論を紹介すると同時に、様々な外乱刺激に対する呼吸循環系応答の動作原理や、運動トレーニングによる生体適応変化の法則性、および呼吸循環反応に現れる病態異常所見のメカニズムについて、最新の研究成果や我々の研究結果を基にシステム生理学、及び運動生理学の立場から解説する。

到達目標

生体の構造と機能について細胞・組織・個体レベルでそれらがどのように連携して働いているかを統合的かつ定量的な視点から理解できるようになる（DP②③）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生体システムの運動に対するダイナミックな振る舞いを理解するため、コンピュータシミュレーションを多用します。
PC やエクセル（表計算ソフト）の基本的な操作方法はすでに習得していることを前提に、授業を展開するので注意してくださ
い。

教科書

なし

参考書

Handbook of Physiology, Sect. 12, Exercise: Regulation and integration
of multiple systems, Ed. By Rowell L. B. and Shepherd, J. T., Am.
Physiol. Soc., New York, 1996

研究室／オフィスアワー

原則月曜日3 時限目・4時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	運動生理機能の評価とシステム解析について	運動負荷に対する生体システムの適応能を評価する生理学的意義	中原
2	生体システムの構造同定①	フィードバックシステムの構造同定	佐野
3	生体システムの構造同定②	呼吸化学調節系の制御部における構造と機能	中原
4	生体システムの構造同定③	呼吸化学調節系の制御対象部における構造と機能	中原
5	生体システムの構造同定④	循環調節系の制御部における構造と機能	中原
6	生体システムの構造同定⑤	循環調節系の制御対象部における構造と機能	中原
7	生体システムの分析①	呼吸化学調節系の動作点決定機構の定量的理解	中原
8	生体システムの分析②	循環調節系の動作点決定機構の定量的理解	中原
9	生体システムの動作原理①	運動に対する呼吸循環系応答の動作原理①	中原
10	生体システムの動作原理②	運動に対する呼吸循環系応答の動作原理②	中原
11	生体システムの適応①	運動トレーニングによる生体適応変化①	中原
12	生体システムの適応②	運動トレーニングによる生体適応変化②	中原
13	生体システムの制御①	呼吸循環反応に現れる病態異常の評価	中原
14	生体システムの制御②	呼吸循環反応に現れる病態異常のメカニズム	中原
15	生体システムの制御③	呼吸循環反応に現れる病態異常の治療原理	中原

成績評価方法と基準	割合
①講義中の討議、レポートによる総合評価（DP②③）	①100%

授業科目名	バイオメカニクス健康科学特論(保健医療学専攻)（Biomechanics Health Science【Advanced】）				
主担当教員	前田　薫		担当教員	前田　薫、工藤　慎太郎、井上　護	
科目ナンバリング	HP007	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

人間の身体を物理学的視点からとらえることは、運動器における種々の病態を理解するとともに、それらを予防するうえで必要
不可欠である。この講義では、人間の姿勢と歩行に関する研究のうち、バイオメカニクスの観点から行われたものを題材として、
そこで用いられている研究手法について解説する。

到達目標

・バイオメカニクス的な研究手法とその理論的背景について理解する（DP②③）
・バイオメカニクス的な研究手法の臨床応用の実際について理解する（DP②③）
・バイオメカニクス的な研究手法の利点と限界について理解する（DP②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

参考書は必須ではないが、理解を深めるためには購入を勧める

教科書

指定しない。

参考書

金子公宥、福永哲夫（編）、バイオメカニクス、杏林書院

研究室／オフィスアワー

前田：月曜２限、火曜、第３木曜３限以外で予約を取り、来室してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	＜バイオメカニクスの基礎①＞ バイオメカニクス的研究において重要な物理学 （特に力学）について講義する①。	予習：ニュートン力学（一般物理学）について確認しておく。 復習：身体運動への力学の適用の仕方について復習する。	前田
2	＜バイオメカニクスの基礎②＞ バイオメカニクス的研究において重要な物理学 （特に力学）について講義する②。	予習：ニュートン力学（一般物理学）について確認しておく。 復習：身体運動への力学の適用の仕方について復習する。	前田
3	＜姿勢の研究１＞ ヒトの姿勢の平衡について、バイオメカニクスの観点から講義する。	予習：波動（物理学）について確認しておく。特に周波数の概念が重要。 復習：フーリエ変換の概念、床反力計の仕組みについて復習する。	前田
4	＜姿勢の研究２＞ ヒトの姿勢の研究について講義する②	予習：筋骨格系の解剖学と運動学を確認しておく。 復習：講義において説明した知見について復習する。	前田
5	＜姿勢の研究３＞ ヒトの姿勢の研究について講義する③	予習：筋骨格系の解剖学と運動学を確認しておく。 復習：講義において説明した知見について復習する。	前田
6	＜バイオメカニクスに基づく臨床①＞ バイオメカニクスに基づく臨床実践について解説する①	運動学の内容について予習・復習を行う。	井上
7	＜バイオメカニクスに基づく臨床②＞ バイオメカニクスに基づく臨床実践について解説する②	運動学の内容について予習・復習を行う。	井上
8	＜歩行解析実習①＞	予習：力学の項目と歩行の運動学的説明を復習しておく。 復習：３次元動作解析の原理について復習する。	工藤
9	＜歩行解析実習②＞	予習：正常歩行のバリエーションと典型的異常歩行の背景について復習する。 復習：正常歩行から逸脱した歩行様式の運動力学的解釈を復習する。	工藤
10	＜筋活動解析実習①＞ 筋活動解析のための方法論の実際について、演習を交えて講義する。	筋電図の測定原理について調べておく。	前田
11	＜筋活動解析実習②＞ 筋活動解析のための方法論の実際について、演習を交えて講義する。	前回の内容をノートなどを参考に復習しておく。	前田
12	＜走動作の研究①＞ 走行のバイオメカニクス的研究手法と知見	予習：加速度、力のベクトル、エネルギー保存則について確認しておく。 復習：講義において説明した知見について復習する。	前田
13	＜走動作の研究②＞ 走行のバイオメカニクス的研究手法と知見	予習：前回の講義内容を復習する。 復習：講義において説明した知見について復習する。	前田
14	＜姿勢解析実習①＞ 姿勢研究に用いるパラメーターを計測、解析する①	測定機器について復習しておく。	前田
15	＜姿勢解析実習②＞ 姿勢研究に用いるパラメーターを計測、解析する②	前回の内容をノート等を参考に復習しておく。	前田

成績評価方法と基準	割合
到達目標の達成の程度を、以下の２つにて評価する。 ・期末試験（DP②③）（前田、井上担当部分） ・レポート課題（DP②③）（工藤担当部分）	筆記試験 70% レポート 30% ＊合計で 60 点以上あれば単位を認定する。

授業科目名	鍼灸健康科学特論(保健医療学専攻)（Acupuncture/Moxibustion Health Science【Advanced】）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	HP008	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

ライフスタイル、高齢社会（老化）により生活習慣病の増加、急性病から慢性病への移行など疾病の構造変化が進んでいるため
予防医学が注目されている。東洋医学の概念には古来より「疾病になる前段階の状態に治療し、疾病の発生を防ぐ予防法)」や
「養生法（古くから行われている健康を維持し増進する法)」がある。本特論は鍼灸治療による疾病予防と健康増進に関して、これまでに明らかにされている基礎研究と臨床研究、その研究方法論を解説する。

到達目標

・生活習慣病と鍼灸治療法について説明できる。〈DP②〉
・高齢社会（老化）と生活習慣病に関係する学説を説明できる。〈DP③〉
・予防医学である治未病や養生法を説明できる。〈DP③〉
・活性酸素と酸化ストレスについて説明できる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

配布資料の復習をおこない健康科学に対する認識を確認する。
各授業内容について復習予習を各１時間行ってください。

教科書

配布資料

参考書

老年学テキスト飯島節、鳥居研二南江堂

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室９
昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	生活習慣病とは	復習：生活習慣病の定義と疾患について	
2	老化現象とは	復習：老化現象と疾患の関係について	
3	活性酸素の基礎① 活性酸素、酸化ストレスの基礎	予習：活性酸素とは 復習：活性酸素の作用について	
4	活性酸素の基礎② 活性酸素、酸化ストレスの研究法	予習：各種実験方法について 復習：酸化と抗酸化の実験方法について	
5	活性酸素の基礎③ 活性酸素、酸化ストレスと鍼治療	予習：各種実験方法 復習：活性酸素の測定方法	
6	活性酸素の基礎④ 活性酸素、酸化ストレス灸治療	予習：各種実験方法 復習：活性酸素の測定方法	
7	高齢化に伴う整形外科疾患 炎症性疾患の基礎研究と臨床研究	予習：炎症性疾患について 復習：治療方法について	
8	高齢化に伴う代謝疾患 糖尿病の基礎研究と臨床研究	予習：病態について 復習：治療方法について	
9	高齢化に伴う循環器疾患 高血圧の基礎研究と臨床研究	予習：病態について 復習：治療方法について	
10	鍼灸と運動療法① 有酸素運動と鍼灸の基礎研究	予習：病態について 復習：治療方法について	
11	鍼灸と運動療法② コンディショニングと鍼灸	予習：病態について 復習：治療方法について	
12	健康と鍼灸治療の基礎① 鍼灸治療の解剖学的研究法	予習：組織化学 復習：解剖学的な実験方法について	
13	健康と鍼灸治療の基礎② 鍼灸治療の免疫・生理学的研究法	予習：電気生理学 復習：実験方法について	
14	健康増進と鍼灸① 治未病の考究	予習：食物と健康 復習：中医学と食物	
15	健康増進と鍼灸② 養生法の考究	予習：食物と健康 復習：中医学と食物	

成績評価方法と基準	割合
①講義中のディスカッション ②レポートによる評価 DP②③	①30% ②70%

授業科目名	看護技術特論(保健医療学専攻)（Art of Nursing (Advanced)）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング	HP009	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

ここでは「看護技術」とは何かを問う．そのためには看護とは何かという問いが必要であり，さらに「技術とは」が必要になっ
てくる．これまで「看護技術」に関する見解には変遷が認められたが，「ヒューマンケアリング」の時代の看護技術はどうあれば
よいのだろうか？ このことを課題として受講者とともに考究していきたい。

到達目標

この授業を通して，「看護技術とは」に対する自己の定義を明確にする。
看護技術が看護の技術であるための必要要件（構成要素）を提示することができる。
看護技術の構成要素のつながりを考えることができる。
臨床的・基本的なケアで具体的に「看護技術」を説明できる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

「看護は実践の学問」という考えに異論のある人はいないと思います．では，専門職の実践はいかなるものであるか？ 原点に
戻って考えてほしい．「こうでなければ専門職としての看護技術とは言えない」というものを提示するよう，主体的に臨んでほしい．

教科書

使わない

参考書

1．日野原重明・川島みどり・石飛幸三著「看護の時代―看護が変わる医療が変わる」日本看護協会出版会
2．日本看護技術学会編「看護技術の探求」
3．吉田みつ子著「看護技術ナラティヴが教えてくれたこと」
4．ミルトン・メイヤロフ著　田村真・向野宣之訳「ケアの本質」ゆみる出版
5．シスター・M・シモーヌ・ローチ著　鈴木智之　操華子　森岡崇訳「アクト・オブ・ケアリング」ゆみる出版

研究室／オフィスアワー

初回に発表する．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 「看護技術」に関する見解を述べて討論する	各自「看護技術」とは何か，定義してくる． 必要時，資料作成．	村上
2	同上	同上	村上
3	同上	同上	村上
4	同上	同上	村上
5	看護技術の構成要素とそれらの関連について各自 の見解を述べて討論する	他者に説明するために図あるいはレジュメ等の資料作成。	村上
6	同上	同上	村上
7	同上	同上	村上
8	同上	同上	村上
9	同上	同上	村上
10	各自の看護技術を実践的に行為で説明する（基礎 看護学実習室）	事前にパフォーマンスの内容を報告し，必要な準備をする．	村上
11	同上	同上	村上
12	同上	同上	村上
13	同上	同上	村上
14	看護技術の変遷	まとめ	村上
15	講義全体のまとめ		村上

成績評価方法と基準	割合
①最終のパフォーマンスとその説明で評価する．DP②③	①100%

授業科目名	生体防御系臨床鍼灸学特論(保健医療学専攻)（and Moxibustion【Advanced】）				
主担当教員	松熊　秀明		担当教員	松熊　秀明	
科目ナンバリング	HP010	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

循環システムは生命維持の根幹をなす機能である。また、生体を維持する上で、生体防御システムは無くてはならない機構であ
る。本特論では、関節炎等における循環システムや急性・慢性炎症機構の原因、細胞反応、形態学的パターンのほか、生体の免
疫学的機序について紹介すると同時に、鍼灸がこれらの機構に及ぼす影響とその機序について、最新の研究成果や我々の研究結果を基に臨床鍼灸学の立場から解説する。

到達目標

・鍼灸の循環システムに対する作用について説明できる。
・急性・慢性炎症機構の概略を説明できる。
・鍼灸の抗炎症作用について説明できる。
・鍼灸のアレルギー・自己免疫疾患・腫瘍に対する効果について説明できる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 出席を重視する。
2. 授業態度が不良(私語、携帯を見ること等)の者は減点対象とする。
3. 配布された講義資料にも目を通すこと。
4.疑問点は大切にし、解決に向けて行動すること。

教科書

特になし

参考書

「標準生理学」：医学書院
「はりきゅう理論」医道の日本社
「解明病理学」医歯薬出版株式会社

研究室／オフィスアワー

研究室１(東棟 4F)／月曜日３限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	循環システム血液について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
2	鍼灸の循環システムに与える影響① 血液量、血流量、血圧への作用について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
3	鍼灸の循環システムに与える影響② 血球への作用について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
4	急性炎症の機構① 原因と微小循環系について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
5	急性炎症の機構② 組織細胞反応について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
6	急性炎症の機構③ 炎症の終息と帰結について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
7	急性炎症の機構④ 形態学的パターンについて。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
8	慢性炎症の機構① 原因と組織細胞反応について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
9	慢性炎症の機構② 形態学的パターンについて。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
10	鍼灸の生体防御に与える影響① 鍼灸の抗炎症効果について。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
11	アレルギー疾患 アレルギー反応の原因と発症メカニズムについて	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
12	鍼灸の生体防御に与える影響② アレルギー疾患に対する鍼灸の効果。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
13	免疫応答 自己と非自己の識別のメカニズムについて	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
14	鍼灸の生体防御に与える影響③ 自己免疫疾患に対する鍼灸の効果。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊
15	鍼灸の生体防御に与える影響④ 腫瘍に対する鍼灸の効果。	課題：参考資料、関連論文等で調べ、まとめること。(4 時間)	松熊

成績評価方法と基準	割合
レポート(DP2,3)	100%

授業科目名	血管病理病態学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子	
科目ナンバリング	HR002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年わが国では、社会の高齢化や肥満、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の増加を背景として、動脈硬化病変とそれに基づく病的血栓形成を発症原因とする心筋梗塞、脳梗塞などの心血管イベントの発症率が増加してきている。　本講義では、動脈硬化病変の成り立ち・発症メカニズム・病理や、動脈硬化研究の流れ、心血管イベントの発症原因・機序、血液透析と心血管合併症、その他の血管病変の病理などについて解説する。

到達目標

動脈硬化病変の形成・進展メカニズムの概略を説明できる。
病的血栓形成と、動脈硬化症との関連性を説明できる。
動脈硬化病変と、種々の生活習慣病との関連性を説明できる。
心血管イベントの発症メカニズムの概略を説明できる。
血液透析と心血管合併症について説明できる。
川崎病の血管病変、移植臓器の血管病変、ステント後新生内膜形成・再狭窄について説明できる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義、ディスカッションなどを組み合わせて実施する。

教科書

必要に応じて、資料を配布する。

参考書

「ロビンス　基礎病理学」　原書９版　丸善出版
「解明病理学」　第２版　医歯薬出版

研究室／オフィスアワー

研究室在室時には、いつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	正常血管の構造と機能	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
2	動脈硬化の形成・進展メカニズム① 内皮細胞、　血管作動性物質	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
3	動脈硬化の形成・進展メカニズム② テロメアと老化	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
4	動脈硬化の形成・進展メカニズム③ 血管平滑筋細胞、　増殖因子	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
5	動脈硬化の形成・進展メカニズム④ 白血球、　マクロファージ	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
6	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑤ 脂質沈着、　アテローマ（粥腫）	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
7	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑥ 細胞外マトリックスの増殖、　石灰化	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
8	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑦ 酸化ストレス、　酸化 LDL	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
9	動脈硬化の形成・進展メカニズム⑧ 病的血栓形成、　血管新生	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
10	動脈硬化症と生活習慣病との関連性	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
11	心血管イベントの発症メカニズム① 心筋梗塞、　急性冠症候群	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
12	心血管イベントの発症メカニズム② 脳卒中	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
13	血液透析と心血管合併症	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
14	川崎病の血管病変、　移植臓器の血管病変	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田
15	ステント後新生内膜形成・再狭窄メカニズム	予習　：　参考資料や関連文献を読んでおく 復習　：　授業で学んだことをまとめる	上田

成績評価方法と基準	割合
講義中のディスカッションとレポートによる評価 DP②③	ディスカッション 60% レポート 40%

授業科目名	療養支援看護学特論(保健医療学専攻)（Home Care Support Nursing (Advanced)）				
主担当教員	南部　登志江		担当教員	南部　登志江、吉村　弥須子	
科目ナンバリング	HR007	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	火曜５限 木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

人口の高齢化、生活習慣病やがん罹患者の増加に伴い、さまざまな健康問題を抱え、医療施設や在宅等で療養生活を送る人々が増加している。長期にわたり治療や療養生活を送る人々とその家族に対する QOL 向上のための療養生活支援、健康回復支援、エビデンスに基づく看護実践（EBN：Evidence Based Nursing）などについて学修する。主に成人期から老年期にある人々とその家族に対して活用できる理論の活用方法や健康評価・分析方法、高度の専門的援助の実践などについて学修する。また在宅ケアに関わる諸制度、関係多職種との連携など、在宅ケアシステム全体を視野に置き、健康障害を持ちながら、地域で生活する人々とその家族の支援について探求する。

到達目標

1.療養支援に活用できる諸理論について理解し、活用方法について説明できる。〈DP②③〉
2.社会環境や社会福祉施策などを包括して、健康問題へのよりよい支援のあり方について文献検索を行い検討することができる。〈DP②③〉
3.健康問題を抱え療養生活を送る人々に必要な支援について、プレゼンテーションを行うことができる。〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて行う。
2. プレゼンテーションのための資料を事前に準備する。

教科書

必要時資料を配布する。

参考書

必要時資料を配布する。

研究室／オフィスアワー

334 研究室（吉村）／月曜日 16:30～18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	成人期から老年期の健康問題と療養支援に関する現状と課題	成人期から老年期の健康問題と療養支援について調べてくる。　1時間	吉村　弥須子
2	療養生活におけるストレスコーピングとストレスマネジメント	ストレスコーピング理論について復習し、ストレスマネジメントに関する文献検索を行う。1時間	吉村　弥須子
3	療養生活におけるセルフケア支援	セルフケア理論について復習しセルフケア支援に関する文献検索を行う。　1時間	吉村　弥須子
4	急変状況における危機介入と意思決定支援	危機理論、意思決定に関する理論について復習し文献検索を行う。　1時間	吉村　弥須子
5	がん治療における意思決定支援	がん患者の意思決定支援に関する文献検索を行う。　1時間	吉村　弥須子
6	高齢者の健康評価・分析方法、老年症候群やフレイユ、サルコペニアの予防とサクセスフルエイジング	包括的なアセスメントの視点と主なアセスメントツールの評価・分析方法について学習する。	
7	高齢者のストレングスを活かした専門的援助とリスクマネジメント、虐待および身体拘束と倫理	事前に高度の専門的援助のエビデンスや、事故防止と身体拘束、虐待などの倫理について文献検索をしておく。文献をもとに討議する。	
8	高齢者の健康問題と療養支援および家族への支援	ライフレビュー、ライフヒストリーとナラティブアプローチを理解し、レジリエンス、エンパワーメント、スピリチュアリティなどを活用した支援のあり方や、チームアプローチの必要性について復習する。	
9	高齢者の認知症予防と認知症高齢者のアセスメント、家族を含めた支援とサポートシステム、非薬物療法と評価	認知症予防と認知症高齢者のアセスメント、家族を含めた支援とサポートシステム、非薬物療法と評価について復習する。	
10	多死社会における終末期医療の決定プロセス、	事前に終末期医療と終末期の生き方や死の迎	
	終末期高齢者の緩和ケアと QOL、看取りと家族支援	え方、尊厳を支える看護と看取り、家族支援、事前指示などについて文献検索をしておく。討議を通してケアのあり方や終末期高齢者の緩和ケアと QOL について検討する。	
11	在宅療養を支える諸制度とその課題	在宅療養生活を支える現行制度について整理をする。	清水容子
12	在宅療養生活を支える制度と課題	在宅療養生活の問題となることと現行制度について考察し、現代の在宅看護の課題について考察する	清水容子
13	療養者と家族を支える看護	在宅療養を支える職種について学習する。また家族を支える諸理論について学習しておく	清水容子
14	療養者と家族を支える看護職の役割	がん、非がんを問わず終末期の在宅見取りを含めた在宅看護の役割を考える	清水容子
15	療養者と家族を支える看護職の役割	在宅療養生活を支える看護職の役割について概観し、在宅看護領域における看護師に必要な能力と療養生活を支える看護師を育成するためには、今何が必要かを考察する	清水容子

成績評価方法と基準	割合
・プレゼンテーション、ディスカッション 40%。〈DP②③〉	・40%
・レポート 60%。〈DP②③〉	・60%

授業科目名	療養支援看護開発特論(保健医療学専攻)（Nursing Development in Home Care Support）				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子	
科目ナンバリング	HR008	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

人口の高齢化、生活習慣病やがん罹患者の増加に伴い、さまざまな健康問題を抱え、医療施設や在宅等で療養生活を送る人々が増加している。長期にわたり治療や療養生活を送る人々とその家族に対するQOL 向上のための療養生活支援、健康回復支援、エビデンスに基づく看護実践（EBN：Evidence Based Nursing）などについて学修する。主に成人期から老年期にある人々とその家族に対して活用できる理論の活用方法や健康評価・分析方法、高度の専門的援助の実践などについて学修する。また医療施設から在宅や地域における関係多職種との連携など、健康障害を持ちながら、地域で生活する人々とその家族の支援について探求する。

到達目標

1. 療養支援に活用できる諸理論について理解し、活用方法について説明できる。
2. 社会環境や社会福祉施策などを包括して、健康問題へのよりよい支援のあり方について文献検索を行い検討することができる。
3.健康問題を抱え療養生活を送る人々に必要な支援について、プレゼンテーションを行うことができる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて行う。
2. プレゼンテーションのための資料を事前に準備する。

教科書

必要時資料を配布する。

参考書

必要時資料を配布する。

研究室／オフィスアワー

334 研究室（吉村）／月曜日 16:00～18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	成人期の健康問題と療養支援に関する現状と課題	成人期の健康問題と療養支援について調べてくる。	
2	老年期の健康問題と療養支援に関する現状と課題	老年期の健康問題と療養支援について調べてくる。	
3	療養生活におけるストレスコーピングとストレスマネジメント	ストレスコーピング理論について復習し、ストレスマネジメントに関する文献検索を行う。	
4	生活習慣病患者のセルフケア支援	セルフケア理論について復習し、生活習慣病患者のセルフケア支援に関する文献検索を行う。	
5	生活習慣病患者に対する他職種連携支援	生活習慣病患者に対する他職種連携支援について文献検索を行う。	
6	がん患者の意思決定支援	がん患者の意思決定支援に関する文献検索を行う。	
7	がん患者の症状マネジメント	がん患者の症状と症状マネジメントに関する文献検索を行う。	
8	がん患者のエビデンスに基づく緩和ケア	がん医療と緩和ケアに関する文献検索を行う。	
9	がん患者の就労支援	がん患者の就労支援に関する文献検索を行う。	
10	がん患者に対する他職種連携支援	がん患者に対する他職種連携支援について文献検索を行う。	
11	健康危機状況における危機介入と意思決定支援	危機理論、意思決定に関する理論について復習し文献検索を行う。	
12	高齢者の家族支援	高齢者の家族支援に関する文献検索を行う。	
13	医療施設から在宅ケアに向けての現状と課題	医療施設から在宅ケアに移行するうえでの問題点や課題を調べてくる。	
14	在宅ケアにおける多職種連携支援	在宅ケアに関わる職種間の連携における文献検索を行う。	
15	療養支援における理論の活用と看護実践、研究への活用	自分の考えをまとめて発表する	

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②プレゼンテーション、ディスカッション	①60% ②40%

授業科目名	神経系理学療法学特論(保健医療学専攻)（Physical Therapy for Nervous System【Advanced】）				
主担当教員	澤田　優子		担当教員	澤田　優子	
科目ナンバリング	HR009	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

脳血管障害や脊髄損傷、神経筋疾患などの神経系疾患による運動障害や認知障害は多彩である。これらの身体構造・機能障害を客観的に理解し、根拠のある理学療法を展開するために、神経系理学療法学に関する研究成果を取り入れて、臨床現場でみられる患者の問題点について、治療方策の課題を臨床研究も含め検討し解説する方法を学ぶ

到達目標

神経系疾患後遺症者の理学療法分野で行われている研究を挙げ、それぞれの意義を説明できる。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本講義を通じて、テーマに関する国内外の文献についてレビューを行い、ディスカッションを経験し、自分の考えをまとめていくスキルを身に着けてください。

教科書

配布資料

参考書

随時紹介する

研究室／オフィスアワー

月曜日 3 時限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中枢神経系の理学療法と研究方法	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
2	脳卒中の理学療法と研究①	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
3	脳卒中の理学療法と研究②	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
4	脳卒中の理学療法と研究③	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
5	パーキンソン病の理学療法と研究①	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
6	パーキンソン病の理学療法と研究②	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
7	運動失調の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
8	多発性硬化症の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
9	頭部外傷・脳損傷に対する理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
10	筋萎縮性側索硬化症の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
11	脊髄損傷の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
12	その他中枢神経系疾患の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
13	脳性麻痺の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
14	その他小児中枢神経系疾患の理学療法と研究	予習：授業テーマに関する文献を読んでおく 復習：授業テーマに関する自分の考えをまとめる	
15	神経疾患の理学療法の特殊性、講義全体のまとめ	予習：全講義内容について整理し、疑問点を明確にしておく 復習：全講義内容についてまとめる	

成績評価方法と基準	割合
成績評価＜DP②③＞ ①講義中のプレゼンテーション（毎授業にて実施。計 15 回） ②ディスカッション（毎授業にて実施。計 15 回） ③レポートによる評価（毎授業にて実施。計 15 回） 2/3 の出席が必要	 ①30% ②30% ③40%

授業科目名	介護福祉学特論(保健医療学専攻)（Care and Welfare【Advanced】）				
主担当教員	上田　喜敏		担当教員	上田　喜敏、松下　太	
科目ナンバリング	HR010	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限 月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
介護福祉学特論では、日本の高齢者問題、認知症問題や日本の人口問題と社会情勢を分析した上で、世界の介護（ケア）、特にアメリカの現状について述べる。それに基づいた援助技術についての基礎について一部実技をしながら、理解をすすめる。
到達目標
1.日本の人口動態から医療・介護の高齢者問題説明できる。＜DP②③＞ 2.世界のヘルスケア部門の動向を説明できる。＜DP②③＞
履修上の注意(学生へのメッセージ)
1. 配布された講義資料は、読んでおくこと。 2. わからない箇所があれば、必ず質問すること。 3. 興味を持つこと 4.英語文献の翻訳課題がある。
教科書
配布資料にて実施。
参考書
Patient Handling and Movement Assessments: A White Paper Safe Patient Handling and Movement
研究室／オフィスアワー
主に研究室 7/月曜午後
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況１	予習：自身の研究領域に関する先行研究の「背景」を読み解く（2 時間） 復習：配布する論文の「背景」を読み解く（2 時間）。	松下
2	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況２	予習：身の研究領域に関する先行研究の「方法」を読み解く（2 時間）。 復習：配布する論文の「方法」を読み解く（2 時間）。	松下
3	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況３	予習：自身の研究領域に関する先行研究の「結果、考察」を読み解く（2 時間）。 復習：配布する論文の「結果，考察」を読み解く（2 時間）。	松下
4	日本の人口動態について	予習：日本の人口について調べる（2 時間） 復習：日本の人口動態について確認（復習 2 時間）	上田
5	日本の高齢化の状況と高齢社会の実施状況（日本の介護と医療の将来）	予習：介護・医療を取り巻く現状を調べる（2 時間） 復習：介護・医療の今後について確認（復習 2 時間）	上田
6	腰痛の原因と対策	予習：腰痛の機序について調べる（2 時間） 復習：腰痛の原因と対策について確認（2 時間）	上田
7	他産業とケア人間工学	予習：ケアについて調べる（2 時間） 復習：他産業とケア人間工学について調べる（2 時間）	上田
8	エビデンス	予習：エビデンスについて調べる（2 時間） 復習：腰痛のエビデンスについて確認（2 時間）	上田
9	リスク分析	予習：リスクについて調べる（2 時間） 復習：リスク分析を確認（2 時間）	上田
10	介護・看護・リハの人間工学入門	予習：人間工学について調べる（2 時間）	上田
		復習：介護・看護・リハの人間工学を確認（2 時間）	
11	腰痛対策推進施設例	復習：腰痛対策推進施設例を確認（2 時間）	上田
12	移乗関連	予習：移乗について調べる（2 時間） 復習：移乗関連について確認（2 時間）	上田
13	移動関連	予習：移動について調べる（2 時間） 復習：移動関連について確認（2 時間）	上田
14	安全な患者/利用者介助 Early Mobility	予習：Mobility について調べる（2 時間） 復習：Early Mobility について確認（2 時間）	上田
15	入浴排泄関連	予習：入浴排泄関連について調べる（2 時間） 復習：入浴排泄関連について確認（2 時間）	上田

成績評価方法と基準	割合
2/3 以上の出席と課題レポートと提出物等で評価＜DP②③＞	①100%

授業科目名	心身健康科学特論(保健医療学専攻)（Mind-Body Health Sciences）				
主担当教員	井手口　範男		担当教員	井手口　範男	
科目ナンバリング	HP011	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

心身の健康問題の測定法や対処法について概説する．主に，心身に関する心理学（行動科学，認知科学）に関する知見を紹介する．

到達目標

心身の健康問題に対する基本的な心理学的測定法，および対処法を修得し，活用することができる〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

心理学的な視点から講義を進めます．初めて触れる考え方もあるかもしれないが，疑問があれば，迷わず質問してくれることを
期待している．

教科書

特に指定しないが，必要に応じて資料を配布する．

参考書

適宜紹介する．

研究室／オフィスアワー

Ｅ棟４Ｆ研究室１／火曜日５時限（空いていれば適宜対応します）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス：心身医学における心理学的研究の意義	シラバスを確認し，現在の心理学の主要な研究対象がなんであるかを調べておく．【4 時間．以下，文末の【】内の数値は，予習復習の時間を示す】	
2	心身医学とは	ガイダンスの内容をまとめておく．【4】	
3	精神分析的理論	フロイトの精神分析学について、簡単にまとめておく．【4】	
4	学習理論１：条件づけ（レスポンデント条件づけ， オペラント条件づけ）	レスポンデント条件づけ，オペラント条件づけについて調べておく．【4】	
5	学習理論２：条件づけ（社会的学習理論，認知的行動変容）	社会的学習理論，認知的行動変容について調べておく．【4】	
6	心と身体の相互作用１：情動・感情	ジェームズ-ランゲ説とキャノン-バード説について調べておく．【4】	
7	心と身体の相互作用２：ストレス	ストレスとは何か，調べておく．【4】	
8	対人行動	対人コミュニケーション，非言語コミュニケーション，コミュニケーションスキル等をキーワードに調べる．【4】	
9	医療における人間関係	人間関係の様相について，役割理論をキーワードに調べておく．【4】	
10	対人コミュニケーション演習	対人コミュニケーションについて調べ、演習の結果をまとめる．【4】	
11	アサーショントレーニング演習	アサーションについて調べ、演習の結果についてまとめる．【4】	
12	心理検査１：質問紙法	質問紙法の心理検査について予習し，自分自身のテストの結果についてまとめる．【4】	
13	心理検査２：投影法	投影法の心理検査について予習し，自分自身のテストの結果についてまとめる．【4】	
14	精神物理学的測定法１：フェヒナーの法則	フェヒナーの法則について予習し，心理実験の結果をまとめる．【4】	
15	精神物理学的測定法２：スティーブンスの法則	スティーブンスの法則について予習し，心理実験の結果をまとめる．【4】	

成績評価方法と基準	割合
①講義内での課題〈DP②③〉 ②講義内容に関するディスカッション等への参加状況〈DP②③〉 ③レポート〈DP②③〉 上記の結果、総合 60 点以上で単位認定とする．	①25% ②35% ③40%

授業科目名	内科系理学療法学特論(保健医療学専攻)（Physical Therapy for Internal Medicine【Advanced】）				
主担当教員	金尾　顕郎		担当教員	金尾　顕郎、角田　晃啓、堀　竜次	
科目ナンバリング	HR010	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	2	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

オムニバス方式にて呼吸・循環器疾患および生活習慣病等の理学療法プロセス、日常生活動作指導について、理学療法の実際、リスク管理、再評価などの技術を学習する。
生活習慣病や呼吸循環障害は、日常生活の活動性低下や寝たきりの原因となる。本特論では、運動生理学を基に、臨床でみられる内部障害について評価、運動療法、日常生活動作、リスク管理など整理し、内部障害、特に呼吸器系、循環器系、代謝系障害に対する理学療法をとりあげる。また、内部障害として、術後肺合併症も取り上げる。臨床現場での問題についてより解釈するため、運動負荷試験により運動制限因子や他の評価との関係などを再学習する。

到達目標

内科系障害の成り立ちや評価方法を理解し、運動療法の組み立てが理解できる。リスク管理が理解できる。＜DP②③＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．講義内容は、多くの障害を理解するために必要な内容である。
２．研究、臨床、教育を進める上で、疑問点について、必ず解決の行動をとること。
３．下記授業計画は時系列ではなく、授業内容はあくまでも各教員ごとに展開されるので注意すること。

教科書

教科書は使用しない
資料は随時配布する

参考書

医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.2 循環器. MEDIC MEDIA
医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.3 糖尿病・代謝・内分泌. MEDIC MEDIA
医療情報科学研究所 編. 病気が見える vol.4 呼吸器. MEDIC MEDIA
谷本興一. 心肺運動負荷テストと運動療法. 南江堂

研究室／オフィスアワー

金尾：水曜日の１限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。
堀：金曜日３・４限目（研究室）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	呼吸循環器系の基礎１ 呼吸器の解剖と生理の要約	予習：呼吸器・循環器の解剖生理と確認してくること	金尾
2	呼吸循環器系の基礎２ 運動生理学の基礎	予習：運動生理学について事前に調べておく 復習：講義資料を基に運動生理学の基礎について整理し理解する	堀
3	運動負荷試験の実際	予習：運動負荷試験の解釈について調べておく 復習：運動負荷試験の解釈について整理し理解しておく	金尾・堀・角田
4	慢性呼吸不全の理学療法 ・COPD ・間質性肺炎	予習：慢性呼吸不全を調べてくること	金尾
5	ADL・QOL の評価と指導（患者教育）	予習：関係文献を読んでくること	金尾
6	呼吸介助法	実技のできる服装が必要	金尾
7	心循環リスクと理学療法	予習：心循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀
8	脳循環リスクと理学療法	予習：脳循環リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀
9	誤嚥リスクと理学療法	予習：誤嚥リスクについて調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀
10	呼吸コンディショニング	予習：呼吸コンディショニング方法について調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀・金尾
11	嚥下コンディショニング	予習：嚥下コンディショニング方法について調べておく 復習：当日の講義の要約をまとめ報告書を提出する	堀
12	ICU・NICU での理学療法	人工呼吸器等の急性期管理について調べてくること 新生児の特徴について調べてくること	金尾
13	運動時の血糖変動	血糖値の変化要因について調べておくこと	角田
14	糖尿病とサルコペニア	サルコペニアの一般的な知識について調べておくこと	角田
15	糖尿病とエンパワメント	エンパワメントの一般的な概念について調べておくこと	角田

成績評価方法と基準	割合
１．講義中のディスカッション＜DP②③＞	1．50%
２．レポートによる評価＜DP②③＞	2．50%

保健医療学専攻(修士課程)

(2020 年度入学生カリキュラム)

授業科目名	代替・統合医療特論(保健医療学専攻)（Alternative and Integrative Medicine【Advanced】）				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、森 美侑紀	
科目ナンバリング	HLA001	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

統合医療という言葉が知られるようになったが、その定義、概念、臨床応用、および学問体系は統一されていない。統合医療を理解し発展させるために、現代医療と代替医療・東洋伝統医療それぞれの長所と短所を理解した上で、科学的エビデンスと患者の価値観の両者を重視することの重要性を解説する。また、統合医療の重要な構成要素である代替医療の各種治療法について概説し、それぞれの有効性と安全性について批判的吟味を行う。最後に、個々の学生のもつ医療資格において、統合医療にどのような形で関与できるかを考える。

到達目標

統合医療の概念、現状、および課題について理解する。
なぜ統合医療が必要という意見があるのか、その背景が説明できる。
代替医療の主な治療法について種類と概要の説明、および批判的吟味ができる。
自身の医療資格でどのように統合医療に関与すべきか、自分なりの考えが持てる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

患者は様々な療法を受け、医薬品や健康食品を購入している。自分の持っている医療資格に関係なく、患者の立場で必要な知識やセンスを身に着けてほしい。

教科書

なし。関連学術雑誌に掲載された論文などを、必要に応じて紹介する。

参考書

医学雑誌に掲載された論文
代替治療のトリック　サイモン・シン、エツァート・エルンスト　新潮社

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	代替医療・統合医療の定義と概念	自分または家族の代替医療関連療法・商品の利用状況を調べる	山下
2	代替医療・統合医療の現状と背景	自分または家族が利用している療法や商品について、なぜ使用しているのかを考える	山下
3	代替医療・統合医療と EBM	自分または家族が利用している療法や商品について、効果と安全性がどの程度説明されているのか調べる	山下
4	代替医療・統合医療とプラセボ効果	自分または家族が利用している療法や商品について、それぞれプラセボ効果がどれくらい含まれるか推定する	山下
5	代替医療・統合医療とスピリチュアル	自分または家族が難治性の病気になったとき、医療に何を求めるか仮想する	山下
6	代替医療の各種治療法①東洋伝統医療	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、東洋伝統医療に関する基本情報を調べる	山下
7	代替医療の各種治療法②ハーブ・サプリメント	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、ハーブ・サプリメントに関する基本情報を調べる	山下
8	代替医療の各種治療法③アロマセラピー	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、アロマセラピーに関する基本情報を調べる	森
9	代替・統合医療とビジネス・利益相反	附属図書館にある学術雑誌に掲載されている代替医療の有効性検証に関する原著論文をひとつ選んで、その利益相反の関与について考える	山下
10	代替医療・統合医療と NBM	日本国内の代替医療・統合医療と看護の現状を知る	山下
11	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告①	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
12	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告②	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
13	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告③	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
14	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告④	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
15	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告⑤	今まで授業で習ってきた知識を総合して、自身の医療資格が患者を主体とした統合医療にどのように関与できるのか考える	山下

成績評価方法と基準	割合
①講義におけるディスカッションの内容 ②提出レポートの内容	①30% ②70%

授業科目名	東洋医学史特論(保健医療学専攻)（History of Oriental Medicine）				
主担当教員	大形　徹		担当教員	大形　徹	
科目ナンバリング	HLA002	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

中国医学は鍼灸治療と薬物学である本草学の二つから成り立つが、大学院ではこの両者についての基礎的な知識を涵養するために、鍼灸書の古典と本草書の古典の概要を解説するとともに、それらが日本古代の医薬治療にも深く影響を与えていることをも解説する。

到達目標

講義では中国・日本・欧米の最新の研究成果にもとづいて鍼灸学と本草学を解説するが、日本語による理解だけに止まらず、できれば古典文献をも少しは読解できるように努めたい。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

漢文の原典を読んだり、一部、中国語を読んだりするかもしれません。辞書や検索の方法については、授業時に紹介します。

教科書

プリントを配付します。

参考書

中国科学技術史（医学巻）　廖育群・鄭金生ほか　科学出版社（１９９８）
中国医学古典と日本　小曽戸洋　塙書房

研究室／オフィスアワー

非常勤ですので、オフィスアワーはありません。本務校は、大阪府立大学人間社会学研究科です。
メールは ohgata728 アットマーク gmail.com にご連絡ください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	伝統中医学の基本理念 中国医学は「気」の身体観から成り立っている	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
2	黄帝内経素問 最古の鍼灸医学の基礎的理論を説く書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
3	霊枢経 素問よりやや実際的に鍼灸的治療を説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
4	八十一難経 脈診など中医の基礎理論を八十一の問答で説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
5	神農本草経 中国最古の薬物書であり、上中下の三品に分類される	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
6	傷寒論 漢代の急性熱性疾患の薬物による治療法を説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
7	鍼灸甲乙経 六朝時代に現れた鍼灸の臨床応用を説いた書。	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
8	脈経 六朝時代に出た脈搏による診断法を説いた書。	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
9	黄帝内経太素・明堂経 隋唐代の経典的鍼灸書であり、日本に深く影響した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
10	千金要方 医聖・孫思?の著したスタンダードな医書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
11	唐宋時代の医学教育 唐宋時代には中央・地方に医学教育機関が成立した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
12	医心方 我が国最古の医書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
13	金元医学 桃山・江戸時代に曲直瀬道三を通じて実践的医術が伝来した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
14	銅人?穴鍼灸図経、十四経発揮 今日の経穴・経絡の基本となる書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
15	近年出土の医薬資料 戦国秦漢墓から出土した素問・霊枢や本草に先立つ医薬書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形

成績評価方法と基準	割合
レポートによる評価	100%

授業科目名	保健医療研究方法論(保健医療学専攻)（Healthcare Research Methods）				
主担当教員	山下　仁		担当教員	山下　仁、増山　祥子、井手口　範男、森谷　正之、青木　元邦、前田　薫	
科目ナンバリング	HLA003	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限 水曜 3 限 水曜 4 限 木曜 1 限 木曜 2 限 金曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

保健医療学研究の基本的流れ、および各領域における主な研究手法と方法論について学ぶ。複数教員によるオムニバス方式の授業形態とし、研究計画、文献検索、倫理委員会書類作成、データ分析、論文執筆、学会発表など一連の流れを解説するとともに、各分野特有の研究・実験の手法を紹介する。また、研究者の倫理、不正行為、論文の質の評価などについても理解させる。さらに、保健医療系の研究に必要な英語論文の読み方と書き方の基本的手法を身に付ける。

到達目標

保健医療学系研究のデザインから成果発表までの一連の流れを理解する。
研究における倫理や不正防止を含む基本的なルールを理解し、遵守できる。
研究プロトコールが作成できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自分が行う特別研究（修士論文）の内容に当てはめて理解し、総論と各論（自身のケース）の両面から考えること。

教科書

必要に応じて資料を配布する。

参考書

科学を志す人びとへ　科学倫理検討委員会編　化学同人

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画と研究デザイン	自分の研究テーマについて指導教員と相談しながら具体化する	山下
2	文献収集	自分の研究テーマに関連する文献を検索・収集する	山下
3	図書館利用法	事前に図書館に行って環境を見ておく	山下
4	EBM（１）	自分の研究領域におけるEBMとの関わりについて考える	山下
5	EBM（２）	自分の研究領域におけるEBMとの関わりについて考える	山下
6	基礎研究・動物実験	予習：動物実験の方法論に関連する論文を検索・入手して読んで下さい（2 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に動物実験の方法論について考察して下さい（2 時間）。	森谷
7	臨床研究	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	山下
8	ランダム化比較試験	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	増山
9	トランスレーショナルリサーチ	授業で学んだトランスレーショナルリサーチの手法を理解し、研究倫理的問題への配慮についても認識しておく。	青木
10	システマティック・レビューとメタアナリシス	ネット検索でシステマティック・レビューとメタアナリシスについて調べる	山下
11	動物実験の研究倫理	予習：実験動物の取り扱いに関連する法令や学術論文を検索・入手して読む。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験動物の取り扱いに関連する法令をベースに、動物実験の倫理や規範について考察する。	森谷
12	人を対象とした研究における倫理	関連する情報をネットで調べる	山下
13	データの取扱い・解析・提示法	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	前田
14	統計解析	自分の研究で必要になる統計処理について考える	井手口
15	成果の発表	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	山下

成績評価方法と基準	割合
①提出レポート	①100%

授業科目名	保健医療教育特論(保健医療学専攻)（Healthcare Education【Advanced】）				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、鍋田　智之、安田　実、 老田　準司	
科目ナンバリング	HLA004	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜５限 火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

保健医療の領域で「教育」を考える場合、２つの視点がある。保健医療従事者としてクライエント（患者・家族・集団・地域住民等）に対する教育機能と、専門職としての保健医療従事者を育成する教育（基礎教育・卒後教育）である。前者は、主として健康上の課題達成のための行動変容を目指したかかわりを指す。後者は、各専門職教育の歴史・目的・目標・方法等がテーマとなる。いずれの場合も、教育の本質は変わらない。ここでは本質を共有しつつ、各専門職（看護・理学療法・鍼灸）を切り口にして、現状分析を試み、教育の機能を展望したい。複数教員によるオムニバス形式の授業形態をとり、受講生は他職種の役割について認識を深めながら、各自の立場における課題を考察していただきたい。

到達目標

１．教育の本質について自己の考えを表現することができる。【D①】
２．保健医療の各領域における教育のニーズを表現することができる。【D①】
３．保健医療の各領域における教育の方法や課題について表現することができる。【D①】
４．保健医療従事者としての各専門職教育（基礎教育・卒後教育）と課題について、自己の考えを表現することができる。【D①】
５．学生が主体的・創造的に学修に取り組むための方法について洞察し、自己の考えを表現することができる。【D①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自己の教育に関する学修のニーズを整理しておくこと。

教科書

指定しない。必要に応じてサブテキスト・資料・論文を配布・紹介する。

参考書

随時紹介する。

研究室／オフィスアワー

講義の初めに各教員が連絡する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育の原理① 教育を取巻く環境	予習：自己の「教育観」について考えをまとめておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
2	教育の原理 教育史	予習：前回の講義内容をもとに洞察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
3	教育方法論① 教育方法の変遷 アクティブラーニング	予習：自己の専門領域における教育実践の経験について、考えをまとめておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
4	教育方法論② アクティブラーニングの実際	予習：発表準備をする。進行イメージを整理しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
5	医療（技術）職の教育の機能と歴史的経緯	予習：医療（技術）職の養成にかかる法律について調べておく．(1 時間) 復習:サブテキストの演習問題をする.(1 時間)	安田
6	海外と日本の医療（技術）職養成の課題と制度比較論	予習：前回の講義中に論文を紹介するのでこれについて，批評的に読み込んでおく．(1 時間) 復習：サブテキストの課題提出（1 時間）	安田
7	医療における行動経済学的視点とは何か	予習：前回の講義中に論文を紹介するのでこれについて，批評的に読み込んでおく．(1 時間) 復習：サブテキストの課題提出（1 時間）	安田
8			鍋田
9			鍋田
10			鍋田
11		同上	鍋田
12	シラバスの書き方	予習：事前に配布する資料を熟読し，高等教育におけるシラバスの重要性を考える（1 時間） 復習：授業内容をまとめ，シラバスを実際に作成する．(1 時間)	中根
13	学生の成績評価	予習：事前に配布する資料を熟読し，高等教育におけるシラバスの重要性を考える（1 時間） 復習:授業内容をまとめ，レポートを作成する．(1 時間)	中根
14	模擬授業 １	予習：自己の専門領域における授業資料を作成する．(1 時間) 復習：模擬授業を振り返り，修正内容をみつける．(1 時間)	中根
15	模擬授業 ２	予習：自己の専門領域における授業資料を作成する．(1 時間) 復習：模擬授業を振り返り，修正内容をみつける．(1 時間)	中根

成績評価方法と基準	割合
①講義・グループワークでのディスカッション内容 ②レポート（テーマは講義中に指示する）	①30% ②70%

授業科目名	QOL 評価法特論(保健医療学専攻)（QOL Evaluation Method【Advanced】）				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、南部　登志江	
科目ナンバリング	HLA007	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

QOL（Quality of life）は「生活の質」などと訳され、さまざまな意味合いを包含する概念があるが、概ね人が充実感や満足感を持って日常生活を送ることができることを意味する。この QOL が医療分野において重視されるようになった背景には、急速に進む高齢化、がんや慢性疾患の増加、患者の自己決定権の尊重などがあり、患者の視点に立った QOL 評価の必要性が高まってきたことがあげられる。そこで本講では、QOL の評価方法やさまざまな疾患・障害等を持つ患者の QOL について学修し、実践、研究への活用について探求する。

到達目標

1. QOL について理解できる。
2. QOL 評価法について説明できる。
3. 専門領域の QOL についてプレゼンテーションができる。
4. QOL 評価の実践、研究への活用について説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて行う。
2. 専門領域における QOL について各自がプレゼンテーションを行うので、事前に準備する。

教科書

なし

参考書

・福原俊一他監訳, ピーター・M・フェイヤーズ他著：QOL 評価学, 中山書店, 2005
・池上直己他編集：臨床のための QOL 評価ハンドブック, 医学書院, 2001
その他、授業の中で紹介する。

研究室／オフィスアワー

334 研究室（吉村）／月曜日 16:00～18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	QOL の概論① QOL の概念、QOL 評価のための尺度	自己の研究課題や QOL について発表する。1 時間	吉村　弥須子
2	QOL の概論② QOL の評価方法	第 1 回授業の復習、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
3	専門領域における QOL 各論① がんと QOL①	がんと QOL に関する文献検索､配布資料の確認。1 時間	吉村　弥須子
4	専門領域における QOL 各論② がんと QOL②	第 3 回授業の復習、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
5	専門領域における QOL 各論③ 生活習慣病と QOL	生活習慣病と QOL に関する文献検索、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
6	専門領域における QOL 各論④ 臓器移植と QOL①	臓器移植と QOL に関する文献検索、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
7	専門領域における QOL 各論⑤ 臓器移植と QOL②	臓器移植と QOL に関する文献検索、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
8	専門領域における QOL 各論⑥ 看護・ 鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL①	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする（事前に準備する）。 1 時間	吉村　弥須子
9	専門領域における QOL 各論⑦ 看護・ 鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL②	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする（事前に準備する）。 1 時間	吉村　弥須子
10	専門領域における QOL 各論⑧ 看護・ 鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL③	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする（事前に準備する）。 1 時間	吉村　弥須子
11	専門領域における QOL 各論⑨ 高齢者と QOL	シラバスの確認 高齢者と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	
12	専門領域における QOL 各論⑩ 認知症高齢者と QOL	認知症高齢者と QOL に関する文献検索、配布資料確認	
13	専門領域における QOL 各論⑪ ロービジョンと QOL	ロービジョンと QOL に関する文献検索、配布資料確認	
14	専門領域における QOL 各論⑫ 視覚障害者と QOL	視覚障害者と QOL に関する文献検索、配布資料確認	
15	専門領域における QOL⑬ 骨粗鬆症と QOL	骨粗鬆症と QOL に関する文献検索、配布資料確認 11 回から 15 回までについてディスカッション、まとめ	

成績評価方法と基準	割合
①プレゼンテーション、ディスカッション ②レポート	①40% ②60%

授業科目名	プログラム言語特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	原　良昭		担当教員	原　良昭、片山　俊郎	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

様々な業務を抱える医療従事者や研究者にとって、定型的なデータ処理を自動化することできるプログラミングの知識は必要不可欠なものである。本科目では、python を介してプログラム言語の知識取得を目的とする。具体的には、
1. 変数の概念、変数の型およびデータ構造
2. コードを条件により分岐・繰り返しさせる方法と必要性
3. 関数の有用性・外部パッケージ
について学ぶ。

到達目標

本科目の到達目標は、python を用いて各自の研究に必要な処理を行える能力を取得することであり、具体的には、
1. python で用いられる変数の型、データ構造を理解し、必要に応じ適切な型やデータ構造を選択できるようになる。
2. 条件分岐・繰り返しといった基礎的文法を理解し、必要な処理を行えるようになる。
3. 同じコードを繰り返し書かないように、関数を定義できるようになる。
4. モジュールの概念を理解し、外部のパッケージを活用できるようになる。
である。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 講義では実際にコードを受講生に入力してもらうため、各自でノートパソコンを用意すること。ノートパソコンが用意できない場合は、履修前に相談に来ること。

教科書

1. 『スッキリわかる Python 入門』, 国本大悟, インプレス

参考書

1. 『pandas クックブック —Python によるデータ処理のレシピ—』, 黒川利明, 朝倉出版
2. 『Python によるデータ分析入門 第２版 —NumPy、pandas を使ったデータ処理』, 瀬戸山雅人, オライリージャパン

研究室／オフィスアワー

原　　C 棟 7F 教職員室/水曜日５限
片山　C 等 7F 片山研究室/

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	オリエンテーション ・python の開発・実施環境を構築することができるようになる。 ・jupyter notebook の使用できるようになる。 ・Rstudio の使用できるようになる。 ・ライブラリの概念と使用方法を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: プログラム言語の種類について調べておく 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
2	値と変数 ・変数の概念を説明できるようになる。 ・変数の型について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
3	データ構造① ・タプル、ディクショナリの説明ができるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。	原　良昭 片山　俊郎
4	条件分岐と繰り返し① ・if 文を用いて条件分岐を行えるようになる。 ・for 文を用いて繰り返しが行えるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
5	条件分岐と繰り返し② ・pass,break など繰り返しで使用できる文について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
6	関数の定義 ・関数を定義できるようになる。 ・関数を定義する場面を具体的に説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
7	モジュール ・モジュールについて説明できるようになる。 ・パッケージの import 方法について説明できるようになる。 ・自作した関数の import ができるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
8	エラーと例外 ・例外処理の基礎的について説明できる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
9	データ構造② ・Numpy と Scipy パッケージの概要を説明できるようになる。 ・panda パッケージのデータフレームについて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間: 2 時間 復習内容: 講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義ま	原　良昭 片山　俊郎

		でに習得する。	
10	データ入出力 ・CSV 形式データの読み込みと書き出しができるようになる。 ・エクセル形式データの読み込みと書き出しができるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間：2 時間 復習内容： 　講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
11	データ分析① ・データの平均値や最大値といった統計量を求めるプログラムを作成できるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間：2 時間 復習内容： 　講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
12	データ分析② ・t 検定やカイ二乗検定などの基礎的な統計処理を行えるようになる。 ・データの前処理手法の基礎について説明できるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間：2 時間 復習内容： 　講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
13	データ分析③ ・単変量回帰分析を行うプログラムを作成できるようになる。 ・散布図を図示できるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間：2 時間 復習内容： 　講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
14	データ分析④ ・重回帰分析を行うプログラムを作成できるようになる。 ・ロジスティック回帰を行うプログラムを作成できるようになる。 ・決定木分析を行えるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間：2 時間 復習内容： 　講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
15	プログラムの改善 ・デバッグツールが使用できるようになり、説明できるようになる。 ・関数の実行時間について評価指標を説明できるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指示された内容について要約を作成する。 復習時間：2 時間 復習内容： 　講義で行った内容を再度、各自で実施し、習得できていることを確認する。実施できない事項があった場合は、教員に確認するなど次回の講義までに習得する。	原　良昭 片山　俊郎
成績評価方法と基準			割合
1．プログラム作成課題 　講義中に課題を指示する。			1．100%

授業科目名	生物統計学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	片山　俊郎		担当教員	片山　俊郎	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

生物統計学は医療・健康科学分野を対象とした応用統計学で、本講座では、臨床研究や疫学研究における基本的なデザインなどを概説し、基本的な統計解析手法から実際に現場で使われている統計解析の方法論を習得します。講義においては、統計ソフト（R・EZR）を用いて臨床データの解析を行うことにより、統計学の習得を目指して展開していきます。

到達目標

１．生物統計学の基本を理解する。
２．医学に関する現象を統計学的に処理できるスキルを身につける。
３．統計学的処理で得られた結果の判断ができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1．講義では実際に EZR を操作してもらいます。EZR の操作がわからなくなった場合は、直ぐに教員に確認してください。

教科書

1．『初心者でもすぐにできるフリー統計ソフト EZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析』，神田 善伸，南江堂

参考書

1．『みんなの医療統計 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！』，新谷 歩，講談社
2．『みんなの医療統計 多変量解析編 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター!』，新谷 歩，講談社

研究室／オフィスアワー

原　　C 棟 7F 教職員室/火曜日 2 限
片山　C 棟 7F 片山研究室/

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	統計実施環境の構築 ・統計ソフト(R・EZR)の環境を構築できるようになる。	予習時間：3 時間 予習内容： 　シラバス内容および教科書内容の確認 復習時間：1 時間 復習内容： 　講義内容のまとめと課題の実施	片山　俊郎 原　良昭
2	EZR の使い方 ・EZR に対してデータの入出力ができるようになる。 ・EZR のメニューバーにある機能について基礎的な説明が行えるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間：2 時間 復習内容： 　予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
3	データ表の作成 ・データ表の作成において避けなければならないことについて説明できるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間：2 時間 復習内容： 　予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
4	仮説検定とｐ値 ・帰無仮説について説明できるようになる。 ・ｐ値の意味について説明できるようになる。	予習時間：2 時間 予習内容： 　前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間：2 時間 復習内容：	片山　俊郎 原　良昭

		予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
5	単変量解析の選択法 ・単変量の意味について説明できるようになる。 ・単変量を対象とする統計手法について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
6	多重検定の問題点 ・1 つの研究プロジェクトにおいて複数の検定を行う多重検定の問題について有意水準に基づき説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
7	多変量解析 ・単変量解析と多変量解析の違いや多変量解析の手法について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
8	線形回帰モデル ・単回帰および重回帰モデルを構築できるようになる。 ・単回帰および重回帰モデルの特徴量について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
9	ロジスティック回帰モデル ・ロジスティック回帰の使用方法と特徴量について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
10	生存時間解析 ・打ち切りデータについて説明できるようになる。 ・カプラン・マイヤー曲線を描けるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
11	比例ハザード回帰モデル ・ハザード関数について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
12	無作為化 ・無作為化の方法および必要性について説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。	片山　俊郎 原　良昭

		復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	
13	観察研究に於ける背景調節 ・背景調節の必要性を統計処理の観点から説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
14	傾向スコア ・傾向スコアについて説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
15	R の実行・開発環境 ・R とは異なる実行環境 Microsoft R Open の特徴を説明できるようになる。 ・EZR とは異なる開発環境である Rstudio の特徴を説明できるようになる。	予習時間: 2 時間 予習内容: 前回の講義で指定された教科書内容の要約を作成し、わからなかった事項をまとめる。 復習時間: 2 時間 復習内容: 予習でまとめたわからなかった事を中心に講義内容の要約を作成し、課題を行う。	片山　俊郎 原　良昭
成績評価方法と基準			割合
①課題評価 ②定期試験評価			① 50% ② 50%

授業科目名	英語文献講読(保健医療学専攻)（English Article Reading）				
主担当教員	藤重　仁子		担当教員	藤重　仁子、山下　仁、前田　薫、 久木元　由紀子	
科目ナンバリング	HLA008	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 2 限 火曜 5 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
英語文献を読み、基本的な単語や構文について解説する。
到達目標
１．保健医療学領域の英語論文が読める。 ２．自分の専門領域の英語論文に頻出する単語や構文がわかる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
事前の単語チェックが重要である。
教科書
必要に応じて資料を配布する
参考書
必要に応じて資料を配布する
研究室／オフィスアワー
山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	英語論文読解の基礎①（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
2	英語論文読解の基礎②（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
3	英語論文読解の基礎③（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
4	英語論文読解の基礎④（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
5	英語論文読解の基礎⑤（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
6	領域別の英語論文購読①	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
7	領域別の英語論文購読②	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
8	領域別の英語論文購読③	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
9	領域別の英語論文購読④	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
10	領域別の英語論文購読⑤	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
11	領域別の英語論文購読⑥	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
12	領域別の英語論文購読⑦	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
13	領域別の英語論文購読⑧	予習：自分が訳したい英語論文を準備してくる	山下、前田、久木元
14	領域別の英語論文購読⑨	予習：英語論文の訳を各自で行う。	山下、前田、久木元
15	領域別の英語論文購読⑩	予習：英語論文の訳を行う。	山下、前田、久木元

成績評価方法と基準	割合
①毎回の資料の予習（単語調べ、読み）の状況、および授業時の理解度にもとづき評価する	①100%

授業科目名	人体構造学特論(保健医療学専攻)（Human Anatomy【Advanced】）				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之、北村　清一郎	
科目ナンバリング	HP001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜３限 木曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

咀嚼、嚥下、呼吸は生命維持の根幹をなす機能である。これらは神経系が求心性（感覚性）情報と遠心性（運動性）情報とを適正に伝達・処理・統合することによって遂行されている。本特論では、これらの情報伝達がどのような神経ネットワークの下で遂行されているのかを、これまでに明らかにされている研究成果や我々が進めている研究結果に基づいて神経解剖学の立場から解説する。

到達目標

（１）咀嚼・嚥下・呼吸運動に関わる神経機構の概略を説明できる（DP②③）
（２）口腔顔面領域の感覚伝達機構の概略を説明できる（DP②③）
（３）基本的な反射回路を説明できる（DP②③）
（４）随意性運動の制御機構の概略を説明できる（DP②③）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自分の身体の「かたち（＝形態）」と「はたらき（＝機能）」が密接に関連し、生命維持がなされていることをしっかりと学んで下さい。

教科書

特に無し

参考書

中村嘉男　「咀嚼運動の生理学」(医歯薬出版)

研究室／オフィスアワー

森谷：E 棟４階（研究室 11）　月曜日午後５時～午後７時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。
北村：E 棟４階研究室５／毎週月曜日・火曜日・木曜日の昼休み。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	咀嚼・嚥下関連筋の機能解剖学 1. 嚥下関連器官の解剖学、2. 嚥下の概要	講義プリントの理解に必要な基本的知識をまとめる（２時間）。講義内容を元にまとめを加筆・修正（２時間）。	北村
2	咀嚼・嚥下関連筋の機能解剖学 3. 軟口蓋の動きと筋、4. 舌の動きと筋	講義プリントの理解に必要な基本的知識をまとめる（２時間）。講義内容を元にまとめを加筆・修正（２時間）。	北村
3	咀嚼・嚥下関連筋の機能解剖学 5. 舌骨・喉頭の動きと筋、6. 咽頭の挙上と筋	講義プリントの理解に必要な基本的知識をまとめる（２時間）。講義内容を元にまとめを加筆・修正（２時間）。	北村
4	咀嚼・嚥下関連筋の機能解剖学 7. 咽頭収縮筋、8. 喉頭の構造と声門の動きに関わる筋	講義プリントの理解に必要な基本的知識をまとめる（２時間）。講義内容を元にまとめを加筆・修正（２時間）。	北村
5	口腔機能の改善はなぜ嚥下機能の改善につながるのか①	講義プリントの理解に必要な基本的知識をまとめる（２時間）。講義内容を元にまとめを加筆・修正（２時間）。	北村
6	口腔機能の改善はなぜ嚥下機能の改善につながるのか②	講義プリントの理解に必要な基本的知識をまとめる（２時間）。講義内容を元にまとめを加筆・修正（２時間）。	北村
7	神経解剖学研究法① 神経組織の固定法と染色法	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（2 時間）。講義で学修した神経組織の固定法と染色法について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
8	神経解剖学研究法② 神経経路学の研究法	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（2 時間）。講義で学修した神経経路学の研究法について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
9	三叉神経系の基礎① 咀嚼運動の基礎	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（2 時間）。講義で学修した咀嚼運動の基礎について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
10	三叉神経系の基礎② 咀嚼運動の末梢入力による制御	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（2 時間）。講義で学修した咀嚼運動の末梢入力による制御について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
11	呼吸運動に関わる神経機構 呼吸運動の中枢神経による制御	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（2 時間）。講義で学修した呼吸運動の中枢神経による制御について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
12	咀嚼・呼吸・嚥下運動の制御① Premotoneuron の分布と機能（孤束核、延髄レベル）	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（２時間）。講義で学修した Premotoneuron の分布と機能（孤束核、延髄レベル）について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
13	咀嚼・呼吸・嚥下運動の制御② Premotoneuron の分布と機能（中脳・橋レベル）	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（２時間）。講義で学修した Premotoneuron の分布と機能（中脳・橋レベル）について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
14	咀嚼・呼吸・嚥下運動の制御③ 咀嚼・呼吸・嚥下運動の相互制御機構	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（2 時間）。講義で学修した咀嚼・呼吸・嚥下運動の相互制御機構について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷
15	中枢神経系による運動制御機構 随意性調節機構と反射の関係	当該領域の基本的知識について出来るだけ調べて下さい（2 時間）。講義で学修した運動の随意性調節機構と反射の関係について、講義内容を参考にまとめて下さい（2 時間）	森谷

成績評価方法と基準	割合
①講義中のディスカッション（DP②③） ②レポート（DP②③）	①60% ②40%

授業科目名	栄養・代謝生化学特論(保健医療学専攻)（Nutrition and Metabolism Biochemistry【Advanced】）				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング	HP003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

健康と食・栄養との関係について総合的に学び、生活習慣や社会環境など様々な視点から健康づくりと食・栄養の関連性について考える。さらに疾病の発症や病態との関わりを、栄養・代謝の観点から生命科学的に説明し、考察できるようになることを目標とする。

到達目標

1.生化学・栄養学の知識をもとに、疾患と代謝の関係を科学的に考察する力を身につける。〈DP②〉
2.自らの考えを体系的かつ理論的にまとめ、レポート報告ならびにプレゼンテーションとして、適切かつ効果的に伝えることができる。〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・グループワークやディスカッションなど積極的に発言をしてください。
・論文から最新の情報収集を行い、知識や経験を深めてください。

教科書

配布プリント

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

西棟 239 研究室/火曜日・水曜日以外の 17:00～19:00
その他、質問等あればいつでもお越しください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	栄養と代謝概論	予習：栄養と代謝について調べておくこと 復習：栄養と代謝についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
2	栄養障害①	予習：栄養障害について調べておくこと 復習：栄養障害についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
3	栄養障害②	予習：栄養障害について調べておくこと 復習：栄養障害についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
4	代謝障害①	予習：代謝障害について調べておくこと 復習：代謝障害についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
5	代謝障害②	予習：代謝障害について調べておくこと 復習：代謝障害についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
6	プレゼンテーション（栄養と代謝障害）	予習：栄養と代謝障害について調べておくこと 復習：栄養と代謝障害についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
7	社会の変化と食生活	予習：近年の食傾向について調べておくこと 復習：近年の食傾向についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
8	文献検討（食生活に関わる諸問題Ⅰ）	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習 予習復習を各１時間行うこと。	
9	文献検討（食生活に関わる諸問題Ⅱ）	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習 予習復習を各１時間行うこと。	
10	文献検討（食生活に関わる諸問題Ⅲ）	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習 予習復習を各１時間行うこと。	
11	プレゼンテーション（社会の変化と食生活）	予習：近年の食傾向について調べ資料作成をしておくこと	
		復習：近年の食傾向についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
12	日本食の特徴と食文化	予習：日本食の特徴と食文化について調べておくこと 復習：日本食の特徴と食文化についての復習 予習復習を各１時間行うこと。	
13	文献検討（日本食と健康の関わりⅠ）	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習 予習復習を各１時間行うこと。	
14	文献検討（日本食と健康の関わりⅡ）	予習：文献を読んでおくこと 復習：文献の復習 予習復習を各１時間行うこと。	
15	プレゼンテーション（日本食の特徴と食文化）	予習：日本食の食文化について調べ資料作成をしておくこと 復習：日本食の特徴と食文化についての復習 予習復習を各１時間行うこと。 また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	

成績評価方法と基準	割合
１．課題レポート〈DP②〉	50%
２．プレゼンテーション〈DP③〉	50%

授業科目名	発達支援リハビリテーション特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

NICU で出生する低出生体重児やリスク児、障害児の増加に対し、在宅での育児をとぎれなく支援するために、様々な専門職が連携し、子育て支援包括支援センターを中心にチーム創りをすすめる作業が急務である。現在の周産期医療を取り巻く現状と課題を明らかにしながら、各専門職がリスクのある乳幼児と家族への支援技術を高めるための知識と技術を得る。

到達目標

①周産期に関わる専門職の理解
②NICU から地域につなぐチーム医療の理解
③各専門職の役割を明確にする
④小児在宅医療に必要な知識と技術を得る
⑤療育体系の理解（早期治療・早期療育の技術）

履修上の注意(学生へのメッセージ)

低出生体重児や発達障害などのリスクをもつ乳幼児の育児に必要な知識と技術を、病院と地域で共有できるようにしたいと考えています。NIDCAP やデベロプメンタルケアのアプローチを地域につなぐために、それぞれの子どもに適した姿勢運動や感覚情報処理、具体的な育児方法の検討へとすすめていきます。乳幼児に関わる時、常に将来の健康と幸福な人生の開拓につながるように、家族を支援していく姿勢を学びます。実際の子どもと家族の現場に参加しながらすすめる授業です。

教科書

特に指定しません。随時紹介します。

参考書

田村正徳ほか監修：はじめよう ！ おうちでできる 子どものリハビリテーション&やさしいケア 小さく生まれた子どもや重い障がいのある子どもの在宅支援のために：三輪書店

研究室／オフィスアワー

月曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	小児在宅医療とリハビリテーション	各４時間の自修で、関連文献の通読などで準備してください。以下同様です。	
2	子どもと家族		
3	低出生体重児の特徴		
4	小さく生まれた子どものリハビリテーション（NICU）		
5	発達評価：4か月		
6	発達評価：7か月		
7	発達評価:10 か月		
8	発達評価：12 か月		
9	重症心身障害児		
10	健康管理とリスク管理		
11	呼吸ケア		
12	循環管理とケア		
13	てんかん・睡眠		
14	摂食・嚥下・排泄		
15	遊びとコミュニケーション、社会性の発達		

成績評価方法と基準	割合
事例報告などのレポートと実践報告で評価します。	100%

授業科目名	医療安全学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	山口　功		担当教員	山口　功、今井　信也	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

全ての医療職業人に必須である医療安全について、ヒューマンズファクタ、システム、チーム医療の醸成などからノンテクニカルスキルの基本的な考え方を学び、医療安全の向上と医療事故防止のスキルを身につける。また、放射線診療に特化したインシデント事例から医療事故発生後の対応、エラー分析の基本、安全教育についての考え方や手法を理解する。

到達目標

1. 医療安全の基本的な考え方を説明できる。
2. インシデント、医療事故の発生要因および背景要因を科学的に分析できる。
3. 品質改善の手法を用いて、専門業務の PDCA サイクルを実践できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

模擬的な医療事故等を想定して、色々な手法でグループディスカッションを行います。グループディスカッションに積極的に参加して、自分の意見を述べ、他者の意見を聞き、解決策をまとめることを心がけてください。

教科書

WHO 患者安全カリキュラムガイド：多職種版 2011（東京医科大学　日本語翻訳版：Web より各自ダウンロード）

参考書

特に指定しないが、論文、記事、関連資料等を適宜紹介(配布)します。

研究室／オフィスアワー

山口　功／適宜対応する。
今井信也／適宜対応する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療安全の概要	予習：テキストのトピック 1 を読む 復習：患者安全の役割についてまとめる	山口
2	ヒューマンファクターズの重要性 システムが患者管理に与える影響	予習：テキストのトピック 2、3 を読む 復習：ヒューマンファクターズ、システムと患者安全の関係をまとめる	山口
3	チームワークの重要性 医療におけるエラーの理解と安全管理	予習：テキストのトピック 4、5 を読む 復習：チームワーク、医療上のエラーと患者安全の関係をまとめる	山口
4	臨床におけるリスクマネージメント 品質改善の手法	予習：テキストのトピック 6、7 を読む 復習：臨床におけるリスクマネージメントと品質改善手法をまとめる	山口
5	患者コミュニケーションの重要性 感染の予防と管理	予習：テキストのトピック 8、9 を読む 復習：患者コミュニケーションと患者安全の関係をまとめる	山口
6	医療機関における医療安全管理体制 医療機器の安全管理体制	予習：日本の医療安全の経緯を調べる。 復習：医療機関に必要な医療安全管理体制をまとめる	山口
7	グループワーク	予習：ワークアウトの準備を行う 復習：グループワークの内容をまとめる	山口
8	グループワーク	予習：ワークアウトの準備を行う 復習：グループワークの内容をまとめる	山口
9	グループワーク	予習：ワークアウトの準備を行う 復習：グループワークの内容をまとめる	山口
10	グループワーク	予習：ワークアウトの準備を行う 復習：グループワークの内容をまとめる	山口
11	診療用放射線の安全管理体制	予習：放射線が健康に与える影響を調べる 復習：講義の資料を理解する	今井
12	X 線画像診断領域における安全管理	予習：X 線検査での安全管理を確認する 復習：講義の資料を理解する	今井
13	グループワーク	予習：X 線検査での危険性を確認する 復習：グループワークの内容をまとめる	今井
14	診療画像診断領域における安全管理	予習：MRI 検査での安全管理を確認する 復習：講義の資料を理解する	今井
15	グループワーク	予習：MRI 検査での危険性を確認する 復習：グループワークの内容をまとめる	今井

成績評価方法と基準	割合
1. グループワークへの参加 2. 課題レポート	1. 30% 2. 70%

授業科目名	臨床検査画像診断学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	脇　英彦		担当教員	脇　英彦、小宮山　恭弘	
科目ナンバリング	HR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

超音波、放射線をはじめとする画像診断の原理を理解する。次いで、正常像ならびに代表的疾患の特徴的画像を学修し、画像診断の診断能力を修得する。

到達目標

超音波、放射線をはじめとする画像診断装置の原理と画像の成り立ちを理解する。次いで、正常像ならびに代表的疾患の特徴的画像を学修し、画像診断の診断能力を修得する。DP②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

異常所見を見る際に重要なことは、基本的知識がきちんと整理できているかが重要となる。
正常所見をしっかり学修した上で、どこに違いがあり、なぜ違いが生じるかを学んで欲しい。

教科書

適時プリント配布し補足する.

参考書

なし

研究室／オフィスアワー

脇英彦研究室　（月曜、火曜　16：00～18：00）
小宮山恭弘研究室（月曜、火曜　16：00～18：00）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	超音波診断の基礎 1　超音波物理特性	超音波の基礎について復習すること	脇　英彦
2	超音波診断の基礎 2　　画像表示法	超音波の基礎について復習すること	脇　英彦
3	超音波診断の基礎 3　　血流表示法	ドプラ法について復習すること	脇　英彦
4	超音波診断の基礎 4　　造影超音波	超音波造影剤について復習すること	脇　英彦
5	超音波診断法 1　　心臓超音波	心臓の解剖について復習すること	脇　英彦
6	超音波診断法 2　　腹部超音波	肝臓の解剖について復習すること	脇　英彦
7	超音波診断法 3　　表在・血管超音波	四肢血管について復習すること	脇　英彦
8	循環器画像診断 1	提示した循環器疾患について復習すること	小宮山　恭弘
9	循環器画像診断 2	提示した循環器疾患について復習すること	小宮山　恭弘
10	循環器画像診断 3	提示した循環器疾患について復習すること	小宮山　恭弘
11	消化器画像診断 1	提示した肝胆膵疾患について復習すること	小宮山　恭弘
12	消化器画像診断 2	提示した消化器疾患について復習すること	小宮山　恭弘
13	消化器画像診断 3	提示した消化器疾患について復習すること	小宮山　恭弘
14	疾病の画像診断演習 1	循環器疾患についてのレポート提出	小宮山　恭弘
15	疾病の画像診断演習 2	消化器疾患についてのレポート提出	小宮山　恭弘

成績評価方法と基準	割合
①レポート提出 ②画像判読テスト DP②③	①70% ②30%

授業科目名	血液学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	藤原　牧子		担当教員	藤原　牧子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

血液は赤血球、白血球、血小板の細胞成分と血漿部分とからなり、生命維持に必須の役割を担っている。この講義では血液学の基礎知識として血液の血球成分と凝固・線溶因子について、その構造や機能、疾患や治療について広く学修する。講義の後半では、臨床 / 研究領域に於ける血液学の考え方についてディスカッションの機会を設け、理解を深めると共に総合的な知識のまとめとしたい。

到達目標

血液学についての正しい知識に基づいて、臨床検査データや研究データを解釈することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

血液学を「使える知識」にするために、講義の時間外で健康番組や医学雑誌、インターネットなどを活用し、多方面からの情報収集に努めてください。

教科書

なし　講義で使用する資料はその都度配布する。

参考書

なし　必要があれば講義時間内に紹介する。

研究室／オフィスアワー

C 棟 7 階職員室/ 水・木・金曜日 17:00～18:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	血液学入門 血液の役割・造血	予習：血液学の定義を調べる 復習：講義内容について各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
2	赤血球の構造・生理	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
3	赤血球系疾患	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
4	白血球の役割、細胞回転	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
5	免疫のしくみ	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
6	造血器疾患①	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
7	造血器疾患②	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
8	造血器疾患の治療　分子標的療法	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原

9	血小板の構造と機能	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
10	血小板の数的異常・血小板機能異常症	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
11	凝固・線溶のしくみ	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
12	出血傾向と血栓性素因	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
13	各種血液検査と異常値の出るメカニズム	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
14	病院における血液学（ディスカッション）	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
15	研究領域における血液学（ディスカッション）	予習：前回までの内容を振り返る 復習：講義内容について、各自専門領域との繋がりを考える。	藤原
成績評価方法と基準			割合
レポート ＊テーマ、書式等については授業内に説明します ＊評価基準：ルーブリックを提示します			100%

授業科目名	リハビリテーション学特論(保健医療学専攻)（Rehabilitation (Advanced)【Advanced】）				
主担当教員	金尾　顕郎		担当教員	金尾　顕郎、三木屋　良輔、角田　晃啓、 木内　隆裕、松下　太、小林　貴代、 橋本　弘子	
科目ナンバリング	HR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択
授業概要					
リハビリテーション医学の分野とその対象は多岐にわたる。リハビリテーションをより理解するために、リハビリテーションの基礎や運動器系障害、呼吸循環器系障害、神経系障害、認知・精神障害などの臨床医学の観点からわかりやすく論じる。					
到達目標					
リハビリテーションの意義、その重要性、方法などを理解する。＜DP②③＞					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必ず予習復習をしましょう					
教科書					
なし					
参考書					
適宜授業内で指定する。					
研究室／オフィスアワー					
金尾：水曜日の 1 限、もしくは、事前に連絡があれば随時対応します。 松下：C 棟 7 階研究室 17／木曜日 1・2・3 限目 三木屋：木曜日 4 限以降研究室にて（事前予約がのぞましい） 木内：火曜日 5 限以降 橋本：木曜日 4 限以降(事前連絡で他日も対応可) 角田：在室時は随時					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習・復習・課題等			担当
1	リハビリテーションと神経科学①	予習：基本的な英文解釈（2 時間） 復習：配布された論文を読む（2 時間）			木内
2	リハビリテーションと神経科学②	予習：基本的な英文解釈（2 時間） 復習：配布された論文を読む（2 時間）			木内
3	神経難病のリハビリテーション①	予習：神経筋難病について（2 時間） 復習：課題についてまとめる（2 時間）			小林
4	神経難病のリハビリテーション②	予習・復習を怠らないように取り組むこと(4 時間) コミュニケーション機器の体験を行う			小林
5	クライン・フォーゲルバッハの運動学	実技できる服装を用意 予習：簡単な力学について調べること（2 時間） 復習：配布資料を用いて、他者の身体運動を観察すること（2 時間）			金尾
6	運動におけるシナジーとストラテジー	実技できる服装を用意 予習：簡単な反射・反応を調べてくること（2 時間） 復習：資料を用いて、日常生活での身体運動を観察すること（2 時間）			金尾
7	身体運動を考える	実技できる服装を用意 予習：筋膜、骨膜、靭帯、皮膚など軟部組織について調べること（2 時間） 復習：運動における軟部組織の役割をまとめること（2 時間）			金尾
8	緩和ケアについて	予習：終末期医療について簡単な基礎知識を予習しておくこと。 復習：終末期の心理状態について復習する。（1			三木屋

		時間）	
9	サルコペニアについて	予習：骨格筋について予習しておくこと。 復習：筋力増強について復習しておくこと。（1時間）	三木屋
10	内部障害リハビリテーションにおける行動変容①	予習：行動変容について調べる（２時間） 復習：配布された論文について理解する（２時間）	角田
11	内部障害リハビリテーションにおける行動変容②	予習：事前配布資料を抄読する（２時間） 復習：配布された論文について理解する（２時間）	角田
12	認知症の人のリハビリテーション①	（予習）4 大認知症について（2 時間） （復習）4 大認知症の特徴と非薬物療法について（2 時間）	松下
13	認知症の人のリハビリテーション②	予習：パーソン・センタード・ケアについて（2時間） 復習：認知症の人のリハについて（2 時間）	松下
14	精神科におけるリハビリテーション 精神疾患を脳科学の視点で理解する	予習：統合失調症や気分障害について（2 時間） 復習：精神疾患を脳科学の視点で理解する（2 時間）	橋本
15	ニューロリハビリテーションにおけるダンスの可能性　～ニューロダンス～	予習：ニューロリハビリテーションの考え方、芸術療法について調べる（2 時間） 復習：ニューロリハビリテーションについてまとめる（2 時間）	橋本
成績評価方法と基準			割合
1．授業への取り組み姿勢およびレポート等にて評価＜DP②③＞			1．100%

授業科目名	運動器系理学療法学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	工藤　慎太郎		担当教員	工藤　慎太郎	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	木曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択
授業概要					
運動器疾患に対する保存療法および観血療法後の理学療法のアップデートな話題を取り上げ、実習および議論し、臨床応用可能な技術とする。					
到達目標					
・最新の運動器理学療法の端緒を知る（運動器が専門ではない理学療法士・作業療法士） ・最新の運動器理学療法の理論を知り、実践できる。（運動器理学療法の専門家）					
履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業外での積極的な論文抄読および実践を求めます。　履修する際には事前にスケジュールなどを調整するため、必ず相談に来てください。					
教科書					
「見える！」運動器リハビリテーション（文光堂）					
参考書					
特に指定なし					
研究室／オフィスアワー					
E 棟４F17 研究室　月１限　もしくはメールにて受け付けます。					
授業展開及び授業計画表					
回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当		
1	最新研究の紹介	英語論文の抄読（2h）	工藤		
2	最新の論文紹介およびディスカッション	英語論文の抄読（2h）	工藤		
3	最新の論文紹介およびディスカッション	英語論文の抄読（2h）	工藤		
4	最新の論文紹介およびディスカッション	英語論文の抄読（2h）	工藤		
5	エコーガイド下運動療法	エコー画像の解析（2h）	工藤		
6	エコーガイド下運動療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
7	エコーガイド下運動療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
8	エコーガイド下運動療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
9	エコーガイド下運動療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
10	エコーガイド下徒手療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
11	エコーガイド下徒手療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
12	エコーガイド下徒手療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
13	エコーガイド下徒手療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
14	エコーガイド下徒手療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
15	エコーガイド下徒手療法	英語論文の抄読（2h）	工藤		
成績評価方法と基準			割合		
講義中の課題と討論の状況を持って判定します。			課題 90% 討論 10%		

授業科目名	難病リハビリテーション特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	橋本　弘子		担当教員	橋本　弘子、小林　貴代	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

多くの疾患がある中、神経筋難病ＡＬＳ／パーキンソン病に焦点を置き、疾患の特性・治療学の実際・リハビリテーションの実際・ＡＤＬやＱＯＬに至る様々な視点から講義を組み立てる。ニューロダンスやコミュニケーション支援機器体験などの演習も行う。

到達目標

神経筋難病における詳細や実際を知り、リハビリテーション分野における、作業療法的アプローチについて理解する。現状とともに、将来的な課題や研究の必要性・課題を模索できるように思考する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

予習復習を必ず行うこと

教科書

特に定めない

参考書

適宜授業内で紹介する

研究室／オフィスアワー

小林：Ｃ棟７階研究室１９にて、授業・会議などない時間で随時対応する
橋本：Ｃ棟７階研究室 22 にて、授業・会議などない時間で随時対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ニューロリハビリテーションの考え方	予習：ニューロリハビリテーションについて予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
2	ニューロリハビリテーションの適応	予習：ニューロリハビリテーションについて予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
3	神経・筋難病（パーキンソン病）の理解とリハビリテーション	予習：パーキンソン病について予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
4	神経・筋難病（パーキンソン病）のリハビリテーションの実際	予習：パーキンソン病について予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
5	神経・筋難病（脊髄小脳変性症）の理解とリハビリテーション	予習：脊髄小脳変性症について予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
6	神経・筋難病における精神科疾患	予習：神経・筋難病における精神機能、認知機能についてについて予習しておくこと(2 時間) 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
7	ニューロダンスの考え方	予習：ニューロダンスについて予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
8	ニューロダンスの適応 1	予習：ニューロダンスについて予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
9	ニューロダンスの適応 2	予習：ニューロダンスについて予習しておくこと（2 時間） 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	橋本
10	神経筋難病の実際（ＡＬＳ）作業療法の実際	予習：神経筋難病について予習しておくこと(2 時間) 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	小林
11	神経筋難病の実際（ＡＬＳ）生活環境	予習：神経筋難病について予習しておくこと(2 時間) 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	小林
12	神経筋難病の実際（ＡＬＳ）福祉用具	予習：神経筋難病について予習しておくこと（2 時間) 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	小林
13	神経筋難病の実際（ＡＬＳ）呼吸とＡＤＬ	予習：神経筋難病について予習しておくこと（2 時間) 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	小林
14	神経筋難病の実際（ＡＬＳ）摂食嚥下	予習：神経筋難病について予習しておくこと（2 時間) 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	小林
15	神経筋難病の実際（ＡＬＳ）ＱＯＬの軸をなすコミュニケーション支援	予習：神経筋難病について予習しておくこと（2 時間) 復習：授業のまとめを行うこと（2 時間）	小林

成績評価方法と基準	割合
１．授業への取り組み姿勢及びレポートなどにて評価	100%

授業科目名	柔道整復学特論(保健医療学専攻)（Judoseifuku Therapy【Advanced】）				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久、森　美侑紀	
科目ナンバリング	HR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

柔道整復は運動器の外傷・障害に対する施術を主な業とすることから、運動器疾患を中心に講義を進めていく。
運動器疾患は日常生活のみならずスポーツ活動、就労活動をも妨げ、とりわけ高齢者では寝たきりの原因となり、QOL を著しく低下させることから、本講義では骨関節外傷や障害などの病態、治療法についてより深く解説し、その研究法についても概説することで、運動器疾患の病態についての理解を深めてもらう。また近年運動器疾患と生活習慣病の関連性が注目されていることから、これについても柔道整復、統合医療の観点から概説する。

到達目標

1. 柔道整復学で扱う運動器疾患（外傷、障害）の病態について組織学的・分子生物学的に理解し説明できる。〈DP②③〉
2. 柔道整復学で扱う運動器疾患と生活習慣病、酸化ストレスとの関連性について組織学的・分子生物学的に理解し説明できる。〈DP②③〉
3. 柔道整復学で扱う運動器疾患の病態や治療介入による変化を組織学的、分子生物学的に理解し、新たな研究の展開を計画できる。〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 疑問点は大切にし、解決に向けて積極的に行動すること。
2. グループ討議には積極的に参加すること。

教科書

1. 適宜資料を配布する。

参考書

1. 標準整形外科学 第12版.中村利孝/松野丈夫 監修.医学書院.2014.
2. Kawahata H, et al. Continuous infusion of angiotensin II modulates hypertrophic differentiation and apoptosis of chondrocytes in cartilage formation in a fracture model mouse. Hypertens Res. 38: 382-393. 2015.
3. Sotobayashi D, et al. Therapeutic effect of intra-articular injection of ribbon-type decoy oligonucleotides for hypoxia inducible factor-1 on joint contracture in an immobilized knee animal model. J Gene Med. 18: 180-92. 2016.
4. Mori HM, et al. Wound healing potential of lavender oil by acceleration of granulation and wound contraction through induction of TGF-β in a rat model. BMC Complement Altern Med. 2016 May 26;16:144. doi:10.1186/s12906-016-1128-7.
5. そのほか適宜紹介、配布する

研究室／オフィスアワー

森美侑紀：E 棟研究室：木曜日 17:00～19:00 に対応いたします。
川畑浩久：C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。
外林大輔：兼任講師のため講義の前後に対応いたします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	柔道整復学概論① 柔道整復学とは	予習：柔道整復で扱う運動器疾患について調べておくこと。 復習：柔道整復学で扱う運動器疾患（骨折、脱臼、靭帯・筋損傷）の総論について復習しておくこと（配布資料参照） なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
2	運動器疾患の病理学的研究法（組織学的研究および分子生物学的研究）の概略	予習：組織学的研究および分子生物学的研究の概略について予習しておくこと。 復習：運動器疾患の病理学的研究法について復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
3	運動器外傷学① 骨損傷の病態および修復過程	予習：骨折の病態について、その概略を予習しておくこと。 復習：骨折の病態、特に修復過程について復習し、レポートを提出すること。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
4	運動器外傷学② 関節軟骨損傷の病態および治療法	予習：関節軟骨損傷の病態について、その概略を予習しておくこと。 復習：関節軟骨損傷の病態、特に修復過程について復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
5	運動器外傷学③ 靭帯損傷の病態および治療法	予習：靭帯損傷の病態について、その概略を予習しておくこと。 復習：靭帯損傷の病態、特に修復過程について復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
6	運動器障害学① 骨疾患（骨粗鬆症）の病態および治療法	予習：骨粗鬆症の病態について、その概略を予習しておくこと。 復習：骨粗鬆症の病態における細胞や分子の動態などについて復習し、レポートを提出すること。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
7	運動器障害学② 関節疾患（関節軟骨変性疾患）の病態および治療法	予習：関節軟骨変性疾患の病態について、その概略を予習しておくこと.。 復習：関節軟骨変性疾患の病態における細胞や分子の動態などについて復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
8	運動器障害学③ 関節疾患（炎症性関節疾患）の病態および治療法	予習：炎症性関節疾患の病態について、その概略を予習しておくこと。 復習：炎症性関節疾患の病態における細胞や分子の動態などについて復習復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
9	運動器障害学④ 筋腱疾患（退行性変性ならびに外傷性疾患）の病態および治療法	予習：筋腱の退行性変性疾患や外傷の病態について、その概略を予習しておくこと。 復習：筋腱疾患や外傷の病態における細胞や分子の動態などについて復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
10	運動器障害学⑤ ロコモティブシンドロームとメタボリックシンドロームの関連性	予習：ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドロームについて、その概略を予習しておくこと。 復習：ロコモティブシンドロームとメタボリックシンドロームの関連性のメカニズムについて復習しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
11	運動器疾患と生活習慣病の関連性	予習：生活習慣病の概略について予習しておくこと 復習：自らの生活習慣を見直しながら復習を行う なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと	外林
12	運動器疾患と糖化・酸化ストレス① 骨粗鬆症との関連性	予習：骨粗鬆症の概略について予習しておくこと　復習：骨粗鬆症と糖化・酸化ストレスとの関連性について復習を行う なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと	外林
13	運動器疾患と糖化・酸化ストレス② 変形性関節症との関連性	予習：変形性関節症の概略について予習しておくこと 復習：変形性関節症と糖化・酸化ストレスとの関連性について復習を行う なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと	森
14	運動器疾患と生活習慣病の予防法 糖化・酸化ストレスを防ぐには	予習：糖化・酸化ストレスの概略について調べておくこと。 復習：糖化・酸化ストレスを防ぐ生活習慣についてレポートを提出する。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	森
15	運動器疾患への統合医療的アプローチ 運動器疾患に対するアロマセラピーの実際	予習：アロマセラピーと植物精油の概要について調べておくこと。 復習：アロマセラピーの概要と精油の成分や使用方法、効果などについて復習すること。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	森

成績評価方法と基準	割合
1. 講義中のディスカッション〈DP②③〉 2. レポート評価〈DP②③〉	①30% ②70%

授業科目名	現代臨床鍼灸学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、増山 祥子、鍋田 智之	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
現代医療のパラダイムの中で鍼灸の施術や臨床研究を行う場合、どのようなルールに則って実施する必要があり、どのような鍼灸の特殊性に留意すべきなのか。この授業では、この疑問に答えるために鍼灸の有効性・安全性・費用対効果を検証した優れた過去の論文をレビューする。この過程を通して鍼灸のエビデンスの現状、検証上の問題点、より効率的で再現性の高い治療技術などを探るとともに、この領域における課題について考察する。
到達目標
１．現代医療と鍼灸のパラダイムの違いが説明できる。 ２．現代医療のパラダイムにおける鍼灸の治療法と検証法の基本がわかる。 ３．鍼灸の有効性・安全性・費用対効果のエビデンスの概要を理解している。 ４．鍼灸の臨床研究に関する課題について概説できる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
データベース検索と文献読解による情報収集・抽出の能力が求められる。得意でない学生は授業の予習復習で少しずつ習得していただきたい。
教科書
なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書
必要に応じて授業中に紹介する
研究室／オフィスアワー
月水木の５～６限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	西洋医学と東洋医学のパラダイム	医療概論関連図書チェック	山下
2	Evidence-Based Medicine と鍼灸	EBM の基本的知識を確認	山下
3	臨床研究方法論と鍼灸①	各種研究デザインの確認	山下
4	臨床研究方法論と鍼灸②	各種研究デザインの確認	鍋田
5	臨床研究方法論と鍼灸③	各種研究デザインの確認	増山
6	コクランライブラリーと鍼灸	コクランライブラリーのサイト検索・閲覧	山下
7	診療ガイドラインと鍼灸	Minds サイトの検索・閲覧	山下
8	リスクマネジメントと鍼灸	鍼灸安全性関連の文献検索	山下
9	医療保険と鍼灸	医療システムの基本的知識の確認	山下
10	医療資格と鍼灸	鍼灸師の資格制度関連文書のチェック	山下
11	海外の医療機関における鍼灸	PubMed および各国鍼灸団体サイトの検索・閲覧	山下
12	最新論文講読①	英単語・文法チェック	山下/増山
13	最新論文講読②	英単語・文法チェック	山下/増山
14	最新論文講読③	英単語・文法チェック	山下/増山
15	最新論文講読④	英単語・文法チェック	山下/増山

成績評価方法と基準	割合
①授業中の討論内容、②レポート	①50% ②50%

授業科目名	シミュレーション医工学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	中沢　一雄		担当教員	中沢　一雄、稲田　慎	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	木曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

理論的に生体現象を理解する上で数式を用いた数学モデルを構成することは有用である。しかし、生体現象は一般にきわめて複雑であり、数学モデルの構成だけでは十分とは言えない。そこで、可視化を含めたコンピュータシミュレーションが有効な手段となる。心臓の電気現象を主題に、先端的なシミュレーション医工学を学ぶ。

到達目標

電気生理学の基礎知識を基盤に、心臓の電気現象を理解する。さらにプログラム作成を体験して、可視化など画像処理含めたプログラミングの素養・技術を身につける。不整脈疾患についてのディテールを得る。〈DP①④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

不整脈現象の複雑さと奥深さについて理解して欲しいと思います。なるべく、最新の研究内容に触れるところまで進めたいと思います。

教科書

無し。講義資料を配布する。

参考書

稲田紘，児玉逸雄，佐久間一郎，中沢一雄 編著，なぜ不整脈は起こるのか　ー心筋活動電位からスパイラルリエントリーまでー，コロナ社，２００６年

研究室／オフィスアワー

中沢：C 棟 7 階研究室 720/金曜日１０時～１２時
稲田：C 棟 7 階研究室 714/木曜日９時～１０時３０分

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	不整脈のあらましと最近の不整脈研究の概観 ーいま不整脈研究が面白いー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
2	なぜ不整脈は起こるのか ーその基本的なメカニズムー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
3	不整脈心電現象モデリングによる解析表示とその実験的検討 ー不整脈による突然死を防ぐ：ここまできた診断と治療ー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
4	心臓興奮膜電位計測 ー高輝度発光ダイオードを用いる心臓興奮光マッピング計測ー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
5	仮想電極分極現象の計測と解析 ー高空間・時間分解能光学マッピングシステムの応用ー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
6	高速度ビデオカメラで不整脈をみる ースパイラルリエントリーのダイナミクスと抗不整脈の効果ー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
7	心房細動はどのようにして発生するか ー基本的な考え方と現在のコンセンサスー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
8	ヒトでのスパイラルリエントリーは実際に起こるのか ーバスケットカテーテルによるヒトでの観測ー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
9	不整脈をわかりやすく表現する ーコンピュータグラフィックスの基礎と可視化技術ー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
10	スーパーコンピュータ上でつくった不整脈 ーバーチャルハート（仮想心臓）におけるスパイラルリエントリー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
11	頻脈性不整脈の細動化に迫る ースパイラルリエントリーの分裂についてー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成	中沢　一雄 稲田　慎
		学習所要時間の目安：２時間	
12	心筋の細胞外電位を考える ーペーシングから電気ショックまでー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
13	不整脈の起こりやすさとは何か ー心筋受攻性を考える：心筋受攻性のバイドメイン・シミュレーションー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
14	シミュレーションにより致死性不整脈のリスクを評価する ーその具体的戦略ー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎
15	不整脈シミュレーションはどこまで真実か ー有用性から限界までー	予習：特になし　　復習：講義資料の確認 レポート作成 学習所要時間の目安：２時間	中沢　一雄 稲田　慎

成績評価方法と基準	割合
①平常点評価〈DP②③④〉 ②課題評価（レポート提出、内容など）〈DP②③④〉	①40% ②60%

授業科目名	医療画像解析学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	小縣　裕二		担当教員	小縣　裕二、山口　功	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

現代医療においてCT、MRに代表される画像診断は不可欠なものとなっている。医療画像解析学特論では臨床画像検査で得られるデータから疾患理解に有用な情報を識別するための画像形成過程を学び、画像から得られる情報を適正に表現する方法を理解する。さらに病態解析に効果的な検査手法を構築する能力を身につける。

到達目標

１．画像形成過程を理解し、説明できる。
２．画像から得られる情報について説明できる。
３．病態解析に効果的な検査手法について説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

初回授業で実施の詳細を説明します。

教科書

特に指定しないが、論文、記事、関連資料等を適宜紹介(配布)します。

参考書

特に指定しないが、論文、記事、関連資料等を適宜紹介(配布)します。

研究室／オフィスアワー

小縣　裕二／適宜対応する。
山口　功／適宜対応する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	画像解析学について	予習：画像から得られる情報について調べて置く(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣
2	X線画像解析①	予習：アナログX線画像の画像形成について調べておく(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣
3	X線画像解析②	予習：ディジタル(I.I.-DR)画像の画像形成について調べておく(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣
4	X線画像解析③	予習：ディジタル(CR)画像の画像形成について調べておく(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣
5	X線画像解析④	予習：ディジタル(FPD)画像の画像形成について調べておく(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣
6	X線CT・MRI画像解析	予習：X線CT・MRIの撮影原理を調べる 復習：X線CT・MR画像の特徴をまとめる	山口
7	X線CT・MR画像解析（頭部）	予習：頭部の正常解剖を復習する(2時間) 復習：脳の疾患とCT・MR画像の特徴をまとめる(2時間)	山口
8	X線CT・MR画像解析（胸部）	予習：胸部の正常解剖を復習する(2時間) 復習：胸部の疾患とCT・MR画像の特徴をまとめる(2時間)	山口
9	X線CT・MR画像解析（腹部）	予習：腹部の正常解剖を復習する(2時間) 復習：腹部の疾患とCT・MR画像の特徴をまとめる(2時間)	山口
10	X線CT・MR画像解析（その他）	予習：心臓、骨・関節の正常解剖を復習する(2時間) 復習：心臓、骨・関節の疾患とCT・MR画像の特徴をまとめる(2時間)	山口
11	X線CT・MR画像解析（グループワーク）	予習：グループワークの準備を行う 復習：グループワークの結果をまとめる	山口
12	X線CT・MR画像解析（プレゼンテーション）	予習：プレゼンテーションの準備を行う 復習：グループワーク、プレゼンテーションをレポートにまとめる	山口
13	デジタル画像処理①	予習：諧調処理について調べて置く(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣
14	デジタル画像処理②	予習：2値化処理について調べて置く(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣
15	デジタル画像処理③	予習:空間周波数処理について調べて置く(2時間) 復習：ノートを中心に授業内容を振り返りレポートにまとめる。(2時間)	小縣

成績評価方法と基準	割合
①　授業内容および課題を期日までにレポートにまとめ提出する。 ②　プレゼンテーションによる評価	①80% ②20%

授業科目名	分子イメージング解析学特論(保健医療学専攻)				
主担当教員	大西　英雄		担当教員	大西　英雄、垣本　晃宏	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

分子イメージング(molecular imaging)は、生体内における組織内分子の挙動やトレーサーによる生体信号情報を利用することにより画像化し可視化させる技術である。本講義は、放射性同位元素を用いた標的臓器及び組織内での血流動態や代謝(機能)動態を多くの臨床現場で用いられている SPECT や PET 画像を中心にその処理技術及び定量評価の解析法などを習得し、実際の医用画像を用いた動態機能解析の臨床的意義と有用性について学修する。また、最新の分子イメージング研究の医療への貢献についても議論する。

到達目標

1. 分子イメージングの基礎を説明できる
2. SPECT 及び PET 装置について説明できる
3. 画像再構成処理におけるフィルタ付逆投影法や逐次近似法について説明できる
4. SPECT 画像の修飾因子としての、散乱、減弱及び分解能補正について説明できる
5. 血流動態解析理論の Fuck 理論や Microsphere 法を説明できる
6. コンパートメントモデル解析及び統計学的機能解析処理（3D-SSP など）を説明できる
7. 臨床時で使用している定量解析法(ARG 法、SSD 法など)を説明できる
8. 受講生の研究テーマに関する英語論文の内容を説明できる
9. SPECT・PET の動態解析について、医療現場での役割を理解する
10. ポジトロン放出核種、PET 装置の撮像原理を説明できる
11. 18F-FDG-PET がん検査および心・血管系の PET 検査について説明できる
12. 認知症や精神疾患に対する PET 検査の役割を説明できる
13. 脳 PET 画像を用いた統計学的解析手法について理解する
14. 最新の PET 関連文献を調査できる技術を習得する
15. 新規 PET 薬剤や検査について、患者さんに対する将来的な貢献を理解する

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 初回の授業で講義の詳細、単位認定・評価の方法を説明する
2. プレゼンやレポート等の提出期限を厳守すること
3. 事前学修（予習）では参考書や文献などで予備知識を身に付ける。事後学修(復習)では授業を通して学んだ事項と予備知識との相違点に着目し整理することで理解が深まる。

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

Habib Zaidi et al, “Quantitative Analysis in Nuclear Medicine Imaging” 2016 Springer
D.L. Bailey et al, “Nuclear Medicine Physics” 2014 IAEA
大西英雄、他：「核医学検査技術学　改訂３版」2016 オーム社

研究室／オフィスアワー

大西：　適宜対応する
垣本：　水曜日 13:00～15:00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	[ガイダンス]：講義の詳細、単位認定・評価の方法を説明する。 分子イメージング解析学概要	予習：受講生の研究内容に関する英語論文の調査及び検討	大西 垣本
2	核医学画像の形成原理	予習：シンチレーションカメラ及び SPECT 撮像の原理の理解 復習：「履修上の注意」を参照	大西
3	画像再構成理論（FBP 及び逐次近似法）	予習：画像再構成法に関する原理の理解 復習：「履修上の注意」を参照	大西
4	画像修飾因子（散乱、減弱及び分解能補正）	予習：SPECT 画像における各種補正法(散乱、減弱及び分解能補正)の理解 復習：「履修上の注意」を参照	大西
5	血流動態解析理論(1)：(Fuck 理論、Microsphere 法など)	予習:「核医学検査技術学」改訂３版(オーム社) PP196-220 を参照 復習：「履修上の注意」を参照	大西
6	血流動態解析理論(2)及び統計学的機能解析理論：(ARG 法、SPM, 3D-SSP 法)	予習:「核医学検査技術学」改訂３版(オーム社) PP220-232 を参照 復習：「履修上の注意」を参照	大西
7	臨床での定量解析（脳、心筋血流など）	予習：実臨床で行なわれている定量解析法(脳、心筋）の理解 復習：「履修上の注意」を参照	大西
8	Active Learning: 受講生による英語論文のプレゼン及討論	予習：受講生の研究に関する英語論文(2 編)を熟読、精査し、まとめる 課題(1)：英語論文のプレゼン及び質疑応答	大西
9	ポジトロン核種放出	予習:「核医学検査技術学」改訂３版(オーム社) PP37-46 を参照 復習：「履修上の注意」を参照	垣本
10	PET 装置の基礎	予習:「核医学検査技術学」改訂３版(オーム社) PP70-79, 145-162 を参照 復習：「履修上の注意」を参照	垣本
11	腫瘍、心・血管系の PET 検査	予習:「核医学検査技術学」改訂３版(オーム社) PP393-400, 407-414 を参照 復習：「履修上の注意」を参照	垣本
12	脳・神経系の PET 検査	予習:「核医学検査技術学」改訂３版(オーム社) PP400-407 を参照 復習：「履修上の注意」を参照	垣本
13	PET 脳画像を用いた統計学的解析	予習：SPM, 3D-SSP の理解 復習：「履修上の注意」を参照	垣本
14	最新の研究について	予習：PET に関する最新研究の調査 復習：「履修上の注意」を参照	垣本
15	PET 検査のまとめおよびレポート総評	予習：PET に関する最新研究の調査 課題：レポート課題(2)	垣本

成績評価方法と基準	割合
1. 課題(1) ※大西担当 ※提出期限・作成方法等は授業内で説明する ※評価基準はルーブリックを提示する 2. 課題(2) ※垣本担当 ※提出期限・作成方法等は授業内で説明する ※評価基準はルーブリックを提示する 2/3 以上の出席を必要とする	1. 50% 2. 50%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻:山下)（Specialized Practice）				
主担当教員	山下　仁		担当教員	山下　仁	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要
各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施術所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。
到達目標
自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。〈DP②③④〉 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。〈DP②③④〉 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。〈DP②③④〉
履修上の注意(学生へのメッセージ)
指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。
教科書
各指導教員が個別に提示する。
参考書
各指導教員が個別に提示する。
研究室／オフィスアワー
山下：月曜４・６限 その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．大学附属施術所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 　森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 ２．関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 　疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨牀データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 　各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。	個別に相談して決定する	

成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック４０%、授業での知識チェック３０%、取り組みの態度３０%。	左記割合にて 100%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻:堀)（Specialized Practice）				
主担当教員	堀　竜次		担当教員	堀　竜次	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施術所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。

到達目標

自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。〈DP②③④〉
臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。〈DP②③④〉
基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。〈DP②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。

教科書

各指導教員が個別に提示する。

参考書

各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

山下：月曜４・６限
その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．大学附属施術所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 　森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 ２．関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 　疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨牀データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 　各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。	個別に相談して決定する	堀

成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック４０%、授業での知識チェック３０%、取り組みの態度３０%。　DP②③④	左記割合にて 100%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻:工藤)（Specialized Practice）				
主担当教員	工藤　慎太郎		担当教員	工藤　慎太郎	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要
各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施術所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。
到達目標
自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。DP②③④
履修上の注意（学生へのメッセージ）
指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。
教科書
各指導教員が個別に提示する。
参考書
各指導教員が個別に提示する。
研究室／オフィスアワー
山下：月曜４・６限 その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．大学附属施術所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 　　森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 ２．関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 　　疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨牀データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 　　各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。	個別に相談して決定する	

成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック４０%、授業での知識チェック３０%、取り組みの態度３０%。　DP②③④	左記割合にて 100%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻:伊津美)（Specialized Practice）				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 3 限）、後期（金曜 1 限）
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施術所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。

到達目標

自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。
臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。
基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。DP②③④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。

教科書

各指導教員が個別に提示する。

参考書

各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

山下：月曜４・６限
その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．大学附属施術所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 　森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 ２．関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 　疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨牀データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 　各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。	個別に相談して決定する	

成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック４０%、授業での知識チェック３０%、取り組みの態度３０%。　DP②③④	左記割合にて 100%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻：仲西）（Specialized Practice）				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要
各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施術所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。
到達目標
自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。〈DP②〉 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。〈DP③〉 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。〈DP④〉
履修上の注意（学生へのメッセージ）
指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。 復習・予習は各１時間行うこと。
教科書
各指導教員が個別に提示する。
参考書
各指導教員が個別に提示する。
研究室／オフィスアワー
山下：月曜４・６限 その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．大学附属施術所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 　森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 ２．関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 　疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨牀データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 　各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。	個別に相談して決定する	

成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック４０%、授業での知識チェック３０%、取り組みの態度３０%。　。〈DP②、③、④〉 2/3 以上の出席が必要。	左記割合にて 100%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻:伊藤)（Specialized Practice）				
主担当教員	伊藤　直子		担当教員	伊藤　直子	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 1 限)
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各学生の専門領域に応じて，担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う．臨床系演習として行政の事業および関連病院演習を，基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける．臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり，医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら，症例の集積と分析を行う．基礎系演習は，専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする．

到達目標

自身の専門領域における臨床あるいは実験の手法，または情報収集・分析の能力を身に付ける．＜DP②③④＞
臨床系演習では症例の客観的な分析ができる．＜DP②③④＞
基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する．＜DP②③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究テーマに関連した最新の研究成果を検索し，論文を手に入れておく．

教科書

適宜，研究領域に関連する資料を配布する．

参考書

適宜，研究領域に関連する参考図書を紹介する．

研究室／オフィスアワー

木曜日 2 限（10:40-12:10），月曜日 5 限（16:20-17:50）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．症例の集積・分析 　学外提携医療施設において，疾患や病態について特定のテーマを設け，それに対する作業療法と臨床データの収集を行い，過去の文献と比較しながら分析する．また，作業療法に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方，インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ．さらに，作業を通して健康維持増進をどのように行うのか，その方法，評価法，検証法などを模索する． ２．関連病院における臨床活動の観察，実践，および症例集積 　疾患や病態について特定のテーマを設け，それに対する臨床データを収集・分析・評価し，文献調査を加えて検討する．また，病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて，臨床観察，実践，臨床評価，および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める． 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 　各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する．	臨床研究，基礎研究の進捗に応じて，文献レビューのまとめ，症例報告書の作成，最新の研究成果についての文献抄読を課す． 上記について，授業毎に学修したことを予習・復習する（各回 4 時間×30 コマ＝120 時間）．	伊藤，横井
	２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し，原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける．また，保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び，自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する．		

成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック 40%，授業での知識チェック 30%，取り組みの態度 30%．　＜DP②③④＞	左記割合にて 100%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻：青木）（Specialized Practice）				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 3 限）、後期（金曜 1 限）
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施術所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。

到達目標

自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。
臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。
基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。DP②③④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。

教科書

各指導教員が個別に提示する。

参考書

各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

各指導教員が個別に提示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．大学附属施術所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 　森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 ２．関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 　疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨牀データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得	個別に相談して決定する	
	各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。		

成績評価方法と基準	割合
授業での技能チェック４０%、授業での知識チェック３０%、取り組みの態度３０%。DP②③④	左記割合にて 100%

授業科目名	専門演習(保健医療学専攻：森)（Specialized Practice）				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング	SR001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期（金曜 3 限）、後期（金曜 1 限）
授業形態	実験・実習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各学生の専門領域に応じて、担当教員の指導のもとに臨床系あるいは基礎系の演習を行う。臨床系演習として大学附属施術所演習および関連病院演習を、基礎系演習として実験室演習および文献講読演習を設ける。臨床系演習は医療資格既得者のみ可能であり、医療施設において教員の臨床活動の補助をしながら、症例の集積と分析を行う。基礎系演習は、専門領域の実験手法を習得したり文献収集と情報抽出力を強化したりする。

到達目標

自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。
臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。
基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する。　DP②③④

履修上の注意（学生へのメッセージ）

指導教員と相談の上、学生個別の主担当教員を決定する。

教科書

各指導教員が個別に提示する。

参考書

各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

山下：月曜４・６限
その他の教員については、担当となった時点で直接交渉して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	臨床系演習 １．大学附属施術所における鍼灸臨床のトレーニングと症例の集積・分析 　森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所または学外提携医療施設において、疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する鍼灸施術と臨床データの収集を行い、過去の文献と比較しながら分析する。また、鍼灸臨床に必要な医療面接の方法と検査方法、病態把握の仕方、インフォームド・コンセントの手順について実践を通して学ぶ。さらに、鍼灸施術を通して健康維持増進をどのように行うのか、その方法、評価法、検証法などを模索する。 ２．関連病院における臨床活動の観察、実践、および症例集積 　疾患や病態について特定のテーマを設け、それに対する臨牀データを収集・分析・評価し、文献調査を加えて検討する。また、病院等臨床施設において必要な治療あるいはケアのプロセスについて、臨床観察、実践、臨床評価、および症例分析を通して当該分野における臨床能力を高める。 基礎系演習 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 　各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を習得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を習得する。	個別に相談して決定する	

成績評価方法と基準		割合
授業での技能チェック４０%、授業での知識チェック３０%、取り組みの態度３０%。　DP②③④		左記割合にて 100%

授業科目名	特別研究(保健医療学専攻:青木)（Special Research）				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SR002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	2020 年度　前期（金曜 4 限）、2020 年度　後期（金曜 4 限）、2021 年度　前期（月曜 1 限）、2021 年度　後期（月曜 1 限）
授業形態	実験・実習	単位数	6	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。

到達目標

専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

上記「担当教員」のうち１名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。

教科書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

参考書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

自分の研究指導教員と相談して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１～５．研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことによって取り扱う分野における最新情報を把握する。	個別に相談して決定する	
2	６～１０．関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	１１～１５．研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。		
4	１６～２０．予備的な実験また調査を行って研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	２１～２５．実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	２６～３０．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	３１～３５．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。		
8	３６～４０．論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。		
9	４１～４５．公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。		

成績評価方法と基準	割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する DP②③④	100%

授業科目名	特別研究(保健医療学専攻:村上)（Special Research）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング	SR002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	2020 年度　前期（金曜 4 限）、2020 年度　後期（金曜 4 限）、2021 年度　前期（月曜 1 限）、2021 年度　後期（月曜 1 限）
授業形態	実験・実習	単位数	6	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。

到達目標

専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

上記「担当教員」のうち１名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。

教科書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

参考書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

自分の研究指導教員と相談して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１～５．研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことによって取り扱う分野における最新情報を把握する。	個別に相談して決定する	
2	６～１０．関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。	同上。	
3	１１～１５．研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。	同上。	
4	１６～２０．予備的な実験また調査を行って研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。	同上。	
5	２１～２５．実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。	同上。	
6	２６～３０．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。	同上。	
7	３１～３５．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。	同上。	
8	３６～４０．論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。	同上。	
9	４１～４５．公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。	同上。	

成績評価方法と基準	割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する DP②③④	100%

授業科目名	特別研究(保健医療学専攻:森 誠司)（Special Research）				
主担当教員	森 誠司		担当教員	森 誠司	
科目ナンバリング	SR002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	2020 年度 前期（金曜４限）、2020 年度 後期（金曜４限）、2021 年度 前期（月曜１限）、2021 年度 後期（月曜１限）
授業形態	実験・実習	単位数	6	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。

到達目標

専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

上記「担当教員」のうち１名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。

教科書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

参考書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

自分の研究指導教員と相談して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１～５．研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことによって取り扱う分野における最新情報を把握する。	個別に相談して決定する	
2	６～１０．関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	１１～１５．研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。		
4	１６～２０．予備的な実験また調査を行って研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	２１～２５．実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	２６～３０．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	３１～３５．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。		
8	３６～４０．論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。		
9	４１～４５．公聴会における研究成果発表の準備を行い、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出する。		

成績評価方法と基準	割合
公聴会における口頭試問(50%)および提出論文(50%)　DP②③④	50% 50%

授業科目名	特別研究(保健医療学専攻:堀)（Special Research）				
主担当教員	堀　竜次		担当教員	堀　竜次	
科目ナンバリング	SR002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	2020 年度　前期（金曜 4 限）、2020 年度　後期（金曜 4 限）、2021 年度　前期（月曜 1 限）、2021 年度　後期（月曜 1 限）
授業形態	実験・実習	単位数	6	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。

到達目標

専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

上記「担当教員」のうち１名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。

教科書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

参考書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

自分の研究指導教員と相談して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１～５．研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことによって取り扱う分野における最新情報を把握する。	個別に相談して決定する	
2	６～１０．関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	１１～１５．研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。		
4	１６～２０．予備的な実験また調査を行って研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	２１～２５．実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	２６～３０．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	３１～３５．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。		
8	３６～４０．論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。		
9	４１～４５．公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。		

成績評価方法と基準	割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する DP②③④	100%

授業科目名	特別研究(保健医療学専攻:工藤)（Special Research）				
主担当教員	工藤　慎太郎		担当教員	工藤　慎太郎	
科目ナンバリング	SR002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	2020 年度　前期（金曜 4 限）、2020 年度　後期（金曜 4 限）、2021 年度　前期（月曜 1 限）、2021 年度　後期（月曜 1 限）
授業形態	実験・実習	単位数	6	必修・選択	必修

授業概要

研究指導教員の下で研究テーマを決め、先行研究レビュー、プロトコール作成、倫理的配慮、研究手法の習得、研究の実施、データ分析、考察、論文執筆、プレゼンテーションなど、一連の研究過程を学ぶ。その成果として、過去に提示されていないオリジナルのデータを含む修士論文を提出して審査を受ける。

到達目標

専門領域における文献収集、実験または調査、およびデータ分析ができる。専門領域における研究結果について、論理的解釈にもとづき論文執筆ができる。自身の研究結果と解釈についてプレゼンテーションとディスカッションができる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

上記「担当教員」のうち１名が研究指導教員となる。大学院生ごとに研究指導教員が異なるので、当該教員とよく話し合ってスケジュールに遅れないように研究活動を進めていただきたい。

教科書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

参考書

資料を配布する。また、各指導教員が個別に提示する。

研究室／オフィスアワー

自分の研究指導教員と相談して決定してください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	１～５．研究テーマの関連文献の収集方法を身に付け、実際に収集と調整を行うことによって取り扱う分野における最新情報を把握する。	個別に相談して決定する	
2	６～１０．関連文献をダイジェストし、教員や同級生とディスカッションを行う。また、研究計画書の原案を作成する。		
3	１１～１５．研究デザイン発表を行い、ディスカッションとアドバイスにもとづき計画書を完成させる。倫理審査が必要な研究は申請書を提出する。		
4	１６～２０．予備的な実験また調査を行って研究計画の妥当性を検討し、研究計画書の最終版を完成させ、データ収集を開始する。		
5	２１～２５．実験、調査、また臨床試験を実施してデータを収集する。また、中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する。		
6	２６～３０．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。		
7	３１～３５．実験、調査、または臨床試験を行ってデータを収集する。また、データの解析を行って、論理的な解釈を行い、論文を執筆する。		
8	３６～４０．論文を執筆するとともに、追加実験、再分析、文献再収集が必要な場合はそれらを実施する。		
9	４１～４５．公開発表会において研究成果を発表し、そこでの指摘を反映させて論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける。		

成績評価方法と基準	割合
本大学院の学則および学位審査に関する細則にもとづき審査して決定する DP②③④	100%

看護学専攻(修士課程)

(2020 年度入学生カリキュラム)

授業科目名	看護倫理特論(看護学専攻)				
主担当教員	教員未確定		担当教員	教員未確定	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

看護実践には知識と技術が不可欠であり、倫理観がなければ専門職としての看護行為と研究は認められない。ここではまず、倫理と看護倫理について問い、少子高齢化、生活者の価値観の多様性、医療の高度化が発展している社会の中で看護倫理をもてるように検討する。特に人間の尊重やその人らしく生きるための支援のできる専門職者として倫理的問題や看護シュアとしての葛藤について検討し、看護の本質を修学する。また、看護研究における倫理的配慮について修学する。

到達目標

１.倫理とは何かを述べ、生命倫理と医療的倫理について自己の考えを述べることができる。
２.看護倫理の基本理論と倫理的問題について述べることができる。
３.倫理的意思決定モデルと倫理的責任について述べることができる。
４.倫理的意思決定モデルと倫理的責任
５.看護倫理に基づくケアリングと実践
６.看護実践における倫理的基盤を用いて事例を通して述べることができる。
７.看護研究における倫理的配慮について述べることができる。①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

予習を行い、日常や臨床で起こっている出来事について倫理的に振り返り、グループで話し合う。講義内容や検討したことについて自分の考えをレポートにまとめて提出する。

教科書

『看護倫理学』松木光子編　ヌーベルヒロカワ

参考書

『看護倫理ガイドライン』日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員会
『看護倫理』宮坂道夫他　医学書院
『現場でできる「看護倫理」教育・実践マニュアル』照沼則子編　MC メディカ出版

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	倫理とは、生命倫理と医療倫理	予習：倫理とは、倫理学とは、生命倫理、医療倫理について(テキスト pp.4-66) 復習：自己の考えをまとめてレポートを提出する。(Ａ４：1600 字)	
2	看護倫理の基本理論と倫理的問題	予習：看護の基本的理恵恩の倫理的問題について(テキスト pp.70-102) 復習：倫理的問題にあるテーマを選び自己の考えをまとめ提出する。(Ａ４：1600 字)	
3	倫理的意思決定モデルと倫理的責任	予習：倫理的意思決定モデルと倫理的責任について(テキスト pp.70-102) 復習：モデルについてレポート提出する。(Ａ４：1600 字)	
4	看護倫理に基づくケアリングと実践	予習：看護倫理に基づくケアリングと実践について(テキスト pp.131-143) 復習：看護倫理に基づくケアリングについて自己の考えをまとめて提出する。(Ａ４：1600 字)	
5	看護倫理と法的問題とガイドライン	予習：看護倫理と法的問題について(テキスト pp.170-182) 復習：看護倫理と法的問題とガイドラインについて自己の考えを提出する。(Ａ４：1600 字)	
6	看護実践における倫理的基盤	予習：事例を通して理恵恩的基盤を学習する。(テキスト pp.186-210) 復習：看護実践における倫理的基盤についてレポート提出する。(Ａ４：1600 字)	
7	事例における看護倫理	予習：自己の事例を通して倫理的実践の発表する。(テキスト pp.212-276)	
		復習：自己の事例を通して倫理的実践についてレポートをまとめる。(Ａ４1600 字)	
8	看護研究における倫理的配慮	予習：看護倫理と看護研究(テキスト pp.146-166) 復習：倫理的配慮についてレポートを提出する。(Ａ４：1600 字)	

成績評価方法と基準	割合
毎回の課題レポートの提出により評価する。(欠席した場合は課題レポートを提出し、8 割を評価する) 大変良く述べることができた(100)、よく述べることができた（80)、まあまあ述べることができた(70)、何とか述べることができた(60)、述べることができない（50）①②③④	100%

授業科目名	チーム医療特論(看護学専攻)				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子、増山　祥子、中根　征也、小宮山　恭弘、前川　佳敬、藤江　建朗、伊藤　直子	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜４限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、臨床工学技士、鍼灸師の視点から、チーム医療の観点で抽出された課題を検討する。合同討議をとおしてチーム医療の実践での活用につなげる。社会の多様なニーズに対応するため、地域医療や在宅等様々な場面における医療チームにおいて具体的にどのようなコミュニケーション・協働・評価・フィードバック等を行うべきか提案できる能力、および科学的・論理的思考をもって、看護専門職としての指導的役割が担える能力を学修させる。

到達目標

1. 多職種連携によるチーム医療を理解できる。
2. 課題の抽出、実践での活用、問題解決の提案を行える。
3. 科学的・論理的思考をもって、看護専門職としての指導的役割を担える。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

指導教員の指示に従う

研究室／オフィスアワー

各指導教員に準ずる

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	チーム医療の総論、チーム医療における医師の役割について教授し、病院から地域・在宅医療への移行、地域・在宅医療における多職種が連携するチーム医療の現状と課題について言及する。	予習：チーム医療・医師の役割について調べておく 復習：チーム医療における医師の役割を考察する	前川
2	チーム医療における看護職の役割と、看護職に必要なマネジメントの視点について教授する。	予習：チーム医療における看護職の役割、看護職に必要なマネジメントの視点について調べておく（1時間） 復習：チーム医療における看護職の役割とその課題について考察する（1時間）	伊津美
3	チーム医療における作業療法士の役割について教授し、チーム医療の現状と課題について言及する。	予習：作業療法士の専門性を調べておく。(1時間) 復習：チーム医療の中で、看護師と作業療法士の連携のあり方についてまとめる。(1時間)	横井
4	臨床検査技師のチーム医療での役割 症例を用いて臨床検査データから見たアプローチの 実践につい学ぶ。 5-6名毎でのグループワークを行う。 症例は当日資料配布する。		小宮山
5	チーム医療における鍼灸師の役割について教授し、チーム医療の現状と課題について言及する。		増山
6	理学療法士のチームでの役割 症例を提示する。 理学療法士の役割を理解したうえで，チーム医療とその実践について考察する. 資料は当日に配布する.	予習：理学療法士の仕事内容を調べておく。(1時間) 復習：チーム医療の必要性とあり方について自己の考えをまとめる。(1時間)	中根
7	臨床工学技士のチーム医療での役割 閉塞性肺疾患および拘束性肺疾患の人工呼吸療法の概念について，チーム医療の観点から実践を通して学ぶ. 資料は当日配布します.	閉塞性肺疾患，拘束性肺疾患，人工呼吸器のモードについて事前学習をしておいてください. (1時間)	藤江
8	医療職の立場から合同討議をしてチーム医療の重要性を理解させる。病院・地域・在宅など様々な場面を想定しながら多職種が連携するチーム医療の実践について考察させ、具体的な課題解決法や行動指針について提案させる。	予習：これまでの講義内容を復習しておく 復習：多職種が連携するチーム医療を考察する	担当教員全員

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②質疑応答時の発言内容 DP①②③④	①70% ②30%

授業科目名	保健医療研究方法論(看護学専攻)				
主担当教員	山下　仁		担当教員	山下　仁、増山　祥子、井手口　範男、森谷　正之、青木　元邦、前田　薫	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 2 限 水曜 3 限 水曜 4 限 木曜 1 限 木曜 2 限 金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

保健医療学研究の基本的流れ、および各領域における主な研究手法と方法論について学ぶ。複数教員によるオムニバス方式の授業形態とし、研究計画、文献検索、倫理委員会書類作成、データ分析、論文執筆、学会発表など一連の流れを解説するとともに、各分野特有の研究・実験の手法を紹介する。また、研究者の倫理、不正行為、論文の質の評価などについても理解させる。さらに、保健医療系の研究に必要な英語論文の読み方と書き方の基本的手法を身に付ける。

到達目標

保健医療学系研究のデザインから成果発表までの一連の流れを理解する。
研究における倫理や不正防止を含む基本的なルールを理解し、遵守できる。
研究プロトコールが作成できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自分が行う特別研究（修士論文）の内容に当てはめて理解し、総論と各論（自身のケース）の両面から考えること。

教科書

必要に応じて資料を配布する。

参考書

科学を志す人びとへ　科学倫理検討委員会編　化学同人

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画と研究デザイン	自分の研究テーマについて指導教員と相談しながら具体化する	山下
2	文献収集	自分の研究テーマに関連する文献を検索・収集する	山下
3	図書館利用法	事前に図書館に行って環境を見ておく	山下
4	EBM（１）	自分の研究領域における EBM との関わりについて考える	山下
5	EBM（２）	自分の研究領域における EBM との関わりについて考える	山下
6	基礎研究・動物実験	予習：動物実験の方法論に関連する論文を検索・入手して読んで下さい（2 時間）。 復習：講義内容と収集資料等を参考に動物実験の方法論について考察して下さい（2 時間）。	森谷
7	臨床研究	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	山下
8	ランダム化比較試験	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	増山
9	トランスレーショナルリサーチ	授業で学んだトランスレーショナルリサーチの手法を理解し、研究倫理的問題への配慮についても認識しておく。	青木
10	システマティック・レビューとメタアナリシス	ネット検索でシステマティック・レビューとメタアナリシスについて調べる	山下
11	動物実験の研究倫理	予習：実験動物の取り扱いに関連する法令や学術論文を検索・入手して読む。 復習：講義内容と収集資料等を参考に実験動物の取り扱いに関連する法令をベースに、動物実験の倫理や規範について考察する。	森谷
12	人を対象とした研究における倫理	関連する情報をネットで調べる	山下
13	データの取扱い・解析・提示法	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	前田
14	統計解析	自分の研究で必要になる統計処理について考える	井手口
15	成果の発表	自分の研究テーマにおけるデータの種類・特性・配慮などについて考える	山下

成績評価方法と基準	割合
①提出レポート	①100%

授業科目名	保健医療教育特論(看護学専攻)				
主担当教員	中根　征也		担当教員	中根　征也、鍋田　智之、安田　実、 老田　準司	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜５限 火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

保健医療の領域で「教育」を考える場合、２つの視点がある。保健医療従事者としてクライエント（患者・家族・集団・地域住民等）に対する教育機能と、専門職としての保健医療従事者を育成する教育（基礎教育・卒後教育）である。前者は、主として健康上の課題達成のための行動変容を目指したかかわりを指す。後者は、各専門職教育の歴史・目的・目標・方法等がテーマとなる。いずれの場合も、教育の本質は変わらない。ここでは本質を共有しつつ、各専門職（看護・理学療法・鍼灸）を切り口にして、現状分析を試み、教育の機能を展望したい。複数教員によるオムニバス形式の授業形態をとり、受講生は他職種の役割について認識を深めながら、各自の立場における課題を考察していただきたい。

到達目標

１．教育の本質について自己の考えを表現することができる。【D①】
２．保健医療の各領域における教育のニーズを表現することができる。【D①】
３．保健医療の各領域における教育の方法や課題について表現することができる。【D①】
４．保健医療従事者としての各専門職教育（基礎教育・卒後教育）と課題について、自己の考えを表現することができる。【D①】
５．学生が主体的・創造的に学修に取り組むための方法について洞察し、自己の考えを表現することができる。【D①】

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自己の教育に関する学修のニーズを整理しておくこと。

教科書

指定しない。必要に応じてサブテキスト・資料・論文を配布・紹介する。

参考書

随時紹介する。

研究室／オフィスアワー

講義の初めに各教員が連絡する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	教育の原理① 教育を取巻く環境	予習：自己の「教育観」について考えをまとめておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
2	教育の原理 教育史	予習：前回の講義内容をもとに洞察しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
3	教育方法論① 教育方法の変遷 アクティブラーニング	予習：自己の専門領域における教育実践の経験について、考えをまとめておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
4	教育方法論② アクティブラーニングの実際	予習：発表準備をする。進行イメージを整理しておく。(1 時間) 復習:本時の授業における学びを振り返る(1 時間)	老田
5	医療（技術）職の教育の機能と歴史的経緯	予習：医療（技術）職の養成にかかる法律について調べておく．(1 時間) 復習:サブテキストの演習問題をする.(1 時間)	安田
6	海外と日本の医療（技術）職養成の課題と制度比較論	予習：前回の講義中に論文を紹介するのでこれについて，批評的に読み込んでおく．(1 時間) 復習：サブテキストの課題提出（1 時間）	安田
7	医療における行動経済学的視点とは何か	予習：前回の講義中に論文を紹介するのでこれについて，批評的に読み込んでおく．(1 時間) 復習：サブテキストの課題提出（1 時間）	安田
8			鍋田
9			鍋田
10			鍋田
11		同上	鍋田
12	シラバスの書き方	予習：事前に配布する資料を熟読し，高等教育におけるシラバスの重要性を考える（1 時間） 復習：授業内容をまとめ，シラバスを実際に作成する．(1 時間)	中根
13	学生の成績評価	予習：事前に配布する資料を熟読し，高等教育におけるシラバスの重要性を考える（1 時間） 復習:授業内容をまとめ，レポートを作成する．(1 時間)	中根
14	模擬授業 １	予習：自己の専門領域における授業資料を作成する．(1 時間) 復習：模擬授業を振り返り，修正内容をみつける．(1 時間)	中根
15	模擬授業 ２	予習：自己の専門領域における授業資料を作成する．(1 時間) 復習：模擬授業を振り返り，修正内容をみつける．(1 時間)	中根

成績評価方法と基準	割合
①講義・グループワークでのディスカッション内容 ②レポート（テーマは講義中に指示する）	①30% ②70%

授業科目名	QOL 評価法特論(看護学専攻)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、南部　登志江	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

QOL（Quality of life）は「生活の質」などと訳され、さまざまな意味合いを包含する概念があるが、概ね人が充実感や満足感を持って日常生活を送ることができることを意味する。この QOL が医療分野において重視されるようになった背景には、急速に進む高齢化、がんや慢性疾患の増加、患者の自己決定権の尊重などがあり、患者の視点に立った QOL 評価の必要性が高まってきたことがあげられる。そこで本講では、QOL の評価方法やさまざまな疾患・障害等を持つ患者の QOL について学修し、実践、研究への活用について探求する。

到達目標

1. QOL について理解できる。
2. QOL 評価法について説明できる。
3. 専門領域の QOL についてプレゼンテーションができる。
4. QOL 評価の実践、研究への活用について説明できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて行う。
2. 専門領域における QOL について各自がプレゼンテーションを行うので、事前に準備する。

教科書

なし

参考書

・福原俊一他監訳, ピーター・M・フェイヤーズ他著：QOL 評価学, 中山書店, 2005
・池上直己他編集：臨床のための QOL 評価ハンドブック, 医学書院, 2001
その他、授業の中で紹介する。

研究室／オフィスアワー

334 研究室（吉村）／月曜日 16:00～18:00 実習で不在の場合があるので随時相談可。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	QOL の概論① QOL の概念、QOL 評価のための尺度	自己の研究課題や QOL について発表する。1 時間	吉村　弥須子
2	QOL の概論② QOL の評価方法	第 1 回授業の復習、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
3	専門領域における QOL 各論① がんと QOL①	がんと QOL に関する文献検索､配布資料の確認。1 時間	吉村　弥須子
4	専門領域における QOL 各論② がんと QOL②	第 3 回授業の復習、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
5	専門領域における QOL 各論③ 生活習慣病と QOL	生活習慣病と QOL に関する文献検索、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
6	専門領域における QOL 各論④ 臓器移植と QOL①	臓器移植と QOL に関する文献検索、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
7	専門領域における QOL 各論⑤ 臓器移植と QOL②	臓器移植と QOL に関する文献検索、配布資料の確認。 1 時間	吉村　弥須子
8	専門領域における QOL 各論⑥ 看護・ 鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL①	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする（事前に準備する）。 1 時間	吉村　弥須子
9	専門領域における QOL 各論⑦ 看護・ 鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL②	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする（事前に準備する）。 1 時間	吉村　弥須子
10	専門領域における QOL 各論⑧ 看護・ 鍼灸・理学・作業・臨床検査における QOL③	各自の専門領域または興味あるテーマの QOL についてまとめ、プレゼンテーションする（事前に準備する）。 1 時間	吉村　弥須子
11	専門領域における QOL 各論⑨ 高齢者と QOL	シラバスの確認 高齢者と QOL に関する文献検索、配布資料の確認	
12	専門領域における QOL 各論⑩ 認知症高齢者と QOL	認知症高齢者と QOL に関する文献検索、配布資料確認	
13	専門領域における QOL 各論⑪ ロービジョンと QOL	ロービジョンと QOL に関する文献検索、配布資料確認	
14	専門領域における QOL 各論⑫ 視覚障害者と QOL	視覚障害者と QOL に関する文献検索、配布資料確認	
15	専門領域における QOL⑬ 骨粗鬆症と QOL	骨粗鬆症と QOL に関する文献検索、配布資料確認 11 回から 15 回までについてディスカッション、まとめ	

成績評価方法と基準	割合
①プレゼンテーション、ディスカッション ②レポート DP①④	①40% ②60%

授業科目名	代替・統合医療特論(看護学専攻)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、森 美侑紀	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

統合医療という言葉が知られるようになったが、その定義、概念、臨床応用、および学問体系は統一されていない。統合医療を理解し発展させるために、現代医療と代替医療・東洋伝統医療それぞれの長所と短所を理解した上で、科学的エビデンスと患者の価値観の両者を重視することの重要性を解説する。また、統合医療の重要な構成要素である代替医療の各種治療法について概説し、それぞれの有効性と安全性について批判的吟味を行う。最後に、個々の学生のもつ医療資格において、統合医療にどのような形で関与できるかを考える。

到達目標

統合医療の概念、現状、および課題について理解する。
なぜ統合医療が必要という意見があるのか、その背景が説明できる。
代替医療の主な治療法について種類と概要の説明、および批判的吟味ができる。
自身の医療資格でどのように統合医療に関与すべきか、自分なりの考えが持てる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

患者は様々な療法を受け、医薬品や健康食品を購入している。自分の持っている医療資格に関係なく、患者の立場で必要な知識やセンスを身に着けてほしい。

教科書

なし。関連学術雑誌に掲載された論文などを、必要に応じて紹介する。

参考書

医学雑誌に掲載された論文
代替治療のトリック　サイモン・シン、エツァート・エルンスト　新潮社

研究室／オフィスアワー

山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	代替医療・統合医療の定義と概念	自分または家族の代替医療関連療法・商品の利用状況を調べる	山下
2	代替医療・統合医療の現状と背景	自分または家族が利用している療法や商品について、なぜ使用しているのかを考える	山下
3	代替医療・統合医療と EBM	自分または家族が利用している療法や商品について、効果と安全性がどの程度説明されているのか調べる	山下
4	代替医療・統合医療とプラセボ効果	自分または家族が利用している療法や商品について、それぞれプラセボ効果がどれくらい含まれるか推定する	山下
5	代替医療・統合医療とスピリチュアル	自分または家族が難治性の病気になったとき、医療に何を求めるか仮想する	山下
6	代替医療の各種治療法①東洋伝統医療	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、東洋伝統医療に関する基本情報を調べる	山下
7	代替医療の各種治療法②ハーブ・サプリメント	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、ハーブ・サプリメントに関する基本情報を調べる	山下
8	代替医療の各種治療法③アロマセラピー	附属図書館にある書籍・雑誌・資料で、アロマセラピーに関する基本情報を調べる	森
9	代替・統合医療とビジネス・利益相反	附属図書館にある学術雑誌に掲載されている代替医療の有効性検証に関する原著論文をひとつ選んで、その利益相反の関与について考える	山下
10	代替医療・統合医療と NBM	日本国内の代替医療･統合医療と看護の現状を知る	山下
11	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告①	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
12	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告②	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
13	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告③	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
14	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告④	代替医療をひとつテーマに挙げて、その概要・エビデンス・安全性を調べてレポートにまとめる	山下
15	各種代替医療の批判的吟味：院生による調査報告⑤	今まで授業で習ってきた知識を総合して、自身の医療資格が患者を主体とした統合医療にどのように関与できるのか考える	山下

成績評価方法と基準	割合
①講義におけるディスカッションの内容 ②提出レポートの内容	①30% ②70%

授業科目名	英語文献購読(看護学専攻)				
主担当教員	藤重　仁子		担当教員	藤重　仁子、山下　仁、前田　薫、 久木元　由紀子	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 2 限 火曜 5 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要
英語文献を読み、基本的な単語や構文について解説する。
到達目標
１．保健医療学領域の英語論文が読める。 ２．自分の専門領域の英語論文に頻出する単語や構文がわかる。
履修上の注意(学生へのメッセージ)
事前の単語チェックが重要である。
教科書
必要に応じて資料を配布する
参考書
必要に応じて資料を配布する
研究室／オフィスアワー
山下　仁：東棟 24 研究室、月・火６時限
授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	英語論文読解の基礎①（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
2	英語論文読解の基礎②（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
3	英語論文読解の基礎③（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
4	英語論文読解の基礎④（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
5	英語論文読解の基礎⑤（藤重）	関連する基本的な英単語と表現を調べる	藤重
6	領域別の英語論文購読①	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
7	領域別の英語論文購読②	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
8	領域別の英語論文購読③	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
9	領域別の英語論文購読④	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
10	領域別の英語論文購読⑤	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
11	領域別の英語論文購読⑥	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
12	領域別の英語論文購読⑦	指定された論文の単語を調べる	山下、前田、久木元
13	領域別の英語論文購読⑧	予習：自分が訳したい英語論文を準備してくる	山下、前田、久木元
14	領域別の英語論文購読⑨	予習：英語論文の訳を各自で行う。	山下、前田、久木元
15	領域別の英語論文購読⑩	予習：英語論文の訳を行う。	山下、前田、久木元

成績評価方法と基準	割合
①毎回の資料の予習（単語調べ、読み）の状況、および授業時の理解度にもとづき評価する	①100%

授業科目名	東洋医学史特論(看護学専攻)				
主担当教員	大形　徹		担当教員	大形　徹	
科目ナンバリング		科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限 月曜２限 月曜３限 月曜４限 月曜５限 火曜１限 火曜２限 火曜３限 火曜４限 火曜５限 水曜１限 水曜２限 水曜３限 水曜４限 水曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

中国医学は鍼灸治療と薬物学である本草学の二つから成り立つが、大学院ではこの両者についての基礎的な知識を涵養するために、鍼灸書の古典と本草書の古典の概要を解説するとともに、それらが日本古代の医薬治療にも深く影響を与えていることをも解説する。

到達目標

講義では中国・日本・欧米の最新の研究成果にもとづいて鍼灸学と本草学を解説するが、日本語による理解だけに止まらず、できれば古典文献をも少しは読解できるように努めたい。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

漢文の原典を読んだり、一部、中国語を読んだりするかもしれません。辞書や検索の方法については、授業時に紹介します。

教科書

プリントを配付します。

参考書

中国科学技術史（医学巻）　廖育群・鄭金生ほか　科学出版社（１９９８）
中国医学古典と日本　小曽戸洋　塙書房

研究室／オフィスアワー

非常勤ですので、オフィスアワーはありません。本務校は、大阪府立大学人間社会学研究科です。
メールは ohgata728 アットマーク gmail.com にご連絡ください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	伝統中医学の基本理念 　　中国医学は「気」の身体観から成り立っている	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
2	黄帝内経素問 　　最古の鍼灸医学の基礎的理論を説く書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
3	靈枢経 　　素問よりやや実際的に鍼灸的治療を説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
4	八十一難経 　　脈診など中医の基礎理論を八十一の問答で説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
5	神農本草経 　　中国最古の薬物書であり、上中下の三品に分類される	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
6	傷寒論 　　漢代の急性熱性疾患の薬物による治療法を説く	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
7	鍼灸甲乙経 　　六朝時代に現れた鍼灸の臨床応用を説いた書。	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
8	脈経 　　六朝時代に出た脈搏による診断法を説いた書。	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
9	黄帝内経太素・明堂経 　　隋唐代の経典的鍼灸書であり、日本に深く影響した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
10	千金要方 　　医聖・孫思?の著したスタンダードな医書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
11	唐宋時代の医学教育 　　唐宋時代には中央・地方に医学教育機関が成立した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
12	医心方 　　我が国最古の医書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
13	金元医学 　　桃山・江戸時代に曲直瀬道三を通じて実践的医術が伝来した	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
14	銅人?穴鍼灸図経、十四経発揮 　　今日の経穴・経絡の基本となる書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形
15	近年出土の医薬資料 　　戦国秦漢墓から出土した素問・霊枢や本草に先立つ医薬書	授業で学んだことを復習しておくこと	大形

成績評価方法と基準	割合
レポートによる評価	100%

授業科目名	看護研究特論(看護学専攻)				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子、蓮池　光人、中西　伸子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 3 限 水曜 2 限 水曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

看護研究の意義を学び、研究課題や研究疑問の検証に向けた適切な研究手法を理解し、研究実施能力とともに修士論文作成、プレゼンテーションの基礎的知識を修得する。

到達目標

1.研究課題の着眼の方法を理解できる。DP①
2. 看護研究の意義を理解できる。DP①
3. 研究における倫理的配慮を意義と方法を理解できる。DP①②③④
4. 文献収集やクリティークについて理解できる。DP①④
5. 研究デザインや理論・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について理解する。DP①④
6. 研究計画書を作成するための要件を理解できる。DP①④
7. 論文の作成、研究発表について理解できる DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

履修する院生のニーズに合わせて展開する

教科書

指定なし

参考書

ガイダンスで指示する

研究室／オフィスアワー

適宜相談に応じる
中西研究室
伊津美研究室
蓮池研究室

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 看護における研究の重要性	自己の研究の着眼点を発表する(予習復習時間各 1 時間)	伊津美孝子
2	研究の目的と意義	研究目的、意義について (予習、復習時間各 1 時間)	伊津美孝子
3	研究倫理の重要性	研究倫理に関する文献抄読、文献整理 (予習、復習時間各 1 時間)	伊津美孝子
4	文献収集、クリティーク、論文整理	クリティーク (予習、復習時間各 1 時間)	伊津美孝子
5	研究デザイン	研究デザイン (予習、復習時間各 1 時間)	伊津美孝子
6	研究デザイン	研究デザイン(予習、復習時間各 1 時間)	伊津美孝子
7	量的研究のデザインの種類と特徴	予習：自己の研究課題に沿った量的研究論文を検索し、選択してくる。(予習 2 時間)	中西　伸子
8	量的研究のデザインの種類と特徴	予習：量的研究論文を検索しクリティークした内容を,プレゼンテーションする。(2 時間)	中西　伸子
9	研究計画書の作成方法について	予習：量的研究の研究計画書・プロトコールの書き方について(予習、復習時間各 1 時間)	中西　伸子
10	実施可能な研究計画書の検討と倫理申請書・同意書の作成について	研究者として必要な倫理観について復習してくる。(１時間)	中西　伸子
11	量的研究に必要なデータ収集方法と分析方法について	質問紙の作成方法とデータの分析方法を予習してくる。(予習：1 時間)	中西　伸子
12	質的研究の種類と特徴	予習 質的研究について事前に調べてくる 課題	蓮池光人
		質的研究を用いた文献を検索する 予習課題各 2 時間以上行うこと	
13	看護における質的研究	予習 質的研究を用いた論文を精読しクリティークしてくる 課題 質的研究を用いた文献を検索する 予習課題各 2 時間以上行うこと	蓮池光人
14	質的研究のクリティーク	予習 質的研究を用いた論文を精読しクリティークしてくる 課題 質的研究を用いた文献を検索する 予習課題各 2 時間以上行うこと	蓮池光人
15	自己の研究課題に関する質的研究のクリティーク	予習 自己の研究課題の質的研究を用いた論文を精読しクリティークしてくる 課題 質的研究についてまとめる 予習課題各 2 時間以上行うこと	蓮池光人

成績評価方法と基準	割合
1. 2/3 以上の出席が必要 2. ディスカッションへの参画度 DP①②③④ 3. プレゼンテーション DP①④ 4. 課題　　DP①②③④	2. 50% 3. 40% 4. 10%

授業科目名	看護教育学特論(看護学専攻)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本科目では教育とは何かという本質的課題をベースに、「看護教育学」について重要な側面を考察させる。
まず、日本の近代看護教育がどのように始まり、経過し、今日に至っているか、その変遷と改革に費やされたエネルギーやアウトカムを認識することから始める。学問としての看護教育を問い、その対象（範囲）、研究手法、構成要素の構造的理解等について文献で学修させ、看護教育学の全体像を捉えさせる。また、教育課程、教育方法、教育評価の考究は不可欠であるため、実践的観点から教授する。

到達目標

1. 教育の本質について説明することができる。DP①
2. 看護教育の特徴について説明することができる。DP①
3. 日本における近代看護の変遷について説明することができる。DP①
4. 今日の看護教育の課題について把握することができる。DP④
5. 看護教育に関する研究課題を認識することができる。DP④
6. 看護教育研究の手法について述べることができる。DP④
7. 看護教育におけるカリキュラム、各種教育方法、教育評価について、実践的側面から説明することができる。DP③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 自己の看護学教育の経験のなかから重要なポイントを抽出して下さい。
2. 看護学教育を静的に学び整理するというより問題点を取り上げてほしいと思っています。
3. 対話をしながら進めていきたいと考えています。
4. 皆さんの主体的な参加を期待しています。

教科書

主として文献を活用し、教科書は使用しない。

参考書

講義中に提示する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に伝える。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	科目ガイダンス 教育とは何か、その本質を共有する。	予習：各自の経験を通して教育の本質を考えまとめる。 復習：講義中のディスカッションについて論点を整理する。1 時間。	村上
2	看護教育の変遷① 　時代背景、教育課程、教育内容、教育手法や評価等について考える。	予習：文献を検索しクリティークする。 復習：ディスカッション内容をまとめておく。1 時間。	村上
3	看護教育の変遷②	予習：文献のクリティークをまとめる。 復習：ディスカッション内容をまとめ、レジュメを作成する。1 時間。	村上
4	看護教育の変遷（戦後～現代）について発表。	予習：発表レジュメの作成。 復習：発表、ディスカッションをとおしての課題をまとめる。1 時間。	村上
5	現代の看護教育① 学士課程を中心に全体像を把握する。 次いで看護教育を構成する対象について理解する。	予習：高等教育機関に入学する学生の特徴を調べる。 復習：ディスカッション内容から教育する者の在り方を考える。1 時間。	村上
6	現代の看護教育② 　看護教育の目標を理解し、教育課程との関連を考察する。	予習：学士課程の到達目標（ディプローマ・ポリシー）について考えをまとめる。 復習：カリキュラムとの関連をまとめる。1 時間。	村上
7	現代の看護教育③ 　看護学の教育課程と構成要素、それらの内容について理解する。	予習：「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」ならびに「大学設置基準」を調べる。 復習：講義、ディスカッション内容の要点をまとめる。 1 時間。	村上
8	現代の看護教育④ 　学士課程カリキュラムの問題点を共有する。	予習：自身が経験したカリキュラムを中心とした問題点をまとめる。 復習：講義・ディスカッション内容をまとめる。 1 時間。	村上
9	現代の看護教育⑤ 　看護教育の方法（臨地実習・演習）について深める。	予習：臨地実習・演習の目標と方法を経験を通して重要な点をまとめる。 復習：実習や演習の効果的な在り方をまとめる。 1 時間。	村上
10	現代の看護教育⑥ 　教育の評価。	予習：評価とは何か？まとめる。 復習：評価の課題をディスカッションの中からまとめておく。1 時間。	村上
11	看護学教育の論文クリティーク①	予習：先行研究を読みまとめておく。 復習：講義のまとめを通して次回のテーマの先行研究を検索する。1 時間。	村上
12	看護学教育の論文クリティーク②	同上。1 時間。	村上
13	看護学教育の論文クリティーク③	同上。1 時間。	村上
14	看護学教育への提言①	予習：これまでの学修内容を整理して発表資料を作成する。 復習：提出レポートの整理。1 時間。	村上
15	看護学教育への提言②	予習：これまでの学修内容を整理して発表資料にまとめる。 復習：提出資料をまとめる。1 時間。	村上

成績評価方法と基準	割合
レポート評価。 ※ルーブリックを提示する。DP①②③④	100%

授業科目名	看護理論特論(看護学専攻)				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

「看護学とは何か」、「看護とは何か」を問いつつ、　国内外の論文や書籍を通し、看護理論の歴史的背景や変遷が、看護にどのように影響を及ぼしたかなどについて探求する。また、看護理論家の諸理論の源泉を明らかにし、看護理論の看護実践、研究、教育への活用を検討し考察していく。
授業方法は講義、グループワーク、プレゼンテーションとする。

到達目標

1. 看護実践の基盤となる看護理論の歴史的背景や変遷を振り返り、源泉を説明できる。(DP①②④)
2. 諸理論の看護実践、研究、教育への活用を検討し考察できる (DP①②③④)
3. The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチを用いて、あらためて「看護とは何か」について問う。　看護実践現場で遭遇する事象への活用について議論し、自己の考えを考察できる。(DP①②③④)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

履修する院生のニーズに合わせて展開する

教科書

使用しない。

参考書

ガイダンスで紹介する

研究室／オフィスアワー

伊津美研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス、授業の進め方、「看護学とは何か」、「看護とは何か」	予習：復習：「看護とは」、「看護学とは」　これまで尾看護実践も踏まえて調べる(2 時間)	伊津美孝子
2	看護理論とは何か	予習：復習：看護理論とは何か　(2 時間)	伊津美孝子
3	看護理論の意義と重要性	予習復習:看護理論の意義と重要性(2 時間)	伊津美孝子
4	看護理論の歴史的変遷と看護への影響①	予習復習:看護理論の歴史的変遷と看護への影響(2 時間)	伊津美孝子
5	看護理論の歴史的変遷と看護への影響②	予習復習:看護理論の歴史的変遷と看護への影響(2 時間)	伊津美孝子
6	看護理論の源泉①	予習復習：理論の源泉について(2 時間)	伊津美孝子
7	看護理論の源泉②	予習復習：理論の源泉について(2 時間)	伊津美孝子
8	看護理論の源泉③	予習復習：理論の源泉について(2 時間)	伊津美孝子
9	諸理論の看護実践、研究、教育への活用を検討	予習復習:諸理論の看護実践、研究、教育への活用について(2 時間)	伊津美孝子
10	「The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ (第１章～2 章)	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ p70 まで熟読(2 時間)	伊津美孝子
11	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ 第３章、４章	予習復習: The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ p97 まで熟読(2 時間)	伊津美孝子
12	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ 第５章、６章	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ p139 まで熟読(2 時間)	伊津美孝子
13	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ 第７章、８章	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ p186 まで熟読(2 時間)	伊津美孝子
14	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ 第９章 看護理論の看護実践現場で遭遇する事象への活用について	The Human Act of Caring ケアする存在としての人間」シスター・M・シモーヌ・ローチ p225 まで熟読(2 時間)	伊津美孝子
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(2 時間)	伊津美孝子

成績評価方法と基準	割合
1. ディスカッションへの参画度 2. プレゼンテーション 3. レポート評価 DP①②③④	1. 30% 2. 40% 3. 30%

授業科目名	ヒューマンケア理論特論(看護学専攻)				
主担当教員	教員未確定		担当教員	教員未確定	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

諸科学の形成過程が看護科学の形成過程と理論的に同じ過程をたどっていることを理解し、理論構築のプロセス及び看護科学の構造について学ぶ。また、看護理論史を概観し、看護科学の発展の経緯について理解を深め、看護実践の基礎となる看護理論と看護現象とのつながりを学習する。有用な理論を、自らの看護実践に適用する能力を習得し、より看護学を発展させる基礎的視点を養う。

到達目標

１．看護理論の形成過程や看護理論の定義、構成要素、種類を説明できる。
２．看護理論の歴史的変遷やその発展過程を説明できる。
３．主たる看護理論を理解するとともにその課題を考察する。
４．様々な理論的な知見を自らの活用可能性において説明できる。
５．活用可能な看護理論を批判的に考察し、看護の質の向上に役立てる能力を養う。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

理論家の生い立ちや業績について調べ、毎回、プレゼンできるようにしておいてください。自分が理解した内容を他者に伝えることを通して理論を学ぶ方法を採用します。受講生が多い場合は、わりつけも可能。中範囲理論に関する原著論文を、事前に授業までに用意しておいてください（日本語でもよいが、英語論文のほうが望ましい。決定までの相談に応じます。）

教科書

特に指定しません

参考書

木村敏『病因論研究』(講談社学術文庫) ISBN:978-4061591424
野島良子『看護科学のパラダイム転換　質的研究はいつ、なぜ登場したのか？』(へるす出版) ISBN:978-4892696725

研究室／オフィスアワー

京都大学大学院医学研究科内　wakamura.tomoko.5v@kyoto-u.ac.jp に連絡ください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	看護理論とは 本講義の目的と概要、すすめ方について説明する。	予習：看護理論について調べておく。 復習：授業の進め方について復習する。	
2	ケアとは ケアの意味を、ヒルデガルド、ハイデッガー、ヴァイツゼッカーなどのドイツ哲学の思索から概説する。	予習：ケアの意味について事前に調べておく。 復習：ケアに関しての文献を自分で読んで復習する。	
3	看護理論の歴史的考察 世界における看護理論家の誕生の時代的背景、アメリカで看護学が特に発展した理由を考察する。	予習：世界の看護理論家について調べておく。 復習：アメリカで看護学が発展した理由を自分なりに文献を読んで復習する。	
4	近代看護の創始者たちとその理論 近代看護学者の理論を、フォーセットの考えを用いて概説し、それぞれの特徴を理解する。	予習：フォーセットの理論について調べておく。 復習：フォーセットの理論を使って各理論家の特徴を文献を読んで復習する。	
5	ナイチンゲールの経歴とその足跡 ナイチンゲールの経歴とその著書から、その当時の社会背景と看護の実情を理解する。	予習：ナイチンゲールについて調べておく。 復習：ナイチンゲールに書かれている書物を読んで、その当時の実情を復習する。	
6	看護理論の臨床看護への活用 看護理論を臨床看護へ応用する意味を実際の具体的な例から理解する。	予習：臨床でどんな看護理論が使われて事前に調べておく。 復習：実際の臨床でどのように看護理論が使われるとよいのかを文献を読んで復習する。	
7	看護理論の紹介とその理論の課題①ヒューマニスティック看護論（ヘンダーソン・オレム） ヘンダーソンおよびオレムの理論を紹介し、その課題を検討する。	予習：ヘンダーソン・オレムの看護理論について調べておく。 復習：学んだことを通じて、課題は何かを文献を読んで復習する。	
8	看護理論の紹介とその理論の課題②ヒューマニスティック看護論（ワトソン・ベナー） ワトソンおよびベナーの理論を紹介し、その課題を検討する。	予習：ワトソン・ベナーの看護理論について調べておく。 復習：学んだことを通じて、課題は何かを文献を読んで復習する。	
9	看護理論の紹介とその理論の課題③対人関係論(ペプロー) ペプローの理論を紹介し、その課題を検討する。	予習：ペプローの看護理論について調べておく。 復習：学んだことを通じて、課題は何かを文献を読んで復習する。	
10	看護理論の紹介とその理論の課題④適応システムとしての人(ロイ) ロイの理論を紹介し、その課題を検討する。	予習：ロイの看護理論について調べておく。 復習：学んだことを通じて、課題は何かを文献を読んで復習する。	
11	看護理論の紹介とその理論の課題⑤エネルギーの場としての人（ロジャーズ） ロジャースの理論を紹介し、その課題を検討する。	予習：ロジャースの看護理論について調べておく。 復習：学んだことを通じて、事後に復習する。	
12	中範囲理論の紹介と看護実践への応用① 急性疼痛、体重コントロールなどの生理学的な分野を取り扱い、論文の精読を通して理解する。	予習：中範囲理論について調べておく。 復習：他の関連する論文を読んで復習する。	
13	中範囲理論の紹介と看護実践への応用② 健康信念モデル、慢性疾患のセルフケア概念などの認知的な分野を取り扱い、論文の精読を通して理解する。	予習：健康信念モデル、慢性疾患のセルフケア概念などについて調べておく。 復習：他の関連する論文を読んで復習する。	
14	中範囲理論の紹介と看護実践への応用③ 共感、グリーフ、サクセスフルエージングなどの感情的な分野を取り扱い、論文の精読を通して理解する。	予習：共感、グリーフ、サクセスエージングなどについて調べておく。 復習：他の関連する論文を読んで復習する。	
15	まとめ 新たな看護実践のためのヒューマンケア理論の構築の戦略について概説する。	予習：今まで学んだことをまとめて、理論の全体像を調べておく。 復習：ヒューマンケア理論構築について関連論文を読んで、復習する。	

成績評価方法と基準	割合
①講義参加状況 ②プレゼンテーション力 ③レポートの内容 により総合的に評価する。	①40% ②30% ③30%

授業科目名	フィジカルアセスメント(看護学専攻)（Physical Assessment）				
主担当教員	前川　佳敬		担当教員	前川　佳敬	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

対象患者の状態を判断あるいは把握し、必要とされる看護ケアへつなげるために、フィジカルアセスメントは非常に重要である。本科目では、フィジカルアセスメントの具体的な方法・技術、基礎となる人体の構造と機能に関する知識、臨床でよくみられる症状、徴候、異常所見、病態生理などを教授する。また、文献的考察などを加えることにより、疾病構造の変化や急激な少子・超高齢化など諸問題に対する問題解決能力を養う。

到達目標

１．病因・病態の解明や診断に有用なフィジカルアセスメントの理論や手法を説明できる。
２．国際的、学際的な研究の現況や展望などを説明できる。
３．国際的にも通用する自立した研究を実践できる。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する

研究室／オフィスアワー

C棟研究室８：部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	総論：フィジカルアセスメントの意味・目的	学修内容について、予習・復習をすること。	
2	基本手順（問診、視診、触診、打診、聴診）１	学修内容について、予習・復習をすること。	
3	基本手順（問診、視診、触診、打診、聴診）２	学修内容について、予習・復習をすること。	
4	症状・症候からのアセスメント１	学修内容について、予習・復習をすること。	
5	症状・症候からのアセスメント２	学修内容について、予習・復習をすること。	
6	呼吸器系１	学修内容について、予習・復習をすること。	
7	呼吸器系２	学修内容について、予習・復習をすること。	
8	循環器系１	学修内容について、予習・復習をすること。	
9	循環器系２	学修内容について、予習・復習をすること。	
10	消化器系	学修内容について、予習・復習をすること。	
11	感覚器系	学修内容について、予習・復習をすること。	
12	運動器系	学修内容について、予習・復習をすること。	
13	中枢神経系	学修内容について、予習・復習をすること。	
14	総合演習１	学修内容について、予習・復習をすること。	
15	照合演習２	学修内容について、予習・復習をすること。	

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②質疑応答時の発言内容 DP①③	①70% ②30%

授業科目名	看護管理特論(看護学専攻)				
主担当教員	住田　陽子		担当教員	住田　陽子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	水曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

看護管理に必要な基礎理論に基づき、対象者・看護者双方にとって、効果的な看護を提供する仕組みについて考察する。看護における組織、人材資源活用、マネジメント、制度・政策について、既存の研究の系譜をたどり、理論の変遷と看護の現状について理解する。また、個人のキャリア発達について、研究の動向と現代社会に即した課題について理解し、プレゼンテーションとディスカッションを通して考察を深める。

到達目標

1. 組織の概念について理解し、分析できる。〈DP①②③④〉
2. 組織における人材資源活用について、看護管理の視点から問題分析するための知識を修得できる。〈DP①②③④〉
3. 組織におけるヒト・モノ・カネについて、看護管理の視点から問題分析するための知識を修得できる。〈DP①②③④〉
4. 看護の制度・政策について、看護管理の視点から問題分析するための知識を修得できる。〈DP①②③④〉
5. キャリアの概念を理解し、看護管理の現場における活用について評価・考察できる。〈DP①②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 看護界で生きている今、このタイミングで、この教科目を履修している意味を考えながら、授業に臨むこと。
2. 看護管理の内容は経営学が基盤になっているところが多い。経営学にも関心を持ち、文献に触れること。

教科書

なし

参考書

授業の中で紹介する。

研究室／オフィスアワー

住田研究室／随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 看護管理概観	予習：本科目を選択した理由をまとめておく。 復習：看護管理の概念を整理しておく。	住田陽子
2	組織心理、組織行動について	予習：組織における問題を想起し、整理しておく。 復習：予習で挙げた問題を分析する。	住田陽子
3	組織心理・組織行動について	予習：組織における問題を想起し、整理しておく。 復習：予習で挙げた問題を分析する。	住田陽子
4	【プレゼンテーション】組織心理・組織行動にまつわる概念について	予習：プレゼンテーションの準備。(3 時間) 復習：ディスカッションから生まれた疑問について探求する。	住田陽子
5	人材資源活用	予習：組織における人材資源活用について問題を想起し、整理しておく。 復習：予習で挙げた問題を分析する。	住田陽子
6	【プレゼンテーション】人材資源活用について	予習：プレゼンテーションの準備。(3 時間) 復習：ディスカッションから生まれた疑問について探求する。	住田陽子
7	マネジメント：ヒト・モノ・カネ	予習：組織におけるヒト・モノ・カネについて問題を想起し、整理しておく。 復習：予習で挙げた問題を分析する。	住田陽子
8	【プレゼンテーション】マネジメントにまつわる概念について	予習：プレゼンテーションの準備。(3 時間) 復習：ディスカッションから生まれた疑問について探求する。	住田陽子
9	看護の制度・政策について	予習:看護の制度・政策について問題を想起し、整理しておく。 復習：予習で挙げた問題を分析する。	住田陽子
10	看護の制度・政策について	予習:看護の制度・政策について問題を想起し、整理しておく。 復習：予習で挙げた問題を分析する。	住田陽子
11	【プレゼンテーション】看護の制度・政策について	予習：プレゼンテーションの準備。(3 時間) 復習：ディスカッションから生まれた疑問について探求する。	住田陽子
12	キャリアの概念	予習：自身の看護教育機関入学からこれまでの仕事生活について、“見える化”しておく。 復習：自身のライフサイクルとキャリアサイクルを整理する。	住田陽子
13	個人のキャリア発達についての研究の動向	予習：自身のキャリア発達について、意見をまとめる。 復習：授業をふまえ、予習の内容を添削する。	住田陽子
14	【プレゼンテーション】キャリアにまつわる概念について	予習：プレゼンテーションの準備。(3 時間) 復習：ディスカッションから生まれた疑問について探求する。	住田陽子
15	キャリア･アンカー	予習：「キャリア・アンカー」とは何か、調べておく。 復習：自身のキャリア・アンカーをふまえ、今後の自身のキャリア発達について考察する。 ※最終提出する課題レポート作成：15 時間	住田陽子

成績評価方法と基準	割合
①最終講義から１週間以内に、以下のレポートを提出する。〈DP①②④〉 ・自身のキャリア発達について、文献を活用しながら、ライフサイクルとキャリアサイクルの両面から考察を述べる。 ・テーマは自由に設定する。 ・A4 版２枚、余白：上下左右 20㎜、フォント：10.5、テーマ・学籍番号・学生名を明記する。 ・参考文献・引用文献についても明記する。 ②プレゼンテーションとその内容〈DP③④〉	①50% ②50%

授業科目名	看護技術特論(看護学専攻)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

本科目では看護技術をあらゆる看護実践に不可欠な行為として位置づけ、多方面から洞察する。。すなわち、看護技術の目的、対象、技術の内容、その特性、対象との関係形成等の側面である。
また、Evidence based nursing の重要性は看護職一般に認識されているが、evidence　が十分でない技術は少なくない。そこで evidence を明確化することの意味内容を問い、専門職としての技術を考察し新たな技術の創生について考えさせる。
一方、看護技術に対する考え方は時代とともに変遷してきたため、それらのプロセスを文献的に理解し、最終的には自己の「看護技術」観をまとめることができるように教授する。

到達目標

1. 看護技術とは？の問いに、価値観を伴った見解をもって答えることができる。
2. 看護技術の目的、対象、技術の内容や特性について説明することができる。
3. 看護技術の構成要素について説明することができる。
4. Evidence based nursing について説明することができる。
5. 看護技術（看護師の行為）のあるべき姿を描くことができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

「看護技術」はだれもが深く考えないで使っている言葉だと思いますが、原点に戻って考え直してみて下さい。
専門職が実践する「看護技術」とはどういったものであろうか？非専門職のものとどこが違うのか・違わないのか？
真正の「看護技術」はクライエントにとってどのような影響があるか？
これまでに実践した看護技術を思い出しながら考えて下さい。

教科書

授業中に紹介する。

参考書

授業中に紹介する。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に提示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 「看護技術」に関する free talking	予習：看護技術について自己の考えをまとめる。 復習：free talking したことをまとめる。2 時間。	村上
2	文献検索①「看護技術」の概念について文献を検索し、クリティークする。	予習：文献検索。 復習：クリティークした内容をまとめる。2 時間。	村上
3	文献検索②さらに収集した文献をクリティークする。	予習：文献検索。 復習：クリティークの内容をまとめる。2 時間。	村上
4	文献検索③検索を重ねた文献をクリティークする。	予習：文献検索。 復習：クリティーク内容をまとめる。2 時間。	村上
5	文献のクリティーク内容を発表し、ディスカッション後、結論を導く。	予習：発表準備 復習：発表のまとめ。12 時間。	村上
6	「看護技術」の種類を理解する。	予習：看護技術にはどのようなものがあるか、まとめる。 復習：講義やディスカッション内容をまとめる。2 時間。	村上
7	「看護技術」の種類の過不足を討議する。「看護教育の卒業時の技術到達度」等を参考にしてみる。	予習：技術到達度を参考に過不足を考える。 復習：講義・ディスカッション内容をもとにまとめる。 5 時間。	村上
8	「看護技術」の特性について、ケアを受ける対象との関係をもとに考える。	予習：看護技術を提供される対象の特性についてまとめる。 復習：講義、ディスカッションをまとめる。2 時間。	村上
9	技術を提供する看護師とケアを受ける対象との関係について理解する。	予習：二者関係（患者と看護師）について考えをまとめる。 復習：講義やディスカッションをまとめる。文献で確認する。3 時間。	村上
10	看護実践における evidence　について理解する。	予習：Evidence の意味を深く考えまとめる。 復習：講義やディスカッションを具体的なケースで考えまとめる。4 時間。	村上
11	看護実践における Evidence　の要件を理解し、Evidence の重要性を考える。	予習：EBN の要件を考えまとめる。 復習：Evidence　がない看護技術はどういったものか・なぜか考える。3 時間。	村上
12	現代看護実践の現状を認識する。	予習：看護実践現場の看護技術について考えをまとめる。 復習：現状の実際を整理、分析する。3 時間。	村上
13	看護実践の目標（看護技術を視野に入れたもの）を探す。	予習：現状をより良くするための方策を多様な視点から考えてみる。 復習：講義・ディスカッションをまとめる。文献検索とクリティーク。3 時間。	村上
14	より良い看護実践のための方策を理解する。	予習：看護実践をより良くするための方策を考えまとめる。（原因分析を通して） 復習：講義やディスカッション内容をまとめる。3 時間。	村上
15	最終プレゼンテーション。	予習：これまでの情報をまとめてレジュメを作成する。 復習：最終的な自己評価とレポート作成。12 時間。	村上

成績評価方法と基準	割合
1. レポート「看護技術の本質と看護実践における問題点」 ※ルーブリックで評価する。 2. プレゼンテーション　DP①②③④	1.　70% 2. 30%

授業科目名	成人看護支援特論(看護学専攻)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子、久木元　由紀子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜２限 水曜３限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

急激な健康状態の変化や侵襲的治療によって身体・心理・社会的危機状況にある患者、疾病や障がいを持ちながら生活している患者に対する看護ケアを、科学的、専門的視点から探究することを目的とする。成人期にある対象の特徴と疾病罹患をふまえて、看護に必要な諸理論、援助方法等について教授し、看護実践において的確な判断力と実践力を養うための知識と技術、看護ケアのエビデンス等について追究させることを目的とする。さらに病院から地域・在宅への移行に向けての支援と課題について言及する。

（ 吉村　弥須子／８回）

ライフサイクルにおける成人期の発達課題と健康問題の特徴をふまえた看護実践方法について探究する。がん、生活習慣病、ストレスなど、成人期の人が抱えるさまざまな健康問題や健康状態の急激な変化や侵襲的治療を受ける対象に対し、エビデンスに基づく看護（EBN：Evidence Based Nursing）実践のために必要な諸理論、援助方法等について探究することを目的とする。

（ 久木元　由紀子／７回）

急激な健康状態の変化や侵襲的治療によって身体・心理・社会的危機状況にある患者に対する看護実践能力を高めるために、クリティカルシンキング、コミュニケーション、看護ケアカ、多職種連携、倫理の視点から探究することを目的とする。

到達目標

1.成人期の健康問題の特徴と看護実践に必要な諸理論について説明できる。〈DP①③④〉
2.看護実践に必要なEBNに関する文献レビューができる。〈DP①③④〉
3.諸理論の看護実践、研究への活用について考察できる。〈DP①②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1.授業は講義、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせて行う。
2.プレゼンテーションのための資料を事前に準備する。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

334研究室（吉村）　随時,　239研究室(久木元)　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	現代社会における成人期の健康問題	事前に学習してくる　2時間	吉村弥須子
2	成人期の健康問題に関する侵襲的治療と看護	生活習慣病、がんに関する侵襲的治療に関する文献検討　2時間	吉村弥須子
3	ストレス理論とストレス・コーピング理論の看護への活用	ストレス理論、ストレス・コーピング理論に関する文献検討　2時間	吉村弥須子
4	危機理論を活用した看護実践	危機理論に関する文献検討　2時間	吉村弥須子
5	がん患者の意思決定支援	がん患者の意思決定支援に関する文献検討　2時間	吉村弥須子
6	成人教育理論を活用した看護実践	成人教育理論に関する文献検討　2時間	吉村弥須子
7	EBNを実践するために必要なシステマティックレビューについて学ぶ	文献検索を行ってシステマティックレビューを1件探し、読んでおく（2時間）。	久木元由紀子
8	クリティカルシンキング	クリティカルシンキングに関連した文献を検索し、読んでおく(2時間)。	久木元由紀子
9	コミュニケーション・共感力	コミュニケーション・共感力に関連した文献を検索し、読んでおく(2時間)。	久木元由紀子
10	情動知能と看護ケアカ	情動知能と看護に関連した文献を検索し、読んでおく(2時間)。	久木元由紀子
11	異文化理解と看護	異文化と看護に関連した文献を検索し、読んでおく(2時間)。	久木元由紀子
12	急性期のおける倫理と看護	倫理と看護に関連した文献を検索し、読んでおく(2時間)。	久木元由紀子
13	急性期における終末期ケア	急性期の終末期看護に関連した文献を検索し、読んでおく(2時間)。	久木元由紀子
14	成人看護における看護実践に必要なEBNに関する文献レビュー	事前に学習しプレゼンテーションをする。　2時間	吉村弥須子
15	諸理論の看護実践、研究への活用	自身の考えをまとめプレゼンテーションをする。　2時間	吉村弥須子

成績評価方法と基準	割合
・プレゼンテーション、ディスカッション40% ・レポート60% 〈DP①②③④〉	・40% ・60%

授業科目名	療養支援看護学特論Ⅰ(在宅･老年)(看護学専攻)				
主担当教員	清水　容子		担当教員	清水　容子、外村　昌子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	金曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

在宅ケアにかかわる諸制度、関係他職種との連携など、在宅ケアシステム全体を視野におき、健康障害を持ちながら、地域で生活する人々とその家族の支援について、看護に必要な諸理論、援助方法について教授する。また、現在の在宅看護の背景を概観し、看護を含む在宅ケアについての現代社会における問題・課題を明らかにし、近未来社会に求められている看護を展開するために必要な方策を探求する。更なる高齢化社会の進展を見据え、高齢期の発達課題、加齢による身体的・心理的・社会的側面の変化を理解するための理論を修得させ、保健医療福祉制度、高齢者の日常生活への影響、家族看護や倫理的課題などの理解を深めさせる。また、高齢者を取り囲む社会の仕組みの変遷から高齢者の生きがい管、死生観や詩を取り巻く制度を概観し、今後の課題や求められる老年看護の専門性を探求する。

到達目標

１．地域包括ケアシステムや在宅療養者やその家族を支援する制度を理解し、今後の課題を明確にする。①②③④
２．在宅療養者を含む地域で暮らす人々の健康維持（増進）に向けての支援のありかたについて考察する。①②
３．高齢期の発達課題、加齢による身体的・心理的・社会的側面の変化を理解し、課題を明確化する。①②③④
４．家族看護や倫理的課題などの理解し、高齢者の死生観や社会福祉制度を概観し、今後の課題を考察する。①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

在宅・老年看護に関連する社会の諸問題について関心をもち、対象となる高齢者や家族の健康問題について自分なりに整理しておいてください。

教科書

特に使用しません

参考書

講義時に適宜紹介します。

研究室／オフィスアワー

講義の初回に連絡します。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	地域包括ケアと在宅ケア	地域包括ケアシステムについて説明出来るよう資料等を熟読する 自修時間４時間	清水
2	在宅ケアを支える制度と社会資源	在宅ケアにかかわる諸制度、関係機関職種について資料等を熟読し、現在社会における問題点を考えてくる 自修時間４時間	清水
3	在宅看護の歴史と現状	在宅看護が重要となってきた社会背景について説明できるように準備する 自修時間４時間	清水
4	在宅療養者とその家族を支える諸理論１	危機理論、家族看護における諸理論を概観し、臨地において適応させるうえの自身の疑問点を明確にする 自修時間４時間	清水
5	在宅療養者とその家族を支える諸理論２	危機理論、家族看護における諸理論を概観し、臨地において適応させるうえの自身の疑問点を明確にする 自修時間４時間	清水
6	在宅療養者とその家族の現状と問題	社会全体における在宅療養者とその家族の現状と問題についての資料を準備し、熟読する。 自修時間４時間	清水
7	在宅療養者とその家族の現状と問題	自身が抱えている対象についての問題状況を明確にする 自修時間４時間	清水
8	難病患者を支援する制度と現状１	難病患者を支援する制度と現状についての資料を熟読し、現在・未来を見据えての課題を明らかにする 自修時間４時間	清水
9	難病患者を支援する制度と現状２	難病患者を支援する制度と現状についての資料を熟読し、現在・未来を見据えての課題を明らかにする 自修時間４時間	清水
10	高齢者の発達課題と加齢による身体的・心理的・社会的側面の変化	予習：高齢者の発達段階・課題における理論を学習しておく　2.0時間 復習：老年看護における看護理論をまとめる　2.0時間	外村
11	高齢者の生活評価と活用できる看護理論	予習：高齢者の健康障害を評価する尺度・看護理論について学習しておく　2.0時間 復習：評価尺度・理論について自身の考察をまとめる　2.0時間	外村
12	高齢者の健康障害の予防と理論	予習：現在の社会における高齢者の健康問題の課題をまとめておく。　2.0時間 復習：健康問題の予防策について考察しまとめる 2.0時間	外村
13	高齢者のエンパワーメントと権利擁護	予習：高齢者の権利擁護について学習しておく　2.0時間 復習：高齢者のエンパワーメントについて事例をあげまとめる　2.0時間	外村
14	高齢者施設のおける看護援助とその課題	予習：高齢者施設の種類別の機能・役割を学習しておく　2.0時間 復習：高齢者施設ケアにおける看護の役割をまとめる　2.0時間	外村
15	高齢者のエンドオブライフケア	予習：高齢者における終末期のあり方について考えてくる　2.0時間 復習：高齢者のエンドオブライフケアについて、自身の考えをまとめる　2.0時間	外村

成績評価方法と基準	割合
1.プレゼンテーション・ディスカッション〈①②③④〉 2.レポート（①） 3.出席は2/3以上となる。	1.60% 2.40%

授業科目名	療養支援看護学特論Ⅱ(精神)(看護学専攻)				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜１限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

精神看護学では、あらゆる発達段階のメンタルヘルスが課題となるが、本科目では青年期特に境界性パーソナリティ障害患者やその家族に焦点を当てる。精神看護学では対象理解の視点がとりわけ重要であり、対象の立場に立ちながら患者や家族の生活過程を深く検討し全体像を捉えさせる。加えて、看護者が自己をどのようにとらえているか、また、患者と看護師の相互理解が有効に機能することによって患者がもてる力を発揮しリカバリーしていくことを認識しながら、そのために必要な看護理論と実践方法について教授する。さらに、精神障がい者を取り巻く社会・文化的環境の調整等についても文献等で理解させる。

到達目標

1. 思春期青年期にメンタルの問題を抱える対象の課題と社会支援について理解を深める＜DP①②③＞
2. 境界性パーソナリティ障害患者の抱える問題と社会支援について理解を深める＜DP①③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・講義の内容に関することについて、日々の生活から問いと疑問を持つこと

教科書

指定なし
必要時プリントを配布する

参考書

・薄井坦子:科学的看護論　日本看護協会出版会
・薄井坦子：看護学原論講義　現代社
・岡田尊司：パーソナリティ障害がわかる本

研究室／オフィスアワー

331 研究室　蓮池　適宜相談に応じる

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	科学的看護論を用いて看護の理解と看護の対象の理解を深める	復習 科学的看護論を読む 課題 科学的看護論を読み、「看護理解」「対象理解」についてレポートを行う ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
2	精神疾患を持つ対象の理解を深める	課題 「精神疾患患者の生きにくさと社会生活について」レポートを行う ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
3	科学的看護論の精神看護学領域への適用を考える	課題 「看護とは」「人間とは」「生活とは」「健康とは」について概念規定を行う ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
4	思春期青年期のメンタルヘルスについて考える	課題 思春期青年期におけるメンタルヘルスについての自己理解をまとめる 思春期青年期のメンタルヘルスに関する文献検索を行う ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
5	思春期青年期のメンタルヘルスへの社会資源について考える	課題 思春期青年期のメンタルヘルスへの社会支資源についての文献を検索する ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
6	境界性パーソナリティ障害についての理解を深める(1)	課題 境界性パーソナリティ障害に関する文献を検索する ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
7	境界性パーソナリティ障害についての理解を深める(2)	課題 境界性パーソナリティ障害に関する文献を検索する ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
8	境界性パーソナリティ障害についての理解を深める(3)	課題 境界性パーソナリティ障害に関する海外の文献を検索する ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
9	境界性パーソナリティ障害患者への支援について考える(1)	課題 境界性パーソナリティ障害に関する海外の文献を検索する ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
10	境界性パーソナリティ障害患者への支援について考える(2)	課題 境界性パーソナリティ障害に関する文献を検索まとめる ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
11	思春期青年期のメンタルに及ぼす社会的問題を考える(1)	課題 思春期青年期のメンタルに影響を及ぼす社会的問題についての文献を検索する ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
12	思春期青年期のメンタルに及ぼす社会的問題を考える(2)	課題 思春期青年期のメンタルに及ぼす社会的問題についてまとめる ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
13	思春期青年期のメンタルに問題を抱える対象の社会支援枠組みについて検討する(1)	課題 思春期青年期のメンタルに問題を抱える対象の社会支援枠組みについてまとめる ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
14	思春期青年期のメンタルに問題を抱える対象の社会支援枠組みについて検討する(2)	課題 思春期青年期のメンタルに問題を抱える対象の社会支援枠組みについてまとめる ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池
15	思春期青年期のメンタルに問題を抱える対象の社会支援枠組みについて検討する(3)	課題 思春期青年期のメンタルに問題を抱える対象の社会支援枠組みについてまとめる ・復習課題各 2 時間は行うこと	蓮池

成績評価方法と基準	割合
①プレゼンテーション＜DP①②④＞ ②レポート＜DP①③④＞	①40% ②60%

授業科目名	看護ケア特論(看護学専攻)				
主担当教員	久木元　由紀子		担当教員	久木元　由紀子、森　美侑紀	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	金曜 2 限 金曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

看護ケアの原点とも言える「触れるケア」に着目し、「触れる」から波及する身体や心の現象を科学的に捉え理解を深める。「触れる」という行為は、看護における多くの援助場面で用いられているが、十分な evidence の証明はなされていない。本科目では、触覚メカニズムに基づく皮膚や脳などの生理的現象の理解を深める。また、ケアリングやコンフォート理論などの看護理論を用い、看護ケアとしての「触れるケア」を科学的に検証し、理論に基づいた的確な判断力と実践力を身に着けることを目的とする。それらを元に、対象となる疾患や症状、性質、触れる部位、手技の圧や速度、香りの有無など様々な視点から「触れるケア」を考える。

久木元由紀子　９回
看護ケアとして「触れる」という現象をケアリング、コンフォート理論を用い理解すると共に、「触れるケア」のエビデンスを紹介し、実践に繋げる。また、その実践例として、オンコロジータッチケアを紹介する。

森美侑紀 ６回
「触れる」という行為に基づく生理的現象を科学的に理解させることを目的とする。さらに「触れる」という物理的刺激に「アロマセラピー」という化学的刺激を加えることによりおこりうる心と身体の変化について教授する。

到達目標

1. 「触れる」行為がもたらす現象について説明できる。〈DP①③④〉
2. 看護における触れるケアについて文献レビューができる。〈DP①③④〉
3. オンコロジータッチケアについて説明することができ、その実践方法を学ぶことができる。〈DP①②③④〉
4. 補完代替医療の中でのアロマセラピーの役割を理解する。〈DP①③④〉
5. 看護におけるアロマセラピーの役割を理解し、安全かつ的確な実践方法を学ぶ。〈DP①②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

授業に参加するにあたり、自主的に授業内容に関連した研究論文など事前学習を行う。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

久木元・森　西棟２３９　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	授業ガイダンス 「触れる」とは	触れるに関する文献を検索し、読んでくる（２時間）。	久木元
2	アロマセラピーの概要	アロマセラピーの実際について書籍やネットで調べる。予習復習を各１時間行うこと。	森
3	精油の化学成分と禁忌	植物精油について書籍やネットで調べる。予習復習を各１時間行うこと。	森
4	植物精油の基礎知識	植物精油について書籍やネットで調べる。予習復習を各１時間行うこと。	森
5	看護領域でのアロマセラピーの役割その１	看護領域でのアロマセラピーの使用方法や役割について書籍やネットで調べる。予習復習を各１時間行うこと。	森
6	看護領域でのアロマセラピーの役割その２	看護領域でのアロマセラピーの使用方法や役割について書籍やネットで調べる。予習復習を各１時間行うこと。	森
7	看護領域でのアロマセラピーの役割その３	看護領域でのアロマセラピーの使用方法や役割について書籍やネットで調べる。予習復習を各１時間行うこと。	森
8	触れることによって生理的現象のメカニズムを考える	触れることによっておこる皮膚や脳の生理的現象のメカニズムについての研究論文を読んでくる（２時間）。	久木元
9	看護における触れるとは	看護における触れる研究論文を読んでくる（２時間）。	久木元
10	看護における「触れる」をケアリング理論で考える	看護における「触れる」とケアリング理論について、文献を読んでくる（２時間）。	久木元
11	看護における「触れる」をコンフォート理論で考える	看護における「触れる」とコンフォート理論について、文献を読んでくる（２時間）。	久木元
12	オンコロジータッチケアについて①	オンコロジータッチケアの配布資料を読んでくる（２時間）。	久木元
13	オンコロジータッチケアについて②	オンコロジータッチケアの配布資料を読んでくる（２時間）。	久木元
14	オンコロジータッチケアについて③	オンコロジータッチケアの配布資料を読んでくる（２時間）。	久木元
15	オンコロジータッチケアについて④	オンコロジータッチケアの配布資料を読んでくる（２時間）。	久木元

成績評価方法と基準	割合
レポート①②	①４０％ ②６０％

授業科目名	育成看護学特論(看護学専攻)				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、齋藤　雅子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

育成看護学では、受精から死に至るまでの個人的発達について理解し支援することを目的とする。
ライフサイクルおいて、親、次世代、思春期、高齢者の立場から、発達と健康課題に対する理解を深め、個から家族そして社会
の抱える健康課題に対する有用な支援について考察する。
各発達段階におけるリプロダクティブヘルス＆ライツの課題を学び、支援方法について理解する。

到達目標

人間の生物学的発達について学び、各ライフサイクルの発達課題と看護支援について理解する。リプロダクティブヘルス＆ライツの社会的背景を学び、その重要性を理解する。(Dp1,2,3,4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

母性看護学を復習し、基礎知識を理解したうえで講義に臨んでください。各講義において、ディベート・プレゼンテーションの課題を出します。主体的に講義に臨んでください。

教科書

（中西）（橋本）書籍、論文、関連資料を適宜示し、配布する。

参考書

随時紹介する。

研究室／オフィスアワー

各教員と随時相談のこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	女性の身体の仕組みとホルモンの働きを理解する。	母性看護学を復習してくること、適宜説明を求めます。	中西
2	胎児の発育と看護支援	講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題提示しますので準備してくること。	中西
3	乳児の発育と看護支援	講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題提示しますので準備してくること。	中西
4	学童期の発育と看護支援	講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題提示しますので準備してくること。	中西
5	発達の理論と発達の評価について	講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題提示しますので準備してくること。	中西
6	発達の評価方法について	講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題提示しますので準備してくること。	中西
7	女性の健康課題と看護支援	講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題提示しますので準備してくること。	中西
8	女性の健康課題と看護支援	講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題提示しますので準備してくること。	中西
9	ウエメンズヘルスと次世代育成	随時相談しながら示す。(予習復習課題 4h)	橋本
10	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	随時相談しながら示す。(予習復習課題 4h)	橋本
11	思春期の発達と課題	随時相談しながら示す。(予習復習課題 4h)	橋本
12	思春期とセクシャリティーセクシャルマイノリティ	随時相談しながら示す。(予習復習課題 4h)	橋本
13	思春期セクシャリティ教育の現状と動向	随時相談しながら示す。(予習復習課題 4h)	橋本
14	思春期セクシャリティ教育の実践と支援	随時相談しながら示す。(予習復習課題 4h)	橋本
15	思春期セクシャリティ教育の実践と支援	随時相談しながら示す。(予習復習課題 4h)	橋本

成績評価方法と基準	割合
①プレゼンテーション ②レポート（期限厳守） ③態度（ディベート等発言・予習） ④出席 4/5 以上　DP①②③④	①40% ②40% ③20%

授業科目名	家族看護学特論(看護学専攻)				
主担当教員	白井　文恵		担当教員	白井　文恵、齋藤　雅子	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	火曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

家族は看護が対象とする社会の最小単位である。現代社会における家族を取り巻く地域社会や保健医療福祉制度の変化は著しく、家族の多様化や個人化が進んでいる。また、標準（モデル）家族の崩壊や格差など問題も多く、家族支援に関わる者の役割は大きい。家族機能と家族のセルフケア機能、基盤となる理論、制度と家族ケアの変遷、家族看護アセスメントモデルの概要、関連する研究の動向などを教授し、様々なライフサイクルにおける家族の発達課題と健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護介入を探求していく。

到達目標

1.現代社会における家族と地域、保健福祉制度の変化を見直し、理解することができる。(DP1,2,3,4)
2.家族機能とセルフケア機能、基盤となる理論、アセスメントモデルについて深めることができる。(DP1,3,4)
3.家族の再構築過程で生じる家族病理（DV,虐待など）について深めることができる。(DP1,3,4)
4.家族機能の回復と支援について、施策・研究・実践例を探求し、予防的看護介入を考えることができる。(DP1,3,4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

好奇心と探究心を持ち主体的に臨むこと
講義におけるディベート・プレゼンテーション・課題など適宜示すので取り組むこと

教科書

（大巻）
1. ハンセン病家族たちの物語：黒坂愛衣、 世織書房
2. 家族がハンセン病だった：ハンセン病家族訴訟弁護団（編集）、六花出版
（橋本）
書籍、論文、関連資料などを適宜示し、配布する。

参考書

随時紹介する。

研究室／オフィスアワー

各教員と随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	家族構造と家族機能	家族看護の対象理解について臨床等の経験から考察する。 予習復習各 2 時間	大巻
2	現代社会の家族と課題	新聞など報道資料や文献を調べる。 予習復習各 2 時間	大巻
3	家族を理解するための理論と介入方法（1）	自己の臨床経験から家族介入を考察し、討議できるよう準備する。 予習復習各 2 時間	大巻
4	家族を理解するための理論と介入方法（2）	自己の臨床経験から家族介入を考察し、討議できるよう準備する。 予習復習各 2 時間	大巻
5	家族看護展開の実践（1）	自己の臨床経験から事例検討できるよう先行研究の文献を調べる。 予習復習各 2 時間	大巻
6	家族看護展開の実践（2）	自己の臨床経験から事例検討できるよう先行研究の文献を調べ資料を準備する。 予習復習各 2 時間	大巻
7	ハンセン病強制隔離政策における家族（1）	教科書指定した文献を読み考察する。 予習復習各 2 時間	大巻
8	ハンセン病強制隔離政策における家族（2）	教科書指定した文献を読み考察する。 予習復習各 2 時間	大巻
9	マタニティサイクルにおける家族発達と危機	予習：既習や臨床で経験したマタニティサイクルにおける発達と近年の傾向についてまとめておく。 復習：本日の学び（4h）	橋本
10	マタニティサイクルにおける家族発達と危機	予習：既習や臨床で経験したマタニティサイクルにおける家族の危機についてまとめておく。 復習：本日の学び（4h）	橋本
11	マタニティサイクルにおける家族の再構築過程	予習・復習：随時相談しながら示す。(4h)	橋本
12	家族の再構築から生じる危機－Domestic Violence	予習：復習：随時相談しながら示す。(4h)	橋本
13	家族の再構築から生じる危機－Child Abuse	予習・復習：随時相談しながら示す。(4h)	橋本
14	家族機能の回復と支援	予習・復習：随時相談しながら示す。(4h)	橋本
15	家族機能の回復と支援	予習・復習：随時相談しながら示す。(4h)	橋本

成績評価方法と基準	割合
①レポート(DP1,2,3,4) ②授業での討論・発表内容(DP1,2,3,4)	①70% ②30%

授業科目名	公衆衛生看護学特論(看護学専攻)				
主担当教員	白井　文恵		担当教員	白井　文恵	
科目ナンバリング		科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜２限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

公衆衛生看護は、地域で生活する個人や家族、地域全体の健康レベルと生活の質を向上させることを目的に看護援助の在り方を探求する領域である。本科目では、現代社会における個人・家族を取り巻く諸問題、社会との関連性について教育的かつ専門的援助力を探求する。また、先駆的公衆衛生看護活動事例や文献の分析を通して、個々の生活および健康問題を解決する思考力を身に着けることを目的とする。

到達目標

1.　現代社会における健康格差・社会格差について現状を把握し、健康課題について説明することができる。①②③
2.　プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション・ノーマライゼーション等の理念の基づき健康課題の解決に向け文献検索を行い検討することができる。①②③
3.　地域における健康課題を解決する支援について社会環境を含めた幅広い観点からプレゼンテーションを行うことができる。①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. 授業は講義・ディスカッション・プレゼンテーションを組み合わせ行う。
2. プレゼンテーションの資料は事前に準備する。
3. 社会情勢を常に把握しておくこと。

教科書

・必要時資料を配布
・健康行動理論による研究と実践　：一般社団法人　日本健康教育学会（編集)、医学書院

参考書

実践ヘルスプロモーション―PRECEDE－PROCEEDモデルによる企画と評価　：ローレンス・W・グリーン、神場征峰（訳)、医学書院

研究室／オフィスアワー

随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	現代社会における健康格差・社会格差に関する現状と課題	文献、新聞、報道などから現代社会における現状について明らかにする。 予習復習各２時間	大巻
2	現代社会における健康格差・社会格差に関する現状と課題に関する検討	情報の整理を行い、健康格差・社会格差に関する文献検索を行う。 予習復習各２時間	大巻
3	母子保健にかかわる問題に関する現状と課題 （1）リスク要因を持つ家族	リスク要因に関する支援の文献検索を行う。 予習復習各２時間	大巻
4	母子保健にかかわる問題に関する現状と課題 (2)　育児不安・虐待が発生する状況	地域における取組（行政）事例を検索する。予習復習各２時間	大巻
5	母子保健にかかわる問題に関する現状と課題 (3) 虐待事例に関する支援	虐待事例に関する報告書・裁判記録など入手可能な情報を収集する。予習復習各２時間	大巻
6	子どもの貧困と健康課題	子どもの貧困が健康に及ぼす影響について文献検索する。予習復習各２時間	大巻
7	社会経済的要因が子どもにもたらす影響ー食生活・口腔格差ー	食生活や口腔に関して学校保健の課題から考察する。予習復習各２時間	大巻
8	現代社会における母子保健を取り巻く健康格差・社会格差	3～7の授業を踏まえ論点を整理し、支援の在り方について討議できるよう準備し、地域での保健師の役割について考察する。予習復習各２時間	大巻
9	高齢者保健にかかわる問題に関する現状と課題	高齢者にかかわる統計について調べる。 予習復習各２時間	大巻
10	高齢者保健にかかわる問題に関する現状と課題 （2）虚弱・要支援高齢者の介護予防と生活支援	高齢者のとじこもり、セルフネグレクトについて文献検索を行う。予習復習各２時間	大巻
11	高齢者保健にかかわる問題に関する現状と課題 （3）高齢者虐待と人権	高齢者虐待について文献検索を行う。予習復習各２時間	大巻
12	高齢者保健にかかわる問題に関する現状と課題 （4）セルフネグレクトの課題と支援	セルフネグレクトに関する行政の取り組みについて検索する。予習復習各２時間	大巻
13	高齢化する「ひきこもり」の現状と課題	ひきこもりにおける 8050 問題と保健師に求められる支援を考察する。予習復習各２時間	大巻
14	高齢者を取り巻く健康格差・社会格差の課題	9～13 の授業を踏まえ論点を整理し、高齢者支援の在り方について討議できるよう準備し、地域での保健師の役割について考察する。予習復習各２時間	大巻
15	母子・高齢者にかかわらず健康格差・社会格差についての論点整理と保健師の役割	健康格差・社会格差について 1～14 の授業を踏まえ、保健師としての支援を考え、討議する。 予習復習各２時間	大巻

成績評価方法と基準	割合
(DP①②③) ・プレゼンテーション・ディスカッション ・レポート	・40% ・60%

授業科目名	専門演習(看護学専攻：村上）（Specialized Practice）				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

本科目は、各自が特別研究で取り組もうとしている領域のスキルを原理原則に基づいて獲得することにある。看護研究は大別すると量的研究と質的研究に分類することができるが、今日ではこれらを統合したデザインへの取組も多い。また研究目的によっては対象・手段も多様であるので自身のリサーチ・クエッションが何かを明確にしておく必要がある。そのうえでそれを可能にするスキルを体得しなければならない。
前半は特別研究で用いる研究手法、特に看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証に関する論文や資料をクリティークし、教員と討論しながら具体的な研究手法を体得させる。後半は、病院において看護の臨床現場を観察させ、現行の看護技術における問題点を抽出させる。抽出した問題点の背景、根本原因、解決策などの分析を行うことにより、改善策および検証方法を考案させる。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自身が取り組もうとしている研究テーマ周辺の事柄について、話題提供し討論できるように心がけてほしい。また研究のための研究にならないように、看護実践現場との関連を重要視してほしい。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

単行本・論文・資料等を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証などからのテーマの絞り込み	都度指示する	
2	看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証などからのテーマの絞り込み		
3	自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティーク		
4	自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティーク		
5	自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティーク		
6	データの収集方法ならびに解析の方法について近似した領域の看護学系文献を探し出して抽出する		
7	データの収集方法ならびに解析の方法について近似した領域の看護学系文献を探し出して抽出する		
8	臨床現場観察（１）		
9	臨床現場観察（２）		
10	臨床現場観察（３）		
11	臨床現場観察（４）		
12	臨床現場観察（５）		
13	臨床現場観察（６）		
14	臨床現場観察（７）		
15	前半と後半の内容を総合して、具体的な看護コミュニケーションあるいは看護技術開発のための方策と検証方法を立案		

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②討論時の発言内容 DP①②③④	①70% ②30%

授業科目名	専門演習(看護学専攻:吉村)（Specialized Practice）				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

学生の専攻する主たる看護学の領域において、実践力や研究力、教育力を修得させるための演習を行う。対象者の看護実践に焦点をあて、看護実践に必要となる研究論文の検索・クリティークについて教授する。自身が行う研究手法の一連の過程を、演習を通して体験させる。

　急激な健康状態の変化や侵襲的治療など急性期にある患者、疾病や障がいを持ちながら生活している患者に対する看護実践に焦点をあて、看護実践に必要となる研究論文の検索・クリティークを実施する。自身が行う研究手法の一連の過程を演習を通して体験させ、特別研究Ⅰ・Ⅱにつなげる。

到達目標

1.自身の専門領域における看護実践に必要な研究論文を検索・収集することができる。〈DP①④〉
2.論文のクリティークを行うことができる。〈DP①④〉
3.自身が行う研究手法に関する基礎的知識について述べることができる。〈DP①③④〉
4.自身が行う研究手法についてデータ収集、分析が実施できる。〈DP①②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・論文・資料のクリティークと討論、プレゼンテーション等を行う。
・データ収集・分析作業は主体的に行う。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	研究の概要・方法論	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
2	研究論文の検索	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
3	研究論文の検索	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
4	研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
5	研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
6	研究計画書の作成	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
7	研究計画書の作成	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
8	インタビュー調査の方法	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
9	参加観察の方法	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
10	アンケート調査の方法	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
11	データ収集	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
12	データ収集	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
13	データの分析	学修内容について、予習をして理解すること。	
		1時間	
14	データの分析	学修内容について、予習をして理解すること。1時間	
15	演習の一連の過程の評価	事前に演習の一連の過程に関する評価をする。1時間	

成績評価方法と基準	割合
・プレゼンテーション・ディスカッション　40% ・レポート　60% 〈DP①②③④〉	40% 60%

授業科目名	専門演習(看護学専攻:森)（Specialized Practice）				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜４限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

学生の専攻する主たる看護学の領域において、実践力や研究力、教育力を修得させるための演習を行う。対象者の看護実践に焦点をあて、看護実践に必要となる研究論文の検索・クリティークについて教授する。自身が行う研究手法の一連の過程を、演習を通して体験させる。次のどちらかの領域からいずれか一つのテーマを選び履修させる。

　看護ケア特論で学修した「触れるケア」に必要となる研究論文の検索・クリティークについて教授する。また、実際に、アロマセラピーやオンコロジータッチケアなどの触れるケアの実技を修得させる。自身が行う研究手法の一連の過程を演習を通して体験させ、特別研究Ⅰ・Ⅱにつなげる。

到達目標

１．補完代替医療としてのアロマセラピーの役割について理解し、健康支援に向けた実践方略を考えることが出来る。〈DP①②〉
２．論文クリティークを実施し、研究の動向を知り、エビデンスに基づいた実践方法を検討出来る。〈DP①②③④〉
３．現代人が抱える健康問題の特徴を捉え、課題を明確化出来る。〈DP③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

１．各回のテーマに関わる論文、記事、資料は事前に目を通し理解を深めておくこと。
２．主体的に学び、積極的な発言ができるよう準備しておくこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

諏訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」（近畿病院図書室協議会，初版，2013年）
Leung SW, Hu H (Edit.)「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016年)

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	アロマセラピーの概要	アロマセラピーの概要について予習しておくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
2	アロマセラピーと補完代替医療	アロマセラピーと補完代替医療について予習しておくこと。予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
3	アロマセラピーと予防医学	アロマセラピーと予防医学について予習しておくこと。予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
4	生活習慣病に対するアロマセラピーの実際	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
5	生活習慣病に関するアロマセラピーの研究	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
6	運動器疾患に対するアロマセラピーの実際	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
7	運動器疾患に関するアロマセラピーの研究	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
8	終末期医療におけるアロマセラピーの実際	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
9	終末期医療に関するアロマセラピーの研究	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
10	産科・婦人科疾患に対するアロマセラピーの実際	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
11	産科・婦人科疾患に関するアロマセラピーの研究	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
12	精神・神経系疾患に対するアロマセラピーの実際	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
13	精神・神経系疾患に関するアロマセラピーの研究	関連する文献を読んでおくこと。 予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
14	総合演習	補完代替医療におけるアロマセラピーの役割についてプレゼンテーションを行う。予習復習を各2時間ずつ行うこと。	
15	総合演習	補完代替医療におけるアロマセラピーの役割についてプレゼンテーションを行う。予習復習を各2時間ずつ行うこと。	

成績評価方法と基準	割合
1．レポート提出〈DP①②③④〉 2．プレゼンテーション〈DP①②③④〉 ３．討論時の発言内容〈DP①②③④〉	１．40% ２．40% ３．20%

授業科目名	専門演習(看護学専攻:伊津美)（Specialized Practice）				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

院生の専攻する主たる看護学の領域において、実践力や研究力、教育力を修得させるための演習を行う。対象者の看護実践に焦点をあて、看護実践に必要となる国内外の論文や書籍を通し、研究論文の検索・クリティークについて教授する。自身が行う研究手法の一連の過程を、演習を通して体験させる。次のどちらかの領域からいずれか一つのテーマを選び履修させる。

到達目標

自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。DP①②④
基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

履修する院生のニーズに合わせて調整する

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1～30 回 １．実験室における実験手法および実験環境管理手法の習得 各専門分野における特別研究テーマを達成するために必要な基本的手法と理論を修得する。 ２．図書館あるいは研究室における文献の収集と情報抽出力の強化 　図書館またはインターネットを用いて文献を検索・収集し、原文を読んで重要な情報を抽出する能力を身に付ける。また、保健医療学分野の英語論文の基本的な用語や構文を学び、自分の特別研究テーマに必要な情報を収集できる能力を修得する。	1~30 回 予習、復習については自律的に行い、各 2 時間以上	1 回～30 回 伊津美孝子

成績評価方法と基準	割合
議論への参加態度(40%)、プレゼンテーション(60%)	左記 100%

授業科目名	専門演習(看護学専攻:中西)（Specialized Practice）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

女性のライフサイクル各期における健康課題を理解し、健康支援に向けた実践方略について考察する。また、周産期領域においては、根拠に基づいた助産ケアを理解し、他職種との協働と高度なケアを提供するために、近年の出産や子育て環境の理解及び看護ケアの臨床応用妥当性について検討する。興味のある分野についての論文クリティークを実施し、研究の動向を知るとともに、エビデンスに基づいた看護実践についても検討する。

到達目標

①女性のライフサイクル各期や周産期における健康課題を理解し、健康支援に向けた実践方略を考えることができる。
②論文クリティークを実施し、研究の動向を知り、エビデンスに基づいた実践方法を検討できる。
③女性の健康問題の特徴を捉え、課題を明確化できる。
④質の高い女性健康支援及び助産ケアについて考察できる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題を提示します。主体的に学び、積極的に発言できるよう、準備してくること。

教科書

適宜、書籍・文献を提示します。

参考書

適宜、書籍・文献を提示します。

研究室／オフィスアワー

研究室で適時応じます。会議・実習等で不在も多いので必ずアポイントメントをお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	女性の健康の概念と歴史的背景	女性の健康の概念と歴史的背景について予習しておく	中西
2	女性の健康の概念と歴史的背景についてディベート	女性の健康の概念と歴史的背景について考察しプレゼンテーションを行う。	中西
3	女性の健康とリプロダクティブヘルス＆ライツ	女性の健康とリプロダクティブヘルス＆ライツについ手予習しておく。	中西
4	女性の健康とリプロダクティブヘルス＆ライツについてディベート	女性の健康とリプロダクティブヘルス＆ライツについて考察しプレゼンテーションを行う。	中西
5	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題について予習してくる。	中西
6	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベートできるよう準備してくる	中西
7	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベート	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベートできるよう準備してくる。	中西
8	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベート	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベートできるよう準備してくる。	中西
9	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベート	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベートできるよう準備してくる。	中西
10	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベート	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベートできるよう準備してくる。	中西
11	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてディベート	ライフサイクル各期の特徴と女性の健康問題についてプレゼンテーションを行う。	中西
12	女性健康に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	女性健康に関する研究の動向を調べてくる。	中西
13	女性健康に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	女性健康に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西

14	女性健康に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	女性健康に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
15	女性健康に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	女性健康に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
16	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
17	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
18	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
19	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
20	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
21	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
22	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークする。	周産期に関する研究の動向を最新の論文を用いてクリティークし、発表する。	中西
23	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
24	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
25	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
26	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
27	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
28	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
29	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
30	総合演習	女性の健康問題や周産期ケアの諸問題の特徴を捉え、ディベートすることで課題を明確化する。	中西
成績評価方法と基準			割合
①プレゼンテーション ②レポート（期限厳守） ③ディベート ④4/5 以上の出席 DP①②③④			①50% ②30% ③20%

授業科目名	専門演習(看護学専攻:前川)（Specialized Practice）				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

学生の専攻する主たる看護学の領域において、実践力や研究力、教育力を修得させるための演習を行う。対象者の看護実践に焦点をあて、看護実践に必要となる研究論文の検索・クリティークについて教授する。自身が行う研究手法の一連の過程を、演習を通して体験させる。次のどちらかの領域からいずれか一つのテーマを選び履修させる。

対象患者の状態を判断あるいは把握し、必要とされる看護ケアへつなげるためのフィジカルアセスメントの方法・技術について課題研究し、ディスカッションを行う。

到達目標

1. 自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は、論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。
フィジカルアセスメントの方法・技術に関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

必要に応じて資料を配布する

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	疾患と病態検査	病因・病態の解明や診断に有用な理論や手法を議論	
2	疾患と病態検査	病因・病態の解明や診断に有用な理論や手法を議論	
3	臨床病態の解明とオーダーメイド医療	病因・病態の解明によるオーダーメイド医療について議論	
4	臨床病態の解明とオーダーメイド医療	病因・病態の解明によるオーダーメイド医療について議論	
5	次世代技術と病態検査	技術革新の著しい解析技術とその病態検査への導入について議論	
6	次世代技術と病態検査	技術革新の著しい解析技術とその病態検査への導入について議論	
7	病態検査の展望	病態検査と個別化医療について議論	
8	臨床現場観察（1）	臨床施設の参与観察	
9	臨床現場観察（2）	臨床施設の参与観察	
10	臨床現場観察（3）	臨床施設の参与観察	
11	臨床現場観察（4）	臨床施設の参与観察	
12	臨床現場観察（5）	臨床施設の参与観察、課題抽出、分析	

13	臨床現場観察（６）	臨床施設の参与観察、課題抽出、分析	
14	臨床現場観察（7）	臨床施設の参与観察、課題抽出、分析	
15	総括	前半での議論と現場での観察から総合的に分子病態検査の現状と将来展望についての検討	
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②討論時の発言内容で評価する。 DP①②③			①70% ②30%

授業科目名	専門演習(看護学専攻:蓮池)（Specialized Practice）				
主担当教員	蓮池　光人		担当教員	蓮池　光人	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

学生の専攻する主たる看護学の領域において、実践力や研究力、教育力を修得させるための演習を行う。対象者の看護実践に焦点をあて、看護実践に必要となる研究論文の検索・クリティークについて教授する。自身が行う研究手法の一連の過程を、演習を通して体験させる。次のどちらかの領域からいずれか一つのテーマを選び履修させる。

「科学的看護論」「弁証法とはどういう科学か」「こころとことば」を用いて看護への理解と人間理解を深めていく。また、自身のテーマに関連する文献を検索しクリティークおよびディスカッションを実施し、先行研究について明らかにしていくことを目的とする。自己の看護過程をプロセスレコードを用いた質的分析で振り返りを行う演習をさせる。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。＜DP①④＞
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。＜DP①④＞
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。　＜DP①②③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は論文・資料のクリティークと討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。自身の行う特別研究で用いる研究手法・分析手法を身に付けるために、事前に質的研究に関するセミナーや講習会などに出席しておくことが望ましい。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

薄井坦子：科学的看護論
クレイグヒル滋子：質的研究法ゼミナール
萱間真美：質的研究のピットフォール
三浦つとむ：こころとことば

研究室／オフィスアワー

蓮池研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	質的研究の概要・方法論： 質的研究とは、質的研究で明らかにすること、さまざまな質的研究の方法論	予習：質的研究の概要、方法論について学習してくる。 復習：質的研究の概要、方法論について整理する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
2	質的研究論文のクリティーク： 質的記述的研究方法、グラウンデッド・セオリー法、解釈学的現象学的方法、エスノグラフィーなどの分析手法を用いた論文のクリティーク	予習：左記の研究手法を用いた精神看護関連の論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の精神看護関連の論文をクリティークする。予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
3	質的研究論文のクリティーク： 質的記述的研究方法、グラウンデッド・セオリー法、解釈学的現象学的方法、エスノグラフィーなどの分析手法を用いた論文のクリティーク	予習：左記の研究手法を用いた精神看護関連の論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の精神看護関連の論文をクリティークする。予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
4	質的研究論文のクリティーク： 質的記述的研究方法、グラウンデッド・セオリー法、解釈学的現象学的方法、エスノグラフィーなどの分析手法を用いた論文のクリティーク	予習：左記の研究手法を用いた精神看護関連の論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の精神看護関連の論文をクリティークする。予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
5	質的研究論文のクリティーク： 質的記述的研究方法、グラウンデッド・セオリー法、解釈学的現象学的方法、エスノグラフィーなどの分析手法を用いた論文のクリティー	予習：左記の研究手法を用いた精神看護関連の論文を検索し読んでくる。 復習：今回用いた研究手法と同様の研究手法を用いた他の精神看護関連の論文をクリティー	蓮池

	ク	クする。予習復習各 2 時間以上行うこと	
6	インタビュー、参加観察： インタビューや参加観察のシミュレーション	予習：インタビュー、参加観察の方法を学習してくる。 復習：インタビュー、参加観察を実施してみる。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
7	逐語録、フィールドノーツ、データ分析： 収集したデータの逐語録、フィールドノーツの作成、データ分析と信頼性・妥当性を確保する方法	予習：逐語録、フィールドノーツ、プロセスレコードの作成方法を学習してくる。 復習：インタビュー、参加観察を実施したデータの逐語録、フィールドノーツ、プロセスレコードを作成してみる。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
8	臨床現場観察： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析	予習：どのような看護場面を観察するかあげてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノーツ、プロセスレコードを作成する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
9	臨床現場観察： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析	予習：どのような看護場面を観察するかあげてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノーツ、プロセスレコードを作成する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
10	臨床現場観察： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析	予習：どのような看護場面を観察するかあげてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノーツ、プロセスレコードを作成する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
11	臨床現場観察： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析	予習：どのような看護場面を観察するかあげてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノーツ、プロセスレコードを作成する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
12	臨床現場観察： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析	予習：どのような看護場面を観察するかあげてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノーツ、プロセスレコードを作成する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
13	臨床現場観察： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析	予習：どのような看護場面を観察するかあげてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノーツ、プロセスレコードを作成する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
14	臨床現場観察： 臨床施設の参与観察、記録、環境分析	予習：どのような看護場面を観察するかあげてくる。 復習：観察した場面の逐語録やフィールドノーツ、プロセスレコードを作成する。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
15	総括と方策立案： 前半と後半の内容を総合して、具体的な看護コミュニケーションや社会支援システム構築のための方策と検証方法を立案	予習・復習：臨床の看護場面における問題点や課題に対する具体的な看護コミュニケーションや社会支援システム構築のための方策と検証方法を立案する。 復習：立案した検証方法をクリティークする。 予習復習各 2 時間以上行うこと	蓮池
成績評価方法と基準			割合
①レポート＜DP①②③④＞ ②討論時の発言内容で評価する。＜DP①②③④＞			①70% ②30%

授業科目名	専門演習(看護学専攻:住田)（Specialized Practice）				
主担当教員	住田　陽子		担当教員	住田　陽子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 4 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

学生の専攻する主たる看護学の領域において、実践力や研究力、教育力を修得させるための演習を行う。対象者の看護実践に焦点をあて、看護実践に必要となる研究論文の検索・クリティークについて教授する。自身が行う研究手法の一連の過程を、演習を通して体験させる。次のどちらかの領域からいずれか一つのテーマを選び履修させる。

　看護における組織、キャリア発達、人材資源活用、マネジメント、制度・政策について、学際的な視点も交えながら、文献のクリティーク、ならびにディスカッションを行うことを修得させる。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。
DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自身が取り組もうとしている研究テーマ周辺の事柄について、話題提供し討論できるように心がけてほしい。また研究のための研究にならないように、看護実践現場との関連を重要視してほしい。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

単行本・論文・資料等を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証などからのテーマの絞り込み	都度指示する	
2	看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証などからのテーマの絞り込み		
3	自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティーク		
4	自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティーク		
5	自己が取り組むテーマに関連した先行研究の看護学論文を収集しクリティーク		
6	データの収集方法ならびに解析の方法について近似した領域の看護学系文献を探し出して抽出する		
7	データの収集方法ならびに解析の方法について近似した領域の看護学系文献を探し出して抽出する		
8	臨床現場観察（１）		
9	臨床現場観察（２）		
10	臨床現場観察（３）		
11	臨床現場観察（４）		
12	臨床現場観察（５）		

13	臨床現場観察（６）		
14	臨床現場観察（７）		
15	前半と後半の内容を総合して、具体的な看護コミュニケーションあるいは看護技術開発のための方策と検証方法を立案		
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②討論時の発言内容 DP①②③④			①70% ②30%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:村上)（Special Research Ⅰ）				
主担当教員	村上 生美		担当教員	村上 生美	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修･選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
　リサーチ･クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

　学士課程の基礎看護技術やあらゆる看護場面で実践されている看護技術を概観し、その中の一部について EBN の視点あるいは看護技術（ケアリング）の視点からの演習を展開する。

到達目標

1. Evidence が明確化されていない看護実践に焦点を当てることができる。DP④
2. 経験だけに終わっているケアのについて研究疑問を明確にすることができる。DP④
3. 研究疑問に関する先行研究をクリティーク、レビューすることができる。DO④
4. 研究計画書を作成することができる。DP④
5. 倫理審査に必要な申請書を作成することができる。DP④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

看護実践（直接的な看護ケア）における自己の経験のみならず、見聞している他者の経験等から関心事を絞ってください。
関心やこだわりを大切にし、関係する論文をクリティークして整理、レビューして下さい。
自分が行う研究の意義を確かにしてほしいと思います。
計画的に学修を進めてください。

教科書

開講時に提示します。.

参考書

必要時に提示します。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に伝えます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス 看護実践の現状把握①	予習：看護実践の多様な経験が述べられるようまとめる。 復習：ディスカッションの整理。4 時間。	村上
2	看護実践の現状把握②	同上。4 時間。	村上
3	看護実践の現状把握③	同上。4 時間。	村上
4	看護実践の現状把握④	同上。4 時間。	村上
5	看護実践の現状把握⑤	同上。4 時間。	村上
6	関心領域の文献検索①	予習：文献を検索しクリティーク内容をカード化する。 復習：クリティークのディスカッションをまとめる。 4 時間。	村上
7	関心領域の文献検索②	同上。4 時間。	村上
8	関心領域の文献検索③	同上。4 時間。	村上
9	関心領域の文献検索④	同上。4 時間。	村上

10	関心領域の文献検索⑤	同上。4 時間。	村上
11	Reseach question のまとめ①	予習：Reseach question の原点を考え、自己のものを評価する。 復習：ディスカッションの内容を整理し、必要時修正する。4 時間。	村上
12	Reseach question のまとめ②	同上。4 時間。	村上
13	Reseach question のまとめ③	同上。4 時間。	村上
14	Reseach question のまとめ④	同上。4 時間。	村上
15	研究計画書の作成①	予習：「研究計画書」の書き方について学士課程で学修したものをフィードバックしておく。 復習：ディスカッションした事項を反映して修正を試みる。4 時間	村上
16	研究計画書の作成②	同上。4 時間。	村上
17	研究計画書の作成③	同上。4 時間。	村上
18	研究計画書の作成④	同上。4 時間。	村上
19	研究計画書の作成⑤	同上。4 時間。	村上
20	研究計画書の作成⑥	同上。4 時間。	村上
21	研究計画書の作成⑦	同上。4 時間。	村上
22	研究計画書の作成⑧	同上。4 時間。	村上
23	研究計画書の作成⑨	同上。4 時間。	村上
24	研究計画書の作成⑩	同上。4 時間。	村上
25	倫理審査申請書作成①	予習：倫理申請について参考書等で学修しておく。 復習：ディスカッション内容を反映して申請書作成に着手する。4 時間。	村上
26	倫理審査申請書作成②	同上。4 時間。	村上
27	研究計画書のプレゼンテーション	予習：プレゼンテーション準備。 復習：発表・討議内容をもとに修正。4 時間。	村上
28	研究計画書の修正	同上。4 時間。	村上
29	研究着手の準備①	予習：プレテスト準備。 復習：テスト結果をもとに修正。4 時間。	村上
30	研究着手の準備②	同上。4 時間。	村上

成績評価方法と基準	割合
1. 研究計画書 ※タイトル・背景・目的・方法等についてチェックシートにより評価する。 2. 研究倫理申請書 ※日本看護協会の規定に沿って確認する。DP①②③④	1. 80% 2. 20%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:吉村)(Special Research Ⅰ)				
主担当教員	吉村 弥須子		担当教員	吉村 弥須子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
リサーチ・クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

手術を受けるがん患者の QOL 向上のための医療支援や周手術期看護に関する研究指導を行う。各種理論の活用、質問調査票やインタビューを用いた調査研究などの手法を用いる。本特別研究では、リサーチ・クエスチョンの設定、自身の研究テーマにおける文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

到達目標

1. 研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。〈DP①④〉
2. リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。。〈DP①②④〉
3. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。。〈DP①②③④〉
4. 研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。。〈DP①②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておく。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてノートに記録する。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各 2 時間	
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各 2 時間	
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各 2 時間	
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各 2 時間	
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各 2 時間	
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各 2 時間	
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各 2 時間	

8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
11	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
15	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
16	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
17	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
18	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
19	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
20	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
21	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
22	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
23	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
24	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
25	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
26	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
27	発表準備： 研究計画書発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
28	発表準備： 研究計画書発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
29	研究計画書発表： 発表会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
30	研究計画書修正 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習・復習各2時間	
成績評価方法と基準			割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、研究計画書、および倫理審査申請書の作成能力 ③研究計画書発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①～③で総合的に評価する。〈DP①②③④〉			①30% ②30% ③40%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:森)(Special Research Ⅰ)				
主担当教員	森 美侑紀		担当教員	森 美侑紀	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
　リサーチ・クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

看護領域におけるアロマセラピーの役割について理解させ、その有効性や安全性に関する研究指導を行う。主として実験動物を用いた実験研究を行い、植物精油の作用や作用機序について組織学的および分子生物学的に検討する。本特別研究では、文献検索や研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。〈DP①②〉
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。〈DP①②〉
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。〈DP④〉
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。〈DP③④〉
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。〈DP③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

諏訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」(近畿病院図書室協議会, 初版, 2013 年)
Leung SW, Hu H (Edit.)「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016 年)

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
15	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
17	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
18	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
19	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
20	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
28	発表準備： プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
29	プロトコール発表： プロトコール発表会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
30	プロトコール修正 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

成績評価方法と基準	割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度〈DP①〉 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力〈DP②③④〉 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容〈DP②③④〉 上記の①～③で総合的に評価する。	①30% ②30% ③40%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:久木元)(Special Research Ⅰ)				
主担当教員	久木元 由紀子		担当教員	久木元 由紀子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
リサーチ・クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

急性期や周手術期などのクリティカル領域、がんサバイバーなど疾患を持つ患者や家族に対して、補完療法などの看護ケアの効果や、それらの対象患者のケアに携わる看護師や看護学生の実践能力育成方法を、システマティックレビューなどの研究方法を用い、明らかにすることを目的とした本特別研究では、英語を含めた文献検索や研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書について指導する。

到達目標

1．研究テーマに関する先行研究について検索・入手・通読し、それらを理解している。DP①③④
2．リサーチクエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画書を立案することができる。DP①③④
3．自分の計画した研究のオリジナリティを理解しており、それを説明することができる。DP①②③④
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類を作成できる。DP①③④
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自主的に修士論文を作成するための一連の過程に取り組む。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

研究室 239　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	自身のテーマに関連した入手論文を読み、質問事項をまとめておく(2 時間)	久木元
2	研究テーマの仮設定		久木元
3	先行文献の検索		久木元
4	先行研究の講読		久木元
5	先行研究の講読		久木元
6	先行研究の講読		久木元
7	先行研究の講読		久木元
8	先行研究の講読		久木元
9	先行研究の講読		久木元
10	研究テーマの決定		久木元
11	先行研究レビュー		久木元

12	先行研究レビュー		久木元
13	先行研究レビュー		久木元
14	先行研究レビュー		久木元
15	リサーチクエッション		久木元
16	研究デザイン		久木元
17	研究計画の立案		久木元
18	研究計画の立案		久木元
19	研究計画の立案		久木元
20	研究計画の立案		久木元
21	倫理審査申請		久木元
22	倫理審査申請		久木元
23	倫理審査申請		久木元
24	予備研究		久木元
25	予備研究		久木元
26	予備研究		久木元
27	予備研究		久木元
28	発表準備		久木元
29	研究プロトコール発表		久木元
30	研究プロトコール発表		久木元
成績評価方法と基準			割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチクエッション、研究プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③研究プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 DP①②③④			①３０％ ②３０％ ③４０％

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:伊津美)(Special Research Ⅰ)				
主担当教員	伊津美　孝子		担当教員	伊津美　孝子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
　リサーチ・クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

　臨床現場で勤務する中間看護管理者(看護師長)は、一組織単位(病棟)のキーマンであり、管理能力は医療や看護の質、職員満足度に大きな影響を及ぼす。日々めまぐるしく変化する医療の現場においては、中間看護管理者は一層の管理能力が求められている。そこで本特別研究では、中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について、質的・量的・アクションリサーチなどの手法を使って研究指導を行う。国内外の文献検討を行い、研究疑問の絞り込み、研究デザイン設計、研究倫理申請、研究計画書の作成までを指導する。

到達目標

1. 自分の専門領域における臨床あるいは実験の手法、または情報収集・分析の能力を身に付ける。DP①④
2. 臨床系演習では症例の客観的な分析ができる。DP①④
3. 基礎系演習では実験テクニックや文献情報抽出のスキルを強化する DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

履修する院生のニーズに合わせて調整する

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	院生の研究疑問について討議	予習、復習：2 時間以上	伊津美孝子
2	院生の研究疑問について討議 文献整理の方法	予習、復習：2 時間以上	伊津美孝子
3	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等関連文献について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
4	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等関連文献について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
5	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等関連文献について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
6	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等関連文献について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
7	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等関連文献について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
8	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等関連文献について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
9	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等関連文献について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
10	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について 文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子
11	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2 時間以上	伊津美孝子

12	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2時間以上	伊津美孝子
13	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について 国内外の文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2時間以上	伊津美孝子
14	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について 国内外の文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2時間以上	伊津美孝子
15	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について 国内外の文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2時間以上	伊津美孝子
16	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について 国内外の文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2時間以上	伊津美孝子
17	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について 国内外の文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2時間以上	伊津美孝子
18	中間看護管理者のコンピテンシーおよび管理能力の向上、開発等について 国内外の文献検討	予習 、復習：論文抄読、文献整理:2時間以上	伊津美孝子
19	研究疑問絞り込み	研究疑問の絞り込み：２時間以上	伊津美孝子
20	研究疑問絞り込み	研究疑問の絞り込み：２時間以上	伊津美孝子
21	研究疑問、研究目的を決定	研究目的について：　２時間以上	伊津美孝子
22	研究疑問、研究目的を決定	研究疑問の絞り込み：２時間以上	伊津美孝子
23	研究デザインの選択	研究デザインについて：２時間以上	伊津美孝子
24	研究デザインの選択	研究デザインについて：２時間以上	伊津美孝子
25	研究計画書作成	研究計画書作成:２時間以上	伊津美孝子
26	研究計画書作成	研究計画書作成:２時間以上	伊津美孝子
27	倫理申請書作成、倫理申請	倫理申請書作成、倫理申請 準備：2時間以上	伊津美孝子
28	倫理申請書作成、倫理申請	倫理申請書作成、倫理申請 準備：2時間以上	伊津美孝子
29	研究計画書完成	倫理申請書修正：2時間以上	伊津美孝子
30	研究計画書完成	倫理申請書修正：2時間以上	伊津美孝子
成績評価方法と基準			割合
討議への参加(40%)、プレゼンテーション（40%)、課題(20%) DP①②③④			左記100%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:中西)（Special Research Ⅰ）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜５限)、後期(金曜５限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

女性の健康についての概念や理論、また、周産期学のエビデンスを学び、女性とその家族が抱える問題や周産期における課題を明らかにしたうえで、テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
本特別研究Ⅰでは、テーマを決定し、健康課題を解決するためのリサーチ・クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成を目指す。

到達目標

①女性の健康と周産期ケア・助産教育に関連した研究を分析し、その変遷と課題を明確化できる。
②課題に関連した先行研究を検索し、クリティークできる。
③研究課題を解明するための研究計画書を作成できる。
④研究の倫理的配慮について学び、倫理申請書が作成できる。
⑤研究課題の解決に適した研究方法を選択し、実施可能な研究計画書を作成する。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

講義時にプレゼンテーションもしくはディベートの課題を提示します。主体的に学び、積極的に発言できるよう、準備してくること。

教科書

適宜、書籍・論文等提示する。

参考書

適宜、書籍・論文等提示する。

研究室／オフィスアワー

適時、質問等に応じますが、会議・実習等で不在も多いため必ず、アポイントメントをお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究課題の明確化	自己の研究課題の明確化に向けて、資料を作成し、プレゼンテーション、またはディベートする。	中西
2	研究課題の明確化	自己の研究課題の明確化に向けて、資料を作成し、プレゼンテーション、またはディベートする。	中西
3	研究課題の明確化	自己の研究課題の明確化に向けて、資料を作成し、プレゼンテーション、またはディベートする。	中西
4	研究課題の明確化	自己の研究課題の明確化に向けて、資料を作成し、プレゼンテーション、またはディベートする。	中西
5	研究課題の明確化	自己の研究課題の明確化に向けて、資料を作成し、プレゼンテーション、またはディベートする。	中西
6	研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。	先行研究をシステマティックに検索し、論文を選択し、資料とする。そこから自己の研究課題を絞る。	中西
7	研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。	先行研究をシステマティックに検索し、論文を選択し、資料とする。そこから自己の研究課題を絞る。	中西
8	研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。	先行研究をシステマティックに検索し、論文を選択し、資料とする。そこから自己の研究課題を絞る。	中西

9	研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。	先行研究をシステマティックに検索し、論文を選択し、資料とする。そこから自己の研究課題を絞る。	中西
10	研究課題をもとに先行研究のクリティークを行う。	先行研究をシステマティックに検索し、論文を選択し、資料とする。そこから自己の研究課題を絞る。	中西
11	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法を選択する。	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法をディベートし、決定する。	中西
12	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法を選択する。	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法をディベートし、決定する。	中西
13	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法を選択する。	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法をディベートし、決定する。	中西
14	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法を選択する。	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法をディベートし、決定する。	中西
15	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法を選択する。	研究デザインについて学び、研究課題の解決に適した研究方法をディベートし、決定する。	中西
16	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書を作成する。	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書の作成に向けて資料を作成し、プレゼンテーションする。	中西
17	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書を作成する。	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書の作成に向けて資料を作成し、プレゼンテーションする。	中西
18	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書を作成する。	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書の作成に向けて資料を作成し、プレゼンテーションする。	中西
19	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書を作成する。	研究者として必要な倫理観を学び、倫理申請書の作成に向けて資料を作成し、プレゼンテーションする。	中西
20	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得する。	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得し、作成する。	中西
21	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得する。	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得し、作成する。	中西
22	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得する。	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得し、作成する。	中西
23	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得する。	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得し、作成する。	中西
24	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得する。	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得し、作成する。	中西
25	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得する。	質問紙・依頼文・インタビューガイドなどの研究課題の解決に必要なデーター収集に向けた作成技術を修得し、作成する。	中西
26	研究計画書を作成する。	一連の作業をもとに研究計画書を作成し、プレゼンテーションする。	中西
27	研究計画書を作成する。	一連の作業をもとに研究計画書を作成し、プレゼンテーションする。	中西
28	研究計画書を作成する。	一連の作業をもとに研究計画書を作成し、プレゼンテーションする。	中西
29	研究計画書を作成する。	一連の作業をもとに研究計画書を作成し、プレゼンテーションする。	中西
30	研究計画書を作成する。	一連の作業をもとに研究計画書を作成し、プレゼンテーションする。	中西
成績評価方法と基準			割合
①研究計画書の作成（期限厳守） ②プレゼンテーション（事前の資料提出の期限厳守） ③ディベート等取り組む態度も含む ④出席 4/5 以上 DP①②③④			①60% ②20% ③20%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:前川)（Special Research Ⅰ）				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修･選択	必修

授業概要

対象患者の状態を判断あるいは把握し、必要とされる看護ケアへつなげるためには、フィジカルアセスメントは非常に重要である。本特別研究では、フィジカルアセスメントに関連する文献検索などを通してリサーチ・クエスチョンの設定、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

先行論文や関連する総説等は検索し入手しておくこと。不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

必要に応じて資料を配布する

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	研究テーマの仮設定	能性のある研究テーマのリストアップ	
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
5	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
6	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
7	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
8	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
9	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
10	研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
11	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
12	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
13	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	

14	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
15	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
16	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
17	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
18	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
19	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
20	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
21	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
22	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
23	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
24	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
25	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
26	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
27	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
28	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
29	プロトコール発表	プロトコール発表会における発表と質疑応答	
30	プロトコール発表	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	
成績評価方法と基準			割合
文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度で 30%、リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力で 30%、プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④			①30% ②30% ③40%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:橋本)（Special Research Ⅰ）				
主担当教員	橋本 富子		担当教員	橋本 富子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
　リサーチ・クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

　少子高齢化・晩婚晩産化・情報化が進む社会において、女性自身が望むライフプランを立て自己実現するために、女性や取り巻く家族への健康支援は不可欠であり、具体的な実践や研究が試みられている。そのうち、思春期健康教育（セクシャリティ教育）を取り上げ、本特別研究では、リサーチ・クエスチョンの設定、研究テーマにおける文献検索とクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

到達目標

1. 研究テーマに関連する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解できる。(DP1, 2, 3, 4)
2. リサーチクエスチョンが明確であり、先行研究をふまえて研究計画書を立案できる。(DP1, 2, 3, 4)
3. 自分が計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明できる。(DP1, 2, 3, 4)
4. 倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員に提出する書類が作成できる。(DP1, 2, 3, 4)
5. 研究計画書に関する必要スライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。(DP1, 2, 3, 4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において、論文・資料・書籍・パソコンなどを用いて個別指導する。
まず、自発的な発想と行動に基づき作成した原案を提出して、討論と示唆により修正するプロセスを反復する。
必要な先行研究論文は早期に検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法について事前に調べておくこと。
授業前・中・後に気づいたアイデア、必要な資料・行動・討論・指導など、全て研究ノートに記録していくこと。

教科書

論文・記事・関連資料・書籍・ガイドライン・URL などを適宜示し、配布する。

参考書

随時紹介する。

研究室／オフィスアワー

相談しながら随時可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく（4h）	
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
4	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
5	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4ｈ）	
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関す	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	

	る情報入手		
8	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
9	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性をふまえて研究テーマ決定	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
15	リサーチクエスチョン： 研究テーマのリサーチクエスチョンの明確化	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
16	研究デザイン： リサーチクエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
17	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
18	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
19	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
20	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読み質問事項をまとめておく(4h)	
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
28	発表準備： 研究計画書発表会のスライドおよび配布資料作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
29	発表準備： 研究計画書発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
30	研究計画書修正： 発表会における質疑応答と問題点指摘をふまえた研究計画の修正	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
成績評価方法と基準			割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度（DP1,2,3,4） ②リサーチクエスチョン、研究計画書、および倫理審査申請書の作成能力（DP1,2,3,4） ③研究計画書発表会のスライドと資料、発表技法と内容、および質疑応答の発言内容（DP1,2,3,4） 上記の①～③で総合的に評価する。			①30% ②30% ③40%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:蓮池)（Special Research Ⅰ）				
主担当教員	蓮池 光人		担当教員	蓮池 光人	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修･選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
　リサーチ･クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

　思春期から青年期の心を病む対象が社会生活に適応していくための看護に関する研究指導を行う。本特別研究では、自己の看護実践上の「問い」を明らかにしながら、リサーチ・クエスチョンの設定、文献検索および検討、必要な研究デザインの選択、倫理審査申請までの研究計画書の作成までを指導する。

到達目標

１．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。〈DP①②③④〉
２．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。〈DP①②③④〉
３．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。〈DP①②③④〉
４．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。〈DP①②③④〉
５．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。〈DP①②③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

文献や関連書籍は授業において紹介する。

研究室／オフィスアワー

蓮池研究室　随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関す	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池

	る情報入手		
8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
10	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
15	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
17	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
18	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
19	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
20	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
28	発表準備： プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
29	プロトコール発表： プロトコール発表会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
30	プロトコール修正 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	入手資料を読んで質問事項をまとめておく 予習復習を 2 時間ずつ行うこと	蓮池
成績評価方法と基準			割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度＜DP①②③④＞ ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力＜DP①③④＞ ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容＜DP①③④＞ 上記の①～③で総合的に評価する。			①30% ②30% ③40%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:住田)（Special Research Ⅰ）				
主担当教員	住田 陽子		担当教員	住田 陽子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修･選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
　リサーチ･クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

組織内での様々な立場の看護職において、ライフサイクルとキャリア・サイクルの観点からキャリア発達を概観し、キャリア発達の促進要因、阻害要因、アウトカムについて追究するための研究指導を行う。看護管理の基盤となっている組織心理、組織行動の理論を交えながら、既存の研究とその動向について国内外から検討すべく、文献のクリティークを行う。その過程で問題の所在を明確にし、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

到達目標

1.研究テーマに関連する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解できる。(DP1,2,3,4)
2.リサーチクエスチョンが明確であり、先行研究をふまえて研究計画書を立案できる。(DP1,2,3,4)
3.自分が計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明できる。(DP1,2,3,4)
4.倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員に提出する書類が作成できる。(DP1,2,3,4)
5.研究計画書に関する必要スライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。(DP1,2,3,4)

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において、論文・資料・書籍・パソコンなどを用いて個別指導する。
まず、自発的な発想と行動に基づき作成した原案を提出して、討論と示唆により修正するプロセスを反復する。
必要な先行研究論文は早期に検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法について事前に調べておくこと。
授業前・中・後に気づいたアイデア、必要な資料・行動・討論・指導など、全て研究ノートに記録していくこと。

教科書

論文・記事・関連資料・書籍・ガイドライン・URL などを適宜示し、配布する。

参考書

随時紹介する。

研究室／オフィスアワー

相談しながら随時可能

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく（4h）	
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
4	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
5	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4ｈ）	
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関す	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	

	る情報入手		
8	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
9	先行研究論文購読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性をふまえて研究テーマ決定	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
15	リサーチクエスチョン： 研究テーマのリサーチクエスチョンの明確化	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
16	研究デザイン： リサーチクエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
17	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
18	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
19	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
20	研究計画の立案： 研究計画書の立案と執筆	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読み質問事項をまとめておく(4h)	
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
28	発表準備： 研究計画書発表会のスライドおよび配布資料作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
29	発表準備： 研究計画書発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
30	研究計画書修正： 発表会における質疑応答と問題点指摘をふまえた研究計画の修正	入手資料を読み質問事項をまとめておく（4h）	
成績評価方法と基準			割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度（DP1,2,3,4） ②リサーチクエスチョン、研究計画書、および倫理審査申請書の作成能力（DP1,2,3,4） ③研究計画書発表会のスライドと資料、発表技法と内容、および質疑応答の発言内容（DP1,2,3,4） 上記の①～③で総合的に評価する。			①30% ②30% ③40%

授業科目名	特別研究Ⅰ(看護学専攻:外村)（Special Research Ⅰ）				
主担当教員	外村 昌子		担当教員	外村 昌子	
科目ナンバリング		科目区分	特別研究と演習科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

各研究指導教員が実績のある専門研究領域の範囲内で学生と相談の上テーマを決定し、そのテーマに沿った研究を行い、修士論文を作成するための一連の過程について指導する。
　リサーチ・クエスチョンの設定、専門領域における文献検索とそのクリティーク、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

　高齢者施設などで療養生活を送る心身に障がいをもつ高齢者には生活上のリスクを軽減し、持てる力を生かすことのできる環境支援が必要である。看護職が中心となり多職種と連携したケアマネジメントを実践することが重要である。本特別研究では、自身の研究テーマにおける文献検索とそのクリティーク、リサーチ・クエスチョンの設定、研究デザイン、倫理審査申請までの研究計画書の作成について指導する。

到達目標

1. リサーチ・クエスチョンが設定できる
2. 専門領域における文献検索とそのクリティークができる
3. 課題解決のための研究デザインを決定できる。
4. 倫理審査申請までの研究計画書の作成する。
5. 中間報告会で自身のテーマを発表できる。DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

各自のテーマに沿い、積極的に研究に取り組んで下さい。

教科書

講義中に提示します。

参考書

講義中に提示します。

研究室／オフィスアワー

ガイダンス時に提示します

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	教科ガイダンス 1 年間の予定を検討する	各自の関心あるテーマに沿った図書及び論文を選択し、プレゼンテーションを実施する。 進行に応じた課題予習・復習をする。	
	2~7 回　関心のあるテーマについて検討する		
	8~13 回 テーマに関する先行研究の検索		
	14～19 回 高齢者施設・病院などにおける老年看護の課題をフィールドワークにより探求する。		
	20~26 回 研究方法の検討		
	27~37 回 研究計画書の作成		
	38~48 回 研究計画書の検討		
	49~60 回 研究計画書作成・中間発表会の準備		

成績評価方法と基準	割合
1. プレゼンテーション・討議 2.　レポート DP①②③④	1. 60% 2. 40%

医療科学専攻(博士課程)

(2018 年度以降入学生カリキュラム)

授業科目名	医療科学概論(医療科学専攻)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、森谷 正之、青木 元邦、 前田 薫、村上 生美、五十嵐 淳介	
科目ナンバリング	HLA009	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限 火曜 3 限 火曜 4 限 火曜 5 限 水曜 3 限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療科学の定義や共通概念について説明し、さらにシステム生理学、神経解剖学、分子生物学、バイオメカニクス、看護技術学、臨床鍼灸学の各分野の立場からみた医療科学的側面について講義する。本講義によって各自の専攻する研究専門分野における医療科学の捉え方および学術的アプローチに関する思考の基盤を形成する。

到達目標

1．医療における科学的側面とその視点から行う研究の意味について理解している。
2．看護、リハビリテーション、伝統医学などの臨床における医療科学的研究の動向に関する最新の知識がある。
3．自身の医療または健康に関する専門領域について医療科学的な視点から深い洞察を加え、課題を指摘することができる。DP①②

履修上の注意(学生へのメッセージ)

オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

青木　元邦／適宜対応する
山下　仁／適宜対応する
宮本　忠吉／E 棟 4 階（研究室 12）：原則　月曜日　3 時限目・4 時限目
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。
森谷　正之／E 棟 4 階（研究室 11）　月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。
前田　薫／適宜対応する
村上　生美／適宜対応する
五十嵐　淳介／適宜対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【医療科学とは】 医療科学の定義と共通概念	様々な医療領域に関する知識を深め、自らの専門分野と周辺科学領域の関連を考察する。	青木
2	【医療科学の歴史】 医療・健康・臨床における科学的アプローチの変遷	様々な医療領域のこれまでの発展を理解する。	青木
3	【分子生物学】 分子生物学の概要	遺伝子発現制御機構・再生医療について理解を深める。	青木
4	【システム生理学】 システム生理学の概要	生命をシステムとしての理解することの意義や内部環境の恒常性を維持する生体システムの動作原理、及びその動的な制御機構についての理解を深める。 予習：システムバイオロジーについて事前に調べておくこと。	五十嵐
5	【適応生理学】 システム生理学から見た人体の適応メカニズム	様々な環境条件下において、ダイナミックな振る舞いをみせる生体の環境適応機構について理解する。	五十嵐
6	【代謝生理学】 肥満とその治療の代謝生理学的なメカニズム	代謝性疾患にみられる、生体調節系の異常と、呼吸循環反応に現れる病態異常所見のメカニズムについてシステム生理学的アプローチを用いて理解する。 予習：バイタルサイン（呼吸、循環、代謝）に異常所見がみられる各種疾患の兆候について事前に調べておくこと。	五十嵐
7	【看護学】 看護における医療科学的側面	Evidence Based Nursing の今日的課題について考えておく。EBN にかかわる文献を検索し、クリティークしておく。	村上
8	【看護技術学】 医療科学の観点から行う看護技術開発	臨床看護あるいは在宅看護等の実践において経験知はあるものの、Evidence が十分でないものをピックアップしておく。	村上
9	【ヒューマンケア】 ヒューマンケアの医療科学的分析と研究方法論	ヒューマンケアにおけるクライエント（患者や家族）と看護師のコミュニケーション要素を多角的に考える。	村上
10	【動物実験】 医療科学としての動物実験の意義	予習：動物実験における「3R」について事前に調べておいて下さい（2 時間）。 復習：配布資料等で動物実験を実施する際の倫理的配慮について学習を深めて下さい（2 時間）。	森谷
11	【神経解剖学】 医療科学的側面から見た神経解剖学	予習：神経解剖学研究の方法論について事前に調べておいて下さい（2 時間）。 復習：配布資料等で神経解剖学研究の歴史と方法論について学習を深めて下さい（2 時間）。	森谷
12	【リハビリテーション】 リハビリテーションにおける医療科学的側面	予習：配布資料を読み、不明点を明確にしておく。	前田
13	【バイオメカニクス】 バイオメカニクスの概要と医療科学的応用	予習：配布資料を読み、不明点を明確にしておく。	前田
14	【東洋医学と代替医療】 東洋医学・代替医療における医療科学的側面		山下
15	【鍼灸】 鍼灸における医療科学的思考の重要性とその成果		山下

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②質疑応答時の発言内容 DP①②	①70% ②30%

授業科目名	医療科学研究方法論(医療科学専攻)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁、青木 元邦、前田 薫、吉村 弥須子、川畑 浩久、仲西 宏元、森谷 正之、澤田 優子、松下 太、五十嵐 淳介	
科目ナンバリング	HLA010	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	水曜 4 限 水曜 5 限 木曜 2 限 木曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療科学領域における様々な研究の国際共通ルールや方法論を学ぶことによって、自身の行う特別研究において採用する研究方法の質を高め、より適切で信頼性の高い研究が実施できるための基礎固めを行う。また、異なる研究分野や研究テーマをもつ学生同士が研究計画と研究方法論を紹介し、互いに科学的立場から建設的な批判を行わせる機会を設けることにより、自身の研究方法論に関する課題を認識させる。

到達目標

1．医療科学研究における共通の規範と研究方法論について理解している。
2．医療科学研究におけるリサーチ・クエスチョンに対して適切な研究方法を選択することができる。
3．自身が行う（予定の）特別研究において用いる方法論について、その理論と技術を熟知しており、長所と短所を詳細に説明できる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

五十嵐　淳介／適宜対応する
山下　仁／適宜対応する
川畑　浩久／C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。
仲西　宏元／適宜対応する
森谷　正之／E 棟 4 階（研究室 11）：月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。
青木　元邦／適宜対応する
前田　薫／適宜対応する
澤田　優子／適宜対応する
吉村　弥須子／W 棟 3 階 334 研究室：月曜日 16:30～18:00、実習で不在の場合があるので随時相談可。
横井　賀津志／適宜対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【システム生理学】 システム生理学的研究方法論	血液ガスや pH、血圧、体温、血糖の正常値を決定している動的フィードバック制御システムの機能を定量評価する方法論について理解を深める。 予習：フィードフォワード制御、ネガティブフィードバック制御などの用語について、事前に調べておいてください。	五十嵐
2	【組織形態学】 組織形態学的研究方法論	予習：組織標本の作成方法について、事前に調べておいて下さい（2 時間）。 復習：講義で学習した内容と事前に調べた内容を総合して、組織標本の作成過程を論理的に理解して下さい（2 時間）。	森谷
3	【動物実験ルール】 動物実験における国際的な共通認識とルール	予習：事前に動物実験倫理についての情報収集をして下さい（2 時間）。	森谷
		復習：講義内容を参考に、動物実験における「３R」の原則など、動物実験倫理について理解を深めて下さい（2 時間）。	
4	【臨床研究ルール】 臨床研究における国際的な共通認識とルール		山下
5	【臨床試験】 医療科学領域における臨床試験の方法論		山下
6	【創薬】 創薬における研究方法論	創薬における法的規制・臨床研究・治験・倫理性の確保等の知識を深める。	青木
7	【トランスレーショナル・リサーチ】 トランスレーショナル・リサーチの実際	トランスレーショナルリサーチの実際と問題点を学ぶ。	青木
8	【バイオメカニクス】 バイオメカニクス研究方法論	予習：力学（物理学）を復習しておく。 復習：力学の生体運動への応用法の例について、ノート等をもとに再確認しておく。	前田
9	【調査研究】 医療科学領域における調査研究の方法論	医療科学領域における調査方法論について、理論と実際を学ぶ。	澤田
10	【分子病態学】 分子病態学的研究方法論： ロコモティブシンドロームや自己免疫疾患（関節リウマチ）の病態発症の分子メカニズムを中心に説明する。	予習：DNA や RNA、蛋白などの定量化や活性に関する解析方法について調べておくこと。 復習：講義で説明した疾患の発症や病態の分子メカニズムについて復習し、理解を深めること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
11	【リハビリテーション学】 リハビリテーション分野における疫学調査の方法論	予習：リハビリテーション領域における横断研究と縦断研究についての論文を講読する（2 時間）. 復習：横断研究と縦断研究の方法と結果の解釈を整理する（2 時間）.	横井
12	【質的研究】 医療科学領域における質的研究の方法論	予習：質的研究について学習しておく。 復習：質的研究の手法を用いた研究論文を読み、クリティークしてみる。 予習・復習合わせて 2 時間	吉村
13	【免疫組織学】 免疫組織学研究方法論		仲西
14	【研究計画（１）】 学生の研究計画・研究方法の案と質疑応答	予習：研究計画の立案時の帰無仮説を必ず明確にした上で、授業に臨むこと。	五十嵐
15	【研究計画（２）】 学生の研究計画・研究方法の案と質疑応答	予習：研究計画イメージを作成しておく。 復習：授業での討論をもとに研究計画イメージの加筆・修正を行っておく。	前田

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②質疑応答時の発言内容 DP②③④	①70% ②30%

授業科目名	研究倫理特論(医療科学専攻)				
主担当教員	神田　靖士		担当教員	神田　靖士、山下　仁、青木　元邦	
科目ナンバリング	HLA011	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜３限 月曜５限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

医療科学分野で必要な研究倫理および生命倫理について知識を深め、実際に医療科学研究を行う際に適切な判断・配慮・対処ができる能力を身に付ける。近年社会的問題となった研究倫理および生命倫理に関する事例を取り上げて、その詳細を知り問題点を分析し考察するとともに、海外および国内における関連領域の法令や指針を読み解くことによって研究公正や人権尊重の考え方を深め、どう行動すべきかを修得する。また、利益相反とそのマネージメント、患者の権利の保護、インフォームド・コンセント、研究不正の告発システム等について、その現状および取るべき行動の具体例を学ぶ。

到達目標

１．医療科学研究における研究倫理と生命倫理について、その意味を理解し、研究実施時に適切な行動ができる。
２．研究公正や人権尊重に関する国内外の基本的な法令および指針の内容を理解している。
３．研究倫理および生命倫理における審査申請その他の諸手続きが適切に行える。
４．医療科学分野における他者の研究発表や研究論文について倫理的観点から的確な問題指摘と修正提案ができる。DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

オムニバス方式による講義で、実例の紹介と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文や記事を事前に検索・入手して目を通し、授業後にはそこから倫理的観点からみた問題点を抽出すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。

参考書

科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省、厚生労働省）
科学研究における健全性の向上について（日本学術会議）

研究室／オフィスアワー

神田　靖士／在室時は訪問可。質問がある場合は授業終了時に申し出て下さい。メールでも随時受付を行います。
メールアドレス：kandas@hirakata.kmu.ac.jp
山下　仁／適宜対応する
青木　元邦／適宜対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【研究倫理概論】 科学者としての態度や研究公正の意味と重要性		山下
2	【研究不正】 FFP とその具体例、不正告発システム		山下
3	【研究者・著者の責任】 研究行為の責務、オーサーシップ、著作権		山下
4	【利益相反】 利益相反の定義・範囲とそのマネージメント	研究者として、利益相反に関する知識とマネージメントを学ぶ。	青木
5	【データの管理・保護】 ラボノート、個人情報の保護	信頼できるデータとは何か：研究の透明性・倫理性について学ぶ。	青木
6	【法令と指針】 国内外の関連法令および指針の通読と解説	研究の倫理性・透明性に関する各種法律・指針を学ぶ。	青木
7	【倫理審査の申請・臨床試験登録】 研究倫理委員会・IRB の申請および臨床試験事前登録の実際	研究計画の倫理委員会への提出にあたり必要なことを学ぶ。	青木
8	【生命倫理概論】 生命倫理とはどのような学問か		神田
9	【着床前診断と出生前診断】 受精卵、胎児の先天的遺伝性疾患の検査法、優生保護の考え方		神田
10	【尊厳死と安楽死】 尊厳ある生命の終わりと安楽死との相違点	レポート	神田
11	【脳死と臓器移植】 脳死はヒトの死か、臓器移植法の改正と臓器移植の現状		神田
12	【再生医療とクローン技術】 ES 細胞、iPS 細胞を利用した再生医療、ヒトクローン胚の考え方	レポート	神田
13	【インフォームド・コンセント】 医療現場における患者の権利と医療従事者の義務		神田
14	【代理出産】 代理出産とわが国における親子関係のあり方	レポート	神田
15	【総括】 学習した概念相互のつながりの確認と質疑応答		神田

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②質疑応答時の発言内容 DP②③④	①70% ②30%

授業科目名	医史学・医療社会学概論(医療科学専攻)				
主担当教員	大形　徹		担当教員	大形　徹、田中　美子	
科目ナンバリング	HLA012	科目区分	共通科目	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	木曜 1 限 木曜 2 限 木曜 3 限 木曜 4 限 木曜 5 限 金曜 4 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	選択

授業概要

東アジアにおける医学と保健医療の歴史・哲学・社会学的な観点を紹介するとともに、東アジア伝統医学の概念と理論について概説し、医療における科学的側面と哲学的・文化的側面を対比することによって、医療科学の位置づけや進むべき方向性についてより深く考察する。まず、医療における哲学的・社会学的なアプローチの概要を知り、古今東西の思想や宗教の特徴と保健医療学との関わりを理解する。次に、東アジア、特に中国古代医学とその影響を受けて日本の漢方医学が発展するまでの経緯を理解する。

到達目標

（大形）
1．中国・日本・欧米の最新の研究成果にもとづいて鍼灸学と本草学を理解する。
2．鍼灸学と本草学について、日本語による理解に止まらず、古典文献をも読解できることを目指す。

（田中）
1．現代の医療現場の問題を、医療の外側つまり社会の側から考察できる。〈DP②〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

配布資料の読解と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。
田中の担当箇所も、教科書は使用しない。

参考書

田中　美子／『よくわかる医療社会学』中川輝彦編著、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-05821-1

研究室／オフィスアワー

大形　徹／ohgata728@gmail.com
田中　美子／授業の前後。あるいは自宅への電話（番号は改めて伝える）。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【現代医療の中心構造】 医療施設の展開と現状を知る。	予習：現代の医療施設の課題を見つける。 復習：授業内容と考察をノートにまとめる。	田中
2	【現代医療の支持構造】 主に医療者と患者の関係を分析する。	予習：医療者と患者の関係の課題を見つける。 復習：授業内容と考察をノートにまとめる。	田中
3	【現代医療の周縁】 主に健康至上主義という社会現象を考察する。	予習：身近な健康至上主義を見つける。 復習：授業内容と考察をノートにまとめる。	田中
4	【東アジアの医史学と古典文献】 東アジア医史学の特徴、漢文で書かれた文献講読の基礎	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
5	【古代中国医学の基本理念】 「気」の身体観、近年出土した医薬資料からわかる古代中国の保健医療の状況	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
6	【鍼灸学の基礎的理論】 黄帝内経素問、霊枢経、八十一難経など	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
7	【本草学の基礎的理論】 神農本草経、傷寒論など	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形
8	【日本最古の医書】 医心方、金元医学、桃山・江戸時代の実践的医術、その後の日本の漢方医学への影響など	授業内容と自分で調べた内容を、ノートにまとめる。	大形

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②質疑応答時の発言内容	①70% ②30%

授業科目名	システム生理学特論(医療科学専攻)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介、中原　英博、上田　真也	
科目ナンバリング	HFS001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 4 限 金曜 5 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

生体には、血液ガスやpH、血圧、体温、血糖の恒常性維持に必要不可欠な動的フィードバック制御システムが備わっている。本特論では、様々な環境条件下において、生体恒常性を維持すべくダイナミックな振る舞いをみせる生体システムの動作原理や、その動的な制御機構の詳細を系統的に研究分析する方法論の基礎（動物実験を含む）と応用を学ぶ。また最新の研究成果についても解説する。

到達目標

生体システムの構造と機能を理解した上で、細胞・組織・個体レベルでそれらがどのように連携して働いているかを、統合的かつ定量的な視点（システム生理学的視点）から説明できる。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生理学・解剖学の基礎医学知識を身につけていく必要があります。指定教科書やその他の参考書を用いて、人体の仕組みをまずは臓器生理学のレベルで理解することを目標として下さい。

教科書

論文、資料を適宜配布する。

参考書

Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology, 13e (Guyton Physiology)
ISBN-10: 1455770051
ISBN-13: 978-1455770052

研究室／オフィスアワー

五十嵐　淳介／適宜対応する
中原　英博／適宜対応する
上田　真也／適宜対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【システム生理学の基礎】 生体システムの階層の理解	運動の生理学（特に呼吸循環代謝系のダイナミクス）の基本的な知識、生体システムの運動に対するダイナミックな振る舞いを理解するための、周波数解析や伝達関数を用いた定量評価に関する基本的な知識、基本的なアルゴリズムについて再確認しておくこと。	五十嵐
2	生体調節系（呼吸・代謝システム）	呼吸器・代謝系臓器の仕組みを予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
3	生体調節系（循環システム）	生体調節系（循環システム）のブロック線図	中原
4	【動的システムの機能同定①】 生体調節系（呼吸・代謝システム）による血液ガス、pH、血糖　維持調節機構の定量解析		上田
5	【動的システムの機能同定②】 生体調節系（循環・体温調節系）による、血圧、体温維持調節機構の定量解析	循環器の仕組みを予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
6	循環器系のストレス応答（１）	循環器の仕組みを予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
7	循環器系のストレス応答（２）	循環器の仕組みを予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
8	循環器系のストレス応答（３）	循環器の仕組みを予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
9	循環器系のストレス応答（４）	循環器の仕組みを予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習するこ	五十嵐

		と。	
10	フィードバック制御システムの理解（１）	循環器と他の臓器の応答の仕組みについて予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
11	フィードバック制御システムの理解（２）	循環器と他の臓器の応答の仕組みについて予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
12	フィードバック制御システムの理解（３）	循環器と他の臓器の応答の仕組みについて予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
13	フィードバック制御システムの解析（１）	循環器と他の臓器の応答の仕組みについて予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
14	フィードバック制御システムの解析（２）	循環器と他の臓器の応答の仕組みについて予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
15	フィードバック制御システムの解析（３）	循環器と他の臓器の応答の仕組みについて予習しておくこと。講義後は指定教科書・配布資料等を用いて復習すること。	五十嵐
成績評価方法と基準			割合
①講義中の発問・質疑応答 ②レポート DP①③			①70% ②30%

授業科目名	臨床神経解剖学特論(医療科学専攻)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング	HFS002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	水曜４限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

生体活動の基盤は、生体外部あるいは生体内部での環境変化により生じる感覚情報が中枢神経系で処理統合され、その結果として運動が発現し恒常性維持や生活活動が遂行されることで成立している。本特論では、神経系について過去から現在に至る研究方法論や研究成果、知見を検討することを通じて、臨床上重要となる神経系の特性について、神経解剖学の立場から理解を深める。

到達目標

１．生体活動における「形態」と「機能」の関連性について、神経解剖学の立場から説明できる（DP①③）。
２．看護、リハビリテーション、伝統医学、検査技術などの領域で神経系に関連する臨床事項について、神経解剖学的視点から
　　説明できる（DP①③）。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

基本的には論文、資料等の講読により講義を進行する。各講義の事前に論文、資料等を配布するのでその内容について学習しておき、講義時に議論できるように準備しておくこと。

教科書

論文、資料等を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 11）
月曜日午後５時～午後７時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【神経解剖学とは】 神経解剖学の成り立ちについて	神経解剖学の位置付けについて考えて下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
2	【神経解剖学の歴史】 神経解剖学の歴史について	神経解剖学の歴史について考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
3	【神経解剖学の研究方法】 神経解剖学研究手法について	神経解剖学の方法論について考えて下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
4	【咀嚼と嚥下の神経解剖学】 咀嚼、嚥下機能を制御する神経機構について	咀嚼、嚥下機能を制御する神経機構について考察下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
5	【痛みの基礎知識】 痛みの定義と研究の歴史について	痛みの定義と研究の歴史について考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
6	【痛みのメカニズム】 神経系における痛みの伝達システムについて	痛みの伝達メカニズムについて考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
7	【痛みの制御】 痛みの伝達に関わる物質とその特性について	痛みの伝達に関わる物質とその特性について考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
8	【痛みの治療】 鎮痛のメカニズムについて	末梢性の鎮痛メカニズムについて考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
9	【ガンの痛み】 悪性腫瘍に伴う痛みの特性について	悪性腫瘍に伴う痛みの発生メカニズムや緩和の方法について考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
10	【看護と神経解剖学】 看護領域に関連する神経解剖学の基礎知識	アロデニアなど、看護領域で必要となる疼痛管理について考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
11	【リハビリテーションと神経解剖学】 リハビリテーション領域に関連する神経解剖学の基礎知識	複合性局所疼痛症候群（CRPS）など、リハビリテーションの領域で必要となる疼痛管理について考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
12	【伝統医学と神経解剖学】 鍼灸領域に関連する神経解剖学の基礎知識	鍼灸治療による疼痛管理について考察して下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷
13	【検査技術と神経解剖学】 検査技術に関連する神経解剖学の基礎知識	脳波について調べて下さい（予習と復習合わせて４時間）。	森谷

14	【超高齢化と神経解剖学】 高齢化に伴う神経疾患について	神経変性疾患について調べて下さい（予習と復習合わせて 4 時間）。	森谷
15	【健康長寿と神経解剖学】 健康長寿における神経系の賦活について	神経系の賦活について考察して下さい（予習と復習合わせて 4 時間）。	森谷
成績評価方法と基準			割合
①提出物（DP①③）。 ②講義発表内容（DP①③）。			①50% ②50%

授業科目名	分子治療学特論(医療科学専攻)				
主担当教員	荻原 俊男		担当教員	荻原 俊男、川畑 浩久、青木 元邦	
科目ナンバリング	HFS003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

近年さまざまな疾患において、遺伝子や様々な分子を標的とした新たな治療法の可能性が検討されている。これは多くの疾患において組織・細胞に形態的・機能的変化をもたらす中心的な因子が生体内の分子であるとする学問的裏付けに基づいている。本講義では、循環器疾患や運動器疾患を中心に、病態の分子メカニズムを分子生物学的実験手法の説明とともに概説し、関連分子を標的とした治療法の開発手法について講義する。

到達目標

1. 循環器疾患や運動器疾患の発症や病態進展における分子メカニズムを理解できる。〈DP③〉
2. またそれらを探索・検証するための実験方法（分子生物学的手法）についても理解し、研究方法について立案できる。〈DP③〉
3. 分子を標的とした治療法の効果や問題点について、実験的な検証方法を立案し、その結果について解析・考察できる。〈DP①③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
2. 毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、不明な用語や手法、疾患,、病態などについては事前に調べておくこと。
3. 授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

荻原　俊男／適宜対応する
川畑　浩久／適宜対応する
青木　元邦／適宜対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【分子を標的とした治療法の概説】 分子を標的とした治療の概念と方法	予習：分子治療法の概略について調べておくこと。 復習：分子生物学の基礎を学び、分子治療法の基本戦略について復習し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	荻原
2	【高血圧症の分子メカニズム】 高血圧症の発症・病態における分子メカニズム	予習：代表的な生活習慣病である高血圧症について調べておくこと。 復習：高血圧症に関する知識と、その制圧の重要性について復習し、理解を深めること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	荻原
3	【高血圧症と分子治療】 高血圧症に対する分子治療法	予習：高血圧症の治療法の現状について調べておくこと。 復習：高血圧治療の新たな展開である分子治療の現状ついてまとめ、理解を深めること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	荻原
4	【老化と分子治療】 分子治療によるアンチエイジング	予習：アンチエイジング分野における新たな治療戦略の概略について調べておくこと。 復習：抗加齢医学の進歩を学び、アンチエイジング分野における新たな治療戦略を理解すること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	荻原
5	【核酸を標的とした分子治療法】 核酸医薬をもちいた分子治療法	予習：核酸医薬について概略を調べておくこと。 復習：核酸医薬の作用メカニズムを理解し、治療応用が期待されている疾患の病態メカニズ	青木

		ムについても理解を深めること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
6	【虚血性心疾患と分子治療】 虚血性心疾患に対する分子治療法	予習：虚血性心疾患の病態とそれに対する治療法について調べておくこと。 復習：虚血性心疾患に対する分子治療法の基本戦略と現状についてまとめ、レポートを提出すること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	青木
7	【動脈閉塞性疾患と分子治療】 動脈閉塞性疾患に対する分子治療法	予習：閉塞性動脈硬化症の病態とそれに対する治療法について調べておくこと。 復習：閉塞性動脈硬化症に対する分子治療法の基本戦略と現状についてまとめ、理解を深めること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	青木
8	【炎症性疾患と分子治療】 炎症性疾患に対するNF-kBを標的とした分子治療法	予習：アトピー性皮膚炎・炎症性腸疾患・大動脈瘤など各種炎症性疾患に対する治療法について調べておくこと。 復習：アトピー性皮膚炎・炎症性腸疾患・大動脈瘤など各種炎症性疾患に分子治療法の基本戦略と現状についてまとめ、理解を深めること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	青木
9	【関節拘縮と分子治療】 関節拘縮に対するHIF-1 を標的とした分子治療法	予習：関節拘縮の病態について、組織学的な変化や病態関連分子について調べておくこと。 復習：関節拘縮における滑膜組織の線維化メカニズムとこれに対する分子治療法のについて確認、理解しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
10	【自己免疫疾患と分子治療】 関節リウマチに対するサイトカインを標的した分子治療法	予習：関節リウマチの病態について、組織学的な変化や病態関連分子について調べておくこと。 復習：関節リウマチの病態における炎症性サイトカインの関与とそれ対する分子治療法についてまとめ、レポートを提出すること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
11	【骨疾患と分子治療】 骨粗鬆症や骨折修復に対する分子治療法	予習：骨粗鬆症や骨折の病態について、組織学的な変化や病態関連分子について調べておくこと 復習：骨粗鬆症や骨折治療に対する分子治療法について確認、理解しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
12	【分子治療法の検証方法（1)】 分子治療法の作用機序を検証するための組織学的手法（免疫組織化学染色法、in situ hybridization 法）の解説	予習：免疫組織化学染色法、in situ hybridization 法の概略について調べておくこと。 復習：免疫組織化学染色法、in situ hybridization 法の実際について確認、理解しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
13	【分子治療法の検証方法（2)】 分子治療法の作用機序を検証するための分子生物学的手法（mRNA・タンパクの抽出と定量化）の解説	予習：mRNA、タンパクの抽出と定量化の具体的な分析方法の概略について調べておくこと。 復習：mRNA、タンパクの抽出と定量化の具体的な分析手法ならびに結果解析の実際について復習し、理解しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
14	【分子治療の現状と課題】 現在行われている分子治療の現状と課題について	予習：現在行われている分子治療の現状と課題について調査しておくこと。 復習：分子治療の現状と課題についてまとめ、レポートを提出すること。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	青木
15	【分子治療の未来】 分子を標的としたオーダーメイド医療について	予習：分子を標的としたオーダーメイド医療について調査しておくこと。 復習：オーダーメイド医療の現状と課題についてまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	荻原
成績評価方法と基準			割合
1. レポート〈DP①③〉 2. 討論時の発言内容〈DP①③〉 3. 出席は 2/3 とする			①70% ②30%

授業科目名	分子病態検査学特論(医療科学専攻)				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子、森　誠司、前川　佳敬	
科目ナンバリング	HFS004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 2 限 火曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

疾病の本態を解明する、基礎と臨床の両者にまたがった医学・医療の基本となる学問である。

到達目標

1．病因・病態の解明や診断に有用な検査法の理論や手法を説明できる。
2．国際的、学際的な研究の現況や展望などを説明できる。
3．国際的にも通用する自立した研究を実践できる。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。教科書の指定はない。

参考書

Robbins and Cotran: Pathologic Basis of Disease, 8th Edition, Saunders
Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e
Hypertension: A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e
The Biology of Cancer 2nd edition: Robert A. Weinberg, Garland Science

研究室／オフィスアワー

上田　真喜子／C 棟研究室５ ： 在室時には、いつでも訪問可です。
森　誠司／月５限以降。これ以外は事前に問い合わせてください。
前川　佳敬／C 棟研究室８：部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【血管内皮細胞】 血管内皮細胞の傷害と、修復・再生	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
2	【血管平滑筋細胞】 血管平滑筋細胞の脱分化・増殖・再分化メカニズム	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
3	【白血球と動脈硬化】 動脈硬化の進展・不安定化メカニズムにおける好中球、単球／マクロファージの関与	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
4	【血栓形成機構】 動脈硬化の進展・不安定化における血小板血栓形成メカニズムと、赤血球血栓増大メカニズム	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
5	【酸化ＬＤＬと動脈硬化】 動脈硬化の形成・進展・不安定化における酸化—抗酸化バランス破綻と、酸化ＬＤＬの意義	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
6	【血液バイオマーカー】 動脈硬化の進展・不安定化における種々の血液バイオマーカーの動態と、早期診断への応用	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
7	【動脈硬化とステント治療】 動脈硬化症に対するステント治療と、その後の新生内膜形成・再狭窄メカニズム	学修内容について、予習・復習をすること。	上田
8	【循環器疾患】 心疾患、高血圧症における各種検査法		前川
9	【遺伝子】 高血圧症、動脈硬化における遺伝的素因		前川
10	【薬物治療】 各種検査による薬効評価方法		前川

11	【生命予後】 各種検査を用いた生命予後の推測		前川
12	【がんの微小環境】 がんに特有な微小環境と悪性化との関連性		森
13	【がんの浸潤転移】 がんの浸潤・転移の分子メカニズム		森
14	【がんと血管新生】 がんの増殖と血管新生の分子メカニズム		森
15	【細胞外マトリックスとがん】 細胞外マトリックスと癌細胞の相互作用		森
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②質疑応答時の発言内容 DP①③			①70% ②30%

授業科目名	介護予防技術開発特論(医療科学専攻)				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬、前田 薫、松下 太	
科目ナンバリング	MTD001	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	火曜 3 限 木曜 2 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

医療科学の視点から、介護を要する疾患のリスク因子を知り、健康寿命延伸のために効果的な介入を紹介する。さらに、介入自体の妥当性を検証し、その効果判定について講義する。ポピュレーションアプローチとしての 1 次予防、虚弱高齢者に対する 2 次予防および疾患の重度化予防である 3 次予防における代表的な介入について講義する。

到達目標

1. 介護を要する疾患のリスクおよび介護予防に効果的な介入を文献レビューし、医療科学的な視点から深い洞察を加えることが
できる。<DP①③>
2. 1, 2, 3 次予防の必要性を医療科学的な視点で説明できる。<DP①③>
3. 自身が行う予定の特別研究において、介護予防介入を計画することができる。<DP①③>

履修上の注意(学生へのメッセージ)

オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関する論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。教科書の指定はない。

参考書

質疑に応じて、適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

前川　佳敬／C 棟研究室 8：部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。
前田　薫／適宜対応する
横井　賀津志／木曜日 2 限目（10：40-12：10）

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	【介護予防概論】 介護予防の概念および健康寿命延伸のための戦略	予習：健康寿命に関連する文献レビュー（2 時間）. 復習：講読した論文をレビュー表にまとめる（2 時間）.	横井
2	【高齢医療学概論】 老化のメカニズムと病態の理解	老化に関連する文献レビュー	前川
3	【高齢者総合機能評価】 高齢者の生活機能評価と臨床応用	高齢者生活機能評価に関する文献レビュー	前川
4	【多職種連携】 高齢者ケアにおけるチーム医療	高齢者ケアに関する文献レビュー チーム医療に関する文献レビュー	前川
5	【包括的医療】 高齢者における全人的医療	高齢者に関する総説を読み解き、高齢者医療を考察する	前川
6	【高齢者の立位バランス】 当該テーマに関するに関する基礎研究のレビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田
7	【高齢者の歩行安定性】 当該テーマに関するに関する基礎研究のレビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田
8	【高齢者の立位バランスと歩行安定性の評価】 立位バランスと歩行安定性の評価法に関する研究のレビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田
9	【高齢者の立位バランスの改善の試み】 該テーマに関する文献レビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田
10	【高齢者の歩行安定性の改善の試み】 該テーマに関する文献レビュー	事前に配布する文献を読み、不明点を明らかにしておく。	前田

11	【認知症発症のリスク因子】 認知症発症を結果指標とした疫学研究	予習：認知症発症のリスクに関する文献レビュー， 認知機能低下抑制に関する文献レビュー（2 時間） 復習；講読した論文の文献レビュー表を作成する（2 時間）.	横井
12	【認知症予防のための介入技術】 認知症予防のエビデンス	予習・復習：認知症予防に関する総説を講読する（4 時間）.	横井
13	【転倒発生のリスク因子】 転倒発生を結果指標とした疫学研究	予習:転倒のリスクに関する文献レビュー（2 時間）. 復習：講読した論文の文献レビュー表を作成する（2 時間）.	横井
14	【転倒予防のための介入技術】 転倒予防のエビデンス	予習・復習：転倒予防に関する総説を講読する（4 時間）.	横井
15	【介護予防介入のための効果判定】 認知症予防・転倒予防の効果判定指標	予習・復習：認知症予防・転倒予防介入の原著論文を講読する（4 時間）.	横井
成績評価方法と基準			割合
①課題レポート＜DP①③＞ ②質疑応答時に発言内容＜DP①③＞			①70% ②30%

授業科目名	鍼灸医療技術開発特論(医療科学専攻)				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元、山下　仁	
科目ナンバリング	MTD002	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	火曜 4 限
授業形態	講義	単位数	2	必修･選択	選択

授業概要

鍼灸が現代医療に導入されるにあたって必要な臨床的エビデンス、臨床応用可能性の検証法、治療技術開発および臨床応用の前例などを学ぶ。鍼灸における臨床研究手法、トランスレーショナル・リサーチの例、安全性検証法、安全技術の開発手法、灸の組織再生補助技術、鍼と脳高次機能解析などの知識と技法について学修する。

到達目標

鍼灸の臨床的エビデンスと研究方法を検証する。
1. ランダム化比較試験とその対照群の設定方法、安全性検証のための前向き調査の方法について理解している。。〈DP①〉
2. 安全な施術のために必要な器具・機器の仕様、およびその国際的規格とその開発方法について説明できる。（山下／7 回）〈DP③〉
3. 灸を用いた組織再生補助技術としての電気生理学的手法、免疫組織化学染色法の検証方法を理解している。〈DP③〉
4. 鍼灸刺激と脳誘発電位測定を用いた脳活動の関連性と方法論について説明できる。〈DP③〉
5. 未病対策としての鍼灸の応用可能性について説明できる。（仲西／8 回）〈DP③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

オムニバス方式による講義で、知識・実例の解説と質疑応答を交えながら進行する。
毎回のテーマに関わる論文、記事、資料を事前に指定するので目を通し、授業後には自身の専門分野と予定している研究テーマに当てはめて未解決の課題を抽出すること。
復習・予習は各時間行うこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。書籍等は特に指定しない。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

仲西　宏元／東棟 4 階研究室９、昼休み随時相談
山下　仁／東棟 4 階研究室 24、昼休み随時相談

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	【臨床研究方法論概論】 研究方法論とエビデンス・レベル、薬剤臨床試験と鍼灸臨床研究の違い	エビデンス・レベルについて予習すること	
2	【鍼灸のランダム化比較試験】 ランダム化比較試験の実際、実施上のルール、報告基準（CONSORT、STRICTA）	ランダム化比較について予習すること	
3	【鍼灸のメタアナリシス】 データの統合、バイアス・リスク、GRADE システム	メタアナリシスについて予習すること	
4	【基礎と臨床の橋渡し】 鍼灸におけるトランスレーショナル・リサーチの解釈と実例		
5	【安全性検証(1)】 主な検証方法論、有効性検証との違い		
6	【安全性検証(2)】 多施設前向き調査の手法と実例		
7	【安全性検証(3)】 安全性向上技術の手法、環境設定、臨床現場へのフィードバック		
8	【電気生理学】 電気生理学の基礎と応用		
9	【臨床生理学】 末梢神経再生測定に関わる誘発電位の方法論		
10	【神経科学】 神経科学の基礎と応用		

11	【神経科学研究(1)】 末梢神経再生に関わる免疫組織学の方法論		
12	【神経科学研究(2)】 神経系における各種活性物質の形態学的研究の方法論		
13	【神経科学研究(3)】 脳と誘発電位の測定方法論		
14	【神経科学研究(4)】 高次機能と神経活動の記録方法論(1)		
15	【神経科学研究(5)】 高次機能と神経活動の記録方法論(2)		
成績評価方法と基準			割合
①レポート。〈DP①、③〉 ②質疑応答時の発言内容。〈DP③〉			①70% ②30%

授業科目名	看護技術開発特論(医療科学専攻)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美、吉村　弥須子	
科目ナンバリング	MTD003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	月曜 3 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択

授業概要

看護技術は多様な分類が可能であるが、ここではあらゆる場において直接、対象にはたらきかけるものを言う。看護技術は看護機能の根幹をなす重要な領域であり、今日では Evidence-Based Nursing(以下 EBN)の考え方が重視されている。一方でケアを受ける対象のニーズの多様化によって看護技術の展開は経験に頼らざるを得ない場合や、試行錯誤に終始することも多い。そこで本科目では、わが国における看護技術の現況を概観し、ある領域の対象の特定のニーズを検討、それに対する看護技術を開発・評価するための知識と方法を論じる。

到達目標

1. 看護技術の概念について説明することができる。
2. 看護にはどのような技術があるか、分類することができる。
3. 看護技術の特徴(構成要素とそれらの関係)を説明することができる。
4. 看護技術における今日的な課題について、自己の考えを述べることができる。
5. 自己のこれまでの経験をもとに、臨床的あるいは基本的な看護技術の問題について、焦点化することができる。
6. 問題視した特定領域の看護技術開発について新たな方向性や方法を提案できる。DP①③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本科目の履修までに、自己の臨床あるいは教育の経験のなかから看護技術における「こだわり」を整理し、考えをまとめて臨んで下さい。

教科書

教科書は使用せず、文献を用いる。

参考書

単行本や文献・資料を適宜提供する。

研究室／オフィスアワー

村上　生美／適宜対応する
吉村　弥須子／適宜対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	看護技術観の明確化①	予習：技術の概念についてまとめる。 復習：ディスカッションした技術観をまとめておく。 4 時間。	村上・吉村
2	看護技術観の明確化②	同上。4 時間。	村上・吉村
3	看護技術の分類①	予習：看護実践の領域における技術の特徴を考察しておく。 復習：講義におけるディスカッションをまとめ、必要時文献でカバーする。4 時間。	村上・吉村
4	看護技術の分類②	予習：分類したものから解決の必要な課題を検出する。 復習：課題の文献検索。4 時間。	村上・吉村
5	看護技術の分類③	同上。4 時間。	村上・吉村
6	患者のニーズに対応する看護技術の評価①	予習：関心があり、解決の可能性が高い技術の焦点化を試みる。 復習：焦点化したものについて、文献検索、多方面の情報を収集する。4 時間。	村上・吉村
7	患者のニーズに対応する看護技術の評価②	同上。4 時間。	村上・吉村
8	患者のニーズに対応する看護技術の評価③	同上。4 時間。	村上・吉村
9	患者のニーズに対応する看護技術の評価④	同上。4 時間。	村上・吉村
10	患者のニーズに対応する看護技術の評価⑤	同上。4 時間。	村上・吉村

11	患者のニーズに対応する看護技術の評価⑥	同上。4 時間。	村上・吉村
12	新たな視点を取り入れた技術の提案①	予習：提案する技術の媒体を作成する。 復習：提案結果を検証する。4 時間。	村上・吉村
13	新たな視点を取り入れた技術の提案②	同上。4 時間。	村上・吉村
14	新たな視点を取り入れた技術の提案③	同上。4 時間。	村上・吉村
15	プレゼンテーションの後、新たな視点を取り入れた技術の提案を総合評価する。	予習：プレゼンテーション準備。 復習：レポート作成。4 時間。	村上・吉村
成績評価方法と基準			割合
看護技術の現状認識、看護実践の現状分析、根拠のある提案、プレゼンテーション力。DP①③			100%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:五十嵐)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

前半は特別研究で用いようとしている研究手法について、論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、運動器疾患の治療を行っている医療機関や接骨院などの臨床現場を観察させ、疾患の病態および現在行われている施術の正当性や問題点などを、組織学ならびに分子生物学的な視点から抽出し、詳細な病態把握と施術法の有効性や安全性について基礎医学的な観点から検証する。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる各種実験手法の理論を理解している。
２．実験標本を作製し、各種検出法（免疫組織化学的染色、in situ hybridization 法、ウエスタンブロット法、RT-PCR 法など）を実践し、病態を分析できる。
３．組織学ならびに分子生物学的な観点で病態を理解し、施術法の有効性や安全性を示すための仮説を立案できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は組織学および分子生物学の基礎を学び、組織学を利用した種々の実験手法の理論を理解し、実際に実験手法を修得する。後半は医療機関や接骨院での疾患病態やその施術の実際を観察・記録し、正当性や問題点を抽出・分析する。
授業で確実に実験結果を分析できるようにするために、各実験手法の理論ならびに分析法に関しては事前に予習しておくこと。また現場観察に向けて、骨・関節ならびに筋疾患の病態や施術法についての知識を事前に予習しておくこと。

教科書

1. 標準整形外科第 12 版. 松野丈夫、中村利孝 総編集者/馬場久敏ほか 編集. 医学書院. 2014 年.
2. Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology, 13e (Guyton Physiology、ISBN-10: 1455770051、ISBN-13: 978-1455770052)

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

適宜対応する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	動物実験に関する倫理教育	動物実験を行うにあたり、関連法律について予習しておくこと。	五十嵐
2	組織学、分子生物学の基礎	組織学、分子生物学の概念ならびに実験方法について予習しておくこと。	五十嵐
3	組織学的実験手法の理解と実践（1）	組織採取法と組織切片（パラフィン切片および凍結切片）の作製手法について予習しておくこと。	五十嵐
4	組織学的実験手法の理解と実践（2）	各種染色（HE 染色、細胞外基質の各染色法）の理論と実験手法について予習をしておくこと	五十嵐
5	組織学的実験手法の理解と実践（3）	免疫組織化学的染色、in situ hybridization の理論と実験手法について予習をしておくこと	五十嵐
6	組織学的実験による病態解析（1）	組織学的実験による骨疾患（骨粗鬆症、骨折修復）病態解析について予習をしておくこと	五十嵐
7	組織学的実験による病態解析（2）	組織学的実験による関節・筋疾患（関節拘縮、筋損傷）病態解析について予習をしておくこと	五十嵐
8	臨床現場観察（1）	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること	五十嵐
9	臨床現場観察（2）	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること	五十嵐
10	臨床現場観察（3）	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること	五十嵐

11	臨床現場観察（4）	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること	五十嵐
12	臨床現場観察（5）	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること	五十嵐
13	臨床現場観察（6）	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること	五十嵐
14	臨床現場観察（7）	臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出し、検討すること	五十嵐
15	総括と方策立案	前半で学んだ組織学的および分子生物学的な知識を応用して、臨床現場で観察した疾患の病態ならびに施術に対する有効性、安全性について分析し、研究の方策を立案、構想する	五十嵐

成績評価方法と基準	割合
1. レポート提出（提出については適宜指示いたします。） 2. 討論時の発言内容 3. 4/5 以上の出席が必要 DP①②③	1. 70% 2. 30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:青木)				
主担当教員	青木 元邦		担当教員	青木 元邦	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

前半は特別研究で用いようとしている実験手法について理論と手法を体得させる。
後半は、臨床現場における疾患治療等の観察・分析から既存治療の問題点を抽出し、分子生物学的アプローチで新規治療概念構築の可能性を検証する。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は分子生物学の基礎を学び、分子生物学を利用した種々の実験手法の理論を理解する。実際に手技を行い、手法を獲得する。後半は医療機関（病院）で疾患・治療の実際を観察・記録し、治療上の問題点を分析する。授業で確実に実験手法獲得できるようにするため、実験手法の理論に関して事前に予習しておくこと。また、現場観察に向けて、高血圧、骨・軟骨疾患についての知識を事前に予習しておくこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Bruce Alberts「Essential Cell Biology」(Garland Science,4th Edition)

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	分子生物学の基礎： 分子生物学の概念を理解する。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	動物実験に関する倫理教育： 動物実験を行うにあたり、関連法律の理解し、必要な倫理教育を受ける。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
3	分子生物学的実験手法の理解と実践（１）： 免役組織染色法の理論理解と手技の獲得（１）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
4	分子生物学的実験手法の理解と実践（２）： 免役組織染色法の理論理解と手技の獲得（２）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
5	分子生物学的実験手法の理解と実践（３）： mRNA 抽出法の理論理解と手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
6	分子生物学的実験手法の理解と実践（４）： PCR(polymerase chain reaction)(ポリメラーゼ連鎖反応)の理論理解	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
7	分子生物学的実験手法の理解と実践（５）： PCR の手技の獲得	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
8	臨床現場観察（１）： 医療機関（病院）の参与観察、事象記録（１）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

9	臨床現場観察（２）： 医療機関（病院）の参与観察、事象記録（２）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
10	臨床現場観察（３）： 医療機関（病院）の参与観察、事象記録（３）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
11	臨床現場観察（４）： 医療機関（病院）の参与観察、事象記録（４）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
12	臨床現場観察（５）： 医療機関（病院）の参与観察、疾患治療における課題の分析（１）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
13	臨床現場観察（６）： 医療機関（病院）の参与観察、疾患治療における課題の分析（２）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
14	臨床現場観察（７）： 医療機関（病院）の参与観察、疾患治療における課題の分析（３）	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
15	総括と研究構想： 現場で見出した疾患治療における課題を解決しうる治療概念を、本演習前半で学んだ分子生物学的実験手法の知識を応用して構想する。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②討論時の発言内容で評価する。 DP①②③	①70% ②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:森)				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。
前半は検査医学領域における分子生物学的、細胞生物学的な研究手法について論文や資料を読み教員と討論し、特別研究への導入について議論する。
後半は、遺伝子検査・染色体検査を行っている病院・検査センターにおいて臨床現場を観察させ、遺伝子・染色体検査の現状とかかえる課題を抽出させる。これらの課題に対して検査の種別ごとに原因について分析し改善法を考察する。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。
最新の遺伝子検査の精度管理に関する論文・資料を事前に検索・入手し通読しておくこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要に応じて、適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

E メールにて事前に都合を問い合わせること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	遺伝子検査の品質管理： 検体の種類や検査の目的に応じた適切な処理について議論する。	検体の種類や検査の目的に応じた適切な処理について議論する。	
2	遺伝子検査の品質管理： 検体の種類や検査の目的に応じた適切な処理について議論する。	検体の種類や検査の目的に応じた適切な処理について議論する。	
3	遺伝子検査の標準化： 遺伝子検査の標準化について議論する。	遺伝子検査の標準化について議論する。	
4	遺伝子検査の標準化： 遺伝子検査の標準化について議論する。	遺伝子検査の標準化について議論する。	
5	次世代技術と遺伝子検査： 技術革新の著しい解析技術とその遺伝子検査室への導入について議論する。	技術革新の著しい解析技術とその遺伝子検査室への導入について議論する。	
6	次世代技術と遺伝子検査： 技術革新の著しい解析技術とその遺伝子検査室への導入について議論する。	技術革新の著しい解析技術とその遺伝子検査室への導入について議論する。	
7	遺伝子検査の展望： 遺伝子検査と個別化医療について議論する。	遺伝子検査と個別化医療について議論する。	
8	臨床現場観察（1）： 遺伝子検査室の参与観察	遺伝子検査室の参与観察、	
9	臨床現場観察（2）： 遺伝子検査室の参与観察	遺伝子検査室の参与観察、	
10	臨床現場観察（3）： 遺伝子検査室の参与観察	遺伝子検査室の参与観察	
11	臨床現場観察（4）： 遺伝子検査室の参与観察	遺伝子検査室の参与観察、	

12	臨床現場観察（5）： 遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析	遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析	
13	臨床現場観察（6）： 遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析	遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析	
14	臨床現場観察（7）： 遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析	遺伝子検査室の参与観察、課題抽出、分析	
15	将来展望と総括： 前半での議論と現場での観察から総合的に遺伝子検査の現状と将来展望について議論する。	前半での議論と現場での観察から総合的に遺伝子検査の現状と将来展望について議論する。	
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②討論時の発言内容で評価する。DP①②③			①70% ②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:前川)				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。
前半は特別研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を模索し体得させる。
後半は、病院・検査センターにおいて臨床現場を観察させ、手法、精度、安全性、検査プロセス、情報管理等に関する課題を抽出させる。これら課題に対して検査の種別ごとに原因について分析し改善法を考察する。

到達目標

1. 自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は、論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。
動脈硬化検査・評価やブラーク不安定化の検査・評価に関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。

教科書

Henry's Clinical Diagnosis & Management by Laboratory Methods, 23rd ed.
R.A.McPherson, M.R.Pincus SAUNDERS 2017 年

参考書

Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e
Hypertension: A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	疾患と病態検査	病因・病態の解明や診断に有用な理論や手法を議論	
2	疾患と病態検査	病因・病態の解明や診断に有用な理論や手法を議論	
3	臨床病態の解明とオーダーメイド医療	病因・病態の解明によるオーダーメイド医療について議論	
4	臨床病態の解明とオーダーメイド医療	病因・病態の解明によるオーダーメイド医療について議論	
5	次世代技術と病態検査	技術革新の著しい解析技術とその病態検査への導入について議論	
6	次世代技術と病態検査	技術革新の著しい解析技術とその病態検査への導入について議論	
7	病態検査の展望	病態検査と個別化医療について議論	
8	臨床現場観察（1）	臨床施設の参与観察	
9	臨床現場観察（2）	臨床施設の参与観察	
10	臨床現場観察（3）	臨床施設の参与観察	
11	臨床現場観察（4）	臨床施設の参与観察	
12	臨床現場観察（5）	臨床施設の参与観察、課題抽出、分析	
13	臨床現場観察（６）	臨床施設の参与観察、課題抽出、分析	

14	臨床現場観察（7）	臨床施設の参与観察、課題抽出、分析	
15	総括	前半での議論と現場での観察から総合的に分子病態検査の現状と将来展望についての検討	
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②討論時の発言内容で評価する。 DP①②③			①70% ②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:中原)				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

前半は特別研究で用いようとしている適応生理学の研究手法について論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を模索し体得させる。
　後半は、外部の臨床施設を観察させ、医療における適応生理学的な研究の位置づけや展開について考察させる。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。

教科書

Karlman Wasserman「Principles of Exercise Testing and Interpretation: Including Pathophysiology and Clinical Applications」(Wolters Kluwer,5 th Edition)
William D. McArdle「Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance 」(Wolters Kluwer,8 th Edition)

参考書

John E. Hall「Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology」(W.B. SAUNDERS COMPANY, 13th Edition, 2015 年)
松井　豊「心理測定尺度集Ⅲ」(サイエンス社, 2011 年)

研究室／オフィスアワー

水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	適応生理学（1）	生体の短期的適応に関する最新英語文献の講読と討論	
2	適応生理学（2）	生体の長期的適応に関する最新英語文献の講読と討論	
3	心理的指標の測定と評価	研究テーマに必要な心理的指標に関する方法論の解説とそれに関連する英語文献の講読と討論	
4	生理的指標の測定と評価（1）	研究テーマに必要な呼吸機能評価に関する方法論の解説とそれに関連する英語文献の講読と討論	
5	生理的指標の測定と評価（2）	研究テーマに必要な循環系の形態及び機能評価に関する方法論の解説とそれに関連する英語文献の講読と討論	
6	測定データの分析評価（１）	研究テーマに必要な測定データの分析法の解説とそれに関する最新英語文献の講読と討論（１）	
7	測定データの分析評価（２）	研究テーマに必要な測定データの評価法の解説とそれに関する最新英語文献の講読と討論（２）	
8	臨床現場観察（１）	臨床施設の観察、事象記録、病態分析（１）	

9	臨床現場観察（2）	臨床施設の観察、事象記録、病態分析（２）	
10	臨床現場観察（3）	臨床施設の観察、事象記録、病態分析（３）	
11	臨床現場観察（4）	臨床施設の観察、事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析（１）	
12	臨床現場観察（5）	臨床施設の観察、事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析（２）	
13	臨床現場観察（6）	臨床施設の観察、事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析（３）	
14	臨床現場観察（7）	臨床施設の観察、事象記録、患者と治療法の適応生理学的分析（４）	
15	総括	前半に読んだ先行研究の内容および修得した研究手法を踏まえて、臨床応用可能な生理・心理データの解釈や利用法を考案	
成績評価方法と基準			割合
1）レポート70%、2）討論時の発言内容30%で評価する。 DP①②③			1）70% 2）30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:森谷)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

前半は特別研究で検討しようとしている研究テーマについて、先行論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な手法と目標を設定させ、動物実験にあたっての研究倫理と手技について身につけていく。
後半は、臨床施設において口腔顔面領域の疾患をもつ患者や治療の現状を観察・記録させ、特別研究で行おうとしている研究テーマとの関連性や研究展開法について考察させる。

到達目標

1. 自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

論文・資料の講読と討論を中心に学習する。自身の特別研究に関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

研究室在室時には、いつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	咀嚼運動制御に関わる神経機構	学修内容について、予習をして理解すること。	
2	咀嚼運動制御に関わる神経機構	学修内容について、予習をして理解すること。	
3	呼吸運動制御に関わる神経機構	学修内容について、予習をして理解すること。	
4	電気生理の基礎知識	学修内容について、予習をして理解すること。	
5	神経解剖学の基礎知識	学修内容について、予習をして理解すること。	
6	神経トレーサーの基礎知識	学修内容について、予習をして理解すること。	
7	口腔顔面領域の神経解剖学	学修内容について、予習をして理解すること。	
8	臨床現場観察（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
9	臨床現場観察（2）	学修内容について、予習をして理解すること。	
10	臨床現場観察（3）	学修内容について、予習をして理解すること。	
11	臨床現場観察（４）	学修内容について、予習をして理解すること。	
12	臨床現場観察（５）	学修内容について、予習をして理解すること。	
13	臨床現場観察（６）	学修内容について、予習をして理解すること。	

14	臨床現場観察（７）	学修内容について、予習をして理解すること。	
15	総括と方策立案	前半に習得した知識・技術と後半の臨床現場の知見を統合して、臨床神経解剖学的な立場からみた研究方法の可能性と具体的な検証法を立案	
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②討論時の発言内容で評価する。 DP①②③			①70% ②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:上田 真喜子)				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

　前半は特別研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を模索し体得させる。
　後半は、動脈硬化の診断・治療、血管インターベンション治療、循環器病の診断・治療などを行っている病院において臨床現場を見学させて、現在の動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化の検査・評価についての現状把握とともに問題点を抽出させる。そして、未解決の課題について、解析していく方向性と方法論を考案させる。

到達目標

1. 自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は、論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。
動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化の検査・評価に関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Robbins and Cotran : Pathologic Basis of Disease, 8th Edition, Saunders
Braunwald's Heart Disease : A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e

研究室／オフィスアワー

研究室在室時には、いつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	虚血性心疾患： 虚血性心疾患に関する最新英語文献の講読と討論	学修内容について、予習をして理解すること。	
2	不安定プラークの病理検査学： 不安定プラークの病理検査学に関する最新英語文献の講読と討論	学修内容について、予習をして理解すること。	
3	不安定プラークの画像検査学（１）： 不安定プラークの画像検査学に関する最新英語文献の講読と討論（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
4	不安定プラークの画像検査学（２）： 不安定プラークの画像検査学に関する最新英語文献の講読と討論（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
5	プラーク不安定化と血栓検査学（１）： プラーク不安定化と血栓検査学に関する最新英語文献の講読と討論（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	

6	プラーク不安定化と血栓検査学（２）： プラーク不安定化と血栓検査学に関する最新英語文献の講読と討論（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
7	プラーク不安定化とバイオマーカー（１）： プラーク不安定化とバイオマーカーに関する最新英語文献の講読と討論（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
8	プラーク不安定化とバイオマーカー（２）： プラーク不安定化とバイオマーカーに関する最新英語文献の購読と討論（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
9	臨床現場観察（１）： 臨床施設での観察、事象記録、分析（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
10	臨床現場観察（２）： 臨床施設での観察、事象記録、分析（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
11	臨床現場観察（３）： 臨床施設での観察、事象記録、分析（３）	学修内容について、予習をして理解すること。	
12	臨床現場観察（４）： 臨床施設での観察、問題点の分類と分析（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
13	臨床現場観察（５）： 臨床施設での観察、問題点の分類と分析（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
14	臨床現場観察（６）： 臨床施設での観察、問題点の分類と分析（３）	学修内容について、予習をして理解すること。	
15	総括と方策立案： 前半に読んだ先行研究の内容を参考にして、動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化の検査・評価に関する未解決課題を解決するための方策・方法を立案	前半に読んだ先行研究の内容を参考にして、動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化の検査・評価に関する未解決課題を解決するための方策・方法を立案	
成績評価方法と基準			割合
①レポート ②討論時の発言内容で評価する。 DP①②③			①70% ②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:川畑)				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日･時限	金曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

前半は特別研究で用いようとしている研究手法について、論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、運動器疾患の治療を行っている医療機関や接骨院などの臨床現場を観察させ、疾患の病態および現在行われている施術の正当性や問題点などを、組織学ならびに分子生物学的な視点から抽出し、詳細な病態把握と施術法の有効性や安全性について基礎医学的な観点から検証する。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる各種実験手法の理論を理解している。
２．組織標本を作製し、各種染色法（免疫組織化学的染色、in situ hybridization 法）を実践し、病態を分析できる。
３．組織学ならびに分子生物学的な観点で病態を理解し、施術法の有効性や安全性を示すための仮説を立案できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は組織学および分子生物学の基礎を学び、組織学を利用した種々の実験手法の理論を理解し、実際に実験手法を修得する。後半は医療機関や接骨院での疾患病態やその施術の実際を観察・記録し、正当性や問題点を抽出・分析する。
　授業で確実に実験結果を分析できるようにするために、各実験手法の理論ならびに分析法に関しては事前に予習しておくこと。また現場観察に向けて、骨・関節ならびに筋疾患の病態や施術法についての知識を事前に予習しておくこと。

教科書

1. 標準整形外科第 13 版.中村利孝、松野丈夫 監修. 医学書院. 2017 年. ISBN978-4-260-02537-9.
2. Kawahata H, et al. Continuous infusion of angiotensin II modulates hypertrophic differentiation and apoptosis of chondrocytes in cartilage formation in a fracture model mouse. Hypertens Res. 38: 382-393. 2015.
3. Sotobayashi D, et al. Therapeutic effect of intra-articular injection of ribbon-type decoy oligonucleotides for hypoxia inducible factor-1 on joint contracture in an immobilized knee animal model. J Gene Med. 18: 180-92. 2016.
4. このほか論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

1. 骨関節疾患. 宮坂信之、野田政樹、西岡久寿樹編集. 朝倉書店. 2012 年.
2. Orthopaedic Pathology, 5th ed. P. G. Bullough. MOSBY UK（南江堂）. 2010 年.
3. Bone and Cartilage 2ed: Developmental and Evolutionary Skeletal Biology. Academic Press, INC（南江堂）. 2015 年.
4. Robbin Basic Pathology, 9th ed., with Online Access. V. Kumar, A. K. Abbas, J. C. Aster. SAUNDERS（南江堂）. 2013 年.
5. Essential 細胞生物学(原書第 4 版）. 中村 桂子、松原 謙一監訳. 南江堂. 2016 年.
6. 遺伝子工学 第 2 版（新バイオテクノロジーテキストシリーズ）. NPO 法人日本バイオ技術教育学会監修、村山洋ほか著. 講談社サイエンティフィック. 2013 年.

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	動物実験に関する倫理教育	予習：動物実験を行うにあたり、関連法律について予習しておくこと。 復習：講義で学んだ動物実験の関連法律について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
2	組織学、分子生物学の基礎	予習：組織学、分子生物学の概念ならびに実験方法について予習しておくこと。 復習：講義で学んだ組織学、分子生物学の概念ならびに実験方法について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
3	組織学的実験手法の理解と実践（1）	予習：組織採取法と組織切片（パラフィン切片、凍結切片）の作製手法について予習しておくこと。 復習：講義で学んだ組織採取法と組織切片の作製手法について復習しておくこと（配布資料参	川畑

		照)。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
4	組織学的実験手法の理解と実践（2）	予習：各種染色（HE 染色、細胞外基質の各染色法）の理論と実験手法について予習をしておくこと。 復習：講義で学んだ各種染色法について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
5	組織学的実験手法の理解と実践（3）	予習：免疫組織化学的染色、in situ hybridization の理論と実験手法について予習をしておくことの理論と実験手法について予習をしておくこと。 復習：講義で学んだ免疫組織化学的染色、in situ hybridization について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
6	組織学的実験による病態解析（1）	予習：骨疾患（骨粗鬆症、骨折修復）の病態について予習をしておくこと。 復習：講義で学んだ骨疾患（骨粗鬆症、骨折修復）の病態について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
7	組織学的実験による病態解析（2）	予習：関節・筋疾患（関節拘縮、筋損傷）の病態について予習をしておくこと。 復習：講義で学んだ関節・筋疾患（関節拘縮、筋損傷）の病態について復習しておくこと（配布資料参照）。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
8	臨床現場観察（1）	予習：臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出しておくこと。 復習：臨床施設で観察した疾患の病態把握と施術法の有効性や安全性について、検討した結果についてまとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
9	臨床現場観察（2）	予習：臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出しておくこと。 復習：臨床施設で観察した疾患の病態把握と施術法の有効性や安全性について、検討した結果についてまとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
10	臨床現場観察（3）	予習：臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出しておくこと。 復習：臨床施設で観察した疾患の病態把握と施術法の有効性や安全性について、検討した結果についてまとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
11	臨床現場観察（4）	予習：臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出しておくこと。 復習：臨床施設で観察した疾患の病態把握と施術法の有効性や安全性について、検討した結果についてまとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
12	臨床現場観察（5）	予習：臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出しておくこと。 復習：臨床施設で観察した疾患の病態把握と施術法の有効性や安全性について、検討した結果についてまとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
13	臨床現場観察（6）	予習：臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出しておくこと。 復習：臨床施設で観察した疾患の病態把握と施術法の有効性や安全性について、検討した結果についてまとめておくこと。	川畑
		なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
14	臨床現場観察（7）	予習：臨床施設の参与観察、事象記録をもとに、病態把握と施術法の有効性や安全性について課題を抽出しておくこと。 復習：臨床施設で観察した疾患の病態把握と施術法の有効性や安全性について、検討した結果についてまとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	川畑
15	総括と方策立案	予習：前半で学んだ組織学的および分子生物学的な知識を応用して、臨床現場で観察した疾患の病態ならびに施術に対する有効性、安全性についての研究の方策を立案しておくこと。 復習：講義での討論の内容もあわせて、臨床現場で観察した疾患の病態ならびに施術に対する有効性、安全性についての分析結果や研究方策をまとめておくこと。	川畑
成績評価方法と基準			割合
1. レポート提出（提出については適宜指示いたします。） 2. 討論時の発言内容 3. 4/5 以上の出席が必要 DP①②③			1. 70% 2. 30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:前田)				
主担当教員	前田　薫		担当教員	前田　薫	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

新たな技術および評価法の開発においては、まず、既存の手法を知り、それらを実施できること（または実施経験）が重要である。この授業では、（１）姿勢制御能の計測と評価法を習得すること、（２）医療・介護現場での計測実施状況の観察を通してその計測・評価法の課題をあげられるようになることを目指す。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

英語論文の講読が多数回あるが、英文の理解ではなく研究内容についての討論を行うために配布された文献の内容を事前に理解するよう努めること。

教科書

論文等の資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	姿勢制御能の評価に関する英語文献の講読と討論	都度、指導教員の指示に従うこと。	
2	姿勢制御能の評価に床反力計を用いた論文の講読と討論、測定の実施	都度、指導教員の指示に従うこと。	
3	姿勢制御能の評価に加速度計を用いた論文の講読と討論、測定の実施	都度、指導教員の指示に従うこと。	
4	生体アンプの使用法、および姿勢制御能の評価に筋電図を用いた論文の講読と討論	都度、指導教員の指示に従うこと。	
5	筋活動の測定を実施する	都度、指導教員の指示に従うこと。	
6	姿勢制御能の評価に脳電位を用いた論文の講読と討論	都度、指導教員の指示に従うこと。	
7	姿勢制御課題中の脳活動を測定する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	
8	姿勢制御能の評価に動作解析を用いた論文の講読と討論、３次元動作の記録と分析の実施	都度、指導教員の指示に従うこと。	
9	介護・医療現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	
10	介護・医療現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	
11	介護・医療現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	
12	介護・医療現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	
13	介護・医療現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	
14	介護・医療現場に赴き、そこで高齢者および患者に対して行われている姿勢制御能の評価を観察し、測定・評価法の課題について討論する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	
15	姿勢制御能の評価法の歴史と現状について、プレゼンテーションを行い、討論する。	都度、指導教員の指示に従うこと。	

成績評価方法と基準	割合
①討論時の発言内容 ②プレゼンテーション DP①②③	①70% ②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:澤田)				
主担当教員	澤田　優子		担当教員	澤田　優子	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を
読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向
き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませ
る。
前半はコミュニティ・エンパワメントおよび生涯発達ケアについて国内外の論文や資料を収集し、整理、分析を行う。
後半は、フィールドワークを実施している自治体、病院において臨床現場を観察させ、コホート研究や観察研究、介入研究の実際および
臨床的な意義について理解することを目標とする。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

本講義を通じて、テーマに関する国内外の論文、資料のレビュー、ディスカッションを経験し、自分の考えをまとめていくスキルを身に着けてください。

教科書

論文等の資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

月曜日３限目

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	コミュニティ・エンパワメント（１）: コミュニティ・エンパワメントに関する文献の収集と討論 （１）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
2	コミュニティ・エンパワメント（２）: コミュニティ・エンパワメントに関する文献の収集と討論 （２）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
3	コミュニティ・エンパワメント（３）: コミュニティ・エンパワメントに関する文献の収集と討論 （３）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
4	コミュニティ・エンパワメント（４）: コミュニティ・エンパワメントに関する文献の収集と討論 （４）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
5	生涯発達ケア（１）: 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論（１）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
6	生涯発達ケア（２）: 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論（２）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
7	生涯発達ケア（３）: 生涯発達ケアに関する文献の収集と討論（３）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
8	臨床現場観察（１）: 自治体フィールドワークの参与観察（１）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
9	臨床現場観察（２）: 自治体フィールドワークの参与観察（２）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
10	臨床現場観察（３）: 自治体フィールドワークの参与観察（３）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
11	臨床現場観察（４）: 自治体フィールドワークの参与観察（４）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
12	臨床現場観察（５）: 医療施設の参与観察（１）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
13	臨床現場観察（６）: 医療施設の参与観察（２）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
14	臨床現場観察（７）: 医療施設の参与観察（３）	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	
15	総括： 前半に読んだ文献の内容とそこから習得した研究手法と、後半の臨床現場観察知見を考え合わせて、より臨床の現状を踏まえた研究手法のあり方を考案	予習：当該範囲の自己学習 復習：当該範囲の復習と発展学習	

成績評価方法と基準	割合
DP①②③ 1. レポート 2. 討論時の発言内容	1. 50% 2. 50%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:吉岡)				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

前半は特別研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と討論しながら具体的な技術を模索し体得させる。
　後半は、救急医療を担う大阪府救急医療情報センター、小児電話相談、救急安心センター大阪、日本中毒情報センター、救急医療を行っている病院（救命救急センター）においてその活動現場、臨床現場を観察させ、有効性、安全性に関する問題点を抽出させる。抽出した問題点を対応能力、効率性、過誤、副作用、情報漏洩など可能性のある帰結別に分類し、それぞれの原因分析を行うことにより、その有効性と安全性について検証させる。

到達目標

1. 自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
2. 自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
3. 自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は論文・資料の通読と討論を、後半は各施設において観察・データの抽出、記録・分析作業を行う。
先進国の救急医療システムに関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

日本医学教育学会／医療の質・安全学会合同ワーキンググループ監修「医療安全学」（篠原出版新社，初版，2010 年）
日本救急医学会・中島和江監訳「有害事象の報告・学習システムのための WHO ドラフトガイドライン」（へるす出版，初版，2011 年）

研究室／オフィスアワー

適宜指示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	医療安全の文化	学修内容について、予習をして理解すること。	
2	ヒューマンエラー	学修内容について、予習をして理解すること。	
3	概念・実践モデル	学修内容について、予習をして理解すること。	
4	インシデント報告	学修内容について、予習をして理解すること。	
5	大阪府救急医療情報センターの現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。	
6	安心センター大阪の現場観察（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
7	安心センター大阪の現場観察（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
8	大阪中毒 110 番の現場観察（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
9	大阪中毒 110 番の現場観察（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
10	救命救急センターの臨床現場観察（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
11	救命救急センターの臨床現場観察（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
12	救命救急センターの臨床現場観察（３）	学修内容について、予習をして理解すること。	
13	臨床現場観察（４）	学修内容について、予習をして理解すること。	
14	臨床現場観察（５）	学修内容について、予習をして理解すること。	
15	総括と方策立案： 前半に読んだ先行研究の内容を参考にして、動脈硬化検査・評価やブラーク不安定化の検査・評価に関する未解決課題を解決するための方策・方法を立案	学修内容について、予習をして理解すること。	

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②討論時の発言内容で評価する。 DP①②③	①70% ②30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:仲西)				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜２限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

前半は特別研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。
後半は、鍼灸治療を行っている臨床施設において臨床現場を観察させ、病態観察、治療計画、安全な鍼灸治療について考えられる問題点を抽出させる。医療現場における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような方策を構想し、鍼灸治療について考案し、臨床現場で観察した症例について報告をさせる。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証
作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は論文・資料の通読と討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。
鍼灸安全性に関する論文を事前に検索・入手して目を通し、授業後には授業で得たポイント、アイデア、問題点、および分析を文章化して記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

矢野　忠編集「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ」(文光堂、初版、2012 年)
矢野　忠編集「図解鍼灸療法技術ガイドⅡ」(文光堂、初版、2012 年)
日中共同編集「鍼灸学基礎編」(東洋学術出版社、初版、1991 年)

研究室／オフィスアワー

適宜指示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	中医学の生理観	学修内容について、予習をして理解すること。	
2	中医学の病因病機	学修内容について、予習をして理解すること。	
3	内科疾患と鍼灸	学修内容について、予習をして理解すること。	
4	アレルギー疾患と鍼灸	学修内容について、予習をして理解すること。	
5	感覚器疾患と鍼灸	学修内容について、予習をして理解すること。	
6	外科疾患と鍼灸	学修内容について、予習をして理解すること。	
7	鍼灸治療の症例報告	学修内容について、予習をして理解すること。	
8	臨床現場観察（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
9	臨床現場観察（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
10	臨床現場観察（３）	学修内容について、予習をして理解すること。	
11	臨床現場観察（４）	学修内容について、予習をして理解すること。	
12	臨床現場観察（５）	学修内容について、予習をして理解すること。	
13	臨床現場観察（６）	学修内容について、予習をして理解すること。	
14	臨床現場観察（７）	学修内容について、予習をして理解すること。	
15	総括と方策立案	学修内容について、予習をして理解すること。	

成績評価方法と基準	割合
レポート 70%、討論時の発言内容 30%で評価する。DP①②③	70% 30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:村上)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

本科目は、各自が特別研究で取り組もうとしている領域のスキルを原理原則に基づいて獲得することにある。看護研究は大別すると量的研究と質的研究に分類することができるが、今日ではこれらを統合したデザインへの取組も多い。また研究目的によっては対象・手段も多様であるので自身のリサーチ・クエッションが何かを明確にしておく必要がある。そのうえでそれを可能にするスキルを体得しなければならない。
前半は特別研究で用いる研究手法、特に看護におけるコミュニケーションまたは技術開発・検証に関する論文や資料をクリティークし、教員と討論しながら具体的な研究手法を体得させる。後半は、病院において看護の臨床現場を観察させ、現行の看護技術における問題点を抽出させる。抽出した問題点の背景、根本原因、解決策などの分析を行うことにより、改善策および検証方法を考案させる。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証
作業計画を立案できる。
DP①②③

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自身が取り組もうとしている研究テーマ周辺の事柄について、話題提供し討論できるように心がけてほしい。また研究のための研究にならないように、看護実践現場との関連を重要視してほしい。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

単行本・論文・資料等を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

適宜指示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究テーマの絞り込み	学修内容について、予習をして理解すること。	
2	研究テーマの絞り込み	学修内容について、予習をして理解すること。	
3	研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。	
4	研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。	
5	研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。	
6	データ収集・解析法	学修内容について、予習をして理解すること。	
7	データ収集・解析法	学修内容について、予習をして理解すること。	
8	臨床現場観察（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
9	臨床現場観察（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
10	臨床現場観察（３）	学修内容について、予習をして理解すること。	
11	臨床現場観察（４）	学修内容について、予習をして理解すること。	
12	臨床現場観察（５）	学修内容について、予習をして理解すること。	
13	臨床現場観察（６）	学修内容について、予習をして理解すること。	
14	臨床現場観察（７）	学修内容について、予習をして理解すること。	
15	総括と方策立案	学修内容について、予習をして理解すること。	

成績評価方法と基準	割合
レポート 70%、討論時の発言内容 30%で評価する。DP①②③	70% 30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:吉村)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

前半は特別研究で用いようとしている研究手法について、特に看護におけるさまざまな質的研究に関する論文や資料をクリティークし、教員と討論しながら具体的な研究手法を体得させる。
後半は、病院において看護の臨床現場を観察させ、がん患者や手術患者に対する QOL 向上を目指した看護実践やサポートシステムに関する問題点を抽出させる。抽出した問題点の背景、根本原因、解決策などの分析を行うことにより、改善策および新しい技術やシステム開発と検証方法を考案させる。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。〈DP①〉
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。〈DP②〉
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証
作業計画を立案できる。〈DP②③〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は論文・資料のクリティークと討論を、後半は臨床現場での観察・記録・分析作業を行う。自身の行う特別研究で用いる研究手法・分析手法を身に付けるために、事前に質的研究に関するセミナーや講習会などに出席しておくことが望ましい。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

谷津裕子「Start Up 質的看護研究［第 2 版］」(Gakken, 2015 年)
北素子,谷津裕子「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」(医学書院, 2009 年)
萱間真美「質的研究実践ノート」(医学書院, 2007 年)
マーガレット・サンデロウスキー著, 谷津裕子,江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン」(医学書院, 2013 年)

研究室／オフィスアワー

適宜指示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	質的研究の概要・方法論	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
2	質的研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
3	質的研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
4	質的研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
5	質的研究論文のクリティーク	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
6	インタビュー、参加観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
7	逐語録、フィールドノーツ、データ分析	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
8	臨床現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
9	臨床現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
10	臨床現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
11	臨床現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
12	臨床現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
13	臨床現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
14	臨床現場観察	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	
15	総括と方策立案	学修内容について、予習をして理解すること。 1 時間	

成績評価方法と基準	割合
レポート 70%、討論時の発言内容 30%で評価する。〈DP①②③〉	70% 30%

授業科目名	後期専門演習(医療科学専攻:荻原)				
主担当教員	荻原　俊男		担当教員	荻原　俊男	
科目ナンバリング	SR003	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	金曜 2 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

後期専門演習は、後期特別研究の研究指導教員の下で、前半は自身の行う研究で用いようとしている研究手法について論文や資料を読んで教員と議論しながら具体的な技術を模索し体得させる。後半は、各学生の研究領域および医療資格に最も近い臨床現場に出向き、参与観察を行いながら医療における具体的な課題を抽出し、それを解決あるいは改良できるような研究を構想する作業に取り組ませる。

高血圧研究の歴史を学び、高血圧の成因と病態・高血圧の分子メカニズムについて理解する。また高血圧による臓器障害について理解し、骨代謝に及ぼす影響について検証する。

到達目標

１．自身の行う特別研究で用いる研究手法の具体的な技術を熟知しており、実行することができる。
２．自身の研究領域に関連する医療上の課題が分析でき、それを論理的に説明することができる。
３．自身の研究領域に関連する医療上の課題の解決・改善のための方策をいくつか考案でき、その検証
作業計画を立案できる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

前半は高血圧研究の歴史から、高血圧の成因と病態・高血圧の分子メカニズム、臓器障害について、これまでの知見を整理する。特に骨疾患への影響について先行研究を参考に、血圧と骨代謝の関連の有無を探索する。
後半は医療機関（病院）で疾患・治療の実際を観察・記録し、また骨疾患との合併について分析する。現場観察に向けて、高血圧の病態・治療戦略についての知識を事前に予習しておくこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

特に指定しない。

研究室／オフィスアワー

適宜指示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	高血圧研究の歴史（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
2	高血圧研究の歴史（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
3	高血圧治療薬剤の歴史と発展	学修内容について、予習をして理解すること。	
4	高血圧の分子メカニズム	学修内容について、予習をして理解すること。	
5	骨代謝の分子メカニズム	学修内容について、予習をして理解すること。	
6	高血圧と骨疾患の関連性（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
7	高血圧と骨疾患の関連性（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
8	臨床現場観察（１）	学修内容について、予習をして理解すること。	
9	臨床現場観察（２）	学修内容について、予習をして理解すること。	
10	臨床現場観察（３）	学修内容について、予習をして理解すること。	
11	臨床現場観察（４）	学修内容について、予習をして理解すること。	
12	臨床現場観察（５）	学修内容について、予習をして理解すること。	
13	臨床現場観察（６）	学修内容について、予習をして理解すること。	
14	臨床現場観察（７）	学修内容について、予習をして理解すること。	
15	総括と研究構想	学修内容について、予習をして理解すること。	

成績評価方法と基準	割合
レポート 70%、討論時の発言内容 30%で評価する。DP①③④	70% 30%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:山下)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、 後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

現代の医療システムに導入するにあたって必要な鍼灸の有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には以下のいずれかのテーマを設定し、Evidence-Based Medicine (EBM) の概念に則ってランダム化比較試験、メタアナリシス、または prospective な観察研究を行う。
1．鍼灸に関する既存の技法または新しく開発した技法の臨床応用可能性の検証
2．鍼灸の臨床試験における適切な対照群の開発と検証
3．鍼灸の過誤・副作用の情報収集・解析・フィードバックシステムの開発と検証
テーマを決定したら、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表をさせる。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

諏訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」(近畿病院図書室協議会, 初版, 2013 年)
MacPherson H, Hammerschlag R, Lewith G, Schnyer R (Edit.)「Acupuncture Research ? Strategies for Establishing an Evidence Base」(Churchill Livingstone, 1st Edition, 2007 年)
Leung SW, Hu H (Edit.)「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016 年)

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
15	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
17	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
18	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
19	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
20	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
28	発表準備： プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
29	プロトコール発表： プロトコール発表会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
30	プロトコール修正　発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

成績評価方法と基準	割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①～③で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:村上)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

急速な少子高齢化、科学技術の進展、IT 化、グローバル化は、人々に看護に対する多様なニーズをもたらしている。看護分野においても専門分化が進展しているが、ここでは成人を対象にした基本的な看護実践に対する以下のいずれかのテーマを設定し主として量的研究デザインによる研究を行う。

1. 看護におけるコミュニケーションの研究
   a. 患者・看護師間のバーバル・ノンバーバル（頷き・表情）の効果
   b. 患者・看護師間の位置・空間の影響
   c. 医療施設におけるコミュニケーション媒体の効果
2. 看護技術の方法と効果の検証
   a. 患者の移送方法（ストレッチャー・車椅子）の影響
   b. 清潔行動（清拭・足浴・洗髪・入浴等）の方法と効果
   c. 罨法の効果

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

取り組みたい研究テーマは自己の実践的経験に基づくものが望ましい。
看護研究に対する基本的知識をフィードバックしておくこと。
文献データベースを用いた検索方法を各種、確認しておくこと。
看護研究における倫理の原則やガイドラインについて復習しておくこと。
原則として、受講生主体で行うことを認識しておくこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

D.F.ポートリック&C.T.ベック著、近藤潤子監訳「看護研究・・原理と方法」医学書院

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	特別研究Ⅰの目的・概要等を確認・共有する。	
2	研究テーマ①	取り組みたいテーマに関する討論	
3	研究テーマ②	テーマに対する文献のリストアップ	
4	先行研究論文クリティーク	収集した先行研究論文のクリティークを繰り返す。	
5	先行研究論文クリティーク	収集した先行研究論文のクリティークを繰り返す。	
6	先行研究論文クリティーク	収集した先行研究論文のクリティークを繰り返す。	
7	先行研究論文クリティーク	収集した先行研究論文のクリティークを繰り返す。	
8	先行研究論文クリティーク	収集した先行研究論文のクリティークを繰り返す。	
9	先行研究論文クリティーク	収集した先行研究論文のクリティークを繰り返す。	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	先行研究の現状と実行可能性をふまえて研究テーマを決定する。	
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	論文クリティークをもとに、自己のテーマに直結する研究論文をレビューする。	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	論文クリティークをもとに、自己のテーマに直結する研究論文をレビューする。	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	論文クリティークをもとに、自己のテーマに直結する研究論文をレビューする。	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	論文クリティークをもとに、自己のテーマに直結する研究論文をレビューする。	
15	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	研究テーマのリサーチ・クエッションの明確化。	
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	リサーチ・クエッションに適合した研究デザインと研究の限界について決定・考察する。	
17	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	リサーチ・クエッションに適合した研究デザインと研究の限界について決定・考察する。	
18	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	研究デザインに基づき、具体的に研究計画が進むよう、プロトコールを作成する。	
19	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	研究デザインに基づき、具体的に研究計画が進むよう、プロトコールを作成する。	
20	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	研究デザインに基づき、具体的に研究計画が進むよう、プロトコールを作成する。	
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	研究デザインに基づき、具体的に研究計画が進むよう、プロトコールを作成する。	
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	倫理審査のための申請書を作成し提出する。	
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	倫理審査のための申請書を作成し提出する。	
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	プロトコールに基づいて研究を実施し、問題の有無を点検、考察・修正する。	
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	プロトコールに基づいて研究を実施し、問題の有無を点検、考察・修正する。	
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	プロトコールに基づいて研究を実施し、問題の有無を点検、考察・修正する。	
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	プロトコールに基づいて研究を実施し、問題の有無を点検、考察・修正する。	
28	発表準備： プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	スライド・資料を作成し、発表、質疑に対応する。	
29	プロトコール発表： プロトコール発表会における発表と質疑応答	スライド・資料を作成し、発表、質疑に対応する。	
30	プロトコール修正　発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	

成績評価方法と基準	割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①〜③で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:青木)				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

さまざまな環境の変化に応じて最適な特性を選択する、人体に備わっている短期・長期的な適応メカニズムを生理・心理学的手法を用いて検証する。具体的には、自らの研究に関連する先行研究レビュー、研究計画の立案、研究倫理審査申請、研究計画書の作成を行う。

1. 運動時のヒトの呼吸・循環・代謝適応に最も効果的かつ効率的なトレーニング手法の解明
2. 音刺激によって惹起する感情が呼吸・循環応答に与える影響の検証
3. 鍼通電刺激を用いた、心血管疾患リスク軽減のための外部制御システムの探索

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

Karlman Wasserman「Principles of Exercise Testing and Interpretation: Including Pathophysiology and Clinical Applications」(Wolters Kluwer,5 th Edition)
William D. McArdle「Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance 」(Wolters Kluwer,8 th Edition)

参考書

諏訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」(近畿病院図書室協議会, 初版, 2013 年)

研究室／オフィスアワー

東棟４階研究室　水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
15	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
17	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
18	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
19	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
20	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
28	発表準備： プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
29	プロトコール発表： プロトコール発表会における発表と質疑応答	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
30	プロトコール修正： 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	

成績評価方法と基準	割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①～③で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:前川)				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

生活習慣病などを背景とした循環器疾患は、医療費の約 3 割、死亡者数の約 6 割を占めており、急速に進む高齢化を背景として、その予防は大変重要となっている。また近年、動脈硬化は認知症との関連性も強く指摘されている。そのため、詳細なメカニズムの解明と診断および治療への応用が急がれている。循環器疾患における遺伝的素因や生活習慣病との関連性、病態把握のための各種検査方法や薬効評価など、まずは先行研究を精査し研究計画の立案、およびプロトコールを作成する。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

先行論文や関連する総説等は検索し入手しておくこと。不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。

教科書

Henry's Clinical Diagnosis & Management by Laboratory Methods, 23rd ed.
R.A.McPherson, M.R.Pincus SAUNDERS 2017 年

参考書

Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e
Hypertension: A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	研究テーマの仮設定	能性のある研究テーマのリストアップ	
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
5	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
6	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
7	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
8	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
9	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
10	研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
11	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
12	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
13	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
14	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
15	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
16	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
17	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
18	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
19	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
20	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
21	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
22	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
23	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
24	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
25	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
26	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
27	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
28	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
29	プロトコール発表	プロトコール発表会における発表と質疑応答	
30	プロトコール発表	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	

成績評価方法と基準	割合
文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度で 30%、リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力で 30%、プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容で 40%という点数配分で総合的に評価する。 DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:五十嵐)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、 後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。

到達目標

後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行う
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

生理学研究領域のオリジナル研究を展開する上で必要不可欠な、生体の構造と機能に関する基礎知識、時々刻々と変化する生体反応の計測技術力、時系列データを解析能力について個人の修得レベルを確認後、以下のいずれかのテーマを設定すること。
１．生体の統合的呼吸・循環調節機構及びその病態生理機構の解明に関する研究。
２．生体調節機構の新しい定量評価法の開発に関する研究。
上記テーマに基づく仮説の検証に必要な先行研究のレビュー、方法論（統計手法を含む）の確認を行った後、研究計画を立案し、それに基づく予備実験を実施し、実験内容を再検討後、本実験計画を研究倫理審査申請し、プロトコール発表を行う。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（Ｃ棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp)。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	先行研究のレビュー（１）	予習：なし 復習：講義資料	
2	先行研究のレビュー（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
3	先行研究のレビュー（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
4	研究計画の策定（１）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
5	研究計画の策定（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
6	研究計画の策定（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
7	予備実験と、結果の解析（１）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
8	予備実験と、結果の解析（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
9	予備実験と、結果の解析（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
10	予備実験と、結果の解析（４）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
11	予備実験と、結果の解析（５）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
12	予備実験と、結果の解析（６）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
13	予備実験と、結果の解析（７）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
14	予備実験と、結果の解析（８）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
15	まとめ	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	

成績評価方法と基準	割合
1. レポート提出（提出については適宜指示いたします。） 2. 討論時の発言内容 3. 4/5 以上の出席が必要 DP①③④	1. 70% 2. 30%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:森)				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

癌による死亡原因の多くは転移によると言われおり、その詳細なメカニズムの解明と診断および治療への応用が急がれる。まずは先行研究を精査しターゲット因子あるいはパスウェイを絞りテーマを決定する。アプローチの方法として、培養細胞、組織あるいは動物を用い in vitro、in vivo の実験を中心に解析をおこなう。まず研究計画の立案、およびプロトコールを作成する。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について調査し、それらの詳細を理解している。
2．研究目的が明確であり、先行研究を踏まえ仮説を設定し研究計画を立案できる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと実行可能性について理解している。
4．研究プロトコールに関して発表と質疑応答ができる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

先行論文や関連する総説等は検索し入手しておくこと。不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

Eメールにて確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	研究テーマの仮設定	可能性のある研究テーマのリストアップ	
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	第 4 回〜第 9 回：先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
5	第 10 回：研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
6	第 11 回〜第 14 回：先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
7	第 15 回, 第 16 回：研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
8	第 17 回〜第 20 回：研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の作成	
9	第 21 回〜第 27 回：予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
10	第 28 回：発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
11	第 29 回：プロトコール発表	プロトコール発表会における発表と質疑応答	
12	第 30 回：プロトコール修正	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	

成績評価方法と基準	割合
関連研究論文の理解度 30%、 目標設定と計画立案で 30%、 研究計画発表のプレゼンテーションおよび質疑応答時 40% DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:中原)				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

さまざまな環境の変化に応じて最適な特性を選択する、人体に備わっている短期・長期的な適応メカニズムを生理・心理学的手法を用いて検証する。具体的には、自らの研究に関連する先行研究レビュー、研究計画の立案、研究倫理審査申請、研究計画書の作成を行う。

1. 運動時のヒトの呼吸・循環・代謝適応に最も効果的かつ効率的なトレーニング手法の解明
2. 音刺激によって惹起する感情が呼吸・循環応答に与える影響の検証
3. 鍼通電刺激を用いた、心血管疾患リスク軽減のための外部制御システムの探索

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

Karlman Wasserman「Principles of Exercise Testing and Interpretation: Including Pathophysiology and Clinical Applications」(Wolters Kluwer,5 th Edition)
William D. McArdle「Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance 」(Wolters Kluwer,8 th Edition)

参考書

諏訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」(近畿病院図書室協議会, 初版, 2013 年)

研究室／オフィスアワー

水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	中原
2	研究テーマの仮設定	可能性のある研究テーマのリストアップ	中原
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	中原
4	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	中原
5	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	中原
6	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	中原
7	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	中原
8	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	中原
9	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	中原
10	研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	中原
11	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	中原
12	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	中原
13	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	中原
14	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	中原
15	リサーチ・クエスチョン	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	中原
16	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	中原
17	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	中原
18	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	中原
19	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	中原
20	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	中原
21	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	中原
22	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	中原
23	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	中原
24	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	中原
25	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	中原
26	倫理審査申請	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	中原
27	倫理審査申請	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	中原
28	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	中原
29	プロトコール発表	プロトコール発表会における発表と質疑応答	中原
30	プロトコール修正	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	中原

成績評価方法と基準	割合
1）文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度で 30%、2）リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力で 30%、3）プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	1）30% 2）30% 3）40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:森谷)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

口腔顔面領域の運動制御、感覚伝達システムは、主に四肢の運動、感覚を制御する脊髄神経系とは異なったシステムで構築されている。自身の研究テーマに関連した先行論文を収集し、既知の事項と未知の事項を整理する。テーマを決定したら、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表をさせる。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 11）
月曜日午後 5 時〜午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	予習：特別研究の概要と目的について、事前に考えておいて下さい（1 時間）。 復習：講義内容をベースに 1 年間の予定、留意事項などについて整理して下さい（1 時間）。	
2	研究テーマの仮設定	予習：研究テーマについて、事前にリストアップして下さい（1 時間）。 復習：講義内容をベースに研究テーマについて整理して下さい（1 時間）。	
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	先行研究論文講読	予習：前回の講義を踏まえて、新たに研究テーマに関連する文献をリストアップして下さい（1 時間）。 復習：講義内容をベースに研究テーマについて整理して下さい（1 時間）。	
5	先行研究論文講読	予習：前回の講義を踏まえて、新たに研究テーマに関連する文献をリストアップして下さい（1 時間）。 復習：講義内容をベースに研究テーマについて整理して下さい（1 時間）。	
6	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
7	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
8	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
9	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
10	研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
11	先行研究の検討	先行研究を参考に実験方法を検討	
12	先行研究の検討	先行研究を参考に実験方法を検討	
13	先行研究の検討	先行研究を参考に実験方法を検討	
14	先行研究の検討	先行研究を参考に実験方法を検討	
15	リサーチ・クエスチョン	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	
16	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した実験方法の決定と結果の予測	
17	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
18	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
19	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
20	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
21	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	
22	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	
23	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	
24	予備実験	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
25	予備実験	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
26	予備実験	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
27	予備実験	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
28	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
29	プロトコール発表	プロトコール発表会における発表と質疑応答	
30	プロトコール修正	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	

成績評価方法と基準	割合
文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度で 30%、リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力で 30%、プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:上田 真喜子)				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

現代の動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化検査・評価の向上のための臨床的エビデンスを研究する。具体的には以下のいずれかのテーマを設定し、研究を行う。
1．プラーク不安定化に関与する血液バイオマーカーの研究
2．不安定プラークにおける画像診断と病理像の比較研究
3．プラーク不安定化に関与する血栓の分子病理学的研究
　テーマを決定したら、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表をさせる。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	研究テーマの仮設定	可能性のある研究テーマのリストアップ	
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
5	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
6	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
7	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
8	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
9	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
10	研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
11	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
12	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
13	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
14	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
15	リサーチ・クエスチョン	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	
16	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
17	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
18	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
19	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
20	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
21	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	
22	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	
23	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	
24	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
25	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
26	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
27	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
28	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
29	プロトコール発表	プロトコール発表会における発表と質疑応答	
30	プロトコール修正	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	

成績評価方法と基準	割合
文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度で 30%、リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力で 30%、プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:川畑)				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、専攻研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。
本講義では運動器（骨・関節ならびに筋）疾患における発症や病態進展のメカニズム、修復過程などについて組織学的および分子生物学的に解析する。また運動器疾患に対する力学的・温冷刺激が病態に与える影響についても検証し、施術法の有効性や安全性について基礎医学的な観点から evidence を示すための仮説構築とプロトコール作成を行う。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。現在までに分かっている知見を徹底的に把握・理解し、説明可能にする。その上で、まずは自発的な発想にもとづいていくつかの仮説を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

1. 骨関節疾患. 宮坂信之、野田政樹、西岡久寿樹編集. 朝倉書店. 2012 年.
2. 標準整形外科第 12 版. 松野丈夫、中村利孝 総編集者/馬場久敏ほか 編集. 医学書院. 2014 年.
3. Orthopaedic Pathology, 5th ed. P. G. Bullough. MOSBY UK（南江堂）. 2010 年.
4. Bone and Cartilage 2ed: Developmental and Evolutionary Skeletal Biology. Academic Press, INC（南江堂）. 2015 年.
5. Robbin Basic Pathology, 9th ed., with Online Access. V. Kumar, A. K. Abbas , J. C. Aster. SAUNDERS（南江堂）. 2013 年.

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00〜18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンスと研究テーマの仮設定 1.特別研究の概要と目的、年間の予定、留意事項など 2.可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：可能性のある研究テーマを複数リストアップし、その内容について調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
2	研究テーマの仮設定 ：可能性のある研究テーマのリストアップ	予習：リストアップした研究テーマとその内容について調べて把握しておくこと。 復習：講義で説明、議論した内容について整理し、研究テーマを絞っておくこと。またその内容についての理解も深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
3	先行研究論文の検索 ：文献データベースを用いた先行研究文献の検索	予習：研究テーマに即した先行研究の調査と文献を入手し、内容についても把握しておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
4	先行研究論文講読 ：仮設定したテーマに関して現在までに分かっている知見の入手と理解	予習：研究テーマに即した先行研究の調査と文献を入手し、内容についても把握しておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
5	先行研究論文講読 ：仮設定したテーマに関して現在までに分かっている知見の入手と理解	予習：研究テーマに即した先行研究の調査と文献を入手し、内容についても把握しておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
6	先行研究論文講読 ：仮設定したテーマに関して現在までに分かっている知見の入手と理解	予習：研究テーマに即した先行研究の調査と文献を入手し、内容についても把握しておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
7	先行研究論文講読 ：仮設定したテーマに関して現在までに分かっている知見の入手と理解	予習：研究テーマに即した先行研究の調査と文献を入手し、内容についても把握しておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
8	先行研究論文講読 ：仮設定したテーマに関して現在までに分かっている知見の入手と理解	予習：研究テーマに即した先行研究の調査と文献を入手し、内容についても把握しておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
9	先行研究論文講読 ：仮設定したテーマに関して現在までに分かっている知見の入手と理解	予習：研究テーマに即した先行研究の調査と文献を入手し、内容についても把握しておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
10	研究テーマの決定 ：先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	予習：これまで講義内で行ってきた説明や議論から、最終的に研究テーマを遂行するための根拠（設備や環境）を確認しておくこと。 復習：決定した研究テーマについて、先行研究や講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
11	先行研究レビュー 当該領域の研究レビューを作成	予習：講義内での説明や議論から、決定した研究テーマに即した研究手法や解析方法などを調べてまとめておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
12	先行研究レビュー 当該領域の研究レビューを作成	予習：講義内での説明や議論から、決定した研究テーマに即した研究手法や解析方法などを調べてまとめておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
13	先行研究レビュー 当該領域の研究レビューを作成	予習：講義内での説明や議論から、決定した研究テーマに即した研究手法や解析方法などを調べてまとめておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
14	先行研究レビュー 当該領域の研究レビューを作成	予習：講義内での説明や議論から、決定した研究テーマに即した研究手法や解析方法などを調べてまとめておくこと。 復習：先行研究の内容と講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	

15	リサーチ・クエスチョン 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	予習：リサーチ・クエスチョンを明確にするため、研究テーマの目的や仮説を検証しておくこと。 復習：決定した研究テーマについて、先行研究や講義内で得られた情報を整理し、理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
16	研究デザイン リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	予習：研究デザインを決定するための根拠（設備や環境も含めて）を確認しておくこと。 復習：講義内で得られた情報を整理し、研究デザインにういての理解を深めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
17	研究計画の立案 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	予習：研究計画書の立案のために必要な資料を入手し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や入手資料をもとに研究計画書の執筆を行うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
18	研究計画の立案 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	予習：研究計画書の立案のために必要な資料を入手し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や入手資料をもとに研究計画書の執筆を行うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
19	研究計画の立案 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	予習：研究計画書の立案のために必要な資料を入手し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や入手資料をもとに研究計画書の執筆を行うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
20	研究計画の立案 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	予習：研究計画書の立案のために必要な資料を入手し、まとめておくこと。 復習：講義内での説明・議論や入手資料をもとに研究計画書の執筆を行うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
21	倫理審査申請 研究倫理審査の申請書作成と提出	予習：研究倫理について調べておくこと。 復習：講義内での説明・議論や資料をもとに研究倫理審査申請書の作成を行うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
22	倫理審査申請 研究倫理審査の申請書作成と提出	予習：研究倫理について調べておくこと。 復習：講義内での説明・議論や資料をもとに研究倫理審査申請書の作成を行うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
23	倫理審査申請 研究倫理審査の申請書作成と提出	予習：研究倫理について調べておくこと。 復習：講義内での説明・議論や資料をもとに研究倫理審査申請書の作成を行うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
24	予備研究 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予習：立案した研究計画に則り、予備研究を実施する準備をしておくこと。 復習：予備研究の結果についてまとめて、考察しておくこと。また問題点についても抽出、分析して負うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
25	予備研究 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予習：立案した研究計画と実施した予備研究から、結果についてまとめ、疑問点や改善点などについて調べておくこと。 復習：予備研究の結果についてまとめて、考察しておくこと。また問題点についても抽出、分析して負うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
26	予備研究 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予習：立案した研究計画と実施した予備研究から、結果についてまとめ、疑問点や改善点などについて調べておくこと。 復習：予備研究の結果についてまとめて、考察しておくこと。また問題点についても抽出、分析して負うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
27	予備研究 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予習：立案した研究計画と実施した予備研究から、結果についてまとめ、疑問点や改善点などについて調べておくこと。 復習：予備研究の結果についてまとめて、考察しておくこと。また問題点についても抽出、分析して負うこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
28	発表準備 プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	予習：予備研究の結果についてスライドおよび配布資料を作成しておくこと。 復習：作成したスライドおよび配布資料について、講義での説明・議論をもとに修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
29	プロトコール発表 ：プロトコール発表会における発表と質疑応答	予習：作成したスライドおよび配布資料について 十分に理解し、質疑にも対応できるように準備しておくこと。 復習：プロトコール発表での質疑をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
30	プロトコール修正 ：発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	予習：プロトコール発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえて、必要に応じて研究計画の修正を図ること。 復習：プロトコール発表会での質疑をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	

成績評価方法と基準	割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①～③で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:吉岡)				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

現代の救急医療システムを検討するにあたって必要な有効性と安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には以下のいずれかのテーマを設定し、Evidence-Based Medicine（EBM）の概念に則ってランダム化比較試験、メタアナリシス、またはprospective な観察研究を行う。
1．救急医療に関する既存の技法または新しく開発した技法の臨床応用可能性の検証
2．救急技法の臨床試験における適切な対照群の開発と検証
3．救急医療における過誤・合併症・副作用の情報収集・解析・フィードバックシステムの開発と検証テーマを決定したら、先行研究 レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表をさせる。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
　必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

諏訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」（近畿病院図書室協議会，初版，2013 年）
平成 28 年版厚生労働白書
平成 27 年版 救急救助の現況：総務省消防庁

研究室／オフィスアワー

C 棟、研究室４、原則月曜日　2・3 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	吉岡
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ	可能性のある研究テーマのリストアップ	吉岡
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	吉岡
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	吉岡
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	吉岡
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	吉岡
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	吉岡
8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	吉岡
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	吉岡
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	吉岡
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	当該領域の研究レビューを作成	吉岡
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	当該領域の研究レビューを作成	吉岡
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	当該領域の研究レビューを作成	吉岡
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成	当該領域の研究レビューを作成	吉岡
15	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	吉岡
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	吉岡
17	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	吉岡
18	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	吉岡
19	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	吉岡
20	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	吉岡
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	研究倫理審査の申請書作成と提出	吉岡
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	研究倫理審査の申請書作成と提出	吉岡
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出	研究倫理審査の申請書作成と提出	吉岡
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	吉岡
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	吉岡
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	吉岡
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	吉岡
28	発表準備： プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	吉岡
29	プロトコール発表： プロトコール発表会における発表と質疑応答	プロトコール発表会における発表と質疑応答	吉岡
30	プロトコール修正： 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	吉岡

成績評価方法と基準	割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①〜③で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:仲西)				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

現代の医療システムに導入するにあたって耳鼻咽喉科領域の鍼灸治療について、有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には以下のいずれかのテーマを設定し、Evidence-Based Medicine（EBM）の概念に則ってランダム化比較試験、メタアナリシス、または prospective な観察研究を行う。
1．鍼灸に関する既存の技法または新しく開発した技法の臨床応用可能性の検証
2．鍼灸の臨床試験における適切な対照群の開発と検証
3．鍼灸の過誤・副作用の情報収集・解析・フィードバックシステムの開発と検証
テーマを決定したら、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表をさせる。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

諏訪俊幸「看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説」（近畿病院図書室協議会，初版，2013 年）
MacPherson H, Hammerschlag R, Lewith G, Schnyer R (Edit.)「Acupuncture Research ? Strategies for Establishing an Evidence Base」(Churchill Livingstone, 1st Edition, 2007 年)
Leung SW, Hu H (Edit.)「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016 年)
日中共同編集「鍼灸学臨床編」（東洋学術出版社、初版、1991 年）
標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（医学書院、初版 1983 年）

研究室／オフィスアワー

指導教員の指示に従う。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	耳鼻咽喉科疾患の設定	可能性のある研究テーマのリストアップ	
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
5	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
6	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
7	先行研究論文講読	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
8	研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
9	研究テーマの決定	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
10	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
11	先行研究レビュー	当該領域の研究レビューを作成	
12	リサーチ・クエスチョン	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	
13	リサーチ・クエスチョン	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	
14	リサーチ・クエスチョン	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	
15	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
16	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
17	研究デザイン	リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察	
18	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
19	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
20	研究計画の立案	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
21	倫理審査申請	研究倫理審査の申請書作成と提出	
22	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
23	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
24	予備研究	予備研究の実施と問題点の抽出・分析	
25	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
26	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
27	発表準備	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
28	プロトコール発表	プロトコール発表会における発表と質疑応答	
29	プロトコール修正	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	
30	最終報告	発表し修正できた研究をリスト化する	

成績評価方法と基準	割合
文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度で 30%、リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力で 30%、プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:吉村)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

がん患者や手術患者に対する QOL 向上を目指した看護実践の検証やサポートシステムの構築に関する研究を行う。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。まずは自発的な発想と行動にもとづいて作成した原案を提出させ、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。
必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。授業前・中・後に生じたアイデア、資料、行動、討論、指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス： 特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	研究テーマの仮設定： 可能性のある研究テーマのリストアップ		
3	先行研究論文の検索： 文献データベースを用いた先行研究文献の検索		
4	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
5	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
6	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
7	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
8	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
9	先行研究論文講読： 仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手		
10	研究テーマの決定： 先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定		
11	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成		
12	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成		
13	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成		
14	先行研究レビュー： 当該領域の研究レビューを作成		
15	リサーチ・クエスチョン： 研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化		
16	研究デザイン： リサーチ・クエスチョンに適合した研究デザインの決定とその限界の考察		
17	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆		
18	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆		
19	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆		
20	研究計画の立案： 研究計画書（プロトコール）の立案と執筆		
21	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出		
22	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出		
23	倫理審査申請： 研究倫理審査の申請書作成と提出		
24	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		
25	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		
26	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		
27	予備研究： 予備研究の実施と問題点の抽出・分析		
28	発表準備： プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成		
29	プロトコール発表： プロトコール発表会における発表と質疑応答		
30	プロトコール修正 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正		

成績評価方法と基準	割合
①文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①〜③で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅰ(医療科学専攻:荻原)				
主担当教員	荻原　俊男		担当教員	荻原　俊男	
科目ナンバリング	SR004	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 3 限)、後期(金曜 3 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅰでは、テーマの設定、先行研究レビュー、研究計画立案、研究倫理審査申請、およびプロトコール発表を行わせる。

高血圧は様々な臓器障害を惹起することが知られており、近年ではロコモーティブ症候群との関連も示唆されているが、血圧と骨代謝の関連については未知な部分が多い。また降圧剤の骨折リスクに及ぼす影響も先行研究が散見されるが、一定の見解は得られておらず、また薬剤が骨代謝に及ぼす特異性についても、検証は不十分である。血圧と骨代謝の相関について先行研究から仮説を見出し、各種降圧剤の骨代謝に及ぼす影響を臨床研究で検討する。先行研究レビュー、臨床研究プロトコール立案、研究倫理審査申請を行う。

到達目標

1．研究テーマに関する国内外の先行研究について検索・入手・通読し、それらの詳細を理解している。
2．リサーチ・クエスチョンが明確であり、先行研究を踏まえて研究計画を立案することができる。
3．自分の計画した研究のオリジナリティと限界を理解しており、それを説明することができる。
4．倫理的な配慮を理解し、研究倫理審査委員会に提出する書類が作成できる。
5．研究プロトコールに関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文・資料・コンピューター等を適宜用いて個別指導する。現在までに分かっている知見を徹底的に把握・理解し、説明可能にする。その上で、高血圧と骨代謝の相関メカニズムについて仮説を複数構築し、それを討論と示唆により修正させるプロセスを反復する。仮説確定後、仮説を検証しうる臨床研究プロトコールを作成する。必要な先行論文は早期にすべて検索・入手して分類し、不明な用語・概念・手法については事前に調べておくこと。データはすべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要に応じ適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

適宜指示する。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	ガイダンス	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
3	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
5	先行研究論文の検索	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
6	先行研究論文講読	検索した先行研究文献を読み、高血圧と骨代謝、降圧剤と骨折リスクに関して、現在までに明らかにされた知見をまとめる。	
7	先行研究論文講読	検索した先行研究文献を読み、高血圧と骨代謝、降圧剤と骨折リスクに関して、現在までに明らかにされた知見をまとめる。	
8	先行研究論文講読	検索した先行研究文献を読み、高血圧と骨代謝、降圧剤と骨折リスクに関して、現在までに明らかにされた知見をまとめる。	
9	先行研究論文講読	検索した先行研究文献を読み、高血圧と骨代謝、降圧剤と骨折リスクに関して、現在までに明らかにされた知見をまとめる。	
10	仮説の構築	高血圧と骨代謝の相関メカニズムに関する仮説を構築する。	
11	仮説の構築	高血圧と骨代謝の相関メカニズムに関する仮説を構築する。	
12	仮説の構築	高血圧と骨代謝の相関メカニズムに関する仮説を構築する。	
13	仮説の構築	高血圧と骨代謝の相関メカニズムに関する仮説を構築する。	
14	臨床研究プロトコールの作成	仮説を証明しうる臨床研究プロトコールを作成する。倫理的配慮を十分に考慮したプロトコールを策定し、臨床研究倫理審査部会に提出する。	
15	臨床研究プロトコールの作成	仮説を証明しうる臨床研究プロトコールを作成する。倫理的配慮を十分に考慮したプロトコールを策定し、臨床研究倫理審査部会に提出する。	
16	臨床研究プロトコールの作成	仮説を証明しうる臨床研究プロトコールを作成する。倫理的配慮を十分に考慮したプロトコールを策定し、臨床研究倫理審査部会に提出する。	
17	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
18	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
19	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
20	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
21	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
22	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
23	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
24	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
25	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
26	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
27	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
28	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
29	臨床研究の実施	被験者に対する説明と同意を取得し、臨床研究を開始する。プロトコールに沿って、必要なデータを収集する。	
30	途中経過の発表	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	

成績評価方法と基準	割合
文献検索、先行研究レビュー、および研究論文の理解度で 30%、リサーチ・クエスチョン、研究計画書、および倫理審査申請書の作成能力で 30%、発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:青木)				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

生体内での主たる高血圧調節機構であるレニン—アンジオテンシン系と骨・軟骨代謝（分化・細胞死）との関連について検証する。後期特別研究Ⅰを踏まえて作成したプロトコールにもとづきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

1．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
2．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
5．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。データはすべてをラボノートに記録し、必要に応じ仮説の修正を随時行うこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Bruce Alberts「Essential Cell Biology」(Garland Science,4th Edition)

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	都度指示する	
2	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
3	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
4	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
5	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
6	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
7	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
8	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
9	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
10	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
11	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
12	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
13	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
14	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
15	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
16	結果の考察　　: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	結果の考察　　: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
26	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
27	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会　　: 中間報告会における発表と質疑応答		
30	投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		

成績評価方法と基準	割合
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度 ②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力 ③中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力 ①〜③で総合的に判断する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:村上)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

　後期特別研究Ⅰにおいて検討した「看護領域のコミュニケーション」あるいは「看護技術の方法や効果」に関するリサーチ・クエッション、研究デザイン、研究計画書、倫理申請書等に基づいて、データ収集、解析、結果の解釈を行い、中間発表会で一連のプロセスを発表し、論文としてまとめ投稿する。

到達目標

１．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
２．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
３．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
４．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
５．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

後期特別研究Ⅰと密接に連絡するので、その内容を充分にフィードバックしておくこと。
データの取り扱いは倫理申請書に認めたように厳重にすること。
常にリサーチ・クエッションに立ち戻り、看護の対象者にとっての意味を考えること。
　データと関連文献をもとに文章を作成し、教員の指導の下にブラッシュアップする。
投稿予定の学術雑誌の投稿規定をよく把握しておくこと。
一連の過程は全てラボノートに整理しておくこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

文献や関連書籍は授業において紹介する。

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。	都度指示する	
2	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
3	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
4	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
5	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
6	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
7	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
8	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
9	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
10	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
11	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
12	データ収集: 研究計画に基づきデータを収集する。		
13	データの解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈。		
14	データの解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈。		
15	データの解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈。		
16	結果の考察: 先行研究と関連文献を照合し結果を考察する。		
17	結果の考察: 先行研究と関連文献を照合し結果を考察する。		
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成する。		
23	投稿論文の推敲: 投稿論文に対する討論とブラッシュアップ。		
24	投稿論文の推敲: 投稿論文に対する討論とブラッシュアップ。		
25	投稿論文の推敲: 投稿論文に対する討論とブラッシュアップ。		
26	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
27	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
28	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
29	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		
30	中間発表会の準備: 中間発表会のスライド・資料を作成し発表に備える。		

成績評価方法と基準	割合
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度 ②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力 ③中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力 上記の①～③で総合的に評価する。　DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:山下)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

生体内での主たる高血圧調節機構であるレニン—アンジオテンシン系と骨・軟骨代謝（分化・細胞死）との関連について検証する。後期特別研究Ⅰを踏まえて作成したプロトコールにもとづきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

1．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
2．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
5．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。データはすべてをラボノートに記録し、必要に応じ仮説の修正を随時行うこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Bruce Alberts「Essential Cell Biology」(Garland Science,4th Edition)

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	都度指示する	
2	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
3	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
4	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
5	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
6	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
7	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
8	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
9	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
10	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
11	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
12	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集		
13	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
14	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
15	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
16	結果の考察 : 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	結果の考察 : 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
26	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
27	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会 : 中間報告会における発表と質疑応答		
30	投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		

成績評価方法と基準	割合
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度 ②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力 ③中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力 ①〜③で総合的に判断する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:前川)				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

現代の医療システムに導入するにあたって必要な分子病態検査の有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

1．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
2．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
5．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、授業前・中・後に生じた研究作業、変更内容、気付き、疑問、考察などは指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

Henry's Clinical Diagnosis & Management by Laboratory Methods, 23rd ed.
R.A.McPherson, M.R.Pincus SAUNDERS 2017 年

参考書

Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e
Hypertension: A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集	都度指示する	
2	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
3	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
4	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
5	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
6	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
7	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
8	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
9	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
10	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
11	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
12	データ収集: 研究計画にもとづきデータ収集		
13	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
14	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
15	データ解析・解釈: 収集したデータの統計学的解析とその解釈		
16	結果の考察: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	結果の考察　　: 先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	投稿論文の執筆: 学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
26	投稿論文の推敲: 投稿論文に関する討論と推敲		
27	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会: 中間報告会における発表と質疑応答		
30	投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		

成績評価方法と基準	割合
①データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度 ②先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力 ③間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力 上記の①～③で総合的に評価する。　DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:五十嵐)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する

到達目標

後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行う DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

呼吸循環調節系の制御機構の解明をテーマに据えた、オリジナル研究を展開する。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づく実験データの収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（C棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp)。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実験データの収集、解析、結果の解釈（１）	予習：後期特別研究Ⅰ 復習：今回までの内容	
2	実験データの収集、解析、結果の解釈（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
3	実験データの収集、解析、結果の解釈（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
4	実験データの収集、解析、結果の解釈（４）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
5	実験データの収集、解析、結果の解釈（５）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
6	実験データの収集、解析、結果の解釈（６）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
7	実験データの収集、解析、結果の解釈（７）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
8	論文執筆（１）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
9	論文執筆（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
10	論文執筆（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
11	論文執筆（４）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
12	論文執筆（５）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
13	論文執筆（６）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
14	論文執筆（７）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
15	中間報告会	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	

成績評価方法と基準	割合
1. レポート提出（提出については適宜指示いたします。） 2. 討論時の発言内容 3. 4/5 以上の出席が必要 DP①③④	1. 70% 2. 30%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:森)				
主担当教員	森　誠司		担当教員	森　誠司	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

癌の転移メカニズムについての解析をおこなう。具体的には、後期特別研究Ⅰにて作成した研究計画に従って実験をおこないデータを収集し解析を行う。適宜、結果の妥当性を検証しプロトコールの修正を加える。得られた結果から論文を執筆するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

1．研究計画にもとづいて実験を施行し解析および結果の解釈ができる。
2．結果について仮説や関連論文を踏まえ考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関してプレゼンテーションができ議論ができる。
5．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

得られたデータと関連論文との整合性や新規性について議論する。問題があれば適宜プロトコールの修正や追加の実験をおこなう。データをもとに論文を作成しそれを討論と修正指導により完成させる。必要な関連文献はすべて事前に検索・入手し通読しておくこと。実験の詳細な条件等はもとより、疑問、考察、指導内容はすべてを実験ノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

Eメールにて確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1～12　データ収集	研究計画にもとづきデータを収集	
2	13～15　データ解析・解釈	結果の解釈と妥当性の検証	
3	16～17　結果の考察	先行研究と関連文献を参考に結果を考察	
4	18～22　投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
5	23～25　投稿論文の推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
6	26～28　中間報告会準備	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	
7	29　中間報告会	中間報告会における発表と質疑応答	
8	30　投稿論文の完成・投稿	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	

成績評価方法と基準	割合
データ収集、結果の解釈 30%、 先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力 30%、 中間報告会のプレゼンテーションの内容と質疑応答、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力 40% DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:中原)				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

さまざまな環境の変化に応じて最適な特性を選択する、人体に備わっている短期・長期的な適応メカニズムを生理・心理学的手法を用いて検証する。後期特別研究Ⅰで立案した研究計画にもとづき、測定装置を適切に使用し、データの収集・分析、結果の解釈、学会発表、論文の執筆を進め、学術雑誌に投稿するとともに、中間報告会でその成果を発表させる。

到達目標

1．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
2．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
5．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または実習施設において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、授業前・中・後に生じた研究作業、変更内容、気付き、疑問、考察などは指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

Karlman Wasserman「Principles of Exercise Testing and Interpretation: Including Pathophysiology and Clinical Applications」(Wolters Kluwer,5 th Edition)
William D. McArdle「Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance 」(Wolters Kluwer,8 th Edition)

参考書

Geoffrey Keppel, Thomas D. Wickens「Design and Analysis: A Researcher's Handbook (4th Edition)」(Pearson International Edition, 2004 年)

研究室／オフィスアワー

水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
2	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
3	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
4	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
5	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
6	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
7	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
8	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
9	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
10	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	

11	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
12	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
13	データ解析・解釈	収集したデータの統計学的解析とその解釈	
14	データ解析・解釈	収集したデータの統計学的解析とその解釈	
15	データ解析・解釈	収集したデータの統計学的解析とその解釈	
16	結果の考察	先行研究と関連文献を参考に結果を考察	
17	結果の考察	先行研究と関連文献を参考に結果を考察	
18	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
19	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
20	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
21	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
22	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
23	投稿論文の推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
24	投稿論文の推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
25	投稿論文の推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
26	投稿論文の推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
27	中間報告会準備	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	
28	中間報告会準備	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	
29	中間報告会	中間報告会における発表と質疑応答	
30	投稿論文の完成・投稿	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	

成績評価方法と基準	割合
1）データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度で 30%、2）先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力で 30%、3）中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	1）30% 2）30% 4）40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:森谷)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

口腔顔面領域の運動制御、感覚伝達システムについて検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づいて動物実験を実施し、データ収集、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる

到達目標

１．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
２．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
３．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
４．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
５．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

倫理的、科学的に適正な手法により、計画に基づいた動物実験を実施する。動物を取り扱う実験、組織切片を取り扱う実験ともに、その経過と結果で必要な事項はすべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

E 棟４階（研究室 11）
月曜日午後 5 時～午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画に従い、実験準備を行う	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	動物実験によるデータ収集	可能性のある研究テーマのリストアップ	
3	動物実験によるデータ収集	文献データベースを用いた先行研究文献の検索	
4	動物実験によるデータ収集	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
5	動物実験によるデータ収集	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
6	動物実験によるデータ収集	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
7	動物実験によるデータ収集	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
8	動物実験によるデータ収集	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
9	動物実験によるデータ収集	仮設定したテーマに関する研究の現状に関する情報入手	
10	動物実験によるデータ収集	先行研究の現状と実行可能性を踏まえて研究テーマ決定	
11	動物実験によるデータ収集	先行研究を参考に実験方法を検討	
12	動物実験によるデータ収集	先行研究を参考に実験方法を検討	

13	動物実験によるデータ収集	先行研究を参考に実験方法を検討	
14	動物実験によるデータ収集	先行研究を参考に実験方法を検討	
15	動物実験によるデータ収集	研究テーマのリサーチ・クエスチョンの明確化	
16	先行研究と関連文献を参考に実験結果の統計処理、考察を行う	リサーチ・クエスチョンに適合した実験方法の決定と結果の予測	
17	先行研究と関連文献を参考に実験結果の統計処理、考察を行う	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
18	学術雑誌に投稿する論文を作成	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
19	学術雑誌に投稿する論文を作成	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
20	学術雑誌に投稿する論文を作成	研究計画書（プロトコール）の立案と執筆	
21	学術雑誌に投稿する論文を作成	研究倫理審査の申請書作成と提出	
22	学術雑誌に投稿する論文を作成	研究倫理審査の申請書作成と提出	
23	投稿論文に関する討論と推敲	研究倫理審査の申請書作成と提出	
24	投稿論文に関する討論と推敲	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
25	投稿論文に関する討論と推敲	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
26	投稿論文に関する討論と推敲	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
27	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	実験動物を用いての実験方法の実践と問題点の抽出	
28	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	プロトコール発表会のスライドおよび配布資料の作成	
29	中間報告会における発表と質疑応答	プロトコール発表会における発表と質疑応答	
30	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた研究計画の修正	

成績評価方法と基準	割合
データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度で 30%、先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力で 30%、中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:上田 真喜子)				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

現代の動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化検査・評価の向上のための臨床的エビデンスを研究する。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

１．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
２．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
３．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
４．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
５．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、授業前・中・後に生じた研究作業、変更内容、気付き、疑問、考察などは指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画にもとづきデータ収集	都度指示する	
2	研究計画にもとづきデータ収集		
3	研究計画にもとづきデータ収集		
4	研究計画にもとづきデータ収集		
5	研究計画にもとづきデータ収集		
6	研究計画にもとづきデータ収集		
7	研究計画にもとづきデータ収集		
8	研究計画にもとづきデータ収集		
9	研究計画にもとづきデータ収集		
10	研究計画にもとづきデータ収集		
11	研究計画にもとづきデータ収集		

12	研究計画にもとづきデータ収集		
13	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
14	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
15	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
16	先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文に関する討論と推敲		
26	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
27	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会における発表と質疑応答		
30	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		

成績評価方法と基準	割合
データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度で 30%、先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力で 30%、中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:川畑)				
主担当教員	川畑 浩久		担当教員	川畑 浩久	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって
研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱでは、後期特別研究Ⅰを踏まえて作成したプロトコールにもとづきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。
本講義においては運動器（骨・関節ならびに筋）疾患における発症や病態進展のメカニズム、修復過程などについて組織学的および分子生物学的に解析する。また運動器疾患に対する力学的・温冷刺激が病態に与える影響についても検証し、施術法の有効性や安全性について基礎医学的な観点から evidence を示す。

到達目標

1．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
2．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
5．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。データはすべてをラボノートに記録し、必要に応じ仮説の修正を随時行うこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

1. 骨関節疾患. 宮坂信之、野田政樹、西岡久寿樹編集. 朝倉書店. 2012 年.
2. 標準整形外科第 12 版. 松野丈夫、中村利孝 総編集者/馬場久敏ほか 編集. 医学書院. 2014 年.
3. Orthopaedic Pathology, 5th ed. P. G. Bullough. MOSBY UK（南江堂）. 2010 年.
4. Bone and Cartilage 2ed: Developmental and Evolutionary Skeletal Biology. Academic Press, INC（南江堂）. 2015 年.
5. Robbin Basic Pathology, 9th ed., with Online Access. V. Kumar, A. K. Abbas , J. C. Aster. SAUNDERS（南江堂）. 2013 年.

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00～18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
2	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
3	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
4	データ収集: 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について把握	

		しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
5	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
6	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
7	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
8	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
9	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
10	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
11	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
12	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
13	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
14	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
15	データ収集： 実験プロトコールにもとづきデータ収集	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果について正確に分析し、実験ノートをまとめておくこと。	

		なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
16	結果の考察： 先行研究と関連文献を参考に結果を考察	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果についての考察を行い、自分の研究の妥当性を確認しておくこと。また疑問点や改善点がある場合には、抽出しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
17	結果の考察： 先行研究と関連文献を参考に結果を考察	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果についての考察を行い、自分の研究の妥当性を確認しておくこと。また疑問点や改善点がある場合には、抽出しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
18	投稿論文の執筆： 学術雑誌に投稿する論文を作成	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果や考察に基づき、論文の作成を進めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
19	投稿論文の執筆： 学術雑誌に投稿する論文を作成	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果や考察に基づき、論文の作成を進めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
20	投稿論文の執筆： 学術雑誌に投稿する論文を作成	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果や考察に基づき、論文の作成を進めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
21	投稿論文の執筆： 学術雑誌に投稿する論文を作成	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果や考察に基づき、論文の作成を進めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
22	投稿論文の執筆： 学術雑誌に投稿する論文を作成	予習：関連分野の論文や資料を入手し、自分の研究との関連性や結果の整合性について検討、把握しておくこと。 復習：実験の結果や考察に基づき、論文の作成を進めておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
23	投稿論文の推敲： 投稿論文に関する討論と推敲	予習：作成した論文の字句や文章を十分に吟味して、問題点や修正点を抽出しておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
24	投稿論文の推敲： 投稿論文に関する討論と推敲	予習：作成した論文の字句や文章を十分に吟味して、問題点や修正点を抽出しておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
25	投稿論文の推敲： 投稿論文に関する討論と推敲	予習：作成した論文の字句や文章を十分に吟味して、問題点や修正点を抽出しておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	
26	投稿論文の推敲： 投稿論文に関する討論と推敲	予習：作成した論文の字句や文章を十分に吟味して、問題点や修正点を抽出しておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ2時間ずつ行うこと。	

27	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	予習：実験結果に基づき、中間報告会のスライドや資料に必要なデータを整理しておくこと。 復習：講義内での説明や議論から、適宜スライドや資料を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
28	中間報告会準備: 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	予習：実験結果に基づき、中間報告会のスライドや資料に必要なデータを整理しておくこと。 復習：講義内での説明や議論から、適宜スライドや資料を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
29	中間報告会: 中間報告会における発表と質疑応答	予習：作成したスライドおよび配布資料について 十分に理解し、質疑にも対応できるように準備しておくこと。 復習：中間報告会での質疑をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
30	投稿論文の完成・投稿: 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	予習：中間報告会での質疑をもとに、論文を修正しておくこと。また投稿規定の確認を行い、最終投稿に備えておくこと。 復習：中間報告会での質疑をもとに、論文を修正できているか確認しておくこと。また投稿規定に即しているか確認しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	

成績評価方法と基準	割合
①?献検索、先行研究レビュー、および研究論?の理解度 ②リサーチ・クエスチョン、プロトコール、および倫理審査申請書の作成能力 ③プロトコール発表会のスライドと資料、発表の技法と内容、および質疑応答時の発言内容 上記の①～③で総合的に評価する。DP①③④	①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:吉岡)				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

　現代の救急医療システムを検討するにあたって必要な有効性と安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

１．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
２．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
３．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
４．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
５．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。
　必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、授業前・中・後に生じた研究作業、変更内容、気付き、疑問、考察などは指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

先進諸外国の論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

平成 28 年版厚生労働白書
平成 27 年版 救急救助の現況：総務省消防庁
標準救急医学、第 5 版、日本救急医学会編、医学書院、2014 年 1 月 1 日発行

研究室／オフィスアワー

吉岡敏治（C 棟、研究室４）／原則月曜日水曜日の 2・3 時間目ですが、その他、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	データ収集 研究計画にもとづきデータ収集	研究計画にもとづきデータ収集：以下、その都度指示する。	吉岡 以下担当は原則として吉岡
2	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
3	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
4	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
5	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
6	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
7	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
8	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
9	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
10	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	

11	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
12	データ収集	研究計画にもとづきデータ収集	
13	データ解析・解釈 収集したデータの統計学的解析とその解釈	収集したデータの統計学的解析とその解釈	
14	データ解析・解釈	収集したデータの統計学的解析とその解釈	
15	データ解析・解釈	収集したデータの統計学的解析とその解釈	
16	結果の考察 先行研究と関連文献を参考に結果を考察	先行研究と関連文献を参考に結果を考察	
17	結果の考察	先行研究と関連文献を参考に結果を考察	
18	投稿論文の執筆 学術雑誌に投稿する論文を作成	学術雑誌に投稿する論文を作成	
19	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
20	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
21	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
22	投稿論文の執筆	学術雑誌に投稿する論文を作成	
23	投稿論文の推敲 投稿論文に関する討論と推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
24	投稿論文の推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
25	投稿論文の推敲	投稿論文に関する討論と推敲	
26	中間報告会準備 中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	
27	中間報告会準備	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	
28	中間報告会準備	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	
29	中間報告会 中間報告会における発表と質疑応答	中間報告会における発表と質疑応答	
30	投稿論文の完成・投稿 発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	
成績評価方法と基準			割合
①収集データの正確度、先行研究との比較 ②データ解析と結果に対する考察 ③投稿論文の執筆、報告会の結果を踏まえた投稿論文の修正能力 上記の①～③で総合的に評価する。DP①③④			①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:横井)				
主担当教員	横井　賀津志		担当教員	横井　賀津志	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(月曜 1 限)、 後期(月曜 1 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

健康寿命延伸を目的として，介護が必要となる疾患の発症リスクを検証し，介護予防に効果的な介入の臨床的エビデンスを検証する．具体的には，後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画もとづきデータ収集，解析，結果の解釈を行い，論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表する．

到達目標

１．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集，解析，および結果の解釈ができる．＜DP①③④＞
２．結果の解釈について，先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる．＜DP①③④＞
３．研究の背景，目的，方法，結果，考察，および結論について論理的かつ明快に文章化できる．＜DP①③④＞
４．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき，それらを用いた発表と質疑応答ができる．＜DP①③④＞
５．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる．＜DP①③④＞

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い，収集されたデータの処理と解釈について個別指導する．データと関連文献をもとに文章を作成させ，それを討論と修正指導によりブラッシュアップする．
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し，授業前・中・後に生じた研究作業，変更内容，気付き，疑問，考察などは指導の内容も含め，すべてをラボノートに記録すること．

教科書

論文，記事，関連資料を適宜配布する．

参考書

質疑に応じて，適宜紹介する．文献複写が必要な場合には，主担当教員に連絡すること．

研究室／オフィスアワー

適宜対応する．

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1-10 回：研究計画に基づいたデータ収集	予習・復習：収集したデータを保管，入力する（10 回×4 時間=40 時間）．	
2	11-14 回：収集したデータの統計学的解析とその解釈	予習・復習：データの統計解析（4 回×4 時間=16 時間）．	
3	15-17 回：先行研究と関連文献を参考に結果を考察	予習・復習：結果の解釈（3 回×4 時間=12 時間）．	
4	18-22 回：学術雑誌に投稿する論文を作成	予習・復習：雑誌への投稿準備（4 回×4 時間=16 時間）．	
5	23-25 回：投稿論文に関する討論と推敲	予習・復習：雑誌への投稿準備（3 回×4 時間=12 時間）．	
6	26-28 回：中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	予習・復習：中間発表の準備（3 回×4 時間=12 時間）．	
7	29 回：中間報告会における発表と質疑応答	予習：中間発表の準備（2 時間）． 復習：中間発表におけるコメントの整理（2 時間）．	
8	30 回:発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	予習・復習：投稿論文の修正（4 時間）．	
成績評価方法と基準			割合
①データ収集，統計解析，および結果解釈の完成度＜DP①③④＞ ②先行研究と関連論文を踏まえた考察，論理的かつ明快な論文執筆，および図表の作成能力＜DP①③④＞ ③中間報告会のスライドと資料，発表の技法と内容，質疑応答時の発言内容，および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力＜DP①③④＞			①30% ②30% ③40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:仲西)				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

現代の医療システムに導入するにあたって必要な鍼灸の有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づきデータ収集、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

１．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
２．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
３．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
４．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
５．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、授業前・中・後に生じた研究作業、変更内容、気付き、疑問、考察などは指導の内容も含め、すべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Higgins JPT, Green S (Edit.)「Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions」(Cochrane Collaboration, Version 5.1.0, 2011 年)
MacPherson H, Hammerschlag R, Lewith G, Schnyer R (Edit.)「Acupuncture Research ? Strategies for Establishing an Evidence Base」(Churchill Livingstone, 1st Edition, 2007 年)
Leung SW, Hu H (Edit.)「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016 年)
日中共同編集「鍼灸学臨床編」(東洋学術出版社、初版、1991 年)
標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (医学書院、初版 1983 年)

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画にもとづきデータ収集	都度指示する	
2	研究計画にもとづきデータ収集		
3	研究計画にもとづきデータ収集		
4	研究計画にもとづきデータ収集		
5	研究計画にもとづきデータ収集		
6	研究計画にもとづきデータ収集		
7	研究計画にもとづきデータ収集		
8	研究計画にもとづきデータ収集		
9	研究計画にもとづきデータ収集		
10	研究計画にもとづきデータ収集		
11	研究計画にもとづきデータ収集		
12	研究計画にもとづきデータ収集		
13	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
14	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
15	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
16	先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文に関する討論と推敲		
26	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
27	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会における発表と質疑応答		
30	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		

成績評価方法と基準	割合
データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度で 30%、先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力で 30%、中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:吉村)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。

がん患者や手術患者に対する QOL 向上を目指した看護実践の検証やサポートシステムの構築に関する研究を行う。具体的には、後期特別研究Ⅰを踏まえて修正した研究計画に基づきデータ収集、分析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

１．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、分析、および結果の解釈ができる。〈DP①③④〉
２．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。〈DP①③④〉
３．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。。DP①③④〉
４．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。〈DP①③④〉
５．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。〈DP①③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの分析について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、授業前・中・後に生じた研究作業、変更内容、気付き、疑問、考察などは指導の内容も含め、すべてをノートに記録する。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

谷津裕子「Start Up 質的看護研究［第 2 版］」(Gakken, 2015 年)
北素子,谷津裕子「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」(医学書院, 2009 年)
萱間真美「質的研究実践ノート」(医学書院, 2007 年)
マーガレット・サンデロウスキー著, 谷津裕子,江藤裕之訳「質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン」(医学書院, 2013 年)

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	研究計画にもとづきデータ収集	都度指示する	
2	研究計画にもとづきデータ収集		
3	研究計画にもとづきデータ収集		
4	研究計画にもとづきデータ収集		
5	研究計画にもとづきデータ収集		
6	研究計画にもとづきデータ収集		
7	研究計画にもとづきデータ収集		
8	研究計画にもとづきデータ収集		
9	研究計画にもとづきデータ収集		
10	研究計画にもとづきデータ収集		
11	研究計画にもとづきデータ収集		
12	研究計画にもとづきデータ収集		
13	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
14	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
15	収集したデータの統計学的解析とその解釈		
16	先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
17	先行研究と関連文献を参考に結果を考察		
18	学術雑誌に投稿する論文を作成		
19	学術雑誌に投稿する論文を作成		
20	学術雑誌に投稿する論文を作成		
21	学術雑誌に投稿する論文を作成		
22	学術雑誌に投稿する論文を作成		
23	投稿論文に関する討論と推敲		
24	投稿論文に関する討論と推敲		
25	投稿論文に関する討論と推敲		
26	投稿論文に関する討論と推敲		
27	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
28	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成		
29	中間報告会における発表と質疑応答		
30	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿		

成績評価方法と基準	割合
データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度で 30%、先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力で 30%、中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力で 40%という点数配分で総合的に評価する。〈DP①③④〉	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅱ(医療科学専攻:荻原)				
主担当教員	荻原　俊男		担当教員	荻原　俊男	
科目ナンバリング	SR005	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	2	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅱではデータ収集、解析、結果の解釈、論文執筆、学術雑誌への投稿、および中間報告会発表を行わせる。
血圧と骨代謝の相関について先行研究から仮説を見出し、仮説を臨床研究で検証する。後期特別研究Ⅰにて作成したプロトコールにもとづきデータ収集を継続し、収集後、解析、結果の解釈を行い、論文を執筆して投稿するとともに中間報告会で成果を発表させる。

到達目標

1．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
2．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
5．専門領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論を論理的に構築し、投稿論文を作成する。データはすべてをラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要に応じ適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
2	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
3	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
4	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
5	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
6	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
7	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
8	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
9	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
10	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
11	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
12	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
13	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
14	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
15	実験プロトコールにもとづきデータ収集	適宜指示する	
16	収集したデータの統計学的解析とその解釈	適宜指示する	
17	収集したデータの統計学的解析とその解釈	適宜指示する	
18	収集したデータの統計学的解析とその解釈	適宜指示する	
19	先行研究と関連文献を参考に結果を考察	適宜指示する	
20	先行研究と関連文献を参考に結果を考察	適宜指示する	
21	学術雑誌に投稿する論文を作成	適宜指示する	
22	学術雑誌に投稿する論文を作成	適宜指示する	
23	学術雑誌に投稿する論文を作成	適宜指示する	
24	学術雑誌に投稿する論文を作成	適宜指示する	
25	学術雑誌に投稿する論文を作成	適宜指示する	
26	学術雑誌に投稿する論文を作成	適宜指示する	
27	学術雑誌に投稿する論文を作成	適宜指示する	
28	中間報告会のスライドおよび配布資料の作成	適宜指示する	
29	中間報告会における発表と質疑応答	適宜指示する	
30	発表会における質疑応答と問題点指摘を踏まえた投稿論文の修正と学術雑誌への投稿	適宜指示する	

成績評価方法と基準	割合
データ収集、統計解析、および結果解釈の完成度で 30%、先行研究と関連論文を踏まえた考察、論理的かつ明快な論文執筆、および図表の作成能力で 30%、中間報告会のスライドと資料、発表の技法と内容、質疑応答時の発言内容、および中間報告会を踏まえた投稿論文の修正能力で 40%という点数配分で総合的に評価する。DP①③④	30% 30% 40%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:青木)				
主担当教員	青木　元邦		担当教員	青木　元邦	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

生体内での主たる高血圧調節機構であるレニン―アンジオテンシン系と骨・軟骨代謝（分化・細胞死）との関連について検証する。後期特別研究Ⅰ・Ⅱの成果を投稿した学術雑誌からの査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

１．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
２．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
３．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
４．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Bruce Alberts「Essential Cell Biology」(Garland Science,4th Edition)

研究室／オフィスアワー

月曜午後・水曜日・金曜日午後（ただし会議等でいないこともあります）
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントの理解	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントの理解		
3	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
4	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
5	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
6	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
7	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
8	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
9	博士論文の作成		
10	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
11	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
16	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
17	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
18	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
19	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
20	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
29	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
30	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:五十嵐)				
主担当教員	五十嵐　淳介		担当教員	五十嵐　淳介	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する

到達目標

後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行う DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

呼吸循環調節系の制御機構の解明をテーマに据えた、オリジナル研究を展開する。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえてデータ収集し、成果を文章化して学術雑誌に投稿した論文について、査読コメントに対応し掲載する。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で成果を発表する。

教科書

指定しない

参考書

指定しない

研究室／オフィスアワー

オフィスアワーは月曜昼休み（C棟七階研究室１５）。質問・相談は歓迎する。
これ以外の時間に来室を希望する場合は事前予約の連絡を行うこと。講義時に口頭で、または随時電子メールにて受け付ける（junsuke_igarashi@morinomiya-u.ac.jp）。
なお、オフィスアワー以外の来室であって予約がない場合、対応しないことがある。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	学術雑誌への投稿（準備）（１）	予習：後期特別研究Ⅰ・後期特別研究Ⅱ 復習：今回までの内容	
2	学術雑誌への投稿（準備）（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
3	学術雑誌への投稿（準備）（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
4	学位論文（主論文）作成（１）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
5	学位論文（主論文）作成（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
6	学位論文（主論文）作成（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
7	学位論文（主論文）作成（４）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
8	査読対応・再投稿（１）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
9	査読対応・再投稿（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
10	査読対応・再投稿（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
11	査読対応・再投稿（４）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
12	最終発表（公聴会）準備（１）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
13	最終発表（公聴会）準備（２）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
14	最終発表（公聴会）準備（３）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	
15	最終発表（公聴会）準備（４）	予習：前回までの内容 復習：今回までの内容	

成績評価方法と基準	割合
1. レポート提出（提出については適宜指示いたします。） 2. 討論時の発言内容 3. 4/5 以上の出席が必要 DP①③④	1. 70% 2. 30%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:前川)				
主担当教員	前川 佳敬		担当教員	前川 佳敬	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

現代の医療システムに導入するにあたって必要な分子病態検査の有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえてデータ収集し、成果を文章化して学術雑誌に投稿した論文について、査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。学位論文のセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し、学位論文の完成と提出に導く。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

Henry's Clinical Diagnosis & Management by Laboratory Methods, 23rd ed.
R.A.McPherson, M.R.Pincus SAUNDERS 2017 年

参考書

Braunwald's Heart Disease: A Textbook of Cardiovascular Medicine, Single Volume, 10e
Hypertension: A Companion to Braunwald's Heart Disease, 3e

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応に関する討論	適宜指示する	
2	査読後の論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく論文修正と提出		
3	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
4	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
5	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
6	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
7	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
8	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
9	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
10	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
11	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
16	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
17	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
18	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
19	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
20	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
29	記録と資料の整理 作業過程で作成した記録と収集したデータ・資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管		
30	総括 特別研究のすべての過程をレビューして評価点・反省点・改善点を抽出し、今後の展開について検討		

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:村上)				
主担当教員	村上　生美		担当教員	村上　生美	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

「看護領域のコミュニケーション」や「看護技術の方法と効果の検証」に関して受講生が後期特別研究Ⅰ(研究デザイン)において焦点化して取り組んだ成果、それらをさらに発展させた特別研究Ⅱ（研究の実施と発表・学術雑誌への投稿）をふまえ、本科目では、投稿論文の査読結果から学術論文作成までの過程を取組の内容とする。したがって、投稿論文は、査読コメントに適切に対応し掲載まで至るようブラッシュアップし、これら一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成し、その内容を最終報告会で発表する。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

専門学術雑誌の投稿規定に精読しておくこと。
先行研究論文のなかのモデルになる論文からまとめ方や表現法を参考にする。
最終目標までのタイムスケジュールを自己管理し、指導教員とのコミュニケーションを密にすること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読結果への対応 投稿した学術雑誌の査読結果を精読し対応する。	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	査読結果への対応 投稿した学術雑誌の査読結果を精読し対応する。		
3	投稿論文の修正 査読結果に対する検討を経て論文を修正・再提出する。		
4	投稿論文の修正 査読結果に対する検討を経て論文を修正・再提出する。		
5	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
6	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
7	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
8	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
9	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
10	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
11	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
12	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
13	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
14	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
15	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
16	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
17	博士論文の作成 一連の研究プロセスと成果をまとめて規定にしたがって博士論文を作成する。		
18	博士論文の推敲 博士論文の各章について推敲し、章ごとの繋がりや整合性を検討する。		
19	博士論文の推敲 博士論文の各章について推敲し、章ごとの繋がりや整合性を検討する。		
20	博士論文の推敲 博士論文の各章について推敲し、章ごとの繋がりや整合性を検討する。		
21	博士論文の推敲 博士論文の各章について推敲し、章ごとの繋がりや整合性を検討する。		
22	博士論文の推敲 博士論文の各章について推敲し、章ごとの繋がりや整合性を検討する。		
23	公聴会の準備 公聴会のスライド・資料をもとに発表準備をする。		
24	公聴会の準備 公聴会のスライド・資料をもとに発表準備をする。		
25	公聴会の準備 公聴会のスライド・資料をもとに発表準備をする。		
26	公聴会の準備 公聴会のスライド・資料をもとに発表準備をする。		
27	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
28	博士論文完成 公聴会、口頭試問等の一連の過程をフィードバックして論文を完成させる。		
29	総括 一連の研究課程で作成した記録・データ・資料について所在と管理状況を確認し保管する。 また特別研究の全てをレビューし評価点・反省点・改善点を明確にし、今後の展望を確認する。		
30	一連の研究課程で作成した記録・データ・資料について所在と管理状況を確認し保管する。		

	また特別研究の全てをレビューし評価点・反省点・改善点を明確にし、今後の展望を確認する。		
成績評価方法と基準			割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④			①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:森)				
主担当教員	森 誠司		担当教員	森 誠司	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

癌の転移メカニズムについての解析をおこなう。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ実験を施行しデータ収集し、結果をまとめ学術雑誌に投稿する。査読コメントに対応し、必要に応じて追加の実験をおこない掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で成果を発表させる。

到達目標

１．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
２．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
３．研究成果をまとめ最終報告として発表をおこない質疑応答ができる。
４．自身の研究について指摘された問題点を理解し適切に説明や修正をすることができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

得られたデータをもとに学術論文を作成し推敲のうえ完成させ学術雑誌に投稿する。査読に対する対応を討論し採択されるように導く。
学位論文はセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し完成と提出に導く。必要な関連文献はすべて事前に検索・入手し通読しておくこと。学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておくこと。
査読への対応事項、疑問、考察、指導内容はすべてを実験ノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

研究室／オフィスアワー

Eメールにて確認すること

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容		予習・復習・課題等	担当
1	1	査読への対応	投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応を討論	
2	2～4	査読後の論文修正	査読コメントへの対応の決定にもとづく論文修正と追加実験、再投稿	
3	5～15	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
4	16～20	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
5	21～24	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
6	25	公聴会、最終試験	公聴会における発表と質疑応答、口頭試問	
7	26～28	博士論文の完成	公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	
8	29	記録と資料の整理	一連の研究過程で収集したデータ、サンプル、資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管	
9	30	総括	特別研究のすべての過程を展望し評価点・反省点・改善点を抽出し今後の研究活動について検討	

成績評価方法と基準	割合
査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度 10%、 公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応 20%、 博士論文の完成度に 70%として総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	10% 20% 70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:山下)				
主担当教員	山下 仁		担当教員	山下 仁	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

生体内での主たる高血圧調節機構であるレニン―アンジオテンシン系と骨・軟骨代謝（分化・細胞死）との関連について検証する。後期特別研究Ⅰ・Ⅱの成果を投稿した学術雑誌からの査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Bruce Alberts「Essential Cell Biology」(Garland Science,4th Edition)

研究室／オフィスアワー

月曜午後・水曜日・金曜日午後（ただし会議等でいないこともあります）
その他、部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントの理解	入手資料を読んで質問事項をまとめておく	
2	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントの理解		
3	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
4	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
5	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
6	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
7	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
8	査読に対応した論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出		
9	博士論文の作成		
	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
10	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
11	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
16	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
17	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
18	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
19	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
20	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
29	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
30	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:中原)				
主担当教員	中原　英博		担当教員	中原　英博	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

さまざまな環境の変化に応じて最適な特性を選択する、人体に備わっている短期・長期的な適応メカニズムを生理・心理学的手法を用いて検証する。後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえて作成・投稿した学術雑誌を論文掲載まで至らせる。また、掲載が確定した論文を学位論文としてまとめ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

１．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
２．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
３．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
４．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。学位論文のセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し、学位論文の完成と提出に導く。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

Karlman Wasserman「Principles of Exercise Testing and Interpretation: Including Pathophysiology and Clinical Applications」(Wolters Kluwer,5 th Edition)
William D. McArdle「Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance 」(Wolters Kluwer,8 th Edition)

参考書

Geoffrey Keppel Professor Emeritus, Thomas D. Wickens「Design and Analysis: A Researcher's Handbook (4th Edition)」(Pearson International Edition, 2004 年)

研究室／オフィスアワー

水曜日 17：00～18：00

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応	投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応に関する討論	
2	査読後の論文修正	査読コメントへの対応決定にもとづく論文修正と提出	
3	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
4	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
5	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
6	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
7	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
8	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
9	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
10	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
11	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
12	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
13	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
14	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
15	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
16	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
17	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
18	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
19	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
20	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
21	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
22	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
23	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
24	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
25	公聴会後のディスカッション	公聴会における発表に関するディスカッション	
26	博士論文の完成	公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	
27	博士論文の完成	公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	
28	博士論文の完成	公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	
29	記録と資料の整理	作業過程で作成した記録と収集したデータ・資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管	
30	総括	特別研究のすべての過程をレビューして評価点・反省点・改善点を抽出し、今後の展開について検討	

成績評価方法と基準	割合
1）査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10%、2）公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20%、3）博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	1）10% 2）10% 3）70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:森谷)				
主担当教員	森谷　正之		担当教員	森谷　正之	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

口腔顔面領域の運動制御、感覚伝達システムについて検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえてデータ収集し、成果を文章化して学術雑誌に投稿した論文について、査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。学位論文のセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し、学位論文の完成と提出に導く。必要に応じて、追加の動物実験も実施する。必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要が生じた場合は適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

E 棟 4 階（研究室 11）
月曜日午後 5 時〜午後 7 時、各日昼休みの時間帯は原則研究室に在室しています。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応に関する討論	特別研究の概要と目的、1 年間の予定、留意事項など	
2	査読後の論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく論文修正と提出		
3	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
4	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
5	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
6	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
7	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
8	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
9	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
10	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
11	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
16	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
17	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
18	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
19	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
20	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
29	記録と資料の整理 作業過程で作成した記録と収集したデータ・資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管		
30	総括 特別研究のすべての過程をレビューして評価点・反省点・改善点を抽出し、今後の展開について検討		

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:上田 真喜子)				
主担当教員	上田　真喜子		担当教員	上田　真喜子	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

現代の動脈硬化検査・評価やプラーク不安定化検査・評価の向上のための臨床的エビデンスを研究する。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえてデータ収集し、成果を文章化して学術雑誌に投稿した論文について、査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。学位論文のセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し、学位論文の完成と提出に導く。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応に関する討論	適宜指示する。	
2	査読後の論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく論文修正と提出		
3	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
4	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
5	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
6	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
7	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
8	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
9	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
10	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
11	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
16	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
17	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
18	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
19	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
20	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
29	記録と資料の整理 作業過程で作成した記録と収集したデータ・資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管		
30	総括 特別研究のすべての過程をレビューして評価点・反省点・改善点を抽出し、今後の展開について検討		

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。①③④	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:川畑)				
主担当教員	川畑　浩久		担当教員	川畑　浩久	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、後期特別研究Ⅰ・Ⅱの成果を投稿した学術雑誌からの査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で成果を発表させる。
本講義においては運動器（骨・関節ならびに筋）疾患における発症や病態進展のメカニズム、修復過程などについて組織学的および分子生物学的に解析する。また運動器疾患に対する力学的・温冷刺激が病態に与える影響についても検証し、施術法の有効性や安全性について基礎医学的な観点から evidence を示す。

到達目標

1．研究計画と研究倫理規範にもとづいて適正なデータ収集、解析、および結果の解釈ができる。
2．結果の解釈について、先行研究や関連文献を踏まえた深い考察ができる。
3．研究の背景、目的、方法、結果、考察、および結論について論理的かつ明快に文章化できる。
4．研究の概要と結果に関する必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
5．専?領域の学術雑誌（査読付き）に論文を投稿するまでの一連の作業ができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室または臨床現場において実際にデータ収集を行い、収集されたデータの処理と解釈について個別指導する。データと関連文献をもとに文章を作成させ、それを討論と修正指導によりブラッシュアップする。データはすべてをラボノートに記録し、必要に応じ仮説の修正を随時行うこと。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

1. 骨関節疾患. 宮坂信之、野田政樹、西岡久寿樹編集. 朝倉書店. 2012 年.
2. 標準整形外科第 12 版. 松野丈夫、中村利孝 総編集者/馬場久敏ほか 編集. 医学書院. 2014 年.
3. Orthopaedic Pathology, 5th ed. P. G. Bullough. MOSBY UK（南江堂）. 2010 年.
4. Bone and Cartilage 2ed: Developmental and Evolutionary Skeletal Biology. Academic Press, INC（南江堂）. 2015 年.
5. Robbin Basic Pathology, 9th ed., with Online Access. V. Kumar, A. K. Abbas , J. C. Aster. SAUNDERS（南江堂）. 2013 年.

研究室／オフィスアワー

C 棟研究室 707：木、金曜日 17:00〜18:00 ですが、部屋にいればいつでも訪問可です。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 ：投稿した学術雑誌の査読コメントの理解	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、問題点を明確にし、まとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
2	査読への対応 ：投稿した学術雑誌の査読コメントの理解	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、問題点を明確にし、まとめておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
3	査読に対応した論文修正 ：査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、追加実験を行い、論文も修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
4	査読に対応した論文修正 ：査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、追加実験を行い、論文も修正しておくこと。	
		なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
5	査読に対応した論文修正 ：査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、追加実験を行い、論文も修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
6	査読に対応した論文修正 ：査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、追加実験を行い、論文も修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
7	査読に対応した論文修正 ：査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、追加実験を行い、論文も修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
8	査読に対応した論文修正 ：査読コメントへの対応決定にもとづく追加実験と論文修正と提出	予習：査読者のコメントについて熟読し、問題点すべき点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論をもとに、追加実験を行い、論文も修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
9	博士論文の作成 ：一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	予習：追加実験の結果をまとめ、査読者のコメントに対応する結果が得られているか確認しておくこと。 復習：講義内での討論や追加実験の結果をもとに、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
10	博士論文の作成 ：一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	予習：追加実験の結果をまとめ、査読者のコメントに対応する結果が得られているか確認しておくこと。 復習：講義内での討論や追加実験の結果をもとに、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
11	博士論文の作成 ：一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	予習：追加実験の結果をまとめ、査読者のコメントに対応する結果が得られているか確認しておくこと。 復習：講義内での討論や追加実験の結果をもとに、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
12	博士論文の作成 ：一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	予習：追加実験の結果をまとめ、査読者のコメントに対応する結果が得られているか確認しておくこと。 復習：講義内での討論や追加実験の結果をもとに、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
13	博士論文の作成 ：一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	予習：追加実験の結果をまとめ、査読者のコメントに対応する結果が得られているか確認しておくこと。 復習：講義内での討論や追加実験の結果をもとに、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
14	博士論文の作成 ：一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	予習：追加実験の結果をまとめ、査読者のコメントに対応する結果が得られているか確認しておくこと。 復習：講義内での討論や追加実験の結果をもとに、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
15	博士論文の作成 ：一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	予習：追加実験の結果をまとめ、査読者のコメントに対応する結果が得られているか確認しておくこと。 復習：講義内での討論や追加実験の結果をもとに、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習はそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
16	博士論文の推敲 ：博士論文の各セクションについて議論と修正	予習：作成した論文の各セクションにおいて、字句や文章を十分に吟味・推敲し、問題点や疑問点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。	

		なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
17	博士論文の推敲 ：博士論文の各セクションについて議論と修正	予習：作成した論文の各セクションにおいて、字句や文章を十分に吟味・推敲し、問題点や疑問点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
18	博士論文の推敲 ：博士論文の各セクションについて議論と修正	予習：作成した論文の各セクションにおいて、字句や文章を十分に吟味・推敲し、問題点や疑問点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
19	博士論文の推敲 ：博士論文の各セクションについて議論と修正	予習：作成した論文の各セクションにおいて、字句や?章を十分に吟味・推敲し、問題点や疑問点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
20	博士論文の推敲 ：博士論文の各セクションについて議論と修正	予習：作成した論文の各セクションにおいて、字句や文章を十分に吟味・推敲し、問題点や疑問点を明確にしておくこと。 復習：講義内での討論などから、適宜論文を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
21	公聴会準備 ：公聴会のスライドおよび配布資料の作成	予習：実験結果に基づき、公聴会のスライドや資料に必要なデータを整理しておくこと。 復習：講義内での説明や議論から、適宜スライドや資料を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
22	公聴会準備 ：公聴会のスライドおよび配布資料の作成	予習：実験結果に基づき、公聴会のスライドや資料に必要なデータを整理しておくこと。 復習：講義内での説明や議論から、適宜スライドや資料を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
23	公聴会準備 ：公聴会のスライドおよび配布資料の作成	予習：実験結果に基づき、公聴会のスライドや資料に必要なデータを整理しておくこと。 復習：講義内での説明や議論から、適宜スライドや資料を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
24	公聴会準備 ：公聴会のスライドおよび配布資料の作成	予習：実験結果に基づき、公聴会のスライドや資料に必要なデータを整理しておくこと。 復習：講義内での説明や議論から、適宜スライドや資料を修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
25	公聴会、最終試験 ：公聴会における発表と質疑応答、口頭試問	予習：作成したスライドおよび配布資料について十分に理解し、質疑や口頭試問にも対応できるように準備しておくこと。 復習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、スライドおよび配布資料を吟味し、必要に応じて修正しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
26	博士論文の完成 ：公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	予習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を修正しておくこと。また投稿規定の確認を行い、最終投稿に備えておくこと。 復習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を適切に修正できているか確認しておくこと。また投稿規定に即しているかも確認しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
27	博士論文の完成 ：公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	予習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を修正しておくこと。また投稿規定の確認を行い、最終投稿に備えておくこと。 復習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を適切に修正できているか確認しておくこと。また投稿規定に即しているかも確認しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
28	博士論文の完成 ：公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	予習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を修正しておくこと。また投稿規定の確認を行い、最終投稿に備えておくこと。 復習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を適切に修正できているか確認しておくこと。また投稿規定に即しているかも確認しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
29	博士論文の完成 ：公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	予習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を修正しておくこと。また投稿規定の確認を行い、最終投稿に備えておくこと。 復習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を適切に修正できているか確認しておくこと。また投稿規定に即しているかも確認しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	
30	博士論文の完成 ：公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	予習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を修正しておくこと。また投稿規定の確認を行い、最終投稿に備えておくこと。 復習：公聴会での質疑や口頭試問をもとに、論文を適切に修正できているか確認しておくこと。また投稿規定に即しているかも確認しておくこと。 なお予習復習をそれぞれ 2 時間ずつ行うこと。	

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度 ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容 ③博士論文の完成度 上記の①～③で総合的に評価する。 なお学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:吉岡)				
主担当教員	吉岡　敏治		担当教員	吉岡　敏治	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

現代の救急医療システムを検討するにあたって必要な有効性と安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえてデータ収集し、成果を文章化して学術雑誌に投稿した論文について、査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

１．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
２．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
３．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
４．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。
DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。学位論文のセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し、学位論文の完成と提出に導く。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

先進諸外国の論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

平成 28 年版厚生労働白書
平成 27 年版 救急救助の現況：総務省消防庁
標準救急医学、第 5 版、日本救急医学会編、医学書院、2014 年 1 月 1 日発行

研究室／オフィスアワー

C 棟　研究室 4

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応	投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応に関する討論	吉岡：以下原則としてすべて吉岡
2	査読後の論文修正	査読コメントへの対応決定にもとづく論文修正と提出	
3	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
4	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
5	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
6	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
7	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
8	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
9	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
10	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
11	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
12	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
13	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
14	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
15	博士論文の作成	一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	
16	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
17	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
18	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
19	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
20	博士論文の推敲	博士論文の各セクションについて議論と修正	
21	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
22	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
23	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
24	公聴会準備	公聴会のスライドおよび配布資料の作成	
25	公聴会後のディスカッション	公聴会における発表に関するディスカッション	
26	博士論文の完成	公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	
27	博士論文の完成	公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	
28	博士論文の完成	公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	
29	記録と資料の整理	作業過程で作成した記録と収集したデータ・資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管	
30	総括	特別研究のすべての過程をレビューして評価点・反省点・改善点を抽出し、今後の展開について検討	

成績評価方法と基準	割合
1.査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10%、 2.公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20%、 3.博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	1.10% 2.20% 3.70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:仲西)				
主担当教員	仲西　宏元		担当教員	仲西　宏元	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	DP①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

現代の医療システムに導入するにあたって耳鼻咽喉科領域の鍼灸治療について、有効性または安全性の臨床的エビデンスを検証する。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえてデータ収集し、成果を文章化して学術雑誌に投稿した論文について、査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。学位論文のセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し、学位論文の完成と提出に導く。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にラボノートに記録すること。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

Higgins JPT, Green S (Edit.)「Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions」(Cochrane Collaboration, Version 5.1.0, 2011 年)
MacPherson H, Hammerschlag R, Lewith G, Schnyer R (Edit.)「Acupuncture Research ? Strategies for Establishing an Evidence Base」(Churchill Livingstone, 1st Edition, 2007 年)
Leung SW, Hu H (Edit.)「Evidence-based Research Methods for Chinese Medicine」(Springer, 1st Edition, 2016 年)
日中共同編集「鍼灸学臨床編」(東洋学術出版社、初版、1991 年)
標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（医学書院、初版 1983 年）

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応に関する討論	都度指示する	
2	査読後の論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく論文修正と提出		
3	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
4	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
5	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
6	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
7	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
8	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
9	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
10	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
11	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
16	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
17	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
18	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
19	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
20	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
29	記録と資料の整理 作業過程で作成した記録と収集したデータ・資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管		
30	総括 特別研究のすべての過程をレビューして評価点・反省点・改善点を抽出し、今後の展開について検討		

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:吉村)				
主担当教員	吉村　弥須子		担当教員	吉村　弥須子	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー該当項目	①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1〜3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

がん患者や手術患者に対する QOL 向上を目指した看護実践の検証やサポートシステムの構築に関する研究を行う。具体的には、後期特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえてデータ収集し、成果を文章化して学術雑誌に投稿した論文について、査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。〈DP①③④〉
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。〈DP①③④〉
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。〈DP①③④〉
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。〈DP①③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。学位論文のセクションごとに修正点と具体的な修正方法を指導し、学位論文の完成と提出に導く。
必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。授業前・中・後に行った作業、議論のポイント、変更内容、気付き、疑問、考察、投稿や査読コメント受け取りの日付など、すべてを詳細にノートに記録する。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

質疑に応じて、適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

334 研究室（吉村）随時

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントへの対応に関する討論	都度指示する	
2	査読後の論文修正 査読コメントへの対応決定にもとづく論文修正と提出		
3	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
4	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
5	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
6	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
7	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
8	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
9	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
10	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
11	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成		
16	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
17	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
18	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
19	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
20	博士論文の推敲 博士論文の各セクションについて議論と修正		
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成		
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション		
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成		
29	記録と資料の整理 作業過程で作成した記録と収集したデータ・資料などについて所在と管理状況を確認し、分類・整理して保管		
30	総括 特別研究のすべての過程をレビューして評価点・反省点・改善点を抽出し、今後の展開について検討		

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。〈DP①③④〉	①10% ②20% ③70%

授業科目名	後期特別研究Ⅲ(医療科学専攻:荻原)				
主担当教員	荻原　俊男		担当教員	荻原　俊男	
科目ナンバリング	SR006	科目区分	専門科目	ディプロマポリシー 該当項目	①③④
配当年次	3	開講学期	前期	曜日・時限	前期(金曜 5 限)、 後期(金曜 5 限)
授業形態	演習	単位数	4	必修・選択	必修

授業概要

後期特別研究は、1～3 年次まで継続される学位論文作成に直接関わる科目であり、各指導教員の研究テーマにそって研究のすべての過程を遂行する。後期特別研究Ⅲでは、学術雑誌への投稿、査読対応、学位論文作成および最終発表（公聴会）を行わせる。

　血圧と骨代謝の相関について先行研究から仮説を見出し、仮説を臨床研究で検証する。後期特別研究Ⅰ・Ⅱの成果を投稿した学術雑誌からの査読コメントに対応して掲載まで至らせる。また、実施した一連の研究作業と成果をまとめて学位論文（主論文）を作成させ、その内容を最終報告会で発表させる。

到達目標

1．学術雑誌に投稿した論文の査読コメントに適切に対応できる。
2．一連の特別研究の作業内容と結果と考察を博士論文としてまとめて完成させることができる。
3．研究の最終報告に必要なスライドと配布資料が作成でき、それらを用いた発表と質疑応答ができる。
4．自身の研究について指摘された問題点を冷静に分析し、適切に修正することができる。DP①③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

研究室において論文執筆、査読コメントへの対応、スライド作成などについて個別指導する。必要な関連文献はすべて事前に検索・入手して通読し、学位論文の修正すべき点についても事前に修正案を作成しておく。

教科書

論文、記事、関連資料を適宜配布する。

参考書

必要に応じ適宜紹介する。

研究室／オフィスアワー

都度指示する

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントの理解	適宜指示する	
2	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントの理解	適宜指示する	
3	査読への対応 投稿した学術雑誌の査読コメントの理解	適宜指示する	
4	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
5	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
6	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
7	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
8	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
9	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
10	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
11	査読に対応した論文修正 査読コメントに対応した論文修正と再提出	適宜指示する	
12	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
13	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
14	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
15	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
16	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
17	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
18	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
19	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
20	博士論文の作成 一連の研究作業と成果をまとめて博士論文を作成	適宜指示する	
21	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成	適宜指示する	
22	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成	適宜指示する	
23	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成	適宜指示する	
24	公聴会準備 公聴会のスライドおよび配布資料の作成	適宜指示する	
25	公聴会後のディスカッション 公聴会における発表に関するディスカッション	適宜指示する	
26	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	適宜指示する	
27	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	適宜指示する	
28	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	適宜指示する	
29	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	適宜指示する	
30	博士論文の完成 公聴会の質疑応答と口頭試問の内容を踏まえて博士論文を修正して完成	適宜指示する	

成績評価方法と基準	割合
①査読コメントへの対応と投稿論文修正の完成度に 10% ②公聴会の発表と質疑応答と口頭試問の対応内容に 20% ③博士論文の完成度に 70%という点数配分をして総合的に評価する。 学位審査会の評価内容、および学術雑誌の査読における評価内容も参考とする。DP①③④	①10% ②20% ③70%

助産学専攻科

（2019 年度以降入学生カリキュラム）

授業科目名	助産学総論(助産)（General Midwifery）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子	
科目ナンバリング	BM001	科目区分	基礎助産学	ディプロマポリシー 該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜１限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

助産の基本概念と理論、助産の歴史と変遷、助産学教育や動向など助産の課題と方向性について理解を深める。

到達目標

1. 助産の概念について理解する。
2. 助産の歴史や変遷を理解する。
3. 助産ケアの理論的根拠を説明できる。
4. 助産師と倫理について学ぶ。
5. 女性の人権と尊厳について学ぶ。
6. 日本における助産と周産期医療の今後の課題を考察できる。

DP①②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

助産学の基礎知識を学び、専門職者としての助産師の在り方を考察する一助とする。

教科書

助産師基礎教育テキスト2020版　第１巻　助産概論　日本看護協会出版
出生と死をめぐる生命倫理　医学書院
2020年出題基準別助産師国家試験問題　メディカ出版

参考書

助産概論　助産学講座１　基礎助産学　医学書院
新版助産師業務要覧　第３版　基礎編
新版助産師業務要覧　第３版　実践編
新版助産師業務要覧　第３版　アドバンス編
日本産婦人科学会編(2017）産婦人科診療ガイドライン産科編2017ページ 日本産婦人科学会
エビデンスに基づく助産ガイドライン一妊娠期・分娩期　2016 日本助産学会

研究室／オフィスアワー

研究室238にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	助産の概念について	「ICM助産師の倫理綱領」「ICM基本的助産業務に必要な能力」を読んでおいてください。	中西
2	助産診断について理解する	看護診断・医師診断・助産診断の違いを予習しておく	中西
3	助産の歴史	助産の歴史について予習しておく。 制度の変遷と法制化、教育の確立を学ぶ。	中西
4	助産ケアの根拠と理論および周産期の倫理	助産ケア対象に関する理論について調べておくこと。 助産ケアの根拠、助産と倫理について学ぶ。	中西
5	日本における周産期医療の現状と課題	日本における周産期医療の現状を把握し、女性の意思決定を支える仕組みと助産師の役割を考察する。	中西
6	日本における母子保健の動向と課題	日本の母子保健の歩みを予習してくる。 母子保健に関する指標、同行、関係法規、制度について理解し、課題を考えることができる。	中西
7	世界の母子保健の動向と課題	世界の母子保健の動向と課題について予習しておくこと。	中西
8	助産師教育の現状と活動について学ぶ。	全国助産師教育協議会の活動を知り、学生交流会に参加する。	中西

成績評価方法と基準	割合
①レポート ②プレゼンテーション能力 ③質疑応答への参加・授業に臨む態度を含む ④出席4/5以上 DP①②③④	①50% ②30% ③20%

授業科目名	周産期医学論(助産)（Perinatal Medicine）				
主担当教員	木田　岩男		担当教員	木田　岩男、前川　佳敬	
科目ナンバリング	BM002	科目区分	基礎助産学	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

妊娠・分娩・産褥といった周産期の理解に必要な医学的知識を習得する。具体的には、女性生殖器の構造と機能（生殖機能・内分泌機能)、妊娠の機序、妊娠に起因する疾患など、助産診断の基礎となる周産期の解剖・生理・病理・病態について習得する。また、産科検査、治療（手術や産科的医療処置)、産科危機や出血ガイドラインについても学ぶ。

到達目標

周産期におけるケアや助産診断、産科危機対応を学ぶ上で必要となってくる、妊娠・分娩・産褥にまつわる解剖・生理・病理・病態等、基本的医学知識を習得する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

受講にあたって、解剖生理学（女性生殖器)・母性看護学で学んだ内容の復習をしておいて下さい。

教科書

病気が見える(婦人科・乳腺外科)：メディックメディア
病気が見える（産科)：メディックメディア

参考書

特になし。

研究室／オフィスアワー

木田：西棟 233 研究室／月曜 5 限
前川：C 棟研究室 8／部屋にいればいつでも訪問可です。質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	女性生殖器の解剖生理	テキストを一読しておく。	
2	性分化と染色体異常		
3	性感染症		
4	女性生殖器の類腫瘍性病変・前癌病変・腫瘍		
5	婦人科一般診察		
6	出生前診断と人工妊娠中絶		
7	不妊症とその各種検査及び治療		
8	妊娠の成立と着床		
9	産科 DIC		
10	妊娠高血圧症候群		
11	子癇、HELLP 症候群		
12	糖代謝異常妊娠		
13	合併症妊娠①		
14	合併症妊娠②		
15	母子感染症と胎児及び新生児へのリスク		

成績評価方法と基準	割合
①筆記試験（100 点満点で、60 点以上を合格とする。）	①100%

授業科目名	女性健康学総論(助産)				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、山下　仁、大平　純子	
科目ナンバリング	BM003	科目区分	基礎助産学	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

女性の健康の概念と歴史的背景を理解し、女性の各ライフサイクルにおける健康課題に対する支援の方略を修得する。
補完代替医療について理解し、女性のヘルスプロモーション、助産ケアの中に取り入れることの有効性について学ぶ。
無痛分娩・出生前診断・不妊治療など女性を取り巻く今日の医療問題を理解する。

到達目標

①女性の健康に関する国内外の歴史的背景と女性の健康の概念が理解できる。
②女性の健康問題の特徴をとらえ、課題を理解し支援方法を考えることができる。
③代替補完医療を用いた女性の健康支援の有効性を学修する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

助産師は周産期だけでなく、女性の一生に関わることが必要とされています。各ライフサイクルの健康課題をしっかりと学びましょう。

教科書

助産師基礎教育テキスト 2020 版　ウィメンズヘルスケア　日本看護協会出版会
助産学講座３　基礎助産学３母子の健康科学第 5 版　医学書院
助産学講座５　基礎助産学５母子の健康科学第 5 版　医学書院

参考書

出生前診断　朝日新書
卵子老化の真実　文春新書
不妊治療を考えたら読む本　講談社
子宮力　日本助産師会出版
図表でわかる無痛分娩プラクティスガイド　メディカルビュー社

研究室／オフィスアワー

研究室 238 にいます。適時、質問・相談に応じますガ不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	女性の身体の仕組みと健康	女性の身体の生理的・解剖学的特徴について復習しておく。	中西伸子
2	女性の身体の仕組みと健康	女性の一生涯におけるホルモン変動と症状について復習しておく。	中西伸子
3	ライフサイクルにおける女性のヘルスプロモーション	女性のライフサイクル各期について復習・予習しておく。	中西伸子
4	女性の健康課題を考える。	ライフサイクル各期の女性の健康課題について考えてくる。	中西伸子
5	麻酔分娩の管理と支援を学修する。	無痛分娩について予習しておく。	中西伸子
6	麻酔分娩の管理と支援を学修する。	無痛分娩について予習しておく。	中西伸子
7	麻酔分娩の管理と支援を学修する。	無痛分娩について予習しておく。	中西伸子
8	補完代替医療のエビデンス	補完代替医療について調べてくる	山下　仁
9	補完代替医療のエビデンス	補完代替医療のリスクや事故の事例について調べてくる	山下　仁
10	補完代替医療の活用(鍼灸と女性の健康)	鍼灸のツボと健康支援について予習してくる。	山下　仁
11	補完代替医療の活用	学んだことを実践に行かせるよう復習しておく。	山下　仁
12	東洋医学を取り入れた妊婦への支援（温熱療法)	陰陽五行説、臓腑・経絡説について資料を読んでくる	大平純子
13	東洋医学を取り入れた妊婦への支援（温熱療法)	学んだことを実践に行かせるよう演習する。	大平純子
14	不妊治療と出生前診断	不妊と出生前診断について予習しておく。	中西伸子

15	不妊治療と出生前診断	不妊と出生前診断について予習しておく。	中西伸子
成績評価方法と基準			割合
①プレゼンテーション ②レポート（期限厳守） ③態度・質疑応答等の参加状況含む ④出席 4/5 以上			①40% ②40% ③20%

授業科目名	新生児診断・発達論(助産)（Neonatal Diagnosis and Development）				
主担当教員	望月　成隆		担当教員	望月　成隆	
科目ナンバリング	BM004	科目区分	基礎助産学	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

助産診断の基礎となる新生児と胎児の発達、生理さらにハイリスク新生児の病態について学修する。
胎内から胎外生活への移行期や移行後の助産診断に必要な形態機能学ならびに新生児の健康状態の診断、正常からの逸脱を識別するために必要な基礎的な知識（疾患と病態）について学修する。また、新生児医療の背景と胎児新生児学における倫理を学ぶ。

到達目標

助産診断・技術学Ⅲと関連づいた新生児から乳児の助産診断に必要な基礎医学系科目である。
当該科目で学修した知識を助産診断・技術学Ⅲ（新生児のフィジカルアセスメントと新生児助産診断）へ反映させ、助産学実習の助産診断に活用できる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

実習では出生直後から新生児に関わり、実際にケアをしていきます。ＮＩＣＵも実習に行きます。新生児の観察と助産診断が適切にできるよう、予習・復習を含め、講義に真剣に取り組んでください。

教科書

新生児学入門　医学書院
助産学講座６　助産診断・技術学Ⅱ－［3］新生児期・乳幼児期　医学書院　2018

参考書

出生と死をめぐる生命倫理　医学書院
NCPR2015 新生児蘇生法テキスト第 3 版　メヂカルビュー社
目で見る妊娠と出産　文光堂

研究室／オフィスアワー

質問等はいつでもご自由にどうぞ。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	新生児の発育・発達とその評価 （胎児・新生児の発育、成熟度の判定）	胎児・新生児の成長・発育について予習・復習しておくこと。	望月成隆
2	新生児の診断 （新生児の診察方法と新生児に特徴的な所見について）	新生児の特徴と診察方法について予習復習・しておくこと。	望月成隆
3	新生児の特徴と管理① （呼吸、体温調節、水・電解質バランス）	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
4	新生児の特徴と管理② （黄疸、感染症、血液系、免疫）	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
5	ＮＩＣＵ入院時の管理、ハイリスク新生児の管理	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
6	新生児の様々な疾患の理解 （先天性代謝疾患・血液系疾患・中枢系疾患）	学んだ疾患について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
7	主要疾患の病態と管理	学んだ内容について復習し、理解を深めておくこと。	望月成隆
8	先天異常・新生児医療における生命倫理	学んだ内容を熟考し、自分の考えを持つこと	望月成隆
成績評価方法と基準			割合
①筆記試験（100 点満点で、60 点以上を合格とする。）DP①④			①100%

授業科目名	ハイリスク母子支援論(助産)（Support for High-risk Mother and Child）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、成瀬　勝彦	
科目ナンバリング	PM005	科目区分	基礎助産学	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

周産期における母子の健康状態のアセスメントやリスクを評価するための知識を習得する。周産期に発症しやすい心身の異常を理解し、正常から逸脱した妊娠・分娩・産褥期の状態や社会的ハイリスクにある女性と子ども、家族に必要な助産ケアを学ぶ。さらに周産期の母体の急変時への対応について学ぶ。

到達目標

周産期のハイリスク母児について学修するとともに社会的ハイリスク母子やその家族に対する助産師の役割と支援の必要性について理解できる。さらに周産期の母体の急変時の状況と対応について理解する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

周産期の健康逸脱、異常予測のヘルスアセスメントは重要です。母体の急変時の状況を知り、対応を学びましょう。また、産褥うつや児の虐待に至る、社会的リスクや家族の発達過程、母子の愛着形成などにも着目し、ハイリスク妊産褥婦とその家族に対する助産師の役割を学びましょう。

教科書

助産師基礎教育テキスト 2020 年版ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア日本看護協会出版会
目で見る妊娠と出産　文光堂

参考書

母体急変時の初期対応第 2 版　メディカ出版
NCPR2015 新生児蘇生法テキスト第 3 版

研究室／オフィスアワー

研究室 238 にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	周産期におけるハイリスク母児と助産師の役割	周産期での母子のハイリスクとはどういうことが考えられるか予習しておく。	中西伸子
2	周産期救急について学び、蘇生の処置を習得する。	周産期の救急時の処置について予習しておく。	成瀬勝彦
3	周産期救急について学び、蘇生の処置を習得する。	周産期の救急時の処置について必要性を理解し、蘇生処置を演習で学ぶ。	成瀬勝彦
4	虐待問題における日本の母子保健の現状と課題を知る。	母子保健を取り巻く現状に関する書籍・記事を読んでおく。虐待があったときの支援について考えておく。	中西伸子
5	虐待問題における日本の母子保健の現状と課題を知り、助産師の役割について考えることができる。	虐待における現状を理解し、助産師の支援について意見を出し合うことができるようにしておく。	中西伸子
6	里親制度について学修し、助産師の支援についてについて考えることができる。	里親制度について理解し、助産師としてのかかわり方を考える。	中西伸子
7	ハイリスク家族への支援	社会的ハイリスクについて学習しておく。	中西伸子
8	児の発達障害について理解する	発達障害について予習しておく。	飯田順三

成績評価方法と基準	割合
①レポート（提出期限厳守） ②プレゼンテーション・態度・質疑応答参加状況 ③出席 4/5 以上（態度・質疑応答参加状況含む）	①80% ②20%

授業科目名	ウイメンズヘルスとリプロダクティブケア(助産)（Women's Health and Reproductive Care）				
主担当教員	橋本　富子		担当教員	橋本　富子	
科目ナンバリング	BM006	科目区分	基礎助産学	ディプロマポリシー該当項目	DP①②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

女性と次世代家族を統合的にとらえ、生涯の健康増進、QOL（生命の質）、well-being（安寧）を目指すことを目的に、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点からセクシャルヘルスのの健康課題と支援の実際を学修する。受胎調節実施指導員の認定講習となる。

到達目標

1. 女性の人権とリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶことができる。①②③④
2. 家族計画と受胎調節の意義と目的について学ぶことができる。①②③④
3. 母体保護法、薬事法など関連法規を学び、受胎調節実施指導員の資格と業務について理解することができる。①③④
4. 女性の健康課題である性感染症の動向とリプロダクティブ・ヘルスに及ぼす影響について学ぶことができる。①④
5. 各避妊法について学ぶことができる。①②④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

1. この科目は受胎調節実施指導員認定講習である。認定講習は、「ウイメンズヘルスとリプロダクティブケア（土曜日補講を含む）」授業と助産学実習Ⅱで構成される。
2. 関連する母性看護学・形態機能学・臨床病態学を復習しておく。
3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を深め、助産師としてのアイデンティティを培うこと。

教科書

1.助産師基礎教育テキスト　第 2 巻女性の健康とケア　　日本看護協会出版会
2.受胎調節実施指導用テキストー受胎調節実施指導員認定講習会指導指針,一般社団法人日本家族計画協会,2016

参考書

・低用量ピル（経口避妊薬）とは一正しい理解を深めようピルのこと（改訂第 6 版）,一般社団法人日本家族計画協会,2016
・「若者の性」白書　第 7 回性行動全国調査報告,財団法人日本性教育協会編,小学館,2011
・病気がみえる 10　産科　メディックメディア
・病気がみえる 9　婦人科　メディックメディア
＜器材・器具＞
・受胎調節指導標本（避妊用器材標本セット）　株式会社 京都科学
・避妊指導キット　一般社団法人 日本家族計画協会

研究室／オフィスアワー

事前約束のこと

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	性と生殖総論	・母性看護学に関連する科目を復習しておく（1 時間） ・今回授業の復習（1 時間）	以下、橋本が担当する。
2	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと日本の課題	・教科書・参考書の予習（学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく）（1 時間） ・復習（1 時間）	
3	性感染症の動向と関係法規	・教科書・参考書の予習（学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく）（1 時間） ・復習（1 時間）	
4	性感染症がリプロダクティブヘルスへ及ぼす影響	・教科書・参考書の予習（学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく）（1 時間） ・本日の復習（1 時間）	
5	助産師の行う受胎調節の意義	・助産師がリプロダクティブケアに関わる目的・意義を考えておく。教科書・参考書の予習（1 時間） ・復習（1 時間）	
6	受胎調節と倫理	・教科書・参考書の予習（学習内容に関する現状を書籍・データ・記事などから確認しておく）（1 時間）	

		・復習（1 時間）	
7	避妊法総論･各論	・発表に向けた課題（5 時間） ・復習（1 時間）	
8	各種受胎調節のメリット・デメリット	・教科書・参考書の予習（1 時間） ・復習（1 時間）	
成績評価方法と基準			割合
1.　プレゼンテーション点と資料内容点（DP①④） 2.　考査点（DP①②③④）　＊試験学習を 10 時間する。 評価には 2/3 以上の出席を必要とする。			1. 30% 2. 70%

授業科目名	分娩介助技術学演習(助産)				
主担当教員	西川　美樹		担当教員	西川　美樹、中西　伸子、塚田　桃代	
科目ナンバリング	PM001	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

分娩介助の原理原則を理解し、分娩介助者（直接介助および間接介助）の役割と基本的な介助技術を修得する。出生直後の児の観察に必要な助産技術を修得する。

到達目標

1.　分娩介助の意義および原則を説明できる。
2.　分娩介助における助産師の役割を説明できる。
3.　分娩介助技術の基本を修得できる。
4.　出生直後の新生児のケアに必要な技術を修得できる。
5.　早期母子接触に必応な技術を修得できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

自発的に分娩介助技術のトレーニングを積み、技術の修得に努めること。
技術演習に関しては、学生が演習室の使用および準備から終了まで主体的に運用すること。

教科書

助産師教育テキスト 第 5 巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院
分娩介助学 第 2 版 進純郎 医学書院
今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第 4 版 南江堂
産婦人科診療ガイドライン 産科編 2017 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会

参考書

エビデンスに基づく助産ガイドライン一妊娠期・分娩期 2016 日本助産学会
目でみる妊娠と出産 馬場一憲 文光堂
助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第 2 版 我部山キヨ子/大石時子 医学書院
写真でわかる助産技術アドバンス 平澤美恵子 村上睦子 インターメディカ
新生児ベーシックケア 家族中心のケア理念をもとに 横尾京子 医学書院
※　授業内で随時資料を配布します。

研究室／オフィスアワー

研究室/132　オフィスアワー/適宜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス 分娩介助の意義 映像でイメージする分娩介助	予習：母性看護学で学んだ正常分娩経過を復習し、授業に臨むこと。 復習：授業内容の確認。	西川
2	分娩時介助に伴う技術 環境の整備　産婦の準備　分娩介助者の準備 間接介助者および新生児係の準備	予習：母性看護学での既習の内容およびテキストの該当ページを読んだうえで授業に臨むこと。 復習：デモンストレーションに向けて学習内容をしっかり復習する。	西川
3	分娩介助に伴う技術 肛門保護～分娩終了まで	予習：母性看護学での既習の内容およびテキストの該当ページを読んだうえで授業に臨むこと。 復習：デモンストレーションに向けて学習内容をしっかり復習する。	西川
4	分娩介助に伴う準備 肛門保護～分娩終了まで	予習：母性看護学での既習の内容およびテキストの該当ページを読んだうえで授業に臨むこと。 復習：デモンストレーションに向けて学習内容をしっかり復習する。	西川
5	【演習】 清潔操作 導尿 ガウン装着	予習：看護基礎教育で既習の導尿の手順を復習および清潔操作を自己学習する。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
6	【演習】 分娩介助技術：デモンストレーション	予習：演習内容に関わる助産診断・技術学Ⅱの授業内容の復習。分娩介助手順の熟読。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田

7	【演習】 分娩介助技術：デモンストレーション	予習：演習内容に関わる助産診断・技術学Ⅱの授業内容の復習。分娩介助手順の熟読。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
8	【演習】 準備～分娩終了まで	予習：分娩介助手順の熟読。自己課題を明確にし演習に臨むこと。 復習：技術評価試験に向けて鍛錬する。	西川 中西 塚田
9	【演習】 準備～分娩終了まで	予習：分娩介助手順の熟読。自己課題を明確にし演習に臨むこと。 復習：技術評価試験に向けて鍛錬する。	西川 中西 塚田
10	【演習】 準備～分娩終了まで	予習：分娩介助手順の熟読。自己課題を明確にし演習に臨むこと。 復習：技術評価試験に向けて鍛錬する。	西川 中西 塚田
11	分娩介助技術評価	詳細は別途伝えます。 本技術評価試験は助産学実習履修のための先修条件となるため、技術評価試験に備えて日々自己演習に励むこと。	西川 中西 塚田
12	分娩介助技術評価	同上	西川 中西 塚田
13	分娩介助技術評価	同上	西川 中西 塚田
14	分娩介助技術評価	同上	西川 中西 塚田
15	分娩介助技術評価	同上	西川 中西 塚田
成績評価方法と基準			割合
①技術評価試験（分娩介助技術） ②態度（授業及び演習への積極的参加姿勢）			①90% ②10%

授業科目名	助産診断･技術学Ⅰ(助産)				
主担当教員	塚田　桃代		担当教員	塚田　桃代、中西　伸子、西川　美樹、 成瀬　勝彦、望月　成隆	
科目ナンバリング	PM002	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜１限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

講義・演習を通して、妊娠期にある女性の身体的・心理社会的変化について学び、正常妊娠経過とその逸脱を診断するために必要な知識と方法・助産技術を習得する。また、女性がより良い健康レベルを維持・増進し、主体的に妊娠期を過ごすためのセルフケア能力の向上や、自己決定ができるような援助を学習する。

到達目標

１．妊婦の身体的・心理社会的変化、正常な妊娠経過とその逸脱状態について理解し、説明することができる。
２．正常な妊娠経過と、正常からの逸脱にてついて、根拠をもって助産診断することができる。
３．妊娠期の助産過程の展開に必要な知識と技術を習得し、紙上事例を用いて実施する。
４．妊娠期における健康教育について、計画・立案から評価までの過程を理解し、実施することができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

助産学では、母性看護学をさらに深めた知識・技術・態度が求められます。看護過程の展開を含め、既習の知識・技術を復習しておいてください。日々、予習・復習を行い、自主的な学習を展開して授業に前向きに取り組んでください。講義・演習では、学生にも意見を求めます。また、学生による発表やグループワーク等も多くありますので、積極的に意見交換を行い、互いに切磋琢磨しながら自己研鑽に努めましょう。

教科書

助産師基礎教育テキスト第４巻　妊娠期の診断とケア　2019 年版　日本看護協会出版会
助産学講座 6　助産診断・技術学Ⅱ［１］妊娠期　医学書院
助産師のためのフィジカルイグザミネーション―アセスメント力を磨く 我部山キヨ子 医学書院
日本産婦人科学会編(2017) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会
助産業務ガイドライン 2019　日本助産師会
今日の助産　マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第４版　南江堂
図説 CTG テキスト　中井章人　メディカルビュー

参考書

周産期ケアマニュアル第２版　改訂版　立岡弓子編　サイオ出版
写真でわかる助産技術アドバンス　インターメディカ
母性の心理社会的側面と看護ケア　医学書院
助産外来の健診技術　医学書院
CTG テキスト　アドバンス　メディカルビュー
その他適宜紹介

研究室／オフィスアワー

研究室/235　　オフィスアワー/適宜相談に応じる

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	オリエンテーション（母性看護学基礎知識確認テスト含む） 助産診断・技術学の概要について	シラバス・教科書の確認	塚田
2	妊娠の生理① 妊娠の成立 胎児の成長と発達	妊娠の成立過程、胎児の形態と発育、胎児付属物の機能について学習しておくこと。	塚田
3	妊娠の生理② 妊娠による母体の変化 妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント	妊娠期によっておこる身体的・心理的・社会的変化の特徴について学習しておくこと。	塚田
4	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型	教科書の該当ページを読んでおくこと。 看護診断について復習しておくこと。	塚田
5	妊娠期のフィジカルアセスメント① 妊婦の健康診査に必要な知識・技術	妊婦の妊娠の受容および情緒の変化と家族としての変化について学習しておくこと。	塚田
6	【演習】妊娠期のフィジカルアセスメント② 診断に必要な助産技術演習	妊娠初期のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと。	塚田 中西 西川

7	妊娠期における健康教育 健康教育とは 保健指導とは	教科書の該当ページを学習してから授業に臨むこと。	塚田
8	妊婦への支援① 日常生活適応へのケア（衣食住など）	妊娠経過に伴うマイナートラブルや食生活・衣生活・住生活・運動・休息・性生活について学習しておくこと。	塚田
9	妊婦への支援② 日常生活適応へのケア （マイナートラブルなど）	同上	塚田
10	事例演習①：妊娠初期 必要な情報とアセスメント・助産診断	配布された事例を読んでおくこと。 情報の整理とアセスメントを各自で行うこと。	塚田 中西 西川
11	事例演習①：妊娠初期 必要な情報とアセスメント・助産診断・計画立案	前回までの情報の整理，アセスメントの見直し。 計画立案を各自行うこと。	塚田 中西 西川
12	事例演習②：妊娠中期 必要な情報とアセスメント・助産診断	同上	塚田 中西 西川
13	事例演習②：妊娠中期 必要な情報とアセスメント・助産診断・計画立案	同上	塚田 中西 西川
14	事例演習③：妊娠後期 必要な情報とアセスメント・助産診断	同上	塚田 中西 西川
15	事例演習③：妊娠後期 必要な情報とアセスメント・助産診断・計画立案	同上	塚田 中西 西川
16	【演習】妊娠経過と産科学的診断① 超音波演習	妊婦健診時に実施される検査や測定、胎児モニタリング（超音波検査や NST）について、学習しておくこと。	外部講師（成瀬）
17	【演習】妊娠経過と産科学的診断② 胎児心拍数モニタリング	同上	外部講師（成瀬）
18	周産期メンタルヘルス	妊娠期だけでなく、分娩・産褥期を通しての女性のメンタルヘルスについて学習しておくこと。	外部講師（飯田）
19	【演習】生理的変化を踏まえた保健指導演習（個人指導）① 指導案・媒体作成	保健指導の意義・目的・方法について学習しておくこと。	塚田 中西 西川
20	【演習】生理的変化を踏まえた保健指導演習（個人指導）② 指導案・媒体作成	同上	塚田 中西 西川
21	【演習】生理的変化を踏まえた保健指導演習（個人指導）③ 指導案・媒体作成	同上	塚田 中西 西川
22	【演習】生理的変化を踏まえた保健指導演習（個人指導）④ ロールプレイ	出産直前期のアセスメントから助産計画まで助産過程の展開について学習しておくこと。	塚田 中西 西川
23	【演習】生理的変化を踏まえた保健指導演習（個人指導）⑤ ロールプレイ	同上	塚田 中西 西川
24	親になる準備へのケア 出産準備教育 心理・社会的ケア	親役割の準備とバースプラン，保健医療サービス，健康教育（出産準備教室）の目的・方法について学習しておくこと。	塚田
25	【演習】集団指導（出産準備教室）① 企画書作成 指導案・媒体作成	健康教育（出産準備教室）の目的・方法について学習しておくこと	塚田 中西 西川
26	【演習】集団指導（出産準備教室）② 指導案作成・媒体作成	同上	塚田 中西 西川
27	【演習】集団指導（出産準備教室）③ 指導案作成・媒体作成	同上	塚田 中西 西川
28	【演習】集団指導（出産準備教室）④ ロールプレイ・発表	同上	塚田 中西 西川
29	【演習】集団指導（出産準備教室）⑤ ロールプレイ・発表	同上	塚田 西川 中西
30	【演習】集団指導（出産準備教室）⑥ ロールプレイ・発表	同上	塚田 西川 中西

成績評価方法と基準	割合
①定期試験 ②演習・講義における課題提出状況 ③態度（授業への積極的参加姿勢，準備・報告・連絡・相談を含む取り組みや、質問に対する返答状況） ④協働性・コミュニケーション能力（学生間の関係性の構築，グループワークへの取り組み）	①70% ②20% ③10%

授業科目名	助産診断･技術学Ⅱ(助産)				
主担当教員	西川　美樹		担当教員	西川　美樹、中西　伸子、塚田　桃代、天川　一郎、成瀬　勝彦	
科目ナンバリング	PM003	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

分娩期の助産過程の展開に必要な知識を統合し、エビデンスに基づいた診断の方法を理解する。
産婦（胎児および新生児を含む）とその家族へ、安全・安楽な支援に必要な助産診断・技術を学ぶ。

到達目標

1. 分娩期の診断とアセスメントの視点を述べることができる。
2. 正常経過にある産婦と胎児の健康状態をアセスメントすることができる。
3. 分娩経過に伴う正常経過逸脱を予測するための観察の視点を述べることができる。
4. 正常経過逸脱の予防的支援およびケアについて理解することができる。
5. 胎児心拍モニタリングを判読し、正常経過逸脱の対応について説明することができる。
6. 出生直後の児の観察の視点を理解し、アセスメントすることができる。
7. 母子早期接触に向けてのアセスメントを行い、具体的援助について説明することができる。
8. 分娩期における産婦やその家族に対する助産師の役割を述べることができる。
9. フリースタイル分娩における分娩進行、支援技術、分娩介助技術の基礎知識を得ることができる。
10. 会陰裂傷発生時の縫合技術の実際を知ることができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

母性看護学で学んだ正常分娩経過を復習したうえで初回の授業に臨んでください。
分娩期は瞬時の判断と安全な技術が求められます。着実に知識や技術を定着させるために、復習をしっかり行い、自己学習を積み重ね研鑽していってください。

教科書

助産師基礎教育テキスト 第 5 巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 医学書院
今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第 4 版 南江堂
分娩介助学 第 2 版 進純郎 医学書院
日本産婦人科学会編(2017)産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会
体位別フリースタイル分娩介助法―回旋がわかれば介助がわかる！ 岩田塔子 メディカ出版

参考書

エビデンスに基づく助産ガイドライン―妊娠期・分娩期 2016 日本助産学会
助産師のためのフィジカルイグザミネーション ―アセスメント力を磨く 我部山キヨ子 医学書院
図説 CTG テキスト 中井章人 MEDICAL VIEW
※ 授業内で随時資料を配布します

研究室／オフィスアワー

研究室/132　オフィスアワー/適宜

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス 分娩期の助産診断の特徴と診断類型 分娩期の心理社会的変化	予習：母性看護学での既習内容を復習したうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し自己学習を深めておく。	西川
2	分娩経過の診断に必要な知識 分娩の生理	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し，自己学習を深めておく。	西川
3	分娩経過の診断・アセスメントの視点 分娩開始の診断 分娩の 4 要素の関連性	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	西川
4	分娩期の助産診断① 入院時の診断・アセスメントとケア	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。	西川
	分娩第Ⅰ期の診断・アセスメントとケア	復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	
5	分娩期の助産診断② 分娩第 2 期の診断・アセスメントとケア 分娩第 3 期の診断・アセスメントとケア	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	西川
6	分娩期の助産診断③ 胎児の健康状態のアセスメント：CTG の判読 分娩後 2 時間までの診断・アセスメントとケア	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。母性看護学で学んだ胎児心拍数モニタリングを復習しておく。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。CTG の判読練習。	西川
7	分娩期の助産診断④ 出生直後の児の診断・アセスメントとケア 付属物の診断	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	西川
8	分娩進行に伴う正常逸脱の予測と予防①	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し各自自己学習を深めておく。	西川
9	分娩進行に伴う正常逸脱の予測と予防②	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し各自自己学習を深めておく。	西川
10	【演習】 分娩期の診断に必要な技術 助産師が行う分娩期のケア	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨む。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
11	【演習】 分娩期の診断に必要な技術 助産師が行う分娩期のケア	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨む。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
12	【事例展開】 分娩期の助産過程の展開	予習：配布した事例を熟読して授業の臨むこと。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
13	【事例展開】 分娩期の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
14	【事例展開】 分娩期の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
15	【事例展開】 分娩期の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
16	【事例展開】 分娩期の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
17	【事例展開】 分娩期の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
18	分娩期の診断に必要なフィジカルアセスメントおよび技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を	西川 中西 塚田

		深めること。	
19	分娩期の診断に必要なフィジカルアセスメントおよび技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
20	分娩期の診断に必要なフィジカルアセスメントおよび技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
21	分娩期の診断に必要なフィジカルアセスメントおよび技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
22	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：講義内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
23	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：講義内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
24	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：講義内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
25	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：講義内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
26	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：講義内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
27	フリースタイル分娩①	外部講師による講義および演習。	教員未定
28	フリースタイル分娩②	外部講師による講義および演習。	教員未定
29	会陰切開とその処置①	医師による講義 会陰部の解剖生理　会陰縫合術	天川
30	会陰切開とその処置②	医師による講義 会陰縫合術の実際	天川
成績評価方法と基準			割合
①　定期試験 ②　OSCE ③　演習・課題 ④　態度（授業への積極的参加姿勢）			①50% ②20% ③20% ④10%

授業科目名	助産診断･技術学Ⅲ(助産)				
主担当教員	西川　美樹		担当教員	西川　美樹、中西　伸子、塚田　桃代	
科目ナンバリング	PM004	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修･選択	必修

授業概要

[産褥期]
産褥経過における助産診断に必要な基礎知識および助産技術について学修する。
産褥経過における正常経過逸脱を予測するためのアセスメントのポイントと逸脱への予防的支援について学修し、具体的支援方法を修得する。

[新生児期]
新生児期の助産過程に必要な基礎的知識と技術について学修する。
新生児のヘルスアセスメントに基づく助産診断と、正常からの逸脱への予防的支援について学修することができる。
乳児期に向けた健やかな発育を促進するための支援について学修する。

到達目標

1. 褥婦および新生児の助産診断に必要な基本的知識を述べることができる。
2. 事例を通して産褥・新生児期の助産過程を展開し、助産計画を立案することができる。
3. 上記 2 の助産診断に基づき、褥婦およびその家族に必要な健康教育実施に向けた保健指導計画を立案することができる。
4. 産褥期および新生児期それぞれにおける助産師の役割を説明できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

母性看護学の既習の知識・技術は復習してから授業に臨んでください。自己学習のための課題は適時提示する予定です。

教科書

[産褥期]
助産師基礎教育テキスト 第 6 巻 産褥期のケア　新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院
今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第 4 版 南江堂
助産師のためのフィジカルイグザミネーション―アセスメント力を磨く　我部山キヨ子　医学書院
日本産婦人科学会編(2017)産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会

[新生児期]
助産師基礎教育テキスト 第 6 巻 産褥期のケア　新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会
助産学講座 8　助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期　医学書院
今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第 4 版　南江
助産師のためのフィジカルイグザミネーション―アセスメント力を磨く　我部山キヨ子　医学書院
新生児学入門　第 5 版　医学書院

参考書

[産褥期]
助産師のためのフィジカルイグザミネーション ―アセスメント力を磨く 我部山キヨ子 医学書院
母乳育児支援スタンダード 第 2 版 NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会 医学書院
※　　授業内で随時資料を配布します。

[新生児期]
日本産婦人科学会編(2017) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会
助産業務ガイドライン 2019 日本助産師会
周産期ケアマニュアル第 2 版　改訂版　立岡弓子編　サイオ出版
※　授業内で随時資料を配布します。

研究室／オフィスアワー

適宜相談に応じる

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	ガイダンス 産褥期の助産診断の特徴と診断類型 新生児期の助産診断の特徴と診断類型	予習：母性看護学での既習内容を復習したうえで授業に臨む。 復習：：授業内容を確認し自己学習を深めておく。	西川
2	褥婦の健康診査に必要な技術 産褥期の適応とアセスメント	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。	西川

	産褥経過の助産診断 母乳栄養確立の助産診断	復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	
3	助産師が行う産褥期のケア 褥婦への支援 家族への支援	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	西川
4	新生児ケアの基本 新生児のフィジカルアセスメント 出生時・出生後 24 時間、早期新生児期のケア	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	西川
5	新生児の適応生理とフィジカルアセスメント	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	西川
6	【演習】 産褥期のフィジカルアセスメント技術	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨む。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
7	【演習】 産褥期のフィジカルアセスメント技術	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨む。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
8	【演習】 新生児期のフィジカルアセスメント技術	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨む。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
9	【演習】 新生児期のフィジカルアセスメント技術	予習：演習項目についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで予習をして臨む。 復習：演習内容の自己練習。	西川 中西 塚田
10	帝王切開手術における助産師の役割 術後のケア	予習：教科書の該当ページ読んだうえで授業に臨む。 復習：授業内容を確認し、自己学習を深めておく。	西川
11	産褥期における健康教育		西川
12	【事例展開】 産褥母児の助産過程の展開	予習：配布した事例を熟読して授業の臨むこと。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
13	【事例展開】 産褥母児の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
14	【事例展開】 産褥母児の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
15	【事例展開】 産褥母児の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
16	【事例展開】 産褥母児の助産過程の展開	予習：前回までの情報の整理およびアセスメント、計画の見直し。 復習：事例の情報の整理とアセスメントを各自行う。	西川 中西 塚田
17	産褥・新生児期の診断技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
18	産褥・新生児期の診断技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。	西川 中西 塚田

		復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	
19	産褥・新生児期の診断技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
20	産褥・新生児期の診断技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
21	産褥・新生児期の診断技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
22	産褥・新生児期の診断技術チェック	予習：課題についてはあらかじめ提示します。教科書及びテキストで既習内容の総復習をして臨む。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深めること。	西川 中西 塚田
23	乳房ケア①	外部講師による講義および演習。	外部講師
24	乳房ケア②	外部講師による講義および演習。	外部講師
25	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：授業内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
26	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：授業内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
27	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：授業内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
28	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：授業内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
29	OSCE　客観的臨床能力評価試験 （Objective Structured Clinic Examination）	予習：授業内容を総復習しておく。 復習：明確になった自己の課題に対する学修を深める。	西川 中西 塚田
30	まとめ		西川
成績評価方法と基準			割合
①　定期試験 ②　OSCE ③　演習・課題 ④　態度（授業への積極的参加姿勢）			①50% ②20% ③20% ④10%

授業科目名	助産診断･技術学Ⅳ(助産)				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、西川　美樹、塚田　桃代、 西村　史朋	
科目ナンバリング	PM005	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー 該当項目	
配当年次	1	開講学期	前期	曜日･時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	1	必修･選択	必修

授業概要

周産期における母子の健康状態のアセスメントやリスクを評価するための知識を習得する。周産期に発症しやすい異常を理解し、正常から逸脱した状態にある妊娠・分娩・新生児に必要な助産ケアを学ぶ。

到達目標

①周産期にある母子の異常予測の助産診断、および正常逸脱時のケアに必要な知識を学ぶ。
②妊娠期・分娩期・産褥期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療について説明できる。
③社会的ハイリスク母子やその家族に対する助産師の役割と支援の必要性について理解できる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

周産期の健康逸脱、異常予測のヘルスアセスメントは重要です。妊娠期・分娩期・産褥期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療について理解し、ケアにつながるようしっかりと学びましょう。

教科書

目で見る妊娠と出産　文光堂
助産師基礎教育テキスト 2020 年版ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア日本看護協会出版会
NCPR2015 新生児蘇生法テキスト第 3 版
日本産婦人科学会編(2017) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 日本産婦人科学会

参考書

最新産科学異常編　荒木勤　文光堂

研究室／オフィスアワー

講義の後など、質問に応じます。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習･復習･課題等	担当
1	周産期におけるハイリスクと助産師の役割	周産期の異常の診断と対応について助産師として必要な知識について予習しておく。	中西伸子
2	妊娠初期の異常と診断・管理	妊娠初期の異常について予習しておく。	西村史朋
3	胎児と付属物、羊水の異常と診断・管理	胎児・胎盤・臍帯・羊水の異常について予習しておく。	西村史朋
4	母体の合併症と診断・管理	妊娠中の母体の合併症について予習しておく。	西村史朋
5	分娩時のリスクと診断・管理	分娩時の異常について予習しておく。	西村史朋
6	分娩経過の異常と診断・管理	分娩時の異常について予習しておく。	西村史朋
7	産科出血と妊産婦管理	分娩時の異常と出血について予習しておく。	西村史朋
8	産科処置・手術の診断と管理	帝王切開・吸引分娩などの異常分娩について予習しておく。	西村史朋
9	無痛分娩の管理	無痛分娩のトピックや現状について調べておく。	西村史朋
10	超音波演習	助産師として超音波診断の活用の必要性を予習しておく。	成瀬勝彦
11	超音波演習	助産師として超音波診断の活用方法を学ぶ。	成瀬勝彦
12	超音波演習	超音波診断の実際を器械を用いて演習する。	成瀬勝彦
13	産科救急処置演習	周産期の母体の急変の状況はどのようなことがあるか予習しておく。	成瀬勝彦
14	産科救急処置演習	周産期の母体急変時の初期対応について学修する。	成瀬勝彦
15	産科救急処置演習	周産期の母体急変時の初期対応について演習する。	成瀬勝彦

成績評価方法と基準	割合
①テスト ②レポート（期限厳守） ③態度と質疑応答参加状況 ④出席 4/5 以上	①60% ②30% ③10%

授業科目名	地域母子保健学(助産)（Community Maternal and Child Health）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、大平　純子	
科目ナンバリング	PM007	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー該当項目	DP②④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	講義	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

母子保健行政の仕組み、制度・施策・動向を理解し、助産師による地域母子保健活動の役割と機能について学修する。

到達目標

1. 地域における助産師の役割と意義を理解する
2. 地域母子保健活動における助産師の支援の場と方法を知る。
3. 日本の母子保健の現状と課題について学ぶ。
4. 日本における虐待問題の現状と課題を知り、助産師の役割を考えることができる。
4. 母子保健関係法規、母子保健制度、母子保健施策を理解する。
5. 母子保健統計から母子保健の現状と動向、問題点を理解する。DP②④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

助産師は地域でも活動が求められています。その役割と意義について理解し、将来の活躍の場の一つとして考えていきましょう。

教科書

助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健　医学書院
2020 年出題基準別助産師国家試験問題　メディカ出版

参考書

助産師基礎教育テキスト　第 1 巻　助産概論　日本看護協会
産み育てと助産の歴史　医学書院

研究室／オフィスアワー

研究室 238 にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	地域母子保健の意義を理解し、地域における助産師の役割とと活動について知る。	母子保健を取り巻く現状に関する書籍・記事を読んでおく。地域における助産師の必要性について意見を述べることができる。	中西伸子
2	地域で活躍する助産師の実際①	地域で活躍する助産師の活動を知り、地域における助産師の役割を学ぶ。	中西伸子
3	地域で活躍する助産師の実際②	地域で活躍する助産師の活動を知り、地域における助産師の役割を学ぶ。	中西伸子
4	地域で活躍する助産師の実際③	助産師会の活動と地域における助産師の活躍の場について知り、助産師に実際の活動の現状と課題などを知る。	大阪府助産師会会長
5	地域で活躍する助産師の実際④	地域で開業する助産師の活動を知り、地域における助産師の役割を学ぶ。	岩島貴久美
6	地域で活躍する助産師の実際⑤	外国で働く助産師の活動状況や課題を知る。	中西伸子 ゲストスピーカー
7	地域で活躍する助産師の実際⑥	外国で活躍する助産師に実際に話を聞き、現状と課題などの状況を知る。	中西伸子 ゲストスピーカー
8	地域で活躍する助産師の実際⑦	講義を聞き質疑応答ができるよう準備しておく。	中西伸子 ゲストスピーカー

成績評価方法と基準	割合
①レポート(期限厳守) ②態度（質疑・応答などの態度を含む） ③4/5 以上の出席を必要とする DP②④	①80% ②20%

授業科目名	助産管理学(助産)（Control of Midwifery）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、藤本　陽子、西　幸江	
科目ナンバリング	PM007	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー該当項目	DP②③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

助産業務管理に必要な知識や助産業務に付随する法的責任を修得し、助産師としてのセーフティマネージメントについての対策を考察できる能力を養う。さらに、助産師としての様々な管理場面の視点を培う。

到達目標

1. 施設（病院、開業助産所等）における助産業務の管理、および関連する法規と責任を説明できる。
2. 周産期における医療事故を予防するために必要な基本的な管理を学び、助産師としてのセーフティマネジメントのあり方を考察できる。
3. 独立開業を行う場合に必要な資源、人材等の経営的視点について考察できる。
4. 周産期医療システムの連携について理解する。
5. 災害時の助産師の役割について説明できる。

DP②③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

助産管理学の基礎知識を学び、開業権を持つ専門職者として助産施設や業務および勤務者の管理の在り方を理解する。

教科書

助産師基礎教育テキスト 2020 年版　第 3 版　周産期における医療の質と安全　日本看護協会出版会
助産学講座１０　助産管理　　医学書院
助産業務ガイドライン 2019　日本助産師会
日本産婦人科学会編(2017）産婦人科診療ガイドライン産科編 日本産婦人科学会
2020 年出題基準別助産師国家試験問題　メディカ出版

参考書

新版助産師業務要覧　第 3 版　基礎編
新版助産師業務要覧　第 3 版　実践編
新版助産師業務要覧　第 3 版　アドバンス編

研究室／オフィスアワー

研究室 238 にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	助産師と管理	テキスト（日看協）第 1 章を読んでおくこと 助産管理の変遷と必要性を学ぶ。	中西伸子
2	災害時における助産管理	予習：今までに起こった災害時の対策等調べておく 災害時における助産師の役割や業務について考えておくこと：1 時間 復習:資料に基づきさらに学習を振り返る:1 時間	藤本陽子
3	災害時における助産管理	上に同じ。意見を求めるので発表できるようにしておく。	藤本陽子
4	助産管理とリスクマネージメント	周産期における医療安全保障のしくみ、医療安全のための支援について事例を通して学修する。リスクマネジメントについて考える。	西　幸江
5	医療の質と助産管理	周産期における助産管理とは何かテキストを読んでおくこと 周産期における医療の質と助産管理の関連について考察する。	西　幸江
6	助産管理と社会保障制度	周産期の関する最近のトピックについて調べておくこと 周産期における社会保障制度の現状や課題について学習する。	西　幸江

7	病棟における助産業務管理	周産期のリスクマネジメントについて予習しておく。 病棟の管理の実際と看護職の責務、リスクマネジメントについて学習する。	西　幸江
8	助産外来の役割と管理	助産外来について予習しておく。 外来の管理の実際と助産外来の在り方、看護職の責務、リスクマネジメントについて学習する。	西　幸江
9	院内助産	院内助産について予習しておく。 院内助産の歴史と助産師の責務、院内助産の管理について学習する。	西　幸江
10	NICUにおけるデベロップメンタルケアと管理	NICU について予習しておく。 NICU における児の管理と母親とその家族へのかかわりについて学び、助産師の役割について考察する。	ゲストスピーカー
11	NICUにおけるデベロップメンタルケアと管理	NICU における児の管理と母親とその家族へのかかわりについて学び、助産師の役割について考察する。	ゲストスピーカー
12	助産管理と関連法規	助産に関連する法規について予習しておく。 助産管理に関連した法規について学習する。	西　幸江
13	助産管理と関連法規	助産管理に関連した法規について学習する。	西　幸江
14	助産院における助産管理	助産院について予習しておく。 助産の管理に関する法規を学ぶ。 助産所における業務と母子保健活動の実際、関連機関や関連職種との連携を理解する。	中村美香
15	助産院における助産管理	助産所の建設にあたって管理・運営における基準を理解する。	中村美香
成績評価方法と基準			割合
①レポート（期限厳守） ②態度（質疑応答を含む） ③出席 4/5 以上 DP②③④			①80% ②20%

授業科目名	助産学実習Ⅰ(助産)（Midwifery (Practice Ⅰ)）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、青山　桂子、西川　美樹	
科目ナンバリング	PM008	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー 該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(実習)、 後期(実習)
授業形態	実習	単位数	8	必修・選択	必修

授業概要

周産期にある母子や家族を対象に助産過程を展開し、助産実践に必要な理論と技術・態度を修得する。対象の妊娠、分娩経過を総合的に診断し、助産計画に基づいた援助を行い、そのケアを考察する。実習を通して助産師としての倫理を学び、アイデンティティの形成をはぐくむ。

到達目標

1. 科学的根拠に基づいた助産診断・技術を活用し、妊・産・褥婦・新生児の基礎的な援助の実践ができる。
2. 正常分娩経過において安全で安楽な分娩介助実践のあり方を理解し実践できる。
3. 助産診断と正常分娩の介助を通して産婦の主体的な分娩のあり方を理解し実践できる。
4. 正常から逸脱した対象者の診断、援助および緊急時の対応と助産師の役割を理解する。
5. 母児とその家族に対して新たな家族の役割の変化と役割獲得への必要な援助ができる。
6. 援助の提供を通して助産倫理の重要性を理解することができる。
7. 自己の助産師像を述べることができる。 DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

尊いいのちの誕生の現場に立ち、分娩介助をはじめとする助産ケアを行うことに対する謙虚さと、主体的な姿勢をもち、感謝の気持ちを忘れず臨地実習に臨むこと。
学生の実習開始時期、施設は異なるため、担当教員との連絡を十分にとり実習に必要な準備やスケジュール管理を自律して行い実習に臨むこと。
1 事例を大切に実施した判断・支援を評価し、自己の課題を見出しながら、10 例程度の分娩介助・周産期ケアに対して主体的に学修を積み上げていくことを期待します。

教科書

今日の助産　改訂第 4 版　南江堂
助産師基礎教育テキスト 2020 年版　第 4・5・6・7 巻　　日本看護協会出版会
助産学講座 6・7・8　助産診断・技術学Ⅱ　医学書院
新生児学入門第 4 版　仁志田博司　医学書院
目で見る妊娠と出産　文光堂
NCPR2015 新生児蘇生法テキスト第 3 版
日本産婦人科学会編（2017）.産婦人科診療ガイドライン産科編 2017.日本産婦人科学会

参考書

周産期ケアマニュアル第 2 版　サイオ出版
分娩介助学第 2 版　医学書院

研究室／オフィスアワー

各教員は研究室にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	1. 病院において分娩介助実習・周産期保健指導実習・新生児ケア実習の助産学実習を行う。(詳細は実習要項参照) 1）分娩介助実習は分娩第Ⅰ期からⅣ期までを受け持ち、産婦の助産診断とケアおよび分娩介助を実施する。さらに間接介助、出生直後の児のケアを実施する。 2. 保健指導においては、妊娠期から産褥期まで実施し、外来の妊婦健康診査、マザークラスの見学実施を含み、施設における、集団・個別指導の学びを深める。 3. 周産期における助産師の業務の実際を学び、多職種との共同やチームメンバーとの役割について理解する。	事前に十分に知識の復習・技術の復習を行い、対象者の方に真摯に向き合う気持ちを持ち、実習に臨む。	中西　伸子 西川　美樹 塚田　桃代

成績評価方法と基準	割合
①分娩介助数に関しては、卒業要件に10例程度の介助数が必要であるが、介助数を評価するのでなく、分娩介助技術の到達度とともに各受け持ち事例についての実習経過における記録内容・態度を評価し1例として評価する。(記録提出期限厳守) ②実習における課題提出状況 ③実習態度(準備、報告、連絡、相談を含む取り組み、質問等に対する返答状況) ④協働性・コミュニケーション能力(学生同士の関係・対象者や臨地実習指導者との関係性の構築、保健指導の内容を総合して評価する。) ⑤原則全出席 DP①④	①70% ②10% ③10% ④10%

授業科目名	助産学実習Ⅱ(助産)(Midwifery (Practice II))				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、青山　桂子、西川　美樹、塚田　桃代	
科目ナンバリング	PM009	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー該当項目	DP①④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(実習)、後期(実習)
授業形態	実習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

助産学実習Ⅰに基づき、妊産褥婦および新生児とその家族を総合的に理解し、妊娠期・産褥期のWellness向上、育児技術の向上、家族の構築に必要な援助の提供方法を習得する。実習Ⅰ・Ⅱを通して助産師としての自律性を学び、アイデンティティの形成を目指す。

到達目標

助産学実習Ⅰの到達目標を満たしたうえで、さらに以下の到達目標を定める。
1. 分娩介助事例を対象に産褥期の助産過程を展開する。
2. 受け持ち時(妊娠期または分娩期)からの助産診断により、対象者の価値観、個別性をふまえた健康教育の企画、実施、評価ができる。
3. 受け持ち事例を対象に、産後の育児開始期の母親やその家族の心理について理解し保健指導・援助の実践ができる。DP①④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

個別性を考慮した、母子とその家族への支援ができることを目指す。
1例以上の母子を受け持ち分娩から産褥、新生児、育児期まで継続的に支援をする。事前に情報を収集し妊娠経過・妊娠に伴う心理社会的適応なども考慮した個別性のある健康教育を実施する。可能な実習施設においては妊娠期から受け持ち、継続的に退院後の育児や生活支援を行う。
学生によって実習開始時期、臨地施設、実習形態が異なるため、学生は自立して実習スケジュールを立て、積極的に実習に臨むこと。情報や学びの共有を図ること。

教科書

今日の助産　改訂第4版　南江堂
助産師基礎教育テキスト2020年版　第4・5・6巻　日本看護協会出版会
助産学講座　2・3・4・5・6・7・8　医学書院
新生児学入門　第5版　仁志田博司　医学書院
日本産婦人科学会編(2017).産婦人科診療ガイドライン産科編2017.日本産婦人科学会

参考書

周産期ケアマニュアル 第2版 サイオ出版
分娩介助学 第2版 医学書院
新生児ベーシックケア　医学書院
助産師のためのフィジカルイグザミネーション　医学書院

研究室／オフィスアワー

各教員は研究室にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	1. 産褥期の継続的支援を通して、継続的支援の重要性を学ぶ。 2. 母子に関わることで、産褥期の育児不安の軽減に向けた入院期の母親の支援のポイントが理解できる。 3. 家族の形成に向けた産褥期の支援の方向性が理解できる。 4. 個別性をふまえた健康教育の企画、実施、評価ができる。	継続した支援の重要性と助産師の支援の必要性を学び、自分の助産師像が作れるよう知識やコミュニケーション能力を結集し、実習に臨む。	中西　伸子 西川　美樹 塚田　桃代

成績評価方法と基準	割合
①実習に対する課題・記録提出(提出期限の厳守) ②保健指導案の準備、報告、連絡、相談を含む取り組み(アポイントメントの取り方等) ③保健指導等の内容(個別性のある健康教育の企画、実施前の調整、実施) ④保健指導時等の対象者や臨地実習指導者との関係性の構築、実習態度、話し方 ⑤原則実習日全出席 DP①④	①30% ②20% ③30% ④20%

授業科目名	ハイリスク母子実習(助産)（High-risk Mother and Child (Practice)）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、青山　桂子、西川　美樹、塚田　桃代	
科目ナンバリング	PM010	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

周産期と育児期における身体的、心理的、社会的ハイリスク母子ならびにその家族に必要な支援についての実際を学修する。周産期のハイリスクに関する講義・演習を基礎に、特に近年増加傾向にある帝王切開時における助産師のかかわりの重要性を理解する。NICU/GCU 実習では、周産期医療連携体制のシステム、母子分離時の愛着形成の促進、デベロップメンタルケア、両親への育児支援、地域母子保健活動との連携について学修する。

到達目標

1. 早産児・低出生体重児へ行われているディベロップメンタルケアの基本概念を理解し、見学を通して生理的機能、神経行動発達、精神の発達への影響を考察する。
2.NICU で実施されている家族支援を見学し、児が NICU/GCU に入院している周産期の母親のメンタルヘルス、親と子の関係性の発達、家族心理のプロセスについて考察する。
3.NICU 退院前後の支援の見学を通し、ハイリスク状態にある児の退院後の生活、育児負担感、児を家族に迎え入れる
4. NICU/GCU 実習をとおして、周産期の助産師のかかわりや分娩時のハイリスク体制の重要性を理解する。
5. 帝王切開時における手術決定の理由による母親の心理経過を理解し、術前から術中・術後に向けての助産師の支援、愛着形成に向けての助産師のかかわり、さらに帝王切開児の特徴と観察の必要性について学習する。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

ハイリスク状態にある周産期の妊産褥婦および母子・家族に対し、助産師として何ができるかを常に思考しながら関わること。NICU 実習では、実習終了時に学んだことをプレゼンテーションします。学びを深められるよう実習前から質問や意見を述べることを念頭に置いて前期の講義から準備して臨むこと。

教科書

助産師基礎教育テキスト 2020 年版　第 7 巻　ハイリスク妊産褥・新生児へのケア　日本看護協会出版会

参考書

NICU 看護の知識と実際　メディカ出版

研究室／オフィスアワー

研究室 238 にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	学内においてのハイリスクの講義・演習を基に周産期のハイリスクについての知識を深める。 NICU/GCU 講義・実習、帝王切開時のケア実習を行う。 （詳細は実習要項参照）	事前の講義や演習を基に対象者への知識や意識を深め、真摯に学ぶ姿勢を持つ。実習を基に助産師としての考えを持てるように実習に臨む。	中西伸子 青山桂子 西川美樹

成績評価方法と基準	割合
①実習記録(単なる見学記録にならないように情報からアセスメントし、考察すること・期限厳守） ② レポート（期限厳守） ③態度（施設における態度や質疑応答などの発表態度） ④実習は原則全出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	地域母子保健実習(助産)				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、青山　桂子、西川　美樹、塚田　桃代	
科目ナンバリング	PM011	科目区分	実践助産学	ディプロマポリシー該当項目	
配当年次	1	開講学期	後期	曜日・時限	実習
授業形態	実習	単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

助産院実習を通して自立した助産師を知る。さらに地域における助産師の役割を理解し、必要性を学ぶ。
さらに周産期にある女性とその家族を対象に対象者のセルフケア能力の向上と次世代家族の発達のための地域での支援の在り方と出産・育児力を高める保健技術指導を習得する。

到達目標

・地域における助産師の働き方を知り、助産師の必要性と支援方法を理解する。
・助産院の施設実習におけるケアや保健指導の実際を学び、実践に応用できる。
・助産師の将来像を描くことができる。

履修上の注意(学生へのメッセージ)

地域で活躍する助産師からは、病院の産科とは違ったかかわりが必要とされる助産師像を学ぶことができます。助産師は女性のライフサイクル全般に支援できるという視点で自分の助産師の将来像を描けるよう学んでください。

教科書

助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健　医学書院
助産学講座 10 助産管理　医学書院

参考書

助産師基礎教育テキスト　第 1 巻　助産概論　日本看護協会出版

研究室／オフィスアワー

研究室 238 にいます。適時、質問・相談に応じますが、不在の時もありますので、アポイントメントお願いします。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
	助産院、助産師会など、病院とは違う施設で働く助産師の役割を実習を通して理解する。	地域母子保健学で学んだ知識を基に、地域での助産師の働き方や役割を知り、自分の助産師像を確立していけるよう学ぶ。	

成績評価方法と基準	割合
①実習記録（期限厳守） ②レポート（期限厳守） ③態度（デイベートへの参加や質疑応答状況を含む） ④原則全出席	①50% ②30% ③20%

授業科目名	補完代替医療とアロマセラピー(助産)（Complementary and Alternative Medicine and Aroma Therapies）				
主担当教員	森　美侑紀		担当教員	森　美侑紀	
科目ナンバリング	IM001	科目区分	統合助産学	ディプロマポリシー該当項目	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	月曜 1 限
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

女性のヘルスプロモーション、とりわけ心身共に大きな変化を生じやすい妊娠期、産褥期、育児期に適したアロマセラピーを学ぶ。妊産婦にアロマセラピーを用いることの意義、アロマセラピーに関する基礎知識、禁忌や注意事項、精油の選択方法、状況に応じたケア方法など「安全かつ的確に用いる」ための実践方法を学ぶ。

到達目標

1．補完代替医療の中でのアロマセラピーの役割を理解する。〈DP③〉
2．妊産婦に対するアロマセラピーの役割を理解し、安全かつ的確な実践方法を学ぶ。〈DP③④〉

履修上の注意(学生へのメッセージ)

アロマセラピーの有用性のみに目を向けるのではなく、禁忌や注意事項に関する理解を深め、「安全で的確な」実践方法を身につけてください。実技にも積極的に参加し、自らの心身両面を通してアロマセラピーの有用性・危険性を感じ、学んでいただきたいと思います。

教科書

・Aromacoordinator Essential oil Guide book: 日本アロマコーディネーター協会
・Aromacoordinator Lesson Text Book: 日本アロマコーディネーター協会　（教材を含む）

参考書

・もっと身近にアロマセラピー　メディカルから日常まで 改定増補版/森 美侑紀著/森ノ宮医療学園出版部

研究室／オフィスアワー

西棟 239 研究室/火曜日・水曜日以外の 17:00～19:00
その他、質問等あればいつでもお越しください。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	植物精油の基礎知識	アロマセラピーの実際について書籍やネットで調べる。予習復習を各 1 時間行うこと。	
2	マタニティケアにおける精油選択と理解	マタニティアロマセラピーの実際について書籍やネットで調べる。予習復習を各 1 時間行うこと。	
3	植物オイルの基礎知識	植物オイルに関する知識を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
4	精油のブレンド方法	ブレンドファクターやブレンド方法に関する知識を整理する。予習復習を各 1 時間行うこと。	
5	香りが脳に与える影響	配布資料を元に復習し学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
6	アロマセラピーの歴史	配布資料を元に復習し学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
7	精油の安全性と危険性	配布資料を元に復習し学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
8	精油の作用と身体のしくみ	配布資料を元に復習し学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
9	香りの心理作用	配布資料を元に復習し学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
10	精油成分を類ごとに知る	配布資料を元に復習し学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
11	禁忌の理由を考える アロマセラピーの法令	配布資料を元に復習し学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
12	妊娠初期～中期のケアと精油の選択	1 回～11 回までの学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
13	妊娠後期のケアと精油の選択	1 回～11 回までの学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
14	分娩時のケアと精油の選択	1 回～11 回までの学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
15	産褥期のケアと精油の選択	1 回～11 回までの学習内容を整理する。 予習復習を各 1 時間行うこと。	
16	マタニティアロマセラピーの実践 ①背部・腎部へのトリートメント基礎	背部・腎部ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
17	マタニティアロマセラピーの実践 ②背部・腎部へのトリートメント基礎	背部・腎部ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
18	マタニティアロマセラピーの実践 ③肩部のトリートメント	肩部ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
19	マタニティアロマセラピーの実践 ④背部・肩部・腎部へのトータルケア	背部・腎部・肩部ケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
20	マタニティアロマセラピーの実践 ⑤下肢のトリートメント	下肢のケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
21	マタニティアロマセラピーの実践 ⑥上肢のトリートメント	上肢のケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
22	マタニティアロマセラピーの実践 ⑦上肢・下肢へのトータルケア	上肢・下肢のケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
23	マタニティアロマセラピーの実践 ⑧フェイストリートメントの基礎	フェイスケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
24	マタニティアロマセラピーの実践 ⑨フェイストリートメントの応用	フェイスケアにおける注意事項の復習 および手技の復習 復習を 2 時間行うこと。	
25	マタニティアロマセラピーの実践 ⑩トータルケア 1	16～24 回までのケアの総復習 復習を 2 時間行うこと。	
26	マタニティアロマセラピーの実践 ⑪トータルケア 2	16～24 回までのケアの総復習 復習を 2 時間行うこと。	
27	マタニティアロマセラピーに関する文献検討およびディスカッション	関連学術雑誌やネットにて論文検索を行う。 復習を 2 時間行う事。	
28	総括 1：マタニティケアと植物精油	27 回までに学習した内容を整理する。 復習を 2 時間行う事。	
29	総括 2：マタニティケアにおけるアロマセラピーの役割	27 回までに学習した内容を整理する。 復習を 2 時間行う事。	
30	総括 3：補完代替医療としてのアロマセラピーの役割	27 回までに学習した内容を整理する。 復習を 2 時間行う事。 また本授業の総まとめを 30 時間自宅学習すること。	

成績評価方法と基準	割合
筆記試験〈DP③④〉	100%

授業科目名	助産学課題研究(助産)（Midwifery Research Project）				
主担当教員	中西　伸子		担当教員	中西　伸子、青山　桂子、西川　美樹、塚田　桃代、勝井　伸子	
科目ナンバリング	IM002	科目区分	統合助産学	ディプロマポリシー該当項目	DP③④
配当年次	1	開講学期	前期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
授業形態	演習	単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

女性の健康、助産実践、母と子、その家族が抱える問題や課題を明確化し、解明するための研究に取り組む。その研究プロセスを得て、研究を行うための基本的能力を修得するとともに看護実践に役立つ新しい知見や支援方法を明らかにする。

到達目標

1. 研究課題を明確にできる。
2. 先行研究のクリティークを行い、研究状況を把握することができる。
3. 研究方法の選択ができる。
4. 研究計画書の作成方法を学び、研究計画書を作成する。
5. 研究をするうえで必要な倫理観について理解する。
6. 研究計画に沿ったデータを収集できる。
7. 収集した. データを分析し、導いた結果を検討し考察することができる。
8. 1～7を踏まえて、助産学研究論文を作成する。
9. 発表方法や態度を学び、プレゼンテーションができるDP③④

履修上の注意(学生へのメッセージ)

・助産学課題研究は、看護研究に必要な基本的理解を踏まえたうえで4月から開始する。
・研究指導に関しては、各学生にチューター教員を配置し、1年間継続して指導を受ける。研究計画書の提出、論文提出、発表時期　はガイダンスで説明する。
・4月以降、各自のチューター教員にアポイントメントをとり助産学課題研究に対する自らの着眼点をプレゼンする。
　担当教員は、学生と調整し進めていく。
・その後は担当教員の指導のもと研究計画書に沿って研究活動を実施し、研究計画書、研究論文を作成する。
・研究計画書・研究論文の提出に関しては期限を厳守すること。
・実習開始以降は臨地実習のインターバルを利用して主体的に進行させること。

教科書

APAに学ぶ看護系論文執筆のルール　医学書院
JJNスペシャルNo.94 看護研究の進め方論文の書き方　第2版　医学書院
適宜、講義内容により、担当教員より資料配布。

参考書

担当教員により適宜、提示する。

研究室／オフィスアワー

適宜担当教員が相談に応じます。必ず、アポイントメントをとること。

授業展開及び授業計画表

回数	学修内容	予習・復習・課題等	担当
1	看護研究とは	看護研究のテキストを読み予習してくる。	中西伸子
2	英文購読法	配布された資料に基づき復習する。	勝井伸子
3	英文購読法	事前に配布された資料を予習・復習する。	勝井伸子
4	英文購読法	事前に配布された資料を予習・復習する。	勝井伸子
5	先行研究のクリティーク	テキストを読み、クリティークについて予習する。	中西　西川 塚田
6	先行研究のクリティーク	クリティークする論文を読み、意見をまとめておく。	中西　西川 塚田
7	担当教員のもとで以下を進めていき、研究計画書を期限に提出する。 研究課題の明確化 研究課題の背景を理解する。 研究方法の選択 研究計画書の作成	担当教員と適宜面談し、研究計画書を作成する。	中西　西川 塚田
8	担当教員のもとで以下を進めていき、研究計画書を期限に提出する。 研究課題の明確化 研究課題の背景を理解する。 研究方法の選択 研究計画書の作成	担当教員と適宜面談し、研究計画書を作成する。	中西　西川 塚田
9	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 データ収集 分析 結果の検討 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西　西川 塚田
10	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 データ収集 分析 結果の検討 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西　西川 塚田
11	担当教員のもとで以下を進めていき、期限に論文を提出し、成果発表する。 データ収集 分析 結果の検討 論文作成 論文提出	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西　西川 塚田
12	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 作成した論文をもとに、発表準備する。 抄録の作成 発表方法の選択 パワーポイントの作成 発表練習	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西　西川 塚田
13	担当教員のもとで以下を進めていき、12月に成果発表する。 研究課題の明確化 研究方法の選択・研究計画書の作成 データ収集 分析 論文作成	担当教員と適宜面談し、研究をすすめていく。	中西　西川 塚田
14	成果発表	研究の成果を発表し、それぞれの発表方法や態度を学び、評価する。	中西　西川 塚田
15	成果発表	研究の成果を発表し、それぞれの発表方法や態度を学び、評価する。	中西　西川 塚田

成績評価方法と基準	割合
①研究計画書を作成し、期限内に提出する。 ②助産学課題論文を作成し、期限内に提出する。 ③研究発表内容 ④取り組む姿勢、態度(研究を進めるにあたり、チューターとアポイントメントをとり、提出期限を守ること) DP③④	①30% ②30% ③20% ④20%